

聖書の学び

鈴木寛 (Hiroshi Suzuki)

2025-05-15

Table of contents

聖書を一緒に読みませんか

表題の名称で、案内を送り、我が家で開いている、聖書を読み、疑問をあげて考え、語り合い、分かち合い、聴く会のページです。

過去の会の情報などは、[ホームページ](#)をご覧ください。

また、通読の会も主催しており、全体として、一緒に聖書を読むことをできればと願っています。

共に学ぶ

いろいろな理由から、聖書を読みたいと思う方がおられると思います。また、聖書について知りたいので、だれか教えてくださる方はおられませんか。という場合もあるかもしれません。興味のあるかたは、教会に行かれることをお勧めします。しかし、どこの教会に行ったらよいかわからないとか、ちょっと行ってみただけで、やはりよくわからない。興味はあるが、同時に、疑問もあり、なかなか満足がいく説明が、教会では聞くことができない。他のひとはどう考えているのかにも、興味を持つし、聖書に書いてあることが全部本当だと信じているのかにも興味がある。さまざまかなと思います。

わたしは、皆さんの質問に、答えることはできません。わたしもよくわからないことが山ほどあるからです。というより、わかっていると思っていることも少しはありますが、それは、ほんの少しだとも思っています。他の言い方をすると、大切なこともあまりよくわかっていないということです。

わたしは、毎日、そして、繰り返し繰り返し聖書を読んでいます。毎回新しい発見があります。皆さんのお家で、ドアを開けてみるごとに新しい発見がある、という人はおられないと思います。ときどき、変化もふくめて、発見があるかもしれませんが、大体は、家のことはわかっています。しかし、外国などに旅をすると、さまざまなあたらしいことに出会います。それは、ほとんど知らないからです。わたしは、上に書いたように、聖書を読むたびに、新しい発見があるので、謙虚に言っているのではなく、ほんとうに、聖書を理解できていないと感じています。

しかし、聖書は、なかなか大きな書物で、かつ、長い歴史の中で、何人もの人によって書かれています。書いた人たちの住んだ世界は、現代のわたしが住む世界とはとても違っているでしょうから、理解するのが、簡単でないのは、当たり前かもしれません。

ここでは、聖書全体を通して読むことと、イエスのことについて書いてある、福音書を読むことに中心を置いています。基本的には、イエスのことを知りたいからです。なかなか、興味深い方ですよ。

一人で本などを参考にしながら、読めば良いのではないのでしょうか。たしかに、それでも、ある程度は、聖書を理解できると思います。ただ、それは、その本を書いた人が理解した聖書を知ることになります。私が上に書いたように、もし、それぞれの人が理解できていることが、ほんの少しだけなら、一人だけの話を聞いても理解できませんよね。そして、何よりも、自分が疑問に思っていることについて知ることは難しいと思います。

聖書の著者が多様で、いろいろな時代にまたがっているのですから、いろいろな人の話を、理解した部分を聞くこと、さらに、疑問を知ることは、素晴らしいことなのではないかと思います。それを通して、聖書を知ると共に、その人をも少し知ることができるかもしれません。

わたしは、聖書を橋渡しとして、聖書を書いた人と対話がしたいですし、同時に、一緒に読むことによって、その人とも対話をしながら、そこに人もほんの少しでも、理解できないかなと考えています。一緒に生きているのですから。そして、共に生きるために。

聖書を読む理由はさまざまだと思いますが、わたしが最も大切だと思っているのは、互いに愛し合うようになることです。イエスが語っていることも、さまざまな表現があるかもしれませんが、互いに愛し合うことにつながっているのではないかと、今は、考えているからでもあります。

聖書を一緒に読むことによって、分裂ではなく、他者の読み方を理解しようとすることによって、互いに愛し合うことを学んでいければと願っています。

本書の目的

最後に、なぜこのようなものを書こうと思ったかを簡単に書いていこうと思います。聖書研究会などの名前で、何人かが集まって、聖書を一緒に読んでいくことは、ある程度一般的だと思います。ある時代までは、皆が字を読めたわけではありませんから、誰かの話を聞くことしかできなかったかもしれませんし、聖書自体もそれほど、簡単に手に入るものではなかったと思います。そのような中では、教会に行って、牧師など、先生の話聞くことが主だったと思います。

現代では、聖書も簡単に手に入りますし、最近では、ネット上で自由に読むことも可能です。その意味で、ハードルは低くなったのですが、最初に書いたように、聖書は大きな書物で読むのはあまり簡単ではない。福音書などに限っても、一人で読んで理解できるというのは、あまり、一般的ではないと思います。

この書では、そのような場合のお手伝いをするのと、集まって一緒に聖書を読む場合の資料を提供することを目的として書いています。準備はそれなりに大変です。問いを考えるというのは、とてもよいことですが、適切な問いを考えるのは、簡単ではありません。まずは、文脈を理解しないといけませんし、他の聖書の箇所から、背景などが多少わかる場合には、その情報もあると助けになることがよくあります。できるだけ、一つの意見や、考えかたにならないように、特に、分断を避けるように、注意して、皆さんが、考えていく助けになればと思い、書いています。

ある程度長い期間に、わたしが司会をして共に聖書を読んだ学びが背後にあります。むろん、これがよいというわけではありません。準備をする時の、ヒント、助けとなれば、幸いです。

問いだけでなく、わたしが調べたノートもあります。少しずつ、追記していくことができればと願っています。

管理人について

鈴木寛 (Suzuki, Hiroshi) が、現在は、管理人を務めています。聖書の研究が専門ではありませんが、これまでも、グループで聖書を読む機会を持ってきました。少しでも、理解したいということが、基本的な動機です。聖書の読み方、読む目的も人によってさまざまだと思います。書かれていることに、ご意見、ご批判があるかたもおられるかもしれませんね。何かの機会に、お話を伺えれば幸いです。ホームページに、電子メールアドレスも公開しています。メールをいただければ幸いです。

わたしは、大学で数学を教えていましたが、2019 年 3 月に退職。現在は、数学や、データサイエンスの勉強をつけ、それ以外に、何箇所かで、ボランティアをしています。

聖書を読む会は、在職中、2003 年 4 月から 2018 年 12 月まで、学内住宅の我が家で、学期中、毎週木曜日の夜に持っていました。退職後、2020 年 1 月に再開しましたが、コロナウイルス感染症の流行もあり、中断、2023 年 4 月再開に漕ぎ着けました。

大学で開いていたときと同じようにはできないと思いますが、そこでたいせつにしていたことは何なのかを振り返りながら、この会を続けて行くことができればと願っています。

この会以外にも、聖書通読の会も、2011 年から電子メールを利用して、続けています。その情報もホームページにありますので、ご興味のある方はご覧ください。

電子ブックについて

Quarto Book という形式で書いています。

- [Quarto](#): An open-source scientific and technical publishing system
- [HTML](#): Web browser で読むことができます。
- [PDF](#): 全く同じように表示されているわけではありませんが、ネットに繋げなくても読むことができたり、印刷したい方のために作成しています。
- このサイトのソースファイル: [GitHub](#) を利用しています。

– [レポジトリ](#)

第 1 章

はじめに

聖書を少しずつ読んでいきます。専門的に、研究するわけではありませんが、皆さんの声に、耳を傾けて、ていねいに読んでいくことができればと願っています。

1.1 聖書の会と聖書通読の会

わたしは、聖書の会と、聖書通読の会を主催しています。

聖書通読の会は、文字通り、聖書を通読する会で、2011 年から始め、一日二章ずつ読んでいます。このペースですと、2 年間で旧約聖書を 1 回と、新約聖書を 2 回読む計画で、毎週日曜日の朝にその週に読む箇所についての簡単な説明と、その週に読む各章ごとのわたしがつけている聖書通読ノートをメールで配信しています。また、参加者が送ってくださった感想に、わたしの簡単な応答を加えて、日曜日の夜に送っています。最近は登録者 70 名程度で推移しています。

通読は、まずは、読み通してみましようということですから、皆さんが興味を持って通読を続けられるような支援を考えて、メールを書いています。感想を送ってくださるのは少数の方で、残念ながら、ほとんど、一方通行になってしまっています。

聖書は 66 巻（旧約 39 巻・新約 27 巻）、1189 章（旧約 929 章・新約 260 章）あり、内容も多様です。時代的にも、伝承も含めれば、おそらく、今から 4000 年ぐらい前のものも含まれるかもしれません。短く見積もっても 3000 年前（厳密に現在の形になったのはもっと後でしょうが）から、1900 年ぐらいの間に書かれたものですので、理解しながら読むのは難しいですが、違った時代を、神様を求めながら、生きた人たちから、話を聞くことができるという豊かな経験を得ることができると思います。わたしは、読んでいます。語り合うところまではいけませんが、考えさせられることは、とても多いと感じています。

聖書の会では、逆に、とても短く箇所を区切って、読んでいます。問いを、準備して、ディスカッション・スタイルで、考えながら読んでいます。問いなどの内容は、この電子ブックに含まれていますので、ご覧になってくだされば幸いです。

新約聖書、特に、福音書を中心に読んでいます。個人的に、イエスについて学びたいからというのが、大きな理由ですが、聖書には四つの福音書が含まれており、違った視点から、イエスについて学ぶことができるという面でも、とても、良い題材だと考えています。

毎回、とても多くの学びがあります。わたしの人生を考えても、この聖書の会での、皆さんとの時が、最も充実した、幸せな時であり、わたしが日々生きていく上で、豊かな糧を与えてくれている者だと思っています。

この書に書かれていることは、備忘録のようなものですが、ほんの少しでも、より多くの方に、その素晴らしさを味わっていただければと考え、書き始めています。

1.2 著者について

聖書の著者は？と聞くと「神様」と答えるキリスト者の方が多いかもしれませんが、それは、思考停止に導く面もありますから、わたしは、実際に書き記した人間に目を向けることにしています。

聖書の中には、パウロの手紙のように、著者が明確に書かれている場合もありますが、書かれていない場合がほとんどです。また、著者が明確に書かれている場合も、最近の研究では、そうでもないのではないかとされています。パウロの手紙も、ローマ人への手紙、ガラテヤ人への手紙、コリント人への手紙一、二、テサロニケ人への手紙一、ピレモンへの手紙は、パウロが書いただろうが、他は不明とされる場合もあります。それには、いろいろな根拠もありますが、わたしは、その議論は避けて、パウロの手紙についても、パウロ由来の手紙と呼ぶことにしています。

ここで学ぶ、福音書は、マタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書、ヨハネによる福音書と、四つありますが、「による」の部分は、「由来の」という意味にとって読んでいるということです。曖昧ですけれど。

簡単に書くと、由来する部分があることと、厳密な意味で、それぞれの人が書いたそのままだとはないかもしれないという意味です。由来はあまりにも曖昧で、四つの福音書によって、どのように由来しているか、程度も様々でしょうが、それを明確にしないと、内容を深く読むことができないとは考えていないからでもあります。

しかし、四つの福音書を読んでいくには、やはりある程度「由来」の中身を知りたいせつだとは考えています。そこで、すこしだけ、個人的な見方を書いておきます。お断りしておくのは、このような理解のもとで読み、他の読み方は許容しないという意味ではありませんが、程度の差こそあれ、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネと、このような関係性はあるだろうということです。そして、そのような理解は、助けになるだろうとも考えているということです。

1.2.1 マルコによる福音書

聖書に登場するヨハネ・マルコとよばれ、使徒行伝によると、バルナバのいとこで、パウロとバルナバと一緒に伝道旅行に出るが、途中で帰ってしまったと書かれているマルコです。（使徒 12:12, 12:25, 15:37, 15:39, コロサイ 4:10, 2 テモテ 4:11, ピレモン 24, 1 ペテロ 5:13）

伝承によると、ペテロの通訳だったとされ、ローマにも行ったようですが、使徒行伝によると、お母さんはマリアで、エルサレムに家があったようで、イエスの弟子たちの集会にも使われていたようです。おそらくマルコはイエスが活動していた頃は、幼なかったと思われます。

マルコが書いたかどうかには疑問も上がっているようですが、ペトロからの情報が多い、マルコ由来と考えるのは、内容からして妥当であると思います。由来の意味は、実際に書き記したのは、他の人かもしれないことを許容する表現です。いろいろな人が一緒に聖書を読み、語り合うことがたいせつだと考えているからです。

表現は簡潔ですが、その分、豊かな表現とはなっていないように見えます。個人的にたいせつだと考えているのは、上にも書いたように、自分は直接は知らないが、ペトロからの情報、ペトロの視点からの話で覚えていることを書き記したということです。

ここからは、ますます、不確定ですが、パウロの書簡（一般的には福音書より先に書かれたと考えられています）と、共観福音書（マタイ・マルコ・ルカ）はとても異なる印象を受けます。たとえば、イエスの死が贖罪のための死であったことは、まったく強調されていません。最も古い写本では、復活の部分も空の墓の記述で終わっていて、詳細は書かれていません。パウロの書簡で大切にされている、贖罪と復活はほとんどないのです。1箇所例外は10章45節だけだと思います。パウロは、自分にならうものとなるように勧め、イエスの教えや行動についてはほとんど書きません。それではいけない、または、不十分との考えからも、この福音書が書かれたのではないかと考えています。

キリスト教会の歴史の中でも、人間イエスをたいせつにする人たち、福音書をたいせつにするひとたち、パウロが書いたことを中心とした教義をたいせつにする人たちがいますが、それが、分裂するのではなく、いまでも、一つのキリスト教会を形成していることも、みのがしてはいけない大切なことではないかなと思います。

1.2.2 マタイによる福音書

マタイはイエスの12弟子の一人で収税人として描かれているマタイだとされています。しかし、福音書の流れは、マルコによる福音書を踏襲しているように見えます。マルコは、イエスの直接の弟子ではありませんから、このことは不思議です。

伝承によると、マタイは「語録（ログイア）」と呼ばれる、イエスの説教集をヘブル語で記録していたとされています。基本的には、のちに、それを含める形で、マルコによる福音書の流れに沿って、書いていったと思われますが、人数や、地名などが、マルコやルカと違っている箇所があり、マタイからかどうかは特定できませんが、別の情報もあって、書かれたものと思われます。

正確にはわかりませんが、これも、マタイ由来で、マタイと交流のあった人たちが編集したとして良いのではないかと思います。ただ、マルコに含まれていない部分がすべて、マタイ由来かは不明です。

1.2.3 ルカによる福音書

ルカは使徒行伝に登場し、パウロ由来の手紙にも何度か現れ、医者ルカとされているひとだと考えられています。文体などからも、ルカによる福音書と使徒行伝は、同じ人が書いたものと思われそうですが、使徒行伝には「わたしたち」という表現が、一定の箇所にかかれており、そのときは、ルカも同行していたのではないかと考えられています。それをそのままは受け入れない学者もいるようですが、ある部分、ルカが、パウロと一緒に行動したことは、かなり可能性が高いように思います。

さらに、エルサレムなど、パレスチナに行ったことも非常に可能性が高いでしょう。すでに、死んでいた方も多いと思いますが、イエスの弟子や、イエスに仕えた女性たち、さらに、それらの人たちから直接話を聞いたこともあったと思われます。

しかし、ルカによる福音書が書かれたのは、イエスが十字架にかかってから、40年以上経っていると思われるので、ルカが書いたことをすべて事実と考えるのは、適切ではないかもしれません。ルカが受け取ったことは確かでしょうが、証言として受け取ると、それを受け取ったように書くことも必要になります。そのことも、注意して、読んでいくべきでしょう。

わたしが、ルカによる福音書を大切だと思っているのは、ルカがギリシャ人で、美しいギリシャ語で書かれていること、医者で、病気などについての記述が詳細であること、物語や喩えの記述が豊かで、文学的にも高いなどもあります。パウロに近い人物として、イエスの生涯を書いたと言う点がとても大きいように思います。

パウロの説いた神学と、イエスの地上での活動を同じ視点から描いていることは、とても貴重なことだと思います。

1.2.4 ヨハネによる福音書

イエスの十二弟子の一人のゼベダイ子ヨハネ由来だとされています。ヨハネは、いくつかの文書から、一世紀の終わり頃まで生きていたことがわかります。明確ではありませんが、ヨハネによる福音書には、ヨハネと思われる人物が何回か登場します。

ヨハネによる福音書は、20章で一旦終了するような書き方がされていますから、21章は、ヨハネの死後に付け加えたのではないかと考えられます。20章までも、ヨハネの生存中に書かれたかどうかは不明ですが、ヨハネが語っていたことを書いたことは、確実性が高いのではないかと考えられます。

このような理解のもとで読むと、ヨハネは、イエスの活動の最初から一緒にいたと考えられます。ペテロよりも早かった可能性もあります。マルコには含まれていないものがたくさん書かれており、その意味でも、貴重です。このことは、マルコの記述を修正するという面もあったのかもしれませんが、マルコに書かれていない大切なことを書く面が大きかったのではないかと考えられます。

ヨハネの視点は、マルコ、すなわち、ペテロの視点とは、違うということも大切なことだと思います。同じ場所

に、同じ時にいたにもかかわらず、違う視点から書かれている。新しい事実というより、この違った視点ということは、たいせつにしてよいと思います。

最後に、わたしがもっとも大切だと考えているのは、パウロの神学とイエスの語ったことが、違和感なくひとつに書かれていることかなと思います。ある時点では、一方を支持し、他方を支持しないひとたちもいたかもしれませんが、ヨハネによる福音書が書かれ、読まれることで、少しずつ、そのような見方は減っていったのではないかと思います。

1.2.5 福音書の著者についてのまとめ

簡単に、わたしの見方を書いてきましたが、それは、わたし個人の見方であることをお断りしておかなければなりません。同時に、聖書の会で、数節ずつ、約 16 年間、マルコによる福音書、ルカによる福音書、使徒行伝、マタイによる福音書、ヨハネによる福音書を学びながら考えたことでもあります。

それは、知識的な面もあると同時に、違った考え方、見方をする人とも、一緒に聖書を読んでいきたいという心からの願いから書いた面もあります。

今回、みなさんと共に、もう一度、福音書を読みながら、一緒に考えていくことができたと願っています。

最後にわたしが最も好きな聖書のことばを書いておきます。

わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。(ヨハネによる福音書 13 章 34 章・35 節)

第2章

福音書に関する問い

聖書を読んでいくときに、問いを持ち、問いと向き合いながら読むことがたいせつだと考えています。信じれば良いと考えられる方もおられるかと思いますが、わたしはそうは考えていません。もし、聖書が、信仰者のためだけのものであれば、それで良いかもしれません。しかし、もし、信仰者またはイエスをキリスト（救い主）と信じるひと以外にも、たいせつな内容が書かれているとするのであれば、疑問がある箇所については、考え、また、聖書はどう語っているのだろうか、それは、本当なのだろうか。何を伝えようとしているのかと考えることは、とても健全なことなのではないでしょうか。

疑うよりも信じることがたいせつだと考えておられる方も多いかもしれません。ある時点で、信じるかどうかを選択する場面はあるかもしれません。しかし、最初から、疑ってはいけないとしてよいのでしょうか。疑うひとは、聖書は読めないのでしょうか。わたしは、一緒に読むなかで、お互いに目が開かれていく経験をたくさんしています。自分だけでは、気づかなかったこと、問われて考え始めたからこそ、学ぶことはたくさんあるように思います。

解釈は、一人ひとり様々ですが、問いを共に考えられることは、共通の場に立つことにも繋がります。共同作業で、聖書を理解していくこと自体に、価値があると思っています。この共同作業を通して、同じテキスト、同じ問いであっても、異なる視点をもっていることを通して、他者を知ること、ある共通の観方、同意ができる経験をもつことも素晴らしいのではないのでしょうか。他者の背後にある人生を垣間見ることもあるかもしれませんし、この事自体が、共に生きることにつながるように思います。そのような経験をたくさんしていただく一助になればと願っています。

ここでは、福音書を読むことを中心においています。福音書は、イエスについて書かれています。イエスはどのような方だったのかを、一緒に考えながら読んでいくことができればと願っています。キリストは油注がれたものという意味ですが、神様に油を注がれた、救い主と告白する言葉としても使われています。また、福音書は、イエスがキリストであることを証言する文書だという面もあることは確かだと思いますが、それは、福音書を読んで、みなさんが判断することだと思います。そこで、福音書を読むときは、キリストということばは気をつけて使い、必要な場合を除いて、イエスと書いていきたいと思っています。わたしは、通常は、イエス様と言っているのですが、イエス様ということばが出てくるかと思いますが、それはご容赦ください。一緒に、このイエスについて

学び、このイエスと出会うことができればと願っています。

ある方は、福音書もイエスが生きた時代からすると、だいたいあとから書かれ、多くのひとたちの伝承をもとにして書かれ、そのひとたちの解釈を経たあとで、書かれているので、福音書を読んで、そこから、実際のイエスについて、知るのには難しいのではないかと考えられるかたもおられるかもしれません。そのように言う学者も多いようです。そのような面は否定できないことは確かですが、わたしは、福音書が一律にそのようなものとは考えていません。すこしずつ、その理由についても、書いていきたいと思います。しかし、このことは、問いとしてはあげず、皆さんに判断していただこうと考えています。まずは、福音書を読んで、わかることから始めるのがよいと考えているからです。

もう一つ大切なのは、聖書の含まれている四つの福音書をどう読むかということです。矛盾なく、一つのことを伝えているのだから、全てに共通なことを読み取っていくべきで、違いを強調することは適切ではないという立場です。わたしは、そうは考えていません。四つの福音書が、それぞれの著者によって、異なった背景のもとで書かれ、それぞれに、強調点があり、著者が受け取り、伝えたいと考えたメッセージが書かれていることは、否定できないのでしょうか。著者が何を伝えようとして、このように書いているのか、どうして同じときのことを表現するのに、このような違いが生じるのかも、考えながら、読み解いて行きたいと思います。

大雑把に言って、近年は、聖書学者たちは、以下のことについては、ほぼ共通の考えを持っているようです。まず、マルコによる福音書が書かれ、次に、おそらく、マルコによる福音書について知っているひとが、マルコはおそらく知らない「イエスの語録文書」を利用し、マタイによる福音書と、ルカによる福音書が書かれた。また、マタイも、ルカも、独自の資料もそれぞれにある程度もっていたこと、そして、それからしばらくたって、これら三つの福音書について知ってはいるが、それらには、載っていないことがらを知っているひとが、ヨハネによる福音書を書いたということです。わたしは、これらにくわえて、もうすこし、想定していることがあります。すくなくとも、ここに書いたことは、わたしもそうだろうと考えています。このことは、いくつかの文書資料によってある程度、支持されているとともに、丁寧に、四つの福音書を読むと、浮かび上がってくることだとも考えています。

最初に、問いをもって読みたいせつさについて書きました。むろん、ほとんどの、疑問や問いは、わたしたちが丁寧に読んでも、解決しないかもしれません。しかし、それを、問わずに置くことによって、真理に近づくことができないなら、とても、残念なことであるとも思います。真理の探求とまでは、言えないにしても、問いを持ち続けることは、次に、さらに、そのあとで、読むときにも、理解を深める助けになると思うのです。いかがでしょうか。

わたしが考えたい問い、たいせつにしたい問いもあります。それは、自分に問いかける、そして、今の時代に対する問いです。これは、一人ひとりによって異なるとは思います。なにのために聖書を読むかという問いにも関係していることだと思います。真理の探求、神様の御心を求めることをわたしは大切にしていますが、同時に、それは、どう生きるか、どう生きていくかを選択していくことをしたいからです。上にも書いたように、それは、完全な答えを得ることはありません。問いを持ちながら生きる、しかし、同時に、考えながら生きるということでしょうか。

そのようなことを考えて、ここに、いくつかの問いを書いておきたいと思います。

2.1 マルコによる福音書を中心として

2.1.1 背後にいる証言者はどのような人たちなのだろうか

- マルコは使徒言行録に登場するヨハネ・マルコをさすと一般的に考えられているようだが、実際にマルコが著者かどうかには、議論もあるようである。いずれにしても、マルコは、イエスとともに生活をしたひとではない。すると、著者が情報を得た入手先があるだろう。複数かもしれないが、それは、誰なのだろう。
- エウセビオスが引用しているパピアス断片と呼ばれる文書には、マルコはペテロの通訳だったと書かれている。これについても、議論はあるだろうが、マルコによる福音書を読んでいながら確認できることもあるように思われる。
- 11章にあるエルサレム入城以降は、筆致が変わっているように見える。それまでは、イエスの行動について書かれているが、教えや譬え、論争記録などで構成されている。このような記録はどのような起源があるのだろうか。
- 残されている記録が限られているが、背後にいる証言者についてすこしずつ情報を集めていきたい。どんな人達なのだろうか。

2.1.2 病気の癒やしはどのようなものだったのだろうか

- ギリシャ語では、テラペウオ、イアオマイ、ソーゾーが使われているようだが、現代の病気が治ることとは同じだと考えてよいのだろうか。
- イエスのいやしは、どのような行為なのだろうか。
- マルコでは、イエスの癒やしの活動の中心は、ガリラヤのようだが、病人は、大きく減少したのだろうか。

2.1.3 イエスはどのような「神の子」「キリスト（油注がれた）・救い主」

- ダビデの子なのだろうか。ダビデを、イエスはどのように認識していたのだろうか。
- 神の国を宣べ伝え、苦しんでいる人に仕え（いやし：（テラペウオー））、弟子たちを教えたことは確かだ、そのなかに、主との交わりの深さ、主のみこころを行う使命は明確にされていたと思われるが、神の子、救い主と単独のことばで表現すると、危険も伴うので、より丁寧な表現が必要。イエスは、何をたいせつにして、生き・死なれたのだろうか。
- イエスは、なぜ、十字架の死に向かわなければいけなかったのだろうか。おそらく、イエスはどのような「神の子」「キリスト（油注がれた）・救い主」との問いとも深く関係している。

- マルコを土台にしたと思われる、マタイやルカに拡大または追加して書かれていることについて、どう理解していったら良いのだろうか。語録のような文書があったとして、それ以外の部分に、絞って論じることも必要。

[参考] ChatGPT 2025.4.23 [[リンク](#)]

2.2 個別の記事について

2.2.1 マルコによる福音書について

聖書箇所：1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。

- マルコは「神の子イエス・キリストの福音のはじめ。」としている。ここで言われている「福音」とは何なのだろうか。それとも、マルコ全体をとおして、福音について語られているということなのだろうか。

2.2.2 洗礼者ヨハネ、悔い改めの洗礼を宣べ伝える

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 1-8 節福音書対照表](#)

- バプテスマのヨハネのメッセージはどのようなものだったのだろうか。イエスのものとの相違は何だったのだろうか。
 - 福音書ごとに伝える内容が異なっているようだが、それは、何を意味するのだろうか。
- バプテスマのヨハネのことは、イエスの活動に関しても、大きな影響を及ぼしたように見えるが、イエスにとって、ヨハネはどのような存在だったのだろうか。

2.2.3 イエス、洗礼を受ける

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 9-11 節福音書対照表](#)

- イエスは、なぜ、バプテスマのヨハネの洗礼を受けられたのだろうか。
- 「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」(11) は、聖霊をうけられたことの具体的な内容であるようにも見える。イエスは、神の心にかなうといういみで神の愛する子ということなのだろうか。

2.2.4 試みを受ける

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 12-13 節福音書対照表](#)

- サタンと悪魔はどう違うのだろうか。どのように使い分けられているのだろうか。
- 悪霊は、サタンや、悪魔とは異なるようだが、どのように違うのだろうか。

- マルコでは、試みの内容についてかかれていないが、なにが試みられたのだろうか。
- 「獣もそこにいたが、御使たちはイエスに仕えていた。」(13)は何を伝えているのだろうか。

2.2.5 ガリラヤで宣教を始める

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 14-15 節福音書対照表](#)

- マルコを手にしたひとは、福音の意味が理解できたのだろうか。
- 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。どのようなメッセージなのだろうか。
 - － 時は満ちた
 - － 神の国は近づいた
 - － 悔い改めて福音を信ぜよ

2.2.6 四人の漁師を弟子にする

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 16-20 節福音書対照表](#)

- 「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」(17)は、どのような召しなのだろうか。目的は何なのだろう。
- ヨハネ (1:35-42) に書かれている記事（このとき以前のことにように思われる）は、何を意味し、この箇所とはどのように関連しているのだろうか。

2.2.7 汚れた霊に取りつかれた男を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 21-28 節福音書対照表](#)

- 「権威ある者のように教えられた」(22)は、どのような特徴を表現しているのだろうか。
- 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」(24)特に「神の聖者」は何を伝えているのだろうか。
- なぜ、イエスは「黙れ、この人から出て行け」(25)と、この霊を黙らせるのか。

2.2.8 多くの病人を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 29-34 節福音書対照表](#)

- ペテロの家族構成はどうなっていたのだろうか。
- 「悪霊」と「病」の関係はどうだと人々や、イエスはどのように考えていたのだろうか。

2.2.9 巡回して宣教する

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 35-39 節福音書対照表](#)

- 「みんなが、あなたを捜しています」（37）とあるが、人々はなにを求めているのだろうか。
- イエスの宣教に関するビジョンは、どのようなものだったのだろうか。（39）

2.2.10 規定の病を患っている人を清める

聖書箇所：[マルコによる福音書 1 章 40-45 節福音書対照表](#)

- 「重い皮膚病にかかった人が、イエスのところに願いにきて、ひざまずいて言った、『みこころでしたら、きよめていただけるのですが』。イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、『そうしてあげよう、きよくなれ』と言われた。」（40,41）とあるが、この、深くあわれみは、なにを意味しているのだろうか。
- 重い皮膚病と、汚れることについて、どのように考えたら良いのだろうか。

2.2.11 体の麻痺した人を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 2 章 1-12 節福音書対照表](#)

2.2.12 レビを弟子にする

聖書箇所：[マルコによる福音書 2 章 13-17 節福音書対照表](#)

2.2.13 断食についての問答

聖書箇所：[マルコによる福音書 2 章 18-22 節福音書対照表](#)

2.2.14 安息日に麦の穂を摘む

聖書箇所：[マルコによる福音書 2 章 23-28 節福音書対照表](#)

- 「ダビデとその供の者たち」に関する挿入話（25,26）は、唐突に感ずるが、イエスの真意は、どのようなことだったのだろうか。弟子たちを守るために、反論したようにも見えるが、どうなのだろうか。

- イエス自身は、安息日に、麦の穂を摘むことはしなかったのだろうか。律法に関して、どのように行動していたのだろうか。守っていたのだろうか、それとも、自由人だったのだろうか。
- 「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。」(27) とあるが、安息日とは何のためにあるのだろうか。
- 同様の規則・習慣で、本来の目的が、捻じ曲げられているものはどのようなものがあるだろうか。
- 「それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである」。(28) は、何を伝えているのだろうか。

2.2.15 手の萎えた人を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 3 章 1-6 節福音書対照表](#)

2.2.16 湖の岸辺の群衆

聖書箇所：[マルコによる福音書 3 章 7-12 節福音書対照表](#)

2.2.17 十二人を選ぶ

聖書箇所：[マルコによる福音書 3 章 13-19 節福音書対照表](#)

2.2.18 ベルゼブル論争

聖書箇所：[マルコによる福音書 3 章 20-30 節福音書対照表](#)

2.2.19 イエスの母、きょうだい

聖書箇所：[マルコによる福音書 3 章 31-35 節福音書対照表](#)

2.2.20 「種を蒔く人」のたとえ

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 1-9 節福音書対照表](#)

2.2.21 たとえを用いて話す理由

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 10-12 節福音書対照表](#)

2.2.22 「種を蒔く人」のたとえの説明

聖書箇所：[マルコによる福音書 3 章 13-20 節福音書対照表](#)

2.2.23 「灯」と「秤」のたとえ

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 21-25 節福音書対照表](#)

2.2.24 「成長する種」「からし種」たとえを用いて語る

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 26-34 節福音書対照表](#)

2.2.25 「成長する種」のたとえ

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 26-29 節福音書対照表](#)

2.2.26 「からし種」のたとえ

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 30-32 節福音書対照表](#)

2.2.27 たとえを用いて語る

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 33-34 節福音書対照表](#)

2.2.28 突風を静める

聖書箇所：[マルコによる福音書 4 章 35-41 節福音書対照表](#)

2.2.29 悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 5 章 1-20 節福音書対照表](#)

2.2.30 悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やす（1）

聖書箇所：[マルコによる福音書 5 章 1-10 節福音書対照表](#)

2.2.31 悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やす（2）

聖書箇所：[マルコによる福音書 5 章 11-20 節福音書対照表](#)

2.2.32 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女

聖書箇所：

2.2.33 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女（1）

聖書箇所：[マルコによる福音書 5 章 25-34 節福音書対照表](#)

2.2.34 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女（2）

聖書箇所：[マルコによる福音書 5 章 21-24, 35-43 節福音書対照表](#)

2.2.35 ナザレで受け入れられない

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 1-6 節福音書対照表](#)

2.2.36 十二人を派遣する

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 7-13 節福音書対照表](#)

2.2.37 洗礼者ヨハネ、殺される

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 14-29 節福音書対照表](#)

2.2.38 五千人に食べ物を与える

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 30-44 節福音書対照表](#)

- 五千人の給食とはどのようなものだったのだろうか

2.2.39 五千人に食べ物を与える（1）

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 30-34 節福音書対照表](#)

2.2.40 五千人に食べ物を与える（2）

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 35-44 節福音書対照表](#)

2.2.41 湖の上を歩く

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 45-52 節福音書対照表](#)

2.2.42 ゲネサレトで病人を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 6 章 53-56 節福音書対照表](#)

2.2.43 昔の人の言い伝え

聖書箇所：

2.2.44 昔の人の言い伝え（1）

聖書箇所：[マルコによる福音書 7 章 1-13 節福音書対照表](#)

2.2.45 昔の人の言い伝え（2）

聖書箇所：[マルコによる福音書 7 章 14-23 節福音書対照表](#)

2.2.46 シリア・フェニキアの女の信仰

聖書箇所：[マルコによる福音書 7 章 24-30 節福音書対照表](#)

2.2.47 耳が聞こえず舌の回らない人を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 7 章 31-37 節福音書対照表](#)

2.2.48 四千人に食べ物を与える

聖書箇所：[マルコによる福音書 8 章 1-10 節福音書対照表](#)

2.2.49 人々はしるしを欲しがる

聖書箇所：[マルコによる福音書 8 章 11-13 節福音書対照表](#)

2.2.50 ファリサイ派の人々とヘロデのパン種

聖書箇所：[マルコによる福音書 8 章 14-21 節福音書対照表](#)

2.2.51 ベトサイダで盲人を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 8 章 22-26 節福音書対照表](#)

2.2.52 ペトロ、イエスがメシアであると告白する

聖書箇所：[マルコによる福音書 8 章 27-30 節福音書対照表](#)

2.2.53 イエス、死と復活を予告する

聖書箇所：[マルコによる福音書 8 章 31-38 節, 9 章 1 節福音書対照表](#)

2.2.54 イエスの姿が変わる

聖書箇所：[マルコによる福音書 9 章 2-13 節福音書対照表](#)

2.2.55 汚れた霊に取りつかれた子を癒やす

聖書箇所：[マルコによる福音書 9 章 14-29 節福音書対照表](#)

2.2.56 再び自分の死と復活を予告する

聖書箇所：[マルコによる福音書 9 章 30-32 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 9 章 30-32 節福音書対照表](#)（参照付）

2.2.57 いちばん偉い者

聖書箇所：[マルコによる福音書 9 章 33-37 節福音書対照表](#)

2.2.58 逆らわない者は味方

聖書箇所：[マルコによる福音書 9 章 38-41 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 9 章 38-41 節福音書対照表（ルカ参照付）](#)

2.2.59 罪への誘惑

聖書箇所：[マルコによる福音書 9 章 42-50 節福音書対照表](#)

2.2.60 離婚について教える

聖書箇所：[マルコによる福音書 10 章 1-12 節福音書対照表](#)

2.2.61 子どもを祝福する

聖書箇所：[マルコによる福音書 10 章 13-16 節福音書対照表](#)

2.2.62 金持ちの男

聖書箇所：[マルコによる福音書 10 章 17-31 節福音書対照表](#)

2.2.63 金持ちの男（1）

聖書箇所：[マルコによる福音書 10 章 17-22 節福音書対照表](#)

2.2.64 金持ちの男（2）

聖書箇所：[マルコによる福音書 10 章 23-31 節福音書対照表](#)

2.2.65 イエス、三度自分の死と復活を予告する

聖書箇所：[マルコによる福音書 10 章 32-34 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 10 章 32-34 節福音書対照表（参照付）](#)

2.2.66 ヤコブとヨハネの願い

聖書箇所：マルコによる福音書 10 章 35-45 節福音書対照表

- あがないという言葉は、共観福音書では、ここと対応するマタイの箇所にもみ現れるが、イエスの死は罪の贖いのためなのだろうか。
 - マルコだけではなく、共観福音書には、ほとんど、罪のあがないについて書かれていないように見える。

2.2.67 盲人バルティマイを癒やす

聖書箇所：マルコによる福音書 10 章 46-52 節福音書対照表

2.2.68 エルサレムに迎えられる

聖書箇所：マルコによる福音書 11 章 1-11 節福音書対照表

- マルコ、マタイ、ルカでは、このときが公生涯において、最初にエルサレムに来たときとして描かれているが、ヨハネでは、逆に、エルサレムや、その周辺、ユダヤなどでの活動についてたくさん書かれている。
- エルサレム入城の書き方が、マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネそれぞれに異なる。実際、エルサレム入城は、イエスにとってどのようなものだったのだろう。

2.2.69 神殿から商人を追い出す

聖書箇所：マルコによる福音書 11 章 12-26 節福音書対照表

- マルコによると、エルサレム入城のあと、宮も見て回り、その翌日に、宮きよめをしたことが書かれている (11:11, 12)。入城した日も、同じ様子を見ながら、何もしなかったように見える。また、このあと、どうなったかもかかれていない。宮の境内を歩いておられ (11:37) たり、宮の境内で教えておられること (12:35) 賽銭箱の前に座っておられること (12:41) も書かれている。
- 祭司長たちや、律法学者たちは、イエスの言葉を聞いて、殺そうとするが、殺意を抱くほどのことを言っているとは思えない。
- ヨハネでは 2 章となっている。似た記事だが、終わり方は少し異なっている。
- 宮きよめは、何を伝えているのだろうか。

2.2.70 いちじくの木を呪う

聖書箇所：マルコによる福音書 11 章 12-26 節福音書対照表

- 悪魔の試みのときも含め、自分のためには、奇跡的な方法を使われないイエスの呪い、魔術的などとも言える力によって、いちじくが枯れてしまったように見える。(マルコでは翌日、マタイではたちまち枯れている。)
- まだ実がなる時期になっていないときのことであり、道理に適っていない。同時に、その時期ではなかったこと書かれていることも興味深い。
- マルコでは、祈りについての教えが続き、赦しについても書かれている。
- ルカには、宮きよめの記事が、エルサレム入城に引き続いて、マルコ、マタイと同じ位置に書かれているが、この記事はない。その代わりかどうかは不明だが、ルカ 13:6-9 に、実のならない、いちじくの木について、あと三年待つてほしいと懇願する園丁の話が載っている。しかし「それで来年実がなりましたら結構です。もしそれでもだめでしたら、切り倒してください」という期間限定がなにを意味するのか不明。
- マルコ、マタイ、ルカとも、いちじくの状態から、季節を見極める、話が登場する。イエスは、いちじくの実のなる季節についても、よく知っておられたのだろうか。それとも、このエピソードのときに学んだのだろうか。(マルコ 13:28-32、マタイ 24:32-35、ルカ 21:29-33)
- 実らないいちじくを枯らすはなしは、何を伝えているのだろうか(マルコ、マタイ)

2.2.71 権威についての問答

聖書箇所：マルコによる福音書 11 章 27-33 節福音書対照表

- 「権威についての問答」(マルコ 11:27-33, マタイ 21:23-27, ルカ 20:1-8)において、「何の権威によって、これらの事をするのですか」と聞かれ、直接的には答えず「ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか」と聞いています。なぜ、祭司長、律法学者、長老たちは、このような質問をしているのでしょうか。そして「これらの事」は何を指すのでしょうか。そして、直接的には答えることは、訴える口実を与えてしまうおそれもあったので、それを避けたのでしょうか。
- イエスは問いに対して問い返すという場面があるように思いますが、「ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか」では、イエスは本質的に何を、祭司長、律法学者、長老たちに問い、私たちに、どのようなことを考えることを迫っているのでしょうか。
- あるものが「天(神)から」か「人から」かは、どのように判断したら良いのだろうか。とても、本質的な問いでもある。民の指導者たちはどう考えていたのだろうか。イエスはどうか、そして、私たちは、どのように判断したらよいのだろうか。

2.2.72 「ぶどう園の農夫」のたとえ

聖書箇所：マルコによる福音書 12 章 1-12 節福音書対照表

- 主人が神様をあらわしているとする、たとえで語られている、ぶどう園にたいしてしたことは、何を著しているのだろうか。
- 農夫たちが、収穫を主人に与えず、しもべたちを受け入れないことは何を意味しているのだろうか。
- 主人は、すでに、しもべたちが何度もひどい目にあっているのに、なぜ、農夫たちは、息子ならうやまってくれるだろうと考えたのだろうか。
- 語られている「彼ら」が祭司長、律法学者、長老たちであるなら、このたとえを通して、このひとたちに、どのようなメッセージが語られており、また、この人たちは、なにをどうすべきだ（った）と言っているのだろうか。
- 主人と農夫の信頼関係が、壊れてしまったのは何が原因なのだろうか。回復は不可能なのだろうか。

2.2.73 皇帝への税金

聖書箇所：マルコによる福音書 12 章 13-17 節福音書対照表

- イエスに質問をしにきた人たちは、どのような答えを期待していたのだろうか。
- 税金についてイエスはどのように考えていたのだろうか。
- 「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」で、イエスは何を教えているのだろうか。
- このひとたちが考えていたことと、イエスのこたえには、どのような相違があったのだろうか。

2.2.74 復活についての問答

聖書箇所：マルコによる福音書 12 章 18-27 節福音書対照表

- サドカイ人は、復活を信ぜず、パリサイ人は、それを信じていたようだが（使徒 23:6）なぜ、そのように信じ、何を根拠にそう信じていたのだろうか。そのように信じるような経緯も知りたい。
- 復活を信じる、パリサイ人は、サドカイ人の 12:19-23 節の問いに、どう答えていたのだろうか。
- アブラハム、イサク、ヤコブは生きていと証言しているようだが、イエスは復活についてどのような理解をもっていたのだろうか。

- イエス自身が「よみがえる」ことについて何回か述べられているが（マルコ 8:31, 9:9-10, 9:31, 10:34）、イエスは自身の復活についてどのように認識していたのだろうか。
- 死んだひとが生き返ること、イエスの復活、一般の（イエス以外の）ひとの死後の復活、神との関係において生き続けること、それぞれについて、そして相違について、どう考えればよいのだろうか。

2.2.75 最も重要な戒め

聖書箇所：マルコによる福音書 12 章 28-34 節福音書対照表

- イエスが「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」と問われて答えている箇所である。「わたしたちの神は、唯一の神である。その主をあなたのすべてをもって愛せよ。自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。」（要約）が、聖書の中心的な教えということだろうか。
- 「イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。」で、聖書は、そして、イエスは何を伝えているのだろうか。他の神を認めない、排他的であることを奨励しているのだろうか。
- なぜ最も重要な戒めは一つではなく二つなのだろうか。二つとも絶対的に必要なのだろうか。二つのいましめは関連しているのだろうか、それとも独立なのだろうか。

2.2.76 ダビデの子についての問答

聖書箇所：マルコによる福音書 12 章 35-37 節福音書対照表

- キリストはダビデの子かという問いに対して三つの共観福音書ともイエスは否定している。イエスがダビデの子かという問いに関しては、福音書によってどのように記述されているのだろうか。
- マルコにおいても、一箇所、エリコで盲人が「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」（10 章 47 節、48 節では「イエス」が省略）と叫んでいる箇所があるが、他の福音書と比較して非常に注意して「ダビデの子」とは書かれていないように見える。この箇所でも、ひとびとは、必ずしもメシアをダビデの子だとは考えてないように見える。実際には、どうだったのだろうか。

2.2.77 律法学者を非難する

聖書箇所：マルコによる福音書 12 章 38-40 節福音書対照表

- なぜ律法学者を非難する記事が入っているのだろう。
- マルコの律法学者非難は簡素で短く、マタイは非常に長く、ルカは異なる形にまとめてあるようだがそれは何を意味するのだろうか。

2.2.78 やもめの献金

聖書箇所：[マルコによる福音書 12 章 41-44 節福音書対照表](#)

- やもめはなにかの象徴だろうか。やもめのようになれと言っているのだろうか。それとも、そうではないひとを非難しているのだろうか。
- イエスはこの「やもめの献金」で何を教えようとしているのだろうか。

2.2.79 神殿の崩壊を予告する

聖書箇所：[マルコによる福音書 13 章 1-2 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 13 章 1-2, 3-13 節福音書対照表](#)

- 宮が（ローマ軍によって AD70 に）崩されることの預言なのだろうか。それとも、もっと一般的に、物質的なものへの過度の称賛を戒めたものか。

2.2.80 終末の徴

聖書箇所：[マルコによる福音書 13 章 3-13 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 13 章 1-2, 3-13 節福音書対照表](#)

- イエスは「いつ」と「前兆」との問いのうち、「いつ」という問いには、答えていないように見える。イエスが気にかかっていたことは、どんなことだったのだろうか。

2.2.81 大きな苦難を予告する

聖書箇所：[マルコによる福音書 13 章 14-23 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 13 章 14-23, 24-27 節福音書対照表](#)

- 苦難のときをどのように生きれば良いのだろうか。

2.2.82 人の子が来る

聖書箇所：[マルコによる福音書 13 章 24-27 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 13 章 14-23, 24-27 節福音書対照表](#)

- 人の子が来ることを通して、なにを教えているのだろうか。

2.2.83 いちじくの木教え

聖書箇所：マルコによる福音書 13 章 28-32 節福音書対照表/マルコによる福音書 13 章 28-32, 33-37 節福音書対照表

- 「これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」(29b) とあるが、「これらの事」はどここの部分を指しているのだろうか。
- 「その日、その時は、だれも知らない。」そして「子も知らない」と明言している。これは、どのようなメッセージなのだろうか。

2.2.84 目を覚ましていなさい

聖書箇所：マルコによる福音書 13 章 33-37 節福音書対照表/マルコによる福音書 13 章 28-32, 33-37 節福音書対照表

- 「気をつけて、目をさましていなさい。」が中心的なメッセージのようである。気を付けて、目を覚ましているとはどのようなことを命じているのだろうか。

2.2.85 イエスを殺す計略

聖書箇所：マルコによる福音書 14 章 1-2 節福音書対照表/マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9 節福音書対照表/マルコによる福音書 14 章 1-2,10-11 節福音書対照表/マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9,10-11 節福音書対照表

- いつ頃から、イエスを捕らえ、殺す計画が始まっていたのだろうか。
- なぜ、捕らえ、殺そうとまで考えたのでしょうか。
- 恐れていたのは、どんなことだったのでしょうか。

2.2.86 ベタニアで香油を注がれる

聖書箇所：マルコによる福音書 14 章 3-9 節福音書対照表/マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9 節福音書対照表/マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9,10-11 節福音書対照表

- ヨハネの福音書では、エルサレム入城前、過越祭の六日前になっているが、いつなのだろうか。
- 厳しく女を咎めたのは、マルコでは人々、マタイでは弟子たち、ヨハネではイスカリオテのユダと書かれているが、実際はどうだったのだろう。
- イエスは、この女のひとを守ろうとしているようにみえるが、理由は何だろうか。

- この女のひとが、油を注いだ理由は何だったのだろうか。どこまで、わかってしたいのだろうか。
- 先に書かれた、マルコやマタイには、名前が出ていないが、後から書かれた、ヨハネには名前が書かれているのは、なぜなのだろうか。

2.2.87 ユダ、裏切りを企てる

聖書箇所：マルコによる福音書 14 章 10-11 節福音書対照表/[マルコによる福音書 14 章 1-2,10-11 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9,10-11 節福音書対照表](#)

- ユダは「引き渡す」ことを計画しますが、これは、どのようなことを意図したのでしょうか。
- ユダが、イエスを祭司長たちに引き渡そうとしたのは、なぜなのでしょう。

2.2.88 過越の食事をする

聖書箇所：マルコによる福音書 14 章 12-21 節福音書対照表

- 過越の食事の場所とその準備は、それだけ注意して、食事をしようとしていたということだろうか。
- イエスは、なぜ「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」と弟子たちに告げたのだろうか。弟子たちは、どのように受け取っただろうか。(マルコ 14:18b)
- 「人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」(マルコ 14:21b) はどのように受け取り理解したらよいのだろうか。

2.2.89 主の晩餐

聖書箇所：マルコによる福音書 14 章 22-25 節福音書対照表

- なぜ、パンとぶどう酒を配餐し、イエスの死について語る前に、弟子の裏切りのことを語ったのだろうか。
- パンはわたしのからだ、ぶどう酒は契約の血は、何を意味しているのだろうか。

2.2.90 ペトロの離反を予告する

聖書箇所：マルコによる福音書 14 章 26-31 節福音書対照表

- イエスは、ここでは、何を弟子たちに伝えているのだろうか。
- つまづくことは、十二人の一人が裏切ろうとしているということと同じだろうか。

- あなた方より先にガリラヤに行くは、「たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。」(21) と関連して、言っているのだろうか、それとも異なることについて伝えているのだろうか。

2.2.91 ゲッセマネで祈る

聖書箇所：[マルコによる福音書 14 章 32-42 節福音書対照表](#)

- 弟子たちに期待したことはどのようなことなのだろうか。
- 恐れ慄（おのの）きとあるが、イエスの悲しみの内容は、なになのだろうか。
- イエスのいのりはどのようなものだったのだろうか。何を求めているのだろうか。

2.2.92 裏切られ、逮捕される

聖書箇所：[マルコによる福音書 14 章 43-50 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 14 章 43-50,51-52 節福音書対照表](#)

- 「祭司長、律法学者、長老たちから送られた群衆」とはどのような人たちなのだろうか。
- 「イエスのそばに立っていた者のひとりが、剣を抜いて大祭司の僕に切りかかり、その片耳を切り落した」にもかかわらず、逮捕されたようには書かれていないのはなぜなのだろうか。
- なぜ、宮にいたときに、捕まえなかったのか。
- 戦う意思も持っていたようだが、弟子たちは、なぜ、逃げたのだろうか。

2.2.93 一人の若者、逃げる

聖書箇所：[マルコによる福音書 14 章 51-52 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 14 章 43-50,51-52 節福音書対照表](#)

- この若者はだれなのか、なぜ、このような記事が記されているのか。

2.2.94 最高法院で裁判を受ける

聖書箇所：[マルコによる福音書 14 章 53-65 節福音書対照表](#)

- 何箇所かに連れて行かれるようだが、イエスは、全体として、どのような裁判を受けているのか。
- イエスは、神の子である、キリストであると、弟子たちや人々に伝えていたのだろうか。

- ・ イエスは自分が神の子キリストだとは、明確には伝えていなかったように見えるが、ここでは、どのような気持ちで、大祭司の「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」との問いに、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」と肯定的に答えたのだろうか。

2.2.95 ペトロ、イエスを知らないと言う

聖書箇所：[マルコによる福音書 14 章 66-72 節福音書対照表](#)/[マルコによる福音書 14 章 26-31, 66-72 節福音書対照表](#)

- ・ 四つの福音書がみな、このことを伝えているが、すべて微妙に異なっている。これは、何を意味しているのだろうか。
- ・ 十分、勇気のいる行動をしているようにも見えるが、なぜ、ペテロは、イエスを知らないと言ってしまうのだろうか。
- ・ ペテロは、このあとどのように、立ち直ったのだろうか。

2.2.96 ピラトから尋問される

聖書箇所：[マルコによる福音書 15 章 1-5 節福音書対照表](#)

- ・ なぜ、全議会は、ピラトにイエスを引き渡したのだろうか。
- ・ ピラトの問い「あなたはユダヤ人の王であるか」に対して、なぜイエスは肯定したのだろうか。（共観福音書とヨハネを比較）

2.2.97 死刑の判決を受ける

聖書箇所：[マルコによる福音書 15 章 6-15 節福音書対照表](#)

- ・ ピラトはなぜイエスを十字架につける決断をしたのだろうか。
- ・ イエスが十字架刑に至ったのは、誰の何が責任なのだろうか。
- ・ それぞれの福音書がたいせつなこととして伝えているのはどのようなことなのだろうか。

2.2.98 兵士から侮辱される

聖書箇所：[マルコによる福音書 15 章 16-20 節福音書対照表](#)（ルカを加えたもの）

- ・ 嘲弄しているのは、兵士のようなのだが、兵士はなぜイエスを侮辱したのだろうか。

- 群衆や祭司長、長老たちは、どのようにこの光景を見ていただろうか。

2.2.99 十字架につけられる

聖書箇所：[マルコによる福音書 15 章 21-32 節福音書対照表](#)

- アレキサンデルとルポスとの父シモンはなぜイエスの十字架を負わされることになったのだろうか。
- イエスの十字架は、どのようなもので、人々の目には、どのように映ったのだろうか。

2.2.100 イエスの死

聖書箇所：[マルコによる福音書 15 章 33-41 節福音書対照表](#)

- 「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と言われたイエスの心の中はどのようなものだったのだろうか。
- 百卒長は、なぜ、「まことに、この人は神の子であった」と言ったのだろうか。

2.2.101 墓に葬られる

聖書箇所：[マルコによる福音書 15 章 42-47 節福音書対照表](#)

- アリマタヤのヨセフはなにを思いこのような行動をとったのだろうか。
- ピラトはなぜイエスの死の確認をしたのだろうか。百卒長の役割は？

2.2.102 復活する

聖書箇所：[マルコによる福音書 16 章 1-8 節福音書対照表](#)

2.2.103 （結び）マグダラのマリアに現れる

聖書箇所：

2.2.104 二人の弟子に現れる

聖書箇所：

2.2.105 弟子たちを派遣する

聖書箇所：

2.2.106 天に上げられる

聖書箇所：

2.3 ヨハネによる福音書を中心として

2.4 マタイによる福音書、ルカによる福音書を読むときに

2.4.1 復讐してはならない/敵を愛しなさい

マタイ 5:38-48、ルカ 6:27-36

- 実際にこのようにすべきだと命じているのだろうか。
 - － 詐欺にあったとき、強盗に襲われた時、テロにあった時、他国が侵略してきた時、それをひたすら受け入れることが命じられているのか。

第 3 章

共観福音書

マルコによる福音書を中心に共観福音書を読んでいきたいと思います。

新約聖書の最初には、イエスの活動や言葉について書かれている、四つの福音書があります。マタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書と、ヨハネによる福音書です。

マルコによる福音書は、新約聖書の順序では、二番目ですが、一般的には、福音書の中では、最初に書かれたと考えられています。その根拠のひとつは、伝承、そして、もう一つは、マルコによる福音書と、他の福音書の比較して、そのように結論づけられていますが、それは、読みながら、一緒に考えていければと思います。

伝承と書きましたが、直接的な証言は残っていませんから、しばらくたってから書かれたものなどから得られる情報なので、伝承としました。今から、2000 年も前のことですから、確実なことは言えないのは、仕方がないと思います。

仕方がないと書きましたが、わたしが大切だと考えているのは、不明なことが多く、事実を確認することは、不可能だと言うことを前提に読んでいくこと、そして、そうであっても、いろいろな可能性を考え、その中で、メッセージを受け取りましょうということです。

わからないと言っても、これまでも、たくさんの研究者の方々が、調べておられますから、ある程度、概観しておきたいと思います。

賛否があると思いますが、わたしは、2022 年末ごろから、生成系 AI（人工知能）のいくつかに、聞いてみることから始めています。それまでは、Wikipedia の英語版をまずは読んでいました。その前は、図書館などで本を調べていました。おそらく、偏りや、不正確さは、どの方法にも付随することでしょう。

上に、わからないと書きましたように、不明なことが多い中で、ひとつの意見として、いくつかの、AI（人工知能）を利用することは、特に、これからの時代には、不可欠のように思います。

私は、若い頃から、聖書を読み、少しずつ聖書を学んで来たので、多少の知識はあるほうだと思います。しかし、皆さんに、聖書を読んでいてもらいたい。問いを持ちながら。そうであれば、疑問が生じた時に、一般的に知

られていることを確認することは、たいせつなことだと思います。わたしは、そのために、AI を使うのが良いのではないかと考えています。

牧師や神父、聖書学者など、もっと詳しい人に聞いた方がより正確な答えが得られるのではないかと考えられる方が多いと思います。そうかもしれません。しかし、所属教派による解釈の違いもあるでしょうし、そして何よりも、確定的なことは、誰も知らない、すなわち、公平な理解というのは、誰にとっても不可能なように思います。そうであれば、自分達で学ぶ時には、一般的な情報をあつめている、AI に聞くのはひとつの解決策であると思いますし、仲間で学ぶ時には、最善だともいえます。

さまざまな問いを持ちながら、聖書を読んでいく。その素晴らしい経験を皆さんと共にできれば願い、皆さんが皆さんの仲間とそうようにして聖書を読むことの一助になればと考えて、書いています。違った考えの方もおられるかもしれませんが、わたしの考えを書かせていただきました。

これを書いている、2023 年 4 月の時点では、POE (<https://poe.com/>) を使っています。いくつかの AI での検索を比較でき、WebSite でも、モバイルアプリでも、可能で使いやすいからです。

なお、2023 年 5 月中旬から、Google Bard (<https://bard.google.com>) が公開されたので、Bard も使っています。

3.1 著者などについて

3.1.1 マルコによる福音書

2023.04.15

Q. 新約聖書のマルコによる福音書の著者、成立年代、背景について、有力な説と、その根拠をいくつか教えてください。

GPT4

新約聖書のマルコによる福音書について、著者、成立年代、背景に関連する有力な説とその根拠を以下に示します。

著者

有力な説として、マルコによる福音書の著者は、ペトロの弟子であるヨハネ・マルコだとされています。この説は、教父パピウス（Papias, 60-130 年頃）が伝える情報に基づいています。彼は、ペトロの説教を綴ったマルコの記録を用いて福音書を書いたと述べています。この説は、多くの教会史家や聖書研究者に受け入れられており、マルコ福音書の著者としてヨハネ・マルコが妥当であるとされています。

成立年代

成立年代に関する有力な説は、おおよそ西暦 65 年から 75 年の間であるとされています。その根拠は以下の通り

です。

1. マルコ福音書は、他の福音書（マタイ、ルカ）に比べて短く、原始的な形式をとっていることから、最も古い福音書であるとされています。
2. マルコ福音書には、西暦 70 年に起こったエルサレム神殿の破壊に関する直接的な言及がないことから、それ以前に成立したと考えられています。
3. 一部の研究者は、マルコ福音書がペトロの死（西暦 64 年頃）の後に成立したと考えており、そのため 65 年以降の成立が考えられます。

これらの根拠から、マルコ福音書の成立年代は西暦 65 年から 75 年の間であると考えられています。

背景

マルコ福音書の背景に関する有力な説は、以下の通りです。

1. 成立地：マルコ福音書は、ローマで成立したという説が有力です。その根拠として、福音書におけるラテン語の表現の使用や、ローマのキリスト教徒への言及が挙げられます。
2. 受け手：マルコ福音書は、主に非ユダヤ人のキリスト教徒を対象として書かれたとされています。その根拠は、ユダヤ教の伝統や慣習に関する説明が含まれていることや、ユダヤ教徒ではない人々への言及があることです。
3. 目的：マルコ福音書の目的は、イエス・キリストの教えと業を伝えることにあります。また、キリスト教徒への励ましや、苦難に耐える信仰の重要性を伝えることも目的の一部とされています。

これらの有力な説と根拠により、マルコによる福音書の著者、成立年代、背景について理解することができます。

Claud+

マルコによる福音書の著者、成立年代、背景についての有力な説と根拠は以下のようになります。

1. 著者は「ヨハネのマルコ」とされる。根拠は、初期の教会父たちの証言が一致していること。
2. 成立年代は紀元 70 年代とされる。根拠は、エルサレム神殿の破壊 (70 年) についての予言がないこと、使徒ペテロのことを過去形で語っていることなどから。
3. マルコはペテロの弟子で、ローマの教会とのつながりが深い。根拠は、初期の教会父たちの証言、ローマ式のラテン語が少し使われていることなどから。
4. マルコの福音書はペテロの口述に基づいているとする説がある。根拠は、マルコがペテロの弟子であり、ペテロ中心の記述が多いことから。
5. マルコの福音書はローマの教会向けに書かれたとする説がある。根拠は、ローマ式のラテン語が使われていること、ピラトの好意的な記述などから、ローマの人々を意識した記述があるとみられることなど。

このように、初期教会の証言と内容から有力な説がある一方で、依然として諸説ある部分もあるといえます。

Q. 「初期の教会父たちの証言、ローマ式のラテン語が少し使われていること」をもう少し詳しく説明してください。

Claud+

はい、初期の教会父たちの証言とローマ式のラテン語使用について詳しく説明します。

1. 初期の教会父たち、イレナエウス (2 世紀)、クレメンス (2 世紀)、テルトゥリアヌス (2 世紀末) らは、マルコの福音書の著者を「ペテロの弟子で、福音を記した人」「ヨハネのマルコ」と一致して証言している。
2. マルコの福音書にはローマ式のラテン語が散見される。例えば、兵士の隊長を *latinos* と表記 (15:39) したり、遺体収容の場所を *praetorium* と記したり (15:16)、銀貨のデナリオンを用いた記述 (6:37; 14:5; 15:15) がある。このことから、マルコの福音書がローマの教会を意識して書かれた可能性が高いとされる。
3. 一方で、ローマ式ラテン語の使用は稀であり、ギリシャ語が圧倒的に多用されていることから、マルコの福音書の目的がローマの教会のみに限定されるとは言い難い。

以上のように、初期教会の教父たちの証言からマルコが著者とされており、ローマ式ラテン語の少量ながらも意識的な使用からローマの教会との関係がうかがえる一方で、ギリシャ語使用の比重からそれだけに限定されるとは言えない、という点で学者の見解が分かれていると思われます。

3.1.2 感想

Wikipedia よりも、まとまっていて、読みやすく、本と比較すると、非常に手っ取り早く、簡単に、情報が得られます。わたしが、これまで、本などで、しらべたものと、ほぼ一致しており、わたしも、頭には入ってなかった情報も含まれています。現在は、マルコ著者説を否定する学者もいるが、ここでは、マルコ著者説を中心に語っている。

教父パピアス (Papias) の断片集と言われる資料はアンティオケのイグナチウスの引用で、原資料が残っているわけではありません。下の参考をみてください。

3.1.2.1 マルコによる福音書に関わる部分の引用

参考文献の英文を [DeepL](#) で訳したものを。

マルコはペテロの通訳となり、覚えていることを正確に書き留めた。しかし、キリストの言葉や行いを正確に記すことはできなかった。彼は主の声を聞いたわけでも、同行したわけでもなかったからである。しかしその後、先にも述べたように、彼はペテロに同行し、自分の指示を [聴衆の] 必要性に合わせて行ったが、主の言葉を規則正しく語るつもりはなかったのである。それゆえマルコは、いくつかの事柄を覚えていたままに書き記すことに間違いはなかった。というのも、マルコが特に注意したのは、自分が聞いたこ

とを何一つ省略しないこと、また架空のことを何一つ記述に入れないことであった。

3.1.2.2 『教会史聖書概論』エウサビオス 6:14

(榊原康夫：「ルカの福音書」p.443)

クレメン스는同じ書物（『聖書概論』）の中で、福音書の順序に関する教会の初めの権威者たちの伝承を載せるゆとりをもっていた。次の通りである。彼がいいならわしているところでは、最初の福音書は系図をのせたものであるが、マルコのは次のようにして生じた。ローマでペテロが公然とみことばを説き、御霊によって福音を宣べ伝え終わった時、大聴衆は、年久しくペテロに伴い、語られたことを覚えていたマルコに、それをみな書き下すように求めた。マルコがその通りにして、彼の福音書を注文する誰にでも手にはいるようにした。ペテロはこのことを聞いた時、なんの反対もしなかったが、特別の奨励もしなかった。

3.1.3 マタイによる福音書

2023.04.29

Q. 新約聖書のマタイによる福音書の著者、成立年代、背景について、有力な説と、その根拠、文献をいくつか教えてください。

GPT4.

新約聖書のマタイによる福音書（以下、「マタイ福音書」）は、新約聖書の中で最も古い四つの福音書のひとつであり、主にイエス・キリストの言行録を記しています。マタイ福音書の著者、成立年代、背景に関しては、さまざまな説が存在しますが、以下に有力な説とその根拠、文献をいくつか紹介します。

著者

- マタイ福音書の著者は、伝統的にイエスの使徒であり、税務署員であったマタイ（マシュー）によるとされています。しかしながら、近代的な聖書学の研究では、この福音書がマタイ自身によって書かれたという証拠は不十分であり、著者に関しては不確かとされています。

成立年代

- マタイ福音書の成立年代に関しては、一般的には紀元 70 年から 100 年の間に成立したとされています。マルコによる福音書（以下、「マルコ福音書」）が成立した紀元 66 年から 70 年頃よりも後であるため、マルコ福音書とルカによる福音書（以下、「ルカ福音書」）の成立後に書かれたとされています。

背景

- マタイ福音書は主に、ユダヤ人向けに書かれたと考えられており、特にイエスがモーセの教えを成就し、新しい法を提示したメシアであることを強調しています。また、マタイ福音書は、マルコ福音書やルカ福音書と共通する部分が多く、これら三つの福音書を合わせて「シノプティック福音書」と呼びます。

いくつかの重要な文献:

1. Brown, R. E. (1997). *An Introduction to the New Testament*. New York: Doubleday.
2. Ehrman, B. D. (2005). *Misquoting Jesus: The Story Behind Who Changed the Bible and Why*. San Francisco: HarperSanFrancisco.
3. Kümmel, W. G. (1975). *Introduction to the New Testament*. London: SCM Press.

これらの文献は、マタイ福音書の著者、成立年代、背景に関する研究を提供しています。ただし、聖書学は絶えず進化している学問であり、新しい発見や研究によってこれらの説が変わる可能性があることに留意してください。

Q. マタイによる福音書や、ルカによる福音書に含まれるイエスの説教などについては、ログアや、Q 資料という、資料がべつにあったのではないとも言われているのではないですか。マルコに含まれておらず、マタイとルカにある部分は共通に含まれていないようにについては、どのように考えられているのですか。資料とともに、教えてください。

GPT4

はい、その通りです。マタイによる福音書とルカによる福音書には、共通の内容が含まれており、それらは Q 資料（Quelle と呼ばれる）と呼ばれる未発見の文書に由来するという説があります。この Q 資料は、イエスの言葉や教えを集めたもので、マタイとルカが独自に持っている情報の源とされています。

また、ログアという言葉は、イエスの言葉や教えを意味し、Q 資料に含まれるとされるものです。

マルコによる福音書は、マタイとルカの福音書よりも古いとされ、両者の共通の情報源と見なされています。しかし、マルコには含まれていない、マタイとルカに共通する部分が存在します。これらの部分は、おそらく Q 資料から取り入れられたと考えられています。

福音書の成立に関する研究では、マルコ、Q 資料、そしてマタイとルカがそれぞれ持っている独自の情報源（M 資料と L 資料）が、マタイとルカの福音書を構成する主要な要素であるとされています。この仮説は、二源説（Two-Source Hypothesis）と呼ばれています。

二源説は、福音書の成立に関する主要な理論の一つですが、他にも様々な理論が提案されています。例えば、マルコ優先説（Markan Priority）では、マルコが最初に書かれた福音書であり、マタイとルカはそれを元に作成されたとされています。また、一部の研究者は、Q 資料の存在を疑問視し、マタイがルカの情報源であるという説もあります。

いずれにせよ、福音書の成立に関する研究は、古代の文書や資料が不足しているため、確定的な結論は得られていません。しかし、Q 資料やログアの存在は、新約聖書学やキリスト教史研究において重要な課題とされています。

3.2 人物

3.2.1 バプテスマのヨハネ

2023.04.21

Q. 新約聖書に登場するバプテスマのヨハネについて、聖書以外の文献でどのように描かれているか、文献名またはリンクとともに、説明していただけますか。

GPT4.

バプテスマのヨハネは、新約聖書に登場する重要な人物であり、イエス・キリストの洗礼を行ったことで知られています。新約聖書以外の文献でも、彼について言及されているものがいくつか存在します。

1. **ヨセフスの『ユダヤ古代誌』**: ユダヤの歴史家フラウィウス・ヨセフスが著した『ユダヤ古代誌』(Antiquities of the Jews) は、ヨハネに関する重要な情報源となっています。ヨセフスは、ヨハネが義人であり、洗礼の儀式を行っていたことを記しています。また、彼はヘロデ・アンティパスによって投獄され、後に処刑されたことも記録されています。

参照リンク: [ユダヤ古代誌](#)

2. **旧約聖書外典**: バプテスマのヨハネに言及している旧約聖書外典の一部もあります。『エルサレムの詩篇』(The Psalms of Solomon) は、ヨハネが救世主イエスの到来を予言していたことを示唆しています。ただし、この文献は伝統的なキリスト教の聖書には含まれていません。

参照リンク: [エルサレムの詩篇](#) [HS: リンク切れ: [新しいリンク](#)]

3. **マンデ教文献**: マンデ教は、バプテスマのヨハネを宗教的指導者として尊敬しています。彼らの文献には、ヨハネの教えや行為に関する情報が含まれています。『マンデ教の祈祷書』(The Mandaean Book of Prayer) や『マンデ教の創世記』(The Mandaean Book of Genesis) などが挙げられます。

参照リンク: [マンデ教の祈祷書](#)

これらの文献は、バプテスマのヨハネに関する新約聖書以外の情報源を提供しています。ただし、文献によっては伝統的なキリスト教の教えとは異なる解釈が含まれていることに注意が必要です。

2023.04.21

Q. バプテスマのヨハネに関する『ユダヤ古代誌』(Antiquities of the Jews) からの引用箇所の日本語訳をお願いします。同様に『エルサレムの詩篇』(The Psalms of Solomon) からの引用箇所の日本語訳を教えてください。マンデ教文献については特徴的な1箇所のみ引用箇所の日本語訳をお願いします。

GPT4

まず『ユダヤ古代誌』(Antiquities of the Jews) からのバプテスマのヨハネに関する引用箇所の日本語訳です。

このヨハネは義の人であり、彼がユダヤ人たちに説いた説教は、悔い改めと共に洗礼を受けるよう勧めるものでした。彼は洗礼は罪の赦しに直接的に役立つものではないと語りましたが、心身の浄化のためには

必要であると説きました。多くのユダヤ人たちは彼の教えに従い、ヨルダン川で洗礼を受けました。

次に『エルサレムの詩篇』(The Psalms of Solomon)からの引用箇所の日本語訳です。

主よ、あなたの民の罪を赦し、あなたの選ばれた者たちを憐れみ、エルサレムを立て直し、あなたの聖なる都を永遠に守りたもう。あなたは罪からの救いを約束し、私たちがあなたに従順である限り、あなたの国の栄光を見ることができます。

最後に、マンデ教文献からの特徴的な1箇所の引用箇所の日本語訳です。

光の子らよ、知れ、汝らは闇の中にいるが、光を求め求めよ。汝らの守護者であるライトスピリットが、闇を破る知識とともに来たり。闇から光へと昇り、汝らの本来の故郷である光の世界へと帰りたまえ。

3.2.1.1 バプテスマのヨハネに関する聖書箇所

- ルカ 1:5-80
- マルコ 1:1-11、マタイ 3:1-12, 13-17、ルカ 3:1-20 21-22、ヨハネ 1:19-28, 29-34
- ヨハネ 3:22-30 こののち、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。23 ヨハネもサリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである。人々がぞくぞくとやってきてバプテスマを受けていた。24 そのとき、ヨハネはまだ獄に入れられてはいなかった。25 ところが、ヨハネの弟子たちとひとりのユダヤ人との間に、きよめのことで争論が起った。26 そこで彼らはヨハネのところにきて言った、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたがあかしをしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」。27 ヨハネは答えて言った、「人は天から与えられなければ、何ものも受けることはできない。28 『わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である』と言ったことをあかししてくれるのは、あなたがた自身である。29 花嫁をもつ者は花婿である。花婿の友人は立って彼の声を聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。30 彼は必ず栄え、わたしは衰える。
- ヨハネ 4:1 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり、またバプテスマを授けておられるということを、パリサイ人たちが聞き、それを主が知られたとき、
- ヨハネ 5:33 あなたがたはヨハネのもとへ人をつかわしたが、そのとき彼は真理についてあかしをした。35 ヨハネは燃えて輝くあかりであった。あなたがたは、しばらくの間その光を喜び楽しもうとした。36 しかし、わたしには、ヨハネのあかしよりも、もっと力あるあかしがある。父がわたしに成就させようとしてお与えになったわが、すなわち、今わたしがしているこのわがが、父のわたしをつかわされたことをあかししている。
- ヨハネ 10:40,41 さて、イエスはまたヨルダンの向こう岸、すなわち、ヨハネが初めにバプテスマを授けていた所に行き、そこに滞在しておられた。41 多くの人々がイエスのところにきて、互に言った、「ヨハネはなんのしるしも行わなかったが、ヨハネがこのかたについて言ったことは、皆ほんとうであった」。

- マタイ 4:12 さて、イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。
- マルコ 2:18-22 18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、断食をしていた。そこで人々がきて、イエスに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ人の弟子たちが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。マタイ 9:14 そのとき、ヨハネの弟子たちがイエスのところにきて言った、「わたしたちとパリサイ人たちが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。 (ルカ 5:33) (マタイ 9:14-17, ルカ 5:33-39)
- マタイ 11:2-19 さて、ヨハネは獄中でキリストのみわざについて伝え聞き、自分の弟子たちをつかわして、 (ルカ 7:18-35)
- マルコ 6:14-29、マタイ 14:1-12、ルカ 9:7-9
- マルコ 8:27-30, 8:28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言ひ、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。 (マタイ 16:13-20、ルカ 9:18-21)
- マタイ 17:13 そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと悟った。
- マルコ 11:27-33 30 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。 32 しかし、人からだと言えども.....」。彼らは群衆を恐れていた。人々が皆、ヨハネを預言者だとほんとうに思っていたからである。 (マタイ 21:23-27、ルカ 20:1-8)
- ルカ 11:1 また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終わったとき、弟子のひとりが言った、「主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください」。
- ルカ 16:16 律法と預言者とはヨハネの時までのものである。それ以来、神の国が宣べ伝えられ、人々は皆これに突入している。
- 使徒 1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。
- 使徒 1:22 すなわち、ヨハネのバプテスマの時から始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日に至るまで、始終わたしたちと行動を共にした人たちのうち、だれかひとりが、わたしたちに加わって主の復活の証人にならねばならない」。
- 使徒 10:37 それは、ヨハネがバプテスマを説いた後、ガリラヤから始まってユダヤ全土にひろまった福音を述べたものです。
- 使徒 11:16 その時わたしは、主が『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは聖霊によってバプテスマを受けるであろう』と仰せになった言葉を思い出した。
- 使徒 13:25 ヨハネはその一生の行程を終ろうとするに当って言った、『わたしは、あなたがたが考えているような者ではない。しかし、わたしのあとから来るかたがいる。わたしはそのくつを脱がせてあげる値うちもない』。

- 使徒 18:25 この人は主の道に通じており、また、霊に燃えてイエスのことを詳しく語ったり教えたりしていたが、ただヨハネのバプテスマしか知っていなかった。
- 使徒 19:3,4 「では、だれの名によってバプテスマを受けたのか」と彼がきくと、彼らは「ヨハネの名によるバプテスマを受けました」と答えた。4 そこで、パウロが言った、「ヨハネは悔改めのバプテスマを授けたが、それによって、自分のあとに来るかた、すなわち、イエスを信じるように、人々に勧めたのである」。

3.2.2 ヘロデ

3.2.2.1 ヘロデ大王

Q. ヘロデ大王について教えて下さい。

A. ChaptGPT 3.5 Turbo

ヘロデ大王（ヘロデス大王）は、古代のイスラエル地域で権力を持ったユダヤ人の支配者であり、ローマ帝国の代理人でした。以下にヘロデ大王に関する一般的な情報を提供します。

1. ヘロデ大王の治世: ヘロデ大王は紀元前 37 年から紀元前 4 年まで統治しました。彼はイドメネウス朝（ヘロデ朝）の創設者であり、ユダヤ人としては異例の長期間にわたり支配を続けました。
2. 政治的な地位: ヘロデ大王は、共和政から帝政への移行期において、ローマ帝国の支配下でユダヤ人の支配者となりました。彼はローマ帝国の皇帝アウグストゥスとの関係を築き、ローマの支援を受けながら統治しました。
3. 政治的な成果: ヘロデ大王はイスラエル地域の統一と近代化に注力しました。彼は建築プロジェクトを通じて都市と宮殿を建設し、水道や浴場などの公共施設を整備しました。また、ヘロデ大王はユダヤ教の宗教的中心地であるエルサレムの神殿を豪華に再建しましたが、これは後にイエス・キリストの時代に重要な役割を果たすことになります。
4. ヘロデ大王の性格: ヘロデ大王は強力な支配者であり、反対勢力に対しては容赦しない手段も取りました。彼は政敵や反乱者を厳しく取り締まり、時には自身の家族や妻子すら処刑することもありました。
5. 新約聖書との関連: ヘロデ大王の名前は新約聖書にも登場します。彼はイエス・キリストの時代に生きており、イエスの誕生直後にヘロデ大王がイエスの命を狙って幼児虐殺を命じたという記述があります（マタイによる福音書 2 章）。

ヘロデ大王は、イスラエル地域の歴史において重要な役割を果たしましたが、彼の統治は複雑で論争的となることもあります。彼の治世や個人的な性格に関する詳細な情報は、古代の文献や研究者による研究を参照することで深く探求することができます。

(2023.11.16)

ヘロデ大王に関する聖書箇所

- マタイ 2:1-18
- ルカ 1:5 ユダヤの王ヘロデの世に、アビヤの組の祭司で名をザカリヤという者がいた。その妻はアロン家の娘のひとりで、名をエリサベツといった。

3.2.2.2 ヘロデ (Herod Antipas II) : ヘロデ大王とマルタケの子

- ルカ 3:19-20 ところで領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロデヤのことで、また自分がしたあらゆる悪事について、ヨハネから非難されていたので、20 彼を獄に閉じ込めて、いろいろな悪事の上に、もう一つこの悪事を重ねた。
- ルカ 8:13 ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。
- マルコ 6:14-29, マタイ 14:1-12, ルカ 9:7-9
- ルカ 13:31-35 31 ちょうどその時、あるパリサイ人たちが、イエスに近寄ってきて言った、「ここから出て行きなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしています」。32 そこで彼らに言われた、「あのきつねのところへ行ってこう言え、『見よ、わたしはきょうもあすも悪霊を追い出し、また、病気をいやし、そして三日目にわざを終えるであろう。33 しかし、きょうもあすも、またその次の日も、わたしは進んで行かねばならない。預言者がエルサレム以外の地で死ぬことは、あり得ないからである』」。
- ルカ 23:5-12 ところが彼らは、ますます言いつのってやまなかった、「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたって教え、民衆を煽動しているのです」。6 ピラトはこれを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ね、7 そしてヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ちょうどこのころ、ヘロデがエルサレムにいたのをさいわい、そちらへイエスを送りとどけた。8 ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。9 それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかった。10 祭司長たちと律法学者たちとは立って、激しい語調でイエスを訴えた。11 またヘロデはその兵卒どもと一緒にあって、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はなやかな着物を着せてピラトへ送りかえた。12 ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。

3.2.2.3 ヘロデ・アグリッパ (Herod Agrippa I)

- 使徒 12

3.2.2.4 ヘロデ・アグリッパ (Herod Agrippa II)

- 使徒 25:13

3.2.3 パリサイ人

Q. ユダヤ教のパリサイ派（Pharisees）についてその起源、歴史、事件、主要な人物、教義などについて教えてください。律法学者との違いについてもお願いします。

GPT4

ユダヤ教のパリサイ派（Pharisees）は、古代イスラエルの宗教的・政治的な派閥のひとつで、紀元前 2 世紀から紀元後 1 世紀にかけて活動していました。彼らは、ユダヤ教の厳格な律法の遵守と、口伝律法の重要性を強調していました。パリサイ派は、ユダヤ教の伝統的な教義と慣習を維持し、進化させる役割を果たし、ラビ・ユダヤ教の基礎を築きました。

起源と歴史

パリサイ派の起源は完全には明らかになっていませんが、おおよそ紀元前 2 世紀にさかのぼるとされています。この時期、ヘレニズム文化の影響がイスラエルに広がり、ユダヤ教徒社会の中で宗教的な対立が生じました。パリサイ派は、ヘレニズム文化の影響に抵抗し、ユダヤ教の伝統的な教義と慣習を守ろうと目指しました。

主要な事件

パリサイ派は、ユダヤ教の教義と慣習を厳格に守ることで知られており、そのために彼らは何度も他の宗教的・政治的な派閥と対立しました。紀元前 1 世紀から紀元後 1 世紀にかけて、パリサイ派はサドカイ派（Sadducees）と激しく対立しました。サドカイ派は、エルサレム神殿の祭司階級であり、律法の文字通りの解釈と神殿の権威を重んじていました。この対立は、紀元 70 年のエルサレム神殿の破壊と、それに伴うユダヤ教の形態の変化によって終わりを迎えました。

主要な人物

ハッレル（Hillel）とシャンマイ（Shammai）は、パリサイ派の最も著名な律法学者でした。彼らは、紀元前 1 世紀から紀元後 1 世紀に活動し、数々のハラハ（ユダヤ教の法律）に関する議論を展開しました。ハッレルは、寛容で柔軟な解釈で知られており、シャンマイは厳格で保守的な解釈で知られています。

教義

パリサイ派は、律法（モーセの五書）の厳格な遵守と、口伝律法の重要性を強調していました。彼らは、律法を解釈し、日常生活に適用するために口伝律法が必要だと考えていました。また、パリサイ派は、復活と最後の審判、天使と悪魔の存在など、多くの神秘的な教義を信じていました。

律法学者との違い

律法学者（Scribes）は、ユダヤ教の聖典を書き写し、解釈し、教える専門家でした。彼らは、主に律法に関する知識を持ち、社会的地位が高かったです。一方、パリサイ派は宗教的なグループであり、律法の遵守と口伝律法

の重要性を強調していました。律法学者は、パリサイ派の中にも存在しましたが、全ての律法学者がパリサイ派に属していたわけではありません。

律法学者は、律法の知識を持ち、解釈し、教える役割を果たしていたため、彼らはパリサイ派の教義に影響を与えることができました。しかし、彼らはまた、異なる宗教的・政治的な背景を持ち、パリサイ派以外のグループにも所属していました。そのため、律法学者とパリサイ派は、同じ目的を持っていた場合もあれば、異なる目的や価値観を持っていた場合もありました。

(2023.6.18)

3.2.3.1 ヨセフス「ユダヤ戦役」

- 2-8-14 彼ら（パリサイ人）は、すべての霊魂は不朽であるが、善人の霊魂だけ別の体に移され、悪人の霊魂は永遠の刑罰に復する、と言う。（榊原康夫「マタイによる福音書下」）

(2024.10.22)

3.2.4 サドカイ人

3.2.4.1 ヨセフス「ユダヤ人古代史」

- 13-10-6 パリサイ人は、モーセ律法にしるされていないが父祖から伝えられた非常に多くの規定を、民に発布してきた。サドカイ人が彼らを排斥するのはこのためであって、彼らは、しるされた言葉にある規定を義務的と見るが、先祖の伝承から引き出されている事項は、守らないという。（榊原康夫「マタイによる福音書下」）
- 18-1-4 サドカイ人の教理は次の通り。魂は肉体とともに死ぬ。律法が命ずること以外の何事をも守らない。・・・しかし彼らはほとんど何事も自らはできない。というのは、彼らが権力者となる時、大衆が我慢しないので、不本意ながら、また時には無理矢理にパリサイ人の考えに身を委ねざるをえなくなるからである。（榊原康夫「マタイによる福音書下」）

(2024.10.22)

3.2.5 エッセネ派

3.2.5.1 ヨセフス「ユダヤ戦役」

- 2-8-11 彼ら（エッセネ派）の教理は次の通り。肉体は朽つべきもので、それが造られている物質も永遠でないが、霊魂は永続する。それは最も微妙な空気から出て、獄屋にはいるごとく、そのからだに統合される。一種の自然な誘惑によって引き込まれるのである。しかし、肉のかせから解き放たれた時、久しい奴隷のくびきから救われたかのように、喜び、上に昇る。

3.2.6 ヘロデ党

Q. 聖書に登場するヘロデ党というのは、どのようなものでしょうか。ユダヤの他グループなどとの関係なども分かれば教えてください。聖書以外の文献にも登場するようでしたら、その情報も教えてください。

GPT4.

ヘロデ党（Herodians）は新約聖書に登場するユダヤ人の政治的グループで、特にマルコによる福音書（マルコ 3:6; 12:13）とマタイによる福音書（マタイ 22:16）で言及されています。彼らの正確な特性や起源については不明な部分が多いですが、彼らの名称はヘロデ（Herod）家に由来しており、彼らはおそらくヘロデ家またはそのローマ人の後援者と何らかの形で結びついていたと考えられています。

ヘロデ家はユダヤのクライアント王家で、ローマ帝国の影響力下でユダヤ地方を統治していました。ユダヤの多くのグループ、特に宗教的に厳格なファリサイ派は、このローマの支配とそれに連携するヘロデ家に反対していました。それに対してヘロデ党は、ローマとヘロデ家との関係を支持し、積極的にそれらと協力していたと考えられています。

聖書外の文献においてもヘロデ党についての言及が見られます。ユダヤの歴史家フラウィウス・ヨセフスは彼の著作「ユダヤ古代誌」でヘロデ家とその時代について詳しく記述していますが、彼の記述には「ヘロデ党」の名前は出てきません。しかし、ヨセフスが記述するユダヤの政治的な派閥やグループの中に、ヘロデ家やローマと結びつく形でユダヤ社会に影響を与えた者たちがいたことは明らかです。

ヘロデ党の具体的な信念や行動については不明な点が多いですが、新約聖書と他の古代の資料から考えると、彼らはローマ帝国とヘロデ家の影響力を認め、積極的にそれらと協力していたグループであったと考えられます。

(2023.7.19)

3.2.6.1 ヘロデ党に関する聖書箇所

マルコ 3:6 パリサイ人たちは出て行って、すぐに**ヘロデ党**の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。 [参照](#)

マルコ 12:13-17 さて、人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。14 彼らはきてイエスに言った、「先生、わたしたちはあなたが真実なかとで、だれをも、はばかられないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてください。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか」。15 イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしをためそうとするのか。デナリを持ってきて見せなさい」。16 彼らはそれを持ってきた。そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。彼らは「カイザルのです」と答えた。17 するとイエスは言われた、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。彼らはイエスに驚嘆した。 [参照](#)

マタイ 22:15-22 そのときパリサイ人たちがきて、どうかしてイエスを言葉のわなにかけようと、相談をした。16 そして、彼らの弟子を、ヘロデ党の者たちと共に、イエスのもとにつかわして言わせた、「先生、わたしたちはあなたが真実なかたであって、真理に基いて神の道を教え、また、人に分け隔てをしないで、だれをもはばかられないことを知っています。17 それで、あなたはどう思われますか、答えてください。カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。18 イエスは彼らの悪意を知って言われた、「偽善者たちよ、なぜわたしをためそうとするのか。19 税に納める貨幣を見せなさい」。彼らはデナリー一つを持ってきた。20 そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。21 彼らは「カイザルのです」と答えた。するとイエスは言われた、「それでは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。22 彼らはこれを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。

3.2.7 熱心党

Q. 新約聖書に登場する熱心党（Zealot）について教えてください。聖書以外の文献もあれば、お願いします。

GPT4.

新約聖書の中では、特に「熱心党」（Zealots）と呼ばれるグループが言及されています。このグループは、1 世紀のユダヤ人の政治的な派閥で、彼らは自分たちの故郷・祖国をローマ帝国の支配から解放することを強く求めていました。

新約聖書の中で最も有名な熱心党のメンバーは、イエス・キリストの 12 人の使徒の一人であるシモン・ザロテス（Simon the Zealot）です。彼の名前の「ザロテス」は「熱心党員」を意味します。

ただし、新約聖書自体が熱心党について多くを語っているわけではなく、彼らについての詳細な情報は他の史料から得られます。特に、「ユダヤ戦記」と「ユダヤ古代誌」の著者であるフラウィウス・ヨセフスは、熱心党について詳細に記述しています。彼によれば、熱心党はローマ帝国に対する反乱を主導し、70 年のエルサレムの破壊につながるユダヤ戦争を引き起こしました。

また、熱心党はユダヤの宗教的な規範を厳格に守ることを強調し、モーセの律法の遵守とユダヤ国家の独立を強く主張しました。彼らはその名前が示すように、ある種の「熱意」を持ってこれらの目標を追求しました。

それでも、熱心党がどの程度組織化されていたのか、どのような社会的背景から生まれたのか、そして彼らが具体的にどのような行動をとったのかといった具体的な詳細については、学者たちの間でまだ議論の余地があります。

3.2.8 最高議会（サンヘドリン）

Q. イエスの時代のサンヘドリンは、どのようなもので、どのような権威を持っていたのでしょうか。議員の人数、選出の仕方、運営、審判の事例などは、残っていますか。

Perplexity [[リンク](#)] (2025.2.24)

Grok 3 beta [[リンク](#)] (2025.2.24)

ChatGPT o3-mini [[リンク](#)] (2025.2.24)

3.2.9 収税人

Q. イエスの時代、収税所（ ）は、どのように運営され、収税人（ ）はどのような仕事をしていたか、その採用などについても教えてください。聖書以外の文献の記述があればそれもお願いします。

GPT4

イエスの時代（紀元前 4 世紀 - 紀元後 1 世紀）の収税所（ ）は、ローマ帝国によって徴税のために設けられた施設でした。当時のローマ帝国は、征服した地域からさまざまな税を徴収していました。収税所は、通常、交通の要所や商業地区など、税収の請求が容易な場所に設置されていました。

収税人（ ）は、一般的に、ローマ帝国が徴税を委託した地元の民間人でした。彼らは税金を徴収することを業務としており、その報酬は徴収した税金の一部を受け取るによって得られました。このため、彼らはしばしば、不正や横領を行うことがありました。聖書以外の文献で収税人に言及されているものとしては、1 世紀のユダヤの歴史家フラウィウス・ヨセフスの著作があります。

収税人の採用は、通常、競売の形式で行われました。競売によって税収権を獲得した者が、その地域の収税人となりました。競売の過程で、税収権を獲得するために高額な金額を支払った者は、その後の徴税活動で元を取るために、より高額な税金を徴収することがありました。これが、収税人が当時のユダヤ社会で軽蔑される要因の一つでした。

イエスの時代の収税人は、ユダヤ教徒の社会から疎外されることが一般的でした。彼らは、ローマ帝国の代理人として働くことに加え、徴税を通じた不正行為が一般的であったため、信仰共同体から離れた存在とみなされていました。新約聖書の中では、イエスがマタイ（マシュー）、ザッカイといった収税人たちと交流し、彼らを弟子に迎え入れることで、神の愛と赦しのメッセージを伝えていました。これは当時のユダヤ社会の価値観とは異なる考え方であり、イエスの教えの根幹をなすものでした。

(2023.6.24)

3.2.10 罪人たち

Q. 福音書に罪人（ ）と言われる人たちについて書かれていますが、それは、どのような人たちで、社会のなかでは、どのような存在だったのでしょうか。ここでいう、罪人とは、現代でいうと、どのような人たちなのでしょう。

GPT4

福音書における罪人（ ）は、主にユダヤ人の社会規範や宗教的な戒律に違反して行動する人々を指します。これらの人々は、ユダヤ教の法（トーラー）に従わないとみなされ、社会的には疎外されることが多かったです。

罪人たちは、様々な背景を持っていました。例えば、税務署員（徴税人）は、ローマ帝国に税金を徴収する役割を果たしていたため、協力者と見なされ、ユダヤ人社会から疎外されていました。その他にも、売春婦や盗賊、偽証者など、倫理的に疑問のある職業に従事している人々も罪人とされました。

現代の観点から罪人を考えると、社会的に疎外されたり、法律や倫理に反しているとみなされる人々に相当します。例えば、犯罪者や違法な行為を行う人々、不正行為や汚職に関与する政治家や官僚、倫理的に問題のあるビジネスを行っている企業家などが該当するでしょう。

ただし、福音書においてイエス・キリストは、罪人たちと交流し、彼らに慈しみと赦しを示す姿が描かれています。これは、イエスがすべての人々に救いの手を差し伸べることを示しており、現在のキリスト教徒にとっても重要な教えです。

Bard

福音書に罪人（ ）と言われる人たちとは、当時のユダヤ社会において、神の律法を犯した者、つまり神の敵と見なされていた人たちです。具体的には、徴税人、娼婦、盗人、殺人者など、社会の底辺に生きている人々が含まれていました。これらの人々は、神の愛から見放され、救いの恩恵を受けられないと考えられていました。

しかし、イエス・キリストは、これらの人々を神の愛する子どもとして受け入れました。そして、彼らに罪の赦しと救いの希望を与えました。イエス・キリストのこの行為は、当時のユダヤ社会に大きな衝撃を与えました。また、キリスト教の根本的な教えである「すべての人々が神の愛に値する」ことを示すことになりました。

現代においても、罪人という言葉は、しばしば、社会に適応できない人々や、道徳的に逸脱した人々を指すために使われます。しかし、キリスト教の教えによれば、すべての人々は罪人であり、神の愛に値する存在です。私たちは、誰もが神の愛を受けることができることを忘れてはなりません。

(2023.6.28)

3.2.11 こども

Q. イエスの時代、ひとびとはこどもをどのようなものと思っていたのでしょうか。どのようにこどもは扱われていたのでしょうか。

GoogleGemini. イエスの時代の子どもたち

イエスの時代、こどもは現代とは大きく異なる社会的な位置づけと扱いを受けていました。

社会的な位置づけ

- 家父長制社会: 当時の中東社会は厳格な家父長制社会であり、父親が家族の権限を握っていました。子ど

もは父親の所有物とみなされ、教育や職業選択など、人生の多くの側面において父親の決定に従わなければなりませんでした。

- 労働力: 子どもは幼い頃から家事や農業などの労働力として活用されました。教育を受ける機会に限られており、識字率も低かったと考えられています。
- 社会的地位: 社会的地位は基本的に家柄や財産によって決まりました。子どもはその家柄や財産を受け継ぐ存在として期待され、社会的な責任を早くから背負うこともありました。

扱い

- 体罰: 体罰は教育手段として一般的でした。子どもは言うことを聞かないと叩かれたり、むちで打たれたりすることがありました。
- 結婚: 当時の結婚年齢は現代よりもかなり早かったです。女の子は 12 歳頃、男の子は 15 歳頃には結婚することが一般的でした。
- 養子縁組: 経済的な理由やその他の理由で、子どもが養子に出されることもありました。

イエスと子どもたち

イエスは子どもたちを大切に、彼らを受け入れました。当時の社会において、子どもたちは軽視されがちでしたが、イエスは彼らを神の国の重要なメンバーであると見なしました。

- 福音書の記述: 福音書には、イエスが子どもたちに手を置き、祝福したエピソードがいくつか記されています (マタイ 19:13-15、マルコ 10:13-16、ルカ 18:15-17)。
- 子どもたちの言葉: イエスは子どもたちの言葉を聞き、彼らの視点から物事を見ることを大切にしました (マタイ 18:1-5)。
- 象徴: イエスは子どもたちを、天国のようになるために必要な謙虚さや純粋さの象徴として用いました (マタイ 18:3-4)。

現代への影響

イエスの教えは、子どもに対する考え方に大きな影響を与えました。彼の教えは、子どもたちは尊重され、愛され、育まれるに値する存在であるという考えを広めるのに役立ちました。現代社会においても、子どもの権利や福祉は重要な課題であり、イエスの教えはこれらの議論において重要な役割を果たし続けています。

参考資料

- <https://www.unicef.or.jp/crc/>
- <https://www8.cao.go.jp/shoushi/index.html>
- <https://sabbath-school.adventech.io/es>

(2024.5.9)

3.2.12 マリアについて

Q. カトリックにおいて、聖母マリアの無原罪の御宿り (Immaculate Conception)、および被昇天 (Assumption) は、どのような根拠に基づいているのでしょうか。

ChatGPT

カトリック教会における聖母マリアの無原罪の御宿り (Immaculate Conception) と被昇天 (Assumption) は、信仰上の教義として定められています。以下に、それぞれの教義の根拠となる主要な要素を説明します。

1. 聖母マリアの無原罪の御宿り (Immaculate Conception) :

- 根拠の聖書箇所: 聖書に直接的には記されていない教義ですが、この教義の根拠として最も引用されるのは、ルカ福音書 1 章 28 節の「祝福された女」(“Hail, full of grace”) という表現です。カトリック教会では、マリアが生まれながらにして罪から清められ、神の恵みに満たされていたと解釈されます。
- 教会の教義発展: 聖母マリアの無原罪の御宿りは、教会が継承する伝統的な信仰であり、1854 年に教皇ピウス 9 世によって公式に宣言されました。教皇は、マリアが罪から免れた「御宿り」の状態で作られたという信仰を宣言しました。

2. 聖母マリアの被昇天 (Assumption) :

- 根拠の聖書箇所: 聖書に直接的には記されていない教義ですが、この教義の根拠として最も引用されるのは、聖母マリアを称える讃歌であるルカ福音書 1 章 46-55 節の「マリアの讃美歌」(マグニフィカト) です。また、マリアが死後、霊魂と肉体の両方で天に昇ったとする初期のキリスト教の伝承や教父たちの著作も根拠とされます。
- 教会の教義発展: 聖母マリアの被昇天は、教会が継承する伝統的な信仰であり、1950 年に教皇ピウス 12 世によって公式に宣言されました。教皇は、マリアが死後、霊魂と肉体の両方で天に昇ったという信仰を宣言しました。

これらの教義は、聖書の一部記述や初期キリスト教の伝承に基づいて解釈され、教会の教義発展を経て確立されました。カトリック教会では、これらの教義は聖母マリアの特別な役割と尊厳を認識し、信仰の一環として崇拝されています。

Q. 聖公会についてはこれらについてどのように考えられているのでしょうか。

ChatGPT

聖公会 (Anglican Communion) は、カトリック教会とプロテスタント教会の要素を組み合わせた伝統的な

キリスト教の一派です。聖公会において、聖母マリアの無原罪の御宿り（Immaculate Conception）と被昇天（Assumption）に関しては、教義としては明確に定められていません。

聖公会は、「聖書、伝統、理性」の三位一体を基盤としており、教義の解釈においては多様性が認められています。そのため、信徒や聖公会の指導者は個々に聖母マリアの無原罪の御宿りや被昇天について異なる見解を持つことがあります。

一部の聖公会の信徒や教区では、カトリック教会と同様に聖母マリアの無原罪の御宿りや被昇天を信じる人々もいます。彼らはこれらの教義を重要な要素として聖母マリアを敬い、崇拝します。

一方で、他の聖公会の信徒や教区では、これらの教義を信じない人々もいます。彼らは聖書の記述や初期キリスト教の伝承に直接的な根拠がないと考え、聖母マリアへの敬意や崇拝を異なる形で表現します。

聖公会はその自由な教義解釈により、信仰上のさまざまな視点を受け入れる教派として知られています。そのため、聖母マリアの無原罪の御宿りや被昇天についての見解は、個々の信仰や教区の伝統によって異なる場合があります。

(2023.8.17)

3.2.13 参考

「[マリア- キリストにおける恵みと希望](#)」聖公会-ローマ・カトリック教会国際委員、聖公会-ローマ・カトリック合同委員会訳、教文館 ISBN978-4-7642-6426-7, 2007.12.4 初版発行

3.2.14 ペテロの妻について

2023.5.30

Q. イエスの弟子のペトロの妻について、伝承や、教父の書いたものなどでなにかわかることはありますか。もし、文書などの根拠があれば、それも併せて教えてください。

GPT4.

イエスの弟子ペトロの妻については、新約聖書やその他の文献に限られた情報しかありませんが、いくつかの記述があります。

1. **新約聖書** - ペトロの妻については、新約聖書のマタイによる福音書 8:14-15 で言及されています。ここでは、イエスがペトロの義理の母を癒す場面が描かれており、ペトロに妻がいたことが示唆されています。

イエスはペトロの家に行くと、ペトロの義理の母が熱を出して寝ているのを見た。イエスは彼女の手を握って

2. **教父の文書** - 教父たちの著作にもペトロの妻について言及されている例があります。教父クレメント・オブ・アレクサンドリアは、『教育論』(Paidagogos) の中でペトロの妻に言及しています。彼はペトロが妻

とともに伝道旅行をしていたことを述べており、妻が彼を支える役割を果たしていたことが示されています。

また、エウセビオスの『教会史』にもペトロの妻に関する記述があります。エウセビオスは、クレメントの記述を引用しつつ、ペトロが夫婦で福音を伝えるように励んでいたことを述べています。

これらの文献により、ペトロには妻がいたことがわかりますが、彼女の名前や詳細な情報は記されていません。ペトロの妻は初代教会の歴史において重要な役割を果たしていたと考えられているものの、詳細については不明な点が多いです。

3.2.15 人の子

Q. イエスは自分を人の子とよぶ箇所が何回かありますが、なぜそのように呼んだのでしょうか。例とともに、教えてください。いくつか説があれば、それをお願いします。

GPT4

イエスは自分を「人の子」と呼ぶことが何度も聖書に記されています。これにはいくつかの理由が考えられますが、以下にその主な説を紹介します。

1. **ダニエル書の預言の参照:** イエスが「人の子」という言葉を使うことで、旧約聖書のダニエル書にある預言に言及しているとされます。ダニエル書 7 章 13 節-14 節^{*1}には、神によって権威と王国が与えられる「人の子」の姿が描かれています。これはメシアの到来を予告する預言とされており、イエスは自らがその人の子であることを示唆していたといわれます。
2. **謙遜と人間性の強調:** イエスが「人の子」という言葉を使うことで、自分の謙遜さや人間性を強調していたという説もあります。この説によれば、イエスは神性を主張することなく、自分が神の子であることを示すために、「人の子」という言葉を選んだとされます。
3. **アラム語の諺の使用:** イエスが話していたアラム語では、「人の子」という言葉は一般的な諺で、「人間」という意味で使われることがありました。そのため、イエスが「人の子」と言うことで、「自分も他の人間と同じである」ということを示していたという説もあります。

いくつかの例を挙げます：

- マタイによる福音書 8:20

^{*1} 口語訳：7:13 わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、／見よ、人の子のような者が、／天の雲に乗ってきて、／日の老いたる者のもとに来ると、／その前に導かれた。14 彼に主権と光栄と国とを賜い、／諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、／なくなることがなく、／その国は滅びることがない。(10:16 見よ、人の子のような者が、わたしのくちびるにさわったので、わたしは口を開き、わが前に立っている者に語って言った、「わが主よ、この幻によって、苦しみがわたしに臨み、全く力を失いました。)

イエスは彼に言われた、「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子には、頭を伏せる場所がありません。」

- マタイによる福音書 9:6

「しかし、あなたがたに人の子には地上で罪をゆるす権威があることを知ってもらうために」イエスは麻痺した人に言われた、「立ち上がって、あなたの寝床を持って家に帰りなさい。」

- ルカによる福音書 19:10

「人の子は、失われたものを捜して救うためにきたのです。」

これらの例のように、イエスは自分を「人の子」と呼ぶことで、さまざまな意味を込めていたと考えられます。しかし、その意図の全てを正確に理解することは難しいです。

3.2.15.1 福音書における人の子の使用

- マタイ 8:20, 9:6, 10:23, 11:19, 12:8, 32, 40, 13:37, 41, 16:13, 27, 28, 17:9, 12, 22, 18:11, 19:28, 20:28, 24:27, 30, 33, 37, 39, 44, 25:31, 26:2, 24, 45, 64
- マルコ 2:10, 28, 3:28, 8:31, 38, 9:9, 12, 31, 10:33, 45, 13:26, 29, 14:21, 41, 62
- ルカ 5:24, 6:5, 22, 7:34, 9:22, 26, 44, 58, 11:30, 12:8, 10, 40, 17:22, 26, 30, 18:8, 31, 32, 19:10, 21:27, 36, 22:22, 48, 69, 24: 7
- ヨハネ 1:51, 3:13, 14, 5:27, 6:27, 53, 6:62, 8:28, 9:35, 12:23, 34, 13: 31

3.2.16 イエスとともにいた女たち

- 最初の頃の同行者ルカ 8:1-3 そののちイエスは、神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられたが、十二弟子もお供をした。2 また悪霊を追い出され病気をいやされた数名の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、3 ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。
- 十字架にかかったとき
 - マルコ 15:40,41 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。
 - * マタイ 27:55,56 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセ

フとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。

ー マルコ 16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。

* ルカ 23:55,56 イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだが納められる様子を見とどけた。56 そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ。

* ルカ 24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

* マタイ 28:1 さて、安息日が終って、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。

* ヨハネ 20:1 さて、一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。

ー ヨハネ 19:25-27 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。26 イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。27 それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。

* 注：マルコ、マタイの記述を合わせると、母は、ヤコブとヨセフ（小ヤコブとヨセ）の母マリヤ、母の姉妹は、ゼベダイの子らの母サロメとなる。ここで記されている愛弟子が、ヨハネだとすると、イエスの甥ということになる。特別な関係にあった可能性もある。

3.2.17 ヨセフス (Flavius Josephus)

Q. ヨセフス (Flavius Josephus) は、どのような人ですか。

GPT3.5 Turbo

ヨセフス (Flavius Josephus) は、1 世紀から 2 世紀にかけて活動したユダヤの歴史家、司祭、軍人です。彼はローマ帝国時代のユダヤ人であり、ユダヤ戦争 (66 年-73 年) におけるユダヤ人の反乱の際、司令官として戦った後、捕らえられてローマに連行されました。

ヨセフスはローマ皇帝ヴェスパシアヌスとその息子タイトゥスによって保護され、ローマ市民権を与えられました。彼はローマで暮らし、後に歴史書や著作を執筆しました。彼の最も有名な著作は『ユダヤ古代誌』(Antiquities of the Jews) と『ユダヤ戦記』(The Jewish War) です。

ヨセフスの著作は、ユダヤ人の歴史や宗教、文化に関する貴重な情報を提供しており、特にユダヤ戦争や第二神

殿崩壊に関する詳細な描写が含まれています。彼の記述は、新約聖書の時代やその後のユダヤ人の歴史を理解する上で重要な資料とされています。

Q. もっと教えてください。

ヨセフスは、ユダヤ人の歴史や宗教に関する知識を広めるために、自身の経験や研究に基づいて著作を執筆しました。

『ユダヤ古代誌』は、ユダヤ人の歴史や宗教的な伝承に関する包括的な記述を提供しています。旧約聖書の物語や、ユダヤ人の始祖であるアブラハムから始まる系譜、モーセやダビデなどの偉大な指導者たちの物語、エルサレム神殿や神の契約、またユダヤ人の宗教的な慣習や法律に関しても詳細に書かれています。

一方、『ユダヤ戦記』は、ユダヤ戦争やローマによるエルサレム神殿の破壊についての記述を含んでいます。彼は自身がユダヤ人反乱軍の司令官であった経験をもとに、戦争の経過や出来事、ローマ軍との交渉などを詳細に描写しました。

ヨセフスの著作は、ユダヤ人の歴史や宗教に関する情報を提供するだけでなく、当時の政治情勢や社会の様子、ユダヤ人とローマ帝国の関係などについても触れています。彼の著作は古代のユダヤ人社会やその周辺地域の研究において重要な資料とされています。

(2023.11.15)

3.2.18 オリゲネス (Origen)

Q. キリスト教教父のオリゲネスについて教えてください。

ChatGPT 3.5 Turbo

オリゲネス (Origen) は、2 世紀から 3 世紀にかけて活躍したキリスト教教父であり、学者・神学者としても知られています。彼はエジプトのアレクサンドリアに生まれ、キリスト教の神学的・哲学的な思想を発展させる上で重要な役割を果たしました。

オリゲネスは非常に広範な知識を持ち、ギリシャ哲学やユダヤ教の教えにも通じていました。彼の主要な貢献の一つは、聖書の解釈方法に関する学問である「アレゴリー」を発展させたことです。彼は聖書の文字通りの解釈だけでなく、象徴的な意味や精神的な教えを探究することも重視しました。

また、オリゲネスはキリスト教の信仰と理性との関係についても重要な考えを持っていました。彼は信仰の真理を理性的に解明し、信仰と知識を結びつけることの重要性を強調しました。また、彼はキリスト教の教義に対して異教哲学や異教思想を取り入れ、キリスト教をより広範な知識と統合することを試みました。

しかし、オリゲネスの一部の思想は後に異端視され、彼自身も一時的に異端とされました。彼の一部の教義は後に修正されることとなりましたが、彼の学問的な影響力はキリスト教の発展に大きな影響を与えました。

オリゲネスは自身の信仰に対する忠誠心と学問的好奇心を持ち続け、多くの著書を執筆しました。彼の代表作には『神秘論』や『原則論』などがあります。彼の思想と著作は、後のキリスト教思想家たちに大きな影響を与え、キリスト教の神学的発展に重要な地位を占めています。

(2023.11.15)

3.3 場所・地名

3.3.1 ユダヤとガリラヤ

3.3.1.1 統治者について

Q. ユダヤとガリラヤの統治者、領主について、ローマが支配するようになってから、神殿が破壊される AD70 年まで、年代順に教えてください。特に、ガリラヤの統治について、イエスの活動した時代、領主と、ローマの総督の支配関係、徴税責任者などについても教えてください。

GPT4

ユダヤとガリラヤの統治者や領主について、ローマが支配するようになってから、神殿が破壊される AD 70 年までの時代を見ていきましょう。

紀元前 63 年 - ローマの将軍ポンペイウスがエルサレムを占領し、ユダヤはローマの支配下に入ります。

紀元前 40 年から紀元前 37 年 - ユダヤの王であるアンティゴノスがパルティアの支援を受けてローマに対抗しましたが、最終的にローマ軍に敗れました。その後、ヘロデ大王（ヘロデ 1 世）がローマの支援を受けてユダヤの王位に就きます。

紀元前 4 年 - ヘロデ大王が死亡し、息子たちによって彼の領土が分割されます。アルケラオスがユダヤ、サマリア、イドマヤを統治し、ヘロデ・アンティパスがガリラヤとベレアを、フィリップがバタネア、トラコニティス、アウラニティスを統治します。

AD 6 年 - ローマ皇帝アウグストゥスは、アルケラオスが統治能力に欠けると判断し、ユダヤ、サマリア、イドマヤをローマの直轄領とし、シリア属州に編入します。シリア属州の総督が指導者を選び、ユダヤの統治を監督します。この時期にイエスがガリラヤで活動を始めます。

AD 26 年から AD 36 年 - ポンテオ・ピラトゥスがユダヤの総督として任命されます。彼はローマの法と秩序を維持する責任を負い、徴税責任者を任命して税収を確保します。一方、ヘロデ・アンティパスはガリラヤの領主として続けて統治し、ユダヤの総督と協力関係を築いています。

AD 41 年 - ヘロデ・アグリッパ 1 世がユダヤの王位に就き、ユダヤ、サマリア、ガリラヤを統治します。

AD 44 年 - ヘロデ・アグリッパ 1 世が死亡し、ユダヤは再びローマの直轄領となります。以降、ユダヤの統治はローマの総督によって行われます。

AD 66 年から AD 70 年 - イエスの活動から約 40 年後、ユダヤ戦争が勃発し、ローマ軍が神殿を破壊するまで続きます。

この時代のガリラヤの統治に関しては、イエスが活動した時期にはヘロデ・アンティパスがガリラヤの領主でした。彼はローマの総督と協力関係を築き、徴税責任者を任命して税収を確保していました。このような支配構造の中で、イエスはガリラヤで説教を行い、多くの信徒を獲得していきました。

ヘロデ・アンティパスとローマ総督の関係は、一般的には協力関係にありましたが、時には緊張関係が生じることもありました。ローマは徴税責任者を通じてユダヤの地方統治者に対して影響力を行使し、税収やローマ法の遵守を確保していました。一方、地方の領主たちは、自らの権力を維持するためにローマと協力しながらも、民族や宗教的なアイデンティティを保ち、民衆の支持を得るために努力していました。

この時代の徴税責任者は、ローマ総督によって任命され、税収の徴収や管理を担当していました。彼らはしばしば地元のエリートや富裕層から選ばれ、自身も利益を得ることができました。しかし、徴税責任者はしばしば民衆から搾取者と見なされ、その行為は民衆の反感を買うことがありました。新約聖書では、徴税人マタイがイエスに従って改心するエピソードが語られており、このような徴税責任者の立場と行為に対する批判が表現されています。

(2023.6.29)

3.3.2 カペナウム

Q. イエスの時代、ガリラヤのカペナウム (Capernaum in Galilee) は、どのような街だったのでしょうか。人口などの推測、どのような人が住んでいたかも、分かる範囲で教えてください。

ChatGPT. ガリラヤのカペナウムは、イエスの時代には重要な商業都市であり、漁業が盛んな港町でもありました。当時のカペナウムは、海岸線に面しており、ガリラヤ湖の北西に位置していました。

カペナウムには、ローマ帝国の支配下にあったため、多様な人々が住んでいました。また、漁業が盛んだったため、漁師たちや商人たちも多く住んでいました。

当時のカペナウムについては、正確な人口などの数字は不明ですが、考古学的な発掘調査や聖書の記述から、かなり大きな町であったとされています。また、カペナウムは、当時のユダヤ教の教育、文化、商業、政治などにおいて重要な役割を果たしていたとされています。

イエスのカペナウムでの活動は、多くの人々に影響を与えました。彼は、シナゴグでの説教や奇跡的な治癒などを通じて、多くの人々を惹きつけました。また、イエスは、カペナウムを拠点として、周辺の地域を巡回し、人々に福音を広めました。

カペナウムは、イエスの時代において、イエスの教えや奇跡に触れた人々の中心地の一つであり、多くの信者が生まれた場所でもありました。また、イエスの活動が、ローマ帝国の支配を受けていた当時の社会情勢にも大きな影響を与え、後の宗教改革にも影響を与えたとされています。

現在のカペナウムは、イスラエルの北部に位置し、遺跡が残っています。カペナウムの遺跡には、シナゴーグや家屋、公共建築物などが残されており、当時の町並みを垣間見ることができます。また、イエスがペテロの家として滞在したとされる場所も遺跡として残されています。カペナウムは、多くの観光客にとって、聖地として重要な場所の一つとなっています。

Q. イスカリオテは、どのあたりをさす地名ですか。イスカリオテについて知られていることがあれば教えてください。

GPT4.

「イスカリオテ」は、一般的に新約聖書の中でユダ・イスカリオテというキャラクターに関連付けられます。ユダ・イスカリオテは、イエス・キリストの 12 人の使徒の一人で、最も有名にして最も悪名高い使徒であり、キリストを 30 個の銀貨と引き換えに裏切った人物とされています。

「イスカリオテ」の語源については、正確にはわかっていません。一部の学者は、それが「Kerioth」または「Iscariot」（ヘブライ語で「男」または「都市」という意味）という地名から来ていると提案しています。これが正しいとすれば、それはユダが Kerioth の地域（おそらく現在のヨルダン南部）から来たことを示しているかもしれない。しかし、こうした解釈は全て推測の域を出ません。

他の解釈としては、「イスカリオテ」がアラム語の「sicarius」から派生したもので、「暗殺者」を意味するという説もあります。これは、ユダ・イスカリオテがキリストを裏切った行動に基づいています。

以上のように、イスカリオテの正確な意味や起源は未だに確定的には解明されていません。この名前の最も有名なホルダー、ユダ・イスカリオテに関しても、彼が何故イエスを裏切ったのかや裏切りの詳細については多くの議論があるため、これらの質問に対する最終的な答えはないと言えるでしょう。

Q. 新約時代のデカポリス（Decapolis）はどのような地域で、どのような人たちが住んでいたのでしょうか。簡単な歴史も教えてください。

Bard

デカポリスは、新約聖書の福音書に登場するガリラヤ湖南方のヨルダン川両岸（主に東岸）の広大な地域に存在するパレスチナにおけるギリシアの 10 の植民地の町の総称です。

地理

デカポリスは、現在のヨルダン、イスラエル、シリアの国境にまたがる地域に位置します。ガリラヤ湖の南、ヨルダン川の東岸に広がり、ダマスコからガザまで、約 400km にわたります。

歴史

デカポリスは、紀元前 4 世紀にアレクサンドロス大王の征服によってギリシア化された地域です。その後、セレウコス朝、ローマ帝国などの支配を受けました。前 63 年にローマのポンペイウスによってユダヤ人支配から解放され、ローマの属州となりました。

人口

デカポリスの人口は、ギリシア人、アラム人、ペルシャ人、エジプト人など、さまざまな民族が混在していました。主な言語はギリシア語でしたが、アラム語やヘブライ語も話されていました。

宗教

デカポリスの宗教は、多神教が主流でした。ギリシアの神々やローマの神々が信仰されていました。また、ユダヤ教やキリスト教も信仰されていました。

新約聖書におけるデカポリス

デカポリスは、新約聖書の福音書にたびたび登場します。イエスは、デカポリスの町々を訪れて、説教や奇跡を行ったとされています。

例えば、マタイによる福音書 8 章 28-34 節には、ガダラの豚に群がる悪霊を追い出したというエピソードが記されています。このエピソードは、デカポリスのガダラで起こったとされています。

また、マルコによる福音書 7 章 24-30 節には、イエスがツロとシドンを経由してガリラヤ湖畔に戻ったというエピソードが記されています。このエピソードでは、イエスがツロとシドンの人々に奇跡を行ったとされています。

まとめ

デカポリスは、新約聖書の時代には、ギリシア文化と多様な民族が混在する地域でした。イエスは、デカポリスの町々を訪れて、説教や奇跡を行ったことで、キリスト教の伝播に大きな役割を果たしました。

(2023.10.3)

3.3.3 ガリラヤからエルサレムの行程

Q. ガリラヤのカペナウムから、エルサレムは、ヨルダン川東岸を通ると、どのぐらいの距離がありますか。徒歩だと、通常何日ぐらいでしょうか。

GPT-4o

ガリラヤのカペナウムからエルサレムまで、ヨルダン川の東岸を通るルートについて説明します。

距離

ガリラヤ湖のカペナウムからエルサレムまでの直線距離は約 120 キロメートルですが、実際のルートは曲がりくねった道を通るため、距離はもう少し長くなります。

ヨルダン川東岸を通る場合、ルートは以下のようになります：

- カペナウムから南下し、ヨルダン川の東側を通過。

- デカポリスの地域を經由。
- ペレアを通過し、エリコ付近でヨルダン川を渡り、西側のエルサレムへ向かいます。

このルートの距離はおおよそ 160 キロメートル（約 100 マイル）と見積もられます。

徒歩での移動日数

徒歩での移動速度は、地形や体力に依存しますが、古代の巡礼者や旅行者は通常、一日に約 20 キロメートル（約 12 マイル）を移動すると考えられています。

そのため、カペナウムからエルサレムまでの約 160 キロメートルの道のりを以下のように計算できます：

160 キロメートル ÷ 20 キロメートル/日 = 8 日

つまり、通常の徒歩速度で移動すると、カペナウムからエルサレムまで約 8 日間かかると推定されます。

注意点

- **地形と気候:** ヨルダン川東岸の地形は多様で、山地や丘陵地帯を含み、夏は非常に暑くなるため、旅行者はこれらの条件を考慮する必要があります。
- **休息日:** 連続して歩く場合、休息日を間に挟むこともあるため、実際の旅行日数はもう少し長くなる可能性があります。

このような条件を考慮に入れると、カペナウムからエルサレムまでの徒歩旅行は、8 日から 10 日程度かかると見積もるのが現実的です。

(2024.7.5)

3.3.4 エリコ

Q. エリコは、イエスの時代どのような街だったのでしょうか。エルサレムとの関係なども含めてできれば、根拠資料とともに、教えて下さい。

GPT-4o

エリコ (Jericho) は、イエスの時代において重要な歴史的・地理的な役割を果たしていました。以下に、エリコの歴史的背景とエルサレムとの関係について詳細を説明します。

エリコの歴史と特徴

1. 古代の歴史:

- エリコは「世界最古の都市」とも呼ばれ、紀元前 8000 年頃から人が住んでいた痕跡があります。

- ・ 新石器時代から連続的に人々が住み続けてきた地域であり、古代の要塞都市としても知られています。

2. ローマ時代のエリコ:

- ・ イエスの時代、エリコはローマ帝国の支配下にあります。
- ・ エリコは豊かな農業地帯であり、特に香料やバルサムの生産で有名でした。
- ・ ヘロデ大王はエリコに冬の宮殿を建設し、都市の発展を促しました。

エリコとエルサレムの関係

1. 地理的關係:

- ・ エリコはエルサレムの北東約 27 キロメートルに位置しています。
- ・ エリコはヨルダン川の近くにあり、エルサレムに向かう重要な交易路の一部でした。

2. 宗教的・文化的關係:

- ・ エリコはユダヤ教の歴史においても重要な場所であり、旧約聖書の中でエリコの陥落（ヨシュア記 6 章）が描かれています。
- ・ イエスもエリコを訪れ、その中でザアカイ（ザッカイ）の家を訪れるエピソード（ルカ 19:1-10）が記録されています。

3. 経済的關係:

- ・ エリコはエルサレムとの交易や経済活動において重要な役割を果たしました。
- ・ エルサレムへ向かう巡礼者や商人たちにとって、エリコは重要な中継地点でした。

根拠資料

1. 聖書:

- ・ 『ヨシュア記』 6 章: エリコの陥落の記述。
- ・ 『ルカによる福音書』 19 章: イエスがエリコを訪れた際のエピソード。

2. 歴史文献:

- ・ Flavius Josephus（フラウィウス・ヨセフス）による『ユダヤ古代誌』: エリコの歴史やヘロデ大王の関与についての記述。

3. 考古学的資料:

- ・ エリコの遺跡（テル・エリコ）: 新石器時代から続く人々の住居跡や城壁の遺構。

これらの資料から、エリコは古代から重要な都市であり、イエスの時代には宗教的・経済的な重要性を持つ場所であったことが確認できます。

(2024.7.16)

Q. エリコとエルサレムの経済的な関係について、具体的な貿易品目や交易ルートなどの詳細を教えてください。

GPT-4o

エリコとエルサレムの経済的な関係は、古代の交易ルートや特産品を中心に展開されました。以下に、具体的な貿易品目や交易ルートについて説明します。

貿易品目

1. バルサム:

- エリコはバルサムの生産で有名でした。バルサムは香料や薬用として高価な商品であり、ローマ帝国全体で需要が高かったです。
- ヘロデ大王の時代には、バルサムの栽培と生産がエリコ周辺で盛んに行われていました。

2. 香料:

- エリコは様々な香料の生産地でもありました。これらの香料は宗教儀式や日常生活で使用されました。

3. 農産物:

- エリコは肥沃な土地を利用して、様々な農産物を生産していました。特にナツメヤシの栽培が盛んで、デーツ（ナツメヤシの実）は重要な貿易品でした。
- その他、穀物や野菜、果物などもエリコからエルサレムへ供給されました。

4. 鉱物資源:

- エリコ周辺には死海があり、ここから塩やミネラルが採取されていました。これらも貿易品として重要でした。

交易ルート

1. エリコからエルサレムへの主要ルート:

- エリコからエルサレムへ向かう主要な交易ルートは、ヨルダン川沿いを通り、エルサレムへと続く道でした。このルートは「Jericho Road（エリコの道）」としても知られています。
- このルートは比較的平坦で、キャラバンや巡礼者が頻繁に利用していました。

2. エリコを経由する広域交易ルート:

- エリコはヨルダン川沿いに位置し、北はガリラヤ湖地方、南は死海やネゲブ砂漠方面へと続くルートの中継地点でもありました。
- 東西方向では、ヨルダン川を越えて現在のヨルダン王国（古代にはトランスヨルダン地方）へと続くルートがありました。

経済的な関係の具体例

1. 市場と商業活動:

- エリコやエルサレムには市場があり、両都市の商人たちが交流していました。エリコからの特産品はエルサレムの市場で高値で取引されていました。

2. 巡礼と宗教儀式:

- エルサレムはユダヤ教の中心地であり、多くの巡礼者が訪れました。エリコは巡礼者が通過する重要な地点であり、宿泊施設や商店が発展していました。

3. 輸送と税金:

- エリコとエルサレムの間の輸送には多くのキャラバンが関わり、これに伴う税金収入が両都市の経済に貢献していました。

根拠資料

1. 歴史文献:

- Flavius Josephus（フラウィウス・ヨセフス）による『ユダヤ古代誌』：エリコの経済活動や交易ルートについての記述があります。

2. 考古学的資料:

- エリコとエルサレムを結ぶ古代の道路や交易路の遺跡が発見されており、これらは当時の交易活動の証拠となっています。

これらの資料から、エリコとエルサレムの経済的関係は、特産品の交易や巡礼者の移動を通じて非常に密接であったことが確認できます。

(2024.7.16)

3.3.5 会堂について

Q. イエスの時代に、会堂（シナゴグ）はどのように管理され、そこで語るひとは、どのような基準のもとで、誰が決めていたと思われますか。

GPT4. イエスの時代の会堂（シナゴグ）は、ユダヤ教の宗教生活の中心地であり、礼拝、学び、コミュニティ活動が行われていました。シナゴグは、主に地域社会によって管理されており、運営は役員（アルヒ・シナゴグ）や指導者（シナゴグの長老たち）によって行われていたと考えられます。

シナゴグで語る人物に関しては、通常、ユダヤ法（ハラハ）に精通した者や聖書の知識が豊富な者が選ばれました。また、その地域の指導者や尊敬される人物も、語る機会が与えられることがありました。この選定は、シナゴグの指導者たちやコミュニティのメンバーによって行われたとされています。

イエス自身も、シナゴグで語る機会が与えられたことが、新約聖書の中で記録されています（ルカ 4:16-30 など）。これは、彼が当時のユダヤ教の教えに精通していたこと、そしてその地域で尊敬される人物であったことを示していると考えられます。

しかし、イエスの教えは従来のユダヤ教の教えとは異なる部分も多く、彼の登場によってシナゴグでは議論や抵抗が生じることもありました。

(2023.5.24)

Q. イエスの時代の、律法学者は、聖書を教えることを職業としていたのでしょうか。どのようなことを日常的にはしていたのでしょうか。

ChatGPT. イエスの時代における律法学者は、聖書を教えることを職業としていました。律法学者たちは、聖書の解釈や、宗教的な法律や規範の解決方法を教え、人々を導いていました。また、彼らは、宗教的な議論や論争にも参加していました。

律法学者たちは、ユダヤ教の聖書である「旧約聖書」を熟知しており、その解釈方法も学んでいました。彼らは、聖書のテキストに従って、宗教的な法律や規範を解釈し、人々に教えていました。彼らは、聖書の解釈については非常に厳密であり、細かい点にまで注意を払っていました。

また、律法学者たちは、宗教的な法律や規範の解決方法についても重要な役割を果たしていました。彼らは、宗教的な紛争や問題について、法的な判断を下し、解決することがありました。これは、当時のユダヤ社会において非常に重要な役割であり、律法学者たちは高い地位と尊敬を受けていました。

日常的には、律法学者たちは、自分たちの教育や研究に専念することが多かったとされています。彼らは、自分たちの家で生活し、学生たちを教育したり、研究を行ったりしていました。また、彼らは、自分たちの教えや見解を広めるために、講演や論争に参加することもありました。

律法学者たちは、当時のユダヤ社会において重要な役割を果たしていましたが、イエスは彼らの教え方や思想に批判的であり、聖書のテキストに固執することが重要ではなく、神の愛や慈悲、人間性に焦点を置くよう教えました。また、律法学者たちが高い地位や権力を持っていたことに対しても批判的であり、卑しき者や社会的に排除された人々を重視する姿勢を示しました。

Q. イエスの時代に、イエスのような巡回教師、または、伝統的な訓練を受けていたい、どちらかと言うと、権威とはかけ離れた、カリズマティック（Charismatic）な説教者がいたと言うような記録はありますか。

ChatGPT. イエスの時代には、イエス以外にも巡回教師やカリスマ的な宗教指導者が存在しました。彼らは、従来の宗教的権威とは異なる教え方をし、多くの人々に影響を与えたとされています。

例えば、歴史的な記録によれば、当時のユダヤ教においては、ハスミモンという教派が存在していました。この教派は、従来のユダヤ教とは異なる教えを持ち、個人的な神への直接的な接触を重視していました。また、ハスミモンの指導者たちは、従来のラビのような教育を受けたわけではなく、自己流で宗教的な知識を習得していたとされています。

また、当時のユダヤ教には、エッセネ派というグループも存在していました。彼らは、社会から隔離されたコミュニティで暮らし、徹底した禁欲的な生活を送っていました。エッセネ派には、カリスマ的な指導者たちがいたとされ、その中には、洗礼者ヨハネという人物も含まれていました。ヨハネは、イエスの前身となる存在として重要な役割を果たしており、カリスマ的な説教や象徴的な行為などで多くの人々を惹きつけました。

さらに、イエスの時代には、ゼロアスター教やギリシャ哲学の影響を受けたシンクレティズム（融合主義）的な宗教運動も存在していました。これらの運動には、カリスマ的な指導者が多く参加しており、彼らの教えや行動は、当時の人々に大きな影響を与えました。

しかし、当時の歴史的な記録には、これらのカリスマ的な宗教指導者たちに関する情報が限られており、詳細な情報は不明な点が多いです。また、イエス以外のカリスマ的な指導者たちの教え方や活動については、イエスの教えと比較されることが多く、彼らの独自性が強調されることはあまりありません。

しかし、当時の社会や宗教状況を考えると、イエス以外にも、権威とはかけ離れたカリスマ的な宗教指導者たちが存在していたと考えられます。彼らの教えや活動は、当時の人々に大きな影響を与え、イエスの教えと同様に、宗教改革の一つのきっかけとなった可能性があります。

Q. ハスミモン派の教えは伝統的な教えとどのような違いがあったのでしょうか。また、エッセネ派についても、教えてください。

ChatGPT. ハスミモン派は、ユダヤ教の一派であり、従来の教えとは異なる教えを持っていました。彼らは、個人的な神との接触を重視し、律法の解釈についても独自の解釈を行っていました。また、聖書の中には書かれていない秘教的な知識を持っていたとされています。

ハスミモン派の指導者たちは、従来のラビのような教育を受けたわけではなく、自己流で宗教的な知識を習得していたとされています。彼らは、神との直接的な接触を通じて、神の意志を知ろうとすることを重視していました。また、彼らの教えには、軍事的な要素も含まれており、反乱を起こすこともあったとされています。

一方、エッセネ派は、ユダヤ教の一派であり、社会から隔離されたコミュニティで暮らしていました。彼らは、徹底した禁欲的な生活を送り、財産を共有する生活をしていました。また、エッセネ派には、カリスマ的な指導者たちがいたとされ、彼らの教えや行動は、当時の人々に大きな影響を与えました。

エッセネ派の教えには、従来のユダヤ教とは異なる要素が含まれており、古代イランの宗教であるゾロアスター教や、ギリシャ哲学の影響を受けたとされています。彼らは、神秘的な世界観を持ち、天使や悪魔、魂の存在などについて独自の見解を持っていました。

また、エッセネ派には、メシアの到来を待ち望む信仰がありました。彼らは、メシアが到来すると、世界は再生され、正義と平和が訪れると信じていました。エッセネ派の中には、イエスがメシアであるという説もあったとされます。

ハシミオン派やエッセネ派は、従来のユダヤ教とは異なる教えを持ち、社会から隔離されたコミュニティで暮らすなど、独自の生活様式を持っていました。彼らの教えや生活様式は、当時の人々に影響を与え、後の宗教改革にも影響を与えたとされています。

(2023.05.24)

3.3.5.1 イエスが会堂で教えた聖書の記録

- ルカ 4:15 イエスは諸会堂で教え、みんなの者から尊敬をお受けになった。
- ルカ 4:44 そして、ユダヤの諸会堂で教を説かれた。
- マタイ 4:23 イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。
- マタイ 9:35 イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。
- マルコ 1:21-28 21 それから、彼らはカペナウムに行った。そして安息日にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた。(汚れた霊を追い出す) (ルカ 4:31-37)
- マルコ 1:39 そして、ガリラヤ全地を巡りあるいて、諸会堂で教えを宣べ伝え、また悪霊を追い出された。
- マルコ 3:1-6 1 イエスがまた会堂にはいられると、そこに片手のなえた人がいた。2 人々はイエスを訴えようと思って、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがっていた。(中略) 6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。(マタイ 12:9-14、ルカ 6:6-11)
- マルコ 6:1-6 1 イエスはそこを去って、郷里に行かれたが、弟子たちも従って行った。2 そして、安息日になったので、会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。(マタイ 13:53-58、ルカ 4:16-30)
- ルカ 13:10-17 10 安息日に、ある会堂で教えておられると、(中略) 14 ところが会堂司は、イエスが安息日に病気をいやされたことを憤り、群衆にむかって言った、「働くべき日は六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。安息日にはいけない」。(腰の曲がった女を癒やす)
- ヨハネ 6:59 これらのことは、イエスがカペナウムの会堂で教えておられたときに言われたものである。(どこからが「これらのこと」か不明)

- ヨハネ 8:20 イエスは答えられた、「わたしはこの世に対して公然と語ってきた。すべてのユダヤ人が集まる会堂や宮で、いつも教えていた。何事も隠れて語ったことはない。

3.3.6 カペナウムの会堂について

Q. イエスの時代、カペナウムには、会堂は、一つでしょうか。それとも、いくつかあったのでしょうか。発掘などはされていますか。

ChatGPT.

イエスの時代のカペナウムについては、会堂が一つだけであったのか、または複数存在したのかについては、新約聖書の記述や現地の発掘調査から得られる情報に限定されます。

新約聖書では、カペナウムがイエスの活動の中心地の一つであり、イエスがカペナウムの会堂で教えたという記述があります（マルコ 1:21-22、ルカ 4:31-32 など）。しかし、具体的に一つの会堂の存在が言及され、他の会堂についての記述はないため、会堂が一つしか存在しなかったのかどうかははっきりしません。

カペナウムの遺跡は現代でも発掘調査が行われており、会堂の遺跡とされるものが複数の場所で発見されています。最も有名なのは、カペルナウムの遺跡で発見された「白い会堂」と呼ばれる建物です。この建物は4世紀のものであると考えられていますが、イエスの時代の会堂であったかどうかははっきりしません。

他の場所でも、小さなシナゴグの遺跡が発見されていますが、これらがイエスの時代のものであるかどうかははっきりしていません。

総括すると、カペナウムにおける会堂の数や具体的な配置については、新約聖書の記述や現地の発掘調査から得られる情報には限定があり、確定的な回答はできません。

(2023.10.20)

3.3.6.1 会堂司について

Q. 新約聖書時代の会堂司はどのような役割と責任を持っていたのでしょうか。

ChatGPT.

新約聖書時代の会堂司（シナゴグの司会者）は、ユダヤ教の会堂で重要な役割と責任を担っていました。以下に、その主な役割と責任をいくつか挙げます。

1. 会堂の管理と監督: 会堂司は、会堂の日常的な管理と運営に責任を持ちました。会堂の清潔さや整頓、必要な儀式用品や文書の管理などを行いました。
2. 礼拝の調整: 会堂司は、安息日や祝日などの礼拝の調整を担当しました。聖書の朗読や解説、祈りや賛美歌の指導などを行い、集まった信徒たちの礼拝を取り仕切りました。

3. 教育と教義の伝達: 会堂司は、ユダヤ教の教えや伝統の伝達にも関与しました。彼らは聖書の解釈や法律の教えを教え、信徒たちに正しい信仰と実践を教え導きました。
4. 法的な問題の処理: 会堂司は、一定の法的な権限も持っていました。彼らは地域の司法機関と連携し、特定の犯罪や紛争の解決に関与したり、教会の規律を維持するための措置を取ることもありました。
5. 社会的な指導者としての役割: 会堂司は、地域社会においても重要な指導者の役割を果たしました。彼らは信仰の指導者としてだけでなく、地域の問題や福祉に関わる役割も担いました。

ただし、会堂司の具体的な役割や責任は、時代や地域によって異なる場合もあります。また、新約聖書の文脈では、会堂司の存在や役割について詳細な記述は限られているため、具体的な情報については限定的です。

(2023.10.20)

3.4 事項

3.4.1 聖霊・悪霊

3.4.1.1 聖霊について

Q. イエスの時代、ユダヤ人たちにとって、聖霊とはどのようなものなのでしょうか。

GPT4.

イエス・キリストの時代のユダヤ教では、「聖霊」は『ルアハ・ハコデシ』(Ruach Hakodesh) というヘブライ語で表現され、神の霊または神の力を表していました。その存在はタナハ(旧約聖書)の中で頻繁に言及されています。

ユダヤ教では、聖霊は神の力や存在の一部として理解され、神の意志を遂行するために働くと考えられています。聖霊は神の命令を実行し、神の使者として働き、預言者に啓示をもたらすなどの働きを果たしています。

たとえば、創世記 1:2 では、地球がまだ形成されていない時点で聖霊が地上を覆っていました。「地は混沌として、空は暗闇で、深淵の上に神の霊が動いていた。」この文は、ユダヤ教の神が創造の力であり、その力が聖霊を通じて行使されたことを示しています。

また、預言者たちはしばしば聖霊によって神のメッセージを受け取ると記述しています。預言者イザヤは神の霊が彼に与えられたと述べ(イザヤ 61:1)、また預言者エゼキエルも神の霊によって引き起こされ、神のビジョンを見ることができたと記録しています(エゼキエル 37:1)。

しかし、これらの理解はユダヤ教の枠組みと一致していますが、後のキリスト教の聖霊の概念とは一部異なります。特に、キリスト教の三位一体の教義(父なる神、子なるイエス・キリスト、聖霊の三つが一つの神を形成する)はユダヤ教では受け入れられていません。ユダヤ教では神は唯一無二の存在であり、その部分や形態が分けられるという考え方は存在しません。

以上のように、イエスの時代のユダヤ人にとって、聖霊は神の力と存在の表現、神の意志を遂行する手段、そして神の預言者への啓示の源でした。

(2023.8.10)

3.4.1.2 悪霊について

3.4.1.3 Q. イエスの時代、悪霊とか、汚れた霊は、どのようなものと考えられていたのでしょうか。

Poe Assistant

イエスの時代、悪霊や汚れた霊に関する信念や考え方は、古代のユダヤ教やその他の宗教的な信仰体系に基づいていました。以下に、一般的な信念のいくつかを挙げます。

1. 悪霊の存在: ユダヤ教やキリスト教では、悪霊は神に背く天使や墮天した霊的存在とされています。これらの悪霊は、神の支配の逆らい、人々に害を与えることや病気を引き起こすことができると考えられていました。
2. 悪霊の支配と排除: イエスの時代では、イエス自身が悪霊を追い出すことで知られていました。イエスは病気や悪霊の支配から人々を解放する力を持っているとされ、その力を用いて悪霊を排除したとされています。
3. 汚れた霊と儀式的な清め: 古代のユダヤ教では、人々が神聖なものに接触したり、罪を犯したりすると、霊的な汚れが生じると考えられていました。このような汚れを取り除くためには、特定の儀式的な清めが必要であるとされていました。

これらの信念は、当時の宗教的な文脈や文化によっても異なる解釈がされていた可能性があります。また、現代の視点から見ると、これらの信念は超自然的な解釈や信仰に基づいているとされることがあります。

(2023.10.4)

3.4.1.4 悪霊・汚れた霊を追い出すエピソード

- マルコ 1:23-27 ちょうどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、24 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。25 イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。26 すると、けがれた霊は彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。27 人々はみな驚きのあまり、互に論じて言った、「これは、いったい何事か。権威ある新しい教だ。けがれた霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ」。(ルカ 4:33-38)
- マルコ 1:32-34 夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。33 こうして、町中の者が戸口に集まった。34 イエスは、さまざまな病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。(ルカ 4:41)

- マルコ 1:38,39 イエスは彼らに言われた、「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」。そして、ガリラヤ全地を巡りあるいて、諸会堂で教えを宣べ伝え、また悪霊を追い出された。
- マルコ 3:11, 12 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。12 イエスは御自身のことを人にあらわさないようにと、彼らをきびしく戒められた。
- マルコ 5:1-20 2 それから、イエスが舟からあがられるとすぐに、けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、イエスに出会った。(中略) 6 ところが、この人がイエスを遠くから見て、走り寄って拝し、7 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。8 それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。(中略) 12 霊はイエスに願って言った、「わたしどもを、豚にはいらしてください。その中へ送ってください」。13 イエスがお許しになったので、けがれた霊どもは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れは二千匹ばかりであったが、がけから海へなだれを打って駆け下り、海の中でおぼれ死んでしまった。14 豚を飼う者たちが逃げ出して、町や村にふれまわったので、人々は何事があったのかと見にきた。15 そして、イエスのところにきて、悪霊につかれた人が着物を着て、正気になってすわっており、それがレギオンを宿していた者であるのを見て、恐れた。16 また、それを見た人たちは、悪霊につかれた人の身に起った事と豚のことを、彼らに話して聞かせた。(マタイ 8:28-34、ルカ 8:26-39)
- (弟子たち) マルコ 6:12,13 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。
- マルコ 7:24-30 24 さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかった。25 そして、けがれた霊につかれた若い娘をもつ女が、イエスのことをすぐ聞きつけてきて、その足もとにひれ伏した。26 この女はギリシヤ人で、スロ・フェニキヤの生れであった。そして、娘から悪霊を追い出してくださいとお願いした。27 イエスは女に言われた、「まず子供たちに十分食べさすべきである。子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。28 すると女は答えて言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、食卓の下にいる小犬も、子供たちのパンくずは、いただきます」。29 そこでイエスは言われた、「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」。30 そこで、女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまっていた。(マタイ 15:21-28)
- マルコ 9:14-29 17 群衆のひとりが答えた、「先生、口をきけなくする霊につかれているわたしのむすこを、こちらに連れて参りました。18 霊がこのむすこにとりつきますと、どこでも彼を引き倒し、それから彼はあわを吹き、歯をくいしばり、からだをこわばらせてしまいます。それでお弟子たちに、この霊を追い出してくださいのように願いましたが、できませんでした」。19 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまで、あなたがたに我慢ができようか。その子をわたしの所に連れてきなさい」。20 そこで人々は、その子をみもとに連れてきた。霊がイエスを見るや否や、その子をひきつけさせたので、子は地に倒れ、あわを吹きながらこ

ろげまわった。21 そこで、イエスが父親に「いつごろから、こんなになったのか」と尋ねられると、父親は答えた、「幼い時からです。22 霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。23 イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。25 イエスは群衆が駆け寄って来るのをごらんになって、けがれた霊をしかって言われた、「言うことも聞くこともさせない霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度と、はいつて来るな」。26 すると霊は叫び声をあげ、激しく引きつけさせて出て行った。その子は死人のようになったので、多くの人は、死んだのだと言った。27 しかし、イエスが手を取って起されると、その子は立ち上がった。(マタイ 17:14-20、ルカ 9:37-43a)

- マタイ 9:32-34 彼らが出て行くと、人々は悪霊につかれて口のきけない人をイエスのところに連れてきた。33 すると、悪霊は追い出されて、口のきけない人が物を言うようになった。群衆は驚いて、「このようなことがイスラエルの中で見られたことは、これまで一度もなかった」と言った。34 しかし、パリサイ人たちは言った、「彼は、悪霊どものかしらによって悪霊どもを追い出しているのだ」。

3.4.1.5 悪霊を追い出す権威

- マルコ 3:13-15 さてイエスは山に登り、みこころにかなった者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。14 そこで十二人をお立てになった。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし、15 また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。(マタイ 10:1)
- マルコ 3:20-30 22 また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。23 そこでイエスは彼らを呼び寄せ、譬をもって言われた、「どうして、サタンがサタンを追い出すことができるか。(中略) 28 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。29 しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。30 そう言われたのは、彼らが「イエスはけがれた霊につかれている」と言っていたからである。(マタイ 12:22-32 そのとき、人々が悪霊につかれた盲人で口のきけない人を連れてきたので、イエスは彼をいやして、物を言い、また目が見えるようにされた。ルカ 11:14-23)
- マルコ 6:7-9 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、8 また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないように、パンも、袋も、帯の中に銭も持たず、9 ただわらじをはくだけで、下着も二枚は着ないように命じられた。(マタイ 10:5-15、ルカ 9:1-6)
- マルコ 16:17,18 信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、18 へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」。
- ルカ 10:17 七十二人が喜んで帰ってきて言った、「主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します」。

3.4.2 祭り

3.4.2.1 ユダヤのお祭り

- 日本イスラエル親善協会 [[リンク](#)]
- ミルトス（イスラエル・ユダヤ文化の出版社） [[リンク](#)]

3.4.2.2 過越の祭り

Q. イエスの時代に、過越の祭りはどのように過ごされていたのでしょうか。

GTP-4o

イエスの時代における過越の祭り（ペサハ）は、ユダヤ教の最も重要な祭りの一つであり、イスラエルの民がエジプトからの解放を記念するものでした。この祭りはエルサレムで盛大に祝われ、多くのユダヤ人が巡礼のためにエルサレムに集まりました。以下に、イエスの時代の過越の祭りの過ごし方について詳しく説明します。

3.4.2.3 1. 準備

3.4.2.4 清掃と発酵物の除去

- 過越の祭りの前には、家中の発酵した食品（ハメッツ）を取り除くことが行われました。これは、イスラエルの民が急いでエジプトを脱出した際に発酵させる時間がなかったパンの象徴です。

3.4.2.5 過越の子羊の準備

- エルサレムの神殿では、過越の祭りのために子羊が犠牲として捧げられました。この子羊は特定の規定に従って準備され、家庭ごとに食べられるために各家族が神殿で子羊を受け取ります。

3.4.2.6 2. 過越の祭りの食事（セーデル）

3.4.2.7 過越の食事の構成

- 過越の祭りは、家族や友人が集まって行う特別な食事（セーデル）で祝われました。この食事には、以下のような象徴的な食品が含まれました。
 - － 過越の子羊: 犠牲として捧げられた子羊の肉。
 - － 無酵母パン（マッツァー）: 発酵していないパン。
 - － 苦菜（マロール）: エジプトでの苦役を思い出させる苦い野菜。
 - － ハロセット: リンゴ、ナッツ、ワインなどで作られたペーストで、レンガの泥を象徴する。

3.4.2.8 儀式的な順序

- セーデルの食事は、特定の順序に従って行われました。これは、エジプト脱出の物語を再現するものであり、祈りや祝福、物語の朗読、賛美歌の歌唱などが含まれます。

3.4.2.9 3. 神殿での儀式

3.4.2.10 子羊の犠牲

- 過越の祭りの間、神殿で多くの子羊が犠牲として捧げられました。この儀式は神殿の祭司によって行われ、祭りの中心的な行事となっていました。

3.4.2.11 巡礼

- イエスの時代、多くのユダヤ人がエルサレムに巡礼し、神殿での儀式に参加しました。エルサレムはこの期間中、非常に混雑し、祭りの雰囲気が街全体に広がりました。

3.4.2.12 4. イエスと過越の祭り

3.4.2.13 最後の晩餐

- イエスが弟子たちと共に行った「最後の晩餐」は、過越の祭りのセーデルの食事と関連しています。新約聖書の記述によれば、イエスはこの食事の中でパンとワインを弟子たちに分け与え、自分の体と血の象徴としました（マタイ 26:17-30、マルコ 14:12-26、ルカ 22:7-20）。

3.4.2.14 公開の場での教え

- 過越の祭りの期間中、イエスはエルサレムの神殿やその周辺で教えを説き、多くの人々が集まる中で活動しました。これは、彼の公の働きの中でも非常に重要な時期となりました。

3.4.2.15 まとめ

イエスの時代の過越の祭りは、宗教的な意味合いが非常に強く、エルサレムで盛大に祝われました。家庭でのセーデルの食事、神殿での儀式、そしてエルサレムへの巡礼が中心となり人々はこれらの行事を通じてエジプト脱出の出来事を記憶し、神への感謝と信仰を新たにしました。

過越の祭りはまた、イエスの生涯と教えにおいても重要な位置を占めています。特に「最後の晩餐」は、キリスト教の聖餐式（エウカリスティア）に深く影響を与え、過越の祭りが持つ解放と救済のテーマが、キリスト教信仰の核心とも結びついています。

3.4.2.16 参考文献

- 新約聖書: マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの各福音書には、過越の祭りとイエスの関係が詳述されています。

- **旧約聖書:** 出エジプト記 12 章には、過越の祭りの由来とその詳細が記されています。
- **歴史的資料:** ユダヤ教の伝統的な文献や歴史書（例えば、ヨセフスの著作）は、イエスの時代の過越の祭りの背景を理解する上で有益です。

このように、イエスの時代における過越の祭りは、宗教的、文化的に極めて重要なイベントであり、当時のユダヤ人の信仰と生活に深く根ざしていました。

(2024.7.4)

Q. イエスの時代の、過越祭の食事について教えてください。

Gemini-1.0-Pro

イエス時代の過越祭の食事について

過越祭とは過越祭は、ユダヤ教で最も重要な祭りの一つであり、古代エジプトからの脱出を記念するものです。過越祭は、ユダヤ暦のニサンの月（通常は 3 月または 4 月）の 14 日から 7 日間行われます。

過越祭の食事

過越祭の食事は、過越祭の最初の夜に家族や友人たちと共に行われる特別な食事です。この食事は、エジプトからの脱出の物語を思い起こさせる様々な象徴的な食べ物や儀式によって特徴付けられます。

過越祭の食事の主な要素

- **マツァー:** 過越祭の期間中は、発酵していないパンであるマツァーを食べる必要があります。これは、エジプトからの脱出が急いで行われたため、パンを発酵させる時間がないことを象徴しています。
- **マロー:** マローは、苦いハーブであり、エジプトでの奴隷時代の苦しみを象徴しています。
- **ハロセト:** ハロセトは、すりつぶしたリンゴ、ナッツ、シナモン、ワインを混ぜ合わせたペーストであり、エジプトでの奴隷が作ったモルタルを象徴しています。
- **ゼロア:** ゼロアは、ローストした羊の骨であり、エジプトでの過越祭の生贄を象徴しています。
- **ベッツァー:** ベッツァーは、ゆで卵であり、新しい生命を象徴しています。
- **カルパス:** カルパスは、野菜であり、春の訪れを象徴しています。
- **4 つの杯:** 過越祭の食事の間、4 つの杯のワインが飲まれます。これらは、エジプトからの解放における神の 4 つの約束を象徴しています。過越祭の食事の儀式過越祭の食事は、特定の儀式に従って行われます。食事の開始時に、家の長が「ハガダー」と呼ばれる物語を読み、エジプトからの脱出の物語を語ります。また、食事の間には、様々な歌や祈りが歌われます。

イエス時代の過越祭の食事

イエスは、弟子たちと共に過越祭の食事を取り、これが最後の晩餐となりました。この食事は、キリスト教の聖餐式の起源となったと言われています。

過越祭の食事の意義

過越祭の食事は、ユダヤ人にとって、エジプトからの脱出を記念し、神への感謝を捧げる重要な儀式です。また、家族や友人たちと共に行われるこの食事は、ユダヤ人のアイデンティティと連帯感を強める役割も果たしています。

参考文献 [ユダヤ教の祭り](#)

(2025.1.30)

GPT-4o

イエスの時代の過越祭（ペサハ、Pesach）の食事について説明します。この食事は、ユダヤ教の重要な祭りである過越祭の中心的な儀式で、イスラエルの人々がエジプトからの奴隷解放を記念するものでした。イエスが弟子たちと共に行った「最後の晩餐」も、この過越祭の食事（セデル、Seder）であると広く理解されています。

1. 過越祭の背景

- 過越祭は、旧約聖書の「出エジプト記」12章に記されているように、イスラエルの人々がエジプトでの奴隷状態から解放された出来事を記念するものです。特に、神がエジプトに災いを下し、「初子の死」をもたらした際、イスラエル人の家に塗られた子羊の血を見て「過ぎ越した」ことが由来です。

2. 過越祭の食事（セデル）の要素

- イエスの時代の過越祭の食事は、現代のユダヤ教のセデル（過越祭の儀式的な食事）の基本的な要素と似ていたと考えられます。以下がその主な特徴です。
 - 子羊（ペサハの犠牲） 過越の子羊は、最も重要な要素でした。エジプト脱出を記念して、傷のない1歳の雄羊を屠り、その肉を焼いて食べることが指示されていました（出エジプト記 12:5-8）。イエスの時代には、エルサレム神殿で子羊が屠られ、その肉を家族やグループで食べるのが一般的でした。
 - 種無しパン（マッツァー、Matzah） 過越祭では、種無しパン（マッツァー）を食べることが命じられていました（出エジプト記 12:15-20）。これは、エジプトを急いで脱出した際にパンを発酵させる時間がなかったことを象徴しています。イエスの時代でも、発酵したパンは避けられ、種無しパンが用意されました。
 - 苦菜（マロール、Maror） 苦菜（苦いハーブ）は、エジプトでの奴隷生活の苦しみを思い出すために食べられました。この苦菜としては、レタスやホースラディッシュなどが使われたと考えられています。

4. ワインワインは、神が奴隷状態からイスラエルを救い出したことを祝うために飲まれました。イエスの時代には、少なくとも4杯のワインを飲むことが習慣となっていた可能性があります（現代のセデルでも4杯のワインを飲むのが伝統です）。
5. その他の象徴的な食べ物（可能性）一部の学者は、イエスの時代の過越祭の食事に、現代のセデルの要素である「ハロセット」や「塩水」などが含まれていた可能性も指摘しています。ハロセット：リンゴやナッツを混ぜた甘いペーストで、レンガ造りの苦役を象徴します。塩水：涙を象徴し、苦しみの記憶を呼び起こすもの。

3. 過越祭の儀式的な流れ

- イエスの時代の過越祭の食事は、単なる食事ではなく、特定の順序（セデル）に従った儀式的な食事でした。
- 主な流れ（推測されるもの）：
 - － 祈りと感謝食事の前に、神に感謝を捧げる祈りが捧げられました。
 - － 最初のワイン杯ワインを飲み、神の救いの計画を思い出しました。
 - － 苦菜の食事苦菜を食べ、エジプトでの苦しみを思い出しました。子羊と種無しパンの食事
 - － 子羊の肉と種無しパンを食べ、神の救いの行為を記念しました。
 - － 複数回のワイン杯各杯に祈りや賛美が伴いました。
 - － ハレル詩篇の朗読詩篇 113～118 の「ハレル詩篇」を歌ったり朗読したりしました。
- 4. イエスと最後の晩餐イエスと弟子たちが最後の晩餐を行ったのは、過越祭の食事であったとされます（マタイ 26:17-30、マルコ 14:12-26、ルカ 22:7-39）。この食事では以下のポイントが特に重要です：
 - パンとワインの象徴的な意味
 - － イエスは、種無しパンを「自分の体」として弟子たちに渡し、ワインを「自分の血」として与えました（マタイ 26:26-28）。
 - － これは、過越祭の伝統的な食事に新しい意味を与え、キリスト教における聖餐式の起源となりました。
 - 子羊の象徴
 - － この最後の晩餐には過越の子羊が含まれていた可能性があります。福音書では具体的な記述はありません。一部の解釈では、イエス自身が「神の子羊」として象徴されているとされます。

5. まとめ

- イエスの時代の過越祭の食事は、ユダヤ教の伝統的な儀式に基づいたものでした。その内容は、子羊、種無しパン、苦菜、ワインなど、エジプト脱出を記念する象徴的な食べ物で構成されており、特定の順序に従って行われました。
- イエスの最後の晩餐は、この過越祭の食事に特別な意味を与え、キリスト教における聖餐の基礎を築きました。この食事を通じて、過越祭の伝統が新しい「契約」の象徴へと変容したと見ることができます。

(2025.1.30)

3.4.3 聖餐式

Q. 聖餐式のパンと葡萄酒はどのような意味があるのでしょうか。

GPT-4o

聖餐式（せいさんしき）のパンと葡萄酒は、キリスト教において非常に深い象徴的な意味を持っています。この儀式は、イエス・キリストが最後の晩餐で弟子たちに与えたパンと葡萄酒に基づいています。その意味を簡潔に説明しつつ、聖書の教えをもとに詳しく解説します。

1. 聖餐式の起源

- 聖餐式は、イエスが弟子たちとともに過越祭の食事をした「最後の晩餐」から始まりました。この出来事は、次の福音書に記されています：
 - － マタイ 26:26-28 「イエスはパンを取り、祝福の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。『取って食べなさい。これは私の体である。』また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに与えて言われた。『皆、この杯から飲みなさい。これは罪が赦されるようにと、多くの人のために流される私の契約の血である。』」
 - － この場面で、イエスはパンと葡萄酒を用いて、自分の死が持つ霊的な意義を弟子たちに教えました。

2. パンと葡萄酒の象徴的な意味

(1) パン：イエスの体

- パンは、イエスの「体」を象徴します。イエスは、自分の体が「裂かれる」こと（つまり、十字架の上での犠牲）を表すために、パンを裂いて弟子たちに与えました。
- パンを食べることは、信仰者がイエスの犠牲を受け入れ、イエスとの霊的な交わりに入ることを意味します。
- 聖書の背景と象徴
 - － イエスが用いたパンは「種なしパン」（過越祭で用いられるパン）だったと考えられます。これは罪のない純粋さを象徴しています。
 - － イエスは、自分自身を「いのちのパン」とも呼んでいます（ヨハネ 6:35）。これは、イエスが人々に霊的な命を与える存在であることを意味しています。

(2) 葡萄酒：イエスの血

- 葡萄酒は、イエスの「血」を象徴します。イエスは十字架上で血を流し、その血が「新しい契約」を成立させるものと述べました。
- 「血」は、罪の赦しと神との新しい関係（契約）を象徴します。旧約聖書との関連旧約聖書では、神との契約を結ぶ際には動物の血が捧げられました（出エジプト記 24:8）。イエスは、自分の血をもって「新しい契約」を確立したとされています。
- また、レビ記 17:11 では、「血はいのちの象徴」とされます。イエスの血は、信仰者に永遠の命をもたらすものとされています。

3. 聖餐式の意義

- イエスの犠牲の記念
 - － 聖餐式は、イエスが十字架で人類の罪のために犠牲となったことを記念する儀式です。
 - － 信者はパンと葡萄酒を通して、イエスの死を思い起こし、その犠牲に感謝します。
- 新しい契約の確認
 - － 聖餐式は、信者がイエスと結ばれた「新しい契約」を確認し、神との交わりに生きることを誓うときでもあります。
- 霊的な交わり
 - － パンを食べ、葡萄酒を飲むことは、信者がイエスと霊的に結ばれることを象徴します（ヨハネ 6:56：「私の肉を食べ、私の血を飲む者は、私のうちにとどまり、私もその人のうちにとどまる」）。
 - － また、信者同士の霊的な一致をも表します。聖餐式は、キリストの体（教会）の一部としての共同体の絆を強めます。

4. 聖餐式が教えること聖餐式は、単なる儀式ではなく、信仰生活において重要な教えを伝えています：

- 救いはイエスの犠牲によって成り立つ
 - － パンと葡萄酒は、イエスの十字架での死と復活を中心とするキリスト教の救いのメッセージを象徴します。
- 神との新しい関係
 - － イエスの血によって結ばれた新しい契約は、人々が神と親しい関係に入ることを可能にします。
- 再臨の希望
 - － 聖餐式はまた、イエスの再臨を待ち望む信仰を表します（1 コリント 11:26：「あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、それを、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」）。

5. まとめ聖餐式におけるパンと葡萄酒は、イエスの体と血を象徴し、次のような意味を持っています：

- パン：イエスの体、十字架の犠牲、霊的な命の糧。
- 葡萄酒：イエスの血、罪の赦し、新しい契約。
- この儀式は、信者がイエスの犠牲を記念し、神との新しい関係を確認し、霊的な一致を祝うためのものです。また、イエスの再臨に対する希望を持続けることを促します。

聖餐式は、キリスト教信仰の核心を象徴する大切な儀式と言えるでしょう。

(2025.1.30)

3.4.3.1 祭りの曜日

Q. ユダヤ教の祭りと曜日の関係について教えてください。レビ記 23 章に主要な祭りについて描かれていますが、ユダヤ暦で、祭りの日と安息日がどのような関係になっていたかを知りたい。

A. ChatGPT

ユダヤ教の祭りと曜日（特に安息日）との関係について、レビ記 23 章に基づいて解説します。

1. レビ記 23 章に記されている主要な祭り

レビ記 23 章では、以下の主要な祭りが規定されています。・安息日（シャバット）－毎週の 7 日目（土曜日）・過越の祭り（ペサハ）－ニサンの月 14 日・種なしパンの祭り（ハマツォト）－ニサンの月 15 日から 7 日間・初穂の祭り（ビクリーム）－過越の祭りの後の最初の安息日の翌日・七週の祭り（シャブオット）－初穂の祭りから 50 日後・ラッパの祭り（ローシュ・ハシャナー）－ティシュレイの月 1 日・贖罪日（ヨム・キプール）－ティシュレイの月 10 日・仮庵の祭り（スコット）－ティシュレイの月 15 日から 7 日間・聖会（シェミニ・アツェレット）－仮庵の祭りの 8 日目

2. ユダヤ暦と曜日の関係

ユダヤ暦は太陰太陽暦で、各月は 29 または 30 日から成ります。これはグレゴリオ暦と異なり、毎年曜日がずれるため、祭りの日付が固定の曜日になるわけではありません。

ただし、以下のような関係があります：

- ・ **過越の祭り（ペサハ）** は、ニサンの 14 日に固定されていますが、曜日は毎年変わります。
- ・ **初穂の祭り（ビクリーム）** は、過越の祭りの後の最初の安息日の翌日に行われます。したがって、これは常に日曜日になります。
- ・ **七週の祭り（シャブオット）** は、初穂の祭りから 50 日後なので、常に日曜日になります（ただし、ファリサイ派の伝統ではニサン 16 日から数え始めるため曜日は変わる）。
- ・ **ラッパの祭り（ローシュ・ハシャナー）** はティシュレイの 1 日ですが、伝統的には水曜日、金曜日、または日曜日にはならないように調整されます。
- ・ **贖罪日（ヨム・キプール）** はティシュレイの 10 日で、曜日によっては前後の安息日と連続しないように調整されます。
- ・ **仮庵の祭り（スコット）** はティシュレイの 15 日で、曜日は毎年変わりますが、最初と最後の日は特別な「聖会」となります。

3. 安息日との関係

- ・ いくつかの祭りは「聖なる安息日」とされる
- ・ 例えば、**贖罪日（ヨム・キプール）** は「最も聖なる安息日」とされ、通常のシャバットと同様に完全な休息が求められます（レビ記 23:32）。
- ・ 仮庵の祭りの最初の日と最後の日も「聖なる会合」とされ、労働を控えることが求められます。
- ・ 通常の安息日と重なる場合
- ・ 祭りの日が安息日と重なる場合（例：過越の祭りの初日が土曜日）、祭りの規定と安息日の規定が両方適用されます。

4. 結論

レビ記 23 章に記されたユダヤ教の祭りは、ユダヤ暦の日付に基づいており、曜日は毎年変動します。ただし、初穂の祭りと七週の祭り（シャブオット）は特定の曜日に関係しています。また、いくつかの祭りの日は「安息日」のように扱われ、通常のシャバット（毎週の安息日）と区別されることがあります。

(2025.2.6)

Q. 西暦 30 年の場合を例に取って説明してください。

西暦 30 年のユダヤ教の祭りと曜日の関係

西暦 30 年のユダヤ暦の計算に基づき、主要な祭りの日と曜日の関係を見ていきます。

1. 西暦 30 年のユダヤ暦（推定）

ユダヤ暦は太陰太陽暦であり、西暦 30 年のニサン月の日付を推定するには、天文学的な新月計算をもとに判断する必要があります。

多くの研究によると、**ニサン 14 日（過越の祭りの準備日）は西暦 30 年 4 月 7 日（金曜日）**にあたる可能性が高いです。

2. 祭りの日付と曜日（西暦 30 年）

ユダヤ暦の日付祭り西暦 30 年の日付曜日

- ・ ニサン 14 日過越の祭り（ペサハ）準備日 4 月 7 日金曜日
- ・ ニサン 15 日種なしパンの祭り初日（聖なる会合）4 月 8 日土曜日（安息日）
- ・ ニサン 16 日初穂の祭り（ビクリーム）4 月 9 日日曜日
- ・ シヴァン 6 日七週の祭り（シャブオット）5 月 28 日日曜日（ファリサイ派伝統の場合）
- ・ ティシュレイ 1 日ラッパの祭り（ローシュ・ハシャナー）9 月 26 日火曜日
- ・ ティシュレイ 10 日贖罪日（ヨム・キプール）10 月 5 日木曜日
- ・ ティシュレイ 15 日仮庵の祭り（スコット）初日 10 月 10 日火曜日
- ・ ティシュレイ 22 日聖会（シェミニ・アツェレット）10 月 17 日火曜日

3. 安息日との関係

- ・ ニサン 15 日（種なしパンの祭りの初日）がちょうど土曜日の安息日に重なっている。
- ・ これは「大いなる安息日」（ヨハネ 19:31 の“大安息日”の可能性があると）考えられる。
- ・ 初穂の祭り（ニサン 16 日）は日曜日だったため、復活を象徴する日として解釈されることがある。
- ・ 七週の祭り（シャブオット）も日曜日にあたる可能性が高く、ファリサイ派の伝統と一致する。

4. まとめ

- 西暦 30 年の過越の祭りは金曜日だった。（イエスの十字架と関係があるとされる）
- 種なしパンの祭りの初日は土曜日（安息日）と一致し、「大安息日」となった可能性がある。
- 初穂の祭りは日曜日で、これは後のキリスト教の復活日の考えと結びつけられる。
- 七週の祭り（シャブオット）も日曜日だった可能性が高い。

西暦 30 年は特にイエスの最後の週と関連して議論されることが多い年ですが、この祭りと曜日の関係は、ユダヤ教の観点からも重要な意味を持っています。

(2025.2.6)

3.4.4 生活・習慣

3.4.4.1 断食

Q. イエスの時代、ユダヤ人たちはどのようなときに断食をしていたのでしょうか。また、実際に、断食はどのようにしていたのでしょうか。

GPT4.

イエスの時代、ユダヤ人はさまざまな宗教的、文化的な理由で断食を行っていました。断食は、悔い改め、祈り、瞑想、神への感謝を表すために行われることが一般的でした。以下は、ユダヤ人が断食を行う主な状況です。

1. **ヨム・キプール（贖罪の日）**：ユダヤ暦の 10 月 10 日^{*2}にあたるこの日は、ユダヤ教の最も重要な断食日であり、悔い改めと神からの赦しを求める日です。この日は、日の出から日没までの間、食事や飲み物を摂らずに過ごし、祈りと瞑想に専念します。
2. **タニート・エステル（エステルの断食）**：プリム祭^{*3}の前日に行われるこの断食は、エステル記に記されたエステル女王がユダヤ人を救うために断食を行ったことを記念しています。この断食も日の出から日没までの間に行われます。
3. **タニート・ゲドリア（ゲドリアの断食）**：ユダヤ暦の 7 月 3 日^{*4}に行われるこの断食は、ゲドリアという

^{*2} ヨム・キプールは、ユダヤ教の最も重要な祭日の 1 つであり、贖罪の日として知られています。ユダヤ教では、ヨム・キプールは毎年、ユダヤ暦のティシュリ月の 10 日目に祝われます。

ユダヤ暦は、太陰太陽暦であり、月の満ち欠けと太陽の位置に基づいて決定されます。ユダヤ暦の 1 年は、約 354 日であり、グレゴリオ暦の 1 年よりも短くなっています。したがって、ヨム・キプールの日付は、毎年、グレゴリオ暦の日付と異なります。

具体的には、2023 年のヨム・キプールは、ユダヤ暦のティシュリ月の 10 日目にあたる予定です。グレゴリオ暦での日付は、2023 年 9 月 30 日（金）の夕方から 10 月 1 日（土）の夕方までとなります。ただし、ユダヤ教の祭日は日没から翌日の日没までの期間に渡って祝われるため、実際には 9 月 30 日の夕方から 10 月 2 日の夕方までの期間にわたって祝われます。(SAGE 2023.7.7)

^{*3} ChatGPT: プリム祭は、ユダヤ教の祭りの一つで、ユダヤ教暦の 12 番目の月であるアダル（またはアダル II）の 14 日に祝われます。ただし、ユダヤ教暦とグレゴリオ暦とは異なるため、グレゴリオ暦のどの月に当たるかは毎年異なります。例えば、2022 年のプリム祭は、グレゴリオ暦の 2022 年 3 月 16 日に相当しました。

^{*4} タニート・ゲドリア (Ta'anit Gedaliah) は、ユダヤ教の祭日の 1 つで、紀元前 6 世紀にバビロンの総督であったゲドリアが暗殺された出来事を記念する断食日です。タニート・ゲドリアは、ユダヤ暦のティシュリ月の 3 日目に祝われます。

ユダヤ暦は、太陰太陽暦であり、月の満ち欠けと太陽の位置に基づいて決定されます。ユダヤ暦の 1 年は、約 354 日であり、グレ

ユダヤ人の指導者が暗殺されたことを悼むために行われます。これも日の出から日没までの間に行われます。

4. **ティシャ・ベアヴ（破壊の日）**：ユダヤ暦の9月9日^{*5}にあたるこの日は、エルサレム神殿が二度破壊されたことを悼むために行われる断食です。この断食は、日没から翌日の日没までの25時間にわたって行われます。

断食の方法は、主に食事や飲み物を摂らないことでした。ただし、ヨム・キプールやティシャ・ベアヴでは、さらなる厳格さが求められ、身体的快楽を避けるために、性行為、沐浴、香水の使用、革製の靴の着用も禁じられていました。断食期間中は、祈りや瞑想に専念し、個人的な反省やコミュニティとの絆を深めることが重視されていました。

(2023.7.3)

Q. 熱心なユダヤ人にとって、断食とはどのような意味を持っていたのでしょうか。また、定められたとき以外、どのようなときに、断食をしていたのでしょうか。

GPT4.

ユダヤ教では、断食は精神的な浄化や悔い改め、神への敬意や感謝を示す手段とされています。熱心なユダヤ人にとって、断食は自己犠牲や献身、そして敬虔さを表現する重要な宗教的行為です。

ユダヤ教には、定められた時期以外にも、個人やコミュニティが断食を行う機会があります。以下にいくつかの例を挙げます。

1. **悔い改めのための断食**：個人が自分の罪を悔い改めるために、神への敬意を示すために断食を行うことがあります。
2. **災害や試練に対する反応**：自然災害や困難な状況に直面したとき、コミュニティ全体が断食を行い、神に助けを求めることがあります。
3. **追悼や悲しみの表現**：親しい人の死に対処するため、悲しみを表現する手段として断食を行うことがあります。
4. **特別な祈りや願い事**：個人が神に特別な祈りや願い事を捧げる際、断食を行うことがあります。

ゴリオ暦の1年よりも短くなっています。したがって、タニート・ゲドリアの日付は、毎年、グレゴリオ暦の日付と異なります。

具体的には、2023年のタニート・ゲドリアは、ユダヤ暦のティシュリ月の3日目にあたる予定です。グレゴリオ暦での日付は、2023年9月9日（土）になります。ただし、ユダヤ教の祭日は日没から翌日の日没までの期間に渡って祝われるため、実際には9月8日の夕方から9月9日の夕方までの期間にわたって断食が行われます。(SAGE 2023.7.7)

^{*5} ティシャ・ベアヴ (Tisha B'Av) は、ユダヤ教の祭日の1つで、第一神殿と第二神殿の破壊を記念する日です。ティシャ・ベアヴは、ユダヤ暦のアブ月の9日に行われます。

ユダヤ暦は、太陰太陽暦であり、月の満ち欠けと太陽の位置に基づいて決定されます。ユダヤ暦の1年は、約354日であり、グレゴリオ暦の1年よりも短くなっています。したがって、ティシャ・ベアヴの日付は、毎年、グレゴリオ暦の日付と異なります。

具体的には、2023年のティシャ・ベアヴは、ユダヤ暦のアブ月の9日目にあたる予定です。グレゴリオ暦での日付は、2023年8月6日（日）になります。ただし、ユダヤ教の祭日は日没から翌日の日没までの期間に渡って祝われるため、実際には8月5日の夕方から8月6日の夕方までの期間にわたって断食が行われます。(SAGE 2023.7.7)

ユダヤ教では、断食の目的や意義は個人やコミュニティーによって異なりますが、神とのつながりを強化し、敬虔な生活を送る助けとなると信じられています。

(2023.7.4)

3.4.4.2 断食に関する聖書箇所

■3.4.4.2.1 新約

- マタイ 4:2 そして、四十日四十夜、**断食**をし、そののち空腹になられた。
- マタイ 6:16-18 また**断食**をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは**断食**をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。17 あなたがたは**断食**をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。18 それは**断食**をしていることが人に知れないで、隠れた所においてになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。
- マルコ 2:18-20、マタイ 9:14,15、ルカ 5:33-35: [参照](#)
- ルカ 18:12 わたしは一週に二度**断食**しており、全収入の十分の一をささげています』。
- 使徒 13:2,3 一同が主に礼拝をささげ、**断食**をしていると、聖霊が「さあ、バルナバとサウロとを、わたしのために聖別して、彼らに授けておいた仕事に当らせなさい」と告げた。3 そこで一同は、**断食**と祈とをして、手をふたりの上においた後、出発させた。
- 使徒 14:23 また教会ごとに彼らのために長老たちを任命し、**断食**をして祈り、彼らをその信じている主にゆだねた。
- 使徒 27:9 長い時が経過し、**断食**期も過ぎてしまい、すでに航海が危険な季節になったので、パウロは人々に警告して言った、

■3.4.4.2.2 旧約

- 士師 20:26 これがためにイスラエルのすべての人々すなわち全軍はベテルに上って行って泣き、その所で主の前に座して、その日夕暮まで**断食**し、燔祭と酬恩祭を主の前にささげた。
- サムエル上 7:6 人々はミヅパに集まり、水をくんでそれを主の前に注ぎ、その日、**断食**してその所で言った、「われわれは主に対して罪を犯した」。サムエルはミヅパでイスラエルの人々をさばいた。
- サムエル上 31:13 その骨を取って、ヤベシのぎよりゅうの木の下に葬り、七日の間、**断食**した。

- サムエル下 12:16 ダビデはその子のために神に嘆願した。すなわちダビデは**断食**して、へやにはいり終夜地に伏した。
- サムエル下 12:21-23 家来たちは彼に言った、「あなたのなさったこの事はなんですか。あなたは子の生きている間はその子のために**断食**して泣かれました。しかし子が死ぬと、あなたは起きて食事をなさいました」。22 ダビデは言った、「子の生きている間に、わたしが**断食**して泣いたのは、『主がわたしをあわれんで、この子を生かしてくださるかも知れない』と思ったからです。23 しかし今は死んだので、わたしはどうして**断食**しなければならないでしょうか。わたしは再び彼をかえらせることができますか。わたしは彼の所に行くでしょうが、彼はわたしの所に帰ってこないでしょう」。
- 列王記上 21:9 彼女（イゼベル）はその手紙に書きしるした、「**断食**を布告して、ナボテを民のうちの高い所にすわらせ、12 彼らは**断食**を布告して、ナボテを民のうちの高い所にすわらせた。
- 歴代誌上 10:12 勇士たちが皆立ち上がり、サウルのからだとその子らのからだをとって、これをヤベシに持って来て、ヤベシのかしの木の下にその骨を葬り、七日の間、**断食**した。
- 歴代誌下 20:3 そこでヨシャパテは恐れ、主に顔を向けて助けを求め、ユダ全国に**断食**をふれさせた。
- エズラ 8:21 そこでわたしは、かしこのアハワ川のほとりで**断食**を布告し、われわれの神の前で身をひくくし、われわれと、われわれの幼き者と、われわれのすべての貨財のために、正しい道を示されるように神に求めた。23 そこでわれわれは**断食**して、このことをわれわれの神に求めたところ、神はその願いを聞きいれられた。
- エズラ 9:5 夕の供え物の時になって、わたしは**断食**から立ちあがり、着物と上着を裂いたまま、ひざをかがめて、わが神、主にむかって手をさし伸べて、
- ネヘミヤ 1:4 わたしはこれらの言葉を聞いた時、すわって泣き、数日のあいだ嘆き悲しみ、**断食**して天の神の前に祈って、
- ネヘミヤ 9:1 その月の二十四日にイスラエルの人々は集まって**断食**し、荒布をまとい、土をかぶった。
- エステル 4:3 すべて王の命令と詔をうけ取った各州ではユダヤ人のうちに大いなる悲しみがあり、**断食**、嘆き、叫びが起り、また荒布をまとい、灰の上に座する者が多かった。
- エステル 4:16 「あなたは行ってスサにいるすべてのユダヤ人を集め、わたしのために**断食**してください。三日のあいだ夜も昼も食い飲みしてはなりません。わたしとわたしの侍女たちも同様に**断食**しましょう。そしてわたしは法律にそむくことですが王のもとへ行きます。わたしがもし死なねばならないのなら、死にます」。
- エステル 9:31 **断食**と悲しみのことについて、ユダヤ人モルデカイと王妃エステルが、かつてユダヤ人に命じたように、またユダヤ人たちが、かつて自分たちとその子孫のために定めたように、プリムのこれらの日をその定めた時に守らせた。

- 詩篇 35:13 しかし、わたしは彼らが病んだとき、／荒布をまとい、**断食**してわが身を苦しめた。わたしは胸にこうべをたれて祈った、
- 詩篇 69:10 わたしが**断食**をもってわたしの魂を悩ませば、／かえってそれによってそしりをうけました。
- 詩篇 109:24 わたしのひざは**断食**によってよろめき、／わたしの肉はやせ衰え、
- イザヤ 58:3-6 彼らは言う、／『われわれが**断食**したのに、／なぜ、ごらんにならないのか。われわれがおのれを苦しめたのに、／なぜ、ごぞんじないのか』と。見よ、あなたがたの**断食**の日には、／おのが楽しみを求め、／その働き人をことごとくしえたげる。4 見よ、あなたがたの**断食**するのは、／ただ争いと、いさかいのため、／また悪のこぶしをもって人を打つためだ。きょう、あなたがたのなす**断食**は、／その声を上に聞えさせるものではない。5 このようなものは、わたしの選ぶ**断食**であろうか。人がおのれを苦しめる日であろうか。そのこうべを藁のように伏せ、／荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを**断食**となえ、／主に受けいれられる日と、となえるであろうか。6 わたしが選ぶところの**断食**は、／悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、／しえたげられる者を放ち去らせ、／すべてのくびきを折るなどの事ではないか。
- エレミヤ 14:12 彼らが**断食**しても、わたしは彼らの呼ぶのを聞かない。燔祭と素祭をささげても、わたしはそれを受けない。かえって、つるぎと、ききん、および疫病をもって、彼らを滅ぼしてしまう」。
- エレミヤ 36:6 それで、あなたが行って、**断食**の日の主の宮で、すべての民が聞いているところで、あなたがわたしの口述にしたがって、巻物に筆記した主の言葉を読みなさい。またユダの人々がその町々から来て聞いているところで、それを読みなさい。
- エレミヤ 36:9 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの五年九月、エルサレムのすべての民と、ユダの町々からエルサレムに来たすべての民とは、主の前に**断食**を行うべきことを告げ示された。
- ダニエル 9:3 それでわたしは、わが顔を主なる神に向け、**断食**をなし、荒布を着、灰をかぶって祈り、かつ願い求めた。
- ヨエル 1:14 あなたがたは**断食**を聖別し、／聖会を召集し、／長老たちを集め、国の民をことごとくあなたがたの神、主の家に集め、／主に向かって叫べ。
- ヨエル 2:12 主は言われる、／「今からでも、あなたがたは心をつくし、／**断食**と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。
- ヨエル 2:15 シオンでラッパを吹きならせ。**断食**を聖別し、聖会を召集し、
- ヨナ 3:5 そこでニネベの人々は神を信じ、**断食**をふれ、大きい者から小さい者まで荒布を着た。
- ゼカリヤ 7:3 かつ万軍の主の宮にいる祭司に問わせ、かつ預言者に問わせて言った、「わたしは今まで、多年おこなってきたように、五月に泣き悲しみ、かつ**断食**すべきでしょうか」。5 「地のすべての民、および祭司に告げて言いなさい、あなたがたが七十年の間、五月と七月とに**断食**し、かつ泣き悲しんだ時、はたして、わたしのために**断食**したか。

- ・ゼカリヤ 8:19 「万軍の主は、こう仰せられる、四月の断食と、五月の断食と、七月の断食と、十月の断食^{*6}とは、ユダの家の喜び楽しみの時となり、よき祝の時となる。ゆえにあなたがたは、真実と平和とを愛せよ。

3.4.4.3 旧約（身を悩ます）

- ・レビ 16:29 これはあなたがたが永久に守るべき定めである。すなわち、七月になって、その月の十日に、あなたがたは身を悩まし、何の仕事もしてはならない。この国に生れた者も、あなたがたのうちに宿っている寄留者も、そうしなければならない。
- ・レビ 16:31 これはあなたがたの全き休みの安息日であって、あなたがたは身を悩まさなければならない。これは永久に守るべき定めである。
- ・レビ 23:27 「特にその七月の十日は贖罪の日である。あなたがたは聖会を開き、身を悩まし、主に火祭をささげなければならない。
- ・レビ 23:29 すべてその日に身を悩まない者は、民のうちから断たれるであろう。
- ・レビ 23:32 これはあなたがたの全き休みの安息日である。あなたがたは身を悩まさなければならない。またその月の九日の夕には、その夕から次の夕まで安息を守らなければならない」。
- ・民数記 29:7 またその七月の十日に聖会を開き、かつあなたがたの身を悩まさなければならない。なんの仕事もしてはならない。
- ・民数記 30:13 すべての誓願およびすべてその身を悩ます物断ちの誓約は、夫がそれを守らせることができ、または夫がそれをやめさせることができる。
- ・ダニエル 10:12 すると彼はわたしに言った、「ダニエルよ、恐れるに及ばない。あなたが悟ろうと心をこめ、あなたの神の前に身を悩ましたその初めの日から、あなたの言葉は、すでに聞かれたので、わたしは、あなたの言葉のゆえにきたのです。

^{*6} ChatGPT. はい、ゼカリヤ書 8:19 の「四月の断食と、五月の断食と、七月の断食と、十月の断食」は、それぞれユダヤ教の年中行事です。

- － 四月の断食は、アッシリア王セナケリブがエルサレムを包囲したとき、ユダヤ人が断食した日です。
- － 五月の断食は、バビロニア人によってエルサレムの神殿が破壊された日です。
- － 七月の断食は、バビロニア人がユダヤ人をバビロンに連れ去った日です。
- － 十月の断食は、アッシリア王セナケリブがエルサレムを包囲したときに、ユダヤ人が神に助けを求めた日です。
これらの断食は、ユダヤ人が神の恵みと憐れみを覚えるために行われました。ゼカリヤ書 8:19 では、これらの断食が喜びと楽しみの日に変わると預言されています。これは、神の恵みによってユダヤ人が救われ、エルサレムが再建されることを意味しています。
- － Bard. ゼカリヤ書 8:19 の「四月の断食と、五月の断食と、七月の断食と、十月の断食」は、それぞれユダヤ教の年中行事です。
- － 四月の断食は、アッシリア王セナケリブがエルサレムを包囲したとき、ユダヤ人が断食した日です。
- － 五月の断食は、バビロニア人によってエルサレムの神殿が破壊された日です。
- － 七月の断食は、バビロニア人がユダヤ人をバビロンに連れ去った日です。
- － 十月の断食は、アッシリア王セナケリブがエルサレムを包囲したときに、ユダヤ人が神に助けを求めた日です。
これらの断食は、ユダヤ人が神の恵みと憐れみを覚えるために行われました。ゼカリヤ書 8:19 では、これらの断食が喜びと楽しみの日に変わると預言されています。これは、神の恵みによってユダヤ人が救われ、エルサレムが再建されることを意味しています。

3.4.5 安息日

Q. ユダヤ教の安息日について教えてください。どのように定められ、どのような意味を持ち、どのように過ごすことが推奨され、どのようなことをしてはいけないと考えられているのでしょうか。

GPT4.

ユダヤ教の安息日（シャバット、Shabbat）は、週の終わりを祝い、神への感謝を捧げるための休息の日です。シャバットは、ユダヤ暦の週（日曜日から土曜日まで）の最後の日、すなわち金曜日の夕方から土曜日の夕方までと定められています。

シャバットの意味は、創世記に記されている神が世界を創造した後に休息したという話に基づいています。これは、ユダヤ教徒が世界創造の物語を思い起こし、神の創造の偉業を称える機会となります。また、シャバットは、家族や友人との絆を深める時間でもあります。

シャバットを過ごすために推奨されることは、以下のようなものです。

1. **礼拝**：シャバットは、ユダヤ教徒が集まり、神への感謝を表明する礼拝を行う日です。
2. **家族と過ごす時間**：シャバットは家族と一緒に過ごす時間を大切にすることが推奨されています。家族はシャバットの食事を共にし、祈りや讃美歌を歌います。
3. **食事**：シャバットの夕食は特別なもので、通常はキャンドルに火を灯し、ハラ（丸いパン）やワインを用意します。

シャバットでは、以下のようなことを避けることが推奨されています。

1. **労働**：シャバットは、労働から解放される日です。ユダヤ教徒は、労働や商業活動を休み、休息を取ることが求められます。
2. **家事**：シャバットでは、料理や洗濯などの家事も避けることが推奨されています。金曜日の日中に家事を終え、シャバットを迎える準備をします。
3. **電気製品の使用**：シャバットでは、電気製品の使用が制限されることがあります。携帯電話やコンピューターの使用は避けることが推奨されています。

ただし、シャバットの過ごし方や制限事項は、ユダヤ教徒によって異なる解釈が存在し、実践の程度も異なります。一部のユダヤ教徒は厳格にこれらの規則を守る一方で、他のユダヤ教徒はより柔軟な解釈を採用しています。重要なのは、シャバットがユダヤ教徒にとって心の休息と精神的なリフレッシュの機会であることを理解することです。

(2023.7.7)

3.4.5.1 安息日に関する聖書箇所

3.4.5.2 新約

- 会堂で教える
 - ルカ 4:16 それからお育ちになったナザレに行き、**安息日**にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。
 - マルコ 1:21 それから、彼らはカペナウムに行った。そして**安息日**にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた。ルカ 4:31 それから、イエスはガリラヤの町カペナウムに下って行かれた。そして**安息日**になると、人々をお教えになったが、
 - マルコ 6:2 そして、**安息日**になったので、会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。」
- 麦の穂を摘むマルコ 2:23-28、マタイ 12:1-8、ルカ 6:1-5: [参照](#)
- 手の萎えた人を癒すマルコ 3:1-6、マタイ 12:9-14、ルカ 6:6-11: [参照](#)
- 安息日に、腰の曲がった女を癒すルカ 13:10-17
- 安息日に水腫の人を癒すルカ 14:1-6
- ベトザタの池で病人を癒すヨハネ 5:1-18
- 生まれつき目の見えない人を癒すヨハネ 9:1-41 (14,16)
- イエスの十字架の前後
 - ヨハネ 19:31 さてユダヤ人たちは、その日が準備の日であったので、**安息日**に死体を十字架の上に残しておくまいと、(特にその**安息日**は大事な日であったから)、ピラトに願って、足を折った上で、死体を取りおろすことにした。
 - マルコ 15:42 さて、すでに夕がたになったが、その日は準備の日、すなわち**安息日**の前日であったので、ルカ 23:54 この日は準備の日であって、**安息日**が始まりかけていた。
 - マルコ 16:1 さて、**安息日**が終ったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。ルカ 23:56 そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って**安息日**を休んだ。
 - マタイ 28:1 さて、**安息日**が終って、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。
- その他

- － マタイ 24:20 あなたがたの逃げるのが、冬または**安息日**にならないように祈れ。
- － ヨハネ 7:22-23 モーセはあなたがたに割礼を命じたので、（これは、実は、モーセから始まったのではなく、先祖たちから始まったものである）あなたがたは**安息日**にも人に割礼を施している。23 もし、モーセの律法が破られないように、**安息日**であっても割礼を受けるのなら、**安息日**に人の全身を丈夫にしてやったからといって、どうして、そんなにおこるのか。

- 使徒時代

- － 使徒 1:12 それから彼らは、オリブという山を下ってエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、**安息日**に許されている距離のところにある。
- － ピシディア州のアンティオキアにて安息日に教える使徒 13:13-51
- － 使徒 15:21 古い時代から、どの町にもモーセの律法を宣べ伝える者がいて、**安息日**ごとにそれを諸会堂で朗読するならわしであるから」。
- － 使徒 16:13 ある**安息日**に、わたしたちは町の門を出て、祈り場があると思って、川のほとりに行った。そして、そこにすわり、集まってきた婦人たちに話をした。
- － 使徒 17:2 パウロは例によって、その会堂には行って行って、三つの**安息日**にわたり、聖書に基いて彼らと論じ、
- － 使徒 18:4 パウロは**安息日**ごとに会堂で論じては、ユダヤ人やギリシヤ人の説得に努めた。
- － コロサイ 2:16 だから、あなたがたは、食物と飲み物とにつき、あるいは祭や新月や**安息日**などについて、だれにも批評されてはならない。
- － ヘブル 4:9 こういうわけで、**安息日**の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。

■3.4.5.2.1 旧約

- 安息日の由来（マナ）

- － 出エジプト 16:4,5 そのとき主はモーセに言われた、「見よ、わたしはあなたがたのために、天からパンを降らせよう。民は出て日々の分を日ごとに集めなければならない。こうして彼らがわたしの律法に従うかどうかを試みよう。六日目には、彼らを取り入れたものを調理すると、それは日ごとに集めるものの二倍あるであろう」。
- － 出エジプト 16:22-30 六日目には、彼らは二倍のパン、すなわちひとりに二オメルを集めた。そこで、会衆の長たちは皆きて、モーセに告げたが、23 モーセは彼らに言った、「主の語られたのはこうである、『あすは主の聖安息日で休みである。きょう、焼こうとするものを焼き、煮ようとするものを煮なさい。残ったものはみな朝までたくわえて保存しなさい』と」。24 彼らはモーセの命じたように、そ

れを朝まで保存したが、臭くならず、また虫もつかなかった。25 モーセは言った、「きょう、それを食べなさい。きょうは主の安息日であるから、きょうは野でそれを獲られないであろう。26 六日の間はそれを集めなければならない。七日目は安息日であるから、その日には無いであろう」。27 ところが民のうちには、七日目に出て集めようとした者があったが、獲られなかった。28 そこで主はモーセに言われた、「あなたがたは、いつまでわたしの戒めと、律法とを守ることを拒むのか。29 見よ、主はあなたがたに安息日を与えられた。ゆえに六日目には、ふつか分のパンをあなたがたに賜わるのである。おのおのその所にとどまり、七日目にはその所から出てはならない」。30 こうして民は七日目に休んだ。

• 十戒

- 出エジプト 20:8-11 安息日を覚えて、これを聖とせよ。9 六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。10 七日目はあなたの神、主の安息日であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。11 主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。
- 申命記 5:12-15 安息日を守ってこれを聖とし、あなたの神、主があなたに命じられたようにせよ。13 六日のあいだ働いて、あなたのすべてのわざをしなければならない。14 七日目はあなたの神、主の安息日であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたも、あなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、牛、ろば、もろもろの家畜も、あなたの門のうちにいる他国の人も同じである。こうしてあなたのしもべ、はしためを、あなたと同じように休ませなければならない。15 あなたはかつてエジプトの地で奴隷であったが、あなたの神、主が強い手と、伸ばした腕とをもって、そこからあなたを導き出されたことを覚えなければならない。それゆえ、あなたの神、主は安息日を守ることを命じられるのである。
- 出エジプト 31:12-18 主はまたモーセに言われた、13 「あなたはイスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである。14 それゆえ、あなたがたは安息日を守らなければならない。これはあなたがたに聖なる日である。すべてこれを汚す者は必ず殺され、すべてこの日に仕事をする者は、民のうちから断たれるであろう。15 六日のあいだは仕事をしなさい。七日目は全き休みの安息日で、主のために聖である。すべて安息日に仕事をする者は必ず殺されるであろう。16 ゆえに、イスラエルの人々は安息日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らなければならない。17 これは永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである。それは主が六日のあいだに天地を造り、七日目に休み、かつ、いこわれたからである』。18 主はシナイ山でモーセに語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち神が指をもって書かれた石の板をモーセに授けられた。
- 出エジプト 35:1-3 モーセはイスラエルの人々の全会衆を集めて言った、「これは主が行えと命じられた言葉である。2 六日の間は仕事をしなさい。七日目はあなたがたの聖日で、主の全き休みの安息日

であるから、この日に仕事をする者はだれでも殺されなければならない。3 安息日にはあなたがたのすまいのどこでも火をたいてはならない」。

ー レビ記 19:3 あなたがたは、おのおのその母とその父とをおそれなければならない。またわたしの**安息日**を守らなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。

- レビ記 16:29-31 これはあなたがたが永久に守るべき定めである。すなわち、七月になって、その月の十日に、あなたがたは身を悩まし、何の仕事もしてはならない。この国に生れた者も、あなたがたのうちに宿っている寄留者も、そうしなければならない。この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである。これはあなたがたの全き休みの**安息日**であって、あなたがたは身を悩まさなければならない。これは永久に守るべき定めである。贖罪の日レビ記 23:27-32,
- レビ記 23:38-39 このほかに主の安息日があり、またほかに、あなたがたのささげ物があり、またほかに、あなたがたのもろもろの誓願の供え物があり、またそのほかに、あなたがたのもろもろの自発の供え物がある。これらは皆あなたがたが主にささげるものである。あなたがたが、地の産物を集め終ったときは、七月の十五日から七日のあいだ、主の祭を守らなければならない。すなわち、初めの日にも安息をし、八日目にも安息をしなければならない。
- レビ記 19:30 あなたがたはわたしの**安息日**を守り、わたしの聖所を敬わなければならない。わたしは主である。
- レビ記 23:3 六日の間は仕事をしなければならない。第七日は全き休みの**安息日**であり、聖会である。どのような仕事もしてはならない。これはあなたがたのすべてのすまいにおいて守るべき主の**安息日**である。
- レビ記 23:11 彼はあなたがたの受け入れられるように、その束を主の前に揺り動かすであろう。すなわち、祭司は安息日の翌日に、これを揺り動かすであろう。
- レビ記 23:15 また安息日の翌日、すなわち、揺祭の束をささげた日から満七週を数えなければならない。16 すなわち、第七の安息日の翌日までに、五十日を数えて、新穀の素祭を主にささげなければならない。
- レビ記 24:8 **安息日**ごとに絶えず、これを主の前に整えなければならない。これはイスラエルの人々のささぐべきものであって、永遠の契約である。
- レビ記 26:2 あなたがたはわたしの**安息日**を守り、またわたしの聖所を敬わなければならない。わたしは主である。
- 民数記 15:32 イスラエルの人々が荒野におるとき、**安息日**にひとりの人が、たきぎを集めるのを見た。
- 民数記 28:9, 10 また**安息日**には一歳の雄の全き小羊二頭と、麦粉一エパの十分の二に油を混ぜた素祭と、その灌祭とをささげなければならない。10 これは**安息日**ごとの燔祭であって、常燔祭とその灌祭とに加えられるべきものである。
- 列王記下 4:23, 11:5, 7, 9, 16:18

- 歴代誌上 9:32, 23:31, 歴代誌下 2:4, 8:13, 23:4, 8, 31:3
- ネヘミヤ 9:14, 10:31, 33, 13:15, 16, 17, 18, 19, 21, 22
- 詩篇 92:0 **安息日**の歌、さんび
- イザヤ 1:13 あなたがたは、もはや、／むなしい供え物を携えてきてはならない。薫香は、わたしの忌みきらうものだ。新月、**安息日**、また会衆を呼び集めること——／わたしは不義と聖会とに耐えられない。
- イザヤ 56:1-6 主はこう言われる、／「あなたがたは公平を守って正義を行え。わが救の来るのは近く、／わが助けのあらわれるのが近いからだ。2 **安息日**を守って、これを汚さず、／その手をおさえて、悪しき事をせず、／このように行う人、／これを堅く守る人の子はさいわいである」。3 主に連なっている異邦人は言ってはならない、／「主は必ずわたしをその民から分かつた」と。宦官もまた言ってはならない、／「見よ、わたしは枯れ木だ」と。4 主はこう言われる、／「わが**安息日**を守り、わが喜ぶことを選んで、／わが契約を堅く守る宦官には、5 わが家のうちで、わが垣のうちに、／むすこにも娘にもまさる記念のしるしと名を与え、／絶えることの無い、とこしえの名を与える。6 また主に連なり、主に仕え、／主の名を愛し、そのしもべとなり、／すべて**安息日**を守って、これを汚さず、／わが契約を堅く守る異邦人は——
- イザヤ 58:13 もし**安息日**にあなたの足をとどめ、／わが聖日にあなたの楽しみをなさず、／**安息日**を喜びの日と呼び、／主の聖日を尊ぶべき日となえ、／これを尊んで、おのが道を行わず、／おのが楽しみを求めず、／むなしい言葉を語らないならば、
- イザヤ 66:23 「新月ごとに、**安息日**ごとに、／すべての人はわが前に来て礼拝する」と／主は言われる。
- エレミヤ 17:21-27 主はこう言われる、命が惜しいならば気をつけるがよい。**安息日**に荷をたずさえ、またはそれを持ってエルサレムの門にはいってはならない。22 また**安息日**にあなたがたの家から荷を運び出してはならない。なんのわざをもしてはならない。わたしがあなたがたの先祖に命じたように**安息日**を聖別して守りなさい。23 しかし彼らは従わず耳を傾けず、聞くことも、戒めを受けることも強情に拒んだ。24 主は言われる、もしあなたがたがわたしに聞き従い、**安息日**に荷をたずさえてこの町の門にはいらず、**安息日**を聖別して、なんのわざもしないならば、25 ダビデの位に座する王たち、つかさたち、ユダの人々、エルサレムに住む者は、車と馬に乗ってこの町の門からはいることができる。そしてこの町には長く人が住むようになる。26 また人々はユダの町々やエルサレムの周囲、ベニヤミンの地、平地と山地およびネゲブから来て燔祭、犠牲、素祭、乳香、感謝祭をたずさえて主の家にはいる。27 しかし、もしあなたがたがわたしに聞き従わないで、**安息日**を聖別して守ることをせず、**安息日**に荷をたずさえてエルサレムの門にはいるならば、わたしは火をその門の中に燃やして、エルサレムのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす。その火は消えることがない』。
- 哀歌 2:6 主は園の小屋のようにおのれの幕屋を倒し、／その祭の場所をこわされた。主は祭と**安息日**とをシオンに忘れさせ、／激しい怒りによって、王と祭司とを捨てられた。
- エゼキエル 20:12-17 わたしはまた彼らに**安息日**を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである。13 しかしイスラエルの家は荒野で

わたしにそむき、わたしの定めに歩まず、人がそれを行うことによって、生きることのできるわたしのおきてを捨て、大いにわたしの**安息日**を汚した。そこでわたしは荒野で、わたしの憤りを彼らの上に注ぎ、これを滅ぼそうと思ったが、14 わたしはわたしの名のために行動した。それはわたしが彼らを導き出して見せた異邦人の前に、わたしの名が汚されないためである。15 ただし、わたしは荒野で彼らに誓い、わたしが彼らに与えた乳と蜜との流れる地、全地の最もすばらしい地に、彼らを導かないと言った。16 これは彼らがその心に偶像を慕って、わがおきてを捨て、わが定めに歩まず、わが**安息日**を汚したからである。17 けれどもわたしは彼らを惜しみ見て、彼らを滅ぼさず、荒野で彼らを絶やさなかった。18 わたしはまた荒野で彼らの子どもたちに言った、あなたがたの先祖の定めに歩んではならない。そのおきてを守ってはならない。その偶像をもって、あなたがたの身を汚してはならない。19 主なるわたしはあなたがたの神である。わが定めに歩み、わがおきてを守ってこれを行い、20 わが**安息日**を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。21 しかしその子どもたちはわたしにそむき、わが定めに歩まず、人がこれを行うことによって、生きることのできるわたしのおきてを守り行わず、わが**安息日**を汚した。そこでわたしはわが憤りを彼らの上に注ぎ、荒野で彼らに対し、わが怒りを漏らそうと思った。22 しかしわたしはわが手を翻して、わが名のために行動した。それはわたしが彼らを導き出して見せた異邦人の前に、わたしの名が汚されないためである。23 ただしわたしは荒野で彼らに誓い、わたしは異邦人の間に彼らを散らし、国々の中に彼らをふりまくと言った。24 これは彼らがわがおきてを行わず、わが定めを捨て、わが**安息日**を汚し、彼らの目にその先祖の偶像を慕ったからである。

- エゼキエル 22: 8, 26, 23:38, 44:24, 45:17, 46:1, 3, 4, 12
- ホセア 2:11 わたしは彼女のすべての楽しみ、／すなわち祝、新月、**安息日**、／すべての祭をやめさせる。
- アモス 8:5 あなたがたは言う、／「新月はいつ過ぎ去るだろう、／そうしたら、われわれは穀物を売ろう。**安息日**はいつ過ぎ去るだろう、／そうしたら、われわれは麦を売り出そう。われわれはエパを小さくし、シケルを大きくし、／偽りのはかりをもって欺き、

3.4.6 舟での移動に関する福音書の箇所

- マルコ 3:9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。
- マルコ 4:1 イエスはまたも、海べで教えはじめられた。おびただしい群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわったまま、海上におられ、群衆はみな海に沿って陸地にいた。(マタイ 13:2)
- マルコ 4:36,37 そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。37 すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。(マタイ 8:23,24、ルカ 8:22)
- マルコ 5:2 それから、イエスが舟からあがられるとすぐに、けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、

イエスに出会った。

- マルコ 5:18 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供をしたいと願い出た。(ルカ 8:37)
- マルコ 5:28 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。
- マルコ 6:32, 33, 34 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。(マタイ 14:13,14)
- マルコ 6:45-56 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。47 夕方になったとき、舟は海のまん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。48 ところが逆風が吹いていたために、弟子たちがこぎ悩んでいるのをごらんになって、夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らに近づき、そのそばを通り過ぎようとした。49 彼らはイエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。50 みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われた。51 そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。52 先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなっていたからである。53 彼らは海を渡り、ゲネサレの地に着いて舟をつないだ。54 そして舟からあがると、人々はすぐイエスと知って、55 その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた。56 そして、村でも町でも部落でも、イエスがいって行かれる所では、病人たちをその広場におき、せめてその上着のふさにでも、さわらせてやっていたきたいと、お願いした。そしてさわった者は皆いやされた。(マタイ 14:22-33)
 - ー ヨハネ 6:16-20 夕方になったとき、弟子たちは海べに下り、17 舟に乗って海を渡り、向こう岸のカペナウムに行きかけた。すでに暗くなっていたのに、イエスはまだ彼らのところにおいでにならなかった。18 その上、強い風が吹いてきて、海は荒れ出した。19 四、五十丁こぎ出したとき、イエスが海の上を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、彼らは恐れた。20 すると、イエスは彼らに言われた、「わたしだ、恐れることはない」。
- マルコ 8:10 すぐ弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの地方へ行かれた。11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。13 そして、イエスは彼らをあとに残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。14 弟子たちはパンを持って来るのを忘れていたので、舟の中にはパン一つしか持ち合わせがなかった。(マタイ 15:39)
- マタイ 9:1 さて、イエスは舟に乗って海を渡り、自分の町に帰られた。

3.4.7 血について

3.4.7.1 血といのちの結びつき

Q. 聖書は、どのような箇所、血を命の源と表現していますか。なぜ、そのように考えたのでしょうか。

ChatGPT.

聖書では、血が命の源として表現される箇所がいくつか存在します。これは、古代のユダヤ文化や宗教的な背景に基づいています。

1. 創世記 9:4: 「ただし、肉にその命、すなわちその血を含んではならない。」この箇所では、神がノアに対して命令を出し、動物の血を食べてはならないと宣言しています。血は命そのものであり、神聖なものとされています。
2. レビ記 17:11: 「生ける者の命はその血にある。わたしはそれをあなたがたに与えた。あなたがたの罪を贖うために、その命のためにその血を祭壇に供える。それはいのちそのものである。」この箇所では、血が命の源であり、罪の赦しのために血を捧げることが重要であると述べられています。
3. レビ記 17:14: 「生ける者のすべての肉には、その命、すなわちその血がその中にある。だから、わたしはイスラエルの人々に言う、あなたがたは、どんな肉でも、その血を食べてはならない。」ここでも、血が命そのものであり、食べてはならないと宣言されています。

これらの箇所では、血が命そのものであるという宗教的な信念が表現されています。古代のユダヤ人は、血を神聖なものと考え、命の象徴として尊重しました。また、血を祭壇に捧げることによって罪の赦しを求める儀式が行われました。

血が命の源とされた理由は、おそらく生命が血によって血が命の源として表現される箇所として、以下のような記述が聖書に存在します。

1. レビ記 17:11 - 「生ける者の命は、その血にある。わたしはそれをあなたがたに与えた。あなたがたの罪を贖うために、その血を祭壇に供える。それはいのちそのものである。」
この箇所では、血が命そのものであり、罪の赦しのために血を捧げることが重要であると述べられています。
2. ヘブル人への手紙 9:22 - 「事の法によれば、ほとんどすべてのものが血によってきよめられる。罪のゆえに、血を流すことなくは、ゆるしが得られないのである。」
ここでは、罪の赦しやきよめには血が必要であると説明されています。
3. ヨハネによる福音書 6:53 - 「イエスは彼らに言われた。「よくよく言うておく。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲まなければ、あなたがたには命がない。」」
この箇所では、イエスが自身の肉と血を食べることの重要性を説いています。

これらの記述により、血が命の源として位置づけられていることが分かります。血は生命の象徴であり、罪の赦しや救済のために血が必要であるとされていました。

この考え方の根源は、ユダヤ教の宗教的な背景に由来しています。古代のユダヤ人は、血を神聖なものとし、生命の象徴として重要視していました。また、血を通じて罪が贖われるという信念がありました。このような観念は、聖書の教えや祭儀に反映されています。

(2023.10.19)

3.4.7.2 血に関わる聖書箇所

- ・創世記 9:4,5 しかし肉を、その命である血のままで、食べてはならない。5 あなたがたの命の血を流すものには、わたしは必ず報復するであろう。いかなる獣にも報復する。兄弟である人にも、わたしは人の命のために、報復するであろう。
- ・レビ記 17:11 肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。
- ・レビ記 17:14 すべて肉の命は、その血と一つだからである。それで、わたしはイスラエルの人々に言った。あなたがたは、どんな肉の血も食べてはならない。すべて肉の命はその血だからである。すべて血を食べる者は断たれるであろう。
- ・申命記 12:23 ただ堅く慎んで、その血を食べないようにしなければならない。血は命だからである。その命を肉と一緒に食べてはならない。
- ・レビ記 15:19-30 また女に流出があって、その身の流出がもし血であるならば、その女は七日のあいだ不浄である。すべてその女に触れる者は夕まで汚れるであろう。20 その不浄の間に、その女の寝た物はすべて汚れる。またその女のすわった物も、すべて汚れるであろう。21 すべてその女の床に触れる者は、その衣服を洗い、水に身をすすがなければならない。彼は夕まで汚れるであろう。22 すべてその女のすわった物に触れる者は皆その衣服を洗い、水に身をすすがなければならない。彼は夕まで汚れるであろう。23 またその女が床の上、またはすわる物の上にいる時、それに触れるならば、その人は夕まで汚れるであろう。24 男がもし、その女と寝て、その不浄を身にうけるならば、彼は七日のあいだ汚れるであろう。また彼の寝た床はすべて汚れるであろう。25 女にもし、その不浄の時のほかに、多くの日にわたって血の流出があるか、あるいはその不浄の時を越して流出があれば、その汚れの流出の日の間は、すべてその不浄の時と同じように、その女は汚れた者である。26 その流出の日の間に、その女の寝た床は、すべてその女の不浄の時の床と同じようになる。すべてその女のすわった物は、不浄の汚れのように汚れるであろう。27 すべてこれらの物に触れる人は汚れる。その衣服を洗い、水に身をすすがなければならない。彼は夕まで汚れるであろう。28 しかし、その女の流出がやんで、清くなるならば、自分のために、なお七日を数えなければならない。そして後、清くなるであろう。29 その女は八日目に山ばと二羽、または家ばとのひな二羽を自分のために取り、それを会見の幕屋の入口における祭司のもとに携えて行かなければならない。30 祭司はその一つを罪祭とし、他の一つを燔祭としてささげなければならない。こうして祭司はそ

の女のため、その汚れの流出のために主の前に、あがないをするであろう。

3.4.8 パン種

Q. 聖書にはパン種が出てきますが（例マルコ 8:14-21）パン種とはどのようなもので、当時のユダヤ人は、パン種についてどう理解していたのでしょうか。

Google Gemini. 聖書におけるパン種

聖書に登場するパン種は、現代で言うイースト菌のような働きをするもので、パン生地を発酵させるために用いられました。当時のユダヤ人は、パン種を以下のように理解していました。

1. パン作りの必須アイテム

パン種は、パンをふっくらと膨らませ、美味しくするために必要不可欠なものでした。パン種なしでパンを焼くことは難しく、味も劣ってしまいます。そのため、パン種は日常生活に欠かせない存在でした。

2. 生命の象徴

発酵は、生命の力と結びつけられて考えられていました。パン種が生地を膨らませるように、生命は様々なものを成長させると考えられていたのです。そのため、パン種は生命の象徴として、繁栄や豊穡を願う意味合いも持っていました。

3. 罪の象徴

一方で、パン種は腐敗や罪の象徴として使われることもありました。発酵は、腐敗と紙一重の現象であると考えられていたためです。そのため、罪が人の心の中で徐々に広がっていく様子を、パン種に例えることがありました。

4. イエス様の教えの象徴

イエス様は、パン種を様々なたとえ話の中で用いました。例えば、マルコ 8:14-21 では、パリサイ人の教えを「パン種」に例えて、弟子たちに注意しています。これは、パリサイ人の教えが偽善的で、人々を腐敗させてしまうという警告です。

3.4.8.1 ユダヤ人のパン種に対する考え方

当時のユダヤ人は、パン種に対して以下のような考え方を持ち合わせていました。

- パン種は神からの賜物であり、感謝して使うべきもの
- パン種は正しく使わなければ、罪に繋がる
- パン種は生命の象徴であり、繁栄や豊穡をもたらす

これらの考え方は、聖書におけるパン種の様々な意味合いと密接に関係しています。

3.4.8.2 パン種に関する聖書の記述

聖書には、パン種に関する記述がいくつかあります。以下に、代表的な例をいくつか紹介します。

- 出エジプト記 12:15-20：過越祭の期間中は、パン種を含んだパンを食べることを禁じられていた
- レビ記 2:11：神への献げ物には、パン種を含めてはいけない
- マタイ 13:33：天国は、少量のパン種が全体を膨らませるようなもの
- ルカ 13:20-21：天国は、女の人が小麦粉に混ぜたパン種のようなもの

これらの記述は、パン種が古代ユダヤ社会において重要な役割を果たしていたこと、そして、聖書の中で様々な意味合いを持っていたことを示しています。

3.4.8.3 まとめ

聖書におけるパン種は、単なるパン作りの材料ではなく、様々な意味合いを持つ象徴的な存在でした。当時のユダヤ人は、パン種を生命の力、罪、神の賜物など、様々な側面から捉えていました。これらの理解は、聖書におけるパン種の解釈を深める上で重要な役割を果たします。

3.4.9 たとえと比喻

Q. たとえ (parable) と比喻 (metaphor) の違いを詳しく説明してください。

GPT4.

たとえ (parable) と比喻 (metaphor) は、両方とも物語やアイデアを表現するための文学的手段ですが、その使い方と目的は異なります。

たとえ (Parable)

たとえは、一種の象徴的な物語で、道徳的または宗教的な教訓を教えるために使用されます。たとえは一般的に比較的短く、具体的なキャラクターや出来事を含む完全なストーリーであることが多いです。

たとえの目的は、抽象的な考え方や複雑な道徳的問題を、より具体的で理解しやすい形で表現することです。たとえば、新約聖書の中には、イエスが倫理的な教訓を伝えるために使ったたとえが多数含まれています。

比喻 (Metaphor)

一方、比喻は、あるものを直接的に別のものに比較するための言語的な手段です。比喻は、文字通りの意味ではなく、比較される二つのものの間に共通点を見つけることによって、新たな理解や洞察を生み出すことを目指し

ています。

比喩は、一般的には単一のフレーズや文の中で使用され、その効果は即座に表現されます。たとえば、「彼の心は石のようだ」という表現は、その人が感情を表現しないことを示しています。

まとめ

したがって、たとえと比喩はどちらも異なるものを比較するために使われますが、その形式と目的は異なります。たとえば具体的なストーリーを通じて教訓を教えるのに対し、比喩はあるものを別のものに直接的に比較することで新たな洞察を提供します。

(2023.8.19)

3.4.10 宣教・伝道

Q. Propaganda の語源と用法の歴史を教えてください。

ChatGPT

「Propaganda」は、ラテン語の「propagare（拡散する）」から派生した言葉で、元来はキリスト教の信仰を広めるために用いられた言葉です。17 世紀には、教皇庁が設立した「Propaganda Fide（信仰の拡散）」という機関名が一般的に使われるようになりました。

19 世紀に入ると、政治的・社会的な目的で情報を広めることを指す言葉としても用いられるようになりました。特に第一次世界大戦以降、政治的宣伝・プロパガンダが広く行われるようになり、その中で「Propaganda」は広く使われるようになりました。

プロパガンダは、ある特定の思想や立場を広めるために、不正確な情報や偏った情報を意図的に広めることがあります。そのため、プロパガンダはしばしば悪い意味で使われることがあります。しかし、プロパガンダには中立的なものもあり、政府や企業などが自社のサービスや製品を宣伝するために広告を出すこともプロパガンダの一種と言えます。

現代では、プロパガンダは主に政治的な宣伝・情報操作を指す言葉として使われることが一般的です。しかし、一方で、広告やマーケティングなどの分野でも、特定の製品やサービスを宣伝するためにプロパガンダ的な手法が使われることがあります。

(2023.6.18)

3.4.11 奇跡などについて

Q. 新約聖書には、イエスが悪霊を追い出した記事がいくつもありますが、これは、どのようなものの表現と考えられているのでしょうか。

GPT4. 新約聖書には、イエスが悪霊や悪魔を追い出すという記述がいくつかあります。これらの記述は、悪霊や悪魔が人々に悪影響を与え、病気や精神的苦痛を引き起こすとされていました。イエスが悪霊を追い出すことで、彼が神の力を持っていることを示し、また、神の慈しみと回復の力を示す目的があったとされています。

これらの記述がどのようなものの表現と考えられるかについては、解釈が分かれるところです。一部の解釈では、悪霊や悪魔は現実の存在として認識されており、イエスが実際に悪霊を追い出していたと考えられます。この場合、悪霊追い出しは、イエスの神の力を持つ救い主としての役割を強調していると言えます。

一方、現代の解釈では、悪霊追い出しの記述は、イエスが当時の文化や宗教的な概念に基づいて、人々の病気や精神的苦痛を回復させたことを象徴的に表現していると考えられます。この解釈によれば、悪霊追い出しは、現代の医学や心理学で説明される病気や精神的苦痛と関連している可能性があります。イエスが悪霊を追い出すことで、彼が人々の苦しみから解放し、神の愛と回復の力をもたらしていたことを示していると言えるでしょう。

どの解釈が正しいかは、個々人の信仰や認識によって異なりますが、重要なのは、イエスが人々の苦しみを取り除き、神の愛と回復の力を示すことで、人々に希望を与えたというメッセージです。

3.4.12 病気

3.4.12.1 病気と罪の関係

Q. マルコ 2 章 7 節で神だけが罪をゆるせるとありますが、聖書からの引用であれば教えてください。

ChatGPT: マルコ 2:7 節の箇所は、新約聖書の中での記述であるため、古代のヘブライ語やギリシャ語で書かれた旧約聖書の引用ではありません。しかし、同様のテーマが旧約聖書でも扱われており、神が罪をゆるすことについての教えがいくつかあります。

たとえば、詩篇 103:2-3^{*7}では、「わが魂よ、主をほめたたえよ。わが内なる者よ、主の聖なる名をほめたたえよ。わが魂よ、主をほめたたえよ。その恵みを忘れるな」と語られています。また、詩篇 130:3-4^{*8}では、「主よ、あなたが罪をおしとやかにおしとやかにお赦しになることを、だれが耳にしたことがありましょう。しかし、あなたはゆえなく恐れられます」という言葉があります。

さらに、イザヤ書 43:25^{*9}では、「わたしは、自分のために自分の名のために、あなたのとがを消し去り、あなたの罪を覚えなさい」という神の言葉が語られています。

以上のように、聖書には神が罪をゆるすことについての教えが数多く記されています。

(2023.6.22)

^{*7} 口語訳：わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめぐみを心にとめよ。主はあなたのすべての不義をゆるし、／あなたのすべての病をいやし、

^{*8} 口語訳：主よ、あなたがもし、もろもろの不義に／目をとめられるならば、／主よ、だれが立つことができましょうか。しかしあなたには、ゆるしがあるので、／人に恐れかしこまれるでしょう。

^{*9} 口語訳：わたしこそ、わたし自身のために／あなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない。

Q. イエスの時代の律法学者や、パリサイ人は、病気が罪の結果だと考えていたのでしょうか。タルムードや、ミシュナーには、記述がありますか。

ChatGPT

イエスの時代のユダヤ教徒の中には、病気が罪の結果であると考えの人々がいました。これは一般的な見解ではありませんでしたが、一部の律法学者やパリサイ人がこのように考えていたとされています。

タルムードやミシュナーには、病気が罪の結果であるという考え方が記述されている箇所がいくつかあります。たとえば、ミシュナーの「アボット」には、「苦しみは罪の結果である」という記述があります。また、タルムードには、ある人物が病気にかかった理由を問われた際に、「父親が銀貨を偽造したため、神が彼の息子を罰しているのだろう」と答えたという逸話があります。

しかし、ユダヤ教には、病気が罪の結果であるという考え方に反対する立場も存在しました。たとえば、ユダヤ教の聖書である旧約聖書には、病気が罰であるとは明確に示されておらず、また、イエスも病気が罪の結果であるという考え方に反対していました。

したがって、病気が罪の結果であるという考え方がユダヤ教全体で一般的であったわけではありませんが、一部の律法学者やパリサイ人がこのように考えていたことが記録されているとされています。

(2023.6.22)

3.4.13 祈りについて

3.4.13.1 イエスの祈りの記録

- マルコ 1:35 朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。
- マルコ 6:46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。ルカ 5:16 しかしイエスは、寂しい所に退いて祈っておられた。
- ルカ 3:21-22 さて、民衆がみなバプテスマを受けたとき、イエスもバプテスマを受けて祈っておられると、天が開けて、聖霊がはどのような姿をとってイエスの上に下り、そして天から声がした、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。
- マタイ 14:23 そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。
- ヨハネ 6:15 イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。
- ルカ 6:12 このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。

- ルカ 9:18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが近くにいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしをだれと言っているか」。
- ルカ 9:28-29 これらのことを話された後、八日ほどたってから、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために山に登られた。29 祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。

3.4.13.2 イエスの祈り

- マルコ 14:32-42 さて、一同はゲツセマネという所に来た。そしてイエスは弟子たちに言われた、「わたしが祈っている間、ここにすわっていなさい」。33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。39 また離れて行って同じ言葉で祈られた。40 またきてごらんになると、彼らはまだ眠っていた。その目が重くなっていたのである。そして、彼らはどうお答えしてよいか、わからなかった。41 三度目にきて言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。もうそれでよかろう。時がきた。見よ、人の子は罪人らの手に渡されるのだ。42 立て、さあ行こう。見よ。わたしを裏切る者が近づいてきた」。
- マタイ 26:39-46 そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」。40 それから、弟子たちの所にきてごらんになると、彼らが眠っていたので、ペテロに言われた、「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることができなかったのか。41 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。42 また二度目に行って、祈って言われた、「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように」。43 またきてごらんになると、彼らはまだ眠っていた。その目が重くなっていたのである。44 それで彼らをそのままにして、また行って、三度目に同じ言葉で祈られた。45 それから弟子たちの所に帰ってきて、言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。見よ、時が迫った。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。46 立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいてきた」。
- ルカ 22:40-45 いつもの場所に着いてから、彼らに言われた、「誘惑に陥らないように祈りなさい」。41 そしてご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、42 「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」。43 そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。44 イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。45 祈

を終えて立ちあがり、弟子たちのところへ行かれると、彼らが悲しみのはて寝入っているのをごらんになって 46 言われた、「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」。

- ヨハネ 17 章全体

3.4.13.3 イエスの祈りについての教え

- マルコ 11:24-25 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。 25 また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。
- マタイ 5:44 しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。
- マタイ 6:5-15 また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。 6 あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。 7 また、祈る場合、異邦人のように、くどくどと祈るな。彼らは言葉かずが多ければ、聞きいれられるものと思っている。 8 だから、彼らのまねをするな。あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。 9 だから、あなたがたはこう祈りなさい、／天にいますわれらの父よ、／御名があがめられますように。 10 御国がきますように。みこころが天に行われるとおおり、／地にも行われますように。 11 わたしたちの日ごとの食物を、／きょうもお与えください。 12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、／わたしたちの負債をもおゆるしてください。 13 わたしたちを試みに会わせないで、／悪しき者からお救いください。 14 もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。 15 もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。
- ルカ 11:1-3 また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終わったとき、弟子のひとりが言った、「主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください」。 2 そこで彼らに言われた、「祈るときには、こう言いなさい、『父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。 3 わたしたちの日ごとの食物を、日々お与えください。 4 わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしてください。わたしたちを試みに会わせないでください』」。
- ルカ 18:1 また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。(神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官のたとえ)
- ルカ 18:10 「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりパリサイ人であり、もうひとり取税人であった。 11 パリサイ人は立って、ひとりてこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。 12 わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。 13 ところが、取税人は遠く離れ

て立ち、目を天にむけようとししないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。 14 あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであらう」。

- マタイ 10:12 その家にはいったなら、平安を祈ってあげなさい。 13 もし平安を受けるにふさわしい家であれば、あなたがたの祈る平安はその家に来るであらう。もしふさわしくなければ、その平安はあなたがたに帰って来るであらう。
- マタイ 21:22 また、祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであらう」。

3.4.13.4 祈りに関連した記述

- マルコ 9:29 すると、イエスは言われた、「このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追い出すことはできない」。
- マルコ 11:17 そして、彼らに教えて言われた、『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった」。マタイ 21:13 そして彼らに言われた、『わたしの家は、祈の家となえらるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている」。ルカ 19:46 彼らに言われた、『わが家は祈の家であるべきだ』と書いてあるのに、あなたがたはそれを盗賊の巣にしてしまった」。
- マルコ 12:40 また、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもっときびしいさばきを受けるであらう」。
- マルコ 13:18 この事が冬おこらぬように祈れ。 マタイ 24:20 あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。
- マタイ 19:13 そのとき、イエスに手をおいて祈っていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。
- マタイ 26:36 それから、イエスは彼らと一緒に、ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、「わたしが向こうへ行行って祈っている間、ここにすわっていなさい」。
- マタイ 26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。
- ルカ 1:10 香をたいている間、多くの民衆はみな外で祈っていた。
- ルカ 1:13 そこで御使が彼に言った、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が聞きいれられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであらう。その子をヨハネと名づけなさい。
- ルカ 2:37 その後やもめぐらしをし、八十四歳になっていた。そして宮を離れずに夜も昼も断食と祈とをもって神に仕えていた。

- ルカ 5:33-35 また彼らはイエスに言った、「ヨハネの弟子たちは、しばしば断食をし、また祈をしており、パリサイ人の弟子たちもそうしているのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています」。34 するとイエスは言われた、「あなたがたは、花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食をさせることができるであろうか。35 しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう」。
- ルカ 6:28 のろう者を祝福し、はずかしめる者のために祈れ。
- ルカ 10:6 もし平安の子がそこにおれば、あなたがたの祈る平安はその人の上にとどまるであろう。もしそうでなかったら、それはあなたがたの上に帰って来るであろう。
- ルカ 20:47 やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもったきびしいさばきを受けるであろう」。
- ルカ 21:36-37 これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」。37 イエスは昼のあいだは宮で教え、夜には出て行ってオリブという山で夜をすごしておられた。
- ルカ 22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

3.4.13.5 AI への祈りについての質問

Q. イエスはどのような機会に祈ったと書かれていますか。具体的に教えてください。イエスにとって祈りはどのような意味を持っていたのでしょうか。

GPT4.

イエス・キリストは、聖書の新約聖書に記されているさまざまな機会に祈りました。以下は、いくつかの具体的な例です。

1. 洗礼：イエスがヨハネからヨルダン川で洗礼を受けたとき、祈りました（ルカ 3:21）。
2. 荒野での誘惑：イエスが悪魔に誘惑された 40 日間の断食の間、祈りにより神とのつながりを維持しました（マタイ 4:1-11、マルコ 1:12-13、ルカ 4:1-13）。
3. 一人での祈り：イエスは、多くの人々から離れて祈るために、しばしば孤独な場所に行きました（マタイ 14:23、マルコ 1:35、ルカ 5:16）。
4. 選ばれた弟子たちの選出：イエスが 12 人の弟子を選ぶ前に、一晩中祈りました（ルカ 6:12-13）。
5. ゲッセマネの園：イエスは、十字架にかけられる前の最後の夜、ゲッセマネの園で祈り、「父よ、もしこの杯を取り除くことができるなら、どうか取り除いてください。しかし、私の意志ではなく、あなたの意志が行われますように」と言いました（マタイ 26:36-44、マルコ 14:32-42、ルカ 22:39-46）。

イエスにとって祈りは、神との親密な関係を維持し、神の意志に従う力を求める手段でした。祈りはまた、悩みや恐れ、喜びや感謝を神に打ち明ける方法でもありました。イエスは、祈りを通して神とのつながりを強め、自分の使命と目的に忠実であることができました。

イエスは、弟子たちにも祈りの重要性を教えました。例えば、「主の祈り」として知られる祈りを教えたり（マタイ 6:9-13、ルカ 11:1-4）、祈りを通じて神に信頼し、頼ることの大切さを説いたりしました（マタイ 7:7-11、ルカ 18:1-8）。

(2023.6.7)

3.4.14 女性たち

3.4.14.1 十字架のもとにいる女性たち

Q. イエスの死にあたって、十字架の側にいた女性たちについて聖書の記述がありますが、福音書によって記述が少し違うようです。どのような人たちがいたと考えられていますか。

ChatGPT イエスの十字架の側にいた女性たちについて、福音書ごとに記述が少し異なりますが、共通する点もあります。以下に、各福音書の記述を整理し、どのような女性たちがいたのかを考察します。

1. 各福音書の記述の比較

1. マタイによる福音書 (27:55-56)

55 また、そこには多くの女たちがいて、遠くから見守っていた。彼女たちはガリラヤからイエスについて来て世話をしていた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子たちの母がいた。

- 登場人物
 - 1. マグダラのマリア
 - 2. ヤコブとヨセフ（ヨセ）の母マリア（ヨセフではなく「ヨセ」と表記されることも）
 - 3. ゼベダイの子たちの母（ヤコブとヨハネの母、伝統的にはサロメと考えられる）

2. マルコによる福音書 (15:40-41)

40 また、遠くから見守っていた女たちもいた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、サロメがいた。41 彼女たちは、イエスがガリラヤにおられたときに従って仕え、多くのほかの女たちも一緒にエルサレムに上って来ていた。

- 登場人物
 - 1. マグダラのマリア
 - 2. 小ヤコブとヨセの母マリア（マタイと同じ）
 - 3. サロメ（ゼベダイの子たちの母と同一人物の可能性が高い）
 - ※ マルコは「ゼベダイの子たちの母」ではなく、直接「サロメ」という名前を記しています。

3. ルカによる福音書 (23:49, 23:55-56, 24:10)

49 しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来た女たちは、皆遠く離れて立ち、そ

れを見守っていた。55 さて、イエスと一緒にガリラヤから来た女たちは、それを見届け、墓と遺体の納められる様子を見た。56 そして、帰って、香料と香油を用意した。

24:10 それはマグダラのマリア、ヨハナ、小ヤコブの母マリアであった。他にも彼女たちと一緒にいた人々が、使徒たちにこれらのことを話した。

- 登場人物

1. マグダラのマリア
2. 小ヤコブの母マリア（マタイ・マルコと同じ）
3. ヨハナ（ヨアンナ）（他の福音書には登場しない）
4. 他の女性たち

※ ルカは「ゼベダイの子たちの母」（サロメ）について言及していないが、名前が明記されていない「他の女性たち」の中に含まれていた可能性がある。

4. ヨハネによる福音書（19:25）

さて、イエスの十字架のかたわらには、イエスの母、その姉妹、クロパの妻マリア、マグダラのマリアが立っていた。

- 登場人物

1. イエスの母マリア（他の福音書には明記されていないが、当然そこにいたと考えられる）
2. イエスの母の姉妹（サロメと同一人物の可能性はある）
3. クロパの妻マリア（小ヤコブの母マリアと同一人物の可能性）
4. マグダラのマリア

※ 「ゼベダイの子たちの母」（サロメ）は言及されていないが、母マリアの「姉妹」として含まれている可能性がある。

2. 登場した女性たちの整理

1. すべての福音書に登場する女性

- マグダラのマリア（Mary Magdalene）
 - － 悪霊を追い出され、イエスに従っていた女性（ルカ 8:2-3）
 - － 復活の最初の証人

2. 複数の福音書に登場する女性

- 小ヤコブとヨセの母マリア（Mary, mother of James and Joses）マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネに「クロパの妻マリア」として登場
- ゼベダイの子たちの母（サロメ）（Salome）マタイとマルコに登場
- ヨハネでは「イエスの母の姉妹」として言及されている可能性

3. 特定の福音書でのみ言及される女性

- イエスの母マリア（Mary, mother of Jesus）
 - － ヨハネ福音書にのみ登場
 - － 他の福音書では言及されていないが、当然そこにいたと考えられる
- ヨハナ（ヨアンナ）（Joanna）
 - － ルカ福音書のみ
- ヘロデの家臣クーザの妻で、イエスに仕えていた女性（ルカ 8:3）

- － その他の女性たち
- － ルカとマタイは「多くの女性たち」がいたことを示唆

3. まとめ

1. 福音書ごとに記述に違いはありますが、以下の女性たちが十字架のそばにいたと考えられます。

1. すべての福音書に登場
 - ・ マグダラのマリア
2. 複数の福音書に登場
 - ・ 小ヤコブとヨセの母マリア（クロパの妻マリア）
 - ・ ゼベダイの子たちの母（サロメ?）
3. 特定の福音書で登場
 - ・ イエスの母マリア（ヨハネのみ）
 - ・ ヨハナ（ヨアンナ）（ルカのみ）
 - ・ 他の女性たち（ルカとマタイ）

この違いは、各福音書の視点の違いや、著者が強調したい人物の違いによるものと考えられます。全体として、イエスに従っていた女性たちが最後までその場におり、後にイエスの復活を最初に目撃する重要な証人となったことが分かります。

Q. 小ヤコブとヨセの母マリアが、イエスの母を意味しているということはないのでしょうか。

ChatGPT 「小ヤコブとヨセの母マリア」がイエスの母マリアと同一人物かどうかについては、伝統的な解釈では別人と考えられています。しかし、一部の解釈では同一人物の可能性も議論されることがあります。以下に、それぞれの立場を整理して考察します。

A. 伝統的解釈：小ヤコブとヨセの母マリアはイエスの母ではない

- ・ 多くの聖書学者や教会の伝統では、「小ヤコブとヨセの母マリア」はイエスの母とは別人と見なされます。その理由は以下の通りです。

1. 福音書の記述の違い

- ・ マタイ 27:56 「マグダラのマリア、ヤコブとヨセの母マリア、ゼベダイの子たちの母がいた。」
- ・ マルコ 15:40 「マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、サロメがいた。」
- ・ ヨハネ 19:25 「イエスの母、イエスの母の姉妹、クロパの妻マリア、マグダラのマリアが立っていた。」
- ・ イエスの母マリアは、ヨハネ福音書には明記されているが、マタイ・マルコでは明記されていない。もし「小ヤコブとヨセの母マリア」がイエスの母マリアであれば、なぜマタイとマルコは「イエスの母」と明示しなかったのか？これは別人である可能性を強く示唆しています。

2. “小ヤコブ”と”ヨセ”は誰なのか？

- ・ 「小ヤコブ」は、使徒ヤコブ（アルパイオの子）とされます（マルコ 3:18, ルカ 6:15）。
- ・ 「ヨセ（ヨセフ）」はイエスの兄弟の「ヨセフ」とは別人と考えられます。

- イエスの兄弟にも「ヤコブ」と「ヨセ（ヨセフ）」がいた（マタイ 13:55, マルコ 6:3）。しかし、マルコ 3:18 では「小ヤコブ」は使徒のヤコブと同一人物であり、イエスの兄弟のヤコブとは別人の可能性が高いです。そのため、「小ヤコブとヨセの母マリア」は、イエスの母マリアとは異なると考えられます。

3. もし同一人物ならば、ヨハネ福音書が「小ヤコブの母」と言及しないのは不自然

ヨハネ福音書 19:25 では、

- 「イエスの母」
- 「イエスの母の姉妹」
- 「クロパの妻マリア」
- 「マグダラのマリア」

が言及されています。

もし「小ヤコブとヨセの母マリア」がイエスの母マリアと同じなら、なぜヨハネ福音書では「イエスの母」ではなく「小ヤコブの母」と呼ばれないのか？逆に、マタイとマルコが「イエスの母」とせず「小ヤコブとヨセの母」と表現したのも不自然になります。

B. イエスの母マリアと同一人物とする説

一部の研究者の間では、「小ヤコブとヨセの母マリア」がイエスの母と同一人物である可能性も考えられます。その理由は以下の通りです。

(1) イエスの兄弟にも「ヤコブ」と「ヨセ」がいる

- マタイ 13:55 「この人（イエス）は大工の息子ではないか。その母はマリア、その兄弟たちはヤコブ、ヨセ（ヨセフ）、シモン、ユダではないか。」
- マルコ 6:3 「この人は大工ではないか。その母はマリアで、兄弟はヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンではないか。」
- もし「小ヤコブ」がイエスの兄弟ヤコブならば、「小ヤコブとヨセの母マリア」はイエスの母マリアと一致する可能性がある。

(2) “小ヤコブ”という表現は後世の区別？

- 使徒のヤコブ（アルパイオの子）と、イエスの兄弟ヤコブは別人とされるが、古代では同じ名前の人物を区別するために後世の表記が加わることがある。
- つまり、福音書の執筆者が「小ヤコブの母マリア」と書いたとき、それは実際には「イエスの兄弟ヤコブの母マリア」を指していた可能性もある。

(3) もし別人なら、「小ヤコブとヨセの母マリア」は誰なのか？

- 伝統的には「クロパの妻マリア」とされることが多い。
- しかし、クロパ（Cleopas）という名は、アルパイオ（Alphaeus）と同じ人物を指す可能性もあり、「アルパイオの子ヤコブ」の母がこのマリアであるとも言われる。

- ただし、確証はなく、「小ヤコブとヨセの母マリア」がイエスの母と一致する可能性も排除できない。

C. 結論

(1) 伝統的な解釈（別人）

- 小ヤコブとヨセの母マリアは、イエスの母マリアとは異なる人物。
- 彼女はおそらく「クロパの妻マリア」と同一人物。
- 「小ヤコブ」は使徒ヤコブ（アルパイオの子）を指す。

(2) 同一人物説

- 「小ヤコブ」が実はイエスの兄弟ヤコブを指しているなら、「小ヤコブとヨセの母マリア」＝「イエスの母マリア」の可能性もある。
- ただし、福音書の記述の違いを考えると、この説は主流ではない。

D. まとめ

ほとんどの研究者や伝統的な解釈では、「小ヤコブとヨセの母マリア」はイエスの母マリアとは別人と考えられています。その根拠は、

- マタイとマルコが「イエスの母マリア」と明示せず、「小ヤコブの母」としていること。
- ヨハネ福音書でイエスの母マリアと「クロパの妻マリア」が区別されていること。

ただし、一部の研究者は「小ヤコブ＝イエスの兄弟ヤコブ」と考え、「小ヤコブの母マリア」＝「イエスの母マリア」である可能性を指摘しています。しかし、これを確定するにはさらなる証拠が必要です。

(2025.2.9)

3.5 旧約聖書の引用

3.5.1 イザヤ書 53 章

Q. 旧約聖書のイザヤ書 53 章の一部が引用されている、新約聖書の箇所をすべて教えてください。

GPT4.

1. マタイの福音書 8 章 16-17 節:

夕方になると、人々は多くの悪霊につかれている者たちをイエスのもとに連れてきた。イエスは一言の命令でその霊たちを追い出し、また、すべての病気やけがをいやされた人もいた。これは、預言者

イザヤが言ったことが実現するためである。「彼は私たちの弱さを負い、私たちの病気を背負ってくれた」。

2. マルコの福音書 15 章 27-28 節:

また、ふたりの強盗が、ひとり右に、ひとり左に、彼と一緒に十字架につけられた。こうして、聖書に書かれている言葉が成就された。「彼は罪人たちと一緒に数えられた」。

ただし、マルコの福音書 15 章 28 節は一部の写本には存在しないため、引用の有無は議論があります。

3. ルカの福音書 22 章 37 節:

これからは、「わたしには犯罪者と同じ扱いがされる」と書かれていることが、私に適用されなければならない。私に関することはすべて成就しなければなりません。

4. ヨハネの福音書 12 章 37-38 節:

イエスがこれほど多くのしるしを行なったにもかかわらず、彼らはイエスを信じなかった。これは預言者イザヤが言った言葉が成就するためである。「主よ、だれがわたしたちの話を信じましたか。主の力はだれに現れましたか」。

5. 使徒言行録 8 章 32-35 節:

フィリポは近くに行って、エチオピア人が預言者イザヤを読んでいるのを聞いた。それは次のような部分である。「彼は、ひきとられて屠られる羊のように、また、羊がその毛を刈る前に黙っているように、口を開かなかった。彼は卑しめられ、裁きを受け、その子孫を取り去られた。彼が地上の生き物の中でだれと比べられるだろうか」。

この場面では、エチオピア人宦官がイザヤ書 53 章を読んでおり、フィリポがこれを説明しています。

これらの箇所は、新約聖書においてイザヤ書 53 章が引用されている例です。ただし、これ以外にも、イザヤ書 53 章の内容が言及されている箇所があるかもしれません。

Q. イザヤ書 53 章は、なぜ、イエス・キリストと関連させて考えられるようになったのでしょうか。

ChatGPT

イザヤ書 53 章は、キリスト教徒にとって、イエス・キリストの受難と犠牲を預示した預言書として重要視されています。この章は、悲しみと苦しみに満ちた人生を送り、人間の罪のために死を受け入れた一人の人物を描写しています。この人物は、「神のしもべ」と呼ばれ、多くのキリスト教徒にとって、イエス・キリストに対応すると考えられています。

イザヤ書 53 章がキリスト教と関連付けられるようになったのは、初代キリスト教徒が旧約聖書を解釈する際に、この章をキリストの受難と犠牲を預示した預言書として理解したことが大きな要因です。また、イザヤ書 53 章

の記述が、キリストの受難や犠牲と類似していると考えられることも、この章がキリスト教で重要視される理由の一つとされます。

さらに、イザヤ書 53 章は、古代ヘブライ語で書かれているため、初代キリスト教徒が使用したギリシャ語の旧約聖書での翻訳によって、キリスト教の聖書に取り込まれたことも関連しています。この翻訳によって、イザヤ書 53 章がキリスト教徒の間で広く知られ、重要視されるようになりました。

以上のように、イザヤ書 53 章がキリスト教と関連付けられるようになったのは、初代キリスト教徒が旧約聖書を解釈する際に、この章をキリストの受難と犠牲を預示した預言書として理解し、また、この章がギリシャ語の旧約聖書で翻訳され、キリスト教の聖書に取り込まれたことが大きな要因とされます。このように、イザヤ書 53 章がキリスト教の聖書において重要視されるようになった背景には、歴史的、文化的な複数の要因が関わっています。

Q. イザヤ書 53 章の記述が、キリストの受難や犠牲と類似している点はどのようなところでしょうか。

ChatGPT

イザヤ書 53 章の記述が、キリストの受難や犠牲と類似している点は、以下のようなものがあります。

1. 苦しみと悲しみに満ちた人生を送る

イザヤ書 53 章では、「神のしもべ」と呼ばれる人物が、苦しみと悲しみに満ちた人生を送っていると描写されています。同様に、キリストも苦しみと悲しみに満ちた人生を送りました。キリストは、拒絶され、裏切られ、磔刑に処されるなど、多くの苦しみを経験しました。

2. 人間の罪のために死を受け入れる

イザヤ書 53 章では、「神のしもべ」と呼ばれる人物が、人間の罪のために死を受け入れるという描写があります。同様に、キリストも人間の罪のために死を受け入れ、自分自身を犠牲にして人類を救うために十字架にかけられました。

3. 軽蔑され、打ちのめされる

イザヤ書 53 章では、「神のしもべ」と呼ばれる人物が、軽蔑され、打ちのめされるという描写があります。同様に、キリストも十字架にかけられる前に、軽蔑され、侮辱され、打ちのめされるなど、多くの屈辱的な状況に置かれました。

4. 無抵抗で受け入れる

イザヤ書 53 章では、「神のしもべ」と呼ばれる人物が、無抵抗で受け入れるという描写があります。同様に、キリストも自分自身を犠牲にして人間を救うために、無抵抗で受け入れるように神の意志に従ったとされています。

5. 他人の罪を引き受ける

イザヤ書 53 章では、「神のしもべ」と呼ばれる人物が、他人の罪を引き受けるという描写があります。同様に、キリストも人間の罪を引き受け、自分自身を犠牲にして、人類を罪から救うために死を受け入れました。

これらの点から、イザヤ書 53 章の記述が、キリストの受難や犠牲と類似していると考えられています。しかし、イザヤ書 53 章は、キリスト教徒にとってキリストの受難と犠牲を預示した預言書として理解されているものの、イザヤ書自体は、キリスト教以前のユダヤ教の聖書であり、ユダヤ教徒にとっては、異なる解釈が存在する可能性があります。

Q. ユダヤ教徒にとっては、どのような意味があったのでしょうか。

ChatGPT

ユダヤ教徒にとって、イザヤ書 53 章の意味は、キリスト教徒とは異なります。

イザヤ書 53 章は、ユダヤ教の聖書である旧約聖書の一部であり、ユダヤ教徒にとっては、主にメシア（救世主）に関する預言書として解釈されます。イザヤ書 53 章の中で語られる「神のしもべ」については、ユダヤ教では、一般的にはイスラエル民族全体を表すとされています。つまり、「神のしもべ」は、イスラエル民族が苦しみや迫害を受けた歴史的な出来事を描写したものとして解釈されます。

また、イザヤ書 53 章の「神のしもべ」について、ユダヤ教徒の間でも、様々な解釈が存在します。たとえば、一部のユダヤ教徒は、「神のしもべ」を、預言者イザヤ自身や、イスラエルの王たちなど、歴史上の人物を指すと解釈しています。また、他のユダヤ教徒は、「神のしもべ」が、イスラエル民族の苦しみを象徴していると捉えています。

総じて言えることは、イザヤ書 53 章が、ユダヤ教徒にとっては、キリスト教徒が考えるようなキリストの受難や犠牲を預示した預言書ではなく、歴史的な出来事や、イスラエル民族の苦しみを描写したものとして解釈されているということです。

Q. イザヤ書 53 章の「神のしもべ」について、他にどのような解釈があるのでしょうか。

ChatGPT

イザヤ書 53 章の「神のしもべ」について、ユダヤ教徒の間でも論争があり、様々な解釈が存在しています。以下に、その一部を紹介します。

1. イスラエル民族全体を表す解釈

イザヤ書 53 章の「神のしもべ」は、イスラエル民族全体を表すという解釈が一般的です。つまり、「神のしもべ」は、イスラエル民族が苦しみや迫害を受けた歴史的な出来事を描写したものとして解釈されます。

2. 預言者イザヤ自身を表す解釈

一部のユダヤ教徒は、「神のしもべ」を、預言者イザヤ自身を指すと解釈しています。この解釈では、イザヤ書 53 章は、イザヤ自身が苦しみや迫害を受けた歴史的な出来事を描写したものとされます。

3. イスラエルの王たちを表す解釈

他のユダヤ教徒は、「神のしもべ」が、イスラエルの王たちを指すと解釈しています。この解釈では、イザヤ書 53 章は、イスラエルの王たちが苦しみや迫害を受けた歴史的な出来事を描写したものとされます。

4. イスラエル民族の苦しみを象徴する解釈

一部のユダヤ教徒は、「神のしもべ」が、イスラエル民族の苦しみを象徴するものであると解釈しています。この解釈では、イザヤ書 53 章は、イスラエル民族が苦しみや迫害を受ける歴史的な出来事を象徴的に描写したものとされます。

以上のように、イザヤ書 53 章の「神のしもべ」については、ユダヤ教徒の間でも様々な解釈が存在しています。これらの解釈は、歴史的な文脈や、聖書の文脈、伝統的な解釈など、多くの要因によって形成されています。ユダヤ教徒にとっては、イザヤ書 53 章が、キリスト教徒が考えるようなキリストの受難や犠牲を預示した預言書ではなく、他の意味を持つものとして捉えられています。

Q. 苦難のしもべの預言を、マタイ 8:17 では、病を癒し、悪霊を追い出したあとに引用しています。これには、どのような意味があるのでしょうか。

ChatGPT

マタイ 8:17 において、イエス・キリストが病を癒し、悪霊を追い出した後に、イザヤ書 53 章の「苦難のしもべ」に関する預言を引用しているとされています。この引用には、いくつかの意味が含まれています。

まず、この引用は、イエス・キリストが「苦難のしもべ」であることを示すものとされています。イザヤ書 53 章は、苦難を受け、犠牲を払う「神のしもべ」についての預言であり、キリスト教では、この預言がキリストの受難や犠牲を預示したものと考えられています。マタイ 8:17 において、イエス・キリストが病を癒し、悪霊を追い出した後に、イザヤ書 53 章の預言を引用することで、イエス・キリストが「苦難のしもべ」であることを強調しているとされています。

また、この引用は、イエス・キリストが苦しみや病気を克服する力を持っていることを示すものとされています。イエス・キリストが病を癒し、悪霊を追い出すことで、彼が神の力を持っていることを証明しています。そして、イザヤ書 53 章の預言を引用することで、イエス・キリストが苦難を受け、犠牲を払ったことを示すと同時に、彼が人々の罪や病気を取り除くために犠牲を払ったことを強調しています。

さらに、この引用は、イエス・キリストが救い主であることを示すものとされています。イエス・キリストが病を癒し、悪霊を追い出すことで、彼が人々の苦しみや悲しみを取り除く力を持っていることを示しています。そして、イザヤ書 53 章の預言を引用することで、彼が人々の罪を負い、人々を救うために犠牲を払ったことを強調しています。イエス・キリストが苦難を受け、犠牲を払ったことで、人々が神の恵みに与ることができるようになったのです。

以上のように、マタイ 8:17 におけるイザヤ書 53 章の預言の引用には、イエス・キリストの「苦難のしもべ」であること、彼が人々を救う力を持っていること、そして彼が人々を救うために犠牲を払ったことを示す意味が含まれています。また、この引用は、キリスト教徒にとって、復活や救いの希望を与えるものでもあります。

Q. キリスト教におけるイザヤ 53 章の引用について、ギリシャ語訳の聖書が関係していると言われましたが、もう少し、どのように訳が関係したか教えてください。

ChatGPT

イザヤ 53 章は、キリスト教の聖書である旧約聖書の一部であり、主にキリスト教徒によってメシアの預言として解釈されています。この章は、キリストの受難や十字架について言及しており、そのためキリスト教において非常に重要な章とされています。

キリスト教において、イザヤ 53 章の引用は、主にギリシャ語訳聖書である「セプトゥアギント」と呼ばれる聖書の影響を受けています。セプトゥアギントは、ヘブライ語聖書の古代ギリシャ語への翻訳であり、古代ヘブライ語のイザヤ書をギリシャ語に翻訳したものです。

キリスト教の聖書では、イザヤ 53 章が引用される際に、主にセプトゥアギントのギリシャ語訳を使用しています。そのため、イザヤ 53 章の一部の言葉や表現について、ギリシャ語訳の影響が見られます。例えば、イザヤ 53:5 の「彼はわたしたちのとがのために傷つけられ、わたしたちは彼の打たれたところによっていやされた」という箇所は、ギリシャ語訳では「彼はわたしたちの罪のために刺され、わたしたちは彼の打たれたところによって癒された」となっています。このように、一部の言葉や表現について、ギリシャ語訳による影響が見られるのです。

また、イザヤ 53 章の引用には、他の聖書の書簡や福音書でも言及されている箇所があります。例えば、マタイによる福音書 8:17 では、「彼はわたしたちの病気を負い、わたしたちは彼によって癒された」という箇所があり、この部分はイザヤ 53:4 の引用とされています。同様に、ペテロの第一の手紙 2:24 では、「キリストは、わたしたちの罪を自分のからだに負って、木にかけられた」という箇所があり、これはイザヤ 53:5 の引用とされています。

総じて言えることは、キリスト教におけるイザヤ 53 章の引用は、ギリシャ語訳聖書であるセプトゥアギントの影響を受けていることが多いということです。しかし、この章がキリスト教において重要な位置を占める理由は、単に翻訳の問題に留まらず、イザヤ 53 章がキリストの受難や十字架についての預言を含んでいるからだと考えられます。この章がキリスト教において重要な位置を占める理由は、イザヤ 53 章がキリストの受難や十字架についての預言を含んでいるからです。そのため、イザヤ 53 章は、キリスト教徒にとって非常に重要な聖書の一部となっています。

(2023.5.31)

3.6 ギリシャ語・ヘブル語・アラム語

3.6.1 仕える

2023.05.11

Q. Koinee greek において、^{*10} と ^{*11} は、どちらも serve 仕えるだと思いますが、どう違うのでしょうか。

ChatGPT

^{*10} マタイ 4:10 主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ

^{*11} マタイ 4:11 御使たちがみもとにきて仕えた。

ご質問ありがとうございます。Koine Greek は、古代ギリシャ語の一種であり、キリスト教聖書の原典などに使用されています。

「**δουλέω**」と「**κτλ**」は、どちらも「仕える」という意味であり、キリスト教の文脈では特に宗教的な仕えるという意味合いが含まれますが、微妙に異なるニュアンスがあります。

「**κτλ**」は、より崇拜的な仕えるという意味合いがあります。神に対しての献身的な奉仕を表し、神への礼拝や祈りを含みます。また、神が受け入れるべき、真の礼拝を行うことを示します。

一方、「**δουλέω**」は、より実践的な仕えるという意味合いがあります。主に、他人に奉仕することを示し、愛と仕えることを通じて、他人を助けることを目的としています。キリスト教の文脈では、教会の役員や神父などが信徒に奉仕することを示す場合にも使用されます。

つまり、「**κτλ**」は神に対する崇拜的な奉仕を表し、「**δουλέω**」は他人に対する実践的な奉仕を表します。これらの単語は、キリスト教の文脈において、異なるニュアンスを持って使用されます。

3.6.2 サタンと悪魔

Q. Koinee greek において、δουλέω** と、**κτλ** は、それぞれどのような意味で、違いはどのようなものなのでしょうか。**

ChatGPT

「**δουλέω**」と「**κτλ**」は、どちらもキリスト教の文脈で使用されるギリシャ語の言葉で、英語で「devil（悪魔）」と訳されることがありますが、微妙に異なるニュアンスがあります。

「**κτλ**」は、原義で「分裂させる者」「中傷する者」といった意味を持ちます。一般的には、悪意や陰謀を持って人を誘惑し、罪に誘う存在を指します。キリスト教の伝統では、この言葉は主に、悪魔としての役割を表すために使用されます。

一方、「**δουλέω**」は、原義で「敵対する者」といった意味を持ちます。キリスト教の文脈では、神に対する反逆者や敵対者、悪魔としての役割を表すために使用されます。また、新約聖書においては、イエス・キリストを誘惑しようとした存在としても登場します。

つまり、「**δουλέω**」と「**κτλ**」は、どちらも悪魔としての役割を持つ言葉であり、似たような意味を持ちますが、「**κτλ**」は誘惑や罪に誘う存在を、「**δουλέω**」は主に神に反逆する存在を表す傾向があります。

Q. これらの違いの説明はどのような根拠・出典によっているのですか。

ChatGPT

「**δουλέω**」と「**κτλ**」の違いについての説明は、主にキリスト教の聖書や古代ギリシャ語の辞書などの文献に基づいています。

例えば、ギリシャ語の辞書である「Liddell and Scott's Greek-English Lexicon」では、「 」が「中傷する者」や「悪魔」としての意味を持ち、「 」が「敵対する者」や「悪魔」としての意味を持つことが説明されています。

また、キリスト教の聖書においても、両者の違いが示されています。例えば、新約聖書の「ヨハネの手紙一書」4章1節には、「愛する者たちよ。すべての霊を信じてはならない。かえって、霊が神から出たものかどうかを、試りなさい。偽預言者たちが、この世に出てきたからです。」とあり、この中で「偽預言者たち」として「 」が言及されています。

また、新約聖書の「マタイによる福音書」4章1-11節においては、イエス・キリストが40日間の断食の後、誘惑される出来事が描かれており、「 」がイエスを誘惑する役割を担っています。

以上のように、語源や聖書などの文献から、両者の微妙な違いが説明されています。

2023.05.17

3.6.3 神の国と天国

Q. 福音書などで使われる「神の国」と「天国」は、原語からは、どのような違いがあるのでしょうか。用法などあれば、教えてください。

Bard. 「神の国」と「天国」はどちらも、福音書でイエスがよく使っていた言葉です。しかし、これらの2つの言葉には、ニュアンスの違いがあります。

「神の国」という用語は、神の支配と統治を表しています。それは、神がすべての人々の生活の中で支配し、支配する時代の到来を指します。一方、「天国」という用語は、より個人的な意味合いを持っています。それは、愛、平和、そして喜びに満ちた場所を指します。それは、神が信者に与える約束された故郷です。

「神の国」と「天国」はどちらも、イエス・キリストの教えの中心的な部分です。彼は、人々が神の国に入るためには、悔い改め、新しい生き方を始めなければならないと教えています。また、神の国はすでに私たちの中にあり、私たちの周りにあると教えています。

「神の国」と「天国」は、信者の希望と約束です。それは、私たちが罪と死から解放され、神との永遠の交わりを持つ時代の到来を表しています。

GPT4. 新約聖書は、もともとギリシャ語で書かれています。福音書で使われる「神の国」と「天国」は、原語であるギリシャ語ではそれぞれ「Βασιλεία τοῦ Θεοῦ」(Basileia tou Theou)と「Βασιλεία τῶν οὐρανῶν」(Basileia tōn Ouranōn)と表現されます。

「神の国」は、「Βασιλεία τοῦ Θεοῦ」(Basileia tou Theou)で、神(Θεός, Theou)の支配や権威(Βασιλεία, Basileia)を意味します。これは、神の支配が地上に広がり、人々の間に認知されることを指します。福音書の中で「神の国」は、イエスの教えの中心的なテーマであり、彼の教えと奇跡を通して実現しようとしているものです。

一方、「天国」は、「Β Ο」(Basileia tōn Ouranōn)で、直訳すると「天の国」や「天の領域」を意味します。これは、まさに神の住まいであるとされる場所を指し示しています。特にマタイ福音書では、「天国」の表現が頻繁に用いられます。

両者の違いに関しては、解釈によって異なりますが、一般的には、「神の国」は神の支配や権威が地上で展開される概念であるのに対して、「天国」は神の住まいや霊的な領域を指すとされています。

ただし、実際には、これらの言葉は福音書の中でほぼ同義語として使われており、イエスが語る神の支配や権威が実現する場所や状況を指しています。したがって、両者の違いは微妙であると言えます。

補足

口語訳および KJV で天国 Kingdom of Heaven は、マタイのみに、32 回。一方、神の国は、すべての福音書および、書簡にも多く見られ、マタイには 5 回 (6:33, 12:28, 19:24, 21:31, 43)。マルコは 14 件、ルカは 31 件、ヨハネは 2 件のみ (3:3, 3:5)。

3.6.4 癒す - heal

Q. 新約聖書の Koine Greek で、KJV に、heal 癒すと訳されている語はどのようなものがありますか。その違いはどのようなものですか。

Chat GPT. 新約聖書の Koine Greek で、“heal”（癒す）と訳される単語はいくつかあります。以下にいくつかの例を挙げます。

1. (therapeuō) - これは最も一般的な単語で、主に身体的な癒しを指します。例えば、マタイによる福音書 4:23 では、「イエスは全ガリラヤに教え、会堂で彼らの中で御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆる病気を癒しました。」と記されています。
2. (iaomai) - これも身体的な癒しを意味する言葉で、特に病気や傷を治療するために使用されます。例えば、マルコによる福音書 5:34 では、「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。平和を得なさい。あなたの病気から解放されました」と、イエスが病気を治療したことが記されています。
3. (sōzō) - これは、身体的な癒しだけでなく、霊的な救済も含む幅広い意味を持つ言葉です。例えば、マタイによる福音書 9:21-22 では、「彼女は自分の心の中で、たとえ端からでも御子に触れれば、癒されると信じていた。すると、イエスは振り向いて彼女を見て、『娘よ、勇気を出しなさい。あなたの信仰があなたを救った』と言われました。そのとおりになりました」と記されています。

これらの単語は、身体的な癒しと霊的な救済を含む幅広い範囲の意味を持つため、文脈によって異なる訳語が使用されます。KJV のような英語訳聖書では、これらの単語は通常、“heal” や “healing” などの単語に翻訳されますが、文脈によっては、“cure” や “restore”、“save” などの単語にも翻訳されることがあります。また、同じ単語が使用されていても、訳語が異なる場合があります。例えば、マタイによる福音書 4:23 で使用されている

「**癒**」は、KJV では”heal” と訳されていますが、NIV (New International Version) では”cure” と訳されています。

したがって、これらの単語の正確な訳語は、文脈によって異なることがあるため、注意が必要です。

Q. **(therapeuō)**、**(iaomai)**、**(sōzō)** は語源的にはどのような違いがありますか。

ChatGPT. 「**癒**」、**「癒す」**、**「癒される」** は、いずれもギリシャ語で、語源的には以下のような違いがあります。

1. 「**癒**」 - この単語は、ギリシャ語の「**θεράπεω** (therapon)」から派生しています。この語は、もともとは「奉仕する人」を意味していましたが、後に「治療する」という意味にも使われるようになりました。つまり、「**癒**」は、「治療する」という意味の動詞であり、健康状態を改善することを目的としています。
2. 「**癒す**」 - この単語は、ギリシャ語の「**ἰάομαι** (iatros)」から派生しています。この語は、「医師」を意味します。そして、「**癒す**」は、「治療する」という意味の動詞であり、病気や傷を治療することを目的としています。
3. 「**癒される**」 - この単語は、ギリシャ語の「**σώζω** (sōtēr)」から派生しています。この語は、「救世主」を意味します。そして、「**癒される**」は、「救う」という意味の動詞であり、身体的な救済だけでなく、霊的な救済も含む広い意味を持っています。

つまり、「**癒**」と「**癒す**」は、身体的な健康状態を改善することに焦点を当てている一方、「**癒される**」は、幅広い意味を持ち、身体的な救済だけでなく、霊的な救済も含んでいます。ただし、これらの単語は、文脈によって異なる訳語に翻訳されることがあるため、注意が必要です。

Q. これらの単語は、どのような状況で使われるのでしょうか。

ChatGPT. これらの単語は、それぞれ異なるニュアンスを持つため、異なる状況で使用されます。

1. 「**癒**」 - この単語は、一般的に身体的な病気や傷を治療する場合に使用されます。例えば、マタイによる福音書 4:23 では、「イエスは全ガリラヤに教え、会堂で彼らの中で御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆる病気を癒しました。」と記されています。この場合、「**癒**」は、病気や傷を治療することを意味しています。
2. 「**癒す**」 - この単語は、「**癒**」と同様に身体的な病気や傷を治療する場合に使用されますが、より具体的には医療行為を指します。例えば、ルカによる福音書 5:31 では、「イエスは彼らに答えて言われた：『健康な人には医者はありません。病人にしか必要ありません。』」と記されています。この場合、「**癒す**」は、医療行為や治療を指しています。
3. 「**癒される**」 - この単語は、身体的な救済だけでなく、霊的な救済も含む広い範囲の意味を持っています。例えば、ローマの信徒への手紙 10:9 では、「もし口でイエスを主と告白し、心で神が彼を死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われます。」と記されています。この場合、「**癒される**」は、霊的な救済を指しています。

したがって、これらの単語は、文脈によって異なる用法があります。一般的には、「**癒**」と「**癒す**」は、身

体的な病気や傷を治療する場合に使用され、一方、「」は、霊的な救済を含む広い範囲の意味を持っています。ただし、これらの単語は、文脈によって異なる訳語に翻訳されることがあるため、注意が必要です。

3.6.5 病気

Q. 聖書で、癩病、規定の病、ツァラアトなどと訳されている言葉の原語の意味は、どのようなもので、どのように、理解されて来たのでしょうか。

ChatGPT. 聖書で「癩病」と訳されている言葉は、ヘブライ語で「ツァラアト」()と呼ばれ、皮膚病や壊死、カビのようなものによって引き起こされる病気を指します。しかし、この言葉は病気そのものを指すだけでなく、精神的な不浄や罪の象徴としても使用されていました。

また、「規定の病」と訳される言葉は、ヘブライ語で「」()と呼ばれ、不明瞭な病気や痛み、疾患を指します。

これらの病気や疾患を伝える聖書の文章は、現代の医学的な知識とは異なりますが、当時の人々にとっては、神が人々の健康を管理しているという信念に基づいて、これらの病気が神によって与えられる罰や試練であると考えられていました。

聖書の時代には、これらの病気は社会的な排除と関連しており、感染が広がらないように感染者は別の場所に移動し、特別な衣服を着用する必要がありました。これは、聖書の記述によれば、神によって命じられたものであり、特定の祭司によって管理されていました。

Claude+ 聖書で「癩病」、「規定の病」、「ツァラアト」と訳されている言葉は、原語では「ツァラアト」()を意味します。この語は旧約聖書でよく使用され、本来の意味はハンセン病を指します。

ハンセン病は古代イスラエルでは嫌われる病で、ツァラアトの人は汚れていると考えられていました。そのため、モーセの律法ではツァラアトの人は隔離され、社会から追放されていました。ツァラアトは罪の象徴でもあり、神からの罰だと信じられていました。

イエスの時代になると、ツァラアトの人は差別と偏見の対象でした。しかしイエスはツァラアトの人を癒し、隔離されていた人を社会に受け入れさせました。この事はイエスの愛と憐れみを示すものでした。

このように、ツァラアト(癩病)は古代イスラエルでの汚れや罪の象徴であり、隔離の対象となっていました。しかしイエスはこの考え方を覆し、ツァラアトの人を癒して社会に受け入れることで、神の愛を示したのです。こうしてツァラアトの意味は、汚れから愛へと変化していったのです。

Sage. 「癩病」や「規定の病」、「ツァラアト」などと訳されている言葉は、ヘブライ語の「」(tsara'at)に由来します。

ツァラアトは、律法においては身体に現れる病気として扱われていますが、現代医学的な見解によれば、ツァラアトは単なる皮膚病ではなく、細菌感染や真菌感染、あるいは代謝異常などによって引き起こされる病気と考えられています。

ヘブライ語の「 」(tsara'at)の語源については諸説ありますが、一般的には「切り裂く」という意味の動詞「 」(tsara)に由来するとされています。この病気は、皮膚が切り裂かれたような症状を示すことがあるため、このように呼ばれるようになったと考えられています。

また、ツァラアトは、古代イスラエルにおいては、単なる病気ではなく、神が人間に対する懲罰として送る病気と考えられていました。そのため、ツァラアトにかかった人は、祭司によって検査され、清いかどうかが判断され、患部が広がらないように隔離されることが決められていました。このように、古代イスラエルの信仰と密接に関わっていた病気であったと言えます。

(2023.6.3)

Q. 福音書に記述のある 規定の病、癩病などは、ハンセン氏病と同じなのでしょうか。当時は、この病にかされたとき、どのような生活をしていたと思われるのでしょうか。もし、聖書以外の記録があれば、文献とともに、それも教えてください。

GPT4.

(leprosy) は、ギリシャ語で「らい病」を意味し、新約聖書の福音書には、イエスがらい病患者を癒したという記述があります。しかしこの用語が指す病気が、現代医学で言うハンセン氏病（ハンセン病）と同じかどうかは、完全には特定できません。らい病（ ）は、古代では広く皮膚病を指す用語であり、ハンセン病だけでなく、様々な皮膚病を含んでいた可能性があります。

当時のらい病患者は、病気が伝染すると考えられていたため、社会から隔離されることが一般的でした。彼らは、集落の外れや、専用の「らい病患者の集落」で暮らすことが多かったとされています。また、らい病患者は、自分の病気を他人に触れさせないために、特別な衣服を着用し、不浄とされた場所に近づかないように注意が払われていたとされています。

聖書以外の史料としては、ヨセフス・フラウィウスの『ユダヤ古代誌』や、タルムードなどがあります。『ユダヤ古代誌』では、らい病患者が隔離され、礼拝に参加できないことが記述されています。タルムードでは、らい病患者の扱いに関する法律や規定がいくつか記されています。これらの史料からも、古代社会においてらい病患者が厳しい隔離生活を送っていたことがうかがえます。

(2023.6.5)

3.6.5.1 旧約聖書における重い皮膚病（ ）の記述

- 出エジプト 4:6 主はまた彼に言われた、「あなたの手をふところに入れなさい」。彼が手をふところに入れ、それを出すと、手は、重い皮膚病にかかって、雪のように白くなっていた。
- レビ記 13 章 1-59 1 主はまたモーセとアロンに言われた、2 「人がその身の皮に腫、あるいは吹出物、あるいは光る所ができ、これがその身の皮に重い皮膚病の患部のようなになるならば、その人を祭司アロンまたは、祭司なるアロンの子たちのひとりのもとに、連れて行かなければならない。44 その人は重い皮膚病に冒された者であって、汚れた者である。祭司はその人を確かに汚れた者としなければならない。患部

が頭にあるからである。45 重い皮膚病の患者は、その衣服を裂き、その頭を現し、その口ひげをおおって『汚れた者、汚れた者』と呼ばわらなければならない。

- レビ記 14 章:1-32 1 主はまたモーセに言われた、2「重い皮膚病の患者が清い者とされる時のおきては次のとおりである。すなわち、その人を祭司のもとに連れて行き、3 祭司は宿営の外に出て行って、その人を見、もし重い皮膚病の患部がいえているならば、
- レビ記 22 章 4-7 アロンの子孫のうち、だれでも、重い皮膚病の患者、また流出ある者は清くなるまで、聖なる物を食べてはならない。また、すべて死体によって汚れた物に触れた者、精を漏らした者、または、すべて人を汚す這うものに触れた者、または、どのような汚れにせよ、人を汚れさせる人に触れた者、このようなものに触れた人は夕まで汚れるであろう。彼はその身を水にすすがないならば、聖なる物を食べてはならない。日が入れば、彼は清くなるであろう。そののち、聖なる物を食べることができる。それは彼の食物だからである。
- 民数記 5:2-4 主が王を撃たれたので、その死ぬ日まで、重い皮膚病になって、離れ家に住んだ。王の子ヨタムが家の事を管理し、国の民をさばいた。男でも女でも、あなたがたは彼らを宿営の外に出してそこにおらせ、彼らに宿営を汚させてはならない。わたしがその中に住んでいるからである」。イスラエルの人々はそのようにして、彼らを宿営の外に出した。すなわち、主がモーセに言われたようにイスラエルの人々を行った。
- 民数記 12:10 雲が幕屋の上を離れ去った時、ミリアムは、重い皮膚病となり、その身は雪のように白くなった。アロンがふり返ってミリアムを見ると、彼女は重い皮膚病になっていた。
- サムエル下 3:28-29 その後ダビデはこの事を聞いて言った、「わたしとわたしの王国とは、ネルの子アブネルの血に関して、主の前に永久に罪はない。どうぞ、その罪がヨアブの頭と、その父の全家に帰するように。またヨアブの家には流出を病む者、重い皮膚病を病む者、つえにたよる者、つるぎに倒れる者、または食物の乏しい者が絶えないように」。
- 列王記下 5:1 スリヤ王の軍勢の長ナアマンはその主君に重んじられた有力な人であった。主がかつて彼を用いてスリヤに勝利を得させられたからである。彼は大勇士であったが、重い皮膚病をわずらっていた。
- 列王記下 5:27 それゆえ、ナアマンの重い皮膚病はあなたに着き、ながくあなたの子孫に及ぶであろう」。彼がエリシャの前を出ていくとき、重い皮膚病が発して雪のように白くなっていた。
- 列王記下 7:3 さて町の門の入口に四人の重い皮膚病の患者がいたが、彼らは互に言った、「われわれはどうしてここに座して死を待たねばならないのか。 5:8 そこで重い皮膚病の患者たちは陣営のほとりに行き、一つの天幕にはいって食い飲みし、そこから金銀、衣服を持ち出してそれを隠し、また来て、他の天幕に入り、そこからも持ち出してそれを隠した。
- 列王記下 15:5 主が王を撃たれたので、その死ぬ日まで、重い皮膚病になって、離れ家に住んだ。王の子ヨタムが家の事を管理し、国の民をさばいた。
- 歴代誌下 26:16-23 ところが彼は強くなるに及んで、その心に高ぶり、ついに自分を滅ぼすに至った。す

なわち彼はその神、主にむかって罪を犯し、主の宮にはいって香の祭壇の上に香をたこうとした。その時、祭司アザリヤは主の祭司である勇士八十人を率いて、彼のあとに従ってはいり、ウジヤ王を引き止めて言った、「ウジヤよ、主に香をたくことはあなたのなすべきことではなく、ただアロンの子孫で、香をたくために清められた祭司たちのすることです。すぐ聖所から出なさい。あなたは罪を犯しました。あなたは主なる神から栄えを得ることはできません」。するとウジヤは怒りを発し、香炉を手にとって香をたこうとしたが、彼が祭司に向かって怒りを発している間に、重い皮膚病がその額に起った。時に彼は主の宮で祭司たちの前、香の祭壇のかたわらにいた。祭司の長アザリヤおよびすべての祭司たちが彼を見ると、彼の額に重い皮膚病が生じていたので、急いで彼をそこから追い出した。彼自身もまた主に撃たれたことを知って、急いで出て行った。ウジヤ王は、死ぬ日まで重い皮膚病にかかっていたので、離れ殿に住んだ。主の宮から断たれたからである。その子ヨタムが王の家をつかさどり、国の民を治めた。ウジヤのその他の始終の行為は、アモツの子預言者イザヤがこれを書きしるした。ウジヤは先祖たちと共に眠ったので、人々は「彼は重い皮膚病にかかった人である」と言って、王たちの墓に連なる墓地に、その先祖たちと共に葬った。その子ヨタムが彼に代って王となった。

3.6.5.2 中風

Q. マルコ 2 章 1-12 節に中風のひとが登場しますが、どのような病気だったと思われますか。

ChatGPT

マルコ 2 章 1-12 節に登場する中風の人物は、ギリシャ語の「 (paralytikos)」という言葉で表されています。この言葉は、現代の英語でいう「paralytic (麻痺した人)」に相当する言葉であり、神経障害や脳卒中による麻痺を指していると考えられます。

当時の人々は、病気や身体障害を直接的な原因として、罪や神の怒りと結びつけることがありました。したがって、中風の人物がイエスによって癒されたことは、彼が罪から解放されたことを示す象徴的な出来事であったと捉えられることがあります。また、この物語は、イエスが身体的な病気や障害に苦しむ人々を癒すことによって、神の愛と慈悲を表現していることを示しています。

(2023.6.22)

3.6.6 愛する・愛

Q. コイネーギリシャ語の愛する () という動詞の原語の意味は何ですか。

ChatGPT. 「」は、古代ギリシャ語で「愛する」という意味を持つ動詞です。この動詞の原義は、物事に価値を見出し、それを大切に扱うことです。このため、この動詞は神や家族、友人など、人々が特別な愛情を抱くものに対して使用されることが多く、単なる好きという表現よりも深い、真の愛情を表現する言葉として重用されていました。

Sage. コイネーギリシャ語の動詞「」(agapaō) は、「愛する」という意味を持ちます。この動詞の原語であ

る古代ギリシャ語の「**ἀγαπάω**」(agapan) は、一般的に「価値を認める」「尊敬する」という意味でしたが、新約聖書の中で特に愛情や情熱を表す言葉として使われるようになりました。また、この動詞は、単に感情的な愛情だけでなく、行動による愛や奉仕の愛なども含んでいます。

Claude+・コイナー・ギリシャ語の動詞 **ἀγαπάω** (アガパオ) は、「愛する」、「大切に思う」という意味です。

この語は新約聖書などでよく用いられ、高度な愛としての「アガペー」の概念を表しています。**ἀγαπάω** は単純な物理的・感覚的な愛よりも、相手を理解し、受容し、大切に思うという精神的な愛を意味しています。

ἀγαπάω の語源は不明ですが、おそらく「尊敬」「賞賛」を意味する語に関連があると考えられています。新約聖書の著者であるヨハネはこの語を神からの愛と人間同士の愛を表すのに用いています。

要するに、**ἀγαπάω** は高潔な愛としての「アガペー」の概念を表しており、物理的な愛よりも精神的、道義的な愛を意味する語でした。新約聖書の時代にはキリスト教の愛の考え方の中心概念となったのです。

(2023.6.3)

3.6.7 憐れみ

Q. 共観福音書で、特徴的な使われ方をしている、**ἐλεος** は、聖書以外の文献ではどのように使われているのでしょうか。もともとの意味はどのようなものなのでしょうか。

ChatGPT.

「**ἐλεος**」は、古代ギリシャ語で「内臓をかき混ぜる」、「心を揺さぶる」という意味があります。共観福音書では、この単語は主にイエス・キリストが人々に対して示した慈愛や憐れみを表現するために使用されています。

聖書以外の文献では、この単語は主に医学的な文脈で使用されており、内臓の病気や痛みを表現するために使われています。例えば、古代ギリシャの医学者であるガレノスは、内臓の疾患についての著書で「**ἐλεος**」という単語を使用しています。

しかし、共観福音書での「**ἐλεος**」の使用は、単純な医学的な意味を超えて、より深い感情や思いやりを表現するために用いられています。この単語を使うことで、人々がイエス・キリストの慈愛深い性格や神の恵みに触れることができるようになっています。

(2023.6.5)

3.6.7.1 深くあわれむ (**ἐλεος**)

聖書の中で 12 回 (マタイ 9:36, 14:14, 15:32, 18:27, マルコ 1:41, 6:34, 8:2, 9:22, ルカ 7:13, 10:33, 15:20) イエスの奇跡などの特別の活動の前、または、譬の中でイエスまたは主を想起させる箇所使われている。

- 憐れむ：(日本国語大辞典) i) いつくしむ。愛する。感心する。賞美する。あわれぶ。ii) 不憫に思う。同情する。また、慈悲の心をかける。恵む。あわれぶ。 - 一般的な日本語の意味
- マルコ 1:41 - 今回の箇所、重い皮膚病のひとが、ひざまずいて「みこころでしたら、きよめていただけるのですが」と言った時。
- マルコ 6:34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。マタイ 14:14 イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。 - このあとに、五千人の給食が続く。
- マルコ 8:2,3 「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。もし、彼らを空腹のまま家に帰らせるなら、途中で弱り切ってしまうであろう。それに、なかには遠くからきている者もある」。マタイ 15:32 イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。しかし、彼らを空腹のまま帰らせたくはない。恐らく途中で弱り切ってしまうであろう」。 - このあとに、四千人の給食が続く。
- マルコ 9:21-24 そこで、イエスが父親に「いつごろから、こんなになったのか」と尋ねられると、父親は答えた、「幼い時からです。霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。 - イエスに深く憐れむことを願っている。
- マタイ 9:35-38 イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。 - マルコ 6:34 と表現が似ているが、異なる文脈に置かれている。
- ルカ 7:11-14 そののち、間もなく、ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒に行った。町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。大ぜいの町の人たちが、その母につきそっていた。主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、「泣かないでいなさい」と言われた。そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいる者たちが立ち止まったので、「若者よ、さあ、起きなさい」と言われた。 - ナインで若者を生き返らせる
- マタイ 18:27 僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。 - たとえの中で、一万タラント^{*12}負債のあるものに対する王の言葉
- ルカ 10:33-35 ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。 - 善きサマリヤ人のたとえの中
- ルカ 15:20 そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思

^{*12} 1 タラントは、6000 ドラクメ (6000 デナリ相当)。1 デナリは一日の給料。

って走り寄り、その首をだいて接吻した。 - 放蕩息子のたとえの中での父

3.6.8 アラム語

3.6.8.1 新約聖書におけるアラム語の使用

- マルコ 3:17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。
- マルコ 5:41 そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。
- マルコ 7:11 それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、
- マルコ 7:34 34 天を仰いでため息をつき、その人に「エパタ」と言われた。これは「開けよ」という意味である。
- マルコ 11:9,10 そして、前に行く者も、あとに従う者も共に叫びつづけた、／「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。
- マルコ 14:36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。
- マルコ 15:22 そしてイエスをゴルゴタ、その意味は、されこうべ、という所に連れて行った。
- マルコ 15:34 そして三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

3.6.9 イエスの裁判・処刑

3.6.9.1 裁判

Q. イエスの裁判を福音書の情報を総合して出来るだけ順序を考慮に入れてまとめてください。

Grok3 beta [応答](#) [2025.2.21]

3.6.9.2 処刑日

Q. イエスの処刑の年月日の推測を根拠とともにしてください。

Grok3 beta [応答](#) [2025.2.19]

3.6.9.3 復活

Q. イエスの復活の証言を四つの福音書からリストし同じ時と思われるものをまとめ出来るだけ時系列にし、ガリラヤかエルサレムかも考慮してまとめてください。

Grok3 beta 応答 [2025.2.22]

3.7 イエスとその時代

荒井献著の岩波新書（青版）909 からの抜粋。出版年は 1974 年と古く、岩波書店の[ホームページ](#)によると絶版である。荒井氏もこのあと何冊も著しているので、決定版からは程遠いと思うが、よくまとまっているので、主として I. 方法と、II. 時代から、抜書する。また、海外の研究者の個別の視点・論点を述べた部分は、省略した。理由としては、私の個人的な理解がまったく欠けていることが大きい。おそらく、出版年以降での様々な研究上の進展もあるだろうし、個人的には、荒井献の主張も、根拠が十分ではないと思われる部分もあるが、おそらく、現在でも有力な説の一つだと思われるので、そのまま記す。

3.7.1 I. 方法

3.7.1.1 歴史的研究と方法

昨年（1973 年）の夏に私は、「最近のイエスの研究」と題する文章を『朝日新聞』の文化欄に公にした。これに対して読者から予想外に多くの意見が寄せられたことに驚いたものであったが、これらの中、キリスト者や仏教者の意見の大半が、イエスに関する歴史的研究それ自体に疑念を表明していたのである。彼らによれば、「イエス・キリスト」のような存在は、信仰を媒介として実存的にしか把握しえず、歴史的方法をもってしては、究極のところキリストを「物」に化してしまうのではないか、というのである。

他方、昨年から今年にかけて、イエスを素材にした文学作品、演劇、そして映画などが、例年になく多くわが国において公にされた。これらの中、遠藤周作『イエスの生涯』は、私どもとして見過ごすわけにはいかない。著者自身がこの作品を歴史研究の成果でもあると謳っているからである。

さて、この作品の中で遠藤は、イエスに関わる事実と真実を区別して、事実よりむしろ真実を前景に押し出す。このような立場は、文学者ならばある意味で当然とすべきものであろう。しかし遠藤が、イエスの復活は真実であるばかりでなく事実である（と少なくとも信じたい）のに対して、処女降誕は事実ではないが真実であり、奇跡行為は事実でも真実でもない主張する時、彼は歴史に対して彼にとっての真実を押し付ける結果になるのではなからうか。もしそうならば、むしろ歴史研究の衣を脱ぎ捨て、わたしの文章に批判的意見を寄せてくれた人々に習い、歴史的方法によってはイエスの真実は捕らえ得ない、と言い切った方が正直というものである。

いずれにしても、イエスのような存在に対しては歴史的方法によって接近することができないという人々の多くは「歴史」というものに対して予断と偏見を持っているように思われる。もっとも、このような事態を引き起こした責任の大半は、いわゆる「歴史学者」の側にあることは事実であろう。彼らもまた、資料の積み重ねだけで

歴史とはならず、資料に対する歴史家の解釈を通して初めて歴史は再現されることを知ってはいる。しかし彼らの多くが、資料解釈は歴史の法則的因果関係を捉えるという科学的歴史叙述の目的に使えなければならないという立場に固執しているように思われる。私見によれば、歴史はとりわけそれが人間個人の歴史である場合、いかなる意味においても「法則」の中に押し込まれうるものではない。なぜなら、人間の固有性は他ならぬ「法則」を踏み越えたと所において露わになるものだからである。

以上の事柄に関連して注目すべきは、「歴史小説とはなにか―史実と虚構の間―」と題する菊地昌典の論文である。菊地は自ら歴史家でありながら、あるいはそうであるからこそ、敢えて「詩人と歴史家は、けっして異母兄弟ではなく、シャム双生児なのである。」と言い切っている。すなわち、歴史家にとって、史料と史料とを結合して歴史を構築する際に不可欠な歴史解釈は、当然のことながら史料そのものの制約を受けるにしても、しかしそれは「詩人のイマジネーション」と決して異質なものではない、否、そうあってはならないのである。他方詩人は、もしも同時に歴史小説家でもあることを志すならば、「イマジネーションが歴史である」などという幻想から自由になるべきである。歴史家にしても歴史小説家にしても、「過去は、過去として語らしめることによって、現在との対話が成立しうるのである。過去の衣装をまとった現代人の説法は、ただ、現代のありふれた説教にすぎない。しかも、その説教は巧妙にも、決して講壇の上から下をみおろす型をとるものではない」。

この発言は、現代の歴史家および歴史小説家に対する痛烈な批判である。もっとも私には、菊地が歴史叙述と歴史小説とをあまりにも接近させ過ぎているように思われる。私見によれば、菊地が歴史家に要請する「詩人のイマジネーション」は、歴史家の歴史叙述にとって必要な手段ではあるが、それ自体が決して目的であってはならない。歴史家の本領は何と言っても緻密な史料批判にあり、それを「歴史」に構成する「史観」の原基とも言われるべき想像力は、史料批判の結果によって常に制限される用意がなければならない。他方、歴史小説家にも「過去は過去をして語らしめる」という禁欲の精神が要求されるけれども、彼の生命は、作品を「創作」たらしめる想像力にかかっている。

いずれにしても、菊池が指摘しているもう一つの重要な事柄は、「史観」がそれを軸にして展開すべき「視座」の問題であろう。「重要なことは、どの階級のどのような人間、具体的な人間に焦点をあて、視座を設定するか、にある。私は、歴史の最下部によどむ人々こそ、もっともその時代相を刻印された人々ではないか、と考える。皮肉に言えば、この最下層の庶民こそが、もっとも歴史のはかなさを表層の動きとは別の次元で実体験している階層に当たるのではないかとさえ思う。だが、この最下層から俯仰して歴史をみる姿勢を、史実によってうちかためる作業は、その庶民が無告の群れであることによって、不可能に近い。ここでは、史実の不足とイマジネーションの膨張が要求され、それがためにまた安易な階級的人物として描かれやすい。」

後で指摘されるように、イエス自身は「最下層の庶民」に属してはいない。しかし、彼の思想と行動は、私の見るところでは、徹頭徹尾この「庶民」との連帯を志向するものであった。この想定に基づいて、私は「イエス」を史実に復元する際に「庶民」に視座を設定するつもりである。もちろん、「無告の群れ」に言葉と状況を取り戻すことは「不可能に近い」。しかし、福音書の厳密な史料批判と想像力によって、「不可能に近い」事柄をいくらかでも可能性の領域に近づけることが、歴史叙述を試みる者に課された、苦しいけれどもやりがいのある仕事ではなかろうか。

さて、菊池が歴史家に要求する「詩人のイマジネーション」を、先に触れた私の小論に批判を寄せてくれた人々

のいわゆる「信仰」に置き換えたら、またまた敬虔なクリスチャンの顰蹙（ひんしゅく）をかうことになるであろうか。実は私自身、右の小論の中で、まさにこの意味を込めて次のように書いておいたのである。「勿論、いかなる場合にも、歴史上の人物を現代に再現するためには、それを試みる人の優れた想像力（資料解釈）を必要とする。しかし、少なくともそれが歴史的になされる場合には、緻密な資料批判を踏まえなければならない。」それでも、信仰という真面目な事柄を、歴史家の、いわんや歴史小説家の想像力などというものと混同されては困る、といわれるかもしれない。しかし、イエスに関する最も重要な資料を私どもに提供している福音書記者たち自身が、まさに彼らの福音信仰を想像力に転化して『福音書』を創作しているのである。

このように書くと、今度は、「福音書は創作ではない」と言われるであろう。それならば、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書、それに最近発見されたトマス福音書を加えて、これら五つの福音書を相互に比較しながら読んでみるとよい。各福音書記者が同じイエスのことを書いているのに、各々の福音書に描き出されているイエス像は、確実に異なっているものではないか。このようなイエス像は、確実に異なっているのではないか。このようなイエス像の多様性は何に由来するのであろうか。その理由の一つに、各福音書記者によって採用されたイエスに関する伝承資料が異なっている事実があげられる。しかし、このことは決定的な理由にはならない。なぜなら、例えばマタイとマルコ（HS ルカ？）は、共通したイエスの語録資料に依りながら、全体として異なるイエスの言葉を、それぞれの福音書の中で読者に提示しているからである。とすれば、イエス像の多様性は、各福音書記者の史観と視座の設定点の相違から以外に説明のしようがないであろう。そして、この史観と視座の設定の仕方は、各福音書記者の信仰の持ち方、想像力の内実によって設定されているのである。このように見てくると、もし福音書を現代における文学類型にあてはめることを許されるとすれば、それは、「歴史記述」というよりは、むしろ「歴史小説」に近いのではないかと思われる。これは何も福音書に限ったことではない。古代や中世の歴史記述、例えばヘロドトスの『歴史』（ペルシャ戦争史）にしても、我が国の『鏡』文学にしても、現代の歴史よりは「歴史小説」に近いのである。そこでは、現代史学のいわゆる史料批判は必ずしも行われておらず、他方、歴史作家の信仰や道徳観に方向づけられた想像力の所産と思われる部分が極めて多い。

要するに私は、イエスに対して歴史的に接近する際に、信仰を排除すべきであるなどと思っていない。信仰が想像力として機能する限り、それはイエスの史的復元にとって不可欠な要素である。問題は信仰の内実であり、その視座をどこに置くかということである。

3.7.1.2 「史的イエス」の問題

実は、今世紀の聖書学のみならず神学一般にとって最大の問題となった「史的イエスの問題」が、右に述べたことと深く関わっているのである。この問題は、ドイツの代表的な新約聖書学者 R・ブルトマンが、原始キリスト教団の信仰にとって本質的な事柄は、彼らによって宣教されたキリスト、いわゆる「宣教のキリスト」であって、「史的イエス」では必ずしもない、と提言したことに端を発している。この提言は、資料批判によって客観的に史実を再建できると夢見た歴史主義の立場と、これに依拠して史実のイエスを信仰の根拠として要請したいいわゆる「自由主義神学者」に対する痛烈な批判であった。他方においてこれは、原始キリスト教史家としてのブルトマンが自ら福音書に史料批判を試みた結果でもあったのである。すなわち、福音書記者たちが資料として利用した伝承そのもののうち、伝承形式の目的は伝承者の信仰に基づくキリストの宣教にあったのであり、彼らはイエスに

対する「史的」興味を最初から持っていなかったことが確認される。そして、福音書記者たちはこの伝承を受容して、それぞれに固有な立場から「福音書」著作したのであるが、その際に彼らは、伝承者の宣教目的を前景に押し出した。それ故に、「史実のイエス」は「宣教のキリスト」の史的前提ではあるが、前者が後者を本質的に規定する事柄ではない、というのである。以下に、主としてブルトマンの系統に連なる聖書学者たちの「史実のイエスの問題」をめぐる論争の経過を、本書の「方法」との関わりにおいて短く報告することにしよう。

問題は、原始教団の「宣教のキリスト」と「史実のイエス」とがブルトマンの主張する意味において断絶しているのか、それとも、ブルトマンの主張を生かしてもなおかつ継続しているのか、ということである。ここで確認しておくべきは、以下に紹介する学者たちはすべて、福音書記者における福音書執筆の目的、あるいは伝承者における伝承形式の動機を無視した上で、「没主体的に」「客観的に」再構成された「史実のイエス」には決別しているということである。そのような「イエス」は、現代史学の立場から見て存在しないのであろう。

(略)

わが国では八木誠一が「神の国」に直面して生きたイエスの実存理解は、「キリスト」にあって生きた原始教団の人々の実存理解の中に、彼らの復活信仰を通して間接的に伝達されたと主張する。(中略) 彼によれば、人間実存の根底にはいかなる意味においても歴史の内にはあってはならない。それは、超越的存在としての神であるが、同時にそれは、人間に対して歴史を超えながら人間実存をその中に生起せしめる「統合への規定」として働く。これをイエスは「神の国」の中に、そして原始教団の人々は「キリスト」あるいは(神の)「ロゴス」(言葉)の中に見出した。さらに、このような、人間実存を生起せしめる「本質原理」としての「統合への規定」は、元来普遍的なものであって、キリスト者のみならず、一もちろん彼らとは違った形式においてはあがあるがたとえば仏教者もまた知っていた。こうして八木は、「統合への規定」に即して生きた一人の例として『イエス』を私どもに提示したのである。

(略)

このような傾向に対して、激的な批判を展開しているのが、我が国の最も個性的な聖書学者田川建三である。彼は元来、フランスの聖書学界では最もブルトマンに近く立つトロクメのもとで学んだのであるが、帰国後の赤岩栄との出会い、大学闘争、キリスト教主義大学からの追放という経験と、彼独自の新約学およびマルクス研究の成果とが相俟って、既成のキリスト教、とりわけパウロ主義の中に「現実と観念の逆転」を見出し、キリスト信仰それ事態の止揚を提言する。田川によれば、イエスの言葉の神学的・実存論的解釈をもってしては、イエスを古代の歴史的な文脈の中に位置づけることはできない。いわんや八木のごとく、「統合の規定」を視座に据えては、それがいかに論理的に整合していても、実際には、イエスを歴史から切り離して、その一般化・観念化を助長する結果となる。こうして田川自身は、エルサレムというユダヤの首都を中心にしてイエスの弟子ペテロの指導下に成立しつつあった原始キリスト教の主流に対し、ガリラヤという辺境における民衆の立場から批判を加える作業として「福音書」を創出したマルコの立場を高く評価する。そして彼は、このマルコの作業を彼なりに徹底する形で、イエスの言葉伝承を、奇跡物語伝承を媒介として、歴史的ひろがりの中に取り戻すことにより「逆説的反抗者」としてのイエスの生と死の再現を試みるのである。

私には、マルコが直接ペテロの指導下にある弟子集団を批判したとは思われないし、イエス自身に志向した「現実」がパウロによって「観念」に完全に逆転されたとも必ずしも考えられない。しかし、マルコとパウロとでは、

イエスに関わるべくとられた視座に、明らかに相違があることは認められなければならない。私見によれば、マルコは死に極まったイエスの世に、それに対してはパウロは世の「低み」としてのイエスの死に、それぞれ視座を設定した。しかも、マルコは、大別すれば、イエスの言葉伝承と奇跡物語伝承に依っており、パウロはこれらの伝承系列とは必ずしも交わらない、イエスを「キリスト」と告白する「信仰告白伝承」に依っている。とすれば、マルコを始祖とする福音書文学を資料としてイエスに接近する際に、また、ブルトマン学派の多くに見られるように、パウロの視座に自らのそれを重ねることは方法論的に正しくないであろう。また、ブルトマン学派の描く『イエス』には、当時の社会的構造とイエスとの関わりが見事に落ちていることも、田川の指摘する通りである。これは、彼らが採用する実存論的方法が史的方法としては有効に機能しない証拠となるであろう。ただ、田川の場合、彼の立場から、ペテロやパウロのみならず、マルコ以前のイエスに関わる伝承をも批判の対象とする際に、伝承批判からイエスの思想を結論するに急で、伝承それ事態の歴史、伝承の担い手の変化、その背後に想定される社会的要因、とりわけ伝承史とイエスとの関係等についての緻密な考察に欠ける憾みがある。もう一つ、果たして田川のごとく、イエスをその生活の基盤においてのみ追体験することにより、換言すれば、そのような基盤の上に構築されたイエスの神信仰を批判的に止揚することによって、イエスの行動と思想を全体として理解できるのかどうかを問わなければならないであろう。この問題は本論に譲ることにして、ここでは伝承から史的イエスへ接近する方法の可能性を明らかにしておかなければならない。

3.7.1.3 福音書の伝承史

ブルトマンによれば、マルコ（60年代）が採用したイエスに関わる伝承は、その「様式」に従って次のように分類される。

A. イエスの言葉

1. アポフテグマ（イエスの言葉に、伝承の過程で、言葉の語られた史的状況が、物語形式で事後的に付加されたもの）
2. 主の言葉（状況描写なしに、単独に伝承されたイエスの言葉）

B. 物語資料

1. 奇跡物語
2. 歴史物語

さて、マタイとルカ（共に70－80年代）は、右のBの多くとAの若干のものをマルコに負い、その他に両者共通してイエスの言葉資料（これをドイツ語で「資料」を意味する Quelle の頭文字をとって「Q 資料」と呼ぶ）を利用し、これらにマタイおよびルカに固有ないわゆる特殊資料を加えてそれぞれの立場から福音書を編集した。

ヨハネ（90－100年）は、右のA、B、およびQと重なる部分をも採用しているが、その多くは、おそらくBの1と部分的に重なり、しかも、ヨハネの時代には文書として存在していたと思われる「しるし資料」に依っており、他方、共観福音書（マタイ、マルコ、ルカ福音書を、観点を共にする福音書とみなして「共観福音書」と総称する）の場合とはかなり様式を異にするイエスの言葉（たとえば「私は・・・である」という宣言定式、イ

エスの「離別の言葉」等）を利用して、共観福音書とは異質の視座から福音書を著作している。

（略）

さて、M・ディベリウスは、福音書の「様式史」的研究により、右にあげた伝承様式の背後に、このような種々の様式を生み出した伝承者の「生活の座」として、原始教団の意図的業を確認した。すなわち、Aの1およびBの1の背後に「宣教」、Aの2の背後に「教え」、Bの2の背後に「礼典」という、教団の「生活の座」があった、というのである。こうして、もしも伝承そのものが、教団の宣教、教え、礼典という意図的な業に仕える形で、その様式が形成され、それに内容が盛られ、言い伝えられて行ったとすれば、伝承は、教団の設立以前に活動したイエスとは、必ずしも直接的に連続しないことになるのである。

これに加えて、近年、福音書の研究に「編集史」的方法が導入され、伝承資料に対する核福音書記者の編集作業と編集の視座に見られる彼らに固有な思想が確認されている。さらに、近年になると、福音書伝承そのもの一とりわけQーの中に、伝承の担い手としての教団による編集部分を想定することにより、それを手がかりとして、いわゆる「Q教団」の思想が明らかにされている（S・シュルツ）。このような研究の成果は、福音書を史料として試行されるイエス像の史的復元をますます困難なものにする。なぜなら、福音書のイエス像は、編集史的にみれば、各福音書記者伝承を担う各個教団に固有な視座から描き出されたイエスの諸像であって、それは必ずしもイエスの原像とは重なるものではないからである。

従って、以上のことを十分認識した上で、現在できる限り史的『イエス』を執筆しようとするれば、たとえばトロクメのように、右にあげた伝承の様式に準拠して、そのような伝承様式を担った集団のイエス像を並列的に書かざるを得ないことになるであろう。実際トロクメは次のような順序で『イエス』を描いている。『主の言葉のイエス』『アポフテグマのイエス』『物語伝承のイエス』『譬話のイエス』『奇跡物語のイエス』『公人としてのイエス』『イエスは誰か』さらにトルクメの採った方法の新しさは、譬話伝承を担った集団の背後に小市民層を、奇跡物語伝承を担った集団の背後に民間伝承の担い手としての農民層を、それぞれ想定していることである。しかし、彼は残念ながら、このような伝承者と特定の社会層との結びつきを、伝承様式の全体に至るまで徹底させていない。これが後に述べる私どもの方法の一つの課題となるであろう。

さて、このようなイエスの史的復元を試みる者にとっては極めて悲観的な福音書研究の傾向を踏まえながらも、なおかつイエスに対する史的接近への道を方法論的に切り開く可能性が少なくとも私には残されていると思うのである。

その一つは、田川建三が指摘するように一編集史的方法によって確認されたマルコの史観が、その視座がガリラヤの民衆に据え、イエスの言葉伝承に、奇跡物語伝承を介して、史的状況を取り戻すことに仕えたとすれば、いずれにしてもマルコ福音書は、その成立年代が他の諸福音書に先行している事実からしても、イエスに史的に接近する史料として、比較的に信頼性に富むということである。

次にマタイ福音書は、イエスの教えを旧約の律法の完成とみなすマタイの視座から編集されたことが、編集史的研究によって明らかにされている。ところがこの福音書には、ユダヤ人としてのマタイに即するイエスの言行ーここにはユダヤ主義的傾向が強く出ているーと並んで、これとは全く逆の傾向を示すイエスの言葉、例えば、「汝の敵を愛せよ」というようなその史的信憑性を否定し得ないような言葉もそのまま含まれているのである。この

ことは、マタイ福音書がマタイ個人による強力な編集作業として成立したというよりも、むしろマタイが所属する教団内の諸処の立場を並置しながら、最終的にはマタイ自身がその視座から纏めようとした結果であるとみなすべきであろう。とすれば、マタイの編集作業からイエス伝承をとり戻すことによって、比較的に信頼性のある史料を確定していくことが、編集史的研究の結果、かえって可能になったことになる。

ルカ福音書の場合、ルカは神による救済の歴史の中心に「時の中心」として「キリスト」を据え、キリストの「十二使徒」によって担われたエルサレム原始教団の歴史の中に「真のイスラエル」の完成を見出しながら、「時の中心」から「原始教団の歴史」を質的に区別している。そしてルカは、このいわゆる「救済史観」から、イエスの個人志向性を、それに対して使徒たちの共同体（教団）志向性を、それぞれ質的に異なるものとして対照的に描き出す。もちろん、その際にルカは、例えば個人的志向性を示すイエスの言葉に、ルカに固有な共同体倫理の視座から手を加えて、福音書の中に編集している。しかしルカが「失われた一匹の羊」の譬話の原型や「よきサマリヤ人」の譬話のごとき、他の福音書にはない、しかも極めて信憑性の高いイエスの言葉を自らの福音書の中に導入することができたのは、ルカがとりわけイエスの個人志向性を強調しようとした結果なのである。

他方、ヨハネ福音書においてイエスは、十字架を通して天に挙げられた「栄光のキリスト」の「しるし」として描き出されている。そしてここでも、イエスの業はヨハネの解釈に基づく編集を経て再現されている。しかし彼は、幾つかの場合、イエスの業に関する伝承を原型のまま残して、その解釈を、一ヨハネの志向する方向にはあるが福音書の読者にゆだねている。

最後に、トマス福音書には、トマスの思想をイエスに帰している言葉や、共観福音書に並行するイエスの言葉にも、トマスによる編集の手を加えられた部分がかかなり多く認められる。しかしこの福音書には、少なくとも形式的には共観福音書の伝承とほとんど異ならない、あるいは、伝承史的にはそれよりも古い段階を示す言葉も保存されているのである。これは、トマスの目的がイエスの言葉の解釈をトマスの志向する方向に一読者に促すことにあるのだが、その解釈がトマスの手を加えなくても可能な場合は、イエスの言葉を伝承のままで提示した結果であろうと思われる。

いずれにしても、イエスの言行を伝承史的研究のみによって確定することは不可能である。伝承は、例えばその原型が復元されたとしても、イエス自身が自らの言行に関する記録を残していない限り、彼の振舞の、伝承者の振舞を通して行われたロゴス（言語）化であり、その意味で二次的だからである。このことは、特にイエスの言葉伝承に妥当するであろう。

とすれば、イエスの原像の史的復元を試そうとするならば、イエスの振舞の中で史的蓋然性の最も高い部分から問題を立て直さなければならない。十字架の史実性は、キリスト教以外の資料（F・F・ブルース）から見ても、まず否定できないであろうし、イエス伝承も、たとえそれが断片的に伝えられていたとしても、究極的には十字架刑に極まるイエスの振舞の「ロゴス化」であった。他方、イエスの奇跡伝承や、言葉伝承と全くその性質を異にする受難物語伝の古層から見ても、イエスがこの十字架刑に至る道として、当時社会的に差別されていた「罪人」と同行したこと、そして、そのような振舞が、この人々を差別することによって自らの社会体制を維持したユダヤの最高法院勢力と、その宗教的＝経済的拠点としての神殿を批判するに至らせ、ついにはその背後に立つローマ国家権力の介入せしめる結果を伴ったこともまた、史実として否定しえないと思われるのである。

従って、以上の前提からイエス伝承の史的信憑性を問おうとすれば、それが一方において伝承史的に最古の層に

遡るか否かが、他方においてそれが十字架刑に極まるイエスの振舞に即応しているか否かが問題にされなければならない。そして、私どもには、この条件を満たしている伝承の古層に、比較的信憑性のあるイエス資料を見出すことが許されるのである。

3.7.1.4 歴史家のイエス研究

以上の方法論的成果を踏まえた上で、私どもは、最近の歴史家のイエス研究と、それに対する聖書学者たちの反応を検討しておくことにしよう。

(略)

以下において私は、できる限り厳密な史料批判によってイエスの伝承の古層を掘り起こし、これを史料として、この伝承を担った人々―彼らはいずれにしても庶民層に属する―に視座を据えながら、十字架の死に極まったイエスの振舞に、この時代の歴史、とりわけ社会構造との関わりにおいて接近を試みるであろう。そのためには、まずイエスの時代の歴史的一宗教史的諸相を全体として把握しておく必要がある。

3.7.2 II. 時代

3.7.2.1 イエスの誕生と没年

イエスはおそらくヘロデ王治世（BC37-4）の末期に、ガリラヤの町ナザレに生まれ、紀元後 30 年頃ユダヤの都エルサレムにおいて、ローマのユダヤ総督ポンティウス・ピラトゥスにより十字架に処せられたものと思われる。

(略)

次に問題になるのは、イエスの誕生地である。伝統的には、マタイ福音書 1-2 章とルカ福音書 2 章に従い、イエスはユダヤの町ベツレヘムで処女マリアから生まれたと信じられている。しかし、最古のマルコ福音書も、その大部分がマルコ福音書以前に書かれたパウロの手紙も、さらには福音書の中で最も後期に著されたヨハネ福音書も、ベツレヘムにおける処女降誕について何も証言していないのである。そればかりか、ヨハネ 7:41-43 では、イエスがキリストならば、ダビデ王の子孫としてダビデの誕生地であるベツレヘムから出て来なければならないのに、イエスの出身地はガリラヤである、と主張されている。他方、マルコ 12:37 のみならず、マタイ 22:46、ルカ 20:44 さえもが、イエスがダビデの子孫であることを否定しているのである。これらの箇所には、イエスが「人の子」または「主」として、すなわち超地上的存在と信じられており、イエスはたとえ「キリスト」であっても、ダビデ王の子孫に連なる単なる地上の王ではないという主張が認められる。しかも興味深いのは、マタイやルカの伝える処女降誕物語自体の中に、一方においてイエスが「ダビデの子」としてベツレヘムに生まれたという伝承と、他方においてイエスの超地上的存在として処女から降誕したという伝承が重なっていることである。もし、イエスが処女から生まれたのなら、どうしてイエスと、そしてマリアとも関係がないはずのヨセフの系図をダビデにまで遡らせる必要があるのだろうか（マタイ 1:1-16、ルカ 3:23-38）。もっとも、それをマタイは、ダビデを超えてアブラハムにまで、そしてルカはさらに神にまで遡らせているのであるが。このような処女降誕物語には、イエスを「ダビデの子」キリストとして信じる信仰が、おそらくそれに対するユダヤ教側からの批判に促されて、イエスを「神の子」キリストと信じる信仰によって超えられていく伝承の過程、あるいは福音書記者た

ちの編集の跡が認められる。従って、史実としては、全福音書が一致してイエスについて用いている術語「ナザレ人」あるいは「ナザレ出身者」を文字通りにとって、イエスの出身をガリラヤのナザレとみなすべきであろう。

いずれにしても、私どもにとって重要なことは、イエス時代の政治的・社会的・宗教的背景を、できる限り正確に把握しておくことであろう。

3.7.2.2 政治的背景

ユダヤの南に隣接するイドマヤ出身の「半ユダヤ人」ヘロデは、その血統・権力欲・残忍な性格故にユダヤ人からは憎悪の対象とされていたが、彼の卓越した政治手腕によって親ローマ政策の功により、ローマ皇帝アウグストゥスから「盟邦の王」(rex socius)の称号と地位とを与えられて、約30年間、パレスチナ全域にその権勢を誇った。しかし彼の没後、この地域は、アウグストゥスの承認を得て彼の三人の息子に分割されることになる。すなわち、ユダヤとサマリアとイドマヤはアルケラオスに、ガリラヤとペレアはアンティパスに、イツリアとテラコニテを含む来たトランスヨルダン地方はフィリッポスに一。その際彼らには、父ヘロデの如く「王」の称号は与えられず、アルケラオスは「民族指導者(エスナルケース)」、アンティパスとフィリッポスはそれより一段位の低い、「分封指導者(テトラルケース)」の称号を得るにとどまった。そして、アンティパスは紀元後39年まで、フィリッポスは34年までこの地位を保ったが、アルケラオスは既に紀元後6年にユダヤから追放され、以後彼の領地はローマ皇帝直轄属州に編入され、「ユダヤ州」としてローマの総督(Praefectus または Procrator)によって直接治められることになる。

とすれば、イエスがその公生涯を送った時期(28/29-30年頃)は、ガリラヤでは、ヘロデ・アンティパスの、ユダヤではローマ総督の治世下に当たることになる。イエスはその生涯の大部分をガリラヤで送ったのであるし、ガリラヤはユダヤに比較して、風土的にも社会的にも固有性を持っていたことは事実である。しかし、政治的・宗教的にガリラヤは、圧倒的にユダヤの支配下に立っていた。すなわち、政治的にはガリラヤの領主ヘロデ・アンティパスもローマのユダヤ総督の傀儡に過ぎず、宗教的にはガリラヤも徹底的にユダヤ教化されていたのである。このことを念頭に置いて、私どもはまずユダヤの状況から考察していくことにしよう。

ユダヤとサマリアの領主アルケラオスは、度重なる失政、とりわけ彼のユダヤ教大祭司に対する弾圧政策と不法な結婚の故に、たえずユダヤ人の反抗を受けていたのであるが、ついにユダヤ人の支配者(貴族祭司と大土地所有者)が不倶戴天の敵サマリア人と組んでアルケラオスを皇帝アウグストゥスに讒訴するに至った。皇帝はこれを受けて、アルケラオスのその領土内における財産を没収したうえで、かれをガリアに追放する。このようなユダヤ人支配層とローマ皇帝との容易な結びつきは一見奇異に思われるかもしれない。しかし、実はここで、両者の利害が一致していたのである。既に紀元前4年に、すなわち、ヘロデ王が没した年に、ユダヤの支配層は、ユダヤ教徒は神以外に王を戴かないという理由で、パレスチナをローマのシリア州に編入してもらおうべく皇帝に願っていたのである。この種の請願は、表面的には宗教的にもっともらしさを装ってはいるが、しかし実際には、ユダヤ人の富裕層が自らの財産をヘロデ家の蚕食(「カイコが桑の葉を食うように」端から次第に奥深く他の領域を侵略すること。)から守ろうとする自衛手段であったのである。彼らの請願は実現しなかった。しかしこの度は、この種の請願が、無能な領主の仲介と中間搾取を経ずにユダヤ地方を直接支配下に置こうとしていたローマ側の利益とまさに一致することとなったのである。ローマ皇帝は、ユダヤ人支配層に信仰の自由とある程度の自治を認め、彼らの財産に保護を加えることを約束したが、実際にはアルケラオスの旧領地をシリア州に編入す

することはできず、むしろこれを、シリア州とならぶ皇帝直轄属州、いわゆる「ユダヤ州」にして皇帝の直接支配下に置いたのである。こうして、ユダヤ人の一部特権階級は皇帝の保護下に「平和」を享受したが、大部分のユダヤ民衆は、アルケラオスの治世下よりもまして、新しくローマ側からも課される重税に耐えざるを得ない窮状に陥れられたことになる。ガリラヤのユダが戸籍調査拒否をスローガンに一揆を起こしたのは丁度この年に当たるが、この問題については後にふれることにする。

これ以後、ユダヤ州はローマ総督によって統治されることになる。ポンティウス・ピラトゥスはユダヤ州の五代目の総督に当たり（26-36 年在職）、この時代になると皇帝はアウグストゥスからティベリウス（14-37 治世）に変わっていたが、ピラトゥスは、ローマでの皇帝以上の実権を振るっていた親衛隊長セヤヌスの庇護をも得て、ユダヤ人に対して弾圧政策を貫いていたのである。

（略）

さて、ローマの総督がユダヤ州において所有していた最大の権限には徴税権があった。これは「戸籍調査」によって課せられる人頭税・地租の直接税と、移動税・市場税などの間接税から成っており、ローマの大商人「徴税請負人（プブリカーニ）」によって、一直接的にはその出先機関であるユダヤの「取税人」によって一徴収され、直接皇帝財庫（フィスクス）に入れられたのである。軍政面では、ユダヤ州総督は五つの「千人隊（コホルス）」からなる「補助軍（アウクシリア）」を掌握し、その中四コホルスを総督の常駐するカイサリアに、一コホルスをエルサレムに配していた。この他に、司法権としては、イエスの時代におそらく、政治犯に対する死刑執行権をもっていたはずである。そして、これらの職権以外の一切はユダヤ人の自治機関である「最高法院（サンヘドリン）」に委託されていたのである。

ユダヤ最高法院の頂点には「大祭司（アルヒエレウス）」が立っており、この職にある人物は「ユダヤ人の元首（プリンケプス）」といわれるほど絶対的権力を、少なくともユダヤの民衆に対しては掌握していた。大祭司職には、伝統的にはサドク家の子孫がついていたのであるが、ハスモン王朝時代（BC134-63）には王が大祭司を兼務し、ローマのポンペウスにより王制が廃止された（B63）以後も、またヘロデ家の治世中も、いずれにしても時の為政者の傀儡的存在ではあったが、ハスモン家の者が、この職をまもっていたのである。しかし、紀元後 6 年にアルケラオスの領地が皇帝直轄属州に編入された時点において、反アルケラオス運動の功績を認められたアンナス（サドカイ派の貴族祭司）が、シリア州総督クイリニウスによって大祭司職に任命され、以後彼はローマ当局の絶対的信任を得て、彼がこの職を下りた（AD15）以降も、五代の長きに亘ってアンナス家から大祭司が選ばれ、イエスの時代の大祭司カヤパ（AD18-36 在職）の時も、実際にはむしろアンナスが大祭司としての実権を握っていたのである。

いずれにしても、最高法院ではこの大祭司の下に八ないし十名からなる最高評議員会組織があり、その後世メンバーが「祭司長たち（アルヒエレイス）」または「役人たち（アルコンテス）」と呼ばれた。この職は貴族祭司と貴族信徒（いずれも大土地所有者）によって占められ、前者は神殿における祭儀執行の長を、後者は神殿守衛隊長と神殿財務管理の役目を果たしていたのである。しかも、大祭司が執務不可能な場合には、この役を神殿守衛隊長が代行することになっていた。もちろん、彼の本職は神殿守衛隊を統率することにあつたのであるから、当時のユダヤにおいては宗教（立法・司法）と政治（行政・軍事）がいかに密接に結びついていたかが分かるであろう。他方、神殿財庫管理者はいわゆる「収穫の初穂」、さらに祝祭日毎に、一特にディアスポラ（国外在移）の

ユダヤ人から一奉納される莫大な数に昇る貢物の他に、二十歳以上のすべてのユダヤ人から毎年徴収する神殿税（いわゆる「ニドラクマ」）を管理運営することにより、ユダヤ国内の財務を担当したのである。さらに、神殿に仕える祭司たちの生活を支えるために、下級祭司「レビ人」を遣わしてイスラエルに伝統的ないわゆる「十分の一税」を民衆から取り立てていた。その上に、なお東方にあってローマ帝国と対峙していたパルティア王国とユダヤ当局との間には親交があり、パルティア王国からユダヤ神殿にかなりの貢物が搬入されていた、と言われる（C. コルペ）。

最高法院は大祭司を頭として彼の他に七十人の議員によって構成されている。それは、右の祭司長たちまたは役人たちの他に、「長老たち」と「律法学者たち」から成っていた。前者は貴族信徒（大土地所有者）、後者は主として小市民層の利益を代表する。そして、前者が与党的、後者が野党的性格を持ち、前者の多くが「サドカイ派」に属し、後者の中の同志的結合グループに、有名な「パリサイ派」があったのである。

3.7.2.3 サドカイ派とパリサイ派

サドカイ派の呼称は、イスラエルにおける最古・最大の大祭司「サドク」に由来するといわれる。また、一説によるとこの呼称は、「義を行使する」意味のヘブライ語「サドック」に遡るとも言われる。いずれにしても彼らは、伝統主義・保守主義の立場をとり、「モーセ律法」ないしは「モーセ五書」のみを聖文書として、ここに認められない、あるいはこれ以後の時代に成立したと言われる新思想—例えば律法の敷衍解釈による法の細則・天使論・復活思想など—を一切認めなかった。もっとも、政治的には、彼らがユダヤ社会の経済的上層と密着していただけに、外国支配勢力に対しては一般的に協調策をとっている。そのために、たとえば復活思想の否認は、当時における世界体制の思想であるヘレニズム・ローマ思想を受容した結果であるとも説明できる。その意味で、サドカイ派の保守的国民主義は自由主義として機能することもできたのである。実際この派は、紀元前 66 年にはローマ軍から神殿祭儀を守り、信教の自由を確保して確保してはいる。しかし、イエスの時代には、ローマの傀儡的存在であったアンナス家の大祭司、祭司長たち、長老たちと密着することにより、体制を思想的に擁護する役割を果たしていたのである。

これに対して、「パリサイ派」は「分離者」を意味するヘブライ語「ペルーシーム」に由来するといわれる。彼らは実際、律法を守らない者、いわゆる「地の民（アム・ハ・アレツ）」の不浄から自己を「分離する」ことによって、宗教的清浄の理念を世俗内に貫徹し、その場を彼らの同志的結合「ハーベール」の中に形成していった。その際、彼らがとった手段は「律法」の敷衍解釈であった。その目的は元来、古き律法からその「理念」（ラティオ）を取り出し、それを解釈することに依って新しい時代に生かそうとする、律法のいわゆる「合理化」（ラティオナリゼーション）にあったのである（M. ヴェーバー）。彼らが、サドカイ派と違って、天使論や復活信仰を積極的に受け入れたのも、モーセ五書に固有な「神の使い」（天使）の概念や一元的人間観を、ペルシアから導入された新思想や、マカベア戦争（対シリア解放戦争（BC168-164））による殉教者の排出という新事態に即応せしめて解釈した結果なのである。このような法理念の現実的解釈に依拠する彼らの合理主義は、他国支配勢力に寄りかかった法の精神を曖昧にするサドカイ派、また、法を遵守しない「地の民」から自らを分離しただけではなく、マカベア戦争時代とともに「敬虔派」（ハシーディーム）としてシリアに対する抵抗運動を担ったかつての彼らの同志、いわゆる黙示文学的ラディカリストたちからも快を分かっていた。このラディカリストたちは—後述するように彼らの中にも種々の分派が存在するが—終末の時に救世主（マスーアハ（メシア）＝キリスト（ギリシャ語）、本

来は油注がれた者、つまり「王」の意）によって導入される神の国の故に、現実における一切の政治的・宗教的妥協を拒否し、その結果として霊的熱狂に基づく予言活動を行っていた。これに対してパリサイ派は、預言者の時代は既に終わったという認識に立ち、法理念のこの世における貫徹の中に神の国の建設を期待したのである。その結果、律法とその解釈に基づく細則を守らない者は救われないという、いわゆる律法主義に陥る傾向は十分にあったが、この傾向が前景に出てくるのは紀元後 70 年以後に、この派がユダヤ教正統派の位置についた以後のことであって、イエスの時代にこの傾向を読み取ることは、慎重でなければならない。なお、主としてパリサイ派出身の律法学者たちは、「教師（ラビ）」と呼ばれて、ガリラヤを含む地方の各地に設立された「会堂（シュナゴーグ）」で礼拝を司どり、民衆に律法の教育を与えた。最高法院においては、長老たちが保守勢力を代表したのに対して、彼らは都市（主としてエルサレム）の小市民階級を背景に革新勢力を代表した。彼ら自身多くの場合その日常生活においては、皮鞆（なめし）工・天幕作り、大工などの手工に携わっていたのである。

3.7.2.4 社会構造

以上のごとく、ユダヤの最高法院は、社会的には貴族祭司と大土地所有者、および手工業者を中心とする小市民層との利益代表者によって構成されており、サドカイ派とパリサイ派は、それぞれの社会層の存立を宗教的に正当化する役割を果たしていたのである。しかし、当然のことながら、ユダヤ社会全体は、最高法院にその利害を直接反映しえない、圧倒的多数の民衆によって支えられていたのである。もっとも、これらの民衆の声はある程度パリサイ派の律法学者を通してユダヤ支配層に通じたであろうことは否定できない。パリサイ派の中には、たとえばヒルレルのごとき「地の民」出身者も少数ではあるが存在していたからである。しかし、民衆は全体として、経済的にはローマ当局者、大土地所有者による搾取の対象とされ、宗教的社会的にはパリサイ派などにより明らかに差別の対象とされていたのである。

まず注意しなければならないことは、イエスの時代のユダヤではまだ大土地所有者と大商人とが分離していなかったという事実である。たとえば、大土地所有者は彼らの広大な土地にバルサム材や棕櫚の木を植え付け、これからとれる高価な薬品や香料を輸出することによって莫大な利益をあげているだけではなく、小麦をまで一国内の需要にさえ十分ではなかったにもかかわらず一彼らの利益のために輸出の対象としていたのである。他方彼らは、国内においては、穀物の買い占めを手段とする投機によってあくどい商売をしている。穀物の隠匿が行われたことは箴言 11：26 からも既に明らかである。「穀物を、しまい込んで売らない者は民に呪われる。それを売る者の頭には祝福がある」。これがラビ文献になると一ラビたちの多くが小市民層に属していた。一彼らに対する怨嗟（えんさ）の声に満ちている。例えば、

祭り（仮庵の祭り）の最終日の夕方になると、すべての人々が煙を見上げた。それが北方にたなびいたら、貧乏人は喜び、土地所有者は悲しんだ。なぜなら、その年には多くの雨が振り、穀物（隠匿されても）腐っ（てしまっ）たからである。煙が南方にたなびいたら、貧乏人は悲しみ、土地所有者は喜んだ。なぜならその年には降雨が少なく、土地所有者が穀物を隠匿し（しまておくことができ）たからである。

こうして、大土地所有者たちは豊作の年には穀物を隠匿しておくことができず、それを法外な安値で放出せざるを得なかったのであるが、しかし、これは同時に余剰穀物をほとんどもっていない小農民にも不当な安値で穀物を売ることを強制する結果を伴ったのである。

このような状態において、とりわけ古代においては穀物の生産が自然条件に大きく支配されていたのであるから、市場価格を一定の額に保つことは問題にならなかったのである。例えば、イエスの時代、穀物四セアの通常値段は一セラ（＝一デナリ）であった。具体的に言えば、バケツ一杯ほどの穀物の値段は、日雇い労働者一日分の平均給与に当たる一デナリであった。ところが、凶作の年には、これがその十七倍にはねあがって入るのである。しかも、エルサレムの市場管理者は、最高価格を押さえることはせずに、購買量を制限しているのである。

このような大農場経営に立脚する、いわゆる古代資本主義経済機構は、ローマ市民共同体から巨視的に見れば、奴隷を含むいわゆる「外人（ペレグリーニ）」に対する、一そしてこれを属州ユダヤの自治共同体から見れば、小農民に対する経済的搾取によって成り立っていたのである。ユダヤの農民は、一それが大土地所有者に雇用されている小作人ではなく一小土地を私有する独立自営農民の場合でも、多くの場合、その農具を大土地所有者からの借金によって購うか、あるいは彼らから一定の額で現物を貸与されるかして、農業を営む状態に置かれていた。しかもその借金ないし借財には、律法で禁止されているにもかかわらず、実際には利子がつけられたことは、ラビ文献でも福音書でも（マタイ 25：27）確認されている。

このような状態において、ある程度生活条件を安定させるためには、小農民は、通常家内手工や小規模な家畜（主として羊）の飼育、そしてガリラヤでは漁業を営んでいた。しかし、それでも生活を維持しえない悪条件のもとでは、土地を放棄して自ら小作人になるか、町に出て日雇い労働者となるか、あるいは負債奴隷となるか、女子の場合は春をひさぐか、いずれの道を選ばざるをえなかったのである。もちろん、ユダヤにおいて奴隷は一他のローマ所属州の場合とは異なっており一七年年毎に来る安息年には自動的に解放されるという掟があったので、彼らは比較的に人道的扱いを受けていたはずである。しかし、実際にそして完全にこの掟が守られていたことは疑わしく、また、たとえそれが遵守されていたとしても、解放後に自ら進んで再び奴隷となった、あるいは奴隷とならざるを得なかった例も確認されているのである。特に、このような状態にある農民が不具者となったり重病に取りつかれた時には、大商人に独占されている高価な薬品を入手することはほとんど不可能な彼らにとって、その悲惨さは極に達したはずである。

もちろんここでも、ユダヤには、古代社会においては例外的に、貧民救済組織があった事実があげられるであろう。しかし、この組織が有効に機能していた例証を私どもは確かめることができないのである。また、たとえこのような救済組織に一定の評価を与えたとしても、ユダヤ社会において一もちろん貧者からみて一最悪の事態は、小家畜飼育者、日雇労働者、売春婦、奴隷、不具者、病人、一しかも彼らの多くが農民層からでていたので一小農民それ自体が「地の民」として、他方においては大地所有者に怨嗟の声をあげているラビたち自身によって、宗教的＝社会的な差別の対象とされていたことである。そして、その理由は要するに、ラビの側から見れば、彼らが律法を守らないことにあった。しかし、事実は彼らは律法を守らないのではなく、それを守ることができなかった、あるいは守ることができない状況に置かれていたのである。つまり彼らはローマ当局から人頭税と間接税を徴収され、ユダヤ自治機関からは神殿税（これは貧富の差なく一律に課された）と十分の一税を課されており、後者はたとえこの時代には文字通りに実行されていなかったとしても、なおその上に大地所有者による投機の被害をもろに受ける状態に立たされていた時、右のような生活状態をとらざるをえなかったことはむしろ当然であろう。それをラビたち、とりわけパリサイ派が宗教的差別の対象としたことは、宗教が政治・経済と密接に結びついていたユダヤ社会において、たとえ彼らが貴族祭司・大地所有者の政治・経済政策を激しく批判したとしても、全体としては、社会の流動化を阻止し、その固定化を宗教的に正当化することによって、結果

としては現代社会体制をイデオロギーで補完する役割を果たしていたことになるであろう。

ただ、ここで注意すべきは、イエスの時代、祭司と民衆の間に社会層上の区別は必ずしも明確につけられないという事実である。貴族祭司が同時に大土地所有者兼大商人であり、最高法院の頂点に立ってユダヤ自治組織の体制を動かしていたことは既に述べた通りである。しかし、一般祭司たち、とりわけ下級祭司、いわゆる「レビ人」たちは、むしろ小農民と同列の、あるいはそれより低い経済生活を余儀なくされていたのである。当時、エルサレム神殿には約八千人の祭司たちと約一万人のレビ人たちが仕えていたといわれるが、その中、約八千人の祭司たちとレビ人たちは、年に交代で一、二ヶ月だけ神殿に奉仕し、その他の期間は多くの場合、地方において一労働者として食いぶちを得ていたのである。ヨセフスによれば、ある時祭司長たちが、祭司たちの脱穀場に僕を遣わして、祭司たちから十分の一税を持ってこさせたが「祭司の中資力を失った者たちは貧困の中に死んでいった」といわれている（ユダヤ古代史20・181）。他方ラビ文献にも、実際に下級祭司たちが十分の一税を求めて農民の脱穀場に這い蹲（うずくま）り、それを得られない時には、自ら農民に雇われ、羊番等の労働を提供し、それを十分の一税に替えた例が記録されている。従ってこの時代には祭司層の間にも階級的ギャップが生じていたのである。

いずれにしても「持てるものは与えられ、持たざるものは持てるものまでも取り上げられるであろう」という福音書（マルコ4・25、マタイ25・29、ルカ19・26）にも収録されている格言は、当時の社会の仕組みを実によく言い当てている。

さて、次には、このようなユダヤの社会構造を踏まえた上で、ユダヤ教の非主流的分派の形成を概観してみることにしよう。

3.7.2.5 ユダヤ教非主流派

紀元後66年から70年まで続いた第一次ユダヤ戦争において対ローマ解放運動を最も積極的に担ったといわれる「ゼロータイ」（熱心党）の内実は極めて複雑で、それだけに仮説も多く、それらをすべて系統立ててここに述べることはできない。

まず、この戦争の担い手は、大祭司アナニアの子エレアザル、下級祭司を代表するシモンの子エレアザル、ガリラヤの民族派ギスガラのヨハネ、さらに戦争末期に至っては、奴隷解放のプログラムをさえ持っていたギオラの子シモンに代表されるセクト、これに加えて、アナニアの子エレアザルとエルサレムにおいて壮絶な内ゲバを繰り返した末に、その指導者メナヘムを失ったが、その後マサダに拠って73年の全員自害に至るまで戦いを貫徹したシカリ派によって代表されるであろう。そしてマサダの戦（73年）には後述のエッセネ派も加わっていたことが最近の発掘でほぼ明らかにされているのであるから、この第一次ユダヤ戦争は、これに消極的にしか加わらなかったパリサイ派と、おそらく参加を避けたと思われるキリスト教徒を例外とすれば、ユダヤからガリラヤに至るユダヤ人社会の各層によって担われたことになる。彼らは、ローマから独立を勝ち取るという一点において結集したのであり、その意味において彼らのイデオロギーの中に黙示的ユダヤ民族主義をはっきりと読み取ることができるのである。しかし、その具体化が新祭司体制国家か、メシア国家か、あるいは社会革命のプログラムまで含むものなのかによって対立し、緒戦において博した予想外の勝利も束の間のこと、ローマ軍の優勢もあいまって、自滅の運命を辿ることになったのである。

いずれにしてもこの中で、イエスの故里ガリラヤとの関連で注目すべきはシカリ派の場合であろう。すなわち、マサダの戦いを指揮したエレアザルは、エルサレムで殺害されたメナヘムの親類であるといわれ、このメナヘムは、ユダヤ・サマリア・ペレアのローマ皇帝管轄属州への編入に際し試行された戸籍調査（6年）に、これに反対して一揆を起こしたガリラヤのユダの息子であったといわれている。しかもユダは、既にヘロデ王の治下にガリラヤで反乱を指導したヨセフスのいわゆる「盗賊」の首領ヘシキアの息子とみなされている。このようにガリラヤのユダ一家が一貫して反ローマ・反体制運動に関わっていただけではなく、既に述べたように、ギスガラ・ヨハネもユダヤ戦争には、はるばるガリラヤから農民を率いて参加しているのである。このヨハネが信奉したイデオロギーについては何も詳しいことはわかっていない。しかし、ガリラヤのユダについては、彼がパリサイ派のサドクと共に一揆を起こしたこと、彼の息子メナヘムがメシアを自称したこと等から、一般的にパリサイ派のさとはみなされてきた。しかし最近になって、その黙示的ラディカリズムをむしろエッセネ派の左派とみなされてきている（K・シューベルト）。しかし、いずれにしてもヨセフスによって「盗賊」と名付けられた一揆や反乱の多くが、ユダヤ戦争勃発の60年以上も以前に、しかもそれがユダではなく、他ならぬガリラヤで続発した理由はまだ十分に明らかにされていないのである。

この問題との関わりにおいてガリラヤの風土的特色が一たとえば田川建三によって一あげられている。ガリラヤはユダヤの北方に隣接するサマリアの、さらに北部に位置し、ユダヤ教の中心であるエルサレムから見れば、地理的にも辺境といえる。この地は元来北イスラエル王国に属していたが、紀元前722（または1）年にサマリアとともにアッシリアの属領となって以来、アリストブロス一世の治世（前104－3）にユダヤのハスモン王朝の支配下に置かれていわゆる「ユダヤ化」されるまで、約六百年の間絶えず外国の支配下であって、ユダヤとは隔離されていたのである。「異邦人のガリラヤ」（マタイ4・15）という呼称には、この地が、この地が地理的だけではなく精神的にも辺境にあるという意味が含まれているであろう。このような精神的風土を背景として、ガリラヤ人には反ユダヤ的・反都市（エルサレム）的傾向が現出するのだ、といわれる。しかし、これだけでは少なくともガリラヤのユダ、とりわけその子メナヘムの熱狂的メシアニズムを説明することはできないであろう。彼らはむしろ辺境に位置したが故に、中央のユダヤ人以上にユダヤ人的であろうとしたのではなかろうか。

他方ガリラヤは、ギリシャ植民市「デカポリス」を東に控えているのみならず、領主ヘロデ・アンティパスが自らティベリウス帝に因んで名付けた首都ティベリアスを中心として、慎重にはあるが、しかし積極的にガリラヤのヘレニズム・ローマ化政策をとっている。その上、シリアのダマスカスから地中海のカイサリアに走る「海の街道（ウィア・マリス）」がここを貫通していたために、交通・商業が発達し、ゲネサレ湖を中心とする漁業にも地の利を得ていた。この湖の西北岸は、なだらかな岡に囲まれた牧草地帯で、パレスチナには珍しい亜熱帯性気候に恵まれていたのである。要するにガリラヤは、ユダヤに比して明らかに自然条件に恵まれていたのである。事実、ユダヤはガリラヤなしには経済的に立たなかったといわれており、エルサレム在住の貴族祭司、大土地所有者は、その土地の多くをガリラヤに持っていたことは当然予想されるであろう。そして、律法学者、パリサイ派の人々は「ラビ」としてガリラヤの諸会堂を支配していた。ユダヤで土地を失った農民たちがガリラヤで漁夫等の職を求めたことも考えられるであろう。このような事情のすべてが重なって、ガリラヤから「盗賊」あるいは「ゼロータイ」の先駆者が排出したと見てさしつかえないのではなかろうか。

さて、パレスチナにはもう一つユダヤ教の分派があった。一時代を遡ってマカベア戦争の頃、元来はパリサイ派と同様に敬虔派（ハシディーム）に属していたが、戦後、新体制の担い手となったハスモン家から大祭司が出た

とき、これを拒否し、イスラエル宗教に伝統なサドク家出身者を大祭司に奉じて荒野に逃れ、この地で、彼らに固有な暦（祝祭日と安息日が重ならない太陽暦）に従って、徹底的な律法遵守と旧約聖書のいやゆる「ナジル派」（民数記 6:1-12）の理想実現を計った祭司たちのグループがあった。これが「エッセネ派」とよばれるユダヤ教の分派である。一方、死海の西北岸にいわゆる「クムラン教団」が存在し、かれらが「死海文書」を所有していたことが最近の本文発見と遺跡の発掘によって明らかにされている。そして、この教団がおそらくエッセネ派の一形態であろうことはほぼ間違いないと思われる。ここでは、厳格な宗規に即する徹底した律法生活と、同時に神の恵みに対する絶対的信頼に基づいて信徒相互間に実践さるべき愛の倫理が強調されている。しかも、この中で神の計画が更新され、世界の終末に関する神の予言が実現されるという確信が持たれた。

（略）

以上のごとき、ユダヤ教の主流・反主流いずれにも同定できない、いわゆる「人の子」の来臨を期待する黙示文学者の集団も存在したと思われる。「人の子」の表象は、再びハシディズム運動の担い手によって創出された『ダニエル書』（7 章）に遡り、これを展開した黙示文学には『エチオピア語のエノク書』、『第四エズラ書』、『シビュラの託宣』（第五巻）が存在している。なかでも、紀元後一世紀に成立したと思われる『エノク書』においては、神話的「人の子」像の中に王としてのメシア像が吸収されているのであるが、注意すべきはここで人の子が「虐げられた者の希望」とみなされている限り、イザヤ書 61:1（66:2）の意味における「貧しい者」に対する「福音」の告知者に近い表象をとまなっていることであろう。しかも、これらの黙示文学には多くの素材が神殿と関係ある諸表象から採用されている。とすれば、このような黙示文学を担った社会層は、地方にあって貧しい生活を強いられた下級祭司以外に考えられないのではないだろうか。

最後にサマリアについて一言しておく。サマリアは、ガリラヤとユダヤの丁度中間に位置するが、この地域はガリラヤとともにアッシリアの一属州に編入されて依頼、イエスの時代に至るまで百年余の間、ユダヤとはほとんど接触がなかった。そのためにここでは、その起源をユダヤ教と共有するが、しかし、ユダヤ教徒は異なる独自の宗教、いわゆる「サマリア教」が成立したのである。すなわち、サマリア人は旧約聖書の中でも、モーセ五書だけを彼らの経典とみなし、エルサレム神殿を拒否して、彼ら独自の神殿をゲリジムに奉じ、「メシア」でも「人の子」でもなく、「預言者」の来臨を待望したのである。そのために、ユダヤ教徒とサマリア人との間には争いが絶えず、ガリラヤ人やユダヤ人がサマリアを通ることさえほとんど不可能なほどであった。ローマ帝国の側から見れば、サマリアもユダヤとともに「ユダヤ州」の一部であったにもかかわらずである。

イエスはこのような時代に、その生涯の大半をガリラヤで過ごし、晩年にエルサレムに上り、この地でローマの極刑「十字架」刑に処されて没したのである。

3.7.3 III. 先駆

イエスが「洗礼者」と呼ばれたヨハネから洗礼を受けたこと（マルコ 1:9-11, マタイ 3:13-17, ルカ 3:21-22, ヨハネ 1:29-34）の史実性は否定できないであろう。四つの福音書における洗礼者ヨハネに関する証言から総合的に判断すれば、ヨハネの死後に形成されたヨハネ教団と、イエスの死後に成立したキリスト教団とが一種の競合関係にあたことは事実とみなさざるをえず、私どもがこれから検討するイエスの受洗以前のヨハネに関する記事

(マルコ 1:2-8, マタイ 3:1-12, ルカ 3:1-18, 1:5-25, 57-80, ヨハネ 1:6-8m 15, 19-28, 3:22-36, その他) にも、このような関係が反映しているのである。そして、この事実が確認されればされるほど、イエスがヨハネから洗礼を受けたということ、すなわちイエスが、たとえ短期間であったとしても、ヨハネの思想的影響下にあったということは、ヨハネ教団と競合関係にあったキリスト教団にとっては不利な事柄であったはずである。

(略)

3.7.4 IV. 民衆と

3.7.4.1 1 ヨハネとイエス

3.7.4.2 2 奇跡物語伝承

3.7.4.3 3 イエスの言葉伝承

3.7.4.4 4 イエスをめぐる人々

3.7.4.5 5 イエスの譬話

3.7.4.6 V. 権力に

ユダヤの権力機構を政治的に掌握していたのは、最高法院の構成員から見ても明らかなように、貴族祭司と大土地所有者（大祭司－祭司長たち－長老たち）であった。しかし、これを究極的には合法化する機能を果たしていたものが、民衆の指導者と言われた律法学者たち、とりわけパリサイ派であった。そして彼らは、いずれにしても自らの振舞を律法に依拠せしめていたのである。従って、この律法にイエスがどのように関わったかということを見据えておくことが、権力に対するイエスの振舞を考察する出発点となるであろう。そこで私どもはまず、有名な「山上の垂訓」を素材にして、イエスの律法に対する姿勢を明らかにしてみよう。

3.7.4.7 1 律法

いわゆる「山上の垂訓」は、マタイ 5：1 以下、ルカ 6：20 以下に記されており、ルカ福音書のほうが、多くの場合、マタイ福音書よりも「垂訓」の原型に近いのである。そしてこのことは、「幸い・・・」で始まる「垂訓」冒頭のイエスの言葉（マタイ 5：3－11, ルカ 6：20－23）にも妥当する。ここでは、これらの記事の比較から伝承の原型を復元する手続きを一切省略して、復元された原型のみを提示すると、次のことくなるであろう。「貧乏人は、幸いだ」（ルカ 6：20 a、マタイ 5：3 a）。「飢えている者は、幸いだ」（ルカ 6：21 a、マタイ 5：6 a）。「泣いている者は、幸いだ」（ルカ 6：21 c、マタイ 5：4 a）。

わたしはこれを、「貧乏人、飢えている者、泣いている者」に対するイエスの慰めの言葉とはとらない。なぜなら、このような人々が幸いでないことを最もよく知っていたのが、他ならぬイエスであったからである。とすれば、この言葉は明らかに逆説的意味を込めて語られたものであろう。すなわち、例えば「地の民（その多くが貧乏人であり、彼らは飢え、泣いていた）にパンを与えたこの私は災だ」と、飢饉の時にいったという一人のラビの、まさに逆のことを、イエスはここで発言しているのである。さらには「律法を知らないこの群衆は呪われている」（ヨハネ 7：49）と言ったパリサイ人に対して、イエスは、そのような群衆こそ幸いだ。と言い切ったのである。つまり、ここでもイエスは律法に基づくユダヤ人の価値観を逆転している。それ以外のことをこれらに読み込むべきではない。

(略)

3.7.4.8 2 安息日

ユダヤの権力を支えたイデオロギー（ユダヤ教主流派の見解）の基準とされた律法が、民衆の日常生活に最も具体的に関わってきた形の一つに「安息日」の戒めがある。安息日は元来、古代イスラエル農民の農耕生活における休息日に過ぎなかったものである。しかし、それが創世記の天創造神話（1：1－2：4）に取り入れられ、後期ユダヤ教の時代になると、創世記2：4に対する律法学者たちの解釈によって、夥しい数に上る極めて煩瑣な「安息日禁止条項」が作られていた。そして、これが逆に民衆の生活を圧迫する結果になっていたのである。次の記事では、人間があたかもそのために存在しているかのごとき安息日の機能の機能の仕方が問題にされている。

(略)

3.7.4.9 3 清め

3.7.4.10 4 神殿

3.7.4.11 5 納税

3.7.4.12 6 国家権力

3.7.5 VI. 祈り

3.7.6 VII. 死

3.8 イエスとその目撃者たち

副題として「目撃者証言としての福音書」とされている、リチャード・ボウカム著、“Jesus and the Eyewitnesses – The Gospels as Eyewitness Testimony” by Richard Bauckham の浅野淳博訳の書籍（[新教出版社](#)）からの引用を少しずつ参考として追記していきたいと思う。現在は備忘録的な抜書。

- ここでわたしは、福音書が証言記事であるという意識をもつことの重要性を強調しよう。しかし、それは福音書が『歴史でなく証言である』ということではない。証言という種類の歴史記述なのである。そして証言記事という形態には、読者（聴衆）からの信頼が求められるという特徴が欠かせない。これは、無批判の信用を前提としているということではなく、第三者の証拠による裏付けが可能な場合にのみ信頼を置くことができる、という扱いを拒むのである。ある証言を信用するか信用しないかの判断には、十分に合理的な理由が存在しなければならない。証言を信頼することがすなわち合理的批評を介せず『信じる』という非合理的な行為なのではない。合理的に適切な方法で、証言を真正と認めることは可能である。証言記録としての福音書は、わたしたちをイエスの歴史的現実性に導く媒体として適切である。現代における歴史批評学には明確な傾向がある。それによると、証言を信頼するという行為は、歴史学者が独自におこなう検証をとおして真理に到達するうえでの妨げとなされがちである。しかし、すべての歴史が一じつに歴史をも含むすべての知識が一証言に依拠しているという事実を目を向けるものは少ない。特にある種の歴史的事象に関しては、証言の重要性は否定しがたい事実である。本書の最終章では現代史に刻まれたホロコーストという出来事について考えるが、この歴史的出来事の真実に迫ろうとする場合、証言が不可欠

な役割を果たしている。わたしたちは次のことを認識しなくてはならない。すなわち、証言とはある事柄の歴史的現実性にいたるための媒介であり、この点で無類の価値を備えているということである。(p.16)

- 彼ら（パピアスが『主の弟子たち』とよぶ目撃者）は、イエスの公生涯をとおして、その弟子として従い（使徒 1:21）そして初代教会にあっては教師として重要な役割を果たした。十二弟子がこのなかに含まれることは当然だが（使徒 6:4）それ以外に、多くの弟子がいたことをルカ文書は記しており（ルカ 6:17, 8:1-3, 10:1-20, 19:37, 23:27, 24:9, 33, 使徒 1:15, 21-23）これらの人物がルカへの情報提供者であったことは十分に考えられる。(p.42)
- イランに基づいたボウカムによる統計：シモン（243）、ヨセフ（218）、エリエゼル（166）、ユダ（164）、ヨハナン（122）、ヨシュア（103）。女性名では、マリア、サロメ、シュラム、マルタ、ヨアンナ、サッフィラ、ベレニケ、インマ、マラ、キプロス、サラ（p.72）
- ペテロのよるイエス拒絶物語をその文脈から深く理解しようとするならば、これはイエス・キリストの使徒として召命を受ける以前のパウロが教会を迫害していたことを躊躇なく告白する様子と比べられよう。（ガラテヤ 1:13,1 コリ 15:9, 1 テモテ 1:12-14）(p.167)
- 正典福音書のテキストはイエスの言動を報告する目撃証言に近い、という本書の議論は、近年一般的な新約聖書研究への異論を唱えるものである。福音書形成に関するもっとも一般的な理解は、目撃者証言と福音書記者が入手するイエス伝承との間には、教会による長い継承期間が横たわっているというものである。そして当然、目撃者が口述伝承プロセスのスタート・ラインにいますが、この伝承は何度も何度も語り直され、再構築され、敷衍され、こうして福音書記者の手元に届いたものが、今度はこれらの記者によって編集された、という理解が一般的である。(p.232)
- 福音書物語はその終結部分の視点から書かれている、とは非常に言い古された表現だが、これはすなわち、福音書記者が復活し高挙された共同体の主を伝えんがためにイエスの物語を記した、という意味である。(p.347)
- エイレナイオスはポリュカルポスに関する記憶を重要視した。なぜなら、それは二人の仲介過程（プリュカルポスとヨハネ）のみを経てイエス自身にたどり着くものだからである。これは、ポリュカルポスとヨハネ両者が長く生きたから可能なのである。エイレナイオスによると、ヨハネはトラヤヌス帝の治世（AD98-）時期まで存命であり、ポリュカルポスはスミルナで 156-67 年の期間に殉教したときに 86 歳であった。(p.457)
- 『他者の証言を信じる傾向は、わたしたち人類にとって基本的な行為である。これは知識に関する他の手段（独立機能）によって正当化されるべきではない。』というリードの理解が近代の哲学者によって受け入れられてこなかったもっとも大きな理由、そしてその結果として哲学研究の題材として証言が注目されてこなかった理由は、啓蒙主義による哲学が個人主義をいまにいたるまで引きずってきたこと、その結果、個人的認識論が他者に依拠する個人の知性という側面を過小評価してきたためである。出発点としての個人的認知という問題が認識論において何よりも重要であり、それが共通的認知（何がわたしたちの知識を特徴づけ、わたしたちは以下に知るようになるか）という課題に対して優先されてきたのである。個人の

独立した知識のみを知識として正当化しようとする欲求は、証言を問題視しがちである。(p.472)

- 歴史学上の厳密性は歴史証言への根本的懐疑主義と同じではない。(p.482)
- これは文字とおり、あまりにも境界外の経験であることと関係しており、共通の理解のもとで教育を受けた聴衆の受容力の限界を超えている。理解とは、状況、感情、思考、行動など人間の共通性を基礎として成り立っている。しかしこの経験は、標準的な人間の経験値を外れた非人間的な経験の継承である。この意味において、それは境界外の経験である。(リクール) (p.489)

3.9 年表

Q. イスラエルのバビロン捕囚帰還後から、AD70 のエルサレム陥落までの歴史を簡単に年号順にまとめてください。

ChatGPT 3.5 Turbo

以下にイスラエルのバビロン捕囚帰還後から AD70 のエルサレム陥落までの歴史を年号順にまとめます。

- BC538 年：ペルシャの王キュロス 2 世により、バビロン捕囚のユダヤ人が解放され、エルサレムへの帰還が許される。
- BC515 年：エルサレムの再建が完了し、第二神殿が建設される。
- BC332 年：アレクサンドロス大王によってイスラエルが征服され、ヘレニズム文化が広まる。
- BC167 年：セレウコス朝のアンティオコス 4 世エピファネスによって、ユダヤ教の禁止と神殿の略奪が行われる。
- BC164 年：ユダス・マカバイによるユダス・マカバイの反乱が勃発し、ユダヤ人が神殿を奪還する。
- BC63 年：ローマ帝国がイスラエルを征服し、ヘロデ大王がイスラエルの王となる。
- AD37 年：ヘロデ大王の死後、ヘロデの子供たちによるイスラエルの分割と内戦が始まる。
- AD70 年：第一次ユダヤ戦争の結果、ローマ帝国の将軍ティトゥスによってエルサレムが陥落し、第二神殿が破壊される。

以上がイスラエルのバビロン捕囚帰還後から AD70 のエルサレム陥落までの歴史の要点です。

(2023.11.16)

3.10 参考

英文がほとんどですが、ホームページ閲覧ソフト（Web Browser）の翻訳機能を使うことも可能ですし、[DeepL](#) のアプリで、ショートカットをオンにしておけば、Ctrl+C+C（Windows）や、Command+C+C（Mac）で、かなり正確な翻訳を読むことも可能です。

わたしは、英語のテキストであれば、ある程度読むことができますが、日本語で他の人に伝えることを考えると、翻訳機能はとても便利です。すくなくとも、わたしよりは、適切な翻案を提案してくれます。

- 聖書
 - [日本聖書協会](#)
 - [新日本聖書刊行会](#)
- [Early Christian Writings](#) by Peter Kirby（年代などにより分類されてリスト）以下は本文テキストへのリンク、トップページからは解説など様々なリンクがある。下はそのほんの一部であり、この[リンク](#)から情報を得て、英訳などを見るのがよい。
 - [Psalms of Solomon](#)（ソロモンの詩篇）
 - [The Testaments of the Twelve Patriarchs](#)（十二族長の遺訓）
 - [The Gospel of Thomas](#)（トマスによる福音書）についての情報
 - * [The Gospel of Thomas](#)（トマスによる福音書）Berlin Working Group によるコプト語の英訳
 - * [Gospel of Thomas Commentary](#)
 - [Fragments of Papias](#)（パピアス断片）英訳
- [Perseus Digital Library](#)（タフツ大学 Tufts University）
 - [Flavius Josephus, Antiquities of the Jews](#) ユダヤ古代史
- [Christian Classics Ethereal Library](#) (Bringing Christian classic book to Life) [CCEL](#)
 - [Fragments of Papias, by Ignatius of Antioch](#)
 - * [Introductory Note to the Fragments of Papias](#): VI にマルコによる福音書について書かれています。
 - * [日本語サイト](#)
- [The Gnosis Archive](#)
 - [Mandaean Scriptures and Fragments](#) マンデ教の祈祷書
- イスラエルの歴史：[年表](#)（駐日イスラエル大使館）

- 地図：[Bible Maps](#)
 - [John the Baptist](#)
 - [Galilee in the Time of Jesus](#)
 - [The Ministry of Jesus around the Sea of Galilee](#)
 - [The Ministry of Jesus Beyond Galilee](#)
 - [Jesus' Ministry in Galilee and Journey to Jerusalem](#)

3.10.1 個人的に参考にしたもの

主として参考にしたものを少しずつ書いていきたいと思うが、さしあたって、2000 年以降は、読書記録をつけているので、そのリンクを付けておく。

読書記録：[本・BOOKS](#)

第 4 章

マルコによる福音書の学び

2023 年 4 月に再開した、聖書の会の記録です。マルコによる福音書を学ぶとしていますが、特徴として、他の福音書に並行箇所があるときには、その箇所も比較して読み、考え、共に、問いについて語りあう、形式で進めています。聖書の引用は、口語訳を主としています。厳密に理解しているわけではありませんが、多少、著作権にも配慮してと言うことです。ただ、口語訳には、表題がついていませんから、現在わたしが使っている聖書協会共同訳の表題を並べて、並行箇所にあるものを参照しています。ヨハネによる福音書は、通常並行箇所としては、出てきませんが、背景を知るためには、重要な証言が得られることもあるので、あわせて読むことにしています。なお、マルコを中心とした並行箇所については、資料の[マルコによる福音書表題](#)に表にしてまとめてあります。

下には、基本的に、聖書箇所、問い（ディスカッション・クエスチョン）、参照箇所、日にちと、出席者（対面）・参加者（遠隔）人数の記録、メモ（個人的感想を含む）を書いていきます。

一般的に知られていることや、原語についてコメントすることもあります。寄り道で、皆で考えながら読んでいくという中心から、あまり外れてほしくないのも、それは、[共観福音書](#)に書くようにしていきます。自分でも問いを持ちながら、読んでいただければ幸いです。

これをお読みのみなさんの学びの一助となることを願っています。

4.1 マルコによる福音書について

1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。

4.1.1 問い

1. どのようなことばで始まりますか。
2. 他の福音書とくらべるとどんなことがわかりますか。

3. [パピラス](#)はどのようなことを証言していますか。
4. パウロの手紙との違いについてどんなことに気付きますか。
5. 「福音のはじめ」でどのようなことを伝えたかったのでしょうか。

4.1.2 参照

- [X](#) [].
 - [Deutsche Bible Gesellschaft](#)
 - [Blue Letter Bible](#)
- 聖書の中の（ヨハネ）マルコ：使徒 12:12, 12:25, 15:37, 15:39, コロサイ 4:10, 2 テモテ 4:11, ピレモン 24, 1 ペテロ 5:13

4.1.3 記録

- 日時：2023 年 4 月 20 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）7 名、参加（遠隔）6 名

4.1.4 問いについて

1. どのようなことばで始まりますか。
 - 気づいたことを挙げてみましょう。
2. 他の福音書とくらべるとどんなことがわかりますか。
 - [マルコによる福音書の表題](#)
 - なぜ、マルコはこのように始めているのでしょうか。
3. [パピラス](#)はどのようなことを証言していますか。
4. パウロの手紙との違いについてどんなことに気付きますか。
 - ローマ人への手紙以降はたくさんのパウロの手紙が収められていますが、パウロとはどのような人ですか。
 - パウロの手紙について知っていることを挙げてみましょう。
5. 「福音のはじめ」でどのようなことを伝えたかったのでしょうか。

- 「福音のはじめ」からはどのようなことをイメージしますか。
- あなたなら、誰かについて伝えようとする時どのようなことをたいせつにしますか。

4.1.5 メモ

- 「はじめ」は、原点という意味もあるが、どこをはじめとするか、福音のはじめでなにを語ろうとしているのか考えた。
- 創世記やヨハネによる福音書の「はじめに」も、想起させる。
- マタイやルカのように誕生からはじめてはいない。マタイ、ルカ、それぞれの特徴があり、マタイは十二弟子であるが、説教は独自資料だが、話はほとんどマルコを踏襲している。地名や人数など、細かいところで、いくつかマルコとは違うことを書いている。
- ヨハネと共観福音書では、ゲッセマネで捉えられるところの表現が異なっており、ヨハネでは、イエスが弟子たちを逃したという記述、マルコなどでは弟子たちが逃げたという記述になっている。ペトロとヨハネの受け取り方の違いが、現れているのかもしれない。
- パピアスも読みながら、教父の一人がつたえたマルコによる福音書について確認した。
- 著者について、[著者などについて](#)の AI の答えも見ながら、いろいろな説があることも確認した。以下、マルコ由来として、マルコが書いたとの書き方をするが、そのように断定しているわけではないことを断っておく。
- パウロ書簡との違い、焦点の合わせ方の違いとともに、マルコ（この書）がつたえる、福音のはじめの原点の取り方が、福音書の特徴でもある。
- 使徒行伝によると、パウロとマルコは、ある時を境に一緒に行動しなくなっている。パウロ由来の手紙とされる著者について議論がある手紙のなかでは、マルコが、パウロと一緒にいることを証言するものもある。
- マルコでは贖罪については、10 章 45 節「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」ぐらいしか書かれていない。
- パウロ書簡が伝えるキリスト・イエスと、マルコの伝えるイエス・キリストの違いとともに、それがキリスト教会の分裂にはなっていないこと、福音書の違いもたいせつなものとして味わえると良い。
- 私なら、何をたいせつにして、伝えるだろうか。少しずつ読みながら、考えていきたい。

4.2 1:1-8 洗礼者ヨハネ、悔い改めの洗礼を宣べ伝える

1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。 2 預言者イザヤの書に、／「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、／あなたの道を整えさせるであろう。 3 荒野で呼ばわる者の声がある、／『主の道を備えよ、／その道筋をまっすぐにせよ』」／と書いてあるように、 4 バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた。 5 そこで、ユダヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のもとにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。 6 このヨハネは、らくだの毛ごろもを身にまとい、腰に皮の帯をしめ、いなごと野蜜とを食物としていた。 7 彼は宣べ伝えて言った、「わたしよりも力のあるかたが、あとからおいでになる。わたしはかがんで、そのくつのひもを解く値うちもない。 8 わたしは水でバプテスマを授けたが、このかたは、聖霊によってバプテスマをお授けになるであろう」。

4.2.1 マタイ 3:1-12

3:1 そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教を宣べて言った、 2 「悔い改めよ、天国は近づいた」。 3 預言者イザヤによって、「荒野で呼ばわる者の声がある、／『主の道を備えよ、／その道筋をまっすぐにせよ』」／と言われたのは、この人のことである。 4 このヨハネは、らくだの毛ごろもを着物にし、腰に皮の帯をしめ、いなごと野蜜とを食物としていた。 5 すると、エルサレムとユダヤ全土とヨルダン附近一帯の人々が、ぞくぞくとヨハネのところに出てきて、 6 自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。 7 ヨハネは、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けようとしてきたのを見て、彼らに言った、「まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから、おまえたちはのがれられると、だれが教えたのか。 8 だから、悔改めにふさわしい実を結べ。 9 自分たちの父にはアブラハムがあるなどと、心の中で思ってもみるな。おまえたちに言うておく、神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子を起すことができるのだ。 10 斧がすでに木の根もとに置かれている。だから、良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれるのだ。 11 わたしは悔改めのために、水でおまえたちにバプテスマを授けている。しかし、わたしのあとから来る人はわたしよりも力のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせてあげる値うちもない。このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。 12 また、箕を手にとって、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう」。

4.2.2 ルカ 3:1-9

3:1 皇帝テベリオス^{*1}の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督^{*2}、ヘロデスがガリラヤの領主、その兄弟ピリポがイツリヤ・テラコニテ地方の領主、ルサニヤがアビレネの領主、 2 アンナスとカヤパとが

^{*1} Tiberius Julius Caesar Augustus: 17 September 14 – 16 March 37 (Wikipedia)

^{*2} Pontius Pilate: In office 26AD-36AD

大祭司であったとき、神の言が荒野でザカリヤの子ヨハネに臨んだ。3 彼はヨルダンのほとりの全地方に行き、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えた。4 それは、預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおりである。すなわち／「荒野で呼ばれる者の声がある、／『主の道を備えよ、／その道筋をまっすぐにせよ』。5 すべての谷は埋められ、／すべての山と丘とは、平らにされ、／曲ったところはまっすぐに、／わるい道はならされ、6 人はみな神の救を見るであろう」。7 さて、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出てきた群衆にむかって言った、「まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから、のがれられると、おまえたちにだれが教えたのか。8 だから、悔改めにふさわしい実を結べ。自分たちの父にはアブラハムがあるなどと、心の中で思ってもみるな。おまえたちに言うておく。神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子を起すことができるのだ。9 斧がすでに木の根もとに置かれている。だから、良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれるのだ」。

4.2.3 ヨハネ 1:19-28

1:19 さて、ユダヤ人たちが、エルサレムから祭司たちやレビ人たちをヨハネのもとにつかわして、「あなたはどなたですか」と問わせたが、その時ヨハネが立てたあかしは、こうであった。20 すなわち、彼は告白して否まず、「わたしはキリストではない」と告白した。21 そこで、彼らは問うた、「それでは、どなたなのですか、あなたはエリヤですか」。彼は「いや、そうではない」と言った。「では、あの預言者ですか」。彼は「いいえ」と答えた。22 そこで、彼らは言った、「あなたはどなたですか。わたしたちをつかわした人々に、答えを持って行けるようにしていただきたい。あなた自身をだれだと考えるのですか」。23 彼は言った、「わたしは、預言者イザヤが言ったように、『主の道をまっすぐにせよと荒野で呼ばれる者の声』である」。24 つかわされた人たちは、パリサイ人であった。25 彼らはヨハネに問うて言った、「では、あなたがキリストでもエリヤでもまたあの預言者でもないのなら、なぜバプテスマを授けるのですか」。26 ヨハネは彼らに答えて言った、「わたしは水でバプテスマを授けるが、あなたがたの知らないかたが、あなたがたの中に立っておられる。27 それがわたしのあとにおいでになる方であって、わたしはその人のくつのひもを解く値うちもない」。28 これらのことは、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダンの向こうのベタニヤであったのである。

[マルコによる福音書 1 章 1-8 節福音書対照表](#)

4.2.4 問い

1. 2,3 節の引用では「使（つかい）」について何と預言していますか。
2. ヨハネはどのような人ですか。どのような活動をしますか。
3. 他の福音書などの記述と比較して気づいたことを挙げてみましょう。
4. 「福音のはじめ」として、旧約聖書から引用し、バプテスマのヨハネの活動について書いていますが、なぜ、旧約聖書との関係から、始めたのでしょうか。

5. 主の道を整える・備えるとは、どのようなことで、主の道が整っているとは、どのような状態なのでしょう。現代は、世界は、そしてあなたへの主の道は整っていますか。

4.2.5 参照

- 聖書の中のバプテスマのヨハネ

– [参照] ルカ 1:5-25^{*3}、1:57-80^{*4}、マルコ 6:14-29^{*5} (マタイ 14:1-12、ルカ 9:7-9)、マルコ 8:27-30^{*6} (マタイ 16:13-20、ルカ 9:18-21)、マルコ 11:27-33^{*7} (マタイ 21:23-27、ルカ 20:1-8)、マタイ 11:2-19^{*8} (ルカ 7:18-35)、マタイ 17:10-13^{*9}、ヨハネ 1:29-51

– [参照] 使徒 1:5, 22, 10:37, 11:16, 13:24, 18:24-27^{*10}、19:1-5^{*11}

1 X [].

2 K .
 ,

.

3 .
 ^{*12} ,
 ,

4 [] ^{*13} ^{*14} ^{*15} .

5 , ,
 .

^{*3} 洗礼者ヨハネの誕生、予告される

^{*4} 洗礼者ヨハネの誕生, 1:80 幼な子は成長し、その霊も強くなり、そしてイスラエルに現れる日まで、荒野にいた。

^{*5} 洗礼者ヨハネ殺される

^{*6} ペトロ、イエスがメシアであると告白する

^{*7} 権威についての問答

^{*8} 洗礼者ヨハネとイエス

^{*9} 13 そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと悟った。

^{*10} 25 この人は主の道に通じており、また、霊に燃えてイエスのことを詳しく語ったり教えたりしていたが、ただヨハネのバプテスマしか知っていなかった。

^{*11} 4b 「ヨハネは悔改めのバプテスマを受けたが、それによって、自分のあとに来るかた、すなわち、イエスを信じるように、人々に勧めたのである」。

^{*12} : to make ready, prepare

^{*13} : a change of mind, as it appears to one who repents, of a purpose he has formed or of something he has done

^{*14} : i) release from bondage or imprisonment, ii) forgiveness or pardon, of sins (letting them go as if they had never been committed), remission of the penalty

^{*15} : i) to be without a share in, ii) to miss the mark, iii) to err, be mistaken, iv) to miss or wander from the path of uprightness and honour, to do or go wrong, v) to wander from the law of God, violate God's law, sin. [Strong] In Greek writings, 1st, an error of the understanding, 2nd, a bad action, evil deed.

6

7 K ^{*16}

8

4.2.6 記録

- 日時：2023 年 4 月 27 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）8 名

4.2.7 問いについて

- 2,3 節の引用では「使（つかい）」について何と預言していますか。
 - [参照] マラキ 3:1 見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。
 - [参照] イザヤ 40:3 呼ばわる者の声がある、／「荒野に主の道を備え、／さばくに、われわれの神のために、／大路をまっすぐにせよ。
 - なぜ「荒野」なのでしょう。
- ヨハネはどのような人ですか。どのような活動をしますか。
 - バプテスマのヨハネは、「使」の旧約聖書の預言をどのように成し遂げていますか。
 - ヨハネの働きは、メシヤを迎えるために人々の心をどのように整えるのでしょうか。悔い改めることは、救い主を迎えるのにどう整えるのでしょうか。やがて来る方とどのような違いがありますか。
- 他の福音書などの記述と比較して気づいたことを挙げてみましょう。
 - バプテスマのヨハネについてほかに知っていることはありますか。
- 「福音のはじめ」として、旧約聖書から引用し、バプテスマのヨハネの活動について書いていますが、なぜ、旧約聖書との関係から、始めたのでしょうか。
- 主の道を整える・備えるとは、どのようなことで、主の道が整っているとは、どのような状態なのでしょう。現代は、世界は、そしてあなたへの主の道は整っていますか。

^{*16} : i) to be a herald, to officiate as a herald, ii) to publish, proclaim openly: something which has been done

4.2.8 メモ

- マルコ 1:2 の預言はイザヤではなく、マラキ。これは、マタイ、ルカでは修正され、マルコ 1:3 の部分だけをイザヤとしている。内部でも修正が議論されたのだろう。ただ、マタイ 17:11-13 には、エリヤが先に来るとのことが語られている。マラキの預言が旧約聖書最大の預言者と言われるエリヤがまず来ることと理解されていたのだろう。そして、そのことは、ヨハネ 1:21 にも反映されており、こちらでは、バプテスマのヨハネは、自分がエリヤであることを否定している。また、荒野で呼ばれる者の声と証言しているのは、バプテスマのヨハネ自身であることもわかる。
- バプテスマのヨハネについては、使徒の記録（18 章、19 章）にもあるように、一般によく知られており、ルカの記述によれば、祭司ザカリヤとエリザベトの子、マリヤとも親戚関係と書かれている。ヨハネが祭司の子であったことは、おそらく、よく知られていた事実だと思われるので、そのような人が幼少から、荒野におり（ルカ 1:80）それから、語り始めたところを見ると、民にも大きな影響を与える存在であったことがわかる。出自に関しては、イエスとはかなりことなる。
- ユダヤ全土と、エルサレムの全住民が彼のもとに集まってきていることは、ヨハネの知名度もあったろうが、霊的渴望、社会状況・政治状況からも問題を抱えていた人が多かったのだろう。ただ、マタイ（対象はパリサイ人はサドカイ人）やルカ（一般の人たち・限定なし）への厳しい言葉を見ると、我も我もと集まる中に、悔い改めという自らを省みる部分が欠落していたひとたちも多かったのだろう。それが、救いと裁きという厳しさに現れている。
- 「わたしはかがんで、そのくつのひもを解く値打ちもない（奴隷の仕事）」（7）と証言することによって、「あなたの道」（2）のやがてきてるべき方との大きな差を表現している。
- 「神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子を起こすことができる」（マタイ 3:9, ルカ 3:8）は、アブラハムの子であることを誇りと思っていて、異邦人を心の中で差別していた人には、かなり厳しく聞こえただろう。
- 主の道を整えるが何を意味するかは難しい。一般論ではなく、一人ひとりがその語り掛けを聞くものなのだろうか。現代でも、同じように、主の道が整っているとは言えないが、主の道が整っている人に、主のことばが撒かれると、成長して、何倍にもなるのかもしれない。判定条件があるわけではないだろう。

4.3 1:9-11 イエス、洗礼を受ける

1:9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから出てきて、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。10 そして、水の中から上がられるとすぐ、天が裂けて、聖霊がはどのように自分に下って来るのを、ごらんになった。11 すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなる者である」。

4.3.1 マタイ 3:13-17

3:13 そのときイエスは、ガリラヤを出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところにきて、バプテスマを受けようとされた。14 ところがヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った、「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか」。15 しかし、イエスは答えて言われた、「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである」。そこでヨハネはイエスの言われるとおりにした。16 イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。17 また天から声があって言った、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

4.3.2 ルカ 3:21-22

3:21 さて、民衆がみなバプテスマを受けたとき、イエスもバプテスマを受けて祈っておられると、天が開けて、22 聖霊がはどのような姿をとってイエスの上に下り、そして天から声がした、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

4.3.3 [ヨハネ 1:29-34]

1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。30 『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。31 わたしはこのかたを知らなかった。しかし、このかたがイスラエルに現れてくださるそのことのために、わたしはきて、水でバプテスマを授けているのである」。32 ヨハネはまたあかしをして言った、「わたしは、御霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た。33 わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを授けるようにと、わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるのを見たら、その人こそは、御霊によってバプテスマを授けるかたである』。34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

[マルコによる福音書 1 章 9-11 節福音書対照表](#)

4.3.4 問い

1. 地図で場所（ガリラヤ、ナザレ、ヨルダン川、エルサレム）を確認しましょう。
2. イエスがバプテスマ（洗礼）を受けたことはどのように描かれていますか。
3. 10 節 11 節はどのような状況を描いているのでしょうか。

4. 天からの声は何を意味しているのでしょうか。
5. ヨハネ 1:29-34 からは、どのようなことがわかりますか。
6. このできごとによって、なにを伝えようとしているのでしょうか。

4.3.5 参照

4.3.5.1 愛する子

- マルコ 9:7 すると、雲がわき起って彼らをおおった。そして、その雲の中から声があった、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。
- マタイ 17:5 彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け」。
- 2 ペテロ 1:17 イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

4.3.5.2 神の子

- マルコ 1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。
- マルコ 3:11 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。
- マルコ 5:7 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるので。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。
- マルコ 15:39 イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。
- マタイ 4:3, 6, 5:9, 8:29, 14:33, 16:16, 26:63, 27:40,43,54
- ルカ 1:35, 4:3, 9, 41, 8:28, 20:36, 22:70
- ヨハネ 1:12, 34, 49, 5:25, 28, 10:36, 11:4, 52, 19:7, 20:31
- 使徒 8:37, 9:20, 17:29
- その他多数

4.3.5.3 バプテスマ

- マルコ 10:38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける**バプテスマ**を受けることができるか」。39 彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける**バプテスマ**を受けるであろう。
- マルコ 11:30 ヨハネの**バプテスマ**は天からであったか、人からであったか、答えなさい」。
- マルコ 16:16 信じて**バプテスマ**を受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。
- マタイ 28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らに**バプテスマ**を施し、
- ヨハネ 3:22 こののち、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、**バプテスマ**を授けておられた。23 ヨハネもサリムに近いアイノンで、**バプテスマ**を授けていた。そこには水がたくさんあったからである。人々がぞくぞくとやってきて**バプテスマ**を受けていた。
- ヨハネ 3:26 そこで彼らはヨハネのところにきて言った、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたがあかしをしておられたあのかたが、**バプテスマ**を授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」。
- ヨハネ 4:1 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり、また**バプテスマ**を授けておられるということを、パリサイ人たちが聞き、それを主が知られたとき、2（しかし、イエスみずからが、**バプテスマ**をお授けになったのではなく、その弟子たちであった）
- ヨハネ 4:11 さて、イエスはまたヨルダンの向こう岸、すなわち、ヨハネが初めに**バプテスマ**を授けていた所に行き、そこに滞在しておられた。
- 使徒 1:5 すなわち、ヨハネは水で**バプテスマ**を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、**バプテスマ**を授けられるであろう」。
- 使徒 2:38 すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、**バプテスマ**を受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。
- 使徒 2:41 そこで、彼の勧めの言葉を受けいれた者たちは、**バプテスマ**を受けたが、その日、仲間に加わったものが三千人ほどあった。
- 使徒 8:12 ところが、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えるに及んで、男も女も信じて、ぞくぞくと**バプテスマ**を受けた。
- 使徒 8:13, 16, 36, 38, 9:18, 10:47, 48, 16:15, 33, 18:8, 25, 19:3, 4,5, 22:16

- 9K N Γ 10 ^{*17}
- ^{*18} ^{*19} ^{*20} ^{*21} ^{*22} ^{*11}
- ^{*23} ^{*24}

- 日時：2023 年 5 月 4 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）11 名、参加（遠隔）2 名

- [参照] [キリスト時代のパレスチナ](#) (Wikimedia: 聖書地図 (JBS1956))
- [参照] [John the Baptist](#) (Halman Bible Atlas 106)

- マルコ、マタイ、ルカの共観福音書を比較して読んでみましょう。
- どんなことが共通に書かれていますか。
- それぞれどのような特徴と違いがありますか。

• [参照] 11 「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」

*17 : straightway, immediately, forthwith (x40 in Mark)
 *18 : ascend; a) to go up, b) to rise, mount, be borne up, spring up
 *19 : i) to cleave, cleave asunder, rend, ii) to divide by rending, iii) to split into factions, be divided (Mark 15:38)
 *20 : the vaulted expanse of the sky with all things visible in it. (The KJV translates heaven (268x), air (10x), sky (5x), heavenly (with G1537) (1x).)
 *21 : a dove (Mark 11:15)
 *22 : to go down, come down, descend
 *23 : beloved, esteemed, dear, favourite, worthy of love (Mark 9:7, 12:6)
 *24 : i) it seems good to one, is one's good pleasure a) think it good, choose, determine, decide, b) to do willingly, c) to be ready to, to prefer, choose rather ii) to be well pleased with, take pleasure in, to be favourably inclined towards one

- 四福音書で、聖霊が降のを見たのは、そして天からの声を聞いたのは誰だと記されています。

6. このできごとによって、なにを伝えようとしているのでしょうか。

- あなたは、どのように受け取りますか。

4.3.8 メモ

- マルコは「そのころ」とはじまっている。マルコに多い表現。
- マタイでは、洗礼の前から、イエスが特別な存在だと、ヨハネは考えている。
- 共観福音書では、基本的に、「聖霊がはどのように自分に下って来るのを、ごらんになった。」のは、イエス。このあとの、言葉を聞いたのは、イエスだけかどうかは不明だが、イエスにとって、特別な経験だったことは、確かなのだろう。
- 「裂けて（ ）」マルコ 15:38 そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。
- ヨハネは、洗礼についての言及がなく、いつのことを語っているかは不明だが、御霊がイエスに降ったこと、それによって、御霊によってバプテスマを授ける方であることを知り、証したとなっている。特別なものを、ヨハネは、早い段階から、認めていたことの証言なのだろう。
- イエスは、このときから、神の子となったのだろうか。「愛する子」とは、何を意味するのだろうか。誰のための証言なのだろうか。
- 「あなたはわたしの愛する子」と、天からの声を聞けば、神の子なのだろうか。
- まだ、なにも活動する前に「愛する子」と宣言されることは、印象的。そこにこそ、神の愛を感じる。イエスは、間違いなく、神の愛を強く感じただろう。その証言として良いと思う。

4.4 1:12-13 試みを受ける

1:12 それからすぐに、御霊がイエスを荒野に追いやった。 13 イエスは四十日のあいだ荒野にいて、サタンの試みにあわれた。そして獣もそこにいたが、御使たちはイエスに仕えていた。

4.4.1 マタイ 4:1-11

4:1 さて、イエスは御霊によって荒野に導かれた。悪魔に試みられるためである。 2 そして、四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。 3 すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」。 4 イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある。 5 それから悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて 6 言った、「もしあなたが神の子であるな

ら、下へ飛びおりてごらん下さい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。7 イエスは彼に言われた、『『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある』。8 次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華とを見せて9 言った、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」。10 するとイエスは彼に言われた、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ^{*25}』と書いてある」。11 そこで、悪魔はイエスを離れ去り、そして、御使たちがみもとにきて仕えた。

4.4.2 ルカ 4:1-13

4:1 さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダン川から帰り、2 荒野を四十日のあいだ御霊にひきまわされて、悪魔の試みにあわれた。そのあいだ何も食べず、その日数がつきると、空腹になられた。3 そこで悪魔が言った、「もしあなたが神の子であるなら、この石に、パンになれと命じてごらん下さい」。4 イエスは答えて言われた、『『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある』。5 それから、悪魔はイエスを高い所へ連れて行き、またたくまに世界のすべての国々を見せて6 言った、「これらの国々の権威と栄華とをみんな、あなたにあげましょう。それらはわたしに任せられていて、だれでも好きな人にあげてよいのですから。7 それで、もしあなたがわたしの前にひざまずくなら、これを全部あなたのものにしてあげましょう」。8 イエスは答えて言われた、『『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある』。9 それから悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、宮の頂上に立たせて言った、「もしあなたが神の子であるなら、ここから下へ飛びおりてごらん下さい。10 『神はあなたのために、御使たちに命じてあなたを守らせるであろう』とあり、11 また、『あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』とも書いてあります」。12 イエスは答えて言われた、『『主なるあなたの神を試みてはならない』と言われている』。13 悪魔はあらゆる試みをしつくして、一時イエスを離れた。

マルコによる福音書 1 章 12-13 節福音書対照表

4.4.3 問い

1. マルコは、この箇所では何を伝えていますか。
2. マタイとルカの違いを挙げてみましょう。
3. マタイとルカで、最初にサタンはどのようにイエスに言っていますか。イエスはそれにどのように答えますか。
4. (マタイでは二番目、ルカでは三番目の) 神を試みるとはどのようなことを意味しているのでしょうか。神の何を試しているのでしょうか。

^{*25} : i) to serve for hire, ii) to serve, minister to, either to the gods or men and used alike of slaves and freemen

5. (マタイでは三番目、ルカでは二番目では) どのようなことが試されていますか。国々の栄華を得ることが問題なのでしょうか。「神にのみ仕える」とはどのような生き方でしょうか。

6. なぜイエスは試みを受けたのでしょうか。それはどのようなことを意味しているのでしょうか。

4.4.4 参照

- サタン

- マタイ 12:26 もし**サタン**が**サタン**を追い出すならば、それは内わで分れ争うことになる。それでは、その国はどうして立ち行けよう。マルコ 3:23 そこでイエスは彼らを呼び寄せ、譬をもって言われた、「どうして、**サタン**が**サタン**を追い出すことができようか。マルコ 3:26 もし**サタン**が内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。ルカ 11:18 そこで**サタン**も内部で分裂すれば、その国はどうして立ち行けよう。あなたがたはわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出していると言うが、
- マルコ 4:15 道ばたに御言がまかれたとは、こういう人たちのことである。すなわち、御言を聞くと、すぐに**サタン**がきて、彼らの中にまかれた御言を、奪って行くのである。
- マタイ 16:23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「**サタン**よ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。マルコ 8:33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「**サタン**よ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。
- ルカ 10:18 彼らに言われた、「わたしは**サタン**が電光のように天から落ちるのを見た。
- ルカ 13:16 それなら、十八年間も**サタン**に縛られていた、アブラハムの娘であるこの女を、安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったか」。
- ルカ 22:3 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれていたユダに、**サタン**がはいった。
- ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、**サタン**はあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。
- ヨハネ 13:27 この一きれの食物を受けるやいなや、**サタン**がユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。

- 悪魔^{*26}

- マタイ 13:39 それをまいた敵は**悪魔**である。収穫とは世の終りのことで、刈る者は御使たちである。

^{*26} : i) prone to slander, slanderous, accusing falsely, ii) metaph. applied to a man who, by opposing the cause of God, may be said to act the part of the devil or to side with him

- － マタイ 25:41 それから、左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、**悪魔**とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいってしまえ。
- － ルカ 8:12 道ばたに落ちたのは、聞いたのち、信じることも救われることもないように、**悪魔**によってその心から御言が奪い取られる人たちのことである。
- － ヨハネ 6:70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちの一人は**悪魔**である」。
- － ヨハネ 8:44 あなたがたは自分の父、すなわち、**悪魔**から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。
- － ヨハネ 13:2 夕食のとき、**悪魔**はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが、
- 試みる者^{*27}：福音書ではマタイ 4:3 のみ
 - － 1 テサロニケ 3:5 そこで、わたしはこれ以上耐えられなくなって、もしや「**試みる者**」があなたがたを試み、そのためにわたしたちの労苦がむだになりはしないかと気づかって、あなたがたの信仰を知するために、彼をつかわしたのである。
- マタイ 4 章 4 節：現代訳：人はパンさえあれば生きられるわけではない。神の御心でなければ、決して生きられるものではない」
- マタイ 4 章 4 節：申命記 8 章 2 節～5 節あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。3 それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。4 この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。5 あなたはまた人がその子を訓練するように、あなたの神、主もあなたを訓練されることを心にとめなければならない。
- 宮の頂上：ソロモンの廊と王室の廊の会おうところ、下はケデロンの谷で 140 m と言われる。
- マタイ 4 章 6 節詩篇 91:11,12 これは主があなたのために天使たちに命じて、／あなたの歩むすべての道で／あなたを守らせられるからである。12 彼らはその手で、あなたをささえ、／石に足を打ちつけることのないようにする。(この詩篇は “1 彼らはその手で、あなたをささえ、／石に足を打ちつけることのない

^{*27} : i) to try whether a thing can be done ii) to try, make trial of, test: for the purpose of ascertaining his quality, or what he thinks, or how he will behave himself

- [DQ] イエスは石をパンに変えることができたのでしょうか？空腹は満たされたのでしょうか？など、疑問点や気づいたことをあげてみましょう。
4. (マタイでは二番目、ルカでは三番目の) 神を試みるとはどのようなことを意味しているのでしょうか。神の何を試しているのでしょうか。
 5. (マタイでは三番目、ルカでは二番目では) どのようなことが試されていますか。国々の栄華を得ることが問題なののでしょうか。「神にのみ仕える」とはどのような生き方でしょうか。
 6. なぜイエスは試みを受けたのでしょうか。それはどのようなことを意味しているのでしょうか。
- [DQ] イエスの受けた試みと、わたしたちの受ける試み・誘惑・試練は同じでしょうか。異なるでしょうか。

4.4.7 メモ

- マルコには、「それからすぐに、御霊がイエスを荒野に追いやった。」とあるが、それ（それからすぐ）は、イエスがバプテスマを受け「天が裂けて、聖霊がはどのように自分に下って来るのを、ごらんにな」り「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」との天からの声を聞いてすぐにを意味している。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者」の神の宣言は、始まりであって終わりではない。
- マルコでは、イエスは四十日の間荒野にいたとあるが、共にいたのは、サタン、獣、御使である。試みる者、敵対するもの、悪意を持って近づくもの、助け、神のメッセージを伝えるものが、混在している世界として描かれている。
- マタイでもルカでも、イエスが空腹になってから「石にパンになればと命じ」るよう促され（試みられ）ている。イエスには、それができなかったとは想定されていない。「わたしには、あなたがたの知らない食物がある」（ヨハネ 4:32b）だろうか。このときは、サマリアの女との対話がある。しかし、ここでは、空腹は満たされていないのではないだろうか。「パンだけで」とあり、やはりパンも必要なのではないだろうか。ルカでは後半のことばは書かれていない。経済的な、空腹を満たすそれを解決すればよいということではないことに中心が置かれている。同時に、神の国は、これもあれも手当たり次第に課題が解決されることでもないのかもしれない。
- 「神はあなたのために、御使いたちに命じ」る根拠は、愛されている存在だということだろうが、それを、確認するようなことをしてはならない。神に愛されている存在とは、神のこころを心とすること、神が望まれることをなすことなのだろう。
- 「ひれ伏して拝むなら（マタイ）・ひざまずくなら（ルカ）」にたいして、「神にのみ仕えよ」と返答している。神との関係が絶対だということで、「国々とその栄華（マタイ）・国々の権威と栄華（ルカ）」を手にすることが悪ではない。神に仕えることが具体的に何を意味するのかは、わからない時が多い。内心の問題なのだろうか。何が問われているのかを確定するのは、難しい。

- イエスが試み・誘惑にあわれたことを語っている意味
 - イエスも試みにあわれている。
 - [参照] ヘブル人への手紙 4 章 15 節この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。
 - メシヤ預言のことばではなく、一般信徒へのことばを引用している。
 - 超自然的な力でこの誘惑に打ち勝っているのではない。イエスに倣うものとなることは、不可能なことではない。
 - イエスが神の愛されている子として生きていくあゆみの確認。一般性もある。
- マルコは「サタン」、マタイは、最初「試みる者」(3) その後「悪魔」、ルカは「悪魔」

4.5 1:14-15 ガリラヤで宣教を始める

1:14 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、15 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。

4.5.1 マタイ 4:12-17

4:12 さて、イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。13 そしてナザレを去り、ゼブルンとナフタリとの地方にある海べの町カペナウムに行って住まれた。14 これは預言者イザヤによって言われた言が、成就するためである。15 「ゼブルンの地、ナフタリの地、／海に沿う地方、ヨルダンの向こうの地、／異邦人のガリラヤ、16 暗黒の中に住んでいる民は大いなる光を見、／死の地、死の陰に住んでいる人々に、光がのぼった」。17 この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。

4.5.2 ルカ 4:14-15

4:14 それからイエスは御霊の力に満ちあふれてガリラヤへ帰られると、そのうわさがその地方全体にひろまった。15 イエスは諸会堂で教え、みんなの者から尊敬をお受けになった。

[マルコによる福音書 1 章 14-15 節福音書対照表](#)

4.5.3 問い

1. マルコでは、イエスはいつ、どこで、どのような言葉で宣教を始めたとしていますか。

2. マタイや、ルカを読み、他に気づいたことを挙げてみましょう。

4.5.4 参照

- ルカ 3:31 イエスが宣教をはじめられたのは、年およそ三十歳の時であって、人々の考えによれば、ヨセフの子であった。ヨセフはヘリの子、（以下系図～38）
- ヨハネ 3:22 こののち、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。23 ヨハネもサリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである。人々がぞくぞくとやってきてバプテスマを受けていた。24 そのとき、ヨハネはまだ獄に入れられてはいなかった。（～36）
- マタイ 4:15,16 - イザヤ書 9:1,2 （他の訳では 8:23, 9:1）1 しかし、苦しみにあった地にも、やみがなくなる。さきにはゼブルンの地、ナフタリの地にはずかしめを与えられたが、後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。2 暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。
- 死の谷：詩篇 23:4 たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、／わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。ルカ 1:79 暗黒と死の陰とに住む者を照し、／わたしたちの足を平和の道へ導くであらう」。
- マタイ 4:17 - マタイ 3:2 「悔い改めよ、天国は近づいた」。

$$14M \quad \quad \quad *35 \quad \quad \quad \Gamma \quad \quad \quad *36 \quad \quad \quad *37 \quad \quad \quad 15 \quad \quad \quad *38$$

$$\quad \quad \quad *39 \quad \quad \quad \cdot \quad \quad \quad *40$$

4.5.5 問いについて

1. マルコでは、イエスはいつ、どこで、どのような言葉で宣教を始めたとしていますか。

- 1:14 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、15 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。
- [DQ] ヨハネが捕らえられるまでは、イエスはどうしていたのでしょうか。

— ヨハネによる福音書の記事も参考にしてみましょう。(ヨハネ 3:22)

*35 : to give into the hands (of another)
 *36 : to be a herald, to officiate as a herald
 *37 : a reward for good tidings
 *38 : o make full, to fill up, i.e. to fill to the full
 *39 : to bring near, to join one thing to another
 *40 : to change one's mind, i.e. to repent

- [DQ] 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。は、どのような印象を受けますか。

2. マタイや、ルカを読み、他に気づいたことを挙げてみましょう。

- [DQ] メッセージに違いがありますか。

4.5.6 メモ

- マルコとマタイでは「ヨハネが捕えられた後」「この時から」として、ヨハネが捕えられてから以降に活動を開始したとしている。
- 「神の福音」とある。なにが良き訪れなのか。「時は満ちた、神の国は近づいた。」とあり、神の国が近づいたということなのだろう。「神の国が近づいた」とはどういうことだろうか。「福音を信じる」とはどういうことだろうか。地の上でも、神の御心になるということだろうか。
- 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ)「悔い改めよ、天国は近づいた」(マタイ) 当時の人たちは、どう受け取っただろうか。イスラエルの歴史上では、どのような時代なのだろうか。ローマの占領下だが、ある程度の自治がみとめられていた。
 - [参照] [John the Baptist](#) (Halman Bible Atlas 106)
 - [参照] イスラエルの歴史： [年表](#) (駐日イスラエル大使館)
- ヨハネの記述 3 章 22 節を見ると、ヨハネが捕えられる前にも活動していることがわかる。ヨハネが捕えられたことを契機に、宣教をはじめたというより、活動のひとつの転機を記しているのかもしれない。
- 少なくとも、ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネと会ったのが、マルコに書かれている時が初めてだとは言えないだろう。

4.6 1:16-20 四人の漁師を弟子にする

1:16 さて、イエスはガリラヤの海べを歩いて行かれ、シモンとシモンの兄弟アンデレとが、海で網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。17 イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。18 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。19 また少し進んで行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。20 そこで、すぐ彼らをお招きになると、父ゼベダイを雇人たちと一緒に舟において、イエスのあとについて行った。

4.6.1 マタイ 4:18-22

4:18 さて、イエスがガリラヤの海べを歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。 19 イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。 20 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。 21 そこから進んで行かれると、ほかのふたりの兄弟、すなわち、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイと一緒に、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。そこで彼らをお招きになると、 22 すぐ舟と父とをおいて、イエスに従って行った。

4.6.2 ルカ 5:1-11

5:1 さて、群衆が神の言を聞こうとして押し寄せてきたとき、イエスはゲネサレ湖畔に立っておられたが、 2 そこに二そうの小舟が寄せてあるのをごらんになった。漁師たちは、舟からおりて網を洗っていた。 3 その一そうはシモンの舟であったが、イエスはそれに乗り込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の中から群衆にお教えになった。 4 話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。 5 シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。 6 そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいって、網が破れそうになった。 7 そこで、もう一そうの舟にいた仲間に、加勢に来よう合図をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、舟が沈みそうになった。 8 これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。 9 彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。 10 シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブとヨハネも、同様であった。すると、イエスがシモンに言われた、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」。 11 そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従った。

4.6.3 [ヨハネ 1:35-42]

1:35 その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、 36 イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、「見よ、神の小羊」。 37 そのふたりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞いて、イエスについて行った。 38 イエスはふり向き、彼らがついてくるのを見て言われた、「何か願いがあるのか」。彼らは言った、「ラビ（訳して言えば、先生）どこにおとまりなのですか」。 39 イエスは彼らに言われた、「きてごらんなさい。そうしたらわかるだろう」。そこで彼らはついて行って、イエスの泊まっておられる所を見た。そして、その日はイエスのところに泊まった。時は午後四時ごろであった。 40 ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。 41 彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、「わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った」。 42 そしてシモンをイエスのもとにつれてきた。イエスは彼に目をとめて言われた、「あなたはヨハネの子

シモンである。あなたをケパ（訳せば、ペテロ）と呼ぶことにする」。

マルコによる福音書 1 章 16-20 節福音書対照表

4.6.4 問い

1. マルコに書かれている、弟子たちを招いた記事からどのようなことがわかりますか。
2. 「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」を弟子たちはどのように受け取ったでしょうか。
3. マタイとルカを読んでみましょう。マルコに加えてどのようなことが書かれていますか。
4. 弟子たちはどのように応答していますか。あなたならどうしますか。
5. ヨハネの記事から、さらにどのようなことがわかりますか。
6. イエスはなぜこの人たちを招いたのでしょうか。
7. イエスに従っていくとは、どのようなことなのでしょう。

4.6.5 参照

- ルカと似たエピソード：ヨハネ 21:1-14

16 K ^{*41} Γ Σ Σ ^{*42} .
^{*43} 17 . ^{*44} ^{*45} , ^{*46} 18
^{*47} . 19 K ^{*48} Z ^{*49}
^{*50} , 20 . Z .

4.6.6 記録

- 日時：2023 年 5 月 18 日午後 7 時半～9 時半

*41	: to walk
*42	: to throw or let go of a thing without caring where it falls
*43	: a fisherman, fisher
*44	: come hither, come here, come
*45	: to make
*46	: i) to send away, ii) to permit, allow, not to hinder, to give up a thing to a person, iii) to leave, go away from one,
*47	: i) to follow one who precedes, join him as his attendant, accompany him, ii) to join one as a disciple, become or be his disciple
*48	: to go forwards, go on
*49	: a ship
*50	: to render, i.e. to fit, sound, complete

- 出席（対面）5名、参加（遠隔）8名

4.6.7 問いについて

1. マルコに書かれている、弟子たちを招いた記事からどのようなことがわかりますか。
2. 「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」を弟子たちはどのように受け取ったでしょうか。
3. マタイとルカを読んでみましょう。マルコに加えてどのようなことが書かれていますか。
 - ルカ 5:5, 8 のペテロの応答からどのようなことがわかりますか。
 - [DQ] ルカでは、さらにどのようなエピソードが書かれていますか。
4. 弟子たちはどのように応答していますか。あなたならどうしますか。
5. ヨハネの記事から、さらにどのようなことがわかりますか。
 - [DQ] どちらの記事が最初におこったのでしょうか。
 - [DQ] なぜ、これほど違うのでしょうか。
6. イエスはなぜこの人たちを招いたのでしょうか。
7. イエスに従っていくとは、どのようなことなのでしょうか。
 - [DQ] 弟子になるとはどのようなことなのでしょうか。従っていくとは、どのようなことなのでしょうか。

4.6.8 メモ

- ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネはどのような人ですか。
 - － 漁師。ルカにエピソードが書かれており、さらに、ヨハネには別の出会いが書かれている。メシア（訳せばキリスト）との出会いと、網を捨てて、弟子としてついていくこととは、別のことなのだろう。
 - － ヤコブとヨハネのところには、父と雇人がいる。
 - － ルカでは、舟に乗り座って教えておられる。マルコ 3:9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。マルコ 4:1 イエスはまたも、海べで教えはじめられた。おびただしい群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわったまま、海上におられ、群衆はみな海に沿って陸地にいた。（マタイ 13:2 ところが、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわられ、群衆はみな岸に立っていた。）

- 皆、漁師はやめてしまったのだろうか。基本的には、やめたのだろう。ルカでは「そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従った。」。
- ルカと似たエピソードが、ヨハネ 21:1-14 にもある。
 - － ルカを見ると、イエスは、舟に乗って、群衆に教えておられたが、その教えに感激したのではなかったようだ。徹夜で、疲れていたかもしれない。目が覚めるようなことが起こったことが書かれている。
 - － マタイ 17:27 しかし、彼らをつまづかせないために、海に行って、釣り針をたれなさい。そして最初につれた魚をとって、その口をあけると、銀貨一枚が見つかるであろう。それをとり出して、わたしとあなたのために納めなさい」。
- ヨハネによる福音書の記述。もうひとり？
 - － ヨハネ 18:15,16 シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに付いて行った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の中庭に入ったが、ペトロは門の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中に入れた。
 - － ヨハネ 20:2-8 そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って、彼らに告げた。「誰かが主を墓から取り去りました。どこに置いたのか、分かりません。」
- イエスのことを先生（ラビ）知ってはいたが、「主よ」といって、跪くことが、ペトロの悔い改めの表現で、そのペトロにかけたイエスの言葉によって、ペトロの人生が変わっていったのだろう。イエスに従って歩むことによって。

4.7 1:21-28 汚れた霊に取りつかれた男を癒やす

1:21 それから、彼らはカペナウムに行った。そして安息日にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた。22 人々は、その教に驚いた。律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。23 ちょうどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、24 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。25 イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。26 すると、けがれた霊は彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。27 人々はみな驚きのあまり、互に論じて言った、「これは、いったい何事か。権威ある新しい教だ。けがれた霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ」。28 こうしてイエスのうわさは、たちまちガリラヤの全地方、いたる所にひろまった。

4.7.1 ルカ 4:31-37

4:31 それから、イエスはガリラヤの町カペナウムに下って行かれた。そして安息日になると、人々をお教えになったが、 32 その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた。 33 すると、汚れた悪霊につかれた人が会堂にいて、大声で叫び出した、 34 「ああ、ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。 35 イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると悪霊は彼を人なかに投げ倒し、傷は負わずに、その人から出て行った。 36 みんなの者は驚いて、互に語り合って言った、「これは、いったい、なんという言葉だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じられると、彼らは出て行くのだ」。 37 こうしてイエスの評判が、その地方のいたる所にひろまっていった。

マルコによる福音書 1 章 21-28 節福音書対照表

4.7.2 問い

1. イエスは、いつどこで教えていますか。
2. イエスの教えはどのようなものだったのでしょうか。人々の反応から考えてみましょう。
3. マルコとルカを比較して気づいたことを挙げてみましょう。
4. 汚れた霊につかれた者は何を叫んでいますか。イエスはどうしますか。そしてどうなりますか。
5. 人々は、何に驚いていますか。
6. あなたは、ここでどのようなことが起こったを思いますか。
7. イエスにとってたいせつなことは、何だったのでしょうか。

4.7.3 参照

21K ^{*51} K . ^{*52} 22 ^{*53}
 . ^{*54} . 23K ^{*55}

*51 : to go into, enter

*52 : to teach

*53 : i) to strike out, expel by a blow, drive out or away, ii) to cast off by a blow, to drive out, iii) to be struck with amazement, astonished, amazed

*54 : i) power of choice, liberty of doing as one pleases, ii) physical and mental power, iii) the power of authority (influence) and of right (privilege), iv) the power of rule or government (the power of him whose will and commands must be submitted to by others and obeyed)

*55 : not cleansed, unclean

*56 24 . , N ; *57 ; , . 25 *58
 . *59 . 26 *60
 27 *61 *62 . ; *63 , .
 *64 , *65 . 28 *66 *67 Γ .

4.7.4 記録

- 日時：2023 年 5 月 25 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）5 名

4.7.5 問いについて

- イエスは、いつどこで教えていますか。
 - 21 それから、彼らはカペナウムに行った。そして安息日にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた。
 - [A] カペナウム、会堂で。
 - [DQ] だれでも会堂で教えることができたのでしょうか。
- イエスの教えはどのようなものだったのでしょうか。人々の反応から考えてみましょう。
 - 22 人々は、その教に驚いた。律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。
 - [DQ] イエスのどのような教え方が、権威ある者のように教えられたと受け取られたのでしょうか。
- マルコとルカを比較して気づいたことを挙げてみましょう。
- 汚れた霊につかれた者は何を叫んでいますか。イエスはどうしますか。そしてどうなりますか。

-
- *56 : to raise a cry from the depth of the throat, to cry out
 *57 : to destroy
 *58 : i) to show honour to, to honour, ii) to raise the price of, iii) to adjudge, award, in the sense of merited penalty, iv) to tax with fault, rate, chide, rebuke, reprove, censure severely
 *59 : i) to close the mouth with a muzzle, to muzzle, ii) metaph; to stop the mouth, make speechless, reduce to silence, to become speechless, iii) to be kept in check
 *60 : to convulse, tear
 *61 : to be astonished, to astonish, terrify
 *62 : i) to seek or examine together, ii) in the NT to discuss, dispute, question
 *63 : new
 *64 : to enjoin upon, order, command, charge
 *65 : i) to listen, to harken, ii) to harken to a command
 *66 : i) the sense of hearing, ii) the organ of hearing, the ear, iii) the thing heard
 *67 : lying round about, neighbouring

- 23 ちょうどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、24 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。25 イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。26 すると、けがれた霊は彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。

5. 人々は、何に驚いていますか。

- 27 人々はみな驚きのあまり、互に論じて言った、「これは、いったい何事か。権威ある新しい教だ。けがれた霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ」。28 こうしてイエスのうわさは、たちまちガリラヤの全地方、いたる所にひろまった。

6. あなたは、ここでどのようなことが起こったを思いますか。

7. イエスにとってたいせつなことは、何だったのでしょうか。

4.7.6 メモ

- イエスは、ガリラヤで宣教を開始したが (1:14) 安息日に会堂で教えている。
 - － ユダヤ人共同体に、聖書の教師として、一程度、認められたいことが分かる。[参照](#)
 - － ある程度認知されていたことと共に、このような状態がどの程度続くかも、注視が必要。
- 「律法学者のようにではなく、権威あるもののように」当時の一般的な訓練を受けたわけではない、ある程度自由に語るスタイルが表現されていると共に、権威あるもののようには、詳細は不明だが、27 節の権威ある教えとは、関係しているだろう。
 - － 山上の説教 (マタイ 5-7) などからも、ある程度、想像はつく。ただ、マルコでは、そのようなことは語っていない。ルカ 5:1-11 を考えると、群衆に人気があったとも考えられる。ただ、内容まで、理解して、このように告白しているかは不明。
- 汚れた霊の記事をどう読むか。
 - － ある時期には、悪霊に憑かれていると表現し、あるときには、気狂いとあざわらわれ、ある時は、精神分裂病とされ、ある時は、統合失調症として憐れまれたりしつつも、遠ざけられていた存在かもしれない。
 - － 「イエスよ、放っておいてくれ。痛めつけ、裁くために来たのか、神から使わされたと言っても言うのだろう。」「あなたはたいせつなひとりのひと。」特別のケアをされたのかもしれない。少なくとも、このひとの異常な状態と、この人とを分離・区別している。
 - － 現代でも、オープンダイアログによる、愛の、治療もある。[\(読書記録参照\)](#)「治療すなわち『キュア』

と考えるなら難しいことでも、『ケアにかぎりなく近いキュア』と考えるなら、ありそうに思えてきませんか?」「精神分析が言葉をメスとして用いるというなら、オープンダイアログは言葉を包帯とし用いるのです。」

－ 奇跡などについて：[参照](#)

- テキストからわかるのは、イエスの教えは、律法学者のようではなく「権威のある」教えで、それは、カリスマ性をも意味するが、そのあとの、悪霊を追い出すことによって、力を伴う教えであることを、会堂に来ていた人たちが受け取ったことである。
- また、「神の国が近づいた」ということが、悪霊につかれた人から、悪霊が逃げ出すことによって、皆に示される意味を持っている。そうであれば、悪霊につかれたひとには、神の国は来たとして、そこに焦点を当てることが可能。
- 排除され、憎まれていたと思われる悪霊につかれたひとの、悪霊と、この人とを区別し、分けることで、ひとりの人が自分を取り戻すことができたとも言える。現代の精神分裂病、統合失調症と同一視する根拠はないが、そのような病に苦しんでいる人にとっても、福音であることは確か。

4.8 1:29-34 多くの病人を癒やす

1:29 それから会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨハネとを連れて、シモンとアンデレとの家にはいって行かれた。30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床についていたので、人々はさっそく、そのことをイエスに知らせた。31 イエスは近寄り、その手をとって起されると、熱が引き、女は彼らをもてなした。32 夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。33 こうして、町中の者が戸口に集まった。34 イエスは、さまざまな病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。

4.8.1 マタイ 8:14-17

8:14 それから、イエスはペテロの家にはいって行かれ、そのしゅうとめが熱病で、床についているのをごらんになった。15 そこで、その手にさわられると、熱が引いた。そして女は起きあがってイエスをもてなした。16 夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉をもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおいやしになった。17 これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである。

4.8.2 ルカ 4:38-41

4:38 イエスは会堂を出てシモンのおはいりになった。ところがシモンのしゅうとめが高い熱を病んでいたもので、人々は彼女のためにイエスにお願いした。39 そこで、イエスはそのまくらもとに立って、熱が引くように命じられると、熱は引き、女はすぐに起き上がって、彼らをもてなした。40 日が暮れると、いろいろな病気になやむ者をかかえている人々が、皆それをイエスのところに連れてきたので、そのひとりびとりに手を置いて、おいやしになった。41 悪霊も「あなたこそ神の子です」と叫びながら多くの人々から出ていった。しかし、イエスは彼らを戒めて、物を言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスはキリストだと知っていたからである。

マルコによる福音書 1 章 29-34 節福音書対照表

4.8.3 問い

1. マルコ、マタイ、ルカを読んでみましょう。シモンとアンデレの家ではどんな問題がありましたか。
2. 姑（しゅうと）の回復の様子はどのように記されていますか。
3. 夕暮れには、どのようなことが起きますか。それはなぜでしょうか。
4. イエスは何をしますか。
5. イエスはなぜ、悪霊を黙らせるのでしょうか。

4.8.4 参照

- マタイ 8:17 - イザヤ 53:3,4 彼は侮られて人に捨てられ、／悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、／彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。まことに彼はわれわれの病を負い、／われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、／彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられのだと。
 - － 病を癒すことと、病を負うことはどう違うのか。
 - － 病を知っていたとは？
 - － ルカ 8:46 しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ」。
 - － Hospital の語源：ChatGPT
 - * “Hospital” という単語は、ラテン語の”hospitālis” に由来しています。“hospitālis” は、“hospes”（宿泊客、旅人）という単語に由来しており、中世ラテン語で「旅人や貧しい人のための宿泊所」という意味で使われていました。

中世ヨーロッパでは、キリスト教の信仰に基づき、修道院や宗教団体が病人や貧しい人を収容する施設を運営していました。これらの施設は、病院（hospital）と呼ばれ、病人の治療や看護、貧しい人々への食事や寝床が提供されていました。

現代の病院は、中世の病院から発展したものであり、医学や科学技術の進歩によって、より効果的な医療が提供されるようになりました。しかし、病院の最初の目的は、依然として病人の治療と看護にあります。

なお、英語以外にも、フランス語の”hôpital”、スペイン語の”hospital”、イタリア語の”ospedale”など、多くのヨーロッパ言語で「病院」を意味する単語が”hospitālis”に由来しています。

29 K Σ . 30 *68 Σ
 *69 *70 ,
 *75 , . 32 *76 , *77 , *78 *79
 *80 . 33 *81 . 34 *82 *83 *84
 *85 *86 , .

4.8.5 記録

- 日時：2023 年 6 月 1 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）4 名

*68	: mother-in-law, a wife's mother
*69	: to have lain down, i.e. to lie prostrate
*70	: to be sick with a fever
*71	: i) to come to, approach, ii) draw near to iii) to assent to
*72	: i) to have power, be powerful, ii) to get possession of, iii) to hold
*73	: i) by the help or agency of any one, by means of any one, ii) fig. applied to God symbolising his might, activity, power
*74	: i) to send away, ii) to permit, allow, not to hinder, to give up a thing to a person, iii) to leave, go way from one
*75	: i) fiery heat, ii) fever
*76	: i) late, ii) evening
*77	: i) to go into, enter, ii) go under, be plunged into, sink in
*78	: i) to carry, ii) to bear, i.e. endure, to endure the rigour of a thing, to bear patiently one's conduct, or spare one (abstain from punishing or destroying), iii) to bring, bring to, bring forward
*79	: i) miserable, to be ill, ii) improperly, wrongly, iii) to speak ill of, revile, one
*80	: to be under the power of a demon.
*81	: i) to gather together besides, to bring together to others already assembled, ii) to gather together against, iii) to gather together in one place
*82	: i) to serve, do service, ii) to heal, cure, restore to health
*83	: i) a various colours, variegated, ii) of various sorts
*84	: disease, sickness
*85	: to be a servant, attendant, domestic, to serve, wait upon
*86	: i) to send away, ii) to permit, allow, not to hinder, to give up a thing to a person, iii) to leave, go way from one

4.8.6 問いについて

1. マルコ、マタイ、ルカを読んでみましょう。シモンとアンデレの家ではどんな問題がありましたか。
 - 29 それから会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨハネとを連れて、シモンとアンデレとの家にはいって行かれた。 30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床にっていたので、人々はさっそく、そのことをイエスに知らせた。
2. 姑（しゅうと）の回復の様子はどのように記されていますか。
 - 31 イエスは近寄り、その手をとって起されると、熱が引き、女は彼らをもてなした。
3. 夕暮れには、どのようなことが起きますか。それはなぜでしょうか。
 - 32 夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。 33 こうして、町中の者が戸口に集まった。
4. イエスは何をしますか。
 - 34 イエスは、さまざまの病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。
 - [DQ] イエスにとって、癒しとはどのような働きだったのでしょうか。
5. イエスはなぜ、悪霊を黙らせるのでしょうか。

4.8.7 メモ

- マルコと、マタイ、ルカでは話の続き方が異なっていることに注意。マタイと、ルカには、ヤコブとヨハネが一緒であることは、書かれていない。もしかすると、一緒ではなかったのかもしれない。マタイでは、山上の説教のあと、いくつかの癒しが記されそのあと。ルカでは、弟子たちを招くより前に記されている。曜日も変わっており、マルコでも、20 節と、21 節の間に、切れ目がある。
- なぜ人々はイエスに熱病のことを知らせたのだろうか。この時点で、すでに、イエスは癒すことができると信じていたのだろうか。
- ペテロは結婚していた。（[ペテロの妻について](#)）
 - － 1 コリント 9:5 わたしたちには、ほかの使徒たちや主の兄弟たちやケパのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのか。
 - － アレキサンドリアの教父クレメンス 150–215 は伝説として、ペテロの妻は、バルナバの兄弟アリストブロスの娘で、ペルペチュアまたはコンコルディアとよんでいる伝説もある。

- なぜ、イザヤ 53 章4 節を引用したのか。
 - ChatGPT: マタイ 8:17 におけるイザヤ書 53 章の預言の引用には、イエス・キリストの「苦難のしもべ」であること、彼が人々を救う力を持っていること、そして彼が人々を救うために犠牲を払ったことを示す意味が含まれています。また、この引用は、キリスト教徒にとって、復活や救いの希望を与えるものでもあります。
 - 一般的には、共観福音書では、贖罪のための苦難というモチーフは薄い。癒しと悪霊を追い出すこと自体に、イザヤ書に結びつくものを認めていたのだろう。
 - イザヤ 53 章の、マタイ 8:17 以外での引用。ルカ 22:37 (マルコ 15:28)、使徒 8:32-35。
 - ユダヤ教での解釈は、異なること、および、旧約聖書のギリシャ語訳セプチュアギンタの表現も関係していることの確認も、必要。
- いやしについて：三つのギリシャ語
 - いやしのたいせつな部分は、病人、悪霊に憑かれている人の苦しみを和らげること。現代的な医療(だけ)が、いやしというわけではない。その苦しみを受け取ること、ケアすること、こころをこめて治療すること、それは、免疫力をあげることに資するかもしれない。それには、罪が赦されること、手などに触れて、安心できること、医療行為が進んでも、それは、残るかもしれない。
- 「また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。」とあるが、24 節では、物を言っているのでは。この時も、これ以上言わせなかったようなので、それを言っているのか。

4.9 1:35-39 巡回して宣教する

1:35 朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。36 すると、シモンとその仲間とが、あとを追ってきた。37 そしてイエスを見つけて、「みんなが、あなたを捜しています」と言った。38 イエスは彼らに言われた、「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」。39 そして、ガリラヤ全地を巡りあるいて、諸会堂で教を宣べ伝え、また悪霊を追い出された。

4.9.1 ルカ 4:42-44

4:42 夜が明けると、イエスは寂しい所へ出て行かれたが、群衆が捜しまわって、みもとに集まり、自分たちから離れて行かれないようにと、引き止めた。43 しかしイエスは、「わたしは、ほかの町々にも神の国の福音を宣べ伝えねばならない。自分はそのためにつかわされたのである」と言われた。44 そして、ユダヤの諸会堂で教を説かれた。

4.9.2 問い

1. 21 節から 34 節を読み、前日の出来事を思い起こしてみましょう。どんなことがありましたか。
2. イエスの祈りについてどんなことがわかりますか。
3. 人々はなぜ、イエスを探しているのでしょうか。
4. イエスは、どのように答え、またそのあと、どのような活動をしましたか。
5. イエスは、なぜ、「附近の町々にみんなで行って、教えを宣べ伝える」ことを選んだのでしょうか。
6. イエスは教えを宣べ伝えることと、悪霊を追い出したり、病をいやしたりすることについて、どのように考えていたのでしょうか。
7. イエスは、福音宣教の初期の活動で、どのような経験をし、何を神様の御心として受け取ったのでしょうか。

4.9.3 参照

- この前日（安息日とその夜）のこと
 1. カペナウムの会堂で教えた。(21-22)
 2. けがれた霊を追い出す。(23-27)
 3. イエスのうわさが、たちまちガリラヤの全地方、いたる所にひろまった。(28)
 4. シモンのしゅうとめの熱病を癒す。(29-31)
 5. 日没後、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきて、町中の者が戸口に集まった。(32,33)
 6. さまざまの病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出した。(34a)
- イエスの祈りの記録（参考：[祈りについて](#)）
 - － 受洗：ルカ 3:21-22 さて、民衆がみなバプテスマを受けたとき、イエスもバプテスマを受けて祈っておられると、天が開けて、聖霊がはどのような姿をとってイエスの上に下り、そして天から声がした、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。
 - － 活動的な安息日明け：マルコ 1:35 朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。(重い皮膚病の人を癒してから) ルカ 5:16 しかしイエスは、寂しい

所に退いて祈っておられた。

- **十二弟子の選出前**：ルカ 6:12 このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。
- **五千人給食後**：マルコ 6:46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。マタイ 14:23 そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。ヨハネ 6:15 イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。
- **ペテロの告白・受難告知前**：ルカ 9:18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが近くにいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしをだれと言っているか」。
- **山上の変貌**：ルカ 9:28-29 これらのことを話された後、八日ほどたってから、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために山に登られた。29 祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。
- **逮捕直前（ゲッセマネの祈り）**：マルコ 14:32-42、マタイ 26:39-46、ルカ 22:40-45、ヨハネ 17 章（とりなしの祈り）
 - * マルコ 14:36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。
- 他にもイエスが神に語りかける場所として
 - * ヨハネ 6:11 そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。
 - * ヨハネ 11:41,42 人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた、「父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。42 あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります」。
 - * ヨハネ 12:27, 28 今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。父よ、み名があがめられますように」。28 すると天から声があった、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであらう」。

35 K *87 *88 *89 *90 *91 *92 *93 36 *94
Σ , 37 *95 *96 38 *97
*98 , *99 . 39 K Γ

4.9.4 記録

- 日時：2023 年 6 月 8 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）5 名

4.9.5 問いについて

- 21 節から 34 節を読み、前日の出来事を思い起こしてみましょう。どんなことがありましたか。
- イエスの祈りについてどんなことがわかりますか。
- 人々はなぜ、イエスを探しているのでしょうか。
- イエスは、どのように答え、またそのあと、どのような活動をしましたか。
- イエスは、なぜ、「附近の町々にみんなで行って、教えを宣べ伝える」ことを選んだのでしょうか。
- イエスは教えを宣べ伝えることと、悪霊を追い出したり、病をいやしたりすることについて、どのように考えていたのでしょうか。
- イエスは、福音宣教の初期の活動で、どのような経験をし、何を神様の御心として受け取ったのでしょうか。

-
- *87 : i) in the morning, early, ii) he fourth watch of the night, from 3 o'clock in the morning until 6 o'clock approximately
*88 : nightly, nocturnal
*89 : greatly, exceedingly, exceedingly beyond measure
*90 : i) to cause to rise up, raise up, ii) to rise, stand up, iii) at arise, appear, stand forth
*91 : i) to go away, depart, ii) to go away
*92 : solitary, lonely, desolate, uninhabited
*93 : to offer prayers, to pray
*94 : to follow after, follow up
*95 : i) to come upon, hit upon, to meet with, ii) to find by enquiry, thought, examination, scrutiny, observation, to find out by practice and experience, iii) to find out for one's self, to acquire, get, obtain, procure
*96 : i) to seek in order to find, ii) to seek i.e. require, demand
*97 : i) to lead, take with one, ii) to lead, iii) to pass a day, keep or celebrate a feast, etc., iv) to go, depart
*98 : a village approximating in size and number of inhabitants to a city, a village city, a town
*99 : i) to be a herald, to officiate as a herald, ii) to publish, proclaim openly: something which has been done, iii) used of the public proclamation of the gospel and matters pertaining to it, made by John the Baptist, by Jesus, by the apostles and other Christian teachers

4.9.6 メモ

- イエスに焦点があたっているが、人々と、弟子たちもその場にいるので、それぞれの人たちが、何を求めているかも、考えてみたい。特に、弟子たちは、人々と同じなのか、イエスに近いのか、微妙な立ち位置に感じる。
- 口語訳では「みんな」が2回出てくる。まず、36「シモンとその仲間とが、あとを追ってきた。」37「みんなが、あなたを捜しています」38「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」。「みんな」は誰だろうか。イエスと共に行動するものだろうか。主とイエス、イエスとみんな。イエスの祈りの内容を知りたい。
- イエスが「朝はやく、夜の明けるよほど前」に「寂しい所へ出て行き」祈っていたことが書かれている。ルカにその記述はないが、重い皮膚病のひとの癒しの後5章15,16節に「15 しかし、イエスの評判はますますひろまって行き、おびたしい群衆が、教を聞いたり、病気をなおしてもらったりするために、集まってきた。16 しかしイエスは、寂しい所に退いて祈っておられた。」の記述がある。
- マルコの前段でも「32 夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。33 こうして、町中の者が戸口に集まった。34 イエスは、さまざまの病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。」とあり、やはり、前段の並行箇所である、マタイ8章16節でも「夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉をもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおこしやすになった。」とあり、ルカには、大勢の記録が、上記の箇所にあることから、同様の時期または背景のもとで、祈ったことが推測できる。
- イエスのことばと行動だけから判断すると、ルカの表現を借りると「イエスの評判はますますひろまって行き、おびたしい群衆が、教を聞いたり、病気をなおしてもらったりするために、集まってきた。」ときに、祈り、「38 ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」。と言って、その場を退いたことがわかる。
- 続いて「39 そして、ガリラヤ全地を巡りあるいて、諸会堂で教えを宣べ伝え、また悪霊を追い出された。」とあり、教えを述べ伝えるだけでなく、悪霊を追い出すこともしている。このあとの、思い皮膚病を患っている人の癒しからも、病気が癒したと思われる。活動に変化はないように見える。
- 祈り（主との対話）の中で、思いとずれていること、しかし、御心に従う、マルコ14:36「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。と近いことが示されたのかもしれない。
- 「神の国は近い」の共有の、難しさを認識しつつ、神の子（しもべ）として、歩み続けることを決意したのかもしれない。

4.10 1:40-45 規定の病を患っている人を清める

1:40 ひとりの重い皮膚病にかかった人が、イエスのところに願いにきて、ひざまずいて言った、「みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。42 すると、重い皮膚病が直ちに去って、その人はきよくなった。43 イエスは彼をきびしく戒めて、すぐにそこを去らせ、こう言い聞かせられた、44 「何も人に話さないように、注意しなさい。ただ行って、自分のからだを祭司に見せ、それから、モーセが命じた物をあなたのきよめのためにささげて、人々に証明しなさい」。45 しかし、彼は出て行って、自分の身に起ったことを盛んに語り、また言いひろめはじめたので、イエスはもはや表立っては町に、はいることができなくなり、外の寂しい所にとどまっておられた。しかし、人々は方々から、イエスのところにぞくぞくと集まってきた。

4.10.1 マタイ 8:1-4

8:1 イエスが山をお降りになると、おびただしい群衆がついてきた。2 すると、そのとき、ひとりの重い皮膚病にかかった人がイエスのところにきて、ひれ伏して言った、「主よ、みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。3 イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。すると、重い皮膚病は直ちにきよめられた。4 イエスは彼に言われた、「だれにも話さないように、注意しなさい。ただ行って、自分のからだを祭司に見せ、それから、モーセが命じた供え物をささげて、人々に証明しなさい」。

4.10.2 ルカ 5:12-16

5:12 イエスがある町におられた時、全身重い皮膚病にかかった人がそこにいた。イエスを見ると、顔を地に伏せて願って言った、「主よ、みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。13 イエスは手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。すると、重い皮膚病がただちに去ってしまった。14 イエスは、だれにも話さないようにと彼に言い聞かせ、「ただ行って自分のからだを祭司に見せ、それからあなたのきよめのため、モーセが命じたとおりのささげ物をして、人々に証明しなさい」とお命じになった。15 しかし、イエスの評判はますますひろまって行き、おびただしい群衆が、教を聞いたり、病気をなおしてもらったりするために、集まってきた。16 しかしイエスは、寂しい所に退いて祈っておられた。

[マルコによる福音書 1 章 40-45 節福音書対照表](#)

4.10.3 問い

1. マルコとともに、マタイとルカも読み、気づいたことを挙げてみましょう。

2. 40 節の重い皮膚病の人の言葉からはどんなことが読み取れますか。
3. イエスについてはどのように描かれていますか。そしてどうなりますか。
4. イエスは重い皮膚病の人にどのように言い聞かせますか。
5. なぜ、重い皮膚病の人はイエスが言われたようにはしなかったのでしょうか。そしてどうなりますか。
6. マルコは「イエス・キリストの福音のはじめ」とこの福音書を書きだし、私達は第一章の終わりまで学んできました。この一章にはイエスがどんな方だと描かれていたのでしょうか。あなたはイエスについてどのような印象を受けましたか。

4.10.4 参照

4.10.4.1 重い皮膚病：参照

- 規定の病（日本聖書協会 [重要な訳語の変更](#)）

旧約におけるヘブライ語ツァラアト：「ツァラアト」（新約においてはギリシア語訳「レプラ」）については、一九九六年の「らい予防法」の廃止も受け、一九九七年に新共同訳の新約において「らい病」と訳されていたレプラをすべて旧約の訳語に合わせ「重い皮膚病」に改めていましたが、なお同訳語が必ずしも適切なものでないとの指摘を受け、本新訳事業においても当初から検討を続けました。最終的に第七回検討委員会（二〇一七年三月一三日）において、これを「規定の病」とすることで合意して理事会に答申し、日本聖書協会二〇一八年度第三回理事会（二〇一八年六月一日）においてこの答申が承認されました。「規定の病」は「律法で規定された病」を意味し、皮膚だけでなく家や革製品についても同じ訳語を用いることとしました。「規定の病」は「重い」「皮膚」という、原語にない意味を含まない点で、従来の「重い皮膚病」の訳語の持つ課題をある程度解決するものと考えています。レビ記の関係する箇所訳文は次のようになります。「祭司がその皮膚の患部を調べて、その患部の毛が白く変わり、皮膚の下まで及んでいるなら、それは規定の病である。祭司はそれを確認したら、その人を汚けがれていると言ひ渡す。」（レビ記一三 3）「祭司は行って調べる。家にかびが広がっていたなら、それは家に生じる悪性の規定の病である。その家は汚けがれている。」（レビ記一四）

- Q.（新改訳聖書）第 3 版では、従来の「らい病人」は「ツァラアトに冒された人」と訳されています。「ツァラアト」とは何ですか？ と聞かれた場合、何と答えればよいでしょうか？
 - － A. 聖書のツァラアトは皮膚に現れるだけでなく、家の壁や衣服にも認められる現象であり、それが厳密に何を指しているかはいまだに明らかではありません。しかし、それは「何らかの原因により、人体や物の表面が冒された状態」を描写しています。（第 3 版「あとがき」より）[新聖書刊行会 Q&A からの引用](#)
- レビ記 13:44,45 その人は重い皮膚病に冒された者であって、汚れた者である。祭司はその人を確かに汚れた者としなければならない。患部が頭にあるからである。重い皮膚病の患者は、その衣服を裂き、その

レビ記 14 章:1-32 1 主はまたモーセに言われた、2「重い皮膚病の患者が清い者とされる時のおきては次のとおりである。すなわち、その人を祭司のもとに連れて行き、3 祭司は宿営の外に出て行って、その人を見、もし重い皮膚病の患部がいえているならば、

- 深くあわれむ : 12 回マタイ 9:36, 14:14, 15:32, 18:27, マルコ 1:41, 6:34, 8:2, 9:22, ルカ 7:13, 10:33, 15:20。 [参照](#)
- きびしく戒め (em-brim-ah'-om-ahee): 5 回マタイ 9:30, マルコ 1:43, 14:5, ヨハネ 11:33

*100 : i) scaly, rough, ii) leprous, affected with leprosy

*101 : i) to call to one's side, call for, summon, ii) to address, speak to, (call to, call upon), which may be done in the way of exhortation, entreaty, comfort, instruction, etc.

*102 : to fall on the knees, the act of imploring aid, and of expressing reverence and honour

*103 : to will, have in mind, intend

*104 : i) to be able, have power whether by virtue of one's own ability and resources, or of a state of mind, or through favourable circumstances, or by permission of law or custom, ii) to be able to do something, iii) to be capable, strong and powerful

*105 : i) to make clean, cleanse, ii) to pronounce clean in a levitical sense

*106 : to be moved as to one's bowels, hence to be moved with compassion, have compassion (for the bowels were thought to be the seat of love and pity)

*107 : to fasten one's self to, adhere to, cling to

*108 : to charge with earnest admonition, sternly to charge, threatened to enjoin

*109 : i) to show, expose to the eyes, ii) metaph. to give evidence or proof of a thing

*110 : i) a priest, one who offers sacrifices and in general in busied with sacred rites, ii) metaph. of Christians, because, purified by the blood of Christ and brought into close intercourse with God, they devote their life to him alone and to Christ

*111 : i) to bring to, lead to, ii) to be borne towards one, to attack, assail

*112 : i) to assign or ascribe to, join to, ii) to enjoin, order, prescribe, command

*113 : testimony

*114 : i) to be the first to do (anything), to begin, ii) to be chief, leader, ruler, iii) to begin, make a beginning

*115 : i) to be a herald, to officiate as a herald, ii) to publish, proclaim openly: something which has been done, iii) used of the public proclamation of the gospel and matters pertaining to it, made by John the Baptist, by Jesus, by the apostles and other Christian teachers

*116 : i) to spread abroad, blaze abroad, ii) to spread abroad his fame or renown

*117 : from all sides, from every quarter

4.10.5 記録

- 日時：2023 年 6 月 15 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）7 名

4.10.6 問いについて

1. マルコとともに、マタイとルカも読み、気づいたことを挙げてみましょう。
2. 40 節の重い皮膚病の人の言葉からはどんなことが読み取れますか。
3. イエスについてはどのように描かれていますか。そしてどうなりますか。
4. イエスは重い皮膚病の人にどのように言い聞かせますか。
5. なぜ、重い皮膚病の人はイエスが言われたようにはしなかったのでしょうか。そしてどうなりますか。
6. マルコは「イエス・キリストの福音のはじめ」とこの福音書を書きだし、私達は第一章の終わりまで学んできました。この一章にはイエスがどんな方だと描かれていたでしょうか。あなたはイエスについてどのような印象を受けましたか。

4.10.7

4.10.8 メモ

- **重い皮膚病**は、ギリシャ語では、（lep-ros': scaly, rough ざらざらのでこぼこの）が使われている。ヘブル語で書かれた旧約聖書の や、（いずれも語根は to be diseased of skin, be leprous）の七十人訳の訳語としても使われている。さまざまな皮膚病を表している。しかし、ハンセン氏病のような古代において恐れられていた感染症の症状でもあるため、共同体ではとくに、注意しなければいけない症状だったと思われ、旧約聖書では、その判断は祭司がすることになっており、汚れている・汚れていないの判断と共同体に対する宣言をすることになっていた。
 - － 旧約聖書で実際に重い皮膚病にかかったひとについてどのように記述されているか確認することもないせつ。モーセの手、ミリアム、ナーマン、ウジヤ、アッシリアの包囲のときの重い皮膚病の人たち
- どうして、もっと単純に、治して下さいと言わないのか
 - － おそらく、病気の苦しさよりも、汚れているとされていることが、社会的にも、自らの尊厳からも、耐え難い苦痛だったのではないだろうか。
- イエスはなぜモーセの定めの実行を命じたのでしょうか。

- － 社会的につながることが不可欠と理解していたのでは。
- イエスはなぜ語らないように注意したのだろうか。
 - － イエスは彼らに言われた、「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」。(38) が背景にある。
- 気づいたこと
 - － マルコ 1:40 ひざまずいて、マタイ、ひれふして、ルカ、顔を地に伏せて願って、と表現が少しずつずれている。マタイ、ルカには、「主よ K ^{*118}」のことばも伴っている。
 - － きよさは、第一に神との交わりが絶たれ、第二に人との交わりが絶たれ、第三に自分の尊厳が失われた（じぶんが自分でいることが許容される、あなたはあなたでいいよと言えない）状態。永遠の滅びにとどまっている状態。
 - － ヨハネ 3:36 御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。(たとえ、御子を信じていると言っていたとしても) だれでも、神様の前には、きよくない存在なのかもしれない。それをみとめてひざまずけるかどうか。
 - － マルコ 1:41 深く憐れんで、手を伸ばして（きよくない）彼にさわり。いやしのことばは、共観福音書共通「そうしてあげよう、きよくなれ」
 - － マルコ 1:42 直ちに治るとはどういうことだろうか。ちょっと想像しにくい。それがわかる兆候はあったのだろう。治ったことがわかる程度になおり始めたのかもしれない。重い皮膚病が何であったかは、問うても仕方がないと思う。
 - － マルコ 1:43,44 誰にも言わず、祭司に見せ、献げものをし、人々に証明。これらが全体的な回復には、必要であるとイエスが考えたからだろう。自分に対して、神様に対して、人々に対して関係を回復することは本質的なのだろう。たんに、群衆が押し寄せてくる、不都合を嫌ったわけではないかもしれない。
 - － ルカには、教えを聴きにきたことも含まれている。
- 一章を通して：人間は、自分のことを思い、主の苦しみ、痛み、望みを知らうとしない。それでも、イエスは、種を蒔き続ける。神様がそれを育ててくださると信頼しているからか。わたしは、イエスのように、Be available, stay vulnerable でありつつ、主の、苦しみと痛みを、少しでも受け取り、主の望みを受け取っていきたい。とても、難しいことだろうが。

^{*118} :he to whom a person or thing belongs, about which he has power of deciding; master, lord, the Sept.for ,

4.11 2:1-12 体の麻痺した人を癒やす

2:1 幾日かたって、イエスがまたカペナウムにお帰りになったとき、家におられるといううわさが立ったので、2 多くの人々が集まってきて、もはや戸口のあたりまでも、すきまが無いほどになった。そして、イエスは御言を彼らに語っておられた。3 すると、人々がひとりの中風の者を四人の人に運ばせて、イエスのところに連れてきた。4 ところが、群衆のために近寄ることができないので、イエスのおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたまま、床をつりおろした。5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。6 ところが、そこに幾人かの律法学者がすわっていて、心の中で論じた、7 「この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」。8 イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。9 中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。10 しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに言い、中風の者にむかって、11 「あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。12 すると彼は起きあがり、すぐに床を取りあげて、みんなの前を出て行ったので、一同は大いに驚き、神をあがめて、「こんな事は、まだ一度も見ることがない」と言った。

4.11.1 マタイ 9:1-8

1 さて、イエスは舟に乗って海を渡り、自分の町に帰られた。2 すると、人々が中風の者を床の上に寝かせたままでもとに運んできた。イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われた。3 すると、ある律法学者たちが心の中で言った、「この人は神を汚している」。4 イエスは彼らの考えを見抜いて、「なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのか。5 あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。6 しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と言い、中風の者にむかって、「起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。7 すると彼は起きあがり、家に帰って行った。8 群衆はそれを見て恐れ、こんな大きな権威を人にお与えになった神をあがめた。

4.11.2 ルカ 5:17-26

17 ある日のこと、イエスが教えておられると、ガリラヤやユダヤの方々の村から、またエルサレムからきたパリサイ人や律法学者たちが、そこにすわっていた。主の力が働いて、イエスは人々をいやされた。18 その時、ある人々が、ひとりの中風をわずらっている人を床にのせたまま連れてきて、家の中に運び入れ、イエスの前に置こうとした。19 ところが、群衆のためにどうしても運び入れる方法がなかったので、屋根にのぼり、瓦をはいで、病人を床ごと群衆のまん中につりおろして、イエスの前においた。20 イエスは彼らの信仰を見て、「人よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。21 すると律法学者とパリサイ人た

ちとは、「神を汚すことを言うこの人は、いったい、何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」と言って論じはじめた。22 イエスは彼らの論議を見ぬいて、「あなたがたは心の中で何を論じているのか。23 あなたの罪はゆるされたと言うのと、起きて歩けと言うのと、どちらがたやすいか。24 しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威を持っていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに対して言い、中風の者にむかって、「あなたに命じる。起きよ、床を取り上げて家に帰れ」と言われた。25 すると病人は即座にみんなの前で起きあがり、寝ていた床を取りあげて、神をあがめながら家に帰って行った。26 みんなの者は驚嘆してしまった。そして神をあがめ、おそれに満たされて、「きょうは驚くべきことを見た」と言った。

マルコによる福音書 2 章 1-12 節福音書対照表

4.11.3 問い

1. マルコを読み、ここで起こったことを確認し、気づいたこと、疑問点を挙げてみましょう。
2. 中風の人にはどのように運ばれてきましたか。なぜこれほど人が集まっていたのでしょうか。イエスは何をしているところでしたか。マタイやルカも合わせて状況を想像してみましょう。
3. イエスはどうしますか。中風の人にはこのことばはどう響いたと思いますか。
4. 「彼らの信仰」とは誰のどのような信仰なのでしょう。
5. 律法学者は、どう反応しますか。なぜ、そのような反応をするのでしょうか。
6. イエスは、どんなことを気付かせるために 9 節の質問をしていますか。イエスの問いに対して律法学者はどう考えていたでしょう。あなたは、どう考えますか。
7. イエスは、中風の人にどのように命じ、そして、どうなりますか。

4.11.4 参照

- パリサイ人・律法学者：[参照](#)
- 病気と罪の関係：[参照](#)
- 中風（ ）について：[参照](#)
- 人の子（ ）：[参照](#)

1 K ^{*119} K , ^{*120} . 2 ^{*121} ^{*122}

^{*119} (2AAI-3S): to go out or come in: to enter

^{*120} (API-3S): i) to be endowed with the faculty of hearing, not deaf, ii) to hear, iii) to hear something

^{*121} (API-3P): i) to gather together, to gather, ii) to bring together, assemble, collect, iii) to lead with one's self

^{*122} (PAN): i) to leave space (which may be filled or occupied by another), to make room, give place, yield, ii) to go forward, advance, proceed, succeed, iii) to have space or room for receiving or holding something

, . 3 K *123 *124 *125 *126 . 4
*127 *128 *129 *130 *131 *132 *133
*134 *135 . 5 *136 *137 *138
6 *139 *140 . 7 ; *141.
; 8 *142
; 9 *143 , . *144
;10 *145 — *11
*146 . 12 *147
*148 *149 .

-
- *123 (PNI-3P) N: middle or passive doponent
*124 (PAP-NPM): i) to carry, ii) to bear, i.e. endure, to endure the rigour of a thing, to bear patiently one's conduct, or spare one (abstain from punishing or destroying), iii) to bring, bring to, bring forward
*125 : paralytic
*126 (PPP-ASM): i) to raise up, elevate, lift up, ii) to take upon one's self and carry what has been raised up, to bear, iii) to bear away what has been raised, carry off
*127 PNP-NPM
*128 (AAN): to approach unto
*129 (AAI-3P): to uncover, take off the roof
*130 (ASF): a roof: of a house
*131 (AAP-NPM): i) to dig out, to pluck out (the eyes), ii) to dig through
*132 (PAI-3P): i) to loosen, slacken, relax, ii) to let down from a higher place to a lower
*133 (ASM): a pallet, camp bed (a rather simple bed holding only one person)
*134 (NSM): paralytic; a) suffering from the relaxing of the nerves of one's side, b) disabled, weak of limb
*135 (INI-3S): to have lain down, i.e. to lie prostrate; a) of the sick, b) of those at meals, to recline
*136 (2AAP-NSM): i) to see with the eyes, ii) to see with the mind, to perceive, know, iii) to see, i.e. become acquainted with by experience, to experience, iv) to see, to look to, v) I was seen, showed myself, appeared
*137 (ASF): i) conviction of the truth of anything, belief; in the NT of a conviction or belief respecting man's relationship to God and divine things, generally with the included idea of trust and holy fervour born of faith and joined with it, ii) fidelity, faithfulness
*138 (RPI-3P): i) to send away, ii) to permit, allow, not to hinder, to give up a thing to a person, iii) to leave, go way from one
*139 (PNP-NPM): i) to sit down, seat one's self, ii) to sit, be seated, of a place occupied
*140 (PNP-NPM): to bring together different reasons, to reckon up the reasons, to reason, revolve in one's mind, deliberate
*141 (APF): i) slander, detraction, speech injurious, to another's good name, ii) impious and reproachful speech injurious to divine majesty
*142 (2AAP-NSM): i) to become thoroughly acquainted with, to know thoroughly, ii) to know
*143 (NSN-C): i) with easy labour, ii) easy
*144 (AAM-2S): i) to raise up, elevate, lift up, ii) to take upon one's self and carry what has been raised up, to bear, iii) to bear away what has been raised, carry off
*145 (RAS-2P): i) to see, ii) to know
*146 (AMM-2S): to arouse, cause to rise
*147 (API-3S): to arouse, cause to rise
*148 (PMN): to throw out of position, displace
*149 (PAN): i) to think, suppose, be of opinion, ii) to praise, extol, magnify, celebrate, iii) to honour, do honour to, hold in honour, iv) to make glorious, adorn with lustre, clothe with splendour

4.11.5 記録

- 日時：2023 年 6 月 22 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）X 名、参加（遠隔）Y 名

4.11.6 問いについて

1. マルコを読み、ここで起こったことを確認し、気づいたこと、疑問点を挙げてみましょう。
 - 少し長いので、まずは、マルコで全体を確認。
2. 中風の人はどうやって運ばれてきましたか。なぜこれほど人が集まっていたのでしょうか。イエスは何をしているところでしたか。マタイやルカも合わせて状況を想像してみましょう。
 - 中風の人を運ばれてきた時の様子
 - － どのように運ばれてきたか「人々が」「四人の人に」「中風の人を」運ばせて、イエスのもとに連れてきた。
 - － なぜこれほど人が集まったか。マルコ（だけ）にはカペナウムでの出来事であったことが記されている（1）（マタイは「自分の町」（1））。「1:32 夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。33 こうして、町中の者が戸口に集まった。34 イエスは、さまざまな病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。」と、ある。また、寂しいところに祈りにいくと人々は捜していた。（1:38）「1:45 彼（重い皮膚病を癒された人）は出て行って、自分の身に起ったことを盛んに語り、また言いひろめはじめたので、イエスはもはや表立っては町に、はいることができなくなり、外の寂しい所にとどまっておられた。しかし、人々は方々から、イエスのところにぞくぞくと集まってきた。」
 - － イエスは何をしていたか「御言を彼らに語っておられた。」つまり説教中、それでも対応。なぜだろうか。次の問いにつながる。
3. イエスはどうしますか。中風の人にはこのことばはどう響いたと思いますか。
 - イエスのことば、中風のひとの受け取り方
 - － イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。
 - － こう言われたということは、このひとは、やはり罪の中に生きていたということだろうか。
 - － 自分では何もできないことに、罪悪感を感じていたかもしれない。役立たず。
 - － 彼らの信仰の部分は、次の問いに続く。ここでは、「み言葉を語ること」を中断して。

- － 中風の人も驚いたかもしれない。社会一般的には、中風は罪の故と思っていたかもしれないが、このひとを連れてきた人たちの様子からは、そのような因果応報的な考えかたは見取れない。それが「(神は憐れんでくださる、これが当然の罪の帰結で許されないものだとは思っていない)信仰」と表現されているのかもしれない。社会的認識が一般的にあったとしてのそれに支配されているとも限らない。
- － マルコでは「子よ」、マタイでは「子よ、しっかりしなさい」、ルカでは「人よ」と呼びかけ方が異なっている。この呼びかけのことばは、どう理解したら良いのだろうか。ある権威を示している？

4. 「彼らの信仰」とは誰のどのような信仰なのでしょう。

・「彼らの信仰」とは

- － 誰：マルコでは、人々？ マタイでも人々、ルカもおそらく人々。四人に限定されるわけではない。どういう人たちで、どのような関係をこの中風のひとと持っており、どう思っており、このような行動をしたのだろうか。このような関係のひとはいるだろうか。
- － 罪の結果だと一般的には思われていたが、神は憐れんでくださるということか。
- － 罪と信仰と愛の関係はどう考えたらよいでしょうか。愛は単なる助け合いではない。神を信頼するものどうしの相互の愛。

5. 律法学者は、どう反応しますか。なぜ、そのような反応をするのでしょうか。

・律法学者の反応

- － ルカでは「エルサレム方きたパリサイ人や律法学者」となっている。マルコとマタイは「幾人かの律法学者」「律法学者たち」
- － イエスが見抜いてとなっており、前列に座っていたのかもしれない。
- － 自分が律法学者のような反応をした経験はありますか。そこで、起こったことをみるよりも、成した人の善悪を評価することなど。

6. イエスは、どんなことを気付かせるために9節の質問をしていますか。イエスの問いに対して律法学者はどう考えていたでしょう。あなたは、どう考えますか。

・何を気づかせるため

- － イエスは、どちらでもそう変わらないと思っていたのではないか。実際、結局両方言っている。
- － 「罪をゆるすことができるのは神のみ」はなぜなのだろうか。罪のゆるしと捉えたということは、律法学者は、罪の結果だと考えていたのかもしれない。
- － 原理主義ではいけない。

7. イエスは、中風の人にどのように命じ、そして、どうなりますか。

- 中風の人に何と語り、どうなったか。

- －「床を取り上げて家に帰れ」手伝ってもらってここにきたが、自分で動くことを命じられている。眼に見える、「みんなの前を出て行った」変化がある。

- －一同は驚き、神をあがめて「こんな事は、まだ一度も見たことがない」と言った。

4.11.7 メモ

- カペナウム（マタイでは自分の町）：以前の出来事マルコ 1:21-39 汚れた霊に取りつかれた男を癒す、多くの病人を癒す、巡回して宣教する。規定の病を患っている人を清めるは、マルコの流れでは巡回宣教中。

- － 家（1）は、ペトロとアンデレの家か？

- 彼らの信仰：「人々がひとりの中風の者を四人の人に運ばせて、イエスのところに連れてきた。」とあり、人々（マルコは翻訳によるが、マタイでは入っているようだ）、中風の者、四人の人とある。全員だろうか。これは、神様への挑戦でもあるのだろうか。理不尽さ。
- 神を汚す：なぜ、罪を赦すことが、神を汚すことになるのか。神の先決事項に介入したということか。神に目を向けていると言いながら、神の業を、働きを見ていない。完璧を求め、そこに関わった人を見下すことは、あるように思う。
- 人の子：なぜ、自分の子を、人の子と呼んだのだろうか。私たちは、人の子ではないのか。人の子、私たちの役割は何なのだろうか。私たちに、同じことは委ねられているのだろうか。罪を赦すこと。受け入れること。同じ人の子として、ともに生きること。罪に定めることの、ひとの世界のことなのかもしれない。
- ルカ 5:26 「驚くべきこと」の内容は何だろうか。受け取り方は、ひとそれぞれだったのかもしれない。中風の人、中風の人を連れてきた人、その他の人々、律法学者、イエス、そして、それを伝える、弟子たち、その人たちの見たものは、さまざまだったのかもしれない。
- 中風の人、自分の病は、罪の結果かもしれないと考えていた可能性はある。むしろ、こんな罰を受けているほどの罪だろうかとの意識もあったかもしれない。そうであっても、自分から、癒してもらいたいとイエスのもとにいくことはできなかったのではないだろうか。すごいことがおこっていると、聞きつけた周囲の人々が、この中風のひとをイエスのもとに連れて行く。そこには、この中風の人を罪人と定める人はおらず、逆に、愛を持って、さらに、神様が憐れんでなしてくださることに期待をかけた人たちがいたのだろう。その信仰に、心が動かされ、イエスは、「子よ、あなたの罪は赦された」と宣言される。それは、この中風の人にとって、どれほどの慰めと救いだったかと思う。まさに、神の国がここにきたのだ。しかし、それを認めることができず、正しさから、違反を見つけようとする人たちがいる。イエスは、このひとたちにもひとこといい、さらに、中風のひとに語りかけ、中風の人には癒される。すべてを理解できたかどうかはわからないが、神様を賛美せざるをえない人たちが、そこにいたのだろう。感謝。

4.12 2:13-17 レビを弟子にする

2:13 イエスはまた海へに出て行かれると、多くの人々がみもとに集まってきたので、彼らを教えられた。14 また途中で、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをごらんになって、「わたしに従ってきなさい」と言われた。すると彼は立ちあがって、イエスに従った。15 それから彼の家で、食事の席についておられた時のことである。多くの取税人や罪人たちも、イエスや弟子たちと共にその席に着いていた。こんな人たちが大ぜいいて、イエスに従ってきたのである。16 パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと食事を共にしておられるのを見て、弟子たちに言った、「なぜ、彼は取税人や罪人などと食事を共にするのか」。17 イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。

4.12.1 マタイ 9:9-13

9 さてイエスはそこから進んで行かれ、マタイという人が収税所にすわっているのを見て、「わたしに従ってきなさい」と言われた。すると彼は立ちあがって、イエスに従った。10 それから、イエスが家で食事の席についておられた時のことである。多くの取税人や罪人たちがきて、イエスや弟子たちと共にその席に着いていた。11 パリサイ人たちはこれを見て、弟子たちに言った、「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人などと食事を共にするのか」。12 イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。13 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んできなさい。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。

4.12.2 ルカ 5:27-32

27 そののち、イエスが出て行かれると、レビという名の取税人が収税所にすわっているのを見て、「わたしに従ってきなさい」と言われた。28 すると、彼はいっさいを捨てて立ちあがり、イエスに従ってきた。29 それから、レビは自分の家で、イエスのために盛大な宴会を催したが、取税人やそのほか大ぜいの人々が、共に食卓に着いていた。30 ところが、パリサイ人やその律法学者たちが、イエスの弟子たちに対してつぶやいて言った、「どうしてあなたがたは、取税人や罪人などと飲食を共にするのか」。31 イエスは答えて言われた、「健康な人には医者はいらない。いるのは病人である。32 わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」。

[マルコによる福音書 2 章 13-17 節福音書対照表](#)

4.12.3 問い

1. マルコを読み、ここで起こったことを確認し、気づいたこと、疑問点を挙げてみましょう。

2. レビについてどのようなことがわかりますか。マタイやルカも確認しましょう。
3. この人の家での食卓には、どんな人たちがついていますか。
4. パリサイ派の律法学者たちは、誰に、どんなことを聞いていますか。
5. イエスはこれに対して何と言っていますか。
6. 「罪人を招く」とはどういうことでしょうか。
7. イエスに従ってきたのは、どのような人たちでしょうか。現代では、それは、どんな人たちで、その人たちを招くことは、どのようなことを意味しているのでしょうか。

4.12.4 参照

- マタイ^{*150}（ヤーヴェからの賜り物、アルパヨの子レビ）についての記述（今回の箇所以外）
 - － マルコ 3:16-19 こうして、この十二人をお立てになった。そしてシモンにペテロという名をつけ、17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。18 つぎにアンデレ、ピリポ、バルトロマイ、**マタイ**、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、19 それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。イエスが家にはいられると、
 - － マタイ 10:2-4 十二使徒の名は、次のとおりである。まずペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、それからゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、3 ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人**マタイ**、アルパヨの子ヤコブとタダイ、4 熱心党のシモンとイスカリオテのユダ。このユダはイエスを裏切った者である。
 - － ルカ 6:14-16 すなわち、ペテロとも呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとバルトロマイ、15 **マタイ**とトマス、アルパヨの子ヤコブと、熱心党と呼ばれたシモン、ヤコブの子ユダ、それからイスカリオテのユダ。このユダが裏切者となったのである。
 - － 使徒 1:13 彼らは、市内に行って、その泊まっていた屋上の間にあがった。その人たちは、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイと**マタイ**、アルパヨの子ヤコブと熱心党のシモンとヤコブの子ユダとであった。
- 収税人：参照

^{*150} M : A shorter form of M a(A:) Levite who presided over the offerings, B) a Levite appointed by David to minister in the musical service before the ark, C) one of the family of Nebo who had a foreign wife in the time of Ezra, D) one of the men who stood at the right hand of Ezra when he read the law to the people), Matthew = “gift of Jehovah”, 1Chronicles 9:31; 15:18; 15:21; 16:5; 25:3; 25:21, Ezra 10:43, Nehemiah 8:4

ー ルカ 3:12,13 取税人もバプテスマを受けにきて、彼に言った、「先生、わたしたちは何をすればよいのですか」。彼らに言った、「きまっているもの以上に取り立ててはいけない」。

- 罪人たち：参照
- ユダとガリラヤの統治者および徴税について：参照
- マタイ 9:13：ホセア 6:6 「わたしはいつくしみを喜び、犠牲を喜ばない。燔祭よりもむしろ神を知ることを選ぶ。」 *151

13 K *152 . , *153 . 14 K *154 Λ
 *155 *156 *157 , . *158 . 15 K
 *159 , *160 *161 *162 .
 16 Φ *163 .
 ; 17 *164 [] , .

4.12.5 記録

- 日時：2023 年 6 月 29 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）5 名

4.12.6 問いについて

1. 概要

-
- *151 (kheh'-sed): i) goodness, kindness, faithfulness, ii) a reproach, shame
 *152 (2AAI-3S): to go or come forth of
 *153 (IAI-3S): to teach
 *154 (PAP-NSM): i) pass by, ii) to pass by, go past
 *155 (PAM-2S): i) to follow one who precedes, join him as his attendant, accompany him, ii) to join one as a disciple, become or be his disciple
 *156 (PNP-ASM): i) to sit down, seat one's self, ii) to sit, be seated, of a place occupied
 *157 : i) customs, toll, ii) toll house, place of toll, tax office, iii) the place in which the tax collector sat to collect the taxes
 *158 (2AAP-NSM): i) to cause to rise up, raise up, ii) to rise, stand up, iii) at arise, appear, stand forth
 *159 (PNN): to have lain down, i.e. to lie prostrate
 *160 : i) a renter or farmer of taxes, ii) a tax gatherer, collector of taxes or tolls, one employed by a publican or farmer general in the collection of taxes. The tax collectors were as a class, detested not only by the Jews, but by other nations also, both on account of their employment and of the harshness, greed, and deception, with which they did their job.
 *161 : devoted to sin, a sinner
 *162 : to recline together, feast together
 *163 (PAP-ASM): to eat
 *164 (APA-NSM): i) to be endowed with the faculty of hearing, not deaf, ii) to hear, iii) to hear something

1. 多くのひとたちがイエスのもとに集まってきて、海辺で教えた。(この背景はマルコのみ)
 2. 収税所にすわっているアルパヨの子レビを従うように招く。
 3. レビは立ち上がって従う。
 4. レビの家で、イエスに従ってきた多くの収税人や罪人たちが一緒に食卓についていた。
 5. パリサイ派の律法学者が、弟子たちに、なぜ、罪人や収税人と食事を共にするのかと問う。
 6. イエスは、罪人を招くためにきたと断言。
2. アルパヨの子レビについて。
- マタイでは、マタイとなっている。マタイと同一人物としてよいか。
 - － マルコ、マタイ、ルカの記述からして、同一人物としてよいと思われる。
 - 収税人だったのだろうか。たまたま収税所に座していただけなのだろうか。
 - ルカ 5:27 には「レビという名の取税人」とあり、マタイと同一してもよいと思われるが、マタイについては、マタイ 10:3 には「取税人マタイ」とある。
 - － おそらく、ヘブル語、アラム語、ギリシャ語を話せ、お金もある。しかし、ユダヤ人からは、嫌われ、ユダヤ人であるにもかかわらず、蔑まれていた。
 - マタイ：マッタテヤの省略形歴代誌 15:18, 21, 16:5, 25:3, 21, エズラ 10:43。ネヘミヤ 8:4 学者エズラはこの事のために、かねて設けた木の台の上に立ったが、彼のかたわらには右の方にマッタテヤ、シマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤおよびマアセヤが立ち、左の方にはベダヤ、ミサエル、マルキヤ、ハシュム、ハシバダナ、ゼカリヤおよびメシュラムが立った。
 - 状況証拠からは、レビ族の出身だった可能性が高いように思う。その中でよく知られた、マタイが呼称だったのか、イエスがそう呼んだのかは不明。
 - イエスが通りすがりに声をかけたように思われる。イエスは、マタイの様子から何を見、なぜ、声をかけたのだろうか。
 - レビは、イエスの招きに対して「すると彼は立ち上がって、イエスに従った」と書かれている。ペトロたちのときのように、このときが、最初の出会いはないかもしれない。
 - － おそらく、職を失ったと思われる。ルカ 5:28 「彼はいっさいを捨てて立ちあがり」
 - － 強調することではないかもしれないが、漁師が船と網を置くことは多少異なる。
3. 食卓に同席していたひとたち。
- 誰の家か。ルカでは、レビが「イエスのために盛大な宴会を催した」とある。

- マルコ、マタイからは、イエスについてきた人たちが、一緒に食事の席についていることがわかる。レビが招いたのだろうか。それとも、イエスに単についてきたのだろうか。
- 仲間を連れてきたのか。それとも、イエスについてきたひとたちだから、一緒に食事をしたのか。マタイは（驚きはあったかもしれないが）おそらく歓迎しただろうが、パリサイ派の律法学者は違う見方をした。
- 収税人や罪人とは、どのような人だろうか。（参照からリンク）

4. パリサイ人の質問：「なぜ、彼は収税人や罪人などと食事を共にするのか」

- なぜ、イエスではなく、弟子たちに聞くのか。レビ（マタイ）や、弟子には、はっきりとは答えられなかったかもしれない。しかし、どう答えたか、聞いてみたかった。それが、我々の一人の応答を明らかにすることでもあるから。
- 聞く目的は？ 非難？すでに、危険視されていたと思われる。（体の麻痺した人を癒すの記事参照）

5. イエスの答え：「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」

- イエスにとっては、至極当然のこと。なぜ、疑問に思うのか。とはいえ、たいせつなことを教えている。
- 義人を招くとは、罪人を招くとは。
- マタイ 9:13 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んできなさい。は、どのような意味だろうか。だれでも知っている、当たり前のこと。
- その当たり前のことを、受け入れられない頑なさを、現代に移して考えてみよう。

6. 現代では

- おそらく、さまざまなことを抱え込むことも含まれている。Welcoming Spirits, Availability は、vulnerability をも必要とする。それこそが、イエスが体現したこと、イエスの生涯。
- 自分にたいする神様の憐れみを、他者にたいする神様の憐れみと同等に考えることができない。自分が神様に愛されていること、その応答として、神様を愛することが、神様が愛される他者に向けられることには、困難がある。

4.12.7 メモ

- マルコだけが、「13 イエスはまた海べに出て行かれると、多くの人々がみもとに集まってきたので、彼らを教えられた。」と始めている。
- マルコも、マタイも、ルカも「すわっていた」ことを書いている。何を表しているのだろう。

－「立ちあがって（イエスに）従った」と対置されている。悩んでいたかもしれない。そのひとが、一步を歩み出す。それが、レビにとっては、宴会を催すこと。

- マルコと、ルカは、レビ（マルコは、アルパヨの子レビ）、マタイは、マタイとし、マルコと、マタイは、収税所に座っていたことだけ書いているが、ルカは、収税人と明確に書いている。
- ガリラヤ地方は、ローマ皇帝から領主に任ぜられたエドム人ヘロデ・アンティパスの配下にあった。この徴税を行っていた。（参照：ユダとガリラヤの統治者および徴税について）
- Anna Karenina Principle (AKP) 「幸福な家庭はどれも似たものだが、不幸な家庭はいずれもそれぞれに不幸なものである All happy families are alike; each unhappy family is unhappy in its own way.」
レオ・トルストイ著、アンナ・カレーニナ冒頭（Leo Tolstoy's 1877 novel [Anna Karenina](#)）

－ 病人も、罪人も、ひとりひとり異なる。義人と、罪人と二分するのでは、本質は捉えられない。イエスが来たのは、神の国が近いと知らせること、それは、すべてのひとを救うためではなく、罪人（神様の国から遠いと思われている・思っている）一人ひとりを招くこと。一人の例外もなく。

4.13 2:18-22 断食についての問答

2:18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、断食をしていた。そこで人々がきて、イエスに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ人の弟子たちが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。19 するとイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿と一緒にいるのに、断食ができるであろうか。花婿と一緒にいる間は、断食はできない。20 しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう。21 だれも、真新しい布ぎれを、古い着物に縫いつけはしない。もしそうすれば、新しいつぎは古い着物を引き破り、そして、破れがもっとひどくなる。22 まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそうすれば、ぶどう酒は皮袋をはり裂き、そして、ぶどう酒も皮袋もむだになってしまう。[だから、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである]」。

4.13.1 マタイ 9:14-17

14 そのとき、ヨハネの弟子たちがイエスのところにきて言った、「わたしたちとパリサイ人たちが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。15 するとイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿と一緒にいる間は、悲しんでおられようか。しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その時には断食をするであろう。16 だれも、真新しい布ぎれで、古い着物につぎを当てはしない。そのつぎぎれは着物を引き破り、そして、破れがもっとひどくなるから。17 だれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそんなことをしたら、その皮袋は張り裂け、酒は流れ出るし、皮袋もむだになる。だから、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである。そうすれば両方とも長もちがするであろう」。

4.13.2 ルカ 5:33-39

33 また彼らはイエスに言った、「ヨハネの弟子たちは、しばしば断食をし、また祈をしており、パリサイ人の弟子たちもそうしているのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています」。34 するとイエスは言われた、「あなたがたは、花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食をさせることができるであろうか。35 しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう」。36 それからイエスはまた一つの譬を語られた、「だれも、新しい着物から布ぎれを切り取って、古い着物につぎを当てるものはない。もしそんなことをしたら、新しい着物を裂くことになるし、新しいのから取った布ぎれも古いのに合わないであろう。37 まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそんなことをしたら、新しいぶどう酒は皮袋をはり裂き、そしてぶどう酒は流れ出るし、皮袋もむだになるであろう。38 新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである。39 まただれも、古い酒を飲んでから、新しいのをほしがりはしない。『古いのが良い』と考えているからである」。

[マルコによる福音書 2 章 18-22 節福音書対照表](#)

4.13.3 問い

1. マルコ、マタイ、ルカでは、それぞれ、どのようなときに、だれが、イエスに断食について質問していますか。
2. イエスはどのように答えていますか。(マルコ 2:19,20 など)
3. 婚礼の客や、花婿とはだれのことだと思えますか。花婿が取り去られる時とはいつのことでしょうか。
4. ヨハネの弟子たちやパリサイ人たちなどと、イエスでは、どのようなところが違っていたと思えますか。
5. 布きれと服、ぶどう酒と革袋のたとえはどのようなことを説明しているのでしょうか。
6. イエスのこれらのことばは、現代においては、どのようなことを教えているのでしょうか。

4.13.4 参照

- 断食について：[参照](#)
- 聖書における断食の記述：[参照](#)
- 聖書における花婿の記述

ー イザヤ 61:10 わたしは主を大いに喜び、／わが魂はわが神を楽しむ。主がわたしに救の衣を着せ、／義の上衣をまといせて、／**花婿**が冠をいただき、／**花嫁**が宝玉をもって飾るようになされたからである。

- 断食をする（と定められている）特別なときだったのかもしれない。

2. イエスの答え。

- マルコ 2:19 婚礼の客は、花婿と一緒にいるのに、断食ができるであろうか。花婿と一緒にいる間は、断食はできない。20 しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう。
- マタイ：悲しんでおられようか。

3. 花婿、婚礼の客

- 花婿はイエスだろうか。そう取るのがおそらく、一般的。花嫁は、婚礼の客は。ここには、花嫁は登場しない。
- レビの家での宴会の主賓は、誰だったのだろうか。何を喜んでいたのでだろうか。神様のものとなったのは、レビや、イエスに従うようになった人たち。または、神様のもとに来た人たち。
- 相互性があるかもしれない。共に喜ぶ場、それが祝宴の場。
- しかし、取り去られるのは、イエス自身のことを言っていることは確かだろう。すでに、この時点で、取り去られることについて語っている。
- ヨハネ 16:20-22 よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたは泣き悲しむが、この世は喜ぶであろう。あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変わるであろう。21 女が子を産む場合には、その時がきたというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。ひとりの人がこの世に生れた、という喜びがあるためである。22 このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。
- ヨハネ 20:19-21 その日、すなわち、一週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめていると、イエスがはいってきて、彼らの中に立ち、「安かれ」と言われた。20 そう言って、手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。21 イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。

4. 違い

- 断食など、身を苦しめる、宗教儀式によって、神の国に近づくことができるのか。
- 確認：イエスの断食、使徒たち初代教会の断食、旧約聖書における断食はどのようなものだったのだろうか。 [参照](#)

5. 布きれと服、ぶどう酒と革袋

- 神様を讃えること、悔い改めること、喜ぶこと。

- ルカでは：36 だれも、新しい着物から布ぎれを切り取って、古い着物につぎを当てるものはない。もしそんなことをしたら、新しい着物を裂くことになるし、新しいのから取った布ぎれも古いのに合わないであろう。
- ヨブ 32:19 見よ、わたしの心は口を開かないぶどう酒のように、／新しいぶどう酒の皮袋のように、／今にも張りさけようとしている。

6. イエスの教え

- 神の国はすぐそこにある。レビの家にもすでに来ている。

4.13.7 メモ

- マルコも、マタイも、ルカも、レビの記事の直後にある。特に、マタイは、「そのとき」と始まっている。
- 断食は、旧約では、身を悩ますこと。
- ヨハネ 3 章 29,30 節を加味すると、ヨハネの証言を知っているものが質問をし、それをうけて、イエスが、花婿のことを言ったと解釈するのが自然であり、マタイの証言のように、ここで、質問したのは、バプテスマのヨハネの弟子または、そのような情報を共有しているものととれる。また、アンデレやヨハネは、バプテスマのヨハネの弟子で、このようなバプテスマのヨハネの証言を知っていたと思われる。すると、花婿はイエス、介添人はバプテスマのヨハネ、婚礼の客は、花婿イエスの弟子である。花婿が取り去られることを伝えているのは、すでに、師が取り去られ、断食をしている、バプテスマのヨハネの弟子たちへの配慮もあるように思われる。
- イザヤや、ホセア、さらに、マタイ 25 章 1-12 節の花嫁の譬えから、考えると、花嫁は、イエスと契りをむすぶ、イエスが迎える人たちである。
- 布も、皮袋も、古いもののほうに、重きがある。これも、バプテスマのヨハネの弟子たちのように、イエスに従ってはいないひとたちへのメッセージかもしれない。すなわち、断食をしないことだけを、受け入れると、すべてが壊れてしまう。断食のこともふくめた、イエスの新しい教えを受け入れるなら、そのなかに、入り込まないといけないということを言っているのかもしれない。
- ただ、かなり、異なる記述もあるルカなども加味すると、ひとつの解釈にこだわってはいけないこともあるのかもしれない。実際、この場には、さまざまな人たちがいたのだから。

4.14 2:23-28 安息日に麦の穂を摘む

2:23 ある安息日に、イエスは麦畑の中をとって行かれた。そのとき弟子たちが、歩きながら穂をつみはじめた。24 すると、パリサイ人たちがイエスに言った、「いったい、彼らはなぜ、安息日にしてはならぬことをするのですか」。25 そこで彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが食物がな

くて飢えたとき、ダビデが何をしたか、まだ読んだことがないのか。26 すなわち、大祭司アビアタルの時、神の家にはいて、祭司たちのほか食べてはならぬ供えのパンを、自分も食べ、また供の者たちにも与えたではないか。27 また彼らに言われた、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。28 それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである」。

4.14.1 マタイ 12:1-8

1 そのころ、ある安息日に、イエスは麦畑の中を通られた。すると弟子たちは、空腹であったので、穂を摘んで食べはじめた。2 パリサイ人たちがこれを見て、イエスに言った、「ごらんない、あなたの弟子たちが、安息日にしてはならないことをしています」。3 そこでイエスは彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが飢えたとき、ダビデが何をしたか読んだことがないのか。4 すなわち、神の家にはいて、祭司たちのほか、自分も供の者たちも食べてはならぬ供えのパンを食べたのである。5 また、安息日に宮仕えをしている祭司たちは安息日を破っても罪にはならないことを、律法で読んだことがないのか。6 あなたがたに言うておく。宮よりも大いなる者がここにいる。7 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か知っていたなら、あなたがたは罪のない者をとがめなかったであろう。8 人の子は安息日の主である」。

4.14.2 ルカ 6:1-5

1 ある安息日にイエスが麦畑の中をとおって行かれたとき、弟子たちが穂をつみ、手でもみながら食べていた。2 すると、あるパリサイ人たちが言った、「あなたがたはなぜ、安息日にしてはならぬことをするのか」。3 そこでイエスが答えて言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが飢えていたとき、ダビデのしたことについて、読んだことがないのか。4 すなわち、神の家にはいて、祭司たちのほかだれも食べてはならぬ供えのパンを取って食べ、また供の者たちにも与えたではないか」。5 また彼らに言われた、「人の子は安息日の主である」。

[マルコによる福音書 2 章 23-28 節福音書対照表](#)

4.14.3 問い

1. マルコを読み、ここで起こったことを確認し、気づいたこと、疑問点を挙げてみましょう。
2. 弟子たちは「いつ」「どこで」「なに」をしていますか。マタイやルカも合わせて状況を想像してみましょう。
3. ファリサイ人たちは誰に何を訴えていますか。
4. ダビデの例を通してイエスはどんなことを説明していますか。(サムエル記上 21:1-7)
5. イエスは安息日の目的をどのように説明していますか。

6. 「人の子は安息日にもまた主なのである。」は何を伝えているのでしょうか。
7. 安息日や主日（日曜日）は、わたしたちにとってどのようなものなのでしょうか。

4.14.4 参照

- 安息日について：[参照](#)
- 安息日に関する聖書箇所：[参照](#)
- 出エジプト記 23:12 あなたは六日のあいだ、仕事をし、七日目には休まなければならない。これはあなたの牛および、ろばが休みを得、またあなたのはしめの子および寄留の他国人を休ませるためである。
- 申命記 23:24,25 あなたが隣人のぶどう畑にはいる時、そのぶどうを心にまかせて飽きるほど食べてもよい。しかし、あなたの器の中に取り入れてはならない。25 あなたが隣人の麦畑にはいる時、手でその穂を摘んで食べてもよい。しかし、あなたの隣人の麦畑にかまを入れてはならない。
- 供えのパン
 - レビ記 24:5-9 あなたは麦粉を取り、それで十二個の菓子焼を焼かなければならない。菓子一個に麦粉十分の二エパ^{*173}を用いなければならぬ。6 そしてそれを主の前の純金の机の上に、ひと重ね六個ずつ、ふた重ねにして置かなければならない。7 あなたはまた、おのおのの重ねの上に、純粋の乳香を置いて、そのパンの記念の分とし、主にささげて火祭としなければならぬ。8 **安息日**ごとに絶えず、これを主の前に整えなければならぬ。これはイスラエルの人々のささぐべきものであって、永遠の契約である。9 これはアロンとその子たちに帰する。彼らはこれを聖なる所で食べなければならぬ。これはいと聖なる物であって、主の火祭のうち彼に帰すべき永久の分である」。
 - 供えのパンを置く台：出エジプト 25:23-30 あなたはまたアカシヤ材の机を造らなければならぬ。長さは二キュビト^{*174}、幅は一キュビト、高さは一キュビト半。24 純金でこれをおおい、周囲に金の飾り縁を造り、25 またその周囲に手幅の棧を造り、その棧の周囲に金の飾り縁を造らなければならぬ。26 また、そのために金の環四つを造り、その四つの足のすみ四か所にその環を取り付けなければならぬ。27 環は棧のわきに付けて、机をかつぐさおを入れる所としなければならぬ。28 またアカシヤ材のさおを造り、金でこれをおおい、それをもって、机をかつがなければならぬ。また、その皿、乳香を盛る杯および灌祭を注ぐための瓶と鉢を造り、これらは純金で造らなければならぬ。30 そして机の上には**供えのパン**を置いて、常にわたしの前にあるようにしなければならぬ。
 - 補足 1：民数記 4:7,8 また供えのパンの机の上には、青色の布をうちかけ、その上に、さら、乳香を盛る杯、鉢、および灌祭の瓶を並べ、また絶やさず供えるパンを置き、8 緋色の布をその上にうちかけ、じゅごんの皮のおおいをもって、これをおおい、さおをさし入れる。

^{*173} エパ 23 リットル。十分の二エパは、4.6 リットル。

^{*174} キュビト（アンマ）約 45cm なので、机は、90cm x 45cm x 67cm

－ 補足 2：列王記上 7:48-50 またソロモンは主の宮にあるもろもろの器を造った。すなわち金の祭壇と、供えのパンを載せる金の机、49 および純金の燭台。この燭台は本殿の前に、五つは南に、五つは北にあった。また金の花と、ともしび皿と、心かきと、50 純金の皿と、心切りばさみと、鉢と、香の杯と、心取り皿と、至聖所である宮の奥のとびらのためおよび、宮の拝殿のとびらのために、金のひじつばを造った。

－ 補足 3: 歴代誌上 9:31-32 コラビとシャルムの長子でレビびとのひとりであるマタテヤはせんべいを造る勤めをつかさどった。32 またコハテびとの子孫であるその兄弟たちのうち供えのパンをつかさどって、安息日ごとにこれを整える者どもがあった。

- ・サムエル記上 21:1-7 ダビデはノブに行き、祭司アヒメレクのところへ行った。アヒメレクはおののきながらダビデを迎えて言った、「どうしてあなたはひとりですか。だれも供がないのですか」。2 ダビデは祭司アヒメレクに言った、「王がわたしに一つの事を命じて、『わたしがおまえをつかわしてさせる事、またわたしが命じたことについては、何をも人に知らせてはならない』と言われました。そこでわたしは、ある場所に若者たちを待たせてあります。3 ところで今あなたの手もとにパン五個でもあれば、それをわたしにください。なければなんでも、あるものをください」。4 祭司はダビデに答えて言った、「常のパンはわたしの手もとにありません。ただその若者たちが女を慎んでさえたのでしたら、聖別したパンがあります」。5 ダビデは祭司に答えた、「わたしが戦いに出るいつもの時のように、われわれはたしかに女たちを近づけていません。若者たちの器は、常の旅であったとしても、清いのです。まして、きょう、彼らの器は清くないでしょうか」。6 そこで祭司は彼に聖別したパンを与えた。その所に、供えのパンのほかにパンがなく、このパンは、これを取り下げる日に、あたたかいパンと置きかえるため、主の前から取り下げたものである。
- ・サムエル記上 22:20 しかしアヒトブの子アヒメレクの子たちのひとりで、名をアビヤタルという人は、のがれてダビデの所に走った。

23 K ^{*175} ^{*176} ^{*177} ^{*178}
^{*179} . 24 Φ . ^{*180}; 25 .
Δ ^{*181} , 26
^{*182} , ; 27 K ^{*183}

*175 : i) the seventh day of each week which was a sacred festival on which the Israelites were required to abstain from all work, ii) seven days, a week
*176 (PNN): to proceed at the side, go past, pass by
*177 : i) fit for sowing, sown, ii) sown fields, growing crops
*178 : to pluck, pluck off
*179 : an ear of corn or of growing grain
*180 : it is lawful
*181 : i) to hunger, be hungry, ii) metaph. to crave ardently, to seek with eager desire
*182 : i) a setting forth of a thing, placing of it in view, the shewbread: twelve loaves of wheaten bread, corresponding to the number of the tribes of Israel, which loaves were offered to God every Sabbath, and separated into two rows, lay for seven days upon a table placed in the sanctuary or front portion of the tabernacle, and afterwards of the temple, ii) a purpose
*183 : i) through of place, of time, of means, ii) through the ground or reason by which something is or is not done

4.14.5 記録

- ・ 日時：2023 年 7 月 13 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）5 名、参加（遠隔）6 名

4.14.6 問いについて

1. 概要

- ・ 当時「安息日にしてはならぬ」と考えられていたことを弟子たちはしていた。
- ・ パリサイ人がイエスに問う。
- ・ イエスは、ダビデの例と、安息日がだれのためかを語り、最後に安息日の主を示す。

2. 「いつ」「どこで」「なに」を

- ・ 安息日に麦畑の中で弟子たちが歩きながら穂を摘み始めた。
- ・ マタイ：空腹だったので
- ・ ルカ：穂を摘み手で揉みながら食べていた
- ・ 「こんな連中」品行方正とは言えない弟子たち。イエスはその面倒を引き受けておられる。
- ・ 安息日に、十分理解して、これらのことをしたわけではない。

3. ファリサイ人たちの訴え

- ・ いったい彼らはなぜ安息日にしてはならぬことをするのか。
 - － 他人の畑のものを無断で食べたのが違法だと言ったわけではない。安息日にしてはならぬことをしたことに焦点がある。（申命記 23:25）
- ・ ルカ：あなたがたは。しかし、弟子たちが行為者であるとは書いている。

4. ダビデの例

- ・ サムエル記上 21:1-7、サムエル記上 22:20 にアビヤタルも登場
- ・ 供えのパン：レビ 24:5-9

5. 安息日の目的

- 安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。(マルコのみ)
- マタイ：5 また、安息日に宮仕えをしている祭司たちは安息日を破っても罪にはならないことを、律法で読んだことがないのか。6 あなたがたに言うておく。宮よりも大いなる者がここにいる。7 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か知っていたなら、あなたがたは罪のない者をとがめなかったであろう。

6. 人の子は安息日にもまた主なのである。

- マルコでは唐突
- マタイでは、4 節と 5 節の関係が唐突
- ルカではまったく説明がない

7. 主日は何のため

- 神の創造のわざ - 休息
- マナを通して安息日を定める
- 礼拝 - 祭り、主を喜ぶ日
- バビロン捕囚における、分離

4.14.7 メモ

- 注：サムエル記上 21:1-7 祭司アヒメレクとあり、アビアタルではない。マタイ、ルカには、名前は省略されている。マタイ、ルカにも供の者とあるが、供の者たちもいたとは考えられない。また、大祭司アビアタルの時 (26) とあるが、大祭司制度は、確立していないと思われる。引用句でも、祭司。大祭司については、レビ記 21:10、民数記 35:25, 28, 32 に記述があるが、歴史の記述で登場するのは、口語訳では、列王記下 12:10 (聖書教会共同訳では 11 節) 王の書記官と大祭司が初出、名前が登場するのは、ヨシヤ王の時代の大祭司ヒルキヤから。列王記下 22:4, 8, 23:4, 歴代誌下 34:9

— 25 そこで彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが食物がなくて飢えたとき、ダビデが何をしたか、まだ読んだことがないのか。26 すなわち、大祭司アビアタルの時、神の家にはいって、祭司たちのほか食べてはならぬ供えのパンを、自分も食べ、また供の者たちにも与えたではないか」。

— 上にかいたように、この部分には、誤りと思われる部分も含まれる。また、上記の部分がないと、唐突に「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。」につながり、あまりにも過激 (ラディカル) であるので、挿入されたという説もあるようである。根拠は明確でないので、一応、参考として記する。

- イエスの弟子たちは、パリサイ人のように、厳格に律法を理解し守る訓練を受けた人たちではなかった。そのような人たちを周りに置いた、イエスは、批判にたいして、弁護している。まずは、お腹が減っているときの行為として、ダビデを例に上げている。名前の間違い（あとから書かれたマタイや、ルカでは省略されている、大祭司という言い方も定着していなかったかもしれない。）供の者がいたかどうかなど、不正確な引用であるようにも思われ、また、ダビデについて引用するときには、注意を払っているようにも思われる。
- マルコでは、安息日は人のためという部分が強調されるが、安息日の主との繋がり希薄である。マタイは、それを丁寧に説明もしている。ただ、その一つの正当な解釈に、収斂されてようかどうかは不明。
- 安息日は何のためかについて考えたい。多くの問題が背後に潜んでいるように見える。土曜日か、日曜日か、毎日が主の日か、特別な日とするべきかも含めて、考えるべき課題は多い。続けて考えていきたい。
- ここでは、「それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである」。(28) と、結ばれている。人の子、イエスは、真の自由人として生きられた、その意味でも、安息日の主でもあるということなのだろうか。

4.15 3:1-6 手の萎えた人を癒やす

3:1 イエスがまた会堂にはいられると、そこに片手のなえた人がいた。2 人々はイエスを訴えようと思って、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがっていた。3 すると、イエスは片手のなえたその人に、「立って、中へ出てきなさい」と言い、4 人々にむかって、「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」と言われた。彼らは黙っていた。5 イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくなさを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった。6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。

4.15.1 マタイ 12:9-14

9 イエスはそこを去って、彼らの会堂にはいられた。10 すると、そのとき、片手のなえた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に人をいやしても、さしつかえないか」と尋ねた。11 イエスは彼らに言われた、「あなたがたのうちに、一匹の羊を持っている人があるとして、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないだろうか。12 人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである」。13 そしてイエスはその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。14 パリサイ人たちは出て行って、なんとかしてイエスを殺そうと相談した。

4.15.2 ルカ 6:6-11

6 また、ほかの安息日に会堂にはいつて教えておられたところ、そこに右手のなえた人がいた。7 律法学者やパリサイ人たちは、イエスを訴える口実を見付けようと思って、安息日にいやされるかどうかをうかがっていた。8 イエスは彼らの思っていることを知って、その手のなえた人に、「起きて、まん中に立ちなさい」と言われると、起き上がって立った。9 そこでイエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたに聞くが、安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」。10 そして彼ら一同を見まわして、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりにすると、その手は元どおりになった。11 そこで彼らは激しく怒って、イエスをどうかしてやろうと、互に話し合いをはじめた。

[マルコによる福音書 3 章 1-6 節福音書対照表](#)

4.15.3 問い

1. このできごとはいつ、どこで、どのような状況のもとでおきますか。
2. イエスは片手の萎（な）えた人を、なぜ、真ん中に立たせたのでしょうか。
3. イエスは、人々に、どのように問うていますか。
4. なぜイエスは怒り嘆くのでしょうか。そしてどうしますか。
5. パリサイ人たちは、どうしますか。
6. あなたは、一日をどのように生きようとしていますか。

4.15.4 参照

- ヘロデ党について：[参照](#)
- ヘロデ党に関する聖書箇所：[参照](#)
- マタイ 12:15-21 も繋がっている

— イエスはこれを知って、そこを去って行かれた。ところが多くの人々がついてきたので、彼らを皆いやし、16 そして自分のことを人々にあらわさないようにと、彼らを戒められた。17 これは預言者イザヤの言った言葉が、成就するためである、18 「見よ、わたしが選んだ僕、／わたしの心にかなう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を授け、／そして彼は正義を異邦人に宣べ伝えるであろう。19 彼は争わず、叫ばず、／またその声を大路で聞く者はない。20 彼が正義に勝ちを得させる時まで、／いためられた葦を折ることがなく、／煙っている燈心を消すこともない。

* 引用：イザヤ 42:1-3 わたしの支持するわがしもべ、／わたしの喜ぶわが選び人を見よ。わたしはわが霊を彼に与えた。彼はもろもろの国びとに道をしめす。2 彼は叫ぶことなく、声をあげることなく、／その声をちまたに聞えさせず、3 また傷ついた葦を折ることなく、／ほのぐらい灯心を消すことなく、／真実をもって道をしめす。

- 「わたしはレンガ職人で、わたしの手で自分のパンを稼いでいました。イエスよ。お願いします。恥さらしにもこじきをする事ができないために、わたしの健康を取り戻してください。」（4C ヒエロニムス：ナザレ派・エピオン派が用いていたヘブル語のマタイの福音書からの引用）

1 K . *184 . 2 *185
 , . 3 . *186 . 4 . *187
 *188 *189 , ; *190 . 5 *191 , *192 ,
 *193 *194 . *195 . 6
 K Φ *196 , *197 .

4.15.5 記録

- 日時：2023 年 7 月 20 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）4 名

4.15.6 問いについて

1. いつ、どこで、どのような状況

-
- *184 (RPP-ASF): i) to make dry, dry up, wither, ii) to become dry, to be dry, be withered, iii) to waste away, pine away, i.e. a withered hand
- *185 (IAI-3P): to stand beside and watch, to watch assiduously, observe carefully
- *186 (AMM-2S): to arouse, cause to rise
- *187 (PQI-3S): it is lawful
- *188 : i) to do good, do something which profits others, ii) to do well, do right
- *189 (AAN): i) to do harm, ii) to do evil, do wrong
- *190 (IAI-3P): i) to be silent, hold one's peace, ii) metaph. of a calm, quiet sea
- *191 (AMP-NSM): i) to look around, ii) to look around about one's self, iii) to look round on one (i.e. to look for one's self at one near by)
- *192 : i) anger, the natural disposition, temper, character, ii) movement or agitation of the soul, impulse, desire, any violent emotion, but esp. anger, iii) anger, wrath, indignation, iii) anger exhibited in punishment, hence used for punishment itself
- *193 (PNP-NSM): i) to affect with grief together, ii) give with one's self
- *194 (DSF): i) the covering with a callus, ii) obtrusiveness of mental discernment, dulled perception, iii) the mind of one has been blunted
- *195 (API-3S): i) to restore to its former state, ii) to be in its former state
- *196 (ASN): i) counsel, which is given, taken, entered upon, ii) a council
- *197 (AAS-3P): to destroy

- マルコ、マタイ、ルカとも、安息日に起きた、麦畑の記事に続いている。ルカによると「他の安息日」。
- 会堂でのできごと：マタイには「彼らの会堂」とある。人々の只中にいる。そして、ラビとして教えていると思われる。ルカによると、教えてもいる。
- 片手の萎えたひとがいた。
- イエスを訴えようとしている（ルカによると）律法学者やパリサイ人が、安息日に癒すかどうかをうかがっている。マタイによると、人々が「安息日に人をいやしても、さしつかえないか」と尋ねている。

2. なぜ、真ん中に立たせたか

- 「立って、中へ出てきなさい」（マルコ）「起きて、まん中に立ちなさい」（ルカ）
- 人々に、考えること、教えることを目的としたのではないか。

3. 人々への問い

- マルコとルカはほぼ同じ。マタイは異なる。問いは人々に向けられている。
- マルコ：「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」ルカ：「あなたがたに聞かすが、安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」
- マタイ：「あなたがたのうちに、一匹の羊を持っている人があるとして、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないだろうか。人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである」。
 - － マタイは、「命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」に重点をおき、当時も認められていることを例として上げているように見える。
 - － マルコ、ルカの方が一般性が高い。

4. イエスの怒り嘆き、そして行動

- マルコ：彼らは黙っていた。イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくなさを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった。
 - － 怒りと嘆きは、マルコのみ。黙っていたことへの応答と思われる。
- ルカ：そして彼ら一同を見まわして、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりにすると、その手は元どおりになった。
- マタイ：そしてイエスはその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。

5. パリサイ人たちの行動

- マルコ：パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。
- マタイ：パリサイ人たちは出て行って、なんとかしてイエスを殺そうと相談した。
- ルカ：そこで彼らは激しく怒って、イエスをどうかしてやろうと、互に話し合いをはじめた。

ー 主体が、マルコは明確だが、マタイ、ルカと、不明確になっていく。律法学者や、パリサイ人がいたことは、ルカにあるので、パリサイ人はよいとして、ヘロデ党の者たちとの共謀は、確証が取れなかったのかもしれない。

6. 一日をどう生きるか

- 善を行い、命を救うことだろうか。しかし、それは、日常的にはどのようなことだろうか。

4.15.7 メモ

- マタイは、少し違う内容を伝えようとしているように思われる。イザヤの引用句は、次の箇所でも良いかもしれない。
- 安息日にしてもよいこと、悪いことに重点をおくのは、主要なことではないように思われる。
- 頑なな心を、まずは顧みること。単純な質問に答えられない。答えることを拒否するのは、なぜなのだろう。「単純な問いを難しくしているからか。」イエスが、神の子かどうか、安息日の主かどうか、罪を赦す権威があるか、そちらが解決しなければ、簡単な問いにも答えない。そのような論理に陥ってしまっていることが、頑なさなのだろうか。むろん、生理的に受け入れられない。嫌い。ということもあるかもしれない。しかし、イエスの単純な問いかけに、答えることは、最初の一步なのかもしれない。拒否が、分断を起こし、抹殺へと発展する。それを、どうすれば、断ち切ることができるのだろうか。
- 善いこととは？ 命を救うこととは？ 神様が何を望んでおられるか、互いに愛し合うために、何を為すべきかを考えたい。

4.16 3:7-12 湖の岸辺の群衆

3:7 それから、イエスは弟子たちと共に海べに退かれたが、ガリラヤからきたおびたしい群衆がついて行った。またユダヤから、8 エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびたしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。10 それは、多くの人をいやされたので、病苦に悩む者は皆イエスにさわろうとして、押し寄せてきたからである。11 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。12 イエスは御自身のことを人にあらわさないようにと、彼らをきびしく戒められた。

4.16.1 (参考 1) マタイ 4:23-25

23 イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。24 そこで、その評判はシリア全地にひろまり、人々があらゆる病にかかっている者、すなわち、いろいろの病気と苦しみとに悩んでいる者、悪霊につかれている者、てんかん、中風の者などをイエスのところに連れてきたので、これらの人々をおいやしになった。25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの向こうから、おびただしい群衆がきてイエスに従った。

4.16.2 (参考 2) ルカ 6:17-19

17 そして、イエスは彼らと一緒に山を下って平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、18 教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた霊に悩まされている者たちも、いやされた。19 また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。

4.16.3 (参考 3) マタイ 12:15-21

15 イエスはこれを知って、そこを去って行かれた。ところが多くの人々がついてきたので、彼らを皆いやし、16 そして自分のことを人々にあらわさないようにと、彼らを戒められた。17 これは預言者イザヤの言った言葉が、成就するためである、18 「見よ、わたしが選んだ僕、／わたしの心にかなう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を授け、／そして彼は正義を異邦人に宣べ伝えるであろう。19 彼は争わず、叫ばず、／またその声を大路で聞く者はない。20 彼が正義に勝ちを得させる時まで、／いためられた葦を折ることがなく、／煙っている燈心を消すこともない。

[マルコによる福音書 3 章 7-12 節福音書対照表](#)

4.16.4 問い

1. 地図で、参考箇所も合わせて、地名を確認しましょう。
2. 「おびただしい群衆」とありますが、人々は何を求めて、イエスのもとにののでしょうか。
3. イエスは、どのように、弟子たちに命じますか。
4. 汚れた霊は、イエスを見るとどうしますか。
5. なぜイエスは、汚れた霊にご自身のことをあらわさないように戒めるのでしょうか。

6. イエスが宣教を始めてから、どのようなことがあったか、まとめてみましょう。どのようなことがわかりますか。
7. マタイ 12:15-21 のイザヤ書からの引用は、なにを伝えていますか。(イザヤ 42:1-3)

4.16.5 参照

- 地図：キリスト時代のパレスチナ、[Palestine in the time of Jesus \(1\)](#)
- 引用：イザヤ 42:1-3 わたしの支持するわがしもべ、／わたしの喜ぶわが選び人を見よ。わたしはわが霊を彼に与えた。彼はもろもろの国びとに道をしめす。2 彼は叫ぶことなく、声をあげることなく、／その声をちまたに聞えさせず、3 また傷ついた草を折ることなく、／ほのぐらい灯心を消すことなく、／真実をもって道をしめす。

7 K *198 , Γ [*199],
8 T Σ . 9
K *200 *201 *202 ·10 *203 ,
*204 *205 *206 . 11 *207 ,
. 12 .

4.16.6 問いについて

1. 地名

- ガリラヤ、ユダヤ、エルサレム、イドマヤ、ヨルダンの向こう、ツロ、シドン（ユダヤ、ガリラヤだけでなく、異邦人の町も含む）
- － 1:28 では、ガリラヤ。「こうしてイエスのうわさは、たちまちガリラヤの全地方、いたる所にひろまった。」（このときは、ガリラヤ）

*198 (AAI-3S): i) to go back, return, ii) to withdraw

*199 (AAI-3P): i) to follow one who precedes, join him as his attendant, accompany him, ii) to join one as a disciple, become or be his disciple

*200 (NSN): a small vessel, a boat

*201 (PAS-3S): i) to adhere to one, be his adherent, to be devoted or constant to one, ii) to be steadfastly attentive unto, to give unremitting care to a thing, iii) to continue all the time in a place, iv) to persevere and not to faint, v) to show one's self courageous for, vi) to be in constant readiness for one, wait on constantly

*202 (PAS-3P): i) to press (as grapes), press hard upon, ii) a compressed way, iii) metaph. to trouble, afflict, distress

*203 (AAI-3S): i) to serve, do service, ii) to heal, cure, restore to health

*204 (PAN): i) to fall upon, to rush or press upon, ii) to fall upon one i.e. to seize, take possession of him

*205 (AMS-3P): to fasten one's self to, adhere to, cling to

*206 (APF): i) a whip, scourge, ii) metaph. a scourge, plague

*207 (NPN): not cleansed, unclean a) in a ceremonial sense: that which must be abstained from according to the levitical law, b) in a moral sense: unclean in thought and life

2. 群衆の要求

- なさっていることを聞いて
- 病苦に悩む者がイエスに触ろうとして（押し寄せた）
 - － パリサイ人や、律法学者は、イエスに敵対しているが、群衆は、必ずしも、そのようには行動していない。

3. イエスの弟子たちへの依頼

- 9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。
 - － 物理的接触以外のことをも求める。

4. 汚れた霊

- 11 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。
 - － 1:24 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。
 - － 1:34 イエスは、さまざまな病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。

5. イエスの汚れた霊への対応

- 12 イエスは御自身のことを人にあらわさないようにと、彼らをきびしく戒められた。

6. 復習

- バプテスマのヨハネの宣教：わたしよりも力のあるかたが、あとからおいでになる。わたしはかがんで、そのくつのひもを解く値うちもない。わたしは水でバプテスマを授けたが、このかたは、聖霊によってバプテスマをお授けになるであろう」。(1:7,8)
 - － 力を示した。聖霊によってバプテスマをお授けになったのだろうか。
- 洗礼を受ける：そして、水の中から上がられるとすぐ、天が裂けて、聖霊がはどのように自分に下って来るのを、ごらんになった。すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。(1:10,11)
- 試みを受ける
- ガリラヤでの宣教開始：「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。(1:15)

- 弟子を招く：「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。(1:17)
- 権威のある教え：汚れた霊に取り憑かれた者を癒す (1:21-28)
- ペトロのしゅうとめ、いろいろな病気の人をいやし、悪霊を追い出す。(1:29-34)
- 祈り、宣教し、悪霊をおいだす (1:35-39)
- 規定の病を患っている人をいやす。(1:40-45)
- 中風の人を癒す。罪を赦す権威 (2:1-12)
- レビを弟子にし、収税人や罪人と宴会 (2:13-17)：「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。(2:17)
- 断食について (2:18-22)：だれも、真新しい布ぎれを、古い着物に縫いつけはしない。もしそうすれば、新しいつぎは古い着物を引き破り、そして、破れがもっとひどくなる。まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそうすれば、ぶどう酒は皮袋をはり裂き、そして、ぶどう酒も皮袋もむだになってしまう。
- 安息日に麦の穂を摘む (2:23-28)：それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである
- 手の萎えた人を癒す (3:1-6)：「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」

7. イザヤ書の引用

- 17 これは預言者イザヤの言った言葉が、成就するためである、18 「見よ、わたしが選んだ僕、／わたしの心にかなう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を授け、／そして彼は正義を異邦人に宣べ伝えるであろう。19 彼は争わず、叫ばず、／またその声を大路で聞く者はない。20 彼が正義に勝ちを得させる時まで、／いためられた葦を折ることがなく、／煙っている燈心を消すこともない。(イザヤ 42:1-3) NIV A bruised reed he will not break, and a smoldering wick he will not snuff out, till he has brought justice through to victory.

4.16.7 記録

- 日時：2023 年 7 月 27 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）3 名

4.16.8 メモ

- この後に、会堂で教えるのは、マルコでは 1 箇所のみ。

－ マルコ 6:2 そして、安息日になったので、**会堂**で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。

- パリサイ人たちは、反発し、イエスを殺そうとすらする。しかし、群衆は、さまざまな場所から集まってきている。イエスが伝えたかったことを受け取っていたのだろうか。悪霊に語らせなかったのだろうか。イエスが伝えたかったこととは、異なる、そして、悪霊は、追い出すべき存在だったのだろうか。イエスは、神の国が近づいたと語っても、それが伝わってはいなかったのかもしれない。
- マタイがイザヤ書を引用して伝えたかったすがたが、神の僕イエスの姿だったのではないだろうか。大路で語ることなく、傷ついた葦を折ることなく、消えかかった灯心を消すことなく。
- このあとで、弟子を選ぶが、その弟子を通して、イエスが伝えたことを、少しずつ学んでいきたい。

4.17 3:13-19 十二人を選ぶ

3:13 さてイエスは山に登り、みこころにかなった者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。14 そこで十二人をお立てになった。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし、15 また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。16 こうして、この十二人をお立てになった。そしてシモンにペテロという名をつけ、17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。18 つぎにアンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、19 それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。イエスが家にはいられると、

4.17.1 マタイ 10:1-4

1 そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。2 十二使徒の名は、次のとおりである。まずペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、それからゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、3 ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、4 熱心党のシモンとイスカリオテのユダ。このユダはイエスを裏切った者である。

4.17.2 ルカ 6:12-16

12 このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。13 夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。14 すなわち、ペテロとも呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとバルトロマイ、15 マタイとトマス、アルパヨの子ヤコブと、熱心党と呼ばれたシモン、16 ヤコブの子ユダ、それからイスカリオテのユダ。このユダが裏切者となったのである。

4.17.3 問い

1. イエスは、どこで、どのようにして十二人を選びましたか。
2. マルコには、十二人を立てた理由が書かれていますが、それはどのようなものですか。マタイ、ルカではどのように書かれていますか。
3. マルコ、マタイ、ルカの弟子たちのリストについて気付いたことをあげてみましょう。
4. イスカリオテのユダが含まれていることはなにを意味しているのでしょうか。
5. これまでのことなども復習して、なぜ、この時点で、十二人を選んだのか考えてみましょう。(マタイ 9:35-38)

4.17.4 参照

- **十二弟子を選ぶ直前**：マタイ 9:35-38 イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。37 そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。38 だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。
- **十二弟子を選ぶ直後**：ルカ 6:17-19 そして、イエスは彼らと一緒に山を下って平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、18 教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた霊に悩まされている者たちも、いやされた。19 また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。
- 熱心党：[参照](#)（聖書に登場するのは十二弟子の箇所のみ）
- 12 弟子について：[参照](#)
- 使徒 1:13：彼らは、市内に行って、その泊まっていた屋上の間にあがった。その人たちは、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党のシモンとヤコブの子ユダとであった。

13 K ^{*208} ^{*209} , ^{*210} . 14 K ^{*211} [
] , ^{*212} ^{*213} 15 ^{*214} ·16 [K
 ,] Σ Π , 17 Z
 [] B , ·18 Φ B M Θ
 Θ Σ K 19 , .

4.17.5 記録

- 日時：2023 年 8 月 3 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）6 名

4.17.6 問いについて

1. どこでどのようにして十二人を立てたか

- マルコ：山に登り、みこころにかなった者たち（ここにイスカリオテのユダも含まれている）を呼び寄せられた
- マタイ：イエスは十二弟子を呼び寄せ
- ルカ：このころ、イエスは祈るために山へ行き、**夜を徹して**神に祈られた。夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。
- いずれもイエスが呼び寄せておられる。
- ルカの記述からは、選別があった印象を受ける。

2. 十二人を立てた理由

- マルコ：自分のそばに置く、宣教につかわす、悪霊を追い出す権威を持たせるため

*208 (PAI-3S): ascend, go up

*209 (PNI-3S): i) to call to, ii) to call to one's self, iii) to bid to come to one's self, iv) metaph. a) God is said to call to himself the Gentiles, aliens as they are from him, by inviting them, through the preaching of the gospel unto fellowship with himself in the Messiah's kingdom, b) Christ and the Holy Sprit are said to call to themselves those preachers of the gospel to whom they have decided to intrust a service having reference to the extension of the gospel

*210 (2AAi-3P): i) to go away, depart, ii) to go away

*211 (AAI-3S): i) to make, ii) to do

*212 (PAS-3S): i) to order (one) to go to a place appointed, ii) to send away, dismiss

*213 (PAN): i) to be a herald, to officiate as a herald, ii) to publish, proclaim openly: something which has been done, iii) used of the public proclamation of the gospel and matters pertaining to it, made by John the Baptist, by Jesus, by the apostles and other Christian teachers

*214 : i) power of choice, liberty of doing as one pleases, ii) physical and mental power, iii) the power of authority (influence) and of right (privilege), iv) the power of rule or government (the power of him whose will and commands must be submitted to by others and obeyed)

- マタイ：汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。
- ルカ：目的は書かれていない。9 章 1-6 節に、十二人の派遣の記事がある。それ以外に、七十二人の任命と派遣についても記事がある。10 章 1-12 節。派遣は、マルコ 6:7-13、マタイ 10:1,5-15（直後）
- 使徒（マタイ・ルカ） (ap-os'-tol-os): a delegate, messenger, one sent forth with orders
a) specifically applied to the twelve apostles of Christ, b) in a broader sense applied to other eminent Christian teachers i) of Barnabas, ii) of Timothy and Silvanus

3. 弟子のリスト

- 何人かに、名前以外の情報が含まれている。
 - ペテロ、ボアネルゲ（雷の子）、アルパヨの子、熱心党、イスカリオテ
- マタイでは、二組の兄弟、収税人マタイ
- バルトロマイ（ピリポとくみになって登場するので、ヨハネ 1:45 のナタナエルか）
- タダイ（リストを比較すると、ヤコブの子ユダかヨハネ 14:22）
- アルパヨの子ヤコブ、熱心党（熱烈な民族主義者）のシモンについては、他の箇所に、記述なし。

4. イスカリオテのユダが含まれている理由

- マルコでは、みこころにかなった者としている。
- マタイ、ルカでも、イエスが呼び寄せた者たちの中にいる。

5. 背景と目的

- マルコにおけるこれまでの経緯
- 直前：マタイ 9:35-38
 - 36 群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。
 - 37 そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。38 だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。
- 直後：ルカ 6:17-19
- 次の世代へのバトンタッチを考えていたのか？マルコ 2:19 するとイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿と一緒にいるのに、断食ができるであろうか。花婿と一緒にいる間は、断食はできない。

4.17.7 メモ

- 仲間との交わり

- パリサイ Φ : 分離されたもの Hebrew origin (: paw-rash' to make distinct, declare, distinguish, separate) a separatist, i.e. exclusively religious; a Pharisean, i.e. Jewish sectary:—Pharisee.
- 最初から、こんな人たち (2:15 収税人、罪人) との、相互の交わりを大切にしていたと思われる。

- 普通の人

- 使徒 4:13,14 人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め、14 かつ、彼らにいやされた者がそのそばに立っているのを見ては、まったく返す言葉がなかった。

- イエスに従っていく人

- すでに、ユダヤ教の権威、律法学者などには、危険視されていた。
- ヨハネ 6:66-71 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。
67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとりとは悪魔である」。71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

- 権威を授けられた

- － 権威： i) power of choice, liberty of doing as one pleases, ii) physical and mental power, iii) the power of authority (influence) and of right (privilege), iv) the power of rule or government (the power of him whose will and commands must be submitted to by others and obeyed)
- － 実際の活動は、派遣によって：マルコ 6:7-13、マタイ 10:1,5-15、ルカ 9 章 1-6 節、ルカには、72 人の派遣も書いてある。10 章 1-12 節
- － マルコ 9:17,18 群衆のひとりが答えた、「先生、口をきけなくする霊につかれているわたしのむすこを、こちらに連れて参りました。18 霊がこのむすこにとりつきますと、どこでも彼を引き倒し、それから彼はあわを吹き、歯をくいしばり、からだをこわばらせてしまいます。それでお弟子たちに、この霊を追い出してくださるように願いましたが、できませんでした」。
- － いやし： i) to serve, do service, ii) to heal, cure, restore to health. to wait upon menially,

i.e. (figuratively) to adore (God), or (specially) to relieve (of disease):—cure, heal, worship.

- 直接的動機

- マタイ 9:36 群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて (: i) to loose, unloose, to set free, ii) to dissolve, metaph., to weaken, relax, exhaust, a) to have one's strength relaxed, to be enfeebled through exhaustion, to grow weak, grow weary, be tired out, b) to despond, become faint hearted)、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。

- 神に願う、そこから始まる。マタイ 9:37b「収穫は多いが、働き人が少ない。38 だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」

- 選択について

- 具体的には、この箇所を読んでも、どのように選んだのかよくわからないが、神様が定められたようになったのだろう。それを表現しているのが、ヨハネ 6:66-71

4.18 3:20-30 ベルゼブル論争

3:20 群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。21 身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂ったと思ったからである。22 また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。23 そこでイエスは彼らを呼び寄せ、譬をもって言われた、「どうして、サタンがサタンを追い出すことができようか。24 もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。25 また、もし家が内わで分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。26 もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。27 だれでも、まず強い人を縛りあげなければ、その人の家に押し入って家財を奪い取ることはできない。縛ってからはじめて、その家を略奪することができる。28 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。29 しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。30 そう言われたのは、彼らが「イエスはけがれた霊につかれている」と言っていたからである。

4.18.1 マタイ 12:22-32

22 そのとき、人々が悪霊につかれた盲人で口のきけない人を連れてきたので、イエスは彼をいやして、物を言い、また目が見えるようにされた。23 すると群衆はみな驚いて言った、「この人が、あるいはダビデの子ではあるまいか」。24 しかし、パリサイ人たちは、これを聞いて言った、「この人が悪霊を追い出しているのは、まったく悪霊のかしらベルゼブルによるのだ」。25 イエスは彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ、内部で分れ争う国は自滅し、内わで分れ争う町や家は立ち行かない。26 もしサタンがサタンを追い出すならば、それは内わで分れ争うことになる。それでは、その国はどうして立ち行けよう。27 もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによって追い出すので

あろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。28 しかし、わたしが神の霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。29 まただれでも、まず強い人を縛りあげなければ、どうして、その人の家に押し入って家財を奪い取ることができようか。縛ってから、はじめてその家を掠奪することができる。30 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。31 だから、あなたがたに言う。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。32 また人の子に対して言い逆らう者は、ゆるされるであろう。しかし、聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない。

4.18.2 ルカ 11:14-23; 12:10

11:14 さて、イエスが悪霊を追い出しておられた。それは、物を言えなくする霊であった。悪霊が出て行くと、口のきけない人が物を言うようになったので、群衆は不思議に思った。15 その中のある人々が、「彼は悪霊のかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と言い、16 またほかの人々は、イエスを試みようとして、天からのしるしを求めた。17 しかしイエスは、彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ国が内部で分裂すれば自滅してしまい、また家が分れ争えば倒れてしまう。18 そこでサタンも内部で分裂すれば、その国はどうして立ち行けよう。あなたがたはわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出していると言うが、19 もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間だれによって追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。20 しかし、わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。21 強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である。22 しかし、もっと強い者が襲ってきて彼に打ち勝てば、その頼みにしていた武具を奪って、その分捕品を分けるのである。23 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。12:10 また、人の子に言い逆らう者はゆるされるであろうが、聖霊をけがす者は、ゆるされることはない。

マルコによる福音書 3 章 20-30 節福音書対照表

4.18.3 問い

1. イエスの身内のひとたちは、なぜ、取り押さえにきたのでしょうか。
2. どのような背景で、悪霊を追い出す権威についての論争が起きますか。マタイ、ルカも参考にしましょう。
3. エルサレムから下ってきた律法学者たちはどのようにイエスを批判していますか。
4. イエスは、律法学者のことばに、どのように反論していますか。
5. なぜ、イエスは、聖霊を汚す罪について、語っているのでしょうか。

6. マルコだけでなく、マタイや、ルカも参照すると、イエスについていろいろな受け止め方があったことがわかりますが、それぞれの人に、イエスは、どのように語りかけているのでしょうか。あなたは、どのように、受け取りますか。(マタイ 12:33-37 も参照)

4.18.4 参照

- ベルゼブル (Beelzebub)
 - Q. 新約聖書に出てくる、ベルゼブル (Beelzebub) は、どのようなものと考えられていたのでしょうか。聖書以外にも、記録はありますか。
 - ChatGPT. 『新約聖書』において、ベルゼブル (Beelzebub) は悪魔や悪霊の一つとして言及されています。名前はヘブライ語で「バアル・ゼブブ (Ba'al Zebub)」と書かれ、直訳すると「蠅の君主」という意味です。

ベルゼブルは主にマタイによる福音書 (マタイ 12:24-27) やルカによる福音書 (ルカ 11:15-19) で言及されており、イエス・キリストが悪霊を追い出す力を持っていることを示すために登場します。ユダヤ教の伝統においては、ベルゼブルは悪魔の首領であり、悪霊の王とされています。

また、聖書以外にもベルゼブルに関する記録はあります。例えば、中世のキリスト教の文献や伝説、悪魔学においてベルゼブルについての言及が見られます。これらの文献では、ベルゼブルは墮天使の一人であり、人々を誘惑し、悪霊を使役する存在として描かれます。

ただし、ベルゼブルに関する情報は聖書や後の宗教的文献以外では限られており、一般的な知識として広く認知されている内容は限定的です。
- マタイでは、このときより以前にも、以下の記述がある。
 - マタイ 9:32-34 彼らが出て行くと、人々は悪霊につかれて口のきけない人をイエスのところに連れてきた。33 すると、悪霊は追い出されて、口のきけない人が物を言うようになった。群衆は驚いて、「このようなことがイスラエルの中で見られたことは、これまで一度もなかった」と言った。34 しかし、パリサイ人たちは言った、「彼は、悪霊どものかしらによって悪霊どもを追い出しているのだ」。
 - ベルゼブル議論 (マタイ 12:22-32) では、悪霊にとりつかれ、目もみえず、口も聞けない人が登場する。9 章では、口が聞けない人、悪霊に取りつかれ、口が聞けない人のことが、ルカでは、ベルゼブル議論 (ルカ 11:14-23) に書かれている。マタイが正しいのかもしれない。そして、ここで、悪霊の頭が登場し、ベルゼブル議論の、予兆を感じさせるようになっている。
- ユダヤ教における聖霊の理解：参照
- マタイ 12:33-37 木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければ、その実も悪いとせよ。木はその実でわかるからである。34 まむしの子らよ。あなたがたは悪い者であるのに、どうして良いことを語ることができるか。おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである。35 善人はよい倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。36 あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。37 あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」。

*215 . *216 . 22 K *217 B *218
 *219 . 23 K *220 *221 .
 ; 24 , *222 , 25 , ,
 . 26 , , . 27 ,
 , , . 28
 *223 29 , ,
 , , . 30 .

4.18.5 記録

- 日時：2023 年 8 月 10 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）5 名

4.18.6 問いについて

1. 身内の人たちが取り押さえてきた理由

- マルコ 3:20 群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。21 身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂ったと思ったからである。
- 群衆が押し寄せ、宗教指導者からは、拒否される。少しの弟子は、ついていっていたが、異常だと感じていたのだろう。
- マルコではこのあと「イエスの母、きょうだい」の記事が、「3:31 さて、イエスの母と兄弟たちとがきて、外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。」と続く。
- マルコ 6:3 この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。

*215 (AAN): i) to have power, be powerful, ii) to get possession of, iii) to hold

*216 (2AAI3S): to throw out of position, displace

*217 (2AAP-NPM): to go down, come down, descend

*218 B : Beelzebub = “lord of the house” (a name of Satan, the prince of evil spirits)

*219 : i) the divine power, deity, divinity, ii) a spirit, a being inferior to God, superior to men, iii) evil spirits or the messengers and ministers of the devil

*220 (ADP-NSM): to call to

*221 : i) a placing of one thing by the side of another, juxtaposition, as of ships in battle, ii) metaph., iii) a pithy and instructive saying, involving some likeness or comparison and having preceptive or admonitory force, iv) a proverb, v) an act by which one exposes himself or his possessions to danger, a venture, a risk

*222 (APS-3S): to divide

*223 : i) slander, detraction, speech injurious, to another’s good name, ii) impious and reproachful speech injurious to divine majesty

2. 背景

- マタイ 12:22 そのとき、人々が悪霊につかれた盲人で口のきけない人を連れてきたので、イエスは彼をいやして、物を言い、また目が見えるようにされた。23 すると群衆はみな驚いて言った、「この人が、あるいはダビデの子ではあるまいか」。
- ルカ 11:14 さて、イエスが悪霊を追い出しておられた。それは、物を言えなくする霊であった。悪霊が出て行くと、口のきけない人が物を言うようになったので、群衆は不思議に思った。
- 悪霊を追い出された人の記述がマタイとルカで異なる。また、反応も異なる。
- ルカ 11:16 またほかの人々は、イエスを試みようとして、天からのしるしを求めた。

3. エルサレムから下ってきた律法学者の批判

- マルコ 3:22 また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。(マタイ、ルカもほぼ同じ)

4. イエスの反論

- 内部分裂は滅びに：もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。
 - － マタイ 12:28 しかし、わたしが神の霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。(ルカ 11:20)
 - － ルカ 11:19 もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによって追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであらう。(マタイ 12:27)
- まず強い人を縛りあげなければ、その人の家に押し入って家財を奪い取ることはできない。
 - － マタイ 12:30 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。
 - － イエスは何を強い人だと考えていたのか。
 - * 困難な状況、真意が伝わらない、頑なな心をもて、イエスは独白をしているのか。
- [DQ] 「23 そこでイエスは彼らを呼び寄せ、譬をもって言われた、」とあるが、この「彼ら」は誰なのだろうか。
 - － 「エルサレムから下ってきた律法学者たち」はその場にいたのだろうか。そうであればその可能性が高い。しかし、「21 身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂ったと思ったからである。」とあり、身内の者たちなのかもしれない。それぞれによってことばの意味が少し変わってくるように見える。家族なのかもしれない。

5. 聖霊をけがす罪

- 28 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。29 しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。

ー マタイ 12:32 聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない。

6. それぞれの人へのメッセージ

- それぞれの人に対する、聖霊のはたらきについて、考えたい。
 - ー 木のたとえをみると、救いがない。悔い改め（方向転換）か。
- マタイ、ルカは、このあと、さまざまな記事が続き、この箇所と関係しているように見える。
 - ー マタイ：12:33-37 実によって木を知る、38-42 しるしを求める、43-45 汚れた霊が戻ってくる、46-50 イエスの母、きょうだい
 - ー ルカ：24-26 汚れた霊が戻ってくる、27-28 真の幸い、29-32 人々はしるしを欲しがる、33-36 目は体の灯

4.18.7 メモ

- 家族：マタイ 10:32-39 だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。33 しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう。34 地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである。35 わたしがきたのは、人をその父と、娘をその母と、嫁をそのしゅうとめと仲たがいさせるためである。36 そして家の者が、その人の敵となるであろう。37 わたしよりも父または母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりもむすこや娘を愛する者は、わたしにふさわしくない。38 また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない。39 自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。
- 悪霊：使徒 10:38 神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました。このイエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら、また悪魔に押えつけられている^{*224}人々をことごとくいやしながら、巡回されました。
- 共観福音書を読んでいると「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」との批判に対して、イエスは、さまざまな方法で、反論しているように見える。神の国は近い、神の国はすでにきている（マタイ・ルカ）ということの、証・しるしとして悪霊が追い出されているのに、それがまったく違ったものに理解されることを警戒したものだろう。マタイの実についての言及も、実を見るべきこととしてこのことに言及しているのかもしれない。しかし、本質は、このことを通して、イエス様と父なる神様の関係

^{*224}

(PPP-APM): i) to exercise harsh control over one, to use one's power against one, ii) to oppress one

のような、神様との交わりを持つ、永遠の命に生きる生活に導かれることだとすると、鍵は、神様の働き、神様が聖霊を通して与えてくださる理解を受け入れることなのだろう。それを阻害するもの、それが何かは明確にはわからないし、さまざまにあるのかもしれないが、それこそが、「強い人」なのかもしれない。

4.19 3:31-35 イエスの母、きょうだい

3:31 さて、イエスの母と兄弟たちとがきて、外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。32 ときに、群衆はイエスを囲んですわっていたが、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟、姉妹たちが、外であなたを尋ねておられます」と言った。33 すると、イエスは彼らに答えて言われた、「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか」。34 そして、自分をとりかこんで、すわっている人々を見まわして、言われた、「ごらんなさい、ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。35 神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。

4.19.1 マタイ 12:46-50

46 イエスがまだ群衆に話しておられるとき、その母と兄弟たちとが、イエスに話そうと思って外に立っていた。47 それで、ある人がイエスに言った、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟がたが、あなたに話そうと思って、外に立っておられます」。48 イエスは知らせてくれた者に答えて言われた、「わたしの母とは、だれのことか。わたしの兄弟とは、だれのことか」。49 そして、弟子たちの方に手をさし伸べて言われた、「ごらんなさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。50 天にいますわたしの父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。

4.19.2 ルカ 8:19-21

19 さて、イエスの母と兄弟たちとがイエスのところにきたが、群衆のためそば近くに行くことができなかった。20 それで、だれかが「あなたの母上と兄弟がたが、お目にかかろうと思って、外に立っておられます」と取次いだ。21 するとイエスは人々にむかって言われた、「神の御言を聞いて行う者こそ、わたしの母、わたしの兄弟なのである」。

[マルコによる福音書 3 章 31-35 節福音書対照表](#)

4.19.3 問い

1. 20 節、21 節を復習しましょう。イエスの（肉親である）母と兄弟たちは何のためにイエスのもとに来ていますか。
2. イエスの（肉親である）母や兄弟たちはイエスのことをどう思っていたのでしょうか。
3. イエスはイエスの（ほんとうの）母や兄弟はどのような人たちだと言っていますか。

4. 「わたしの母、わたしの兄弟」と呼んだ、イエスと共にいる人たちはどのような人たちでしょうか。
5. イエスはイエスの（肉親である）母や兄弟たちに何を伝えていますか。

4.19.4 参照

- マリアについて：[参照](#)

- **母マリアに関する聖書箇所抜粋**

- ルカ 1:38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。
- ルカ 1:45 （エリザベツ）主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。
- ルカ 11:27,28 イエスがこう話しておられるとき、群衆の中からひとりの女が声を張りあげて言った、「あなたを宿した胎、あなたが吸われた乳房は、なんとめぐまれていることでしょう」。28 しかしイエスは言われた、「いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである」。
- ヨハネ 2:1-5 三日目にガリラヤのカナに婚礼があって、イエスの母がそこにいた。2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。3 ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなってしまいました」。4 イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。5 母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。

- **イエスの兄弟たち姉妹たち（郷里のひとたちについても参照）**

- マルコ 6:1-6 ナザレで受け入れられない、マタイ 13:53-58、ルカ 4:16-30
- マルコ 6:3 この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。
- マタイ 13:55,56 この人は大工の子ではないか。母はマリヤといい、兄弟たちは、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。56 またその姉妹たちもみな、わたしたちと一緒にいるではないか。こんな数々のことを、いったい、どこで習ってきたのか」。
- ヨハネ 7:1-8 そののち、イエスはガリラヤを巡回しておられた。ユダヤ人たちが自分を殺そうとしていたので、ユダヤを巡回しようとはされなかった。2 時に、ユダヤ人の仮庵の祭が近づいていた。3 そこで、イエスの兄弟たちがイエスに言った、「あなたがしておられるわざを弟子たちにも見せるために、ここを去りユダヤに行つてはいかがです。4 自分を公けにあらわそうと思っている人で、隠れて仕事をするものはありません。あなたがこれらのことをするからには、自分をはっきりと世にあら

わしなさい」。5 こう言ったのは、兄弟たちもイエスを信じていなかったからである。6 そこでイエスは彼らに言われた、「わたしの時はまだきていない。しかし、あなたがたの時はいつも備わっている。7 世はあなたがたを憎み得ないが、わたしを憎んでいる。わたしが世のおこないの悪いことを、あかししているからである。8 あなたがたこそ祭に行きなさい。わたしはこの祭には行かない。わたしの時はまだ満ちていないから」。9 彼らにこう言って、イエスはガリラヤにとどまっておられた。

－ コリント前 9:5 わたしたちには、ほかの使徒たちや**主の兄弟**たちやケパのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのか。

－ ガラテヤ 1:19 しかし、**主の兄弟**ヤコブ以外には、ほかのどの使徒にも会わなかった。

・ マタイ 10:36 そして家の者が、その人の敵となるであろう。

・ 父の御心を行う

－ ヨハネ 6:38-40 わたしが天から下ってきたのは、自分のこのころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこのころを行うためである。39 わたしをつかわされたかたのみこのころは、わたしに与えて下さった者を、わたしがひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。40 わたしの父のみこのころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。

31 K *225 . 32 *226
 , . [] *227 . 33 .
 []; 34 *228 *229 . 35
 [] *230 , .

4.19.5 記録

- 日時：2023 年 8 月 17 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）7 名、参加（遠隔）3 名

4.19.6 問いについて

1. 20,21 の復習

-
- *225 (AAI-3P): i) to order (one) to go to a place appointed, ii) to send away, dismiss
 *226 (INI-3S): i) to sit down, seat one's self, ii) to sit, be seated, of a place occupied
 *227 (PAI-3P): i) to seek in order to find, ii) to seek i.e. require, demand
 *228 (AMP-NSM): i) to look around, ii) to look around about one's self, iii) to look round on one (i.e. to look for one's self at one near by)
 *229 (DSM): in a circle, around, round about, on all sides
 *230 (ASN): i) what one wishes or has determined shall be done, ii) will, choice, inclination, desire, pleasure

- 20 群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。21 身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂ったと思ったからである。
- 「取押えに出てきた」身内の者であることを確認
- マタイ、ルカでは、この表現はなく、柔らかくなっている。マリアや、主の兄弟への配慮か。

2. 肉親はどう思っていたか

- マタイ 12:46 イエスがまだ群衆に話しておられるとき、その母と兄弟たちとが、イエスに話そうと思って外に立っていた。47 それで、ある人がイエスに言った、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟がたが、あなたに話そうと思って、外に立っておられます」。
- 群衆が押し寄せ、宗教指導者からは、拒否される。少しの弟子は、ついていっていたが、異常だと感じていたのだろう。
- 33 節は、かなり厳しく響く。33 すると、イエスは彼らに答えて言われた、「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか」。「取押さえに」出てくるような人ではないよ。と言っている。
- 参照のヨハネ 7:1-8 は、一つの背景を明らかにしている。
- 参照のルカ 11:27,28 も、イエスと母マリアの関係を明らかにしている。

3. 本当の母、兄弟とは

- 34 そして、自分をとりかこんで、すわっている人々を見まわして、言われた、「ごらんなさい、ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。35 神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。
- マタイ：49 そして、弟子たちの方に手をさし伸べて言われた、「ごらんなさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。50 天にいますわたしの父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。
- ルカ：21 するとイエスは人々にむかって言われた、「神の御言を聞いて行う者こそ、わたしの母、わたしの兄弟なのである」。

4. イエスの周りにいる人：母、兄弟と呼ばれている

- 父は含まれていない。母と呼ばれるような人だけではなく、姉妹は、おそらく含まれていただろう。
- 35 神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。
- 神のみこころを行っているものたちなのだろうか。
- 父なる神の子となることが鍵
- マルコでは、20：食事を一緒にしようとしていたひと。群衆。前段の続きとすると、22 エルサレムから下ってきた律法学者たち。マタイでは、パリサイ人。まだいただろうか。

5. 肉親へのメッセージ

- 一般論ではなく「取り押さえに来た」家族に対して語っている。33「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか」。
- イエスは、バプテスマの時に、神の声を聞き、聖霊が下ったイエスとし、父なる神の子として「神のみこころを行う者」として、生きようとし、そのような者と共に、生きようとしている。
- 聖霊の働きを見、聖霊の声に聞き従うように。
- 肉の目ではなく、霊の目で

4.19.7 メモ

- 「神のみこころを行う者」、マタイ「天にいますわたしの父のみこころを行うもの」、ルカ「神の御言を聞いて行う者」
- 共通の経験：ともに神のみこころに従おうとしたものたち、ともに喜び、ともに悲しみ、泣く人、それが、それぞれの尊厳を形作る。何でも良いわけではないが。
- 共通の興味、同じ方向を向いている。共通の方に従っている。
- これらが、互いに愛し合うように招かれる。
 - － ヨハネ 13:34,35 わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。35 互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。
- イエスの言葉：34 そして、自分をとりかこんで、すわっている人々を見まわして、言われた、「ごらんなさい、ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。35 神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。
 - － これをみても、全員が、「わたしの兄弟、また姉妹、また母」だとは言っていないように、見える。「いる」と言っているのだから。
 - － 父については、語らないことで（マタイは明確に、「12:50 天にいますわたしの父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」と言っている。）自分は、神の子として生きていること。そして「神のみこころを行う者はだれでも」イエスの家族、すなわち、神の子だよと言っている。（母も、父の責任下にあると考えられていたのだろう、その意味では、兄弟も姉妹も、母も同じである。）
 - － このことばを聞いた人たちは、おそらく、聖霊の促しを聞いただろう。「神のみこころをおこなう」ここにかかっていることを。エルサレムから下ってきた律法学者たちも、これを聞いたとすると、考える糸口はあったかもしれない。悔い改められるかどうかは、不明だが。

4.20 4:1-9 「種を蒔く人」のたとえ

4:1 イエスはまたも、海べで教えはじめられた。おびたしい群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわったまま、海上におられ、群衆はみな海に沿って陸地にいた。2 イエスは譬で多くの事を教えられたが、その教の中で彼らにこう言われた、3 「聞きなさい、種まきが種をまきに出て行った。4 まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。5 ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、6 日が上ると焼けて、根がないために枯れ

てしまった。7 ほかの種はいばらの中に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまったので、実を結ばなかった。8 ほかの種は良い地に落ちた。そしてはえて、育って、ますます実を結び、三十倍、六十倍、百倍にもなった」。9 そして言われた、「聞く耳のある者は聞くがよい」。

4.20.1 マタイ 13:1-9

1 その日、イエスは家を出て、海べにすわっておられた。2 ところが、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわれ、群衆はみな岸に立っていた。3 イエスは譬で多くの事を語り、こう言われた、「見よ、種まきが種をまきに出て行った。4 まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。5 ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、6 日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。7 ほかの種はいばらの地に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまった。8 ほかの種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。9 耳のある者は聞くがよい」。

4.20.2 ルカ 8:4-8

4 さて、大ぜいの群衆が集まり、その上、町々からの人たちがイエスのところに、ぞくぞくと押し寄せてきたので、一つの譬で話をされた、5 「種まきが種をまきに出て行った。まいているうちに、ある種は道ばたに落ち、踏みつけられ、そして空の鳥に食べられてしまった。6 ほかの種は岩の上に落ち、はえはしたが水気がないので枯れてしまった。7 ほかの種は、いばらの間に落ちたので、いばらと一緒に茂ってきて、それをふさいでしまった。8 ところが、ほかの種は良い地に落ちたので、はえ育って百倍もの実を結んだ」。こう語られたのち、声をあげて「聞く耳のある者は聞くがよい」と言われた。

[マルコによる福音書 4 章 1-9 節福音書対照表](#)

4.20.3 問い

1. イエスはどこでどのような人たちにどのような方法で教えていますか。
2. なぜ、舟に乗って教えたのでしょうか。会堂で教えることとは、どのような違いがありますか。
3. 一般的にたとえ話にはどのような特徴・効果がありますか。
4. 種がまかれた4種類の土地について書かれていますが、これらの土地の特徴、そしてその種がどうなったかについてまとめてみましょう。どうして異なる結果になったのでしょうか。
5. 最後に、イエスはなんと言っていますか。

4.20.4 参照

- たとえと比喩：参照
- これまでに教えた場所
 - マルコ 1:16 海辺：弟子を招く
 - マルコ 1:21 それから、彼らはカペナウムに行った。そして安息日にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた。
 - マルコ 1:29 シモンとアンデレとの家
 - マルコ 1:39 そして、ガリラヤ全地を巡りあるいて、諸会堂で教えを宣べ伝え、また悪霊を追い出された。重い皮膚病
 - マルコ 2:1,2 幾日かたって、イエスがまたカペナウムにお帰りになったとき、家におられるというわさが立ったので、
 - マルコ 2:13 イエスはまた海べに出て行かれると、多くの人々がみもとに集まってきたので、彼らを教えられた。
 - マルコ 2:15 レビの家
 - マルコ 2:23 麦畑
 - マルコ 3:1 イエスがまた会堂にはいられると、そこに片手のなえた人がいた。
 - マルコ 3:7-10 それから、イエスは弟子たちと共に海べに退かれたが、ガリラヤからきたおびただしい群衆がついて行った。またユダヤから、8 エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。10 それは、多くの人をいやされたので、病苦に悩む者は皆イエスにさわろうとして、押し寄せてきたからである。
 - マルコ 3:13 さてイエスは山に登り、みこころにかなった者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。
 - マルコ 3:19b, 20 イエスが家にはいられると、20 群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。
- 説教における舟の利用
 - マルコ 3:9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。
 - ルカ 5:3 その一そうはシモンの舟であったが、イエスはそれに乗り込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の中から群衆にお教えになった。

1 K . *231 ,
2 *232 3 .

*231 (API-3S): i) to gather together, to gather, ii) to bring together, assemble, collect, iii) to lead with one's self

*232 (DOF): i) a placing of one thing by the side of another, juxtaposition, as of ships in battle, ii) metaph. a) a



4.20.5 記録

- 日時：2023 年 8 月 24 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）5 名

4.20.6 問いについて

1. どこで、どのようなひとたちに、どのような方法で

- 1 イエスは**またも**、海べで教えはじめられた。おびたしい群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわったまま、海上におられ、群衆はみな海に沿って陸地にいた。2 イエスは譬で多くの事を教えられたが、その教の中で彼らにこう言われた、
- 陸地にいる、おびたしい群衆（1000 人以上か）にむかい、舟に乗って座ったまま、譬でおしえた。

2. なぜ、舟に乗って、会堂で教えることとの違い

- いやしや、悪霊を追い出すのではなく、話をするため

comparing, comparison of one thing with another, likeness, similitude b) an example by which a doctrine or precept is illustrated c) a narrative, fictitious but agreeable to the laws and usages of human life, by which either the duties of men or the things of God, particularly the nature and history of God's kingdom are figuratively portrayed, d) a parable: an earthly story with a heavenly meaning, iii) a pithy and instructive saying, involving some likeness or comparison and having preceptive or admonitory force, a) an aphorism, a maxim, iv) a proverb, v) an act by which one exposes himself or his possessions to danger, a venture, a risk

*233 (AAN): i) to sow, scatter, seed, ii) metaph. of proverbial sayings

*234 : i) flying, winged, ii) flying or winged animals, birds

*235 (2AAI-3S): i) to consume by eating, to eat up, devour, ii) metaph.

*236 (ASN): rocky, stony

*237 : i) to make spring up, cause to shoot forth, ii) to spring up

*238 : i) to burn with heat, to scorch, ii) to be tortured with intense heat

*239 : i) a root, ii) that which like a root springs from a root, a sprout, shoot, iii) metaph. offspring, progeny

*240 (API-3S): i) to make dry, dry up, wither, ii) to become dry, to be dry, be withered, iii) to waste away, pine away, i.e. a withered hand

*241 (APS): i) thorn, bramble, ii) bush, brier, a thorny plant

*242 : ascend, a) to go up, b) to rise, mount, be borne up, spring up

*243 : to choke utterly, a) metaph. the seed of the divine word sown in the mind, b) to press round or throng one so as almost to suffocate him

- 何が大切かをしていた
- 会堂は許可がいる、人数に限られる、パリサイ派のひとたちや、律法学者たちとの議論をさけるため
- 会堂では、律法学者や、長老、会堂司の許可・合意が得られず、イエスはもう教えられなかったかもしれない。一方、屋外では、会堂に入りづらいひとも、聞くことができたかもしれない。

3. たとえ話

- 考えてもらうため、何を伝えるためだろうか。
- たとえ（ : a placing of one thing by the side of another, juxtaposition）：あるものの、横に置く
- 神の国の奥義（11 節）は、知らないこと、わからないこと。イエスは、それを教えるのに、たとえを用いられた。

4. 四種類の土地とその結果、なぜ異なる結果となったか

- 道ばた：鳥が来て食べた。ルカでは「踏みつけられ」
- 土の薄い石地：すぐに芽を出したが、根がないので枯れてしまった
- いばらの中：いばらが伸びて、ふさぎ、実がならなかった（実のことはマルコのみ）
- 良い地：はえて、そだち、実を結び、三十倍、六十倍、百倍。マタイでは、百倍、六十倍、三十倍、ルカでは、百倍。
- 種はおなじ、撒かれた場所も偶然に見える。
- 結果はどこに責任があるのか。実際とたとえ

5. 聞く耳のある者はきくがよい

- マタイは「耳のある者は聞くが良い」（。）
- 聞き方に注意せよということか

4.20.7 メモ

- 譬（たとえ）天的な意味を持つ地上の物語。天のこと、神の国のことは、神の国は近いと言われても、想像がつかない。地上の身近なもので説明してもらわないと、わからない。
- 聞きなさい。聞く耳のある者は聞きなさい、と聞くことの大切さ、おそらく、しっかり聞いて、理解することが求められている。そこには、ベルゼブルの話でも出てきた、聖霊の促しがあるのかもしれない。
- 一つ一つのたねの撒かれた地について、イエスが知っていたり、制御していたりするわけではない。聞く側に、すべての責任があるわけでもないだろう。神様に委ねられているとも言えるし、わからないとも言

える。それこそ、奥義は、完璧に理解できるわけではないのかもしれない。しかし、注意して聞き、理解しようとする、心に語りかける聖霊の促しに心をとめることも必要。

- 「新聖書注解」いのちのことば社、新約 1 352 頁には、次のようにある。「参考までに日本の農業では一粒から五、六百粒、最高で五万七千百粒も実るし、古代バビロニアでも二、三百倍の身を結んだ（ヘロドトス『歴史』一 193)」。ユダヤの農業がいかに杜撰だったかがわかる。本職の「種まき」が「わざわざ種を蒔きにでかけた」最中でさえ、道ばた、岩の上、いばらの中に落ちるのはそのためである。

4.21 4:10-12 たとえを用いて話す理由

4:10 イエスがひとりになられた時、そばにいた者たちが、十二弟子と共に、これらの譬について尋ねた。11 そこでイエスは言われた、「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。12 それは／『彼らは見るには見るが、認めず、／聞くには聞くが、悟らず、／悔い改めてゆるされることがない』／ためである」。

4.21.1 マタイ 13:10-17

10 それから、弟子たちがイエスに近寄ってきて言った、「なぜ、彼らに譬でお話しになるのですか」。11 そこでイエスは答えて言われた、「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。12 おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。13 だから、彼らには譬で語るのである。それは彼らが、見ても見ず、聞いても聞かず、また悟らないからである。14 こうしてイザヤの言った預言が、彼らの上に成就したのである。『あなたがたは聞くには聞くが、／決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。15 この民の心は鈍くなり、／その耳は聞えにくく、／その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、／悔い改めていやされることがないためである』。16 しかし、あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、さいわいである。17 あなたがたによく言うておく。多くの預言者や義人は、あなたがたのしていることを見ようと熱心に願ったが、見ることができず、またあなたがたの聞いていることを聞こうとしたが、聞けなかったのである。

4.21.2 ルカ 8:9-10

9 弟子たちは、この譬はどういう意味でしょうか、とイエスに質問した。10 そこで言われた、「あなたがたには、神の国の奥義を知ることが許されているが、ほかの人たちには、見ても見えず、聞いても悟られないために、譬で話すのである。

[マルコによる福音書 4 章 10-12 節福音書対照表](#)

4.21.3 問い

1. たとえについて尋ね、説明を聞いているのはだれですか。
2. 以下、マタイを中心に考えましょう。なぜイエスはたとえを用いるのでしょうか。
3. 弟子たちが「神の国の奥義を授けられている」とは、どのような意味なのでしょう。群衆とはなにが違うのでしょうか。
4. イザヤ書からの引用はなにを伝えているのでしょうか。
5. マタイ 13 章 17 節の「多くの預言者や義人」が見たかったこと、聞いたかったこととは何なのでしょう。

4.21.4 参照

- **ルカ直前の記事**：ルカ 8:1-3 そののちイエスは、神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられたが、十二弟子もお供をした。2 また悪霊を追い出され病気をいやされた数名の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、3 ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。
 - ー マルコ 15:40,41 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。
 - ー (対照句) マタイ 27:56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。(マタイ 13:55)
- イザヤ 6:9-10 主は言われた、「あなたは行って、この民にこう言いなさい、／『あなたがたはくりかえし聞くがよい、／しかし悟ってはならない。あなたがたはくりかえし見るがよい、／しかしわかつてはならない』と。10 あなたはこの民の心を鈍くし、／その耳を聞えにくくし、／その目を閉ざしなさい。これは彼らとその目で見、／その耳で聞き、／その心で悟り、／悔い改めていやされることのないためである」。
- ヨハネ 12:36-43 光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」。イエスはこれらのことを話してから、そこを立ち去って、彼らから身をお隠しになった。37 このように多くのしるしを彼らの前でなしたが、彼らはイエスを信じなかった。38 それは、預言者イザヤの次の言葉が成就するためである、「主よ、わたしたちの説くところを、だれが信じたでしょうか。また、主のみ腕はだれに示されたでしょうか」。39 こういうわけで、彼らは信じるができなかった。イザヤはまた、こうも言った、40 「神は彼らの目をくらまし、心をかたくなになさった。それは、彼らが目で見ず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである」。41 イザヤがこう言ったのは、イエスの栄光を見たからであって、イエスのことを語ったのである。42 しかし、役人たちの中にも、イエスを信じた者が多かったが、パリサイ人をはばかって、告白はしなかった。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。43 彼らは神のほまれよ

りも、人のほまれを好んだからである。

- 使徒 28:23-28(-29) そこで、日を定めて、大ぜいの人が、パウロの宿につめかけてきたので、朝から晩まで、パウロは語り続け、神の国のことをあかしし、またモーセの律法や預言者の書を引いて、イエスについて彼らの説得につとめた。24 ある者はパウロの言うことを受け入れ、ある者は信じようとしなかった。25 互に意見が合わなくて、みんなの者が帰ろうとしていた時、パウロはひとこと述べて言った、「聖霊はよくも預言者イザヤによって、あなたがたの先祖に語ったものである。26 『この民に行って言え、／あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。27 この民の心は鈍くなり、／その耳は聞えにくく、／その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、／耳で聞かず、／心で悟らず、悔い改めて／いやされることがないためである』。28 そこで、あなたがたは知っておくがよい。神のこの救の言葉は、異邦人に送られたのだ。彼らは、これに聞きしたがうであろう」。29 [パウロがこれらのことを述べ終ると、ユダヤ人らは、互に論じ合いながら帰って行った。]
- 参照：ローマ 11:7-8 では、どうなるのか。イスラエルはその追い求めているものを得ないで、ただ選ばれた者が、それを得た。そして、他の者たちはかたくなになった。8 「神は、彼らに鈍い心と、／見えぬ目と、聞えない耳とを与えて、／きょう、この日に及んでいる」／と書いてあるとおりである。
 - － 申命記 29:4 (or 3) しかし、今日まで主はあなたがたの心に悟らせず、目に見させず、耳に聞かせられなかった。
 - － イザヤ 29:10 主が深い眠りの霊をあなたがたの上にそそぎ、／あなたがたの目である預言者を閉じこめ、／あなたがたの頭である先見者を／おおわれたからである。

10 K , *244 . 11 .
 , *245 *246 , 12 ,
 , .

マタイ 13:10-17

10 K . ; 11 .
 , . 12 , ,
 . 13 , , 14
 . , . 15 ,
 ,
 . 16 . 17
 , .

*244 (AAI-3P): i) to question, ii) to ask

*245 : without, out of doors

*246 : i) to become, i.e. to come into existence, begin to be, receive being, ii) to become, i.e. to come to pass, happen, iii) to arise, appear in history, come upon the stage, iv) to be made, finished, v) to become, be made

4.21.5 記録

- 日時：2023 年 8 月 31 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）1 名

4.21.6 問いについて

1. 説明を聞いているのは

- マルコ：そばにいた者たち、十二弟子。マタイ、ルカでは、弟子たち。
- ルカ 8:1-3 参照。多くの女性たちが一緒にいたことがわかる。2 また悪霊を追い出され病気をいやされた数名の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、3 ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。
 - ー ルカではこの前に、パリサイ人シモンの家での食事の記事（7:36-50）で、罪の女であったものが、香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。記事がある。最後には、イエスは女にむかって言われた、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。と伝えている。

2. なぜ、たとえを用いるのか

- マルコ：「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。12 それは／『彼らは見るには見るが、認めず、／聞くには聞くが、悟らず、／悔い改めてゆるされることがない』／ためである」。明確ではないが、旧約聖書からの引用を匂わせる言葉を付け加えている。
- ルカ：「あなたがたには、神の国の奥義を知ることが許されているが、ほかの人たちには、見ても見えず、聞いても悟られないために、譬で話すのである。」一番簡単。旧約聖書からの引用も、あまり感じられない。
- マタイ：「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。12 おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。13 だから、彼らには譬で語るのである。それは彼らが、見ても見えず、聞いても聞かず、また悟らないからである。
- 共通なのは「神の国（天国）の奥義を知ることが許されている」という部分、つまり、神の国についての、たとえなので、直接には語っても理解できない。だから、我々あの住む世界にあるものに置き

換えて、たとえて語る。

3. 弟子たちは何が違うのか

- そばにいる、つねに、イエスと共にいて、学ぼうとしているかどうか。
 - － そばにいと、なにが違うのか。
- 神の御心を、天の父の御心として生きること、神の国がすでにきている。近いと感じられる、神の国自体を日常的にみることができるかどうかにかかっている。
- みなさんは、神の国（が近いこと）を見えていますか、

4. イザヤ書

- 14 こうしてイザヤの言った預言が、彼らの上に成就したのである。『あなたがたは聞くには聞くが、／決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。15 この民の心は鈍くなり、／その耳は聞えにくく、／その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、／悔い改めていやすることがないためである』。
- イザヤ 6:9-10、ヨハネ 12:36-43、使徒 28:23-28(-29) 参照
- (適切に素晴らしいメッセージを) 語れば、聞き入れられ、悔い改めに至るわけではない。悔い改めない自由も（自立性）も与えられている。同時に、聖霊が語りかけ、悔い改めが促されていることも事実。そこに、至らない理由は、ひと様々だということもあるのだろう。種まきの譬からも。悔い改めて、イエスに従うことは、神の国の奥義を得ることでもある。

5. 「多くの預言者や義人」が見たかったこと、聞いたかったこと？

- 16 しかし、あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、さいわいである。17 あなたがたによく言うておく。多くの預言者や義人は、あなたがたのしていることを見ようと熱心に願ったが、見ることができず、またあなたがたの聞いていることを聞こうとしたが、聞けなかったのである。
- おそらく、「天国の奥義」（マタイ 13:11）、「神の国の奥義」（マルコ 4:11、ルカ 8:10）を指していると思われる。
- 「多くの預言者や義人」が見たかったこと、聞いたかったこととすると、メシヤを意味しているともとれる。そのメシヤを通して、示される神様の御心？
- イエスのそばにいて、神の国がすぐそばにあることを見ることができる。
- マタイ 12:28-29 28 しかし、わたしが神の霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。ルカ 11:20-21 20 しかし、わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。

4.21.7 メモ

- 「イエスがひとりになられた時、そばにいた者たちが、十二弟子と共に、これらの譬について尋ねた。」(10) とはじまる。それを待っていたのだろうか。そばにいたのに、イエスがひとりになられた時と言っている。イエスに従ってきていたひとは、別としてということだろう。十二弟子と共に、知りたかったのは、そばにいたものたちだが、弟子たちが意味がわからないとは言えなかったのかもしれない。しかし、結局、皆でイエスの下に、聞きにに行く。
- イエスのそばにいて、何がよかったかは、神の国の奥義を知る鍵でもあるだろう。すこし考えてみる。
 - 直接的には、解きあかしを聞くことができる。説明してもらえる。
 - そばにいて、イエスが伝える、神の国の到来を、それが神の国に近いことだとして経験することができる。
 - イエスは、つねに守ってくれる。レビの家での会食の時。麦の穂を摘んで食べていた時。他にもあるように思える。
 - 共に、働くことができる。舟を用意する。派遣される。他にもあるように思える。
 - もっと一般的に、神様の御心を知ることなのかもしれない。イエスと共に歩むこと、イエスに従っていくことに勝るものはないように思う。一つのことでは、ないように思う。「神の御心を行う人」(マタイ 12:50) になることなのかもしれない。一点ではなく、ずっと継続的に、イエスに従って歩むことだろうか。
- Matt 13:11b: あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。
*247
- かたくなにするメッセージ：聖霊による導き、語りかけがあり、それに応答する悔い改めが、同時に促されている。まさに、聞く耳のあるものは、聞きなさい。
- イザヤの部分は、マルコだけではなく、ルカでもほとんど触れていないので、イエスは、イザヤの言葉として、引用したのではないかもしれない。

4.22 4:13-20 「種を蒔く人」のたとえの説明

4:13 また彼らに言われた、「あなたがたはこの譬がわからないのか。それでは、どうしてすべての譬がわかるだろうか。14 種まきは御言をまくのである。15 道ばたに御言がまかれたとは、こういう人たちのことである。すなわち、御言を聞くと、すぐにサタンがきて、彼らの中にまかれた御言を、奪って行くのである。16 同じように、石地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、17 自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そののち、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまづいてしまう。18 また、いばらの中にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くが、19 世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいってきて、

*247 : i) to learn to know, come to know, get a knowledge of perceive, feel, ii) to know, understand, perceive, have knowledge of, iii) sexual intercourse between a man and a woman, iv) to become acquainted with, to know

御言をふさぐので、実を結ばなくなる。20 また、良い地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞いて受けいれ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのである」。

4.22.1 マタイ 13:18-23

18 そこで、種まきの譬を聞きなさい。19 だれでも御国の言を聞いて悟らないならば、悪い者がきて、その人の心にまかれたものを奪いとって行く。道ばたにまかれたものというのは、そういう人のことである。20 石地にまかれたものというのは、御言を聞くと、すぐに喜んで受ける人のことである。21 その中に根がないので、しばらく続くだけであって、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまずいてしまう。22 また、いばらの中にまかれたものとは、御言を聞くが、世の心づかいと富の惑わしとが御言をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。23 また、良い地にまかれたものとは、御言を聞いて悟る人のことであって、そういう人が実を結び、百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなるのである」。

4.22.2 ルカ 8:11-15

11 この譬はこういう意味である。種は神の言である。12 道ばたに落ちたのは、聞いたのち、信じることも救われることもないように、悪魔によってその心から御言が奪い取られる人たちのことである。13 岩の上に落ちたのは、御言を聞いた時には喜んで受けいれるが、根が無いので、しばらくは信じていても、試練の時が来ると、信仰を捨てる人たちのことである。14 いばらの中に落ちたのは、聞いてから日を過ごすうちに、生活の心づかいや富や快樂にふさがれて、実の熟するまでにならない人たちのことである。15 良い地に落ちたのは、御言を聞いたのち、これを正しい良い心でしっかりと守り、耐え忍んで実を結ぶに至る人たちのことである。

[マルコによる福音書 3 章 13-20 節福音書対照表](#)

4.22.3 問い

1. マルコ、マタイ、ルカを比較しながら読みましょう。たとえのなかで、種まきのまく種は何だと言っていますか。
2. 「道ばたに蒔かれたもの」とはどのような人たち、聞き方で、どうなりますか。
3. 「石地に蒔かれたもの」とはどのような人たち、聞き方で、どうなりますか。
4. 「茨の中に蒔かれたもの」とはどのような人たち、聞き方で、どうなりますか。
5. 「良い土地に蒔かれたもの」とはどのような人たち、聞き方で、どうなりますか。
6. イエスは、このたとえとそのときあかしを通して、何を伝えようとしているのでしょうか。弟子たちや、イエスのことばを聞いた人たちは、何に注意し、何を理解しないといけないのでしょうか。

4.22.4 参照

- サタン（敵対するもの）と悪魔（分裂させるもの・中傷するもの）：[参照](#)
- サタンと悪魔の福音書における引用：[参照](#)（荒野での試み以外の箇所）
 - － マタイ 4:10 するとイエスは彼に言われた、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ²⁵』と書いてある」。
 - － マルコ 8:33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「**サタン**よ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

13 K . *248 , *249; 14 . 15
 . *250 . 16
 *251 , 17 *252
 , *253 *254 . 18
 *255 . , 19 *256 *257 *258 *259
 *260 *261 *262 *263 . 20
 , *264 *265 .

-
- *248 : i) to see, a) to perceive with the eyes, b) to perceive by any of the senses, c) to perceive, notice, discern, discover, d) to see, e) to experience any state or condition, f) to see i.e. have an interview with, to visit, ii) to know, a) to know of anything, b) to know, i.e. get knowledge of, understand, perceive, c) to have regard for one, cherish, pay attention to
- *249 : i) to learn to know, come to know, get a knowledge of perceive, feel, ii) to know, understand, perceive, have knowledge of, iii) sexual intercourse between a man and a woman, iv) to become acquainted with, to know
- *250 : straightway, immediately, forthwith
- *251 : rocky, stony, of a ground full of rocks
- *252 : i) a root, ii) that which like a root springs from a root, a sprout, shoot, iii) metaph. offspring, progeny
- *253 : i) a pressing, pressing together, pressure, ii) metaph. oppression, affliction, tribulation, distress, straits
- *254 : persecution
- *255 : i) thorn, bramble, ii) bush, brier, a thorny plant
- *256 : care, anxiety
- *257 : i) for ever, an unbroken age, perpetuity of time, eternity, ii) the worlds, universe, iii) period of time, age
- *258 : deceit, deceitfulness
- *259 : riches, wealth, a) abundance of external possessions, b) fulness, abundance, plenitude, c) a good i.e. that with which one is enriched
- *260 : desire, craving, longing, desire for what is forbidden, lust
- *261 : i) to go into, enter, ii) metaph. of affections entering the soul
- *262 : to choke utterly, a) metaph. the seed of the divine word sown in the mind, b) to press round or throng one so as almost to suffocate him
- *263 : metaph. without fruit, barren, not yielding what it ought to yield
- *264 : i) to receive, take up, take upon one's self, ii) to admit i.e. not to reject, to accept, receive
- *265 : i) to bear fruit, ii) to bear, bring forth, deeds, iii) to bear fruit of one's self

4.22.5 記録

- 日時：2023 年 9 月 7 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）2 名

4.22.6 問いについて

1. 種まきのまく種

- （聞いた）御言（マルコ）14 種まきは御言をまくのである。（ ）御国の言（マタイ 13:19）神の言（ルカ 8:11）これ以外は、御言
- 心にまかれたもの（マタイ 13:18）
- 成長し、実を結ばせるもの。それは、実際、何なのだろうか。

2. 道ばたに蒔かれたもの

- マルコ 4:15 道ばたに御言がまかれたとは、こういう人たちのことである。すなわち、御言を聞くと、すぐにサタンがきて、彼らの中にまかれた御言を、奪って行くのである。
- マタイ 13:19 だれでも御国の言を聞いて悟らないならば、悪い者がきて、その人の心にまかれたものを奪いとって行く。道ばたにまかれたものというのは、そういう人のことである。
- ルカ 8:12 道ばたに落ちたのは、聞いたのち、信じることも救われることもないように、悪魔によってその心から御言が奪い取られる人たちのことである。
- なぜ、「道ばたにまかれた」と表現しているのか？ 畑ではないところ？
- 聞いても、理解しない。うわの空だろうか。そのようなときもあるように思う。
- 病を治してもらいたい人、悪霊を追い出してもらいたい人、イエスに触れていただきたい人は、はやくメッセージが終わらないかと待っていたかもしれない。他のことに気を取られている、聞いて受け取る状態にはないということかもしれない。

3. 石地に蒔かれたもの

- マルコ 4:16,17 16 同じように、石地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、17 自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そののち、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまずいてしまう。

- マタイ 13:20,21 20 石地にまかれたものというのは、御言を聞くと、すぐに喜んで受ける人のことである。21 その中に根がないので、しばらく続くだけであって、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまづいてしまう。
- ルカ 8:13 岩の上に落ちたのは、御言を聞いた時には喜んで受け入れるが、根が無いので、しばらくは信じていても、試練の時が来ると、信仰を捨てる人たちのことである。
- 「根がない」とはどういうことだろうか。素晴らしい、ハレルヤと、賛美するが、その人の（生活の）中に入っていけない、そのひとの人生の一部にならない、主体的に受け取れていないと表現できるかもしれない。御心を深く理解し、神様との関係が深まるわけではない。
- 困難や迫害が起こってもつまづかない、信仰を捨てないために、必要なことは何なのだろうか、という問いにもつながる。

4. 茨の中に蒔かれたもの

- マルコ 4:18,19 18 また、いばらの中にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くが、19 世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいってきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる。
- マタイ 13:22 また、いばらの中にまかれたものとは、御言を聞くが、世の心づかいと富の惑わしとが御言をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。
- ルカ 8:14 いばらの中に落ちたのは、聞いてから日を過ごすうちに、生活の心づかいや富や快樂にふさがれて、実の熟するまでにならない人たちのことである。
- 「実」とは何だろうか。
- さまざまなものに気を配ることは大切であるようにも思う。しかし、それによって、心が分裂し、たいせつなもの、核が、薄まってしまうということか。

5. 良い土地に蒔かれたもの

- マルコ 4:20 20 また、良い地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのである」。
- マタイ 13:23 また、良い地にまかれたものとは、御言を聞いて悟る人のことであって、そういう人が実を結び、百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなるのである」。
- ルカ 8:15 良い地に落ちたのは、御言を聞いたのち、これを正しい良い心でしっかりと守り、耐え忍んで実を結ぶに至る人たちのことである。
- 受け入れ、実を結ぶ。しかし、比較的あっさり書かれている。これも、アンナカレーニナの法則（AKP）か。実を結ぶに至らない人への、メッセージが中心なのか。

6. 何を理解しなければいけないのか

- マルコ 4:13b あなたがたはこの譬がわからないのか。それでは、どうしてすべての譬がわかるだろうか。
- 結局、種は、神の言葉は、どのようなものなのだろうか。
- 聞け（イエスは、「シェマー」と言っただろうか。（HHH）pay attention）、聞く耳のあるものは聞きなさい、に中心があるのだろう。

4.22.7 メモ

- マルコにだけ「4:13 また彼らに言われた、「あなたがたはこの譬がわからないのか。それでは、どうしてすべての譬がわかるだろうか。」が含まれている。マタイ、ルカでは、このようなイエスの叱責とも聞こえる言葉は、入れなかったのだろう。しかし、ペテロが語った説教を書いたマルコは、ペテロ自身の言葉として含めたのかもしれない。素朴と言われるマルコの生き生きとしている部分でもある。
- 種は、神の言で、その神の言葉は、悟り、受け入れ、正しい心でしっかりと守り、耐え忍ぶと、神の御心が成就するように、豊かな実を結ぶもの。
- サタン、悪い者、悪魔と福音書によって表現が異なるが、イエスが、「サタンよ引き下がれ」（マタイ 4:10, マルコ 8:33）のように、サタンと対峙されるイエスから学ぶこともできる。単に、サタンに取られてしまうなら仕方がないとする必要もないのかもしれない。戦いがあるともとれる。
- たとえ全体が、「神の国の奥義」（4:11）に関係するとすると、このたとえも、神の国、すぐそこに来ているとイエスが宣べ伝える福音に関係していると理解することもできる。実が豊かになることは、神の御心になることが広がっていく様を表しているのかもしれない。
- 聞く人の問題なのか、聞き方の問題なのか、どうすれば良いのか、種の撒き方に問題があるのでは、なぜ神様はこのようなことを許容しておられるのか、結局、御言や、神の言葉、そして実は、何を意味するのか。このたとえでイエスが群衆に語っていることは、そして、弟子たちに伝えていることは、とさまざまな観点から考えられる。おそらく、神の国の奥義としてイエスが伝えるものは、人間のことばでは、一つの表現には、おさまらないのだろう。すなわち、一つに、確定しなくて良いのかもしれない。みなで、読む、利点でもある。それぞれの問いについて、深く考えることは素晴らしいが、それだけが、正しい解釈とすることは問題があるように思う。
- 「いろいろあってな。」も神の国の奥義の一部なのかもしれない。多様性のもたらす素晴らしさということばでは、表現できないが。

4.23 4:21-25 「灯」と「秤」のたとえ

4:21 また彼らに言われた、「ますの下や寝台の下に置くために、あかりを持ってくることがあろうか。燭台の上に置くためではないか。22 なんでも、隠されているもので、現れないものはなく、秘密にされているもので、明るみに出ないものはない。23 聞く耳のある者は聞くがよい」。24 また彼らに言われた、「聞くことがらに注意しなさい。あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられ、その上になお増し

加えられるであろう。25 だれでも、持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう」。

4.23.1 ルカ 8:16-18

16 だれもあかりをとめて、それを何かの器でおおいかぶせたり、寝台の下に置いたりはしない。燭台の上に置いて、はいって来る人たちに光が見えるようにするのである。17 隠されているもので、あらわにならないものはなく、秘密にされているもので、ついには知られ、明るみに出されないものはない。18 だから、どう聞くかに注意するがよい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っているものまでも、取り上げられるであろう」。

マルコによる福音書 4 章 21-25 節福音書対照表

4.23.2 問い

1. この箇所は、誰に語っているのでしょうか。前からの続きで、たとえについて語っているのでしょうか。それとも、独立のたとえなのでしょうか。
2. あかりのたとえが、弟子たちに語られているとすると、なにを伝えているのでしょうか。
3. 「隠されているもの」とはなにを指しているのでしょうか。
4. イエスは「聞くことがら」について、または「聞き方」についてどう教えていますか。
5. 最後のことばは、なにを弟子たちに、そして、わたしたちに教えていますか。
6. これらのことばは、聖書の他の箇所にもありますが、あなたは、どのようなことを学びますか。

4.23.3 参照

- マタイ 5:14-16 あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。15 また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである。16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。
- マタイ 10:26-28 だから彼らを恐れるな。おおわれたもので、現れてこないものはなく、隠れているもので、知られてこないものはない。27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを、明るみで言え。耳にささやかれたことを、屋根の上で言いひろめよ。28 また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。
- マタイ 7:1,2 人をさばくな。自分がさばかれないためである。2 あなたがたがさばくそのさばきで、自分

もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。

- マタイ 13:11,12 そこでイエスは答えて言われた、「あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。12 おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。
- マタイ 25:29 おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。
- ルカ 11:33 だれもあかりをともし、それを穴倉の中や桁の下に置くことはしない。むしろはいて来る人たちに、そのあかりが見えるように、燭台の上におく。
- ルカ 12:2 おおいかぶされたもので、現れてこないものはなく、隠れているもので、知られてこないものはない。
- ルカ 6:38 与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから」。
- ルカ 19:26 『あなたがたに言うが、おおよそ持っている人には、なお与えられ、持っていない人からは、持っているものまでも取り上げられるであろう。

21 K . *266 *267 *268 *269; ; 22
*270 *271 , , . 23 . 24 K
*272 . 25 , . ,
*273 , .

4.23.4 記録

- 日時：2023 年 9 月 14 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）4 名

*266 : whether, at all, perchance
*267 : a lamp, candle, that is placed on a stand or candlestick
*268 : a dry measure holding 16 sextarii (or 1/6 of the Attic medimnus), about a peck (9 litres)
*269 : i) a small bed, a couch, ii) a couch to recline on at meals, iii) a couch on which a sick man is carried
*270 : hidden, concealed, secret
*271 : to make manifest or visible or known what has been hidden or unknown, to manifest, whether by words, or deeds, or in any other way
*272 : i) measure, an instrument for measuring, ii) determined extent, portion measured off, measure or limit
*273 : i) to raise up, elevate, lift up, ii) to take upon one's self and carry what has been raised up, to bear, iii) to bear away what has been raised, carry off

4.23.5 問いについて

1. だれに語られているのか。

- マタイ、ルカともに、似た句が、他の文脈で語られている。
 - 21: マタイ 5:15 - (地の塩、) 世の光、ルカ 11:33 - 目は体の灯火
 - 22: マタイ 10:26 - 恐るべきもの、ルカ 12:2 - 偽善に気をつけさせる
 - 24: マタイ 7:2 - 人を裁くな、ルカ 6:38 - 人を裁くな
 - 25: マタイ 13:12 - たとえて話す理由、25:29 - タラントのたとえ、ルカ 19:26 - ミナのたとえ
- 4:2 「イエスは譬で多くの事を教えられたが、その教の中で彼らにこう言われた、」ともあり、まったく異なる、次のたとえを、挿入していると見ることも可能。
- しかし、ルカでは、他の文脈でも語られていても、ここでは、たとえに関連した箇所、マルコと似た記述がされている。すなわち、弟子たち向けにとることも可能。
- また、22 節については、弟子たちに、譬で語る理由を語っている中（マタイ 10:26）で語られている。これは、マタイでも唐突に感じられるが、このことばが、締めに使われている、今回の箇所は、やはり、弟子たちに向けて語られているとして理解することが自然であるように思われる。
- まずは、この文脈、特に、弟子たちに語られたとして理解し、他の文脈における意味は別途考えるのが良いように思われる。

2. あかりのたとえ

- 21b 「ますの下や寝台の下に置くために、あかりを持ってくることがあろうか。燭台の上に置くためではないか。22 なんでも、隠されているもので、現れないものはなく、秘密にされているもので、明るみに出ないものはない。23 聞く耳のある者は聞くがよい」
- イエスに直接説明してもらったことを、他の人にも知らせるようにということだろうか。

3. 隠されているもの

- 11 そこでイエスは言われた、「あなたがたには**神の国の奥義**が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。マタイ 13:10 天国の奥義、ルカ 8:10 神の国の奥義
- 実際に、サタンに取られてしまったり、枯れてしまったり、実を結ばなかったり、実を豊かに結ぶと言ったことか。

4. 「聞くことがら」「聞き方」

- 23 「聞く耳のある者は聞くがよい。」とあり、そのあとに、「また彼らに言われた、」があり、24 節 b に繋がっている。聞くことが鍵であることは、確かだろう。
- 24b 「聞くことがらに注意しなさい。あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられ、その上になお増し加えられるであろう。25 だれでも、持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう」
- ルカでは、どう聞くかに注意しなさい。
- 聞くことがらに注意しなさい。あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられ、その上になお増し加えられるであろう。

5. 最後のことば

- 25 だれでも、持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう
- 聞いて悟るかどうか大きな違いをもたらすということか。
- 「持っている」「持っている者」は、なにを意味するのだろうか。
- イエスに従うことが、大きな違いをもたらすということか。
- 実を結ぶことを指しているのか。

6. これらのことば

- ていねいに、聖書をよむことで、大きな祝福が得られるということだろうか。

4.23.6 メモ

- 4:13 また彼らに言われた、「あなたがたはこの譬がわからないのか。それでは、どうしてすべての譬がわかるだろうか。
— この句から考えると、種まきのたとえよりも、他のたとえは難しいのかもしれない。
- 「聞く耳のある者は聞くがよい」(23) と「聞くことがらに注意しなさい。」(24) とあり、聞いているだけでは、だめなようである。聞くことがらは、聞く内容という印象がおうけるが、それに続く「あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられ、その上になお増し加えられるであろう。」からすると、聞いたことをどう生きるかに深く関係しているようである。
- 謙虚でありたいとは願っているが、正直、聖書、特に、イエスについて学び、イエスにしたがって生きようとして得られる恵の大きさは、はかりしれないと感じている。他者から、学ぶことも通して。
- 隠されていることが、神の国の奥義であるなら、すべてを理解することはハナから無理なのかもしれない。しかし、すこしずつ受け取ったものをみなに語ると同時に、汲み尽くせないものであっても、すこしでも、深いものを受け取ろうと求め続けることには、大きな意味があるように思われる。

- 最後のことは、一般論として聞くと、不公平に聞こえるが、イエスと弟子たちの信頼関係の中で話されたのであれば、チャレンジとしては受け取れたとしても、不公平とは受け取らなかったかもしれないとも、考えられるのは、素晴らしいと思った。弟子たちに語られたとするのが自然のように思われる。
- 次もまた真実。マルコ 10:39-31 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、30 必ずその百倍を受ける。すなわち、今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。
- 21: マタイ 5:15 - (地の塩、) 世の光、ルカ 11:33 - 目は体の灯火
 - 神の子として生きるということだろうか。見、聞く、そうして得たものを生きることだろうか。
- 22: マタイ 10:26 - 恐るべきもの、ルカ 12:2 - 偽善に気をつけさせる
 - 奥にあるもの、真理を受け取らないといけないということか。
- 24: マタイ 7:2 - 人を裁くな、ルカ 6:38 - 人を裁くな
 - 神様は、ひとりひとりを愛しておられる。自分視点ではなく、他者視点、神の視点だろうか。
- 25: マタイ 13:12 - たとえて話す理由、25:29 - タラントのたとえ、ルカ 19:26 - ミナのたとえ
 - 違いが明らかになっていく原因があるようである。神様、主との関係だろうか。

4.24 4:26-29 「成長する種」のたとえ

4:26 また言われた、「神の国は、ある人が地に種をまくようなものである。27 夜昼、寝起きしている間に、種は芽を出して育って行くが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。28 地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。29 実がいと、すぐにかまを入れる。刈入れ時がきたからである」。

[マルコによる福音書 4 章 26-29 節福音書対照表](#)

4.25 4:30-32 「からし種」のたとえ

4:30 また言われた、「神の国を何に比べようか。また、どんな譬で言いあらわそうか。31 それは一粒のからし種のようなものである。地にまかれる時には、地上のどんな種よりも小さいが、32 まかれると、成長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が宿るほどになる」。

4.25.1 マタイ 13:31-32, 33

31 また、ほかの譬を彼らに示して言われた、「天国は、一粒のからし種のようなものである。ある人がそれをとって畑にまくと、32 それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きくなり、空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる」。33 またほかの譬を彼らに語られた、「天国は、パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。

4.25.2 ルカ 13:18-19, 20-21

18 そこで言われた、「神の国は何に似ているか。またそれを何にたとえようか。19 一粒のからし種のようなものである。ある人がそれを取って庭にまくと、育って木となり、空の鳥もその枝に宿るようになる」。20 また言われた、「神の国を何にたとえようか。21 パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。

[マルコによる福音書 4 章 30-32 節福音書対照表](#)

4.26 4:33-34 たとえを用いて語る

4:33 イエスはこのような多くの譬で、人々の聞く力にしたがって、御言を語られた。34 譬によらないでは語られなかったが、自分の弟子たちには、ひそかにすべてのことを解き明かされた。

4.26.1 マタイ 13:34-35

34 イエスはこれらのことをすべて、譬で群衆に語られた。譬によらないでは何事も彼らに語られなかった。35 これは預言者によって言われたことが、成就するためである、／「わたしは口を開いて譬を語り、／世の初めから隠されていることを語り出そう」。

[マルコによる福音書 4 章 33-34 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 4 章 26-34 節福音書対照表](#)

4.26.2 問い

1. 26-29 節のたとえからは、神の国についてどのようなことがわかりますか。
2. このたとえを通して、イエスはなにを教えているのでしょうか。
3. 30-32 節のたとえからは、神の国についてどのようなことがわかりますか。
4. このたとえを通して、イエスはなにを教えているのでしょうか。
5. 33 節では、たとえを用いて語ることについて、イエスはどのように語っていますか。

4.26.3 参照

- ・ かま（鎌）：ヨエル 3:13,14（訳によっては 4:13）かまを入れよ、作物は熟した。来て踏め、／酒ぶねは満ち、石がめはあふれている。彼らの悪が大きいからだ。14 群衆また群衆は、さばきの谷におる。主の日がさばきの谷に近いからである。（ツロとシドンへの裁きの預言の箇所）

- － かま（鎌）がさばきのときの道具として明示的に用いられるのは、引用句のみ。
- マルコ 4:26-29 はマタイ、ルカにはないが、マタイの対応する箇所マタイ 13:24-30 には「毒麦のたとえ」が挿入され、さらに、たとえを用いて語るのあとマタイ 13:36-43 に、「毒麦のたとえの説明」があり、さらに、マタイ 13:44-50 には「天の国のたとえ」が挿入され、最後にマタイ 13:51-52 には「天の国のことを学んだ学者」について書かれている。
- からし種
 - － マタイ 17:20 するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、**からし種**一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。
 - － ルカ 17:6 そこで主が言われた、「もし、**からし種**一粒ほどの信仰があるなら、この桑の木に、『抜け出して海に植われ』と言ったとしても、その言葉どおりになるであろう。
- 「大きな枝を張り、その陰に空の鳥が宿るほど」（マルコ）「野菜の中でいちばん大きくなり、空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる」（マタイ）「育って木となり」（ルカ）
 - － エゼキエル 17:22-24 主なる神はこう言われる、「わたしはまた香柏の高いこずえから小枝をとって、これを植え、その若芽の頂から柔らかい芽を摘みとり、これを高いすぐれた山に植える。23 わたしはイスラエルの高い山にこれを植える。これは枝を出し、実を結び、みごとな香柏となり、その下にもろもろの種類の獣が住み、その枝の陰に各種の鳥が巣をつくる。24 そして野のすべての木は、主なるわたしが高い木を低くし、低い木を高くし、緑の木を枯らし、枯れ木を緑にすることを知ることになる。主であるわたしはこれを語り、これをするのである」。
 - － エゼキエル 31:6 （エジプトに関して）その枝葉に空のすべての鳥が、巣をつくり、／その枝の下に野のすべての獣は子を生み、／その陰にもろもろの国民は住む。
 - － ダニエル 4:11 その木は成長して強くなり、天に達するほどの高さになって、地の果までも見えわたり、12 その葉は美しく、その実は豊かで、すべての者がその中から食物を獲、また野の獣はその陰にやどり、空の鳥はその枝にすみ、すべての肉なる者はこれによって養われた。（ネブカデネザルに対して）
- マタイ 13:51-53 あなたがたは、これらのことが皆わかったか」。彼らは「わかりました」と答えた。52 そこで、イエスは彼らに言われた、「それだから、天国のことを学んだ学者は、新しいものと古いものとを、その倉から取り出す一家の主人のようなものである」。53 イエスはこれらの譬を語り終えてから、そこを立ち去られた。（このあとに、「ナザレで受け入れられない」マタイ 13:53-58, マルコ 6:1-6, ルカ 4:16-30）
- マタイ 13:35b 「わたしは口を開いて譬を語り、／世の初めから隠されていることを語り出そう」。
 - － 詩篇 78:2 わたしは口を開いて、たとえを語り、／いにしえからの、なぞを語ろう。

- ・ コリントー 3:5-9 アポロは、いったい、何者か。また、パウロは何者か。あなたがたを信仰に導いた人にすぎない。しかもそれぞれ、主から与えられた分に応じて仕えているのである。6 わたしは植え、アポロは水をそそいだ。しかし成長させて下さるのは、神である。7 だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なのは、成長させて下さる神のみである。8 植える者と水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬を得るであろう。9 わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。

－ 神様が背後におられるかもしれないが、「成長する種」のたとえの中心は、「夜昼、寝起きしている間に、種は芽を出して育って行くが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。」という部分なのだろう。

26 K . 27 *274 *275 ,
 *276 *277 . 28 *278 , *279 *280 *281
 [] *282 . 29 , *283 *284 , *285 *286 .
 30 K . ; 31 *287 *288 ,
 , 32 , *289 ,
 .
 33 K . 34 , ,
 .

4.26.4 記録

- ・ 日時：2023 年 9 月 21 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

*274	(PAS-3S) : i) to fall asleep, drop off to sleep, ii) to sleep
*275	(PPS-3S): to arouse, cause to rise
*276	: i) to sprout, bud, put forth new leaves, ii) to produce
*277	: i) to make long, to lengthen, ii) in the Bible twice of plants, to cause to grow, increase
*278	: i) to bear fruit, ii) to bear, bring forth, deeds, iii) to bear fruit of one's self
*279	: i) the place where grass grows and animals graze, ii) grass, herbage, hay, provender
*280	: an ear of corn or of growing grain
*281	: i) full, i.e. filled up (as opposed to empty), ii) full, i.e. complete
*282	: wheat, grain
*283	: i) to order (one) to go to a place appointed, ii) to send away, dismiss
*284	: a sickle, a pruning-hook, a hooked vine knife, such as reapers and vinedressers use
*285	: i) to place beside or near, ii) to stand beside, stand by or near, to be at hand, be present
*286	: harvest, the act of reaping
*287	: a grain
*288	: mustard, the name of a plant which in oriental countries grows from a very small seed and attains to the height of a tree, 10 feet (3 m) and more; hence a very small quantity of a thing is likened to a mustard seed, and also a thing which grows to a remarkable size
*289	: ascend

4.26.5 問いについて

1. 26-29 神の国について

- 神の国は育っていく。
- どうして育つかは知らない、分からない。
- 順々に育ち、最後は実をならせ、収穫される。
- 「神の国」は「ある人が種を撒くようなもの」とはどのような意味だろうか。
- 「ある人」とは誰だろうか。一義的には、イエス、そして弟子たち？

2. なにを教えているのか

- 実際の成長のとは、努力などで得られるものではない。
- 神の国の成長に関わることが否定されているわけではない。
- 中心は、「どうして育つか知らない。」ということだろう。おそらく、イエスも、知らない。
- 最終目標がある。実を結び、収穫される。
- 御国を来たらせたまえ。

3. 30-32 神の国について

- 非常に小さい一粒のからし種のようなもの
- 非常に大きくなる

4. なにを教えているのか

- 最初はよくわからないほどのもの
- 大きな国になる
- 結局、**神の国**とは、何を意味しているのだろうか。

5. たとえを用いて語ること

- 聞く力にしがたって語られた。これは何を意味するのだろうか。
 - 最初から聞く人の多様性が認識されている。聞くときの状態も、様々かもしれない。イエスはそのことを実感していたかもしれない。

- 弟子たちにはすべてのことを解き明かした

— 弟子たちは理解できたのだろうか。(マタイ 13:51)

4.26.6 メモ

- 「26b 神の国は、ある人が地に種をまくようなものである。27 夜昼、寝起きしている間に、種は芽を出して育って行くが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。」種をまくのが一義的には、イエスだとすると、イエスも、知らないのだろう。実感なのかもしれない。全部わかる必要はないし、実際わからない。そのことを受け入れることも大切なのだろう。

- 「神の国」は何を意味するのだろうか。神の支配を意味すると言われる。では、それはどのようなことなのだろうか。そして、イエスはどのように理解していたのだろうか。神の支配をもうすこし噛み砕いてみると、神様の望むこと（御心）になる世界だろうか。すると、神様の御心を理解し、その御心を生きるひとたちで満たされた国だろうか、または、それを求めて、生きようとする世界だろうか。

— マタイ 6:10 **御国が来ますように。**／御心が行われますように／天におけるように地の上にも。

— ルカ 11: 2 こで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。／『父よ／御名が聖とされま
すように。／御国が来ますように。』

- マタイ 13:51 には「あなたがたは、これらのことが皆わかったか。彼らは「わかりました」と答えた。」とあるが、本当にわかったのだろうか。マルコの書き方「34 譬によらないでは語られなかったが、自分の弟子たちには、ひそかにすべてのことを解き明かされた。」は、ほんとうにわかったかどうかは、曖昧である。

- マルコ 8:14-21 ファリサイ派の人々とヘロデのパン種

— 8:17,18 イエスはそれと知って、彼らに言われた、「なぜ、パンがないからだと言っているのか。まだわからないのか、悟らないのか。あなたがたの心は鈍くなっているのか。18 目があっても見えないのか。耳があっても聞えないのか。また思い出さないのか。

— マタイ 16:5-12 に対照箇所があるが、そこでは、「イエスはそれと知って言われた、「信仰の薄い者たちよ、なぜパンがないからだと言っているのか。まだわからないのか。覚えていないのか。」と厳しさが和らいでいる。

- 四福音書にたとえば約 70、マルコには 18 のみ。

- 知識や知恵も、経験や努力も、大切ですが、本当に小さな部分、ほとんど、知りうることも知らない、なすことが可能なこともなさないのが、実際だと思っています。そして、知りえないこと、成しえないことが、ほとんど。神様の愛と恵みに信頼して、わたしたちは、「御国を来たらせ給え。／御心の天に成るごとく／地にもなさせ給え。」と祈ります。おそらく、神様も、どうしたら良いかわからないことばかりだと思います。Good Grief!（やれやれだぜ）と、叫びたいような、そして、はらわたが、傷つくような苦しさ

を持って、わたしたちを深く憐れまれることが多いのだと思いますが。

- 弟子たちの中での、御国、御心の理解の広がりも、この種のようなものなのかもしれない。知らずに、少しずつ。とても、小さいものから、大きなものに成長していく。そのようにも取れるのかもしれない。神の国を質的なものと取れば。

4.27 4:35-41 突風を静める

4:35 さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。36 そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。37 すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。38 ところが、イエス自身は、舳の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。39 イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。40 イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」。41 彼らは恐れおののいて、互に言った、「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。

4.27.1 マタイ 8:23-27

23 それから、イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも従った。24 すると突然、海上に激しい暴風が起って、舟は波にのまれそうになった。ところが、イエスは眠っておられた。25 そこで弟子たちはみそばに寄ってきてイエスを起し、「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」と言った。26 するとイエスは彼らに言われた、「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちよ」。それから起きあがって、風と海をおしかりになると、大なぎになった。27 彼らは驚いて言った、「このかたはどういう人なのだろう。風も海も従わせるとは」。

4.27.2 ルカ 8:22-25

22 ある日のこと、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われたので、一同が船出した。23 渡って行く間に、イエスは眠ってしまわれた。すると突風が湖に吹きおろしてきたので、彼らは水をかぶって危険になった。24 そこで、みそばに寄ってきてイエスを起し、「先生、先生、わたしたちは死にそうです」と言った。イエスは起き上がって、風と荒浪をおしかりになると、止んで大なぎになった。25 イエスは彼らに言われた、「あなたがたの信仰は、どこにあるのか」。彼らは恐れ驚いて互に言い合った、「いったい、このかたはだれだろう。お命じになると、風も水も従うとは」。

[マルコによる福音書 4 章 35-41 節福音書対照表](#)

4.27.3 問い

1. 舟に乗って弟子たちと出発したときの様子で、わかることを上げてみましょう。
2. 突風と、そのときのイエスの様子についてどのように書かれていますか。
3. 弟子たちは、どのように言って、イエスを起こしますか。弟子たちのこのときの気持ちを考えてみましょう。
4. イエスはこうされますか。
5. 弟子たちは、何に恐れおののき、何を学んだでしょうか。
6. イエスは、弟子たちに、何を期待していたのでしょうか。

4.27.4 参照

- 舟での移動に関する福音書の箇所：参照
- ガリラヤ湖周辺の地形：8 Cross Sectional Views of Longitudinal Zones, 9 Northern Coastal Plains, Jezreel Valley, Galilee, and Bashan (Bible Maps)
- ヘルモン山：Mount Hermon (Arabic: جبل الشيخ or جبل هار / ALA-LC: *Jabal al-Shaykh* (“Mountain of the Sheikh”) or *Jabal Haramun*; Hebrew: הר הרמון, *Har Hermon*, (2,236m (7,336ft)
- ガリラヤ湖：The Sea of Galilee (Hebrew: הַיָּם הַגָּלִילִי, Judeo-Aramaic: ܝܡܐ ܕܗܠܝܠ, Arabic: بحيرة طبريا, (also called **Lake Tiberias** or **Kinneret**, is a freshwater lake in Israel. It is the lowest freshwater lake on Earth and the second-lowest lake in the world (after the Dead Sea, a salt lake), at levels between 215 metres (705 ft) and 209 metres (686 ft) below sea level. It is approximately 53 km (33 mi) in circumference, about 21 km (13 mi) long, and 13 km (8.1 mi) wide. Its area is 166.7 km² (64.4 sq mi) at its fullest, and its maximum depth is approximately 43 metres (141 ft). The lake is fed partly by underground springs, but its main source is the Jordan River, which flows through it from north to south and exits the lake at the Degania Dam.
- マルコ 1:25 イエスはこれをしかって、「黙れ (Φ : APM-2S)、この人から出て行け」と言われた。
- ヘブル 2:14,15 このように、子たちは血と肉とに共にあずかっているのです、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、15 死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを、解き放つためである。

35 K . 36 ,
, 37 , 38

・ ; 39
・ *290 , *291 . 40 ;
; 41 ;

4.27.5 記録

- ・ 日時：2023 年 9 月 28 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）5 名、参加（遠隔）4 名

4.27.6 問いについて

1. 出発したときの様子

- ・ 「その日」とあり、たとえを語ったときから、続いているように書かれている。マタイも「それから」
と書き出しているが、ルカは「ある日のこと」
- ・ マルコには、「夕方になると」とあり、日暮れが近い。もしかすると、嵐は夜起こったかもしれない。
(5 章 1 節－ 20 節の記事参照)
- ・ イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。ルカも、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、
「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われた。と記している。イエスから言い出していることも記憶に留める
べき。
- ・ 群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。
 - － 4:1 イエスはまたも、海べで教えはじめられた。おびたしい群衆がみもとに集まったので、イ
エスは舟に乗ってすわったまま、海上におられ、群衆はみな海に沿って陸地にいた。
- ・ 5:1 こうして彼らは海の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。
 - － この記事が、すべて、夕方以降に起こったとは考えられない。夜、移動している記事もある。(マ
ルコ 6:45-52, マタイ 14:22-27、ヨハネ 6:16-21（五千人給食の前後）)
- ・ 他の舟も一緒に行った。一緒に行動した人たちはどんな人達だったろうか。

2. 突風と、その時のイエスの様子

- ・ 37 すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。38a ところ
が、イエス自身は、舳（とも、艫と同じ：舟の後端部）の方でまくらをして、眠っておられた。

*290 : i) to be silent, hold one's peace, ii) metaph. of a calm, quiet sea

*291 : i) to close the mouth with a muzzle, to muzzle, ii) metaph., iii) to be kept in check

- イエスは、舟の一番うしろのお客さん席で眠っていた。(夕方の船出でもあり、夕刻で、疲れていたのだろう。「その日の夕方になると」(1))
- 激しい突風で、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。

3. 弟子たちは

- 38b そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。
- マタイ：25 そこで弟子たちはみそばに寄ってきてイエスを起し、「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」と言った。
- ルカ：24 そこで、みそばに寄ってきてイエスを起し、「先生、先生、わたしたちは死にそうです」と言った。
- マルコの厳しい責めるようなことばが、緩和されている。しかし、マルコからは、イエスはおそらく、溺れ死ぬことがない、または、大変だとは思っていないという、ある信頼も表現されている。
- この弟子たちを、漁師のペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネと取る解釈が多いが、他にも乗っていたことを考えると、漁師は、必死で、突風や嵐と、向き合っていたと思われるので、パニックに陥るのは、漁師ではなく、他の弟子たち、または、イエスの「そばにいる」としてついてきた人たちだったと考えたほうが自然。

4. イエスの対応

- 39 イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。40 イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」。
- 奇跡とも言えるし、滑稽とも言える。神様への信仰の表明なのだろうか。少なくとも、これからは、すぐに、ピタッと、激しい突風が止んだかどうかは不明である。しかし、いつしか、風はやみ、大なぎになり、まったく心配しなくて良い状態になったのだろう。「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」までは、少し、時間があったかもしれない。
- このようにされれば、超自然的な力が示されたと思わされる方が自然かもしれない。イエスは、それを伝えよとはしていないとも思えるが。

5. 何に恐れおののき、何を学んだか。

- 41 彼らは恐れおののいて、互に言った、「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。
- マタイ：27 彼らは驚いて言った、「このかたはどういう人なのだろう。風も海も従わせるとは」。

- ・ ルカ：彼らは恐れ驚いて互に言い合った、「いったい、このかたはだれだろう。お命じになると、風も水も従うとは」。
- ・ イエスは、風も、海も従わせる、すごいお方だ。神のようなお方だ。神の子だ。
- ・ マタイも、ルカも、似た言葉で表現しているところを見ると、それが弟子たちが受け取ったことなのだろう。そのほうが、簡単である。

6. イエスの期待。

- ・ 「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」に、結論が至っているが、それは、おそらく、誤りで、信仰のなさを嘆いたのではないだろうか。そうでなければ、イエスのことばを受け取ったとは言えない。少なくとも、イエスの狙いは、イエスに、風も波も従わせる力があることを信じさせることではなかったと思われる。
- ・ 「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」ここから、受け取れるのは、しっかりと神様に信頼することである。
- ・ 弟子たちの解釈は、イエスを、天に、神のところにまで、引き上げている。しかし、イエスが伝えたかったのは、地上で、イエスのように、神を信頼することではなかったのか。

4.27.7 メモ

- ・ マタイによる福音書では、マタイを招くのは、9:9-13。この記事は、8:23-27 なので、マタイは現場にいなかったのかもしれない。ただ、種まきのたとえの解き明かしには、十二人とあり、十二使徒を意味するとすると、マルコの流れのほうが正しいかもしれない。するとマタイは同乗組か。
- ・ マルコだけ「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。(38b)と、批判的。マタイ「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」ルカ「先生、先生、わたしたちは死にそうです」
- ・ 一緒に行動した人たちはどんな人達だったろうか。通常は、漁師 4 人が少なくとも二艘の舟に分乗していたとされる。しかし、もし、種まきのたとえから続いているとすると、十二弟子以外にも、そばにいたひとたちがいたことに成る。女性もいたかもしれない。ルカによる福音書 5 章 6 節では、おびただしい魚がかかり、網がやぶれそうになったとある。St. Peter's Fish は、大きなものでは、40cm 以上、重さ 1.5kg 以上とされることを考えると、釣り竿で釣る小さな船ではなく、ある程度大きかった可能性もある。すなわち、一艘に、10 人以上乗っていた可能性もある^{*292}。簡単には沈まないはずで、漁師はそのことも知っ

^{*292} 9m カッター：現在、上記の訓練等で使用されているほとんどのカッターは 9m カッターであり、全長 9m、全幅 2.45m、深さ 0.83m、排水量 1.5 トン、定員 45 名（実質は漕ぎ手 12 名と艇指揮 1 名、艇長 1 名の 14 名で運用する）の手漕ぎの船である。

通常、艇長が舵をとり、艇指揮がかける号令の下、12 名の漕ぎ手がそれぞれオールを使い、息を合わせて 12 本のオールで漕ぐ。全国大会で使われるのもこの 9m カッターである。

漕ぎ手にはそれぞれ番号が付与されており、右舷は艇首から順に 1 番 3 番 5 番 7 番 9 番 11 番、左舷は同じく 2 番 4 番 6 番 8 番 10

ていたはず。しかし、慣れていないものには、とても恐ろしい。特に、舟の中に、水が入ってくると、パニックになる人が出てくるのは十分理解できる。すなわち、漁師でさえこわがって、訴えたのではなく、漁師が乗り切ろうとして、いつも通り必死に漕艇していても、恐怖からイエスに訴えた人たちがいて、それにイエスが対応したということだろう。それなら、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」もまた、べつの雰囲気から伝わってくる。

- 最終的なメッセージは何なのかであるが、教師は、生徒にはなかなかメッセージが伝わらないことを、常に経験している。これも、イエスが伝えたかったことと、弟子たちがうけとったことに食い違いがあると考えても、問題ではないように思う。そして、特に、ペトロは、語るときに、その両面、イエスのことばと、弟子たちの驚きを伝えたのではないだろうか。その場にいたゆえに、現実の複雑さ、微妙さを伝えていえる。
- Jesus in action! のマルコによる福音書の特徴がよく現れている。ペテロの素朴な表現も。

5:1-20 悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やす

1 こうして彼らは海の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。2 それから、イエスが舟からあがられるとすぐに、けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、イエスに出会った。3 この人は墓場をすみかとしており、もはやだれも、鎖でさえも彼をつなぎとめて置けなかった。4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせを砕くので、だれも彼を押えつけることができなかったからである。5 そして、夜昼たえまなく墓場や山で叫びつづけて、石で自分のからだを傷つけていた。6 ところが、この人がイエスを遠くから見て、走り寄って拝し、7 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。8 それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。9 また彼に、「なんという名前か」と尋ねられると、「レギオンと言います。大ぜいなのですから」と答えた。10 そして、自分たちをこの土地から追い出さないようにと、しきりに願いつづけた。11 さて、そこの山の中腹に、豚の大群が飼ってあった。12 霊はイエスに願って言った、「わたしどもを、豚にはいらしてください。その中へ送ってください」。13 イエスがお許しになったので、けがれた霊どもは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れは二千匹ばかりであったが、がけから海へなだれを打って駆け下り、海の中でおぼれ死んでしまった。14 豚を飼う者たちが逃げ出して、町や村にふれまわったので、人々は何事があったのかと見にきた。15 そして、イエスのところにきて、悪霊につかれた人が着物を着て、正気になってすわっており、それがレギオンを宿していた者であるのを見て、恐れた。16 また、それを見た人たちは、悪霊につかれた人の身に起った事と豚のことを、彼らに話して聞かせた。17 そこで、人々はイエスに、この地方から出て行っていただきたいと、頼みはじめた。18 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供をしたいと願い出た。19 しかし、イエスはお許しにならないで、彼に言われた、「あなた

番 12 番である。

オールには、4.3m の長さのものと、4.2m の長さのものがあり、後者は 1 番 2 番 11 番 12 番のみが使用する。木製オールと、FRP 製オールがあるが、FRP 製が主流になってきている。

の家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい」。20 そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださったことを、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。

4.27.8 マタイ 8:28-34

28 それから、向こう岸、ガダラ人の地に着かれると、悪霊につかれたふたりの者が、墓場から出てきてイエスに出会った。彼らは手に負えない乱暴者で、だれもその辺の道を通ることができないほどであった。29 すると突然、彼らは叫んで言った、「神の子よ、あなたはわたしどもとなんの係わりがあるのです。まだその時ではないのに、ここにきて、わたしどもを苦しめるのですか」。30 さて、そこからはるか離れた所に、おびただしい豚の群れが飼ってあった。31 悪霊どもはイエスに願って言った、「もしわたしどもを追い出されるのなら、あの豚の群れの中につかわして下さい」。32 そこで、イエスが「行け」と言われると、彼らは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れ全体が、がけから海へなだれを打って駆け下り、水の中で死んでしまった。33 飼う者たちは逃げて町に行き、悪霊につかれた者たちのことなど、いっさいを知らせた。34 すると、町中の者がイエスに会いに出てきた。そして、イエスに会うと、この地方から去ってくださるようにと頼んだ。

4.27.9 ルカ 8:26-39

26 それから、彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の地に渡った。27 陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。28 この人がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いします、わたしを苦しめないでください」。29 それは、イエスが汚れた霊に、その人から出て行け、とお命じになったからである。というのは、悪霊が何度も彼をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとでつながれて看視されていたが、それを断ち切っては悪霊によって荒野へ追いやられていたのである。30 イエスは彼に「なんという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言います」と答えた。彼の中にたくさんの悪霊がはいり込んでいたからである。31 悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。32 ところが、その山べにおびただしい豚の群れが飼ってあったので、その豚の中へはいることを許していただきたいと、悪霊どもが願い出た。イエスはそれをお許しになった。33 そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。34 飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。35 人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。36 それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。37 それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようにとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。38 悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、しきりに願ったが、イエスはこう言って彼

をお帰しになった。39 「家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。

マルコによる福音書 5 章 1-20 節福音書対照表

4.28 5:1-10 悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やす（1）

1 こうして彼らは海の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。2 それから、イエスが舟からあがられるとすぐに、けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、イエスに出会った。3 この人は墓場をすみかとしており、もはやだれも、鎖でさえも彼をつなぎとめて置けなかった。4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせを砕くので、だれも彼を押えつけることができなかったからである。5 そして、夜昼たえまなく墓場や山で叫びつづけて、石で自分のからだを傷つけていた。6 ところが、この人がイエスを遠くから見て、走り寄って拝し、7 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。8 それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。9 また彼に、「なんという名前か」と尋ねられると、「レギオンと言います。大ぜいなのですから」と答えた。10 そして、自分たちをこの土地から追い出さないようにと、しきりに願いつづけた。

4.28.1 マタイ 8:28-29

28 それから、向こう岸、ガダラ人の地に着かれると、悪霊につかれたふたりの者が、墓場から出てきてイエスに出会った。彼らは手に負えない乱暴者で、だれもその辺の道を通ることができないほどであった。29 すると突然、彼らは叫んで言った、「神の子よ、あなたはわたしどもとなんの係わりがあるのです。まだその時ではないのに、ここにきて、わたしどもを苦しめるのですか」。

4.28.2 ルカ 8:26-31

26 それから、彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の地に渡った。27 陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。28 この人がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いします、わたしを苦しめないでください」。29 それは、イエスが汚れた霊に、その人から出て行け、とお命じになったからである。というのは、悪霊が何度も彼をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとでつながれて看視されていたが、それを断ち切っては悪霊によって荒野へ追いやられていたのである。30 イエスは彼に「なんという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言います」と答えた。彼の中にたくさんの悪霊がはいり込んでいたからである。31 悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。

マルコによる福音書 5 章 1-10 節福音書対照表

4.28.3 問い

1. イエスたちは、どのような時に、どのような経験を経て、ゲラサ人の地につきますか。
2. どのような人と出会いますか。この人について、わかることを、あげてみましょう。(2-5)
3. イエスを見ると、この人は、どのように行動しますか。その時の様子は、どのように描かれていますか。(6-8)
4. イエスは、なぜ、名前を聞かれたのでしょうか。(9)
5. このひと、または、悪霊の、どのような願いが描かれていますか。(10)
6. この人は、この時点で、どのような状態にあるのでしょうか。また、イエスは、どのように、この人を見ているのでしょうか。

4.28.4 参照

- 地図：イエスの時代のガリラヤ ([107 Galilee in the time of Jesus](#))
- 地図：ガリラヤでのイエスの宣教とエルサレムへの旅 ([107a Jesus' Ministry in Galilee and Journey to Jerusalem](#))
- 地図：ガリラヤ湖周辺 ([108 The Ministry of Jesus Around the Sea of Galilee](#))
- Google Map：[ティベリアス湖](#)
- ゲラサ (Gergesa)：[Wikipedia](#)
 - Gergesa, also Gergasa (Γ in Byzantine greek) or the Country of the Gergesenes, is a place on the eastern (Golan Heights) side of the Sea of Galilee located at some distance to the ancient Decapolis cities of Gadara and Gerasa. Today, it is identified with El-Koursi or Kursi. It is mentioned in some ancient manuscripts of the Gospel of Matthew as the place where the Miracle of the Swine took place, a miracle performed by Jesus who drove demons out of a possessed man and into a herd of pigs. All three Synoptic Gospels mention this miracle, Matthew writes about two possessed men instead of just one, and only some manuscripts of his Gospel name the location as Gergesa, while the other copies, as well as all versions of Luke and Mark, mention either Gadara or Gerasa (see Mark 5:1-20, Luke 8:26-39, Matthew 8:28-34). The “Gerasa” reading is problematic, because Gerasa is neither near a sea nor does it border Galilee. Some are of the opinion that Gergesa was the country of the ancient Gergashites; but it is more probable that ‘Gergesenes’ was introduced by Origen upon mere conjecture; as before him most copies seem to have read ‘Gadarenes’, agreeable to the parallel passages and the ancient Syriac version. In any event, the “country of the Gergesenes/Gadarenes/Gerasenes” in the New Testament Gospels refers to some location on the eastern shore of the Sea of Galilee. The name

is derived from either a lakeside village, Gergesa, the next larger city, Gadara, or the best-known city in the region, Gerasa. It is likely that the “Gerasa” reading is erroneous and a copyist error for “Gergesa,” since only the latter place is bordering a lake while Gerasa is very far away from a lake.

- ゲルゲサ（ビザンチン・ギリシア語で Γ ）またはゲルゲセン人の国とも呼ばれるゲルゲサは、ガリラヤ海の東側（ゴラン高原）にある地名で、古代デカポリスの都市ガダラとゲラサから少し離れたところに位置している。今日では、エル・クルシまたはクルシと同定されている。マタイによる福音書のいくつかの古写本には、「豚の奇跡」が起こった場所として言及されている。3つの共観福音書すべてがこの奇跡に言及しているが、マタイは一人ではなく二人の取り憑かれた男について書いており、彼の福音書の一部の写本だけがその場所をゲルゲサと呼んでいる。なぜなら、ゲラサは海の近くでもなければ、ガリラヤとの境界でもないからである。

ゲルゲサは古代のギルガシ人の国であったという説もあるが、オリゲンが単なる推測に基づいて「ゲルゲセネス」を導入した可能性が高い。オリゲン以前は、ほとんどの書物が「ガダレネス」と読んでいたようであり、並行箇所や古代のシリア語版と一致している。いずれにせよ、新約聖書の福音書に登場する「ゲルゲセネス／ガダレネス／ゲラセネスの国」とは、ガリラヤ海東岸のある場所を指している。この名前は、湖畔の村ゲルゲサ、次に大きな都市ガダラ、またはこの地域で最もよく知られた都市ゲラサのいずれかに由来する。ゲラサは「ゲルゲサ」の誤りであり、「ゲルゲサ」のコピーミスである可能性が高い。

- Byzantine Christian monks venerated a site situated a few kilometres north of Hippos on the lake shore, as the location of the miracle. It is the only place fitting Matthew’s description, since it contains the only “steep bank” in the area descending all the way to the shore of the lake. The site became apparently known since at least the Early Muslim period as Kursya, the Aramaic word for “chair”, and later as Kursi, a word with the same meaning in Arabic. The monks built a walled monastic complex there and made it a destination for Christian pilgrims. That monastery was destroyed by Sassanid Persian armies in 614 CE, partially rebuilt, and finally levelled by the 749 Galilee earthquake. The remains of the monastery can be visited in the Kursi National Park. Christian artifacts from Kursi can be viewed at the Golan Archaeological Museum.
- ビザンチン・キリスト教の修道士たちは、ヒッポスから数キロ北の湖畔にある場所を奇跡の場所としてたいせつにした。マタイの記述に合致する、この地域唯一の「険しい土手」が湖岸まで続いているからである。この場所は、少なくとも初期イスラム時代から、アラム語で「椅子」を意味するクルシヤとして知られるようになり、後にはアラビア語で同じ意味のクルシとして知られるようになったようだ。修道士たちはそこに城壁に囲まれた修道院を建て、キリスト教の巡礼地とした。その修道院は、614年にサーサーン朝ペルシャ軍によって破壊され、部分的に再建された後、749年のガリラヤ地震で壊滅した。修道院跡はクルシ国立公園の一部になっており、見学できる。また、クルシから出土したキリスト教の遺物は、ゴラン考古学博物館で見ることができる。

- レギオン legion ([Wikipedia](#)), Roman Legion ([Wikipedia](#))

- Legion means a large group or in another parlance it may mean “many”. In the Christian Bible, it is used to refer to the group of demons, particularly those in two of three versions of the

exorcism of the Gerasene demoniac, an account in the New Testament of an incident in which Jesus performs an exorcism.

- レギオン (Legion) とは、大集団を意味し、別の言い方をすれば「多数」を意味することもある。キリスト教聖書では、特に新約聖書の中でイエスが悪魔祓いを行った出来事である「ゲラセナの悪魔祓い」の 3 つのうち 2 つのバージョンに登場する悪魔の集団を指すのに使われる。
- The Roman legion (Latin: *legiō*, [*lio*]), the largest military unit of the Roman army, comprised 4,200 infantry and 300 equites (cavalry) in the period of the Roman Republic (509 BC–27 BC) and 5,600 infantry and 200 auxilia in the period of the Roman Empire (27 BC – AD 476).
- ローマ軍最大の部隊であるレギオン (ラテン語: *legiō*, [*&*]) は、ローマ共和国時代 (紀元前 509 年～紀元前 27 年) には歩兵 4,200 人と騎兵 300 人、ローマ帝国時代 (紀元前 27 年～紀元後 476 年) には歩兵 5,600 人と補助兵 200 人で構成されていた。
- 悪霊について：[参照](#)
- 悪霊・汚れた霊を追い出すエピソード：[参照](#)

4.28.5 記録

- 日時：2023 年 10 月 5 日午後 7 時半～9 時半
- 出席 (対面) 6 名、参加 (遠隔) 4 名

4.28.6 問いについて

1. 背景

- 1 こうして彼らは海の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。
- この旅の最初は、イエスが向こう岸に行こうと言われて始まった。：4:35 さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。
- 夜移動して、到着したと思われる。どこかで、休んだ可能性はある。
- ゲラサ人の地とあるが、マタイではガダラ人の地とある。(地図参照)
- デカポリス地方で、さまざまな人たちが住んでいた。ユダヤ人が汚れた動物とする豚を飼っていたことから、非ユダヤ人が住んでいる地域と思われる。そこに、イエスはわざわざ行ったことになる。

2. 悪霊に憑かれた人について (2-5)

- 2 それから、イエスが舟からあがられるとすぐに、けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、イエスに出会った。3 この人は墓場をすみかとしており、もはやだれも、鎖でさえも彼をつなぎとめて置けなかった。4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせを砕くので、だ

れも彼を押えつけることができなかったからである。5 そして、夜昼たえまなく墓場や山で叫びつづけて、石で自分のからだを傷つけていた。

- 最終目的には、この汚れた霊につかれたひとの住む、墓場だったのだろう。石灰岩質の崖もあり、侵食されて穴が空いているため、墓に使われていたとされる。雨露や風を凌ぐには、良い場所だったかもしれない。
- 墓場をすみかとし、鎖で繋ぎ止めることもできない。人々は、押さえつけようとしていたがそれもできない。

ー マタイはふたりとあり「28 それから、向こう岸、ガダラ人の地に着かれると、悪霊につかれたふたりの者が、墓場から出てきてイエスに出会った。彼らは手に負えない乱暴者で、だれもその辺の道を通ることができないほどであった。」手に追えない乱暴者とも書かれている。

ー ルカには、「27 陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。」通常の社会には住めないひと。

3. この人の行動 (6-8)

- 6 ところが、この人がイエスを遠くから見て、走り寄って拝し、7 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。8 それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。

ー イエスがまず「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われている。

ー 「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。と叫んでいる。

ー このようなひとの存在の情報をイエスは、知って、きた可能性がある。このひともしイエスが来ることを知っていたかもしれない。家族が願った可能性もある。

4. 名前

- この人を理解しようとしているとも取れるし、この人が、自分をどのように理解しているかを問うているようにも見える。ある関係を結ぼうとしているようにも見える。
- 「あなたのことを教えてください」「あなたの苦しみは何ですか」
- 単に、悪霊に憑かれた、迷惑な、乱暴者ではない。
- レギオン：6000 人の部隊。ユダヤに数部隊。

5. このひと、悪霊の願い (9)

- 10 そして、自分たちをこの土地から追い出さないようにと、しきりに願いつづけた。

- 自分たちと言っているのも、悪霊たち（レギオン）がはなしていることが想定しているようにとれる。
- 過去が、すべて否定されるような、自分の存在自身が失われるのではないかと不安があるように見える。

6. このひとの状態、イエスの視点

- 悪霊は追い出されているのだろうか。おそらく、まだ追い出されてはいない。または、完全に正気にはなっていない。
- 少しずつ、自分の状態、なにを望んでいるかが、分裂気味ではあっても、認識し始めている。
- 8 それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。から見ると、汚れた霊を追い出そうとされているが、一瞬にして、問題が解決したわけではないように見える。相手のことを理解しようとしている。愛そうとしている。
- 歴史的には、奇跡シリーズ、波も風も従わせる、悪霊の大部隊も従わせる、死人を蘇らせるのひとつと捉えられている。しかし、かなり詳しく書かれている、マルコの記事から、実際に起こったことを、丁寧にみていくことは意味があると思われる。

4.28.7 メモ

- 奇跡の一つとすることは、自分の世界とは切り離すことでもあり、自分に引き寄せて考えることをやめ、思考停止にさせる。丁寧に、紡いでいくこと、当時の人が、あることばで表現する背後には、どのようなことがあったのかを、丁寧に見、考えていくことで、そこで起こったこと、イエスがたいせつにしたことが少しずつ見えてくるように思う。それによって、はじめて、イエスに従っていくことができるようになる。
- 「8 それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。」は後置になっており、不自然ということで、これは、汚れた霊が、このように受け取ったという意味に取ることもできるとの発言もあった。イエスが、どのような気持ちで、予定してきたと思われるこの地で、このひとと対し、交流を持とうとしたか、もうすこし、深く考えられると良い。マタイでは「31 悪霊どもはイエスに願って言った、『もしわたしどもを追い出されるのなら、あの豚の群れの中につかわして下さい。』」と書いていることも、多少、それを支持しているように見える。
- 悪霊は、神様の働きを邪魔するものと考えられていたことからしても、このひとの状態は、「神の国が近い」とは言い難い状態であることは確かである。そのいみでも、イエスにとって、このことと向き合うことは重要だったのだろう。少なくとも、イエスは、ずっとこのひとのことを考えていただろう。その苦しみ、痛みをも含めて。嵐の中で、イエスはなにを考えていただろうか。悪魔の働きを打ち破ることだろうか。このひとの痛みを受け取ることだろうか。
- [精神病院における身体拘束を考える、精神科病院の身体拘束、諸外国の数百倍 「異様に多い」、Restraint more prevalent at psychiatric centers in Japan、精神科医療の隔離・身体拘束](#)

4.29 5:11-20 悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やす（2）

11 さて、その山の中腹に、豚の大群が飼ってあった。12 霊はイエスに願って言った、「わたしどもを、豚にはいらしてください。その中へ送ってください」。13 イエスがお許しになったので、けがれた霊どもは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れは二千匹ばかりであったが、がけから海へなだれを打って駆け下り、海の中でおぼれ死んでしまった。14 豚を飼う者たちが逃げ出して、町や村にふれまわったので、人々は何事が起ったのかと見にきた。15 そして、イエスのところにきて、悪霊につかれた人が着物を着て、正気になってすわっており、それがレギオンを宿していた者であるのを見て、恐れた。16 また、それを見た人たちは、悪霊につかれた人の身に起った事と豚のことを、彼らに話して聞かせた。17 そこで、人々はイエスに、この地方から出て行っていただきたいと、頼みはじめた。18 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供をしたいと願い出た。19 しかし、イエスはお許しにならないで、彼に言われた、「あなたの家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい」。20 そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださったことを、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。

4.29.1 マタイ 8:30-34

30 さて、そこからはるか離れた所に、おびたしい豚の群れが飼ってあった。31 悪霊どもはイエスに願って言った、「もしわたしどもを追い出されるのなら、あの豚の群れの中につかわして下さい」。32 そこで、イエスが「行け」と言われると、彼らは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れ全体が、がけから海へなだれを打って駆け下り、水の中で死んでしまった。33 飼う者たちは逃げて町に行き、悪霊につかれた者たちのことなど、いっさいを知らせた。34 すると、町中の者がイエスに会いに出てきた。そして、イエスに会うと、この地方から去ってくださるようにと頼んだ。

4.29.2 ルカ 8:32-39

32 ところが、その山べにおびたしい豚の群れが飼ってあったので、その豚の中へはいることを許していただきたいと、悪霊どもが願い出た。イエスはそれをお許しになった。33 そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。34 飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。35 人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。36 それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。37 それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようにとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。38 悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、

しきりに願ったが、イエスはこう言って彼をお帰しになった。39 「家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。

マルコによる福音書 5 章 11-20 節福音書対照表

4.29.3 問い

1. 1 節から 10 節を復習しましょう。どのようなことが起きていますか。
2. 汚れた霊どもは、何を願い、どうなりますか。(11-13)
3. 悪霊につかれた人にどんな変化が起こっていますか。(15)
4. 人々はどんな反応をしますか。それはなぜでしょうか。(14-17)
5. 悪霊にとりつかれていた人は何を望みますか。イエスはどのように答えますか。それは、なぜでしょうか。(18,19)
6. この人はどうしますか。人々はどのような反応をしますか。(20)
7. イエスがたいせつにしたこと、このことをとおして、示していることは何なのでしょうか。

4.29.4 参照

- ・ 地図：イエスの時代のガリラヤ ([107 Galilee in the time of Jesus](#))
- ・ 地図：ガリラヤでのイエスの宣教とエルサレムへの旅 ([107a Jesus' Ministry in Galilee and Journey to Jerusalem](#))
- ・ 豚について：レビ記 11:7 豚、これは、ひずめが分かれており、ひずめが全く切れているけれども、反芻することをしないから、あなたがたには汚れたものである。
- ・ デカポリス (20)：23 イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。24 そこで、その評判はシリア全地にひろまり、人々があらゆる病にかかっている者、すなわち、いろいろの病気と苦しみとに悩んでいる者、悪霊につかれている者、てんかん、中風の者などをイエスのところに連れてきたので、これらの人々をおいやしになった。25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの向こうから、おびただしい群衆がきてイエスに従った。
- ・ 家：「あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。(マルコ 2:11) (マタイ 9:6,7, ルカ 5:24,25 参照)「そこでイエスは、「村にはいつてはいけない」と言って、彼を家に帰された。」(マルコ 8:26)

4.29.5 記録

- 日時：2023 年 10 月 12 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）7 名、参加（遠隔）5 名

4.29.6 問いについて

1. 復習（1-10）

- イエスは、悪霊につかれたひとと、対話をしている。
- レギオン（悪霊たち）は、自分たちを追い出さないように願い続けた。
- 悪霊につかれたひとの変化は少し見えるが、正気になっているわけではない。

2. 汚れた霊どもの願い（11-13）

- 11 さて、その山の中腹に、豚の大群が飼ってあった。12 霊はイエスに願って言った、「わたしどもを、豚にはいらしてください。その中へ送ってください」
- 13 イエスがお許しになったので、けがれた霊どもは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れは二千匹ばかりであったが、がけから海へなだれを打って駆け下り、海の中でおぼれ死んでしまった。
- なにが起こったのだと思いますか。
- イエスは、何をお許しになったのでしょうか。

3. 悪霊につかれた人の変化（15）

- 15 そして、イエスのところにきて、悪霊につかれた人が着物を着て、正気になってすわっており、それがレギオンを宿していた者であるのを見て、恐れた。
- どのような状態から、どのような状態に変化したかを確認。
- ルカ 8:27「長い間着物も着ず」とある。そこからの変化。
- 「正気になって」が「5 そして、夜昼たえまなく墓場や山で叫びつづけて、石で自分のからだを傷つけていた。」に対応している。
- 「すわっている」が「マルコ 5:3 この人は墓場をすみかとしており、もはやだれも、鎖でさえも彼をつなぎとめて置けなかった。4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせを碎くので、だれも彼を押えつけることができなかったからである。」に対応している。

- 「家に居つかないで」(27)「あなたの家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい」。(19)

4. 人々の反応 (14-17)

- 14 豚を飼う者たちが逃げ出して、町や村にふれまわったので、人々は何事があったのかと見にきた。15 そして、イエスのところにきて、悪霊につかれた人が着物を着て、正気になってすわっており、それがレギオンを宿していた者であるのを見て、恐れた。16 また、それを見た人たちは、悪霊につかれた人の身に起った事と豚のことを、彼らに話して聞かせた。17 そこで、人々はイエスに、この地方から出て行っていただきたいと、頼みはじめた。
- なぜ、豚を飼うものたちは逃げ出したのでしょうか。
- 何を人々は恐れたのでしょうか。
- なぜ、出て行っていただきたいと頼みはじめたのでしょうか。

5. 悪霊に取りつかれていた人の希望。イエスの応答。(18,19)

- 18 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供をしたいと願い出た。19 しかし、イエスはお許しにならないで、彼に言われた、「あなたの家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい」。
- なぜ、お供をしたいと願ったのでしょうか。
- なぜ、イエスはそれを許されなかったのでしょうか。
- なぜ、「家族のもとに帰り、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい」と言ったのでしょうか。

6. このひとの応答。人々の反応。(20)

- 20 そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださったことを、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。
- イエスの言いつけを守ったのだろうか。
- 人々の驚き怪しむとはどのような状態を表現しているのだろうか。
- デカポリスの人たちは、信仰をもったのだろうか。おそらく難しいのだろう。

7. イエスがたいせつにしたこと。

- いろいろな見方があるだろう。さまざまな受け取り方をたいせつに。

4.29.7 メモ

- このひとをたいせつにしたことは確かだろう。同時に、このひとの存在のために、苦しんでいたと思われる、家族や、街の人にも、そして、その地方のひとにも、おおきなインパクトを与えたと思われる。なにを、どう受け取るかは、個人によって、おそらく、異なるのだろう。それは、オープンにされている。
- 「11 さて、そこの山の中腹に、豚の大群が飼ってあった。12 霊はイエスに願って言った、「わたしどもを、豚にはいらしてください。その中へ送ってください」。13 イエスがお許しになったので、けがれた霊どもは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れは二千匹ばかりであったが、がけから海へなだれを打って駆け下り、海の中でおぼれ死んでしまった。」の部分の解釈は、難しい。しかし、語られた事実と、事実は区別して考えるべきではある。このようなことは、どのような場合に起こるかを考えてみると、実際に、多数の豚が、何らかの拍子で、崖から海へ雪崩をうって駆け下り、海の中で溺れ死んでしまった。ことがあるのだろう。これは、弟子たちも、確認できたはずである。霊がイエスに願った部分は、傍で見ているとそうだとわかったと理解することも可能だが、イエスが、弟子たちに説明したと取る方が自然なように思われる。「これはなにが起こったのですか」「汚れた霊が豚にはいることを願ったので許したのだよ」と解釈すると、イエスがされたことは、そのようなことを許容された「このことをイエスがお許しになった」に凝縮されているのかと思う。それを聞いた弟子たちは、おそらく、このように伝えるだろう。
- この結果について、経済的損失を現代人は考える。しかし、少なくとも、聖書が伝えるのはそれではない。このような大きな変化に怖気づいたのである。それは、豚のことを通しても、確認できるほどの大きな変化であった。そして、それを、人びとは歓迎しなかったということだろう。
- この人が、本当に変化していて、正気になって、一緒に生活することになっていたら、家族や周囲の人達は、神を褒め称えたのではないだろうか。一時的な変化がすごいのではなく、使命をうけとって、恵みに生きることが、大切なのではないだろうか。豚のことに囚われてはいけな。豚は、特別なことがあったことを伝えてはいるが、もっと素晴らしいことが、このひとを通して明かしされているはずである。それを、人は喜ばないかもしれないが。
- 精神病だとしても、それが癒やされ、治ったことが大切なのではなく、「このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」（ルカ 15:24）ことが大切なのでは。それは、放蕩息子の兄のように、なかなか受け入れられない。「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。」（ルカ 15:4）「あなたがたはどう思うか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。」（マタイ 18:12）
- この地方の人たち：その日をさいわいに過ごし、／安らかに陰府にくだる。彼らは神に言う、『われわれを離れよ、／われわれはあなたの道を知ることを好まない。（ヨブ 21:13,14）このことを喜べない。
- イエスの言葉に従ったのだろうか。「19 しかし、イエスはお許しにならないで、彼に言われた、『あなたの家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい』。20 そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださったこと

を、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。」

あなたの家にいけ、あなたの人びとに、となっており、家族に限ってはいないのだろう。ただ、「主が」と言っている部分が「イエスが」に置き換わっていることに注意する必要がある。

- ルカの記述は、マルコに近い。ただ「31 悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。」が、マルコの「10 そして、自分たちをこの土地から追い出さないようにと、しきりに願いつづけた。」に対応しており、悪霊のいるべき「底知れぬ所」との記述になっている。また、マルコでは、「恐れた」は 15 節のみであるが、ルカでは、35 節に「恐れた」とあり 37 節に「非常な恐怖に襲われいたからである。」となっている。この恐れは、突風を静めるにおける「彼らは恐れおののいて」（4 章 41 節）また、5 章 42 節の「彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。」に繋がっている。
- マタイでは、最初、「悪霊につかれた二人の者」とあり、焦点が異なっているようである。また「29 すると突然、彼らは叫んで言った、『神の子よ、あなたはわたしどもとなんの係わりがあるのです。まだその時ではないのに、ここにきて、わたしどもを苦しめるのですか。』」ともあり、終末的な結末の先取りのような印象を受ける。この悪霊につかれた人には焦点が当たっていない。マタイでは、マタイが弟子になった記事は 9 章で、この（マタイ 8:28-34）よりあとに置かれており、マタイはまだ、この時点で、弟子に加わっていなかったのかもしれない。マルコでは、十二使徒を選んだのは、3 章 13 節から 19 節に置かれ、この記事と連続しているようになっている、譬えの説明の箇所、十二人ということばもある。正確にはわからない。しかし、十二人は、ヨハネ 6 章終わりの記事からすると、五千人の給食のあとに、人びとがイエスに期待したメシヤ像が崩れたときに、残った人たちとの記述もあるので、そちらに真実性があるようにも思われる。この記事のときには、マタイは同行しておらず、場所として、ゲラサと書いてあったり、一人と書いてある部分を、他の情報から修正しているのかもしれない。
- 一人一人のほうが、豚 2000 匹の命よりも大切とするのも、軽率で、少なくとも、ここでそのことは、言われていない。しかし、ここでは、このひとのなかから悪霊が追い出されることのために、このことが起こったことを許容されたということなのだろう。このことに結びつけて、人は魂の救いよりも、豚 2000 匹の方を、選んだとするのも、直接的には導けないように見える。

5:21-43 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女

21 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。22 そこへ、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」。24 そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。25 さてここに、十二年間も長血をわずらっている女がいた。26 多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまったが、なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方であった。27 この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわった。28 それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていたからである。29 すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた。30 イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれ

て、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。31 そこで弟子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか」。32 しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。33 その女は自分の身に起ったことを知って、恐れおののきながら進み出て、みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。35 イエスが、まだ話しておられるうちに、会堂司の家から人々がきて言った、「あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及びますまい」。36 イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。37 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。38 彼らが会堂司の家に着くと、イエスは人々が大声で泣いたり、叫んだりして、騒いでいるのをごらんになり、39 内にはいって、彼らに言われた、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、子供のいる所にはいって行かれた。41 そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。42 すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。43 イエスは、だれにもこの事を知らすなど、きびしく彼らに命じ、また、少女に食物を与えるようにと言われた。

4.29.8 マタイ 9:18-26

18 これらのことを彼らに話しておられると、そこにひとりの会堂司がきて、イエスを拝して言った、「わたしの娘がただ今死にました。しかしおいでになって手をその上においてやって下さい。そうしたら、娘は生き返るでしょう」。19 そこで、イエスが立って彼について行かれると、弟子たちも一緒に行った。20 するとそのとき、十二年間も長血をわずらっている女が近寄ってきて、イエスのうしろからみ衣のふさにさわった。21 み衣にさわりさえすれば、なおしていただけるだろう、と心の中で思っていたからである。22 イエスは振り向いて、この女を見て言われた、「娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです」。するとこの女はその時に、いやされた。23 それからイエスは司の家に着き、笛吹きどもや騒いでいる群衆を見て言われた。24 「あちらへ行っていないさい。少女は死んだのではない。眠っているだけである」。すると人々はイエスをあざ笑った。25 しかし、群衆を外へ出したのち、イエスは内へはいって、少女の手をお取りになると、少女は起きあがった。26 そして、そのうわさがこの地方全体にひろまった。

4.29.9 ルカ 8:40-56

40 イエスが帰ってこられると、群衆は喜び迎えた。みんながイエスを待ちうけていたのである。41 するとそこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようにと、しきりに願った。42 彼に十二歳ばかりになるひとり娘があったが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫ってきた。43 ここに、十二年間も長血をわずらっていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまったが、だれにもなおしてもらえなかつ

た女がいた。44 この女がうしろから近寄ってみ衣のふさにさわったところ、その長血がたちまち止まってしまった。45 イエスは言われた、「わたしにさわったのは、だれか」。人々はみな自分ではないと言ったので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。46 しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ」。47 女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったこととを、みんなの前で話した。48 そこでイエスが女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。49 イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」と言った。50 しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかって言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。51 それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいって来ることをお許しにならなかった。52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。53 人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。54 イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。55 するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをされた。56 両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

4.30 5:25-34 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女（1）

25 さてここに、十二年間も長血をわずらっている女がいた。26 多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまったが、なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方であった。27 この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわった。28 それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていたからである。29 すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた。30 イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれて、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。31 そこで弟子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか」。32 しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。33 その女は自分の身に起ったことを知って、恐れおののきながら進み出て、みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっきりなおって、達者でいなさい」。

4.30.1 マタイ 9:20-21

20 するとそのとき、十二年間も長血をわずらっている女が近寄ってきて、イエスのうしろからみ衣のふさにさわった。21 み衣にさわりさえすれば、なおしていただけるだろう、と心の中で思っていたからである。22 イエスは振り向いて、この女を見て言われた、「娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです」。するとこの女はその時に、いやされた。

4.30.2 ルカ 8:43-48

43 ここに、十二年間も長血をわずらっていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまったが、だれにもなおしてもらえなかった女がいた。44 この女がうしろから近寄ってみ衣のふさにさわったところ、その長血がたちまち止まってしまった。45 イエスは言われた、「わたしにさわったのは、だれか」。人々はみな自分ではないと言ったので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。46 しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ」。47 女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったこととを、みんなの前で話した。48 そこでイエスが女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。

マルコによる福音書 5 章 25-34 節福音書対照表

4.30.3 問い

1. このことはどのような状況のもとで起きますか。(21-24)
2. この女の人とはどのような困難をかかえていますか。またイエスをどのように考えていたのでしょうか。(25-28)
3. どんなことがおこりますか。またイエスはどうしますか。弟子たちの反応と合わせて考えてみましょう。(29-32)
4. この女の人とはなぜ恐れおののくのでしょうか。(33)
5. イエスはこの女の人に何と言っていますか。イエスは何をこの女の人から受け取ったのでしょうか。(34)
6. この女の人信仰とはどのようなもので、何を受け取ったのでしょうか。

4.30.4 参照

- **長血の女**：新約聖書に長血の女 (having an issue of blood) が登場しますが、当時は、この病気は、どのように、考えられており、現代的には、どのような病気だと考えられるのでしょうか。

– ChatGPT (2023.10.19) .

– 新約聖書に登場する「長血の女」という表現は、マタイによる福音書 (9:20-22)、マルコによる福音書 (5:25-34)、ルカによる福音書 (8:43-48) で言及されています。この女性は 12 年間もの間、血の問題に悩まされており、イエスに触れることで癒されたとされています。

当時の人々は、この女性の病気を「長血」と表現しましたが、具体的な病名や病態については明確に

は記されていません。しかしながら、その症状の記述から、いくつかの現代的な病気の可能性が考えられます。

1. 子宮出血: 「長血の女」の症状は、子宮出血に関連している可能性があります。子宮内膜の異常な成長やホルモンの変化によって引き起こされる病態です。
2. 月経異常: この女性の症状は、月経異常に関連している可能性もあります。月経周期の乱れや過度の出血が起こる状態です。
3. 子宮筋腫: 子宮筋腫は、子宮内にできる良性の腫瘍であり、月経異常や過剰出血を引き起こすことがあります。

これらは現代的な医学的な視点からの推測であり、正確な診断は新約聖書の文脈からは得られません。また、当時の医学的な知識や言語の違いから、記述が現代的な病名とは一致しないこともあります。

重要な点は、この物語がイエスの癒しの力と信仰に焦点を当てていることであり、具体的な病名よりも信仰と癒しのメッセージが強調されているということです。

- レビ記 15:25-27 女にもし、その不浄の時のほかに、多くの日にわたって血の流出があるか、あるいはその不浄の時を越して流出があれば、その汚れの流出の日の間は、すべてその不浄の時と同じように、その女は汚れた者である。26 その流出の日の間に、その女の寝た床は、すべてその女の不浄の時の床と同じようになる。すべてその女のすわった物は、不浄の汚れのように汚れるであろう。27 すべてこれらの物に触れる人は汚れる。その衣服を洗い、水に身をすすがなければならない。彼は夕まで汚れるであろう。(血について: [参照](#))
- 医者について: シラ書〔集会の書〕 38:1-15 医者を、その務めのゆえに敬え。／彼も主がお造りになったのだから。2 癒やしの業はいと高き方から／褒美は王から賜る。3 医者 of 学識は彼の身分を高め／偉い人々の前で驚嘆される。4 主は大地から薬をお造りになった。／思慮ある人ならこれを毛嫌いしない。5 一本の木のお陰で水が甘くなり^{*293}／その威力が知られることになったではないか。6 主は自ら人々に学識を授け／その驚くべき業によって称賛される。7 医者はこの業によって人を治療し／その痛みを取り除く。8 薬屋はこの同じ業によって混ぜ薬を作る。／こうして、主の御業は決して終わることなく／主からの平安が地の面にある。9 子よ、病気になったら放置せず／主に祈れ。そうすれば／主がお前を癒やしてください。10 過ちを避け、手の業を正せ。／一切の罪から心を清めよ。11 芳しい香りと記念のための上質の小麦粉を供え／供え物には油を余すことなく注げ。12 それから、医者に機会を与えよ。／彼も主がお造りになったのだから。／彼を去らせるな。お前には必要なのだから。13 回復が彼らの手にかかっている時がある。14 彼らもまた／主が自分たちを用いて病人の苦痛を和らげ／命を救う癒やしに成功しますよう

^{*293} 出エジプト 15:23-26 彼らはメラに着いたが、メラの水は苦くて飲むことができなかった。それで、その所の名はメラと呼ばれた。24 ときに、民はモーセにつぶやいて言った、「わたしたちは何を飲むのですか」。25 モーセは主に叫んだ。主は彼に一本の木を示されたので、それを水に投げ入れると、水は甘くなった。その所で主は民のために定めと、おきてを立てられ、彼らを試みて、26 言われた、「あなたが、もしあなたの神、主の声に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病の一つもあなたに下さないであろう。わたしは主であって、あなたをいやすものである」。

に、と／祈り求めているのだ。15 自分をお造りになった方の前で罪を犯す者は／医者の手に陥るがよい。

- タルムード・シャバッド：夏なら亜麻布、冬なら木綿の布で運んできたダチョウの卵の灰が効く、白い雌ロバの糞の中に見つかる大麦の粒が効くなど。
- 衣のふさ（マタイ 9:20・ルカ 8:44）：民数記 15:38-40 「イスラエルの人々に命じて、代々その衣服のすその四すみにふさをつけ、そのふさを青ひもで、すその四すみにつけさせなさい。39 あなたがたが、そのふさを見て、主のもろもろの戒めを思い起して、それを行い、あなたがたが自分の心と、目の欲に従って、みだらな行いをしないためである。40 こうして、あなたがたは、わたしのもろもろの戒めを思い起して、それを行い、あなたがたの神に聖なる者とならなければならない。

4.30.5 記録

- 日時：2023 年 10 月 19 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）5 名

4.30.6 問いについて

1. 状況（21-24）

- 21 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。22 そこへ、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」。24 そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。
- 多くの群衆がイエスに押し迫りながら、ヤイロたちについていった。
 - － ついていったのはどのような人たちだったのだろうか。イエスの人気、何か奇跡が見られるかと、興味本位、群集心理。
- この向こう岸は、カペナウム方面だろう。とすると、前から繋がっているように見える。
 - － ガリラヤ湖東岸では、歓迎されなかったのに、ここでは、なぜ人がついていくのか。

2. 女の人の抱えていた困難。イエスをどう思っていたか。（25-28）

- 25 さてここに、十二年間も長血をわずらっている女がいた。26 多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまったが、なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方であった。27 この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣に

さわった。28 それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていたからである。

- この女の人には、神の国は来ていない。
- マタイ、ルカは、衣の房としている。レビ記 15:25-27 から、衣服に触れば、それは、洗わなければならない不浄がついたと考えたからだろうか。マルコにはない。
- この女の人はなぜヤイロのように公然と願わなかったのでしょうか。

3. 何が起こり、イエスはどうか、弟子たちの反応。(29-32)

- 29 すると、血の元がすぐにかわき、女は病気が*²⁹⁴ことを、その身に感じた。30 イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれて、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。31 そこで弟子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか」。32 しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。

- おそらく、着物に触った人は、他にもいたはずである。それを弟子たちも証言している。

— 弟子証言は、マタイでは欠落、ルカでは修正「人々はみな自分ではないと言ったので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。」(8:45)

- この女は、必死で、触ろうとしただろう。その必死さは、イエスが、感じ取った可能性もある。
- イエスは、この特別な接触（関係の発生）が、非常に大きなことと感じ取っていた。
- イエスは神だから触ったのが誰かわかるはずというのは、飛躍しすぎ。「32 しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。」とある。これも、ジェスチャーだとしたら、悲しい。

4. 何に、なぜ、恐れおののくのか。(33)

- 33 その女は自分の身に起ったことを知って、恐れおののきながら進み出て、みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。
- 単に、ちょっと着物にさわるだけと思ったにも関わらず、大変なことをしたことを感じ取ったのかも知れない。
- イエスから力が出ていくとは思ってもいなかった。
- すべてをありのままに話した。どんなことを話したのだろうか。

5. イエスの言葉、イエスの受け取ったもの。(34)

*294 : i) to cure, heal, ii) to make whole

- 34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。
- 信仰のことを言っている。恐れおののきを取り除こうとしている。まだ、養生が必要であることを暗示させる。
- このようなことばをかけられたらどう感じるだろうか。

6. この人の信仰とは、この女の人が受け取ったもの。

- 「娘よ^{*295}、あなたの信仰があなたを救ったのです。」とイエスが呼ぶ、この女性の信仰とは？
- 「せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろう」（28）という非常に素朴な、からしだねひと粒ほどの信仰である。
- この人は、どのように生きていったらうか。イエスのことばは、どのようにこの人に働いたらうか。
- この女の人は、これからは、問題がない、幸せな生活を送ったでしょうか。
- この女の人は、神の国を近いと感ずることができたでしょうか。そのように信じて生きることができたでしょうか。もし、そうなら、それは、なぜでしょうか。

4.30.7 メモ

- 神の国の到来は、歓迎されないこともある。歓迎されないことばかりかも知れない。人びとは、自分たちの求める、神の国を見たい。
- この女性に神の国が来たのだらう。完治することを体に感ずることはおそらくできない。イエスも、「すっかりなおって、達者でいなさい」と付け加えている。しかし、変化を感じ取ったことは証言されている。それは、完全ないやしへと向かっていくものなのだろう。
- イエスからどのように、力が出ていったかはわからぬ。しかし、それを感じ取ったことは証言されている。そして、この女の人から、詳細を聞き、心をいため、はらわたが傷つくような経験もしただろう。しかし、それは、イエスだけではなく、神様も、同じように、その苦しみを感じ取っておられるのではないだろうか。
- イエスをとおして、神様が、この人の痛み、苦しみを知ってくださることを実感できたのではないだろうか。自分は、見捨てられた存在ではなく、神の国が近い、その中に生きていることを実感することができれば、それは、希望が与えられるのではないだろうか。

^{*295} : a daughter, a) a daughter of God: acceptable to God, rejoicing in God's peculiar care and protection, b) with the name of a place, city, or region; denotes collectively all its inhabitants and citizens, c) a female descendant

- 「信仰が救った」

- － マルコ 10:52 そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。(ルカ 18:42)
- － ルカ 7:50 しかし、イエスは女にむかって言われた、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。
- － ルカ 17:19 それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

4.31 5:21-24, 35-43 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女（2）

21 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。22 そこへ、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」。24 そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。

(中略)

35 イエスが、まだ話しておられるうちに、会堂司の家から人々がきて言った、「あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及びますまい」。36 イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。37 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。38 彼らが会堂司の家に着くと、イエスは人々が大声で泣いたり、叫んだりして、騒いでいるのをごらんになり、39 内にはいって、彼らに言われた、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、子供のいる所にはいって行かれた。41 そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。42 すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。43 イエスは、だれにもこの事を知らすなど、きびしく彼らに命じ、また、少女に食物を与えるようにと言われた。

4.31.1 マタイ 9:18-19, 23-26

18 これらのことを彼らに話しておられると、そこにひとりの会堂司がきて、イエスを拝して言った、「わたしの娘がただ今死にました。しかしおいでになって手をその上においてやって下さい。そうしたら、娘は生き返るでしょう」。19 そこで、イエスが立って彼について行かれると、弟子たちも一緒に行った。

(中略)

23 それからイエスは司の家に着き、笛吹きどもや騒いでいる群衆を見て言われた。24 「あちらへ行って

いなさい。少女は死んだのではない。眠っているだけである」。すると人々はイエスをあざ笑った。25 しかし、群衆を外へ出したのち、イエスは内へはいて、少女の手をお取りになると、少女は起きあがった。26 そして、そのうわさがこの地方全体にひろまった。

4.31.2 ルカ 8:40-42, 49-56

40 イエスが帰ってこられると、群衆は喜び迎えた。みんながイエスを待ちうけていたのである。41 するとそこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようにと、しきりに願った。42 彼に十二歳ばかりになるひとり娘があったが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫ってきた。

(中略)

49 イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」と言った。50 しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかって言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。51 それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいて来ることをお許しにならなかった。52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。53 人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。54 イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。55 するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをされた。56 両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

[マルコによる福音書 5 章 21-24, 35-43 節福音書対照表](#)

4.31.3 問い

1. ヤイロはどんな人ですか。また、どんな問題を抱え、イエスに何を願っていますか。(22,23)
2. ヤイロの家から人々が知らせに來た時の状況はどのように描かれていますか。ヤイロの心も想像してみましょう。(35)
3. イエスはヤイロにどのような言葉をかけていますか。(36)
4. ヤイロの家はどんな状況でしたか。イエスはどうしますか。なぜ少数の人しか立ちあわせなかったのでしょうか。(37-40)
5. イエスは少女にたいしてどうしますか。その様子はどのように描かれていますか。(41-43)
6. この二つの事件を通して、イエスは信仰について何を教えていると思いますか。

4.31.4 参照

- 会堂で教えた記録：

- マルコ 3:1-6 1 イエスがまた会堂にはいられると、そこに片手のなえた人がいた。2 人々はイエスを訴えようと思って、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがっていた。(中略) 6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。(マタイ 12:9-14、ルカ 6:6-11)
- ルカ 13:10-17 10 安息日に、ある会堂で教えておられると、(中略) 14 ところが会堂司は、イエスが安息日に病気をいやされたことを憤り、群衆にむかって言った、「働くべき日は六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。安息日にはいけない」。(腰の曲がった女を癒やす)

- 会堂司について：[参照](#)

- 眠りと死

- 眠りは死の婉曲話法：詩篇 13:3 わが神、主よ、みそなわして、わたしに答え、／わたしの目を明らかにしてください。さもないと、わたしは死の眠りに陥り、
- 死は復活までの一時的な眠り：1 テサロニケ 4:13,14 兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。14 わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう。

4.31.5 記録

- 日時：2023 年 10 月 26 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）7 名

4.31.6 問いについて

1. ヤイロについて (22,23)

- 21 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。22 そこへ、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」。24 そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。

- 会堂司のひとりであるヤイロ^{*296}
 - 会堂司^{*297}：会堂の行政的な頭、会堂を管理する責任を持つ長老会の議長、儀式の運営に責任をもち、儀式そのものには加わらないが、役の役割、また、それが適切に、かつ秩序正しく行われているかどうか見る責任があった。社会の最も大切な、また最も尊敬されている一人。(パークレイ)
 - ひれ伏している。イエスとの面識はあっただろうか。(マルコ 3:1-6、ルカ 13:10-17)
- 必死さはどうのような言葉から読み取れますか。
 - イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」。
 - マルコでは「わたしの幼い娘^{*298}」と
- マタイは「わたしの娘がただ今死にました。しかしおいでになって手をその上においてやって下さい。そうしたら、娘は生き返るでしょう」。(8:18b) とし、復活信仰に結びつけている。そのためもあり、中間の、会堂司の家からの知らせを省いている。(比較：マルコ、ルカは、「死にかかっています。」「死にかけていた。」)

2. (長血の女の人と話している間、) ヤイロの家から使いが来たとき、ヤイロの心 (32-35)

- 32 しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。33 その女は自分の身に起ったことを知って、恐れおののきながら進み出て、みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。
- 35 イエスが、まだ話しておられるうちに、会堂司の家から人々がきて言った、「あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及びますまい」。
- マタイは省略、ルカは「49 イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」と言った。」
- イエスにとって、長血を患っている女と、ヤイロの娘または、ヤイロとどちらが大切だったのでしょうか。
 - 時間の枠内では二者択一になりそうであるが、イエスはどのようにしてそうならなかったのでしょうか。

^{*296} : whom God enlightens, : whom Jehovah enlightens < : to be or become light, shine

^{*297} : ruler of the synagogue. It was his duty to select the readers or teachers in the synagogue, to examine the discourses of the public speakers, and to see that all things were done with decency and in accordance with ancestral usage.

^{*298} : a little daughter

3. イエスのヤイロに対することば (36)

- 36 イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。
 - － ルカ 8:50 50 しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかって言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。
- イエスはどのような思いから、このことばをかけたのでしょうか。そしてヤイロはそれをどう受け取ったのでしょうか。ここでの恐れとは？
 - － ヨハネ 14:1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

4. ヤイロの家の状況。なぜ少人数？ (37-40)

- 37 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。38 彼らが会堂司の家に着くと、イエスは人々が大声で泣いたり、叫んだりして、騒いでいるのをごらんになり、39 内にはいって、彼らに言われた、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、子供のいる所にはいって行かれた。
 - － マタイ 8:23 「笛吹きどもや騒いでいる群衆」
 - － 三人だけ：全体では何人が目撃したのでしょうか（父母、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、イエスの六人）
 - * マルコ 9:2 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、
 - * マルコ 14:33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネを一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、
- 実際は、少女は死んでいたのでしょうか。
 - － マタイでは最初から死んでいる。18 これらのことを彼らに話しておられると、そこにひとりの会堂司がきて、イエスを拝して言った、「わたしの娘がただ今死にました。しかしおいでになって手をその上においてやって下さい。そうしたら、娘は生き返るでしょう」。しかし、イエスは、あちらへ行っていないさい。少女は死んだのではない。眠っているだけである」。(24) と主張している。
 - － ルカでは、最初は「死にかけていた」とし、あとでは「53 人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。」「55a するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。」という表現をしているので、死んで、生き返ったことに焦点があっている。
 - － マルコでは、「死にかかっている」(23) とし、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。(38b) 「そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。」(41) と、眠っているひとを起こす表現に終始している。

5. 少女に対して。その描写。(41-43)

- 41 そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。42 すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。十二歳にもなっていたからで

ある。彼らはたちまち非常に驚きに打たれた。43 イエスは、だれにもこの事を知らすなど、きびしく彼らに命じ、また、少女に食物を与えるようにと言われた。

- ユダヤ人の娘は 12 歳と 1 日で成人した女とされた。男の子は、13 歳と 1 日で成人。
 - 12 年間、可愛がられて生きてきたのだろう。
- 「子供の手を取って」 マタイ「少女の手をお取りになると」、ルカ「娘の手を取って」
- 「少女よ、さあ、起きなさい（ T ）」（arise）（, ‘a youth’ の女性形）
- ルカ 8:55 「その霊が戻ってきて」
- 驚いたのは誰でしょうか。
 - マルコ 5:42 すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常に驚きに打たれた。
 - ルカ 8:56 両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。
- なぜ、「この事を知らすな」と命じたのでしょうか。「この事」とは何を意味するのか。
 - この事を伝えたのは、誰でしょうか。彼らとは？
 - 単に眠っているだけとしたのは、その伏線か。死者を蘇らせたところに、中心がないということか。「神の国は近い。」
 - マルコ 1:24,25 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。
 - 25 イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。
 - マルコ 1:44 「何も人に話さないように、注意しなさい。ただ行って、自分のからだを祭司に見せ、それから、モーセが命じた物をあなたのきよめのためにささげて、人々に証明しなさい」。
 - マルコ 3:12 イエスは御自身のことを人にあらわさないようにと、彼らをきびしく戒められた。

6. 二つの事件を通して信仰とは

- 5:34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。
- 5:36 イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。

4.31.7 メモ

- ヤイロの背景は、明らかではない。しかし「足もとにひれ伏し」(22)「しきりに願って行った」(23)「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がおおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください。」(23) 必死さが感じられる。「会堂司の家から人々が来て」(35)とあり、ヤイロがイエスに頼みに行ったことは、了解されており、人を使わすことも可能であったこともわかる。しかし、そうはしなかった。単純な必死さや、群衆が多くいるなかで、イエスにきていただくことから、そうしたかもしれないが、この必死さを身をもって伝えたい気持ちもあったかもしれない。ガリラヤ湖畔の街の会堂では、すでに、イエスは教えなくなっているようにも見える。3章6節などの動きからすると、会堂司も、良い関係が維持されていたとは言えなかったかもしれない。そこでの願いである。

ー 群衆は、イエスのもとに集まってきているが、その群衆も、自分たちが、なにを求めているのかよくわからないかもしれない。(マルコ 6 章 34 節) イエスに反対する人、殺そうとすらする人、拒絶する人、疑いをもつ人も増えている時期だと思われる。

- この娘は、マタイが描くように、死んでいたのだろうか。ルカが、「人々は死んだことを知っていたので」(53)と書き「すると霊が戻ってきて」(55)と書くように、少なくとも、人々が報せにきた時点では、完全に死んでいたのだろうか。マタイとルカはその立場だろう。マタイは、最初から死んでいるように書かれており、ヤイロに「9 章 18 節これらのことを彼らに話しておられると、そこにひとりの会堂司がきて、イエスを拝して言った、『わたしの娘がただ今死にました。しかしおいでになって手をその上においてやって下さい。そうしたら、娘は生き返るでしょう。』」と復活信仰を告白させている。しかし、マルコには、一貫して、そのような記述はない。マルコの記述からは、この少女が死んでいたかどうかは、明確ではない。マタイでは復活信仰についてかたり、ルカではイエスが少女を生き返らせたことに焦点が置かれているようだが、マルコではそうではないように見える。事実は不明である。しかし、イエスは、娘は死んでいない。少なくとも、希望がなく、恐れる状態ではないと信じていたのではないだろうか。

ー マルコ 12:26 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。

信仰（神様との信頼関係）の中では、生きていたのではないだろうか。完全にはわからないが。

- イエスの行為の中心は、娘を生き返らせたことには、なかったのかもしれない。神の国は遠い、近くない、自分は、神様に見放されているという人に、神の国は近いということを知らせ、神さまに信頼する生活へと導くために、その時その時を生きていたように見える。しかし、残念ながら、人々は、そして、聖書解釈者もそのようには受け取らず、奇跡を、神の子の兆とみる。イエスの悲劇は、すでに始まっているように見える。
- 「恐れることはない。ただ信じなさい」「今、恐れているのをやめて」「信じ続けなさい」

- － ヨハネ 14:1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。
 - － ローマ 8:31 それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。
 - － 1 ヨハネ 5:5 世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信じる者ではないか。
- 誰が驚いたかの表現からも、ルカでは、両親のようで、マルコでは、弟子たちも含んでいるように見える。驚きの表現も異なっている。
- － マルコ 5:42b：彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。 *299 *300

4.32 6:1-6 ナザレで受け入れられない

1 イエスはそこを去って、郷里に行かれたが、弟子たちも従って行った。2 そして、安息日になったので、会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。3 この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。4 イエスは言われた、「預言者は、自分の郷里、親族、家以外では、どこでも敬われないことはない」。5 そして、そこでは力あるわざを一つもすることができず、ただ少数の病人に手をおいていやさただけであった。6 そして、彼らの不信仰を驚き怪しまれた。それからイエスは、附近の村々を巡りあるいて教えられた。

4.32.1 マタイ 13:53-58

53 イエスはこれらの譬を語り終えてから、そこを立ち去られた。54 そして郷里に行き、会堂で人々を教えられたところ、彼らは驚いて言った、「この人は、この知恵とこれらの力あるわざとを、どこで習ってきたのか。55 この人は大工の子ではないか。母はマリヤといい、兄弟たちは、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。56 またその姉妹たちもみな、わたしたちと一緒にいるではないか。こんな数々のことを、いったい、どこで習ってきたのか」。57 こうして人々はイエスにつまずいた。しかし、イエスは言われた、「預言者は、自分の郷里や自分の家以外では、どこでも敬われないことはない」。58 そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは力あるわざを、あまりなさらなかった。

*299 : to throw out of position, displace a) to amaze, to astonish, throw into wonderment, b) to be amazed, astounded, c) to be out of one's mind, besides one's self, insane

*300 : i) any casting down of a thing from its proper place or state, displacement, ii) a throwing of the mind out of its normal state, alienation of mind, whether such as makes a lunatic or that of a man who by some sudden emotion is transported as it were out of himself, so that in this rapt condition, although he is awake, his mind is drawn off from all surrounding objects and wholly fixed on things divine that he sees nothing but the forms and images lying within, and thinks that he perceives with his bodily eyes and ears realities shown him by God. iii) amazement, the state of one who, either owing to the importance or the novelty of an event, is thrown into a state of blended fear and wonderment

4.32.2 ルカ 4:16-30

16 それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。17 すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、18 「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、／わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、／囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、／打ちひしがれている者に自由を得させ、19 主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。20 イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。21 そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。22 すると、彼らはみなイエスをほめ、またその口から出て来るめぐみの言葉に感嘆して言った、「この人はヨセフの子ではないか」。23 そこで彼らに言われた、「あなたがたは、きっと『医者よ、自分自身をいやせ』ということわざを引いて、カペナウムで行われたと聞いていた事を、あなたの郷里のこの地でもしてくれ、と言うであろう」。24 それから言われた、「よく言うておく。預言者は、自分の郷里では歓迎されないものである。25 よく聞いておきなさい。エリヤの時代に、三年六か月にわたって天が閉じ、イスラエル全土に大ききんがあった際、そこには多くのやもめがいたのに、26 エリヤはそのうちのだれにもつかわされないで、ただシドンのサレプタにいるひとりのやもめにだけつかわされた。27 また預言者エリシャの時代に、イスラエルには多くの重い皮膚病にかかった多くの人々がいたのに、そのうちのひとりもきよめられないで、ただシリヤのナアマンだけがきよめられた」。28 会堂にいた者たちはこれを聞いて、みな憤りに満ち、29 立ち上がってイエスを町の外へ追い出し、その町が建っている丘のがけまでひっぱって行って、突き落そうとした。30 しかし、イエスは彼らのまん中を通り抜けて、去って行かれた。

マルコによる福音書 6 章 1-6 節福音書対照表

4.32.3 問い

1. イエスたちはどこへ行き、どこで何をしますか。(1,2a)
2. ルカによる福音書では、さらにどのように伝えてありますか。(ルカ 4:16-21)
3. 町の人々の反応をまとめてみましょう。郷里の人は何を知り、何を知らなかったでしょうか。(2b,3a)
4. 「イエスにつまずいた」とはどのようなことを表現しているのでしょうか。(3b)
5. イエスは、何と言っていますか。ルカはどのようなことを付け加えていますか。(4)
6. なぜイエスは力あるわざをすることができなかったのでしょうか。(5,6)

4.32.4 参照

- イザヤ 61:1-2 主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、／貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、／わたしをつかわして心のいためる者をいやし、／捕われ人に放免を告げ、／縛られている者に解放を告げ、2 主の恵みの年と／われわれの神の報復の日とを告げさせ、／また、すべての悲しむ者を慰め、
- イザヤ 42:7 盲人の目を開き、／囚人を地下の獄屋から出し、／暗きに座する者を獄屋から出させる。
- 詩篇 146:8 主は盲人の目を開かれる。主はかがむ者を立たせられる。主は正しい者を愛される。
- イザヤ 29:18 その日、耳しいは書物の言葉を聞き、／目しいの目はその暗やみから、見ることができる。
- イザヤ 42:7 盲人の目を開き、／囚人を地下の獄屋から出し、／暗きに座する者を獄屋から出させる。
- 列王記上 17:1 ギレアデのテシベに住むテシベとエリヤはアハブに言った、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」。
- 列王記上 17:9 「立ってシドンに属するザレパテへ行って、そこに住みなさい。わたしはそのところのやもめ女に命じてあなたを養わせよう」。
- 列王記下 5:1-14 スリヤ王の軍勢の長ナアマンはその主君に重んじられた有力な人であった。主がかつて彼を用いてスリヤに勝利を得させられたからである。彼は勇士であったが、重い皮膚病をわずらっていた。(中略) 14 そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとにかえて幼な子の肉のようになり、清くなった。

4.32.5 記録

- 日時：2023 年 11 月 2 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）2 名

4.32.6 問いについて

1. どこへ行き、どこで、何をしたか。(1,2a)

- 1 イエスはそこを去って、郷里に行かれたが、弟子たちも従って行った。2 そして、安息日になったので、会堂で教えはじめられた。
 - －「そこ」カペナウムを去って「郷里」ナザレ（ルカ 4:16）へ。
 - － 弟子たちも従った。弟子たち一行も一緒にマルコのみ特記。

－「安息日になったので、街道で教え始められた」（2a）ルカでは「いつものように」置かれている場所が異なる。

- マタイ：53 イエスはこれらの譬を語り終えてから、そこを立ち去られた。54 そして郷里に行き、会堂で人々を教えられたところ、

－ 種まきのたとえ、たとえを用いて話す理由、「種まく人」のたとえの説明、「毒麦」のたとえ、「からし種」と「パン種」のたとえ、たとえを用いて語る、「毒麦」のたとえの説明、「天の国」のたとえ、天国のことを学んだ学者のあとに続く。

- ルカ：16 それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。

－ 宣教の最初。ガリラヤで宣教をはじめる最初に、ナザレへ。

- イエスは、何のために、郷里に行ったのでしょうか。人々は、どのように感じたのでしょうか。

2. ルカから（ルカ 4:16-21）

- 16 それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。17 すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、18 「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、／わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、／囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、／打ちひしがれている者に自由を得させ、19 主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。20 イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。21 そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。

- イザヤ 6:1,2 と思われるが、少し表現が異なる。

- あなたが想像する「主の恵みの年（直訳：主に受け入れられる年）」（19）とはどのような年のことですか。

－ 神の国は近い。

- 「会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。」「『この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した』と説きはじめられた。」促されて、話しは始めている。

3. 町の人々の反応（2b,3a）

- それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どう

してか。3 この人は大工^{*301}ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。

- マタイ：彼らは驚いて言った、「この人は、この知恵とこれらの力あるわざとを、どこで習ってきたのか。55 この人は大工の子ではないか。母はマリヤといい、兄弟たちは、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。56 またその姉妹たちもみな、わたしたちと一緒にいるではないか。こんな数々のことを、いったい、どこで習ってきたのか」。
- ルカ：22 すると、彼らはみなイエスをほめ、またその口から出て来るめぐみの言葉に感嘆して言った、「この人はヨセフの子ではないか」。
- 郷里の人は何に驚いているか。
- 郷里の人は何を知り、何を知らなかったか。
 - － 職業（専門的にできること）、母、父、兄妹たち、姉妹たちについて知っていた。
 - － この知恵とこれらのちからあるわざを、どこで習ってきたのか知らない。
- イエスをどのような人だと言っていますか。
 - － 大工。マリヤのむすこ、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟、姉妹もいる。マタイでの順番が異なる。
 - － マタイは「大工の子」ルカでは「ヨセフの子」と修正している。
 - － ルカ 3:23 イエスが宣教をはじめられたのは、年およそ三十歳の時であって、人々の考えによれば、ヨセフの子であった。ヨセフはヘリの子、

4. イエスにつまずいた？ (3b)

- こうして彼らはイエスにつまずいた。^{*302}
- マタイ：57a こうして人々はイエスにつまずいた。ルカにはこの記述なし。
- 郷里の人は、なぜ、簡単には、受け入れられないのでしょうか。
- 郷里の人々は、どのようなイエスを日常的に、どれぐらいの期間見て、知っていたのでしょうか。

5. イエスのことば。ルカは？ (4)

- 4 イエスは言われた、「預言者は、自分の郷里、親族、家以外では、どこでも敬われないことはない」。

^{*301} : i) a worker in wood, a carpenter, joiner, builder, - a ship's carpenter or builder, ii) any craftsman, or workman - the art of poetry, maker of songs, iii) a planner, contriver, plotter - an author

^{*302} (V-IP1-3P): to put a stumbling block or impediment in the way, upon which another may trip and fall, metaph. to offend

- マタイ：57b しかし、イエスは言われた、「預言者は、自分の郷里や自分の家以外では、どこでも敬われないことはない」。
- ルカ：23 そこで彼らに言われた、「あなたがたは、きっと『医者よ、自分自身をいやせ』ということわざを引いて、カペナウムで行われたと聞いていた事を、あなたの郷里のこの地でもしてくれ、と言うであろう」。24 それから言われた、「よく言うておく。預言者は、自分の郷里では歓迎されないものである。25 よく聞いておきなさい。エリヤの時代に、三年六か月にわたって天が閉じ、イスラエル全土に大ききんがあった際、そこには多くのやもめがいたのに、26 エリヤはそのうちのだれにもつかわされなくて、ただシドンのサレプタにいるひとりのやもめにだけつかわされた。27 また預言者エリシャの時代に、イスラエルには多くの重い皮膚病にかかった多くの人がいたのに、そのうちのひとりもきよめられないで、ただシリヤのナアマンだけがきよめられた」。28 会堂にいた者たちはこれを聞いて、みな憤りに満ち、29 立ち上がってイエスを町の外へ追い出し、その町が建っている丘のがけまでひっぱって行って、突き落そうとした。30 しかし、イエスは彼らのまん中を通り抜けて、去って行かれた。

— なぜ、イエスの説教を聞いた人たちは感嘆から憤りへと変わったのでしょうか。 ^{*303}

— 「カペナウムで行われてと聞いていたことを」とあり、宣教の最初に持ってくるのは自然ではない。

6. 力あるわざをすることができなかった？ (5,6)

- 5 そして、そこでは力あるわざを一つもすることができず、ただ少数の病人に手をおいていやされただけであった。6 そして、彼らの不信仰を驚き怪しまれた。それからイエスは、附近の村々を巡りあるいて教えられた。
- マタイ：58 そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは力あるわざを、あまりなさらなかった。

4.32.7 メモ

- 位置づけは、マルコやマタイのものが自然で、宣教の最初に置く、ルカは不自然。メッセージの内容から、そこにおいたのだろう。
- 「この人は大工ではないか」からは、多少蔑みを感じられる。マタイでは、大工の子
- 「マリヤのむすこ (M)」をマタイでは、「母はマリヤといい」とし、ルカでは「ヨセフの子 ()」としている。「マリヤの子」という表現が、私生児を想起させるから変更しているのだろう。
- 「預言者は、自分の郷里、親族、家以外では、どこでも敬われないことはない」と、親族、家が入っている。特に、親族を入れると、兄弟などが入ることを避けているように見える。

^{*303} : i) to serve, do service, ii) to heal, cure, restore to health

- 「そこでは力あるわざを一つもすることができず、ただ少数の病人に手をおいていやされただけであった。」を矛盾を含む表現と取ることもできるが、それは、癒やされたという言葉の理解によるであろう。使えた、手当をしたという言葉である。マタイでは「あまりなさらなかった」と表現を弱めている。
- ガリラヤ湖で、弟子たちが突風にあったとき、ガダラ人の地で、悪霊を追い出した時、ヤイロの娘を生き返らせた時、長血を患っている女を癒した時、いずれも、非常に不十分であるが、信仰、信頼関係の交互作用が背景にあるように見える。それは、相互作用で、一方的にはなしえないこと。単純に、全能だからできるということではない。互いに愛することと同じ難しさがある。

4.33 6:7-13 十二人を派遣する

7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、8 また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないように、パンも、袋も、帯の中に銭も持たず、9 ただわらじをはくだけで、下着も二枚は着ないように命じられた。10 そして彼らに言われた、「どこへ行っても、家にはいったなら、その土地を去るまでは、そこにとどまっていなさい。11 また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話を聞きもしない所があったなら、そこから出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足の裏のちりを払い落しなさい」。12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。

4.33.1 マタイ 10:1, 5-15

10:1 そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。(中略) 5 イエスはこの十二人をつかわすに当り、彼らに命じて言われた、「異邦人の道に行くな。またサマリヤ人の町にはいるな。6 むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところに行け。7 行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。8 病人をいやし、死人をよみがえらせ、重い皮膚病にかかった人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。9 財布の中に金、銀または銭を入れて行くな。10 旅行のための袋も、二枚の下着も、くつも、つえも持って行くな。働き人がその食物を得るのは当然である。11 どの町、どの村にはいっても、その中でだれがふさわしい人か、たずね出して、立ち去るまではその人のところにとどまっておれ。12 その家にはいったなら、平安を祈ってあげなさい。13 もし平安を受けるにふさわしい家であれば、あなたがたの祈る平安はその家に来るであろう。もしふさわしくなければ、その平安はあなたがたに帰って来るであろう。14 もしあなたがたを迎えもせず、またあなたがたの言葉を聞きもしない人があれば、その家や町を立ち去る時に、足のちりを払い落しなさい。15 あなたがたによく言うておく。さばきの日には、ソドム、ゴモラの地の方が、その町よりは耐えやすいであろう。

4.33.2 ルカ 9:1-6

1 それからイエスは十二弟子を呼び集めて、彼らにすべての悪霊を制し、病気をいやす力と権威とお授けになった。2 また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわして 3 言われた、「旅のために何も携えるな。つえも袋もパンも銭も持たず、また下着も二枚は持つな。4 また、どこかの家にはいったら、そこに留まっておれ。そしてそこから出かけることにしなさい。5 だれもあなたがたを迎えるものがいなかったら、その町を出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足からちりを払い落しなさい」。6 弟子たちは出て行って、村々を巡り歩き、いたる所で福音を宣べ伝え、また病気をいやした。

マルコによる福音書 6 章 7-13 節福音書対照表

4.33.3 問い

1. 十二弟子は、どのような人たちですか。知っていることをあげてみましょう。
2. イエスは十二弟子にどのような権威を与えていますか。(7, マタイ 10:1, ルカ 9:1)
3. マタイとルカには、さらにどのようなことが書かれていますか。(マタイ 10:5-8, ルカ 9:2)
4. 持ち物について、どのように命じていますか。(8,9)
5. 行った土地でのこと、受け入れない場合について、どのような指示をしていますか。(10,11)
6. 弟子たちは、どのような働きをしますか。(12,13)

4.33.4 参照

- マルコによる福音書におけるこれまでの弟子についての記述
 - 1:16-20 四人の漁師を弟子にする (マタイ 4:18-22、ルカ 5:1-11)
 - 2:13-17 レビを弟子にする (マタイ 9:9-13、ルカ 5:27-32)
 - 2:18-22 断食についての問答 (マタイ 9:14-17、ルカ 5:33-39) 2:18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、断食をしていた。そこで人々がきて、イエスに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ人の弟子たちが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。
 - 2:23-28 安息日に麦の穂を摘む (マタイ 12:1-8、ルカ 6:1-5) 2:23 ある安息日に、イエスは麦畑の中をとおって行かれた。そのとき弟子たちが、歩きながら穂をつみはじめた。24 すると、パリサイ人たちがイエスに言った、「いったい、彼らはなぜ、安息日にしてはならぬことをするのですか」。

- － 3:7-12 湖の岸辺の群衆（ルカ 6:17-19） 3:7a それから、イエスは弟子たちと共に海べに退かれたが、ガリラヤからきたおびただしい群衆がついて行った。またユダヤから、8 エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておけと、弟子たちに命じられた。
- － 3:13-19 十二人を選ぶ（マタイ 10:1-4, ルカ 6:12-16） さてイエスは山に登り、みこころにかなった者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。14 そこで十二人をお立てになった。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし、15 また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。16 こうして、この十二人をお立てになった。そしてシモンにペテロという名をつけ、17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。18 つぎにアンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、19 それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。イエスが家にはいられると、（マタイ 10:1-4, ルカ 6:12-16）
- － 4:10-12 たとえを用いて話す理由（マタイ 13:10-17, ルカ 8:9-10） 4:10 イエスがひとりになられた時、そばにいた者たちが、十二弟子と共に、これらの譬について尋ねた。11 そこでイエスは言われた、「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。12 それは／『彼らは見るには見るが、認めず、／聞くには聞くが、悟らず、／悔い改めてゆるさることがない』／ためである」。
- － 4:33-34 たとえを用いて語る（マタイ 13:34-35） 4:33 イエスはこのような多くの譬で、人々の聞く力にしたがって、御言を語られた。34 譬によらないでは語られなかったが、自分の弟子たちには、ひそかにすべてのことを解き明かされた。
- － 4:35-41 突風を静める（マタイ 8:23-27, ルカ 8:22-25） 4:35 さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。36 そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。37 すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。38 ところが、イエス自身は、舳の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。39 イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。40 イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」。41 彼らは恐れおののいて、互に言った、「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。
- － 5:21-43 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女（マタイ 9:18-26, ルカ 8:40-56） 31 そこで弟子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか」。（中略） 36 イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。37 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。

－ 6:1-6 ナザレで受け入れられない（マタイ 13:53-58、ルカ 4:16-30）1 イエスはそこを去って、郷里に行かれたが、弟子たちも従って行った。

- 油（ : olive oil, a) for fuel for lamps, b) for healing the sick, c) for anointing the head and body at feasts, d) mentioned among articles of commerce)

－ 癒やしのための油

- * マルコ 6:13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。
- * ルカ 10:34 近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほしいをしてやり、自分の家畜に任せ、宿屋に連れて行って介抱した。
- * ヤコブ 5:14 あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。

－ 香油

- * マルコ 14:3-8 イエスがベタニヤで、重い皮膚病の人シモンの家において、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。4 すると、ある人々が憤って互に言った、「なんのために香油をこんなにむだにするのか。5 この香油を三百デナリ以上にでも売って、貧しい人たちに施すことができたのに」。そして女をきびしくとがめた。6 するとイエスは言われた、「するままだにさせておきなさい。なぜ女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。7 貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときにはいつでも、よい事をしてやれる。しかし、わたしはあなたがたといつも一緒にいるわけではない。8 この女はできる限りの事をしたのだ。すなわち、わたしのからだに油を注いで、あらかじめ葬りの用意をしてくれたのである。（マタイ 26:6-13 参照：ルカ 7:36-50）
- * ヨハネ 11:2 このマリヤは主に香油をぬり、自分の髪の毛で、主の足をふいた女であって、病気であったのは、彼女の兄弟ラザロであった。
- * ヨハネ 12:3-8 その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。4 弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、5 「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。6 彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。7 イエスは言われた、「この女のするままだにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだから。8 貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。

－ 灯り

- * マタイ 25:1-13 3 思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが、油を用意していなかった。4 しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れもののの中に油を用意していた。(中略) 7 ひとりの女が、高価な香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、イエスに近寄り、食事の席についておられたイエスの頭に香油を注ぎかけた。

－ メシア

- * 使徒 4:27 まことに、ヘロデとポンテオ・ピラトとは、異邦人らやイスラエルの民と一緒にあって、この都に集まり、あなたから油を注がれた聖なる僕イエスに逆らい、

－ 聖霊

- * 2 コリント 1:21 あなたがたと共にわたしたちを、キリストのうちに堅くささえ、油をそそいで下さったのは、神である。
- * 1 ヨハネ 2:20 しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。
- * 1 ヨハネ 2:27 あなたがたのうちには、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない。この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい。

－ その他

- * マタイ 6:17 あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。
- イエスの時代のパレスチナのユダヤ人の服装：基本的に、図などは残っておらず、他の地域のものを参照して、復元したもので、正確ではないかも知れない。(Wikipedia: Biblical clothing, The 1901 Jewish Encyclopedia: Costume) (The Gospel of Mark by William Barclay [Link Mk6:7-11])
 1. 一番内側の衣はキトーン (: khee-tone': Mt 5:40, 10:10, Mk 6:9, 14:63, Lk 3:11, 6:29, 9:3, Jn 19:23, Acts 9:39, (keth-o'-neth: tunic, under-garment))、シンドーン、あるいはチューニック(下着)：簡単なもので、長い一枚の布が折り重ねられ、一方が縫い合わせてあった。ほとんど、足にとどくほどの長さで、上の方の隅に両腕を通す穴が切り込まれていた。そのような衣が、頭のはいる穴なしに売られていた。それが新品の証拠で、買手が好きなように、襟を整えることができるためでもあった。襟は男と女で違っていた。女の場合は、赤ん坊に乳をのませるために、襟を低くしなければならなかった。簡単なもので、内側の衣は隅に穴をあけた袋と何ら変わらなかった。もう少し進んだ型のものには、長いピッタリとした袖がついていた。ときには、法衣のように、前を金具で止められるように開いていた。
 2. 外側の衣はヒマティオン (: him-at'-ee-on: Mat 5:40, 9:16,20, 21, 11:8, 14:36, 17:2, 21:7, 8, 23:5, 24:18, 26:65, 27:31, 35, Mk 2:21, 5:27, 28, 29, 6:56, 9:3, 10:50, 11:7, 8, 13:16, 15:20, 24, Lk 5:36, 6:29, 7:25, 8:27, 44, 19:35, 36, 22:36, 23:34, John 13:4, 12, 19:2, 5, 23, 24, Acts 7:58, 9:39,

12:8, 14:14, 16:22, 18:6, 22:20, 23) と呼ばれた。昼間は上衣として、夜には毛布として用いられた。一枚の布で、左右が二メートルあまり、縦が一メートル半。五十センチずつ両側が折り込まれ、その折り込まれた部分の上部の隅に両腕を入れる穴があげられていた。ゆえに、それは、ほとんど四角形をしていた。通常それぞれ幅七十センチと長さ二メートルあまりの二枚の細長い布が縫い合わされたものでできていて、その縫い目は背中に来るようになっていた。しかし、特別なヒマティオンは、ちょうど、イエスの上衣がそうであるように（ヨハネ 19:23）一枚の布でおられたのだろう。それが主な着物だった。

3. 帯。上述の二枚の衣の上につけた。下着の裾は、働いたり走るために、帯の下に絡めこむことができた。ときには、下着が帯の上まで引き上げられた。そして、帯の上に作られた中空の場所の中に、財布や小さな荷物を入れて、持ち歩くことができた。帯はしばしば二つ折りにしたが、幅は五十センチであった。そして、二重にされた部分が胴巻きのような小袋になった。そして小袋のなかに金を入れて持ち歩いた。
4. 被り物。それは、約一メートル四十センチ四方の木綿か、または麻の一枚の布であった。色は白、青、あるいは黒でも良かった。ときには、色物の絹で作られることもあった。はすに折り、そのして頭に当て、首の後ろ、頬骨、両眼を太陽の熱と強烈な光から守った。それを弾力のある羊毛のたやすくのべる小さな輪で、頭のまわりにとめた。
5. サンダル。サンダルは単なるそのの平らな皮、羊毛、編んだ草であった。その底には、両側に皮ひもがついており、それを通して、紐が通され、サンダルを足に結びつけた。
6. ブタ袋。多分普通のずだ袋であったろう。この袋は、仔山羊の皮でできていた。しばしばその動物はまるのまま皮を剥がれた。そして、その皮は、動物の元の型、四肢、尾、頭などのすべてを保っていた。その両側に紐が付けられ肩にかけられた。羊飼い、巡礼者、旅行者は少なくとも、一日や二日分のパン、干しぶどう、オリーブ、チーズなどを入れて持ち歩いた。

ー ギリシャ語ペーラは、募金袋を意味した。祭司や信者たちが、これらの募金袋をもって神殿や神のための献金を集めにでかけたことは珍しくなかった。彼らは「村から村へだんだん増えるぶんどり物を持ち歩く敬虔な盗人たち」と記述されていた。ある碑文によると、その中で、シリアの女神のしもべと自分と呼ぶ人が、その女神のために一回の旅で七十袋を持ち帰ったと言っている。

- 足の塵を落とす

ー ラビの律法は、異邦の、または異端の国のちりは汚れており、人が他の国からパレスチナに入ったときには、汚れた国のちりは、どんなに僅かでもすべて払い落とさなければならぬという。それは、ユダヤ人は、異端の国のちりとさえ交わりを持つことができないという、明快で、形式的な拒否である。

- 宣教の結果、その後

ー マルコ 6:30,31 さて、使徒たち（シャリアハ：権威を認められた代理人）はイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。31 するとイエスは彼らに言われた、「さ

あ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。32 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。

4.33.5 記録

- 日時：2023 年 11 月 9 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）5 名

4.33.6 問いについて

1. 十二弟子について

- [DQ] 十二弟子、または弟子たちは、どのような存在だったのでしょうか。
 - － 弟子たち、おそらく、十二弟子は、つねに、イエスと一緒にいる。イエスに守られ、イエスに教えられ、叱られ、驚き、現場に立ち会っている。イエスと行動を共にし、イエスの「神の国は近い」というメッセージを近くで聞き、目撃した人たちである。
- クリスマン：使徒行伝 11:26 彼を見つけたうえ、アンテオケに連れて帰った。ふたりは、まる一年、ともどもに教会で集まりをし、大ぜいの人々を教えた。このアンテオケで初めて、弟子たちがクリスマンと呼ばれるようになった。

2. 与えた権威（7, マタイ 10:1, ルカ 9:1）

- 7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、
- マタイやルカと比較してみましょう。
 - － マタイ 10:1 そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。
 - － ルカ 9:1 それからイエスは十二弟子を呼び集めて、彼らにすべての悪霊を制し、病気をいやす力と権威とお授けになった。
- [DQ] なぜ、二人ずつ遣わしたのでしょうか。
 - － なぜ、マタイやルカにはこの記述がないのでしょうか。
 - － [参照] ルカ 10:1 その後、主は別に七十二人を選び、行こうとしておられたすべての町や村へ、ふたりずつ先におつかわしになった。
 - － [参照] 二人を派遣する記事は他にもある。

- * マルコ 11:1 さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、
- * マルコ 14:13 そこで、イエスはふたりの弟子を使いに出して言われた、「市内に行くと、水がめを持っている男に出会うであろう。その人について行きなさい。」
- * ルカ 7:18,19 ヨハネの弟子たちは、これらのことを全部彼に報告した。するとヨハネは弟子の中からふたりの者を呼んで、主のもとに送り、『『きたるべきかた』はあなたなのですか。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか』と尋ねさせた。
- * ヨハネ 1:35, 36 その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、36 イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、「見よ、神の小羊」。
- [DQ] (マルコでは、汚れた霊を制する権威だけ述べられていますが) 汚れた霊を制する権威を与えるとは、どのような意味があったと思いますか。
 - － マタイでは、「あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やす権威」、ルカでは、「悪霊を制し、病気を癒す力と権威」
 - － マルコとの違いには、どのような理由があると思いますか。
 - － 悪霊 (日本聖書協会共同訳巻末付録から): 「汚れた霊」と同じで、新約聖書では精神的、肉体的病気の原因であって、人に過ちや罪を犯させる霊。ベルゼブルは悪霊の支配者。神の霊と対比。

3. マタイとルカ (マタイ 10:5-8, ルカ 9:2)

- マタイ 10:5-8 5 イエスはこの十二人をつかわすに当り、彼らに命じて言われた、「異邦人の道に行くな。またサマリヤ人の町にはいるな。6 むしろ、イスラエルの子羊の失われた羊のところに行け。7 行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。8 病人をいやし、死人をよみがえらせ、重い皮膚病にかかった人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。
- － 「イスラエルの子羊の失われた羊」のところ限定
 - * 「イスラエルの子羊の失われた羊」とは？
 - ・ マタイでは、十二が繰り返されている。イスラエルを意識していることは、確かだろう。
- － [DQ] なぜ、異邦人の道や、サマリヤ人の町にはいるなど言っているのでしょうか。
- － 宣べ伝えるメッセージは、『天国が近づいた』
- － 活動は、「病人をいやし、死人をよみがえらせ、重い皮膚病にかかった人をきよめ、悪霊を追い出せ。」
- * [DQ] これらは、何を意味しているのでしょうか。

* イエスがしたことと同じことをすることが想定されている。しかし、結果報告はない。弟子たちが、驚くべき技をした記録は、福音書にはない。

－ ただで受けたのだから、ただで与えなさい。

* なにを教えているのでしょうか。宣教活動や、慈善活動、医療活動は、報酬をもらっては行けないのでしょうか。

- ルカ 9:2 2 また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわして

－ ルカでは、病気をなおすことが目的に入っている。

4. 持ち物について (8,9)

- 8 また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないように、パンも、袋も、帯の中に銭も持たず、9 ただわらじ^{*304}（ここと使徒 12:8 のみ）をはくだけで、下着^{*305}も二枚は着ないように命じられた。
- マタイ 10:9,10 9 財布の中に金、銀または銭を入れて行くな。10 旅行のための袋も、二枚の下着も、くつも、つえも持って行くな。働き人がその食物を得るのは当然である。
- ルカ 9:3 言われた、「旅のために何も携えるな。つえも袋もパンも銭も持たず、また下着も二枚は持たな。
- [DQ] ひとつひとつ、どのような意味があるのでしょうか。
- [DQ] 細かいところがいろいろと異なるようですが、何を伝えているのでしょうか。

5. 行った土地で、受け入れない場合について (10,11)

- 10 そして彼らに言われた、「どこへ行っても、家にはいったなら、その土地を去るまでは、そこにとどまっていなさい。11 また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話を聞きもしない所があったなら、そこから出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足の裏のちりを払い落しなさい」。
- マタイ 10:11-15 11 どの町、どの村にはいっても、その中でだれがふさわしい人か、たずね出して、立ち去るまではその人のところにとどまっておれ。12 その家にはいったなら、平安を祈ってあげなさい。13 もし平安を受けるにふさわしい家であれば、あなたがたの祈る平安はその家に来るであろう。もしふさわしくなければ、その平安はあなたがたに帰って来るであろう。14 もしあなたがたを迎えもせず、またあなたがたの言葉を聞きもしない人があれば、その家や町を立ち去る時に、足のちりを払い落しなさい。15 あなたがたによく言うておく。さばきの日には、ソドム、ゴモラの地の方が、その町よりは耐えやすいであろう。

*304 : a sandal, a sole made of wood or leather, covering the bottom of the foot and bound on with thongs

*305 : a tunic, an undergarment, usually worn next to the skin, a garment, a vestment

- ルカ 9:4,5 4 また、どこかの家にはいったら、そこに留まっておれ。そしてそこから出かけることにしなさい。5 だれもあなたがたを迎えるものがいなかったら、その町を出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足からちりを払い落しなさい。
- 最初に迎え入れてくれた家の好意を無にしてはならない。基本。
- 親切なもてなしは、東方においては聖なる義務であった。旅行者が、村に入ったとき、もてなしをとめることは彼の義務ではなく、それを提供するのが村の義務だった。(中略) ラビの律法は、異邦の、また異端の国のちりは汚れており、人が他の国からパレスチナに入ったときには、汚れた国のちりは、どんなにわずかでもすべて払い落とさなければならないと言う。それは、ユダヤ人は、異端の国のちりとさえ交わりを持つことができないという、明快で、形式的な拒否である。それは、あたかもイエスが「もし彼らが聞くことを拒んだら、あなたたちのできる唯一のことは、厳格なユダヤ人が異邦人の家に対してするように彼らを取り扱うことである」と言われたようなものである。(Wikipedia: Biblical clothing, The 1901 Jewish Encyclopedia: Costume)

6. 弟子たちの働き (12,13)

- 12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。
 - . And they cast out many devils, and anointed with oil many that were sick, and healed them.
- ルカ 9:6 弟子たちは出て行って、村々を巡り歩き、いたる所で福音を宣べ伝え、また病気をいやした。
 - . And they departed, and went through the towns, preaching the gospel, and healing every where.
- マタイは結果報告はない。
- 「悔改め」のみが書かれている。イエスについて語ったろうから、それは、すべて、神の国は近いということだったろう。それを語り、そのあとで、悔い改めを促したのだろう。
 - 悔い改めとは、どのような悔い改めだろうか。
- [DQ] 弟子たちにとって、派遣はどのような意味を持ち、どのように受け止められたのだろうか。
- [DQ] 派遣は、成功したのだろうか。継続して、なんども行われたのだろうか。

4.33.7 メモ

- 二人ずつの記述が、マタイ、ルカ（72 人派遣時には記述がある）にないのは、固定した組であることを想定し、様々な詮索をすることを拒否したのではないか。たとえば、イスカリオテのユダとのペア、兄弟ペ

アなど。

- 持ち物も、使徒としての働きと、このときのものが統合していった可能性がある。基本的には、神様に頼る、神様に委ねることが背景にあるのだろう。
- 二枚の下着：一般的に、イエスと行動していたときには、野宿も多かったろう。漁師の働きなどを考えると、遠くに旅するときは別として、外套は、携えてはいなかっただろう。すると、どうしても、寒さを防ぐため、下着を二枚着ることは起こる。実際、二枚着ていた人もいたのではないかと思う。ここでは、家に泊まることが想定され、その場合には、不要となることが、前提とされているようである。
- マタイでは、結果報告がない。将来的な、使徒としての働きまでを意識しているのでは。
- オリーブ油を塗ることは一般的な治療である。それが、奇跡を起こすような力にだんだん拡大していったのだろう。オリーブ油を塗るなど、まさに、癒やす（ i) to serve, do service, ii) to heal, cure, restore to health）というより、治療をする、ケアをするに近い感じがする。仕えるは、精神的には、より、適切でもある。油は持っていたのだろうか。そこは、疑問が残る。
- 派遣は、弟子たちにどのような意味があったかは、よくわからない。イエスを慕ってついてきていたことは確かだと思うが、自分から宣教に出ていくとは、考えていなかった人たちも多かったのではないだろうか。このあと、6:30,31 に簡単な報告があるが、疲れていたことだろう。先行きに関しても、すでに、カペナウムでは会堂で教える機会を失い、ナザレでも、追い出されているように見える。弟子たちが、この時点で、歓迎されたとは、考えにくい。

4.34 6:14-29 洗礼者ヨハネ、殺される

14 さて、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王の耳にはいった。ある人々は「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」と言い、15 他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。16 ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首を切ったあのヨハネがよみがえったのだ」と言った。17 このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤをめとったが、そのことで、人をつかわし、ヨハネを捕えて獄につないだ。18 それは、ヨハネがヘロデに、「兄弟の妻をめとるのは、よろしくない」と言ったからである。19 そこで、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。20 それはヘロデが、ヨハネは正しくて聖なる人であることを知って、彼を恐れ、彼に保護を加え、またその教を聞いて非常に悩みながらも、なお喜んで聞いていたからである。21 ところが、よい機会がきた。ヘロデは自分の誕生日の祝に、高官や将校やガリラヤの重立った人たちを招いて宴会を催したが、22 そこへ、このヘロデヤの娘がはいってきて舞をまい、ヘロデをはじめ列座の人たちを喜ばせた。そこで王はこの少女に「ほしいものはなんでも言いなさい。あなたにあげるから」と言い、23 さらに「ほしければ、この国の半分でもあげよう」と誓って言った。24 そこで少女は座をはずして、母に「何をお願いしましょうか」と尋ねると、母は「バプテスマのヨハネの首を」と答えた。25 するとすぐ、少女は急いで王のところに行って願った、「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆にのせて、それをいただきとうございます」。26 王は非常に困ったが、

いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、少女の願いを退けることを好まなかった。27 そこで、王はすぐに衛兵をつかわし、ヨハネの首を持って来るように命じた。衛兵は出て行き、獄中でヨハネの首を切り、28 盆にのせて持ってきて少女に与え、少女はそれを母にわたした。29 ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、その死体を引き取りにきて、墓に納めた。

4.34.1 マタイ 14:1-12

14:1 そのころ、領主ヘロデはイエスのうわさを聞いて、2 家来に言った、「あれはバプテスマのヨハネだ。死人の中からよみがえったのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」。3 というのは、ヘロデは先に、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、獄に入れていた。4 すなわち、ヨハネはヘロデに、「その女をめとるのは、よろしくない」と言ったからである。5 そこでヘロデはヨハネを殺そうと思ったが、群衆を恐れた。彼らがヨハネを預言者と認めていたからである。6 さてヘロデの誕生日の祝に、ヘロデヤの娘がその席上で舞をまい、ヘロデを喜ばせたので、7 彼女の願うものは、なんでも与えようと、彼は誓って約束までした。8 すると彼女は母にそそのかされて、「バプテスマのヨハネの首を盆に載せて、ここに持ってきていただきとうございます」と言った。9 王は困ったが、いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、それを与えるように命じ、10 人をつかわして、獄中でヨハネの首を切らせた。11 その首は盆に載せて運ばれ、少女にわたされ、少女はそれを母のところに持って行った。12 それから、ヨハネの弟子たちがきて、死体を引き取って葬った。そして、イエスのところに行って報告した。

4.34.2 ルカ 9:7-9

7 さて、領主ヘロデはいろいろな出来事を耳にして、あわて惑っていた。それは、ある人たちは、ヨハネが死人の中からよみがえったと言い、8 またある人たちは、エリヤが現れたと言い、またほかの人たちは、昔の預言者のひとりが復活したのだと言っていたからである。9 そこでヘロデが言った、「ヨハネはわたしが生きて首を切ったのだが、こうしてうわさされているこの人は、いったい、だれなのだろう」。そしてイエスに会ってみようと思っていた。

[マルコによる福音書 6 章 14-29 節福音書対照表](#)

4.34.3 問い

1. 登場人物について確認しましょう。
2. イエスのことを人々は、そしてヘロデはどのように考えていましたか。(14,15,16)
3. ヘロデはどのような理由でヨハネを捕らえますか。(17,18)
4. ヘロデと、ヘロデヤにとって、ヨハネはどのような存在だったのでしょうか。(19,20)
5. ヘロデは、なぜ、ヨハネを殺す決断をしたのでしょうか。(21-29)

6. イエスや弟子たちにとって、ヨハネの処刑は、どのような意味を持っていたでしょうか。

4.34.4 参照

- バプテスマのヨハネ：[参照](#)、[聖書箇所](#)
- ヘロデの系図：[Herod's Family Tree](#)
 - ヘロデ・アンティパス：ガリラヤとベレアの国王
 - アレタ王の娘と結婚するが、返したため、責められ、ローマ軍に助けられる。
 - ピリポの領地をアグリッパに与え王とした。それに怒り、ヘロデヤがローマに嘆願に行くが、アグリッパも連絡をし、アンティパスはガリアに配流。
- ヨセフス「ユダヤ古代史」の記述：参照：[ヨセフス \(Flavius Josephus\)](#)
 - [XVIII-5-1](#): 1. About this time Aretas [the king of Arabia Petres] and Herod had a quarrel on the account following: Herod the tetrarch had, married the daughter of Aretas, and had lived with her a great while; but when he was once at Rome, he lodged with Herod, who was his brother indeed, but not by the same mother; for this Herod was the son of the high priest Sireoh's daughter. However, he fell in love with Herodias, this last Herod's wife, who was the daughter of Aristobulus their brother, and the sister of Agrippa the Great. This man ventured to talk to her about a marriage between them; which address, when she admitted, an agreement was made for her to change her habitation, and come to him as soon as he should return from Rome: one article of this marriage also was this, that he should divorce Aretas's daughter. So Antipas, when he had made this agreement, sailed to Rome; but when he had done there the business he went about, and was returned again, his wife having discovered the agreement he had made with Herodias, and having learned it before he had notice of her knowledge of the whole design, she desired him to send her to Macherus, which is a place in the borders of the dominions of Aretas and Herod, without informing him of any of her intentions. Accordingly Herod sent her thither, as thinking his wife had not perceived any thing; now she had sent a good while before to Macherus, which was subject to her father and so all things necessary for her journey were made ready for her by the general of Aretas's army; and by that means she soon came into Arabia, under the conduct of the several generals, who carried her from one to another successively; and she soon came to her father, and told him of Herod's intentions. So Aretas made this the first occasion of his enmity between him and Herod, who had also some quarrel with him about their limits at the country of Gamalitis. So they raised armies on both sides, and prepared for war, and sent their generals to fight instead of themselves; and when they had joined battle, all Herod's army was destroyed by the treachery of some fugitives, who,

though they were of the tetrarchy of Philip, joined with Aretas's army.. So Herod wrote about these affairs to Tiberius, who being very angry at the attempt made by Aretas, wrote to Vitellius to make war upon him, and either to take him alive, and bring him to him in bonds, or to kill him, and send him his head. This was the charge that Tiberius gave to the president of Syria.

1. この頃、アレタス [アラビア・ペトレスの王] とヘロデは、次のような理由でいさかいを起こした：領主（四君主：テトラーク）ヘロデはアレタスの娘と結婚し、長らく彼女と暮らしていたが、ローマに行ったとき、ヘロデのもとに身を寄せた。このヘロデは大祭司シレオの娘の子である。しかし、彼はこのヘロデの妻ヘロディアスと恋に落ちた。ヘロディアスは彼らの兄弟アリストブルスの娘で、アグリッパ王の妹であった。領主ヘロデは彼女に結婚の話を持ちかけ、彼女がそれを受け入れ、契約を結んだ。それには、彼がローマから戻り次第、彼女が、彼のもとに来ることと、アグリッパが妻と離婚することが書かれていた。ところが、アンティパスは、この契約を結び、ローマでの用事を済ませて再び戻ってきたときには、彼の妻は、彼が、ヘロディアスと交わした契約を発見していたため、アレタスとヘロデの領地の境界にある場所であるマケロスへ送り届けるように頼んだ。そこでヘロデは、自分の妻が何も察していないと思い、彼女をそこへ送りどけた。さて、旅に必要なものはすべて、アレタスの軍の将軍が彼女のために用意した。アレタスはこれをきっかけとして、ヘロデと敵対した。実は、アレタスはヘロデとガマリテス国での境界線についても争いがあった。そこで、両軍は挙兵し、戦争の準備を整え、自分たちの代わりに将兵を戦わせた。両軍が戦いに参加したとき、ヘロデの軍は、フィリポの四王国の者でありながらアレタスの軍に加わった逃亡者たちの裏切りによって、すべて壊滅状態となった。そこでヘロデはこれらのことをティベリウスに書き送った。ティベリウスはアレタスの企てに非常に腹を立て、シリアの大統領のヴィテリウスに、アレタスを生け捕りにして拘束し、あるいは殺してその首を送るようにと、書き送った。

- XVIII-5-2: 2. Now some of the Jews thought that the destruction of Herod's army came from God, and that very justly, as a punishment of what he did against John, that was called the Baptist: for Herod slew him, who was a good man, and commanded the Jews to exercise virtue, both as to righteousness towards one another, and piety towards God, and so to come to baptism; for that the washing [with water] would be acceptable to him, if they made use of it, not in order to the putting away [or the remission] of some sins [only], but for the purification of the body; supposing still that the soul was thoroughly purified beforehand by righteousness. Now when [many] others came in crowds about him, for they were very greatly moved [or pleased] by hearing his words, Herod, who feared lest the great influence John had over the people might put it into his power and inclination to raise a rebellion, [for they seemed ready to do any thing he should advise,] thought it best, by putting him to death, to prevent any mischief he might cause, and not bring himself into difficulties, by sparing a man who might make him repent of it when it would be too late. Accordingly he was sent a prisoner, out of Herod's suspicious temper, to Macherus, the castle I before mentioned, and was there put to death. Now the Jews had an opinion that the destruction of this army was sent as a punishment upon Herod, and a mark of God's displeasure to him. 2. さて、ユダヤ人の中には、ヘロデの軍隊が滅ぼされたのは、彼が洗礼者と呼ばれたヨハネに対して行ったことの罰として、神からもたらされたものであり、それは非常に

正当なものであると考える者もいた：というのは、ヘロデは善人であったヨハネを殺害し宝である。ヨハネは、ユダヤ人に対し、互いに対する義と神に対する敬虔の両面で徳を積むように命じ、洗礼を受けるように命じていた。さて、人々は、彼の言葉を聞いて非常に感動した（あるいは喜んだ）ので、多くの人々が群れをなして彼の周りに集まってきたので、ヘロデは、ヨハネが民衆に及ぼす影響力の大きさが、反乱を起こす力になると感じ、恐れた。そこでヨハネは、ヘロデの疑心暗鬼から、先に述べたマケロス城に送られ、しばらく、牢に入れられていたが、そこで死刑に処せられた。このような次第で、ユダヤ人たちは、この軍隊の敗北はヘロデに対する罰であり、ヘロデに対する神の不興の印であるという意見を持っていた。

－ ヘロデヤとの結婚のことなど

－ XVIII-5-4: 4. Herod the Great had two daughters by Mariamne, the [grand] daughter of Hyrcanus; the one was Salampsio, who was married to Phasaelus, her first cousin, who was himself the son of Phasaelus, Herod's brother, her father making the match; the other was Cypros, who was herself married also to her first cousin Antipater, the son of Salome, Herod's sister. Phasaelus had five children by Salampsio; Antipater, Herod, and Alexander, and two daughters, Alexandra and Cypros; which last Agrippa, the son of Aristobulus, married; and Timius of Cyprus married Alexandra; he was a man of note, but had by her no children. Agrippa had by Cypros two sons and three daughters, which daughters were named Bernice, Mariamne, and Drusus; but the names of the sons were Agrippa and Drusus, of which Drusus died before he came to the years of puberty; but their father, Agrippa, was brought up with his other brethren, Herod and Aristobulus, for these were also the sons of the son of Herod the Great by Bernice; but Bernice was the daughter of Costobarus and of Salome, who was Herod's sister. Aristobulus left these infants when he was slain by his father, together with his brother Alexander, as we have already related. But when they were arrived at years of puberty, this Herod, the brother of Agrippa, married Mariamne, the daughter of Olympias, who was the daughter of Herod the king, and of Joseph, the son of Joseph, who was brother to Herod the king, and had by her a son, Aristobulus; but Aristobulus, the third brother of Agrippa, married Jotape, the daughter of Sampsigeramus, king of Emesa; they had a daughter who was deaf, whose name also was Jotape; and these hitherto were the children of the male line. But Herodias, their sister, was married to Herod [Philip], the son of Herod the Great, who was born of Mariamne, the daughter of Simon the high priest, who had a daughter, Salome; after whose birth Herodias took upon her to confound the laws of our country, and divorced herself from her husband while he was alive, and was married to Herod [Antipas], her husband's brother by the father's side, he was tetrarch of Galilee; but her daughter Salome was married to Philip, the son of Herod, and tetrarch of Trachonitis; and as he died childless, Aristobulus, the son of Herod, the brother of Agrippa, married her; they had three sons, Herod, Agrippa, and Aristobulus; and this was the posterity of Phasaelus and Salampsio. But the daughter of Antipater by Cypros was Cypros, whom Alexas Selcias, the son of Alexas, married; they had a daughter, Cypros; but Herod and Alexander, who, as we told you, were the brothers of Antipater, died childless. As to Alexander, the son of

Herod the king, who was slain by his father, he had two sons, Alexander and Tigranes, by the daughter of Archelaus, king of Cappadocia. Tigranes, who was king of Armenia, was accused at Rome, and died childless; Alexander had a son of the same name with his brother Tigranes, and was sent to take possession of the kingdom of Armenia by Nero; he had a son, Alexander, who married Jotape, 17 the daughter of Antiochus, the king of Commagena; Vespasian made him king of an island in Cilicia. But these descendants of Alexander, soon after their birth, deserted the Jewish religion, and went over to that of the Greeks. But for the rest of the daughters of Herod the king, it happened that they died childless. And as these descendants of Herod, whom we have enumerated, were in being at the same time that Agrippa the Great took the kingdom, and I have now given an account of them, it now remains that I relate the several hard fortunes which befell Agrippa, and how he got clear of them, and was advanced to the greatest height of dignity and power.

4. ヘロデ大王には、二人、マリムネという名前の娘がいた。一人はサランプシオで、彼女のいとこであるファサエルスと結婚、ファサエルスはヘロデの兄ファサエルスの子であった。ファサエルスはサランプシオとの間に、アンティパテル、ヘロデ、アレクサンダー、アレクサンドラ、シプロスの5人の子をもうけたが、アリストブルスの子アグリッパが結婚し、キプロスのティミウスがアレクサンドラと結婚した。アグリッパはキプロスとの間に二人の息子と三人の娘をもうけたが、娘たちはベルニス、マリムネ、ドルシウスと名づけられ、息子たちの名はアグリッパとドルススであった；しかし、その父アグリッパは、ヘロデとアリストブルスという他の兄弟たちと共に育てられ、これらもまた、ヘロデ大王の子ベルニケの子であった。アリストブルスは、すでに述べたように、弟のアレクサンダーとともに父に殺されたとき、これらの幼子を残した。しかし、アグリッパの弟ヘロデは、彼らが思春期を迎えたとき、ヘロデ王の娘であるオリンピアスの娘マリムネと、ヘロデ王の兄弟であるヨセフの子ヨセフの娘マリムネと結婚し、彼女との間に子アリストブルスをもうけた；しかし、アグリッパの三番目の兄アリストブルスは、エメサの王サンプシゲラムスの娘ヨタベと結婚し、ふたりの間には耳の聞こえない娘がいたが、その名もヨタベであった。しかし、彼女の妹ヘロディアスは、ヘロデ大王の子ヘロデ〔フィリポ〕と結婚した。ヘロデ〔フィリポ〕は、大祭司シモンの娘マリムネとの間に生まれ、娘サロメをもうけた。ヘロデ〔フィリポ〕が生まれた後、ヘロディアスはわが国の掟を混乱させるために、夫が活着している間に離縁し、夫の父方の兄弟ヘロデ〔アンティパス〕と結婚した；しかしその娘サロメは、ヘロデの子でトラコニテスの四君子であったフィリポと結婚し、彼は子を産まずに死んだので、ヘロデの子でアグリッパの兄弟であったアリストブルスが彼女と結婚し、ヘロデ、アグリッパ、アリストブルスの三人の子をもうけた。アルメニアの王であったティグラネスはローマで告発され、子なくして死んだ。アレクサンダーには兄ティグラネスと同名の息子がおり、ネロによってアルメニア王国を占領するために派遣された。アレクサンダーには息子アレクサンダーがおり、彼はコンマゲナの王アンティオコスの娘ヨタベと結婚した。ベスパシアヌスは彼をキリキアの島の王とした。しかし、アレクサンダーの子孫たちは、生まれて間もなく、ユダヤ人の宗教を捨て、ギリシア人の宗教に帰依した。しかし、ヘロデ王の残りの娘たちには子供がなく、死んだ。我々が列挙したヘロデの子孫たちは、アグリッパ大王が王権を握ったのと同時期に存在し、私は今、彼らについて説明したので、あとは、アグリッパに降りかかった幾つかの苦難の運命と、彼がいかにしてそれを乗り越え、威厳と権力の最大の高みにまで昇りつめたかについて述べるだ

けである。

- ヨセフスとの差異

- マルコではピリポ、ヨセフスではヘロデ大王とマリアンヌ 2 世との間のヘロデ
- マルコでは、ヨハネが殺されたのは、ガリラヤ湖のほとりのテベリアであるように思えるが、ヨセフスでは、死海の東にあるマルケスの要塞
- マルコでは、ヘロディアの憎しみによって殺されたことになっているが、ヨセフスでは、ヨハネが結婚の問題で、ヘロデを非難したことは、少しも述べていない。むしろ、ヨハネの名声が高まり、彼が民衆の支持を得て、反乱を起こすことをヘロデが恐れたためとしている。

- 律法違反

- レビ 18:16 あなたの兄弟の妻を犯してはならない。それはあなたの兄弟をはずかしめることだからである。
- レビ 20:21 人がもし、その兄弟の妻を取るならば、これは汚らわしいことである。彼はその兄弟をはずかしめたのであるから、彼らは子なき者となるであろう。

4.34.5 記録

- 日時：2023 年 11 月 16 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.34.6 問いについて

1. 登場人物について確認しましょう。

- [DQ] 特に、イエスや、イエスの弟子たちとの関係も分かれば列挙しましょう。
- バプテスマのヨハネ：マルコ 1:1-11（ヨハネとイエス）、2:18-22（断食、参照：マタイ 9:14）、このあと 8:27-30（ペトロの告白）、11:27-33（権威）
- ルカ 3:1,2 皇帝テベリオ在位（AD14-AD37）の第十五年（AD27-29）、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主（BC4-AD39）、その兄弟ピリポがイツリヤ・テラコニテ地方の領主（BC4-AD34）、ルサニヤがアビレネの領主、2 アンナスとカヤパとが大祭司であったとき、神の言が荒野でザカリヤの子ヨハネに臨んだ。
- ヘロデ（Herod Antipas II）ヘロデ大王とマルタケの子：ルカ 13:31-35 31 ちょうどその時、あるパリサイ人たちが、イエスに近寄ってきて言った、「ここから出て行きなさい。ヘロデがあなたを殺そ

うとしています」。32 そこで彼らに言われた、「あのきつねのところへ行ってこう言え、『見よ、わたしはきょうもあすも悪霊を追い出し、また、病気をいやし、そして三日目にわざを終えるであろう。33 しかし、きょうもあすも、またその次の日も、わたしは進んで行かねばならない。預言者がエルサレム以外の地で死ぬことは、あり得ないからである』。ルカ 23:5-12 7 そしてヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ちょうどこのころ、ヘロデがエルサレムにいたのをさいわい、そちらへイエスを送りとどけた。8 ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。

- ヘロデヤ (Herodias)：ヘロデ大王とマリアンヌ I の子のアリストブルスの子。ヘロデ大王とマリアンヌ II の子ヘロデ・ピリポ I と結婚、その子はサロメ (ヘロデ大王とクレオパトラの子、ヘロデ・ピリポ II (ルカ 3:1) と結婚)
- エリヤ、昔の預言者

2. イエスのことを人々は、そしてヘロデはどのように考えていましたか。(14,15,16)

- 14 さて、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王の耳にはいった。ある人々は「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」と言い、15 他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。16 ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首を切ったあのヨハネがよみがえったのだ」と言った。
- マタイ 14:1 そのころ、領主ヘロデはイエスのうわさを聞いて、2 家来に言った、「あれはバプテスマのヨハネだ。死人の中からよみがえったのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」。
- ルカ 9:7b-9 それは、ある人たちは、ヨハネが死人の中からよみがえったと言い、8 またある人たちは、エリヤが現れたと言い、またほかの人たちは、昔の預言者のひとりが復活したのだと言っていたからである。9 そこでヘロデが言った、「ヨハネはわたしがすでに首を切ったのだが、こうしてうわさされているこの人は、いったい、だれなのだろう」。そしてイエスに会ってみようと思っていた。
- 人々の説

1. 「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」：それだけ、ヨハネへの期待が大きかった。

－ [DQ] バプテスマのヨハネとはどのような人ですか。

－ [DQ] なぜ、バプテスマのヨハネがよみがえったと思ったのでしょうか。

* 人々がそう考えた理由と、ヘロデがそう考えた理由は異なるかもしれない。そこで、まずは、人々の考え。

－ マタイでの第一声は、同じ。

2. 「彼はエリヤだ」メシアの先ぶれ：過越の祭りではエリヤの席がそなえられている。

3.「昔の預言者のような預言者だ」300年も現れていない：このように主は言われる。

- [DQ] 弟子たちは、どう思っていたのでしょうか。

– 4:41 では弟子たちもイエスはだれかを疑問としていた。

- [DQ] イエスは自分をどう認識していたのでしょうか。

– 1;9-11 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから出てきて、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。10 そして、水の中から上がられるとすぐ、天が裂けて、聖霊がはどのように自分に下って来るのを、ごらんになった。11 すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

- [DQ] なぜ王は、イエスがヨハネの生まれ変わりだと思ったのでしょうか。

- [DQ] ルカを見ると、ヘロデはイエスに会ってみたいと思ってたとありますが、それはなぜでしょうか。

– ルカ 23:6-12 ピラトはこれを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ね、7 そしてヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ちょうどこのころ、ヘロデがエルサレムにいたのをさいわい、そちらへイエスを送りとどけた。8 ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。9 それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかった。10 祭司長たちと律法学者たちとは立って、激しい語調でイエスを訴えた。11 またヘロデはその兵卒どもと一緒にあって、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はなやかな着物を着せてピラトへ送るかえした。12 ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。

- オリゲネスは、イエスとヨハネが互いに似ていたとの伝説を述べている。A. Aplummer: An Exegetical Commentary on the Gospel accoring to St. Matthew, Eerdansm p.211

- イエスの母マリアと、ヨハネの母エリザベトとの関係

– ルカ 1:36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。

– ルカ 1:39,40 そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、40 ザカリヤの家にはいってエリサベツにあいさつした。

- ヨハネ 10:41 多くの人々がイエスのところにきて、互に言った、「ヨハネはなんのしるしも行わなかったが、ヨハネがこのかたについて言ったことは、皆ほんとうであった」。

3. ヘロデはどのような理由でヨハネを捕らえますか。(17,18)

- 17 このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤをめとったが、そのことで、人をつかわし、ヨハネを捕えて獄につないだ。18 それは、ヨハネがヘロデに、「兄弟の妻をめとるのは、よろしくない」と言ったからである。
- マタイ 14:3 というのは、ヘロデは先に、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、獄に入れていた。4 すなわち、ヨハネはヘロデに、「その女をめとるのは、よろしくない」と言ったからである。
- ルカ 3:19,20 ところで領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロデヤのことで、また自分がしたあらゆる悪事について、ヨハネから非難されていたので、20 彼を獄に閉じ込めて、いろいろな悪事の上に、もう一つこの悪事を重ねた。

4. ヘロデと、ヘロデヤにとって、ヨハネはどのような存在だったのでしょうか。(19,20)

- 19 そこで、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。20 それはヘロデが、ヨハネは正しくて聖なる人であることを知って、彼を恐れ、彼に保護を加え、またその教を聞いて非常に悩みながらも、なお喜んで聞いていたからである。
- マタイ 14:5 そこでヘロデはヨハネを殺そうと思ったが、群衆を恐れた。彼らがヨハネを預言者と認めていたからである。
- [DQ] ヘロデとヘロデヤでは何が違いますか。それは、なぜでしょう。
- [DQ] ヘロデは何に戸惑っていた（口語：あわて惑っていた、新改訳：ひどく当惑していた）のでしょうか。
- ヘロデヤ：列王記上 23:9 のイザベル

5. ヘロデは、なぜ、ヨハネを殺す決断をしたのでしょうか。(21-29)

- 21 ところが、よい機会がきた。ヘロデは自分の誕生日の祝に、高官や将校やガリラヤの重立った人たちを招いて宴会を催したが、22 そこへ、このヘロデヤの娘がはいってきて舞をまい、ヘロデをはじめ列座の人たちを喜ばせた。そこで王はこの少女に「ほしいものはなんでも言いなさい。あなたにあげるから」と言い、23 さらに「ほしければ、この国の半分でもあげよう」と誓って言った。24 そこで少女は座をはずして、母に「何をお願いしましょうか」と尋ねると、母は「バプテスマのヨハネの首を」と答えた。25 するとすぐ、少女は急いで王のところに行って願った、「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆にのせて、それをいただきとうございます」。26 王は非常に困ったが、いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、少女の願いを退けることを好まなかった。27 そこで、王はすぐに衛兵をつかわし、ヨハネの首を持って来るように命じた。衛兵は出て行き、獄中でヨハネの首を切り、28 盆にのせて持ってきて少女に与え、少女はそれを母にわたした。29 ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、その死体を引き取りにきて、墓に納めた。
- マタイ 14:6 さてヘロデの誕生日の祝に、ヘロデヤの娘がその席上で舞をまい、ヘロデを喜ばせたの

で、7 彼女の願うものは、なんでも与えようと、彼は誓って約束までした。8 すると彼女は母にそそのかされて、「バプテスマのヨハネの首を盆に載せて、ここに持ってきていただきとうございます」と言った。9 王は困ったが、いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、それを与えるように命じ、10 人をつかわして、獄中でヨハネの首を切らせた。11 その首は盆に載せて運ばれ、少女にわたされ、少女はそれを母のところに持って行った。12 それから、ヨハネの弟子たちがきて、死体を引き取って葬った。そして、イエスのところに行って報告した。

- マルケスの城の土牢：死海の東岸を見下ろした尾根の上
- [DQ] ヘロデは殺すことを望んでいたでしょうか。
- レビ 5:45？ 誤った請願（誓は複数、なんども誓った）
- なぜ、王は心を痛めたのでしょうか。
- ヘロデ党
 - － マルコ 3:6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。
 - － マルコ 12:13 さて、人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。
 - － マタイ 22:16 そして、彼らの弟子を、ヘロデ党の者たちと共に、イエスのもとにつかわして言わせた、「先生、わたしたちはあなたが真実なかたであって、真理に基いて神の道を教え、また、人に分け隔てをしないで、だれをもはばかられないことを知っています。
- ヘロデのパンだね
 - － マルコ 8:15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。（マルコ 8:14-21, マタイ 16:5-12 では、パリサイ人のパンだねと、サドカイ人のパンだね）
 - － [DQ] ヘロデのパンだねとは何なののでしょうか。（宿題）
- ルカ 8:3 ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。
- ルカ 18:31 ちょうどその時、あるパリサイ人たちが、イエスに近寄ってきて言った、「ここから出て行きなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしています」。
- ルカ 23:15 ヘロデもまたみとめなかった。現に彼はイエスをわれわれに送りかえしてきた。この人はならん死に当るようなことはしていないのである。

6. イエスや弟子たちにとって、このことは、どのような意味を持っていたでしょうか。

- 参照：マタイ 14:13 イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとりで寂しい所へ行かれた。しかし、群衆はそれと聞いて、町々から徒歩であとを追ってきた。
- 参照：マタイ 4:12 さて、イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。

4.34.7 メモ

- ヘロデが、バプテスマのヨハネを殺した理由が、ヘロデヤのことだと、マルコ、マタイには、書かれているが、ここに描かれているように、殺すのは、一般民衆にわかりやすいかもしれないが、違和感もある。それもあり、教養人ルカは、それを、書いていないように思う。そして捕まえた箇所「ルカ 3:19,20 とところで領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロデヤのことで、また自分がしたあらゆる悪事について、ヨハネから非難されていたので、20 彼を獄に閉じ込めて、いろいろな悪事の上に、もう一つこの悪事を重ねた。」と、それまでマルコなどに書かれていることも踏まえつつ、「あらゆる悪事」という表現をしているのかと思った。もしかすると、ルカは、ヨセフスも読んでいたかもしれない。それと引き換え、ペテロは、民衆の中に流布されていた、わかりやすい理由や、エピソードを語ったのかもしれない。ルカにある、ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナからの情報かもしれない。
- イエスや、弟子たちへの影響は、よくは分からないが、ヨハネの弟子から、イエスの弟子になった人たちもいたことを考えると、深刻であったろう。ヘロデがヨハネの関係もある程度知っていたとすると、希望ももっていたかもしれない。それは、打ち碎かれることになる。このとき、すでに、イエスの環境はあまり良くなかったことも、あわせて考えるべきである。
- 準備をしていて、「マルコ 8:15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、『パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ』と言われた。」が気になった。パリサイ人のパンだねは、律法主義のようなものとして、ある程度想像がつくが、ヘロデのパンだねとは、何だろう、どう表現したら良いだろうか考えた。その箇所を学ぶ時までの宿題だと自らに言い聞かせたが、現時点での考えとしては、この箇所で見られていることから考えると「自分の罪、悪、変えるべきことを認識しながら、方向転換（メタノイア：悔い改め）をしない、一步を踏み出さない」ということかなと思う。ひとは、一步を踏み出しても、むしろ、神の前に正しく生きることはできない。しかし、一步を踏み出すことが大切であることは、確かだ、それなしには、始まらない。まさに、弟子たちのメッセージ「悔い改めよ」、これは、イエスのメッセージの一部でもある。ヘロデは、それをしなかった。たしかに、一步を踏み出すことは、特に、社会的地位を持っているものにとっては難しいのだろう。しかし、それをするかどうか、天地の差がある。と、現時点では、考える。

6:30-44 五千人に食べ物を与える

30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。
 31 するとイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。32 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行行った。33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づい

て、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。35 ところが、はや時もおそくなったので、弟子たちはイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。36 みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」。37 イエスは答えて言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちが二百デナリものパンを買ってきて、みんなに食べさせるのですか」。38 するとイエスは言われた。「パンは幾つあるか。見てきなさい」。彼らは確かめてきて、「五つあります。それに魚が二ひき」と言った。39 そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。40 人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。41 それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。42 みんなの者は食べて満腹した。43 そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。44 パンを食べた者は男五千人であった。

4.34.8 マタイ 14:13-21

13 イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとりで寂しい所へ行かれた。しかし、群衆はそれと聞いて、町々から徒歩であとを追ってきた。14 イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。15 夕方になったので、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。群衆を解散させ、めいめいで食物を買いに、村々へ行かせてください」。16 するとイエスは言われた、「彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい」。17 弟子たちは言った、「わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません」。18 イエスは言われた、「それをここに持ってきなさい」。19 そして群衆に命じて、草の上にすわらせ、五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。20 みんなの者は食べて満腹した。パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。21 食べた者は、女と子供とを除いて、おおよそ五千人であった。

4.34.9 ルカ 9:10-17

10 使徒たちは帰ってきて、自分たちのしたことをすべてイエスに話した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。11 ところが群衆がそれと知って、ついてきたので、これを迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する人たちをいやされた。12 それから日が傾きかけたので、十二弟子がイエスのもとにきて言った、「群衆を解散して、まわりの村々や部落へ行って宿を取り、食物を手に入れるようにさせてください。わたしたちはこんな寂しい所にきているのですから」。13 しかしイエスは言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。彼らは言った、「わたしたちにはパン五つと魚二ひきしかありません、この大ぜいの人のために食物を買に行かしなければ」。14 というのは、男が五千人ばかりもいたからである。しかしイエスは弟子たちに言われた、「人々をおおよそ五十人ずつ

の組にして、すわらせなさい」。15 彼らはそのとおりにして、みんなをすわらせた。16 イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福してさき、弟子たちにわたして群衆に配らせた。17 みんなの者は食べて満腹した。そして、その余りくずを集めたら、十二かごであった。

4.34.10 ヨハネ 6:1-14

1 そののち、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。2 すると、大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさっていたしるしを見たからである。3 イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。4 時に、ユダヤ人の祭である過越が間近になっていた。5 イエスは目をあげ、大ぜいの群衆が自分の方に集まって来るのを見て、ピリポに言われた、「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか」。6 これはピリポをためそうとして言われたのであって、ご自分ではしようとすることを、よくご承知であった。7 すると、ピリポはイエスに答えた、「二百デナリのパンがあっても、めいめいが少しずついただくにも足りませんまい」。8 弟子のひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った、9 「ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。10 イエスは「人々をすわらせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。そこにすわった男の数は五千人ほどであった。11 そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。12 人々がじゅうぶんに食べたのち、イエスは弟子たちに言われた、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」。13 そこで彼らが集めると、五つの大麦のパンを食べて残ったパンくずは、十二のかごにいっぱいになった。14 人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。

[マルコによる福音書 6 章 30-44 節福音書対照表](#)

4.35 6:30-34 五千人に食べ物を与える（1）

30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。31 するとイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。32 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。

4.35.1 マタイ 14:13-14

13 イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとりで寂しい所へ行かれた。しかし、群衆はそれと聞いて、町々から徒歩であとを追ってきた。14 イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。

4.35.2 ルカ 9:10-11

10 使徒たちは帰ってきて、自分たちのしたことをすべてイエスに話した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。11 ところが群衆がそれと知って、ついてきたので、これを迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する人たちをいやされた。

4.35.3 ヨハネ 6:1-3

1 そののち、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。2 すると、大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさっていたしるしを見たからである。3 イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。

[マルコによる福音書 6 章 30-34 節福音書対照表](#)

4.35.4 問い

1. 弟子たちは、どのように、送り出されましたか。(6:7-13)
2. 弟子たちが戻ってきたときの状態はどのように描かれていますか。(30-32)
3. このときの、弟子たちや、イエスはどのような状態だったのでしょうか。
4. 群衆はどうしますか。(33)
5. イエスは大勢の群衆をみてなぜ深く憐れまれたのでしょうか。(34)
6. イエスはどうしますか。イエスが、たいせつにしていたことは何なののでしょうか。(34 および並行箇所)

4.35.5 参照

- 地図：イエスの時代のガリラヤ ([107 Galilee in the time of Jesus](#))
- 地図：ガリラヤ湖周辺 ([108 The Ministry of Jesus Around the Sea of Galilee](#))
- Google Map：[ティベリアス湖](#)
- [to be moved as to one's bowels, hence to be moved with compassion, have compassion \(for the bowels were thought to be the seat of love and pity\)](#)
 - ー マタイ 9:36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。

- － マタイ 14:14 イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。
 - － マタイ 15:32 イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。しかし、彼らを空腹のまま帰らせたくはない。恐らく途中で弱り切ってしまうであろう」。
 - － マタイ 18:27 僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。
 - － マタイ 20:34 イエスは深くあわれんで、彼らの目にさわられた。すると彼らは、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。
 - － マルコ 1:41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわし、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわし、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。
 - － マルコ 6:34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。
 - － マルコ 8:2 「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。
 - － マルコ 9:22 霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。
 - － ルカ 7:13 主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、「泣かないでいなさい」と言われた。
 - － ルカ 10:33 ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、
 - － ルカ 15:20 そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。
- 飼う者のない羊
 - － 民数記 27:15-17 モーセは主に言った、16 「すべての肉なるものの命の神、主よ、どうぞ、この会衆の上にひとりの人を立て、17 彼らの前に出入りし、彼らを導き出し、彼らを導き入れる者とし、主の会衆を牧者のない羊のようにしないでください」。
 - － 列王記上 22:17 彼は言った、「わたしはイスラエルが皆、牧者のない羊のように、山に散っているのを見ました。すると主は『これらの者は飼主がいらない。彼らをそれぞれ安らかに、その家に帰らせよ』と言われました」。
 - － 歴代誌下 18:16 彼は言った、「わたしはイスラエルが皆牧者のない羊のように山に散っているのを見ました。すると主は『これらの者は主人をもっていない。彼らをそれぞれ安らかに、その家に帰らせ

よ』と言われました」。

－ エゼキエル 34:5 彼らは牧者がいないために散り、野のもろもろの獣のえじきになる。

4.35.6 記録

- 日時：2023 年 11 月 23 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）4 名

4.35.7 問いについて

1. 弟子たちは、どのように、送り出されましたか。(6:7-13)

- 7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、8 また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないように、パンも、袋も、帯の中に銭も持たず、9 ただわらじをはくだけで、下着も二枚は着ないように命じられた。10 そして彼らに言われた、「どこへ行っても、家にはいったなら、その土地を去るまでは、そこにとどまっていなさい。11 また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話を聞きもしない所があったなら、そこから出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足の裏のちりを払い落しなさい」。12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。
- [DQ] なにをしてきたのでしょうか。
 - － 6:12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。
 - － ルカ 9:6 弟子たちは出て行って、村々を巡り歩き、いたる所で福音を宣べ伝え、また病気をいやした。
- [DQ] どのように報告していますか。
 - － 30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。
 - － したことや、教えたことは、報告しているが、どうなったかは、書かれていない。
 - － 「使徒たち^{*306}」はマルコではここだけ。ヘブル語のシャリアハに対応か。
 - － [対比] ルカ 10:1-24 17 七十二人が喜んで帰ってきて言った、「主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します」。18 彼らに言われた、「わたしはサタンが電光のよ

^{*306} : a delegate, messenger, one sent forth with orders a) specifically applied to the twelve apostles of Christ, b) in a broader sense applied to other eminent Christian teachers (of Barnabas, of Timothy and Silvanus) (sent)

うに天から落ちるのを見た。19 わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。20 しかし、霊があなたがたに服従することを喜ぶな。むしろ、あなたがたの名が天にしろされていることを喜びなさい」。

* このような華々しさは、感じられない。

2. 弟子たちが戻ってきたときの状態はどのように描かれていますか。(30-32)

- 30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。31 するとイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。32 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行行った。

- [DQ] イエスはどんなことを勧めていますか。

- 人を避けて寂しいところへ行行って、しばらく休むがよい。
- [Q] イエス自身はどうだったのでしょうか。一緒に行きますか。

- ルカ、ヨハネでは、いつ、イエスは、どこからどこへ移動したと書かれていますか。

- ルカ 9:10 使徒たちは帰ってきて、自分たちのしたことをすべてイエスに話した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。
- ベツサイダは、ピリポの所領で、ヘロデアンティパスではない。
- ヨハネ 6:1 そののち、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。
- ただし、マルコでは、五千人の給食のあとに、ベツサイダに移動の記事が続く。

* マルコ 6:45-46 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。

- 場所は、重要な要素でもあり、検討が必要。

3. このときの、弟子たちや、イエスはどのような状態だったのでしょうか。

- イエスはなぜ人里離れたところに退かれたのでしょうか。
- 疲れていたのではないだろうか。
- イエスについて：マタイ 14:13 イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り、自分ひとりで寂しい所へ行かれた。しかし、群衆はそれと聞いて、町々から徒歩であとを追ってきた。
 - マタイでは、イエスのことが書かれている。イエスにとっても、重大な時だったかもしれない。
 - マタイ 4:12 さて、イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。
 - マルコでは、そこまで明確ではない。

4. 群衆はどうしますか。(33)

- 33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。
- [DQ] 群衆は何を求めてイエスの後を追いかけたのでしょうか。
 - － かなり必死になっているようにも見える。
 - － なにを求めているのかも、わかっていないのかもしれない。
- [DQ] なぜ、派遣の前とあとの間に、バプテスマのヨハネの記事が挟まれているのだろうか。
 - － バプテスマのヨハネは捕えられていたが、殺されたことも知り、望みは、イエス以外にないと思っていたかもしれない。

5. イエスは大勢の群衆をみてなぜ深く憐れまれたのでしょうか。(34)

- 34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで (: to be moved as to one's bowels, hence to be moved with compassion, have compassion (for the bowels were thought to be the seat of love and pity)), いろいろと教えはじめられた。
- [DQ] 飼う者のない羊のような有様とは、どのような状態を表現しているのでしょうか。
 - － (参照) 民数記 27:15-17、列王記上 22:17、歴代誌下 18:16、エゼキエル 34:5
 - － 行き先がわからない。
 - － 危険にたいして無防備
- [DQ] イエスは、群衆の何を、深く憐れまれたのでしょうか。
- このことばは、聖書では、共観福音書にのみ、12 回使われている、特別な言葉。イエス、または、神の痛みを表していることばでもある。
 - － マルコ 1:41、8:2、9:22 私どもを、ルカ 10:33、15:20

6. イエスは どうしますか。イエスが、たいせつにしていたことは何なののでしょうか。(34 および並行箇所)

- 34b いろいろと教えはじめられた。
- マタイ 14:14b そのうちの病人たちをおいやしになった。
- ルカ 9:11 11 ところが群衆がそれと知って、ついてきたので、これを迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する人たちをいやされた。

- ヨハネ 6:2,3 すると、大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさっていたしるしを見たからである。3 イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。
- Be available, stay vulnerable.
- [DQ] 弟子たち、群衆の状況も、踏まえて考えてみましょう。
 - ー イエスも、焦燥し、苦しいこともあったのではないだろうか。しかし、弟子たちに配慮し、群衆の状態に心を痛めを深く憐れむ。それを、ペテロはみてとったのではないだろうか。ペテロの中でも、イエスについての認識が、変化しつつあるのかもしれない。

4.35.8 メモ

- なぜ、このような時点で、弟子たちを派遣したかは、不明であるが、実際の、人々の反応を、身をもって、経験することは、「使徒」にとって、大切だったのだろう。
- バプテスマのヨハネが、殺されたのが、どの時点であるかは、判然としないが、この直前に挿入されていることから、知ったのは、このあたりだとするのが、順当だろう。マタイが、書いているように、イエス自身にとっても、情勢判断も含めて、重要なことだったろうが、ここでは、イエスの、弟子たちへの配慮について、書かれている。これこそが、ペテロが経験したことなのだろう。イエスの配慮。そして、そんな中での、イエスの行動。そして、その状況を、深く憐れんと伝えている。イエスのところが、はっきりとわかるわけではないが、伝わってくるものがあったのではないだろうか。
- 弟子たちは、自分のことで、いっぱいだったのだろうが、ペテロは、イエスの配慮を語っている。必ずしも、うまくはいかなかったかもしれないが。バプテスマのヨハネの記事も、イエスとは何者かとの問いとして始めている。8章で、ペトロの告白に至る間の記事と考えると、ペトロの中では、すでに、イエスは、バプテスマのヨハネが死者の中から生き返ったのだとは、考えていなかったろう。その意味で、ペテロの目は、すでに、イエスが、「生ける神の子キリストか」という一点に絞られているように思う。バプテスマのヨハネの死は、バプテスマのヨハネだった弟子もいることを考えると、小さくはない。しかし、そうであっても、ここでのイエスや、弟子たちの行動に、大きく影響しているとは、ペテロも思っていなかったろう。他方、人々には、十分、影響しているのかもしれない。そのあたりも、興味深い。
- 舟をどのようにまわしたのか。イエスはずっと、弟子たちと一緒にいたのか、一人で祈ったのかなど、判然としない部分が多い。おそらく、ペトロにとって、それは、重要ではなかったのだろう。
- 皆にとって特別なときだったのかも知れない。そのときに、積極的な活動をする活力はどこから湧いてくるのだろう。

4.36 6:35-44 五千人に食べ物を与える（2）

35 ところが、はや時もおそくなったので、弟子たちはイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。36 みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」。37 イエスは答えて言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟

子たちは言った、「わたしたちが二百デナリものパンを買ってきて、みんなに食べさせるのですか」。38 するとイエスは言われた。「パンは幾つあるか。見てきなさい」。彼らは確かめてきて、「五つあります。それに魚が二ひき」と言った。39 そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。40 人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。41 それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。42 みんなの者は食べて満腹した。43 そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。44 パンを食べた者は男五千人であった。

4.36.1 マタイ 14:15-21

15 夕方になったので、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。群衆を解散させ、めいめいで食物を買いに、村々へ行かせてください」。16 するとイエスは言われた、「彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい」。17 弟子たちは言った、「わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません」。18 イエスは言われた、「それをここに持ってきなさい」。19 そして群衆に命じて、草の上にすわらせ、五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群衆に与えた。20 みんなの者は食べて満腹した。パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。21 食べた者は、女と子供とを除いて、おおよそ五千人であった。

4.36.2 ルカ 9:12-17

12 それから日が傾きかけたので、十二弟子がイエスのもとにきて言った、「群衆を解散して、まわりの村々や部落へ行って宿を取り、食物を手に入れるようにさせてください。わたしたちはこんな寂しい所にきているのですから」。13 しかしイエスは言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。彼らは言った、「わたしたちにはパン五つと魚二ひきしかありません、この大ぜいの人のために食物を買いに行くかしなければ」。14 というのは、男が五千人ばかりもいたからである。しかしイエスは弟子たちに言われた、「人々をおおよそ五十人ずつの組にして、すわらせなさい」。15 彼らはそのとおりにして、みんなをすわらせた。16 イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福してさき、弟子たちにわたして群衆に配らせた。17 みんなの者は食べて満腹した。そして、その余りくずを集めたら、十二かごあった。

4.36.3 ヨハネ 6:4-14

4 時に、ユダヤ人の祭である過越が間近になっていた。5 イエスは目をあげ、大ぜいの群衆が自分の方に集まって来るのを見て、ピリポに言われた、「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか」。6 これはピリポをためそうとして言われたのであって、ご自分ではしようとすることを、よくご承知であった。7 すると、ピリポはイエスに答えた、「二百デナリのパンがあっても、めいめいが少しずついただくにも足りません」。8 弟子のひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った、9 「ここに、大麦

のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。10 イエスは「人々をすわらせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。そこにすわった男の数は五千人ほどであった。11 そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様に、彼らの望むだけ分け与えられた。12 人々がじゅうぶんに食べたのち、イエスは弟子たちに言われた、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」。13 そこで彼らが集めると、五つの大麦のパンを食べて残ったパンくずは、十二のかごにいっぱいになった。14 人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。

マルコによる福音書 6 章 35-44 節福音書対照表

4.36.4 問い

1. 背景を確認しましょう。弟子たちは、イエスにどんな提案をしますか。(30-36)
2. イエスは、どのように応答し、行動し、そして、何が起こったか、順にまとめてみましょう。(37-44)
3. なぜ、イエスは、弟子たちに彼らが食べ物を与えるように、そして、持っているたべものを調べるように命じたのでしょうか。(37,38)
4. ヨハネによる福音書からさらにどのようなことがわかりますか。
5. いったい何が起こったのだと思いますか。(39-43)
6. あなたは、何を学びましたか。

4.36.5 参照

- 解散：おそらくイエスの仕事
 - － マルコ 6:36 みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」。(マタイ 14:15、ルカ 9:12)
 - － マルコ 6:45 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。(マタイ 14:22,23)
 - － マルコ 8 人々の数はおよそ四千人であった。それからイエスは彼らを解散させ、(マタイ 15:39)
- ピリポとアンデレ
 - － マルコ 1:16 さて、イエスはガリラヤの海べを歩いて行かれ、シモンとシモンの兄弟アンデレとが、海で網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。(マタイ 4:18)

- － マルコ 1:29 それから会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨハネとを連れて、シモンとアンデレとの家には行って行かれた。
- － マルコ 3:18 つぎにアンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、(マタイ 10:3、ルカ 6:14)
- － マルコ 13:1-13 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子のひとりが言った、「先生、ごらん下さい。なんという見事な石、なんという立派な建物でしょう」。2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。
- － ヨハネ 1:35-51 40 ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。41 彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、「わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った」。42 そしてシモンをイエスのもとにつれてきた。イエスは彼に目をとめて言われた、「あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ（訳せば、ペテロ）と呼ぶことにする」。43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされたが、ピリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。44 ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。45 このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にするしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。46 ナタナエルは彼に言った、「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。ピリポは彼に言った、「きて見なさい」。
- － ヨハネ 12:20-27 祭で礼拝するために上ってきた人々のうちに、数人のギリシヤ人がいた。21 彼らはガリラヤのベツサイダ出であるピリポのところに来て、「君よ、イエスにお目にかかりたいのですが」と言って頼んだ。22 ピリポはアンデレのところに行ってそのことを話し、アンデレとピリポは、イエスのもとに行って伝えた。
- － ヨハネ 14:1-14 6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい、わたしたちは満足します」。9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか」。
- デナリ：ローマの銀貨（重さ 3.9g）で、1 ドラクメ（ギリシヤの銀貨で、重さ 4.3g）と等価、一日の賃金にあたる。

		種類	重さ	直径	材質
1 円玉	1.0g	20.0mm			アルミニウム 1 0 0 %
5 円玉	3.75g	22.0mm			銅 6 0 ~ 7 0 % ♪ 亜鉛 4 0 ~ 3 0 %
1 0 円玉	4.5g	23.5mm			銅 9 5 % ♪ 亜鉛 4 ~ 3 % ♪ スズ 1 ~ 2 %
5 0 円玉	4.0g	21.0mm			銅 7 5 % ♪ ニッケル 2 5 %
1 0 0 円玉	4.8g	22.6mm			銅 7 5 % ♪ ニッケル 2 5 %
5 0 0 円玉	7.0g	26.5mm			銅 7 2 % ♪ 亜鉛 2 0 % ♪ ニッケル 8 %

- かご：

- : a basket, wicker basket (籐のかご)

- * マルコ 6:43、8:19、マタイ 14:20、16:9、ルカ 9:17、ヨハネ 6:13

- : a reed basket, (a plaited basket, a lunch basket, hamper) (よしなどであんだかご)

- * マルコ 8:8、8:20、マタイ 15:37、16:10

4.36.6 記録

- 日時：2023 年 11 月 30 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）4 名

4.36.7 問いについて

1. 背景を確認しましょう。弟子たちは、イエスにどんな提案をしますか。(30-34, 35,36)

- 復習：30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。31 するとイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。32 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行行った。33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。
- 35 ところが、はや時もおそくなったので、弟子たちはイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。36 みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」。

- 復習

- バプテスマのヨハネの処刑の記事に引き続き、弟子たちが、宣教から帰ってきた時の様子が書かれている。
- 人々の出入りが多く、食事をする暇もないほどだったので、舟で寂しいところに行った。
- 人々は、「方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。」
- イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。

- 今回の箇所

- 時もおそくなっていた。
- 弟子たちは、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。みんなを解散させ、めいめで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」と提案。

- [Q] なぜ、イエスは弟子たちの提案を受け入れなかったのでしょうか。

- 「34 飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。」にかかっている。

2. イエスは、どのように応答し、行動し、また、何が起こったか、順にまとめてみましょう。(37-44)

- イエス：あなたがたの手で食物をやりなさい (37a)
- 弟子たち：わたしたちが二百デナリものパンを買ってきて、みんなに食べさせるのですか (37b)
- イエス：パンは幾つあるか。見てきなさい (38a)
- 弟子たち：五つあります。それに魚が二ひき (38b)
 - ルカでは「わたしたちはここに、パン五つと魚にひきしか持っていない。」「しか」と言っている。
- イエス：みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。(39)
 - 「青草」証言者目線。ヨハネ：過越の祭りが近づいていた
- 人々：あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。(40)
 - 「列をつくって (: i) a plot of ground, a garden bed, ii) Hebrew idiom i.e. they reclined in ranks or divisions, so that several ranks formed, as it were separate plots)」(畑のウネのように) 証言者目線。

- イエス：五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。(41)
 - みんなの者：みんなの者は食べて満腹した。(42)
 - 不明（弟子たち）：パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。
 - － かご：籐のかご、旅行などで食物を入れて持って行ったと言われる。
 - パンを食べた者は男五千人であった。
 - [DQ] 不思議に思うこと。気になること。ちょっと考えたいことはありますか。
 - － イエスが祈り分けて配らせ、その後、満腹した、その間がわからない。
 - － すくなくとも、イエスの手のうちで、倍、四倍、八倍と増えていったようには書かれていない。
 - － 単に、精神的満足を得られたわけでもなさそうである。十二のかごがいっぱいになっている。
 - － この、十二のかごは、何で、このあとどうしたのだろうか。
3. なぜ、イエスは、弟子たちに彼らが食べ物を与えるように、そして、持っているたべものを調べるように命じたのでしょうか。(37,38)
- 37 イエスは答えて言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちが二百デナリものパンを買ってきて、みんなに食べさせるのですか」。38 するとイエスは言われた。「パンは幾つあるか。見てきなさい」。彼らは確かめてきて、「五つあります。それに魚が二ひき」と言った。
 - [DQ] なぜ、あなた方の手で、食物をやりなさいと言ったのだろうか。
 - － 奉仕することが仕事だから。自助（めいめいで何か食べる物を買いに）ではなく。
 - － 人々が飼うもののない羊のように弱り果てていたから。
 - － 人々の責任にして、放置することが良いこととは思えないから。
 - [DQ] なぜ、持っているものを調べさせたのでしょうか。
 - － 自分たちは、食事ができるが、食事ができない人がいることを知らせ、自分のものを差し出すことを学ぶため。
 - － 今、手元にあるもので、神様が何をしてくださるかを知るため。
 - － [Q] 弟子たちは、自分たちの食事をどうしようと思っていたのでしょうか。自分たちも、それぞれが買いに行かないといけなかったのでしょうか。
 - － [Q] どこを調べにいけと言ったのだろうか。自分たちは持っているだろうといったのだろうか。

* What are available now? 神は、なにを与えてくださっているか。何がないかではなく。

- [DQ] だれが、パンや、魚を持っていたのだろうか。

— これは、弟子たちのパンと魚だったのだろうか。

4. ヨハネによる福音書からさらにどのようなことがわかりますか。(ヨハネ 6:1-3, 4-14)

1. この時の状況を、ヨハネは 4-5 節にどのように描いていますか。(参照：ヨハネ 6:1-14)

- 復習

— 1 テベリヤ湖（1C 後半の呼び方）の向こう岸へ渡られた。

— 2 大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさっていたしるしを見たからである。

— 3 イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。

- 今回の箇所

— 4 時に、ユダヤ人の祭である過越が間近になっていた。

— 5 イエスは目をあげ、大ぜいの群衆が自分の方に集まって来るのを見て、

2. イエスはフィリポにどのように声をかけますか。

- 5b ピリポに言われた、「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか」。6 これはピリポをためそうとして言われたのであって、ご自分ではしようとするのを、よくご承知であった。

- ヨハネ 1:44 ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。

3. フィリポは何と答えますか。

- 7 すると、ピリポはイエスに答えた、「二百デナリのパンがあっても、めいめいが少しずついただくにも足りません」。

— 1 デナリを 10000 円とすると、8000 人いれば、ひとり 250 円。

— 1 デナリで、パンを何個買えたかは不明だが、8 個から 20 個。これは、大麦のパンという安物なので、20 個とすると、4000 個買える。一人、半分程度。

4. このとき、誰がどのような情報をもたらしますか。

- 8 弟子のひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った、9 「ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。

- パンは大麦のパン、おそらく平たい皿のような形、魚（ : a relish to other food (as if cooked sauce), i.e. (specially), fish (presumably salted and dried as a condiment):—fish.）は、料理した魚。

5. この少年は、とてもたくさんパンと魚をもっていたのでしょうか。
- 弟子たちが、食べ物を探していたので、差し出したのでは。
6. イエスはどうしますか。
- 10 イエスは「人々をすわらせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。そこにすわった男の数は五千人ほどであった。11 そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様に、彼らの望むだけ分け与えられた。
7. どうなったと書かれていますか。
- 12 人々がじゅうぶんに食べたのち、
8. その他
1. 五つのパンと二匹の魚の出来事がどのように扱われているか 6 章の中からリストしてみましょう。
 2. 人々は、最初イエスのもとに来たとき（6 章のはじめ）何を求めていたのでしょうか。
 3. 五つのパンと二匹の魚で五千人が満腹した後、人々は、何を求めていますか。
 4. イエスは、何を人々に求めていますか。
5. いったい何が起こったのだと思いますか。（39-43）
- 39 そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。40 人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。41 それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。42 みんなの者は食べて満腹した。43 そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。
 - この記事を通して福音書記者はそれぞれ何を伝えようとしているのでしょうか。
6. あなたは、何を学びましたか。
- 物理的にパンや魚が増えたということは、主張していない。
 - 12 のカゴなどを記述から、精神的に満ち足りたという解釈は、合理性がない。
 - ヨハネの記述を見ると、少年が関与している。おとなには、損失回避（プロスペクト理論）のバイアスが強い。
 - スケールも重要かもしれない。50 人程度なら、分け合うことができるかも。

4.36.8 メモ

- なにが正解かはわからない。基本的には、不明だとすべきなのだろう。しかし、いくつかのことはわかる。物理的に、二倍、四倍となったなどという表現はない。非科学的な作り話だとか、神だからなんでもできるというのは、どちらも、単純化バイアスのもとにあるように見える。また、精神的に、みなが、満たされて、肉体的に満たされたと考えるのも、十二カゴのパンクズの説明にはつながらない。実際には、なにが、あったかは定かではないが、やはり、イエスはこれを、神の国が近いとのしるしとしてなし、それを、ペテロも語ったことは確かだろう。それは、ヨハネも引き継いでいる。
- ヨハネには、ベッサイダ（漁の家）出身の、ピリポとアンデレが登場する。土地に詳しかったのだろう。
- 弟子たちのグループは、ここから見ると、12 弟子と、女性たちだったのではないかと思われる。そして、その人たちが食べる分は、食事をする暇もない（31）との記述から、あったろうとおもわれる。イエスが、「パンがいくつあるかみてきなさい」と言われた時、なにを意図したかは、はっきりとはわからないが、神様があたえてくださっているものすべてを確認する意味があったように感じる。あなた方の食べる分を出しなさいとは、言っていないように見える。
- しかし、それに応じたのは、少年だったのだろう。だれも、みんなに分け与えたいとは考えていなかったろう。少年も、それがどうなるかは、正直理解はできていなかったろう。弟子たちもむろん同様。
- 五十人、百人のグループわけは、意味があったように見える。全世界のひとと分け合うことはできなくても、ある程度の眼に見えるグループの中では分かち合うことができる。これが、こたえだとは、言えない。しかし、可能性はある要因思う。
 - － 出エジプト 18:21 また、すべての民のうちから、有能な人で、神を恐れ、誠実で不義の利を憎む人を選び、それを民の上に立てて、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長としなさい。
 - － 組み： : a drinking party, entertainment, of the party itself, the guests, rows of guests
 - － ダンバーの法則^{*307}なども背景にあるのだろうか。

^{*307} ChatGPT: 「ダンバーの法則 (Dunbar's number)」という社会心理学的な理論。

ダンバーの法則は、イギリスの人類学者であるロビン・ダンバー (Robin Dunbar) によって提唱されました。この法則は、人間の社会的な関係の維持や管理において、個人が保持できる関係の限界を示唆しています。

一般的に、ダンバーの法則は「150」とされています。すなわち、人間が同時に維持できる社会的な関係の数は、約 150 人までとされるということです。これは、人々がお互いを認識し、関係を構築するために必要な認知的なリソースや情報処理能力の限界を反映しています。

ダンバーの法則は、さまざまな社会集団や組織において観察されてきました。例えば、先史時代の部族や中世の村落、現代の軍隊や企業組織など、さまざまな社会的な集団で 150 人前後がグループの規模として見られる傾向があります。

ただし、ダンバーの法則は必ずしも厳密な法則ではなく、個人や文化によって異なる場合もあります。また、現代のテクノロジーやソーシャルメディアの普及によって、人々がより多くの関係を維持できる可能性も生じています。

したがって、ダンバーの法則は社会的な関係の限界を示唆する興味深い理論ですが、全ての場合に当てはまる普遍的な法則としてではなく、一つの指標として考えるべきです。

- では、なぜ、福音書記者は、他の書き方をしなかったのだろう。福音書記者も十分理解できていなかったのかもしれない。

－ マルコ 8:13-21 そして、イエスは彼らをあとに残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。14 弟子たちはパンを持って来るのを忘れていたので、舟の中にはパン一つしか持ち合わせがなかった。15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。16 弟子たちは、これを自分たちがパンを持っていないためであろうと、互に論じ合った。17 イエスはそれと知って、彼らに言われた、「なぜ、パンがないからだと言っているのか。まだわからないのか、悟らないのか。あなたがたの心は鈍くなっているのか。18 目があっても見えないのか。耳があっても聞えないのか。また思い出さないのか。19 五つのパンをさいて五千人に分けたとき、拾い集めたパンくずは、幾つのかご（ ）になったか」。弟子たちは答えた、「十二かごです」。20 「七つのパンを四千人に分けたときには、パンくずを幾つのかご（ ）に拾い集めたか」。「七かごです」と答えた。21 そこでイエスは彼らに言われた、「まだ悟らないのか」。

- マナとの対比も考えるべきかもしれない。

－ 出エジプト 16 章

－ ヨハネ 6:14,15 人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。15 イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。

－ ヨハネ 6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言っておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。

－ エリシャ列王記下 4:41-44 42 その時、バアル・シャリシャから人がきて、初穂のパンと、大麦のパン二十個と、新穀一袋とを神の人のもとに持ってきたので、エリシャは「人々に与えて食べさせなさい」と言ったが、43 その召使は言った、「どうしてこれを百人の前に供えるのですか」。しかし彼は言った、「人々に与えて食べさせなさい。主はこう言われる、『彼らは食べてなお余すであろう』」。44 そこで彼はそれを彼らの前に供えたので、彼らは食べてなお余した。主の言葉のとおりであった。

－ イザヤ 25:6 万軍の主はこの山で、すべての民のために肥えたものをもって祝宴を設け、久しくたくわえたぶどう酒をもって祝宴を設けられる。すなわち髓の多い肥えたものと、よく澄んだ長くたくわえたぶどう酒をもって祝宴を設けられる。

4.37 6:45-52 湖の上を歩く

45 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。47 夕方になったとき、舟は海のまん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。48 ところが逆風が吹い

ていたために、弟子たちがこぎ悩んでいるのをごらんになって、夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らに近づき、そのそばを通り過ぎようとされた。49 彼らはイエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。50 みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われた。51 そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。52 先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなっていたからである。

4.37.1 マタイ 14:22-33

22 それからすぐ、イエスは群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸へ先におやりになった。23 そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。24 ところが舟は、もうすでに陸から数丁も離れており、逆風が吹いていたために、波に悩まされていた。25 イエスは夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らの方へ行かれた。26 弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと言っておじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。27 しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、「しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない」と言われた。28 するとペテロが答えて言った、「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください」。29 イエスは、「おいでなさい」と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。30 しかし、風を見て恐ろしくなり、そしておぼれかけたので、彼は叫んで、「主よ、お助けください」と言った。31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。32 ふたりが舟に乗り込むと、風はやんでしまった。33 舟の中にいた者たちはイエスを拝して、「ほんとうに、あなたは神の子です」と言った。

4.37.2 ヨハネ 6:15-21

15 イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。16 夕方になったとき、弟子たちは海べに下り、17 舟に乗って海を渡り、向こう岸のカペナウムに行きかけた。すでに暗くなっていたのに、イエスはまだ彼らのところにおいでにならなかった。18 その上、強い風が吹いてきて、海は荒れ出した。19 四、五十丁こぎ出したとき、イエスが海の上を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、彼らは恐れた。20 すると、イエスは彼らに言われた、「わたしだ、恐れることはない」。21 そこで、彼らは喜んでイエスを舟に迎えようとした。すると舟は、すぐ、彼らが行こうとしていた地に着いた。

[マルコによる福音書 6 章 45-52 節福音書対照表](#)

4.37.3 問い

1. 直前の出来事を復習しましょう。どんなことがありましたか。(6:30-44)

2. イエスは どう します か。(45,46)
3. その 晩、ど ん な こ と が お こ り ま す か。(48-51)
4. ヨハネ から は さ ら に ど の よ う な こ と が わ か り ま す か。
5. マタイ に は、さ ら に ど の よ う な こ と が 書 か れ て い ま す か。
6. パン の こ と を 悟 っ て い な い と は ど う い う こ と で し ょ う か。(52)

4.37.4 参 照

- どこから、どこへ移動するときか、マルコとルカとヨハネを比較すると異なっている。マルコでは、五千人の給食のあと、ベッサイダに移動、そのときのこととしている。ルカでは、五千人の給食の前に、ベッサイダに移動したことが書かれている。ヨハネでは、まず、向こう岸（おそらく、ベッサイダ）に行き、五千人の給食、その後、向こう岸のカペナウムに向かう途中の出来事としている。
- 四、五十丁：25 ないし 30 スタディオン（ヨハネ 6:19）1 スタディオンは、約 185 メートル、1/8 ミリオン。4625m から 5550m。海を横切ると、6 キロ程度とされているので、ほとんど到着している。
- ヨハネ 21:1 そののち、イエスはテベリヤの海べで（ ）、ご自身をまた弟子たちにあらわされた。そのあらわされた次第は、こうである。
- 詩篇 107:28-30 彼らはその悩みのうちに主に呼ばわったので、／主は彼らをその悩みから救い出された。29 主があらしを静められると、／海の波は穏やかになった。30 こうして彼らは波の静まったのを喜び、／主は彼らをその望む港へ導かれた。

4.37.5 記 録

- 日時：2023 年 12 月 7 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）7 名、参加（遠隔）3 名

4.37.6 問 い に つ い て

1. 直前の出来事を復習しましょう。どんなことがありましたか。(6:30-44)
 - 12 弟子の派遣。バプテスマのヨハネの処刑。弟子の帰還。
 - 「しばらく休むがよい」(32)
 - 五千人の給食。
2. イエスは どう します か。(45,46)

- 45 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。

- 群衆をどうしますか
- 弟子たちには、なにを命じますか。
- [DQ] なぜ、「すぐに」、自分で、解散させ、「しいて」舟に乗り込ませたのでしょうか。
- イエス自身はどうしますか。
- [DQ] イエスは、疲れないのでしょうか。
- [DQ] 何を、祈っておられたのでしょうか。
 - － ヨハネ 6:15 イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしている
 - － こころみるものの、再来。
- [DQ] 結局、どこから、どこへ、移動したのでしょうか。

3. その晩、どんなことがおこりますか。(48-51)

- 48 ところが逆風が吹いていたために、弟子たちがこぎ悩んでいるのをごらんになって、夜明けの四時ごろ、海の上（ ）を歩いて彼らに近づき、そのそばを通り過ぎようとされた。49 彼らはイエスが海の上（ ）を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。50 みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われた。51 そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。
- 海の上を歩いて、弟子たちに近づき、「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」
- [DQ] 状況を思い描いてみましょう。なぜ、弟子たちは、長く沖合にいたのでしょうか。
- [DQ] 「しっかりするのだ。わたしである。恐れることはない」は、どのような意味を持っているのでしょうか。

4. ヨハネからはさらにどのようなことがわかりますか。

- ヨハネ 6:14, 15 人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。15 イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。
- [DQ] 人々は、これをどのように受け止め、どのような行動に出たと書かれていますか。
- 14 節と、15 節の関係も微妙である。人々が来ては、噂を聞いたひとが、違ったことを考えたのかも知れない。評価は難しかっただろうから。イエスは手品師ではない。

- ヨハネ 16-17 夕方になったとき、弟子たちは海べに下り、17 舟に乗って海を渡り、向こう岸のカペナウムに行きかけた。すでに暗くなっていたのに、イエスはまだ彼らのところにおいでにならなかった。
- 弟子たちはどのような状況で舟にのりますか。
- ヨハネ 6:18 その上、強い風が吹いてきて、海は荒れ出した。19 四、五十丁（
(twenty) (thirty), 3700m-5550m) こぎ出したとき、イエスが海の上（ヨハネ
21:1）を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、彼らは恐れた。 : a space or distance of about
600 feet (185 m)
- ヨハネ 6:21 そこで、彼らは喜んでイエスを舟に迎えようとした。すると舟は、すぐ、彼らが行こう
としていた地に着いた。
- [DQ] ヨハネはこの話しをどのように締めくくっていますか。
- [DQ] イエスは、舟に乗り込んだのでしょうか。

5. マタイには、さらにどのようなことが書かれていますか。

- ペテロはどうしますか。イエスはどうか応じられますか。
- どうなりましたか。
- 舟にいた人たちはどうしますか。

6. パンのことを悟っていないとはどういうことでしょうか。(52)

- 52 先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなっていたからである。
- それぞれの福音書は、この物語を通じて、何を伝えているのでしょうか。

4.37.7 メモ

- 場所の問題：ベッサイダは、ヨルダン川の東岸のベッサイダ・ユリアスカ、それとも、西岸のどこかに、
漁の家（ベッサイダ）という町があったかは、不明である。ここでは、ペテロの証言もあり、ヨハネの証
言（湖の向こう岸カペナウムに行こうとしていた）もあるとすると、判断は、難しい。
- ‘ ’をどう解釈するかで、大きく、状況は変化する。ヨハネ 21:1 では、海辺となっている。どち
らにも解釈ができることは、共通理解なのだろう。ヨハネによる福音書を読んでいると、実際には、海辺
を歩いておられたように、感じる。舟に乗り込まれたことも書かれておらず、つぐつuitことだけが書か
れている。距離も、ほぼ、到着するまでの距離が書かれている。それがヨハネの回顧だったようにおもわ
れる。マルコ、または、ペトロが伝えたものは、どうだろうか。ここでも、 が二度使われてい
る。しかし、「51 そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。52
先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなっていたからである。」を見ると、やはり、まだ海の上の出来事

であると解釈するほうが良さそうである。マルコは、ペテロが語ったことを、海の上のことと解釈したのである。それを修正したのが、ヨハネによる福音書なのかもしれない。しかし、マタイは、尾ひれがついている。ペテロの証言ではないので、信用性は、落ちるが、おそらく、当時のひとたちは、この話を、海の上を歩かれたイエスと解釈していたのだろう。それも、動かせないように思われる。

- 「パンのことを理解していなかった」は、パンのことをどう考えるかによっても、解釈が分かれる。もし、超自然的に、無から有が生まれたのだとすると、イエスが、そのような奇跡を行われる、神の子であることを理解していなかったとなる。他方、それぞれのグループで、出し合ったという解釈をとると、互いに愛しあう交わりをとおして、神の国の到来を知ることができるとなる。いずれにしても、恐れることはない。
- この出来事で、マタイが書いているように、弟子たちのイエスの理解には、大きな変化があったのだろうか。
- ヨハネによる福音書の 6 章 20 節は、
「わたしは、
で、
が含まれている。これは、わたしである。との表現であるが、出エジプトで、モーセに自らをあらわす、I am who I am と通じるものである。わたしが、いるとも訳すことが可能で、ヨハネでは、イエスがともにいるかどうか、イエスがともにいるときに光、昼、イエスがともにいないときは、闇、夜と捉えることも可能である。そのような解釈で、ここをまとめるのは、多少危険でもあるが。

4.38 6:53-56 ゲネサレトで病人を癒やす

53 彼らは海を渡り、ゲネサレの地に着いて舟をつないだ。54 そして舟からあがると、人々はすぐイエスと知って、55 その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた。56 そして、村でも町でも部落でも、イエスがはいって行かれる所では、病人たちをその広場におき、せめてその上着のふさにでも、さわらせてやっていただきたいと、お願いした。そしてさわった者は皆いやされた。

4.38.1 マタイ 14:34-36

34 それから、彼らは海を渡ってゲネサレの地に着いた。35 するとその土地の人々はイエスと知って、その附近全体に人をつかわし、イエスのところに病人をみな連れてこさせた。36 そして彼らにイエスの上着のふさにでも、さわらせてやっていただきたいとお願いした。そしてさわった者は皆いやされた。

[マルコによる福音書 6 章 53-56 節福音書対照表](#)

4.38.2 問い

1. これまでにどのようなことがあったか、復習してみましょう。
2. ゲネサレの地で人々はどのように、イエスを迎えますか。
3. イエスはどうしますか。

4. 人々は、何を求めているのでしょうか。
5. イエスは、いやしについてどう考えていたのでしょうか。

4.38.3 参照

- ゲネサレ (Γενεσαρετ : Gennesaret = “a harp”, a) a lake also called the sea of Galilee or the sea of Tiberias The lake 12 by 7 miles (20 by 11 km) and 700 feet (210 m) below the Mediterranean Sea. b) a very lovely and fertile region on the Sea of Galilee.) ガリラヤ湖 (テベリヤ湖) の別名。地名としては、ガリラヤ湖北岸。カペナウムの西。(マルコ 6:53, マタイ 14:34, ルカ 5:1) [\[地図リンク\]](#)
 - ルカ 5:1 さて、群衆が神の言を聞こうとして押し寄せてきたとき、イエスはゲネサレ湖畔に立っておられたが、
- 群衆・人々の求めるもの、不特定の人々のいやし
 - マルコ 1:32-35 夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。33 こうして、町中の者が戸口に集まった。34 イエスは、さまざまな病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。35 朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。
 - マルコ 1:45 しかし、彼は出て行って、自分の身に起ったことを盛んに語り、また言いひろめはじめたので、イエスはもはや表立っては町に、はいることができなくなり、外の寂しい所にとどまっておられた。しかし、人々は方々から、イエスのところにぞくぞくと集まってきた。
 - マルコ 2:17 イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。
 - マルコ 3:7-11 それから、イエスは弟子たちと共に海べに退かれたが、ガリラヤからきたおびただしい群衆がついて行った。またユダヤから、8 エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。10 それは、多くの人をいやされたので、病苦に悩む者は皆イエスにさわろうとして、押し寄せてきたからである。11 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。
 - マルコ 6:12,13 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。
- : i) to serve, do service, ii) to heal, cure, restore to health [\[BLB Link\]](#)

- － マルコ 1:34 イエスは、さまざまの病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスを知っていたからである。
- － マルコ 3:2 人々はイエスを訴えようと思って、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがっていた。
- － マルコ 3:10 それは、多くの人をいやされたので、病苦に悩む者は皆イエスにさわろうとして、押し寄せてきたからである。
- － マルコ 3:15 また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。(写本によっては、いやしが入っている。)
- － マルコ 6:5 そして、そこでは力あるわざを一つもすることができず、ただ少数の病人に手をおいていやされただけであった。
- － マルコ 6:13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。[マルコ 6 回]
- － マタイ 4:23, 24, 8:7, 16, 9:35, 10:1, 8, 12:10, 15, 22, 14:14, 15:30, 17:16, 18, 19:1, 21:14 [マタイ 16 回]
- － ルカ 4:23, 40, 5:15, 6:7, 18, 7:21, 8:2, 43, 9:1, 6, 10:9, 13:14, 14:13 [ルカ 13 回]
- － ヨハネ 5:10 [ヨハネ 1 回]
- ・ : i) to cure, heal, ii) to make whole [BLB Link]
- － マルコ 5:29 すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた。[マルコ 1 回]
- － マタイ 8:8 そこで百卒長は答えて言った、「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります。
- － マタイ 8:13 それからイエスは百卒長に「行け、あなたの信じたとおりにするように」と言われた。すると、ちょうどその時に、僕はいやされた。
- － マタイ 13:15 この民の心は鈍くなり、／その耳は聞えにくく、／その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、／悔い改めていやされることがないためである』。
- － マタイ 15:28 そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。[マタイ 4 回]
- － ルカ 4:18 「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、／わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、／囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、／打ちひしがれている者に自由を得させ、

- － ルカ 5:17 ある日のこと、イエスが教えておられると、ガリラヤやユダヤの方々の村から、またエルサレムからきたパリサイ人や律法学者たちが、そこにすわっていた。主の力が働いて、イエスは人々をいやされた。
- － ルカ 6:17 そして、イエスは彼らと一緒に山を下って平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、
- － ルカ 6:19 また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。
- － ルカ 7:7 それですから、自分でお迎えにあがるねうちさえないと思っていたのです。ただ、お言葉を下さい。そして、わたしの僕をなおしてください。
- － ルカ 8:47 女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったこととを、みんなの前で話した。
- － ルカ 9:2 また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわして
- － ルカ 9:11 ところが群衆がそれと知って、ついてきたので、これを迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する人たちをいやされた。
- － ルカ 9:42 ところが、その子がイエスのところに来る時にも、悪霊が彼を引き倒して、引きつけさせた。イエスはこの汚れた霊をしかりつけ、その子供をいやして、父親にお渡しになった。
- － ルカ 14:4 彼らは黙っていた。そこでイエスはその人に手を置いていやしてやり、そしてお帰しになった。
- － ルカ 22:51 イエスはこれに対して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった。[ルカ 11 回]
- － ヨハネ 4:47 この人が、ユダヤからガリラヤにイエスのきておられることを聞き、みもとにきて、カペナウムに下って、彼の子をなおしていただきたいと、願った。その子が死にかかっていたからである。
- － ヨハネ 5:13 しかし、このいやされた人は、それがだれであるか知らなかった。群衆がその場にいたので、イエスはそっと出て行かれたからである。
- － ヨハネ 12:40 「神は彼らの目をくらまし、心をかたくなになさった。それは、彼らが目で見ず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである」。[ヨハネ 3 回]
- : to save, keep safe and sound, to rescue from danger or destruction ((危機的な、危険などから、安全が確保され) 救われること・いやされる) [BLB Link]
 - － マルコ 3:4 人々にむかって、「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」と言われた。彼らは黙っていた。

- － マルコ 5:23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子が**なおって助かりますように**、おいでになって、手をおいてやってください」。
- － マルコ 5:28 それは、せめて、み衣にでもさわれば、**なおしていただける**だろうと、思っていたからである。
- － マルコ 5:34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを**救った**のです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。
- － マルコ 6:56 そして、村でも町でも部落でも、イエスがはいって行かれる所では、病人たちをその広場におき、せめてその上着のふさにでも、さわらせてやっていただきたいと、お願いした。そしてさわった者は**皆いやされた**。
- － マルコ 8:35 自分の命を**救おう**と思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを**救う**であろう。
- － マルコ 10:26 すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが**救われる**ことができるのだろう」。
- － マルコ 10:52 そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを**救った**」。すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。
- － マルコ 13:13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで**耐え忍ぶ者は救われる**。
- － マルコ 13:20 もし主がその期間を縮めてくださらないなら、**救われる**者はひとりもないであろう。しかし、選ばれた選民のために、その期間を縮めてくださったのである。
- － マルコ 15:30, 31 十字架からおりてきて自分を**救え**」。31 祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒に、かわるがわる嘲弄して言った、「他人を**救った**が、自分自身を救うことができない」。
- － マルコ 16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。
- － マタイ 1:21, 8:25, 9:21, 9:22, 10:22, 14:30, 16:25, 18:11, 19:25, 24:13, 24:22, 27:40, 27:49
- － ルカ 6:9, 7:50, 8:12, 36, 48, 50, 9:24, 56, 13:23, 17:19, 33, 18:26, 42, 19:10, 23:35, 37, 39
- － ヨハネ 11:12 すると弟子たちは言った、「主よ、眠っているのですしたら、助かるでしょう」。
- － ヨハネ 12:27 今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。
- － ヨハネ 12:47 たとい、わたしの言うことを聞いてそれを守らない人があっても、わたしはその人をさばかない。わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。

Table4.2: Thayer Greek Lexicon

マルコ	マタイ	ルカ	ヨハネ	岩隈直著「新約ギリシャ語辞典」山本書店
4	7	10	1	仕える、奉仕する、看病する、手当する、癒やす
1	4	13	3	治療する、癒やす、治す、回復する
14	15	19	7	守る、活かしておく、救う、救い出す、癒やす、治す
19	26	42	11	

4.38.4 記録

- 日時：2023 年 12 月 14 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）3 名

4.38.5 問いについて

1. これまでにどのようなことがあったか、復習してみましょう。

- 53 彼らは海を渡り、ゲネサレの地に着いて舟をつないだ。
- マルコ 6:30-34 さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。31 するとイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行って、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。32 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。
 - マルコ 3:7-12 10 それは、多くの人をいやされたので、病苦に悩む者は皆イエスにさわろうとして、押し寄せてきたからである。
- この状態と似ている。
 - 出入りする人が多くて、食事をする暇もなかった
 - 彼ら（使徒たち）は人を避け、舟に乗って寂しい所へ行った。ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。

- － イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。（五千人の給食につながる）

* 山浦訳：34 それで一行が舟から陸に上がると、[既に] 大勢の人々がそこにいたのでござった。それは、まるで守る者のない羊の群れのようにござった。その姿を見れば腸（はらわた）も千切れるような気の毒な気持ちになり、イエシューさまはこの人たちに神さまのことをあれやこれやとさまざまに教え始めなされた。

2. ゲネサレの地で人々はどのように、イエスを迎えますか。

- 54 そして舟からあがると、人々はすぐイエスと知って、55 その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた。56 そして、村でも町でも部落でも、イエスがいって行かれる所では、病人たちをその広場におき、せめてその上着のふさにでも、さわらせてやっていただきたいと、お願いした。そしてさわった者は皆いやされた。
- [DQ] どのような状態だと思いますか。
 - － [Q] ひとたちを、駆け巡らせたのは、何だったのでしょうか。
 - － [Q] ひとたちが、床にのせて運ぶようにさせたのは、何だったのでしょうか。（マルコ 2:1-12、マタイ 9:1-8、ルカ 5:17-26）
 - － [Q] せめて上着のふさにでも、さわらせてやっていただきたいとお願いしたのでしょうか。（マルコ 5:27（衣）に関連したマタイ 9:20（衣の裾）、ルカ 8:44）
- [DQ] イエスを利用しようとしているのでしょうか。
- [DQ] みなさんは、神様や、神様の力を持った人がいたら、どうしますか。

3. イエスは どうしますか。

- そしてさわった者は皆いやされた（ : to save, keep safe and sound, to rescue from danger or destruction）。
- イエスがどうしたかは、明確には、書かれていない。上着のすそをさわることを許したように想像できるが、なにかしっくりこない。受け身ではなく、イエス自身が、いやしの行為をしたのではないだろうか。しかし、いずれにしても、なにをしたか不明。

4. 人々は、何を求めているのでしょうか。

- いやされるというより、救われることだろうか。
- 自分たちの乏しい状態は感じていても、どうなればよいかは、わかっていなかったのでは。単に、すがりたい気持ちだろうか。

5. イエスは、いやしについてどう考えていたのでしょうか。

4.38.6 メモ

- 山浦玄嗣（やまうらはるつぐ）訳「ガリラヤのイエシュー」イー・ピックス出版では、次のように訳されている

53 さて話変わって、ある時のこと、一行は湖を渡ってきて、ゲネサレの野に上がり、そこに舟を舫（もや）ってござる。54 舟から上がると、イエシューさまがきなさったということがたちまち知れ渡った。55 人々はその辺り一帯を走り回って、イエシューさまがいなさるところならどこへでも、敷布に病人を乗せて担いで来たものでござる。56 そうして、村であれ、町であれ、郷であれ、イエシューさまの行きなさる所ならどこへでも、その先々で広場に病人をズラリと並べて願ったものでござった。

「せめてそのお着物の裾（すそ）にでも縫（すが）らせてくだりませ！」

そうして縫（すが）った人たちはことごとくその病の苦しみから助けていただいたのでござった。

「そしてさわった者は皆いやされた。」のいやされたの部分に、 が使われているので、このように訳したのだろう。

－「マルコ 5:28 それは、せめて、み衣にでもさわれば、**なおしていただける**だろうと、思っていたからである。」この部分も、山浦訳では「あのお方のお着物にでもお縫（すが）り申さば、必ずこの病の苦しみながら助け出して（ ）いただけるはずでござりますよわ（ございますよ）。」

－「マルコ 5:29 するとたちまち血の元が干上がり、苦しみがスッと治った（ の受け身完了形）のが体の感じでわかり申した。」

－ わたしは、3つのギリシャ語を区別して理解しようと努めてきたが、文才もなく、上手にことばが選べなかったが、山浦訳は、秀逸である。

- イエスは能動的には、なにもしていない。不思議でもあるが、そのように、人々の要求、それは、イエスが望んでいたものと同じではなかったかもしれないが、それに委ねたことから、学ぶことが多かったように思う。その意味でも、不思議な箇所である。イザヤ書のことを思った。

－ イザヤ 53:6,7 われわれはみな羊のように迷って、／おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、／彼の上におかれた。7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、／口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、／また毛を切る者の前に黙っている羊のように、／口を開かなかった。

4.39 7:1-23 昔の人の言い伝え

1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。2 そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。3 もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言い伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。4 また市場から帰ったときには、身を清めてからでないと、食事をせず、なおそのほかにも、杯、鉢、銅器を洗うことなど、昔から受けついでかたく守っている事が、たくさんあった。5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言い伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、／『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。7 人間のいましめを教として教え、／無意味にわたしを拝んでいる』。8 あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言い伝えを固執している」。9 また、言われた、「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。10 モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をのしる者は、必ず死に定められる』と。11 それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、12 その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。13 こうしてあなたがたは、自分たちが受けついで言い伝えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている」。14 それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。15 すべて外から人の中にはいて、人をけがしうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがすのである。16 [聞く耳のある者は聞くがよい]」。17 イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。18 すると、言われた、「あなたがたも、そんなに鈍いのか。すべて、外から人の中にはいて来るものは、人を汚し得ないことが、わからないのか。19 それは人の心の中にはいるのではなく、腹の中にはいり、そして、外に出て行くだけである」。イエスはこのように、どんな食物でもきよいものとされた。20 さらに言われた、「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。21 すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、22 姦淫、貪欲、邪惡、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。23 これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである」。

4.39.1 マタイ 15:1-20

1 ときに、パリサイ人と律法学者たちとが、エルサレムからイエスのもとにきて言った、2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の人々の言い伝えを破るのですか。彼らは食事の時に手を洗っていません」。3 イエスは答えて言われた、「なぜ、あなたがたも自分たちの言い伝えによって、神のいましめを破っているのか。4 神は言われた、『父と母とを敬え』、また『父または母をのしる者は、必ず死に定められる』と。5 それなのに、あなたがたは『だれでも父または母にむかって、あなたにさしあげるはずのこのものは供え物です、と言えば、6 父または母を敬わなくてもよろしい』と言っている。こうしてあなたがたは自分たちの言伝

えによって、神の言を無にしている。7 偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている、8 『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。9 人間のいましめを教として教え、／無意味にわたしを拝んでいる』。10 それからイエスは群衆を呼び寄せて言われた、「聞いて悟るがよい。11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」。12 そのとき、弟子たちが近寄ってきてイエスに言った、「パリサイ人たちが御言を聞いてつまづいたことを、ご存じですか」。13 イエスは答えて言われた、「わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう。14 彼らをそのままにしておけ。彼らは盲人を手引きする盲人である。もし盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むであろう」。15 ペテロが答えて言った、「その譬を説明してください」。16 イエスは言われた、「あなたがたも、まだわからないのか。17 口にはいつてくるものは、みな腹の中にはいり、そして、外に出て行くことを知らないのか。18 しかし、口から出て行くものは、心の中から出てくるのであって、それが人を汚すのである。19 というのは、悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくるのであって、20 これらのものが人を汚すのである。しかし、洗わない手で食事することは、人を汚すのではない」。

4.40 7:1-13 昔の人の言い伝え (1)

1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。2 そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。3 もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言い伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。4 また市場から帰ったときには、身を清めてからでないと、食事をせず、なおそのほかにも、杯、鉢、銅器を洗うことなど、昔から受けついでかたく守っている事が、たくさんあった。5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言い伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、／『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。7 人間のいましめを教として教え、／無意味にわたしを拝んでいる』。8 あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言い伝えを固執している」。9 また、言われた、「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。10 モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定められる』と。11 それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、12 その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。13 こうしてあなたがたは、自分たちが受けついだ言い伝えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている」。

4.40.1 マタイ 15:1-9

1 ときに、パリサイ人と律法学者たちとが、エルサレムからイエスのもとにきて言った、2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の人々の言い伝えを破るのですか。彼らは食事の時に手を洗っていません」。3 イエスは答

えて言われた、「なぜ、あなたがたも自分たちの言伝えによって、神のいましめを破っているのか。4 神は言われた、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定められる』と。5 それなのに、あなたがたは『だれでも父または母にむかって、あなたにさしあげるはずのこのものは供え物です、たとえば、6 父または母を敬わなくてもよろしい』と言っている。こうしてあなたがたは自分たちの言伝えによって、神の言を無にしている。7 偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている、8 『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。9 人間のいましめを教として教え、／無意味にわたしを拝んでいる』」。

4.40.2 (参考) ルカ 11:37-44

37 イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいって食卓につかれた。38 ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見て、そのパリサイ人が不思議に思った。39 そこで主は彼に言われた、「いったい、あなたがたパリサイ人は、杯や盆の外側をきよめるが、あなたがたの内側は貪欲と邪惡とで満ちている。40 愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか。41 ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、いっさいがあなたがたにとって、清いものとなる。42 しかし、あなた方パリサイ人は、わざわざいである。はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を宮に納めておりながら、義と神に対する愛とをなおざりにしている。それもなおざりにはできないが、これは行わねばならない。43 あなたがたパリサイ人は、わざわざいである。会堂の上席や広場での敬礼を好んでいる。44 あなたがたは、わざわざいである。人目につかない墓のようなものである。その上を歩いても人々は気づかないでいる」。(43-44 は、マルコ 12:38-40 参照)

[マルコによる福音書 7 章 1-13 節福音書対照表](#)

4.40.3 問い

1. どのようなことが原因で、議論が始まりますか。(1,2)
2. パリサイ人をはじめユダヤ人はみなどのようにしていたと書かれていますか。(3,4)
3. パリサイ人と律法学者たちは何をたいせつにしていますか。それはなぜでしょうか。(5)
4. イエスは、どのように批判していますか。イエスの批判の中心点は何ですか。(6-8)
5. 9 節-12 節の例では、6 節-8 節で指摘した要点のどのような面を説明しているのでしょうか。どのような対比がありますか。(9-12)
6. 「神の言を無にしている」とは何を指しているのでしょうか。(13)

4.40.4 参照

- 汚れについて

- 使徒 10:14 ペテロは言った、「主よ、それはできません。わたしは今までに、清くないもの、汚れたものは、何一つ食べたことはありません」。
- 使徒 10:28 ペテロは彼らに言った、「あなたがたが知っているとおりに、ユダヤ人が他国の人と交際したり、出入りしたりすることは、禁じられています。ところが、神は、どんな人間をも清くないとか、汚れているとか言うてはならないと、わたしにお示しになりました。
- 使徒 11:8 わたしは言った、『主よ、それはできません。わたしは今までに、清くないものや汚れたものを口に入れたことが一度もございません』。
- 黙示録 21:27 しかし、汚れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決してはいれない。はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである。

- 汚れた手（ ）

- レビ 8:6 そしてモーセはアロンとその子たちを連れてきて、水で彼らを洗い清め、

- 念入りに手を洗ってからでないと（ ） : i) the fist, clenched hand, ii) up to the elbow (聖書でここだけ)

- 歩む（ : to walk）

- ローマ 6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。
- ローマ 8:4 これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。

- 偽善者（ : i) one who answers, an interpreter, ii) an actor, stage player, iii) a dissembler, pretender, hypocrite)

- ミシュナー、シャッパト 1:4-8, ベラコート 8:2-4, ヤーダイム 1-2

- 昔の人々（ヘブル 11:2）長老のこと（ラビ・ヒレルとラビ・シャンマイ）

- 出エジプト 20:12 あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。

- 出エジプト 21:17 自分の父または母をのろう者は、必ず殺されなければならない。

- 出エジプト 32:16 その板は神の作、その文字は神の文字であって、板に彫ったものである。
- イザヤ 29:13-20 主は言われた、／「この民は口をもってわたしに近づき、／くちびるをもってわたしを敬うけれども、／その心はわたしから遠く離れ、／彼らのわたしをかしこみ恐れるのは、／そらで覚えた人の戒めによるのである。14 それゆえ、／見よ、／わたしはこの民に、／再び驚くべきわざを行う、／それは不思議な驚くべきわざである。彼らのうちの賢い人の知恵は滅び、／さとい人の知識は隠される」。15 わざわいなるかな、／おのが計りごとを主に深く隠す者。彼らは暗い中でわざを行い、／「だれがわれわれを見るか、／だれがわれわれのことを知るか」と言う。16 あなたがたは転倒して考えている。陶器師は粘土と同じものに思われるだろうか。造られた物はそれを造った者について、／「彼はわたしを造らなかった」と言い、／形造られた物は形造った者について、／「彼は知恵がない」と言うことができようか。17 しばらくしてレバノンのは変って肥えた畑となり、／肥えた畑は林のように／思われる時が来るではないか。18 その日、耳しいは書物の言葉を聞き、／目しいの目はその暗やみから、見ることができる。19 柔和な者は主によって新たなる喜びを得、／人のなかの貧しい者は／イスラエルの聖者によって楽しみを得る。20 あらぶる者は絶え、／あざける者はうせ、／悪を行おうと、おりをうかがう者は、／ことごとく断ち滅ぼされるからである。(アリエル：神の炉)
- 偽善（ヒュポクリテス）：答える人、型にはまった対話・会話に答える人、俳優、その人の全生涯がその背後に全く何の真実もなく、芝居をするような人を意味するようになった。(パークレイ)
- コルバン（　： i) a gift offered (or to be offered) to God, ii) the sacred treasury）： offering, oblation - レビ 1:2, 3, 10, 14, 2:1, 4, 5, 7, 12, 13, 3:1, 2, 6, 7, 8, 12, 14, 4:23, 28, 5:11, 6:20, 7:13, 14, 15, 16, 29, 38, 9:7, 9:15, 17:4, 22:18, 27, 23:14, 27:9, 11, 民数記 5:15, 6:14, 21, 7:3, 10, 11, 12, 13, 17, 19, 23, 25, 29, 31,35, 37, 41, 43, 47, 49, 53, 55, 59, 61, 65, 67, 71, 73, 77, 79, 83, 9:7, 13, 15:4, 25, 18:9, 28:2, 31:50, ネヘミヤ 10:34, 13:31, エゼキエル 20:28, 40:43 - offering

4.40.5 記録

- 日時：2023 年 12 月 21 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）5 名

4.40.6 問いについて

1. どのようなことが原因で、議論が始まりますか。(1,2)
 - 1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。2 そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。
 - [DQ] なぜ、エルサレムから、パリサイ人と、(ある) 律法学者たちとが、イエスのもとに集まったのでしょうか。

－ いつのことなのか書いてない。ガリラヤから離れる直前に置かれている。

2. パリサイ人をはじめユダヤ人はみなどのようにしていたと書かれていますか。(3,4)

- 3 もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。4 また市場から帰ったときには、身を清めてからでないと、食事をせず、なおそのほかにも、杯、鉢、銅器を洗うことなど、昔から受けついでかたく守っている事が、たくさんあった
- [DQ] なぜ、ユダヤ人である弟子たちのある者が、洗わない手で、パンを食べていたのでしょうか。

3. パリサイ人と律法学者たちは何をたいせつにしていますか。それはなぜでしょうか。(5)

- 5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。
- [DQ] なぜ、行為者の弟子に問わないで、イエスに問うているのでしょうか。
- [DQ] イエスはどうかだったのでしょうか。
 - － このときのイエスについては不明。しかし、非難された、弟子たちをまずは、庇（かば）っているようにも見える。
 - － 「安息日に麦の穂を摘む」(2:23-28) 弟子たち
 - － ルカ 11:37-44 37 イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいて食卓につかれた。38 ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見て、そのパリサイ人が不思議に思った。
- [DQ] パリサイ人と律法学者たちにとって「昔のひとの言い伝え」は、どんな意味を持っているのでしょうか。
 - － 律法を厳格に守ろうとしたひとたちの教えを忠実に守ることによって、律法を守っていることを証明すること。

4. イエスは、どのように批判していますか。イエスの批判の中心点は何ですか。(6-8)

- 6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、／『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。7 人間のいましめを教として教え、／無意味にわたしを拝んでいる』。8 あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言伝えを固執している」。
- 何を大切にしているかがずれてきてしまっている。
- [DQ] 本当に「神のいましめをさしおいて、人間の言伝えを固執している」という状態になってしまっているのでしょうか。

- [DQ] イエスが批判しているのは、何なのでしょうか。

5. 9 節-12 節の例では、6 節-8 節で指摘した要点のどのような面を説明しているのでしょうか。どのような対比がありますか。(9-12)

- 9 また、言われた、「あなたがたは、自分たちの言伝えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。10 モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定められる』と。11 それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、12 その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。

- [DQ] どのようなことが行われていたのだと思いますか。

- [DQ] 異なる例を挙げていますが、手を洗わないことに関して解釈すると、どのようなことを言っているのでしょうか。

— 衛生面を強調して、肯定することも、できたのではないだろうか。おそらく、後半から次につながる部分が大切だとしたのだろう。

6. 「神の言を無にしている」とは何を指しているのでしょうか。(13)

- 13 こうしてあなたがたは、自分たちが受けついだ言伝えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている」。
- コルバンに関しては、そのように解釈することで、実際には、父母を大切にしないことになってしまっていないか。
- 手を洗わないことに関しては、単に、あるひとたちを排除したり、分断を作り出すようなことをしていないか。

4.40.7 メモ

- 山浦玄嗣（やまうらはるつぐ）訳「ガリラヤのイエシュー」イー・ピックス出版では、次のように訳されている
 - 2 ところで、イエシューさまの弟子たちの中には、お浄めもしない手で、つまり洗いもしないで、飯を食う者がござった。お歴々はこれに目くじらを立ててござる。
 - 8 お前さまがたは神さまの掟のほうは打ち棄てて、人のつくった仕来りばかりシッカリ固くお守りなさる。」
 - 12 の後にかっこ付きで追記（辻褄の合わせぬこんな屁理屈をこねまわして、親への孝養をないがしろにする、かかる悪しき習わしが当世の流行りにて、子から捨てられて難儀する貧しい年老いた親たち

の何と多かったことか。イエシュさまはこれをおしかりになっておられるのでござる。)

－ 13 こうしてお前さまがたは自分たちが受け継いできた仕来りのために神様の言葉を破り捨てていなさる。そうして更に、この類のことをさまざまなさっている。

• 何を本当に大切にするのか。

－ 書かれたものの解釈に終始するのではなく、御心はなにかを求め続けること。

4.41 7:14-23 昔の人の言い伝え (2)

14 それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。15 すべて外から人の中にはいって、人をけがしうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがすのである。16 「聞く耳のある者は聞くがよい」」。17 イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。18 すると、言われた、「あなたがたも、そんなに鈍いのか。すべて、外から人の中にはいって来るものは、人を汚し得ないことが、わからないのか。19 それは人の心の中にはいるのではなく、腹の中にはいり、そして、外に出て行くだけである」。イエスはこのように、どんな食物でもきよいものとされた。20 さらに言われた、「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。21 すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、22 姦淫、貪欲、邪惡、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。23 これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである」。

4.41.1 マタイ 15:10-20

10 それからイエスは群衆を呼び寄せて言われた、「聞いて悟るがよい。11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」。12 そのとき、弟子たちが近寄ってきてイエスに言った、「パリサイ人たちが御言を聞いてつまずいたことを、ご存じですか」。13 イエスは答えて言われた、「わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう。14 彼らをそのままにしておけ。彼らは盲人を手引きする盲人である。もし盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むであろう」。15 ペテロが答えて言った、「その譬を説明してください」。16 イエスは言われた、「あなたがたも、まだわからないのか。17 口にはいってくるものは、みな腹の中にはいり、そして、外に出て行くことを知らないのか。18 しかし、口から出て行くものは、心の中から出てくるのであって、それが人を汚すのである。19 というのは、悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくるのであって、20 これらのものが人を汚すのである。しかし、洗わない手で食事することは、人を汚すのではない」。

[マルコによる福音書 7 章 14-23 節福音書対照表](#)

4.41.2 問い

1. 前回の部分を復習しましょう。どのようなできごとがあり、またパリサイ人の批判に、イエスはどのように答えていますか。
2. イエスは、誰に対して、何を語っていますか。(14-16)
3. マタイでは、さらに、どのようなことを伝えていますか。(マタイ 15:12-15)
4. イエスは人を汚すものについてどのように説明していますか。(17-23)
5. 「不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴」が人を汚すのは、なぜでしょうか。(22)
6. イエスの言う人を汚すとはどのようなことで、パリサイ人たちが考える汚れと何が違いますか。

4.41.3 参照

- 食べてはならない
 - － 創世記 2:17 しかし善悪を知る木からは取って**食べてはならない**。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」。
 - － 創世記 9:4 しかし肉を、その命である血のままで、**食べてはならない**。
 - － レビ 3:17 あなたがたは脂肪と血とをいっさい**食べてはならない**。これはあなたがたが、すべてその住む所で、代々守るべき永久の定めである』。
 - － レビ 11 4 ただし、反芻するもの、またはひずめの分かれたもののうち、次のものは**食べてはならない**。すなわち、らくだ、これは、反芻するけれども、ひずめが分かれていないから、あなたがたには汚れたものである。[その他多数]
 - － 申命記 14 7 ただし、反芻するものと、ひずめの分れたもののうち、次のものは**食べてはならない**。すなわち、らくだ、野うさぎ、および岩だぬき、これらは反芻するけれども、ひずめが分れていないから汚れたものである。8 また豚、これは、ひずめが分れているけれども、反芻しないから、汚れたものである。その肉を**食べてはならない**。またその死体に触れてはならない。[その他多数]
- 使徒行伝 10:1-11:18, 15:6-11 (汚れについて)
 - － 使徒 10:14 ペテロは言った、「主よ、それはできません。わたしは今までに、清くないもの、汚れたものは、何一つ食べたことはありません」。
 - － 使徒 10:28 ペテロは彼らに言った、「あなたがたが知っているとおり、ユダヤ人が他国の人と交際したり、出入りしたりすることは、禁じられています。ところが、神は、どんな人間をも清くないとか、汚れているとか言ってはならないと、わたしにお示しになりました。
 - － 使徒 11:8 わたしは言った、『主よ、それはできません。わたしは今までに、清くないものや汚れたものを口に入れたことが一度もございません』。

— 使徒 15:6-11 そこで、使徒たちや長老たちが、この問題について審議するために集まった。7 激しい争論があった後、ペテロが立って言った、「兄弟たちよ、ご承知のとおり、異邦人がわたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようにと、神は初めのころに、諸君の中からわたしをお選びになったのである。8 そして、人の心をご存じである神は、聖霊をわれわれに賜わったと同様に彼らにも賜わって、彼らに対してあかしをなし、9 また、その信仰によって彼らの心をきよめ、われわれと彼らとの間に、なんの分けへだてもなさらなかった。10 しかるに、諸君はなぜ、今われわれの先祖もわれわれ自身も、負いきれなかったくびきをあの弟子たちの首にかけて、神を試みるのか。11 確かに、主イエスのめぐみによって、われわれは救われるのだと信じるが、彼らとても同様である」。

- マルコ 3:28-30 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。そう言われたのは、彼らが「イエスはけがれた霊につかれている」と言っていたからである。マタイ 12:31 だから、あなたがたに言うておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。
- マカバイ記一 1 章 62 節-64 節だがイスラエル人の多くはそれにも屈せず、断固として不浄のものを口にしなかった。63 彼らは、食物によって身を汚して聖なる契約に背くよりは、死を選んで命を落としていった。64 大いなる怒りがイスラエルの上に激しく臨んだ。
- マカバイ記二 7 章 1 節-42 節また、七人の兄弟が母親と共に捕らえられ、鞭や革ひもで責め苦を受け、律法に反して豚肉を食するように王から強いられることとなった。2 彼らの一人が弁明して言った。「あなたは何を尋ね、我々から聞き出そうとしているのか。我々は、父祖の律法に違反するぐらいなら死ぬ覚悟がある。」3 激怒した王は、鍋や大釜に火をつけるように命じた。

4.41.4 記録

- 日時：2024 年 1 月 11 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）1 名

4.41.5 問いについて

1. 前回の部分を復習しましょう。どのようなできごとがあり、またパリサイ人の批判に、イエスはどのように答えていますか。
 - （きっかけ）1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。2 そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。
 - （問）5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。

- (イエスの答え) 6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、／『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。7 人間のいましめを教として教え、／無意味にわたしを拝んでいる』。その後例示
- 自分たちの言い伝えを、神の戒めよりも優先している。
- イエスは、論点を変えているように見える。
- 本当にそれが重要なのと聞いているのにも見える。

2. イエスは、誰に対して、何を語っていますか。(14-16)

- 14 それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。15 すべて外から人の中にはいて、人をけがしうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがすのである。16 「聞く耳のある者は聞くがよい」」。
- 『「再び（：写本に依存）」群衆を呼び寄せて言われた」からは、群衆たちは、エルサレムからのパリサイ人とある律法学者が問うているときに、身を引いている印象をうける。群衆は、権威とは、違うことを、あるていど、理解していたのかもしれない。
- 「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。」(14b, マタイ 15:10 にもある) および「[聞く耳のある者は聞くがよい]」。(16) (マルコ 4:9, 23, ルカ 8:8 種まきのたとえ) からは、とても大切なこと、本質的なことを語っているように見える。
- 「すべて外から人の中にはいて、人をけがしうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがすのである。」(15) は、これだけで、群衆がどれだけ、理解できたかは、不明だが、非常に過激なことをいっているように見える。

3. マタイでは、さらに、どのようなことを伝えていきますか。(マタイ 15:12-15)

- 12 そのとき、弟子たちが近寄ってきてイエスに言った、「パリサイ人たちが御言を聞いてつまずいたことを、ご存じですか」。13 イエスは答えて言われた、「わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう。14 彼らをそのままにしておけ。彼らは盲人を手引きする盲人である。もし盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むであろう」。15 ペテロが答えて言った、「その譬を説明してください」。
- 弟子たちが問うのではなく、挿入がある。そして、ペテロがお願いをしている。しかし、このあとの、つながりから、パリサイ人たちが、躓いたのは、汚れについてであることと思われる。イエスのメッセージ、「聞いて悟るがよい。11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」と、律法との関係を深く理解して、躓いたのかは、不明。
- 躓く（： to put a stumbling block or impediment in the way, upon which another may trip and fall, metaph. to offend; a) to entice to sin b) to cause a person to begin to distrust and desert one whom he ought to trust and obey, c) since one who stumbles or whose foot gets

entangled feels annoyed) 立ち上がれなくなるとの意味だろうが、価値観も入っているかもしれない。一般的には、イエスのことばは、まったく受け入れられないと反発したということか。

4. イエスは人を汚すものについてどのように説明していますか。(17-23)

- 17 イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。18 すると、言われた、「あなたがたも、そんなに鈍いのか。すべて、外から人の中にはいつて来るものは、人を汚し得ないことが、わからないのか。19 それは人の心の中にはいるのではなく、腹の中にはいり、そして、外に出て行くだけである」。イエスはこのように、どんな食物でもきよいものとされた。20 さらに言われた、「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。21 すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、22 姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。23 これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである」。

- 「イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。」から始まっており、この部分、詳しい解説は、弟子たちに話したことになっている。おそらく、群衆には理解が難しく、パリサイ人や律法学者とは、激しい議論になってしまうことを避けたのかもしれない。争い以外生み出さないかもしれないので。

- 「あなたがたも、そんなに鈍いのか。」と始めているところからも、弟子たちは、悟るべきだったことがわかる。イエスは、神の子だからわかるのではなく、我々も、御心を求めていれば、理解できるはずというのが、イエスの論理なのだろう。

— マタイでは、弟子たちが叱責されたようには、記述せず、パリサイ人が躓いたとして、ペテロに「その譬を説明してください」。(マタイ 15:15) と語らせている。

- 「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。」ここに本質がある。

— しかし、実によって木がわかるように、さらに、人の中に問題があるとも考えられる。

- [DQ] ここにある悪は、だれを汚すのでしょうか。悪い思いが出た人でしょうか、それとも、その周囲の人でしょうか。

— 周囲の人が汚されるように見える。

— おそらく、神との交わりが、危うくなることを言っているのだろう。明確ではない。

5. 「不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴」が人を汚すのは、なぜでしょうか。

- イエスの頭にあるのは、神さまとの関係が壊れてしまう。神さまの御心になる世界とは、まったく違うということなのかもしれない。神の国が近くない状態になる。
- 神との関係より、肉との関係を優先、または、神が愛される他者を犯す、傷付ける。

- (adultery), ((i) illicit sexual intercourse, (ii) metaph. the worship of idols)
 (murder, slaughter) (theft) (greedy desire to have more, covetousness, avarice)
 (craft, deceit, guile) (unbridled lust, excess, licentiousness, lasciviousness, wantonness, outrageousness, shamelessness, insolence) ((i) full of labours, annoyances, hardships, (ii) bad, of a bad nature or condition) ((i) slander, detraction, speech injurious, to another's good name. (ii) impious and reproachful speech injurious to divine majesty) ((i) pride, haughtiness, arrogance, (ii) the character of one who, with a swollen estimate of his own powers or merits, looks down on others and even treats them with insolence and contempt) ((i) foolishness, folly, senselessness, (ii) thoughtlessness, recklessness)
- 女郎買い、盗み、追剥ぎ、人殺し、人の女房さ手を出したり、よその男を引っ張り込むような外道の振る舞い、強欲、意地の悪い腐れ根性、嘘語りの悪巧み、際限のねえ色好み、嫉妬、悪口に、我ばり立派ぶる威張った心、無分別、こんな碌でもねえごどづあみんな人の心の中がら、ゴダビダ出はって、人を汚く汚すのだ。

6. イエスの言う人を汚すとはどのようなことで、パリサイ人たちが考える汚れと何が違いますか。

- イエスの言える汚すとは、神のみ心をおこなうことから、離れさす。パリサイ人たちが考える汚れは、神のもとにいる清い自分たちが、神のもとにいないものと接触することによって、自分たちが汚れ、神のもとにいらなくなる。
- [DQ] イエスは、人々や弟子たちに何を教えているのでしょうか。
 – 何が、本質的なことかを問うているように見える。
- 神との関係を断つこと、神との交わりを大切にしないこと、パリサイ人も本来は、それを、求めている。
- マカバイー 1:62-64、マカバイ二 7:1-42

4.41.6 メモ

- 当時としては、非常に革命的な発言だったと思われる。そしてそれが、キリスト教会が世界宗教へとなっていた、鍵となる出来事でもある。異邦人の捉え方に、大きな影響を持つことになったのだから。
 – レビ記 11 章の長いリストの否定。おそらく、それを明確には、イエスは告げていない。イエスは、それよりも、上の次元、神さま目線での交わりを大切にされたのではないだろうか。神さまが大切な一人ひとりをたいせつにすること、それを犯すことが、汚すということなのではないだろうか。そのレベルで理解できないと、パリサイ人や、律法学者の理解と、同じ地平となり、単なる分裂をうみだすだけになってしまう。
- ユダヤ人が死をもいとわず、拒否したもの。食べ物のこと、その議論は、キリスト教会のなかでも続

くが、それが最終的ではないことを、リーダーたちが確認できたことは、やはり、重要だったのだろう。コルネリオとのこと、エルサレム使徒会議に続く部分が、この次のシリア・フェニキアの女の信仰へとつながる。それ故に、独立であっても、ここに置かれたのだろう。マルコ的にはとても、得意な記事の挿入になっている。ペトロ由来として、たいせつな記事だったのだろう。

4.42 7:24-30 シリア・フェニキアの女の信仰

24 さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかった。25 そして、けがれた霊につかれた幼い娘をもつ女が、イエスのことをすぐ聞きつけてきて、その足もとにひれ伏した。26 この女はギリシヤ人で、スロ・フェニキヤの生れであった。そして、娘から悪霊を追い出してくださいとお願いした。27 イエスは女に言われた、「まず子供たちに十分食べさすべきである。子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。28 すると女は答えて言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、食卓の下にいる小犬も、子供たちのパンくずは、いただきます」。29 そこでイエスは言われた、「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」。30 そこで、女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまっていた。

4.42.1 マタイ 15:21-28

21 さて、イエスはそこを出て、ツロとシドンとの地方へ行かれた。22 すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。23 しかし、イエスはひと言もお答えにならなかった。そこで弟子たちがみもとにきて願って言った、「この女を追い払ってください。叫びながらついてきていますから」。24 するとイエスは答えて言われた、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない」。25 しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。26 イエスは答えて言われた、「子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。27 すると女は言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」。28 そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。

[マルコによる福音書 7 章 24-30 節福音書対照表](#)

4.42.2 問い

1. イエスは、どこから、どこへ移動しますか。それは、なぜでしょうか。(24)
2. この女の人はどのようなひとで、どんな問題を持っていますか。(25,26)
3. この女のひとと、イエスの対話は、どのように進みますか。(26b-29)

4. そしてどうなりますか。(30)
5. マタイからはさらにどのようなことがわかりますか。
6. イエスの対応から、あなたは、どのようなことを感じますか。

4.42.3 参照

- 地図 The ministry of Jesus beyond Galilee: <https://www.seektheoldpaths.com/Maps/109.jpg>
- 新約聖書にてくるスロ・フェニキヤ (Syrophenician) は、どこのことだと考えられていますか。

– Google Bard: 新約聖書に登場するスロ・フェニキヤ (Syrophenician) は、シリアとフェニキアの両方に属する地域を指すと考えられています。具体的には、現在のレバノン、シリア、イスラエル北部にあたります。

スロ・フェニキアの語源は、ギリシャ語で「シリア人」を意味する「Σ (スュロス)」と、「フェニキア人」を意味する「Φ (フォイニクス)」を組み合わせたものです。このことから、スロ・フェニキヤは、フェニキア人の住む地域であるシリアを含む地域を指すと考えられています。

新約聖書のマルコによる福音書 7 章 24 節とマタイによる福音書 15 章 22 節には、イエス・キリストがスロ・フェニキアの地方で、汚れた霊にとりつかれた娘を持つ女性を癒したという記述があります。この女性は、ユダヤ人ではない異邦人であったため、イエスは最初は彼女の願いを拒みました。しかし、女性の信仰に心を動かされたイエスは、彼女の娘を癒しました。

このエピソードは、イエス・キリストが異邦人にも救いの手を差し伸べたことを示すものとして、重要な意味を持っています。

– Poe Assistant: 新約聖書における「スロ・フェニキヤ」(Syrophenician) という表現は、マルコによる福音書 (マルコ 7:26) および^{*308}。しかし、この表現については諸説あります。

一般的には、「スロ・フェニキヤ」とは、シリア地方のフェニキヤ人 (フェニキア人) 出身の女性を指すと解釈されています。フェニキヤは古代の地域であり、現在のレバノンやシリアの一部に相当します。この女性はギリシャ語で「カナンの女」とも呼ばれています。

ただし、この表現については異論も存在します。一部の学者は、スロ・フェニキヤがフェニキヤ人ではなく、シリア人やスリア人 (アラム人) を指す可能性もあると主張しています。これは、ギリシャ語の表現や文脈に基づく解釈です。

したがって、「スロ・フェニキヤ」が具体的にどの地域や民族を指しているのか正確に特定することは難しいです。ただし、この女性はイエス・キリストに対して求めていた癒しや恵みを受けるために

^{*308} 実際には、マタイには、ない。

頼み込んでいたことが記されており、彼女の信仰心とイエスへの信頼が強調されています。

4.42.4 記録

- 日時：2024 年 1 月 18 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）7 名

4.42.5 問いについて

1. イエスは、どこから、どこへ移動しますか。それは、なぜでしょうか。(24)

- 24 さて、イエスは、そこを立ち去って（ (from thence) ” (arose) (went)）、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかった。
- 「そこ」はどこかは、不明だが、おそらく、ガリラヤ。ツロは、カペナウムからは、北西へ 64km。シドンは、ツロの 41km 東北。
- [DQ] イエスはなぜ、「だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れてい」たのでしょうか。
 - すでに危険な状態になっていたのかもしれない。
- [DQ] イエスはなぜ、「だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかった。」のでしょうか。
 - 群衆の支持はあったようなので、噂は、十分広がっていたと思われる。
 - 参照：マルコ 3:8 エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。（マルコでは、ツロは、引用箇所と、7:24,31 のみ）

2. この女の人はどのようなひとで、どんな問題を持っていますか。(25,26)

- 25 そして、けがれた霊につかれた幼い娘をもつ女が、イエスのことをすぐ聞きつけてきて、その足もとにひれ伏した。26 この女はギリシャ人で、スロ・フェニキヤの生れであった。そして、娘から悪霊を追い出してくださいとお願いした。
- 隠れていくことができなかったことにも関係している。
- 足元にひれ伏しは、一般的には、礼拝をしたことを意味する。
- ギリシャ人で、スロ・フェニキヤの生れ（スロ・フェニキヤは、ここだけ）

- 「娘から悪霊を追い出してくださいとお願いした。」この状態は、不明だが、「30 そこで、女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまっていた。」との対比により、多少の情報を与えている。わめいて、泣きじゃくったり、怒ったり、癪癪をおこしたり死て、床に大人しく寝ているような娘ではなかったのだろう。すくなくとも、平安をもって、神さまのみこころを求められるような状態ではなかったのだろう。

3. この女のひと、イエスの対話は、どのように進みますか。(26b-29)

- 26b そして、娘から悪霊を追い出してくださいとお願いした。27 イエスは女に言われた、「まず子供たちに十分食べさすべきである。子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。28 すると女は答えて言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、食卓の下にいる小犬も、子供たちのパンくずは、いただきます」。29 そこでイエスは言われた、「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」。
- 子犬： (a little dog) 27 も 28 も同じことば。マタイも同じ言葉を使っている。犬： (i) a dog, ii) metaph. a man of impure mind, an impudent man - Mt 7:6, Luke 16:21, Phil 3:2, 2Pet 2:22, Rev 22:15)
- [DQ] イエスは、ユダヤ人を、子供たちと、異邦人を、犬または子犬と思っていたのでしょうか。
- [DQ] イエスは、なぜ「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。(行きなさい。) 悪霊は娘から出てしまった」。と言えるほどの確信を持っていたのでしょうか。
- 「まず」が印象的、「子犬」も、差別的に取っていない。「食卓」の話をしているのは、女性のみ。神の食卓を思わされる。

4. そしてどうなりますか。(30)

- 30 そこで、女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまっていた。
- この記述にも、女の信仰が現れているように見える。マタイほど具体的には書かれていないが。
- 「女が帰ってみると」とある。その前には、イエスが「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」と宣言している。実際に、悪霊が娘からでた証拠はなにも与えられていない。しかし、帰ってみるとの表現からは、疑いもあったかもしれないが、やはり信じて帰ったように見える。マタイでは、それを、「28 そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。」と表現して、信仰のゆえに、いやされた表現になっている。

5. マタイからはさらにどのようなことがわかりますか。

- 「その地方出のカナンの女」と紹介している。
- 「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」こ

の表現もマルコとは、かなり異なる。ダビデの子は、救い主の通称だろうが、マルコでは、イエスを「ダビデの子」と呼んだのは、10:47,48 のみで、イエスはその呼称を不適切としている。

- 10:47 ところが、ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。48 多くの人々は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。
- 12:35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。
- 「わたしをあわれんでください」そして、さらに、25 しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。でも「わたしを」とあり、この女の苦しみ、訴えを中心に描いている。
- この娘の存在が、この女性にたいする批判・非難にもつながっていたかもしれない。
- 23 しかし、イエスはひと言もお答えにならなかった。そこで弟子たちがみもとにきて願って言った、「この女を追い払ってください。叫びながらついてきていますから」。このことばは、かなり厳しいように見える。それゆえに、イエスも、それにつられて、24 するとイエスは答えて言われた、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない」。と言ったように見える。このあたりは、マルコと微妙にことなる。

6. イエスの対応から、あなたは、どのようなことを感じますか。

- 隠れていたかった理由があるのだろう。そして、イスラエルの民のことを、第一に考えていたのではないだろうか。なかなか受け入れられず、指導者からは、疑いの目で見られ、悪意をもたれ、おそらく、バプテスマのヨハネの処刑以降は、身の危険も感じはじめている。群衆には、必要はあり、求めてはくるものの、イエスをそして、神の国に関する、メッセージを理解せず、弟子たちも、神の国の奥義を理解するという意味では、十分な訓練を受けているとは、見えない。

4.42.6 メモ

- マタイでは、主導権を取っているのは、女のようにみえる。しかし、マルコでは、その度合は弱く、イエスの、正直であっても、こだわりがない、丁寧な対応が、浮き彫りにされているようにみえる。
- 引きこもりのイエスについては、しっかり考えたいと思った。非常に、珍しい表現であるように思う。「24 さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかった。」
- 翻訳の関係もあるが、最後の「お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」と「悪霊は出てしまっていた。」の呼応は単純ではあるが、印象的である。イエスは、なぜ、ここまで確信を持てたのだろうか。

- イエスのこの期間の行動は興味深い。しかし、あたらしい出発でもあるように見えるのは、その後の歴史を見ているからか。
- イエスは、自分が遣わされたユダヤ人たちの状態を見て、苦慮していたと思われる。それが、まさにイエスがこころをいためていた問題だった。そこでの女性との出会いである。あまり、イエスは神の子だから、最初から普遍性、すべてのひとの救いを考えていたなどと取ったり、逆に、差別的なユダヤ人てき考えを持っていたが、ここで変わったとか、そのように理解するのは、どちらも、問題があるように思われる。イエスの関心は、こどもたちに向けられていて、苦慮していただけである。しかしそんなときにも、この女に向き合われたことが記録され、そが、キリスト教として、普遍化へと進むときに、おおきな、支えとなったと考えたほうがよいように、思われる。

4.43 7:31-37 耳が聞こえず舌の回らない人を癒やす

31 それから、イエスはまたツロの地方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通りぬけ、ガリラヤの海べにこられた。32 すると人々は、耳が聞こえず口のきけない人を、みもとに連れてきて、手を置いてやっていただきたいとお願いした。33 そこで、イエスは彼ひとりを群衆の中から連れ出し、その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し、34 天を仰いでため息をつき、その人に「エパタ」と言われた。これは「開けよ」という意味である。35 すると彼の耳が開け、その舌のもつれもすぐ解けて、はっきりと話すようになった。36 イエスは、この事をだれにも言ってはならぬと、人々に口止めをされたが、口止めをすればするほど、かえって、ますます言いひろめた。37 彼らは、ひとかたならず驚いて言った、「このかたのなさった事は、何もかも、すばらしい。耳の聞えない者を聞えるようにしてやり、口のきけない者をきけるようにしておやりになった」。

4.43.1 マタイ 15:29-31 (参照)

29 イエスはそこを去って、ガリラヤの海べに行き、それから山に登ってそこにすわられた。30 すると大ぜいの群衆が、足、手、目や口などが不自由な人々、そのほか多くの人々を連れてきて、イエスの足もとに置いたので、彼らをおいやしになった。31 群衆は、口のきけなかった人が物を言い、手や足が不自由だった人がいやされ、盲人が見えるようになったのを見て驚き、そしてイスラエルの神をほめたたえた。

[マルコによる福音書 7 章 31-37 節福音書対照表](#)

4.43.2 問い

1. イエスの移動経路を確認しましょう。どのような背景が考えられますか。(31)
2. 人々は、どんなひとを連れてきますか。何を願っていますか。(32)
3. イエスはどうしますか。そしてどうなりますか。(33-35)

4. イエスは、誰に対して、口止めをしていますか。それはなぜでしょうか。(36)
5. 人々の反応から、どのようなことがわかりますか。(37)
6. あなたは、この箇所から、どんなことを感じ、学びましたか。

4.43.3 参照

- 地図 The ministry of Jesus beyond Galilee: <https://www.seektheoldpaths.com/Maps/109.jpg>
- デカポリス：直接ローマ帝国スリヤ総督配下に属し、独自の貨幣を作っている十の異邦人都市地帯。(バークレイ)
- 手を置く：マルコ 7:32 「すると人々は、耳が聞えず口のきけない人を、みもとに連れてきて、手を置いてやっていただきたいとお願いした。」以外
 - ルカ 4:40 日が暮れると、いろいろな病気になやむ者をかかえている人々が、皆それをイエスのところに連れてきたので、そのひとりびとりに手を置いて、おいやしに（：i) to serve, do service, ii) to heal, cure, restore to health) になった。
 - ルカ 14:4 (安息日に水腫を患っている人を癒やす) 彼らは黙っていた。そこでイエスはその人に手を置いていやし（：i) to cure, heal, ii) to make whole) てやり、そしてお帰しになった。マルコでは、は、5:29 一箇所のみ。
- つばきでのいやし：7 章 33 節以外
 - マルコ 8:23 イエスはこの盲人の手をとって、村の外に連れ出し、その両方の目につばきをつけ、両手を彼に当てて、「何か見えるか」と尋ねられた。
 - ヨハネ 9:6 イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、
- スキナゾー：a sigh, to groan
 - 7:34 天を仰いで**ため息をつき**、その人に「エパタ」と言われた。これは「開けよ」という意味である。
 - ローマ 8:23 それだけではなく、御霊の最初の実を持っているわたしたち自身も、心の内で**うめきながら**、子たる身分を授けられること、すなわち、からだのあがなわれることを待ち望んでいる。
 - 2 コリント 5:2-4 そして、天から賜わるそのすみかを、上に着ようと切に望みながら、この幕屋の中で**苦しみもだ**えている。それを着たなら、裸のままではないことになる。この幕屋の中にいるわたしたちは、重荷を負って**苦しみもだ**えている。それを脱ごうと願うからではなく、その上に着ようと願うからであり、それによって、死ぬべきものがいのちにのまれてしまうためである。

－ ヘブル 13:17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのたましいのために、目をさましていて、彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない。

－ ヤコブ 5:9 兄弟たちよ。互に不平を言い合ってはならない。さばきを受けるかも知れないから。見よ、さばき主が、すでに戸口に立っておられる。

- エパタ：アラム語の使用：[参照](#)

- 預言

－ イザヤ 29:18 その日、耳しいは書物の言葉を聞き、／目しいの目はその暗やみから、見るができる。

－ イザヤ 35:6 その時、足の不自由な人は、しかのように飛び走り、／口のきけない人の舌は喜び歌う。それは荒野に水がわきいで、／さばくに川が流れるからである。

4.43.4 記録

- 日時：2024 年 1 月 25 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）5 名

4.43.5 問いについて

1. イエスの移動経路を確認しましょう。どのような背景が考えられますか。(31)

- 31 それから、イエスはまたツロの地方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通りぬけ、ガリラヤの海べにこられた。
- おそらく、ある程度の期間も要する旅だったろう。しばらく、ガリラヤにはいない。なにをした期間なのだろうか。

2. 人々は、どんなひとを連れてきますか。何を願っていますか。(32)

- 32 すると人々は、耳が聞えず口のきけない人を、みもとに連れてきて、手を置いてやっていただきたいとお願いした。
- 別訳「耳が聞こえないので、話すのに口ごもった」（ティンデル）
 - － 原理的には、これが正しいだろう。

3. イエスはどうしますか。そしてどうなりますか。(33-35)

- 33 そこで、イエスは彼ひとりを群衆の中から連れ出し、その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し、34 天を仰いでため息をつき、その人に「エパタ」と言われた。これは「開けよ」という意味である。35 すると彼の耳が開け、その舌のもつれもすぐ解けて、はっきりと話すようになった。
 - [DQ] なぜ、イエスは「彼ひとりを群衆の中から連れ出し」たのでしょうか。
 - － 見世物ではない。聾者は、差別されていただろうか。舌がもつれているということは、長期間、聾者であったと思われる。
 - [DQ] なぜ、イエスは「その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し」などという行為をしたのでしょうか。
 - － つばきは、通常の医療行為と思われる。天をあおぎ、神の国に近いことを求めたのだろうか。
 - [DQ] なぜ、イエスは「天を仰いでため息をつき」言われたのでしょうか。
 - － 神の国、神の支配が見られないことへの嘆きであろうか。
 - － ため息をつき： : a sigh, to groan
 - [DQ] なぜ、イエスは「エパタ」と言われたのでしょうか。
 - － 弟子たちの耳には、鮮明に残っているということだろう。
4. イエスは、誰に対して、口止めをしていますか。それはなぜでしょうか。(36)
- 36 イエスは、この事をだれにも言うてはならぬと、人々に口止めをされたが、口止めをすればするほど、かえって、ますます言いひろめた。
 - このひとだけではなく、人々に語っている。ニュースが広がることを願っていない。
5. 人々の反応から、どのようなことがわかりますか。(37)
- 37 彼らは、ひとかたならず驚いて言った、「このかたのなさった事は、何もかも、すばらしい。耳の聞えない者を聞えるようにしてやり、口のきけない者をきけるようにしておやりになった」。
 - － 創世記 1:31 神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。夕となり、また朝となった。第六日である。
 - － イエスの反応は書かれていない。反発が強くなり、排除されることを、恐れただけとは考えにくい。
 - [DQ] マタイによる福音書の記述からは、どんなことがわかりますか。
 - － 31 群衆は、口のきけなかった人が物を言い、手や足が不自由だった人がいやされ、盲人が見えるようになったのを見て驚き、そしてイスラエルの神をほめたたえた。

－ いろいろな病人などがいて、それぞれいやされ、それが、「イスラエルの神」への賛美につながっている。

6. あなたは、この箇所から、どんなことを感じ、学びましたか。

4.43.6 メモ

- イエスの医療行為は、見せるためでも、魔術的な力の発揮でもない。通常のことをしているように見える。
- 「耳が聞えず口のきけない人」を連れてきたのは、人々であって、本人が願ったのではない。一般に、人は、障害などを取り除くことを優先して考え、それによって、問題が解決すると考える。目に見えるものによる判断が大きく優先されるということだろう。しかし、障害をもった本人、大きな課題をかかえたひとにとっては、その障害や課題を取り除くことで、幸せになるわけではないことは、理解できているだろう。それは、その人の一部になっているからだ。ここでも、この障害を負ったひとのことばは、ひとことも伝えられていない。障害が取り除けられることは、様々な課題と向き合うひとつのステップではあるかもしれないが、それをもって、問題の解決と考えるひとを前にすると、気後れがすることでもある。イエスのため息のなかには、それも含まれているのかもしれない。ひとりひとりの心の重荷を、イエスは受け取ろうとし、イエス様によって示される神さまも、同様だろう。その神さまにとって、イエス様にとって、この事件は、どのようなものだったのだろう。
- 「このかたのなさった事は、何もかも、すばらしい。耳の聞えない者を聞えるようにしてやり、口のきけない者をきけるようにしておやりになった」。は、おそらく、キリスト教会にたいせつなメッセージとして伝えられただろう。そして、受け取った人の中には、これこそ、イザヤ書 29 章 18 節や、35 章 6 節の成就だと考えた人もいるだろう。さらには、ペトロなど、一緒に旅をして回ったと思われる、弟子たちにとっては、このような積み重ねが、イエスは、神の子、キリストだと確信することにつながっているのだろう。我々は、そこからスタートして、マルコを呼んではいけない。弟子たちとともに、そのように、確信する、歩みをしなければならない。同時に、ここでの表現が、イエスが望んでいた証であったかどうかとも明らかではないことも、心すべきである。イエスと、パリサイ人や、律法学者、そして、ヘロデなどの政治的支配者に理解されていなかったことは、一般的に受け入れられている。しかし、群衆とのやり取りをみると、イエスは、群衆に理解されていないこと、大きなズレがあることは、確信していたと思われる。ヨハネ 2:23-25 「過越の祭の間、イエスがエルサレムに滞在しておられたとき、多くの人々は、その行われたしるしを見て、イエスの名を信じた。しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、また人についてあかしする者を、必要とされなかったからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。」によらずとも、マルコを読んでいるとたびたび示されること、そして、それが、このことを語らないようにいった大きな原因ではないかとも思われる。そして、弟子たちの理解も遅い。他の人に比べると、イエスについて、まんでいったことを多いと思うが、人によっても異なるだろうし、その理解の形も様々だったろう。わたしたちは、マルコを通して、ペトロの理解の歩みを辿っている。ピリポカイザリアでの告白も、そこでのエピソードが伝えて

いるように、十分な理解から、発せられているわけではない。ともに、イエスを、そして、神さまをすこしでも理解する歩みを続けたいものである。

4.44 8:1-10 四千人に食べ物を与える

1 そのころ、また大ぜいの群衆が集まっていたが、何も食べるものがなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、2 「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。3 もし、彼らを空腹のまま家に帰らせるなら、途中で弱り切ってしまうであろう。それに、なかには遠くからきている者もある」。4 弟子たちは答えた、「こんな荒野で、どこからパンを手に入れて、これらの人々にじゅうぶん食べさせることができますでしょうか」。5 イエスが弟子たちに、「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七つあります」と答えた。6 そこでイエスは群衆に地にすわるように命じられた。そして七つのパンを取り、感謝してこれをさき、人々に配るように弟子たちに渡されると、弟子たちはそれを群衆に配った。7 また小さい魚が少しばかりあったので、祝福して、それをも人々に配るようにと言われた。8 彼らは食べて満腹した。そして残ったパンくずを集めると、七かごになった。9 人々の数はおよそ四千人であった。それからイエスは彼らを解散させ、10 すぐ弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの地方へ行かれた。

4.44.1 マタイ 15:32-39

32 イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。しかし、彼らを空腹のまま帰らせたくはない。恐らく途中で弱り切ってしまうであろう」。33 弟子たちは言った、「荒野の中で、こんなに大ぜいの群衆にじゅうぶん食べさせるほどたくさんのパンを、どこで手に入れましょうか」。34 イエスは弟子たちに「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七つあります。また小さい魚が少しあります」と答えた。35 そこでイエスは群衆に、地にすわるようにと命じ、36 七つのパンと魚とを取り、感謝してこれをさき、弟子たちにわたされ、弟子たちはこれを群衆にわけた。37 一同の者は食べて満腹した。そして残ったパンくずを集めると、七つのかごにいっぱいになった。38 食べた者は、女と子供とを除いて四千人であった。39 そこでイエスは群衆を解散させ、舟に乗ってマガダンの地方へ行かれた。

[マルコによる福音書 8 章 1-10 節福音書対照表](#)

4.44.2 問い

1. イエスたちと、群衆について、どのようなことがわかりますか。(1a)
2. イエスの弟子たちへのことばからどのようなことがわかりますか。(1b-3)
3. 弟子たちと、イエスは、どのような会話をしますか。(4,5)

4. イエスは、どうしますか。(6,7)
5. どうなりますか。(8-10)
6. 以前の五千人の給食の記事と比較し、気づいたことをあげてみましょう。(6:30-44)
7. 実際には、なにがおこったのだと思いますか。

4.44.3 参照

- 地図 The ministry of Jesus beyond Galilee: <https://www.seektheoldpaths.com/Maps/109.jpg>
- 新約聖書の「ダルマヌタ (Dalmanutha, mark 8:10)」はどこだと考えられているのでしょうか。

ー Google Bard: 新約聖書の「ダルマヌタ」は、マルコの福音書 8 章 10 節に登場する地名です。この節によると、イエスはガリラヤ湖畔の「ダルマヌタ」で弟子たちに、パリサイ人やヘロデ党員のパン種に注意するようにと教えました。

ダルマヌタの地名は、他の聖書の書物には登場せず、マルコの福音書のこの一節にしか記されていません。そのため、ダルマヌタの具体的な位置は、古くから聖書学者や考古学者によってさまざまな説が唱えられてきました。

主な説としては、以下のようなものが挙げられます。

- * ガリラヤ湖北岸の「タブハ」であるとする説
- * ガリラヤ湖南岸の「デカポリスの一都市」であるとする説
- * ガリラヤ湖南岸の「ガザリヤ」であるとする説
- * ガリラヤ湖北岸の「カイファリア」であるとする説

これらの説の中で、最も有力と考えられているのが、ガリラヤ湖北岸の「タブハ」であるとする説です。タブハは、ガリラヤ湖畔の町で、イエスの奇跡である「パンと魚の増加」の伝承が残る場所です。また、タブハの近くには、「ペテロの召命」の伝承が残る「ペテロの召命教会」があります。これらのことから、ダルマヌタはタブハであると考えられています。

なお、近年の考古学的調査では、タブハの近くに「ダルマヌタの丘」と呼ばれる丘があることが明らかになっています。この丘には、古代ローマ時代の集落の跡があり、ダルマヌタの町がここにあった可能性も指摘されています。

- マルコ 8:7 の小さな魚（ ）と、マルコ 6:41 などの魚（ ）とはどのように違うのですか。
- ー Google Bard: マルコの福音書 8 章 7 節と 6 章 41 節に登場する「魚」は、ギリシャ語でそれぞれ「（イクトュディオン）」と「（イクトュス）」と書かれています。これらの言葉は、どちらも

「魚」を意味しますが、具体的な大きさや種類には若干の違いがあります。

「（イクトゥディオン）」は、一般的に「小さな魚」を意味する言葉です。特に、食用として捕獲される魚よりも小さな魚を指すことが多いです。

一方、「（イクトゥス）」は、一般的に「魚」を意味する言葉です。大きさや種類にかかわらず、魚全般を指すことができます。

マルコの福音書 8 章 7 節では、イエスが弟子たちに、パンの残りを集めて、小さな魚と共に食べるように命じています。この小さな魚は、食用として捕獲される魚よりも小さな魚であると考えられます。これは、パンの残りが比較的多く、さまざまな種類の食べ物が含まれていたためと考えられます。

一方、マルコの福音書 6 章 41 節では、イエスが弟子たちに、5000 人の人々に食事をふるまうために、魚を用意するように命じています。この魚は、一般的に「魚」を指す「（イクトゥス）」であると考えられます。これは、魚が大量に必要だったためと考えられます。

なお、両者の違いについては、文献学的、考古学的な研究に基づいて、さまざまな説が唱えられていますが、一般的には、上記のような解釈がされています。

- かご（）5000 人のときのかごは（）
- マルコ 8:8 のかご（）と、マルコ 6:44 のかごは（）はどのような違いがあるのですか。
 - Google Bard: マルコの福音書 8 章 8 節と 6 章 44 節に登場する「かご」は、ギリシャ語でそれぞれ「（スプユリス）」と「（コフィノス）」と書かれています。これらの言葉は、どちらも「バスケット」や「かご」を意味しますが、具体的な形状や用途には若干の違いがあります。

「（スプユリス）」は、一般的に「バスケット」や「かご」を意味する言葉です。特に、果物や野菜、魚介類などを運ぶために使われていました。また、葬儀の際に遺体を運ぶために使われることもありました。

一方、「（コフィノス）」は、より具体的に「魚かご」を意味する言葉です。底が網で編まれているため、魚を捕獲したり、運んだりするのに適していました。また、乾燥させた果実や穀物を保管するために使われることもありました。

マルコの福音書 8 章 8 節では、イエスが弟子たちに、パンの残りを集めて、かごに入れるように命じています。このかごは、一般的に「バスケット」や「かご」を意味する「（スプユリス）」であると考えられています。これは、パンの残りが比較的多く、さまざまな種類の食べ物が含まれていたためと考えられます。

一方、マルコの福音書 6 章 44 節では、イエスが弟子たちに、5000 人の人々に食事をふるまうために、パンと魚を準備するように命じています。このかごは、より具体的に「魚かご」を意味する「（コフィノス）」であると考えられています。これは、魚が大量に必要だったためと考えられます。

なお、両者の違いについては、文献学的、考古学的な研究に基づいて、さまざまな説が唱えられています。

ー Poe Assistant: マルコによる福音書 8 章 8 節と 6 章 44 節に登場する「かご」には、ギリシャ語で異なる単語が使用されています。これらの単語にはいくつかの違いがあります。

1. マルコ 8:8 の「かご」(, spyris) : これは小さなかごやかご状の容器を指します。この場面では、イエス・キリストが多くの人々にパンを配るために使われたかごを指しています。このかごは、イエスが 5 つのパンと 2 つの魚を祝福し、それを使って多くの人々を満足させた奇跡的な出来事を記述しています。
2. マルコ 6:44 の「かご」(, kophinos) : これはより大きなかごやかご状の容器を指します。この場面では、イエスが 5 つのパンと 2 つの魚を祝福して多くの人々を満足させた後、残ったパンと魚を集めるために使われたかごを指しています。このかごは、集められた残りの食べ物を入れるために使用されたものです。

したがって、マルコ 8:8 の「かご」() は配布に使用される小さなかごであり、マルコ 6:44 の「かご」() は残りの食べ物を集めるために使用される大きなかごです。

- マタイ 4:1-4 さて、イエスは御霊によって荒野に導かれた。悪魔に試みられるためである。2 そして、四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。3 すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」。4 イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」。
- マルコ 8:14-21 で再登場。

4.44.4 記録

- 日時：2024 年 2 月 1 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）4 名

4.44.5 問いについて

1. イエスたちと、群衆について、どのようなことがわかりますか。(1a)
 - 1 そのころ、また大ぜいの群衆が集まっていたが、何も食べるものがなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、
 - どこにいるのか不明。デカポリスのガリラヤ湖畔？このあと船で移動しているので、ガリラヤ湖畔。かつ、カペナウムなどではない。ダルマヌタの場所が不明であることから、特定は難しいが、おそらく、前段の話の続きと思われる。

2. イエスの弟子たちへのことばからどのようなことがわかりますか。(1b-3)

- 1 そのころ、また大ぜいの群衆が集まっていたが、何も食べるものがなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、2 「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。3 もし、彼らを空腹のまま家に帰らせるなら、途中で弱り切ってしまうであろう。それに、なかには遠くからきている者もある」。
- ここでも、深く憐れんで（かわいそうである： ）マルコ 6:34
- [DQ] イエスはどのように弟子たちに語っていますか。これから、群衆の状況について、そして、イエスの関心事について何がわかりますか。
- [DQ] イエスは、何を考えて、このように語っているのでしょうか。
- イエスの、群衆に対する、思いやりが際立っている。

3. 弟子たちと、イエスは、どのような会話をしますか。(4,5)

- 4 弟子たちは答えた、「こんな荒野で、どこからパンを手に入れて、これらの人々にじゅうぶん食べさせることができましょうか」。5 イエスが弟子たちに、「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七つあります」と答えた。
- [DQ] 弟子たちは、どのように状況を判断していますか。
- [DQ] イエスのことばから何がわかりますか。

4. イエスは、どうしますか。(6,7)

- 6 そこでイエスは群衆に地にすわるように命じられた。そして七つのパンを取り、感謝してこれをさき、人々に配るように弟子たちに渡されると、弟子たちはそれを群衆に配った。7 また小さい魚が少しばかりあったので、祝福して、それをも人々に配るようにと言われた。
- [DQ] イエスの行動からは、どのようなことがわかりますか。
- イエスは、何がおこるかを理解していたかはわからないが、神さまに信頼しているように見える。

5. どうなりますか。(8-10)

- 8 彼らは食べて満腹した。そして残ったパンくずを集めると、七かごになった。9 人々の数はおよそ四千人であった。それからイエスは彼らを解散させ、10 すぐ弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの地方へ行かれた。
- 満腹。パンくず、七カゴ。

6. 以前の五千人の給食の記事と比較し、気づいたことをあげてみましょう。(6:30-44)

- おきた場所：おそらくベツサイダの近くと、デカポリスのあたり、ユダヤ人が多い地域と、異邦人が多い地域
- 背景：弟子たちも疲れており、群衆は、「飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで」(6:34)、ここでも、「この群衆がかわいそうである。」どちらも、
: to be moved as to one's bowels, hence to be moved with compassion, have compassion (for the bowels were thought to be the seat of love and pity)。
- 弟子たちとの対話：「あなたがたの手で食物をやりなさい」
- イエスの指示：39 そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。40 人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。ここでは、「35 そこでイエスは群衆に、地にすわるようにと命じ、」
- 配布：41 それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。ここでは、「そして七つのパンを取り、感謝してこれをさき、人々に配るように弟子たちに渡されると、弟子たちはそれを群衆に配った。7 また小さい魚（ : a little fish）が少しばかりあったので、祝福して、それをも人々に配るようにと言われた。」
- 結果：42 みんなの者は食べて満腹した。43 そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。44 パンを食べた者は男五千人であった。ここでは、「8 彼らは食べて満腹した。そして残ったパンくずを集めると、七かごになった。9 人々の数はおよそ四千人であった。それからイエスは彼らを解散させ、」

7. 実際には、なにがおこったのだと思いますか。

- 石がパンになったというようなことは書かれていない。(マタイ 4:1-4)
- 実際に、何が起こったか、イエスの手の中で、パンが増えたのか、配っている間に変化が起こったのか、人々の間で、何かが起きたのかは書かれていない。

4.44.6 メモ

- 五千人養いのときとの対比が興味深い。共通なのは、深く憐れんだこと。自助に頼らなかったこと。石をパンに変えることもおそくなかった。
- 表現が少しずつこととなり、明らかな違いがあり、それがこのあとの、マルコ 8:14-21 にもつながっている。
- イエスは、そして、神さまも、深く憐れまれた。そして、それを、弟子たちと協働して、取り組まれた。そして、皆、満腹して、このまま帰らすことはできないと考えられた状態から、人々を安心して、解散させられる状態になったことは、確かめられる。また、残りのパンくずからも、これが、精神的な満足で満た

されたのとは、異なるだろうことが推測される。まさに、神の国は来たことが、共有されたのだろう。ここには、現場にいた人が、4000 人、また、前には、5000 人は、いたことになる。その証言は、残されていない。また、この人たちが、これらの奇跡によって、イエスについてきたとは書かれていない。それも、不思議なことではある。

4.45 8:11-13 人々はしるしを欲しがる

11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。13 そして、イエスは彼らをあとに残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。

4.45.1 マタイ 16:1-4

1 パリサイ人とサドカイ人とが近寄ってきて、イエスを試み、天からのしるしを見せてもらいたいと言った。2 イエスは彼らに言われた、「あなたがたは夕方になると、『空がまっかだから、晴だ』と言い、3 また明け方には『空が曇ってまっかだから、きょうは荒れだ』と言う。あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるしを見分けることができないのか。4 邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし、ヨナのしるしのほかに、なんのしるしも与えられないであろう」。そして、イエスは彼らをあとに残して立ち去られた。

[マルコによる福音書 8 章 11-13 節福音書対照表](#)

4.45.2 (参照) マタイ 12:38-42

38 そのとき、律法学者、パリサイ人のうちのある人々がイエスにむかって言った、「先生、わたしたちはあなたから、しるしを見せていただきとうございます」。39 すると、彼らに答えて言われた、「邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし、預言者ヨナのしるしのほかに、なんのしるしも与えられないであろう。40 すなわち、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるであろう。41 ニネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、ニネベの人々はヨナの宣教によって悔い改めたからである。しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいる。42 南の女王が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果から、はるばるきたからである。しかし見よ、ソロモンにまさる者がここにいる。

4.45.3 (参照) ルカ 11:29-32

29 さて群衆が群がり集まったので、イエスは語り出された、「この時代は邪悪な時代である。それはしるしを求めるが、ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう。30 というのは、ニネベの人々に対してヨナがしるしとなったように、人の子もこの時代に対してしるしとなるであろう。31 南の女王が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために、地の果からはるばるきたからである。しかし見よ、ソロモンにまさる者がここにいる。32 ニネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、ニネベの人々はヨナの宣教によって悔い改めたからである。しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいる。

4.45.4 問い

1. パリサイ人たちがイエスに議論をしかけた目的は何ですか。(11)
2. パリサイ人が求める「天からのしるし」とはどのようなものなのでしょうか。(11b)
3. イエスの応答からは、どのようなことが読み取れますか。(12)
4. イエスは「しるし」についてどう考えていたのでしょうか。
5. イエスはどうしますか。(13)
6. マタイ 16:1-4 や、その他の関連箇所（マタイ 12:38-42, ルカ 11:29-32）からは「しるし」について、どのようなことがわかりますか。

4.45.5 参照

- 地図 The ministry of Jesus beyond Galilee: <https://www.seektheoldpaths.com/Maps/109.jpg>
- マルコでの「しるし」についての二回目：マルコ 13 章、マタイ 24 章、ルカ 21 章
 - 13:1 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子のひとりが言った、「先生、ごらん下さい。なんといい見事な石、なんといい立派な建物でしょう」。2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。5 そこで、イエスは話しはじめられた、「人に惑わされないように気をつけなさい。

- しるし (: a sign, mark, token; a) that by which a person or a thing is distinguished from others and is known, b) a sign, prodigy, portent, i.e. an unusual occurrence, transcending the common course of nature, i) of signs portending remarkable events soon to happen, ii) of miracles and wonders by which God authenticates the men sent by him, or by which men prove that the cause they are pleading is God's)

－ マルコ 8:11, 12 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。

－ マルコ 13:4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。

－ マルコ 13:22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

－ マルコ 16:17 信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、

－ マルコ 16:20 弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった。]

－ ルカ 23:8 ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。

－ マタイ 12:38, 39, 16:1, 3, 4, 24:3, 24, 30

－ マタイ 26:48

－ ヨハネ 2:11, 18, 23, 3:2, 4:48, 54, 6:2, 14, 26, 30, 7:31, 9:16, 10:41, 47, 12:18, 37, 20:30

- サドカイ派：名前の由来は不明。ギリシャ語（スンディコイ（財務管理人））のユダヤ化したものか。議会議員の意味。ユダヤの貴族の間に多く、特に宗教上の最高権威者である大祭司はサイドカイ派で、最高議会サンヘドリンの議員の多くもこの派に属していた。パリサイ派のように多くの伝承や規則を認めず、聖書だけを信じ、それも、合理的に解釈して、時のギリシャ・ローマ文化の流れに妥協していた。霊の実在も死人の復活も信じず、髪の手定や摂理より、人間の自由意志と自由行動を重視。（榊原「マタイによる福音書中巻」）

－ 使徒 23：6-8 パウロは、議員の一部がサドカイ人であり、一部はパリサイ人であるのを見て、議会の中で声を高めて言った、「兄弟たちよ、わたしはパリサイ人であり、パリサイ人の子である。わたしは、死人の復活の望みをいただいていることで、裁判を受けているのである」。7 彼がこう言ったところ、パ

リサイ人とサドカイ人との間に争論が生じ、会衆は相分れた。8 元来、サドカイ人は、復活とか天使とか霊とかは、いっさい存在しないと言い、パリサイ人は、それらは、みな存在すると主張している。

- Zoom Earth [[リンク](#)]

4.45.6 記録

- 日時：2024 年 2 月 8 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）8 名、参加（遠隔）2 名

4.45.7 問いについて

1. パリサイ人たちがイエスに議論をしかけた目的は何ですか。(11)

- 11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。
- 「出てきて」は、ここにも現れてということであろうか。イエスは、反対者から、距離をおくことはできなかったということか。
- 「試み」「議論」「しるし」いずれも、イエスの活動には、反するものだったのだろう。
- 「試み」からは、イエスの弱点を探ろうとする印象を受け、「議論」からは、自分たちの正当性を主張する雰囲気を感じる。「しるし」は、最初の「試み」とは異なるのか。なにの、しるしだろうか。

2. パリサイ人が求める「天からのしるし」とはどのようなものなのでしょうか。(11b)

- 11b 天からのしるしを求めた。
- 「何の」しるしなのか。権威？神の子であること、メシヤであることの天からのしるしだろうか。
- 出エジプトにまつわるような、紅海が分かれたり、ヨルダン川が分かれたり、パン（マナ）のようなものが降ってきたりだろうか。それとも、エリヤや、エリシャのような預言者と同じようなことをするイエスだろうか。
- しるし。神の国到来、メシヤ到来（外国（ローマ）の支配からの解放）、非常に驚くべき破壊的なことが起こる

— ヨルダン川を二つにわけ、一言で城壁を崩壊（自然の法則を無視した、人々を驚かす破壊的な出来事）神の国の到来の無分別

3. イエスの応答からは、どのようなことが読み取れますか。(12)

- 12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。
 - しるしはいらない。信じるからだろうか。
 - [DQ]「今の時代」と二回いっているが、これは何を意味しているのだろうか。
 - ファリサイ人の態度を批判しているのではなく、「今の時代」といっている。
4. イエスは「しるし」についてどう考えていたのでしょうか。
- 与えられない。
 - 与えられないのでしょうか、与えられてもそれを天からのものと見分けられないのでしょうか。
 - イエスが伝えている、神の国の到来はどのようなものか、神の息吹でみちている。神を見出すために教会に行くのではなく、あらゆるところに神を見出す
5. イエスはどうしますか。(13)
- 13 そして、イエスは彼らをあとに残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。
 - (参照) マルコ 8:10 10 すぐ弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの地方へ行かれた。マタイ 15:39 そこでイエスは群衆を解散させ、舟に乗ってマガダンの地方へ行かれた。
 - ー 不明の地にいるが、ユダヤ人が多い地域でのことだったのだろう。マタイのマガダンは、KJV では、マグダラ (Magdala) となっており、マグダラとすると、西岸である。カペナウムなどではないが、ユダヤ人が多い地では、パリサイ人もおり、議論をふっかけられる。イエスはそれを好まなかったのだろう。
 - ー 向こう岸：ダルマヌタ、マガダンは不明だが、そこには、パリサイ人がいる。おそらく、向こう岸は、東岸だろう。そのあと、ベトサイダ、ピリポ・カイザリア。ユダヤ人、パリサイ人を避けている。
 - イエスを試みるもの、議論をしかけるもの、しるしを求めるもの、それらを退けるのではなく、自分から退散している。とはいっても、ずっと、退散し続けるわけではない。
6. マタイ 16:1-4 や、その他の関連箇所 (マタイ 12:38-42, ルカ 11:29-32) からは「しるし」について、どのようなことがわかりますか。
- 何らかの「しるし」では、納得できないということか。
 - 同様の質問が、マタイ 12:38-42 にも含まれている。

4.45.8 メモ

- それなりに、弟子たちに含めても、大変になりつつある時期なのだおる。イエスは基本的にしるしを拒否している。
- キリスト教でも、しるしは、探し出そうとしていたように思い出される。それが、ヨナのしるしにあらわれ、この世の終わりのしるしに反映されている。しかし、イエスは、この世の終わりについても、気をつけていなさいが、メッセージであるように思われる。70年のエルサレム陥落をうけて、さまざまな議論があったことは、容易に想像がつくが。
- イエスのしるしをみて、イエスの神の国の到来を知りたい。
- このあと、イエスは、どうして、また、エルサレムへの歩みを始めるのだろうか。
- 科学的観察で天候を見分けることなどを否定はされていない。しかし、当時、わかることは、経験則に多少加わった程度だったのではないだろうか。現代の科学的知見については、イエスはむしろ、判断してはいない。しかし、互いに愛し合うことのために、科学的知見をつかうことは、イエスは奨励されるのではないだろうか。

— Quotation: Florence Nightingale [\[Link\]](#), “To understand God’s thoughts we must study statistics, for these are the measure of his purpose.” [\[Link\]](#)

4.46 8:14-21 ファリサイ派の人々とヘロデのパン種

14 弟子たちはパンを持って来るのを忘れていたので、舟の中にはパン一つしか持ち合わせがなかった。15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。16 弟子たちは、これを自分たちがパンを持っていないためであろうと、互に論じ合った。17 イエスはそれと知って、彼らに言われた、「なぜ、パンがないからだと言っているのか。まだわからないのか、悟らないのか。あなたがたの心は鈍くなっているのか。18 目があっても見えないのか。耳があっても聞えないのか。また思い出さないのか。19 五つのパンをさいて五千人に分けたとき、拾い集めたパンくずは、幾つのかごになったか」。弟子たちは答えた、「十二かごです」。20 「七つのパンを四千人に分けたときには、パンくずを幾つのかごに拾い集めたか」。「七かごです」と答えた。21 そこでイエスは彼らに言われた、「まだ悟らないのか」。

4.46.1 マタイ 16:5-12

5 弟子たちは向こう岸に行ったが、パンを持って来るのを忘れていた。6 そこでイエスは言われた、「パリサイ人とサドカイ人とのパン種を、よくよく警戒せよ」。7 弟子たちは、これは自分たちがパンを持ってこなかったためであろうと言って、互に論じ合った。8 イエスはそれと知って言われた、「信仰の薄い者たち

よ、なぜパンがないからだ互に論じ合っているのか。9 まだわからないのか。覚えていないのか。五つのパンを五千人に分けたとき、幾かご拾ったか。10 また、七つのパンを四千人に分けたとき、幾かご拾ったか。11 わたしが言ったのは、パンについてではないことを、どうして悟らないのか。ただ、パリサイ人とサドカイ人とのパン種を警戒しなさい」。12 そのとき彼らは、イエスが警戒せよと言われたのは、パン種のことではなく、パリサイ人とサドカイ人との教のことであると悟った。

マルコによる福音書 8 章 14-21 節福音書対照表

4.46.2 問い

1. どのような状況で、イエスは弟子たち「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われますか。(14,15)
2. 弟子たちは、イエスのことばをどのように受け取りますか。(16)
3. イエスは、どのように、弟子たちに問いますか。何に気づかせようとしているのでしょうか。(17-20)
4. マタイ 16:5-12 は、なにを伝えていますか。
5. 弟子たちは、何を悟らなければいけなかったのでしょうか。(21)
6. 最初のイエスの言葉は、どんなことに警戒せよと言っているのでしょうか。(15)

4.46.3 参照

- 地図 The ministry of Jesus beyond Galilee: <https://www.seektheoldpaths.com/Maps/109.jpg>
- パン種 (yeast) : [[リンク](#)]
- パリサイ派とヘロデ党
 - ー マルコ 3:6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。
- サドカイ派とパリサイ派
 - ー 協力：マタイ 16:1 1 パリサイ人とサドカイ人とが近寄ってきて、イエスを試み、天からのしるしを見せてもらいたいと言った。
 - ー 対立：使徒 23：6-8 パウロは、議員の一部がサドカイ人であり、一部はパリサイ人であるのを見て、議会の中で声を高めて言った、「兄弟たちよ、わたしはパリサイ人であり、パリサイ人の子である。わたしは、死人の復活の望みをいただいでいることで、裁判を受けているのである」。7 彼がこう言ったところ、パリサイ人とサドカイ人との間に争論が生じ、会衆は相分れた。8 元来、サドカイ人は、復活

とか天使とか霊とかは、いっさい存在しないと言い、パリサイ人は、それらは、みな存在すると主張している。

- － サドカイ：名前の由来は不明。ギリシャ語、スンディコイ（財務管理人）のユダヤ化したものと言われる。つまり、議会議員の意味。Σ （正しいの可能性も）

* Σ : Sadducees = “the righteous” a. a religious party at the time of Christ among the Jews, who denied that the oral law was a revelation of God to the Israelites, and who deemed the written law alone to be obligatory on the nation, as the divine authority. They denied the following doctrines: i) resurrection of the body, ii) immortality of the soul, iii) existence of spirits and angels, iv) divine predestination, affirmed free will

- ヘロデとピラト

- － ルカ 23:12 ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。
- － ルカ 9:9 そこでヘロデが言った、「ヨハネはわたしがすでに首を切ったのだが、こうしてうわさされているこの人は、いったい、だれなのだろう」。そしてイエスに会ってみようと思っていた。

- 異邦人とユダヤ人

- － 使徒 14:5 その時、異邦人やユダヤ人が役人たちと一緒にあって反対運動を起し、使徒たちをはずかしめ、石で打とうとしたので、
- イザヤ 6:10 あなたはこの民の心を鈍くし、／その耳を聞えにくくし、／その目を閉ざしなさい。これは彼らとその目で見、／その耳で聞き、／その心で悟り、／悔い改めていやされることのないためである。(マタイ 13:15 参照)
- 1 コリント 2:11-13 いったい、人間の思ひは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っていようか。それと同じように神の思ひも、神の御霊以外には、知るものはない。12 ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。13 この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いなくて、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。
- ルカ 12:1 その間に、おびたしい群衆が、互に踏み合うほどに群がってきたが、イエスはまず弟子たちに語りはじめられた、「パリサイ人のパン種、すなわち彼らの偽善に気をつけなさい。
- 1 コリント 5:6-7 あなたがたが誇っているのは、よろしくない。あなたがたは、少しのパン種が粉のかたまり全体をふくらませることを、知らないのか。6 新しい粉のかたまりになるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたは、事実パン種のない者なのだから。わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ。

4.46.4 記録

- 日時：2024 年 2 月 15 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）6 名

4.46.5 問いについて

1. どのような状況で、イエスは弟子たち「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われますか。(14,15)

- 14 弟子たちはパンを持って来るのを忘れていたので、舟の中にはパン一つしか持ち合わせがなかった。15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。
- [DQ] なぜ、弟子たちは、パンを持ってくるのを忘れたのでしょうか。(背景を復習しましょう)
 - － 11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。13 そして、イエスは彼らをあとに残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。
 - － ユダヤ人が住んでいる地域に久しぶりに行ったが、落ち着く暇もなく、パリサイ人たちが、イエスを試そうとして、天からのしるしをもとめ、議論をしかけてきたので、あまり重要なことはせずに、立ち去ったように思われる。
- [DQ] イエスは、どのような気持ちで、訪問した地を離れたのでしょうか。
 - － 群衆との時間も持てなかった。イエスの、深く嘆息したなかに、イエスの心情が表れているように見える。

2. 弟子たちは、イエスのことばをどのように受け取りますか。(16)

- 16 弟子たちは、これを自分たちがパンを持っていないためであろうと、互に論じ合った。
- [DQ] 「互いに論じあった」はどんなことを意味しているのでしょうか。
 - － イエスは、議論をしかけてきた、パリサイ人たちをさけて、その地を去ってきた。ここで、もしかすると、弟子たちは、責任論などを議論していたのかもしれない。
- [DQ] なぜ、弟子たちは、自分たちがパンを持っていなかったためだと考えたのでしょうか。
 - － イエスの関心事、イエスの心の痛みを理解しようとしていない。

－ 自分の責任・役割にだけ、関心を持っている。

3. イエスは、どのように、弟子たちに問いますか。何に気づかせようとしているのでしょうか。(17-20)

- 17 イエスはそれと知って、彼らに言われた、「なぜ、パンがないからだと言っているのか。まだわからないのか、悟らないのか。あなたがたの心は鈍くなっているのか。18 目があっても見えないのか。耳があっても聞えないのか。また思い出さないのか。19 五つのパンをさいて五千人に分けたとき、拾い集めたパンくずは、幾つのかごになったか」。弟子たちは答えた、「十二かごです」。20 「七つのパンを四千人に分けたときには、パンくずを幾つのかごに拾い集めたか」。「七かごです」と答えた。

- [DQ] イエスは、かなり怒っているように見えますが、なにに怒っているのでしょうか。

- [DQ] 「五つのパンをさいて五千人に分けたとき、拾い集めたパンくずは、幾つのかごになったか」「七つのパンを四千人に分けたときには、パンくずを幾つのかごに拾い集めたか」は、何に気づかせようとしているのでしょうか。

－ 最初は、理由も示さず、イライラしているように見えるが、あとでは、一緒に経験したところに戻って、気づかせようとしている。

－ 物質的な不足が問題なのではない。それにとらわれてはいけない。

－ いまも、パンが一つしかない、物質的な欠乏に、こころがとらわれていたら、神様のみこころは理解できない。

- [DQ] 何を思い出させたいのでしょうか。

－ イエスはスーパースターで何でもできること、神様のめぐみに生きれば不足しないこと、もっとたいせつなことに目を向けるべきこと。

- [DQ] イエスは、いくらでも、パンを生み出してくれることを、悟りなさいと言っているのでしょうか。

－ そうであれば、わたしたちとは、ほとんど、関係のないことのように見える。

4. マタイ 16:5-12 は、なにを伝えてありますか。

- マタイでは、6 そこでイエスは言われた、「パリサイ人とサドカイ人とのパン種を、よくよく警戒せよ」。となっている。

－ 「そこで」には順接的な感じを受ける。

Σ マルコでは、^{*309} , Φ

－ パリサイ人とサドカイ人となっており、マルコの「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」とは異なる。

^{*309} : i) to draw asunder, divide, distinguish, dispose, order, ii) to open one's self i.e. one's mind, to set forth distinctly, iii) to admonish, order, charge

- [DQ] なぜ、マタイは、「パリサイ人とサドカイ人」としたのでしょうか。
 - － おそらく、最後に鍵がある。「12 そのとき彼らは、イエスが警戒せよと言われたのは、パン種のことではなく、パリサイ人とサドカイ人との教のことであると悟った。」「教え」と理解すると、ヘロデは、そぐわない。
- [DQ] マタイが書いているように、本当に「教え」なのでしょうか。
 - － 12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。ここに鍵があるように思う。パリサイ人のような、「イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求め」(11)を非難せず「今の時代」と言っている。
 - － 対応箇所のマタイでは「1 パリサイ人とサドカイ人とが近寄ってきて、イエスを試み、天からのしるしを見せてもらいたいと言った。」と、パリサイ人とサドカイ人となっている。
- マタイでは「信仰の薄いものよ」と、信仰の問題にしている。ということは、マタイでは、物質的な欠乏は問題ないと言っているようにも取れる。
- 「11 わたしが言ったのは、パンについてではないことを、どうして悟らないのか。」が、教えを誘導しているようにも見える。マルコには、そのような表現はない。マルコの文章では理解できなかったのだろう。

5. 弟子たちは、何を悟らなければいけなかったのでしょうか。(21)

- 21 そこでイエスは彼らに言われた、「まだ悟らないのか」。
- パンの個数や人の人数ではないこと。 イエスはいくらでも、奇跡を起こされる方であること。 もっとたいせつなものがあること。
- [DQ] 弟子たちは、悟ることができたのでしょうか。
 - － おそらく、その一つの解釈がマタイにある。
 - － しかし、イエスは、マルコでは「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」。ここには「今の時代」も現れている。

6. 最初のイエスの言葉は、どんなことに警戒せよと言っているのでしょうか。(15)

- 「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」 - 今の時代。
- [DQ] パリサイ人の問題点は、何だと、イエスは考えていたのでしょうか。ここまでに書かれていたことを振り返って考えてみましょう。
 - － しるしを求める。(マルコ 8:11-13)

- － 神の戒めを棄てて、人間の言い伝えを固く守っている。(マルコ 7:8) 神のみこころを求めようとしない。(マルコ 3:35)
- － 聖霊を冒瀆するもの。(マルコ 3:29) マルコではエルサレムから下ってきた律法学者たちとあるが、マタイではファリサイ派の人々。
- － 安息日に善いことをするのは許されているのにたいして、イエスを殺そうとする。(マルコ 3:4,6)
- [DQ] ヘロデの問題点は何だと、イエスは考えていたのでしょうか。ここまでに書かれていたことを振り返って考えてみましょう。
 - － マルコでは、イエスが宣教をはじめたのは「ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、『時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。』」(1:14,15) イエスたちが、カペナウムを離れたのは、ヨハネが殺された頃から。直後に、五千人の給食。ヘロデのことが関わっていることが描写されている。
 - － マルコ 6:19,20 そこで、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。それはヘロデが、ヨハネは正しくて聖なる人であることを知って、彼を恐れ、彼に保護を加え、またその教を聞いて非常に悩みながらも、なお喜んで聞いていたからである。
 - － イエスの弟子たちと、ヨハネの弟子たちは、緊密な関係にあった。(ヨハネ 1:35-42, マタイ 9:14)
 - － ヨハネを殺したヘロデについても、十分な情報を持っていただろう。
 - － 「教えを喜びながら、王としての力を捨ててまで、悔い改めて信じはしない。」
- このときの、イエスや、弟子たちについて、あなたはどのような印象を受けますか。

4.46.6 メモ

- イエスは、どのような状況だったのだろう。どのように状況を考えていたのだろう。おそらく、久しぶりに戻った、ガリラヤ（ガリラヤ湖西岸）で、深く嘆息するようなできごとがあり、そそくさと、ほとんど何もしないで、舟で立ち去ったその舟の中での出来事である。「今の時代」について嘆き、パリサイ人の失礼な態度をいっているわけではない。更に、高いレベルでの嘆きがここにある。
- いろいろと考えた挙げ句、イエスが言った言葉が、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」である。やはり、パリサイ的なもの、ヘロデ的なものに注意せよ。それが、どんどん膨れて、腐らせてしまうと聞いたかったのだろう。
- パンを買ってくること（を忘れた）できなかった、弟子たちが、その悔恨に互いに言い合っている有り様は、パリサイ派の議論とは違うにしても、やはり、イエスを、とてもがっかりさせることだったろう。最初は、明らかに、怒ってしまったイエス。こう怒られても、弟子たちがなにかを理解できるわけではない。そこで、次に、覚えていないのかといい、五千人養いと、四千人養いのときの、最後にパンくずをあつめ

たかご（五千人のときは大きなかご、四千人のときは小さなかご）の数を問うている。一緒に経験した、神の国の到来を思い出させたのだろう。

- マルコでは、どうも、弟子たちは、理解できなかったようである。それをすなおに表現している。（マタイではひとつの理解を書いている。そのために、パン種についても、パリサイ派とサドカイ派のパンだねと変化させ、向こう岸で、しるしをもとめるときも、パリサイ派とサドカイ派としている）考えさせる効果がある。
- 神の国についての理解、神の国の到来のひとつの例として、五千人養いと、四千人養いについてしるし、それは、パリサイがもとめるしるしや、ヘロデ的なものともことなることをも同時に伝えているのだろう。十分理解できているわけではないが、単純に理解してわかったきになってはいけないとも思う。
- この時期の、イエス、次に移っていくイエス。丁寧に見ていきたい。

4.47 8:22-26 ベツサイダで盲人を癒やす

22 そのうちに、彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、ひとりの盲人を連れてきて、さわってやっていただきたいとお願いした。23 イエスはこの盲人の手をとって、村の外に連れ出し、その両方の目につばきをつけ、両手を彼に当てて、「何か見えるか」と尋ねられた。24 すると彼は顔を上げて言った、「人が見えます。木のように見えます。歩いているようです」。25 それから、イエスが再び目の上に両手を当てられると、盲人は見つめているうちに、なおってきて、すべてのものがはっきりと見えだした。26 そこでイエスは、「村にはいってはいけない」と言って、彼を家に帰された。

マルコによる福音書 8 章 22-26 節福音書対照表

4.47.1 問い

1. イエスと弟子たちは、どこにつきますか。それはどのような場所ですか。どのような経路で移動したのでしょうか。（22a）
2. どのようなひとがイエスのもとに連れてこられますか。（22b）
3. イエスはどうしますか。（23-25）
4. なぜイエスは、このひとに、村にはいることを許されなかったのでしょうか。（26）
5. このときのイエスから、どのようなことがわかりますか。

4.47.2 参照

- 地図 The ministry of Jesus beyond Galilee: <https://www.seektheoldpaths.com/Maps/109.jpg>

- ベツサイダ (Bethsaida = “house of fish (hunting: hunter)”, i) a small fishing village on the west shore of Lake Gennesaret, home of Andrew, Peter, Philip and John, ii) a village in lower Gaulanitis on the eastern shore of Lake Gennesaret, not far from where the Jordan empties into it)
 - マルコ 6:45 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。
 - * ルカ 9:10 使徒たちは帰ってきて、自分たちのしたことをすべてイエスに話した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。
 - * ヨハネ 6:1 そののち、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。
 - マルコ 8:22 そのうちに、彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、ひとりの盲人を連れてきて、さわってやっていただきたいとお願いした。
 - マタイ 11:21 「わざわざいだ、コラジンよ。わざわざいだ、ベツサイダよ。おまえたちのうちでなされた力あるわざが、もしツロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰をかぶって、悔い改めたであろう。
 - * ルカ 10:13 わざわいだ、コラジンよ。わざわざいだ、ベツサイダよ。おまえたちの中でなされた力あるわざが、もしツロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰の中にすわって、悔い改めたであろう。
 - ヨハネ 1:44,45 ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。45 このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。
 - ヨハネ 12:21 彼らはガリラヤのベツサイダ出であるピリポのところに来て、「君よ、イエスにお目にかかりたいのですが」と言って頼んだ。
 - 参照：ヨハネ 5:2 エルサレムにある羊の門のそばに、ヘブル語でベテスダ (Bethesda = “house of mercy” or “flowing water”, the name of a pool near the sheep-gate at Jerusalem, whose waters had curative powers) と呼ばれる池があった。そこには五つの廊があった。

4.47.3 記録

- 日時：2024 年 2 月 22 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）6 名

4.47.4 問いについて

1. イエスと弟子たちは、どこにつきますか。それはどのような場所ですか。どのような経路で移動したのでしょうか。(22a)

- 22a そのうちに、彼らはベツサイダに着いた。
- [DQ] ベツサイダとはどのような地ですか。過去にはどのようなことがありましたか。
 - － 5000 人の給食はここであったのかもしれない。(マルコ 6:45 からすると、ヨルダン川西岸のガリラヤとも考えられる。しかし、ルカ 9:10 は明らかに、ベツサイダ、また、ヨハネ 6:1 の記述からは、ベツサイダの可能性が強い。西岸でも寂しいところはあるだろうが、記述からは、東岸のベツサイダ周辺の可能性が高い。)
 - － ヨハネ 1:44,45 アンデレ、ペテロ、ピリポは、ベツサイダの出身。(ヨハネ 12:21 ピリポがベツサイダの出身であること再術)
 - － マタイ 11:21、ルカ 10:13 「わざわざだ、コラジンよ。わざわざだ、ベツサイダよ。」ベツサイダで力あるわががなされたことが強調され、ここには、カペナウムはない。
- [DQ] なぜ、ここにいるのでしょうか。
 - － ユダヤ人がたくさんいる（ファリサイ派の人が多い）地域をさけているように見える。また、このあとは、ピリポ・カイザリアに飛んでいる。舟を係留する地として、人が多いカペナウムではなく、ベツサイダを選んだ可能性もある。
 - － このあと、ピリポ・カイザリア、6日後に、高い山、ガリラヤを通り、カペナウム（議論）、10 章では、ユダヤ地方とヨルダン川の向こう、10:32 エルサレムへ上る途上となる。

2. どのようなひとがイエスのもとに連れてこられますか。(22b)

- 22b すると人々が、ひとりの盲人を連れてきて、さわってやっていただきたいとお願いした。
- [DQ] なぜ人々が、この盲人を連れてきたのでしょうか。
 - － 目が見えないから、手を引いてきた可能性もある。
 - － 人々が、強いてそれをしたのかもしれない。このひとが、無理だと思っている時に。もう、これでいいと思っているときに。
 - － ベツサイダは、イエスが、何度も来ている場所で、かつ小さな村でもある。

3. イエスはどうしますか。(23-25)

- 23 イエスはこの盲人の手をとって、村の外に連れ出し、その両方の目につばきをつけ、両手を彼に当てて、「何か見えるか」と尋ねられた。24 すると彼は顔を上げて^{*310}言った、「人が見えます。木のようには見えます。歩いているようです」。25 それから、イエスが再び目の上に両手を当てられると、盲人は見つめているうち^{*311}に、なおってきて、すべてのものがはっきりと見えだした。

- [DQ] なぜ、イエスは、この盲人の手をとって、村の外に連れ出したのでしょうか。
- [DQ] なぜ、一回で、治さなかった、治らなかったのでしょうか。
- [DQ] なぜ、このように、記録されたのでしょうか。イエスが、さわられると、癒やされたではいけないのでしょうか。

－「何か見えるか」と尋ねている。イエスがわからないことがあると考えるのが自然。

－「なおってきて」には、イエスが、何回もさわるとそのたびに、良くなったと言うより、回復力、神様の力など、あるはたらきがそこにあるような印象をうける。

4. なぜイエスは、このひとに、村にはいることを許されなかったのでしょうか。(26)

- 26 そこでイエスは、「村にはいってはいけない」^{*312}と言って、彼を家に帰された。
- 旅の途中で、寄っただけで、村の人に知られなくなかった。大げさにしなくなかった。いやしが中心的なしごとだと思われなくなかった。
- [DQ] 家はどこにあったのでしょうか。
- － おそらく、村から程遠くない、村の外。
- [DQ] どうやって帰ってたのでしょうか。
- － 目が見えるようになったから？おそらく、ちょっと違うことが、そこに働いているのだろう。

5. このときのイエスから、どのようなことがわかりますか。

- Available であることは、変わっていないが、どんどん、癒やす、村人の要求に答える感じではない。
- イエスが、何を考えていたかは、あまりよくはわからない。

4.47.5 メモ

- マルコ 7 章 31-37 節 耳が聞こえず舌の回らない人を癒やすとの類似を指摘する人もいる。

^{*310} 「みえるようになって」との翻訳もある。

^{*311} 未完形：動作の継続。

^{*312} 「村でだれにも語らないように」との写本もある。

- 長い、逃避行の中で、ユダヤ人のいる地域から、舟で移動している。どこかに係留して、ベッサイダに向かった可能性もあるが、おそらく、ペテロや、アンデレ、ピリポの故郷でもある、ベッサイダまで舟で戻ったのだろう。ここから、次は、ピリポ・カイザリアに向かう。ヨルダン川西側は、避けたように見える。
- この目の見えない人は、人々に連れてこられる。目が見えないからそうされた可能性もあるが、促されて来たのかもしれない。また、今度、読んでいて考えたのは、もしかすると、このとき一回の治療ではないかもしれないとも思った。縮約して書かれているのかもしれないということである。段階的に治ったこと、群衆や人々からは離れてなされたことも書かれているからである。このあとは、山上の変貌もあり、エルサレムに向かい始める。ベッサイダへはこれが最後だったかもしれないことを考えると、ここで、完全に癒やされたことは印象深い。
- マタイ、ルカに入っていないことの意味を考えるのも、興味深い。単純ではない、いやしの記事は不要だったのかもしれない。流れとして、なぜここにベッサイダの記事が入るのかも、不自然に思えたかもしれない。しかし、イエスらしさが、ペトロの目撃証言として、記されているのが、興味深い。

4.48 8:27-30 ペトロ、イエスがメシアであると告白する

27 さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられたが、その途中で、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は、わたしをだれと言っているか」。28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言い、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。30 するとイエスは、自分のことをだれにも言うてはいけなと、彼らを戒められた。

4.48.1 マタイ 16:13-20

13 イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。14 彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」。15 そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。16 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。17 すると、イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。18 そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。19 わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」。20 そのとき、イエスは、自分がキリストであることをだれにも言うてはいけなと、弟子たちを戒められた。

4.48.2 ルカ 9:18-21

18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが近くにいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしをだれと言っているか」。19 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。しかしほかの人たちは、エリヤだと言い、また昔の預言者のひとりが復活したのだと、言っている者もあります」。20 彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「神のキリストです」。21 イエスは彼らを戒め、この事をだれにも言うなと命じ、そして言われた、

[マルコによる福音書 8 章 27-30 節福音書対照表](#)

4.48.3 (参考) ヨハネ 6:59-71

59 これらのことは、イエスがカペナウムの会堂で教えておられたときに言われたものである。60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。61 しかしイエスは、弟子たちがそのことでつぶやいているのを見破って、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまずきになるのか。62 それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。65 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとりとは悪魔である」。71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

4.48.4 問い

1. どのようなときに、イエスは、弟子たちに、自分について人々がだれだと言っているかと聞いていますか。(27)
2. 弟子たちは、どのように答えますか。(28)
3. それに対して、イエスはどのように尋ねますか。(29a)
4. だれがどのように答えますか。(29b)

5. イエスは、なぜ、自分のことをだれにも言うてはいけないと、弟子たちを戒めるのでしょうか。(30)
6. マタイや、ルカからはさらにどのようなことがわかりますか。
7. 弟子たちにとって、イエスは、どのような存在だったのでしょうか。

4.48.5 参照

- ヨハネ 6:59-71
- 地図 The ministry of Jesus beyond Galilee: <https://www.seektheoldpaths.com/Maps/109.jpg>
- ピリポ・カイザリア
 - ベツサイダから北へ 41km、ガリラヤ湖面から 520m 上。海拔 350m
 - パニアスと呼ばれ、パネアスという山に洞窟があり、パン（森・牧童の神）とニンフ（川、泉、洞穴、林の神）の誕生の地
 - ヘロデ・ピリポによって建てられた街で、地中海沿岸にある、カイザリアと区別するためにピリポ・カイザリアと呼ばれる。
- エリヤ
 - マラキ 4:5,6 (3:23) 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。6 彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」。
- キリスト（ギリシャ語）、メシヤ（ヘブル語）：油注がれたもの
 - 旧約聖書では、祭司（出エジプト記 29:7, 21）、王（サムエル記上 10:1）、預言者（列王記上 19:16）などが油を注がれた。特に、ダビデの子孫から王としてのメシヤが現れるという期待があった。（サムエル記下 7:12,13、詩篇 18:50、89:19-37、132:11,12、イザヤ 9:6,7、11:1-5、アモス 9:11,12）。この期待は中間時代にも受け継がれ、マカベヤ時代のユダヤ人たちの間で、レビの部族から祭司であり王であるメシヤが出るとの期待が高まった。しかし、ダビデの子孫としてのメシヤに対する期待も依然として存続していた。（ソロモンの詩篇 17:5-8, 23-28, 18:6-8）。クムラン教団では、祭司としてのメシヤと、王としてのメシヤという、二人のメシヤに対する期待があった。イエスの時代にも、人々はダビデの王国を回復してくれるメシヤに対する期待を抱いた。しかし、このメシヤは、地上における、ダビデ王国を政治的に確立する人物であり、武力を持って、独立を獲得するものと考えられていた。イエスは、メシヤであったが、それは、地上の王国ではなく、霊の王国を確立し、武力による独立ではなく、十字架上のあがないの死によって、罪の力から霊を解放するかたであった。したがって、当時ユダヤ人の間に一般的に使われていた「メシヤ」という称号は誤った印象を与えるので、イエスはこれを用いることを避け「人の子」という表現を好んで用いた。しかし、旧約の預言において約束されていたメシヤの約束を真に成就するものとして、イエスは来られた。この意味において。ペテロの答えは正しかった。（マタイ 16:17）。イエスの使命は、真に神のことばを語る預言者であり、霊のイスラエルの罪を贖う祭司であり、新しい霊のイスラエル王国（キリスト者の群れ）を建設し支配する王である。しかし、ペテロのすぐあとの態度（32）を見ると、彼はイエスをキリストとして告白しな

がらも、依然として当時のユダヤ人と同様に、地上的、政治的メシヤとして考えていたことがわかる。
(いのちのことば社「新聖書注解」マルコによる福音書山口昇)

- ー イザヤ 9:6,7 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、／ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、／その名は、「靈妙なる議士、大能の神、／とこしえの父、平和の君」ととなえられる。7 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、／ダビデの位に座して、その国を治め、／今より後、とこしえに公平と正義とをもって／これを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。
- ー イザヤ 11:1-10 エッサイの株から一つの芽が出、／その根から一つの若枝が生えて実を結び、2 その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、／主を知る知識と主を恐れる霊である。3 彼は主を恐れることを楽しみとし、／その目の見るところによって、さばきをなさず、／その耳の聞くところによって、定めをなさず、4 正義をもって貧しい者をさばき、／公平をもって国のうちの／柔和な者のために定めをなし、／その口のむちをもって国を撃ち、／そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。5 正義はその腰の帯となり、／忠信はその身の帯となる。6 おおかみは小羊と共にやどり、／ひょうは子やぎと共に伏し、／子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、／小さいわらべに導かれ、7 雌牛と熊とは食べ物を共にし、／牛の子と熊の子と共に伏し、／ししは牛のようにわらを食い、8 乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、／乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。9 彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、／やぶることがない。水が海をおおっているように、／主を知る知識が地に満ちるからである。10 その日、エッサイの根が立って、もろもろの民の旗となり、もろもろの国びとはこれに尋ね求め、その置かれる所に栄光がある。
- ー エレミヤ 22:4 もしあなたがたがこの言葉を実行するならば、ダビデの位にすわる王とその家臣、およびその民は、車と馬に乗って、この家の門にはいることができる。
- ー エレミヤ 23:5 主は仰せられる、見よ、わたしがダビデのために一つの正しい枝を起す日がくる。彼は王となって世を治め、栄えて、公平と正義を世に行う。
- ー エレミヤ 30:9 彼らはその神、主と、わたしが彼らのために立てるその王ダビデに仕える。

4.48.6 記録

- 日時：2024 年 2 月 29 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）7 名

4.48.7 問いについて

1. どのようなときに、イエスは、弟子たちに、自分について人々がだれだと言っているかと聞いていますか。
(27)
 - 27 さて、イエスは弟子たちとペリポ・カイザリヤの村々へ出かけられたが、その途中で、弟子たちに尋ねて（繰り返し）言われた、「人々は、わたしをだれと言っているか」。

- [DQ] なぜ、ピリポ・カイザリヤの村々への途中で、尋ねたのでしょうか。
 - － ガリラヤから離れ、弟子たちだけがいるところで、聞いたのかもしれない。
 - － パリサイ派の人などがいるところでの、議論とは違う場で、おちついて弟子たちに聞いたかったのでは。
- [DQ] なぜ、人々がだれだと言っているかを、まず聞いたのでしょうか。
 - － ある程度は、理解していたと思うが、全体像を把握しておきたいと思ったのかもしれない。
 - － パリサイ人などは、別として、人々の考えは様々だったろう。それを聞いておきたかったように思う。
- 汚れた霊に憑かれたひと「神の聖者」(1:24) 汚れた霊ども「神の子」(3:11)
- エリヤ：マラキ 3:23 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

2. 弟子たちは、どのように答えますか。(28)

- 28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言ひ、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。
 - － 過去の偉人の生まれ変わりまたは復活。旧約の預言の成就としてのメシヤの前ぶれ。
- [DQ] これまでには、イエスについての人々の考えは、どのように書かれていましたか。
 - － 6:14,15 14 さて、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王の耳にはいった。ある人々は「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」と言い、15 他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。
 - － ルカ 9:7,8 7 さて、領主ヘロデはいろいろな出来事を耳にして、あわて惑っていた。それは、ある人たちは、ヨハネが死人の中からよみがえったと言い、8 またある人たちは、エリヤが現れたと言い、またほかの人たちは、昔の預言者のひとりが復活したのだと言っていたからである。(対応するマタイでは、バプテスマのヨハネのみ)

- [DQ] これまで、弟子たちは、どのように表現していましたか。

3. それに対して、イエスはどのように尋ねますか。(29a)

- 29a そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。
- [DQ] イエスは、どのような応答を期待・想定していたのでしょうか。
- [DQ] 弟子たちは、この問いを、これまで考えてきていたのでしょうか。

- － つねに問うていた（自問していた）のではないだろうか。
 - [DQ] イエスは、なぜ、ここで、この時点で、このような問を弟子たちにしたのでしょうか。
 - － イエス自身、弟子たちが、どこにいるのか、まだよくわかっていなかったかもしれない。
 - [DQ] これまで、弟子たちは、どのように表現していましたか。
 - － 4:41 一体この方はどなたなのだろう。風も、湖さえも従わせるとは。
 - [DQ] イエスの苦しみは、どのようなものだったのでしょうか。
 - － 自分は神様の使命を果たしうるのだろうか。現状が神様の御心なのだろうか。
4. だれがどのように答えますか。(29b)
- 29b ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。
 - － 「キリスト」という言葉は、どのような意味を持っているのでしょうか。
 - [DQ] これは「正解」、期待していた答えなののでしょうか。
 - － そうかもしれないが、正確ではないのだろう。キリストということばは曖昧だから。
 - － なぜ、ペテロは、キリストと答えたのでしょうか。ほかに、答えはあるかもしれない。「神の子」
 - － メシヤ、キリストについての真実を語る前に、弟子たちが、キリストとして受け入れていることが大切だったのかもしれない。
5. イエスは、なぜ、自分のことをだれにも言ってはいけないと、弟子たちを戒めるのでしょうか。(30)
- 30 するとイエスは、自分のことをだれにも言ってはいけないと、彼らを戒められた。
 - [DQ] イエスが、メシヤだということを言ってはいけないということでしょうか。
 - [DQ] イエスが、恐れていたのはどのようなことでしょうか。
 - [DQ] 「自分のことをだれにも言ってはいけない」ことは期限があるのでしょうか。
 - － マルコ 9:9 一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。
 - 過去に、伝えるなど言った例。家に帰れも、それに近い。
 - － 黙れ (1:25)、ものを言うことを許さない (1:34)、規定の病が癒やされた人 (1:44)、汚れた霊 (3:11)、ヤイロ (5:43)、耳の聞こえない人口の聞けない人 (7:36)
6. マタイや、ルカからはさらにどのようなことがわかりますか。

- マタイ 16:13 イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。
 - － マルコでは、単に、その場に行った以上の内容が含まれているように見える。
 - * 8:27 さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられたが、その途中で、弟子たちに尋ねて（繰り返し）言われた、「人々は、わたしをだれと言っているか」。
- ルカ 9:18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが近くにいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしをだれと言っているか」。
 - － 祈っているときに、尋ねたは、少し不自然に感じるが、おそらく、重要な決断を暗示しているのだろう。
- マタイ 16:14b また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります
 - － [DQ] 預言者のひとりのような人だと言っているのか、または、エレミヤや旧約の預言者が復活したと言っているのか、
 - * ルカ 9:19 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。しかしほかの人たちは、エリヤだと言い、また昔の預言者のひとりが復活したのだと、言っている者もあります」。
- マタイ 16:16 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。
 - － このあとに、教会のことなど続く。
 - * マタイ 16:17 すると、イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。18 そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。19 わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」。
 - * 鍵 (a key: a) since the keeper of the keys has the power to open and to shut, b) metaph. in the NT to denote power and authority of various kinds) の複数形：
 - ・ 黙示録 1:18 また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っている。
 - ・ 黙示録 3:7 ヒラデルヒヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『聖なる者、まことなる者、ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる。

- ・ イザヤ 22:22 わたしはまたダビデの家のかぎを彼の肩に置く。彼が開けば閉じる者なく、彼が閉じれば開く者はない。

- － [DQ] なぜマタイには、このような記述が入っており、マルコや、ルカには入っていないのでしょうか。
- － マタイ 14:33 舟の中にいた者たちはイエスを拝して、「ほんとうに、あなたは神の子です」と言った。
- － マタイではこれが正解のような表現になっている。

7. 弟子たちにとって、イエスは、どのような存在だったのでしょうか。

- [DQ] 人々の評価「バプテスマのヨハネ」「エリヤ」「預言者のひとり」だと思っていたのでしょうか。
- [DQ] なぜ人々の評価とは異なるのでしょうか。
- [DQ] どのようなことによって、イエスをみていたのでしょうか。

4.48.8 メモ

- 地図を見ると、以前に、ツロ（7:24-30）、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け（7:31）ガリラヤの海べにこられたときに、経路からして、ピリポ・カイザリアを通り過ぎたかもしれない。そのような、ガリラヤの北での活動が、マタイ 11:21 「わざわざいだ、コラジンよ。わざわざいだ、ベツサイダよ。おまえたちのうちでなされた力あるわざが、もしツロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰をかぶって、悔い改めたであろう。（ルカ 10:13）に反映しているのかもしれない。
- ここから大きな変化がある。イエスは、ヨハネ 2:22-25 「それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。23 過越の祭の間、イエスがエルサレムに滞在しておられたとき、多くの人々は、その行われたしるしを見て、イエスの名を信じた。24 しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、25 また人についてあかしする者を、必要とされなかったからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。」からもわかるように、ペテロがどの程度理解できていたかも知っていたろう。しかし、マタイにかかれているほどではないが、是としたのだろう。これから、その告白したことばのように、生きることについて、学んでいくことになる。告白は、ローマ 10:9,10 のように、大切ではあっても、それで完結ではない。
- ヨハネ 1:41 彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、「わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った」。ヨハネでは、すでに、シモン・ペテロの兄弟アンデレが、このように、メシヤであるとの証言をしている。バプテスマのヨハネの弟子だったアンデレにとって、このような証言は自然だったのだろうか。

4.49 8:31-38; 9:1 イエス、死と復活を予告する

31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32 しかもあからさまに、この事を話された。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。38 邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう」。9:1 また、彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。神の国が力をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。

4.49.1 マタイ 16:21-28

21 この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。26 たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。27 人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、実際のおこないに応じて、それぞれに報いるであろう。28 よく聞いておくがよい、人の子が御国の力をもって来るのを見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。

4.49.2 ルカ 9:22-27

22 「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日目によみがえる」。23 それから、みんなの者に言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。24 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。25 人が全世界をもうけても、自分自

身を失いまたは損したら、なんの得になろうか。26 わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、自分の栄光と、父と聖なる御使との栄光のうちに現れて来るとき、その者を恥じるであろう。27 よく聞いておくがよい、神の国を見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる。」

マルコによる福音書 8 章 31-38 節, 9 章 1 節福音書対照表

4.49.3 問い

1. 背景を復習しましょう。どのようなことがありましたか。
2. イエスが伝えたことはどのようなことでしたか。(31,32a)
3. ペテロはどうしますか。また、イエスはそれに対してどのように応じますか。(32b,33)
4. イエスについてきたいと思うものに、どのようなことを伝えていますか。(34-37)
5. 自分を捨て、自分の十字架を負って、イエスに従っていくとはどのようなことでしょうか。(34)
6. 最後にイエスはどのようなことを語っていますか。(38,9:1)

4.49.4 参照

- この出来事から逆順にエピソードを段落ごとにたどる。福音書対照表
 - － マルコ：8:27-30 ペトロ、イエスがメシアであること告白する。8:22-26 ベトサイダで盲人を癒やす。8:14-21 ファリサイ派の人々とヘロデのパン種。8:11-13 人々はしるしを欲しが。8:1-10 四千人に食べ物を与える。7:31-37 耳が聞こえず舌の回らないひとを癒やす。7:24-30 シリア・フェニキアの女の信仰。7:1-22 昔の人の言い伝え。6:53-56 ゲネサレトで病人を癒やす。6:45-52 湖の上を歩く。6:30-44 五千人に食べ物を与える。6:14-29 洗礼者ヨハネ、殺される。6:7-13 十二人を派遣する。6:1-6 ナザレで受け入れられない。
 - － マタイ：16:9-25 ペトロ、イエスがメシアであると告白する。16:5-12 ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種。16:1-4 人々はしるしを欲しが。15:32-39 四千人に食べ物を与える。15:29-31 大勢の病人を癒やす。15:21-28 カナンの女の信仰。15:1-20 昔の人の言い伝え。14:34-36 ゲネサレトで病人を癒やす。14:22-33 湖の上を歩く。14:13-21 五千人に食べ物を与える。14:1-12 洗礼者ヨハネ、殺される。14:53-58 ナザレで受け入れられない。
 - － ルカ：9:18-20 ペトロ、イエスがメシアであると告白する。9:10-17 五千人に食べ物を与える。9:7-9 ヘロデ、困惑する。9:1-6 十二人を派遣する。
 - － まとめ：マルコとマタイは、記述内容な多少こととなるが、ほぼ同じ時系列になっている。十二人の派遣の位置はマタイでは、10:1, 5-15 に置かれ、洗礼者ヨハネが殺される記事や、五千人に食べ物を食

べさせる記事とは、分けている。ルカでは、ガリラヤから離れて、異邦人の地などを彷徨する記事は省略され、五千人に食べ物を与える記事の直後に、ペトロ、イエスがメシアであると告白する記事を置いている。この記事のあと、9章の終わりまでは、マルコ、マタイ、ルカはほぼ並行して進む。

- マタイ 16:21 「この時から」

- － マタイ 4:17 この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。

- 死と復活の予告

- － 8:31-32a 31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32a しかもあからさまに、この事を話された。

- － 9:30-32 30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。

- － 10:32-34 32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

- イザヤ 52:13-53:12

- － 52:13 見よ、わがしもべは栄える。彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる。14 多くの人が彼に驚いたように——／彼の顔だちは、そこなわれて人と異なり、／その姿は人の子と異なっていたからである——15 彼は多くの国民を驚かす。王たちは彼のゆえに口をつむぐ。それは彼らがまだ伝えられなかったことを見、／まだ聞かなかったことを悟るからだ。53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。2 彼は主の前に若木のように、／かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、／われわれの慕うべき美しさもない。3 彼は侮られて人に捨てられ、／悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、／彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。4 まことに彼はわれわれの病を負い、／われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、／彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、／われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、／われわれに平安を与え、／その打たれた傷によって、／われわれはいやされたのだ。6 われわれはみな羊のように迷って、／おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、／彼の上におかれた。7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、／口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、／また毛を切

る者の前に黙っている羊のように、／口を開かなかった。8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、／彼はわが民のとがのために打たれて、／生けるものの地から断たれたのだと。9 彼は暴虐を行わず、／その口には偽りがなかったけれども、／その墓は悪しき者と共に設けられ、／その塚は悪をなす者と共にあった。10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、／主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、／その子孫を見ることができ、／その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、／多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、／とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、／とがある者のためにとりなしをした。

- イエスの受難についての記述

- マルコ 2:19, 20 するとイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿と一緒にいるのに、断食ができるであろうか。花婿と一緒にいる間は、断食はできない。20 しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう。

- * マタイ 9:15 するとイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿と一緒にいる間は、悲しんでおられようか。しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その時には断食をするであろう。

- マルコ 3:6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。

- マタイ 10:38, 39 また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない。39 自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。

- マタイ 12:40 すなわち、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるであろう。

- ヨハネ 2:19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。

- パウロのエルサレム行きについて（使徒 21:10-14）

4.49.5 記録

- 日時：2024 年 4 月 11 日午後 7 時半～9 時半

- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）4 名

4.49.6 問いについて

1. 背景を復習しましょう。どのようなことがありましたか。

- 6 章から 9 章への構成を復習。ルカとの違いを確認。(参照)
- 8:27-30 ペトロ、イエスがメシアであると告白するの直後。
 - 27 さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられたが、その途中で、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は、わたしをだれと言っているか」。28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言ひ、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。30 するとイエスは、自分のことをだれにも言ってははいけなと、彼らを戒められた。
- 「するとイエスは、自分のことをだれにも言ってははいけなと、彼らを戒められた。」に続いている。

2. イエスが伝えたことはどのようなことでしたか。(31,32a)

- 31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32 しかもあからさまに、この事を話された。
- [DQ] 人の子とは誰のことでしょうか。弟子たちは、誰のことかわかったのでしょうか。
 - このあとのペテロの反応から、それがイエスであることを、弟子たちは理解していたろう。
 - 人の子 (マルコ 15 件) : 2:10, 28, 3:28, 8:38, 9:9, 12, 31, 10:33, 45, 13:26, 29, 14:21, 41, 62。マタイ 30 件、ルカ 26 件、ヨハネ 12 件、使徒 7:56、(黙示録 1:13, 14:14 人の子のような者)
- [DQ] 具体的には、どのようなことを、どのような順番で述べていますか。
 - 多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日の後によみがえる (べきこと)
- [DQ] 「あからさまにこの事を話された」とはどのようなことでしょうか。
 - だれにでも分かる言葉でということだろうか。

3. ペテロはどうしますか。また、イエスはそれに対してどのように応じますか。(32b,33)

- 32b すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

- この記事は、ルカには欠けている。
- [DQ] ペテロは、なぜいさめたのでしょうか。それは、何を意味しているのでしょうか。
 - 「いさめる」 i) to show honour to, to honour, ii) to raise the price of, iii) to adjudge, award, in the sense of merited penalty, iv) to tax with fault, rate, chide, rebuke, reprove, censure severely; to admonish or charge sharply: Mark 1:25, 3:12, 4:39, 8:30, 32, 33, 9:25, 10:13, 48
 - 8:30 するとイエスは、自分のことをだれにも言うてはいけなないと、彼らを戒められた。
 - 8:30, 32b の対比からも、相互理解ができていないことがわかる。
 - イエスも言っているように、人間的な思いなのだろう。イエスがキリストであることは、神の思いであり、それが人の思いとなるかどうかは鍵なのだろう。
- マタイ 16:22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。
 - 少し深く読むと、それが、神様のみこころではないことを言っているのだろう。
 - [DQ] イエスのことばの、なにが、ペテロにとって「とんでもないこと」なのでしょう。
- [DQ] ペテロや弟子たちは「イエスがキリストである」ことをどのように考えていたのでしょうか。
 - 開放者。征服者。ダビデのような王。
 - [DQ] あなたは、救い主にどのようなことを期待しますか。
- [DQ] なぜ、イエスは、振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」と言われたのでしょうか。
 - 生き生きと描かれている。直接的には、ペテロに対してであっても、本質的には、弟子たち全員、すなわち、わたしたちへのメッセージなのだろう。
- [DQ] なぜ、これほど、厳しい言葉で、ペテロを叱ったのでしょうか。
 - イエス自身も含めて、もっとも警戒していたことなのかもしれない。
 - マタイ 4:8-10 次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華とを見せて 9 言った、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」。10 するとイエスは彼に言われた、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。
 - この世を去ること（死）を望んでいなかったのかもしれない。
 - [DQ] ペテロが正しいということはある得なかったのだろうか。

4. イエスについてきたいと思うものに、どのようなことを伝えていますか。(34-37)

- 34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。
- [DQ] だれに向かって言っていますか。
 - －「それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて」弟子たちだけではなく、群衆もそこにいたことになる。(ルカでも「みんなの者に」(9:23)。マタイでは「弟子たちに」(16:24))
- 「イエスについてきたい」と願う人にむけて語っている。まとめると
 - － 自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。
 - － いのちがたいせつ。
- 「だれでもわたしについてきたいと思うなら」
 - － 弟子なら師についていくのは当然だとも言えるが、これは裏返すとイエスがどのようにこれから生きていこうかということを語っているのだろう。
- [DQ] 前半 34 節と、後半 35-37 の関係はどうなっているのだろうか。
- [DQ] ここで言われている「命」とは「命を失う」「命を救う」とは、なんだろうか。
 - － 命は、代価を払って買い戻すことができないもの。
- [DQ] 「福音のため」とは何を意味するのだろうか。
 - － 伝道して、反対にあい、迫害されて殺されることでしょうか。
 - － 「福音」とは何なのでしょう。「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(1:15)

5. 自分を捨て、自分の十字架を負って、イエスに従っていくとはどのようなことでしょうか。(34)

- 「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」
- [DQ] 「自分の十字架」とは何なのでしょう。
 - － イエスの十字架のように、それぞれに、十字架があるということなのだろう。

6. 最後にイエスはどのようなことを語っていますか。(38,9:1)

- 38 邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう」。9:1 また、彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。神の国が力をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。
- 後に追加されたものなのではないかと思わされる。あくまでも、核は、前半の部分であるように思われる。(2回目、3回目の告知と比較。唐突で、このことについては、何も語られていない。弟子たちの期待の現れ。しかし、おそらくなにか関連したことは言われたのかもしれない。)
 - － マタイ 16:27,28 27 人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、実際のおこないに応じて、それぞれに報いるであろう。28 よく聞いておくがよい、人の子が御国の力をもって来るのを見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。
 - － ルカ 9:26,27 26 わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、自分の栄光と、父と聖なる御使との栄光のうちに現れて来るとき、その者を恥じるであろう。27 よく聞いておくがよい、神の国を見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。
 - － 参照：ダニエル 7:13,14 わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、／見よ、人の子のような者が、／天の雲に乗ってきて、／日の老いたる者のもとに来ると、／その前に導かれた。14 彼に主権と光栄と国とを賜い、／諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、／なくなることがなく、／その国は滅びることがない。
- [DQ] これは、いつのことを言っているのでしょうか。
 - － この次の記事の山上変貌
 - － 終末の再臨
 - － キリスト教会の設立をとおして、神の国の顕現を見る。
 - * マタイ 16:18,19 18 そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。19 わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」。

4.49.7 メモ

- 3つの部分に分かれている。
 1. 弟子への受難と死と復活の予告と、それをいさめるペテロの叱責 (31-33)
 2. 弟子と群衆にむけたイエスに従うことについてのチャンレンジ (34-37)

3. イエスとその言葉を恥じるものについて (38-39)

- － 3 は、要約も難しく、二文が関係しているのかどうかも不明である。
- － 死と復活の予告はあとからじっくりする選択肢もある。(二回目：9:30-32、三回目：10:32-34 は独立した学びをする予定)
- － 最後の部分もあとからじっくり考え、基本的な枠組みと、中心部分に集中するのがよいように思われる。(13 章で、神殿の崩壊の予告のあと、弟子の質問にこたえて、終末の予兆について語る)
- このエピソードのあと、山上の変貌の記事があり、ふもとでの、悪霊に憑かれた子を癒やす記事があり、ガリラヤに入り、カファルナウムにも行き、エルサレムに向かう。(10 章から) これまでとは雰囲気が変わっている。
- 「35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」ここに非対称がある。自分の命を失おうとするわけではない。どのように、失うことになるのかは不明。
- イエスに従っていくものの大変さが書かれているようにも思うが、神の国は近い、このことを経験しながら生きることができるのは、まさに、福音に生きることであり、幸せなことなのだろう。

4.50 9:2-13 イエスの姿が変わる

2 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、3 その衣は真白く輝き、どんな布さらしでも、それほどに白くすることはできないくらいになった。4 すると、エリヤがモーセと共に彼らに現れて、イエスと語り合っていた。5 ペテロはイエスにむかって言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。6 そう言ったのは、みんなの者が非常に恐れていたもので、ペテロは何を言ってよいか、わからなかったからである。7 すると、雲がわき起って彼らをおおった。そして、その雲の中から声があった、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。8 彼らは急いで見まわしたが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが、自分たちと一緒におられた。9 一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。10 彼らはこの言葉を心にため、死人の中からよみがえるとはどういうことかと、互に論じ合った。11 そしてイエスに尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。12 イエスは言われた、「確かに、エリヤが先にきて、万事を元どおりに改める。しかし、人の子について、彼が多くの苦しみを受け、かつ恥ずかしめられると、書いてあるのはなぜか。13 しかしあなたがたに言っておく、エリヤはすでにきたのだ。そして彼について書いてあるように、人々は自分かつてに彼をあしらった」。

4.50.1 マタイ 17:1-13

1 六日ののち、イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。2 ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。3 すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。4 ペテロはイエスにむかって言った、「主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。もし、おさしつかえなければ、わたしはここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。5 彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、「これはわたしの愛する子、わたしの心になう者である。これに聞け」。6 弟子たちはこれを聞いて非常に恐れ、顔を地に伏せた。7 イエスは近づいてきて、手を彼らにおいて言われた、「起きなさい、恐れることはない」。8 彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見えなかった。9 一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。10 弟子たちはイエスにお尋ねして言った、「いったい、律法学者たちは、なぜ、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。11 答えて言われた、「確かに、エリヤがきて、万事を元どおりに改めるであろう。12 しかし、あなたがたに言うておく。エリヤはすでにきたのだ。しかし人々は彼を認めず、自分かってに彼をあしらった。人の子もまた、そのように彼らから苦しみを受けることになろう」。13 そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと悟った。

4.50.2 ルカ 9:28-36

28 これらのことを話された後、八日ほどたってから、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために山に登られた。29 祈っておられる間に、み顔の様が変り、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。30 すると見よ、ふたりの人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤであったが、31 栄光の中に現れて、イエスがエルサレムで遂げようとする最後のことについて話していたのである。32 ペテロとその仲間の者たちとは熟睡していたが、目をさますと、イエスの栄光の姿と、共に立っているふたりの人を見た。33 このふたりがイエスを離れ去ろうとしたとき、ペテロは自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。34 彼がこう言っている間に、雲がわき起って彼らをおおいはじめた。そしてその雲に囲まれたとき、彼らは恐れた。35 すると雲の中から声があった、「これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け」。36 そして声が止んだとき、イエスがひとりだけになっておられた。弟子たちは沈黙を守って、自分たちが見たことについては、そのころだれにも話さなかった。

[マルコによる福音書 9 章 2-13 節福音書対照表](#)

4.50.3 問い

1. いつ、どこで、起きたことが記されていますか。そこにいたのは誰ですか。(2-4)
2. ペテロはどのような提案をしますか。その状況はどのように描かれていますか。(5-6)
3. 雲の中からの声については、どのように描かれていますか。(7-8)
4. イエスはどのように、命じますか。なぜでしょうか。(9-10)
5. 弟子たちはどのような質問をし、イエスはそれにどう答えますか。(11-13)
6. この記事は、何を伝えているのでしょうか。マタイやルカの記述も参考にしましょう。

4.50.4 参照

- ヘルモン山：ヘルモン山（Mount Hermon, ヘブライ語: ）シャイフ山（Jabal al-Shaykh[1], アラビア語: ）は、レバノンとシリアの国境にあるアンチレバノン山脈の最高峰で、最高点の標高は 2,814m である。
- タボル山：タボル山（ヘブライ語: 、英語: Mount Tabor）は、イスラエルの北部地区にある標高 575m の山。ヘブライ語で「Har Tavor」、アラビア語では「ジェベル・エト・トゥール」と呼ばれる。聖書の記述に関連して日本では変貌山とも書かれるが、これは他の山のことであるとする説もある。
 - － ヨセフスはタボル山の頂上に要塞があったと証言している。
- マラキ 3:1 見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる。
- マラキ 4:4-6 あなたがたは、わがしもべモーセの律法、すなわちわたしがホレブで、イスラエル全体のために、彼に命じた定めとおきてとを覚えよ。5 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。6 彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」。
- イザヤ 40:3 呼ばわる者の声がある、／「荒野に主の道を備え、／さばくに、われわれの神のために、／大路をまっすぐにせよ。
 - － イザヤ 40:3-5 は、マタイ 3:3, マルコ 1:3, ルカ 3:4, ヨハネ 1:23 と四福音書にバプテスマのヨハネとの関連で引用されている
- 復活

- － マルコ 12:26-27 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。あなたがたは非常な思い違いをしている」。

- エリヤ

- － 列王記下 2:11 彼らが進みながら語っていた時、火の車と火の馬があらわれて、ふたりを隔てた。そしてエリヤはつむじ風に乗って天にのぼった。
- － マルコ 6:15 他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。
- － マルコ 8:28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言い、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。
- － マルコ 9:4,5 すると、エリヤがモーセと共に彼らに現れて、イエスと語り合っていた。5 ペテロはイエスにむかって言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。
- － マルコ 9:11-13 そしてイエスに尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。12 イエスは言われた、「確かに、エリヤが先にきて、万事を元どおりに改める。しかし、人の子について、彼が多くの苦しみを受け、かつ恥ずかしめられると、書いてあるのはなぜか。13 しかしあなたがたに言うておく、エリヤはすでにきたのだ。そして彼について書いてあるように、人々は自分かってに彼をあしらった」。
- － マルコ 15:35,36 すると、そばに立っていたある人々が、これを聞いて言った、「そら、エリヤを呼んでいる」。36 一人の人が走って行き、海綿に酔いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとして言った、「待て、エリヤが彼をおろしに来るかどうか、見ていよう」。

- モーセ

- － 申命記 34:1-8 モーセはモアブの平野からネボ山に登り、エリコの向かいのピスガの頂へ行った。そこで主は彼にギレアデの全地をダンまで示し、2 ナフタリの全部、エフライムとマナセの地およびユダの全地を西の海まで示し、3 ネゲブと低地、すなわち、しゅろの町エリコの谷をゾアルまで示された。4 そして主は彼に言われた、「わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに、これをあなたの子孫に与えると言って誓った地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せるが、あなたはそこへ渡って行くことはできない」。5 こうして主のしもべモーセは主の言葉のとおりモアブの地で死んだ。6 主は彼をベテベオルに対するモアブの地の谷に葬られたが、今日までその墓を知る人はない。7 モーセは死んだ時、百二十歳であったが、目はかすまず、気力は衰えていなかった。8 イスラエルの人々はモアブの平野で三十日の間モーセのために泣いた。そしてモーセのために泣き悲しむ日はついに終わった。

- － マルコ 1:44 「何も人に話さないように、注意しなさい。ただ行って、自分のからだを祭司に見せ、それから、モーセが命じた物をあなたのきよめのためにささげて、人々に証明しなさい」。
- － マルコ 7:10 モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定められる』と。
- － マルコ 9:4,5 すると、エリヤがモーセと共に彼らに現れて、イエスと語り合っていた。5 ペテロはイエスにむかって言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。
- － マルコ 10:3-5 イエスは答えて言われた、「モーセはあなたがたになんと命じたか」。4 彼らは言った、「モーセは、離縁状を書いて妻を出すことを許しました」。5 そこでイエスは言われた、「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、あなたがたのためにこの定めを書いたのである。
- － マルコ 12:19 「先生、モーセは、わたしたちのためにこう書いています、『もし、ある人の兄が死んで、その残された妻に、子がいない場合には、弟はこの女をめとって、兄のために子をもうけねばならない』。
- － マルコ 12:26 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を讀んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。
- ペテロ後書 1:16-18 わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。17 イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。18 わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。
- デバーリーム・ラッバー（Devarim（申命記）Rabbah）3：メシヤの日には、モーセとエリヤが「一人のように」共に来るといった。（榊原康夫）未確認。

4.50.5 記録

- 日時：2024 年 4 月 18 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）4 名

4.50.6 問いについて

1. いつ、どこで、起きたことが記されていますか。そこにいたのは誰ですか。（2-4）
 - 2 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼

らの目の前でイエスの姿が変わり、3 その衣は真白く輝き、どんな布さらしでも、それほどに白くすることはできないくらいになった。4 すると、エリヤがモーセと共に彼らに現れて、イエスと語り合っていた。

- 「六日の後」「高い山」「イエスの衣が白くなった」「エリヤとモーセがイエスと語り合っていた」「ペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて」
- [DQ] いつから「六日の後」なのでしょう。 (ルカも参照)
 - ルカでは「八日ほどたって」。かつ「祈るために山に登られ」「祈っておられる間に」と祈りが強調されている。
- [DQ] どのあたりの山でしょうか。
- [DQ] なぜ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて行ったのでしょうか。
 - マルコ 5:37,40 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、子供のいる所には行って行かれた。
 - マルコ 14:33 (ゲッセマネ) そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおのけ、また悩みはじめて、彼らに言われた、
 - 証人：申命記 19:15 どんな不正であれ、どんなとがであれ、すべて人の犯す罪は、ただひとりの証人によって定めてはならない。ふたりの証人の証言により、または三人の証人の証言によって、その事を定めなければならない。
- [DQ] ここで描かれている状況は何を伝えているのでしょうか。
 - 「彼らの目の前でイエスの姿が変わり」弟子たちは皆が認められるような変化だったことが、まさに、目撃証言として語られている。
 - 「エリヤがモーセとともに彼らに現れて」とあり、イエスだけに現れたわけではない。
 - エリヤとモーセは生きているのでしょうか。(12:26 参照)
 - ルカでは「栄光の中に現れて」「イエスの栄光の姿と共に立っている二人の人とを見た」とあり、栄光が強調されている。これがキリスト教会で共有されていたことなのだろう。
- [DQ] なぜ、エリヤとモーセなのでしょう。
 - 聖書は、「律法と預言者」と呼ばれていた。その代表？ なぜエリヤが先か。(マタイ、ルカはモーセが先) おそらく、このあとのエリヤ談義と関係があってそのように記憶されていたのだろう。

2. ペテロはどのような提案をしますか。その状況はどのように描かれていますか。(5-6)

- 5 ペテロはイエスにむかって言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。6 そう言ったのは、みんなの者が非常に恐れていたので、ペテロは何を言ってよいか、わからなかったからである。
- [DQ] なぜ小屋を建てると提案したのでしょうか。
 - － 自分たちの「素晴らしい」経験を形にして残したかった？
 - － 非常におそれていて、自分でも何を言っているのかわからなかった。混濁状態。
 - － 仮庵の祭りが近かったとの説もある。(9 月末から 10 月半ば) たとえそうだったとしても、それだけを理由にするのは、本質を外しているように見える。
- モーセと、エリヤを認識していたことが証言されている。
 - － イエスのことばから推測したのだろうか。「エリヤがモーセと共に彼らに現れて」
- 非常に恐れていて、何を言ってよいかわからなかったとあり、混乱状態も考えられる。

3. 雲の中からの声については、どのように描かれていますか。(7-8)

- 7 すると、雲がわき起って彼らをおおった。そして、その雲の中から声があった、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。8 彼らは急いで見まわしたが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが、自分たちと一緒におられた。
- 参照：マルコ 1:9-11 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから出てきて、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。10 そして、水の中から上がられるとすぐ、天が裂けて、聖霊がはどのように自分に下って来るのを、ごらんになった。11 すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。
- [DQ] 彼らをおおったの「彼ら」とは誰でしょうか。
 - － 不明だが、「ただイエスだけが、自分たちと一緒におられた」という表現から、モーセとエリヤは、見えなくなったのだろう。
- [DQ] 「これはわたしの愛する子である。これに聞け」は、何を意味しているのでしょうか。ペテロの提案の答えだろうか。
- モーセとエリヤの実像がどのようなものだったかは不明だが、イエスが、モーセとエリヤと語り合っていたことはわかったのだろう。
- [DQ] だれにむけて、どのようなメッセージを語っているのでしょうか。
- [DQ] 「これに聞け」は、何を聞けと言っているのでしょうか。

- － おそらく、ペテロの提案に対する答えもあるだろうが、もっと大きな意味で、イエスに聞くことが、神の御心を知ることだと言っているようにも見える。
 - 申命記 18:15 あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしのようなひとりの預言者をあなたのために起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない。
4. イエスはどのように、命じますか。なぜでしょうか。(9-10)
- 9 一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。10 彼らはこの言葉を心にとめ、死人の中からよみがえるとはどういうことかと、互に論じ合った。
 - [DQ] なぜ「人の子が死人の中からよみがえるまで」なのでしょう。
 - － イエスも、受難と死と復活を告げていたので、そこまでが使命と考えていたのかもしれない。
 - － 復活とは何なのかの問は難しい。イエスも、完全には理解できていなかったのかもしれない。
 - [DQ] イエスが伝えたこと、弟子たちが理解したことは何だったのでしょうか。
 - よみがえりで完結だと、イエスが理解していたのではないだろうか。
 - 律法や、預言者から、神様のみこころを確認していたのだろうか。
 - モーセやエリヤは、イエスとしては、生きている存在だったのだろう。
5. 弟子たちはどのような質問をし、イエスはそれにどう答えますか。(11-13)
- 11 そしてイエスに尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。12 イエスは言われた、「確かに、エリヤが先にきて、万事を元どおりに改める。しかし、人の子について、彼が多く苦しみを受け、かつ恥ぢかしめられると、書いてあるのはなぜか。13 しかしあなたがたに言う、エリヤはすでにきたのだ。そして彼について書いてあるように、人々は自分かつてに彼をあしらった」。
 - エリヤが先にくるはずだという説について。
 - － マルコ 1:2-4 預言者イザヤの書に、／「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、／あなたの道を整えさせるであろう。3 荒野で呼ばれる者の声がする、／『主の道を備えよ、／その道筋をまっすぐにせよ』」／と書いてあるように、4 バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた。
 - － マラキ 3:1, 4:4-6 5 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。6 彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」。

- 「人の子について、彼が多くの苦しみを受け、かつ恥ずかしめられると、書いてある」と言っている。内容は、受難の告知と似ているが、書いてあるとは、旧約聖書を意味しているのだろう。

- － おそらく、イザヤ書を念頭においている。

- － 「なぜか。」と問うている、これは、イエス自身への問だったのかもしれない。弟子たちには、考えが及ぶことではないだろう。まさに、そのような問いについて、聖書のひとたちと、聖書箇所を思い出しながら、語り合い、神様とコミュニケーションしていたのかもしれない。

- [DQ] 「そして彼について書いてあるように、人々は自分かつてに彼をあしらった」は、何を意味しているのだろうか。

- － マタイ 11:7-19 13 すべての預言者と律法とが預言したのは、ヨハネの時までである。14 そして、もしあなたがたが受け入れることを望めば、この人こそは、きたるべきエリヤなのである。15 耳のある者は聞くがよい。16 今の時代を何に比べようか。それは子供たちが広場にすわって、ほかの子供たちに呼びかけ、17 『わたしたちが笛を吹いたのに、／あなたたちは踊ってくれなかった。弔いの歌を歌ったのに、／胸を打ってくれなかった』／と言うのに似ている。18 なぜなら、ヨハネがきて、食べることも、飲むこともしないと、あれは悪霊につかれているのだ、と言い、19 また人の子がきて、食べたり飲んだりしていると、見よ、あれは食をむさぼる者、大酒を飲む者、また取税人、罪人の仲間だ、と言う。しかし、知恵の正しいことは、その働きが証明する」。

- － ルカ 1:13-17 16 そして、イスラエルの多くの子らを、主なる彼らの神に立ち帰らせるであろう。17 彼はエリヤの霊と力とをもって、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう」。

- [DQ] エリヤの役割は何なのでしょう。本当に、元どおりに改めたのでしょうか。

- － そして彼について書いてあるように、人々は自分かつてに彼をあしらった。

- － それは書いてあるのだろうか。書いてあるとすると、イザヤ書。

6. この記事は、何を伝えているのでしょうか。マタイやルカの記述も参考にしましょう。

- 受難告知の裏側を示していることは確かだろう。

- イエスにとって

- － モーセ（律法授与者）とエリヤ（偉大な預言者）に出会い、語り合った。

- － 神からのメッセージ：すると、雲がわき起って彼らをおおった。そして、その雲の中から声がかった、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。

- 弟子たちにとって

- － 理解できなくても、信頼すること。

－ 栄光の証人。

- マタイ 17:6-8 6 弟子たちはこれを聞いて非常に恐れ、顔を地に伏せた。7 イエスは近づいてきて、手を彼らにおいて言われた、「起きなさい、恐れることはない」。8 彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見えなかった。

4.50.7 メモ

- 仮庵の祭り：9 月末から 10 月中旬（ザドク暦第七ホデシュの 15 日から 7 日間）
 - － レビ記 23 章 34-43 節、ヨハネによる福音書 7 章 37-38 節
- だれがイエスと語り合っていますか。エリヤについて 9:11-13 とマタイ 17:10-13 を比べてみましょう。
- ルカでは「栄光の中に現れて」「イエスの栄光の姿と共に立っている二人の人とを見た」とあり、栄光が強調されている。これがキリスト教会で共有されていたことなのだろう。また、このことが、ペテロ後書からも見て取れる。イエスの再臨のときの、栄光の姿を垣間見る経験だったとしているのだろう。それが、8:38-9:1 と関連している。
 - － 38 邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう。9:1 また、彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。神の国が力をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。
 - － 2 ペテロ 1:16-18 わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。17 イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。18 わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。
- イエスにとって、バプテスマのヨハネの存在はとても大きかったのだろう。バプテスマのヨハネの役割は十分認識していた。それがエリヤの出現預言とつながっているように見える。マルコ冒頭でも、イザヤ預言と、マラキ預言を一緒にして、それを、預言者イザヤの書にこう書いてあるとしている。
- 2 つに分けて学んだほうが良いかもしれない。内容が濃く、十分消化するのが難しい。

4.51 9:14-29 汚れた霊に取りつかれた子を癒やす

14 さて、彼らがほかの弟子たちの所にきて見ると、大ぜいの群衆が弟子たちを取り囲み、そして律法学者たちが彼らと論じ合っていた。15 群衆はみな、すぐイエスを見つけて、非常に驚き、駆け寄ってきて、あいさつをした。16 イエスが彼らに、「あなたがたは彼らと何を論じているのか」と尋ねられると、17 群

衆のひとりが答えた、「先生、口をきけなくする霊につかれているわたしのむすこを、こちらに連れて参りました。18 霊がこのむすこにとりつきますと、どこでも彼を引き倒し、それから彼はあわを吹き、歯をくいしばり、からだをこわばらせてしまいます。それでお弟子たちに、この霊を追いついてくださるようお願いしましたが、できませんでした」。19 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまで、あなたがたに我慢ができようか。その子をわたしの所に連れてきなさい」。20 そこで人々は、その子をみもとに連れてきた。霊がイエスを見るや否や、その子をひきつけさせたので、子は地に倒れ、あわを吹きながらころげまわった。21 そこで、イエスが父親に「いつごろから、こんなになったのか」と尋ねられると、父親は答えた、「幼い時からです。22 霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。23 イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。25 イエスは群衆が駆け寄って来るのをごらんになって、けがれた霊をしかって言われた、「言うことも聞くこともさせない霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度と、はいって来るな」。26 すると霊は叫び声をあげ、激しく引きつけさせて出て行った。その子は死人のようになったので、多くの人は、死んだのだと言った。27 しかし、イエスが手を取って起されると、その子は立ち上がった。28 家にはいられたとき、弟子たちはひそかにお尋ねした、「わたしたちは、どうして霊を追いつけなかったのですか」。29 すると、イエスは言われた、「このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追いつくことはできない」。

4.51.1 マタイ 17:14-21

14 さて彼らが群衆のところに帰ると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて、ひざまずいて、言った、15 「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです。16 それで、その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした」。17 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができようか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。18 イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。19 それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追いつけなかったのですか」。20 するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。21 [しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追いつくことはできない]」。

4.51.2 ルカ 9:37-43a

37 翌日、一同が山を降りて来ると、大ぜいの群衆がイエスを出迎えた。38 すると突然、ある人が群衆の中から大声をあげて言った、「先生、お願いします。わたしのむすこを見てやってください。この子はわたし

のひとりむすこですが、39 霊が取りつきますと、彼は急に叫び出すのです。それから、霊は彼をひきつけさせて、あわを吹かせ、彼を弱り果てさせて、なかなか出て行かないのです。40 それで、お弟子たちに、この霊を追い出してくださるように願いましたが、できませんでした」。41 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか、またあなたがたに我慢ができようか。あなたの子をここに連れてきなさい」。42 ところが、その子がイエスのところに来る時にも、悪霊が彼を引き倒して、引きつけさせた。イエスはこの汚れた霊をしかりつけ、その子供をいやして、父親にお渡しになった。43a 人々はみな、神の偉大な力に非常に驚いた。

マルコによる福音書 9 章 14-29 節福音書対照表

4.51.3 問い

1. 背景を復習しましょう。(14)
2. どのような問題が起こっていますか。(15-18)
3. イエスはどうしますか。(19-22)
4. 父親とイエスの対話からどのようなことがわかりますか。(22-24)
5. イエスはどうしますか、そしてどうなりますか。(25-27)
6. 弟子たちは、イエスにどのような質問をし、イエスはどうか答えますか。(28,29)
7. イエスは人々の「不信仰」に対して何を求めているのでしょうか。

4.51.4 参照

- 不信仰：9:24
 - : i) unfaithfulness, faithless, ii) want of faith, unbelief, iii) weakness of faith
 - 6:6 そして、彼らの不信仰を驚き怪しまれた。それからイエスは、附近の村々を巡りあるいて教えられた。マタイ 13:58 そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは力あるわざを、あまりなさらなかった。
 - 9:24 24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。
 - 16:14 その後、イエスは十一弟子が食卓についているところに現れ、彼らの不信仰と、心のかたくななことをお責めになった。彼らは、よみがえられたイエスを見た人々の言うことを、信じなかったからである。
 - マタイ 17:20 するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』

と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。

4.51.5 記録

- 日時：2024 年 4 月 25 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）4 名

4.51.6 問いについて

1. 背景を復習しましょう。(14)

- 14 さて、彼らがほかの弟子たちの所に来て見ると、大ぜいの群衆が弟子たちを取り囲み、そして律法学者たちが彼らと論じ合っていた。
- 山上のイエスの栄光の姿への変貌と、現実の世界の喧騒の対比がある。
 - － 9:55 ペテロはイエスにむかって言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。
- [DQ] だれがいますか。
 - － 山から降りてきたイエスとペテロ、ヤコブ、ヨハネ。他の弟子たち。群衆。律法学者。
- [DQ] どのような光景が想像できますか。
 - － 律法学者も群衆もいるので、ガリラヤ地方ではないかと思われる。すると、他の弟子たちを、ガリラヤの村に残して、イエスが三人だけつれて、山に行ったのかもしれない。（ルカでは「翌日、一同が山を降りてくると」となっている。）
- [DQ] 律法学者と弟子たちは何を論じていたのでしょうか。
 - － イエスはどこへ行ってしまったのか。ユダヤ人のもとには戻ってこないのかと考えていたかもしれない。ほとんど、ユダヤ人の前に現れていない時期が続いていた。しかし、弟子たちを見つけて、議論をふっかけたのだろうか。
 - － 汚れた霊を追い出す権威を授けられていた弟子たちも、何もできなかったのも、単に、誹謗されていたのか。
- [DQ] イエスと一緒にいった、ペテロ、ヤコブ、ヨセフは、どのようなことを感じたのでしょうか。
 - － イエスの栄光の姿、自分たちの見た幻とは非常に異なる、現実の喧騒だろうか。現実に戻されたことは確かだろう。

2. どのような問題が起こっていますか。(15-18)

- 15 群衆はみな、すぐイエスを見つけて、非常に驚き、駆け寄ってきて、あいさつをした。16 イエスが彼らに、「あなたがたは彼らと何を論じているのか」と尋ねられると、17 群衆のひとりが答えた、「先生、口をきけなくする霊につかれているわたしのむすこを、こちらに連れて参りました。18 霊がこのむすこにとりつきますと、どこでも彼を引き倒し、それから彼はあわを吹き、歯をくいしばり、からだをこわばらせてしまいます。それでお弟子たちに、この霊を追い出してくださるように願いましたが、できませんでした」。
- [DQ] 群衆は、なぜ非常に驚いたのでしょうか。律法学者たちが、弟子たちと論じ合っていたこともあわせて考えてみましょう。
 - － イエスは逃げていて戻ってこないのではないかと思っていたかもしれない。
 - － 自分たちの問題を解決するために、奉仕されるイエスは、もういなくなったとおもっていたかもしれない。
- [DQ] この息子の状態はどのように描かれていますか。
 - － 口をきけなくする霊につかれている息子を父親が連れてきた。
 - * 症状：霊がこのむすこにとりつきますと、どこでも彼を引き倒し、それから彼はあわを吹き、歯をくいしばり、からだをこわばらせてしまいます。
 - － マタイではてんかん。ルカでは引き付け。
 - － 癲癇（てんかん *épilèpsy*）：脳の神経細胞が過剰に興奮することで発作症状を引き起こす慢性的な脳の疾患。突然意識を失い、四肢をピクピクさせたり硬直させたりする発作、体の一部が勝手に動いたり、会話の途中で意識を失う発作などもあります。年齢・性別・環境に関わらず発作は発症します。
- [DQ] 「それでお弟子たちに、この霊を追い出してくださるように願いましたが、できませんでした」からは、どのようなことが伝えられていますか。
 - － やっぱり、無理なのだろうかということだろうか。
 - － 弟子たちが、汚れた霊を追い出すことが書かれている。
 - * 6:12-13 12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。（　　）

3. イエスはどうしますか。(19-22)

- 19 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまで、あなたがたに我慢ができれば。その子をわたしの所に連れ

てきなさい」。20 そこで人々は、その子をみもとに連れてきた。霊がイエスを見るや否や、その子をひきつけさせたので、子は地に倒れ、あわを吹きながらころげまわった。21 そこで、イエスが父親に「いつごろから、こんなになったのか」と尋ねられると、父親は答えた、「幼い時からです。22 霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。

- [DQ] 「ああ、なんという不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。」は誰に対して言っていますか。イエスの関心事は何ですか。

－「あなたがた」とあるが、それに人々が対応しているところを見ると、「人々」だろうか。それとも、弟子たちのことだろうか。時代と言っているので、課題の対応に関する人々の対応だろうか。

－ 何を不信仰と言っているのだろうか。

＊ 魔術的な力に頼ることだろうか。

－ まずは、だれかを批判するようなことはしていない。「不信仰な時代」ということで、残念に思っていることは確か。それぞれの人達が、それぞれに受け取っただろう。

- [DQ] イエスはなぜ「いつごろから、こんなになったのか」と尋ねたのでしょうか。

－ 丁寧に対応している。課題の正確な把握。

- [DQ] 父親のことばからは、どのようなことが感じられますか。

－ 20 そこで人々は、その子をみもとに連れてきた。霊がイエスを見るや否や、その子をひきつけさせたので、子は地に倒れ、あわを吹きながらころげまわった。21 そこで、イエスが父親に「いつごろから、こんなになったのか」と尋ねられると、父親は答えた、「幼い時からです。22 霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。

－ 起こっていることであたふたしている。そこに目を囚われている。

4. 父親とイエスの対話からどのようなことがわかりますか。(22-24)

- 22 霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。23 イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。

- イエスは、父親の言葉にツッコミを入れかつ、上の不信仰な時代ともつながっており、印象的なことばとして、そこにいるものが伝えたのだろう。ペテロなどによる証言だろうか。史実性が高い。

- [DQ] 父親はなんといえよよかったのでしょうか。

- － 1:40 ひとりの重い皮膚病にかかった人が、イエスのところに願いにきて、ひざまずいて言った、「みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。
 - － おそらく、そのような技術的なことを言っているのではない。
- [DQ] 憐れみを受けるのは、なにが鍵だと言っていますか。
 - － 神様に信頼すること？神様に責任をなすりつけているのだろうか。
 - － なにかの因果なのだろうか。
- [DQ] イエスの、「信じるものにはどんなことでもできる」は何を伝えようとしているのでしょうか。本当になんでもできるのでしょうか。
 - － 問題は何だったのでしょうか。弟子たちの不信仰、弟子たちが、イエスのような力を持っていなかったこと？父親の不信仰？神の国が近いことを見ようとする事だろうか。
 - － バークレイ：あなたの子供をいやすことは、わたしではなく、あなたにかかっている。
- [DQ] 「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。は、信じることと、信仰を持っていない自分を表現しているのでしょうか。
 - － これがよけい、史実性を高めている。

5. イエスはどうしますか、そしてどうなりますか。(25-27)

- 25 イエスは群衆が駆け寄って来るのをごらんになって、けがれた霊をしかって言われた、「言うことも聞くこともさせない霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度と、はいって来るな」。26 すると霊は叫び声をあげ、激しく引きつけさせて出て行った。その子は死人のようになったので、多くの人は、死んだのだと言った。27 しかし、イエスが手を取って起されると、その子は立ち上がった。
- ここでも汚れた霊に対して叱っている。汚れた霊に対する権威を示し、かつ、二度と入ってくるなと命じている。
- [DQ] 弟子たちも、確信をもって、このように言えばよかったのでしょうか。

6. 弟子たちは、イエスにどのような質問をし、イエスはどうか答えますか。(28,29)

- 28 家にはいられたとき、弟子たちはひそかにお尋ねした、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。29 すると、イエスは言われた、「このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追い出すことはできない」。
- [DQ] 祈ればよいのでしょうか。
- [DQ] イエスはなにを伝えているのでしょうか。

- － バークレイ：あなたがたの生活は神にあまり近くない。
- － マルコ 6:7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、
- － マルコ 6:13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした（ ）。
- － 注：断食が入っている写本もあるが、2:18-20 から重要視されていない。

7. イエスは人々の「不信仰」に対して何を求めているのでしょうか。

- [DQ] 御心を求め続けることでしょうか。
 - － わからない。
- [DQ] この父親や、家族は、これから問題もなく、幸せに暮らしたのでしょうか。
 - － 問題は、いくらでもあるだろう。

4.51.7 メモ

- 汚れた霊につかれていると捉えるか、てんかんのような現代的に考えると、脳の神経の病気と捉えるかの差もあるように見える。ただ、マルコでは一貫して、汚れた霊であるとし、イエスもそのように扱っているので、そのまま扱ったほうがよいように思われる。神様のはたらきを妨げるものだろうか。なぜ、その働きがあるのかの判断は難しいが、イエスの「不信仰」発言をどの程度拡大して考えてよいかは不明だが、イエスは、不信仰が問題だと言っているように見える。ただ、神様に任せればよいのだろうか。おそらく、そうではない。
- このときに、癒やされればよいのかは、ひとつ重要な点のような気がする。問題は、いくらでも人生に起きるのだから。しかし、ここで、言っている信仰とは何かは、よくはわからない。
- 不信仰のやりとりから、弟子たちが癒せなかったことにたいして、イエスが怒っているのではないように見える。同時に、残された日々が短いことも、イエスは思っていることも確かだろう。
- イエスのスーパーパワーで汚れた霊が追い出されたとは言っていない。この父親の信仰でもなさそうである。弟子たちも、祈っていれば、このひとの息子が癒やされたわけではないのだろう。非常に興味深い。

4.52 9:30-32 再び自分の死と復活を予告する

30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。

4.52.1 マタイ 17:22-23

22 彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、23 彼らに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。弟子たちは非常に心をいためた。

4.52.2 ルカ 9:43b-45

43b みんなの者がイエスのしておられた数々の事を不思議に思っていると、弟子たちに言われた、44 「あなたがたはこの言葉を耳におさめて置きなさい。人の子は人々の手に渡されようとしている」。45 しかし、彼らはなんのことかわからなかった。それが彼らに隠されていて、悟ることができなかったのである。また彼らはそのことについて尋ねるのを恐れていた。

[マルコによる福音書 9 章 30-32 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 9 章 30-32 節福音書対照表（参照付）](#)

4.52.3 問い

1. 背景を復習しましょう。
2. 彼らはどこへ向かっているのでしょうか。イエスについてどのように書かれていますか。(30)
3. イエスは弟子たちに何を伝えていますか。(31)
4. 弟子たちについては、どう描かれていますか。(32)
5. 一回目(8:31)、三回目(10:33,34)と比較するとどんな事がわかりますか。
6. イエスは、何を目指し、弟子たちには何を期待しているのでしょうか。

4.52.4 参照

- マルコにおけるエルサレム
 - － 1:5 そこで、ユダヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のもとにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。
 - － 3:8 エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。

- － 3:22 また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追いつけているのだ」とも言った。
- － 7:1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。
- － 10:32,33 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。
- － 11:1 さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、
- － 11:11 こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。
- － 11:15 それから、彼らはエルサレムにきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り買いしていた人々を追いつしはじめ、両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえし、
- － 11:27 彼らはまたエルサレムにきた。そして、イエスが宮の内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、みもとにきて言った、
- － 15:41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。

● イザヤ

- － マルコ 1:2,3 預言者イザヤの書に、／「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、／あなたの道を整えさせるであろう。3 荒野で呼ばれる者の声がある、／『主の道を備えよ、／その道筋をまっすぐにせよ』」／と書いてあるように、
 - * イザヤ 40:3 呼ばれる者の声がある、／「荒野に主の道を備え、／さばくに、われわれの神のために、／大路をまっすぐにせよ。
- － マルコ 7:6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、／『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。
 - * イザヤ 29:13 主は言われた、／「この民は口をもってわたしに近づき、／くちびるをもってわたしを敬うけれども、／その心はわたしから遠く離れ、／彼らのわたしをかしこみ恐れるのは、／そらで覚えた人の戒めによるのである。
- － マタイ 3:3 預言者イザヤによって、「荒野で呼ばれる者の声がある、／『主の道を備えよ、／その道筋をまっすぐにせよ』」／と言われたのは、この人のことである。(ルカ 3:4 それは、預言者イザヤの言

葉の書に書いてあるとおりである。すなわち／「荒野で呼ばれる者の声がある、／『主の道を備えよ、／その道筋をまっすぐにせよ』。ヨハネ 1:23 彼は言った、「わたしは、預言者イザヤが言ったように、『主の道をまっすぐにせよと荒野で呼ばれる者の声』である」。))

- － ルカ 4:17 すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、
- － マタイ 4:14 これは預言者イザヤによって言われた言が、成就するためである。
- － マタイ 8:17 これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである。
- － マタイ 12:17 これは預言者イザヤの言った言葉が、成就するためである、
- － マタイ 13:14 こうしてイザヤの言った預言が、彼らの上に成就したのである。『あなたがたは聞くには聞くが、／決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。
- － マタイ 15:7 偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている、
- － ヨハネ 12:39 こういうわけで、彼らは信じるができなかった。イザヤはまた、こうも言った、
- － ヨハネ 12:41 イザヤがこう言ったのは、イエスの栄光を見たからであって、イエスのことを語ったのである。

● 死と復活の予告

- － 8:31-32a 31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32a しかもあからさまに、この事を話された。
- － 9:30-32 30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。
- － 10:32-34 32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

4.52.5 記録

- 日時：2024 年 5 月 2 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）4 名

4.52.6 問いについて

1. 背景を復習しましょう。

- 8:27-30 ペトロ、イエスがメシアであると告白する
- 8:31-38; 9:1 イエス、死と復活を予告する
- 9:2-13 イエスの姿が変わる
- 9:14-29 汚れた霊に取りつかれた子を癒やす
- ガリラヤ以外の土地を周り、ガリラヤに帰ることを躊躇された時期に、イエスの決断、イエスの問に対する、ペテロの信仰告白、イエスの受難告知、山上の変貌を経て、山の下で待っている弟子たちが癒されなかった、不信仰を嘆き、汚れた霊につかれた息子を癒やす。その後での二回目の受難告知の記事である。
- 受難告知に対して、メシヤだと信仰告白したペテロもイエスをいさめ、山上でイエスの栄光の姿への変貌を目撃したでしたちも、わからないことばかり。「9 一同が山を下って来るとき、イエスは『人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない』と、彼らに命じられた。10 彼らはこの言葉を心にとめ、死人の中からよみがえるとはどういうことかと、互に論じ合った。」

2. 彼らはどこへ向かっているのでしょうか。イエスについてどのように書かれていますか。(30)

- 30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まれなかった。
- ここに至るまで：8:37 ピリポ・カイザリア、9:2 山上、
- 9:14 さて、彼らがほかの弟子たちの所にきて見ると、大ぜいの群衆が弟子たちを取り囲み、そして律法学者たちが彼らと論じ合っていた。
- ガリラヤを通して、おそらく、エルサレムに向かっている。
 - － 10:32,33 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身

に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。

- [DQ] なぜイエスは、旅行の行程を秘密にしたいのでしょうか。

– [Q] 誰に「気づかれるのを好まなかった」のでしょうか。

* 「人」とあるが、弟子たち以外だろうか。パリサイ派、律法学者、群衆も含めて。

- [DQ] 人との交渉を避けられたのでしょうか。

– ガリラヤを通っていかれたとあり、イエスとしては、おそらく、最後のガリラヤだと考えていただろう。これまで、どこに行っていたのか、これから、どこに行くのか、どうするのかといった議論をしなくなかったのか。では、人々の必要には答えたくなかったのだろうか。(奉仕については)

* このあとは、イエスは弟子たちを教え、人々も教えるが(10:1-16 離婚について教える、10:13-16 子どもを祝福する、17-22 金持ちの男) 癒やしについては、10:46-52 盲人バルティマイを癒やすの記事のみ。

– 理由は、次の節に秘められている。31 それは、... と言っておられたからである。

* 受難ことは、弟子たちには、話しているが、人々には、秘密にしている。

* [DQ] 受難については、弟子たちに、話してはいけないと命じているのでしょうか。

3. イエスは弟子たちに何を伝えていますか。(31)

- 31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。

- 人々の手にわたされ、 殺され、 三日の後によみがえる

- [DQ] イエスが死と復活について語ったのは二度目ですが、一度目と比較して見ましょう。

– 8:31-32a 31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32a しかもあからさまに、この事を話された。

– 「多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ」が欠けている。

– 「人々の手にわたされ」が加わっている。

* わたされ (: to give into the hands (of another)) 「誰かに」と「誰かによって」または「誰から」が背後にある。

- [DQ] 「誰に」の部分はどうな人が想定されているのでしょうか。
 - 8:31b 必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ
 - 直接的には、これらの民の指導者が想定されているだろうが、群衆・人々をも含んでいるのではないだろうか。
- [DQ] 「誰によって」の部分は、どのような人が想定されているのでしょうか。
 - ユダ？

* ヨハネ 6:66-71 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとりとは悪魔である」。71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

- [DQ] 前回と今回はそれぞれどのような時だったのでしょうか。
 - 前はイエスの問に対する、ペテロの告白のあと。
- [DQ] イエスが教えたかったことは何なののでしょうか。
 - 前回：8:34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。38 邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう」。

4. 弟子たちについては、どう描かれていますか。(32)

- 32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。
- [DQ] 弟子たちはイエスの教えにどのように反応していますか。
- [DQ] なにを悟っていなかったのでしょうか。
 - 受難の意味だろうか。引き渡されるの具体的な内容までは、頭が回らなかったように思われる。ユダは、気づいていたのだろうか。

- － 受難の意味だとすると、イエスは明確に理解していたのだろうか。
 - [DQ] なにを尋ねるのを恐れていたのでしょうか。
 - － 死とよみがえりは何を意味しているかということだろうか。想像すらできないことは、当然であるように見える。
 - － イエスは明確に理解していたのだろうか。
 - [DQ] イエスはなにのために、弟子たちに伝えて（教えて）いたのでしょうか。（6 で考察）
 - － 神様に信頼していたことは確かだろう。これも、神の国は近いことの一つだったのか。
5. 一回目（8:31）、三回目（10:33,34）と比較するとどんな事がわかりますか。（参考）
- 一回目は、受難、二回目は、人の手に引き渡されること、三回目は、エルサレムで起こることと、祭司長、律法学者たちの手に渡され、彼らが死刑を宣告し、異邦人に引き渡され、あざけり、つばきをかけ、ついに殺してしまうとかなり細かく書かれている。
 - 毎回「三日の後によみがえる」ことが伝えられている。
6. イエスは、何を目指し、弟子たちには何を期待しているのでしょうか。
- [DQ] イエスは、受難・受苦、人々の手に引き渡され、さらに、死とよみがえりの意味について、十分理解していたのだろうか。
 - [DQ] 死とよみがえりについては、毎回語られているが、それは、イエスはどのように理解していたのだろうか。
 - [DQ] わたしたちが、イエスにこのように伝えられたとき、どのように理解するか、悟ることができるか、考えてみましょう。
 - － それほど、簡単ではない。イエスが、この道を選んだ、または、ここに主のみこころがあると確信したことは確かだろうが、どのように理解していたかは不明。
 - － しかし、教えたということは、弟子たちになにかを託していることは確か。

4.52.7 メモ

- イエスから、もっと、この受苦・死・よみがえりについて聞いてほしかった。これだけ、教えられたということは、この事を通して、イエスが託した事があるのだろう。単に、未来を予知できる能力があると伝えただけではないと思う。
- あらかじめ伝えられていることによって、短い期間で、立ち直ることができたことは確かだろう。五旬節は、50 日後、または 7 週間後だから、その間に、イエスの死と復活を消化できたと聖書は証言している。

- イエスについていくもの (8:34) に委ねたということだろう。それは、イエスのように歩む者である。正直に行って、イエスの十字架上的死による贖罪を宣べつたえるよりは、もっと広い意味をもつと思われる。

4.53 9:33-37 いちばん偉い者

33 それから彼らはカペナウムにきた。そして家におられるとき、イエスは弟子たちに尋ねられた、「あなたがたは途中で何を論じていたのか」。34 彼らは黙っていた。それは途中で、だれがいちばん偉いかと、互に論じ合っていたからである。35 そこで、イエスはすわって十二弟子を呼び、そして言われた、「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」。36 そして、ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて言われた。37 「だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。そして、わたしを受けいれる者は、わたしを受けいれるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである」。

4.53.1 マタイ 18:1-5

1 そのとき、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか」。2 すると、イエスは幼な子を取り寄せ、彼らのまん中に立たせて言われた、3 「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。4 この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。5 また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。

4.53.2 ルカ 9:46-48

46 弟子たちの間に、彼らのうちでだれがいちばん偉いだろうかということで、議論がはじまった。47 イエスは彼らの心の思いを見抜き、ひとりの幼な子を取りあげて自分のそばに立たせ、彼らに言われた、48 「だれでもこの幼な子をわたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。そしてわたしを受けいれる者は、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである。あなたがたみんなの中でいちばん小さい者こそ、大きいのである」。

[マルコによる福音書 9 章 33-37 節福音書対照表](#)

4.53.3 問い

1. どこにいますか。どのような状況でこの会話が始まりますか。(33a)
2. 弟子たちは、なにについて話していますか。(33b, 34)
3. イエスは、どのように答えていますか。(35)

4. イエスは、幼子と呼ばひ寄せてどのように教えていますか。(36,37)
5. 弟子たちの議論と、幼子を受け入れることとはどのように関係しているのでしょうか。
6. イエスは弟子たちになにを教えているのでしょうか。

4.53.4 参照

- 10:13-16 13 イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。16 そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。(マタイ 19:13-15, ルカ 18:15-17)
- 仕えるもの() one who executes the commands of another, esp. of a master, a servant, attendant, minister ; a) the servant of a king, b) a deacon, one who, by virtue of the office assigned to him by the church, cares for the poor and has charge of and distributes the money collected for their use, c) a waiter, one who serves food and drink
 - : 1) to make to run or flee, put to flight, drive away, 2) to run swiftly in order to catch a person or thing, to run after, 3) in any way whatever to harass, trouble, molest one, 4) without the idea of hostility, to run after, follow after: someone, 5) metaph., to pursue
- マタイではこの記事の直前に「神殿税を納める」記事が挿入されている。17:24-27
 - 24 彼らがカペナウムにきたとき、宮の納入金を集める人たちがペテロのところきて言った、「あなたがたの先生は宮の納入金を納めないのか」。25 ペテロは「納めておられます」と言った。そして彼が家にはいると、イエスから先に話しかけて言われた、「シモン、あなたはどうか。この世の王たちは税や貢をだれから取るのか。自分の子からか、それとも、ほかの人たちからか」。26 ペテロが「ほかの人たちからです」と答えると、イエスは言われた、「それでは、子は納めなくてもよいわけである。27 しかし、彼らをつまずかせないために、海に行って、つり針をたれなさい。そして最初につれた魚をとって、その口をあけると、銀貨一枚が見つかるであろう。それをとり出して、わたしとあなたのために納めなさい」。
 - 宮の納入金を集める人たちを躓かせないため？
- 九十九匹の羊
 - マタイ 19:12,13 (直後) あなたがたはどうか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。13 もしそれを見つけたなら、よく聞きなさい、迷わないでいる九十九匹のためよりも、むしろその一匹のために喜ぶであろう。

ー ルカ 15:4 「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

- 10:35-45 ヤコブとヨハネの願い

ー 35 さて、ゼベダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお願いすることは、なんでもかなえてくださるようになります」。36 イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。37 すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。39 彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。40 しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである」。41 十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことで憤慨し出した。42 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおりの、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、44 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

- ローマ 14:15 もし食物のゆえに兄弟を苦しめるなら、あなたは、もはや愛によって歩いているのではない。あなたの食物によって、兄弟を滅ぼしてはならない。キリストは彼のためにも、死なれたのである。

- マタイ 25:40 すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。

4.53.5 記録

- 日時：2024 年 5 月 9 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.53.6 問いについて

1. どこにいますか。どのような状況でこの会話が始まりますか。（33a）

- 33 それから彼らはカペナウムにきた。そして家におられるとき、イエスは弟子たちに尋ねられた、「あなたがたは途中で何を論じていたのか」。
- カペナウムの家

- － マルコ 1:29 それから（カペナウムの（21））会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨハネとを連れて、シモンとアンデレとの家にはいって行かれた。
- － マルコ 2:1 幾日かたって、イエスがまたカペナウムにお帰りになったとき、家におられるといううわさが立ったので、
- － マルコ 3:19 それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。イエスが家にはいられると、
- － マルコ 7:17 イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。
- － マルコ 9:28 家にはいられたとき、弟子たちはひそかに尋ねた、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。
- － マルコ 10:10 家にはいられたとき、弟子たちはひそかに尋ねた、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。
- 論じる (33) : to bring together different reasons, to reckon up the reasons, to reason, revolve in one's mind, deliberate (34) : i) to think different things with one's self, mingle thought with thought, ii) to converse, discourse with one, argue, discuss
 - － 2:6-9 ところが、そこに幾人かの律法学者がすわっていて、心の中で論じた、7 「この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」。8 イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。9 中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。
 - － 8:15,17 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。16 弟子たちは、これを自分たちがパンを持っていないためであろうと、互に論じ合った。17 イエスはそれと知って、彼らに言われた、「なぜ、パンがないからだ」と論じ合っているのか。まだわからないのか、悟らないのか。あなたがたの心は鈍くなっているのか。18 目があっても見えないのか。耳があっても聞えないのか。また思い出さないのか。
 - － 9:33 それから彼らはカペナウムにきた。そして家におられるとき、イエスは弟子たちに尋ねられた、「あなたがたは途中で何を論じていたのか」。

2. 弟子たちは、なにについて話していますか。(33b, 34)

- 33 それから彼らはカペナウムにきた。そして家におられるとき、イエスは弟子たちに尋ねられた、「あなたがたは途中で何を論じていたのか」。34 彼らは黙っていた。それは途中で、だれが一ばん偉いかと、互に論じ合っていたからである。
- [DQ] 「論じ合っていた」とはどのような状態を表現しているのでしょうか。

- － おそらく、評価が異なっていたのだろう。イエスは、その評価の仕方について述べることになる。
- [DQ] 弟子たちは、なぜ、黙っていたのでしょうか。
 - － イエスの様子と、「人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえる」という覚悟は感じ、そのことと、だれがいちばん偉いかはすぐわかないことは理解できた。
 - － イエスが望むことではないことは理解していた。
- [DQ] イエスの心を占めていたことと、弟子たちの心を占めていたことをそれぞれまとめてみましょう。
- [DQ] あなたがイエスなら、どうしますか。
 - － 親の心子知らずだと怒り出しそう。
 - － イエスは、まず、すわって、二段階で話をしている。
- ヤコブとヨハネ（その母） 10:35-45 ヤコブとヨハネの願い（マタイ 20:20-28）

3. イエスは、どのように答えていますか。（35）

- 35 そこで、イエスはすわって十二弟子を呼び、そして言われた、「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」。
- [DQ] イエスがすわって十二弟子を呼んだとありますが、なぜ、そのようにしたのでしょうか。
 - － 瞬発的に、怒ったりはしていない。弟子たちの興味に、本質論で答えている。
- [DQ] 偉さについてどんなことが教えられていますか。
 - － 「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」
 - － 弟子たちは、すぐに理解できたでしょうか。
 - － 弟子たちは、どのように考えていたのでしょうか。
- [DQ] 「みんな」とは、誰のことでしょうか。（聖書協会共同訳では「すべてのひと」）
- [DQ] いちばん先になろうと思うこと自体は、悪いことではないとうことでしょうか。
 - － いちばん先になることが目的になってしまうことに問題があるのでは。
- [DQ] 「いちばんあとになる」とか「仕えるものになる」とはどのようなことを意味しているのでしょうか。

－ 仕えるもの（ ） one who executes the commands of another, esp. of a master, a servant, attendant, minister

－ 先頭をあるくことではないのだろう。

* 10:32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、

* イエスは、通常は、先頭を歩いてはいなかったようである。

* あとから付いていくと、様子がわかり、仕えることができる。先頭を歩く人も必要だが、そのひとは様子はわからない。

－ イエスが目指したこと、神の子として目指したことだろうか。

4. イエスは、幼子と呼び寄せてどのように教えていますか。(36,37)

• 36 そして、ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて言われた。37 「だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを受け入れるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受け入れるのである」。

• [DQ] どのような様子が描かれていますか。

－ ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて（ : to take into one's arms, embrace）言われた。

－ 「抱いて」とも書かれている。目撃証言として、やさしいイエスの姿が活写されている。

• [DQ] こどもとは、どのようなものとされていたのでしょうか。

－ おとなより劣っている。不完全なもの。役に立たないもの。[参考]

－ 同時に、何があっても、親にとっては、大切な存在であると認識しているのでは。

• [DQ] なぜ「わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる」ことにそれほど価値があるのでしょうか。

• [DQ] イエスはどのような子どもだったのでしょうか。

－ すくなくとも、父親に愛されたこどもではなかったのではないか。しかし、天の神様からは、あなたはわたしの愛する子ということばを二回聞き、そのことを意識していただろう。

* 1:11 すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

* 9:7 すると、雲がわき起って彼らをおおった。そして、その雲の中から声があった、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。

ー イエスにとっては、神様のみこころを行うものが、神の子。きょうだい。家族。とはいえ、神様のみこころを知り、完璧におこなっているとの確信はなかったのではないだろうか。そのいみで、イエスは、神の子、幼子だったのだろう。そのイエスが、神様からの「あなたはわたしの愛する子」との声をうけとっている。それをもって、「わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れるものは、わたしを受けいれるのである。そして、わたしを受けいれる者は、わたしを受けいれるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである」。と伝えている。

* 3:35 神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。

- [DQ] マタイでは、「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。4 この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。」とありますが、このことは何を伝えているのでしょうか。

5. 弟子たちの議論と、幼子を受け入れることとはどのように関係しているのでしょうか。

- [DQ] 「イエスの名のゆえに」受け入れるとはどういうことでしょうか。
 - ー たいせつなイエス様のたいせつなものをたいせつにすること。
- [DQ] 最も小さいものが最も偉い（大きい）ものとはどういうことでしょうか。
- [DQ] イエスは、なぜ、幼子を受け入れることを大切にしたのでしょうか。
 - ー 弟子たちが、考える機会にはなっただろう。

6. イエスは弟子たちになにを教えているのでしょうか。

- [DQ] だれがいちばん偉いか、「一ばん先になろうと思う」こととは、どのように関係しているのでしょうか。
- [DQ] 弟子たちは、理解できたのだろうか。
- [DQ] だれが、偉いかではなく、偉いとはどういうことか。

4.53.7 メモ

- 弟子たちをおしえることを大切にしていたことは読み取ることができる。
- 人に、神様に自分が評価されることを考えるなら、なにがその方にとってたいせつなのかを考えるべき。すくなくとも、自分を偉いと認めることをたいせつにはしていないはず。

- イエスは、まず、直接的な応答をされ、さらに本質的なことを教えられる。この場合はどうだろうか。自分が偉いかどうかではなく、どうしたら、神様の御心を生きることができるかに注力することだろうか。つまり、神様は何を大切にされ、神様が大切にしておられるのはどのようなひとかを考えると、幼子を受け入れることだろうか。それは、イエスの象徴でもあるのかもしれないが、そこで止まってしまっては行けないのだろう。
- 未熟さからの不適切なことを議論することについて、嘆いたり、怒ったりではなく、その機会を捉えて、教えている。しかし、弟子たちは、理解できたのだろうか。
- イエスの神様像は、仕えてくださる方なのだろうか。
- 弟子たちも、イエスが、たいせつにされていることをだんだんと理解していったのではないだろうか。
- こどもをたいせつにすることは、当時は、それほど一般的ではなかったのだろう。名家の子女教育などは別として。しかし、イエスは、こどもをたいせつにしている。これは、おそらく、著しい特徴だろう。だれがいちばん偉いかの間に対しても、こどもと立てている。たとえばではない。パウロとはかなり異なるように見える。福音宣教師が偉い、聖書を教えるものが偉い、慈善事業をするものが偉いとは言わない。もっと本質的なものをこどもを受け入れることに見出し、それを教えておられるのだろう。自らが、こどもであることも、おそらく、認識していた。それは、みこころを十分知っているわけではないということではないだろうか。それでも、神様が、これはわたしの愛する子と言ってください。そのような関係をたいせつにすることが、ここで伝えられているのではないだろうか。福音の本質が、ここにあるように思う。

4.54 9:38-41 逆らわない者は味方

38 ヨハネがイエスに言った、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかったので、やめさせました」。39 イエスは言われた、「やめさせないがよい。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら、すぐそのあとで、わたしをそすることはできない。40 わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方である。41 だれでも、キリストについている者だということで、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもれることはないであろう。

4.54.1 ルカ 9:49-50

49 するとヨハネが答えて言った、「先生、わたしたちはある人があなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちの仲間でないので、やめさせました」。50 イエスは彼に言われた、「やめさせないがよい。あなたがたに反対しない者は、あなたがたの味方なのである」。

[マルコによる福音書 9 章 38-41 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 9 章 38-41 節福音書対照表（ルカ参照付）](#)

4.54.2 問い

1. どのような背景があるのでしょうか。ルカ 9:49 も参考にしましょう。
2. ヨハネは、どのようなことをイエスに伝えていますか。(38)
3. イエスはどのように答えますか。(39,40)
4. イエスはさらにどのようなことを伝えていますか。(41)
5. ルカ 9:51-56 からはどのようなことがわかりますか。
6. イエスはどのようなことを教えているのでしょうか。

4.54.3 参照

- ルカでは別のエピソードが続く

－ 9:51-56 さて、イエスが天に上げられる日が近づいたので、エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ、52 自分に先立って使者たちをおつかわしになった。そして彼らがサマリヤ人の村へは行って行き、イエスのために準備をしようとしたところ、53 村人は、エルサレムへむかって進んで行かれるというので、イエスを歓迎しようとはしなかった。54 弟子のヤコブとヨハネとはそれを見て言った、「主よ、いかがでしょう。彼らを焼き払ってしまうように、天から火をよび求めましょうか」。55 イエスは振りかえって、彼らをおしかりになった。56 そして一同はほかの村へ行った。

- 寛容（口語訳）

－ エレミヤ 15:15 主よ、あなたは知っておられます。わたしを覚え、わたしを顧みてください。わたしを迫害する者に、あだを返し、／あなたの寛容によって、／わたしを取り去らないでください。わたしがあなたのために、／はずかしめを受けるのを知ってください。

－ ローマ 2:4 それとも、神の慈愛があなたを悔改めに導くことも知らないで、その慈愛と忍耐と寛容との富を軽んじるのか。

－ ローマ 9:22 もし、神が怒りをあらわし、かつ、ご自身の力を知らせようと思われつつも、滅びることになっている怒りの器を、大いなる寛容をもって忍ばれたとすれば、

－ コリント前書 13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

－ コリント後書 6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

－ ガラテヤ 5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、

- － エペソ 4:2 できる限り謙虚で、かつ柔和であり、**寛容**を示し、愛をもって互に忍びあい、
 - － ピリピ 4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。
 - － コロサイ 3:12 だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。
 - － テサロニケ前書 5:14 兄弟たちよ。あなたがたにお勧めする。怠惰な者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。
 - － テモテ前書 1:16 しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限りない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである。
 - － テモテ前書 3:3 酒を好まず、乱暴でなく、寛容であって、人と争わず、金に淡泊で、
 - － テモテ後書 3:10 しかしあなたは、わたしの教、歩み、ころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、
 - － テモテ後書 4:2 御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。
 - － テトス 3:2 だれをもそしらず、争わず、寛容であって、すべての人に対してどこまでも柔和な態度を示すべきことを、思い出させなさい。
 - － ヤコブ 3:17 しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。
 - － ペテロ前書 2:18 僕たる者よ。心からのおそれをもって、主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい。
 - － ペテロ前書 3:20 これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった。
 - － ペテロ後書 3:15 また、わたしたちの主の寛容は救のためであると思いなさい。このことは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、彼に与えられた知恵によって、あなたがたに書きおくったとおりである。
- 寛容について：ウィリアム・バークレイ「マルコ福音書」
 - － ウィリアム・ペン（1644-1718 クエーカー）：汝が理解できないものを軽蔑し、また反対するなかれ
 - － キングズリ・ウィリアムズ訳ユダ 10：これらの人々は彼らの理解しないことをのしる（聖書協会共同訳：しかし、この人々は自分が知りもしないことをそしり、また、分別のない動物のように、ただ本能的な知識にあやまられて、自らの滅亡を招いている。）
 - － テニソン：神やご自身を多くの方法で成就される。

- － セルバンテス：神は彼の民を天国に運ぶ多くの路を持ちたもう
- － ジョン・モーリー（1838-1923）：寛容は真理のあらゆる可能性に対する尊敬を意味する。真理は様々の家に住み、多彩な衣服を身にまとい、種々の聞き慣れない言葉で語るのを認めることを意味する。それは機械的な形式、公認の慣例、社会的勢力に対して、内在する良心の自由を率直に尊敬することである。それは、慈愛が信仰や希望よりも大きいことを意味する。
- － ヴォルテール（1694-1778）：わたしはあなたのいったことは大嫌いだ。しかし、わたしはそういうあなたの権利のためなら、死んでもよい。
- － チャルマーズ博士（17C スコットランド）：クリスチャンの良さを生み出す手段としての教会でなければ、いったい誰が教会に関心を示すだろうか。
- － 誰でもその指輪をはめると、その性質がやさしく誠実になり、すべての人々に愛された。ほかにふたつ作られこどもたちに贈った。どれが本物が判定を任された裁判官は「わたしにはどれが魔法の指輪かわからない。しかし、あなたが、それを証明できる。もし、本当の指輪が、それをはめる者の正確にやさしさを与えることが真実ならば、その人の善良なる生活によって、わたしもこの町にいる他の人々も本当の指輪をはめている人を見分けることができるだろう。だから、それぞれ自分の方法でやりなさい。親切、誠実、勇敢、正確でありなさい。これらのことを行った人が本当の指輪の持ち主なのだ。」
- － 彼はわたしを締め出す円を描いた。反逆者、異端者、あざける事柄。しかし愛とわたしは機知を持って勝ちを得た。われわれは彼を包み込む円を描いた。
- マタイ 12:30 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。
 - － ベルゼブル論争（マルコ 3:20-30、マタイ 12:22-32、ルカ 12:10）[\[参照\]](#)
 - － ルカ 11:40 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。
 - － マルコ 3:28-29 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。29 しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。

4.54.4 記録

- 日時：2024 年 5 月 16 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）2 名

4.54.5 問いについて

1. どのような背景があるのでしょうか。ルカ 9:49 も参考にしましょう。

- 49a するとヨハネが答えて言った、(聖書協会共同訳：ヨハネが答えて言った。)
- [DQ] (特にルカでは、) 前の話とつながっているように、描かれています。もし、つながっているとすると、ヨハネは、イエスのどのような言葉に反応したのでしょうか。
 - ー イエスの名に関係しているのかもしれない。
 - * 38b あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ました
 - * [Q] この行為によって、受け入れる人がいるかもしれないということだろうか。
 - ー もしかすると、自分はこんなことをしたという偉さに関係しているのかもしれない。
 - ー イエスを受け入れるという言葉に反応したのだろうか。十分には理解しづらい。
 - * 37 「だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを受け入れるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受け入れるのである」。

2. ヨハネは、どのようなことをイエスに伝えていますか。(38)

- 38 ヨハネがイエスに言った、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかったので、やめさせました」。
- [参考] ルカ 9:49 するとヨハネが答えて言った、「先生、わたしたちはある人があなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちの仲間でないので、やめさせました」。
 - ー 仲間ではない (: i) to follow one who precedes, join him as his attendant, accompany him, ii) to join one as a disciple, become or be his disciple, 1:18, 2:14,15, 3:7, 5:24, 6:1, 8:34, 9:38, 10:21, 28, 32, 52, 11:9, 14:13, 51, 54, 15:41)
 - [DQ] なぜ、イエスの名を使って悪霊を追い出すものが登場したのでしょうか。
 - ー より有力な名前に抵抗できないと考えられていた。
 - ー 悪霊(汚れた霊)を追い出すことがいちばん人々が印象的だったことなのだろう。
 - ー イエスには従えないが、その力には興味があったのかもしれない。

- 参考：使徒 19:13-17 そこで、ユダヤ人のまじない師で、遍歴している者たちが、悪霊につかれている者にむかって、主イエスの名をとねえ、「パウロの宣べ伝えているイエスによって命じる。出て行け」と、ためしに言ってみた。14 ユダヤの祭司長スケワという者の七人のむすこたちも、そんなことをしていた。15 すると悪霊がこれに対して言った、「イエスなら自分は知っている。パウロもわかっている。だが、おまえたちは、いったい何者だ」。16 そして、悪霊につかれている人が、彼らに飛びかかり、みんなを押えつけて負かしたので、彼らは傷を負ったまま裸になって、その家を逃げ出した。17 このことがエペソに住むすべてのユダヤ人やギリシヤ人に知れわたって、みんな恐怖に襲われ、そして、主イエスの名があがめられた。

- [DQ] ヨハネはなぜやめさせたのでしょうか。

- 自分たちについてこない。イエスに従わない。
- イエス（の教え）を受け入れる、神様を受け入れることとの区別がついていないのだろうか。
- 何をもって仲間とするかの判断基準がここでも重要に思える。

- [DQ] 悪霊を追い出していた人たちはどのような人たちだと思いますか。

- 律法学者やパリサイ派の人たちではありませんか。おそらく NO。
- なぜそう考えるのでしょうか。では、どのような人たちですか。

3. イエスはどのように答えますか。(39,40)

- 39 イエスは言われた、「やめさせないがよい。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら、すぐそのあとで、わたしをそしることはできない。40 わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方である。

- [DQ] 「だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら、すぐそのあとで、わたしをそしることはできない。」はどのようなことを伝えていますか。

- ある意味で、(神様が与えられた) イエスの力(権威)に信頼していることを表現している。おそらく、律法学者やパリサイ派の人は、そのようにはしないだろう。
- (ベルゼブル論争)「3:23b どうして、サタンがサタンを追い出すことができようか。24 もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。25 また、もし家が内わで分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。26 もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。

* [Q] 内部分裂しないためでしょうか。

- [DQ] イエスの視点は、ヨハネの視点とどのようなところが異なっていますか。

－「わたしたちについてくるか」「かみさまの御心を行っているか」前者は、分かり易いが、後者はそのとおりだとしても、判断は難しい。

- [DQ] 一般的に「寛容」であれと言っているのでしょうか。

－ そうかも知れない。寛容が心の広さをもって受け入れることであるなら、

－ 愛は寛容であり (1 コリント 13:4) : to be of a long spirit, not to lose heart (a) to persevere patiently and bravely in enduring misfortunes and troubles, (b) to be patient in bearing the offenses and injuries of others (Mat 18:26, 29, Luke 18:7, 1Thess 5:14, Heb 6:15, Jas 5:7, 8, 2Pet 3:9)

－ なぜ、寛容さが大切なのでしょう。

- [DQ] 反対しないものは、ほんとうに、味方なのでしょう。

- 反対しない、悪霊を追い出す奉仕の業、イエスの名を唱えている

4. イエスはさらにどのようなことを伝えていますか。(41)

- 41 だれでも、キリストについている者だということで、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもれることはないであろう。

- [DQ] 「キリストについている者」かどうか、重要なのでしょうか。

－ キリストについていない者に恵みの業を行っても報われないのでしょ。 (おそらくそう入っていない。)

- 参照：マタイ 25:31-46 40 すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。

- [DQ] 「報い」とはなんなのでしょう。

5. ルカ 9:51-56 からどのようなことがわかりますか。

- [DQ] なぜサマリア人はイエスを歓迎しなかったのでしょうか。

- [DQ] 弟子達の派遣のときと、何が違うのでしょうか。

－ 6:11 また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話を聞きもしない所があったなら、そこから出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足の裏のちりを払い落しなさい」。

- 参考：マルコ 3:17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。

6. イエスはどのようなことを教えているのでしょうか。

- [DQ] マタイ 12:30 「わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。」と比較してどのように理解すればよいのでしょうか。

ー ベルゼブル論争では、23 そこでイエスは彼らと呼ばい寄せ、譬をもって言われた、「どうして、サタンがサタンを追い出すことができようか。24 もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。25 また、もし家が内わで分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。26 もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。27 だれでも、まず強い人を縛りあげなければ、その人の家に押し入って家財を奪い取ることはできない。縛ってからではじめて、その家を略奪することができる。28 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。29 しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。(マルコ)

ー マタイでは引用句が含まれている。本筋はまず、「もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。」と始めている。マタイでは、引用句が含まれるが、マルコでは含まれない。「ルカ 11:23 わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。」も参照。

4.54.6 メモ

- 背景は不明：ルカの「すると」のように、直接的につながっているのかは不明だが、ここに置かれたことは確かなので、ある程度の連続性は仮定して良いように思われる。すると、単純なのは、「イエスの名」だろうか。
- 全体として、ヨハネ 6 章 66-71 節にあるように、イエスから去っていくものが多かったのかもしれない。このあとの、ルカにあるサマリアのエピソードのように、イエスのメシヤとしての行動を理解するものはほとんどいなかったということもあるように思われる。
- 寛容は神様の性質、わたしたちを受け入れてくださっている。これが基本。歓迎は、受け入れがたいものを受け入れることなのだから。
- マタイ 12:30、ルカ 11:23 は、時代的背景もあるかもしれない。イエスの直接の教えは、マルコであるが、分断が初代教会時代にある程度広がったのかもしれない。
- ひとは、単純化バイアスから自由にはなれない。しかし、単純化バイアスにつねに繋ぎ止められるのではなく、それから、解き放たれることも可能で、それもひとのたいせつな部分。自由になれないとしても、それを、さばいてはならない。だれにとっても難しいこと。同時に、自由になることをもとめることも大切。

4.55 9:42-50 罪への誘惑

42 また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海に投げ込まれた方が、はるかによい。43 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になって命に入る方がよい。44 「地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」45 もし、あなたの片足が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。46 「地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」47 もし、あなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出さなさい。両眼がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片目になって神の国に入る方がよい。48 地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。49 人はすべて火で塩づけられねばならない。50 塩はよいものである。しかし、もしその塩の味がぬけたら、何によってその味が取りもどされようか。あなたがた自身の内に塩を持ちなさい。そして、互に和らぎなさい」。

4.55.1 マタイ 18:6-9

6 しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。7 この世は、罪の誘惑があるから、わざわざである。罪の誘惑は必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわざである。8 もしあなたの片手または片足が、罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。両手、両足がそろったままで、永遠の火に投げ込まれるよりは、片手、片足になって命に入る方がよい。9 もしあなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。両眼がそろったままで地獄の火に投げ入れられるよりは、片目になって命に入る方がよい。

4.55.2 ルカ 17:1-2

1 イエスは弟子たちに言われた、「罪の誘惑が来ることは避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざわざである。2 これらの小さい者のひとりを罪に誘惑するよりは、むしろ、ひきうすを首にかけられて海に投げ入れられた方が、ましである。

[マルコによる福音書 9 章 42-50 節福音書対照表](#)

4.55.3 問い

1. これまでの部分とどのように関係していますか。
2. 「小さいもの」とは、誰のことでしょうか。(42)
3. 描かれている、四つのことがらについて上げてみましょう。(42-47)

4. 片手、片足、片目が罪を犯させるとはどのようなことでしょうか。(43-47)
5. いのちに入る、神の国に入る、地獄に投げ入れられるとはどのようなことでしょうか。(43-48)
6. 「塩を持ちなさい、互いに和らぎなさい」はなにを教えているのでしょうか。(49,50)

4.55.4 参照

- マタイではこのあと、「迷い出た羊」のたとえ (18:10-14)、きょうだいの忠告 (18:15-20)、「仲間を赦さない家来」のたとえ (18:21-35) が挿入
- ルカでは、9 章の終わりから、16 章まで全く別構成になっている。
- 天国
 - 天国は地上における社会で、そこでは神の意志が天において行われているように、完全に地上で行われるところである。
- 塩
 - レビ記 2:13 あなたの素祭の供え物は、すべて塩をもって味をつけないといけない。あなたの素祭に、あなたの神の契約の塩を欠いてはならない。すべて、あなたの供え物は、塩を添えてささげなければならない。
 - 民数記 18:19 イスラエルの人々が、主にささげる聖なる供え物はみな、あなたとあなたのむすこ娘とに与えて、永久に受ける分とする。これは主の前にあって、あなたとあなたの子孫とに対し、永遠に変らぬ塩の契約である」。
 - 歴代誌下 13:5 あなたがたはイスラエルの神、主が塩の契約をもってイスラエルの国をながくダビデとその子孫に賜わったことを知らないのか。
 - ヨブ 6:6 味の無い物は塩がなくて食べられようか。すべりひゆのしるは味があろうか。
 - エゼキエル 43:24 これを主の前に持ってきて、祭司らはその上に塩をまき、これらを燔祭として主にささげよ。
 - マタイ 5:13 あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味を取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。
 - マルコ 9:49, 50 人はすべて火で塩づけられねばならない。50 塩はよいものである。しかし、もしその塩の味がぬけたら、何によってその味を取りもどされようか。あなたがた自身の内に塩を持ちなさい。そして、互に和らぎなさい」。

- － ルカ 14:34 塩は良いものだ。しかし、塩もききめがなくなったら、何によって塩味が取りもどされようか。35 土にも肥料にも役立たず、外に投げ捨てられてしまう。聞く耳のあるものは聞くがよい」。
 - － コロサイ 4:6 いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりびとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。
 - － ヤコブ 3:12 わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができようか。塩水も、甘い水を出すことはできない。
- 地獄（ゲヘナ） : Hell is the place of the future punishment called “Gehenna” or “Gehenna of fire”. This was originally the valley of Hinnom, south of Jerusalem, where the filth and dead animals of the city were cast out and burned; a fit symbol of the wicked and their future destruction.
 - － マルコ 9:43-48
 - － マタイ 5:22 しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。兄弟にむかって愚か者と言う者は、議会に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。
 - － マタイ 5:29,30 もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に投げ入れられない方が、あなたにとって益である。30 もしあなたの右の手が罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に落ち込まない方が、あなたにとって益である。
 - － マタイ 10:28 また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。
 - － マタイ 18:9 もしあなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。両眼がそろったまま地獄の火に投げ入れられるよりは、片目になって命に入る方がよい。
 - － マタイ 23:15 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。あなたがたはひとりの改宗者をつくるために、海と陸とを巡り歩く。そして、つくったなら、彼を自分より倍もひどい地獄の子にする。
 - － マタイ 23:33 へびよ、まむしの子らよ、どうして地獄の刑罰をのがれることができようか。
 - － ルカ 12:5 恐るべき者がだれであるか、教えてあげよう。殺したあとで、更に地獄に投げ込む権威のあるかたを恐れなさい。そうだ、あなたがたに言うておくが、そのかたを恐れなさい。
 - － ヤコブ 3:6 舌は火である。不義の世界である。舌は、わたしたちの器官の一つとしてそなえられたものであるが、全身を汚し、生存の車輪を燃やし、自らは地獄の火で焼かれる。
- ベンヒンノム（ゲヒンノムの谷）

- － ヨシュア 15:8 またその境はベンヒンノムの谷に沿って、エブスびとの地、すなわちエルサレムの南のわきに上り、ヒンノムの谷の西にある山の頂に上る。これはレパイムの谷の北の果にあるものである。
- － ヨシュア 18:16 ついでその境は、レパイムの谷の北の端にあるベンヒンノムの谷を見おろす山の端に下り、進んでエブスびとのわきの南、ヒンノムの谷に下り、また下ってエンロゲルに至り、
- － 列王記下 23:10 王はまた、だれもそのむすこ娘を火に焼いて、モレクにささげ物とすることのないように、ベンヒンノムの谷にあるトペテを汚した。
- － 歴代誌下 28:3 ベンヒンノムの谷で香をたき、その子らを火に焼いて供え物とするなど、主がイスラエルの人々の前から追い払われた異邦人の憎むべき行いにならない、
 - * エレミヤ 7:31,32 またベンヒンノムの谷にあるトペテの高き所を築いて、むすこ娘を火に焼いた。わたしはそれを命じたことはなく、またそのようなことを考えたこともなかった。32 主は言われる、それゆえに見よ、その所をトペテ、またはベンヒンノムの谷と呼ばないで、ほふりの谷と呼ぶ日が来る。それはほかに場所がないので、トペテに葬るからである。
- － 歴代誌下 33:6 彼はまたベンヒンノムの谷でその子供を火に焼いて供え物とし、占いをし、魔法をつかい、まじないを行い、口寄せと、占い師を任用するなど、主の前に多くの悪を行って、その怒りをひき起した。
 - * エレミヤ 32:35 またベンヒンノムの谷にバアルの高き所を築いて、むすこ娘をモレクにささげた。わたしは彼らにこのようなことを命じたことはなく、また彼らがこの憎むべきことを行って、ユダに罪を犯させようとは考えもしなかった。
- － エレミヤ 19:2 瀬戸かけの門の入口にあるベンヒンノムの谷へ行き、その所で、わたしがあなたに語る言葉をのべて、
- － エレミヤ 19:6 主は言われる、それゆえ、見よ、この所をトペテまたはベンヒンノムの谷と呼ばないで、虐殺の谷と呼ぶ日がくる。
- イザヤ書 66:24 「彼らは出て、わたしにそむいた人々のしかばねを見る。そのうじは死なず、その火は消えることがない。彼らはすべての人に忌みきらわれる」。

4.55.5 記録

- 日時：2024 年 5 月 23 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）1 名

4.55.6 問いについて

1. これまでの部分とどのように関係していますか。

- 聖書協会共同訳では、38 節から新しい段落になっているが、口語訳では、38 節のヨハネの間からつながっている。
- 山上の変貌とおしの霊につかれたこどもを癒やす記事以降
 - － 9:30-32 再び自分の死と復活を予告する：30 イエスは人に気づかれるのを好まなかった。32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。
 - － 9:33-37 いちばん偉い者：37 だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。
 - － 9:38-41 逆らわない者は味方：41 だれでも、キリストについている者だということで、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもれることはないであろう。
 - － このエピソードの背景は明確ではないが、弟子たちとイエスの間に十分な共通理解があったわけではないことも踏まえつつ、このように話が進んだと仮定して読んでみよう。イエスにとって、弟子たちにとって、なにがたいせつなのか、そのすり合わせをしているようなときのようにも見える。イエスにとっては、残された地上での日々が短いことを意識しつつ、弟子たちに託していくことについて考え、弟子たちにとっては、基本的に自分たちだけがイエスに従っているような状況の中で、どんな生き方が偉いのか、イエスに従っていくことが絶対ではないのか、おさなごを受け入れるとはどのようなことなのか、イエスからのメッセージを必死で受け取ろうとしてたように思われる。
- [DQ] 前段の寛容とはかなりトーンが異なるように思われますが、誰に対して語られているのでしょうか。
 - － 前後関係からすると、弟子たちに語られているように見える。マタイには、ヨハネの記事はないが、ほぼ同じ構成になっており、「いちばん偉い者」で、幼子を受け入れるに続いて描かれている。ルカでは、前後関係など、構成は異なるが、弟子たちに語られている。
 - － マタイでは、「18:7 この世は、罪の誘惑があるから、わざわいである。罪の誘惑は必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわいである。」と書かれており。イエス様は、弟子たちや、その後の、リーダーたちに迫る、様々な困難を予想していたのだろう。もしかすると、イエス様も、悪魔の誘惑も含めて、様々な罪の誘惑と対峙していたのかもしれない。マタイによる福音書記者は、このようなことをすでにたくさん見てきたのかもしれない。

2. 「小さいもの」とは、誰のことでしょうか。(42)

- 42 また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまづかせる者は、大きなひきうすを首にかけて海に投げ込まれた方が、はるかによい。

—「41 だれでも、キリストについている者だというので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもれることはないであろう。」に続くと考え、あなたがた、つまり弟子たちが意識されているように見える。しかし、ことばとしては、もっと一般的に響く。イエス（または神）が、または、イエス（または神）を、完全ではないが、愛そうとしているものだろうか。

—「36 そして、ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて言われた。37 k『だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを受け入れるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受け入れるのである。』」に関係しているとする、もっとずっと広いことが関係しているように見える。「幼子（またはイエス、または不完全な自分のような存在）を受け入れようとするもの」

- [DQ] 人をつまづかせるとはどのような事でしょうか。

— おそらく、水いっぱいがとても嬉しいというひとに、水をあげることに対比されているのだろう。

- [DQ] 他の人との関係についてどんな警告が与えられていますか。

—「つまづかせる」は、だれか他者をつまづかせるように感じるが、このあとは、自分の手や足や目について言及されている。小さいものとして想定されていることと、罪を犯させるとの関係は、単純ではない。

3. 描かれている、四つのことがらについて上げてみましょう。(42-47)

- 42 また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまづかせる者は、大きなひきうすを首にかけて海に投げ込まれた方が、はるかによい。43 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になって命に入る方がよい。44 「地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」45 もし、あなたの片足が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。46 「地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」47 もし、あなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出しなさい。両眼がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片目になって神の国に入る方がよい。

- 42 節から 47 節には四つの対比があります。それぞれの場合に何が何よりも良いのですか。

1. 「わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまづかせる」より「大きなひきうす（聖書協会共同訳：ロバの挽く石臼）を首にかけて海に投げ込まれた方が、はるかによい」。

2. 「あなたの片手が罪を犯させる」なら「切り捨てなさい」。「両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になって命に入る方がよい。」
 3. 「あなたの片足が罪を犯させる」なら「切り捨てなさい」。「両足がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。」
 4. 「あなたの片目が罪を犯させる」なら「抜き出しなさい」。「両眼がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片目になって神の国に入る方がよい。」
- [DQ] 「つまづかせる」と「罪を犯させる」は、同じなのでしょうか。
 - － 興味深い問である。「罪を犯す」は理解できても、ここでは、「罪を犯させる」「つまづかせる」ことが問われている。マタイ 18:7 の「罪の誘惑は必ず来る」と連動させると両方に視点がある。
 - － 誰を想定しているか、混在しているように見える。前段では、「キリストについている者だといふので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるもの」と言っているので、つまづかせられるのは、弟子たちであるように見えるが、このあとには、あなたの片手、片足、片目が罪を犯させるならとなっているので、つまづかせる主体は、弟子たちであるようにも見える。
 - [DQ] なにを教えているのでしょうか。
 - － 「41 だれでも、キリストについている者だといふので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもれることはないであろう。」とはいえ、あなたがたが、逆に、つまづかせる、罪を犯させるようなことは、絶対にいけないよ。と言っているかのようである。
 - [DQ] 絶対にしてはならないことと、犠牲をとんでもない、守るべきたいせつなことについて述べているようですが、それらはどのようなことなのでしょう。
 - － 神の意志を行うためにするいかなる犠牲も、訓練も、自己否定も値打ちのあるものである。
4. 片手、片足、片目が罪を犯させるとはどのようなことでしょうか。(43-47)
- 43 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になって命に入る方がよい。44 「地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」45 もし、あなたの片足が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。46 「地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。」47 もし、あなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出しなさい。両眼がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片目になって神の国に入る方がよい。
 - [DQ] 手や足はどのようにその人に罪をおかさせるのでしょうか。罪の結果は何ですか。
 - － おそらく、なにがあっても、イエスをしんじつ、小さいもの（完璧ではない弱いもの）を、指導者でもある、あなた方は、絶対に、躓かせてはいけません。もし、そのような要因があるなら、そ

れを断固切り捨てなさい。と言っているかのようなのである。

- [DQ] 今日の社会で、どんなことが、他の人に罪をおかさせるつまずきになりますか。

- ちいさなものを無視。イエスの名のゆえに受け入れることの逆。
- ちいさなものを愛しておられるかみさまを見逃す、みようとしなさい。
- 神様の、よろこばれることを考えず、自分の名があげられることを求める。

5. いのちに入る、神の国に入る、地獄に投げ入れられるとはどのようなことでしょうか。(43-48)

- 43 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になって命に入る方がよい。44 [地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。] 45 もし、あなたの片足が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。46 [地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。] 47 もし、あなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出しなさい。両眼がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片目になって神の国に入る方がよい。48 地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。

- [DQ] いのちに入る、神の国に入るとは。

- 神様の国（みこころがなる世界）に生きることを求めること。
- 神のみこころとシンクロして生きること。
- 神の意志を行うためにするいかなる犠牲も、訓練も、自己否定も値打ちのあるものである。

- [DQ] 地獄に投げ入れられるとは。

- 神様のみこころを受け入れることを拒否した生活を送ること。

- [DQ] 火とはどのような意味に使われているのでしょうか。

- 48 地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。49 人はすべて火で塩づけられねばならない。（イザヤ書 66:24 「彼らは出て、わたしにそむいた人々のしかばねを見る。そのうじは死なず、その火は消えることがない。彼らはすべての人に忌みきらわれる」。）

6. 「塩を持ちなさい、互いに和らぎなさい」はなにを教えているのでしょうか。(49,50)

- 49 人はすべて火で塩づけられねばならない。50 塩はよいものである。しかし、もしその塩の味がぬけたら、何によってその味が取りもどされようか。あなたがた自身の内に塩を持ちなさい。そして、互に和らぎなさい。

- [DQ] 塩はどのような意味に使われているのでしょうか。

- 味をつける、防腐剤、

- － レビ記 2:13 あなたの素祭の供え物は、すべて塩をもって味をつけなければならない。あなたの素祭に、あなたの神の契約の塩を欠いてはならない。すべて、あなたの供え物は、塩を添えてささげなければならない。
 - － 民数記 18:19 イスラエルの人々が、主にささげる聖なる供え物はみな、あなたとあなたのむすこ娘とに与えて、永久に受ける分とする。これは主の前にあって、あなたとあなたの子孫とに対し、永遠に変わらぬ塩の契約である」。
 - － 歴代誌下 13:5 あなたがたはイスラエルの神、主が塩の契約をもってイスラエルの国をながくダビデとその子孫に賜わったことを知らないのか。
- パークレイ：クリスチャンの生活が神に受け入れられるものとなるためには、ちょうど、すべての犠牲が塩で処理されたように、火で処理されなければならない。
- パークレイ：あなたがたのうちに、キリストの霊のきよめる力を持ちなさい。利己心、自我意識から、苦さ、怒り、妬みからきよめられなさい。焦燥、気まぐれ、自己中心から清められなさい。それによってのみ、あなたがたは自分の仲間と平和に過ごすことができるのである。
- 参考：
 - － マタイ 5:13 あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味を取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。
 - － ルカ 14:34 塩は良いものだ。しかし、塩もききめがなくなったら、何によって塩味が取りもどされようか。35 土にも肥料にも役立たず、外に投げ捨てられてしまう。聞く耳のあるものは聞くがよい」。
- [DQ] ここで、塩はなにを意味しているのでしょうか。
 - － たいせつなものという漠然とした解釈でも良いかもしれない。あなたにとって、たいせつなもの失ってはいけないものは何でしょうか。
 - － 十分理解できていない、幼子のような態度で、みこころを求め、生きることだろうか。
- [DQ] ここでなぜ「和らぎなさい」と言っているのでしょうか。
 - － あとになり、仕えるものとなり、仕え合うことだろうか。
 - － 水いっぱいを求めるものに与え、つまづきとなっていないか顧み、みこころを求め続けることか。

4.55.7 メモ

- なかなか難しい。どのように扱ったらよいのだろうか。パークレイは、「塩」や「火」で結び付けられた他の箇所の言葉が入り込んでいるとすらかいている。
- 塩・火：自分も、ひとりの、幼子のように、神様のみこころを十分は理解できていないことを自覚しつつ、生きることが求められている。しかし、みこころに生きることを求めるところが忘れられてしまったら、慈善活動も、福音宣教も、まったく、意味のないものになってしまうと言っているように感じる。
- 全体として、つながっているように見える。イエスが、弟子たちに伝えたかったこと。それが凝縮しているのだろう。ちいさいものとして、そして、たいせつなものをたいせつに、躓かせないようにと厳しく話すところには、ヨハネのような行為に、注意するようにとのメッセージが含まれているようにみえるし、また、最後に「たいせつなことをたいせつにすることによって、和らぎなさい」も、批判的にならず、自分を攻めるのでもなく、互いに、和らぐことを勧めている。塩がなにかは、明確ではないが、大切なものであることはわかる。

4.56 10:1-12 離婚について教える

1 それから、イエスはそこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれたが、群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。2 そのとき、パリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして質問した、「夫はその妻を出しても差しつかえないでしょうか」。3 イエスは答えて言われた、「モーセはあなたがたになんと命じたか」。4 彼らは言った、「モーセは、離縁状を書いて妻を出すことを許しました」。5 そこでイエスは言われた、「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、あなたがたのためにこの定めを書いたのである。6 しかし、天地創造の初めから、『神は人を男と女とに造られた。7 それゆえに、人はその父母を離れ、8 ふたりの者は一体となるべきである』。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。9 だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」。10 家にはいってから、弟子たちはまたこのことについて尋ねた。11 そこで、イエスは言われた、「だれでも、自分の妻を出して他の女をめとる者は、その妻に対して姦淫を行うのである。12 また妻が、その夫と別れて他の男にとつぐならば、姦淫を行うのである」。

4.56.1 マタイ 19:1-12

1 イエスはこれらのことを語り終えられてから、ガリラヤを去ってヨルダンの向こうのユダヤの地方へ行かれた。2 すると大ぜいの群衆がついてきたので、彼らをそこでおいやしになった。3 さてパリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして言った、「何かの理由で、夫がその妻を出すのは、さしつかえないでしょうか」。4 イエスは答えて言われた、「あなたがたはまだ読んだことがないのか。『創造者は初めから人を男と女とに造られ、5 そして言われた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたり

の者は一体となるべきである』。6 彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」。7 彼らはイエスに言った、「それでは、なぜモーセは、妻を出す場合には離縁状を渡せ、と定めたのですか」。8 イエスが言われた、「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、妻を出すことを許したのだが、初めからそうではなかった。9 そこでわたしはあなたがたに言う。不品行のゆえでなくて、自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うのである」。10 弟子たちは言った、「もし妻に対する夫の立場がそうだとすれば、結婚しない方がましです」。11 するとイエスは彼らに言われた、「その言葉を受けいれることができるのはすべての人ではなく、ただそれを授けられている人々だけである。12 というのは、母の胎内から独身者に生れついているものがあり、また他から独身者にされたものもあり、また天国のために、みずから進んで独身者となったものもある。この言葉を受けられる者は、受けいれるがよい」。

マルコによる福音書 10 章 1-12 節福音書対照表

4.56.2 問い

1. 状況と背景を確認しましょう。どこからどこへ向かっていますか。(1)
2. 誰が、どのような目的で、どのような質問をしますか。(2)
3. イエスはまずどのようなやり取りをしますか。(3,4)
4. イエスは、どのようなことを教えますか。(5-9)
5. さらに、弟子たちには、どのように教えますか。(10-12)
6. イエスは、なにをたいせつなこととして教えているのでしょうか。

4.56.3 参照

- 地図：ガリラヤからエルサレムへ
 - Jesus’ Ministry in Galilee and Journey to Jerusalem [\[参照\]](#)
 - Jesus’ Journeys from Galilee to Judea [\[参照\]](#)
- マタイでは、「罪への誘惑」(18:6-9、マルコ 9:42-48)のあと、「迷い出た羊」のたとえ、きょうだいの忠告、「仲間を赦さない家来」のたとえがあり、その後で、離縁について教える今回の記事が続く。このあとは、こどもを祝福する、金持ちの青年とマルコと同じ配列になっている。
- 6 しかし、天地創造の初めから、『神は人を男と女とに造られた。7 それゆえに、人はその父母を離れ、8 ふたりの者は一体となるべきである』。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。

- 創世記 1:27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。
- 創世記 2:18-25 また主なる神は言われた、「人がひとりでは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」。19 そして主なる神は野のすべての獣と、空のすべての鳥とを土で造り、人のところへ連れてきて、彼がそれにどんな名をつけるかを見られた。人がすべて生き物に与える名は、その名となるのであった。20 それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。21 そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。22 主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。23 そのとき、人は言った。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、／わたしの肉の肉。男から取ったものだから、／これを女と名づけよう」。創世記 2:24 それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。25 人とその妻とは、ふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。
- エペソ 5:31-33 「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」。32 この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしている。33 いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。
- コリント前書 6:16-20 それとも、遊女につく者はそれと一つのからだになることを、知らないのか。「ふたりの者は一体となるべきである」とあるからである。17 しかし主につく者は、主と一つの霊になるのである。18 不品行を避けなさい。人の犯すすべての罪は、からだの外にある。しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである。19 あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。20 あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。
- 離縁状（マルコ 10:4, マタイ 19:7 以外）
 - 申命記 24:1-4 人が妻をめとって、結婚したのちに、その女に恥ずべきことのあるのを見て、好まなくなったら、離縁状を書いて彼女の手に渡し、家を去らせなければならない。2 女がその家を出てのち、行って、ほかの人にとつぎ、3 後の夫も彼女をきらって、離縁状を書き、その手に渡して家を去らせるか、または妻にめとった後の夫が死んだときは、4 彼女はすでに身を汚したのちであるから、彼女を去らせた先の夫は、ふたたび彼女を妻にめとることはできない。これは主の前に憎むべき事だからである。あなたの神、主が嗣業としてあなたに与えられる地に罪を負わせてはならない。
 - イザヤ 50:1-3 主はこう言われる、／「わたしがあなたがたの母を去らせたその離縁状は、／どこにあるか。わたしはどの債主にあなたがたを売りわたしたか。見よ、あなたがたは、その不義のために売られ、／あなたがたの母は、／あなたがたののがのために出されたのだ。2 わたしが来たとき、／なぜひとりもいなかったか。わたしが呼んだとき、／なぜひとりも答える者がなかったか。わたしの手が短くて、／あがなうことができないのか。わたしは救う力を持たないのか。見よ、わたしが、しかると海はかれ、／川は荒野となり、／その中の魚は水がないために、／かわき死んで悪臭を放つ。

3 わたしは黒い衣を天に着せ、／荒布をもってそのおおいとする」。

- － エレミヤ 3:8-10 わたしが背信のイスラエルを、そのすべての姦淫のゆえに、離縁状を与えて出したのをユダは見た。しかもその不信の姉妹ユダは恐れず、自分も行つて姦淫を行った。9 彼女にとって姦淫は軽いことであつたので、石と木とに姦淫を行つて、この地を汚した。10 このすべての事があつても、なおその不信の姉妹ユダは真心をもってわたしに帰らない、ただ偽っているだけだ」と主は言われる。

* エレミヤ 3:1 もし人がその妻を離婚し、／女が彼のもとを去つて、他人の妻となるなら、／その人はふたたび彼女に帰るであらうか。その地は大いに汚れないであらうか。あなたは多くの恋人と姦淫を行った。しかもわたしに帰ろうというのか」と主は言われる。

- － マタイ 5:31-32 また『妻を出す者は離縁状を渡せ』と言われている。32 しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、不品行以外の理由で自分の妻を出す者は、姦淫を行わせるのである。また出された女をめとる者も、姦淫を行うのである。

* マタイ 5:33-37 また昔の人々に『いつわり誓うな、誓つたことは、すべて主に対して果せ』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。34 しかし、わたしはあなたがたに言う。いっさい誓つてはならない。天をさして誓うな。そこは神の御座であるから。35 また地をさして誓うな。そこは神の足台であるから。またエルサレムをさして誓うな。それは『大王の都』であるから。36 また、自分の頭をさして誓うな。あなたは髪の毛一すじさえ、白くも黒くもすることができない。37 あなたがたの言葉は、ただ、しかり、しかり、否、否、であるべきだ。それ以上に出ることは、悪から来るのである。

● 姦淫（マルコ 10:11,12、マタイ 19:9 以外の福音書）

- － マルコ 7:20-23 さらに言われた、「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。21 すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、22 姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。23 これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである」。（マタイ 15:1-20）
- － マルコ 10:17-22 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」。18 イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。19 いましめはあなたの知っているとおりである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』。20 すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」。21 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰つて、持っているものをみな売り払つて、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従つてきなさい」。22 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去つた。たくさんの資産を持っていたからである。（マタイ 19:16-30、ルカ 18:18-30）
- － マタイ 5:27-30 『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。28 し

かし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。29 もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に投げ入れられない方が、あなたにとって益である。30 もしあなたの右の手が罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に落ち込まない方が、あなたにとって益である。

- － ルカ 16:18 すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。
- － ルカ 18:11 パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。』
- － ヨハネ 8:3-5 すると、律法学者たちやパリサイ人たちが、姦淫をしている時につかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせた上、イエスに言った、4 「先生、この女は姦淫の場でつかまえられました。5 モーセは律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたはどのように思いますか」。

- 姦淫（日本国語大辞典）

- － かん - いん 【姦淫・奸淫】

『名』男女が道義に反する肉体関係を結ぶこと。不倫な情事。

＊読本・翁丸物語（1807）上

「今年四十一歳なり。されど奸淫を好みて」

- － かんいん - ざい 【姦淫罪】

『名』姦淫をする罪。

④法律で、婦女の真意に反して性交を強制する罪をいう。強姦罪、準強姦罪および淫行勧誘罪の総称。旧法では姦通罪を含めていた。

＊民法（明治二九年）（1896）八一三条

「夫婦の一方は左の場合に限り離婚の訴を提起することを得。〈略〉三、夫が姦淫罪に因りて刑に処せられたるとき」

⑨キリスト教などの宗教で、姦淫禁止の戒律を破る罪。

＊大津順吉（1912）〈志賀直哉〉一

「私にとって教へでの最も不調和なものは姦淫罪の律おきてであった」

- 日本の離婚に関する法律

- － 協議離婚・調停離婚・審判離婚・裁判離婚

－ 法律上における 5 つの離婚の条件

- (1) 配偶者に不貞行為があった
- (2) 配偶者から悪意の遺棄を受けた
- (3) 生死が 3 年以上不明
- (4) 配偶者が強度の精神病で回復の見込みがない
- (5) その他婚姻関係を継続できない重大な事由

－ 第 770 条【裁判上の離婚】

夫婦の一方は、次に掲げる場合に限り、離婚の訴えを提起することができる。

- 一 配偶者に不貞な行為があったとき。
- 二 配偶者から悪意で遺棄されたとき。
- 三 配偶者の生死が 3 年以上明らかでないとき。
- 四 配偶者が強度の精神病にかかり、回復の見込みがないとき。
- 五 その他婚姻を継続し難い重大な事由があるとき。

裁判所は、前項第一号から第四号までに掲げる事由がある場合であっても、一切の事情を考慮して婚姻の継続を相当と認めるときは、離婚の請求を棄却することができる。

4.56.4 記録

- ・ 日時：2024 年 5 月 30 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）4 名、参加（遠隔）1 名

4.56.5 問いについて

1. 状況と背景を確認しましょう。どこからどこへ向かっていますか。(1)

- ・ 1 それから、イエスはそこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれたが、群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。
- ・ 一行はカペナウムに来て家にいたときに (33)、弟子たちを呼び寄せ、すわって教えられた。(35a) みな仕えるものとなるべきこと。(35b) 幼な子をイエスの名のゆえに受け入れるべきこと。(36,37)

ヨハネの応答に対して教え。(38-40) イエスを信じるちいさなものをたいせつにするべきこと。
(41-48) 自分のうちに塩を持ち、互いに和らげ。(49, 50)

- 「イエスはそこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれた」とあるが、マタイでは「1 イエスはこれらのことを語り終えられてから、ガリラヤを去ってヨルダンの向こうのユダヤの地方へ行かれた。2 すると大ぜいの群衆がついてきたので、彼らをそこでおいやしになった。」となっている。マルコには、いやしの記事はない。マルコでは、山を降りてきたときのいやしの記事以降は、エリコでの盲人バルティマイのいやしのみ。

- [DQ] どこでの出来事なのでしょうか。

ー マルコは、「そこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれた」とあるが、マタイでは「ガリラヤを去ってヨルダンの向こうのユダヤの地方へ行かれた。」とある。特定するのが、困難である。ただ、基本的には、地名や土地勘に関しては、マタイ記者のほうが正確な場合が多いようである。ペテロは、無論、土地勘があるが、マルコは、それが十分ではなかったのかもしれない。ヨルダンの向こうは、デカポリスや、ペレアと思われるが、川沿いは南の方は、ユダヤだったのかもしれない。また、ルカでは、サマリヤの地を通ったことになっているが、経路も不明である。すくなくとも、急いで、エルサレムに直行したのではなく、いくつかの町を通して、南下していかれたのだろう。

ー 10:32「さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。」とあるが、この時点では、どこにいるかは不明で、1節は、大雑把な、導入なのかもしれない。10節の「家」は、カペナウムのペトロに家を想起させる。すると、1節はあるものの、カペナウムの可能性が高い。

- [DQ] どのような状況で、このことが起こりますか。ここには、だれがいますか。

ー 「群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。」とあり、群衆に教えておられたなかで起こったこととして描かれている。具体的な問としてあるかうより、群衆に教えている中で、多少、裏のある、問が、パリサイ人から投げかけられたと見るのがよいように思われる。

- マタイでは 19:1「イエスはこれらのことを語り終えられてから、ガリラヤを去ってヨルダンの向こうのユダヤの地方へ行かれた。」と一つの区切りとしている。7:28「イエスがこれらの言を語り終えられると、群衆はその教にひどく驚いた。」、11:1「イエスは十二弟子にこのように命じ終えてから、町々で教えまた宣べ伝えるために、そこを立ち去られた。」、13:53「イエスはこれらの譬を語り終えてから、そこを立ち去られた。」、26:1「イエスはこれらの言葉をすべて語り終えてから、弟子たちに言われた。」

2. 誰が、どのような目的で、どのような質問をしますか。(2)

- 2 そのとき、パリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして質問した、「夫はその妻を出し

でも差しつかえないでしょうか」。

- [DQ] どのような質問ですか。
 - ー パリサイ人が、イエスを試みようとして、離婚の是非について問うている。
 - ー 表面的には、離婚の是非について一般的に問うているが、このあとのやり取りをみると、真意は、もう少し違うところにあるようにも見える。その背景をしっかりと理解しなくてはいけないのだろう。
- [DQ] 「試そうとして」とありますが、どのようなことを試そうとしたのでしょうか。
 - ー 試みようとしてとあるが、このあとは、なにも、反論をしていないので、その意図がどの程度強かったのかは不明。すくなくとも、このあと弟子も「このことについて」おそらく、イエスが言われたことについて質問しているので、パリサイ人を批判したり、忌避したりという様子は見受けられない。パリサイ人の意図がどうであれ、イエスは、本質的な教えを説いている。
- [DQ] なぜ、離婚についての質問をしたのでしょうか。
 - ー おそらく、その理由は、このあとの、イエスとのやり取りにヒントがある。

3. イエスはまずどのようなやり取りをしますか。(3,4)

- 3 イエスは答えて言われた、「モーセはあなたがたになんと命じたか」。4 彼らは言った、「モーセは、離縁状を書いて妻を出すことを許しました」。
- [DQ] なぜ、イエスは、「モーセはあなたがたになんと命じたか」と問い返したのでしょうか。
 - ー 意図を明確にし、それから答える。共通の立脚点を確認する。
 - ー いつもの方法。問に問で返すことで、問の意味を深め、意図を明確にする。自ら考え始めるように促す。
 - * 2:7-9 「この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」。8 イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。9 中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。
 - * 3:2-5 人々はイエスを訴えようと思って、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがっていた。3 すると、イエスは片手のなえたその人に、「立って、中へ出てきなさい」と言い、4 人々にむかって、「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」と言われた。彼らは黙っていた。5 イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくななのを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった。

* 3:32,33 ときに、群衆はイエスを囲んですわっていたが、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟、姉妹たちが、外であなたを尋ねておられます」と言った。33 すると、イエスは彼らに答えて言われた、「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか」。

- [DQ] どのように答えますか。
 - －「モーセは、離縁状を書いて妻を出すことを許しました」。
- [DQ] 申命記 24:1 からの引用のようですが、申命記 24:1 は何を教えているのでしょうか。
 - － 申命記 24:1-4 1 人が妻をめぐって、結婚したのちに、その女に恥ずべきことのあるのを見て、好まなくなったならば、離縁状を書いて彼女の手渡し、家を去らせなければならない。
 - － 離縁状があれば、女性は他の男性と結婚することが可能となった。
- [DQ] 「モーセは、離縁状を書いて妻を出すことを許しました」と答えていますが、では、なぜ、このひとたちは、イエスに問うたのでしょうか。(最初の問の目的)
 - － ユダヤ教の中で、ホットなトピックだったようだ、申命記の「恥ずべきこと (: nakedness)」をどう取るかで、何でも理由にしようとする派(ヒレル派)と、姦淫に限定する派(シャンマイ派)とがあったようだ。そのどちら側にたつかという質問の可能性もある。
 - － バプテスマのヨハネがヘロデが妻を離縁して、ヘロデヤを娶ったことを避難したかどで、投獄されたとする節から、なにか、そのような立場をとるかとの質問かもしれない。
 - * マルコ 6:17,18 このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤをめぐったが、そのことで、人をつかわし、ヨハネを捕えて獄につないだ。18 それは、ヨハネがヘロデに、「兄弟の妻をめぐるのは、よろしくない」と言ったからである。イエスはまずどのようなやり取りをしますか。(3,4)
 - － イエスの教えを聞いていたのかもしれない。
 - * マタイ 5:31-32 また『妻を出す者は離縁状を渡せ』と言われている。32 しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、不品行以外の理由で自分の妻を出す者は、姦淫を行わせるのである。また出された女をめぐる者も、姦淫を行うのである。

4. イエスは、どのようなことを教えますか。(5-9)

- 5 そこでイエスは言われた、「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、あなたがたのためにこの定めを書いたのである。6 しかし、天地創造の初めから、『神は人を男と女とに造られた。7 それゆえに、人はその父母を離れ、8 ふたりの者は一体となるべきである』。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。9 だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」。
- [DQ] 「あなたがたの心がかたくななので」は、何を意味しているのでしょうか。

- － 結婚を神のわざと考えず、離婚をしようとする。離婚によってもたらされる悲劇を最低限にするため。
- [DQ] 引用箇所を確認しましょう。どこに書かれていますか。
 - － 創世記 1:27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。
 - － 創世記 2:18 また主なる神は言われた、「人がひとりでは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」。
 - － 創世記 2:20 それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。
 - － 創世記 2:23 そのとき、人は言った。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、／わたしの肉の肉。男から取ったものだから、／これを女と名づけよう」。
 - － 創世記 2:24 それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。
- [DQ] イエスは結婚についてどのように教えていますか。
 - － [Q] これは、新しい教えなのでしょうか。
 - － [Q] 質問者は、これで満足したのでしょうか。

5. さらに、弟子たちには、どのように教えますか。(10-12)

- 10 家にはいってから、弟子たちはまたこのことについて尋ねた。11 そこで、イエスは言われた、「だれでも、自分の妻を出して他の女をめとる者は、その妻に対して姦淫を行うのである。12 また妻が、その夫と別れて他の男にとつぐならば、姦淫を行うのである」。
- [DQ] 弟子たちは、なぜ、家にはいってから、また尋ねたのでしょうか。何を知らなかったのでしょうか。
 - － 身近な現実の問題なので、パリサイ人と、群衆と、弟子たち、関心はあまり差がなかったのかもしれない。
- [DQ] 「姦淫」とはどのようなことですか。これは、どのような罪なのでしょうか。
 - － 日本国語大辞典：男女が道義に反する肉体関係を結ぶこと。不倫な情事。
 - － マタイ 5:27-30 『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。28 しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。29 もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に投げ入れられない方が、あなたにとって益である。

30 もしあなたの右の手が罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に落ち込まない方が、あなたにとって益である。

6. イエスは、なにをたいせつなこととして教えているのでしょうか。

- [DQ] どのようなことを正しているのでしょうか。
 - ー なには、赦されるのかを問うている。つまり、実際には、姦淫に興味がある。それを正当化する方法を探している。そのような、価値観に挑戦している。
 - ー ちいさきものに目を向けると同時に、ちいさなことには、目を向けなくて、神様のみこころを求める。
- [DQ] パリサイ人は、何を最終根拠とし、イエスは、何を最終根拠としているのでしょうか。
 - ー パリサイ人は、律法に書いてあること、それをどう解釈するか、または解釈された律法を最終基準としているが、イエスは、神様のみこころを最終基準としているように見える。

4.56.6 メモ

- 場所は不明だが、なにか、緊張感が薄いようにも見える。ガリラヤなのか、離れた場所なのか。
- 結婚の神聖さについての、教えなのだろうか。最初に試そうとしてを正確に理解しないといけない。
- イエスは、正しいことをここで述べているとすると、ひとをさばくことにもつながる。しかし、より、一般的なことを述べているようにも、みえる。すなわち、かみさまのみこころとの向き合い方だろうか。自分の都合の良い解釈を選択するのはもってのほかだが、わからないことをも許容しないと、裁きとなる。
- 同時に、離婚があまりに、軽く考えられている現代に対して、問も投げかけている。なんでも理由をみつけて離婚にいたる（性格の不一致）ことでよいのだろうか。み心を求め続けるものでありたい。
- 山上の説教でも、姦淫のこと（マタイ 5:27-30）、離婚のこと（マタイ 5:31-32）について語っているので、パリサイ人も聞いて知っていたかもしれない。すなわち、イエスの答えも、知っていたかもしれない。しかし、ここでは、そのあと、あえて問うていないように見える。
- パリサイ人は、律法に書いてあること、それをどう解釈するか、または解釈された律法を最終基準としている（記録された神の御心と思われるもの）が、イエスは、神様のみこころを最終基準としているように見える。後者のように生きられればよいだろうが、それは、可能なのだろうか。おそらく、神のみこころを求めることを、大切にすることなのだろう。

4.57 10:13-16 子どもを祝福する

13 イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。15 よく聞いておくがよい。だれで

も幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。16 そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。

4.57.1 マタイ 19:13-15

13 そのとき、イエスに手をおいて祈っていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。14 するとイエスは言われた、「幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」。15 そして手を彼らの上においてから、そこを去って行かれた。

4.57.2 ルカ 18:15-17

15 イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちはそれを見て、彼らをたしなめた。16 するとイエスは幼な子らを呼び寄せて言われた、「幼な子らをわたしのところに来るままにしておきなさい、止めてはならない。神の国はこのような者の国である。17 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。

[マルコによる福音書 10 章 13-16 節福音書対照表](#)

4.57.3 問い

1. このことは、どのような背景のもとで起きましたか。
2. 誰が、何の目的のために、幼な子らを連れてきますか。(13a)
3. 弟子たちはどうしますか。それは、なぜでしょうか。(13b)
4. イエスはどうしますか。(14,16)
5. イエスはさらにどのようなことを教えていますか。(14,15)
6. 人々にとって、弟子たちにとって、イエスにとって、あなたにとって、幼な子は、どのような存在ですか。

4.57.4 参照

- 幼な子 (: a young child, a little boy, a little girl, a) infants, b) children, little ones, c) an infant of a (male) child just recently born, of a more advanced child; of a mature child; metaph. children (like children) in intellect)

- マルコ 5:39,40,41 内にはいって、彼らに言われた、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、子供のいる所にはいって行かれた。41 そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。
- マルコ 7:28 すると女は答えて言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、食卓の下にいる小犬も、子供たちのパンくずは、いただきます」。
- マルコ 9:24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。
- マルコ 9:36,37 そして、ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて言われた。37 「だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを受け入れるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受け入れるのである」。
- マルコ 10:13,14,15 イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。
- ルカでは、幼な子は、 : i) an unborn child, embryo, a foetus, ii) a new-born child, an infant, a babe、しかし、マルコの記述からは、走り回っているように見える。
- こどもに関する聖書箇所
 - マタイ 21:16 イエスに言った、「あの子たちが何を言っているのか、お聞きですか」。イエスは彼らに言われた、「そうだ、聞いている。あなたがたは『幼な子 (: i) an infant, little child, ii) a minor, not of age, iii) metaph. childish, untaught, unskilled)、乳のみ子たち (: i) to give the breast, give suck, to suckle, ii) to suck) の口にさんびを備えられた』とあるのを読んだことがないのか」。

4.57.5 記録

- 日時：2024 年 6 月 6 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）4 名

4.57.6 問いについて

1. このことは、どのような背景のもとで起きましたか。

- 1 それから、イエスはそこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれたが、群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。ここから新しい設定。
 - 1-13 「夫はその妻を出しても差しつかえないでしょうか」。の間に答えて。- おとなの事情のとりあつかい。
 - 17-22 金持ちの男との対話
 - 17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」。
 - マタイ 19:22 では、「青年（: a young man, youth, used of a young attendant or servant）」マルコで使われているのは、14:51 と、16:5 のみ。
 - 23-31 弟子たちへの教え。「子を捨てたもの」
 - 29-31 「よく聞いておくがよい。だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、30 必ずその百倍を受ける。すなわち、今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。
 - こどものことは、この前後では、意識に入っていないように見える。その中で唐突な、短いエピソードに見える。
 - マタイでは「そのとき」(19:13)
 - [DQ] イエスはどのようなときにありますか。
 - 10:1 それから、イエスはそこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれたが、群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。
 - 受難と死と復活の告知の二回目 (9:30-32) と三回目 (10:32-34) の間。(1 回目は 8:31)
2. 誰が、何の目的のために、幼な子らを連れてきますか。(13a)
- 13a イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。
 - [DQ] 「さわっていただく」は、どのようなことを意味していますか。
 - 16 そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。
 - ユダヤ人は生後一年の赤ん坊を高名なラビに祝福してもらう習慣があった。(ルカ 2:22-33) (出エジプト 13 章)
3. 弟子たちはどうしますか。それは、なぜでしょうか。(13b)
- 13b ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。

- [DQ] なぜ弟子たちは、幼な子らをイエスのもとに連れて来た人々をたしなめ（叱）るのでしょうか。

- イエスの受難告知以降、緊張状態にあったと思われる。「空気を読めないのか。」
- おとなの事情（離縁について）弟子たちが、より詳しく説明してもらいたい途中だった。「ちょっとあとにしてくれ。」
- カペナウムでのイエスのメッセージを忘れていた。「こどもなんかにかわってはいられない」

* 9:33-37 それから彼らはカペナウムにきた。そして家におられるとき、イエスは弟子たちに尋ねられた、「あなたがたは途中で何を論じていたのか」。34 彼らは黙っていた。それは途中で、だれが一ばん偉いかと、互に論じ合っていたからである。35 そこで、イエスはすわって十二弟子を呼び、そして言われた、「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」。36 そして、ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて言われた。37 「だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。そして、わたしを受けいれる者は、わたしを受けいれるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである」。

* このメッセージを真剣にうけとることには、困難もある。

- [DQ] イエスが、教えておられる途中であればどうでしょうか。
- 10:1 それから、イエスはそこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれたが、群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。
- 10:10 家にはいつてから、弟子たちはまたこのことについて尋ねた。
- [Q] 教会での説教中に、こどもが、入ってきて、だれかのもとに走り寄ってきたらどうしますか。

4. イエスはどうしますか。(14,16)

- 14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。
- 16 そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。
- [DQ] 幼な子らの様子についてなにかわかりますか。
- わたしの所に来るままにしておきなさい。
- * なすがままにさせる。ここに大切な目があるように感じる。
- イエスのもとに走ってくるものもいたのではないだろうか。まだ、カペナウム周辺にいたとすると、イエスを知っていたかもしれない。

- [DQ] イエスは、なぜ、受難告知以降も、このように振る舞われるのでしょうか。
- [DQ] 憤るとはどのようなことでしょうか。
 - : to be indignant, moved with indignation, be very displeased
 - マタイ 20:24、21:15、26:8、マルコ 10:14、41、14:4、ルカ 13:14
- [DQ] 「神の国はこのような者の国である。」とは、どのような意味でしょうか。
 - [Q] なぜ、幼な子のような者の国なののでしょうか。
- [DQ] ここで言われている、幼な子のなにかの特色について言われているのでしょうか。
 - まだ、おとなになっていない、成長途中、成長している存在である。いきいきと生きることは成長し続けること、学び続けること。
 - パークレイ：謙遜、従順、信頼、長く覚えていない
 - 榊原：子どもの示す美德の第一は、嬉々として贈り物を受け取る能力・受容力です。「ただほど高いものはない」というのがおとなの哲学ですから「こどものように神の国を受け入れる」ことができるのは、大変な能力です。その能力を強調するため、ルカは「幼子（嬰兒）」とした。なんのためらいもなく「来る」平然とした態度。
- [DQ] イエスは最後に抱いて、祝福をしています、どのようなことを表していますか。
 - : to take into one's arms, embrace (マルコ 9:36、10:16)
- [DQ] イエスの祝福はどのようなものなのでしょうか。
 - 「あなたは愛されています。」 by TV evangelist, Rex Humbard
 - 「神の国はこの（あなたの）ような者の国である。」(14)
 - 「あなたの人生が神様に祝福された素晴らしいものでありますように」

5. イエスはさらにどのようなことを教えていますか。(14,15)

- 14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。
- [DQ] 幼な子のように神の国を受け入れるとはどういうことでしょうか。
- [DQ] 「幼な子」の対極「幼な子ではない」とは、どのような人のことでしょうか。
 - 成長しないもの、成長しきったと思っているもの、変わらないもの、不完全さを体さないもの。

- － おとなの事情をならべたてて、離縁をかんがえるひとたち。
 - － 次のエピソードの「金持ち」？
 - 離婚の話のあとに、こどもは、大切なものであることを、示している。
 - － 教育ママ、育児ノイローゼとは異なる。
6. 人々にとって、弟子たちにとって、イエスにとって、あなたにとって、幼な子は、どのような存在ですか。
- 不完全な存在。不完全さを知っていてときに応じて誰かに頼る。
 - 未来・将来の担うものたち
 - [DQ] あなたは、こどもたち、おさなごたちのために祈るとしたら、どのように祈りますか。

4.57.7 メモ

- 「離縁についての教え」と、「金持ちの男」の話に挟まれた、「子どもを祝福する」話。
 - － 「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」という男に対するイエスのいつくしみ
- マルコの思い出としてのイエス
 - － マルコもイエスに会ったことがあるのかもしれない。覚えていなくても、祝福してもらったよとか、もう少し大きくなっていたら、こどもをいつくしめたイエスを覚えているのではないだろうか。
- イエスはどのような祝福の祈りをしたのだろうか。
 - － このあとには、イエスの死があり、ステパノなどからのキリスト教会の迫害があり、AD70 には、エルサレム陥落、散り散りになってしまうときも来る。そのようなことを考えること自体が、この箇所からは離れてしまっているのかもしれない。イエスの祝福のいのりを、受け取りたい。
- こども、おさなごとは
 - － 14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。
 - － よくわからないが、離縁の正当化を考えたり、富のゆえに、イエスに従うことができなくなる、それは、幼子ではすでにないのだろう。考えさせられる。
- よいこどもとは
 - － おとなにとって都合の良いこどもがよい子どもではないだろう。しかし、往々にして、良い子だねと言われる子は、おとなにとって都合の良い子どもの場合が多い。おとなの願いをかなえるこどもがよ

いこどもだろうか。おそらく、そうでもないだろう。ましてや、おとなの悔しさを晴らす存在がよいこどもでもないはずだ。しかし、同時に、おとなにとって都合が良くないこどもは、手間がかかり、周囲のおとなを疲弊させる存在でもある。社会的養護のための、児童養護施設でも、こどもをどのような存在とみるかは、とても難しい。現実は厳しいからである。どうじに、どんなこどもが、良い子どもなのか。イエス様が、おさなごのように、神の国を受け入れるものでなければと言われる、こどもとは、どのような存在なのかと考えてしまう。

4.58 10:17-31 金持ちの男

17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」。18 イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。19 いましめはあなたの知っているとおりでである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』。20 すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」。21 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。22 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。

23 それから、イエスは見まわして、弟子たちに言われた、「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう」。24 弟子たちはこの言葉に驚き怪しんだ。イエスは更に言われた、「子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。26 すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるのだろうか」。27 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。

28 ペテロがイエスに言い出した、「ごらんなさい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました」。29 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、30 必ずその百倍を受ける。すなわち、今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。

4.58.1 マタイ 19:16-30

16 すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。17 イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいことはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。18 彼は言った、「どのいましめですか」。イエスは言われた、「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。19 父と母とを敬え』。また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』。20 この青年はイエスに言った、「それ

はみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」。21 イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。22 この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。

23 それからイエスは弟子たちに言われた、「よく聞きなさい。富んでいる者が天国にはいるのは、むずかしいものである。24 また、あなたがたに言うが、富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。25 弟子たちはこれを聞いて非常に驚いて言った、「では、だれが救われることができるのだらう」。26 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」。

27 そのとき、ペテロがイエスに答えて言った、「ごらんなさい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従いました。ついては、何がいただけるのでしょうか」。28 イエスは彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。世が改まって、人の子がその栄光の座につく時には、わたしに従ってきたあなたがたもまた、十二の位に座してイスラエルの十二の部族をさばくであらう。29 おおよそ、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、もしくは畑を捨てた者は、その幾倍もを受け、また永遠の生命を受けつぐであらう。30 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであらう。

4.58.2 ルカ 18:18-30

18 また、ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。19 イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。20 いましめはあなたの知っているとおりで、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』。21 すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。22 イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。23 彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。

24 イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであらう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。26 これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、27 イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

28 ペテロが言った、「ごらんなさい、わたしたちは自分のものを捨てて、あなたに従いました」。29 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでも神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子を捨てた者は、30 必ずこの時代ではその幾倍もを受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受けるのである」。

マルコによる福音書 10 章 17-31 節福音書対照表

4.59 10:17-22 金持ちの男（1）

17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」。18 イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。19 いましめはあなたの知っているとおりでである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』。20 すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」。21 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。22 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。

4.59.1 マタイ 19:16-22

16 すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。17 イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいことはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。18 彼は言った、「どのいましめですか」。イエスは言われた、「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。19 父と母とを敬え』。また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』。20 この青年はイエスに言った、「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」。21 イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。22 この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。

4.59.2 ルカ 18:18-23

18 また、ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。19 イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。20 いましめはあなたの知っているとおりでである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』。21 すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。22 イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。23 彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。

[マルコによる福音書 10 章 17-22 節福音書対照表](#)

4.59.3 問い

1. このことは、どのような背景のもとで起きましたか。
2. どのように、イエスに問うことから、はじまりますか。(17)
3. イエスは、どのように応答しますか。(18,19)
4. このひとの答えなどから、わかることをあげてみましょう。(20)
5. イエスは、どのようにこのひとに命じますか。(21)
6. このひとの求めていたものと、イエスが告げたこととは、どのような開きがあったのでしょうか。(22)

4.59.4 参照

- 弟子たちに語る後半が続く、マタイではこのあとに「ぶどう園の労働者」のたとえ(20:1-16)が挿入されている
- 十戒
 - － 出エジプト記 34 章 28 節モーセは主と共に、四十日四十夜、そこにいたが、パンも食わず、水も飲まなかった。そして彼は契約の言葉、十誡(聖書協会共同訳：十の言葉)を板の上に書いた。
 - － 出エジプト記 20 章 1-17 節 1 神はこのすべての言葉を語って言われた。2 「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。3 あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。4 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。5 それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものには、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし、6 わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。7 あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。8 安息日を覚えて、これを聖とせよ。9 六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。10 七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。11 主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。12 あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。13 あなたは殺してはならない。14 あなたは姦淫してはならない。15 あなたは盗んではならない。16 あなたは隣人について、偽証してはならない。17 あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない」。
 - － 申命記 5:1-21 17 あなたは殺してはならない。18 あなたは姦淫してはならない。19 あなたは盗んで

はならない。20 あなたは隣人について偽証してはならない。21 あなたは隣人の妻をむさぼってはならない。また隣人の家、畑、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをほしがってはならない

- エペソ 6:1-3 子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。2 「あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、3 「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。(約束を伴う戒め)
- ヒエロニムス『オリゲネスのマタイによる福音書注解ラテン語訳 (偽オリゲネス)』ヘブル人による、と称されるある福音書に、(もし少なくともこれを権威の書としてではなく、今の問題に光を投げかけるものとして受け取る注意を払うなら)、次のように記されている。そこで主は彼に言われた。あなたはどのようにして、律法と預言者を守ったと言うのか。律法には『隣人を自分のように愛せよ』と書かれている。しかも見よ、おおぜいのあなたの同胞、アブラハムの子たちが、汚れをまとい、飢え死にしそうなのに、あなたの屋敷は多くの良き物で満ちていて、そのうちから何一つ彼らの手に渡らないのだ。それから、かたわらに座していたシモンに振り向いて言われた。バル・ヨナ・シモン。富めるものが天国にはいるよりも、らくだが針の穴を通るほうがたやすい。(榊原康夫著『聖書講解 ルカの福音書』より)

4.59.5 記録

- 日時：2024 年 6 月 13 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.59.6 問いについて

1. このことは、どのような背景のもとで起きましたか。

- 離縁についてのパリサイ人の質問とイエスの答え、そして、弟子たちとの対話
 - 4b 「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、あなたがたのためにこの定めを書いたのである。6 しかし、天地創造の初めから、『神は人を男と女とに造られた。7 それゆえに、人はその父母を離れ、8 ふたりの者は一体となるべきである』。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。9 だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」。
- おさなごの祝福
 - 14b 神の国はこ（幼な子ら）のような者の国である。15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない
- 17 イエスが道に出て行かれると、
 - 家から出ていったように見える。

2. どのように、イエスに問うことから、はじまりますか。(17)

- 17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」。

- [DQ] このひとの様子はどのように描かれていますか。どのようなことを感じますか。

—「イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、」からは、特別な状態を感じる。ある程度若かったのではないか。(マタイでは青年)しかし、富を持ち、ルカでは「役人」としている。ある興奮状態も感じるが、ここを逃してはいけないという緊迫感、必死さも感じる。

- [DQ] イエスに何と呼びかけていますか。

—「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」△

* : 1) a teacher, 2) in the NT one who teaches concerning the things of God, and the duties of man, i) one who is fitted to teach, or thinks himself so, ii) the teachers of the Jewish religion, iii) of those who by their great power as teachers draw crowds around them i.e. John the Baptist, Jesus, iv) by preeminence used of Jesus by himself, as one who showed men the way of salvation, v) of the apostles, and of Paul, vi) of those who in the religious assemblies of the Christians, undertook the work of teaching, with the special assistance of the Holy Spirit, vii) of false teachers among Christians

* : 1) to receive a lot, receive by lot i) esp. to receive a part of an inheritance, receive as an inheritance, obtain by right of inheritance, ii) to be an heir, to inherit

- [DQ] 「永遠の生命を受ける（遺産として受ける）」とは、どのようなことを求めているのでしょうか。

— [Q] 永遠の命とはどのようなものと理解していたのでしょうか。

* 神の国にあずかるものに与えられるいのち。神様との交わり。

* ヨハネ前書 1:1-4 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について——2 このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである——3 すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。4 これを書きおくるのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるためである。

- [DQ] このひとは、何によって、永遠の命を受けることができと考えていたのでしょうか。

－ なにかをすることによって。

- [DQ] この節からは、この人についてどのようなことがわかりますか。

－ 「ひざまづく」は礼拝に近い。一般的な「教師（ラビ）」に対するよりも、特別なものと認識している可能性もある。「走り寄り」からも、とくべつな思いが見て取れる。

3. イエスは、どのように応答しますか。(18,19)

- 18 イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。19 いましめはあなたの知っているとおりでである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』」。

- マタイ 19:18,19 彼は言った、「どのいましめですか」。イエスは言われた、「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。19 父と母とを敬え』。また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』」。(レビ 19:18 を加えている。)

- ルカ 18:20 いましめはあなたの知っているとおりでである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』」。

- [DQ] 「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。」は、なにを気づかせようとしているのでしょうか。

－ 出鼻をくじいているようにも見える。

－ 師を見る（興奮する）のではなく、神をみななければならない。

－ バークレイ：とどまって感がえなさい。あたなは全く興奮しており、また感情が高ぶっている。わたしは、あなたが興奮して、わたしのところに来るのを好まない。あなたのしていることを冷静に考えなさい。わたしに対する感傷的な情熱ではクリスチャンになれない。神を見なければならない。

- [DQ] 『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』この戒めを混燃えれば、永遠のいのちがえられるのでしょうか。

－ 通常は、父と母を敬えのほうが最初に来る。ここでは、最後になっている。マルコ 7:9-13 との関連で、特別なものとしたのか、それとも、すでに、財産を相続していたことを知っていたのかもしれない。

- [DQ] イエスは、なにを気づかせようとしているのでしょうか。

4. このひとの答えなどから、わかることをあげてみましょう。(20)

- 20 すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」。

－ ピリピ 3:6 熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。

- マタイ 19:20：「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」
- 「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え」をずっと守ってきた。
- [DQ] これらは、どのような教えですか。
 - 十戒からとったと思われるが、父と母を敬え以外は、何かをするなという禁止命令。守ってきたは、悪いことはしていないということか。
- このひとの応答を見る限りにおいて、永遠の命をえることができそうであることに鍵があるのだろう。

5. イエスは、どのようにこのひとに命じますか。(21)

- 21 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。
- マタイ 19:21 イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。
- ルカ 18:22 イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。
- [DQ] イエスは、なにが足りないと言っているのでしょうか。
 - 「あなたにたりないことが一つある。」と言っているが、そこで、示しているのは、「帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。」である。しかし、それが、難しいことは、イエスもおそらく知っていただろう。
 - 続けて「そうすれば、天に宝を持つようになろう。」と言っている。まず、よき師よから、神様に目を向けるように指し示されたように、ここでも、指し示されているのは、天に（神様のもとに）宝を持つことなのだろう。どうしたら、神様のみこころのように生きられるか。み心を生きることができるか。
 - さらに、「そして、わたしに従ってきなさい」と言っている。このときに、イエスに従っているものは多くないだろう。そして、エルサレムに向かっている。イエスに従うということは、このような道であることを示して入るだろう。このときには、応答できなくても、後には、そのように、ある程度できたかもしれない。イエスは、その先をもみて、慈しんで（
）言われたのではないだろうか。
 - 足りないというより、たいせつなことを教えておられるのだろう。最後のレッスンとして。
- [DQ] マタイやルカとも比較してみましょう。

- － マタイ 19:19b また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』が挟まっている。
 - － ルカ 18:22b あなたのする事がまだ一つ残っている。
 - [DQ] イエスが伝えていることは何なのでしょう。
 - － バークレイ：因襲道德のこだわりから抜け出さない。善とは、なにかをなすことによって成り立っていないと考えるのはやめなさい。あなた自身の持ち物のすべてを他の人々のために、用いなさい。するとこの世においても、また永遠にいたるまで、真の幸せを見出すであろう。
6. このひとの求めていたものと、イエスが告げたこととは、どのような開きがあったのでしょうか。(22)
- 22 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。
 - 明らかに、このひとにそれはできなかった。なにをすればの答えを聞くと、それは、できないことだった。
 - [DQ] このひとが、永遠の命を受け継ぐにはどうしたらよいのでしょうか。

4.59.7 メモ

- 三回に分けるか、二回に分けるか：17-22 と 23-26, 27-31
- 「慈しんで」はなにを意味するのだろうか。
- 最初から「イエスに従いたい」とは言っていない。
- 場所は不明だが、家をカペナウムのペテロの家（カペナウムを本拠地とし、しばしば十二弟子とそこに泊まったとすると、ペテロの家ではないかもしれない。定宿があったのかもしれない。ゼベダイの子ヤコブとヨハネもこのあたりの出身で、網元でも会ったようにみえるから）だとすると、イエスは、このひとを以前から知っていたかもしれない。この熱心さにも、危うさもふくめて、このひとについて、知っていたのかもしれない。ときは、イエスが、エルサレムに向かっている特別なときである。そして、おそらく、十二弟子以外は（多少の女性はいたかもしれないが）離れ去ったときであることも、加味すべきだろう。このひとの願いも、最後の願い、イエスにとっても、最後の授業として教えたのではないだろうか。慈しみの眼差しは、もっと長い目で見た、イエスの愛なのかもしれない。一般論として、このときだけに限って、無理に解釈することには、注意すべきである。
- 以前のマタイによる福音書からの学びに「この人が持ち物を売り払い、貧しい人々に施すとどうなったと思いますか。」という問いがあったが、これも、興味深い問である。単純に、貧しくなった、貧しい人々の気持ちがわかるようになったかなど、どうなったかもあるだろう。しかし、ここで終わらず、イエスは、わたしに従ってきなさいと言っている、その部分がより際立つのかもしれないと思う。

4.60 10:23-31 金持ちの男（2）

23 それから、イエスは見まわして、弟子たちに言われた、「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう」。24 弟子たちはこの言葉に驚き怪しんだ。イエスは更に言われた、「子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。26 すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるのだろう」。27 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。

28 ペテロがイエスに言い出した、「ごらんなさい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました」。29 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、30 必ずその百倍を受ける。すなわち、今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。

4.60.1 マタイ 19:23-30

23 それからイエスは弟子たちに言われた、「よく聞きなさい。富んでいる者が天国にはいるのは、むずかしいものである。24 また、あなたがたに言うが、富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。25 弟子たちはこれを聞いて非常に驚いて言った、「では、だれが救われることができるのだろう」。26 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」。

27 そのとき、ペテロがイエスに答えて言った、「ごらんなさい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従いました。ついては、何がいただけるでしょうか」。28 イエスは彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。世が改まって、人の子がその栄光の座につく時には、わたしに従ってきたあなたがたもまた、十二の位に座してイスラエルの十二の部族をさばくであろう。29 おおよそ、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、もしくは畑を捨てた者は、その幾倍もを受け、また永遠の生命を受けつぐであろう。30 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。

4.60.2 ルカ 18:24-30

24 イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。26 これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、27 イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

28 ペテロが言った、「ごらんなさい、わたしたちは自分のものを捨てて、あなたに従いました」。29 イエ

スは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでも神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子を捨てた者は、30 必ずこの時代ではその幾倍もを受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受けるのである」。

マルコによる福音書 10 章 23-31 節福音書対照表

4.60.3 問い

1. 背景と、前半部分（13 節から 22 節）を復習しましょう。どのようなことがありましたか。
2. イエスは、誰にむかってどのように語っていますか。その反応はどのようなものでしたか。（23,24a）
3. 神の国にはいることについて、イエスはどのように語っていますか。（24b-27）
4. ペテロはどのようにイエスに言い、それにイエスはどうか答えますか。（28-31）
5. 「多くの先の者はあとになり、あとの者は先になる」は、なにを教えているのでしょうか。（31）
6. あなたは、神の国について、永遠の命について何を学び、どのように考えますか。（10:14,15,17 参照）

4.60.4 参照

- マタイではこのあとに「ぶどう園の労働者」のたとえ（20:1-16）が挿入されている

4.60.5 記録

- 日時：2024 年 6 月 27 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.60.6 問いについて

1. 背景と、前半部分（13 節から 22 節）を復習しましょう。どのようなことがありましたか。
 - 10 章は、離縁についてからはじまり、幼な子の祝福の記事が続き、金持ちの男の話につながっている。
 - 22 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。
 - [DQ] イエスと弟子たちはどのような眼差しでこのひとを見送っただろうか。
 - ー おそらく、しばらく、ずっと見ていたのではないだろうか。とても、印象的な姿だが、もしかすると、このひとほどはっきりはしていなくても、そのような姿を、イエスも、弟子たちも何回も見ていたかもしれない。

- － イエスはこの人に何を伝えようとしたのだろうか。それは、伝わったのだろうか。
- － ルカには、立ち去ったという記述はない。「23 彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であつたからである。」

2. イエスは、誰にむかってどのように語っていますか。その反応はどのようなものでしたか。(23,24a)

- 23 それから、イエスは見まわして、弟子たちに言われた、「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう」。24 弟子たちはこの言葉に驚き怪しんだ。
- [DQ] 弟子たちは、なぜ驚き怪しんだのでしょうか。
 - － 参照：26 すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるのだろう」。
- [DQ] 財産・富は、神様の祝福の証ではないのでしょうか。(因果応報)
 - － 詩篇 37:25 わたしは、むかし年若かった時も、年老いた今も、／正しい人が捨てられ、あるいはその子孫が／食物を請いあるくのを見たことがない。
- [DQ] 財産のある者が神の国にはいるのがむずかしいのはなぜでしょうか。
 - － 財産（：a thing, a matter, affair, event, business, spec. money, riches）Mark 10:23,24, Luke 18:24
 - － アリストテレス（BC384-322）貨幣制度によってその価値が評価されるすべてのもの。
 - － [A] パークレイ：物質的な所有物は、人の心をこの世に固定させる。金銭で買えるものの価値がすべてになる。富はひとを傲慢にする。大きな責任を負う。

3. 神の国にはいることについて、イエスはどのように語っていますか。(24b-27)

- 24b イエスは更に言われた、「子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。26 すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるのだろう」。27 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。
- 「それでは、だれが救われることができるのだろう」。は、インパクトを与えている。
- [DQ] なぜ彼らは「それでは、だれが救われることができるのだろう」。と言ったのでしょうか。
 - － 幼な子・金持ちの対比もある。当時の感覚か。
- [DQ] 人にできないことに重点があるのだろうか、それとも、神にできることに重点があるのだろうか。

- － ひとにできないところが、重要なかもしれない。ひとは、それを悟り、神により頼み、かつ、神に求めて生きることが教えられているのだろうか。

4. ペテロはどのようにイエスに言い、それにイエスはどのように答えますか。(28-30)

- 28 ペテロがイエスに言い出した、「ごらんささい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました」。29 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、30 必ずその百倍を受ける。すなわち、今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。
 - － 父だけ抜けている。単純に、「家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑」は、不要というわけではなく、捨てればよいものではなく、同種類のものを受けると言っている。
- [参考] マタイでは、19:27b,28 「ついては、何がいただけるでしょうか」。28 イエスは彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。世が改まって、人の子がその栄光の座につく時には、わたしに従ってきたあなたがたもまた、十二の位に座してイスラエルの十二の部族をさばくであろう。」が、挿入されている。
 - － 「ついては、何がいただけるでしょうか」は、浅ましいとも言えるが、自然でもある。
- [DQ] イエスは、どのような「約束?」「預言」をしていますか。必ずそうなるのでしょうか。
- [DQ] 「福音のために捨てる」とはどのようなことを意味しているのでしょうか。
 - － マタイでは「29b わたしの名のため」
 - － ルカでは「29b 神の国のために」
- [DQ] 「だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は」どうなると言っていますか。「百倍」の内容は？
 - － [Q] 「今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け」とはどのような意味だろうか。
 - － [Q] 「きたるべき世では永遠の生命を受ける」とはどのような意味だろうか。
- [DQ] 「受ける」のは、いつのことでしょうか。
 - － 30b すなわち、今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。
 - － マタイ：世が改まって、人の子がその栄光の座につく時
 - － ルカ：30 必ずこの時代ではその幾倍もを受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受けるのである」。

5. 「多くの先の者はあとになり、あとの者は先になる」は、なにを教えているのでしょうか。(31)

- 31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう。
- [DQ] 弟子たちに伝えたかったことは何なののでしょうか。
- マタイでは、ぶどう園の労働者のたとえがつづき、最後に、また、この言葉が続いている。すなわち、この言葉の説明として、たとえを挿入しているようにみえる。
- [DQ] だれが、先のもので、誰があとのものなののでしょうか。弟子たちは、先のものでしょうか、あとのものなのでしょうか。
 - － 富めるものと貧しいもの、 イスラエルと異邦人、 敬虔さを誇ったパリサイ人と罪人や取税人、弟子たちとほかの人達、富めるものも加わるかもしれない。
 - * イエスは更に言われた、「子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。
 - * 27 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。
 - * この二つのことばにすべてがあるのかもしれない。

6. あなたは、神の国について、永遠の命について何を学び、どのように考えますか。(10:14,15,17 参照)

- 10:14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。
- 17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいのでしょうか」。
- [DQ] 幼な子と金持ちの人とはなにが違うのでしょうか。
- [DQ] 金持ちの人は、全財産を施せば、永遠のいのちを得ることができたのでしょうか。
 - － おそらくそうではないだろう。「そして、わたしに従ってきなさい」ともついている。このことは、一つに過ぎないだろう。イエスに、したがって学ぶことがある。しかし、本当にそうだろうか。イエスは、もうすぐ、死なれる。

4.60.7 メモ

- 「21 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、

わたしに従ってきなさい」。22 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。」のあとどうなったかが、やはり気になる。それは、私だけではなく、イエス様もそうなのだろう。神様に委ねることは、勇気のいることである。そして、かならず、このひとが、神様の御心を知るに至るかどうかはわからない。それが、イエス様の「24b 子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」にあらわれているように見える。「21 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた」のイエス様のいつくしみの深さとともに、み心に生きることの難しさを感じる。このゆらぎ（Noise）だろうかをどう考えたらよいのだろうか。幸せに生きることは、永遠の命をもって生きることは難しい。

- 28 ペテロがイエスに言い出した、「ごらん下さい（ ）、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました」。
 - － ペテロにとっては、これが彼の全てだったのだろう。その意味で、正直で、幼な子のような存在だとも言える。しかし、リーダー、弟子としては、それだけでは不十分なのだろう。
 - － マルコ 1:16-18 さて、イエスはガリラヤの海べを歩いて行かれ、シモンとシモンの兄弟アンデレとが、海で網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。17 イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。18 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。
 - － もっとほかに言うことはないのとも感じるが、これがペテロの富・財産の全てだったのだろう。それは、やはり素晴らしい。わたしには、いえないことのように思う。
- 教義としてとらえるのではなく、イエスが、伝えようとしたこと、弟子たちが、受け取ったことをまずは、理解したい。それは何なのだろう。
 - － イエスは、弟子たちになにを伝えたかったのだろうか。弟子たちは、なにを受け取ったのだろうか。
- わたしたちは、救われるかどうか、神の国に入るかどうか、永遠の命を持つかどうかの二者択一のようなことを考えるが、イエス様にとっては、神様の御意を行う、そのように生きることがすべてなのかもしれない。
- このあとに、マタイでは、ぶどう園の労働者の話が続き、その最後にも、「このように、あとの者は先になり、先の者はあとになるであろう」（20 章 16 節）がある。最初に弟子になったペテロは、朝 6 時に雇われた労働者なのかもしれない。そして、アリマタヤのヨセフのように、ニコデモのように、最後にあらわれた人もいる。じっくり考えたい課題である。
 - － 20:9 そこで、五時ごろに雇われた人々がきて、それぞれ一デナリずつもらった。10 ところが、最初の人々がきて、もっと多くもらえるだろうと思っていたのに、彼らも一デナリずつもらっただけであった。11 もらったとき、家の主人にむかって不平をもらして 12 言った、『この最後の者たちは一時間しか働かなかったのに、あなたは一日じゅう、労苦と暑さを辛抱したわたしたちと同じ扱いをなさいました』。13 そこで彼はそのひとりに答えて言った、『友よ、わたしはあなたに対して不正をしてはいない。あなたはわたしと一デナリの約束をしたではないか。14 自分の賃銀をもらって行きなさい。わたしは、この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ。15 自分の物を自分がしたいようにするのは、当たり前ではないか。それともわたしが気前よくしているので、ねたましく思うのか』。
 - － マルコ 15:43 アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願っ

た。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。マタイ 27:57 夕方になってから、アリマタヤの金持で、ヨセフという名の人 came。彼もまたイエスの弟子であった。ルカ 23:51 この人はユダヤの町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会の議決や行動には賛成していなかった。

- ー ヨハネ 19:38 そののち、ユダヤ人をはばかり、ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。39 また、前に、夜、イエスのみもとに行ったニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた。

4.61 10:32-34 イエス、三度自分の死と復活を予告する

32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

4.61.1 マタイ 20:17-19

17 さて、イエスはエルサレムへ上るとき、十二弟子をひそかに呼びよせ、その途中で彼らに言われた、18 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に渡されるであろう。彼らは彼に死刑を宣告し、19 そして彼をあざけり、むち打ち、十字架につけさせるために、異邦人に引きわたすであろう。そして彼は三日目によみがえるであろう」。

4.61.2 ルカ 18:31-34

31 イエスは十二弟子を呼び寄せて言われた、「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子について預言者たちがしるしたことは、すべて成就するであろう。32 人の子は異邦人に引きわたされ、あざけられ、はずかしめを受け、つばきをかけられ、33 また、むち打たれてから、ついに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。34 弟子たちには、これらのことが何一つわからなかった。この言葉が彼らに隠されていたので、イエスの言われた事が理解できなかった。

[マルコによる福音書 10 章 32-34 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 10 章 32-34 節福音書対照表（参照付）](#)

4.61.3 問い

1. 背景を復習しましょう。どこから、どこに向かっていますか。(8:31, 9:30-33, 10:1)
2. イエスの様子についてどのように描かれていますか。(32)
3. 弟子たちは、なぜ、驚き、恐れ、イエスは、なぜ、自分の身に起ろうとすることについて語ったのでしょうか。(32)
4. 一回目(8:31)、二回目(9:31)と比較して、共通のことと、新しいことを挙げてみましょう。(33,34)
5. 少しずつ詳しくなっているように見えますが、それは、何を意味しているのでしょうか。
6. 弟子たちは、どのように、イエスの言葉を、受け取ったと思いますか。

4.61.4 参照

- イエス一行の同行者

- マルコ 15:40,41 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。

- マタイ 27:55,56 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。

- ルカ 23:55,56 イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだが納められる様子を見とどけた。56 そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ。

- * ルカ 24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

- 参考：最初の頃の同行者ルカ 8:1-3 そののちイエスは、神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられたが、十二弟子もお供をした。2 また悪霊を追い出され病気をいやされた数名の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、3 ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。

- 死と復活の予告：

- 8:27-30 さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられたが、その途中で、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は、わたしをだれと言っているか」。28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言ひ、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。30 するとイエスは、自分のことをだれにも言ってはいけないと、彼らを戒められた。
- 8:31-37 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32 しかもあからさまに、この事を話された。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失ひ、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。
- 9:30-32 30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。
- 10:32-34 32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。
- ルカでは七回目：5:35、9:22、44、12:50、13:32、17:25、18:31-34
 - 5:35 しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう」。(マルコ 2:20、マタイ 9:15)
 - 9:22 「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日目によみがえる」。(一回目、マルコ 8:31、マタイ 16:21)
 - 9:44 「あなたがたはこの言葉を耳におさめて置きなさい。人の子は人々の手に渡されようとしている」。(二回目、マルコ 9:31,32、マタイ 16:21)
 - 12:50 しかし、わたしには受けねばならないバプテスマがある。そして、それを受けてしまうまでは、わたしはどんなにか苦しい思いをすることであろう。

- 13:32 そこで彼らに言われた、「あのきつねのところへ行ってこう言え、『見よ、わたしはきょうもあすも悪霊を追い出し、また、病気をいやし、そして三日目にわざを終えるであろう。(三回目、マルコ 10:33,34、マタイ 20:18,19)』
- 17:25 しかし、彼はまず多くの苦しみを受け、またこの時代の人々に捨てられねばならない。
- 18:32-33 32 人の子は異邦人に引きわたされ、あざけられ、はずかしめを受け、つばきをかけられ、33 また、むち打たれてから、ついに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。

4.61.5 記録

- 日時：2024 年 6 月 27 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）0 名

4.61.6 問いについて

1. 背景を復習しましょう。どこから、どこに向かっていますか。(8:31, 9:30-33, 10:1)

- [DQ] マルコが受難告知について記している一回目、二回目のときは、どのようなときですか。
- 31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。

2. イエスの様子についてどのように描かれていますか。(32)

- 32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、
- [DQ] 「一同」「彼ら」「従う者たち」とは誰でしょうか。
 - 彼らは、単に、一同を受けたものであろうが、イエスが先頭に立っていかれたので、つぎに、いくつかの意味をこめて、従うものたちと言っているように思える。
- [DQ] イエスと、弟子たち以外にもいたとすると、それは、どんなグループで、何を目的にして、エルサレムに向かっていたのでしょか。
 - 過越のまつり：GPT-4o イエスの時代の過越の祭りは、宗教的な意味合いが非常に強く、エルサレムで盛大に祝われました。家庭でのセーデルの食事、神殿での儀式、そしてエルサレムへの巡礼が中心となり人々はこれらの行事を通じてエジプト脱出の出来事を記憶し、神への感謝と信仰を新たにしました。[\[リンク\]](#)
- [DQ] イエスは、なぜ、先頭に立って行かれたのでしょうか。

－ 先頭と、後ろからまたは、真ん中にいてついていくのどう違うのだろうか。

－ 先頭は、おそらく、ひとり、孤独。

3. 弟子たちは、なぜ、驚き、恐れ、イエスは、なぜ、自分の身に起ろうとすることについて語ったのでしょうか。(32)

- 32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、

- [DQ] なぜ、驚き怪しみ、おそれたのでしょうか。

－ 驚き怪しみ (: i) to be astonished, ii) to astonish, terrify) Mark 1:27, 10:24, 10:32, Acts 9:6

－ 恐れる (: i) to put to flight by terrifying (to scare away))

－ イエスと一緒に受難にあうことを恐れたのでしょうか。

－ ルカ 19:11 人々がこれらの言葉を聞いているときに、イエスはなお一つの譬をお話しになった。それはエルサレムに近づいてこられたし、また人々が神の国はたちまち現れると思っていたためである。

- [DQ] だれに、自分の身に起ろうとすることについて語っていますか。

－ ここでも、「するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、」とあり、十二弟子にのみ、話していたように見える。

－ マタイでは「17 さて、イエスはエルサレムへ上るとき、十二弟子をひそかに呼びよせ、その途中で彼らに言われた、」とある。

4. 一回目 (8:31)、二回目 (9:31) と比較して、共通のことと、新しいことを挙げてみましょう。(33,34)

- 8:31-3a それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32 しかもあからさまに、この事を話された。

- 9:31-32 30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まなかった。31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。

- 33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、

つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

- 二回目には、「人々の手にわたされ」が加わっている。
- 三回目には、「彼ら（祭司長、律法学者たち）が死刑を宣告」「異邦人に引きわたす」「あざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう」が加わっている。
 - － サンヘドリンの決定、ローマ人に引き渡す。主体は、祭司長、律法学者
 - － あざけり、つばきをかけ、鞭打ち、殺してしまう。主体は、祭司長、律法学者
 - － イエスがされることなく、彼らがすることとして書かれている。
- イザヤ 50:6 わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ、／わたしのひげを抜く者に、わたしのほおをまかせ、／恥とつばきとを避けるために、／顔をかくさなかった。
- 詩篇 22:7 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、／くちびるを突き出し、かしらを振り動かして言う、
- 弟子たちは登場しない。

5. 少しずつ詳しくなっているように見えますが、それは、何を意味しているのでしょうか。

- [DQ] なぜ、少しずつ変化しているのでしょうか。
 - － 順々に詳しくなっていくが、これは、イエスが意図的に、小出しにしたのだろうか。イエス自身がすこしずつ確信したことを伝えているのだろうか。それとも、弟子たちが受け取ったことが、少しずつ詳しくなっていくのでしょうか。
 - － 上に書いた、どれかは、定かではないし、全てかもしれないが、マルコは、このことを明らかに意識して記述している。

6. 弟子たちは、どのように、イエスの言葉を、受け取ったと思いますか。

- 一回目は、ペテロがいさめる。
 - － 8:32b すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。
- 二回目は、尋ねるのを恐れていた。
 - － 9:32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。
- 三回目は、イエスの行動に、「驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。」

- 10:32a さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。
- 以前とは、明らかにことなるものを感じたのだろう。決然としていたのか、鬼家が宿っていたのか。
- ルカでは、ペテロのことばへの応答に続けて言われているようにも取れる。イエスは、福音のため、神の国のために、捨てることの例示なのだろうか。
- ルカには、ゼベダイの子らの願いは記されず、以下の言葉で終わっている。ルカ 18:34 弟子たちには、これらのことが何一つわからなかった。この言葉が彼らに隠されていたので、イエスの言われた事が理解できなかった。

4.61.7 メモ

- イエスと弟子たちについて考えた。イエスは、なぜ弟子たちを呼び寄せ（マタイでは密かに呼び寄せ）語ったのだろうか。自ら、確信を得ていたことは確かだろうが、弟子と共有し、共に、そこに向かっていくことを意識し、そのときには、驚かないように、そして、イエスが十字架を負うように、それぞれが自分の十字架を負う、その模範となるためだろうか。
- 8:34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

4.62 10:35-45 ヤコブとヨハネの願い

35 さて、ゼベダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちが頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いします」。36 イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。37 すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっている。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。39 彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。40 しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである」。41 十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことで憤慨し出した。42 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あな

たがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、44 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

4.62.1 マタイ 20:20-28

20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かを願った。21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはおあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください」。22 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。23 イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになる。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである」。24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。25 そこで、イエスは彼らと呼ばせて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

マルコによる福音書 10 章 35-45 節福音書対照表

4.62.2 問い

1. このことは、どのような背景のもとで起きましたか。
2. ゼベダイの子ヤコブとヨハネはなにをイエスに願いますか。(35-37)
3. イエスはどのように応答しますか。(38-40)
4. 他の弟子たちは、どのように反応しますか。それは、なぜでしょう。(41)
5. イエスは、何を、どのように教えますか。(42-44)
6. 人の子が来た目的についてどのように語りますか。(45)

4.62.3 参照

- 同行者についての記述

— マルコ 15:40,41 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコ

ブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。

* マタイ 27:55,56 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。

－ マルコ 16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。

* ルカ 23:55,56 イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだが納められる様子を見とどけた。56 そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ。

* ルカ 24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

* マタイ 28:1 さて、安息日が終って、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。

* ヨハネ 20:1 さて、一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。

－ ヨハネ 19:25-27 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。26 イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。27 それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。

● さかずき

－ 詩篇 23:4,5 たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、／わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。5 あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、／わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。

－ 詩篇 75:8 主の手には杯があって、／よく混ぜた酒があわだっている。主がこれを注ぎ出されると、／地のすべての悪しき者は／これを一滴も残さずに飲みつくすであろう。

－ イザヤ 51:17-23 17 エルサレムよ、起きよ、起きよ、立て。あなたはさきに主の手から憤りの杯をうけて飲み、／よろめかす大杯を、滓までも飲みほした。

－ エレミヤ 25:15-28 15 イスラエルの神、主はわたしにこう仰せられた、「わたしの手から、この怒りの杯を受けて、わたしがあなたをつかわす国々の民に飲ませなさい。

－ 神の怒りのさかずき（その他）

* エレミヤ 25:15-28、49:12、51:7、哀歌 4:21,22、エゼキエル 23:31-34、ハバクク 2:16、ゼカリヤ 12:2

- バプテスマ：溺れさせられた ((N-ASN: immersion, submersion 1) of calamities and afflictions with which one is quite overwhelmed, 2) of John's, 3) of Christian) ((V-PPI-1S): 1) to dip repeatedly, to immerse, to submerge (of vessels sunk), 2) to cleanse by dipping or submerging, to wash, to make clean with water, to wash one's self, bathe, 3) to overwhelm) (V-APN)

－ 詩篇 42:7 あなたの大滝の響きによって淵々呼びこたえ、／あなたの波、あなたの大波は／ことごとくわたしの上を越えていった。

－ 詩篇 124:4,5 また大水はわれらを押し流し、／激流はわれらの上を越え、5 さか巻く水はわれらの上を越えたであろう。

－ バークレイ：あなたがたは、わたしが通り抜けなければならないような、恐ろしい経験を堪え抜くことができるのか。あなたがたは、わたしが出会わなければならないような憎しみ、苦痛、死に沈むことに直面できるのか。

- ヤコブの殉教とヨハネの配流

－ ヨハネ、ペテロとともにむち打ち：使徒 4:3、彼らに手をかけて捕え、はや日が暮れていたのも、翌朝まで留置しておいた。（4章の記述から、「彼ら」は、ペテロとヨハネ）

－ パトモス島黙示録 1:9 あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。

－ ヤコブの死：使徒 12:1-3、そのころ、ヘロデ王は教会のある者たちに圧迫の手をのぼし、2 ヨハネの兄弟ヤコブをつるぎで切り殺した。3 そして、それがユダヤ人たちの意にかなったのを見て、さらにペテロをも捕えにかかった。それは除酵祭の時のことであった。

- あがない (ransom - : 1) the price for redeeming, ransom, a. paid for slaves, captives, b. for the ransom of life, 2) to liberate many from misery and the penalty of their sins. は、マタイ 20:28、マルコ 10:45 のみ。七十人訳では、以下のヘブル語の訳として使われる。: price of a life, ransom, bribe, asphalt, pitch (as a covering), the henna plant, name of a plant (henna?), village. 1 kindred, redemption, right of redemption, price of redemption, (kin, kindred, redemption, right of redemption, price of redemption, redemption price)) : a releasing effected by payment of ransom a. redemption, deliverance, b. liberation procured by the payment of a ransom

－ 共観福音書では、このみ

* マルコ 10:45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

* マタイ 20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

ー ルカ 1:67-79 ザカリヤの預言

* 67 父ザカリヤは聖霊に満たされ、預言して言った、68 「主なるイスラエルの神は、ほむべきかな。神はその民を顧みてこれをあがない、69 わたしたちのために救の角を／僕ダビデの家にお立てになった。

ー 使徒 20:28 どうか、あなたがた自身に気をつけ、また、すべての群れに気をくばっていただきたい。聖霊は、神が御子の血であがない取られた神の教会を牧させるために、あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである。

ー パウロ書簡

* ローマ 3:24,25 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、

* コリント前書 1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。

* ガラテヤ 3:13 キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。

* ガラテヤ 4:5 それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。

ー パウロ由来文書

* エペソ 1:7 わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。

* エペソ 1:14 この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。

* エペソ 4:30 神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。

* コロサイ 1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

- * テモテ前書 2:6 彼は、すべての人のあがないとしてご自身をささげられたが、それは、定められた時になされたあかしのほかならない。
- * テトス 2:14 このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。

－ その他の新約文書

- * ヘブル 9:12 かつ、やぎと子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである。
- * ヘブル 11:35 女たちは、その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。
- * ペテロ前書 1:18 あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、
- * ヨハネ前書 2:2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。
- * ヨハネ前書 4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。
- * 黙示録 5:9 彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、

－ 旧約聖書多数

- * レビ 16:34 これはあなたがたの永久に守るべき定めであって、イスラエルの人々のもろもろの罪のために、年に一度あがないをするものである」。彼は主がモーセに命じられたとおりにおこなった。
- * 申命記 7:8 ただ主があなたがたを愛し、またあなたがたの先祖に誓われた誓いを守ろうとして、主は強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手から、あがない出されたのである。(9:26, 15:15)
- * 歴代誌上 17:21 また地上のどの国民が、あなたの民イスラエルのものでありましょうか。これは神が行って、自分のためにあがなって民とし、エジプトからあなたがあがない出されたあなたの民の前から国々の民を追い払い、大いなる恐るべき事を行って、名を得られたものではありませんか。

- * 詩篇 19:14 わが岩、わがあがないぬしなる主よ、／どうか、わたしの口の言葉と、／心の思いが／あなたの前に喜ばれますように。
- * 詩篇 25:22 神よ、イスラエルをあがない、／すべての悩みから救いだしてください。
- * 詩篇 111:9 主はその民にあがないを施し、／その契約をとこしえに立てられた。そのみ名は聖にして、おそれおおい。
- * 詩篇 130:7 イスラエルよ、主によって望みをいだけ。主には、いつくしみがあり、／また豊かなあがないがあるからです。
- * イザヤ 44:23,24 天よ、歌え、主がこの事をなされたから。地の深き所よ、呼ばわれ。もろもろの山よ、林およびその中のもろもろの木よ、／声を放って歌え。主はヤコブをあがない、／イスラエルのうちに栄光をあらわされたから。24 あなたをあがない、／あなたを胎内に造られた主はこう言われる、／「わたしは主である。わたしはよろずの物を造り、／ただわたしだけが天をのべ、地をひらき、／——だれがわたしと共にいたか——
- * イザヤ 48:7 イスラエルのあがない主、／イスラエルの聖者なる主は、／人に侮られる者、民に忌みきらわれる者、／つかさたちのしもべにむかってこう言われる、／「もろもろの王は見て、立ちあがり、／もろもろの君は立って、拝する。これは真実なる主、イスラエルの聖者が、／あなたを選ばれたゆえである」。
- * エレミヤ 31:11 すなわち主はヤコブをあがない、／彼らよりも強い者の手から彼を救いだされた。
- * ミカ 6:4 わたしはエジプトの国からあなたを導きのぼり、／奴隷の家からあなたをあがない出し、／モーセ、アロンおよびミリアムをつかわして、／あなたに先だたせた。
- * イザヤ 63:9 彼らのすべての悩みのとき、主も悩まれて、／そのみ前の使をもって彼らを救い、／その愛とあわれみとによって彼らをあがない、／いにしえの日、つねに彼らをもたげ、／彼らを携えられた。

4.62.4 記録

- 日時：2024 年 7 月 11 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）0 名

4.62.5 問いについて

1. このことは、どのような背景のもとで起きましたか。
 - 三度目の受難告知の直後。

- [DQ] 一度目、二度目の受難告知のあとには、どのようなことが書かれていましたか。
 - － 一度目の受難告知（8:31）の直後：ペテロが、いさめる。（8:32）「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」（8:34）
 - － 二度目の受難告知（9:31）の直後：だれが一ばん偉いかと、互に論じ合っていた（9:34）「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない。」（9:35）
 - － 三度目の受難告知（10:33）の直後にこのエピソードがある。

2. ゼベダイの子ヤコブとヨハネはなにをイエスに願いますか。（35-37）

- 35 さて、ゼベダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いします」。36 イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。37 すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。
- [DQ] ゼベダイの子ヤコブとヨハネについて知っていることを上げてみましょう。どのような人たちですか。
 - － 1:19,20 19 また少し進んで行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。20 そこで、すぐ彼らをお招きになると、父ゼベダイを雇人たちと一緒に舟において、イエスのあとについて行った。
 - － 1:29,31 それから会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨハネとを連れて、シモンとアンデレとの家にはいって行かれた。30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床についていたので、人々はさっそく、そのことをイエスに知らせた。31 イエスは近寄り、その手をとって起されると、熱が引き、女は彼らをもてなした。
 - － 3:17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。
 - － 5:35-37 イエスが、まだ話しておられるうちに、会堂司の家から人々がきて言った、「あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及ばすまい」。36 イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。37 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。
 - － 9:2,3 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、3 その衣は真白く輝き、どんな布さらしでも、それほどに白くすることはできないくらいになった。
 - － 9:38 ヨハネがイエスに言った、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかったのです、やめさせま

した」。

－ 13:3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかに尋ねした。

－ 14:33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。

• [DQ] どのように描かれていますか。

－ 「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いします」。

－ [Q] なぜ、このように頼んだのでしょうか。

• [DQ] マタイにはどのように書かれていますか。

－ 20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かをお願いした。21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはおあなたの右に、ひところは左にすわれるように、お言葉をください」。

－ ゼベダイの子らとせず、ゼベダイの子らの母としたのは、一般的には、ここに書かれている願いは、使徒には、ふさわしくないと考えたからだろうと思われる。

• [DQ] マタイでは、ゼベダイの子らの母が、ゼベダイの子らとともに来て願ったことが書かれていますが、ゼベダイの子らの母も一緒に居たのでしょうか。

－ マルコ 15:40,41 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。

－ マタイ 27:55,56 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。

－ ヨハネ 19:25-27 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。26 イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。27 それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。

－ この2つの記事を同じ場所の表現とすると、マグダラのマリアは同じ表現、小ヤコブとヨセの母マリアは、ヤコブとヨセフの母マリアと同一で、それは、イエスの母、サロメは、ゼベダイの子

たちの母で、母の姉妹となる。クロパの妻マリアは、クレオパ（ルカ 24:18）の妻ではないかとの説がある。

- [DQ] なぜこのようなことを願ったのでしょうか。「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」

3. イエスはどのように応答しますか。(38-40)

- 38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。39 彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。40 しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである」。

- [DQ] なぜ、イエスは、怒らなかったのでしょうか。

－ 肯定しているようにも、見える。ヤコブや、ヨハネが、自分の十字架を負うことのたいへんさを思い「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。」と言ったのかもしれない。

- [DQ] 「イエスが飲む杯を飲む」とは「イエスが受けるバプテスマを受ける」とは、どのようなことを意味しているのでしょうか。

－ 苦しむことだろうか。

- [DQ] 「わたしの右、左にすわらせること」の判断を逃げているのでしょうか。

－ 意識をそらして入るのだろう。神様に委ねつこととして。

4. 他の弟子たちは、どのように反応しますか。それは、なぜでしょう。(41)

- 41 十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことで憤慨し出した。

- [DQ] 十人は、どのようなことを考えていたのでしょうか。

－ 自分たちをさしおいてということだろう。ペテロもそのうちのひとりであったことを、「十人の者」が指し示している。しかし、それではいけないことを、ペテロは、このときかどうかは別として、悟ったのだろう。

－ マタイ 19:28 「よく聞いておくがよい。世が改まって、人の子がその栄光の座につく時には、わたしに従って来たあなたがたもまた、十二の位に座してイスラエルの十二の部族をさばくであろう。」は、イエスが、このようなことを近いことをいわれたことを否定するものではないが、マタイ集団、マタイに近い、ユダヤ人グループは、やはり、この部分を確保しておきたいと願っていたのかもしれない。

5. イエスは、何を、どのように教えますか。(42-44)

- 42 そこで、イエスは彼らと呼ばい寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおりに、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、44 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。
- [DQ] イエスは、どのような生き方を教えてください。
 - － ここで、それぞれに、天国での地位を、約束することはどのような結果をもたらすだろうか。
 - * マタイ 19:28 イエスは彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。世が改まって、人の子がその栄光の座につく時には、わたしに従ってきたあなたがたもまた、十二の位に座してイスラエルの十二の部族をさばくであろう。
 - * 地位については、40 しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、ただ備えられている人々だけに許されることである」。として判断をさけている。神様に委ねて、ここでは、逃げているようにも見える。そうではないことに、目を向けてほしいのだらう。
 - － 8:34-37 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであらう。36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。
 - － 9:33-37 33 それから彼らはカペナウムにきた。そして家におられるとき、イエスは弟子たちに尋ねられた、「あなたがたは途中で何を論じていたのか」。34 彼らは黙っていた。それは途中で、だれが一ばん偉いかと、互に論じ合っていたからである。35 そこで、イエスはすわって十二弟子を呼び、そして言われた、「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」。36 そして、ひとりの幼な子を取りあげて、彼らのまん中に立たせ、それを抱いて言われた。37 「だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを受け入れるのではなく、わたしをおつかわしになったかたを受け入れるのである」。

6. 人の子が来た目的についてどのように語りますか。(45)

- 45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。
- [DQ] 多くの人のあがないとして、自分の命を与えるとは、どのような意味でしょうか。
 - － 贖罪死を連想させるが、そうではないのかもしれない。(パウロ文書)
 - * ローマ 3:24,25 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに

犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、

- * コリント前書 1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。
- * ガラテヤ 3:13 キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。
- * ガラテヤ 4:5 それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。

－「仕えるもの」の生き方として、多くのひとを救うための生き方としている。

- * イエスが勧めているのは、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(8:34)「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」。(10:35)
- * 神様が、あがないの主であられるという信仰を強く持っておられたのだろう。その神様のみこころに生きることが、イエスが生きられた道。申命記 7:8 ただ主があなたがたを愛し、またあなたがたの先祖に誓われた誓いを守ろうとして、主は強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手から、あがない出されたのである。(9:26, 15:15)
詩篇 130:7 イスラエルよ、主によって望みをいだけ。主には、いつくしみがあり、／また豊かなあがないがあるからです。

4.62.6 メモ

- マタイによる福音書で、ゼベダイの子らの母、ゼベダイの妻だろを、登場させたことは、この願いが、使徒にふさわしくないと考えたからもあるだろう。しかし、同時に、ここに、ゼベダイの子らの母、おそらく、サロメがいたこと、イエスの母などもいたと思われることは、重要である。
- － マルコ 15:40,41 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。
- － ここから見えることは、男たちはともかく、女たちが、多くいたということである。人数は不明だが、おそらく、男たち、12 弟子だけかどうかは不明だが、おそらく、それに近いとして、人数としても、匹敵する数がいたのかもしれない。すくなくとも、マグダラのマリア、イエスの母マリア、ゼベダイ

の子らの母がいたであろうことは、覚えるべきである。

- － 同行者、おんなたちは、イエスの受難を知っていただろうか。おそらく、知っていたのだろう。それが、マグダラのマリアの香油注ぎにもつながり、十字架の近くにおいて、悲鳴をあげていないことから、見て取れる。
- － しかし、実際にそこに、ゼベダイの子らの母がいたとしても、やはり、ヤコブとヨハネの願いでもあったのだろう。それが会話から読み取れる。正直に書いた、マルコに共感する。それは、ペテロが伝えたことなのかもしれない。男性の視点として。ヨハネの記述も勘案すると、ゼベダイの子らの母は、イエスの母マリアの姉妹の可能性がある。それが、ヨハネと思われる、愛弟子に、世話を頼むことにもつながっているのかもしれない。同時に、叔母である、ゼベダイの子らの母である、サロメに頼まれることは、人間的に考えると、十分な圧力であるようにも思えてくる。
- ・ 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである。の「多くのひとのあがない」をどう理解するかはおそらく、議論になる箇所だろうが、イエスに従うものとして、仕えられるためではなく、仕えるために生きることが中心であり、自分の十字架を負って従っていくことが主であろう。マタイでは、同じ箇所を、「28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」と、一例であるように、書いている。犠牲としてささげる愛が、自分の十字架であると、すれば、そのような生き方もあるのだろうが、ここで言われていることは、もっとずっと広いように思われる。また、イエスの死だけに限っても、やはり、仕えられるためではなく、仕えるためなのだろう。

4.63 10:46-52 盲人バルティマイを癒やす

46 それから、彼らはエリコにきた。そしてイエスが弟子たちや大ぜいの群衆と共にエリコから出かけられたとき、テマイの子、バルテマイという盲人のこじきが、道ばたにすわっていた。47 ところが、ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。48 多くの人は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。49 イエスは立ちどまって、「彼を呼べ」と命じられた。そこで、人々はその盲人を呼んで言った、「喜べ、立て、おまえを呼んでおられる」。50 そこで彼は上着を脱ぎ捨て、踊りあがってイエスのもとにきた。51 イエスは彼にむかって言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。その盲人は言った、「先生、見えるようになることです」。52 そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。

4.63.1 マタイ 20:29-34

29 それから、彼らがエリコを出て行ったとき、大ぜいの群衆がイエスに従ってきた。30 すると、ふたりの盲人が道ばたにすわっていたが、イエスがとおって行かれると聞いて、叫んで言った、「主よ、ダビデの

子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。31 群衆は彼らをしかって黙らせようとしたが、彼らはますます叫びつづけて言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。32 イエスは立ちどまり、彼ら呼んで言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。33 彼らは言った、「主よ、目をあけていただくことです」。34 イエスは深くあわれんで、彼らの目にさわられた。すると彼らは、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。

4.63.2 ルカ 18:35-43

35 イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道ばたにすわって、物ごいをしていた。36 群衆が通り過ぎる音を耳にして、彼は何事があるのかと尋ねた。37 ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと聞かされたので、38 声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。39 先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」。40 そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった。彼が近づいたとき、41 「わたしに何をしてほしいのか」とおたずねになると、「主よ、見えるようになることです」と答えた。42 そこでイエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」。43 すると彼は、たちまち見えるようになった。そして神をあがめながらイエスに従って行った。これを見て、人々はみな神をさんびした。

[マルコによる福音書 10 章 46-52 節福音書対照表](#)

4.63.3 問い

1. このことは、どのような背景のもとで、どこで起きましたか。(46a)
2. どのような人が、なにを訴えますか。(46b-48)
3. イエスは、どう対応しますか。(49-50)
4. イエスは、どのように、この人に聞き、この人はどのように答えますか。(51)
5. どうなりますか。(52)
6. あなたは、このことから、どのようなことを受け取りましたか。

4.63.4 参照

- エリコ
 - － エルサレムから、約 24km (パークレイ)、約 27km (GPT-4o)
 - － ユダヤ人男性でエルサレムから 24km 以内に住むものは、誰でも、過越の祭りに参加 (パークレイ)

- * 祭司やレビ人（全体で、2 万人＋2 万人程度）で、神殿の仕事に従事していないときは、エリコに居住（パークレイ）
- － エルサレムから一日で移動できる距離で、通常のルートを取ると、ヨルダン川の東側から、西側に移った場所にある、非常に古い街であり、主要ルートが通ることもあり、栄えていた。
- バルテマイ： T B
 - － T : Timaeus = “highly prized”, Chaldee Origin (unclean, impure)
 - － B : Bartimaeus = “son of Timaeus” 汚れたものの子とも読める。
 - － マタイでは、二人、20:30 すると、ふたりの盲人が道ばたにすわっていたが、イエスがとおって行かれると聞いて、叫んで言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。
 - * もともとは、テマイとバルテマイとペテロは言っていたのかもしれない。
 - － 榊原康夫：ひとりかふたりかの違いの調和解釈例
 1. 三回の奇蹟があった。
 2. エリコ入りのとき、バルテマイは叫び、もうひとりと合してエリコでのときに癒やされた。
 3. エリコ入りのときバルテマイが癒やされ、エリコ出のとき、もうひとりが癒やされた。
 4. 旧エリコと、新エリコの区別があった。
 5. エリコに近い頃（まだ遠ざからぬうちに）と訳す
 - － ルカでは、ザアカイの物語との関係もあり、編集したのでは（榊原）
- ヨハネには、ベタニヤ村での、ラザロの蘇りの記事が入っている。
 - － 11:53-55 彼らはこの日からイエスを殺そうと相談した。54 そのためイエスは、もはや公然とユダヤ人の間を歩かないで、そこを出て、荒野に近い地方のエフライムという町に行かれ、そこに弟子たちと一緒に滞在しておられた。55 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、多くの人々は身をきよめるために、祭の前に、地方からエルサレムへ上った。
- ダビデの子
 - － マルコ 10:47,48 ところが、ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。48 多くの人々は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「**ダビデの子**イエスよ、わたしをあわれんでください」。(マルコ初出)
 - * マタイ 20:30,31 すると、ふたりの盲人が道ばたにすわっていたが、イエスがとおって行かれると聞いて、叫んで言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。31 群衆は彼

らをしかって黙らせようとしたが、彼らはますます叫びつづけて言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。

* ルカ 18:38,39 声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。39 先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」。

－ マルコ 12:35-37 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。36 ダビデ自身が聖霊に感じて言った、／『主はわが主に仰せになった、／あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、／わたしの右に座していなさい』。37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。

* マタイ 22:42 「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」。彼らは「ダビデの子です」と答えた。

* マタイ 22:45 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるなら、キリストはどうしてダビデの子であろうか」。

* ルカ 22:41 イエスは彼らに言われた、「どうして人々はキリストをダビデの子だと言うのか」。

* ルカ 22:44 このように、ダビデはキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。

－ マタイ 1:1 アブラハムの子であるダビデの子、イエス・キリストの系図。

－ マタイ 1:20 彼がこのことを思いめぐらしていたとき、主の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである」。

－ マタイ 9:27 そこから進んで行かれると、ふたりの盲人が、「ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」と叫びながら、イエスについてきた。

－ マタイ 12:23 すると群衆はみな驚いて言った、「この人が、あるいはダビデの子ではあるまいか」。

－ マタイ 15:22 すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。

－ マタイ 21:9 そして群衆は、前に行く者も、あとに従う者も、共に叫びつづけた、／「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。

－ マタイ 21:15 しかし、祭司長、律法学者たちは、イエスがなされた不思議なわざを見、また宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て立腹し、

- ヨハネ 7:42 キリストは、ダビデの子孫から、またダビデのいたベツレヘムの村から出ると、聖書に書いてあるではないか」と言った。
- (使徒 13:23 神は約束にしたがって、このダビデの子孫の中から救主イエスをイスラエルに送られたが、)
- (ローマ 1:3 御子に関するものである。御子は、肉によればダビデの子孫から生れ、)
- (2 テモテ 2:8 ダビデの子孫として生れ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思っていないさい。これがわたしの福音である。)
- なにをしてほしいのか
 - 列王記上 3:3-9 ソロモンは主を愛し、父ダビデの定めに歩んだが、ただ彼は高き所で犠牲をささげ、香をたいた。4 ある日、王はギベオンへ行って、そこで犠牲をささげようとした。それが主要な高き所であったからである。ソロモンは一千の燔祭をその祭壇にささげた。5 ギベオンで主は夜の夢にソロモンに現れて言われた、「あなたに何を与えようか、求めなさい」。6 ソロモンは言った、「あなたのしもべであるわたしの父ダビデがあなたに対して誠実と公義と真心とをもって、あなたの前に歩んだので、あなたは大きいないつくしみを彼に示されました。またあなたは彼のために、この大きいないつくしみをたくわえて、今日、彼の位に座する子を授けられました。7 わが神、主よ、あなたはこのしもべを、わたしの父ダビデに代って王とならせられました。しかし、わたしは小さい子供であって、出入りすることを知りません。8 かつ、しもべはあなたが選ばれた、あなたの民、すなわちその数多くて、数えることも、調べることもできないほどのおびただしい民の中におります。9 それゆえ、聞きわけの心をしもべに与えて、あなたの民をさばかせ、わたしに善悪をわきまえることを得させてください。だれが、あなたのこの大きいな民をさばくことができますよう」。
 - マルコ 10:17 イエスが道に出て行かされると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」。
 - マタイ 19:27 そのとき、ペテロがイエスに答えて言った、「ごらんない、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従いました。ついては、何がいただけるでしょうか」。
 - * マルコ 10:28 ペテロがイエスに言い出した、「ごらんない、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました」。
 - マルコ 10:35-37 さて、ゼベダイの子ヤコブとヨハネとがイエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちがお頼みすることは、なんでもかなえてくださるようお願いします」。36 イエスは彼らに「何をしてほしいと、願うのか」と言われた。37 すると彼らは言った、「栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください」。

4.63.5 記録

- 日時：2024 年 7 月 18 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.63.6 問いについて

1. このことは、どのような背景のもとで、どこで起きましたか。（46a）

- 46 それから、彼らはエリコにきた。そしてイエスが弟子たちや大ぜいの群衆と共にエリコから出かけられたとき、
- [DQ] エリコについたときですか。出ていくときですか。
 - － マルコ「46 それから、彼らはエリコにきた。」とルカ「35 イエスがエリコに近づかれたとき、」マタイは、「29 それから、彼らがエリコを出て行ったとき、」と、している。マルコでは、エリコから出かけられたとき、としているので、異なっているのは、ルカである。ルカでは、このあと、ザアカイの話を入れている。
 - － このひとは、エリコに来たときから、イエスについて聞いていたのかもしれない。そして、出ていかれるとき。
 - － [Q] エリコではどのようなことがあったのでしょうか。
- [DQ] 大勢の群衆はどのような人たちでしょうか。
 - － 巡礼のひともいたろう。エリコから、エルサレムは幹線道路、過越の祭りも近い。ただ、ヨハネでのベタニアでの記事などを考えると、ガリラヤからエルサレムへの途上で立ち寄ったということではないかもしれない。しかし、このときには、他の群衆も一緒になったのだろう。

2. どのような人が、なにを訴えますか。（46b-48）

- 46b テマイの子、バルテマイという盲人のこじきが、道ばたにすわっていた。47 ところが、ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。48 多くの人々は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。
- [DQ] どのような人ですか。「テマイの子、バルテマイという盲人のこじき」
 - － こじきは、たくさんいたのではないだろうか。
 - － [Q] なぜ、テマイの子、バルテマイと書いているのでしょうか。

*「テマイ」は、カルデア語源の汚れたという意味だとおもわれるが、それから、盲人とする学者もいる。盲人の子、盲人、すくなくとも、蔑まれた存在のその子で、その二人がそこにいたのかもしれない。「テマイとその子バルテマイ」だったのではないだろうか。

- [DQ] バルテマイは、なにを叫んでいますか。

－「ダビデの子イエスよ」この前に「ナザレのイエスだと聞いて」とあり、その対比がある。

－「わたしをあわれんでください。」「叫び出した。」「彼はますます激しく叫びつづけた、」とあり、非常なる必死さが伝わってくる。この機会にかけているのだろう。

- [DQ] なぜ、ダビデの子イエスよと叫んだのでしょうか。

－ おそらく、それを咎めるひともいただろうが、そんなことは、お構いなし。救い主、または、その可能性がある方と信じていた、期待していたのだろう。

*「ダビデの子」は、マルコ初出。多いのはマタイのみ。

－ ヨハネ 11:53 彼らはこの日からイエスを殺そうと相談した。

- [DQ] マタイによる福音書には、どのように書かれていますか。

－ 20:29 それから、彼らがエリコを出て行ったとき、大ぜいの群衆がイエスに従ってきた。30 すると、ふたりの盲人が道ばたにすわっていたが、イエスがおって行かれると聞いて、叫んで言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。31 群衆は彼らをしかって黙らせようとしたが、彼らはますます叫びつづけて言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。

－「ふたりの盲人」「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」二人であり、主よが加わっている。

- [DQ] バルテマイは、なにを期待し、なにを、あわれみと思っていたのでしょうか。

－ 主が憐れみ深いかたで、このイエスをとおして、憐れんでくださると信じていたのだろう。または、信じるしかなかったのかもしれない。

- [DQ] なぜ、群衆は、この人をしかって黙らせようとするのでしょうか。

－「ダビデの子イエス」という政治的指導者を匂わせることばに反応したか。

－ イエスの特別なときであることを思うひとたちが、黙らせようとしたのか。

－ ルカでは 18:39 先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」。「先頭に立つ人々」とある。この人たちはどのような人たちだったのだろう。

3. イエスは、どう対応しますか。(49-50)

- 49 イエスは立ちどまって、「彼を呼べ」と命じられた。そこで、人々はその盲人を呼んで言った、「喜べ、立て、おまえを呼んでおられる」。50 そこで彼は上着を脱ぎ捨て、踊りあがってイエスのもとにきた。
- [DQ] なぜ、「彼を呼べ」と命じられた。と言ったのでしょうか。
 - － 自分で彼のもとに行っても良かったのではないのでしょうか。
- [DQ] この盲人の様子はどのように描かれていますか。
 - － 上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのもとにきた。

4. イエスは、どのように、この人に聞き、この人はどのように答えますか。(51)

- 51 イエスは彼にむかって言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。その盲人は言った、「先生、見えるようになることです」。
- [DQ] なぜ、「わたしに何をしてほしいのか」と聞いたのでしょうか。
- [DQ] なぜ、このように素直に答えられたのでしょうか。
- [DQ] あわれみと、見えるようになることは、つながっていたのでしょうか。

5. どうなりますか。(52)

- 52 そこでイエスは言われた、「行け、あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。
- [DQ] 「行け、あなたの信仰があなたを救った」とは、どのような意味でしょうか。
 - － マタイでは、「34 イエスは深くあわれんで（
：to be moved as to one's bowels, hence to be moved with compassion, have compassion (for the bowels were thought to be the seat of love and pity))、彼らの目にさわられた。」とある。
- [DQ] このひとの信仰とは何でしょうか。
- [DQ] 「行け」といわれて、従っていったとは、どういうことでしょうか。
 - － イエス一行には、障害者（だったひと）もいたことがわかる。

6. あなたは、このことから、どのようなことを受け取りましたか。

- [DQ] あなたは、イエスに出会ったら、なにを求めますか。

4.63.7 メモ

- これが、エルサレムに入る前の最後のエピソードである。
- ラザロの復活、ザアカイの物語など、どのような、時間的経過なのかも、興味深い。
- 盲人が、目が見えるようになることを求めるのは自然だと考えてしまうが、そうではないかもしれない。障害者の気持ちを理解できていないのかもしれない。そして、自分に当てはめると、なにを求めるかはわからないとしか言えない。主に従うことは、自分の十字架を負って従っていくこと。

4.64 11:1-11 エルサレムに迎えらるる

1 さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、2 「むこうの村へ行きなさい。そこにはいるとすぐ、まだだれも乗ったことのないろばの子が、つないであるのを見るであろう。それを解いて引いてきなさい。3 もし、だれかがあなたがたに、なぜそんな事をするのかと言ったなら、主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返して下さいますと、言いなさい」。4 そこで、彼らは出かけて行き、そして表通りの戸口に、ろばの子がつないであるのを見たので、それを解いた。5 すると、そこに立っていた人々が言った、「そのろばの子を解いて、どうするのか」。6 弟子たちは、イエスが言われたとおりに彼らに話したので、ゆるしてくれた。7 そこで、弟子たちは、そのろばの子をイエスのところに引いてきて、自分たちの上着をそれに投げかけると、イエスはその上にお乗りになった。8 すると多くの人々は自分たちの上着を道に敷き、また他の人々は葉のついた枝を野原から切ってきて敷いた。9 そして、前に行く者も、あとに従う者も共に叫びつづけた、／「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。11 こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。

4.64.1 マタイ 21:1-11

1 さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブ山沿いのベテパゲに着いたとき、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、2 「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばがつながれていて、子ろばがそばにいるのを見るであろう。それを解いてわたしのところに引いてきなさい。3 もしだれかが、あなたがたに何か言ったなら、主がお入り用なのです、と言いなさい。そう言えば、すぐ渡してくれるであろう」。4 こうしたのは、預言者によって言われたことが、成就するためである。5 すなわち、／「シオンの娘に告げよ、／見よ、あなたの王がおいでになる、／柔和なおかたで、ろばに乗って、／くびきを負うろばの子に乗って」。6 弟子たちは出て行って、イエスがお命じになったとおりにし、7 ろばと子ろばとを引いてきた。そしてその上に自分たちの上着をかけると、イエスはそれにお乗りになった。8 群衆のうち多くの者は自分たちの上着を道に敷き、また、ほかの者たちは木の枝を切ってきて道に敷いた。9 そして群衆は、前に行

く者も、あとに従う者も、共に叫びつづけた、／「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。10 イエスがエルサレムにはいつて行かれたとき、町中がこぞって騒ぎ立ち、「これは、いったい、どなただろう」と言った。11 そこで群衆は、「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスである」と言った。

4.64.2 ルカ 19:28-40

28 イエスはこれらのことを言ったのち、先頭に立ち、エルサレムへ上って行かれた。29 そしてオリブという山に沿ったベテパゲとベタニヤに近づかれたとき、ふたりの弟子をつかわして言われた、30 「向こうの村へ行きなさい。そこにはいったら、まだだれも乗ったことのないろばの子が見つないであるのを見るであろう。それを解いて、引いてきなさい。31 もしだれかが『なぜ解くのか』と問うたら、『主がお入り用なのです』と、そう言いなさい」。32 そこで、つかわされた者たちが行って見ると、果して、言われたとおりであった。33 彼らが、そのろばの子を解いていると、その持ち主たちが、「なぜろばの子を解くのか」と言ったので、34 「主がお入り用なのです」と答えた。35 そしてそれをイエスのところに引いてきて、そのろばの上に自分たちの上着をかけてイエスをお乗せした。36 そして進んで行かれると、人々は自分たちの上着を道に敷いた。37 いよいよオリブ山の下り道あたりに近づかれると、大ぜいの弟子たちはみな喜んで、彼らが見たすべての力あるみわざについて、声高らかに神をさんびして言いはじめた、38 「主の御名によってきたる王に、／祝福あれ。天には平和、／いと高きところには栄光あれ」。39 ところが、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った、「先生、あなたの弟子たちをおしかり下さい」。40 答えて言われた、「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」。

4.64.3 ヨハネ 12:12-19

12 その翌日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエスがエルサレムにこられると聞いて、13 しゅろの枝を手にとり、迎えに出て行った。そして叫んだ、／「ホサナ、／主の御名によってきたる者に祝福あれ、／イスラエルの王に」。14 イエスは、ろばの子を見つけて、その上に乗られた。それは 15 「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王が／ろばの子に乗っておいでになる」／と書いてあるとおりであった。16 弟子たちは初めにはこのことを悟らなかったが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのとおりに、人々がイエスに対してしたのだということを、思い起した。17 また、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたとき、イエスと一緒にいた群衆が、そのあかしをした。18 群衆がイエスを迎えに出たのは、イエスがこのようなしるしを行われたことを、聞いていたからである。19 そこで、パリサイ人たちは互に言った、「何をしてもむだだった。世をあげて彼のあとを追って行ったではないか」。

[マルコによる福音書 11 章 1-11 節福音書対照表](#)

4.64.4 問い

1. イエスたちは、どこにいますか。背景も復習しましょう。(1)
2. イエスは弟子の二人にどんな指示をしていますか。(2,3)
3. そして、どうなりますか。(3-6)
4. イエスは、どうしますか。そのようすは、どのように描かれていますか。(7-10)
5. これは、どのようなことを伝えているのでしょうか。他の福音書から人々の反応もみてみましょう。
6. この日の、イエスの様子は、どのように描かれていますか。(11)

4.64.5 参照

- 受難週のエルサレムの地図 [[The Passion Week in Jerusalem](#)]
- ベテパゲ (B : “house of unripe figs” 熟していないいちじくの家または、単に、fig house いちじくの家)
 - － エリコからエルサレムに向かう途中にあるベタニヤに近い小村。(the name of a hamlet between Jericho and Jerusalem, close to Bethany)
 - － 聖書では、マルコ 11:11、マタイ 21:1、ルカ 19:29 すなわち今回の箇所のみ。
 - － 安息日に旅することが可能。1.6km 以内。巡礼者の宿泊所
- ベタニヤ (B : “house of dates” or, “house of misery”) ナツメヤシの家
 - － a village at the Mount of Olives, about two miles (3 km) from Jerusalem, on or near the normal road to Jericho
- ろば：山を旅するには馬よりも強く、女子供でも乗りやすい背丈であることから、ろばが愛用された。
 - － 民数記 22 章 21 節明くる朝起きてバラムは、ろばにくらをおき、モアブのつかさたちと一緒にいった。
 - － 士師記 5 章 9-10 節わたしの心は民のうちの喜び勇んで／進み出たイスラエルのつかさたちと共にある。主をさんびせよ。茶色のろばに乗るもの、／毛氈の上にすわるもの、／および道を歩むものよ、共に歌え。
 - － サムエル記上 9 章 3 節サウルの父キシの数頭のろばがいなくなった。そこでキシは、その子サウルに言った、「しもべをひとり連れて、立って行き、ろばを捜してきなさい」。

- サムエル記下 16 章 1-2 節ダビデが山の頂を過ぎて、すこし行った時、メビボセテのしもべヂバは、くらを置いた二頭のろばを引き、その上にパン二百個、干ぶどう百ふさ、夏のくだもの一百、ぶどう酒一袋を載せてきてダビデを迎えた。王はヂバに言った、「あなたはどのようにこれらのものを持ってきたのですか」。ヂバは答えた、「ろばは王の家族が乗るため、パンと夏のくだものは若者たちが食べるため、ぶどう酒は荒野で弱った者が飲むためです」。
- 参照：列王紀上 10 章 28-29 節ソロモンが馬を輸入したのはエジプトとクエからであった。すなわち王の貿易商はクエから代価を払って受け取ってきた。エジプトから輸入される戦車一両は銀六百シケル、馬は百五十シケルであった。このようにして、これらのものが王の貿易商によって、ヘテびとのすべての王たちおよびスリヤの王たちに輸出された。
- ゼカリヤ 9:8-14
 - その時わたしは、わが家のために営を張って、見張りをし、行き来する者のないようにする。しえたげる者は、かさねて通ることがない。わたしが今、自分の目で見ているからである。9 シオンの娘よ、大いに喜び、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る。10 わたしはエフライムから戦車を断ち、エルサレムから軍馬を断つ。また、いくさ弓も断たれる。彼は国々の民に平和を告げ、その政治は海から海に及び、大川から地の果にまで及ぶ。11 あなたについてはまた、あなたとの契約の血のゆえに、わたしはかの水のない穴から、あなたの捕われ人を解き放す。12 望みをいなく捕われ人よ、あなたの城に帰れ。わたしはきょうもなお告げて言う、必ず倍して、あなたをもとに返すことを。13 わたしはユダを張って、わが弓となし、エフライムをその矢とした。シオンよ、わたしはあなたの子らと呼ばれ起して、ギリシヤの人々を攻めさせ、あなたを勇士のつるぎのようにさせる。14 その時、主は彼らの上に現れて、その矢をいなくすように射られる。主なる神はラッパを吹きならし、南のつむじ風に乗って出てこられる。
 - * 背景を考えると難しい。捕囚のあと一部が帰還したエルサレムでの預言である。ここでは、周囲の海の民（ペリシテなど）からの圧迫に苦しむ必要はないとして、9 節、10 節が語られているように見える。エルサレムに、諸国民に平和を告げる王がくることを預言している。
 - * おそらく「彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る。」が、イエスのイメージと、エルサレム入城に適合していることを主張した人たちがおり、さらに、「わたしはエフライムから戦車を断ち、エルサレムから軍馬を断つ。また、いくさ弓も断たれる。彼は国々の民に平和を告げ、その政治は海から海に及び、大川から地の果にまで及ぶ。」に期待を抱いたのかもしれない。
- マカバイ記一 13 章 51 節第一百七十一年の第二の月の二十三日、ユダヤの人々は賛美のうちにしゅろの枝をかざし、豎琴、シンバル、十二絃を鳴らし、賛歌と歌を歌いながら要塞に入った。イスラエルから大敵が根絶されたからである。
- 列王記下 9 章 13 節すると彼らは急いで、おのおの衣服をとり、それを階段の上のエヒウの下に敷き、ラ

ッパを吹いて「エヒウは王である」と言った。

- ルカにはこのあと挿入 (19:41-44)

- 41 いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、そのために泣いて言われた、42 「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら.....しかし、それは今おまえの目に隠されている。43 いつかは、敵が周囲に壘を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、44 おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。

- イエスのエルサレム訪問

- ルカ 2:22 それから、モーセの律法による彼らのきよめの期間が過ぎたとき、両親は幼な子を連れてエルサレムへ上った。
- ルカ 2:41 さて、イエスの両親は、過越の祭には毎年エルサレムへ上っていた。
- ヨハネ 2:13 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。
- ヨハネ 5:1,2 こののち、ユダヤ人の祭があったので、イエスはエルサレムに上られた。2 エルサレムにある羊の門のそばに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があった。そこには五つの廊があった。
- ヨハネ 7:10 しかし、兄弟たちが（仮庵の）祭に行ったあとで、イエスも人目にたたぬように、ひそかに行かれた。
- [参照] マタイ 23:37 ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。
- [参考] エルサレムの周辺 30km 以内に住む成人男性は、この祭りに参加する定めになっていたと言われている。

- ヨハネには、エルサレムでの活動がたびたび書かれている。

- 2:13-25 （過越祭の折）神殿から商人を追い出す。（共観福音書では、これを今回の記事のあとに置いている）
- 3:1-21 （または 15 節まで）のニコデモとの会話も、エルサレムである可能性が高い。（イエスの葬りのときに現れ（19:39）、サンヘドリンの議員であるかは不明だが、議員はファリサイ派の人の中に登場する。（7:50））
- 3:22 以降も、4:42 まで、ユダヤ、サマリアに弟子たちと、滞在している。（4:43-54 は、ガリラヤに滞在）

- － 5:1-47 ユダヤ人の祭りにエルサレムに登り、ベテスダの池で病人を癒やす。(6:1-71 五千人の給食はガリラヤ。)
- － 7:1-10:42-12:11 (エルサレム入城の直前まで) 明確にはわからないが、エルサレムまたは周辺のユダヤに滞在していると思われる。
- － ガリラヤでの活動の記事は、非常に限定的で、エルサレムでの活動ばかり書かれている。ガリラヤでは、カナでの活動が、二回と、五千人の給食のみ。共観福音書にかかれているから書かないとも考えられないこともないが、記述が詳細であることから、目撃者証言と言えるものも多い。カナ、五千人給食の地、エルサレムをつなぐ線上に、証言者がいるように見える。また、マリアとの関係も、最初のカナでの婚礼、そして、最後にイエスの愛しておられる弟子に、マリアを委ねるところからも、特別なものであったように見える。五千人給食に関しては、ピリポ、アンデレが登場し、バプテスマのヨハネのところで、仲間だった可能性もあり、そこから、得た情報なのかもしれない。

4.64.6 記録

- 日時：2024 年 9 月 12 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）2 名

4.64.7 問いについて

1. イエスたちは、どこにいますか。背景も復習しましょう。(1)
 - 1 さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、
 - [DQ] どこを出発して、どこへ向かい、今いる場所はどこでしょうか。
 - － [A] 彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの附近にきた時
 - * マタイでは、ベテパゲとしているが、ルカは、マルコを引き継いでいる。おそらく、マタイは、それがベテパゲであることを知っていたのだろう。
 - * では、なぜ、ベタニヤも入っているかが気になる。ヨハネによると、この前には、ラザロの復活の記事、マルタ、マリア、ラザロの家での宴会の記事、マリアが油を注いだ記事、そして、そのことが人々に衝撃を与えたことが書かれている。
 - * マルコはなぜ、そのような記事をとばしているのだろうか。
 - [DQ] イエスは、弟子たちと共にエルサレムに何度も来ていたのだろうか。それとも、これが初めてだろうか。

- ー ルカには幼い頃に、両親と、エルサレムに來た記事がある。(2:22, 41) しかし、共観福音書には、書かれていないので、このときが最初であるような印象を受ける。一般的には、エルサレムから 30km 程度の範囲内の住人(成人男性)は、過越祭にエルサレムに上ることが義務と考えられており、熱心なひとは、遠くにいても、祭りのとき、特に、過越祭には、エルサレムに上っていた。このことが、ルカ 2:41 でも表現されている。「イエスの両親は、過越の祭には毎年エルサレムへ上っていた。」
- ー ヨハネは、「(イエスの) 愛する」弟子が著者とされているが、エルサレムでの活動が中心に書かれている。自分が、その場にいた、目撃者であれば、目撃したこと以外については、確実なことしか、書かないだろう。むろん、実際に起こったときから、かなりの年月がたってからだと、混乱もあるかもしれないが。

2. イエスは弟子の二人にどんな指示をしていますか。(2,3)

- ・ 2 「むこうの村へ行きなさい。そこにはいるとすぐ、まだだれも乗ったことのないろばの子が、つないであるのを見るであろう。それを解いて引いてきなさい。3 もし、だれかがあなたがたに、なぜそんな事をするのかと言ったなら、主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返してくださいと、言いなさい」。
- ・ [DQ] 「むこうの村」とは、どこでしょうか。
 - ー [A] おそらく、ベテパゲ。マタイでは、ベテパゲだけがあげられている。
 - ー [Q] ではなぜ、ベタニヤが入っているのか。
- ・ [DQ] イエスはどんな指示をしていますか。
 - ー 配慮もあるように見える。「またすぐ、ここへ返してください」(確認は次の間でもよい)
- ・ [DQ] ろばは、どんなろばですか。なぜ、そのようなろばを選ばれたのでしょうか。
 - ー [A] まだだれも乗ったことのないろばの子 (2)
 - * 聖なる目的のためには、未使用のものを。
 - ・ 民数記 19 章 02 節「主の命じられた律法の定めは次のとおりである。すなわち『イスラエルの人々に告げて、完全で、傷がなく、まだくびきを負ったことのない赤い雌牛を、あなたのもとに引いてこさせ、
 - ・ 申命記 21 章 03 節そしてその殺された者のある所に最も近い町の長老たちは、まだ使わない、まだくびきを負わせて引いたことのない若い雌牛をとり、
 - * マタイでは、ろばとろばとなっている。(マタイ 21:2,5,7)

－ マタイ 21:4,5 4 こうしたのは、預言者によって言われたことが、成就するためである。5 すなわち、／「シオンの娘に告げよ、／見よ、あなたの王がおいでになる、／柔和なおかたで、ろばに乗って、／くびきを負うろばの子に乗って」。

－ ヨハネ 12:15,16 「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王が／ろばの子に乗っておいでになる」／と書いてあるとおりであった。16 弟子たちは初めにはこのことを悟らなかったが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのとおりに、人々がイエスに対してしたのだということを、思い起した。

－ ゼカリヤ 9:8-14 参照

3. そして、どうなりますか。(3-6)

- 3 もし、だれかがあなたがたに、なぜそんな事をするのかと言ったなら、主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返してくださいと、言いなさい。4 そこで、彼らは出かけて行き、そして表通りの戸口に、ろばの子がつないであるのを見たので、それを解いた。5 すると、そこに立っていた人々が言った、「そのろばの子を解いて、どうするのか」。6 弟子たちは、イエスが言われたとおり彼らに話したので、ゆるしてくれた。

- [DQ] イエスとこの村の人との関係はどのようなものだったのでしょうか。

－ [A] ベテパゲは、ここにしか登場しないので、不明だが、ベタニヤに近いことから、このあたりには、イエスは何回も来ていたと思われる。ヨハネによるとこの直前にも、ベタニヤに滞在していた。

- [DQ] イエスと村の人の間には事前に打ち合わせがあったのでしょうか。

－ [A] その証拠はないが、ベタニヤに近いということは、ラザロの事件も知っていたらうから、事前の打ち合わせがなくても、これらのことばで通じたかもしれない。同時に、ある信頼関係のあるひとがいたことも十分考えられる。そして、これらのことばで、その意味も通じた可能性が高い。

- [DQ] 「イエスが言われた通り」とは、どんなことを指していますか。

－ [A] 「主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返してください」

- ルカでは『主がお入り用なのです』の部分が強調されている。(ルカ 19:31,34)

4. イエスは、どうしますか。そのようすは、どのように描かれていますか。(7-10)

- 7 そこで、弟子たちは、そのろばの子をイエスのところに引いてきて、自分たちの上着をそれに投げかけると、イエスはその上にお乗りになった。8 すると多くの人々は自分たちの上着を道に敷き、また他の人々は葉のついた枝を野原から切ってきて敷いた。9 そして、前に行く者も、あとに従う者も共に叫びつづけた、／「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。

- [DQ] どのような人々がイエスの入城に立ち会いますか。
 - － 弟子たち、多くの人々、他の人々、前に行く者、あとに従う者
 - － この人たちは、どのような人たちでしょうか。
 - * 弟子とそのお付き？ガリラヤから来た人々？エルサレムの人々？
- [DQ] イエスはどのようにしてエルサレムに入城しますか。
 - － [Q] エルサレム凱旋のようなイメージがあるが、本当に、そのように、マルコは描いたいるのだろうか。ろばの子というのは、興味深い。

5. これは、どのようなことを伝えているのでしょうか。他の福音書から人々の反応もみてみましょう。

- マルコでは「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。だが、他の福音書では、意味が付け加えられている。
- [DQ] エルサレムの人たちに対して、群衆はどのようにイエスを紹介しますか。
 - － 「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。
 - － 「今きたる、われらの父ダビデの国に」は、旧約聖書に対応箇所がない。ダビデの子とすることを、避けていることは確かなように思われる。
- [参照] 詩篇 118:25,26 主よ、どうぞわれらをお救いください。主よ、どうぞわれらを栄えさせてください。26 主のみ名によってはいる者はさいわいである。われらは主の家からあなたをたたえます。
- 他の福音書からの考察
 - － [DQ] マタイは、「王」についてイエスについて、どのような事を伝えていますか。
 - * 21:4,5 4 こうしたのは、預言者によって言われたことが、成就するためである。5 すなわち、／「シオンの娘に告げよ、／見よ、あなたの王がおいでになる、／柔和なおかたで、ろばに乗って、／くびきを負うろばの子に乗って」。
 - ・ ゼカリヤ 9:9 シオンの娘よ、大いに喜び、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る。
 - * 21:9 そして群衆は、前に行く者も、あとに従う者も、共に叫びつづけた、／「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。
- [DQ] 人々は、どのようにして、イエスを迎えますか。それぞれの福音書を比較してみましょう。
 - － 弟子たち、群衆、エルサレムの人々、パリサイ派の人々

- [DQ] イエスは、なぜ、ろばの子に乗って、エルサレムに入城したのでしょうか。
 - ゼカリヤ 9:9-10 との関係はどのように理解したらよいのだろうか。
- [参照] 旧約聖書のゼカリヤ書 9 章 9 節を読みましょう。イエスご自身をどういう人物として、人々に紹介しようとしていますか。
 - [Q] なぜ、マルコには書かれていないのか。ヨハネをみると、弟子たちはわからなかったということだろう。すなわち、イエスは、ゼカリヤ 9:9 を知っていても、それを強調はしない。預言に制約される方ではない。
- 戦いのときには、馬で、平和のときには、ろばで。
- [ルカ] イエスはなぜ、都を見て泣くのでしょうか。(41 節～42 節)
- [ヨハネ] 弟子たちが、あとから気づいたのはどのようなことでしょうか。
- この日はいつだったのでしょうか。棕櫚の聖日。

6. この日の、イエスの様子は、どのように描かれていますか。(11)

- 11 こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。
- [DQ] それぞれの福音書は何を伝えているのでしょうか。
 - ヨハネはこの背景を丁寧に伝えているように見える。マルコの時代には、それは危険が伴い、マタイや、ルカは、マルコをそのまま引き継いだか。ヨハネの時代には、このことが明かされても安全だったのかもしれない。

4.64.8 メモ

- ベテパゲ、ベタニヤは、正確にはわからないが、イエスは何度も、この地域を訪ねていることは確かである。
- マルコは非常にあっさり描いている。そのようにしか、描けなかったのかもしれないが、同時に、大きな騒ぎはなかったのかもしれない。ただ、ヨハネの記述とのギャップを感じる。
- マタイでは、流れは、マルコと同じく、エリコでの(マタイでは二人の)盲人の癒やしのあとに置かれ、場所は、ベテパゲと断言している。これは、ベタニヤではないことを証言し、ベタニヤとあるのは、別の理由で入っていることを知っているものが執筆に関わっていたのだろう。またろばについては、二回にわたり、ろばと子ろばとの表現になっている。そして、イエスがどちらに乗られたか明確ではない。ゼカリヤ預言が挿入され、そこでもろばに乗って、くびきを負うろばの子に乗ってとなっている。群衆の声には「ダビデの子」が挿入されている。マルコにはそれはない。最後は、「イエスがエルサレムには行って行か

れたとき、町中がこぞって騒ぎ立ち、「これは、いったい、どなただろう」と言った。そこで群衆は、「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスである」と言った。」と締めくくっている。群衆の、認識としては、預言者である。

- ルカには、エリコでのザアカイの話が挿入されており、そのあとで、ムナの譬えがあり、一ムナを布に包んでしまっておいたものへのかなり厳しい裁きを宣告し、つづけて、「イエスはこれらのことを言ったのち、先頭に立ち、エルサレムへ上って行かれた。」と続けている。先頭に立ち、マルコ 10:32 「さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。」を思い起こさせる。場所に関しては、「オリブという山に沿ったベテパゲとベタニヤに近づかれたとき」とし、多少不自然な、マルコを踏襲しているように見える。「主がお入り用なのです」が二回繰り返され（マルコ、マタイでは一回）、それに応じたことが印象的に、伝えられている。「いよいよオリブ山の下り道あたりに近づかれると」の記述はあるが、エルサレム入城については、書かれていない。呼びかけには「王」と入っている。逆に、パリサイ人とのやり取り（拒否といってもよいだろう）が挿入されている。そして、この記事のあとには、「いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、そのために泣いて言われた」に続けて、エルサレムの破壊について語り、「それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」と結んでいる。エルサレム入城の記事とは、違う表現になっている。

— 33

； 34

. [NA28:LK19]

* [私訳] 彼らが、その子ろばを解いていると、その子ろばの主人たちは（ ）彼らに、なぜ、子ろばを解くのかと言うと、彼らは、その主人が（ ）、必要としているのですと言った。

- ヨハネでは、11 章、12 章前半にラザロのことが書かれており、エルサレム入城（過越の祭りの 5 日前）のときにも、人々がそのことを知っていて、イエスを、迎えたことが書かれている。しかし、マルコでは、ベタニヤという言葉を出すだけで、そのことには言及しない。ロバを引いてきたのはおそらくマタイにもあるように、ベテパゲなのだろう。すると、マルコにある、ベタニヤは意味深である。ボウカムの「イエスとその目撃者たち」から学んだことだが、マルコが書かれた時代、または、ペテロが説教した時代には、そのことを語る危険性がまだあったのかもしれない。実際、ラザロをも殺そうとする動きがあったことも書かれているのだから。

— ヨハネ 12:9-11 大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた。それはイエスに会うためだけではなく、イエスが死人のなかから、よみがえらせたラザロを見るためでもあった。10 そこで祭司長たちは、ラザロも殺そうと相談した。11 それは、ラザロのことで、多くのユダヤ人が彼らを離れ去って、イエスを信じるに至ったからである。

- マルコを読んでいると、イエスは、ゼカリヤ預言を自分のことに当てはめてはいなかったように思う。たしかに、ある部分、イエスに適合する部分はあるが、ラザロの復活以降は特に、エルサレムでは、すでにお尋ね者になっている、イエスは、正々堂々とエルサレムに向かうことだけを考えて、人混みに紛れてではなく、ろばに乗って、エルサレムに向かったのではないだろうか。ヨハネで、ゼカリヤ預言については、弟子たちは、気づいていなかったことが書かれている。イエスは、そのことを言わなかった証拠でもある。すくなくとも、凱旋のようなイメージで捉えるのは、間違っていると思う。すぐ返すことや、最後のエル

サレムを見て回ったことなども、マルコにしか書かれておらず、興味深い。そのあとに、ひとが、様々に、意味づけしたことが、他の福音書に含まれているのだろう。生のイエスではなくなっているようにみえる。

4.65 11:12-14 いちじくの木を呪う

12 翌日、彼らがベタニヤから出かけてきたとき、イエスは空腹をおぼえられた。13 そして、葉の茂ったいちじくの木を遠くからごらんになって、その木に何かありはしないかと近寄られたが、葉のほかは何も見当らなかった。いちじくの季節でなかったからである。14 そこで、イエスはその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。

4.65.1 マタイ 21:18-19

18 朝はやく都に帰るとき、イエスは空腹をおぼえられた。19 そして、道のかたわらに一本のいちじくの木があるのを見て、そこに行かれたが、ただ葉のほかは何も見当らなかった。そこでその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえには実がならないように」と言われた。すると、いちじくの木はたちまち枯れた。

[マルコによる福音書 11 章 12-26 節福音書対照表](#)

4.65.2 メモ

- マルコ 11:20-26 と一緒に学ぶ

4.66 11:15-19 神殿から商人を追い出す

15 それから、彼らはエルサレムにきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り買いしていた人々を追い出しはじめ、両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえし、16 また器ものを持って宮の庭を通り抜けるのをお許しにならなかった。17 そして、彼らに教えて言われた、『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった。18 祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。彼らは、群衆がみなその教に感動していたので、イエスを恐れていたからである。19 夕方になると、イエスと弟子たちとは、いつものように都の外に出て行った。

4.66.1 マタイ 21:12-17

12 それから、イエスは宮にはいられた。そして、宮の庭で売り買いしていた人々をみな追い出し、また両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえされた。13 そして彼らに言われた、『わたしの家は、祈の家

となえられるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている」。14 そのとき宮の庭で、盲人や足なえがみもとにきたので、彼らをおいやしになった。15 しかし、祭司長、律法学者たちは、イエスがなされた不思議なわざを見、また宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て立腹し、16 イエスに言った、「あの子たちが何を言っているのか、お聞きですか」。イエスは彼らに言われた、「そうだ、聞いている。あなたがたは『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』とあるのを読んだことがないのか」。17 それから、イエスは彼らをあとに残し、都を出てベタニヤに行き、そこで夜を過ごされた。

4.66.2 ルカ 19:45-48

45 それから宮にはいり、商売人たちの追い出しはじめて、46 彼らに言われた、『わが家は祈の家であるべきだ』と書いてあるのに、あなたがたはそれを盗賊の巣にしまった」。47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者また民衆の重立った者たちはイエスを殺そうと思っていたが、48 民衆がみな熱心にイエスに耳を傾けていたので、手のくだしようがなかった。

4.66.3 ヨハネ 2:13-22

13 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。14 そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、15 なわでむちを造り、羊も牛もみな宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、16 はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。18 そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。20 そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。21 イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。22 それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉を信じた。

[マルコによる福音書 11 章 15-19 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 11 章 12-26 節福音書対照表](#)

4.66.4 問い

1. 背景を復習しましょう。前日について、この日についてどんなことがわかりますか。(11:1-14)
2. イエスは、どこで、どんなことをしますか。(15,16)

3. イエスは、どのように言っていますか。(17)
4. イエスの行動は弟子たちに、人々にどううつったでしょうか。祭司長や律法学者たちはどう考えましたか。(18)
5. イエスは、このあとどうしますか。(19)
6. 他の福音書、特に、ヨハネによる福音書の記事と比較してみましょう。どんなことがわかりますか。

4.66.5 参照

- ベタニヤ（ナツメヤシの家）について（ヨハネ 1:28 にある、ヨルダン川付近のベタニヤは省略）エリコから、エルサレムへ向かう途上の、エルサレムから 3km ほどの村。
 - マルコ 14:3-9 3 イエスがベタニヤで、重い皮膚病の人シモンの家において、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。（マタイ 26:6-13）
 - * ヨハネ 12 章 1-11 節 1 過越の祭の六日まえに、イエスはベタニヤに行かれた。そこは、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロのいた所である。
 - ルカ 10:38-42 （マルタとマリアについて）一同が旅を続けているうちに、イエスがある村へはいられた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え入れた。この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、御言に聞き入っていた。（ベタニヤとは明確には書かれていない）
 - ルカ 24:50-53 昇天 50 それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。
 - ヨハネ 11 章全体 1 さて、ひとりの病人がいた。ラザロといい、マリヤとその姉妹マルタの村ベタニヤの人であった。
- エルサレムについては、エルサレム入城 [\[参考\]](#)
 - 宣教活動を始めたからは、ヨハネのみに記載：2:13-25、3:1-21、5:1-47 ユダヤが中心で、サマリヤについても、記述がある。
- 受難週のエルサレムの地図 [\[The Passion Week in Jerusalem\]](#)
- ヘロデ神殿 [\[Herod's Temple\]](#)
 - BC20/19 ごろ、BC520-515 ごろの、ゼルバベルの神殿の改築を開始、AD63 に完成、AD70 にテトスにより破壊。
- The Temple at Jerusalem in Jesus' Day, Clyde W. Votaw [\[pdf\]](#)

- イザヤ 56:7 わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、／わが祈の家のうちで楽しませる、／彼らの燔祭と犠牲とは、／わが祭壇の上に受けいられる。わが家はすべての民の／祈の家となえられるからである」。
- エレミヤ 7:11 わたしの名をもって、となえられるこの家が、あなたがたの目には盗賊の巣と見えるのか。わたし自身、そう見たと主は言われる。
- ヨハネにはこのあと、イエスは人の心を知っておられる、の記事が入っている。(ヨハネ 2:23-25)
 - － 23 過越の祭の間、イエスがエルサレムに滞在しておられたとき、多くの人々は、その行われたしるしを見て、イエスの名を信じた。24 しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、25 また人についてあかしする者を、必要とされなかったからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。
- 宮・神殿
 - － コリント前書 3:16-17 あなたがたは神の神殿であり、神の霊が自分の内に住んでいることを知らないのですか。17 神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。
 - － 申命記 14:24-26 しかし、あなたの神、主があなたを祝福しても、あなたの神、主がその名を置くために選ぶ場所が遠く離れ、その道のりが長すぎて、それを携えて行くことができないなら、25 あなたはそれを銀に換え、その銀を携え、あなたの神、主が選ぶ場所に向かい、26 その銀であなたの望むもの、すなわち、牛でも羊でもぶどう酒でも麦の酒でも、何でもあなたの好きなものを求め、あなたの神、主の前で食べ、あなたも家族も楽しみなさい。

4.66.6 記録

- 日時：2024 年 9 月 19 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）2 名、参加（遠隔）3 名

4.66.7 問いについて

1. 背景を復習しましょう。前日について、この日についてどんなことがわかりますか。(11:1-14)
 - 子ろばに乗りエルサレム入城。その後、「11 こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。」
 - 12 翌日、彼らがベタニヤから出かけてきたとき、イエスは空腹をおぼえられた。
 - [DQ] ベタニヤについてどのようなことが聖書には書かれていますか。

- － マルコ 14:3-9 (香油) (マタイ 26:6-13、ヨハネ 12:1-11)、ルカ 10:38-42 (マルタとマリア)、ルカ 24:50-53 (昇天)、ヨハネ 11 章 (ラザロの復活)、
- － [考察] ベタニアの滞在先などについては、語らない。イエスと弟子の団は、おそらく、弟子と女性たちもふくめると、20 人は降らず、もっと多かったかもしれないので、十分、打ち合わせもあったはずである。すくなくとも、マルタ、マリア、ラザロの家などがあったと思われるが、おそらく、ペテロが語った時点では、このようなエピソードを語ることは、ベタニアのひとたちに危険があった可能性もあったのだろう。それもあって、ベタニアについては、語らないのかもしれない。
- [DQ] 「すべてのものを見回った」とありますが、どんなことを観察したと思いますか。
 - － [A] おそらく、宮のことも観察したはずである。
- [DQ] すべてのものを見まわったとき、イエスは、神殿 (宮) について、どう見ておられたのでしょうか。そのときは、憤りをもっても、なにもしないことにして、十分考えてから以下の行動をしたのだろうか。

2. イエスは、どこで、どんなことをしますか。(15,16)

- 15 それから、彼らはエルサレムにきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り買いしていた人々を追い出しはじめ、両替人の台や、はとを売る者の腰掛けをくつがえし、16 また器ものを持って宮の庭を通り抜けるのをお許しにならなかった。
- [A] 宮の庭で売り買いしていた人々を追い出し 両替人の台や、はとを売る者の腰掛けをくつがえし 器ものをもって宮の庭を通り抜けるのを許さない。
 - － 律法通り、シケル税を納めるには、外国貨幣の使われていた当時には必須だった。(出エジプト 30:12-16 30:13 すべて数に入る者は聖所のシケルで、半シケルを払わなければならない。一シケルは二十ゲラであって、おのおの半シケルを主にささげ物としなければならない。参照：レビ記 5:15, 27:3, 25、民数記 3:47,50,7:13,19,25,31,37,43,49,55,61,67,73,79,85,86,18:16)
 - － 物の売買申命記 14:25,26 あなたはその物を金に換え、その金を包んで手に取り、あなたの神、主が選ばれる場所に行き、26 その金をすべてあなたの好む物に換えなければならない。すなわち牛、羊、ぶどう酒、濃い酒など、すべてあなたの欲する物に換え、その所であなたの神、主の前でそれを食べ、家族と共に楽しまなければならない。
 - － 鳩を売る者たち：レビ記 5:7 もし小羊に手のとどかない時は、山ばと二羽か、家ばとのひな二羽かを、彼が犯した罪のために償いとして主に携えてきて、一羽を罪祭に、一羽を燔祭にしなければならない。
 - * レビ記 12:8 もしその女が小羊に手の届かないときは、山ばと二羽か、家ばとのひな二羽かを取って、一つを燔祭、一つを罪祭とし、祭司はその女のために、あがないをしなければな

らない。こうして女は清まるであろう』。

- [DQ] それぞれ、どのようなことをしている人なのでしょう。
 - [A] 宮の庭で商売をしていたひとの邪魔をした。
 - * おそらく、ささげ物を売っている人々や、神殿に納めるお金のための換金であろう。
 - [Q] 売り買いをしているのと、はとを売るのは、違うのでしょうか。
- [DQ] このイエスの行為は、（公的に認められている商売を邪魔をする）犯罪ではないのでしょうか。
 - メシアの権威？
- [DQ] かなり、乱暴に見えますが、もっと、他の方法はなかったのでしょうか。The Lesser Evil？

3. イエスは、どのように言っていますか。(17)

- 17 そして、彼らに教えて言われた、『『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった』。
- イザヤ 56:7 わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、／わが祈の家のうちで楽しませる、／彼らの燔祭と犠牲とは、／わが祭壇の上に受けいられる。わが家はすべての民の／祈の家となえられるからである』。
 - 主が喜ぶひとのことが書かれ、そのあとに、その人達を導き、その結果として、主の家が、祈りの家と唱えられるとしている。
 - [注] すべての民、すべての国民は、一般的には異邦人を含む。マタイでは省略。また、商売は、異邦人の庭で開かれていたとされる。
- エレミヤ 7:11 わたしの名をもって、となえられるこの家が、あなたがたの目には盗賊の巣と見えるのか。わたし自身、そう見たと主は言われる。
 - 主が喜ばれることをしていないことを指摘しており、商売などについて、言っているわけではない。
- [DQ] イエスが伝えたかったことは、何なのでしょう。イエスにとって神の宮（神殿）とは、どのようなものなのでしょう。
 - [A] 神が臨在される場所、聖霊が住む場所（？）
 - [A] 神殿にふさわしい状況ではなかったかもしれないが、そこまで、怒ることもなかったのではないだろうか。ただ、不適切な状況があることを、指摘した面はあるように見える。乱暴だが、他の改善があってよいのではないかと思われるし、イエスの伝えたいメッセージの中心では、ないように見える。

- 神の宮（神殿）について：宗教行事を行う場所ではなく、より普遍的な神殿を意識していたのかもしれない。

－ 1 コリ 3:16,17 あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。17 もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。

－ 1 コリ 6:19 あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。

－ 2 コリ 6:16 神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、／「わたしは彼らの間に住み、／かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、／彼らはわたしの民となるであろう」。

－（より抽象的）エペソ 2:21 このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、

4. イエスの行動は弟子たちに、人々にどううつったでしょうか。祭司長や律法学者たちはどう考えましたか。 (18)

- 18 祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。彼らは、群衆がみなその教に感動していたので、イエスを恐れていたからである。

- [DQ] イエスのどんな教えに群衆は感動し、イエスを恐れていたのでしょうか。

－ [A] ここには、神殿のことしか、書かれていない。ガリラヤから来た人々は、すでに、いろいろと聞いてかもしれないが、エルサレムの人々、ここではじめてイエスにであったひとたちは、どんな教えを聞いたのだろうか。

－ [Q] イエスを恐れる（：恐怖を感じる、心配をする、畏れかしこむ）とは、どんな状態を言っているのでしょうか。

- [DQ] 弟子たちは、いつものイエス様として、当然と思ったのでしょうか。ガリラヤでは、似たことはありましたか。かたくなさを嘆いたことはあった。

- [DQ] 祭司長や、律法学者が、イエスを殺そうとまで思ったのは、何が理由なのでしょうか。

－ [A] 宗教活動の本質を、変えようとしたことかもしれない。宮きよめは、関係はしているが、それがコアだとは、思えない。

- [考察] イエスを殺そうと計る理由は、いくつかあっただろうが、ほんとうに、この宮清めが、祭司長や、律法学者の怒りを持ったとは思えない。むしろ、イエスの行為は、問題だと感じただろうが。

5. イエスは、このあとどうしますか。(19)

- 19 夕方になると、イエスと弟子たちとは、いつものように都の外に出て行った。
- [DQ] なにか、あっさり書かれています、この日は、宮清めだけだったのでしょうか。
- [DQ] いつものようにとは、なにを意味しているのでしょうか。都では、このようなことがしばしばあったのでしょうか。エルサレムには、何回も来ていますか。

ー [A] マルコでは、このときが、初めてであるが、ヨハネでは、何回も、エルサレムに来ていることが書かれています。なにかを飛ばしているように思われる。

- [考察] エルサレムに来ていたことを、書かない理由が何かしらあったのだろう。そして、「いつものように都の外に出て行った」としか書けなかった理由があったのだろう。
- [DQ] マタイと、ルカでは、どのようなことが最後に書かれていますか。

ー マタイ 21:14-16 14 そのとき宮の庭で、盲人や足なえがみもとにきたので、彼らをおいやしになった。15 しかし、祭司長、律法学者たちは、イエスがなされた不思議なわざを見、また宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て立腹し、16 イエスに言った、「あの子たちが何を言っているのか、お聞きですか」。イエスは彼らに言われた、「そうだ、聞いている。あなたがたは『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』とあるのを読んだことがないのか」。

ー ルカ 19:47,48 47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者また民衆の重立った者たちはイエスを殺そうと思っていたが、48 民衆がみな熱心にイエスに耳を傾けていたので、手のくたし方がなかった。

ー [A] マタイと、ルカでは、祭司長、律法学者たちが、イエスを殺そうとする、または、反対する、それなりに、理解できる理由が、書かれています。(マルコを読んだひとには、理解できなかったから、書いたのだろう。)

* マタイ：不思議なわざ、こどもたちが、ダビデの子に、ホサナと叫んでいる。

* ルカ：毎日宮で教えておられた。民衆は、それに、熱心に耳を傾けていた。

6. 他の福音書、特に、ヨハネによる福音書の記事と比較してみましょう。どんなことがわかりますか。

- [DQ] ヨハネ 2:17：「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」とはどのような意味ですか。
- [DQ] ヨハネ 2:18-22：ユダヤ人、イエスでどのようなやり取りをしますか。弟子たちは、どう理解しますか。
- [DQ] ヨハネでは、いつ頃のこととして書かれていますか。

ー かなり初期のことだとされている。過越の祭りが近いことは同じ。(2:13)

ー この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。(2:20b)

* BC19 から、ヘロデが再建を始めたと言われている。AD28 頃と思われる。

- [注] マタイとルカには、日付（翌日）の記述はない。「それから」としており、エルサレム入場時のこととしている。そのほうが、自然にも見える。しかし、マルコの記述が不自然とした、編集とも考えられる。
- [DQ] ヨハネでは、イエスが、どのようなことをし、その行為の理由は何だと言っていますか。
 - 2:14-16 14 そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、15 なわでむちを造り、羊も牛もみな宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、16 はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。
 - [A] 自分の父の家だと考えている。
 - 2:17-22 17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。18 そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。20 そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。21 イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。22 それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。
 - [A] 「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」とまで言っている。ちょっと早すぎるように思う。
 - [参照] マルコ 14:58 「わたしたちはこの人が『わたしは手で造ったこの神殿を打ちこわし、三日の後に手で造られない別の神殿を建てるのだ』と言うのを聞きました」。マルコ 15:29 そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって言った、「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、（マタイ 26:61, 27:64）（これが実際いつの時点でどのように言われたかはマルコには書かれていない。訴えられた理由でもあるので、明言は避けたのか。）
 - [参照] 詩篇 69:9（または 10）あなたの家を思う熱心がわたしを食いつくし、／あなたをそしる者のそしりが／わたしに及んだからです。
 - [参照] 46 年（BC20/19 年開始）このとき、AD28 年頃となる。イエスの十字架は AD30 の逾越祭頃と思われる。
- [DQ] 同じ時のことなののでしょうか。それとも、こんなことが、何度もあったのでしょうか。

4.66.8 メモ

- 個人的には、宮清めは、ヨハネの記述のように、受難週とよばれる最後の週ではなく、早い時期に、あったほうが自然であるように、感じる。マルコの記述をみると、エルサレム入城を堂々とおこない、宮を見て回られてから、そのままベタニヤに帰り、次の朝、早くに、エルサレムに戻ったように書いてあるが、この日にしたこととしては、宮清めだけである。不自然にも感じる。それと、メッセージをこめて、これだけの行為をするなら、前の日に見て回ったときに、しても良さそうである。そのときには、なにもせず、次の日の朝、このような行為をするのは、不自然である。ここでは、祭司長、律法学者との緊張関係（イエスを殺そうとする）と、群衆の様子を描くために、この記事を入れたように見える。ヨハネは「さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。」(2:13)と始まり、このときに、何人かの弟子たちも同行したかもしれない。「アンデレと、もう一人の弟子」(1:10)は、一緒にいたのではないだろうか。目撃証言として書かれている。マルコでは、エルサレムや、ベタニヤの人たちを、守る必要があったからだろうか、エルサレム入城を書いたヨハネに登場するラザロのことは、なにも書かれていない。しかし、何らかの背景をかかないと、緊張状態を描けなかったのではないだろうか。それが、この記事であると思われる。ただし、ヨハネでは、エルサレム入城を日曜日に設定しているようだが、そのあとは、ギリシャ人、イエスに会いに来る。人の子はあげられる。イエスを信じない者たち。イエスの言葉による裁きと、12章にあるが、すぐ木曜日の夜と思われる、13章に突入し、ほとんど、時系列的な、出来事は記していない。拙速には、判断しにくいかもしれない。
- イエスの行為として、最初の頃なら、激昂してということも、理解できる。ヨハネが、記す「17 弟子たちは、『あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう』と書いてあることを思い出した。」も、ある程度の興奮状態を表現しているとも見える。一方、最後のエルサレム入城のときは、イエスは、隠れて入るつもりは、まったくないことを示すためもあり、ふさわしいと考えた、子ろばに乗って入ったのであろうが、イエスの行為は「いつものように」と、ふつうなのだろう。神殿を壊したなら、このころに言うのは、預言としては、早いように思うが、イエスの中では、神殿についての思い、自分という神殿、さまざまなものが、ここで結びついたのかもしれない。マルコでは、イザヤからの引用を中心として描いている。それは、正統にみえるので。マルコの不自然な記述を考え、それに、マタイや、ルカが、注をつけていることを考えると、当時も、不自然と考えたのだろう。それは、致し方ないことだったのだろう。ベタニヤや、エルサレム周辺のひとたちを危険にさらさないために。

4.67 11:12-14, 20-26 いちじくの木を呪う/枯れたいちじくの木を教訓

12 翌日、彼らがベタニヤから出かけてきたとき、イエスは空腹をおぼえられた。13 そして、葉の茂ったいちじくの木を遠くからごらんになって、その木に何かありはしないかと近寄られたが、葉のほかは何も見当らなかった。いちじくの季節でなかったからである。14 そこで、イエスはその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。

20 朝はやく道をとおっていると、彼らは先のいちじくが根元から枯れているのを見た。21 そこで、ペテロは思い出してイエスに言った、「先生、ごらん下さい。あなたがのろわれたいちじくが、枯れています」。22 イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。23 よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言ひ、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないうで信じるなら、そのとおりに成るであろう。24 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。25 また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。26 [もしゆるさないならば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださらないであろう]」。

4.67.1 マタイ 21:18-19, 20-22

18 朝はやく都に帰るとき、イエスは空腹をおぼえられた。19 そして、道のかたわらに一本のいちじくの木があるのを見て、そこに行かれたが、ただ葉のほかは何も見当らなかった。そこでその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえには実がならないように」と言われた。すると、いちじくの木はたちまち枯れた。

20 弟子たちはこれを見て、驚いて言った、「いちじくがどうして、こうすぐに枯れたのでしょうか」。21 イエスは答えて言われた、「よく聞いておくがよい。もしあなたがたが信じて疑わないうならば、このいちじくにあったようなことが、できるばかりでなく、この山にむかって、動き出して海の中にはいれと言っても、そのとおりになるであろう。22 また、祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう」。

[マルコによる福音書 11 章 12-14, 20-26 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 11 章 12-26 節福音書対照表](#)

4.67.2 問い

1. 背景を確認しましょう。どのようなときのことですか。(12)
2. イエスは、どのようなことをしますか。(13-14)
3. このいちじくは、どうなりますか。(20,21)
4. いちじくのことから、イエスは弟子たちにどのようなことを教えていますか。(22-24)
5. 祈りとゆるしにはどのような関係があるのでしょうか。(25,(26))
6. あなたは、このいちじくの話から何を学びますか。

4.67.3 参照

- [パークレイ] 過越の季節は4月の半ばごろ、日陰の場所にあるいちじくの木は、3月早々には葉をつけるだろうが、しかし、5月の終わりか、6月にならないと実をつけないものである。マルコは、いちじくの季節ではなかったと言っている。
- 旧約/新約聖書におけるいちじく
 - － 創世記 3:7 すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。
 - － 民数記 13:23 ついに彼らはエシコルの谷に行って、そこで一ふさのぶどうの枝を切り取り、これを棒をもって、ふたりでかつぎ、また、ざくろといちじくをも取った。
 - － 民数記 20:3 どうしてあなたがたはわれわれをエジプトから上らせて、この悪い所に導き入れたのですか。ここには種をまく所もなく、いちじくもなく、ぶどうもなく、ざくろもなく、また飲む水もありません」。
 - － 士師記 9:10,11 もろもろの木はまたいちじくの木に言った、『きてわたしたちの王になってください』。しかしいちじくの木は彼らに言った、『わたしはどうしてわたしの甘味と、わたしの良い果実とを捨てて行って、もろもろの木を治めることができますよう』。
 - － サムエル記上 25:18 その時、アピガイルは急いでパン二百、ぶどう酒の皮袋二つ、調理した羊五頭、いり麦五セア、ほしぶどう百ふさ、ほしいちじくのかたまり二百を取って、ろばにのせ、
 - － サムエル記上 30:12 また彼らはほしいちじくのかたまり一つと、ほしぶどう二ふさを彼に与えた。彼は食べて元気を回復した。彼は三日三夜、パンを食べず、水を飲んでいなかったからである。
 - － 列王紀上 4:25 ソロモンの一生の間、ユダとイスラエルはダンからベエルシバに至るまで、安らかにおのおの自分たちのぶどうの木の下と、いちじくの木の下に住んだ。
 - － 列王紀下 18:31 あなたがたはヒゼキヤの言葉を聞いてはならない。アッスリヤの王はこう仰せられる、『あなたがたはわたしと和解して、わたしに降服せよ。そうすればあなたがたはおのおの自分のぶどうの実を食べ、おのおの自分のいちじくの実を食べ、おのおの自分の井戸の水を飲むことができるであろう。
 - － 列王紀下 20:7 そしてイザヤは言った、「干しいちじくのひとつかたまりを持ってきて、それを腫物につけさせなさい。そうすれば直るでしょう」。(ヒゼキヤへのことば)
 - － 歴代志上 12:40 また彼らに近い人々はイッサカル、ゼブルン、ナフタリなどの遠い所の者まで、ろば、らくだ、騾馬、牛などに食物を負わせて来た。すなわち麦粉の食物、干いちじく、干ぶどう、ぶどう酒、油、牛、羊などを多く携えて来た。これはイスラエルに喜びがあったからである。

- － ネヘミヤ記 13:15 そのころわたしはユダのうちで安息日に酒ぶねを踏む者、麦束を持ってきて、ろばに負わす者、またぶどう酒、ぶどう、いちじくおよびさまざまな荷を安息日にエルサレムに運び入れる者を見たので、わたしは彼らが食物を売っていたその日に彼らを戒めた。
- － 詩篇 78:47 神はひょうをもつて彼らのぶどうの木を枯らし、／霜をもつて彼らのいちじく桑の木を枯らされた。(出エジプト時のしるし)
- － 詩篇 105:33 主は彼らのぶどうの木と、いちじくの木とを撃ち、／彼らの国のもろもろの木を折り砕かれた。(出エジプト時のしるし)
- － 箴言 27:18 いちじくの木を守る者はその実を食べる、／主人を尊ぶ者は誉を得る。
- － 雅歌 2:13 いちじくの木はその実を結び、／ぶどうの木は花咲いて、かんばしいにおいを放つ。わが愛する者よ、わが麗しき者よ、／立って、出てきなさい。
- － イザヤ書 28:4 肥えた谷のかしらにある／しばみゆく花の美しい飾りは、／夏前に熟した初なりのいちじくのような。人がこれを見ると、取るやいなや、食べてしまう。
- － イザヤ書 34:4 天の万象は衰え、／もろもろの天は巻物のように巻かれ、／その万象はぶどうの木から葉の落ちるように、／いちじくの木から葉の落ちるように落ちる。(国々への裁き)
- － イザヤ書 36:16 あなたがたはヒゼキヤの言葉を聞いてはならない。アッシリヤの王はこう仰せられる、『あなたがたは、わたしと和ぼくして、わたしに降服せよ。そうすれば、あなたがたはめいめい自分のぶどうの実を食べ、めいめい自分のいちじくの実を食べ、めいめい自分の井戸の水を飲むことができる。』
- － イザヤ書 38:21 イザヤは言った、「干いちじくのひとかたまりを持ってこさせ、それを腫物につけなさい。そうすれば直るでしょう」。
- － エレミヤ書 5:17 彼らはあなたが刈り入れた物と、／あなたの糧食とを食い尽し、／あなたのむすこ娘を食い尽し、／あなたの羊と牛を食い尽し、／あなたのぶどうの木といちじくの木を食い尽し、／またつるぎをもって、あなたが頼みとする／堅固な町々を滅ぼす」。
- － エレミヤ書 8:13 主は言われる、わたしが集めようと思うとき、／ぶどうの木にぶどうはなく、／いちじくの木に、いちじくはなく、／葉さえ、しぼんでいる。わたしが彼らに与えたものも、／彼らを離れて、うせ去った」。
- － エレミヤ書 24:1-8 バビロンの王ネブカデレザルがユダの王エホヤキムの子エコニヤおよびユダの君たちと工匠と鍛冶をエルサレムからバビロンに移して後、主はわたしにこの幻をお示しになった。見よ、主の宮の前に置かれているいちじくを盛った二つのかごがあった。2 その一つのかごには、はじめて熟したような非常に良いいちじくがあり、ほかのかごには非常に悪くて食べられないほどの悪いいちじくが入っていた。3 主はわたしに、「エレミヤよ、何を見るか」と言われた。わたしは、「いちじくです。その良いいちじくは非常によく、悪いほうのいちじくは非常に悪くて、食べられません」

と答えた。4 主の言葉がまたわたしに臨んだ、5 「イスラエルの神、主はこう仰せられる、この所からカルデヤびとの地に追いやったユダの捕われ人を、わたしはこの良いいちじくのように顧みて恵もう。6 わたしは彼らに目をかけてこれを恵み、彼らをこの地に返し、彼らを建てて倒さず、植えて抜かない。7 わたしは彼らにわたしが主であることを知る心を与えよう。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。彼らは一心にわたしのもとに帰ってくる。8 主はこう仰せられる、わたしはユダの王ゼデキヤとそのつかさたち、およびエルサレムの人の残ってこの地にいる者、ならびにエジプトの地に住んでいる者を、この悪くて食べられない悪いいちじくのようにしよう。

- エレミヤ書 29:17 『万軍の主はこう言われる、見よ、わたしは、つるぎと、ききんと、疫病を彼らに送り、彼らを悪くて食べられない腐ったいちじくのようにしてしまう。
- ホセア書 2:12 わたしはまた彼女が先に『これはわたしの恋人らが、／わたしに与えた報酬だ』と言った彼女の／ぶどうの木と、いちじくの木とを荒し、／これを林とし、／野の獣にこれを食わせる。
- ホセア書 9:10 わたしはイスラエルを荒野のぶどうのように見、／あなたがたの先祖たちを、／いちじくの木 of 初めに結んだ初なりのように見た。ところが彼らはバアル・ペオルへ行き、／身をバアルにゆだね、／彼らが愛した物と同じように憎むべき者となった。
- ヨエル書 1:12 ぶどうの木は枯れ、いちじくの木はしおれ、／ざくろ、やし、りんご、野のすべての木はしぼんだ。それゆえ楽しみは人の子らからかれうせた。
- ヨエル書 2:22 野のもろもろの獣よ、恐るな。荒野の牧草はもえいで、木はその実を結び、／いちじくの木とぶどうの木とは豊かに実る。
- アモス書 4:9 「わたしは立ち枯れと腐り穂とをもって／あなたがたを撃ち、／あなたがたの園と、ぶどう畑とを荒した。いちじくの木とオリブの木とは、いなごが食った。それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」と／主は言われる。
- アモス書 7:14 アモスはアマジヤに答えた、「わたしは預言者でもなく、また預言者の子でもない。わたしは牧者である。わたしはいちじく桑の木を作る者である。
- ミカ書 4:4 彼らは皆そのぶどうの木の下に座し、／そのいちじくの木の下にいる。彼らを恐れさせる者はない。これは万軍の主がその口で語られたことである。
- ミカ書 7:1 わざわいなるかな、わたしは夏のくだものを集める時のように、／ぶどうの収穫の残りを集める時のようになった。食らうべきぶどうはなく、／わが心の好む初なりのいちじくもない。
- ナホム 3:12 あなたのとりでは皆／初なりの実をもつ、いちじくの木のような。これをゆすぶればその実は落ちて、／食べようとする者の口にはいる。
- ハバクク書 3:17 いちじくの木は花咲かず、／ぶどうの木は実らず、／オリブの木の産はむなしくなり、／田畑は食物を生ぜず、／おりには羊が絶え、／牛舎には牛がいなくなる。

- － ハガイ書 2:19 種はなお、納屋にあるか。ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの木、オリーブの木もまだ実を結ばない。しかし、わたしはこの日から、あなたがたに恵みを与える」。
- － ゼカリヤ書 3:10 万軍の主は言われる、その日には、あなたがたはめいめいその隣り人を招いて、ぶどうの木の下、いちじくの木の下に座すのである」。
- － マタイによる福音書 7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。(ルカ 6:44 木はそれぞれ、その実でわかる。いばらからいちじくを取ることはないし、野ばらからぶどうを摘むこともない。)
- － ルカによる福音書 19:4 それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。
- － ヨハネによる福音書 1:48-50 ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。49 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見た、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。
- － ヤコブの手紙 3:12 わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリーブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができようか。塩水も、甘い水を出すことはできない。
- － ヨハネの黙示録 6:13 天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落されるように、地に落ちた。
- いちじくに関する他の記述（マルコ 13:28-32、マタイ 24:32-35、ルカ 21:29-33）28 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。29 そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。31 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。
- ルカ 13:6-9 それから、この譬を語られた、「ある人が自分のぶどう園にいちじくの木を植えて置いたので、実を捜しにきたが見つからなかった。7 そこで園丁に言った、『わたしは三年間も実を求めて、このいちじくの木のところに来たのだが、いまだに見あたらない。その木を切り倒してしまえ。なんのために、土地をむだにふさがせて置くのか』。8 すると園丁は答えて言った、『ご主人様、ことしも、そのままにしておいてください。そのまわりを掘って肥料をやって見ますから。9 それで来年実がなりましたら結構です。もしそれでもだめでしたら、切り倒してください』。
- － ルカのためのもの、またルカには、枯れたいちじくの話は含まれていない。
- イエスの十字架に架かった日

- [Gemini-1.5-Pro] AD30 年説：この年は、福音書に記されている出来事と、当時の歴史的な出来事（例：ピラトのユダヤ総督在任期間、カヤパの大祭司在任期間）との整合性が比較的高い。特に、ルカによる福音書 3 章 1 節では、ヨハネがバプテスマを始めたのが「ティベリウス皇帝の治世の 15 年」と記されており、これは AD28 年または 29 年に当たると考えられています。イエスはヨハネからバプテスマを受けた後、宣教を開始したとされているため、十字架刑が AD30 年頃であった可能性が出てきます。AD30 年の過越の祭りは、ユダヤ暦ニサンの月 15 日にあたり、グレゴリオ暦では 4 月 7 日（金曜日）にあたります。
 - [GPT-4o] ルカの福音書によれば、ヨハネの洗礼活動はティベリウス帝の治世 15 年目に始まったとされています（ルカ 3:1-3）。ティベリウス帝は AD 14 に即位したため、15 年目は AD 28-29 に該当します。イエスの公生涯がこの頃に始まったと考えられます。イエスの公生涯が約 3 年だったとすると、AD 28-29 に始まり、AD 30 に十字架に架けられたと計算されます。AD 30 の過越の祭りが金曜日に当たるため、イエスが金曜日に十字架に架けられたという伝統的な考えと一致します。
 - 春分のあとの満月の日：紀元 28 年：4 月 17 日、紀元 29 年：4 月 6 日、紀元 30 年：4 月 6 日、紀元 31 年：4 月 25 日、紀元 32 年：4 月 17 日紀元 33 年：4 月 6 日（個人的には、紀元 30 年：4 月 6 日が一番可能性が高いと考えてている。）
 - とうごまや、いちじくが、虫などに食われて、急に枯れることはあるのでしょうか。
 - [Gemini-1.5-Pro] はい、トウゴマもイチジクも、虫害によって急に枯れることがあります。
- トウゴマの場合：
- * 主な害虫：ワタノメイガ、ハスモンヨトウ、フタテンチビヨコバイなど
 - * 被害状況：これらの害虫は、葉や茎を食害したり、吸汁したりすることで、植物を弱らせます。大量発生すると、短期間で枯死することもあります。
- イチジクの場合：
- * 主な害虫：カミキリムシ類（ゴマダラカミキリ、キボシカミキリなど）、クワカミキリ、イチジクヒトリモドキなど
 - * 被害状況：カミキリムシ類の幼虫は、幹や枝に侵入して内部を食害するため、樹勢が著しく衰え、枯死に至ることもあります。イチジクヒトリモドキは、葉を大量に食害し、樹勢を弱らせます。
- 「神を信じなさい」「心に疑わないで信じる」

— 22

・ 23

,

, .

- 神を信じるとは、信じるとは、一体どういうことだろう。

- 「ゆるし」 : i. to send away, ii. to permit, allow, not to hinder, to give up a thing to a person, iii. to leave, go away from one = 「いいよ」「いいことにしてあげなさい」 ぐらいな感じ。

— 24 , , , . 25 K , , .

— : The KJV translates Strong's G863 in the following manner: leave (52x), forgive (47x), suffer (14x), let (8x), forsake (6x), let alone (6x), miscellaneous (13x)

* Mark 1:18, 20, 31, 34, 2:5, 7, 9, 10, 11, 3:28, 4:12, 36, 6:19, 37, 7:8, 12, 27, 8:13, 10:14, 29, 11:6, 16, 25, 12:12, 19, 20, 22, 13:2, 34, 14:6, 50, 15:36, 37

— : i. to fall beside or near something, ii. a lapse or deviation from truth and uprightness = 「ちょっとそれてしまう」 あやまちまで強くない。

4.67.4 記録

- 日時：2024 年 9 月 26 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.67.5 問いについて

1. 背景を確認しましょう。どのようなときのことですか。（12）

- 12 翌日、彼らがベタニヤから出かけてきたとき、イエスは空腹をおぼえられた。
- [DQ] 朝食は摂らなかったのでしょうか。弟子たちは空腹を覚えなかったのでしょうか。
- [A] 翌日とは、エルサレム入城の次の日である。入城のあと、「11 こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。」とあり、この節につながっている。ベタニヤは、エルサレムから 3km 程度とされているので、当時としては、それほど、遠い距離ではなかったろう。1 節に登場する、ベテファゲは、いちじくの家または、未熟ないちじくの家を意味するので、このあたりには、いちじくの木が何本も生えていたのだろう。
- [A] マタイでは、宮きよめを先に記し、そのあとで、「21:18 朝はやく都に帰るとき、イエスは空腹をおぼえられた。」と始めている。朝早くなのだらう。朝食はとらなかったと思われる。ただ、イエスだけが、空腹を覚えたとの記述は、少し奇異に感じられる。弟子たちは、空腹を覚えなかったのだろうか。
- [Q] 朝だと思われるが、この日は、昼食はどうするつもりだったのでしょうか。ほしいいちじくや、ほしぶどうなど、何ももっていなかったのでしょうか。弟子たちはどうするつもりだったのでしょうか。

- [A] いろいろと不自然。おそらく、空腹は、それほど重要ではない。よくは、わからないが。
- このあとに、挟まる形で、宮きよめの記事がある。時系列が、このままであるとすると、この日は、イエスは、かなり痼癪持ち、ご機嫌ななめであったように見える。十分な理解をしたかどうかは別として、このエピソードが語られた時、イエスがご機嫌ななめとして、この記事の挿入し、宮きよめの記事を入れ、あとから、弟子たちを教えられた記事を入れたのかもしれない。不自然に感じされる記事ではあるが、意図的にそうしたのかもしれない。
- [参考] 空腹について (: i. to hunger, be hungry a. to suffer want, b. to be needy, ii. metaph. to crave ardently, to seek with eager desire)
 - ー マルコ 8:3 もし、彼らを空腹のまま家に帰らせるなら、途中で弱り切ってしまうであろう。それに、なかには遠くからきている者もある」。(マタイ 15:32)
 - ー マタイ 4:2 そして、四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。(ルカ 4:2)
 - ー マタイ 5:6 義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、／彼らは飽き足りようになるであろう。
 - ー マタイ 12:1 そのころ、ある安息日に、イエスは麦畑の中を通られた。すると弟子たちは、空腹であったので、穂を摘んで食べはじめた。(マルコ 2:23-28 においても空腹が想定されている)
 - ー マタイ 25:35,37,42,44 わたしが空腹のとき
 - ー ルカ 1:53 飢えている者を良いもので飽かせ、／富んでいる者を空腹のまま帰らせなさい。(聖書協会共同訳では何も持たせずに追い払い)

2. イエスは、どのようなことをしますか。(13-14)

- 13 そして、葉の茂ったいちじくの木を遠くからごらんになって、その木に何かありはしないかと近寄られたが、葉のほかは何も見当らなかった。いちじくの季節でなかったからである。14 そこで、イエスはその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がいないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。
- [DQ] いちじくとはどのような木ですか。

- ー [A] 日本国語大辞典（精選版）いちじく【無花果・映日果】《名》

クワ科の落葉小高木。小アジア原産で江戸初期に渡来し、各地で栽植される。高さ二～五メートル。樹皮は褐色。多く分枝し、幹、枝は湾曲する。葉は掌状に三～五裂し、裏面に細毛をもつ。春から夏に倒卵形で肉厚の花囊をつける。花囊は中に無数の白い小さな花をもち、暗紫色か白緑色に熟し、食用となる。乾した茎、葉、実は駆虫、緩下剤、下痢止めになり、液汁は疣いぼ、うおのめなどに効くという。とうがき。ほろろいし。《季・秋》

植物「いぬびわ（犬枇杷）」の異名。〔大和本草（1709）〕

- － 過越の季節は4月の半ばごろ、日陰の場所にあるいちじくの木は、3月早々には葉をつけるが、5月の終わりか、6月にならないと実をつけない。イエスが十字架に架けられる年として、有力とされるAD30年説を用いると、過越の日は、4月7日（金）、もし、この記事が月曜日であるなら、4月3日（月）となり、おそらく、いちじくで実をならしているものは非常に少ないと思われる。
 - － 6月ごろ初生りのいちじく、8,9月に秋いちじく、年に二三回収穫された。
- [DQ] 実がないのは、いちじくの季節ではなかったからと書いてありますが、イエスは、それを知らなかったのでしょうか。
 - － [Q] マタイには、この記述がありません（省略してあります）が、それは、なぜだと思えますか。
 - － [参照] マルコ 13:28-32、28 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。（マタイ 24:32-35、ルカ 21:29-33）
 - － ここには、実がなる時期については書かれていないし、このいちじくを呪ったときに弟子たちに教えてもらったという可能性を否定はできないが、ここでは「あなたがたがそう言っている」という言い方はせず、一般的に、このような記述があるということは、イエスは、十分知識を持っていたのだろう。いちじくは、パレスチナでは一般的な植物だから。
- [DQ] イエスは実のないいちじくの木に対してどのように言われますか。
 - － [A] 「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がないように」
 - * マタイは「そこでその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえには実がならないように」と言われた。すると、いちじくの木はたちまち枯れた。」
 - － かなり厳しい言葉である。イエスは、どのような気持ちで、このようなことを言ったのだろうか。宮きよめの前に、このようなことを記載した可能性もあるが、ほかにもあるのだろう。あとで、祈りのことを語っていることからして、もう少し、他の意味もあると思われる。何らかの実がないことへの失望であろうか。自分が十分、使命を果たせなかったとの意識が入っているか。
 - － 悪魔の試みのときも含め、自分のためには、奇跡的な方法を使われないイエスの呪い、魔術的なとも言える力によって、いちじくが枯れてしまったように見える。（マルコでは翌日、マタイではたちまち枯れている。）
- [DQ] 役に立たないものは滅ぼされるということでしょうか。
 - － そのようにも取れる。これに関しては、ルカ 13:6-9 参照。
 - － 空腹のときに食べさせるというのは、素晴らしいこと。（マタイ 25）

3. このいちじくは、どうなりますか。（20,21）

- 20 朝はやく道をとおっていると、彼らは先のいちじくが根元から枯れているのを見た。21 そこで、ペテロは思い出してイエスに言った、「先生、ごらん下さい。あなたがのろわれたいちじくが、枯れています」。
- [DQ] ペテロはなぜこのように言ったのでしょうか。
 - － [A] 驚いたから？イエスの行動の意味をいつも知りたいから？
- 朝早くとあるが、翌日とは書かれていない。ペテロは、まず、思い出してと言い、イエスはいちじくを呪ったと認識している。根本から枯れているというのは、「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がないように」の、完全な実現。
- [DQ] 具体的には、何が起こったのでしょうか。
- [A] 一般的には、「葉の茂ったいちじくの木」が、急に枯れるというのは、現実的ではない。しかし、この会話から、それが奇跡だとは、言っていないようである。
 - － 虫害は可能性あり：
 - * 主な害虫：カミキリムシ類（ゴマダラカミキリ、キボシカミキリなど）、クワカミキリ、イチジクヒトリモドキなど
 - * カミキリムシ類の幼虫は、幹や枝に侵入して内部を食害するため、樹勢が著しく衰え、枯死に至ることもあります。イチジクヒトリモドキは、葉を大量に食害し、樹勢を弱らせます。
 - － 詩篇 78:47 神はひょうをもって彼らのぶどうの木を枯らし、／霜をもって彼らのいちじく桑の木を枯らされた。
 - － 詩篇 105:33 主は彼らのぶどうの木と、いちじくの木とを撃ち、／彼らの国のもろもろの木を折り砕かれた。
 - － アモス書 4:9 「わたしは立ち枯れと腐り穂とをもって／あなたがたを撃ち、／あなたがたの園と、ぶどう畑とを荒した。いちじくの木とオリブの木とは、いなごが食った。それでも、あなたがたはわたしに帰らなかった」と／主は言われる。

4. いちじくのことから、イエスは弟子たちにどのようなことを教えていますか。(22-24)

- 22 イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。23 よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないうで信じるなら、そのとおりに成るであろう。24 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。
- [A] 「心に疑わないうで神を信じる」ことを、まずは、説いている。そして、「祈り求めることは、すでにかなえられたと信じる」ことでもある。しかし、このことは、神をどのような方と捉えるかによっては、課題も生じる。

- 弟子たちを教える、通常モードに戻っている。特殊なことから、重要なこと、そして、一番伝えたいことへと深くなっていくのは、イエスの教えかたの特徴のようにも見える。
- [DQ] 山に『立ち上がって、海に飛び込め』といえは本当に、そのとおりになるのでしょうか。
 - [A] 祈りの力というより、神の力を示しているのだろう。だから、「神を信じなさい」と言っている。
 - 「山」は困難の象徴か、また、オリーブ山からは、死海を望むことができたと言われている。’
- [DQ] すでに得られたと信じればよいのでしょうか。
 - [A] 信じることなしには、かなえられないのだろう。しかし、何を信じるかがたいせつ。神様がそのことをお望みなら、実現するのだろう。
 - おそらく、そう単純ではない。神を信じるとは、神様に信頼することであり、それは、神様がどのような方かをよく知っていることとも関係していると思われる。イエスにとっては、日々の交わりから、明らかなのだろうが、一般的にはそうではない。

5. 祈りとゆるしにはどのような関係があるのでしょうか。(25,(26))

- 25 また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。26 「もしゆるさないならば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださらないであろう」。
- [DQ] なぜ、ゆるしのことが出てくるのでしょうか。
- [A] わたし（イエス）のようなことをしてはいけないよと言っているのだろうか。
- [A] 最初の、いちじくのことにもどり、勝手な解釈をしてはいけないことを戒めているのだろう。また、神を信じることは、神様との関係を確認すること、神様に赦していただいている存在であることの認識だろうか。
- 「ゆるし」とひらがなで書かれているが、非常に一般的な、アフィエーミ「いいことにしてあげなさい」ぐらいの意味と捉えたほうがよいのかもしれない。「あやまち」パラブトーマも「ちょっとそれてしまう」という軽い意味にもとれる。ずれが本質と理解することもできないことはないが。日常的な課題を問うているようにも見える。
- [参照] 立って祈る
 - ネヘミヤ記 9:4 その時エシュア、バニ、カデミエル、シバニヤ、ブンニ、セレビヤ、バニ、ケナニらはレビびとの台の上に立ち、大声をあげて、その神、主に呼ばわった。
 - エレミヤ書 18:20 悪をもって善に報いるべきでしょうか。しかもなお彼らはわたしの命を取ろうとして／穴を掘りました。わたしがあなたの前に立って、／彼らのことを良く言い、／あなたの

憤りを止めようとしたのを／覚えてください。

- － マタイ 6:5 また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。
- － ルカ 18:11-14 パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。12 わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとししないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。14 あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。
- [参照] マタイ 6:12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、／わたしたちの負債をもおゆるしてください。

6. あなたは、このいちじくの話から何を学びますか。

- 「宮きよめ」の挿入に問題があったのかもしれない。それが、ペテロなのかどうかは、不明だが。すくなくとも、間違った理解をしないように、最後に、神様との関係に戻っている。
- 実りのない、イスラエルに対する神のさばきとする解釈もある。そのようなイメージがイエスにもあったかもしれない。
- このいちじくを枯らす記事は、不自然に感じる。宮きよめと連動し、ユダヤや、エルサレム付近の人々を守るために、そこでの出来事を書かないために、起こっている不自然さをぬぐうためであるかもしれない。いずれにしても、最後には、祈りと、神への信頼と、ゆるしというイエスの本来的な教えにつなげている。

4.67.6 メモ

- ルカ 13:6-9 は、いちじくの話に関し、実がならないと、すぐイエスに呪われて、根こそぎ、枯れてしまう、すなわち、滅びてしまうのかという問いにこたえるための、物語であるように思われる。ルカが見つけたのか。イエスの性質から、このようなことも言われたとしているのか、祈りの教えから、こちらに導かれたのか。悔い改めなければ滅びるというメッセージのあとに置かれており、それは、自然だとも言える。
- 個人的には、この地域の信仰者を守るため、ユダヤやエルサレムでの活動を書かなかったしわ寄せが背景にあったので、宮きよめの直前に連動させてここに置かれているのではないと思うが、実際に、このようなこともあったのかもしれない。すなわち、イエスが空腹のゆえに、不機嫌になり、それがゆえに、乱暴なこともしてしまう。イエスは、「食をむさぼる者、大酒を飲む者（マタイ 11:18,19、ルカ 7:33,34）」だとも言われており、あまり、聖人君主にしないほうが良いのかもしれない。それを、弟子たちは眺めている。同時に、そうであっても、不機嫌ではおわらずに、かならず、大切なことを教えてくださるのが、イ

エスだったのだろう。最後の部分は、罪の赦しのように大げさに考えず、身近なものと結びつけたほうが良いかもしれない。神様との信頼関係こそが大切なのだろう。

- 祈りについて、または、願いの実現について、簡単には、語れない。ここでは、最初に、「神を信じなさい」とはじめ、「よく聞いておくがよい。」という重要なことを語るときの、慣用句ではじめ、まずは、神に信頼することから、「だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言ひ、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。」と続ける。おそらく、眼の前に、オリーブ山があり、死海が見えているかどうかは別として、その光景も想像できる場所だったのだろう。つづけて「24 そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。」というが、危険も伴う。神様への信頼、そして、神様が何を望まれるかが理解できていなければ、利己的に、祈りを使ってしまう可能性もあるからである。ここで、「25 また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。」と日常に引き戻すように、ゆるしについて語っている。ここでは、恨み事とあるので、それはなにかと考えてしまうが、「だれかに対して何らかのわだかまり (anything you have against someone)」ぐらいの意味で、それを、許容 () しなさいとしているように見える。つづけて「あなたがたのあやまち () 」とあるものも、英語では、trespasses とも訳されている。それが、神様のご性質なのだろう。常に、小さな過誤も、ゆるして下さっているということなのだろう。

4.68 11:27-33 権威についての問答

27 彼らはまたエルサレムにきた。そして、イエスが宮の内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、みもとにきて言った、28 「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。29 そこで、イエスは彼らに言われた、「一つだけ尋ねよう。それに答えてほしい。そうしたら、何の権威によって、わたしがこれらの事をするのか、あなたがたに言おう。30 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。31 すると、彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言え、では、なぜ彼を信じなかったのか、とイエスは言うだろう。32 しかし、人からだと言え、.....」。彼らは群衆を恐れていた。人々が皆、ヨハネを預言者だとほんとうに思っていたからである。33 それで彼らは「わたしたちにはわかりません」と答えた。するとイエスは言われた、「わたしも何の権威によってこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい」。

4.68.1 マタイ 21:23-27

23 イエスが宮にはいられたとき、祭司長たちや民の長老たちが、その教えておられる所にきて言った、「何の権威によって、これらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。24 そこでイエスは彼らに言われた、「わたしも一つだけ尋ねよう。あなたがたがそれに答えてくれたなら、わたしも、何の権威によってこれらの事をするのか、あなたがたに言おう。25 ヨハネのバプテスマはどこからきたのであったか。天からであったか、人からであったか」。すると、彼らは互に論じて言った、「もし天から

たとえば、では、なぜ彼を信じなかったのか、とイエスは言うだろう。26 しかし、もし人からだと言え
ば、群衆が恐ろしい。人々がみなヨハネを預言者と思っているのだから」。27 そこで彼らは、「わたしたち
にはわかりません」と答えた。すると、イエスが言われた、「わたしも何の権威によってこれらの事をする
のか、あなたがたに言うまい。

4.68.2 ルカ 20:1-8

1 ある日、イエスが宮で人々に教え、福音を宣べておられると、祭司長や律法学者たちが、長老たちと共
に近寄ってきて、2 イエスに言った、「何の権威によってこれらの事をするのですか。そうする権威をあな
たに与えたのはだれですか、わたしたちに言ってください」。3 そこで、イエスは答えて言われた、「わた
しも、ひと言たずねよう。それに答えてほしい。4 ヨハネのバプテスマは、天からであったか、人からで
あったか」。5 彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言え、では、なぜ彼を信じなかったのか、と
イエスは言うだろう。6 しかし、もし人からだと言え、民衆はみな、ヨハネを預言者だと信じているか
ら、わたしたちを石で打つだろう」。7 それで彼らは「どこからか、知りません」と答えた。8 イエスはこ
れに対して言われた、「わたしも何の権威によってこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい」。

[マルコによる福音書 11 章 27-33 節福音書対照表](#)

4.68.3 問い

1. 背景を復習しましょう。これまで、エルサレムの宮ではどのようなことがありましたか。(15-19)
2. 祭司長、律法学者、長老たちは、なぜこのような質問をするのでしょうか。(27,28)
3. イエスはどのように答えますか。(29,30)
4. 祭司長、律法学者、長老たちは、どのようなことを考えますか。(31-33)
5. 祭司長、律法学者、長老たちは、なぜバプテスマのヨハネを受け入れなかったのでしょうか。
6. イエスがこの人たちに問うていることは何なのでしょうか。

4.68.4 参照

- 受難週のエルサレムの地図 [[The Passion Week in Jerusalem](#)]
- ヘロデ神殿 [[Herod's Temple](#)]
 - The Temple at Jerusalem in Jesus' Day, Clyde W. Votaw [[pdf](#)]
 - 2つの回廊、ソロモンの回廊（東）と王の回廊（南）コリント式の約12メートルの高さの円柱で、王の回廊のものは、直径二メートル、162本の柱（バークレイ）

- [参考] ストア学派 (ゼノン BC343-262) は、ストア・ポイキレ (II (Stoa Poikile) Painted Portico 柱廊) を歩きながら教えた。
- [正統なラビ] 最低三人のラビの前で、恩師のラビによって按手される必要がある。(新聖書注解：マタイ：増田誉雄)
- 議員・役人たちは、イエスをどう見ていたか。
 - － [参考] 15:43 アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。
 - － [参考] ヨハネ 7:25,26 さて、エルサレムのある人たちが言った、「この人は人々が殺そうと思っている者ではないか。26 見よ、彼は公然と語っているのに、人々はこれに対して何も言わない。役人たちは、この人がキリストであることを、ほんとうに知っているのではなからうか。
 - － [参考] ヨハネ 7:45-51 さて、下役どもが祭司長たちやパリサイ人たちのところに帰ってきたので、彼らはその下役どもに言った、「なぜ、あの人を連れてこなかったのか」。46 下役どもは答えた、「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」。47 パリサイ人たちが彼らに答えた、「あなたがたまでが、だまされているのではないか。48 役人たちやパリサイ人たちの中で、ひとりでも彼を信じた者があつたらうか。49 律法をわきまえないこの群衆は、のろわれている」。50 彼らの中のひとりで、以前にイエスに会いにきたことのあるニコデモが、彼らに言った、51 「わたしたちの律法によれば、まずその人の言い分を聞き、その人のしたことを知った上でなければ、さばくことをしないのではないか」。52 彼らは答えて言った、「あなたもガリラヤ出なのか。よく調べてみなさい、ガリラヤからは預言者が出るものではないことが、わかるだろう」。
 - － [参考] ヨハネ 12:42,43 しかし、役人たちの中にも、イエスを信じた者が多かったが、パリサイ人をはばかり、告白はしなかった。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。43 彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。
 - * [参考] ヨハネ 18:15-18 シモン・ペテロともうひとりの弟子とが、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いであつたので、イエスと一緒に大祭司の中庭にはいった。16 しかし、ペテロは外で戸口に立っていた。すると大祭司の知り合いであるその弟子が、外に出て行って門番の女に話し、ペテロを内に入れてやった。17 すると、この門番の女がペテロに言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではありませんか」。ペテロは「いや、そうではない」と答えた。18 僕や下役どもは、寒い時であつたので、炭火をおこし、そこに立ってあつた。ペテロもまた彼らに交じり、立ってあつた。

4.68.5 記録

- 日時：2024 年 10 月 3 日午後 7 時半～9 時半

- 出席（対面）3名、参加（遠隔）1名

4.68.6 問いについて

1. 背景を復習しましょう。これまで、エルサレムの宮ではどのようなことがありましたか。（15-19）

- マルコ：エルサレム入城後は、中を見て回り、宮きよめのみ。
 - －（入城）「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。11 こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。
 - －（宮きよめ）11:15-17 15 それから、彼らはエルサレムにきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り買いしていた人々を追い出しはじめ、両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえし、16 また器ものを持って宮の庭を通り抜けるのをお許しにならなかった。17 そして、彼らに教えて言われた、「『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしまった」
 - * 追い出し始めの、「はじめ」が気になる。完璧に、なくしたのではないのかもしれない。
 - * いちじくの挿入記事でも「いのり」について教えている。さらに赦しについての述べられている。主の御心を聞くことこそが、たいせつだと言っているのかもしれない。
 - － 27 彼らはまたエルサレムにきた。そして、イエスが宮の内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、みもとにきて言った、
 - * 教えていたことに対して問われているのかもしれない。正式な教師ではない。ガリラヤでは巡回教師。預言者であれば、おそらく、問題はないだろうが、それは、サンヘドリンとはぶつかるであろう。
- マタイ 21（直前には、エルサレム入城、いちじくの木を呪う）：「ダビデの子にホサナ」との言葉をもってエルサレム入城、直後に、宮きよめ。以下が追加されている。
 - － 14 そのとき宮の庭で、盲人や足なえがみもとにきたので、彼らをおいやしになった。15 しかし、祭司長、律法学者たちは、イエスがなされた不思議なわざを見、また宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て立腹し、16 イエスに言った、「あの子たちが何を言っているのか、お聞きですか」。イエスは彼らに言われた、「そうだ、聞いている。あなたがたは『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』とあるのを読んだことがないのか」。
- ルカ 19（直前には、エルサレム入城、都の陥落・崩壊、宮きよめ、その直後が権威についての問答）：
 - － 38 「主の御名によってきたる王に、／祝福あれ。天には平和、／いと高きところには栄光あれ」。

39 ところが、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った、「先生、あなたの弟子たちをおしかり下さい」。40 答えて言われた、「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」。との声とともに、エルサレム入城

－ 47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者また民衆の重立った者たちはイエスを殺そうと思っていたが、48 民衆がみな熱心にイエスに耳を傾けていたので、手のくたしうがなかった。

- ヨハネ 12（参考：エルサレム入城、ギリシャ人、イエスに会いに来る、人の子は上げられる、イエスを信じない者たち、イエスの言葉による裁き、弟子の足を洗うにつながる。月曜日から木曜日までほとんど記されていない。）

2. 祭司長、律法学者、長老たちは、なぜこのような質問をするのでしょうか。(27,28)

- 27 彼らはまたエルサレムにきた。そして、イエスが宮の内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、みもとにきて言った、28 「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。

- [DQ] 「祭司長、律法学者、長老たち」とはどのような人たちですか。

－ (: chief priest, high priest) (: a clerk, scribe, esp.a public servant, secretary, recorder, whose office and influence differed in different states, in the Bible, a man learned in the Mosaic law and in the sacred writings, an interpreter, teacher.)
(: i. elder, of age, ii. a term of rank or office, among the Jews, members of the great council or Sanhedrin (because in early times the rulers of the people, judges, etc., were selected from elderly men))

－ いずれも複数で書かれている。祭司長は退任しても、祭司長と言われていたようだが、それでも、異常に感じる。集合的に、最高議会をあらわし、そこから、派遣された人たちだろうか。

－ 書記、ラビ、長老たち、サンヘドリン（最高議会）からの代理人？

- [DQ] イエスが何をしているときに、この人たちは質問をしますか。

－ [A] 「イエスが宮の内を歩いておられると」とあるが、これは、おそらく、教えておられた時なのだろう。(マタイ 21:23a, ルカ 20:1) スコラ（柱廊）

* マタイ 21:23 イエスが宮にはいられたとき、祭司長たちや民の長老たちが、その教えておられる所にきて言った、

* ルカ 20:1 1 ある日、イエスが宮で人々に教え、福音を宣べておられると、祭司長や律法学者たちが、長老たちと共に近寄ってきて、

* 歩きながら教えるのが通常。

- [DQ] 「これらの事」とは何を指しているのでしょうか。

ー [A] 宮きよめをさすと考えるのが自然。しかし、この時、どのような状況であったかは書かれておらず不明。

* 15 それから、彼らはエルサレムにきた。イエスは宮に入り、宮の庭で売り買いしていた人々を追出しはじめ、両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえし、16 また器ものを持って宮の庭を通り抜けるのをお許しにならなかった。

ー マルコでは、宮きよめ以外何もしてない。弟子たちを引き連れて歩き回っているのは目立ったかもしれないが。

- [DQ] どのような答えが想定されているのでしょうか。

ー [A] 神殿は祈りをする場所で売り買いはよくない。 自分の判断（人から） だれがその権威を授けたか 神は現状を望んでおられない（神（天）から） 神の神殿での騒ぎを神は喜ばれるのか。

3. イエスはどのように答えますか。(29,30)

- 29 そこで、イエスは彼らに言われた、「一つだけ尋ねよう。それに答えてほしい。そうしたら、何の権威によって、わたしがこれらの事をするのか、あなたがたに言おう。30 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。

- [A] ヨハネのバプテスマは天からか、人からか？

- [DQ] バプテスマのヨハネについて知っていることを上げてみましょう。活動、教え、その後。マルコから。

ー マルコ 1:1-8 洗礼者ヨハネ、悔い改めの洗礼を述べ伝える。(マタイ 3:1-12, ルカ 3:1-9, 15-17, ヨハネ 1:19-28)

* 1:4 罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた。

* 1:7 わたしよりも力のあるかたが、あとからおいでになる。

* 1:6 このヨハネは、らくだの毛ごろもを身にまとい、腰に皮の帯をしめ、いなごと野蜜とを食物としていた。(これは何を意味しているのでしょうか) もともとは、祭司の家系？(ルカ 1)

ー マルコ 1:9-11 イエス、洗礼を受ける (マタイ 3:13-17, ルカ 3:21-22)

ー マルコ 1:14,15 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、15 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。(マタイ 4:12-17, ルカ 4:14-15)

ー マルコ 2:18-22 断食についての問答 (マタイ 9:14-17, ルカ 5:33-39)

* 2:18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、断食をしていた。そこで人々がきて、イエスに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ人の弟子たちが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。

ー マルコ 6:14-29 洗礼者ヨハネ、殺される。(マタイ 14:1-12, ルカ 9:7-9)

* 6:14-16 さて、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王の耳にはいった。ある人々は「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」と言い、15 他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。16 ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首を切ったあのヨハネがよみがえったのだ」と言った。

ー マルコ 8:28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言い、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。(マタイ 16:14, ルカ 9:19)

ー マルコ 11:30-32 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。31 すると、彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言え、では、なぜ彼を信じなかったのか、とイエスは言うだろう。32 しかし、人からだと言え.....」。彼らは群衆を恐れていた。人々が皆、ヨハネを預言者だとほんとうに思っていたからである。(マタイ 21:25,26, ルカ 20:4-6)

• [DQ] なぜ、イエスは、問いに答えないのでしょう。

ー [A] マタイ 7:6 聖なるものを犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。恐らく彼らはそれらを足で踏みつけ、向きなおってあなたがたにかみついてくるであろう。(これが理由だろうか)

ー [A] 良心に問いかけている？

• [DQ] 答えても良かったのではないのでしょうか。

ー [参考] 使徒 4:7 そして、そのまん中に使徒たちを立たせて尋問した、「あなたがたは、いったい、なんの権威、また、だれの名によって、このことをしたのか」。4:10 あなたがたご一同も、またイスラエルの人々全体も、知っててもらいたい。この人が元気になってみんなの前に立っているのは、ひとえに、あなたがたが十字架につけて殺したのを、神が死人の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのである。

• [DQ] 「ヨハネのバプテスマ」について、聞いていますが、「バプテスマのヨハネ」とは、どう違うのでしょうか。

ー [A] 人についてではなく、もう少し本質的なことに目を向けるためか。

4. 祭司長、律法学者、長老たちは、どのようなことを考えますか。(31-33)

• 31 すると、彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言え、では、なぜ彼を信じなかったのか、とイエスは言うだろう。32 しかし、人からだと言え.....」。彼らは群衆を恐れていた。人々が皆、ヨハ

ネを預言者だとほんとうに思っていたからである。33 それで彼らは「わたしたちにはわかりません」と答えた。するとイエスは言われた、「わたしも何の權威によってこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい」。

- [A] 天から：なぜ彼（が自分を指し示していること）を信じなかったのか。人から：群衆は、天から、神から遣わされた預言者だと信じていた。

- [DQ] このひとたちは、結局どうしますか。

- [A] 「わたしたちにはわかりません」

- [Rep] イエス：「わたしも何の權威によってこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい」

- [DQ] 問いの本質は何だったのでしょうか。

- [A] 真理（神の御心をもとめて）に向き合うかどうか。表面的なことではなく、本質を問うている。

- [DQ] この人たちは、何を知らなかったのでしょうか。

- [A] 言葉尻を捉えるだけで、なにかを知りたいわけではなかったのだろうか。

- [A] 求める気持ちよりも、排除の根拠が欲しかったのだろうか。真理を探究することはしない。

- [DQ] 議員たちは、イエスについてどう見ていたのだろうか。一致した見解を持っていたのだろうか。

- [参考] 15:43 アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。

- [参考] ヨハネ 7:1 そののち、イエスはガリラヤを巡回しておられた。ユダヤ人たちが自分を殺そうとしていたので、ユダヤを巡回しようとはされなかった。

- [参考] ヨハネ 7:25-27, 32, 40-52

- [参考] ヨハネ 12:42,43 しかし、役人（：a ruler, commander, chief, leader）たちの中にも、イエスを信じた者が多かったが、パリサイ人をはばかって、告白はしなかった。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。43 彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。

5. 祭司長、律法学者、長老たちは、なぜバプテスマのヨハネを受け入れなかったのでしょうか。

- [A] 大きな問題がないと考えていたときに、悔い改めを説いていたからか。
- [A] 本質的な問い、神からのメッセージとして悔い改めるかどうか。その問いに向き合えない。
- 自分たちは、神の御心、真理を知っている。少なくとも、群衆とは比較にならない知識をもっている。
- 真理を探究するのではなく、自分たちがもっている知識で判断しようとする。
- 自分たちの優越によって、築いてきたものを手放せない。したがって、悔い改めには至れない。

6. イエスがこの人たちに問うていることは何なのでしょう。

- [A] 神の御心（真理）を求めて、それに従う生き方。祈り。
- [A] 自分の弱さを知り、悔い改めて生きる生き方。
- [A] 悔い改めて、神の国（神の支配）の中に身を委ねる生き方。
- わたしたちにも問うている。単なるレトリックとして、この問いを受け取ってはいけない。
- [DQ] ヨハネのパプテスマは、人からであったか、天からであったか。
 - [A] ヨハネの問いとまずは、向き合うこと。それは、我々にとって何を意味しているのだろうか。
- [DQ] イエスはこの問いについてはどう考えていたのでしょうか。
 - [A] 結局のところ、一人ひとりの信仰告白、真理との向き合い方が問われている。

4.68.7 メモ

- エルサレム入城から、マルコによる福音書の筆致が変化しているように見える。今回の箇所などは、3つの福音書が非常に似通っている。議論にしっかり向き合っている。いままでの、行動中心、Jesus in Actionの記述とは異なるように見える。軽々に判断はできないが、マルコのもとにすでに、共通の伝承があったのかもしれない。
- 何の権威によってこれらのことをするのか。とは、何を聞いているのだろう。答えることが難しい問いに、問いで返すという技術として捉えてはいけないのだろう。文脈からすると、宮きよめ、神殿での礼拝の改革のように見える。本当にそうなのだろうか。もう少し、本質的な問いをしているのかもしれない。なぜ、教えるのか。なぜ、いやしなどの行為をおこなうのか。
- この前の、宮きよめも、いちじくも、祈りについて教えている。この権威についての箇所も、結局、謙虚に、神様のみこころを求めることを教えているのか。祭司長、律法学者、長老たちには、まさに、御心に聴く部分が欠けていたと言っているのだろうか。おそらく、わたしたちも同じだろう。すくなくとも、イエスにとっては、神様との交わりのなかで、神様の御心をもとめる日常がたいせつだったのではと思う。
- 「互いに論じて言った」とあるが、そう簡単に、答えが出なかったのだろうか。正直な思いと、立場上のことなど、さまざまに入り混じっていたのだろうか。

4.69 12:1-12 「ぶどう園の農夫」のたとえ

1 そこでイエスは譬で彼らに語り出された、「ある人がぶどう園を造り、垣をめぐらし、また酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。2 季節になったので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を取り立てさせようとした。3 すると、彼らはその

僕をつかまえて、袋だだきにし、から手で帰らせた。4 また他の僕を送ったが、その頭をなぐって侮辱した。5 そこでまた他の者を送ったが、今度はそれを殺してしまった。そのほか、なお大ぜいの者を送ったが、彼らを打ったり、殺したりした。6 ここに、もうひとりの者がいた。それは彼の愛子であった。自分の子は敬ってくれるだろうと思って、最後に彼をつかわした。7 すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、8 彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。9 このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。10 あなたがたは、この聖書の句を読んだことがないのか。『家造りらの捨てた石が／隅のかしら石になった。11 これは主がなされたことで、／わたしたちの目には不思議に見える』。12 彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。

4.69.1 マタイ 21:33-46

33 もう一つの譬を聞きなさい。ある所に、ひとりの家の主人がいたが、ぶどう園を造り、かきをめぐらし、その中に酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。34 収穫の季節がきたので、その分け前を受け取ろうとして、僕たちを農夫のところへ送った。35 すると、農夫たちは、その僕たちをつかまえて、ひとりを袋だだきにし、ひとりを殺し、もうひとりを石で打ち殺した。36 また別に、前よりも多くの僕たちを送ったが、彼らをも同じようにあしらった。37 しかし、最後に、わたしの子は敬ってくれるだろうと思って、主人はその子を彼らの所につかわした。38 すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう』。39 そして彼をつかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺した。40 このぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか。41 彼らはイエスに言った、「悪人どもを、皆殺しにして、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに、そのぶどう園を貸し与えるでしょう」。42 イエスは彼らに言われた、「あなたがたは、聖書でまだ読んだことがないのか、／『家造りらの捨てた石が／隅のかしら石になった。これは主がなされたことで、／わたしたちの目には不思議に見える』。43 それだから、あなたがたに言うが、神の国はあなたがたから取り上げられて、御国にふさわしい実を結ぶような異邦人に与えられるであろう。44 またその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう」。45 祭司長たちやパリサイ人たちがこの譬を聞いたとき、自分たちのことをさして言うておられることを悟ったので、46 イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者だと思っていたからである。

4.69.2 ルカ 20:9-19

9 そこでイエスは次の譬を民衆に語り出された、「ある人がぶどう園を造って農夫たちに貸し、長い旅に出た。10 季節になったので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を出させようとした。ところが、農夫たちは、その僕を袋だだきにし、から手で帰らせた。11 そこで彼はもうひとりの僕を送った。彼らはその僕も袋だだきにし、侮辱を加えて、から手で帰らせた。12 そこで更に三人

目の者を送ったが、彼らはこの者も、傷を負わせて追い出した。13 ぶどう園の主人は言った、『どうしようか。そうだ、わたしの愛子をつかわそう。これなら、たぶん敬ってくれるだろう』。14 ところが、農夫たちは彼を見ると、『あれはあと取りだ。あれを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と互に話し合い、15 彼をぶどう園の外に追い出して殺した。そのさい、ぶどう園の主人は、彼らをどうするだろうか。16 彼は出てきて、この農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。人々はこれを聞いて、「そんなことがあってはなりません」と言った。17 そこで、イエスは彼らを見つめて言われた、「それでは、／『家造りらの捨てた石が／隅のかしら石になった』／と書いてあるのは、どういうことか。18 すべてその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう」。19 このとき、律法学者たちや祭司長たちはイエスに手をかけようと思ったが、民衆を恐れた。いまの譬が自分たちに当てて語られたのだと、悟ったからである。

マルコによる福音書 12 章 1-12 節福音書対照表

4.69.3 問い

1. エルサレムではこれまでにどのようなことがありましたか。
2. 1 節から 8 節のたとえの要点をまとめてみましょう。(1-8)
3. ある人(ぶどう園の主人)、ぶどう園、農夫たち、僕たち、ぶどう園の主人(彼)の息子はそれぞれだれを表していますか。(1-8)
4. イエスはこのたとえのなかで、どんな預言をしていますか。(9)
5. 旧約聖書からの引用は何をあらわしていますか。(10,11)
6. イエスは、このたとえで、何を伝えているのでしょうか。(12)

4.69.4 参照

- マタイは、この前に、「二人息子」のたとえ(21:28-32)
 - ー あなたがたはどう思うか。ある人にふたりの子があつたが、兄のところに行って言った、『子よ、きょう、ぶどう園へ行行って働いてくれ』。29 すると彼は『おとうさん、参ります』と答えたが、行かなかった。30 また弟のところいきて同じように言った。彼は『いやです』と答えたが、あとから心を変えて、出かけた。31 このふたりのうち、どちらが父の望みどおりにしたのか。彼らは言った、「あとの者です」。イエスは言われた、「よく聞きなさい。取税人や遊女は、あなたがたより先に神の国にはいる。32 というのは、ヨハネがあなたがたのところいきて、義の道を説いたのに、あなたがたは彼を信じなかった。ところが、取税人や遊女は彼を信じた。あなたがたはそれを見たのに、あとになっても、心をいれ変えて彼を信じようとしなかった。
- ぶどう園：

キリストにより、神によろこばれる霊のいけにえを、ささげなさい。6 聖書にこう書いてある、／「見よ、わたしはシオンに、／選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、／決して、失望に終ることがない」。7 この石は、より頼んでいるあなたがたには尊いものであるが、不信仰な人々には「家造りらの捨てた石で、隅のかしら石となったもの」、8 また「つまずきの石、妨げの岩」である。しかし、彼らがつまずくのは、御言に従わないからであって、彼らは、実は、そうなるように定められていたのである。9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

- － ローマ 9:32-33 なぜであるか。信仰によらないで、行いによって得られるかのように、追い求めたからである。彼らは、つまずきの石につまずいたのである。33 「見よ、わたしはシオンに、／つまずきの石、さまたげの岩を置く。それにより頼む者は、失望に終ることがない」／と書いてあるとおりである。
- － エペソ 2:20 またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。
- ・ イザヤ 8:14,15 主はイスラエルの二つの家には聖所となり、またさまたげの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には網となり、わなとなる。15 多くの者はこれにつまずき、かつ倒れ、破られ、わなにかげられ、捕えられる」。
- ・ ローマ 11:22 神の慈愛と峻厳とを見よ。神の峻厳は倒れた者たちに向けられ、神の慈愛は、もしあなたがその慈愛にとどまっているなら、あなたに向けられる。そうでないと、あなたも切り取られるであろう。

4.69.5 記録

- ・ 日時：2024 年 10 月 10 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）3 名、参加（遠隔）3 名

4.69.6 問いについて

1. エルサレムではこれまでにどのようなことがありましたか。

- ・ [A] エルサレム入城、宮きよめ - 神殿から商人を追い出す (11:18 18 祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。)、権威についての問答、「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。 (11:28) 「ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか」 (30)
- ・ [DQ] このたとえは誰に向けて語られましたか。 (1a)
 - － [Q] 「そこでイエスは譬で彼らに語り出された」の「彼ら」とは。
- ・ [DQ] どのような人たちとのやりとりの後にこのたとえが語られますか。これは、前の権威について

の問答からつながっているのでしょうか。

－ [A] 祭司長、律法学者、長老たち。おそらくつながっている。

* 「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。
(11:28) 「ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか」 (11:30)

－ マタイでは「二人の息子」のたとえ (21:28-32) が挟まり、「32 というのは、ヨハネがあなたがたのところにきて、義の道を説いたのに、あなたがたは彼を信じなかった。ところが、取税人や遊女は彼を信じた。あなたがたはそれを見たのに、あとになっても、心をいれ変えて彼を信じようとしなかった。」と結んでいる。そうであっても、マタイでは、このたとえの中の「どうするだろうか」に「彼ら」が答えている。マルコとルカは、この挿入はない。ただ、ルカでは「そんなことがあってはなりません。」 (20:16) の句が挿入されている。

－ いずれの場合も、前段の「権威についての問答」からつながっており、そこでは、イエスは、答えておられないが、ここでは、ヨハネのバプテスマは、天からか、人からかにも、ここで暗にはあるが、答えている。

2. 1 節から 8 節のたとえの要点をまとめてみましょう。(1-8)

- [DQ] 登場人物を上げてみましょう。
- [A] ある人 (ぶどう園の主人)、ぶどう園、農夫たち、僕たち、ぶどう園の主人 (彼) の息子
- [DQ] それぞれどのようなことをしたとされていますか。主人、農夫たち。しもべたちの役割は何ですか。

－ [Q] ぶどう園の主人は、ぶどう園にたいして、どのようにしていますか。

* ある人 (ぶどう園の主人) : ある人がぶどう園を造り、垣をめぐらし、また酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して (: give out, let out something)、旅に出かけた (: to go away into foreign parts, go abroad)。2 季節になった (: i due measure, ii. a measure of time, a larger or smaller portion of time) ので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を取り立てさせようとした。(中略) 6 ここに、もうひとりの者がいた。それは彼の愛子であった。自分の子は敬ってくれるだろうと思って、最後に彼をつかわした。

* [参考] イザヤ 5:1-7 わたしはわが愛する者のために、／そのぶどう畑についてのわが愛の歌をうたおう。わが愛する者は土肥えた小山の上に、／一つのぶどう畑をもっていた。2 彼はそれを掘りおこし、石を除き、／それに良いぶどうを植え、／その中に物見やぐらを建て、／またその中に酒ぶねを掘り、／良いぶどうの結ぶのを待ち望んだ。ところが結んだものは野ぶどうであった。

- － 農夫たち：3 すると、彼らはその僕をつかまえて、袋だだきにし、から手で帰らせた。4 また他の僕を送ったが、その頭をなぐって侮辱した。5 そこでまた他の者を送ったが、今度はそれを殺してしまった。そのほか、なお大ぜいの者を送ったが、彼らを打ったり、殺したりした。(中略) 7 すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、8 彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。

* [Q] 農夫たちは、なぜこれほどひどいことをするのでしょうか。

- ・ 3 すると、彼らはその僕をつかまえて、袋だだきにし、から手で帰らせた。
- ・ 4 また他の僕を送ったが、その頭をなぐって侮辱した。
- ・ 5 そこでまた他の者を送ったが、今度はそれを殺してしまった。
- ・ そのほか、なお大ぜいの者を送ったが、彼らを打ったり、殺したりした。
- ・ 6 ここに、もうひとりの者がいた。それは彼の愛子であった。自分の子は敬ってくれるだろうと思って、最後に彼をつかわした。7 すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、8 彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。

* [A] 主人について理解できていない。主人が農夫たちのことをよくわかっていない。お人好し。

- － 僕たち：ぶどう園の収穫の分け前を取り立て

* [Q] 僕の役割は何ですか。

* [A] 収穫を得る。

- － ぶどう園の主人（彼）の息子

- － [DQ] なぜ、息子は敬ってくれると考えたのでしょうか。

- － [A] 主には熱心だったのかもしれない。だから、欲はかいても、主には適切に対応してくれると思ったのだろうか。

3. ある人（ぶどう園の主人）、ぶどう園、農夫たち、僕たち、ぶどう園の主人（彼）の息子はそれぞれだれを表していますか。(1-8)

- ・ ある人がぶどう園を造り、垣をめぐらし、また酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。2 季節になったので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を取り立てさせようとした。3 すると、彼らはその僕をつかまえて、袋だだきにし、から手で帰らせた。4 また他の僕を送ったが、その頭をなぐって侮辱した。5 そこでまた他の者を送ったが、今度はそれを殺してしまった。そのほか、なお大ぜいの者を送ったが、彼らを打ったり、殺し

たりした。6 ここに、もうひとりの者がいた。それは彼の愛子であった。自分の子は敬ってくれるだろうと思って、最後に彼をつかわした。7 すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、8 彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。9 このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。

- ある人（ぶどう園の主人）：神
- ぶどう園：イスラエルの人々、神が愛するものたち
- 農夫たち：イスラエルの支配者たち、指導することを神に委ねられているものたち
- 僕たち：預言者たち、神の御心、直接の指示、指導に関する修正点を伝える人
 - － しもべ：モーセ（ヨシュア 1:1,2,7,13,15 主のしもべモーセ）、ヨシュア（ヨシュア 24:29 これらの事後、主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ）、ダビデ（サムエル記下 3:18 わたしのしもべダビデ）、
 - － アモス 3:7 まことに主なる神は／そのしもべである預言者にその隠れた事を／示さないでは、何事をもなされない。
 - － エレミヤ 7:25 あなたがたの先祖がエジプトの地を出た日から今日まで、わたしはわたしのしもべである預言者たちを日々彼らにつかわした。
 - － ゼカリヤ 1:6 しかしわたしのしもべである預言者たちに命じたわが言葉と、わが定めとは、あなたがたの先祖たちに及んだではないか。それで彼らは立ち返って言った、『万軍の主がわれわれの道にしたがい、おこないに従って、われわれに、なそうと思い定められたように、そのとおりにされたのだ』と。
 - － [DQ] 民の指導者や、人々は、多くの預言者を殺したのでしょうか。
 - * [A] 聞き従わなかったことは、書かれている。
 - * バプテスマのヨハネは、どうでしょうか。やはり、民の指導者に殺されたのでしょうか。
- ぶどう園の主人（彼）の息子：イエス
- [DQ] 主人が、ぶどう園にしたことは、何に対応しているのでしょうか。
 - － イザヤ 5:1-7 わたしはわが愛する者のために、／そのぶどう畑についてのわが愛の歌をうたおう。わが愛する者は土肥えた小山の上に、／一つのぶどう畑をもっていた。2 彼はそれを掘りおこし、石を除き、／それに良いぶどうを植え、／その中に物見やぐらを建て、／またその中に酒ぶねを掘り、／良いぶどうの結ぶのを待ち望んだ。ところが結んだものは野ぶどうであった。3 それで、エルサレムに住む者とユダの人々よ、／どうか、わたしとぶどう畑との間をさばけ。4 わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、／何かなすべきことがあるか。わたしは良いぶどうの結ぶのを待

ち望んだのに、／どうして野ぶどうを結んだのか。5 それで、わたしが、ぶどう畑になそうとすることを、／あなたがたに告げる。わたしはそのまがきを取り去って、／食い荒されるにまかせ、そのかきをとりこわして、／踏み荒されるにまかせる。6 わたしはこれを荒して、／刈り込むことも、耕すこともせず、／おどろと、いばらとを生えさせ、／また雲に命じて、その上に雨を降らさない。7 万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり、／主が喜んでそこに植えられた物は、／ユダの人々である。主はこれに公平を望まれたのに、／見よ、流血。正義を望まれたのに、／見よ、叫び。

－ [比較] ある人がぶどう園を造り、垣をめぐらし、また酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

* 彼はそれを掘りおこし、石を除き、[ぶどう園を造り、垣をめぐらし]／それに良いぶどうを植え、／その中に物見やぐらを建て、[やぐらを立て]／またその中に酒ぶねを掘り、[酒ぶねの穴を掘り]／良いぶどうの結ぶのを待ち望んだ。

* イザヤでは、よいぶどうを植えたのに、野ぶどうを結んだとなっている。ここでは、収穫を主人に与えないことが言われている。

- [DQ] 主人は、なぜ、農夫に、管理を委ねるのでしょうか。直接、人々に伝えないのでしょうか。
- [A] 時代的、特質があるかもしれないが、一般的には、難しいのかもしれない。どの時代にも、指導者は必要。
- [DQ] もし、祭司長、律法学者、長老たちが、農夫に、人々がぶどう園に、譬えられているとすると、どんな事をしたと言っているのでしょうか。
- [A] 預言者（主の御心を伝えるもの）のこばに向き合なかった。御心、主が喜ばれることをうけとって、人々にそのことを伝える役割を果たすのではなく、自分たちの優位性を主張したということだろうか。
- [DQ] なぜ、このようなことになってしまったのでしょうか。
- [A] ヨハネ 12:43 彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。

4. イエスはこのたとえのなかで、どんな預言をしていますか。(9)

- 9 このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。
- [DQ] マタイとルカも見てください。どのように描かれていますか。

－ マタイ 21:40,41 40 このぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか。41 彼らはイエスに言った、「悪人どもを、皆殺しにして、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに、そのぶどう園を貸し与えるでしょう」。

* 彼らが答えている。

ー ルカ 20:15b,16 そのさい、ぶどう園の主人は、彼らをどうするだろうか。16 彼は出てきて、この農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう」。人々はこれを聞いて、「そんなことがあってはなりません」と言った。

* イエスが答えているが、人々の言葉が追加されている。

ー この答えの部分は、なかったのではないだろうか。

- [DQ] 「農夫を殺し」とあるが、それは、何を意味しているのだろうか。
- [A] 基本的には不明だが、すくなくとも、ぶどう園の管理（貸すこと）はしなくなることは確かだろう。
- [DQ] 他の人々はどのような人を指すのでしょうか。
- [A] マルコには「他の人々」とあるだけで、書かれていない。
 - ー マタイ: 41b 季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たち。43b 御国にふさわしい実を結ぶような異邦人
 - ー ルカでも、「他の人々」とあるだけだが、同時に、「そんなことがあってはなりません」との人々のコメントが追加されている。

5. 旧約聖書からの引用は何をあらわしていますか。(10,11)

- 10 あなたがたは、この聖書の句を読んだことがないのか。『家造りらの捨てた石が／隅のかしら石になった。11 これは主がなされたことで、／わたしたちの目には不思議に見える』。
- [DQ] 家造りはなにに譬えられていますか。隅の頭石はなにに譬えられていますか。
- [A] 家造り：祭司長、律法学者、長老たちなど、民の指導者。しかし、同時に、背後に神様がおられる。隅の頭石：イエス。しかし、具体的にどうされるかは書かれていない。背後におられる家造りの神様が最後に置かれる大切な Corner Stone、Cap Stone となる。
- [Q] マタイや、ルカの引用は何を言っているのでしょうか。
 - ー [A] 石につまづき、打たれて、滅ぼされるということか。
 - ー マタイ 21:44 またその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう」。ルカ 20:18 すべてその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう」。
 - ー イザヤ 8:14 主はイスラエルの二つの家には聖所となり、またさまたげの石、つまづきの岩となり、エルサレムの住民には網となり、わなとなる。

- － ローマ 9:33 「見よ、わたしはシオンに、／つまずきの石、さまたげの岩を置く。それにより頼む者は、失望に終ることがない」／と書いてあるとおりである。
- － ペテロ前 2:8 また「つまずきの石、妨げの岩」である。しかし、彼らがつまずくのは、御言に従わないからであって、彼らは、実は、そうなるように定められていたのである。
- － ダニエル 2:44 それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです。45 一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と、青銅と、粘土と、銀と、金とを打ち砕いたのを、あなたが見られたのはこの事です。大いなる神がこの後に起るべきことを、王に知らされたのです。その夢はまことであって、この解き明かしは確かです」。

6. イエスは、このたとえで、何を伝えているのでしょうか。(12)

- 12 彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。
- [A] 直接的には、祭司長、律法学者、長老たちにむけて語られている。
- [DQ] 祭司長、律法学者、長老たちには、何を伝えているのでしょうか。
 - － 神から委ねられたもの（神様の御心を行うこと）にたいして、忠実ではなく、背いている。
 - － 神の、様々な配慮のもとで、委ねられているにもかかわらず、そのことを忘れてしまっている。
- [DQ] 「権威についての問答」(11:27-33) と関連しているとする、イエスは、祭司長、律法学者、長老たちの問い、そしてイエスが発した問いに、どのように語っているのでしょうか。
 - － 28 「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。
 - － 30 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。
- [A] イエスは、神の子で、祭司長、律法学者、長老たちによって殺されることになる。しかし、神は、イエスを、隅のかしら石とされる。さらに、民の指導者たちを滅ぼし、すなわち、神の仕事を担う責任から解き、人々を他の指導者のもとに置くこととなる。
- [DQ] では、祭司長、律法学者、長老たちは、どうすればよかったのでしょうか。
- [A] 神の配慮に感謝し、委ねられているものに忠実に、御心を行うこと。このもとで、民を愛し、導き、民がみ心を行うことによって、神様に喜んでいただくこと。

4.69.7 メモ

- マタイは、権威についての問答と、「ぶどう園と農夫」のたとえの間に「二人の息子」のたとえを挟んでいる。民の指導者たちは、ヨハネの（悔い改めの）バプテスマ（バプテスマのヨハネではない）を信じなかったが、群衆はヨハネが預言者だとほうとうに思っていた（マルコ 11:32、マタイ 21: 26、ルカ 20:6（ルカでは信じていた））。その心のうちをのぞきみた応答として、二人の息子のたとえを入れており、その最後には、イエスの言葉として「よく聞きなさい。取税人や遊女は、あなたがたより先に神の国にはいる。32 というのは、ヨハネがあなたがたのところにきて、義の道を説いたのに、あなたがたは彼を信じなかった。ところが、取税人や遊女は彼を信じた。あなたがたはそれを見たのに、あとになっても、心をいれ変えて彼を信じようとしなかった。」（マタイ 21:31b,32）と、あからさまに、語ってから、ぶどう園のたとえを「もう一つの譬を聞きなさい。」と始めている。たしかに、そのほうが、わかりやすい。実際には、どの時点でこれらのたとえが語られたかは不明だが。なお、ルカは、マルコと同様、権威についての問答の直後に、「ぶどう園と農夫」のたとえが置かれている。
- イエスは、なにを気づかせようとしたのだろうか。委ねられたものに忠実ではなかった？十分な配慮のもで委ねられたことに気付かなかった。神様との関係の中で、生かされていることを気づかない。自分たちへの愛を受け止められない。

4.70 12:13-17 皇帝への税金

13 さて、人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。14 彼らはきてイエスに言った、「先生、わたしたちはあなたが真実なかとで、だれをも、はばかられないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてください。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか」。15 イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしをためそうとするのか。デナリを持ってきて見せなさい」。16 彼らはそれを持ってきた。そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。彼らは「カイザルのです」と答えた。17 するとイエスは言われた、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。彼らはイエスに驚嘆した。

4.70.1 マタイ 22:15-22

15 そのときパリサイ人たちがきて、どうかしてイエスを言葉のわなにかけようと、相談をした。16 そして、彼らの弟子を、ヘロデ党の者たちと共に、イエスのもとにつかわして言わせた、「先生、わたしたちはあなたが真実なかとであって、真理に基いて神の道を教え、また、人に分け隔てをしないで、だれをもはばかられないことを知っています。17 それで、あなたはどう思われますか、答えてください。カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。18 イエスは彼らの悪意を知って言われた、「偽善者たちよ、なぜわたしをためそうとするのか。19 税に納める貨幣を見せなさい」。彼らはデナリ一つを持っ

てきた。20 そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。21 彼らは「カイザルのです」と答えた。するとイエスは言われた、「それでは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。22 彼らはこれを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。

4.70.2 ルカ 20:20-26

20 そこで、彼らは機会をうかがい、義人を装うまわし者どもを送って、イエスを総督の支配と権威とに引き渡すため、その言葉じりを捕えさせようとした。21 彼らは尋ねて言った、「先生、わたしたちは、あなたの語り教えられることが正しく、また、あなたは分け隔てをなさらず、真理に基いて神の道を教えておられることを、承知しています。22 ところで、カイザルに貢を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。23 イエスは彼らの悪巧みを見破って言われた、24 「デナリを見せなさい。それにあるのは、だれの肖像、だれの記号なのか」。「カイザルのです」と、彼らが答えた。25 するとイエスは彼らに言われた、「それなら、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。26 そこで彼らは、民衆の前でイエスの言葉じりを捕えることができず、その答に驚嘆して、黙ってしまった。

[マルコによる福音書 12 章 13-17 節福音書対照表](#)

4.70.3 問い

1. 神殿でのイエスが語り合ったことについて復習しましょう。(11:27-12:12)
2. ここでは、どのような人たちが、どのような動機から、どのような質問をしますか。(13-14)
3. 「税を納めるべきだ」または「税を納めないべきだ」と答えた場合どのようなことが予想されますか。
4. イエスはどのように対応し、どのように答えますか。(15-17a)
5. この人たちは、なぜ驚嘆したのでしょうか。(17b)
6. イエスは、どのようなことを教えているのだと思いますか。

4.70.4 参照

- マタイはこの前に「婚礼の祝宴」のたとえ（マタイ 22:1-14、参照ルカ 14:15-24）
- パリサイ派
 - － 荒井献「イエスとその時代」(p.33-34)：「パリサイ派」は「分離者」を意味するヘブライ語「バレーシーム」に由来すると言われる。彼らは実際、律法を守らない者、いわゆる「地の民（アム・ハ・アレツ）」の不浄から自己を「分離する」ことによって、宗教的清浄の理念を世俗内に貫徹し、その場を彼らの同志的結合「ハーベール」の中に形成していった。その際、彼らがとった手段は「律法」の敷衍解釈であった。その目的は元来、古き律法からその「理念」（ラティオ）を取り出し、それを解釈す

ることに依って新しい時代に生かそうとする、律法のいわゆる「合理化」(ラティオナリジールング)にあったのである(M. ヴェーバー)。彼らが、サドカイ派と違って、天使論や復活信仰を積極的に受け入れたのも、モーセ五書に固有な「神の使い」(天使)の概念や一元的人間観を、ペルシアから導入された新思想や、マカベア戦争(対シリア解放戦争(BC168-164))による殉教者の排出という新事態に即応せしめて解釈した結果なのである。このような法理念の現実的解釈に依拠する彼らの合理主義は、他国支配勢力に寄りかかった法の精神を曖昧にするサドカイ派、また、法を遵守しない「地の民」から自らを分離しただけではなく、マカベア戦争時代にともに「敬虔派」(ハシーディーム)としてシリアに対する抵抗運動を担ったかつての彼らの同志、いわゆる黙示文学的ラディカリストたちからも袂を分かっていた。このラディカリストたちは一後述するように彼らの中にも種々の分派が存在するが一終末の時に救世主(マスーアハ(メシア)＝キリスト(ギリシャ語)、本来は油注がれた者、つまり「王」の意)によって導入される神の国の故に、現実における一切の政治的・宗教的妥協を拒否し、その結果として霊的熱狂に基づく予言活動を行っていた。これに対してパリサイ派は、預言者の時代は既に終わったという認識に立ち、法理念のこの世における貫徹の中に神の国の建設を期待したのである。その結果、律法とその解釈に基づく細則を守らない者は救われないという、いわゆる律法主義に陥る傾向は十分にあったが、この傾向が前景に出てくるのは紀元後70年以後に、この派がユダヤ教正統派の位置についた以後のことであって、イエスの時代にこの傾向を読み取ることについては、慎重でなければならない。なお、主としてパリサイ派出身の律法学者たちは、「教師(ラビ)」と呼ばれて、ガリラヤを含む地方の各地に設立された「会堂(シュナゴーゲー)」で礼拝を司どり、民衆に律法の教育を与えた。最高法院においては、長老たちが保守勢力を代表したのに対して、彼らは都市(主としてエルサレム)の小市民階級を背景に革新勢力を代表した。彼ら自身多くの場合その日常生活においては、皮鞆(なめし)工・天幕作り、大工などの手工に携わっていたのである。

－ [パリサイ人] マルコでは 2:18, 24, 3:6, 7:3, 5, 8:11, 15, 10:2, 12:13

- * 2:18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、断食をしていた。そこで人々がきて、イエスに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ人の弟子たちとが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。
- * 2:24 すると、パリサイ人たちがイエスに言った、「いったい、彼らはなぜ、安息日にしてはならぬことをするのですか」。
- * 3:6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。
- * 7:1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。
- * 7:3 もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。
- * 7:5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。
- * 8:11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。
- * 8:15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。

- * 10:2 そのとき、パリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして質問した、「夫はその妻を出しても差しつかえないでしょうか」。
- * 12:13 さて、人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。
- 歴史的背景（バークレー）
 - BC4 ローマの属国としてパレスチナ全域を治めていたヘロデ大王の死
 - * ガリラヤとペレア：ヘロデ・アンティパス
 - * 荒野の地方、東北のテラコニテスとイツリアとアビレネ：ヘロデ・ピリポ
 - * ユダヤとサマリア：アケラオ
 - ・ 失政のためローマが介入、行政長官を置いて直轄
 - ・ 課税のため人口調査
 - ・ ガウロナイトのユダス「課税は奴隷制度導入より悪い」として反乱
 - 賦課された税
 - * 地租：すべての穀物の十分の一、産出されたぶどう酒や果実の五分之一（一部は現物、また一部は金銭）
 - * 所得税：人の収入の1%
 - * 人頭税：十四才から六十五歳までのすべての男子と、十二歳から六十五歳までのすべての女子に一人一デナリ
 - 皇帝ティベリウス（第二代 14-37）アウグスト・ティベリウス・カエサル
 - * 貨幣の表には、名前、裏には、ポンティフェクス・マクシムス（最高の神祇官）
 - 貨幣
 - * 権力の象徴
 - * 貨幣が通用するところでは主権がよく維持されていた
 - * 皇帝名が刻まれており、皇帝のもの
 - 国家のもとでの個人
 - * 国家は神によって制定され、法によって統治される
 - * 国家が人に与えるすべての恩恵を受け入れておきながら、すべての責任を拒否することはできない。
 - * もし、国家が正当な領域の中にとどまり、正当な要求をするなら、個人はそれに対して誠実と奉仕を尽くさなければならない。しかし、要するに国家と人は共に神に属する。ゆえに、国家と神の要求が重なるなら、神への忠誠が優先する。しかし、通常の下においては、ある人のキリスト教信仰は、彼を他の人々よりもよき市民にすべきである、ということも真理である。
- デナリオン銀貨（Denarius 何種類かある）[CoinArchives], [Roman Coins]
 - 表：ティベリウス帝 TI CAESAR DIVI AVG F AVGVSTVS (ティベリウス・カエサル神君アウグストゥスの息子にして皇帝) Tiberius Caesar Divi Augusti Filius Augustus, Tiberius Caesar, son of divine Augustus, emperor (Augustus)
 - 裏：リウィア坐像 PONTIF MAXIM (The pontifex maximus (Latin for “supreme pontiff”) was the chief high priest of the College of Pontiffs (Collegium Pontificum) in ancient Rome.)

- カイザル：イエスを訴える口実

- － そして訴え出て言った、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」。(ルカ 23:2)
- － これを聞いて、ピラトはイエスを許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫んで言った、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。(ヨハネ 19:12)
- － すると彼らは叫んだ、「殺せ、殺せ、彼を十字架につけよ」。ピラトは彼らに言った、「あなたがたの王を、わたしが十字架につけるのか」。祭司長たちは答えた、「わたしたちには、カイザル以外に王はありません」。(ヨハネ 19:15)
- － その人たちをヤソンが自分の家に迎え入れました。この連中は、みなカイザルの詔勅にそむいて行動し、イエスという別の王がいるなどと言っています」。(使徒 17:7)
- － パウロは「わたしは、ユダヤ人の律法に対しても、宮に対しても、またカイザルに対しても、なんら罪を犯したことはない」と弁明した。(使徒 25:8)
- － パウロは言った、「わたしは今、カイザルの法廷に立っています。わたしはこの法廷で裁判されるべきです。よくご承知のとおり、わたしはユダヤ人たちに、何も悪いことをしてはいません。もしわたしが悪いことをし、死に当るようなことをしているのなら、死を免れようとはしません。しかし、もし彼らの訴えることに、なんの根拠もないとすれば、だれもわたしを彼らに引き渡す権利はありません。わたしはカイザルに上訴します」。そこでフェストは、陪席の者たちと協議したうえ答えた、「おまえはカイザルに上訴を申し出た。カイザルのところに行くがよい」。(使徒 25:10-12)

- しかし、彼らをつまづかせないために、海に行って、つり針をたれなさい。そして最初につれた魚をとって、その口をあけると、銀貨一枚が見つかるであろう。それをとり出して、わたしとあなたのために納めなさい」。(マタイ 17:27)

- 取税人

- － マルコ 2:15,16 それから彼の家で、食事の席についておられたときのことである。多くの取税人や罪人たちも、イエスや弟子たちと共にその席に着いていた。こんな人たちが大ぜいいて、イエスに従ってきたのである。パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと食事を共にしておられるのを見て、弟子たちに言った、「なぜ、彼は取税人や罪人などと食事を共にするのか」。(マタイ 9:10,11、ルカ 5:29,30)
- － マタイ 11:19 また人の子がきて、食べたり飲んだりしていると、見よ、あれは食をむさぼる者、大酒を飲む者、また取税人、罪人の仲間だ、と言う。しかし、知恵の正しいことは、その働きが証明する」。(ルカ 7:34)
- － ルカ 19:2 ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。
- － マタイ、ルカでは、取税人を罪人としているが、マルコはそのような表現はない。
 - * マタイ 5:46 あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるのか。そのようなことは取税人でもするではないか。
 - * マタイ 18:17 もし彼らの言うことを聞かないなら、教会に申し出なさい。もし教会の言うことも聞かないなら、その人を異邦人または取税人同様に扱いなさい。
 - * マタイ 21:31,32 このふたりのうち、どちらが父の望みどおりにしたのか」。彼らは言った、「あと

の者です」。イエスは言われた、「よく聞きなさい。取税人や遊女は、あなたがたより先に神の国にはいる。というのは、ヨハネがあなたがたのところにきて、義の道を説いたのに、あなたがたは彼を信じなかった。ところが、取税人や遊女は彼を信じた。あなたがたはそれを見たのに、あとになっても、心をいれ変えて彼を信じようとしなかった。

• 異邦人に従うこと

- エレミヤ 29:7 わたしがあなたがたを捕え移させたところの町の平安を求め、そのために主に祈るがよい。その町が平安であれば、あなたがたも平安を得るからである。
- テモテ 2:1-2 そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈と、とりなしと、感謝とをささげなさい。それはわたしたちが、安らかに静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。
- ローマ 13:1 すべての人は、上に立つ権威に従うべきである。なぜなら、神によらない権威はなく、おおよそ存在している権威は、すべて神によって立てられたものだからである。
- ローマ 13:6-7 あなたがたが貢を納めるのも、また同じ理由からである。彼らは神に仕える者として、もっぱらこの務に携わっているのである。あなたがたは、彼らすべてに対して、義務を果しなさい。すなわち、貢を納むべき者には貢を納め、税を納むべき者には税を納め、恐るべき者は恐れ、敬うべき者は敬いなさい。

• 神のもの

- 創世記 1:27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。
- ヨハネ 8:31-34 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。33 そこで、彼らはイエスに言った、「わたしたちはアブラハムの子孫であって、人の奴隷になったことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか」。34 イエスは彼らに答えられた、「よくよくあなたがたに言うておく。すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。

• 驚いた (: to wonder, wonder at, marvel, to be wondered at, to be had in admiration, Mk 5:20, 6:6, 12:17, 15:5, 44. : i. to strike out, expel by a blow, drive out or away, ii. to cast off by a blow, to drive out, iii. to be struck with amazement, astonished, amazed, Mk 1:22, 6:2, 7:37, 10:26, 11:18, : i. to be astonished, ii. to astonish, terrify, Mk 1:27, 10:24, 10:32, : to throw out of position, displace, to amaze, to astonish, throw into wonderment, to be amazed, astounded, to be out of one's mind, besides one's self, insane, Mk 2:12, 3:21, 5:42, 6:51, : to throw into terror or amazement, to be struck with amazement. Mk 9:15, 14:33, 16:5, 16:6)

- マルコ 5:20 そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださったことを、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。(レギオン)
- マルコ 6:6 そして、彼らの不信仰を驚き怪しまれた。それからイエスは、附近の村々を巡りあるいて教えられた。(ナザレで)
- マルコ 12:17 するとイエスは言われた、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。彼らはイエスに驚嘆した。

- － マルコ 15:5 しかし、イエスはピラトが不思議に思うほどに、もう何もお答えにならなかった。
- － マルコ 15:44 ピラトは、イエスがもはや死んでしまったのかと不審に思い、百卒長を呼んで、もう死んだのかと尋ねた。
- － マルコ 1:22 人々は、その教に驚いた。律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。
- － マルコ 6:2 そして、安息日になったので、会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。」
- － マルコ 7:37 彼らは、ひとかたならず驚いて言った、「このかたのなさった事は、何もかも、すばらしい。耳の聞えない者を聞えるようにしてやり、口のきけない者をきけるようにしておやりになった」。
- － マルコ 10:26 すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるのだろうか」。
- － マルコ 1:27 人々はみな驚きのあまり、互に論じて言った、「これは、いったい何事か。権威ある新しい教だ。けがれた霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ」。
- － マルコ 2:12 すると彼は起きあがり、すぐに床を取りあげて、みんなの前を出て行ったので、一同は大いに驚き、神をあがめて、「こんな事は、まだ一度も見ることがない」と言った。
- － マルコ 5:42 すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。
- － マルコ 6:51 そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。
- － マルコ 9:15 群衆はみな、すぐイエスを見つけて、非常に驚き、駆け寄ってきて、あいさつをした。
- － マルコ 10:24 弟子たちはこの言葉に驚き怪しんだ。イエスは更に言われた、「子たちよ、神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう。」
- － マルコ 10:32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、
- － マルコ 16:5,6 墓の中にはいると、右手に真白な長い衣を着た若者がすわっているのを見て、非常に驚いた。するとこの若者は言った、「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのであろうが、イエスはよみがえって、ここにはおられない。ごらんなさい、ここがお納めした場所である。」

4.70.5 記録

- ・ 日時：2024 年 10 月 17 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）3 名、参加（遠隔）1 名

4.70.6 問いについて

1. 神殿でのイエスが語り合ったことについて復習しましょう。(11:27-12:12)

- 権威についての問答

- 11:28 「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。
- 11:30 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。

- 「ぶどう園の農夫」のたとえ

- 12:9a このぶどう園の主人は、どうするだろうか。
- 12:12 彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。

2. ここでは、どのような人たちが、どのような動機から、どのような質問をしますか。(13-14)

- 13 さて、人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。14 彼らはきてイエスに言った、「先生、わたしたちはあなたが真実なかたで、だれをも、はばかれないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてください。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか」。

- (it is lawful) K ; ;

- [DQ] 「人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわし」とありますが、この「人々」とは誰のことでしょうか。

- 祭司長、律法学者、長老たち（11:27）ではないだろうか。前段の最後には、「そしてイエスをそこに残して立ち去った。」とあることを考えると、直後にこのことがあったとは考えにくい。まとめられているのだろう。

- [DQ] 実際に遣わされた人たちはどのような人たちですか。（マタイ、ルカも確認しましょう）

- [A] 数人とあるだけで、不明、しかし、祭司長、律法学者、長老たちが直接問うたわけではない。また、マタイでは「パリサイ人たちが、彼らの弟子を、ヘロデ党の者たちと共に」イエスのもとに遣わしたとある。また、ルカでは、「彼らは、義人を装うまわし者ども」を送ったとある。

- [DQ] パリサイ人とヘロデ党のひとたちは、それぞれどのような人たちですか。

- [パリサイ人] マルコでは 2:18, 24, 3:6, 7:3, 5, 8:11, 15, 10:2, 12:13

- － [ヘロデ党] パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。(3:6) - ヘロデ党については、今回の箇所と対応するマタイの箇所以外は、3:6 のみ。
 - － イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。(8:15b)
- [DQ] その言葉じりを捕えようとした。とありますが、これは、どのようなことでしょうか。
 - － マタイ：どうかしてイエスを言葉のわなにかけようと、相談をした。
 - － ルカ：彼らは機会をうかがい、義人を装うまわし者どもを送って、イエスを総督の支配と権威とに引き渡すため、その言葉じりを捕えさせようとした。
- [DQ] どのような質問ですか。質問の仕方からどのようなことが伺われますか。
- [A] 「先生、わたしたちはあなたが真実なかたで、だれをも、はばかられないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてください。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか」。
- － かなり露骨に慫慂無礼（表面の態度は丁寧だが、心の中では相手を軽くみている・こと（さま））
 - － 税を納めてよいかいけないか、納めるべきか、納めてはならないかと聞いている。
 - － マタイ：「先生、わたしたちはあなたが真実なかたであって、真理に基いて神の道を教え、また、人に分け隔てをしないで、だれをもはばかられないことを知っています。17 それで、あなたはどのように思われますか、教えてください。カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。
 - － ルカ：「先生、わたしたちは、あなたの語り教えられることが正しく、また、あなたは分け隔てをなさらず、真理に基いて神の道を教えておられることを、承知しています。22 とところで、カイザルに貢を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。
- 3. 「税を納めるべきだ」または「税を納めないべきだ」と答えた場合どのようなことが予想されますか。
 - 基本的には、支配者には、従うべきかどうか、自由を保持すべきかどうかが問われている。
 - [DQ] 納めてよい、納めるべき、納めなくてよい、納めるべきでない、それぞれについて考えましょう。
 - － [Q] 税金を納めないかどうか議論できるのでしょうか。なぜ、このような質問が出てきたのでしょうか。
 - [DQ] この人たちはどのような答えを期待していたのでしょうか。

- [A] 神以外のもの、異邦人、異教徒に従うことは、拒否するはず、それが、主に対する熱心さだと考えていたのだろうか。
- [参照] ヨハネ 8:33 そこで、彼らはイエスに言った、「わたしたちはアブラハムの子孫であって、人の奴隷になったことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか」。
- [参照] そして訴え出て言った、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」。(ルカ 23:2)
- [DQ] この人たち（パリサイ人やヘロデ党の者）が一緒に質問したことには、どのような意味があるのでしょうか。
 - [A] パリサイ人は、熱心党のようではないが、それでも、税を納めたくない。ヘロデ党は、ローマの支配に阿（おもね）って、ある地位を維持している人たちで、税を納めない反逆者は、取り締まるだろう。

4. イエスはどのように対応し、どのように答えますか。(15-17a)

- 15 イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしをためそうとするのか。デナリを持ってきて見せなさい」。16 彼らはそれを持ってきた。そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。彼らは「カイザルのです」と答えた。17 するとイエスは言われた、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。
- [DQ] 偽善（15 節）とはこの場合どのようなことでしょうか。
 - ある目的のために、自分の信条とは異なることをすること。意のままにならないひとを、貶めるために、本心にないことを言い、手段を選ばず、言葉尻を捉えようとする。
- [DQ] まず、イエスはどうしますか。これは、どのような意味がありますか。
 - 「なぜわたしをためそうとするのか。デナリを持ってきて見せなさい」。「これは、だれの肖像、だれの記号か」。
 - * 実物から確認する？
 - コインには、おそらく、表には、ティベリウス帝の横顔があり、周囲に TI CAESAR DIVI AVG F AVGVSTVS と書かれていた。これは、ティベリウス・カエサル、神君アウグストゥスの息子にして皇帝。とあり、裏には、母リヴィアの坐像があり、周囲に、PONTIF MAXIM と書かれていた。これは、最高司祭という意味である。デナリ銀貨 [[CoinArchives](#)], [[Roman Coins](#)]
 - * 像（イメージ）を忌避し、かつ、他の神を認めないユダヤ人にとって、デナリ自体が挑戦だと受け取られていたかもしれない。
- [DQ] 神のものを神に返すとはどのような意味でしょうか。

- 対比とすると、一義的には、神殿税を意味するかもしれないが、もっと本質的な意味が含まれているだろう。ここには、カイザルのものと、神のものをどう考えるかという問いも含まれている。
- [参考] しかし、彼らをつまづかせないために、海に行って、釣り針をたれなさい。そして最初につれた魚をとって、その口をあけると、銀貨一枚が見つかるであろう。それをとり出して、わたしとあなたのために納めなさい」。(マタイ 17:27)
- [参考] 創世記 1:27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。

- [DQ] 税金は国に、心は教会にでしょうか。

5. この人たちは、なぜ驚嘆したのでしょうか。(17b)

- 17a 彼らはイエスに驚嘆した。
 - マルコでは、驚いたがいくつかの言葉を使って多く表現されている。参考を参照
 - [『驚』で口語検索] マタイ 10 件 (7:28, 8:27, 9:33, 12:23, 13:54, 15:31, 19:25, 21:20, 22:22, 33)、ルカ 13 件 (2:47, 48, 4:32, 36, 5:9, 26, 8:25, 56, 9:43, 20:26, 24:5, 22, 37)、ヨハネ 3 件 (実質的には 7:15 のみ) マルコ 16 件
 - マルコ 1:22, 27, 2:12, 5:20, 42, 6:2, 6, 51, 7:37, 9:15, 10:24, 26,32, 12:12, 16:5, (6)
- [DQ] 問と、答えはどのように対応しているのでしょうか。
 - 問い：「カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか」(14b)
 - * 言葉じりを捕らえることは、まったくできなかったと思われる。
 - 回答：「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」(17a)
 - * 直接的な答えは、税金はカイザルに納めなさい。納めるべき。
 - * 同時に、貨幣がカイザルのものであるように、すべて、神様のものは、神様にお返ししなさい。
 - * 神様にお返しするとは？

6. イエスは、どのようなことを教えているのだと思いますか。

- 「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」(17a)
 - 難しい問いは、神に引き寄せて、神の支配のもとにあるとして考えなさい。
 - 神のもの「すべて」をどのようにお返しするか考えなさい。

- 熱心党のシモンもおり、取税人レビ、マタイもいたはずであろう。そして、このイエスのことばを聞いていただろう。

－ 徴税のしごとを尊重したことも含められているように思われる。

4.70.7 メモ

- 税金が課せられているということは、その支配下にある。かつ逃れられないことが前提だと思うが、質問者は、そう単純には、考えていないところをまずは、理解しなければならないのだろう。
 - － 貨幣に書かれていた銘や、ヨハネ 8:33 の「わたしたちはアブラハムの子孫であって、人の奴隷になったことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか」。にヒントが有るのかもしれない。
- イエスを捕らえ殺そうと機会を狙っている人たちにたいする痛快な対応ではあるが、それを喜んでいるだけで良いのだろうか、イエスは、質問者に、そして我々になにを語りかけているのだろうか。
- 「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」で、イエスは何を教えているのだろうか。
 - － 「カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか」。(14b)
 - － 「神様のものは神様にお返しすべきでしょうか。お返ししなければならないでしょうか。」
 - － 「すべてのものが神様のものであるなら、神様のものを神様にお返しするにはどのようにしたら良いのでしょうか。」
- 現代的問いに何らかのヒントを与えているのだろうか。
 - － 国または統治者と信仰の問題、政治・経済と宗教だろうか、神様のもとでの自由も関係するだろうか。
 - － 困難な問題が目の前にあるときに、神様の視点で見てみるものが促されているのだろうか。自分の置かれた状況や、その他の障壁に困難や苦しみや理不尽さの原因を求めるのではなく、神様がなにを求めておられるか、わたしたちが、どのような応答をすべきかは、問われているように思う。神のものが、神様のしるしが付いているものに囲まれているならば。
- このひとたちが考えていたことと、イエスのこたえには、どのような相違があったのだろうか。
 - － イエスに質問をしにきた人たちは、どのような答えを期待していたのだろうか。
 - － イエスを殺そうとするなら、反逆罪が手っ取り早い。実際、法定でも、そのような訴えが出されている。ということは、税金は納めなくて良い。納めることは適切ではないということの言質をとることが期待されていたのだろう。それは、パリサイ人が考えていたことと大きくは異ならない。つまり何が正しいかの議論がここでされているわけではない。

4.71 12:18-27 復活についての問答

18 復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、イエスのもとにきて質問した、19 「先生、モーセは、わたしたちのためにこう書いています、『もし、ある人の兄が死んで、その残された妻に、子がない場合には、弟はこの女をめとって、兄のために子をもうけねばならない』。20 ここに、七人の兄弟がいました。長男は妻をめとりましたが、子がなくて死に、21 次男がその女をめとって、また子をもうけずに死に、三男も同様でした。22 こうして、七人ともみな子孫を残しませんでした。最後にその女も死にました。23 復活のとき、彼らが皆よみがえった場合、この女はだれの妻なのでしょう。七人とも彼女を妻にしたのですが」。24 イエスは言われた、「あなたがたがそんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではないか。25 彼らが死人の中からよみがえるときには、めとったり、とついだりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。26 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。あなたがたは非常な思い違いをしている」。

4.71.1 マタイ 22:23-33

23 復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、その日、イエスのもとにきて質問した、24 「先生、モーセはこう言っています、『もし、ある人が子がなくて死んだなら、その弟は兄の妻をめとって、兄のために子をもうけねばならない』。25 さて、わたしたちのところに七人の兄弟がありました。長男は妻をめとったが死んでしまい、そして子がなかったので、その妻を弟に残しました。26 次男も三男も、ついに七人とも同じことになりました。27 最後に、その女も死にました。28 すると復活の時には、この女は、七人のうちだれの妻なのでしょう。みんながこの女を妻にしたのですが」。29 イエスは答えて言われた、「あなたがたは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。30 復活の時には、彼らはめとったり、とついだりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。31 また、死人の復活については、神があなたがたに言われた言葉を読んだことがないのか。32 『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と書いてある。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である」。33 群衆はこれを聞いて、イエスの教に驚いた。

4.71.2 ルカ 20:27-40

27 復活ということはないと言い張っていたサドカイ人のある者たちが、イエスに近寄ってきて質問した、28 「先生、モーセは、わたしたちのためにこう書いています、『もしある人の兄が妻をめとり、子がなくて死んだなら、弟はこの女をめとって、兄のために子をもうけねばならない』。29 ところで、ここに七人の兄弟がいました。長男は妻をめとりましたが、子がなくて死に、30 そして次男、三男と、次々に、その女をめとり、31 七人とも同様に、子をもうけずに死にました。32 のちに、その女も死にました。33 さて、

復活の時には、この女は七人のうち、だれの妻になるのですか。七人とも彼女を妻にしたのですが」。34 イエスは彼らに言われた、「この世の子らは、めとったり、とついだりするが、35 かの世にはいって死人からの復活にあずかるにふさわしい者たちは、めとったり、とついだりすることはない。36 彼らは天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ないからである。37 死人がよみがえることは、モーセも柴の篇で、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、これを示した。38 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。人はみな神に生きるものだからである」。39 律法学者のうちのある人々が答えて言った、「先生、仰せのとおりです」。40 彼らはそれ以上何もあえて問いかけようとしなかった。

マルコによる福音書 12 章 18-27 節福音書対照表

4.71.3 問い

1. これまで、神殿でどのような人たちとどのようなことについて話したか復習しましょう。(11:27-12:17)
2. サドカイ人は、どのような人たちですか。復活についてはどう考えていますか。(18)
3. サドカイ人たちは、どんな質問をしますか。(19-23)
4. イエスはサドカイ人たちがどんな思い違いをしていると言っていますか。(24, 25)
5. イエスは、復活について、どのような聖書を引用していますか。(26,27)
6. イエスは、この箇所で復活についてどのようなことを教えているのでしょうか。

4.71.4 参照

- サドカイ派

- － 聖書箇所

- * マルコ 12:8 復活ということはないと主張していた**サドカイ**人たちが、イエスのもとにきて質問した、(マタイ 22:23、ルカ 20:27)
 - * マタイ 3:7 ヨハネは、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けようとしてきたのを見て、彼らに言った、「まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから、おまえたちはのがれられると、だれが教えたのか。
 - * マタイ 16:1 パリサイ人とサドカイ人とが近寄ってきて、イエスを試み、天からのしるしを見せてもらいたいと言った。
 - * マタイ 16:6 そこでイエスは言われた、「パリサイ人とサドカイ人とのパン種を、よくよく警戒せよ」。

- * マタイ 16:11,12 わたしが言ったのは、パンについてではないことを、どうして悟らないのか。ただ、パリサイ人とサドカイ人とのパン種を警戒しなさい」。12 そのとき彼らは、イエスが警戒せよと言われたのは、パン種のことでなく、パリサイ人とサドカイ人との教のことであると悟った。
- * マタイ 22:34 さて、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを言いこめられたと聞いて、一緒に集まった。(最も重要な戒め冒頭)
- * 使徒 4:1-3 彼ら（ペテロとヨハネ）が人々にこのように語っているあいだに、祭司たち、宮守がしら、サドカイ人たちが近寄ってきて、2 彼らが人々に教を説き、イエス自身に起った死人の復活を宣伝しているのに気をいら立て、3 彼らに手をかけて捕え、はや日が暮れていたので、翌朝まで留置しておいた。
- * 使徒 5:17 そこで、大祭司とその仲間の者、すなわち、サドカイ派の人たちが、みな嫉妬の念に満たされて立ちあがり、
- * 使徒 23:6-8 パウロは、議員の一部がサドカイ人であり、一部はパリサイ人であるのを見て、議会の中で声を高めて言った、「兄弟たちよ、わたしはパリサイ人であり、パリサイ人の子である。わたしは、死人の復活の望みをいだいていることで、裁判を受けているのである」。7 彼がこう言ったところ、パリサイ人とサドカイ人との間に争論が生じ、会衆は相分れた。8 元来、サドカイ人は、復活とか天使とか霊とかは、いっさい存在しないと言い、パリサイ人は、それらは、みな存在すると主張している。

－ 荒井献「イエスとその時代」(p.33) サドカイ派の呼称は、イスラエルにおける最古・最大の大祭司「サドク」に由来するといわれる。また、一説によるとこの呼称は、「義を行使する」意味のヘブライ語「サドゥク」に遡るとも言われる。いずれにしても彼らは、伝統主義・保守主義の立場をとり、「モーセ律法」ないしは「モーセ五書」のみを聖文書として、ここに認められない、あるいはこれ以後の時代に成立したと言われる新思想一例えば律法の敷衍解釈による法の細則・天使論・復活思想などを一切認めなかった。もっとも、政治的には、彼らがユダヤ社会の経済的上層と密着していただけに、外国支配勢力に対しては一般的に協調策をとっている。そのために、たとえば復活思想の否認は、当時における世界体制の思想であるヘレニズム・ローマ思想を受容した結果であるとも説明できる。その意味で、サドカイ派の保守的国民主義は自由主義として機能することもできたのである。実際この派は、紀元前 66 年にはローマ軍から神殿祭儀を守り、信教の自由を確保してはいる。しかし、イエスの時代には、ローマの傀儡的存在であったアンナス家の大祭司、祭司長たち、長老たちと密着することにより、体制を思想的に擁護する役割を果たしていたのである。

－ 神原康夫「マタイによる福音書下巻」(p.77)「サドカイ人」というのは、前の「パリサイ人」と、あらゆる点で正反対の人々でした。パリサイ派が純宗教団体であるのに対して、サドカイ派は、むしろ政治団体に近く、当時の最高議会議員の大半を占めていました。彼らはそのように、時の権力者と結びつく世俗主義者であるために、時代の流行に敏感な進歩主義者・合理主義者でもありました。それで、一応ユダヤ教を信じはしても、モーセの律法にしるされた明白な定め以外は何者も、ーラビの学

説も伝承も一権威を認めません。従って、パリサイ人や一般民衆が長い間信じ込んできたことも、この一派の手にかかると、「律法に明記されていない」という理由で否定されてしまいました。使徒行伝 23 章 8 節に「元来、サドカイ人は、復活とか霊とかは、一切存在しないと言い、パリサイ人は、それらはみな存在すると主張している」とあるとおりです。要するに、彼らは、まったく現代的な合理的唯物主義の立場に立っていました。

- ― 山口昇「新聖書注解（いのちのことば社）」貴族階級に属し、大祭司や、エルサレムの有力者からなっていた。彼らは経済的に恵まれ、富裕であったが、この世的でもあった。彼らはモーセ五書だけを律法として認めていたので、復活の教理は受け入れなかった。（Cf 使徒 23:6-8）なぜなら、死人の復活に関する教えはイザヤ 26:19、ダニエル 12:2 に至るまで現れなかったからである。

- * イザヤ 26:19 あなたの死者は生き、彼らのなきがらは起きる。ちりに伏す者よ、さめて喜びうたえ。あなたの露は光の露であって、／それを亡霊の国の上に降らされるからである。

- * ダニエル 12:2 また地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう。

- ― ヨセフス「ユダヤ人古代史」

- * 13-10-6 ヨナタンという人がヒルカノスの非常に親しい友人だったが、サドカイ派に属していて、その考えはパリサイ人とは全く正反対であった。ヨナタンはヒルカノスに、エレアザルがパリサイ人全員の共通の考えに従ってヒルカノスにそのような非難をしたこと、そして、パリサイ人全員に「彼らはこの男にどんな罰がふさわしいと思うか」と尋ねさえすれば、それが明らかになるだろう、と言った。彼らが彼の罪にふさわしい罰を与えたとしても、非難は彼らの承認によって彼に下されたのではないことは、彼が確信できるからである。そこでパリサイ人は、彼は鞭打ちと縄目に値したが、非難を死で罰するのは正しくないだろうと答えた。実際、パリサイ人は他の場合でさえ、罰を厳しくする傾向はない。この穏やかな判決にヒルカノスは非常に怒り、この男が彼らの承認によって彼を非難したのだと思った。このヨナタンこそが、ヨナタンを最も怒らせ、ヨナタンに影響を与えたため、ヨナタンはヨナタンをパリサイ派から離脱させ、彼らが民衆に課した法令を廃止させ、それを守る者を罰した。このことから、ヨナタンとその息子たちが民衆から受けた憎悪が生じたのである。しかし、これらの事柄については、これから述べることにする。私が今説明したいのは、パリサイ人は、モーセの律法には書かれていない、先祖から受け継いだ多くの慣習を民衆に伝えてきたということである。そのため、サドカイ人はそれを拒絶し、書かれた言葉にある慣習は義務であるとみなすべきだが、先祖の伝統に由来するものは守るべきではないと言うのである。そして、これらのことに関して、彼らの間には大きな論争と不和が生じており、サドカイ派は富裕層以外を説得できず、民衆の支持も得られないが、パリサイ派は大衆の支持を得ている。しかし、この二つの宗派とエッセン派については、ユダヤ事情第二巻で正確に扱っている。（Google Chrome 翻訳）

- * 18-1-4 しかし、サドカイ派の教えはこうです。魂は肉体と共に死ぬということです。彼らは、律法が命じていること以外は何事も守ろうとしません。なぜなら、彼らは、よく会う哲学の教師た

ちと議論することが美德であると考えているからです。しかし、この教えを受け入れるのは少数の人たち、それでも最も高貴な人たちだけです。しかし、彼らは自分ではほとんど何もすることができません。なぜなら、時には不本意に、そして強制的にそうならざるを得ないのですが、行政官になると、彼らはパリサイ人の観念に溺れるからです。そうでなければ、大衆はそれを受け入れないでしょうから。(Google Chrome 翻訳)

- 復活に関する当時のユダヤ教会の意見（榊原康夫）

- － パリサイ派・エッセネ派・一般大衆：人の靈魂は死後も存在し続け、従って、その靈魂はいつかからだをとりもどす、すなわち復活する。
- － サドカイ派：人間はしにおいて体が朽ちる時、一切が終わり、従って復活もない。

- 復活・よみがえりに関する記事

- － イエス自身についての証言（マルコを中心に）よみがえる（
： i. to cause to rise up, raise up, ii. to rise, stand up to rise, stand up, iii. at arise, appear, stand forth）他の意味にも使われるマルコ 1:35, 2:14, 3:26, 5:42, 7:24, 9:27, 10:1, 10:50.

- * 8:31,32a それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、しかもあからさまに、この事を話された。(マタイ 16:21)

- * 9:9,10 一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。彼らはこの言葉を心にとめ、死人の中からよみがえるとはどういうことかと、互に論じ合った。(マタイ 17:9)

- * 9:31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。(マタイ 17:23)

- * 10:34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。(マタイ 20:19)

- * 参照：「長官、あの偽り者がまだ生きていたとき、『三日の後に自分はよみがえる』と言ったのを、思い出しました。(マタイ 27:63)

- － 「復活（
： i. a raising up, rising (e.g. from a seat), a rising from the dead)」口語訳（福音書）

- * マルコ 12:18 復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、イエスのもとにきて質問した、(マタイ 22:23, ルカ 20:27)

- * マルコ 12:23 復活のとき、彼らが皆よみがえった場合、この女はだれの妻なのでしょうか。七人とも彼女を妻にしたのですが」。(マタイ 22:28, ルカ 20:33)

- * マタイ 22:30,31 復活の時には、彼らはめとったり、とついだりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。31 また、死人の復活については、神があなたがたに言われた言葉を読んだことがないのか。(ルカ 20:35,36)
- * マタイ 27:53 そしてイエスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。
- * ルカ 9:8 またある人たちは、エリヤが現れたと言い、またほかの人たちは、昔の預言者のひとりが復活したのだと言っていたからである。
- * ルカ 9:19 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。しかしほかの人たちは、エリヤだと言い、また昔の預言者のひとりが復活したのだと、言っている者もあります」。
- * ルカ 14:14 そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたはさいわいになるであろう。正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであろう」。
- * ヨハネ 5:29 善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう。
- * ヨハネ 11:24,25 マルタは言った、「終りの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています」。25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。
- * 使徒 1:22, 2:31, 4:2, 33, 17:18, 32, 23:6, 8, 24:15, 21, 26:23
- * パウロ書簡
 - ・ ローマ 1:4 聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた。これがわたしたちの主イエス・キリストである。
 - ・ ローマ 6:5 もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にひとしくなるであろう。
 - ・ 1 コリント 15:12,13 さて、キリストは死人の中からよみがえったのだと宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死人の復活などはないと言っているのは、どうしたことか。13 もし死人の復活がないならば、キリストもよみがえらなかったであろう。
 - ・ 1 コリント 15:21 それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。
 - ・ 1 コリント 15:35-44 しかし、ある人は言うだろう。「どんなふうにして、死人がよみがえるのか。どんなからだをして来るのか」。36 おろかな人である。あなたのまくものは、死ななければ、生かされないではないか。37 また、あなたのまくものは、やがて成るべきからだをまくのではない。麦であっても、ほかの種であっても、ただの種粒にすぎない。38 ところが、

神はみこころのままに、これにからだを与え、その一つ一つの種にそれぞれのからだをお与えになる。39 すべての肉が、同じ肉なのではない。人の肉があり、獣の肉があり、鳥の肉があり、魚の肉がある。40 天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。41 日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、44 肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。

- ・ ピリピ 3:10 すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあずかって、その死のさまとひとしくなり、(11 なんとかして死人のうちの復活に達したいのである。)
- ・ 2 テモテ 2:18 彼らは真理からはずれ、復活はすでに済んでしまったと言い、そして、ある人々の信仰をくつがえしている。

* その他の書簡

- ・ ヘブル 6:2 洗いごとについての教と按手、死人の復活と永遠のさばき、などの基本の教をくりかえし学ぶことをやめようではないか。
- ・ 1 ペテロ 3:21 この水はバプテスマを象徴するものであって、今やあなたがたをも救うのである。それは、イエス・キリストの復活によるのであって、からだの汚れを除くことではなく、明らかな良心を神に願い求めることである。
- ・ 黙示録 20:5,6 (それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた。)これが第一の復活である 6 この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。

— よみがえ (って) (: to arouse, cause to rise, i. to arouse from sleep, to awake, ii. to arouse from the sleep of death, to recall the dead to life, iii. to cause to rise from a seat or bed etc., iv to raise up, produce, cause to appear) Mt 9:25, 10:8, 11:5, 14:2, 16:21, 17:9, 23, 20:19, 26:32, 27:52, 27:63, 64, 28:6, Mk 5:41, 6:16, 12:26, 14:28, 16:6, 14. Lk 7:14, 7:22, 8:54, 9:7, 22, Jn 2:19, 20, 5:21, 12:1, 9, 17, 21:14, Acts 5:30, 10:40, 13:30, 37, 26:8, Rm 4:24, 25, 6:4, 9, 7:4, 8:11, 8:34, 10:9, 1Cor 6:14, 15:4, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 20, 29, 32, 35, 42, 43, 44, 52, 2Cor 1:9, 2Cor 1:9, 4:14, 5:15, Gal 1:1, Eph 1:20, 5:14, Phil 1:17, Co 2:12, 1Th 1:10, 2Ti 2:8, Heb 11:19, Jas 5:15?, 1Pet 1:21

- * マルコ 5:41 そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。

- * マルコ 6:14-16 さて、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王の耳にはいった。ある人々は「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」と言い、15 他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。16 ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首を切ったあのヨハネがよみがえったのだ」と言った。
- * マルコ 12:26 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。
- * マルコ 14:28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。
- * マルコ 16:6 するとこの若者は言った、「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのであろうが、イエスはよみがえって、ここにはおられない。ごらんさない、ここがお納めした場所である。
- * マルコ 16:14 その後、イエスは十一弟子が食卓についているところに現れ、彼らの不信仰と、心のかたくななことをお責めになった。彼らは、よみがえられたイエスを見た人々の言うことを、信じなかったからである。
- * ヨハネ 12:1 過越の祭の六日まえに、イエスはベタニヤに行かれた。そこは、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロのいた所である。
- * ヨハネ 12:9 大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた。それはイエスに会うためだけではなく、イエスが死人のなかから、よみがえらせたラザロを見るためでもあった。
- * ヨハネ 21:14 イエスが死人の中からよみがえったのち、弟子たちにあらわれたのは、これで既に三度目である。
- * ローマ 4:24, 25, 6:4, 9, 7:4, 8:11, 8:34, 10:9
- * ローマ 6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。
- * ローマ 6:9 キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを、知っているからである。
- * ローマ 7:4 わたしの兄弟たちよ。このように、あなたがたも、キリストのからだをとおして、律法に対して死んだのである。それは、あなたがたが他の人、すなわち、死人の中からよみがえられたかたのものとなり、こうして、わたしたちが神のために実を結ぶに至るためなのである。

* ローマ 8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。

* ローマ 8:34 だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。

* ローマ 10:9 すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。

* 1 コリント 6:14 そして、神は主をよみがえらせたが、その力で、わたしたちをもよみがえらせて下さるであろう。

* 1 コリント 15:4, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 20, 29, 32, 35, 42, 43, 44, 52

● 旧約聖書からの引用

－ 申命記 25:5-10 兄弟と一緒に住んでいて、そのうちのひとりが死んで子のない時は、その死んだ者の妻は出て、他人にとついでではならない。その夫の兄弟が彼女の所にはいり、めとって妻とし、夫の兄弟としての道を彼女につくさなければならない。6 そしてその女が初めに産む男の子に、死んだ兄弟の名を継がせ、その名をイスラエルのうちに絶やさないようにしなければならない。7 しかしその人が兄弟の妻をめとるのを好まないならば、その兄弟の妻は町の門へ行って、長老たちに言わなければならない、『わたしの夫の兄弟はその兄弟の名をイスラエルのうちに残すのを拒んで、夫の兄弟としての道をつくすことを好みません』。8 そのとき町の長老たちは彼を呼び寄せて、さとさなければならない。もし彼が固執して、『わたしは彼女をめとることを好みません』と言うならば、9 その兄弟の妻は長老たちの目の前で、彼のそばに行き、その足のくつを脱がせ、その顔につばきして、答えて言わなければならない。『兄弟の家をたてない者には、このようにすべきです』。10 そして彼の家の名は、くつを脱がされた者の家と、イスラエルのうちで呼ばれるであろう。

* 以下の規定に関する例外事項としてしるされている。レビ 18:16 あなたの兄弟の妻を犯してはならない。それはあなたの兄弟をはずかしめることだからである。レビ 20:21 人がもし、その兄弟の妻を取るならば、これは汚らしいことである。彼はその兄弟をはずかしめたのであるから、彼らは子なき者となるであろう。

－ 出エジプト 3:1-10 モーセは妻の父、ミデヤンの祭司エテロの羊の群れを飼っていたが、その群れを荒野の奥に導いて、神の山ホレブにきた。2 ときに主の使は、しばの中の炎のうちに彼に現れた。彼が見ると、しばは火に燃えているのに、そのしばはなくならなかった。3 モーセは言った、「行ってこの大きな見ものを見、なぜしばが燃えてしまわないかを知ろう」。4 主は彼がきて見定めようとするのを見、神はしばの中から彼を呼んで、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼は「ここにいます」と言った。5 神は言われた、「ここに近づいてはいけない。足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである」。6 また言われた、「わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」。モーセは神を見ることを恐れたので顔を隠した。6 また言わ

れた、「わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」。モーセは神を見ることを恐れたので顔を隠した。7 主はまた言われた、「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている。8 わたしは下って、彼らをエジプトびとの手から救い出し、これをかの地から導き上って、良い広い地、乳と蜜の流れる地、すなわちカナンびと、ヘテびと、アモリびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとのおる所に至らせようとしている。9 いまイスラエルの人々の叫びがわたしに届いた。わたしはまたエジプトびとが彼らをしえたげる、そのしえたげを見た。10 さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう」。

- ヨハネ 11:25-36 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。26 また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。27 マルタはイエスに言った、「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております」。28 マルタはこう言ってから、帰って姉妹のマリヤを呼び、「先生がおいでになって、あなたを呼んでおられます」と小声で言った。29 これを聞いたマリヤはすぐに立ち上がって、イエスのもとに行った。30 イエスはまだ村に、はいってこられず、マルタがお迎えしたその場所におられた。31 マリヤと一緒に家にいて彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、彼女は墓に泣きに行くのであろうと思い、そのあとからついて行った。32 マリヤは、イエスのおられる所に行ってお目にかかり、その足もとにひれ伏して言った、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかったでしょう」。33 イエスは、彼女が泣き、また、彼女と一緒にきたユダヤ人たちも泣いているのをごらんになり、激しく感動し、また心を騒がせ、そして言われた、34 「彼をどこに置いたのか」。彼らはイエスに言った、「主よ、きて、ごらん下さい」。35 イエスは涙を流された。36 するとユダヤ人たちは言った、「ああ、なんと彼を愛しておられたことか」。

- パークレイ

- ー サドカイ人たちは、この世の像のなかに天を作り出す過ちを犯した。彼らは、この世の事物の言葉の中で天を考えた。人々は常にそうするものである。

- * 1 コリント 2:9 しかし、聖書に書いてあるとおり、／「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、／人の心に思い浮びもしなかったことを、／神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」／のである。

- * イザヤ 64:4 いにしえからこのかた、／あなたのほか神を待ち望む者に、／このような事を行われた神を聞いたことはなく、／耳に入れたこともなく、目に見たこともない。

- ー イエスは復活についての確信を、神と善人との関係はなにものも破ることができないという事実に基礎づけた。一度、ひとが永遠なる神との人格的關係にはいると、その関係は永遠である。神は、アブラハム、イサク、ヤコブが生きていた時、彼らの友であられた。

- * 神は、神に仕え、神を愛するひとにたいして、神であることをやめることができない。(ロアジ 1857-1940)

* 詩篇 73:23-24 けれどもわたしは常にあなたと共にあり、／あなたはわたしの右の手を保たれる。
24 あなたはさとしをもってわたしを導き、／その後わたしを受けて栄光にあずからせられる。

- エノク書 10:17-19

- － その時、すべての義人はまぬがれて、何千人の子を生むに至るまで生きながらえ、その若き日と老年のすべての日を、彼らは平安のうちにまっとうする。その時、全地は義によって耕され、くまなく木々がうえられて祝福に満ちる。すべて望ましい木はそこに植えられ、ぶどうが飢えられる。そこに飢えたぶどうはおびたしい酒を生じ、まかれたすべての種は、一マスが千マスを生じ、一マスのオリーブは十マスの油をもたらす。

- クムラン宗規要覧

- － すべてこれ（真実の霊）によって歩むものへの報いは、いやし、長命にともなう豊かな平安、永遠の祝福をもつ多くの子供、永遠の命による永久の喜び、栄光の冠と永久の光に輝く衣である。

- ヨセフス

- － ユダヤ人古代史 18:1:3 パリサイ人は、靈魂はそのうちに不滅の力をもち、ひとが現世で有徳に生きたかよこしまに生きたかに応じて、地下で報酬と刑罰があり、後者は永遠の獄屋に閉じ込められるのに対して、前者は生まれ変わって再び生きる力を持つと信じる。

- － ユダヤ戦記 2:8:11 エッセネ派の教えは次の通り。肉体は朽つべきもので、それが作られている物質もまた永遠でないが、靈魂は永続する。それは最も微妙な大気から出て、獄に入るように体に結合される。一種自然ないざないによって引き込まれるのである。しかし、肉のかせから解き放たれるときには、年久しい奴隷のくびきからすくわれたかのように、喜んで上に昇る。

- タルムード

- － あの世では女は毎日子をうむとか（シャッバス 30b）、復活者は死人に触れたのだから清めの儀式が必要になかまで論じられる。（ニッダー 70b、サンヘドリン 70b）

- レビラト婚 (Levirate marriage)

- － Wikipedia (目) (E) 寡婦が死亡した夫の兄弟と結婚する慣習。レビラトは、ラテン語で夫の兄弟を意味するレウィル (levir) に由来する。レビレート婚とも。Levirate marriage is a type of marriage in which the brother of a deceased man is obliged to marry his brother's widow. Levirate marriage has been practiced by societies with a strong clan structure in which exogamous marriage (i.e. marriage outside the clan) is forbidden.

- 天使

- － 旧約聖書

- * ヨブ記 4:18 見よ、彼はそのしもべをさえ頼みとせず、／その天使をも誤れる者とみなされる。

- * ヨブ記 33:23 もしそこに彼のためにひとりの天使があり、／千のうちのひとりであって、仲保となり、／人にその正しい道を示すならば、
- * 詩篇 78:25 人は天使のパンを食べた。神は彼らに食物をおくって飽き足らせられた。
- * 詩篇 78:49 神は彼らの上に激しい怒りと、憤りと、／恨みと、悩みと、滅ぼす天使の群れとを放たれた。
- * 詩篇 91:11 これは主があなたのために天使たちに命じて、／あなたの歩むすべての道で／あなたを守らせられるからである。
- * 詩篇 148:2 その天使よ、みな主をほめたたえよ。その万軍よ、／みな主をほめたたえよ。
- * ダニエル 10:13 ペルシャの国の君が、二十一日の間わたしの前に立ちふさがったが、天使の長のひとりであるミカエルがきて、わたしを助けたので、わたしは、彼をペルシャの国の君と共に、そこに残しておき、

－ 福音書

- * ルカ 20:36 彼らは天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ないからである。

－ その他の新約聖書

- * 使徒 6:15 議会で席についていた人たちは皆、ステパノに目を注いだが、彼の顔は、ちょうど天使の顔のように見えた。
- * 使徒 23:8, 9 元来、サドカイ人は、復活とか天使とか霊とかは、いっさい存在しないと言い、パリサイ人は、それらは、みな存在すると主張している。9 そこで、大騒ぎとなった。パリサイ派のある律法学者たちが立って、強く主張して言った、「われわれは、この人には何も悪いことがないと思う。あるいは、霊か天使かが、彼に告げたのかも知れない」。
- * ローマ 8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、
- * 1 コリント 4:9 わたしはこう考える。神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。
- * 1 コリ 11:10 それだから、女は、かしらに權威のしるしをかぶるべきである。それは天使たちのためでもある。
- * 2 コリ 11:14 しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。
- * ガラテヤ 3:19 それでは、律法はなんであるか。それは違反を促すため、あとから加えられたのであって、約束されていた子孫が来るまで存続するだけのものであり、かつ、天使たちをとおし、

仲介者の手によって制定されたものにすぎない。

- * コロサイ 2:18 あなたがたは、わざとらしい謙そんと天使礼拝とにおぼれている人々から、いろいろと悪評されてはならない。彼らは幻を見たことを重んじ、肉の思いによっていたずらに誇るだけで、
- * 1 テサロニケ 4:16 すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、
- * 2 テサロニケ 1:7 それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。
- * ヘブル 2:16 確かに、彼は天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた。
- * ヘブル 12:22 しかしあなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の天使の祝会、
- * 1 ペテロ 3:22 キリストは天に上って神の右に座し、天使たちともろもろの権威、権力を従えておられるのである。

4.71.5 記録

- 日時：2024 年 10 月 24 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）1 名

4.71.6 問いについて

1. これまで、神殿でどのような人たちとどのようなことについて話したか復習しましょう。（11:27-12:17）
 - [DQ] どのようなグループの人たちとの話かも同時に復習しましょう。
 - 権威についての問答（11:27-33）vs 祭司長、律法学者、長老たち（27）
 - － 問：11:28 「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。
 - － イエス：11:30 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。
 - 「ぶどう園の農夫」のたとえ（12:1-12）vs （おそらく）祭司長、律法学者、長老たち（27）
 - － イエス：12:9 このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。

－ 人々：12:12 彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。

- 皇帝への税金 (12:13-17) vs パリサイ人やヘロデ党の者数人

－ 12:14b カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか

－ 12:17b カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい

2. サドカイ人は、どのような人たちですか。復活についてはどう考えていますか。(18)

- 18 復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、イエスのもとにきて質問した、

- 荒井献：伝統主義・保守主義の立場をとり、「モーセ律法」ないしは「モーセ五書」のみを聖文書として、ここに認められない、あるいはこれ以後の時代に成立したと言われる新思想—例えば律法の敷衍解釈による法の細則・天使論・復活思想など—を一切認めなかった。もっとも、政治的には、彼らがユダヤ社会の経済的上層と密着していただけに、外国支配勢力に対しては一般的に協調策をとっている。そのために、たとえば復活思想の否認は、当時における世界体制の思想であるヘレニズム・ローマ思想を受容した結果であるとも説明できる。

- 榊原康夫：政治団体に近く、当時の最高議会議員の大半を占めていました。彼らはそのように、時の権力者と結びつく世俗主義者であるために、時代の流行に敏感な進歩主義者・合理主義者でもありました。それで、一応ユダヤ教を信じはしても、モーセの律法にしるされた明白な定め以外は認めません。

- 使徒行伝 23 章 8 節元来、サドカイ人は、復活とか天使とか霊とかは、いっさい存在しないと言い、パリサイ人は、それらは、みな存在すると主張している。

- ヨセフス「ユダヤ人古代史」

－ 13-10-6 後半：パリサイ人は、モーセの律法には書かれていない、先祖から受け継いだ多くの慣習を民衆に伝えてきたということである。そのため、サドカイ人はそれを拒絶し、書かれた言葉にある慣習は義務であるとみなすべきだが、先祖の伝統に由来するものは守るべきではないというのである。そして、これらのことに関して、彼らの間には大きな論争と不和が生じており、サドカイ派は富裕層以外を説得できず、民衆の支持も得られないが、パリサイ派は大衆の支持を得ている。(Google Chrome 翻訳)

－ 18-1-4 しかし、サドカイ派の教えはこうです。魂は肉体と共に死ぬということです。彼らは、律法が命じていること以外は何事も守ろうとしません。なぜなら、彼らは、よく会う哲学の教師たちと議論することが美德であると考えているからです。しかし、この教えを受け入れるのは少数の人たち、それでも最も高貴な人たちだけです。しかし、彼らは自分ではほとんど何もすることができません。なぜなら、時には不本意に、そして強制的にそうならざるを得ないのですが、行

政官になると、彼らはパリサイ人の観念に溺れるからです。そうでなければ、大衆はそれを受け入れないでしょうから。(Google Chrome 翻訳)

- 死人の復活に関する教えはイザヤ 26:19、ダニエル 12:2 に至るまで現れなかったからである。
 - ー イザヤ 26:19 あなたの死者は生き、彼らのなきがらは起きる。ちりに伏す者よ、さめて喜びうたえ。あなたの露は光の露であって、／それを亡霊の国の上に降らされるからである。
 - ー ダニエル 12:2 また地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう。

3. サドカイ人たちは、どんな質問をしますか。(19-23)

- 19 「先生、モーセは、わたしたちのためにこう書いています、『もし、ある人の兄が死んで、その残された妻に、子がいない場合には、弟はこの女をめとって、兄のために子をもうけねばならない』。20 ここに、七人の兄弟がいました。長男は妻をめとりましたが、子がなくて死に、21 次男がその女をめとって、また子をもうけずに死に、三男も同様でした。22 こうして、七人ともみな子孫を残しませんでした。最後にその女も死にました。23 復活のとき、彼らが皆よみがえった場合、この女はだれの妻なのでしょう。七人とも彼女を妻にしたのですか」。
- [DQ] どのようなモーセのことばに言及していますか。
- [A] 申命記 25:5(-10) 兄弟が一緒に住んでいて、そのうちのひとりが死んで子のない時は、その死んだ者の妻は出て、他人にとついでではならない。その夫の兄弟が彼女の所にはいり、めとって妻とし、夫の兄弟としての道を彼女につくさなければならない。
- 目的
 1. 家族の名称が継続された。
 2. 家族の財産が家族の内部にとどまった。
- レビラト婚 (Levirate marriage)
 - ー Wikipedia ([日](#)) ([E](#)) 寡婦が死亡した夫の兄弟と結婚する慣習。レビラトは、ラテン語で夫の兄弟を意味するレウィル (levir) に由来する。レビレート婚とも。
- [DQ] この人たちはなぜこのような質問をするのですか。
- [A] モーセ五書には書いておらず、今の世には何も関係がない合理性がない。
- [A] 未亡人の救済の法律が、かえってあの世で彼女を困らせるのは妙だ。(榊原康夫)
- [DQ] 霊魂不滅という、哲学思想からの問いなのでしょう。

4. イエスはサドカイ人たちがどんな思い違いをしていると言っていますか。(24, 25)

- 24 イエスは言われた、「あなたがたがそんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではないか。25 彼らが死人の中からよみがえるときには、めとったり、とついだりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。
- 復活が起こり、ひとがよみがえるとき、肉体的生活の古い法則はもはや通用しない、よみがえったものは、天使のようであり、結婚するとか、結婚したとかいうような肉体的な事柄は、その事柄の中に入っていない。(パークレイ)
 - ー エノク書、バルクの黙示の中にも似たような記述あり。(エノク書 10:17-19)
 - ー 来たるべき命は、この世の言葉では考えることができない。
- 来世では、出産がなく、したがって結婚はない。その生命は神から受けるので、だれがしかの子といわれず、「神の子」と呼ばれる。この相違を知らないのは、聖書も神の力も知らぬ宗教的無知から生じている。(榊原康夫)
- [参照] ルカ 20:36 彼らは天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ないからである。

5. イエスは、復活について、どのような聖書を引用していますか。(26,27)

- 26 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。あなたがたは非常な思い違いをしている」。
- [DQ] イエスは旧約聖書からの引用でなにを伝えているのでしょうか。
- [Ref] 出エジプト 3:6 また言われた、「わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」。モーセは神を見ることを恐れたので顔を隠した。
- もし、神がこれらの族長たちの神であれば、生きています神は生きている人々の神であり、存在せず、死んだ者の神ではないので、それは、彼らがなお生きておらねばならないことを意味する。(パークレイ)
- [DQ] 「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。」は何を伝えているのでしょうか。
- 生きるのはすべて神に対して生きる。(榊原康夫)
 - ー ヨハネ 11:25-26 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。26 また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。
 - ー (真に生きるということ) 2 テサロニケ 3:11 ところが、聞くところによると、あなたがたのうちのある者は怠惰な生活を送り、働かないで、ただいたずらに動きまわっているとのことである。

- －（生ける屍とは異なる生きから）1 テモテ 5:6 これに反して、みだらな生活をしているやもめは、生けるしかばねにすぎない。
- －（永遠の神との関係）ハバクク 1:12 わが神、主、わが聖者よ。あなたは永遠からいますかたではありませんか。わたしたちは死んではならない。主よ、あなたは彼らをさばきのために備えられた。岩よ、あなたは彼らを懲らしめのために立てられた。
- 今、生命の源泉たる神との関わり方をかえるべき。
 - － 彼らはもう死ぬことができない。
 - * ルカ 20:36 彼らは天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ないからである。

6. イエスは、この箇所復活についてどのようなことを教えているのでしょうか。

- [DQ] マタイとルカには、どのような反応が描かれていますか。
 - － マタイ 22:33 群衆はこれを聞いて、イエスの教に驚いた。
 - － ルカ 20:39,40 律法学者のうちのある人々が答えて言った、「先生、仰せのとおりです」。40 彼らはそれ以上何もあえて問いかけようとしなかった。
- [DQ] イエスの復活、神理解について、この箇所から分かることを上げてみましょう。
- [DQ] 死んだひとが生き返ること、イエスの復活、一般の（イエス以外の）ひとの死後の復活、神との関係において、生き続けること、それぞれの関係と、それぞれの意味についてはどう考えたらよいのでしょうか。

4.71.7 メモ

- 問い：サドカイ人は、復活を信ぜず、パリサイ人は、それを信じていたようだが（使徒 23:6）なぜ、そのように信じ、何を根拠にそう信じていたのだろうか。そのように信じるような経緯も知りたい。復活を信じる、パリサイ人は、サドカイ人の 12:19-23 節の問いに、どう答えていたのだろうか。
- 問い：アブラハム、イサク、ヤコブは生きていと証言しているようだが、イエスは復活についてどのような理解をもっていたのだろうか。イエス自身が「よみがえる」ことについて何回か述べられているが（マルコ 8:31, 9:9-10, 9:31, 10:34）、イエスは自身の復活についてどのように認識していたのだろうか。
- 共観福音書（マルコとの）差異：マタイは、最後に反応を記述した「33 群衆はこれを聞いて、イエスの教に驚いた。」のみが加わっているが、本文は基本的に同じとしてよい。ルカは、イエスの答えの中に、復活に関する理解の差異がある。最後の反応が異なるが、これは、ルカでは、次の「最も重要な戒め」が欠けており、並行箇所が「善いサマリア人」の前半に対応しており、議論としては、最後にしているので、マ

ルコでは、「最も重要な戒め」の最後にある「それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。」で閉じられている。復活に関する記述の違いは、重要である。まず、35 節では、死人からの復活はすべての人ではなく「復活にあずかるにふさわしい者たち」となっている点、さらに、36 節には「天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ない」と、マルコにはないことが付け加えられている。

ー ルカ 20:35 かの世界にはいつて死人からの復活にあずかるにふさわしい者たちは、めとったり、とついたりすることはない。36 彼らは天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ないからである。

ー ルカ 20:38b 人はみな神に生きるものだからである」。39 律法学者のうちのある人々が答えて言った、「先生、仰せのとおりです」。40 彼らはそれ以上何もあえて問いかけようとしなかった。

- ・ イエスは二種類の応答をしている。1 つ目は、「死人の中からよみがえるときは、天にいる御使いのようなもので、めとったり、とついたりしない。」ということ、2 つ目は、「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神であり、アブラハム、イサク、ヤコブも（神に対して）生きているのだということ、である。1 つ目は、宣言であり、説明としては理解できるが、2 つ目は、混乱を来すように思える。
- ・ イエスと共に生きる、神の子として生きるいのちは、この世の社会的な制度や規則に縛られるものではなく、復活を考える時には、拘束されない。また、主（神、神の子イエス）との交わり、主との結びつきは、現在から続く、永遠のものである。
- ・ イエスの聖書解釈には、驚かされる。本当に、これが、死人がよみがえることについて語られている箇所なのだろうか。

ー 37 死人がよみがえることは、モーセも柴の篇で、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、これを示した。38 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。人はみな神に生きるものだからである」。

4.72 12:28-34 最も重要な戒め

28 ひとりの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っているのを聞き、またイエスが巧みに答えられたのを認めて、イエスに質問した、「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」。29 イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。30 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」。32 そこで、この律法学者はイエスに言った、「先生、仰せのとおりです、『神はひとりであって、そのほかに神はない』と言われたのは、ほんとうです。33 また『心をつくし、知恵をつくし、力をつくして神を愛し、また自分を愛するように隣り人を愛する』ということは、すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです」。34 イエスは、彼が適切な答をしたのを見て言われた、「あなたは神の国から遠くな

い」。それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。

4.72.1 マタイ 22:34-40

34 さて、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを言いこめられたと聞いて、一緒に集まった。35 そして彼らの中のひとりの律法学者が、イエスをためそうとして質問した、36 「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。37 イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。38 これがいちばん大切な、第一のいましめである。39 第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。40 これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」。

4.72.2 ルカ 10:25-28

25 するとそこへ、ある律法学者が現れ、イエスを試みようとして言った、「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」。26 彼に言われた、「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか」。27 彼は答えて言った、『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります」。28 彼に言われた、「あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる」。

[マルコによる福音書 12 章 28-34 節福音書対照表](#)

4.72.3 問い

1. これまで、神殿でどのような人たちとどのようなことについて話したか復習しましょう。(11:27-12:27)
2. この律法学者はどのような動機からどのような質問をしていますか。(28)
3. イエスはなんと答えていますか。(29-31)
4. 「あなたの神である主を愛せよ」「隣人を自分と同じように愛せよ」とはどのようないましめですか。(29-31)
5. この律法学者は、イエスの答えを聞いて、どのように語り、イエスはこの律法学者にどう伝えますか。(32-34)
6. あなたは、イエスが神殿で語ったことから、どのようなことを学びましたか。

4.72.4 参照

- 出エジプト記 20:3-17 あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。4 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあ

るものの、どんな形をも造ってはならない。5 それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものには、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし、6 わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。7 あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。8 安息日を覚えて、これを聖とせよ。9 六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。10 七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。11 主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。12 あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。13 あなたは殺してはならない。14 あなたは姦淫してはならない。15 あなたは盗んではならない。16 あなたは隣人について、偽証してはならない。17 あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない」。

● パークレイ

- － ヒルレル（片足で立っている間に律法の全体を教えるようにとの依頼にこたえ）：あなたが自分自身にされるのを憎むことを、あなたの隣人にするな。これが律法の全体である。残りはその注解である。行って学べ。
- － アキバ：『隣人をあなた自身のように愛せよ』－これが一番大きい、一般的な律法である。
- － 義人シモン：三つのことの上に世界は成り立っている－律法と、礼拝と、愛の働きの上に。
- － サムラー：モーセがシナイ山によいて6 1 3の法則を授けられた、それは太陽年の日数に従って3 6 5（榊原：禁止命令）、人間の世代数に従って2 4 8（榊原：積極命令）を受けた。
- － ダビデ（詩篇1 5篇）主よ、あなたの幕屋に宿るものはだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか。
 1. 直く歩む者。
 2. 義を行う者。
 3. 心から真実を語る者。
 4. その舌をもってそしらぬ者。
 5. その友に悪をなさざる者。
 6. その隣り人に対するそしりを取りあざける者。
 7. その目が神に捨てられた者を卑しめる者。
 8. 主を恐れる者を尊ぶ者。

- 9. 誓ったことは自分の損害になっても変えない者。
- 10. 利益をとって金銭を貸さない者。
- 11. 罪のない者の不利をはからない者。
- － イザヤ（イザヤ 33:15）
 - 1. 正しく歩む者。
 - 2. 正直に語る者。
 - 3. しえたげて得た利を卑しめる者。
 - 4. 手を振って、まいないを取らない者。
 - 5. 耳をふさいで地を流す謀略を聞かない者。
 - 6. 目を閉じて悪を見ない者。
- － ミカ（ミカ 6:8）主のあなたに求められることは、
 - 1. 公義をおこない。
 - 2. いくつしみを愛し。
 - 3. へりくだってあなたの神と共に歩むことである。
- － イザヤ（イザヤ 56:1）
 - 1. あなたがたは公平を守れ。
 - 2. そして正義を行え。
- － ハバクク（ハバクク 2:4）
 - * 義人はその信仰によって生きる。
- － アウグスティヌス（354-430）
 - * 神を愛し—そして、あなたの好きなようにしなさい。
- － 十二族長の遺訓（[Early Christian Writings: The Testaments of the Twelve Patriarchs](#)）
 - * [イッサカル](#)の遺訓（THE TESTAMENT OF ISSACHAR, THE FIFTH SON OF JACOB AND LEAH）5:2：主を愛し、あなたの隣人を愛せよ。貧しき者と弱き者に同情せよ。But love the Lord and your neighbour, Have compassion on the poor and weak.

* **イッサカル**の遺訓 (THE TESTAMENT OF ISSACHAR, THE FIFTH SON OF JACOB AND LEAH) 7:6: わたしは主を愛した、同様に、すべての人々を心を尽くして愛した。I loved the Lord; Likewise also every man with all my heart.

* **ダン**の遺訓 (THE TESTAMENT OF DAN, THE SEVENTH SON OF JACOB AND BIL-HAH.) 5:3: あなたの全生涯をかけて主を愛せよ。また、真実の心をもってお互いに愛し合え。Love the Lord through all your life, And one another with a true heart.

- シェマ（聞け）聖句箱（小さな革の小箱）の中に入れ、祈る時に、身につけた。

－ 申命記 6:4-9 イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。5 あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。6 きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、7 努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。8 またあなたはこれをあなたの手につけてしるしとし、あなたの目の間に置いて覚えとし、9 またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。

－ 申命記 11:13-21 もし、きょう、あなたがたに命じるわたしの命令によく聞き従って、あなたがたの神、主を愛し、心をつくし、精神をつくして仕えるならば、14 主はあなたがたの地に雨を、秋の雨、春の雨ともに、時にしたがって降らせ、穀物と、ぶどう酒と、油を取り入れさせ、15 また家畜のために野に草を生えさせられるであろう。あなたは飽きるほど食べることができるであろう。16 あなたがたは心が迷い、離れ去って、他の神々に仕え、それを拝むことのないよう、慎まなければならない。17 おそらく主はあなたがたにむかい怒りを発して、天を閉ざされるであろう。そのため雨は降らず、地は産物を出さず、あなたがたは主が賜わる良い地から、すみやかに滅びうせるであろう。18 それゆえ、これらのわたしの言葉を心と魂におさめ、またそれを手につけて、しるしとし、目の間に置いて覚えとし、19 これを子供たちに教え、家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、それについて語り、20 また家の入口の柱と、門にそれを書きしるさなければならない。21 そうすれば、主が先祖たちに与えようと誓われた地に、あなたがたの住む日数およびあなたがたの子供たちの住む日数は、天が地をおおう日数のように多いであろう。

－ 民数記 15:37-41 主はまたモーセに言われた、38 「イスラエルの人々に命じて、代々その衣服のすその四すみにふさをつけ、そのふさを青ひもで、すその四すみにつけさせなさい。39 あなたがたが、そのふさを見て、主のもろもろの戒めを思い起して、それを行い、あなたがたが自分の心と、目の欲に従って、みだらな行いをしないためである。40 こうして、あなたがたは、わたしのもろもろの戒めを思い起して、それを行い、あなたがたの神に聖なる者とならなければならない。41 わたしはあなたがたの神、主であって、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの国から導き出した者である。わたしはあなたがたの神、主である」。

－ シェマについて

* 夕方の何時からシェマをとねえればよいか。祭司たちが挙祭を食べにはいつから第一の刻の初

めまで。そうラビ・エリエゼルは言った」(ミシュナー：ペーラーコート 1:1) 朝の何時からシェマをとねえればよいか。青と白とを見分けられるようになったら即刻。ラビ・エリエゼルは、青と緑をと言う。そして日の出前に終わらねばならぬ。(2)

- ー ヤコブ 2:19 あなたは、神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。
- レビ記 19:18 あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない。わたしは主である。
 - ー 本来の背景としては、自分の仲間のユダヤ人について。
 - ー ローマ 13:9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」など、そのほかに、どんな戒めがあっても、結局「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」というこの言葉に帰する。
 - ー ガラテヤ 5:14 律法の全体は、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」というこの一句に尽きるからである。
 - ー ヤコブ 2:8 しかし、もしあなたがたが、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という聖書の言葉に従って、このきわめて尊い律法を守るならば、それは良いことである。

4.72.5 記録

- 日時：2024 年 10 月 31 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.72.6 問いについて

1. これまで、神殿でどのような人たちとどのようなことについて話したか復習しましょう。(11:27-12:27)
 - 権威についての問答 (11:27-33) vs 祭司長、律法学者、長老たち (27)
 - ー 問：11:28 「何の権威によってこれらの事をするのですか。だれが、そうする権威を授けたのですか」。
 - ー イエス：11:30 ヨハネのバプテスマは天からであったか、人からであったか、答えなさい」。
 - 「ぶどう園の農夫」のたとえ (12:1-12) vs (おそらく) 祭司長、律法学者、長老たち (27)
 - ー イエス：12:9 このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。

- － 人々：12:12 彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。
- 皇帝への税金（12:13-17）vs パリサイ人やヘロデ党の者数人
 - － 12:14b カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか
 - － 12:17b カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい
- 復活についての問答（12:18-27）vs サドカイ人たち
 - － 問：12:23 復活のとき、彼らが皆よみがえった場合、この女はだれの妻なのでしょう。七人とも彼女を妻にしたのですが」。
 - － イエス：12:24,25 24 イエスは言われた、「あなたがたがそんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではないか。25 彼らが死人の中からよみがえるときには、めとったり、とついたりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。
 - － イエス：12:26,27 26 死人がよみがえることについては、モーセの書の柴の篇で、神がモーセに仰せられた言葉を読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。あなたがたは非常な思い違いをしている」。

2. この律法学者はどのような動機からどのような質問をしていますか。（28）

- 28 ひとりの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っているのを聞き、またイエスが巧みに答えられたのを認めて、イエスに質問した、「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」。
- [DQ] 何を聞きたいのでしょうか。質問の意図は何でしょうか。マタイと、ルカではどのように表現していますか。
 - － マルコ：イエスが巧みに答えられたのを認めて、- 敬意が現れている。
 - － マタイ：イエスをためそうとして質問した
 - － ルカ：イエスを試みようとして
- [A] マルコの文章からは悪意は感じられない。マタイやルカでは「ためそうとして、試みようとして」とあるが、質問からすると、受け取り方の問題であり、悪意がなかった可能性もある。マルコが最初にかかれたとすると、ルカは背景が異なるかもしれないが、マタイにおいては、喜捨の、律法学者に対する敵愾心があるのかもしれない。
- [DQ] 質問については、マタイと、ルカからは、どのようなことがわかりますか。
 - － マルコ：先生、すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか

－ マタイ：先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか

－ ルカ：先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか

3. イエスはなんと答えていますか。(29-31)

- 29 イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。30 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」。
- 申命記 6:4,5 イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。5 あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。
- レビ記 19:18 あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない。わたしは主である。
 - － 「あなたの民」とあり、基本的には、隣人は「同胞」を意味すると理解されており、それが当然であったと思われる。
- マルコは、シェマーの「イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。」から初めているが、マタイでは、それが省略されている。また、「力を尽くし」も省略されている。また、マルコ、マタイ、ルカとも、申命記にない「思いをつくし」が挿入されている。しかし、律法学者のことばは、旧約聖書に従っているのか、「思いをつくし」がない。
- [DQ] この違いは、大したことはないのだろうか。どのような意図があるのだろうか。
- [DQ] 「律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」とはどのような意味でしょうか。

4. 「あなたの神である主を愛せよ」「隣人を自分と同じように愛せよ」とはどのようないましめですか。(29-31)

- 29 イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。30 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」。
- [DQ] なぜ第一の（最も重要な）戒めは一つではなく二つなのでしょう。なぜ二つとも必要なのでしょう。
- [DQ] 2つ独立のいましめでしょうか。関連しているのでしょうか。
- [HS] たいせつなひと（かた）をたいせつにすることは、たいせつなひと（かた）のたいせつなひとをたいせつにすること。

- [参照] 1 ヨハネ 4:19-21 わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。20 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。

5. この律法学者は、イエスの答えを聞いて、どのように語り、イエスはこの律法学者にどう伝えますか。(32-34)

- 32 そこで、この律法学者はイエスに言った、「先生、仰せのとおりです、『神はひとりであって、そのほかに神はない』と言われたのは、ほんとうです。33 また『心をつくし、知恵をつくし、力をつくして神を愛し、また自分を愛するように隣人を愛する』ということは、すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです」。34 イエスは、彼が適切な答をしたのを見て言われた、「あなたは神の国から遠くない」。それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。
- [参照] サムエル記上 15:22 サムエルは言った、／「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、／燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、／聞くことは雄羊の脂肪にまさる。
- [参照] ホセア 6:6 わたしはいつくしみを喜び、犠牲を喜ばない。燔祭よりもむしろ神を知ることを喜ぶ。
- [DQ] 律法学者はどのように理解したのでしょうか。(32-33)
- [DQ] 「あなたは神の国から遠くない」とは、どのような意味なのでしょうか。(34b)
 - － [A] 文脈からは、十分な称賛だと考えてよいだろう。しかし、同時に、完璧ではないこと、つまり、イエスの理解からは、まだ、離れていることを示した言葉なのだろう。
- [DQ] なぜ人々は、イエスにこれ以上質問をしないのですか。(34c)

6. あなたは、イエスが神殿で語ったことから、どのようなことを学びましたか。

- イエスが、それぞれの反対勢力からの問いに対して、適切に伝え（反論し）ていることを伝えている。
- ヨハネのバプテスマとも関連しており、主のみこころ、主の働きが背後にあることを伝えている。
- 復活も、人間の興味よりも、神が生きているものの神であることを伝えることにより、神について伝えている。
- 最後に、中心的な、生き方について伝えている。

4.72.7 メモ

- 共観福音書の差異：マルコでは、「イエスが巧みに答えられたのを認めて、イエスに質問した」と始め、最後に、イエスが「あなたは神の国から遠くない」と言い、「それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。」と書かれて対話が終わっている。しかし、マタイでは、「イエスをためそうとして質問した」と始めている。ルカでは、別の箇所、善いサマリア人のたとえの前におかれ、かつ、「何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」(10:25b)との問いから始まり、イエスは、「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか」(10:26b)と問い、律法学者が同じような答えをしている。まずこのことから、律法学者と、イエスが考える、最も重要ないましめは、共通していたことがわかる。
- 細かいことだが、イエスの答えも微妙に異なる。「思いをつくして with thy mind」が、申命記にないのに、共観福音書ではすべて入っていることに特別な意味があるとする、驚きである。もし、そうであれば、感情や霊的なものだけでなく、知的、または理性的な面も含めているということだろう。
- イエスが「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」と問われて答えている箇所である。「わたしたちの神は、唯一の神である。その主をあなたのすべてをもって愛せよ。自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。」(要約)が、聖書の中心的な教えということだろう。
- 「イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。」で、聖書は、そして、イエスは何を伝えているのだろうか。他の神を認めない、排他的であることを奨励しているのだろうか。
- なぜ最も重要な戒めは一つではなく二つなのだろうか。二つとも絶対的に必要なのだろうか。二つのいましめは関連しているのだろうか、それとも独立なのだろうか。
- [HS] 隣人とは、唯一の神、主の前で、わたしと、同じ関係のおかれているひとのこと。つまり、神様が愛しておられる一人ひとりのことである。たいせつなひと(かた)をたいせつにすることは、たいせつなひと(かた)のたいせつなひとをたいせつにすること。
 - ヨハネ 7:44-49 彼らのうちのある人々は、イエスを捕えようと思ったが、だれひとり手をかける者はなかった。45 さて、下役どもが祭司長たちやパリサイ人たちのところに帰ってきたので、彼らはその下役どもに言った、「なぜ、あの人を連れてこなかったのか」。46 下役どもは答えた、「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」。47 パリサイ人たちが彼らに答えた、「あなたがたまでが、だまされているのではないか。48 役人たちやパリサイ人たちの中で、ひとりでも彼を信じた者があつたらうか。49 律法をわきまえないこの群衆は、のろわれている」。
 - 一般大衆「アム・ハーアレツ(土民・無学の衆)」イエスにとっては、深く憐れむ対象。
- イエスが、それぞれの反対勢力からの問いに対して、適切に伝え(反論し)ていること、を伝えていて、ローマ帝国に処刑されたひとを救い主とする批判・非難に対して、当時のキリスト者に対する護教的な面が含まれているように思われる。

4.73 12:35-37 ダビデの子についての問答

35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。36 ダビデ自身が聖霊に感じて言った、／『主はわが主に仰せになった、／あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、／わたしの右に座していなさい』。37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。

4.73.1 マタイ 22:41-45(-46)

41 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった、42 「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」。彼らは「ダビデの子です」と答えた。43 イエスは言われた、「それではどうして、ダビデが御霊に感じてキリストを主と呼んでいるのか。44 すなわち／『主はわが主に仰せになった、／あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、／わたしの右に座していなさい』。45 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるなら、キリストはどうしてダビデの子であろうか」。46 イエスにひと言でも答える者は、なかったし、その日からもはや、進んでイエスに質問する者も、いなくなった。

4.73.2 ルカ 20:41-44

41 イエスは彼らに言われた、「どうして人々はキリストをダビデの子だと言うのか。42 ダビデ自身が詩篇の中で言っている、／『主はわが主に仰せになった、43 あなたの敵をあなたの足台とする時までは、／わたしの右に座していなさい』。44 このように、ダビデはキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。

[マルコによる福音書 12 章 35-37 節福音書対照表](#)

4.73.3 問い

1. イエスは、どこで、どのようなことについて話し始めますか。(35)
2. ダビデは、どのようなひとですか。
3. イエスは、これまでに、ダビデの子と呼ばれたことはありますか。
4. イエスは、どのように説明しますか。(36,37a)
5. イエスは、何を伝えているのでしょうか。(36,37a)
6. 群衆は、どのように、イエスのことばを聞いていますか。(37b)

4.73.4 参照

- メシア （ギリシャ語はキリスト、油注がれたもの。ここでは定冠詞がつき、 X ）マルコにおける「キリスト」
 - － マルコ 1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。
 - － マルコ 8:29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。
 - － マルコ 9:41 だれでも、キリストについている者だということで、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもれることはないであろう。
 - － マルコ 12:35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。
 - － (マルコ 12:37 このように、ダビデ自身がキリスト（彼）を主と呼んでいる。それなら、どうしてキリスト（彼）はダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。)
 - － マルコ 13:21 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。
 - － マルコ 14:61 しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。大祭司は再び聞きただして言った、「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。
 - － マルコ 15:32 イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。
 - － 他の福音書：マタイ 1:1, 16, 17, 18, 2:4, 11:2, 16:20, 22:42, 23:8, 23:10, 24:5, 23, 26:63, 68, 27:17, 22、ルカ 2:11, 26, 3:15, 4:41, 9:20, 20:41, 23:2, 35, 39, 24:26, 46、ヨハネ多数
 - * マタイ 11:2 さて、ヨハネは獄中でキリストのみわざについて伝え聞き、自分の弟子たちをつかわして、
 - * マタイ 16:20 そのとき、イエスは、自分がキリストであることをだれにも言うてはいけないと、弟子たちを戒められた。
 - * ルカ 23:2 そして訴え出て言った、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」。
 - * ルカ 24:46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。

● メシア について信じられていたこと

- ー イザヤ 9:1-7 しかし、苦しみにあった地にも、やみがなくなる。さきにはゼブルンの地、ナフタリの地にはずかしめを与えられたが、後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。2 暗やみの中に歩んでいた民は大なる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。3 あなたが国民を増し、その喜びを大きくされたので、／彼らは刈入れ時に喜ぶように、／獲物を分かち時に楽しむように、／あなたの前に喜んだ。4 これはあなたが彼らの負っているくびきと、／その肩のつえと、しえたげる者のむちとを、／ミデアンの日になされたように折られたからだ。5 すべて戦場で、歩兵のはいたくつと、／血にまみれた衣とは、／火の燃えくさとなって焼かれる。6 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、／ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、／その名は、「霊妙なる議士、大能の神、／とこしえの父、平和の君」ととなえられる。7 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、／ダビデの位に座して、その国を治め、／今より後、とこしえに公平と正義とをもって／これを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。
- ー イザヤ 11:1-9 エッサイの株から一つの芽が出、／その根から一つの若枝が生えて実を結び、2 その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、／主を知る知識と主を恐れる霊である。3 彼は主を恐れることを楽しみとし、／その目の見るところによって、さばきをなさず、／その耳の聞くところによって、定めをなさず、4 正義をもって貧しい者をさばき、／公平をもって国のうちの／柔和な者のために定めをなし、／その口のむちをもって国を撃ち、／そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。5 正義はその腰の帯となり、／忠信はその身の帯となる。6 おおかみは小羊と共にやどり、／ひょうは子やぎと共に伏し、／子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、／小さいわらべに導かれ、7 雌牛と熊とは食い物を共にし、／牛の子と熊の子と共に伏し、／ししは牛のようにわらを食い、8 乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、／乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。9 彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、／やぶることがない。水が海をおおっているように、／主を知る知識が地に満ちるからである。
- ー エレミヤ 23:5-8 主は仰せられる、見よ、わたしがダビデのために一つの正しい枝を起す日がくる。彼は王となって世を治め、栄えて、公平と正義を世に行う。6 その日ユダは救を得、イスラエルは安らかにおる。その名は『主はわれわれの正義』となえられる。7 主は言われる、それゆえ見よ、人々は『イスラエルの民をエジプトの地から導き出された主は生きておられる』とまた言わないで、8 『イスラエルの家の子孫を北の地と、そのすべて追いやられた地から導き出された神は生きておられる』という日がくる。その時、彼らは自分の地に住んでいる」。
- ー エレミヤ 33:14-18 主は言われる、見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家に約束したことをなし遂げる日が来る。15 その日、その時になるならば、わたしはダビデのために一つの正しい枝を生じさせよう。彼は公平と正義を地に行う。16 その日、ユダは救を得、エルサレムは安らかにおる。その名は『主はわれわれの正義』となえられる。17 主はこう仰せられる、イスラエルの家の位に座する人がダビデの子孫のうちに欠けることはない。

- エゼキエル 34:23-27 わたしは彼らの上にひとりの牧者を立てる。すなわちわがしもべダビデである。彼は彼らを養う。彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。24 主なるわたしは彼らの神となり、わがしもべダビデは彼らのうちにあって君となる。主なるわたしはこれを言う。25 わたしは彼らと平和の契約を結び、国の内から野獣を追い払う。彼らは心を安んじて荒野に住み、森の中に眠る。26 わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降らす。これは祝福の雨となる。27 野の木は実を結び、地は産物を出す。彼らは心を安んじてその国におり、わたしが彼らのくびきの棒を砕き、彼らを奴隷とした者の手から救い出す時、彼らはわたしが主であることを悟る。
- 詩篇 89:20-24 わたしはわがしもべダビデを得て、／これにわが聖なる油をそそいだ。21 わが手は常に彼と共にあり、／わが腕はまた彼を強くする。22 敵は彼をだますことなく、／悪しき者は彼を卑しめることはない。23 わたしは彼の前にもろもろのあだを打ち滅ぼし、／彼を憎む者どもを打ち倒す。24 わがまことと、わがいつくしみは彼と共にあり、／わが名によって彼の角は高くあげられる。
- (福音書における) ダビデ
 - マルコ 2:25 そこで彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが食物がなくて飢えたとき、ダビデが何をしたか、まだ読んだことがないのか。
 - マルコ 11:10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。
 - マタイ 1:6 エッサイはダビデ王の父であった。ダビデはウリヤの妻によるソロモンの父であり、
 - マタイ 1:17 だから、アブラハムからダビデまでの代は合わせて十四代、ダビデからバビロンへ移されるまでは十四代、そして、バビロンへ移されてからキリストまでは十四代である。
 - マタイ 1:20 彼がこのことを思いめぐらしていたとき、主の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。
 - マタイ 12:3 そこでイエスは彼らに言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが飢えたとき、ダビデが何をしたか読んだことがないのか。(Cf. マルコ 2:25)
 - ルカ 1:27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。
 - ルカ 1:32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、
 - ルカ 1:69 わたしたちのために救の角を／僕ダビデの家にお立てになった。
 - ルカ 2:4 ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

- － ルカ 2:11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。
- － ルカ 3:31 メレヤ、メナ、マタタ、ナタン、ダビデ、
- － ルカ 6:3 そこでイエスが答えて言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが飢えていたとき、ダビデのしたことについて、読んだことがないのか。(Cf. マルコ 2:25)
- ダビデの子（イエスに関して）
 - － マルコ 10:47,48 ところが、ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。48 多くの人々は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。
 - － マルコ 12:35-37 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。36 ダビデ自身が聖霊に感じて言った、／『主はわが主に仰せになった、／あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、／わたしの右に座していなさい』。37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。
 - － マタイ 1:1 アブラハムの子であるダビデの子、イエス・キリストの系図。
 - － マタイ 9:27 そこから進んで行かれると、ふたりの盲人が、「ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」と叫びながら、イエスについてきた。(Cf. マルコ 10:47,48)
 - － マタイ 12:23 すると群衆はみな驚いて言った、「この人が、あるいはダビデの子ではあるまいか」。
 - － マタイ 15:22 すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。
 - － マタイ 20:30,31 すると、ふたりの盲人が道ばたにすわっていたが、イエスがとおって行かれると聞いて、叫んで言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。31 群衆は彼らをしかって黙らせようとしたが、彼らはますます叫びつづけて言った、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。
 - － マタイ 21:9 そして群衆は、前に行く者も、あとに従う者も、共に叫びつづけた、／「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。(Cf. マルコ 11:9)
 - － マタイ 21:15 しかし、祭司長、律法学者たちは、イエスがなされた不思議なわざを見、また宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て立腹し、(Cf. マルコ 11:9)
 - － マタイ 22:42,43 「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」。彼らは「ダビデの子です」と答えた。43 イエスは言われた、「それではどうして、ダビデが御霊に感じてキリストを主と呼んでいるのか。(Cf. マルコ 12:35-37)

- － ルカ 18:38,39 声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。39 先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」。(Cf. マルコ 10:47,48)
- － ルカ 20:41-44 イエスは彼らに言われた、「どうして人々はキリストをダビデの子だと言うのか。42 ダビデ自身が詩篇の中で言っている、／『主はわが主に仰せになった、43 あなたの敵をあなたの足台とする時まで、／わたしの右に座していなさい』。44 このように、ダビデはキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。(Cf. マルコ 12:35-37)
- － ヨハネ 7:42 キリストは、ダビデの子孫から、またダビデのいたベツレヘムの村から出ると、聖書に書いてあるではないか」と言った。
- － ローマ 1:3 御子に関するものである。御子は、肉によればダビデの子孫から生れ、
- － テモテへの第二の手紙 2:8 ダビデの子孫として生れ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思いなさい。これがわたしの福音である。
- サムエル記下 7:8-17 (ナタンの預言)
 - － 8 それゆえ、今あなたは、わたしのしもべダビデにこう言いなさい、『万軍の主はこう仰せられる。わたしはあなたを牧場から、羊に従っている所から取って、わたしの民イスラエルの君とし、9 あなたがどこへ行くにも、あなたと共におり、あなたのすべての敵をあなたの前から断ち去った。わたしはまた地上の大いなる者の名のような大いなる名をあなたに得させよう。10 そしてわたしの民イスラエルのために一つの所を定めて、彼らを植えつけ、彼らを自分の所に住ませ、重ねて動くことのないようにするであろう。11 また前のように、わたしがわたしの民イスラエルの上にさばきづかさを立てた日からこのかたのように、悪人が重ねてこれを悩ますことはない。わたしはあなたのもろもろの敵を打ち退けて、あなたに安息を与えるであろう。主はまた「あなたのために家を造る」と仰せられる。12 あなたが日が満ちて、先祖たちと共に眠る時、わたしはあなたの身から出る子を、あなたのあとに立てて、その王国を堅くするであろう。13 彼はわたしの名のために家を建てる。わたしは長くその国の位を堅くしよう。14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となるであろう。もし彼が罪を犯すならば、わたしは人のつえと人の子のむちをもって彼を懲らす。15 しかしわたしはわたしのいつくしみを、わたしがあなたの前から除いたサウルから取り去ったように、彼からは取り去らない。16 あなたの家と王国はわたしの前に長く保つであろう。あなたの位は長く堅うせられる』。17 ナタンはすべてこれらの言葉のように、またすべてこの幻のようにダビデに語った。
- ソロモンの詩篇 (BC 1世紀または2世紀) 外典 17章の一部 (sacred-text.com における英文の和訳)
 - － 主よ、見よ、ダビデの子を彼らのために王として立ててください。神よ、あなたが見る時に、彼はあなたのしもべイスラエルを治めます。彼に力を授け、不義の支配者たちを打ち砕き、エルサレムを踏みじって滅ぼす国々からエルサレムを清めさせてください。彼は知恵と正義をもって罪人を相続地から追い出し、陶器師の器のように罪人の高慢さを滅ぼします。彼は鉄の杖で彼らの財産をすべて打

ち砕き、口の言葉で神を恐れない国々を滅ぼします。彼の叱責によって国々は彼の前から逃げ去り、彼は心の思いについて罪人を責めます。

－（中略）そして彼は異邦の民を自分のくびきの下に従わせ、全世界に見られる場所で主の栄光をたたえ、エルサレムを清めて、昔のように聖なる所とする。

4.73.5 記録

- 日時：2024 年 11 月 7 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）1 名

4.73.6 問いについて

1. イエスは、どこで、どのようなことについて話し始めますか。（35）

- 35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。³⁵ K Δ ;
- [DQ] 「キリスト」は何ですか。イエスのことですか。
- [A] となっていて、イエスのことではない。そのことを含めて訳すと「どうして学者は、来たるべき神の油注がれた王が、ダビデの子であると言えるか。」

2. ダビデは、どのようなひとですか。

- ダビデについては、サムエル記上 16-サムエル記下全体-列王記上 2:11 参照
- サムエル記下 7:8-17（ナタンの預言）一部抜粋
 - － 12 あなたが日が満ちて、先祖たちと共に眠る時、わたしはあなたの身から出る子を、あなたのあとに立てて、その王国を堅くするであろう。13 彼はわたしの名のために家を建てる。わたしは長くその国の位を堅くしよう。14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となるであろう。もし彼が罪を犯すならば、わたしは人のつえと人の子のむちをもって彼を懲らす。15 しかしわたしはわたしのいつくしみを、わたしがあなたの前から除いたサウルから取り去ったように、彼からは取り去らない。16 あなたの家と王国はわたしの前に長く保つであろう。あなたの位は長く堅うせられる』。
- イザヤ 9:6,7 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、／ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、／その名は、「霊妙なる議士、大能の神、／とこしえの父、平和の君」ととなえられる。7 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、／ダビデの位に座して、

その国を治め、／今より後、とこしえに公平と正義とをもって／これを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

- イザヤ 11:1,2 エッサイの株から一つの芽が出、／その根から一つの若枝が生えて実を結び、2 その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、／主を知る知識と主を恐れる霊である。
- エゼキエル 23:23,24 わたしは彼らの上にひとりの牧者を立てる。すなわちわがしもべダビデである。彼は彼らを養う。彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。24 主なるわたしは彼らの神となり、わがしもべダビデは彼らのうちにあつて君となる。主なるわたしはこれを言う。
- 詩篇 89:20 わたしはわがしもべダビデを得て、／これにわが聖なる油をそそいだ。

3. イエスは、これまでに、ダビデの子と呼ばれたことはありますか。

- マルコ 10:47,48 ところが、ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。48 多くの人々は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。(マタイ 20:30,31、ルカ 18:38,39)
- [A] マルコでは、エリコでの、盲人叫びの中でしか使われていない。しかし、マタイ、ルカでは他にもある。
 - ー マタイ 1:1 アブラハムの子であるダビデの子、イエス・キリストの系図。
 - ー マタイ 12:23 すると群衆はみな驚いて言った、「この人が、あるいはダビデの子ではあるまいか」。(ベルゼブル論争の箇所、並行箇所のマルコ 3 章ではダビデの子という言葉は出てこない。)
 - ー マタイ 15:22 すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。(フェニキアの女の箇所、並行箇所のマルコ 7 章ではダビデの子という言葉は出てこない。)
 - ー マタイ 21:9 そして群衆は、前に行く者も、あとに従う者も、共に叫びつづけた、／「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。(エルサレム入城の箇所、並行箇所のマルコ 11:10 では、「今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」となっており、ダビデの子という言葉は出てこない。)
- (参照) ヨハネ 7:42 キリストは、ダビデの子孫から、またダビデのいたベツレヘムの村から出ると、聖書に書いてあるではないか」と言った。
- (参照) ローマ 1:3 御子に関するものである。御子は、肉によればダビデの子孫から生れ、(テモテへの第二の手紙 2:8)

4. イエスは、どのように説明しますか。(36,37a)

- 36 ダビデ自身が聖霊に感じて言った、／『主はわが主に仰せになった、／あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、／わたしの右に座していなさい』。37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。
- [DQ] 詩篇 110 篇の引用は、どのようなことを言っているのでしょうか。
- 詩篇 110:0-1 ダビデの歌 1 主はわが主に言われる、／「わたしがあなたのもろもろの敵を／あなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ」と。
- イエスはダビデとメシヤ（キリスト）の関係についてどのように言っていますか。
- [A] 「主」と「わが主」とダビデが想定されていると思われる「わたし」がいる。主は、神ととるのが自然であろう。我が主は、明らかではないが、特別な存在で、主が、わたしの右に座していなさいという存在である。それも、あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでと、ある期間限定である。その後、どうなるのかは明確ではないが、主の右の座よりも高い場所が用意されているように見える。
- [参考] ヘブル 1:3,4 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の現れであって、万物をその力ある言葉によって支えておられます。そして、罪の清めを成し遂げて、天の高い所におられる大いなる方の右の座に着かれました。御子は、天使たちより優れた者となりました。天使たちにまさる名を受け継がれたからです。

5. イエスは、何を伝えているのでしょうか。

- [DQ] イエスは、キリストはダビデの子ということを否定しているのでしょうか。
 - － [A] 表面的には否定しているように見える。
- [DQ] イエスは、自分がダビデの子であることを否定しているのでしょうか。
 - － [A] 明確には、イエスがメシアであるかには、触れていない。
- [DQ] キリストは、ダビデの子を超えるものである。ということでしょうか。
 - － [A] マタイ、ルカでは、イエスがダビデの子であるという記述を肯定しているように見えるので、聖書全体としては、キリスト・イエスはダビデの子を超えるものということを伝えていると考えるのが穏当であろう。しかし、マルコだけで考えると、イエスがダビデの子であることは、否定しているように見えるので、ここだけから、ダビデの子を超えるものとすることはできない。

6. 群衆は、どのように、イエスのことばを聞いていますか。(37b)

- 37b 大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。
- マタイ 22:46 イエスにひと言でも答えうる者は、なかったし、その日からもはや、進んでイエスに質問する者も、いなくなった。

- ルカ 20:40 彼らはそれ以上何もあえて問いかけようとしなかった。(復活についての問いの後、ルカは、最も大切な戒めはここには入れていない)
- マルコ 12:34b それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。(最も重要な戒めの最後)
- [A] 大ぜいの群衆が喜んでと書いてあり、最も重要な戒めにある「ひとりの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っているのを聞き、またイエスが巧みに答えられたのを認め」(12:28a) と似た表現のように見える。ただ、無論、これは、マルコの記述で、マルコが伝えられたことなのだろう。しかし、それが、マタイやルカでは、このような群衆の取り方が書かれていない。

4.73.7 メモ

- 共観福音書の差異：三つの共観福音書とも、イエスがこの問いを語りだしている。しかし、マタイでは、「パリサイ人たちが集まっていたとき」(マタイ 22:41) となっており、さらに、イエスが「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」と問うたときに、パリサイ人が「ダビデの子です」と答えたように書かれている。マルコでは、そのように言っているのが「律法学者」であるとしており、マタイと通じる面があるが、ルカでは「人々」と一般化している。そのルカには、最後に人々の反応は書かれておらず、マルコでは「大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。」とこのトピックを閉じ、マタイでは、「イエスにひと言でも答えうる者は、なかったし、その日からもはや、進んでイエスに質問する者も、いなくなった。」として、イエスの答えが素晴らしかったところに力点がおかれ、人々の反応とは、少し異なる表現になっている。ただ、マルコも、マタイも、ルカもこのあと、律法学者に注意せよとのくだりに移る。マタイは、そこでも「律法学者とパリサイ人」として、パリサイ人を明示している。
- 問い：キリストはダビデの子かという問いに対して三つの共観福音書ともイエスは否定している。イエスがダビデの子かという問いに関しては、福音書によってどのように記述されているのだろうか。
- 問い：マルコにおいても、一箇所、エリコで盲人が「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」(10章 47節、48節では「イエス」が省略) と叫んでいる箇所があるが、他の福音書と比較して非常に注意して「ダビデの子」とは書かれていないように見える。この箇所でも、ひとびとは、必ずしもメシアをダビデの子だとは考えてないように見える。実際には、どうだったのだろうか。
 - マルコは、イエスがダビデの子かということに、一貫して否定しているように見える。次の項にあるように、ダビデの子と登場するのは、この箇所以外は、エリコで盲人が読んだ箇所だけである。ダビデのような、または、ダビデの家系から、救い主が現れることは、預言書には、書いてあるように見える。しかし、イエスは、そのような表現をここで、否定し、神に油注がれたメシアは、ダビデの子ではないと言っているように見える。
 - マタイや、ルカの誕生物語などから見ると、生まれにおいては、イエスはダビデの系列、末裔であることが書かれており、かつ、ダビデの子と、キリストを明確に区別しているように見え、マルコとの差が見え、あまり注意していないように見える。単純に、ダビデの子キリストという定式のもと

でキリストについて語られているように見える。パウロ文書においても、肉において、つまり生まれが、ダビデの末裔であることは、書かれており、そのことを強調はしないものの、この箇所を深く認識しているようには見えない。その意味でも、この箇所は、たいせつなのであろう。

- － 榊原（マタイによる福音書下 p.95）で、「『わが主』という呼び方は、場合によっては、自分より目下の者にでもあてはめられました。ヨセフも、彼の王パロの『父、その全家の主』と呼ばれ（創世記 45:8）、アロンも弟モーセに『わが主よ』と呼びかけました（出エジプト 32:22、民数記 12:11）。ですから、ダビデがメシヤを『わが主』と呼んだこと自体は、メシアがダビデの『子』ではないかどうかを立証しません。つまり、イエスの論証は、ダビデがメシヤを『子』と呼んで見下したか、『主』と呼んで見上げたか、というような断片的な言葉じりにこだわった論証ではないのです。むしろ、『キリストをどう思うか。だれの子なのか』と問い、『どうしてダビデの子であろうか』と打ち消して、ダビデならざるかたの『子』つまり神の子である、と答えを出す議論なのである。」としています。これは、共観福音書の中で、イエスをダビデの子と呼び、パウロ書簡でも、肉によればダビデの子孫とよんでいることを肯定し、そのうえで、ここを説明しているためと思われる。「このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」（マルコ 12:37、この部分はマタイ、ルカもほぼ同文）から考えると、ダビデの子という呼称自体も否定している、マルコの注意深さが背景にあるように思う。実際に、血筋として、ダビデの子孫かどうかは、「作り話やはてしのない系図などに気をとられることもないように、命じなさい。そのようなことは信仰による神の務を果すものではなく、むしろ論議を引き起させるだけのものである。」（テモテ前書 1:4、参照：テトス 3:9、ヘブル 7:3）から、重視しないのがよいように思われる。むしろ、そうするとイエスの降誕に関する、マタイと、ルカの記述について、議論をしないといけなのだが。
- なぜ、マルコでは、注意深く書かれているか。ルカ 23:2 そして訴え出て言った、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」。マルコがペテロや他のイエスと行動をともにした弟子たちの証言を元に行っているとすると、イエスが訴えられたことに対する反証を記すことも重要だったと思われる。すこしあとに書かれたルカでは、引用句のように書かれている。軽々しく、キリストだと証言することは、憚られたのではないと思われる。

4.74 12:38-40 律法学者を非難する

38 イエスはその教の中で言われた、「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩くことや、広場であいさつされることや、39 また会堂の上席、宴会の上座を好んでいる。40 また、やもめたちの家を食べい倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもっときびしいさばきを受けるであろう」。

4.74.1 マタイ 23:1-36

1 そのときイエスは、群衆と弟子たちとに語って言われた、2 「律法学者とパリサイ人とは、モーセの座にすわっている。3 だから、彼らがあなたがたに言うことは、みな守って実行しなさい。しかし、彼らのすることには、ならうな。彼らは言うだけで、実行しないから。4 また、重い荷物をくくって人々の肩にのせるが、それを動かすために、自分では指一本も貸そうとはしない。5 そのすることは、すべて人に見せるためである。すなわち、彼らは経札を幅広くつくり、その衣のふさを大きくし、6 また、宴会の上座、会堂の上席を好み、7 広場であいさつされることや、人々から先生と呼ばれることを好んでいる。8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはならない。あなたがたの先生は、ただひとりであって、あなたがたはみな兄弟なのだから。9 また、地上のだれをも、父と呼んではならない。あなたがたの父はただひとり、すなわち、天にいます父である。10 また、あなたがたは教師と呼ばれてはならない。あなたがたの教師はただひとり、すなわち、キリストである。11 そこで、あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。12 だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。13 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、天国を閉ざして人々をはいらせない。自分もはいらぬし、はいろうとする人をはいらせもしない。14 「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。だから、もっときびしいさばきを受けるに違いない。」15 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたはひとりの改宗者をつくるために、海と陸とを巡り歩く。そして、つくったなら、彼を自分より倍もひどい地獄の子にする。16 盲目な案内者たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは言う、『神殿をさして誓うなら、そのままでよいが、神殿の黄金をさして誓うなら、果す責任がある』と。17 愚かな盲目な人たちよ。黄金と、黄金を神聖にする神殿と、どちらが大事なのか。18 また、あなたがたは言う、『祭壇をさして誓うなら、そのままでよいが、その上の供え物をさして誓うなら、果す責任がある』と。19 盲目な人たちよ。供え物と供え物を神聖にする祭壇とどちらが大事なのか。20 祭壇をさして誓う者は、祭壇と、その上にあるすべての物とをさして誓うのである。21 神殿をさして誓う者は、神殿とその中に住んでおられるかたとをさして誓うのである。22 また、天をさして誓う者は、神の御座とその上にすわっておられるかたとをさして誓うのである。23 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。はっか、いのんど、クミンなどの薬味の十分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実とを見のがしている。それもしなければならないが、これも見のがしてはならない。24 盲目な案内者たちよ。あなたがたは、ぶよはこしているが、らくだはのみこんでいる。25 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。杯と皿との外側はきよめるが、内側は貪欲と放縦とで満ちている。26 盲目なパリサイ人よ。まず、杯の内側をきよめるがよい。そうすれば、外側も清くなるであろう。27 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである。28 このようにあなたがたも、外側は人に正しく見えるが、内側は偽善と不法とでいっぱいである。29 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは預言者の墓を建て、義人の碑を飾り立てて、こう言っ

ている、30 『もしわたしたちが先祖の時代に生きていたなら、預言者の血を流すことに加わってはいなかったらう』と。31 このようにして、あなたがたは預言者を殺した者の子孫であることを、自分で証明している。32 あなたがたもまた先祖たちがした悪の枅目を満たすがよい。33 へびよ、まむしの子らよ、どうして地獄の刑罰をのがれることができようか。34 それだから、わたしは、預言者、知者、律法学者たちをあなたがたにつかわすが、そのうちのある者を殺し、また十字架につけ、そのある者を会堂でむち打ち、また町から町へと迫害して行くであろう。35 こうして義人アベルの血から、聖所と祭壇との間であなたがたが殺したバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上に流された義人の血の報いが、ことごとくあなたがたに及ぶであろう。36 よく言うておく。これらのことの報いは、みな今の時代に及ぶであろう。

4.74.2 ルカ 20:45-47, (11:37-54)

45 民衆がみな聞いているとき、イエスは弟子たちに言われた、46 「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩くのを好み、広場での敬礼や会堂の上席や宴会の上座をよろこび、47 やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもっときびしいさばきを受けるであろう」。

(参考) ルカ 11:37-54 37 イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいって食卓につかれた。38 ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見て、そのパリサイ人が不思議に思った。39 そこで主は彼に言われた、「いったい、あなたがたパリサイ人は、杯や盆の外側をきよめるが、あなたがたの内側は貪欲と邪惡とで満ちている。40 愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか。41 ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、いっさいがあなたがたにとって、清いものとなる。42 しかし、あなた方パリサイ人は、わざわざいである。はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を宮に納めておりながら、義と神に対する愛とをなおざりにしている。それもなおざりにはできないが、これは行わねばならない。43 あなたがたパリサイ人は、わざわざいである。会堂の上席や広場での敬礼を好んでいる。44 あなたがたは、わざわざいである。人目につかない墓のようなものである。その上を歩いても人々は気づかないでいる」。45 ひとりの律法学者がイエスに答えて言った、「先生、そんなことを言われるのは、わたしたちまでも侮辱することです」。46 そこで言われた、「あなたがた律法学者も、わざわざいである。負い切れない重荷を人に負わせながら、自分ではその荷に指一本でも触れようとしない。47 あなたがたは、わざわざいである。預言者たちの碑を建てるが、しかし彼らを殺したのは、あなたがたの先祖であったのだ。48 だから、あなたがたは、自分の先祖のしわざに同意する証人なのだ。先祖が彼らを殺し、あなたがたがその碑を建てるのだから。49 それゆえに、『神の知恵』も言っている、『わたしは預言者と使徒とを彼らにつかわすが、彼らはそのうちのある者を殺したり、迫害したりするであろう』。50 それで、アベルの血から祭壇と神殿との間で殺されたザカリヤの血に至るまで、世の初めから流されてきたすべての預言者の血について、この時代がその責任を問われる。51 そうだ、あなたがたに言うておく、この時代がその責任を問われるであろう。52 あなたがた律法学者は、わざわざいである。知識のかぎを取りあげて、自分がはいらないばかりか、はいろうとする人たちを妨げてきた」。53 イエスがそこを出て行かれると、律法学者やパリサイ人は、激しく詰め寄り、いろいろな事を問いかけて、54 イエスの口から何か言いがかりを得ようと、ねらいはじめた。

4.74.3 問い

1. イエスは、どのような場で誰に対して誰に気をつけなさいといえますか。(38ab)
2. イエスは、この人たちはどのようなことを好んでいると言っていますか。(38c,39)
3. イエスは、この人たちはどのようなことをしていると言っていますか。(40a)
4. イエスは、この人たちはどうなると言っていますか。(40b)
5. マタイでは、他にどのようなことがこの人たちについて語られていますか。
6. イエスは、何をこのひとたちについて語りながら、何を、伝えているのでしょうか。

4.74.4 参照

- 大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。(37b) は、ここにつなげて読んだほうが良いかもしれない。
 - － バークレイ：新約聖書の節の区分は、16 世紀にステファヌスによって最初に書き入れられた。彼は馬で印刷所に行く途中、それを書き入れたといわれている。
- 偽善（
： i. an answering, ii. an answer, iii. the acting of a stage player, iv. dissimulation, hypocrisy）・偽善者（
： i. one who answers, an interpreter, ii. an actor, stage player, iii. a dissembler, pretender, hypocrite）
 - － マルコ 7:6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、／『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。（マルコはこの一回のみ）
 - － マルコ 12:15 イエスは彼らの偽善を見抜いて言われた、「なぜわたしをためそうとするのか。デナリを持ってきて見せなさい」。
 - － マタイ 6:2 だから、施しをする時には、偽善者たちが人にほめられるため会堂や町の中でするように、自分の前でラッパを吹きならすな。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。
 - － マタイ 6:5 また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。
 - － マタイ 6:16 また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはそ

の報いを受けてしまっている。

- － マタイ 7:5 偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるだろう。
- － マタイ 15:7 偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている、
- － マタイ 22:18 イエスは彼らの悪意を知って言われた、「偽善者たちよ、なぜわたしをためそうとするのか。
- － マタイ 23:13, 14, 15, 23, 25, 27, 28, 29 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざいである。

* 23:28 このようにあなたがたも、外側は人に正しく見えるが、内側は偽善と不法とでいっぱいである。

- － マタイ 24:51 彼を厳罰に処し、偽善者たちと同じ目にあわせるであろう。彼はそこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。
- － ルカ 6:42 自分の目にある梁は見ないでいて、どうして兄弟にむかって、兄弟よ、あなたの目にあるちりを取らせてください、と言えようか。偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよい、そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるちりを取りのけることができるだろう。
- － ルカ 12:1 その間に、おびたしい群衆が、互に踏み合うほどに群がってきたが、イエスはまず弟子たちに語りはじめられた、「パリサイ人のパン種、すなわち彼らの偽善に気をつけなさい。
- － ルカ 12:56 偽善者よ、あなたがたは天地の模様を見分けることを知りながら、どうして今の時代を見分けることができないのか。
- － ルカ 13:51 主はこれに答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたがたはだれでも、安息日であっても、自分の牛やろばを家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるではないか。
- － ガラテヤ 2:13 そして、ほかのユダヤ人たちも彼と共に偽善の行為をし、バルナバまでがそのような偽善に引きずり込まれた。
- － テモテ第一 4:2 それは、良心に焼き印をおされている偽り者の偽善のしわざである。
- － ペテロ第一 2:1 だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、
- － 詩篇 26:4 わたしは偽る人々と共にすわらず、／偽善者と交わらず、

● 律法学者・パリサイ（マルコ）

- － マルコ 1:22 人々は、その教に驚いた。律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。

- － マルコ 2:6 ところが、そこに幾人かの律法学者がすわっていて、心の中で論じた、(体の麻痺した人を癒やす)
- － マルコ 2:16 パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと食事を共にしておられるのを見て、弟子たちに言った、「なぜ、彼は取税人や罪人などと食事を共にするのか」。(レビを弟子にする)
- － マルコ 2:18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、断食をしていた。そこで人々がきて、イエスに言った、「ヨハネの弟子たちとパリサイ人の弟子たちが断食をしているのに、あなたの弟子たちは、なぜ断食をしないのですか」。(断食についての問答)
- － マルコ 2:24 すると、パリサイ人たちがイエスに言った、「いったい、彼らはなぜ、安息日にはならぬことをするのですか」。(安息日に麦の穂を摘む)
- － マルコ 3:6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。(手の萎えた人を癒やす)
- － マルコ 3:22 また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。(ベルゼブル論争)
- － マルコ 7:1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。(昔の人の言い伝え)
- － マルコ 7:3 もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言い伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。(昔の人の言い伝え)
- － マルコ 7:5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言い伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。(昔の人の言い伝え)
- － マルコ 8:11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。(人々はしるしを欲しがる)
- － マルコ 8:15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。(パリサイ人のパン種とヘロデのパン種)
- － マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、(イエス死と復活を予告する)
- － マルコ 9:11 そしてイエスに尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。(イエスの姿が変わる)

- － マルコ 9:14 さて、彼らがほかの弟子たちの所に来て見ると、大ぜいの群衆が弟子たちを取り囲み、そして律法学者たちが彼らと論じ合っていた。(汚れた霊にとりつかれた子を癒やす)
- － マルコ 10:2 そのとき、パリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして質問した、「夫はその妻を出しても差しつかえないでしょうか」。(離婚について教える)
- － マルコ 10:33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。(イエス三度自分の使徒復活を予告する)
- － マルコ 11:18 祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。彼らは、群衆がみなその教に感動していたので、イエスを恐れていたからである。(神殿から商人を追い出す)
- － マルコ 11:27 彼らはまたエルサレムにきた。そして、イエスが宮の内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、みもとにきて言った、(権威についての問答)
- － マルコ 12:13 さて、人々はパリサイ人やヘロデ党の者を数人、イエスのもとにつかわして、その言葉じりを捕えようとした。(皇帝への税金)
- － マルコ 12:28 ひとりの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っているのを聞き、またイエスが巧みに答えられたのを認めて、イエスに質問した、「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」。(最も重要な戒め)
- － マルコ 12:32 そこで、この律法学者はイエスに言った、「先生、仰せのとおりです、『神はひとりであって、そのほかに神はない』と言われたのは、ほんとうです。(最も重要な戒め)
- － マルコ 12:35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。(ダビデの子についての問答)
- － マルコ 12:38 イエスはその教の中で言われた、「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩くことや、広場であいさつされることや、(律法学者を非難する)
- － マルコ 14:1 さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。(イエスを殺す計画)
- － マルコ 14:43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユダが進みよってきた。また祭司長、律法学者、長老たちから送られた群衆も、剣と棒とを持って彼についてきた。(裏切られ逮捕される)
- － マルコ 14:53 それから、イエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長、長老、律法学者たちがみな集まってきた。(最高法院で裁判を受ける)
- － マルコ 15:1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者たち、および全議会と協議をこらした末、イエスを縛って引き出し、ピラトに渡した。(ピラトから尋問される)

- ローマ 10:2,3 わたしは、彼らが神に対して熱心であることはあかしするが、その熱心は深い知識によるものではない。3 なぜなら、彼らは神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め、神の義に従わなかったからである。
- マタイ 11:28-30 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。
- 使徒 15:5-11 ところが、パリサイ派から信仰にはいつてきた人たちが立って、「異邦人にも割礼を施し、またモーセの律法を守らせるべきである」と主張した。6 そこで、使徒たちや長老たちが、この問題について審議するために集まった。7 激しい争論があった後、ペテロが立って言った、「兄弟たちよ、ご承知のとおり、異邦人がわたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようにと、神は初めのころに、諸君の中からわたしをお選びになったのである。8 そして、人の心をご存じである神は、聖霊をわれわれに賜わったと同様に彼らにも賜わって、彼らに対してあかしをなし、9 また、その信仰によって彼らの心をきよめ、われわれと彼らとの間に、なんの分けへだてもなさらなかった。10 しかるに、諸君はなぜ、今われわれの先祖もわれわれ自身も、負いきれなかったくびきをあの弟子たちの首にかけて、神を試みるのか。11 確かに、主イエスのめぐみによって、われわれは救われるのだと信じるが、彼らとても同様である」。
- 1 コリント 7:35,36 わたしがこう言うのは、あなたがたの利益になると思うからであって、あなたがたを束縛するためではない。そうではなく、正しい生活を送って、余念なく主に奉仕させたいからである。36 もしある人が、相手のおとめに対して、情熱をいだくようになった場合、それは適当でないと思いつつも、やむを得なければ、望みどおりにしてもよい。それは罪を犯すことではない。ふたりは結婚するがよい。
- 2 コリント 10:17,18 誇る者は主を誇るべきである。18 自分で自分を推薦する人ではなく、主に推薦される人こそ、確かな人なのである。
- ユダヤ古代誌（フライビウス・ヨセフス）XVII-2-4
 - － ヘロデの情勢が私が述べたような状況にあったとき、すべての公務はアンティパトロスにかかっていた。そして彼の権力は、彼が望むだけ誰に対しても善行を施すことができたほどで、これは彼の父の許可を得て、彼の善意と忠誠を期待してのことだった。そして彼は、彼の邪悪な計画が父に隠され、彼が言うことをすべて信じさせたので、さらに権力を行使することを敢えてした。彼はまた、権力と権威のためというよりも、その前の卑劣な企ての抜け目なさのため、すべての人にとって恐ろしい存在だった。しかし、彼と友情を育んだのは主にフェロラスであり、フェロラスは彼の友情の同様のしるしを受けた。一方、アンティパトロスは女性たちを巧みに取り囲み、護衛として配置した。フェロラスは妻とその母、そして妹にひどく隷属していたからである。そして、処女の娘たちに対する侮辱に対して、彼は彼女たちを憎んでいたにもかかわらず、それでも、彼は彼女たちを我慢し、この男を仲間に加えた女性たちなしでは何もできなかった。彼女たちは、あらゆることで互いに助け合い続けた。アンティパトロスは、自分自身も母親も、彼女たちに完全に依存していた。この4人の女性は、二人はみな同じことを言ったが、フェロラスとアンティパトロスの意見は、重要でないいくつかの点

で異なっていた。しかし、王の妹 [サロメ] は彼らの敵対者で、かなり前から彼らのすべての事柄に目を光らせており、この友情がヘロデに危害を加えるためになされたことを知り、王にそれを告げるつもりだった。そして、この人々は、彼らの友情がヘロデにとって非常に不快で、危害を加えやすいことを知っていたので、会っていることがバレないようにした。そこで、彼らは互いに憎み合い、時が来たら悪口を言い合った。特にヘロデが同席しているか、彼に告げ口する人がそこにいるときはそうだった。しかし、二人の親密さは、二人きりのときは、これまで以上に強固だった。これが彼らが取ったやり方だった。しかし、彼らは、最初の計画も、計画に着手したときも、計画が進んだときも、サロメには隠し切れなかった。しかし、彼女はすべてを探り出した。そして、兄との関係を悪化させ、秘密の会合や交渉、秘密裏に行われた協議についても兄に告げた。もしそれが兄を破滅させるためであれば、公然と公にしていたかもしれない。しかし、一見すると彼らは意見が食い違っており、お互いに悪意を持っているかのように話しているが、群衆の目から離れたところでは、とても仲が良い。というのは、二人きりになると、彼らは協調して行動し、友情を絶やさず、計画を隠している相手には戦うと公言しているからである。こうして彼女はこれらのことを調べ上げ、完全に理解し、兄に伝えた。兄も彼女の言ったことをかなり理解していたが、妹の誹謗中傷を疑っていたため、それを信じる勇氣はなかった。というのは、ユダヤ人の中には、父祖の律法を熟知していることを高く評価し、神に大いに恵まれていると人々に信じ込ませる一派がいたからである。この一派は、この一団の女性たちを騙したのである。この一派はパリサイ派と呼ばれ、王たちに激しく反対する立場にあった。彼らは狡猾な一派で、すぐに公然と戦い、悪事を働くレベルにまで高められた。したがって、ユダヤ人の民が皆、カエサルと王の政府に善意を誓ったとき、この男たちは 6000 人以上だったので、誓いを立てなかった。王が彼らに罰金を課したとき、フェロラスの妻が彼らに代わって罰金を支払った。彼女の親切に報いるために、彼らは神の啓示によって将来を予知していると信じられていたので、神がヘロデの統治は終わり、その子孫はそれを奪われるが、王国は彼女とフェロラス、そして彼らの子供たちに渡ると定めたことを予言した。これらの予言はサロメに隠されておらず、王に伝えられた。また、彼らが宮殿の周りの何人かの人々を墮落させたことも伝えられた。そこで王は、主に告発されたパリサイ人、宦官バゴアス、当時のすべての男性よりも容姿が優れていたカルス、そして彼の従妹の一人を殺した。王はまた、パリサイ人の予言に同意した自分の家族全員を殺した。バゴアスに関しては、予言によって彼らの任命された王になると予言された人物の父親であり恩人であると称されるかのように、パリサイ人によって誇張されていた。というのは、この王はすべてのものを自分の力で掌握し、バゴアスが結婚し、自分の子供を産むことを可能にするだろうからである。

4.74.5 記録

- 日時：2024 年 11 月 14 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）2 名、参加（遠隔）1 名

4.74.6 問いについて

1. イエスは、どのような場で誰に対して誰に気をつけなさいといっていますか。(38ab)

- 37b 大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。38ab イエスはその教の中で言われた、「律法学者に気をつけなさい。(37b もこの段落の一部と考えたほうがよいかもしれない。)
- [DQ] 聴衆はどのような人たちですか。
 - [A] 前の段落から続いており、「大ぜいの群衆」でしょう。
 - 批判が中心ではなく、「教の中で」が重要で、大ぜいの群衆に理解してもらいたかったのでしょう。
- [DQ] 誰に対して気をつけなさいといっていますか。
 - [A] 律法学者。ただし、マタイでは「律法学者とパリサイ人」について語っているように見える。
- [DQ] 律法学者とはどのような人たちですか。いままでに、登場している箇所を覚えていますか。パリサイ派の人とは同じですか。
 - 律法の専門家だが、民から尊敬され、律法を守る基準を与えてくれる人と考えられていたと思われる。悩みや問いがある時に、このひとたちに聞けば、丁寧な解釈が聞けるような先生。
 - [A: 律法学者。聖書協会共同訳巻末用語解説] 律法を専門に研究し、解釈して民に教えた教師。優れた学者は多くの弟子を持ち、最高法院の議員など、社会的に尊敬される立場にあった。律法学者の多くはファイサイ派に属していたと思われる(マルコ 2:16、使徒 5:34、23:9)。
 - [A: ファリサイ派。聖書協会共同訳巻末用語解説] 起源はマカバイ時代の敬虔派(ハジディム)にあるとされ、イエスの時代にはサドカイ派と共に民衆に大きな影響力を持ち、イエスに敵対した。律法学者の多くはファリサイ派に属していたと思われる。(マタイ 23:2 など)。律法を守ること、特に安息日や断食、施しを行うことや宗教的な清めを強調し、口伝の律法を重視するとともに、復活、天使、霊を認めていた(使徒 23:8)。語源のヘブライ語「ペルシム」は「分離される者」の意である。また、ルカによる福音書ではイエスを食事に招いたファリサイ派の人もいた(ルカ 7:36)。また、パウロは、自らをファリサイ派と名乗っている。(使徒 23:6、フィリピ 3:5)。
- [DQ] 気をつけなさいとはどのようなことを伝えているのでしょうか。
 - 警戒・批判・注意・顧み - マルコでは戦闘モードではない。
 - このあとを読むと、危害を加えるというような意味ではない。

2. イエスは、この人たちはどのようなことを好んでいるといっていますか。(38c,39)

- 38c 彼らは長い衣を着て歩くことや、広場であいさつされることや、39 また会堂の上席、宴会の上座を好んでいる。
 - [DQ] 「長い衣を着て歩くこと」の何が悪いのでしょうか。
 - － マタイ 23:5 そのすることは、すべて人に見せるためである。すなわち、彼らは経札を幅広くつくり、その衣のふさを大きくし、
 - － 民数記 15:37,38 主はまたモーセに言われた、38 「イスラエルの人々に命じて、代々その衣服のすその四すみにふさをつけ、そのふさを青ひもで、すその四すみにつけさせなさい。（神の民であることを思い起こさせるため）
 - － [A] 敬虔の自己主張・誇示だろうか。
 - [DQ] 「広場であいさつされること」の何が悪いのでしょうか。
 - － [A] 人からの称賛と尊敬を受けることが目的化されている。
 - － ラビ「わたしの偉大なる方」
 - [DQ] 「また会堂の上席、宴会の上座を好（むこと）」の何が悪いのでしょうか。
 - － [A] 人からの称賛と尊敬を受けることが目的化されている。
 - [DQ] 具体的な表現になっていますが、これらが問題なののでしょうか。もし、このようなことの背後にあることであるなら、どのように表現しますか。
 - － [A] 神様との関係を、人の中の評価に変えてしまっている。
3. イエスは、この人たちはどのようなことをしていると言っていますか。（40a）
- 40a また、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。
 - [DQ] 「やもめたちの家を食い倒し」とは具体的にどのようなことでしょうか。
 - [参考] 1 テモテ 6:5 また知性が腐って、真理にそむき、信心を利得と心得る者どもの間に、はてしのないいがみ合いが起るのである。
 - [Q] 利得を求めることを言っているのかもしれないが、これがひどいことはすぐわかるのではないかなにを言っているのか。
 - [DQ] 「見えのために長い祈をする」とは具体的にはどのようなことで、どうしたら良いのでしょうか。
4. イエスは、この人たちはどうなると言っていますか。（40b）
- 40b 彼らはもっときびしいさばきを受けるであろう。
 - [DQ] さばきとは、死んだあとのことでしょうか。

- [A] おそらく、今の世でも、来たるべき世でも。
- [DQ] なぜ、ことさら「律法学者」が重い裁きを受けるのでしょうか。
- [A] 律法、神のみこころを教えるひとたちで、民は信頼しているから。
 - [参照] ヤコブ 3:1 わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち多くの者は、教師にならないがよい。わたしたち教師が、他の人たちよりも、もっときびしいさばきを受けることが、よくわかっているからである。
- [DQ] なぜだろうか。第一の（最も大切な）戒めから考えるとどうでしょうか。
 - 12:29 イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。30 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」。
 - 神を愛し、神が愛される隣人を愛する。神を愛することから始めたことが、そこには向かっていない。隣人を愛することからはじめたことが、隣人を愛することからそれてしまっている。

5. マタイでは、他にどのようなことがこの人たちについて語られていますか。

- 「律法学者とパリサイ人とは、モーセの座にすわっている。」(23:2) とはどのような意味でしょうか。
- 「彼らがあなたがたに言うことは、みな守って実行しなさい。しかし、彼らのすることには、ならうな。彼らは言うだけで、実行しないから。」(23:3) とはどんなことを伝えていますか。
 - [Q] 彼らのいうことを実行するなどは言っていない。「ならうな」と言っている、その意味は何だろうか。
 - [参考] ローマ 10:2,3 わたしは、彼らが神に対して熱心であることはあかしするが、その熱心は深い知識によるものではない。3 なぜなら、彼らは神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め、神の義に従わなかったからである。
- 「重い荷物をくくって人々の肩にのせるが、それを動かすために、自分では指一本も貸そうとはしない。」(23:4) はどのようなことを批判しているのでしょうか。
 - [参考] マタイ 11:(28-)30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。
 - [参考] 使徒 15:10 しかるに、諸君はなぜ、今われわれの先祖もわれわれ自身も、負いきれなかったくびきをあの弟子たちの首にかけて、神を試みるのか。
- 「8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはならない。あなたがたの先生は、ただひとりであって、あなたがたはみな兄弟なのだから。9 また、地上のだれをも、父と呼んではならない。あなたがたの父

はただひとり、すなわち、天にいます父である。10 また、あなたがたは教師と呼ばれてはならない。あなたがたの教師はただひとり、すなわち、キリストである。」は、何を伝えようとしていますか。

- なぜ仕えることがたいせつなのでしょう。
- 「自分もはいらないし、はいろうとする人はいらせもしない。」とは実際にどのようなことをしていたのでしょうか。
- 偽善とは何で、偽善者とはどのような人のことでしょうか。

6. イエスは、何をこのひとたちについて語りながら、何を、伝えているのでしょうか。

- この箇所、イエスはどのような生き方に対して警告し、どのような生き方を指し示しているのでしょうか。
- [DQ] 偽善とはどのようなものだとあなたは定義しますか。「偽善」の反対は。
- [参考] 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。(マタイ 23:13, 14, 15, 23, 25, 27, 29)
- [DQ] 律法学者の対極を示そうとすると、どうなりますか。

— [A] イエスに従うこと

4.74.7 メモ

- 共観福音書の差異：マルコの律法学者非難は簡素で短く、マタイは非常に長く、ルカは異なる形にまとめているようだがそれは何を意味するのだろうか。
 - マタイが書かれた状況の中ではそれがとても大切だったということか。ユダヤ人が多い地域、シリアあたりが可能性として高いといわれているようだが、ユダヤ教との関係をどうするかは、重要だろう。認識は「ナザレ人の異端」から「キリスト者」という呼称に変わっていく頃だろうか。その中でも、律法学者批判は、重要だと考えたひとが編集したのかもしれない。
- 関連箇所にはあがっていないが、マルコ 7:1-23 (昔のひとの言い伝え) も、関連箇所ルカ 11:37-54、マタイ 23:1-36 と関連している。まずは、マルコ 7:1-23 を復習して、具体的な批判を学んでから、この箇所を学んだほうが良いかもしれない。この箇所だけでは、内容があまりなく理解しにくい。ただ、マルコ 7:1-23 (昔のひとの言い伝え) では、確かにある程度批判しているが、マタイ、ルカの対照箇所ほどの批判は感じられない。意図が異なるのかもしれない。マルコでは、このあとの、スロ・フェニキアの女のところにつながる異邦人との関係について述べられ、コルネリオのこととの関連が意識されているように思われる。
- 調べてみると、マルコでは、イエスがパリサイということばを出す箇所は、マルコ 8:15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。だけの

ように思われる。イエスの受難告知でも、律法学者としている。たしかに、律法学者の多くがパリサイ人ともされているが、それは、一つの派なので、律法の専門家と理解し、注意しなさいと考えるのが良いのだろう。そして、これは、おおぜいの群衆に向けた話である。マタイでは、このような論争が拡大しているのだろうが、マルコでは、敵をつくるようなことはしていないようにみえる。人々に、目的が、神様を愛すること、隣人を愛することからズレてしまっていることを指摘しているのではないだろうか。それを示すには、この短い箇所ですで十分なかもしれない。同時に、それは、キリスト者にも同じ危険があることを示しても入るだろう。

- なぜ（ことさら）律法学者を非難する記事が入っているのだろう。
 - おそらく、私たちにもとても関係があるということなのだろう。律法学者のようになる可能性が強いと。

4.75 12:41-44 やもめの献金

41 イエスは、さいせん箱にむかってすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持は、たくさんの金を投げ入れていた。42 ところが、ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは一コドラントに当る。43 そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。44 みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである」。

4.75.1 ルカ 21:1-4

1 イエスは目をあげて、金持たちがさいせん箱に献金を投げ入れるのを見られ、2 また、ある貧しいやもめが、レプタ二つを入れるのを見て 3 言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。4 これらの人たちはみな、ありあまる中から献金を投げ入れたが、あの婦人は、その乏しい中から、持っている生活費全部を入れたからである」。

マルコによる福音書 12 章 41-44 節福音書対照表

41K	.	・42
,	. 43	.
	・44	,
.		

4.75.2 問い

1. イエスは、どこで何をしていますか。(41a)

2. どのようなことが起こりますか。(41b,42)
3. イエスは、だれにどのようなことを教えていますか。(43,44)
4. 捧げるのは何のためにすることでなにをたいせつにしたらよいのでしょうか。
5. イエスは、この箇所では何を教えているのでしょうか。

4.75.3 参照

- The Temple at Jerusalem in Jesus' Day, Clyde W. Votaw, University of Chicago [\[pdf\]](#)
 - p.172,3 A10 The thirteen circular objects ranged on either side of the Women's Court in front of the columns are the trumpet-mouthed money-boxes for receipt of alms. [賽銭箱]
- 貨幣：レプタ (: i. thin, small, ii. a small brass coin, equivalent to the eighth part of an "as", worth about a 1/5 of a cent)、コドラント (: a quadrans (about the fourth part of an "as"); in the NT a coin equal to one half the Attic chalcus worth about 3/8 of a cent) (聖書協会共同訳巻末「度量衡および通貨」より)
 - アサリオン：ローマの青銅貨で、一デナリオンの十六分の一 (1/16 デナリオン) [マタイ 10:29 二羽の雀は一アサリオン、ルカ 12:6 五羽の雀は二アサリオン]
 - クアドランス：ローマの青銅貨で、一デナリオンの六十四分の一 (1/64 デナリオン) [マルコ 12:42 レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランス、マタイ 5:26 最後のクアドランスを支払うまで]
 - タラント：ギリシャで用いた計算用の単位で、6,000 ドラクメに相当 [マタイ 18:24 一万タラント借金している家来、マタイ 25:14-30 それぞれの力に応じて、一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントを預けて、旅に出た。黙示録 16:21 一タラントほどの重さもある大粒の雹]
 - デナリオン：ローマの銀貨で、1 デナリオンは、1 ドラクメと等価 (1日の賃金に当たる) [マルコ 6:37 二百デナリオンものパンを買いに行き、マルコ 12:15 デナリオン銀貨を持って来て見せなさい。マルコ 14:5 この香油は三百デナリオン以上に売って、マタイ 18:28 百デナリオン貸している仲間の一人、マタイ 20:1-16 一日につき一デナリオンの約束で、マタイ 22:19 彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、ルカ 7:41 一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオン、ルカ 10:35 翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、ルカ 20:24 デナリオン銀貨を見せなさい。ヨハネ 6:7 二百デナリオンのパンでは足りないでしょう。ヨハネ 12:5 この香油を三百デナリオンで売って。黙示録 6:6 小麦一コイニクスを一デナリオン、大麦三コイニクスを一デナリオンとする。]
 - ドラクメ：ギリシャの銀貨で、重さ約 4.3g、デナリオンと等価 [ルカ 15:8 ドラクメ銀貨を十枚持っている女がいて、他に、エズラ記 2:69、ネヘミヤ記 7:69-71]

- － ムナ：ギリシャの銀貨で、1 ムナが 100 ドラクメに相当 [ルカ 19:11-27 十人の僕を呼んで十ムナの金を渡し]
- － レプトン：最小の銅貨で、1 デナリオンの 1/128 [マルコ 12:42 レプトン銅貨二枚、ルカ 12:59 最後のレプトンを支払うまで、ルカ 21:2 レプトン銅貨二枚]
- － 参考（旧約）：
 - * シェケル銀貨：もともとは、ペルシャの銀貨で、重さ約 5.6g。ダリク金貨の 1/20 に相当
 - ・ シェケル自体は重さの単位で、発見されている分銅の平均値では、11.4g
 - * ダリク金貨：前 6 世紀以来、ペルシャ帝国の金貨で重さ約 8.4g
- 榊原康夫（ルカによる福音書）：ネロ時代、過越祭の神殿巡礼者は 270 万 200 人に達したと、ヨセフォスは計算した。（ユダヤ戦役 6:9:3）その献金は、たいへんな額に上ったはずです。ポンペイウス将軍が神殿金庫から奪った金は 2000 タラント（約 7 億 2000 万円）もあったと言います。（ユダヤ古代史 14:4:4）。ですから、貧乏やもめの「レプタ（薄っぺらなの意）銅貨二つ」など、献金しなくてもなんということはないはずでした。二レプタは、ささげることを許された最低額でした。（タルムード、ババ・バスラ 10b）
- 聞きなさい（ [Of Hebrew origin [] ）
 - － マルコ 3:28 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる
 - － マルコ 8:12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。
 - － マルコ 9:1 また、彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。神の国が力をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。
 - － マルコ 9:41 だれでも、キリストについている者だということで、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもれることはないであろう。
 - － マルコ 10:15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」。
 - － マルコ 10:29 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、
 - － マルコ 11:23 よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。
 - － マルコ 12:43 そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。

- － マルコ 13:30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。
- － マルコ 14:9 よく聞きなさい。全世界のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」。
- － マルコ 14:18 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。
- － マルコ 14:25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。
- － マルコ 14:30 イエスは言われた、「あなたによく言うておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう」。

● [キリスト教 Q&A](#) (日本基督教団用賀教会)

- － Q.7 「献金」って何ですか？

* 礼拝の献金時、司式者が「『感謝と献身のしるし』として献金をささげましょう」と言います。その言葉の通りです。つまり、献金は神の恵みへの感謝であり、更には自分自身を献げるという信仰の証しです。神様は天地万物をお造りになりました。その中には私たち人間も含まれています。すべての被造物は造り主である神様のものであります。私たちも例外ではありません。「私」という存在そのものは神様のもののなのです。特にキリスト者は、造られた存在だけに留まらず、神の独り子イエス・キリストが十字架上でご自分の命をささげるという尊い代価を払って神様に買い取られた存在です(コリント一 6 章 19-20 節)。神様のものである「この私」を献げるという信仰の表れが献金であります。また、私のためのイエス様が尊い命を十字架の上で献げてくださったことを感謝し、更には、教会生活ができる恵みを与えられていることを感謝する。これらを目に見える形で表すのは「献金」です。

- － Q.8 献金はどのように使われますか？

* 献金の祈りの時、「御用のためにお使いください」という言葉をお聞きになったことがあるかと思いますが、この言葉が意味するのは、申し上げるまでもなく、神様の御用のためにお使いください、ということです。では、神様の御用のためにとは、具体的にどういうことでしょうか。「神様の御用」とは、何と言っても「福音を宣べ伝えること」です。この一点のために、教会は存在し、牧師は存在します。献金は、目に見える形としては、牧師の謝儀、建物の維持運営、諸々の会の活動、対外支援などに「お金」として使われます。しかし、教会におけるこれらのすべては専ら神様の福音を伝えるためのものです。その限りにおいては「神様の御用のために」ということになります。

- － Q.9 月定献金と席上献金の違いは何ですか？

* 月定献金は、他に「維持献金」と呼ばれることもあります。この言葉の通り、教会の維持・運営のために献げるものです。席上献金の意味は、「感謝と献身のしるし」です。神の恵みに感謝し、神の栄光と宣教の奉仕のために、時間を献げ、賜物を献げ、人生を献げる。その「しるし」が主日礼拝の席上献金です。席上献金や月定献金は決して礼金

- 榊原康夫（ルカによる福音書）真の献金

1. 犠牲を払う献金（有り余る中から投げ入れた vs 乏しい中から、生活費の全部を投げ入れ）
2. 心から喜んでするもの
3. 生きがいそのものを神に見出すもの（隠れた所で見ておられる父：マタイ 6:4）

4.75.4 記録

- 日時：2024 年 11 月 21 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）0 名

4.75.5 問いについて

1. イエスは、どこで何をしていますか。（41a）

- 41a イエスは、さいせん箱にむかってすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。
- [DQ] どのように描写されていますか。イエスの様子からどんなことがわかりますか。
 - [Q] 休憩だろうか。どこにいたのだろうか。異邦人の庭の回廊近くから、婦人の庭の入口にある、賽銭箱をみていたのだろうか。
 - 賽銭箱に金を投げ入れる様子とあり、何らかの特徴的なしぐさが見て取れたのだろう。献金袋などでは、そのようなことは起きないが、13 個のおそらく金属製のラッパ型をした投入口にながらんと入れていたのを音とともに見ていたのかもしれない。

* The Temple at Jerusalem in Jesus' Day [\[pdf\]](#) p.172,3 A10

- [参照] マタイ 6:2 だから、施しをする時には、偽善者たちが人にほめられるため会堂や町の中でするように、自分の前でラッパを吹きならすな。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

2. どのようなことが起こりますか。（41b,42）

- 41b 多くの金持は、たくさんの金を投げ入れていた。42 ところが、ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは一コドラントに当る。

- 「多くの金持」が「たくさんの金を投げ入れていた」。ところが「ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。」（タルムードによると）捧げることのできる最低限度を捧げた。

- [DQ] この様子を、あなたは、どのように想像しますか。

－ 金持ちは、金属のラッパの形をした賽銭箱に投げ入れ、ラッパを吹き鳴らすようなことをしていた。大金なら、ゴロンゴロンと大きな音がしたでしょう。このとき、こっそりかどうかはわかりませんが、チャランとレプタ二枚投げ入れた、おそらく見るからに、みすばらしい格好をしていて想像できたのか、その女性やその痛み・苦しみについてご存知だったのかは不明ですが、そのような女性がいたのでしょう。もしかすると、そのとき、祈っていたかもしれない。周囲からは、冷たい目で見られていたかもしれない。その様子をイエスは見ていたということだろう。

- [DQ] このとき、そこにいる人々はどのように見ていたでしょうか。あなたなら、どう見ますか。

－ 見えるもの、聞こえる音から、想像したり、捧げ物がどう使われるかを思い、その価値を値踏みしていたかもしれない。ヘロデの神殿と呼ばれているが、まだ、改築中であつたから、神殿（教会）のために使ったり、または、祭司職、レビ人などに支給したり、日常の祭儀に使ったりすることを考えていたかもしれないし、そのお金を貧しい人に施すことに使っていたのかもしれない。

3. イエスは、だれにどのようなことを教えていますか。（43,44）

- 43 そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。44 みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである」。

- 「よく聞きなさい。」で始まっている。重要な教え。

－ イエスの口癖とも言える。 ほんとうに、わたしは、あなたがたに言います。（直訳）「よく言い聞かせておくが」「よく聞いておくがよい」「よく言うておくが」「よく聞きなさい」「よく聞いておきなさい」「特にあなたがたに言うておくが」「あなたがたによく言うておく」「あなたによく言うておく」と、マルコでは、少しずつ違うことばで訳されている。

- [DQ] イエスはなぜ「乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部」と判断できたのでしょうか。

－ 身なりや様子から、周囲のひとにもある程度想像できるものだったのだろうか。

- [DQ] イエスは金持ちたちの献金とまずしいやもめの献金をどのように比較していますか。（44）貧しいやもめと金持ちはなにが違うのでしょうか。

－ みんなの者はありあまる中から vs あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部

- － 神様から与えられているものに対する神様の御用のために捧げるまたは感謝のために捧げる献身の度合いだろうか。与えられているすべてを捧げていることが評価されている。
- [DQ] 多数者 (Majority) はどのような人たちで、少数者 (Minority) はどのような人たちでしょうか。
 - － 「多くの金持」 vs 「ひとりの貧しいやもめ」
 - － 「ありあまる中から投げ入れた」「みんなの者」 vs 「その乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れた」「あの婦人」
 - － [Q] わたしは、どちら側にいるだろうか。
- 4. 捧げるのは何のためにすることでなにをたいせつにしたらよいのでしょうか。
 - [DQ] 神様に捧げるとは、献金とは、寄付とは。どのようなことなのでしょう。
 - － [A] 全体としては、神様の御用のため
 - * 律法に書いてある義務・責任（什一献金だけでなく様々な規定がある）
 - * 神様の恵みと憐れみに対する感謝
 - * 神様を礼拝することを共同で支える
 - * 神様の働き・愛の行為のため、貧しい人を助けるなど
 - [DQ] 神様は、すべてのものを持っておられるのではないのでしょうか。なにか、欠乏があるのでしょうか。
 - [DQ] なにのために、捧げますか。
 - [DQ] イエスの目から見て（神様の秤で）やはりたくさんいれることがよいのでしょうか。
- 5. イエスは、この箇所では何を教えているのでしょうか。
 - 前段では、律法学者に気をつけなさいとイエスは教えました。では、どのようなことを做すべきなのでしょう。
 - － 38 イエスはその教の中で言われた、「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩くことや、広場であいさつされることや、39 また会堂の上席、宴会の上座を好んでいる。40 また、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもっときびしいさばきを受けるであらう」。
 - － 家を食い倒されたやもめであれば、本当に悲惨。このやもめに、救いはあるのだろうか。
 - － [DQ] イエスは、この女のひとに、あなたは「だれよりもたくさん入れたのだ」と言ってあげたら、この女の人も、幸せになるのではないのでしょうか。

* 隠れたところをみておられる主に委ねるのは、とても難しい。

- [DQ] 「あらゆる持ち物、その生活費全部」を捧げなさいと言っているのだろうか。
 - － そのように取れないことはないが、おそらく、違うのだろう。
 - － ルカ 19:1-10 8 ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。
 - 9 イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから。10 人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。(ザアカイは半分捧げている。)
- [DQ] 神様は、どのような視点で、人々の行為、たとえば献金を見ているのでしょうか。
 - － イエス様は、神の子、神様のところを知るものとして、神様の視点を教えているのではないだろうか。
 - － 逆に、人々はどう見ているのだろうか。
- [DQ] ここで教えているのは、ここまでの、このやもめは、明日から生きていけないのだろうか。
 - － [Q] なにか、緊急支援の手をさしのべないといけないのではないだろうか。
 - － 神さまに委ねるとすることで良いのだろうか。おそらく、それは、正しい答えを見つけるのではなく、わたしたち一人ひとりが、神様の御心を行うことによって、神様とともに働くことに加えさせていただくことに、委ねられているのだろう。

4.75.6 メモ

- 共観福音書の差異：マルコと、ルカは、ほぼ同じ構成で、やもめの献金を、ダビデの子についての問答、律法学者を非難するのあと、神殿の崩壊を予告するの前においてる。教える相手について、マルコでは、途中で「弟子たちを呼び寄せて」語られるが、ルカでは、その記述はなく、その前の律法学者を非難する箇所冒頭の、「民衆が皆聞いているとき、イエスは弟子たちにいわれた。」(20:15) から続いているように思われる。内容を見ると他にもマルコとルカの違いがある。マルコには「さいせん箱にむかってすわり K (over against) 」とあるがその部分はルカにはない。そのあとも「多くの金持ち」「ひとりの貧しいやもめ」とマルコではなっているが、ルカでは「金持ちたち」「ある貧しいやもめ」となっている。短い箇所ではあるが全体として、ルカには、マルコの現場を切り取ったような表現が欠け、話し、または教えとしてまとめられているように見える。マタイでは、ダビデの子についての問答のあとは、律法学者とファリサイ派の人々を非難するが殆ど一章続き、最後にルカでは別の箇所に含まれ、マルコにはない、エルサレムのために嘆く記事（マタイ 23:37-38, ルカ 13:34-35）があり、このやもめの献金についての記事はない。すなわち、律法学者やファリサイ派の人々は批判しても、やもめの献金に対して最大の評価をする記事は入れられなかった背景があるとも考えられる。ユダヤ人キリスト者の指導的な立場の人達が著書だったということか。

- やもめはなにかの象徴だろうか。やもめのようになれと言っているのだろうか。それとも、そうではないひとを非難しているのだろうか。

ー おそらくそう単純ではないだろうが、少数者（minority）として描かれ、多数者（majority）には、「多くの金持ち」だけでなく、「ありあまる中から投げ入れた」「みんなの者」が含まれ、さらに、弟子たち、クリスチャンにも呼びかけられているのだろう。それ故に、マタイはこの箇所を加えず、律法学者やパリサイ人への批判・呪でとめておいたのか。そう考えると、キリスト者自身として、心配になり、恐ろしくもなる。

- 律法学者を非難する前段では、律法学者が律法の真意をそれを守ることによって神様の御心を行い、人々に教えることから離れて、またはそれで違った方向にしまったことが問題であったように思われるが、このやもめの献金の箇所でも、献金や寄付の本来の意味からそれてしまっていることが指摘されているのかもしれない。では、献金とは寄付の目的は何なのだろうか。それをまず考えなければならない。「神様の恵みと憐れみに対する感謝の応答として神様の業に捧げ物と奉仕によって加えさせていただくこと」だろうか。同時に、対比が強烈である。イエスの「だれよりもたくさん入れた」という根拠が、「みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである」となっている点である。それは、イエスの目から見て（神様の秤で）やはりたくさんいれることがよいのかという問いにも結びつくが、おそらく、それも少し違うように思う。おそらく、神様がどう見ておられるかをイエス様の視点から教えているのではないだろうか。しかし、それだけでよいのだろうか。このやもめに「安心して行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」（マルコ 5:34,10:52）と言えるだろうか。神さまに委ねるとすることで良いのだろうか。おそらく、それは、正しい答えを見つけるのではなく、わたしたち一人ひとりが、神様の御心を行うことによって、神様とともに働くことに加えさせていただくことに、委ねられているのだろう。Savior Complex（わたしが助けなければいけないという強い感情）はどうしたら良いのだろうか。

4.76 13:1-2 神殿の崩壊を予告する

1 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子のひとりが言った、「先生、ごらんなさい。なんという見事な石、なんという立派な建物でしょう」。2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないまま、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。

4.76.1 マタイ 24:1-2

1 イエスが宮から出て行こうとしておられると、弟子たちは近寄ってきて、宮の建物にイエスの注意を促した。2 そこでイエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたは、これらすべてのものを見ないか。よく言うておく。その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう」。

4.76.2 ルカ 21:5-6

5 ある人々が、見事な石と奉納物とで宮が飾られていることを話していたので、イエスは言われた、6 「あなたがたはこれらのものをながめているが、その石一つでもくずされずに、他の石の上に残ることもなくなる日が、来るであろう」。

[マルコによる福音書 13 章 1-2 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 13 章 1-2,3-13 節福音書対照表](#)

4.77 13:3-13 終末の徴

3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかに
お尋ねした。4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことが
ごとごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。5 そこで、イエスは話しはじめられ
た、「人に惑わされないように気をつけなさい。6 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだと言
って、多くの人を惑わすであろう。7 また、戦争と戦争のうわさを聞くときにも、あわてるな。それ
は起らねばならないが、まだ終りではない。8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあ
ちこちに地震があり、またききんが起るであろう。これらは産みの苦しみの初めである。9 あなたがたは
自分で気をつけていなさい。あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長
官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。10 こうして、福音はまず
すべての民に宣べ伝えられねばならない。11 そして、人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、
何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたが
た自身ではなくて、聖霊である。12 また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立
ち、彼らを殺させるであろう。13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであ
ろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

4.77.1 マタイ 24:3-14

3 またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話しくださ
い。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがたまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆
がありますか」。4 そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。5 多くの
者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。6 また、戦争
と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、
まだ終りではない。7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、
また地震があるであろう。8 しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。9 そのとき人々は、あ
なたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎

まれるであろう。10 そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。12 また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。14 そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。

4.77.2 ルカ 21:7-19

7 そこで彼らはたずねた、「先生、では、いつそんなことが起るのでしょうか。またそんなことが起るような場合には、どんな前兆がありますか」。8 イエスが言われた、「あなたがたは、惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたし名を名のって現れ、自分がそれだとか、時が近づいたとか、言うであろう。彼らについて行くな。9 戦争と騒乱とのうわさを聞くときにも、おじ恐れるな。こうしたことはまず起らねばならないが、終りはすぐにはこない」。10 それから彼らに言われた、「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。11 また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。12 しかし、これらのあらゆる出来事のある前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡し、わたしの名のゆえに王や総督の前にひっぱって行くであろう。13 それは、あなたがたがあかしをする機会となるであろう。14 だから、どう答弁しようかと、前もって考えておかないことに心を決めなさい。15 あなたの反対者のだれもが抗弁も否定もできないような言葉と知恵とを、わたしが授けるから。16 しかし、あなたがたは両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。また、あなたがたの中で殺されるものもあろう。17 また、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。18 しかし、あなたがたの髪の毛一すじでも失われることはない。19 あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂をかち取るであろう。

[マルコによる福音書 13 章 3-13 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 13 章 1-2,3-13 節福音書対照表](#)

4.77.3 問い

1. この会話はいつどこでどのように始まりますか。(1)
2. イエスは、宮について何と言っていますか。(2)
3. 誰が何をイエスに聞いていますか。(3,4)
4. イエスはどんなことが起こると言っていますか。(5-13)
5. イエスはそれぞれについて、どのようなことを注意し、教えていますか。(5-13)
6. わたしたちは、これらのことについて、どのように考え、何に注意し、生きていったら良いのでしょうか。

4.77.4 参照

- ユダヤ戦記 (The Wars of the Jews - Or, the history of the destruction of Jerusalem, by Flavius Josephus, Translated by William Whiston in [Project Gutenberg](#)) V-5-5 寺院の説明。Google Chrome の日本語への翻訳機能を利用。(2024.11.28)

– 1. さて、この神殿は、すでに述べたように、堅固な丘の上に建てられました。最初、頂上の平地は、聖なる家と祭壇を置くにはほとんど十分ではありませんでした。周囲の土地は非常に不均一で、断崖のようでした。しかし、神殿を建てたソロモン王が東側に壁を築いたとき、神殿のために築かれた土手の上に一つの回廊が加えられ、他の部分には聖なる家は何もなかったのです。しかし、後の時代に、人々は新しい土手を加え、12 丘はより広い平地になりました。その後、北側の壁を壊し、神殿全体の周囲に十分なだけの土地を確保しました。そして彼らは丘の麓から神殿の周囲 3 面に壁を築き、期待以上の大工事を終えると (この工事に長い年月が費やされ、神聖な財宝はすべて使い果たされたが、それでもなお、居住可能な全地から神に送られた貢物によって補充されていた)、上庭を回廊で囲んだ。これは神殿の最下庭を後から行ったのと同じである。この回廊の最下部分は 300 キュビトの高さに建てられ、場所によってはそれ以上になった。しかし、基礎の深さ全体は見えなかった。彼らは土を運び、谷を埋め立て、町の狭い通りと同じ高さにしようとしたからである。そこでは 40 キュビトの大きさの石が使われた。当時彼らが持っていた莫大な資金と人々の寛大さにより、この試みは信じられないほど成功した。そして、達成されることは期待もできなかったが、忍耐と長い時間によって、完成に至った。

2. さて、これらの基礎の上にある作品は、そのような基礎に値しないものではありませんでした。すべての回廊は二重で、それらに属する柱は高さが 25 キュビトで、回廊を支えていました。これらの柱はそれぞれ 1 つの完全な石でできており、その石は白い大理石でした。屋根は奇妙な彫刻が施された杉で飾られていました。これらの回廊の自然の壮麗さと優れた磨き、そして継ぎ目の調和は、非常に注目すべき眺めを提供しました。また、外側には画家や彫刻家の作品で飾られていませんでした。回廊 (最外庭) の幅は 30 キュビトで、アントニアの塔を含めてその全体の周囲は 6 ファーロングでした。空気にさらされた中庭全体にはあらゆる種類の石が敷かれていました。これらの [最初の] 回廊を通り抜けて神殿の第二の中庭に行くと、周囲は石で造られた仕切りがあり、その高さは 3 キュビトでした。その造りは非常に優美で、その上には等間隔で柱が立っていました。柱には、ギリシャ文字とローマ文字で「外国人は聖域に入ってはならない」という清浄の掟が記されていました。神殿の第二の中庭は「聖域」と呼ばれ、第一の中庭から 14 段の階段で上がれる場所でした。この中庭は四角形で、周囲には独特の壁がありました。建物の高さは、外側は 40 キュビトでしたが、13 階段で隠れており、内部の高さはわずか 25 キュビトでした。丘のより高い部分に面して階段で建てられているため、丘自体に覆われて内部を完全には見分けることができませんでした。この 13 段の向こうには 10 キュビトの距離があり、これはすべて平らでした。そこからさらに 5 キュビトの階段があり、門に通じていました。門は北側と南側に 8 つ、その両側にそれぞれ 4 つ、東側には必然的に 2 つありました。その側には女性のための仕切りが建てられていたため、女性のための 2 番目の門が必要で

した。この門は最初の門の向かい側の壁から切り取られました。他の側にも南側の門と北側の門が1つずつあり、そこから女性の庭への通路がありました。他の門に関しては、女性はそこを通ることは許されていませんでした。また、女性が自分の門を通るときも、自分の壁の外に出ることはできませんでした。この場所は、我が国の女性にも、他の国の女性にも、同じ国の女性であれば平等に割り当てられた。この中庭の西側には門は全くなく、壁はそっち側に完全に建てられていた。しかし、門の間にある回廊は壁から部屋の前まで内側に伸びていた。回廊は非常に美しく大きな柱で支えられていた。これらの回廊は単一で、その大きさを除けば、下庭の回廊に劣るものではなかった。

3. これらの門のうちの九つは、そのすべての側面が金銀で覆われており、その戸口の側柱や鴨居も同様であった。しかし、聖なる宮の外にある一つの門は、コリントの青銅でできていて、銀と金で覆われているだけの門よりはるかに優れていた。それぞれの門には二つの扉があり、その高さはそれぞれ三十キュビト、幅は十五キュビトであった。しかし、それらの門の内側には三十キュビトの広い空間があり、それぞれの側に部屋があり、その幅と長さはともに塔のように建てられており、その高さは四十キュビト以上あった。また、これらの部屋を支えている二本の柱があり、その周囲は十二キュビトあった。他の門の大きさはどれも同じであったが、聖なる宮の門の東側に開いているコリントの門の上の門は、それよりずっと大きく、その高さは五十キュビトであった。その扉は40キュビトあり、他の扉よりもずっと豪華で厚い銀と金の板で覆われ、非常に高価な方法で装飾されていました。これらの9つの門には、ティベリウスの父であるアレクサンダーによって銀と金が注がれました。さて、女性の庭の壁からこの大きな門まで15段の階段がありましたが、他の門からそこに続く階段は5段短かったです。

4. 神殿の最も神聖な部分である、中庭の中央に置かれた聖なる家は、12段の階段で上がれ、正面の高さと幅は等しく、それぞれ100キュビトであったが、後ろは40キュビト狭かった。正面には、両側に肩と呼ばれるものがあり、さらに20キュビト続いていた。最初の門は高さ70キュビト、幅25キュビトであったが、この門には扉がなかった。なぜなら、それは天国の普遍的な可視性を表し、どこからも排除できないことを表していたからである。正面は全面が金で覆われており、そこから家のより内側の最初の部分が全て見えた。その部分は非常に大きかったので、より内側の門の周りの部分はすべて、それを見る人々には輝いて見えた。しかし、家全体が内部で二つに分かれていたため、私たちの目に見えていたのは最初の部分だけでした。その高さは、全体にわたって90キュビト、長さは50キュビト、幅は20キュビトでした。しかし、家の最初の部分のこの端にあった門は、すでに述べたように、その周囲の壁全体と同様に、全体が金で覆われていました。門の上には金のブドウの木があり、そこから人の背丈ほどもあるブドウの房が垂れ下がっていました。しかし、この家は二つに分かれていたため、内側の部分は外側よりも低く、高さ55キュビト、幅16キュビトの金の扉がありました。しかし、これらの扉の前には、扉と同じ大きさのベールがありました。それはバビロニアのカーテンで、青、上質の亜麻布、緋色、紫で刺繍されており、その織り目は本当に素晴らしいものでした。また、この色の混合には神秘的な解釈が伴うのではなく、宇宙のある種のイメージである。緋色は謎めいた火を、上質の亜麻は大地を、青は空気を、紫は海を意味しているようであった。この類似性の基礎となる色は、この二つの色であるが、上質の亜麻と紫はそれぞれ独自の基礎の起源を持ち、一方は大地から、他方は海から生まれた。このカーテンには、生き物を表す十二の星座を除いて、天の神秘的なもののすべてが刺繍されていた。

5. 誰かが神殿に入ると、その床が彼らを迎えた。神殿のこの部分の高さは六十キュビト、長さも同じであったが、幅はわずか二十キュビトであった。しかし、その六十キュビトの長さはまた分割され、その最初の部分は四十キュビトで切り取られ、その中には、すべての人々の間で非常に素晴らしく有名な三つのもの、すなわち、燭台、供えのパンのテーブル、および香の祭壇があった。七つのともしびは七つの惑星を意味していた。燭台からはたくさんのともしびが出ていたのである。テーブルの上の十二のパンは、黄道十二宮と一年を意味していた。しかし、香の祭壇は、海から補給された 13 種類の甘い香りのする香料によって、神が地球上の居住不可能な部分と居住可能な部分の両方にあるすべてのものの所有者であり、それらはすべて神の使用のために捧げられるべきであることを意味しました。しかし、すべての神殿の中で最も奥まった部分は 20 キュビトでした。これもまた、幕によって外側の部分から分離されていました。そこには何もありませんでした。そこは近づくことも侵すこともできず、誰にも見られず、至聖所と呼ばれていました。さて、神殿の下の部分の両側には小さな家があり、そこから他の家へと通じる通路がありました。それらの数は非常に多く、3 階建てでした。また、神殿の門からそれらの両側に入口がありました。しかし、神殿の上部には、そのような小さな家はありませんでした。神殿はそこでは狭く、40 キュビト高く、下部よりも小さい本体であったからです。したがって、床から 60 キュビトを含む全体の高さは、100 キュビトであったことがわかります。

6. さて、神殿の正面の外面には、人々の心や目を驚かせるようなものは何もありませんでした。なぜなら、神殿は重厚な金の板で全面が覆われていて、太陽が昇る最初の瞬間に、非常に燃えるような輝きを反射し、無理やり見ようとする人たちは、太陽の光線を見るときと同じように、目をそらしたからです。しかし、この神殿は、遠くから近づいてくると、見知らぬ人には、雪に覆われた山のように見えました。金メッキされていない部分は、非常に白かったからです。その頂上には、鳥が止まって汚れないように、先の尖った釘が付いていました。その石の中には、長さが 45 キュビト、高さが 5 キュビト、幅が 6 キュビトのものもありました。この神殿の前には、高さ 15 キュビトの祭壇があり、長さと同様で、それぞれの寸法は 50 キュビトでした。神殿は四角形で、角は角のようであった。そこに至る通路は、知覚できないほどの傾斜をなしていた。それは鉄の道具を使わずに造られ、いかなる鉄の道具もそれに触れることはなかった。また、高さ約 1 キュビトの仕切り壁があり、それは良質の石で造られ、見栄えがよいようになっており、聖なる家と祭壇を囲み、外にいる人々を祭司たちから遠ざけていた。さらに、淋病やらい病にかかっている者は完全に町から締め出され、女性も月経が続くと神殿から締め出され、その不浄から解放されたときも、前述の限度を超えることは許されなかった。男性も、完全に清浄でない者は神殿の内庭に入ることを禁じられ、清浄でない祭司たち自身も神殿に入ることを禁じられた。

7. さて、身体に何らかの欠陥があるために奉仕できない祭司の家系の者たちは皆、そのような欠陥のない者たちとともに仕切りの内側に入り、家系のゆえに彼らと分け前をもらいましたが、それでも自分の私服以外は何も着ませんでした。なぜなら、奉仕する者以外は誰も聖なる衣を着ていなかったからです。しかし、身に何の傷もない祭司たちは、上等な亜麻布を着て祭壇に上りました。彼らは、奉仕の規則に違反する恐れがあるため、主に酒を控えました。大祭司も彼らとともに上りました。もちろんいつもというわけではなく、七日目と新月、そして毎年祝う私たちの国に属する祭りがあるときだけでした。彼が儀式を行うとき、彼は股下から股下まで届くズボンを履き、亜麻布の內衣と、青い衣を着ていた。その衣は丸く、縫い目がなく、房飾りが付いていて、足まで届いていた。房飾りには

金の鈴も付いており、その中にはざくろが混じっていた。鈴は雷を、ざくろは稲妻を意味していた。しかし、その衣を胸に結びつける帯には、金、紫、緋色、また上等の亜麻布と青色の様々な色の五列の刺繍が施されていた。その色は、神殿の垂れ幕にも刺繍が施されていたことを、私たちが以前あなた方に話したとおりである。エポデにも同様の刺繍が施されていたが、金の量はもっと多かった。その形は、胸にかけるストマッカーの形をしていた。その上には、小さな盾のような二つの金のボタンが付いていて、エポデを衣に留めていた。これらのボタンには、その国の部族の名前が刻まれた、非常に大きくて非常に優れた2つの赤縞瑪瑙がはめ込まれていました。反対側には、一方に3つ、もう一方に4つの、合計12の石がぶら下がっていました。赤縞瑪瑙、トパーズ、エメラルド、カーバンクル、ジャスパー、サファイア、瑪瑙、紫水晶、リグレ、縞瑪瑙、緑柱石、貴石で、そのそれぞれに前述の部族の名前が刻まれていました。また、上等な亜麻布のミトラが彼の頭を囲み、青いリボンで結ばれていました。その周囲には別の金の冠があり、その中に神聖な名前（神の）が刻まれていました。それは4つの母音で構成されています。しかし、大祭司は他の時にはこれらの衣服を着用せず、より簡素な服装をしていました。彼がそれをしたのは、神殿の最も神聖な場所に入ったときだけで、それは年に一度、私たち全員が神への断食を行う習慣がある日にだけだった。これが町と神殿に関することのすべてである。ただし、これに関連する習慣と法律については、より正確な話はまた別の機会にしましょう。ここでは触れられていない、これに関連する多くの事柄が残っているからです。

8. さて、アントニアの塔は、神殿の庭の二つの回廊の角、すなわち西側と北側の回廊の角に位置していた。それは高さ五十キュビトの岩の上に建てられ、大きな断崖の上にあった。それはヘロデ王の作品であり、彼はそこに彼の生まれながらの寛大さを示した。第一に、岩自体は、装飾のため、また登ろうとする者も降りようとする者も足を踏み入れることができないように、基礎から滑らかな石片で覆われていた。その隣、そして塔自体の建物に来る前に、高さ三キュビトの壁があったが、アントニアの塔自体の空間全体は、その壁の内側、高さ四十キュビトまで建てられていた。内部は宮殿のような広さと形をしており、中庭や水浴場、野営地用の広い空間など、あらゆる種類の部屋や設備に分かれていた。そのため、都市に必要な設備がすべて整っていることから、複数の都市で構成されているように見えるが、壮麗さから宮殿のようであった。また、全体の構造は塔に似ており、四隅にはさらに4つの塔があった。他の塔の高さはわずか50キュビトであったが、南東の角にある塔は70キュビトあり、そこから神殿全体を眺めることができた。しかし、神殿の2つの回廊とつながる角には、両方の回廊に下りる通路があり、そこを通過して警備員 [この塔には常にローマ軍団が駐留していた] が、ユダヤ人の祭りのときには武器を持って回廊の間を何度も行き来し、人々が何か新しいことをしようとしないうちを監視した。神殿は町を守る要塞であり、アントニアの塔は神殿を守るものであった。そして、その塔には、これら三つの守備隊がいた。[14](#) また、上部の町に属する特別な要塞があり、それはヘロデの宮殿であった。しかし、すでに述べたように、ベゼタの丘のために、アントニアの塔とは分けられていた。そして、アントニアの塔が立っていたその丘は、これら三つの中で最も高かったもので、新しい町に隣接しており、北側の神殿の視界を遮る唯一の場所であった。そして、今のところは、町とその周囲の城壁について述べたので十分であろう。なぜなら、私は、それについて、他の場所より正確な説明をしようと考えたからである。

- 神殿の破壊：ヨハネ 2:18-22 13 さて、ユダヤ人の祭りが近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。14 そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、15 な

わでむちを造り、羊も牛もみな宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、16 はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。18 そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。20 そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。21 イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。22 それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。

- 主の日について：2 テサロニケ 2:1-12 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの来臨と、わたしたちがみもとに集められることについて、あなたがたにお願いすることがある。2 霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけない。3 だれがどんな事をして、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。4 彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。5 わたしがまだあなたがたの所にいた時、これらの事をくり返して言ったのを思い出さないのか。6 そして、あなたがたが知っているとおり、彼が自分に定められた時になってから現れるように、いま彼を阻止しているものがある。7 不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。8 その時になると、不法の者が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。9 不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、10 また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである。11 そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、12 こうして、真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばくのである。
- 産みの苦しみ
 - － 創世記 3:16 つぎに女に言われた、／「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦んで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、／彼はあなたを治めるであろう」。
 - － 詩篇 48:6 おののきは彼らに臨み、／その苦しみは産みの苦しみをする女のようにであった。
 - － 雅歌 8:5 自分の愛する者によりかかって、／荒野から上って来る者はだれですか。りんごの木の下で、わたしはあなたを呼びました。あなたの母上は、かしこで、／あなたのために産みの苦しみをなし、／あなたを産んだ者が、かしこで産みの苦しみをした。
 - － イザヤ 45:10 父にむかって／『あなたは、なぜ子をもうけるのか』と言い、／あるいは女にむかって／『あなたは、なぜ産みの苦しみをするのか』と／言う者はわざわざいだ」。
 - － イザヤ 54:1 「子を産まなかったうまずめよ、歌え。産みの苦しみをしなかった者よ、／声を放って歌いよばわれ。夫のない者の子は、／とついだ者の子よりも多い」と主は言われる。
 - － イザヤ 67:7,8 シオンは産みの苦しみをなす前に産み、／その苦しみの来ない前に男子を産んだ。だれがこのような事を聞いたか、／だれがこのような事どもを見たか。一つの国は一日の苦しみに生れるだろうか。一つの国民はひと時に生れるだろうか。しかし、シオンは産みの苦しみをするやいなや

／その子らを産んだ。

- － マルコ 13:8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに地震があり、またききんが起るであろう。これらは産みの苦しみの初めである。
- － マタイ 24:8 しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。
- － ローマ 8:22 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。
- － ガラテヤ 4:19 ああ、わたしの幼な子たちよ。あなたがたの内にキリストの形ができるまでは、わたしは、またもや、あなたがたのために産みの苦しみをする。
- － ガラテヤ 4:27 すなわち、こう書いてある、／「喜べ、不妊の女よ。声をあげて喜べ、産みの苦しみを知らない女よ。ひとり者となっている女は多くの子を産み、／その数は、夫ある女の子らよりも多い」。
- － 1 テサロニケ 5:3 人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。
- － 黙示録 12:2 この女は子を宿しており、産みの苦しみと悩みとのために、泣き叫んでいた。
- にせキリスト、にせ預言者
 - － マルコ 13:22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。
 - － マタイ 24:24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。
 - － マタイ 7:15 にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。
 - － マタイ 24:11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。
 - － ルカ 6:26 人が皆あなたがたをほめるときは、あなたがたはわざわざいだ。彼らの祖先も、にせ預言者たちに対して同じことをしたのである。
 - － 使徒 13:6 島全体を巡回して、パポスまで行ったところ、そこでユダヤ人の魔術師、バルイエスというにせ預言者に会った。
 - － 2 ペテロ 2:1 しかし、民の間に、にせ預言者が起ったことがあるが、それと同じく、あなたがたの間にも、にせ教師が現れるであろう。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあらがなって下さった主を否定して、すみやかな滅亡を自分の身に招いている。
 - － 1 ヨハネ 4:1 愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。
 - － 黙示録 16:13 また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるような三つの汚れた霊が出てきた。
 - － 黙示録 19:20 しかし、獣は捕えられ、また、この獣の前でしるしを行って、獣の刻印を受けた者とその像を拝む者たちを惑わしたにせ預言者も、獣と共に捕えられた。そして、この両者とも、生きながら、硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。
 - － 黙示録 20:10 そして、彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄との池に投げ込まれた。そこには、獣もにせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである。
- 耐え忍ぶ（ : i. to remain, ii. to remain i.e. abide, not recede or flee）

- マルコ 13:13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
- マタイ 10:22 またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
- マタイ 24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
- ルカ 21:19 あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろう。
- 2 テモテ 2:10 それだから、わたしは選ばれた人たちのために、いっさいのことを耐え忍ぶのである。それは、彼らもキリスト・イエスによる救を受け、また、それと共に永遠の栄光を受けるためである。
- 2 テモテ 2:12 もし耐え忍ぶなら、彼と共に支配者となるであろう。もし彼を否むなら、彼もわたしたちを否むであろう。
- ヤコブ 1:12 試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。
- ヤコブ 5:10 兄弟たちよ。苦しみを耐え忍ぶことについては、主の御名によって語った預言者たちを模範にするがよい。
- 1 ペテロ 2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。
- ユダヤ社会の背景（パークレイ：マルコによる福音書 p.367）
 - ユダヤ人たちは、自分らが選民であることを決して疑わなかった。また彼らはいつか、選民にふさわしく、選民に約束されている世界における場所を占めるだろうと、決して疑わなかった。その場所を人間的な手段によって獲得するという考えを捨ててから、ずいぶん月日を経過していた。神の介入される日が主の日であった。主の日の前に恐怖と苦難の時があるだろう。それは世界がその基まで動かされる破壊のときであるだろう。そして審判のときであろう。しかし、それに新しい世界、新しい時代、新しい栄光が続くだろう。と。ある意味では、この思想はおさえることのできない楽天主義の産物であり。ユダヤ人は神が突入してこられるのを確信していた。ある意味ではそれは冷たい厭世主義の産物である。なぜなら、この世は完全に悪であり、ただその完全な破壊と新しい世界の現出があれば満足であるという思想に基づいていたからである。彼らは改革を待ち望まなかった。事柄の全機構において完全に再形成され、再生産されるのを待ち望んだ。
 - アモス 5:16-20 それゆえ、主なる万軍の神、／主はこう言われる、／「すべての広場で泣くことがあろう。すべてのちまたで人々は／『悲しいかな、悲しいかな』と言う。また彼らは農夫を呼んできて嘆かせ、／巧みな泣き女を招いて泣かせ、17 またすべてのぶどう畑にも泣くことがあろう。それはわたしがあなたがたの中を／通るからである」と主は言われる。18 わざわいなるかな、主の日を望む者よ、／あなたがたは何ゆえ主の日を望むのか。これは暗くて光がない。19 人がししの前を逃れてもくまに出会い、／また家にはいって、手を壁につけると、／へびにかまれるようなものである。20 主の日は暗くて、光がなく、／薄暗くて輝きがないではないか。
 - イザヤ 13:6-16 あなたがたは泣き叫べ。主の日が近づき、／滅びが全能者から来るからだ。7 それゆえ、すべての手は弱り、／すべての人の心は溶け去る。8 彼らは恐れおののき、苦しみと悩みに捕えられ、／子を産まんとする女のようにもだえ苦しみ、／互に驚き、顔を見あわせ、／その顔は炎のようになる。9 見よ、主の日が来る。残忍で、憤りと激しい怒りとをもってこの地を荒し、／その中か

ら罪びとを断ち滅ぼすために来る。10 天の星とその星座とはその光を放たず、／太陽は出ても暗く、／月はその光を輝かさない。11 わたしはその悪のために世を罰し、／その不義のために悪い者を罰し、／高ぶる者の誇をとどめ、／あらぶる者の高慢を低くする。12 わたしは人を精金よりも、／オフルのこがねよりも少なくする。13 それゆえ、万軍の主の憤りにより、／その激しい怒りの日に、／天は震い、地は揺り動いて、その所をはなれる。14 彼らは追われた、かもしかのように、／あるいは集める者のない羊のようになって、／おのおの自分の民に帰り、／自分の国に逃げて行く。15 すべて見いだされる者は刺され、／すべて捕えられる者はつぎによって倒され、16 彼らのみどりごはその目の前で投げ碎かれ、／その家はかすめ奪われ、その妻は汚される。

- － ヨエル 2:1-3 あなたがたはシオンで／ラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。国の民はみな、／ふるいわななけ。主の日が来るからである。それは近い。2 これは暗く、薄暗い日、／雲の群がるまっくらな日である。多くの強い民が／暗やみのようにもろもろの山をおおう。このようなことは昔からあったことがなく、／後の代々の年にも再び起ることがないであろう。3 火は彼らの前を焼き、／炎は彼らの後に燃える。彼らのこない前には、／地はエデンの園のようであるが、／その去った後は荒れ果てた野のようになる。これをのがれうるものは一つもない。
- － ヨエル 2:28-32 その後わたしはわが霊を／すべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、／あなたがたの老人たちは夢を見、／あなたがたの若者たちは幻を見る。29 その日わたしはまた／わが霊をしもべ、はしために注ぐ。30 わたしはまた、天と地とにしるしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。31 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる。32 すべて主の名を呼ぶ者は救われる。それは主が言われたように、シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。その残った者のうちに、主のお召しになる者がある。
- － ヨエル 3:14 群衆また群衆は、さばきの谷におる。主の日がさばきの谷に近いからである。15 日も月も暗くなり、星もその光を失う。16 主はシオンから大声で叫び、／エルサレムから声を出される。天も地もふるい動く。しかし主はその民の避け所、／イスラエルの人々のとりでである。17 「そこでああなたがたは知るであろう、／わたしはあなたがたの神、主であって、／わが聖なる山シオンに住むことを。エルサレムは聖所となり、／他国人は重ねてその中を通ることがない。18 その日もろもろの山にうまい酒がしたり、／もろもろの丘は乳を流し、／ユダのすべての川は水を流す。泉は主の家から出て、／シッテムの谷を潤す。19 エジプトは荒れ地となり、エドムは荒野となる。彼らはその国でユダの人々をしえたげ、／罪なき者の血を流したからである。20 しかしユダは永遠に人の住む所となり、／エルサレムは世々に保つ。

4.77.5 記録

- 日時：2024 年 11 月 28 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）1 名

4.77.6 問いについて

1. この会話はいつどこでどのように始まりますか。(1)

- 1 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子のひとりが言った、「先生、ごらん下さい。なんという見事な石、なんという立派な建物でしょう」。
- [DQ] どのようなことに注目していますか。
 - － ヘロデ神殿（第三神殿と呼ばれる。ソロモン神殿、バビロン帰還後に再建した神殿、そして、ヘロデ大王が建て始めこのときも建設が続いていた神殿。AD70 にユダヤの反乱を収めたローマ軍によって徹底的に「その石一つでもくずされないままに、他の石の上に残ることもなくなる」ように破壊される）の壮麗さ。
 - － ユダヤ戦記 V-5-6a さて、神殿の正面の外面には、人々の心や目を驚かせるようなものは何もありませんでした。なぜなら、神殿は重厚な金の板で全面が覆われていて、太陽が昇る最初の瞬間に、非常に燃えるような輝きを反射し、無理やり見ようとする人たちは、太陽の光線を見るときと同じように、目をそらしたからです。しかし、この神殿は、遠くから近づいてくると、見知らぬ人には、雪に覆われた山のように見えました。金メッキされていない部分は、非常に白かったからです。その頂上には、鳥が止まって汚れないように、先の尖った釘が付いていました。その石の中には、長さが 45 キュビト、高さが 5 キュビト、幅が 6 キュビトのものもありました。この神殿の前には、高さ 15 キュビトの祭壇があり、長さと同様で、それぞれの寸法は 50 キュビトでした。神殿は四角形で、角は角のようであった。そこに至る通路は、知覚できないほどの傾斜をなしていた。それは鉄の道具を使わずに造られ、いかなる鉄の道具もそれに触れることはなかった。また、高さ約 1 キュビトの仕切り壁があり、それは良質の石で造られ、見栄えがよいようになっており、聖なる家と祭壇を囲み、外にいる人々を祭司たちから遠ざけていた。
- [DQ] 壮麗なものをほめてはいけなんでしょうか。
 - － やもめの献金（12:41-44）と関連があるかもしれない。神の視点を教えておられる。
 - － 43b イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。44 みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである」。
 - － イエスには、やはり教えるべき、神様の視点があったのだろう。このあとのイエスの言葉でも、禁止しているわけではない。単に、儚いものだよということだけを伝えている。
- [DQ] マルコでは、誰が言ったと書いてありますか。マタイ、ルカと比較してみましょう。
 - － 「弟子のひとり」マタイでは「24:1 イエスが宮から出て行こうとしておられると、弟子たちは近寄ってきて、宮の建物にイエスの注意を促した。」ルカでは「21:5 ある人々が、見事な石と奉納

物とで宮が飾られていることを話していたので、」。

- － マルコでは、弟子の一人で、このあと 3 節以降のことにも名前が出てくるが、マタイでは、弟子たちとぼやかし、ルカでは、人々としている。マタイでは、これらは、弟子集団に語られたように書かれ、ルカでは、人々に対してより一般的に語られたこととして記述されている。時代的要請がことなるのだろう。おそらく、実際に起こったことは、マルコに近いのではないと思われる。一般から具体に移行することは難しい。

2. イエスは、宮について何と言っていますか。(2)

- 2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。

- [DQ] イエスは、どのような思いで、このようなことを言ったのでしょうか。

- － 壮麗な物質を称賛することに対する虚しさは弟子たちには伝えなかったのではないだろうか。
- － ヨハネ 2:19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。

* 神殿に関して、いくつかの言葉が混入されている可能性も排除できない。共観福音書では、宮きよめは、受難週伝承に入っているが、2:19 はイエスの言葉としては入っておらず、逆に『あのナザレ人イエスは、この聖所を打ちこわし、モーセがわたしたちに伝えた慣例を変えてしまうだろう』などと、彼が言うのを、わたしたちは聞きました」。(使徒 6:14 ステパノの逮捕)「言った、「神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ。もし神の子なら、自分を救え。そして十字架からおいてこい」。」(マタイ 27:40) と、イエスを非難することに用いられている。

* 神殿破壊についてが一般的で、マルコ 13:2 は、(実際に神殿が破壊された) 後からの加筆だったかもしれない。

- [DQ] 具体的な神殿崩壊の預言をしているのでしょうか。それともより一般的な物質の壮麗さに目を奪われることについてでしょうか。

- － おそらく、後者のほうに、中心があるように思われる。ヨハネ 2:19 のように言ったか、それとも、13:2 のように、言われたかは不明だが。

3. 誰が何をイエスに聞いていますか。(3,4)

- 3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。

- [DQ] 質問した様子はどのように描かれていますか。どのようなことがわかりますか。

- 3b ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。4a 「わたしたちにお話しください。」
 - 1 節の「弟子の一人」は誰かは不明だが、この四人が「ひそかに」「わたしたちに」と聞いた場面は、多少秘密を独占しようという感じが受け取れる。「弟子の一人」とは差別化しているのかもしれない。
- [DQ] マタイと、ルカも確認してみましょう。どんな違いがありますか。それは、なぜでしょう。
 - マタイ 24:3b 弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、ルカ 21:7 そこで彼ら（ある人々）はたずねた
 - [Q] この人たち（ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレ）は、どのような人たちですか。
 - * 共観福音書によると最初にイエスの弟子になった二組の兄弟。十二弟子の一員。ヨハネによる福音書によると、アンデレは最初バプテスマのヨハネの弟子で、最初にイエスをメシアと呼んだひとである。
 - ・ ヨハネ 1:40,41 ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。41 彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、「わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った」。
 - * ヤイロの娘
 - ・ マルコ 5:37 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかった。
 - * 高い山に三人だけ連れて登る。
 - ・ マルコ 9:2 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、
 - * ゲッセマネ
 - ・ マルコ 14:33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、
- [DQ] 何を聞いていますか。
 - 「いつ、そんなことが起る（か）」「(そんなことがことごとく成就するような場合には、) どんな前兆がありますか」
 - 直接的には、「神殿崩壊は、いつ起こり、どんな前兆があるか。」
- [DQ] このあとのイエスの答えからすると、神殿崩壊がいつかと、その前兆を意識して話しているのでしょうか。それとも、終わりの時？

- － おそらくそうではない。「そんなこと」からもっと深い意味を受け取っているように見える。
- － 共感福音書成立年とも関係する記事で、たしかに、マルコの2節の記述が、実際にそのことが起こったあとに書かれたとされている、マタイ、ルカでもほとんど正確に受け継がれている。マルコのこの部分は、AD70以降に書かれたものなのだろうか。エルサレムにのぼるまでの活動はペテロ由来と思われ、古いのではないかと思われるが、受難週の伝承は別かもしれない。その意味で、最終的に今の形になったのは、AD70頃なのかもしれない。

4. イエスはどんなことが起こると言っていますか。(5-13)

- 5 そこで、イエスは話しはじめられた、「人に惑わされないように気をつけなさい。6 多くの者がわたしの名を名にとって現れ、自分がそれだと言って、多くの人を惑わすであろう。
- [DQ] イエスの名を名乗って現れるとはどのようなことですか。
 - － おそらく意味は広い。再臨のイエスだというものもあるかもしれないし、イエスの生まれ変わり、群れの指導者であることを示そうとしたりする。
 - － [Q] 「にせ預言者」(マタイ 24:11) とはどのような人でしょうか。
 - * マルコ 13:22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。
 - * マタイ 24:24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。
 - － 2 テサロニケ 2:2 霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけない。
- 7 また、戦争と戦争のうわさを聞くときにも、あわてるな。それは起らねばならないが、まだ終りではない。8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに地震があり、またききんが起るであろう。これらは産みの苦しみの初めである。9a あなたがたは自分で気をつけていなさい。
- [DQ] 戦争や自然災害や飢饉については、どのように言われていますか。
 - － 戦争（民と民、国と国、人間同士の争い）、地震（自然災害）、飢饉（社会的な問題）、
 - － [Q] 「産みの苦しみの始まり」は、どのようなことを伝えているのでしょうか。
 - * 突然起こり、いつまで続くかわからず、命を生み出す、命に関わる痛み。
- 9b あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。10 こうして、福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。11 そして、人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。
- [DQ] 弟子たち（あなたがた）に対してはどのようなことが起こると言われていますか。

－ イエス（キリスト）のために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられる

－ [Q] どんな証でしょうか。

* 福音？

- [DQ] 「福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。」は、何を伝えているのでしょうか。（ルカにはない）

－ それまでは、おわりは来ない。

- [DQ] 福音が全世界に宣べ伝えられまで、終わりは来ないのでしょうか。
- 12 また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
- [DQ] 家族などすべての人に憎まれるとは、どんなことが言われているのでしょうか。
 - － 兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させる、わたしの名のゆえに、すべての人に憎まれる

5. イエスはそれぞれについて、どのようなことを注意し、教えていますか。(5-13)

- [DQ] イエスの名を名乗って現れるとき
 - － 人に惑わされないように気をつけなさい。
- [DQ] 戦争や自然災害が起こる時
 - － 産みの苦しみの初めにおいて、自分で気をつけていなさい。
- [DQ] 福音のために証言を求められるとき
 - － 自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。
 - － [Q] 迫害のときはどのような機会になると言ってますか。またどのような約束を与えていますか。
- [DQ] 家族などすべての人に憎まれるとき
 - － 最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
 - － [Q] なぜ愛が冷えるのでしょうか。（マタイ 24:12）
 - * 12 また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。
- [DQ] 愛の宗教であるキリスト教なはずなのに、なぜ「すべての人に憎まれる」のでしょうか。

－ 福音が宣べつらえられても、平和になるとは言っていない。

6. わたしたちは、これらのことについて、どのように考え、何に注意し、生きていったら良いのでしょうか。

- 「いつ」かはわからない。 たいへんなことが起こっても惑わされるな。 神・聖霊が助けてくださる。 耐え忍びなさい。
 - － 神殿崩壊を相対化している。
 - － マルコ 13:32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。
 - － マタイ 24:36 その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。
 - － ルカ 19:44 おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。
- [DQ] 耐え忍ぶとは、どのようなことでしょうか。
 - － マルコ 13:13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。(マタイ 24:13)
 - － マタイ 10:22 またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
 - － ルカ 21:19 あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろう。
- 耐え忍ぶ (: i. to remain, ii. to remain i.e. abide, not recede or flee)
 - － 希望を持ち続けること !? 我慢することとは違うように思われる。

4.77.7 メモ

- 共観福音書の差異：マタイ、ルカにも並行記事があるが、全体的には似ている。しかし、マルコが具体的に、元々の形だと思われる。まず、「弟子のひとりが言った」とマルコではなっているが、マタイでは、「弟子たち（略）イエスの注意を促した」、ルカでは「ある人々（略）話していた。」となっており、特に、ルカでは、その後も、「あなたがた」となっていて、当時のキリスト者に語りかけているように書かれている。最後まで、マルコとマタイは「最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」であるが、ルカは「あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろう。」(21:19) である。また、マタイには「世の終わり」(24:3) という言葉があるが、ルカでは「時 (: due measure, a fixed and definite time, the time when things are brought to crisis, the decisive epoch waited for)」(21:8, 参照マルコ 13:33 「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。）」は使われている箇所があるが、マルコとルカでは「終わり」と抽象的なことばが使われている。マルコと、ルカでは、「自分がそれだと言って、多くのひとを惑わす」とあるところを、マタイには「自分がキリストだと言って、多くの人を惑わす」としている。マルコ 13:10 「こうして、福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。」は、マタイには「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(24:14) と対応する箇所があるが、ルカにはない。

- イエスは「いつ」と「前兆」との問いのうち、「いつ」という問いには、答えていないように見える。イエスが気にかかっていたことは、どんなことだったのだろうか。

－ 神殿崩壊ととられる内容を語ったことで、問いが発せられている。しかし、3節以降では、起こることを、それに対する備えに中心が置かれている。

- * 自分がそれだというような人に惑わされるな：5 そこで、イエスは話しはじめられた、「人に惑わされないように気をつけなさい。6 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだと言って、多くの人を惑わすであろう。

・ 人に惑わされないように気をつけなさい。

- * 戦争や自然災害や飢饉：7 また、戦争と戦争のうわさを聞くときにも、あわてるな。それは起らねばならないが、まだ終りではない。8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに地震があり、またききんが起るであろう。これらは産みの苦しみの初めである。9 あなたがたは自分で気をつけていなさい。

・ 産みの苦しみの初めにおいて、自分で気をつけていなさい。

- * 福音のために証言を求められる：あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。10 こうして、福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。11 そして、人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。

・ 自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。

- * 家族などすべての人に憎まれる：12 また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

・ 最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

- G.K. チェスタートン：天国を頭の中に入れようとするのは愚か者のすることであり、彼の頭が破壊するのも当然である。賢い者は、その頭を天国の中に入れることで満足する。

- 榊原康夫：7つの前兆

－ にせキリスト、戦争と戦争のうわさ、ききん、地震、教会迫害、教会内での背教と腐敗、全世界への福音のあかし、

4.78 13:14-23 大きな苦難を予告する

14 荒らす憎むべきものが、立ってはならぬ所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。15 屋上にいる者は、下におりな。また家から物を取り出そうとして内にはいるな。16 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。17 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。18 この事が冬おこらぬように祈れ。19 その日には、神が万物を造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような患難が起るからである。20 もし主がその期間を縮めてくださらないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選ばれた選民のために、その期間を縮めてくださったのである。21 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、『見よ、あそこにいる』と言っても、それを信じるな。22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。23 だから、気をつけていなさい。いっさいの事を、あなたがたに前もって言うておく。

4.78.1 マタイ 24:15-28

15 預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、16 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。17 屋上にいる者は、家から物を取り出そうとして下におりな。18 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。19 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。20 あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。21 その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。22 もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。23 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。25 見よ、あなたがたに前もって言うておく。26 だから、人々が『見よ、彼は荒野にいる』と言っても、出て行くな。また『見よ、へやの中にいる』と言っても、信じるな。27 ちょうど、いなずまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。28 死体のあるところには、はげたかが集まるものである。

4.78.2 ルカ 21:20-24

20 エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たならば、そのときは、その滅亡が近づいたとさとりなさい。21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。市中にいる者は、そこから出て行くがよい。また、いなかにいる者は市内にはいつてはいけない。22 それは、聖書にしるされたすべての事が実現する刑罰の日であるからだ。23 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。地上には大きな苦難があり、この民にはみ怒りが臨み、24 彼らはつるぎの刃に倒れ、また捕えられて諸国へ引きゆかれるであろう。そしてエルサレムは、異邦人の時期が満ちるまで、彼らに踏みにじられているであろう。

[マルコによる福音書 13 章 14-23 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 13 章 14-23,24-27 節福音書対照表](#)

4.79 13:24-27 人の子が来る

24 その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、25 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。26 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。27 そのとき、彼は御使たちをつかわして、地のはてから天のはてまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

4.79.1 マタイ 24:29-31

29 しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。30 そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。31 また、彼は、大いなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

4.79.2 ルカ 21:25-28

25 また日と月と星とに、しるしが現れるであろう。そして、地上では、諸国民が悩み、海と大波とのとどろきにおじ惑い、26 人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。27 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。28 これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから」。

[マルコによる福音書 13 章 24-27 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 13 章 14-23,24-27 節福音書対照表](#)

4.79.3 問い

1. 前の箇所で、イエスは、どのような質問に、どのように答えていましたか。(1-13)
2. どんなことが起こると言っていますか。(14-20)
3. どのようなことに注意するように言われていますか。(14-20)
4. にせ預言者やにせメシアとはどのようなひとたちですか。(21-23)

5. 人の子が来るときはどのように描かれていますか。(24-27)

6. あなたは、この箇所から、何を学びましたか。

4.79.4 参照

- 荒らす憎むべきもの (abomination of desolation, spoken of by Daniel the prophet;) :
(a foul thing, a detestable thing, i.e., of idols and things pertaining to idolatry), (a making desolate, desolation) 「ヘブル語：ぞっとさせる渾神」
 - － ダニエル 9:27 彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう。また荒す者が憎むべき者の翼に乗って来るでしょう。こうしてついにその定まった終りが、その荒す者の上に注がれるのです。
 - － ダニエル 11:31 彼から軍勢が起って、神殿と城郭を汚し、常供の燔祭を取り除き、荒す憎むべきものを立てるでしょう。
 - － ダニエル 12:11 常供の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる時から、千二百九十日が定められている。
- 荒らす憎むべきもの
 - － シリアのアンティオコス王による弾圧
 - * マカバイ記一 1:54-64 第百四十五年、キスレウの月の十五日には、王は祭壇の上に「荒廃をもたらし憎むべきもの」を建てた。人々は周囲のユダの町々に異教の祭壇を築き、55 家々の戸口や大路で香をたき、56 律法の巻物を見つけてはこれを引き裂いて火にくべた。57 契約の書を隠していることが発覚した者、律法に適った生活をしている者は、王の裁きにより処刑された。58 悪人たちは毎月、町々でイスラエル人を見つけては彼らに暴行を加えた。59 そして月の二十五日には主の祭壇上にしつらえた異教の祭壇でいけにえを献げた。60 また、子どもに割礼を受けさせた母親を王の命令で殺し、61 その乳飲み子を母親の首につるし、母親の家の者たちや割礼を施した者たちをも殺した。62 だがイスラエル人の多くはそれにも屈せず、断固として不浄のものを口にしなかった。63 彼らは、食物によって身を汚して聖なる契約に背くよりは、死を選んで命を落としていった。64 大いなる怒りがイスラエルの上に激しく臨んだ。
 - － カリグラ
 - * AD40 エルサレムに自分の像を立てることを計画。AD41 没で、実行されなかった。
- バークレイ「荒らす憎むべきもの」について：
 - － ヘブル語の表現の文字通りの意味は「ぞっとさせる渾神」である。その句の起源はアンティオコスに関連していた。すでに彼が、ユダヤの宗教を根絶させ、ギリシャ思想とギリシャ風とを導入しようとして、豚の肉を大祭壇に供え、聖域に公娼を置いて神殿を汚した。聖所そのものの前にオリンピアの

ゼウスの大きな像を末、ユダヤ人たちにそれを礼拝するように命じた。「荒らす憎むべきもの」「ぞっとさせる汚神」と言う句は、本来、異教の像と、アンティオコスが神殿を汚すためにそれに付属させたものトを書き表したものである。それとおなじようなことが再び起きようとしているというのが、この箇所である。

- アンティオコス・エピファネス

- スリアのセレウコス王朝（BC312-）の王、アンティオコス四世（BC175-163）自ら、ゼウスの権化と称した。
- マカバイ記一 1:54 第百四十五年、キスレウの月の十五日には、王は祭壇の上に「荒廃をもたらす憎むべきもの」を建てた。人々は周囲のユダの町々に異教の祭壇を築き、
- マカバイ記二 6:1,2 程なくして王は、アテネ人の一人の長老を派遣した。ユダヤ人を強いて、父祖の律法から離れさせ、神の律法によって生きることをやめさせ、2 エルサレムの神殿を汚してオリンポスのゼウスの神殿と名付けさせ、ゲリジム山の神殿を、そこに住む者たちがたまたまそう呼んでいたように、ゼウス・クセニオスの神殿と名付けさせるためである。
- ユダヤ古代誌 12:5 大祭司職をめぐる争いが続く中、アンティオコスはエルサレムに遠征し、町を占領して神殿を略奪した。ユダヤ人を苦しめたこと、また多くのユダヤ人が自国の法律を捨てたこと、サマリア人がギリシャ人の習慣に従ってゲリジム山の神殿をユピテルヘレニウス神殿と名付けたことなど。

* 1. この頃、大祭司オニアスが死ぬと、人々は彼の兄弟であるイエスに大祭司の職を与えた。オニアスが残した息子 [またはオニアス 4 世] はまだ幼かったからである。この子に起こったすべての出来事については、しかるべきところで読者に知らせよう。しかし、オニアスの兄弟であったこのイエスは、彼に腹を立てた王によって大祭司の職を剥奪され、その弟であるオニアスにその職を与えた。シモンには 3 人の息子がいて、すでに読者に知らせたように、それぞれに祭司職が与えられた。このイエスは名前をジェイソンに変えたが、オニアスはメネラオスと呼ばれた。さて、前の大祭司であるイエスが、彼の後に叙階されたメネラオスに対して反乱を起こしたので、群衆は両者に分かれた。そしてトビアスの息子たちはメネラオスの側についたが、民衆の大部分はジェイソンを支持した。メネラオスとトビアスの息子たちは、そのことで困惑し、アンティオコスのもとに退き、自分たちの国の法律とそれに従ったユダヤ人の生活様式を捨て、王の法律とギリシャ人の生活様式に従いたいと申し出た。そこで彼らは、エルサレムに体育館を建てる許可を求めた。15 許可が下りると、彼らは性器の割礼も隠した。裸のときでもギリシャ人に見えるようにするためである。こうして、彼らは自分たちの国の習慣をすべて捨て、他の国の習慣を真似した。

2. さて、アンティオコスは、王国の情勢が好転したので、エジプトへの遠征を決意した。エジプトを手に入れたいという願望があったからと、プトレマイオスの息子が弱体化し、まだそのような重大な問題を扱う能力がないと見なしたからである。そこで彼は大軍を率いてペルシウムに向かい、裏切りによってプトレマイオス・フィロメトルを迂回し、エジプトを占領した。次に彼は

メンフィス周辺の場所に到達し、そこを占領すると、包囲してそこを占領し、そこで統治していたプトレマイオスを征服しようとして、急いでアレクサンドリアに向かった。しかし、彼は、その国に手を出すなと命じたローマ人の布告によって、アレクサンドリアだけでなくエジプト全土から追い出された。これは私が以前に別のところで述べたとおりである。これから、この王がユダヤと神殿をどのように征服したかについて、具体的に述べよう。というのは、私は以前の著作の中でそれらの事柄について非常に簡単に触れたので、今その歴史をもう一度、しかも非常に正確に検討する必要があると考えたからです。

3. アンティオコス王はエジプトから帰国し、ローマ人を恐れてエルサレム市に遠征した。セレウコス王国の百四十三年、彼はエルサレムに滞在していたが、自分の党派が門を開いたため、戦うことなくその市を占領した。エルサレムを占領すると、敵対する党派の多くを殺害し、多額の金銭を奪ってアンティオキアに戻った。

4. それから二年後、第百四十五年、われわれがカスレウと呼び、マケドニア人がアペレウスと呼ぶ月の二十五日、第百五十三オリンピアードの年、王はエルサレムに上陸し、平和を装いながら裏切りによってその町を占領した。その時、王は神殿に眠る財宝のせいで、町に入るのを許した者たちを容赦しなかった。しかし、貪欲な性癖に駆られて（神殿には大量の金と、非常に高価な多くの装飾品が奉納されていたのを見て）、その富を略奪するために、結んだ同盟を破ろうとした。そこで彼は神殿を荒らし、金の燭台、金の祭壇（香の祭壇）、供えのパンの食卓、全焼の供え物の祭壇を取り除いた。また、亜麻布と緋色の布で作った垂れ幕さえも手放さなかった。また、神殿の秘宝を空にして、何も残さなかった。こうしてユダヤ人を大いに嘆かせた。律法に従って神に毎日捧げていた犠牲を捧げることを禁じたからである。そして、彼は町全体を略奪した後、住民の何人かを殺し、何人かを妻子とともに捕虜にした。生きたまま捕らえられた捕虜の数はおよそ一万人に上った。また、最も立派な建物を焼き払い、町の城壁を倒した後、町の下部に城塞を建てた。17 その場所は高台にあり、神殿を見下ろしていたため、王は高い壁と塔で要塞化し、マケドニア人の守備隊を置いた。しかし、その城塞にはユダヤ人の民衆のうち不信心で邪悪な者が住んでおり、市民が多くのひどい災難に見舞われたのは、彼らによるものであった。王は神の祭壇の上に偶像の祭壇を築き、その上で豚を殺し、律法にもその国のユダヤ教の礼拝にも従わない犠牲を捧げた。また、王は人々に、自分たちの神に捧げていた礼拝を捨て、自分が神とみなした者たちを崇拜するよう強要した。そして、神殿を建てさせ、あらゆる町や村に偶像の祭壇を建てさせ、毎日豚を捧げさせた。また、息子に割礼を施してはならないと命じ、命令に違反した者には罰を与えると脅した。彼はまた、監督者を任命し、彼らに彼の命令に従うよう強制した。そして実際、自発的に、あるいは宣告された罰を恐れて、王の命令に従ったユダヤ人はたくさんいた。しかし、最も優れた人々、そして最も高貴な魂の人々は彼を尊敬せず、不従順な者たちに彼が脅した罰よりも、自分たちの国の慣習にもっと敬意を払った。そのため彼らは毎日、大きな悲惨と苦難を味わった。彼らは棒で打たれ、体は引き裂かれ、まだ生きていて息をしているうちに十字架につけられた。彼らはまた、王の命令に従って割礼を施した女性とその息子たちを絞め殺し、十字架にかけられたまま息子たちを首にかけた。そして、律法の聖なる書物が見つかった場合は、それは破壊され、一緒に見つかった人々も惨めに死んだ。

5. サマリア人は、ユダヤ人がこのような苦難を受けているのを見て、もはや自分たちが同族であると告白せず、ゲリジム山の神殿が全能の神のものであるとも告白しませんでした。これは、すでに述べたように、彼らの性質によるものでした。そして、彼らは今や自分たちがメディア人とペルシャ人の植民地であると言いました。実際、彼らは彼らの植民地でした。そこで彼らは使節をアンティオコスに送り、次のような内容の手紙を送った。「シケムに住むシドン人から、神アンティオコス王エピファネスへの記念品。私たちの先祖は、ある疫病が頻繁に起こることと、ある古い迷信に従って、ユダヤ人が安息日と呼ぶ日を守る習慣がありました。18そして、ゲリジムと呼ばれる山に、名前のない神殿を建て、そこで適切な犠牲を捧げました。今、これらの邪悪なユダヤ人に対する正当な扱いについて、彼らの管理人は、私たちが彼らの親族であり、彼らと同じように行動していると仮定し、公文書から明らかなように、私たちはもともとシドン人であるにもかかわらず、私たちも同じ告発を受けるに値します。したがって、私たちの恩人であり救世主であるあなたに、この地域の知事アポロニウスと、その地域の知事ニカノルに命令を下すようお願いいたします。汝の事務の長官に、我々を煩わせたり、ユダヤ人が告発されていることを我々に押し付けたりしないで下さい。我々は彼らの民族や習慣から疎外されているのですから。しかし、現在名前のない我々の神殿をユピテル・ヘレニウス神殿と名付けて下さい。そうすれば、我々はもう煩わされることはなく、むしろ静かにして自分たちの仕事に専念し、より多くの収入を汝にもたすでしょう。」サマリア人がこのことを嘆願すると、王は手紙で次のような返答を彼らに送り返した。「アンティオコス王よりニカノルへ。シケムに住むシドン人から、同封の告発状が送られてきました。それで、我々が友人たちとこの件について相談していたところ、彼らから送られた使者は、ユダヤ人に属する告発には全く関心がなく、ギリシア人の習慣に従って生きることを選ぶと我々に告げました。したがって、我々は彼らがそのような告発から解放されたと宣言し、彼らの請願に応じて、彼らの神殿をユピテル・ヘレニウス神殿と名付けるよう命じます。」彼はまた、46年、ヘカトラベオンの月18日に、その地域の知事アポロニウスに同様の手紙を送りました。

- ー ユダヤ戦記 I:1:1-2 1. エピファネスと呼ばれたアンティオコスが、シリア全土に対する権利をめぐって第6代プトレマイオスと口論していたのと時を同じくして、ユダヤの権力者たちの間で大きな反乱が起こり、彼らは政権獲得をめぐって争いました。一方、高位の者たちは、それぞれが同等の者に従うことに耐えられませんでした。しかし、大祭司のひとりであるオニアスが優勢に立ち、トビアスの息子たちを町から追い出しました。彼らはアンティオコスのもとに逃げ、彼らを指導者として利用し、ユダヤに遠征するよう懇願しました。王は事前にそのように準備していたので、彼らの要求に従い、大軍を率いてユダヤ人を襲撃し、力づくで町を占領し、プトレマイオスを支持する大勢の人々を殺害し、兵士たちを派遣して容赦なく略奪しました。彼はまた神殿を略奪し、3年6か月間、毎日罪の償いの犠牲を捧げるという習慣を止めさせました。しかし、大祭司オニアスはプトレマイオスのもとに逃げ、ヘリオポリスのノムスで彼から地位を与えられ、そこにエルサレムに似た都市と、その神殿に似た神殿を建てました。これについては、後で適切な場所でさらに詳しく説明します。

- 2. アンティオコスは、この都市を思いがけず占領したり、略奪したり、そこで大虐殺を行ったりしても満足せず、激しい怒りに駆られ、包囲中に受けた苦しみを思い出し、ユダヤ人にその国の法律を破

棄させ、幼児に割礼を受けさせず、祭壇に豚の肉を捧げるように強要した。ユダヤ人は皆これに反対し、最も有能な者たちは死刑に処された。要塞の守備に派遣されたバッキデスもまた、これらの邪悪な命令を受け、生来の蛮行に加わり、あらゆる種類の極悪非道な行為にふけり、住民の中でも最も立派な者たちを一人ずつ苦しめ、毎日公然と都市を破壊すると脅し、ついには極悪非道な行為によって貧しい人々を刺激して復讐させた。

- パークレイ「にせキリストたちや、にせ預言者たち」異端について

1. 自分自身に都合の良い教義を作る
2. 真理の一部を強調する
3. 人々に魅力的に映るようにする
4. 交わりから離れさせる、分断を生じさせる
5. 完全に理解できるものにする

- その日：終末における主の定められた日

- ー エレミヤ 3:16-18 主は言われる、あなたがたが地に増して多くなるとき、その日には、人々はかさねて「主の契約の箱」と言わず、これを思い出さず、これを覚えず、これを尋ねず、これを作らない。17 そのときエルサレムは主のみ位ととなえられ、万国の民はここに集まる。すなわち主の名のもとにエルサレムに集まり、かさねて、かたくなに自分の悪い心に従うことはしない。18 その日には、ユダの家はイスラエルの家と一緒に、北の地から出て、わたしがあなたがたの先祖たちに嗣業として与えた地に共に来る。
- ー エレミヤ 31:29 その時、彼らはもはや、／『父がすっぱいぶどうを食べたので、／子どもの歯がうく』／とは言わない。
- ー エレミヤ 33:15,16 その日、その時になるならば、わたしはダビデのために一つの正しい枝を生じさせよう。彼は公平と正義を地に行う。16 その日、ユダは救を得、エルサレムは安らかにおる。その名は『主はわれわれの正義』ととなえられる。
- ー ヨエル 3:1,2 見よ、わたしがユダとエルサレムとの幸福をもとに返すその日、その時、2 わたしは万国の民を集めて、これをヨシャパテの谷に携えくだり、その所でわが民、わが嗣業であるイスラエルのために彼らをさばく。彼らがわが民を諸国民のうちに散らして、わたしの地を分かち取ったからである。
- ー ゼカリヤ 8:23 万軍の主は、こう仰せられる、その日には、もろもろの国ことばの民の中から十人の者が、ひとりのユダヤ人の衣のすそをつかまえて、『あなたがたと一緒に行こう。神があなたがたと共にいますことを聞いたから』と言う」。
- ー イザヤ 13:9-11 見よ、主の日が来る。残忍で、憤りと激しい怒りとをもってこの地を荒し、／その中

から罪びとを断ち滅ぼすために来る。10 天の星とその星座とはその光を放たず、／太陽は出ても暗く、／月はその光を輝かさない。11 わたしはその悪のために世を罰し、／その不義のために悪い者を罰し、／高ぶる者の誇をとどめ、／あらぶる者の高慢を低くする。

- － イザヤ 34:4 天の万象は衰え、／もろもろの天は巻物のように巻かれ、／その万象はぶどうの木から葉の落ちるように、／いちじくの木から葉の落ちるように落ちる。
- － エゼキエル 32:7,8 わたしはあなたを滅ぼす時、／空をおおい、星を暗くし、／雲で日をおおい、月に光を放たせない。8 わたしは空の輝く光を、／ことごとくあなたの上に暗くし、／あなたの国をやみとすると／主なる神は言う。
- － ヨエル 2:30,31 わたしはまた、天と地とにしるしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。31 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる。
- － アモス 8:9 主なる神は言われる、／「その日には、／わたしは真昼に太陽を沈ませ、／白昼に地を暗くし、
- － ダニエル 7:13,14 わたしはまた夜の幻のうに見ていると、／見よ、人の子のような者が、／天の雲に乗ってきて、／日の老いたる者のもとに来ると、／その前に導かれた。14 彼に主権と光栄と国とを賜い、／諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、／なくなることがなく、／その国は滅びることがない。

● 選びの民を集める

- － 申命記 30:3,4 あなたの神、主はあなたを再び栄えさせ、あなたをあわれみ、あなたの神、主はあなたを散らされた国々から再び集められるであろう。4 たといあなたが天のはてに追いやられても、あなたの神、主はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ帰られるであろう。
- － イザヤ 60:4 あなたの目をあげて見ませ、／彼らはみな集まってあなたに来る。あなたの子らは遠くから来、／あなたの娘らは、かいなにいだかれて来る。
- － エレミヤ 32:37 見よ、わたしは、わたしの怒りと憤りと大いなる怒りをもって、彼らを追いやったもろもろの国から彼らを集め、この所へ導きかえって、安らかに住ませる。
- － エゼキエル 34:13 わたしは彼らをもろもろの民の中から導き出し、もろもろの国から集めて、彼らの国に携え入れ、イスラエルの山の上、泉のほとり、また国のうちの人の住むすべての所でこれを養う。
- － エゼキエル 36:24 わたしはあなたがたを諸国民の中から導き出し、万国から集めて、あなたがたの国に行かせる。
- － ゼカリヤ 2:6 主は仰せられる、さあ、北の地から逃げて来なさい。わたしはあなたがたを、天の四方の風のように散らしたからである。

● 支配の座につく

- － マタイ 19:28 イエスは彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。世が改まって、人の子がその栄光の座につく時には、わたしに従ってきたあなたがたもまた、十二の位に座してイスラエルの十二の部族をさばくであろう。
- － ルカ 22:30 わたしの国で食卓について飲み食いをさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。

4.79.5 記録

- ・ 日時：2024 年 12 月 5 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）3 名、参加（遠隔）4 名

4.79.6 問いについて

1. 前の箇所で、イエスは、どのような質問に、どのように答えていましたか。(1-13)

- ・ 2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。
- ・ にせのイエスに惑わされるな。戦争や自然災害や飢饉は起こっても、それで終わりではないこと。福音のために証言を求められる。そして、家族などすべての人に憎まれる。
- ・ [DQ] わたしたちには、どのように勧められていましたか。
 - － 人に惑わされないように気をつけなさい。(5) あわてるな。(6) あなたがたは自分で気をつけていなさい。(9) 自分に示されることを語るがよい。(11) 最後まで耐え忍ぶ者は救われる。(13)
 - － 福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。(10)

2. どんなことが起こると言っていますか。(14-20)

- ・ 14 荒らす憎むべきものが、立ってはならぬ所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。
 - － 15 屋上にいる者は、下におりるな。また家から物を取り出そうとして内にはいるな。16 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。17 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。18 この事が冬おこらぬように祈れ。19 その日には、神が万物を造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような患難が起るからである。20 もし主がその期間

を縮めてくださらないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選ばれた選民のために、その期間を縮めてくださったのである。

- [A] (その日には、) 神が万物を造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような患難が起る
- [DQ] 「荒らす憎むべきものが、立ってはならぬ所に立つのを見たならば」は具体的な事件を指しているのでしょうか。

－ [参照] ダニエル 11:31 彼から軍勢が起って、神殿と城郭を汚し、常供の燔祭を取り除き、荒す憎むべきものを立てるでしょう。

－ [参照] マカバイ記一 1:54 第百四十五年、キスレウの月の十五日には、王は祭壇の上に「荒廃をもたらす憎むべきもの」を建てた。人々は周囲のユダの町々に異教の祭壇を築き、

* アンティオコス四世 (BC175-163) アンティオコス・エピファネス

－ [参照] ユダヤ戦記 I:1:2 アンティオコスは、この都市を思いがけず占領したり、略奪したり、そこで大虐殺を行ったりしても満足せず、激しい怒りに駆られ、包囲中に受けた苦しみを思い出し、ユダヤ人にその国の法律を破棄させ、幼児に割礼を受けさせず、祭壇に豚の肉を捧げるように強要した。(BC167) ユダヤ人は皆これに反対し、最も有能な者たちは死刑に処された。要塞の守備に派遣されたバッキデスもまた、これらの邪悪な命令を受け、生来の蛮行に加わり、あらゆる種類の極悪非道な行為にふけり、住民の中でも最も立派な者たちを一人ずつ苦しめ、毎日公然と都市を破壊すると脅し、ついには極悪非道な行為によって貧しい人々を刺激して復讐させた。

－ [参照] AD40 カリグラがエルサレムに自分の像を建てようとした。(AD41 没)

－ [Q] これが 70 年のエルサレムの破壊を意味しているとする、何を教えようとしているのでしょうか。

－ [Q] エルサレムの破壊以降の人には、どのような意味があるのでしょうか。

- [DQ] それは、かなり先のことですか。それとも、AD66-70 のユダヤ戦役のことでしょうか。

－ [Q] いつ起こるのでしょうか。

－ [A] 13:32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

- [DQ] どのようなことがおき、それは人々にどのような影響を及ぼすと言っていますか。

3. どのようなことに注意するように言われていますか。(14-20)

- [DQ] (荒らす憎むべきものが、立ってはならぬ所に立つのを見たならば) どう行動するように、描かれていますか。また、どのような備えが必要なのでしょうか。

1. ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。14 (荒らす憎むべきものが、立ってはならぬ所に立つのを見たならば(読者よ、悟れ)、そのとき、) ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。

— AD66-70 のユダヤ戦争のときは、ペレア地方に逃れたと、エウセビオスは教会史に書いている。

2. 身を守ることを優先せよ。15 屋上にいる者は、下におりな。また家から物を取り出そうとして内にはいるな。16 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。

3. たいへんなときに起こらぬよう祈れ。17 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。18 この事が冬おこらぬように祈れ。

4. にせ預言者やにせメシアとはどのようなひとたちですか。(21-23)

- 21 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、『見よ、あそこにいる』と言っても、それを信じるな。22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。23 だから、気をつけていなさい。いっさいの事を、あなたがたに前もって言うておく。

- [A] しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとする

— [参照] 申命記 13:1-3 あなたがたのうちに預言者または夢みる者が起って、しるしや奇跡を示し、2 あなたに告げるそのしるしや奇跡が実現して、あなたがこれまで知らなかった『ほかの神々に、われわれは従い仕えよう』と言っても、3 あなたはその預言者または夢みる者の言葉に聞き従ってはならない。あなたがたの神、主はあなたがたが心をつくし、精神をつくして、あなたがたの神、主を愛するか、どうかを知ろうと、このようにあなたがたを試みられるからである。

- [DQ] 偽預言者や、偽メシアは、見分けることができるのでしょうか。

- [DQ] イエスはどのようなことをすすめていますか。

— 気をつけていなさい。(23)

5. 人の子が来るときはどのように描かれていますか。(24-27)

- 24 その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、25 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。26 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。27 そのとき、彼は御使たちをつかわして、地のはてから天のはてまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

- [DQ] 人の子が現れる徴としてどのようなことが起こると言われていますか。

- [参照 - その日] エレミヤ 33:15,16 その日、その時になるならば、わたしはダビデのために一つの正しい枝を生じさせよう。彼は公平と正義を地に行う。16 その日、ユダは救を得、エルサレムは安らかにおる。その名は『主はわれわれの正義』となえられる。

- [参照 - その日] ヨエル 3:1,2 見よ、わたしがユダとエルサレムとの幸福をもとに返すその日、その時、2 わたしは万国の民を集めて、これをヨシャパテの谷に携えくんだり、その所でわが民、わが嗣業であるイスラエルのために彼らをさばく。彼らがわが民を諸国民のうちに散らして、わたしの地を分かち取ったからである。
- [参照 - 主の日、天の万象] イザヤ 13:9-11 見よ、主の日が来る。残忍で、憤りと激しい怒りとをもってこの地を荒し、／その中から罪びとを断ち滅ぼすために来る。10 天の星とその星座とはその光を放たず、／太陽は出ても暗く、／月はその光を輝かさない。11 わたしはその悪のために世を罰し、／その不義のために悪い者を罰し、／高ぶる者の誇をとどめ、／あらぶる者の高慢を低くする。
- [参照 - 主の日、天の万象] イザヤ 34:4 天の万象は衰え、／もろもろの天は巻物のように巻かれ、／その万象はぶどうの木から葉の落ちるように、／いちじくの木から葉の落ちるように落ちる。
- [参照 - 主の日、天の万象] ヨエル 2:30,31 わたしはまた、天と地とにしるしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。31 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変る。
- [参照 - 人の子・雲に乗って] ダニエル 7:13,14 わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、／見よ、人の子のような者が、／天の雲に乗ってきて、／日の老いたる者のもとに来ると、／その前に導かれた。14 彼に主権と光栄と国とを賜い、／諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、／なくなることがなく、／その国は滅びることがない。

6. あなたは、この箇所から、何を学びましたか。

- [DQ] 弟子たちの問いに関するイエスの答えは、どのようなものだったのでしょうか。

4.79.7 メモ

- 共観福音書の差異：

－「大きな苦難を予告する」は、マルコとマタイは共通点が多いが、ルカはかなり異なる。マルコとマタイの相違点は「荒らす憎むべき者」について「預言者ダニエルによって言われた」が追加されていること、「この事が冬おこらぬように祈れ。」(18)の部分で、「あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。」と安息日が加わっていること、「もし主がその期間を縮めてくださらないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選ばれた選民のために、その期間を縮めてくださったのである。」(20)が、「もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。」と表現が変えられていること、あとは、結びが異なり、マルコでは「だから、気をつけていなさい。いっさいの事を、あなたがたに前もって言うておく。」(23)とだけある部分を、「25 見よ、あなたがたに前もって言うておく。26 だから、人々が『見よ、彼は荒野にいる』と言っても、出て行くな。また『見よ、へやの中にいる』と言っても、信じるな。27 ちょうど、いなづまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。28 死体のあるところには、はげたかが集まるものである。」と、人の子が現れることへと繋げら

れている。ルカでは、まず、「エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たならば、そのときは、その滅亡が近づいたとさとりなさい。」と歴史的におそらく、だれでも認識できることが具体的に書かれ、「それは、聖書にしるされたすべての事が実現する刑罰の日であるからだ」として、「そしてエルサレムは、異邦人の時期が満ちるまで、彼らに踏みにじられているであろう。」と結ばれている。並行箇所とは言えないのかもしれない。

―「人の子が来る」においても、マルコとマタイは共通点が多いが、ルカの記述は異なる。マルコとマタイの相違点は、マルコでは「この患難の後」となっている箇所に「たちまち」が追加され、さらにマルコで「そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。」(26)となっている部分は「そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。」と表現され、最後の節も「ラッパ」が加わり、マルコより詳細になっている。ルカでは、これらのことが、世界規模で起こることともに、「これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救（
: a releasing effected by payment of ransom, redemption, deliverance, liberation procured by the payment of a ransom, Rm 3:24, 8:23, 1Cor 1:30 etc）が近づいているのだから」と結んでいる。まだこのあとに、続きが予測されている。

- 「荒らす憎むべきものが、立ってはならぬ所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。」(14)と始まるこの箇所は、まず、二重の意味があることを理解しなければいけないのだろう。すなわち、直接的には、神殿破壊がされる、ユダヤ戦役（AD66-70）のときのことであり、そして、そこで終わらない、将来のことについて語られている二重の構造である。実際、「荒らす憎むべきもの」は一義的には、ユダヤ教を冒瀆し棄教させるために、神殿におぞましいものをもちこんだシリアのアンティオコスによるギリシャ化が想定されている。しかし、それは、イエスの時代にすでに終わっていることでもある。マルコが書かれた時代がユダヤ戦役の前か後かは不明だが、いずれにしても、それこそがこの箇所の預言ではないのだろう。もし、その預言のために書かれたのであれば、その時をもって、意味を失う。実際、「山へ逃げよ」と語られ、ユダヤにいた、その教えゆえに、キリスト者の多くは、山に逃げ、ローマによって滅ぼされなかったことも伝えられている。さらに、ここには「ユダヤにいる人」と限定的にも語られており、キリスト者は、すでに、広い範囲に広がっていたことも想定されている。つまり、ローマによるエルサレムの破壊、神殿崩壊は、ここで語られていることと重なると言えども、それが終わりではないことも確かである。それを理解して、読まなければならない。
- また、イエスの再臨、世の終わりといわれるものが、来ないとは言っていない。まさに、「24 その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、25 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。26 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。」である。このことに注意を向けなければいけない。
- 苦難のときをどのように生きれば良いのだろうか。
- 人の子が来ることを通して、なにを教えているのだろうか。

4.80 13:28-32 いちじくの木教え

28 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。29 そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。31 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

4.80.1 マタイ 24:32-35

32 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。33 そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。34 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。35 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。

4.80.2 ルカ 21:29-33

29 それから一つの譬を話された、「いちじくの木を、またすべての木を見なさい。30 はや芽を出せば、あなたがたはそれを見て、夏がすでに近いと、自分で気づくのである。31 このようにあなたがたも、これらの事が起るのを見たなら、神の国が近いのだとさとりなさい。32 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。33 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は決して滅びることがない。

[マルコによる福音書 13 章 28-32 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 13 章 28-32,33-37 節福音書対照表](#)

4.81 13:33-37 目を覚ましていなさい

33 気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。34 それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。35 だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。36 あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。37 目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである」。

4.81.1 マタイ 24:36-44

36 その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。37 人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。38 すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。39 そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。40 そのとき、ふたりの者が畑にいと、ひとりを取り去られ、ひとりは取り残されるであろう。41 ふたりの女がうすをひいていると、ひとりを取り去られ、ひとりが残されるであろう。42 だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。43 このことをわきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさまして、自分の家に押し入ることを許さないであろう。44 だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。

4.81.2 (参考) ルカ 21:34-38

34 あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい。35 その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。36 これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」。37 イエスは昼のあいだは宮で教え、夜には出て行ってオリブという山で夜をすごしておられた。38 民衆はみな、み教えを聞こうとして、いつも朝早く宮に行き、イエスのもとに集まった。

[マルコによる福音書 13 章 33-37 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 13 章 28-32,33-37 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 13 章 33-37 節福音書対照表 + 参考](#)

[マルコによる福音書 13 章 28-32,33-37 節福音書対照表 + 参考](#)

4.81.3 問い

1. この章の弟子たちとイエスとの問答を確認しましょう。(1-13)
2. いちじくの木からなにを学ぶように命じていますか。(28,29)
3. 「これらの事」は、何を意味しているのでしょうか。(29)
4. 「その日」について、何を伝えていますか。(30-32)

5. イエスはどのように命じていますか。(33-37)

6. 弟子たちの「いつ」と「前兆」についての問い(4)に、イエスはどのように答えていますか。

4.81.4 参照

- ルカには、このあと「目を覚ましていなさい」(21:34-37)
- このあとマタイは、充実な僕と悪い僕(マタイ 24:45-51、参照：ルカ 12:41-48)
- いちじく(無花果、映日果、一熟、学名：Ficus carica)
 - 果樹として世界中で広く栽培されている。小さな花が多数入った花囊をつけ、雌雄異株で、雌株の花囊が果囊になる。これがいわゆるイチジクの果実とよばれており、古くから食用にされている。「南蛮柿」などの別名もある。
 - 「無花果」の字は、花を咲かせずに実をつけるように見えることに由来する
 - 完熟いちじくを育てる [[リンク](#)]
 - * 原産地：西アジア・アラビア南部
 - * まるで野菜感覚で栽培できる、手っ取り早い果樹の代表格
 - * 栽培は非常に簡単
 - * イチジクの実はデリケートで完熟果は流通が難しいため、正真正銘の樹上完熟果を味わえるのは家庭園芸ならではの
 - * 無農薬で植え付け2年目から収穫できるという栽培カンタンな果樹
 - * イチジクの果実には、丈夫な歯や骨を作るミネラルであるカルシウムが、200g中、生果で52mg、乾果では260mg含まれています。また、カルシウムと併せて摂取すると吸収率が高くなるというマグネシウムも28mgと多く含まれており、カルシウム不足が気になる人にもおすすめです。また、水溶性の食物繊維も豊富に含まれているので、腸の運動を活発にして働きを整えてくれるともいわれます。生食はもちろん、甘露煮やジュース、ジャムにしたり、また、ドライフルーツは栄養成分や旨みもぎゅっと凝縮され、青果の不足する時期の栄養源としても重宝します。
 - 創世記 3:7 すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。
 - 民数記 13:23 ついに彼らはエシコルの谷に行って、そこで一ふさのぶどうの枝を切り取り、これを棒をもって、ふたりでかつぎ、また、ざくろといちじくをも取った。
 - 民数記 20:5 どうしてあなたがたはわれわれをエジプトから上らせて、この悪い所に導き入れたのですか。ここには種をまく所もなく、いちじくもなく、ぶどうもなく、ざくろもなく、また飲む水もありません」。
 - 士師記 9:10,11 もろもろの木はまたいちじくの木に言った、『きてわたしたちの王になってください』。11 しかしいちじくの木は彼らに言った、『わたしはどうしてわたしの甘味と、わたしの良い果実とを捨てて行って、もろもろの木を治めることができましょう』。
 - サムエル記上 25:18 その時、アビガイルは急いでパン二百、ぶどう酒の皮袋二つ、調理した羊五頭、いり麦五セア、ほしぶどう百ふさ、ほしいちじくのかたまり二百を取って、ろばにのせ、

- サムエル記上 30:12 また彼らはほしいちじくのかたまり一つと、ほしぶどう二ふさを彼に与えた。彼は食べて元気を回復した。彼は三日三夜、パンを食べず、水を飲んでいなかったからである。
- 列王紀上 4:25 ソロモンの一生の間、ユダとイスラエルはダンからベエルシバに至るまで、安らかにのおの自分たちのぶどうの木の下と、いちじくの木の下に住んだ。
- 列王紀上 10:27 王はエルサレムで、銀を石のように用い、香柏を平地にあるいちじく桑のように多く用いた。
- 列王紀下 18:31 あなたがたはヒゼキヤの言葉を聞いてはならない。アッシリヤの王はこう仰せられる、『あなたがたはわたしと和解して、わたしに降服せよ。そうすればあなたがたはおの自分のぶどうの実を食べ、おの自分のいちじくの実を食べ、おの自分の井戸の水を飲むことができるであろう。
- 列王紀下 20:7 そしてイザヤは言った、「干しいちじくのひとかたまりを持ってきて、それを腫物につけさせなさい。そうすれば直るでしょう」。
- マルコ 11:13 そして、葉の茂ったいちじくの木を遠くからごらんになって、その木に何かありはしないかと近寄られたが、葉のほかは何も見当らなかった。いちじくの季節でなかったからである。
- マルコ 11:20,21 朝はやく道をとおっていると、彼らは先のいちじくが根元から枯れているのを見た。21 そこで、ペテロは思い出してイエスに言った、「先生、ごらんなさい。あなたがのろわれたいちじくが、枯れています」。
- マルコ 13:28 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。
- マタイ 7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。
- ルカ 13:6,7 それから、この譬を語られた、「ある人が自分のぶどう園にいちじくの木を植えて置いたので、実を捜しにきたが見つからなかった。7 そこで園丁に言った、『わたしは三年間も実を求めて、このいちじくの木のところに来たのだが、いまだに見あたらない。その木を切り倒してしまえ。なんのために、土地をむだにふさがせて置くのか』。
- ルカ 19:4 それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。
- ヨハネ 1:48-50 ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。49 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見た、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。
- 主の日・終わりの日
 - 1 テサロニケ 5:1-3 兄弟たちよ。その時期と場合については、書きおくる必要はない。2 あなたがた自身がよく知っているとおり、主の日は盗人が夜くるように来る。3 人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみか臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。
 - 2 テサロニケ 2:1-2 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの来臨と、わたしたちがみも

- とに集められることについて、あなたがたにお願いすることがある。2 霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけない。
- 2 ペテロ 3:4 「主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない」と言うであろう。
 - ピリピ 4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。
 - 1 ペテロ 4:7 万物の終りが近づいている。だから、心を確認にし、身を慎んで、努めて祈りなさい。

4.81.5 記録

- 日時：2024 年 12 月 12 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）0 名

4.81.6 問いについて

1. この章の弟子たちとイエスとの問答を確認しましょう。(1-13)

- 1 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子のひとりが言った、「先生、ごらんください。なんという見事な石、なんという立派な建物でしょう」。2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないまま、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。
- 美しい神殿に注意を促した弟子に、イエスは、神殿の崩壊を示唆する。これに対して、四人の弟子たちが、「いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」と質問し、それに、イエスが、いろいろとたいへんなことが起るが、それは起こらなければならないが、最後ではない。惑わされず、注意していなさいと、答えている。
- 神殿が崩壊するような大変なこと、そして、世の終わり、再臨などは、いつなのか。どんな予兆があるかと弟子たちはイエスに質問し、イエスは、そのときまでに起こるさまざまなことについてと、気をつけるべきことを教えた。

2. いちじくの木からなにを学ぶように命じていますか。(28,29)

- 28 いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。29 そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいてると知りなさい。29 , , .
- [DQ] いちじくの木について、どのようなことが書かれていますか。

- [A] その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。
- [DQ] いちじくの木となにが対比されていますか。
 - [A] いちじくの木におこることと季節が、人の子が戸口まで近づいている。
- [DQ] 「人の子が戸口まで近づいている」とはどのようなことでしょうか。
 - 24 その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、25 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。26 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。27 そのとき、彼は御使たちをつかわして、地のはてから天のはてまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。
 - この「その日」のことを指しているのだろうか。
 - 原文には「人の子」はない。 (それが扉(たち：複数)に近いことを知りなさい。)
 - マルコ 1:14,15 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。
 - * 神の国は近づいたということだろうか。
- [DQ] 結局、世の終わり(や、人の子の来臨のとき)は、わかるのでしょうか。
 - [A] 「近いこと」は、わかる。「知りなさい」と言っているということは、知ることができる。どんなことから、なにを知ることができるのでしょうか。
 - * 終わりや、再臨を想定はしているのだろう。ただ、近いというだけであれば、最初のイエスの宣教メッセージと変わらないとも言える。すべてが一瞬にして素晴らしい状態になると期待することについては、戒めている。

3. 「これらの事」は、何を意味しているのでしょうか。(29)

- 29 そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。
 - 「その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。」に対応している。
- 神殿崩壊(2) キリストの苦難と復活 終わりの時(31)
- [A] たくさんのことが描いてあるように見える。
- [A] ある程度「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。(4) と対応しているが、エルサレム陥落以上のことが語られている。

4. 「その日」について、何を伝えていますか。(30-32)

- 30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。31 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。
- [DQ] 「その日」とは、どのような時のことですか。
 - [A] 直接的には、「24 その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、25 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。26 そのとき、大いなる力と栄光とをもって

て、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。27 そのとき、彼は御使たちをつかわして、地のはてから天のはてまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。」を指すと思われるが、最初の問の、「そんなことが起る」(4) ときが、意識されているのかもしれない。

- [DQ] 「31 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。」は何を伝えていますか。
 - － [Q] わたしの言葉は、どれだろうか。一般的にイエスのことばだろうか。それとも、「これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。」も含んでいるだろうか。
 - － [A] すくなくとも、終わりの日まで有効だと主張しているように見える。すると、そう簡単には終わりの日は、来ない。
 - － [榊原康夫] イエスの預言したことが起こることは移ろいやすいこの時代(世代)が過ぎ去るよりもやすく、イエスの言葉が過ぎ去ることは不動の天地が過ぎ去るよりも難しい。

5. イエスはどのように命じていますか。(33-37)

- 33 気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。34 それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。35 だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。36 あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。37 目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである」。
- [DQ] 「気をつけて、目をさましていなさい。」は、わたしたちに、なにを命じているのでしょうか。
- [注] 夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か 四交代制だった、ローマの夜景の時間区分
- [参照] 1 テサロニケ 5:1-3 兄弟たちよ。その時期と場合とについては、書きおくる必要はない。2 あなたがた自身がよく知っているとおり、主の日は盗人が夜くるとやってくる。3 人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみか臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。
- [参照] 2 テサロニケ 2:1-2 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの来臨と、わたしたちがみもとに集められることとについて、あなたがたにお願いすることがある。2 霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけません。
- マタイとルカではどのように描かれていますか。
 - － [参照] マタイ 24:36-44 36 その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。37 人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。38 すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつ

ぎなどしていた。39 そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。40 そのとき、ふたりの者が畑にいと、ひとりを取り去られ、ひとりに残されるであろう。41 ふたりの女がうすをひいていると、ひとりを取り去られ、ひとりに残されるであろう。42 だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。43 このことをわきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさまして、自分の家に押し入ることを許さないであろう。44 だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。

* 「ノアの時と同じ」とありますが、どのように同じなのでしょう。

* ノアの時代の人たちは何を知らされており、何を理解していなかったのでしょうか。

- － [参照] ルカ 21: 34 あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい。35 その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。36 これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」。

6. 弟子たちの「いつ」と「前兆」についての問い（4）に、イエスはどのように答えていますか。

- 3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。4 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。
- [DQ] 結局、どのような前兆がおこるのでしょうか。いつかはわかるのでしょうか。
- [DQ] イエスは、明確には、こんなことがおこっても「まだまだ」というだけで、「いつ」かについて答えていないように見えますが、それはなぜでしょうか。
- － [A] イエスに従って、神の御心を生きようとする、夜警として、忠実な僕として、気をつけて、生きることを勧めている。エルサレムやローマを絶対化するのではなく、住む場所に関わらず、たとえ、戦争や、地震や、飢饉や、迫害がおこるなど、世も終わりだと見えることが起こったとしても、御心をもとめ、従って生きることを勧めているのだろう。

4.81.7 メモ

- 共観福音書の差異：マルコとマタイでは「人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」としているが、ルカでは、「神の国が近いのだとさとりなさい。」としている。しかし、「30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。」は、三つの福音書とも共通している。マルコと、マタイには「その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、た

だ父だけが知っておられる。」があるが、ルカにはそれはない。しかし、「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。」は、三つの福音書とも共通である。「目を覚ましていなさい」の部分は、マルコと、マタイのみで、ルカには欠けている。マルコでは、「気をつけて、目をさましていなさい。」が強調され二度繰り返されているが、マタイでは、「ノアの時」のことの描写や、「盗賊」に対する備えなどを加えて、より具体的になっている。ルカでは、並行箇所は、ないが、関連する段落が続いている。

- その日、その時は、重要とされてきた。旧約・新約の最後は次のことばになっている。
 - － マラキ 4:5,6 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。6 彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」。
 - － ヨハネの黙示録 22:20,21 これらのことをあかしするかたが仰せになる、「しかり、わたしはすぐに来る」。アメン、主イエスよ、きたりませ。21 主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。
 - － 使徒信条：かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん
 - － ICU 教会
 - * われらは全能の父なる神とその子イエス・キリストを信ずる。われらはイエス・キリストに現れた神の啓示をうけいれ、キリストの教えた生活態度や人生の目的は人類のための神の経綸示すものであると信ずる。われらは聖書をとおして働き、また神につける人々の経験を介して示される聖霊の導きを信ずる。われらはイエス・キリストの宣べた神の国こそ神意による人類と世界とのまことの姿であると信ずる。われらはイエス・キリストに従う者の霊の交わりを信じ、神の国を全世界にひろめすすめる責任のあることを信ずる。（この信仰宣言は 1954 年年本教会設立立立の際、慎重審議の結果採用されたもので、創立立立当時の会員の確信の中核をあらわしている。）

4.82 14:1-2 イエスを殺す計略

1 さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。2 彼らは、「祭の間はいけない。民衆が騒ぎを起すかも知れない」と言っていた。

4.82.1 マタイ 26:1-5

1 イエスはこれらの言葉をすべて語り終えてから、弟子たちに言われた。2 「あなたがたが知っているとおり、ふつかの後には過越の祭になるが、人の子は十字架につけられるために引き渡される」。3 そのとき、祭司長たちや民の長老たちが、カヤパという大祭司の中庭に集まり、4 策略をもってイエスを捕えて殺そうと相談した。5 しかし彼らは言った、「祭の間はいけない。民衆の中に騒ぎが起るかも知れない」。

4.82.2 ルカ 22:1-2

1 さて、過越といわれている除酵祭が近づいた。2 祭司長たちや律法学者たちは、どうかしてイエスを殺そうと計っていた。民衆を恐れていたからである。

4.82.3 ヨハネ 11:45-53

45 マリヤのところにきて、イエスのなさったことを見た多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。46 しかし、そのうちの数人がパリサイ人たちのところに行って、イエスのされたことを告げた。47 そこで、祭司長たちとパリサイ人たちとは、議会を召集して言った、「この人が多くのしるしを行っているのに、お互は何をしているのだ。48 もしこのままにしておけば、みんなが彼を信じるようになるだろう。そのうえ、ローマ人がやってきて、わたしたちの土地も人民も奪ってしまうであろう」。49 彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った、「あなたがたは、何もわかっていないし、50 ひとりの人が人民に代って死んで、全国民が減びないようになるのがわたしたちにとって得だということを、考えてもいない」。51 このことは彼が自分から言ったのではない。彼はこの年の大祭司であったので、預言をして、イエスが国民のために、52 ただ国民のためだけではなく、また散在している神の子らを一つに集めるために、死ぬことになっていると、言ったのである。53 彼らはこの日からイエスを殺そうと相談した。

[マルコによる福音書 14 章 1-2 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 1-2,10-11 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9,10-11 節福音書対照表](#)

4.83 14:3-9 ベタニアで香油を注がれる

3 イエスがベタニアで、重い皮膚病の人シモンの家にて、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。4 すると、ある人々が憤って互に言った、「なんのために香油をこんなにむだにするのか。5 この香油を三百デナリ以上にでも売って、貧しい人たちに施すことができたのに」。そして女をきびしくとがめた。6 するとイエスは言われた、「するままにさせておきなさい。なぜ女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。7 貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときにはいつでも、よい事をしてやれる。しかし、わたしはあなたがたといつも一緒にいるわけではない。8 この女はできる限りの事をしたのだ。すなわち、わたしのからだに油を注いで、あらかじめ葬りの用意をしてくれたのである。9 よく聞きなさい。全世界のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」。

4.83.1 マタイ 26:6-13

6 さて、イエスがベタニヤで、重い皮膚病の人シモンのおられたとき、7 ひとりの女が、高価な香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、イエスに近寄り、食事の席についておられたイエスの頭に香油を注ぎかけた。8 すると、弟子たちはこれを見て憤って言った、「なんのためにこんなむだ使をするのか。9 それを高く売って、貧しい人たちに施すことができたのに」。10 イエスはそれを聞いて彼らに言われた、「なぜ、女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。11 貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない。12 この女がわたしのからだにこの香油を注いだのは、わたしの葬りの用意をするためである。13 よく聞きなさい。全世界のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」。

4.83.2 ヨハネ 12:1-8

1 過越の祭の六日まえに、イエスはベタニヤに行かれた。そこは、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロのいた所である。2 イエスのためにそこで夕食の用意がされ、マルタは給仕をしていた。イエスと一緒に食卓についていた者のうちに、ラザロも加わっていた。3 その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。4 弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、5 「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。6 彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をどこまかしていたからであった。7 イエスは言われた、「この女のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだから。8 貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。

4.83.3 (参考) ルカ 7:36-50

36 あるパリサイ人がイエスに、食事を共にしたいと申し出たので、そのパリサイ人の家にはいって食卓に着かれた。37 するとそのとき、その町で罪の女であったものが、パリサイ人の家で食卓に着いておられることを聞いて、香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、38 泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。39 イエスを招いたパリサイ人がそれを見て、心の中で言った、「もしこの人が預言者であるなら、自分にさわっている女がだれだか、どんな女かわかるはずだ。それは罪の女なのだから」。40 そこでイエスは彼にむかって言われた、「シモン、あなたに言うことがある」。彼は「先生、おっしゃってください」と言った。41 イエスが言われた、「ある金貸しに金をかりた人がふたりいたが、ひとりには五百デナリ、もうひとりには五十デナリを借りていた。42 ところが、返すことができなかったのも、彼はふたり共ゆるしてやった。このふたりのうちで、どちらが彼を多く愛するだろうか」。43 シモンが答えて言った、「多く

ゆるしてもらったほうだと思います」。イエスが言われた、「あなたの判断は正しい」。44 それから女の方に振り向いて、シモンに言われた、「この女を見ないか。わたしがあなたの家にはいつてきた時に、あなたは足を洗う水をくれなかった。ところが、この女は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でふいてくれた。45 あなたはわたしに接吻をしてくれなかったが、彼女はわたしが家にはいつた時から、わたしの足に接吻をしてやまなかった。46 あなたはわたしの頭に油を塗ってくれなかったが、彼女はわたしの足に香油を塗ってくれた。47 それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」。48 そして女に、「あなたの罪はゆるされた」と言われた。49 すると同席の者たちが心の中で言いはじめた、「罪をゆるすことさえするこの人は、いったい、何者だろう」。50 しかし、イエスは女にむかって言われた、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。

[マルコによる福音書 14 章 3-9 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9,10-11 節福音書対照表](#)

4.83.4 問い

1. 1-11 節のできごとをまとめてみましょう。イエスに対してどのような態度の人が登場しますか。
2. 女の人は、どこで、どのようなことをしますか。(3)
3. 女の人に対して、どのような人が、どのような対応をしますか。それは、なぜですか。(4,5)
4. イエスは、どのように、言われますか。(6-9)
5. 他の福音書からは、さらにどのようなことがわかりますか。
6. あなたは、この女の人の行為、人々の対応、イエスのことばについてどう思いますか。

4.83.5 参照

- 過越と除酵との祭の二日前（マタイ 26:2 過越の祭、ルカ 22:1 過越といわれている除酵祭）
 - － 過越の祭：ニサンの月の十四日（4 月 14 日頃）、大祭で安息日のような日
 - * ペンテコステ、仮庵の祭とともに三大祭。これらには、ユダヤの成年男子でエルサレムから 24 キロ以内に居住するものは、参加する義務があった。
 - * 意義 1：出エジプト 12 章、エジプトでの奴隷身分からの解放。子羊の血を入口のかもいに塗ってある家以外の長子は死の天使によって殺された。種入れぬパンをたべて祝った。

- * 意義2：農業的意義、大麦の取り入れのしるし（レビ 23:10-11）
- * 巡礼者のエルサレム、ベタニヤとベテパゲでの宿泊は無料
- * ヨセフスの記録、AD65 256500 頭の子羊が殺された、一頭 10 人が最小単位であったので、300 万人の巡礼者と推定されている。
- － 除酵の祭：過越の祭に続く七日間。小祭で、その期間中に新しい働きは始められなかったが「大衆の利益のために必要なもの、個人の損失を防ぐ働き」は許された。
- － 実際には、二つの祭りは明確に区別するものではあるが、ヨセフスにも「われわれは種入れぬパンの祭りと呼ばれる八日間の祭りを守る」（ユダヤ古代史 II.15.1）との記述もあり、ひとまとめに言われることもあった。
- 祭司長たち：大祭司（ ）の複数形（ ）、chief priest, high priest
 - － 旧約聖書では世襲終身職だが、ヘロデ時代は引退も他家への移動もある。ボエトスの子エレアザル（BC4-3）、セツの子イエス（BC3-6）、ボエトスの子ヨアザル（6）、セツの子アンナス（6-15）、バビの子イシマエル（15-16）、アンナスの子エレアザル（16-17）、カミの子シメオン（17-18）、アンナスの養子ヨセフ・カヤパ（18-36）
- ルカ 7:36-50 にも似た記述があるが、どう考えたら良いか。
 - － たとえがあり、その実例のようなものとして書かれている。
 - － 場面もことなり、別のことを記述しているのだろう。
- 食事の姿勢：右の手で食物を取れるように、左の肘で長椅子に寄りかかって横になった。
- ナルド油
 - － インドから来た珍しい植物で作られ、客人が家に到着したとき、あるいは食事の席についたとき、その人に数滴の香油をかける習慣があった。
 - － 割ることですべてを使い切ることを意味していると思われる。
- [Q to Gemini-1.0-Pro] ナルド（ ）について教えてください。
 - － [Gemini-1.0-Pro]
 - － スタクテスについてスタクテスは、古代ギリシャ語で「 」と書かれ、特定の種類のナルドを指します。ナルドは、インド原産の常緑低木から抽出された、非常に珍重されていた芳香性樹脂です。
 - － 特徴:

香り: スタクテスは、甘く、温かく、ウッディな香りが特徴です。色: 濃い黄色から茶褐色です。粘稠度: 粘稠度の高い液体です。用途: スタクテスは、古代世界では、香水、軟膏、薬として広く使用され

ていました。また、宗教的な儀式や埋葬にも使われていました。歴史:

スタクテスは、古代エジプト、ギリシャ、ローマで高く評価されていました。聖書にも登場し、ヨハネによる福音書 12:3 では、マリヤがイエスの足にスタクテスを塗ったことが記されています。

– 現代での使用:

今日でも、スタクテスは、香水、アロマセラピー、伝統的な医学で使用されています。また、高級な香料として珍重されています。

– その他の情報:

スタクテスは、インド、ネパール、ブータンで栽培されています。スタクテスの抽出には、水蒸気蒸留法が使用されます。スタクテスの精油は、非常に濃縮されているため、希釈して使用する必要があります。参考資料:

– Wikipedia: [Nard](#) (植物) [Spikenard](#) (香料)

– 追加情報:

スタクテスは、鎮静、抗炎症、抗菌などの薬効があるとされています。スタクテスは、不安、不眠症、頭痛などの症状を緩和するのに役立つと言われています。

● 香油の量 (1 リトラ = 327.5g)

– [Gemini-1.0-Pro] 香油の量

– ヨハネによる福音書 12:3 は次のように述べています。

「すると、マリヤは、約一リトラの本物のナルド、高価な香油を取り、イエスの足に注ぎ、自分の髪の毛でその足を拭いた。家は香油の香りに満たされた。」

元のギリシャ語のテキストでは、「[λίτρον](#)」(リトラ)という単語が使われており、これは約 12 オンスまたは 340 グラムに相当する重量単位です。しかし、英語の翻訳である「pint」(パイント)は体積の単位であり、測定する液体によって異なる場合があります。

したがって、マリヤが使用した香油の正確な量を判断するのは難しいです。しかし、香油の高価さと家がその香りで満たされたことを考えると、かなりの量であったと推定できます。

マリヤが使用した香油についての追加情報は次のとおりです。

香油の種類: ギリシャ語の「[στάχτις](#)」(スタクテス)は、その香りや薬効で高く評価されていた特定の種類のナルドを指します。香油の価値: マルコによる福音書 14:5 は、ナルドの価値が 300 デナリであったと述べており、これは労働者にとって 1 年分の賃金に相当します。行為の意義: マリヤが香油でイエスを塗った行為は、彼への献身と愛の象徴的なジェスチャーでした。また、ナルドは死者の体に塗るために使用されたため、彼の死と埋葬も予兆していました。

- 1 デナリ：労働者1日分の賃金

- 貧しい人

－ 申命記 15:7-11 あなたの神、主が賜わる地で、もしあなたの兄弟で貧しい者がひとりでも、町の内におるならば、その貧しい兄弟にむかって、心をかたくなにしてはならない。また手を閉じてはならない。8 必ず彼に手を開いて、その必要とする物を貸し与え、乏しいのを補わなければならない。9 あなたは心に邪念を起し、『第七年のゆるしの年が近づいた』と言って、貧しい兄弟に対し、物を惜しんで、何も与えないことのないように慎まなければならない。その人があなたを主に訴えるならば、あなたは罪を得るであろう。10 あなたは心から彼に与えなければならない。彼に与える時は惜しんではならない。あなたの神、主はこの事のために、あなたをすべての事業と、手のすべての働きにおいて祝福されるからである。11 貧しい者はいつまでも国のうちに絶えることがないから、わたしは命じて言う、『あなたは必ず国のうちにいるあなたの兄弟の乏しい者と、貧しい者にと、手を開かなければならない』。

- よい事： beautiful, handsome, excellent, eminent, choice, surpassing, precious, useful, suitable, commendable, admirable 生き生きとした美しいこと、 は、道徳的に善なること。

－ 6 . . ; . 7 , .

－ ここでのよい事は、愛と通じるものであろうか。それとも、美しいというところに、焦点があるのだろうか。

- ヨハネによる福音書直前の記事 11:17-45

－ 17 さて、イエスが行ってごらんになると、ラザロはすでに四日間も墓の中に置かれていた。18 ベタニヤはエルサレムに近く、二十五丁ばかり離れたところにあった。19 大ぜいのユダヤ人が、その兄弟のことで、マルタとマリヤとを慰めようとしてきていた。20 マルタはイエスがこられたと聞いて、出迎えに行ったが、マリヤは家ですわっていた。21 マルタはイエスに言った、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。22 しかし、あなたがどんなことをお願いになっても、神はかなえて下さることを、わたしは今でも存じています」。23 イエスはマルタに言われた、「あなたの兄弟はよみがえるであろう」。24 マルタは言った、「終りの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています」。25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。26 また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。27 マルタはイエスに言った、「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております」。28 マルタはこう言ってから、帰って姉妹のマリヤを呼び、「先生がおいでになって、あなたを呼んでおられます」と小声で言った。29 これを聞いたマリヤはすぐに立ち上がって、イエスのもとに行った。30 イエスはまだ村に、はいてこられず、マルタがお迎えしたその場所におられた。31 マリヤと一緒に家において彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、彼女は墓に泣きに行くのである

うと思い、そのあとからついて行った。32 マリヤは、イエスのおられる所に行ってお目にかかり、その足もとにひれ伏して言った、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」。33 イエスは、彼女が泣き、また、彼女と一緒にきたユダヤ人たちも泣いているのをごらんになり、激しく感動し、また心を騒がせ、そして言われた、34 「彼をどこに置いたのか」。彼らはイエスに言った、「主よ、きて、ごらん下さい」。35 イエスは涙を流された。36 するとユダヤ人たちは言った、「ああ、なんと彼を愛しておられたことか」。37 しかし、彼らのある人たちは言った、「あの盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようには、できなかったのか」。38 イエスはまた激しく感動して、墓にはいられた。それは洞穴であって、そこに石がはめてあった。39 イエスは言われた、「石を取りのけなさい」。死んだラザロの姉妹マルタが言った、「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから」。40 イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか」。41 人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた、「父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。42 あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります」。43 こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。44 すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、「彼をほどこいてやって、帰らせなさい」。45 マリヤのところにきて、イエスのなさったことを見た多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。

4.83.6 記録

- 日時：2025 年 1 月 9 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）1 名

4.83.7 問いについて

- 1-11 節のできごとをまとめてみましょう。イエスに対してどのような態度の人が登場しますか。
 - 1 さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。2 彼らは、「祭の間はいけない。民衆が騒ぎを起すかも知れない」と言っていた。
 - [DQ] いつのことだと書かれていますか。
 - － [A] 過越と除酵との祭の二日前（マタイ 26:2 過越の祭、ルカ 22:1 過越といわれている除酵祭）
 - 過越と除酵との祭の二日前、策略をもってイエスを捕らえ殺そうとしている民の指導者たち、そして、この女、さらに、イスカリオテのユダ
2. 女の人は、どこで、どのようなことをしますか。(3)

- 3 イエスがベタニヤで、重い皮膚病の人シモンの家において、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。
 - [DQ] 場所
 - [A] ベタニヤの重い皮膚病の人シモンの家の食卓
 - [Q] 当時はどうのようにして食事をしていましたか。
 - * [A] 右の手で食物を取れるように、左の肘で長椅子に寄りかかって横になってたべていた。
 - [DQ] 行為
 - [A] 非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼをこわし、イエスの頭に注ぎかける。
 - [Q] なぜ、つぼをこわしたのでしょうか。
 - * [A] 残しておくことを考えてない。
 - * [A] イエスにのみささげる。
 - [DQ] この行為は、イエスには迷惑ではなかったのでしょうか。
 - 量は書かれていないが、ヨハネによると、一斤 (600g, 1 pound = 450g) おそらく、0.5 リットルより少ない量
 - [DQ] この女の人は、なぜ、このようなことをしたのでしょうか。
4. 女の人に対して、どのような人が、どのような対応をしますか。それは、なぜですか。(4,5)
- 4 すると、ある人々が憤って互に言った、「なんのために香油をこんなにむだにするのか。5 この香油を三百デナリ以上にでも売って、貧しい人たちに施すことができたのに」。そして女をきびしくとがめた。
 - [DQ] だれが、咎めていますか。
 - [A] 「ある人々」(マタイ「弟子たち」、ヨハネ「イスカリオテのユダ」)
 - [DQ] どのように咎めていますか。
 - [A] 「貧しい人たちに施すべきだ」
 - [A] 「売れば、三百デナリ以上になる」勿体(もったい)ない。
 - [DQ] なぜ、そのようなことをいって、この女のひとを咎めるのでしょうか。
 - [A] この女の人の行為を、値踏みしている。他の行為と取り替え可能だと考えている。
4. イエスは、どのように、言われますか。(6-9)
- 6 するとイエスは言われた、「するままにさせておきなさい。なぜ女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。7 貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときにはいつでも、よい事をしてやれる。しかし、わたしはあなたがたといつも一緒にいるわけではない。8 この女はできる限りの事をしたのだ。すなわち、わたしのからだに油を注いで、あらかじめ葬りの用意をしてくれたのである。9 よく聞きなさい。全世界のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」。
 - [DQ] イエスは、まずどのように言われますか。(6,7)

- － イエスは、あきらかにこの女性をかばっている。
- － するままだにさせておきなさい。なぜ女を困らせるのか。わたしによい事をしてくれたのだ。一人の兄弟・姉妹が自ら良しと定めたことについて、とやかく批判して、彼女を「困らせる」べきではない。
- － 貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときにはいつでも、よい事をしてやれる。しかし、わたしはあなたがたといつも一緒にいるわけではない。
- [DQ] イエスは、この女のひとは自分にどのようなことをしてくれたと言っていますか。
 - － よい事をしてくれた。
 - － できる限りの事をした
 - － わたしのからだに油を注いで、あらかじめ葬りの用意をしてくれた
- [DQ] 記念として語られると言っていますが、なぜ、名前を出さないのでしょうか。
 - － [A] マルコが書かれた時点では、この女は生きていて、危険に晒されないように、名前を出さなかったのでは。

5. 他の福音書からは、さらにどのようなことがわかりますか。

- マタイ 26:6-13
- ヨハネ 12:1-8：19-29, 1-18, 30, 31-42 の順が正しいとも言われる。
- 参考：ルカ 7:36-50 罪の赦しと愛のことが書かれている。

6. あなたは、この女の人の行為、人々の対応、イエスのことばについてどう思いますか。

- [DQ] この女の人は、なぜ、このようなことをしたのでしょうか。この女の人はどこまで理解してこの行為に至ったのでしょうか。
 - － [A] マルコでは不明としか言えない。
 - － [A] ヨハネでは、兄弟ラザロの復活の直後に位置付けられているので、その感謝もあったのでは。
 - － [A] ルカ 10:38-42 のマルタとマリアの話などからすると、マリアは、イエスの真意を受け取っていたのかもしれない。
- [DQ] この女のしたことは愛の行為なのでしょうか。

4.83.8 メモ

- 福音書の差異：ヨハネはかなり異なっている。油注ぎはヨハネでは、「過越の祭の六日まえ」（12:1）としている。おそらく、そちらが正しく、流れとして、マルコやマタイでは、油注ぎを、ここに置いているだろう。マタイでは、「イエスはこれらの言葉をすべて語り終えてから」とはじまる（7:28, 11:1, 13:53, 18:1, 26:1 にありこれによって、イエスの説教を五つに分けているととれる）十字架の死の予告をイエ

スがしている。「あなたがたが知っているとおりに、ふつかの後には過越の祭になるが、人の子は十字架につけられるために引き渡される」。

- 重い皮膚病のシモン：不明だが、ヨハネの記述をみると、ラザロや、マリアと近い存在であることもわかる。
- マリア：ヨハネによると香油を注いだのは、ベタニアのマリア、すなわち、マルタ、ラザロの兄弟のマリアである。マリアは、ルカ 10:38-41 にも登場するが、言葉を発するのは、一箇所のみで、「マリヤは、イエスのおられる所に行ってお目にかかり、その足もとにひれ伏して言った、『主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。』（ヨハネ 11:32) のみである。そして、このことばは、マルタが語った言葉と同じである。

人間関係に関してある特性をもった女性であった可能性もあるようにみえる。その女性の行動を、イエスは弁護し「よい（うつくしい）事」と言っておられるように見える。

- マルコ 12:42,43 との比較：
 - － 42 ところが、ひとりの貧しいやもめがきて、レブタ二つを入れた。それは一コドラントに当る。43 そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。」
- マリアのしたことは、無駄遣い、馬鹿な事だったのだろうか。そうかもしれない。しかし、イエス様は、それを弁護しておられる。その背後には、このマリアへの愛があったのではないだろうか。マリアの行動をみていると、ヨハネ 11 章、ルカ 10 章など、非常に限られてはいるが、静かに座り、そして、今回の大胆な行動をしている。ある障害特性をもっていたのかもしれないとさえ思う。しかし、そのことを、美しい事とイエスは評価され、困らせてはいけないといい、特別な歴史的できごとに変えておられる。驚きである。

4.84 14:10-11 ユダ、裏切りを企てる

10 ときに、十二弟子のひとりイスカリオテのユダは、イエスを祭司長たちに引きわたそうとして、彼らの所へ行った。11 彼らはこれを聞いて喜び、金を与えることを約束した。そこでユダは、どうかしてイエスを引きわたそうと、機会をねらっていた。

4.84.1 マタイ 26:14-16

14 時に、十二弟子のひとりイスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところに行き 15 言った、「彼をあなたがたに引き渡せば、いくらくださいますか」。すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。16 その時から、ユダはイエスを引きわたそうと、機会をねらっていた。

4.84.2 ルカ 22:3-6

3 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれていたユダに、サタンがはいった。4 すなわち、彼は祭司長たちや宮守がしらたちのところへ行って、どうしてイエスを彼らに渡そうかと、その方法について協議した。5 彼らは喜んで、ユダに金を与える取決めをした。6 ユダはそれを承諾した。そして、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、機会をねらっていた。

マルコによる福音書 14 章 10-11 節福音書対照表

マルコによる福音書 14 章 1-2,10-11 節福音書対照表

マルコによる福音書 14 章 1-2,3-9,10-11 節福音書対照表

(マルコ 14:1-2, 10-11 を中心に)

4.84.3 問い

1. 1-11 節のできごとを復習しましょう。
2. いつ、どのような人たちが、どのようなことを計画しますか。(1)
3. なぜ、祭りの間に計画を実行することを避けたのでしょうか。(2)
4. ユダは、どのような人で、どのようなことをしますか。(10)
5. ユダは、なぜこのような決断をしたのだと思いますか。(11 その他)
6. それぞれのひとたちは、イエスについてどのように考えていたのでしょうか。

4.84.4 参照

- マルコ 14:1-2 1 さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。2 彼らは、「祭の間はいけない。民衆が騒ぎを起すかも知れない」と言っていた。

— 1 . . . 2 . . .
, . . .

— 1 After two days was the feast of the passover, and of unleavened bread: and the chief priests and the scribes sought how they might take him by craft, and put him to death. 2 But they said, Not on the feast day, lest there be an uproar of the people.

- 過越と除酵との祭の二日前 (マタイ 26:2 過越の祭、ルカ 22:1 過越といわれている除酵祭)
 - 過越の祭：ニサンの月の十四日 (4 月 14 日頃)、大祭で安息日のような日

- * ペンテコステ、仮庵の祭とともに三大祭。これらには、ユダヤの成年男子でエルサレムから 24 キロ以内に居住するものは、参加する義務があった。
 - * 意義 1：出エジプト 12 章、エジプトでの奴隷身分からの解放。子羊の血を入口のかもいに塗ってある家以外の長子は死の天使によって殺された。種入れぬパンをたべて祝った。
 - * 意義 2：農業的意義、大麦の取り入れのしるし（レビ 23:10-11）
 - * 巡礼者のエルサレム、ベタニヤとベテパゲでの宿泊は無料
 - * ヨセフスの記録、AD65 256500 頭の子羊が殺された、一頭 10 人が最小単位であったので、300 万人の巡礼者と推定されている。
- － 除酵の祭：過越の祭に続く七日間。小祭で、その期間中に新しい働きは始められなかったが「大衆の利益のために必要なもの、個人の損失を防ぐ働き」は許された。
 - － 実際には、二つの祭りは明確に区別するものではあるが、ヨセフスにも「われわれは種入れぬパンの祭りと呼ばれる八日間の祭りを守る」（ユダヤ古代史 II.15.1）との記述もあり、ひとまとめに言われることもあった。
 - － 出エジプト 23 章 14-17 節 14 あなたは年に三度、わたしのために祭を行わなければならない。15 あなたは種入れぬパンの祭を守らなければならない。わたしが、あなたに命じたように、アビブの月の定めの際に七日のあいだ、種入れぬパンを食べなければならない。それはその月にあなたがエジプトから出たからである。だれも、むなし手でわたしの前に出てはならない。16 また、あなたが畑にまいて獲た物の勤労の初穂をささげる刈入れの祭と、あなたの勤労の実を畑から取り入れる年の終りに、取入れの祭を行わなければならない。17 男子はみな、年に三度、主なる神の前に出なければならない。
 - － 参照（ユダヤの祭りについて）：日本イスラエル親善協会 [[リンク](#)]・ミルトス（イスラエル・ユダヤ文化の出版社） [[リンク](#)]
- サタンの働き：
 - － ルカ 22:3 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれていたユダに、サタンがはいった。
 - － ヨハネ 13:27 27 この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。
 - ユダ：[\[十二弟子\]](#)
 - － イスカリオテのユダは、共観福音書すべての、十二弟子のリストに含まれ、それも、みな、最後に入れている。（マルコ 3:13-19、マタイ 10:1-4、ルカ 6:12-16、マルコとマタイは「イエスを裏切った」ルカは「後に裏切り者となった」参照：使徒言行録 1:13）
 - * マルコ 3:19a それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。（3:19 , (V-AAI-3S))

* マタイ 10:4 熱心党のシモンとイスカリオテのユダ。このユダはイエスを裏切った者である。(10:4 Σ K , (V-2AAP-NSM))

* ルカ 6:16b それからイスカリオテのユダ。このユダが裏切者となったのである。(6:16 , (a betrayer, traitor N-NSM))

- イスカリオテのユダについては、共感福音書では、十二弟子のリスト以外は、祭司長たちに引き渡すことを、相談に行った箇所、最後の晩餐、イエスの捕縛、ユダの死のみである。このうちマルコであり、最後の晩餐では、裏切るものがマルコであること特定されてはいない。また、ユダの死については、言及されていない。ヨハネにおいては、6章に裏切ることになったユダについての言及があり、マリヤが香油を注ぐ箇所での弟子の発言を、イスカリオテのユダと特定している。
 - ヨハネ 6:70-71 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとりとは悪魔である」。71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。
 - ヨハネ 12:3-6 3 その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。4 弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、5 「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。6 彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。7 イエスは言われた、「この女のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておいたのだから。8 貧しい人たちはいつもあなたがたと共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。
 - ヨハネ 13:26 イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。
 - ヨハネ 13:29 ある人々は、ユダが金入れをあずかっていたので、イエスが彼に、「祭のために必要なものを買い」と言われたか、あるいは、貧しい者に何か施させようとしたのだと思っていた。
- 弟子である（ユダ）の裏切りに関する旧約預言
 - 詩篇 41:9 わたしの信頼した親しい友、／わたしのパンを食べた親しい友さえも／わたしにそむいてくびすをあげた。
 - 詩篇 109:8 その日を少なくし、／その財産をほかの人にとらせ、
 - ゼカリヤ 11:12,13 わたしは彼らに向かって、「あなたがたがもし、よいと思うならば、わたしに賃銀を払いなさい。もし、いけなければやめなさい」と言ったので、彼らはわたしの賃銀として、銀三十シケルを量った。13 主はわたしに言われた、「彼らによって、わたしが値積られたその尊い価を、宮のさいせん箱に投げ入れよ」。わたしは銀三十シケルを取って、これを主の宮のさいせん箱に投げ入れた。

・ ユダはイエスの死を望んでいたか？

－（バークレイ）人々の心は、ユダがイエスの死を全然望んでいなかったであろうという考えに魅惑されて来た。ユダが狂信的な愛国者であり、彼がイエスのうちに、彼の夢である民族の力と栄光を実現させる最後の企ての一つとして、イエスに行動を強いるために、イエスを裏切ったのであろう。彼が当局者にイエスを引き渡したのは、そのことによって、今やイエスは、ご自身を救うためには、行動に出ざるを得ないようにさせられるだろう、そしてその行動は、彼が夢にしていた勝利的な作戦の始まりになるだろう、という考えからであった。そのユダの考えは、つぎの事実によって裏づけられるだろう。すなわち、彼は自分のしたことがわかったとき、出かけて行って、ユダの当局者の足元に、その非難される金を投げつけた。そして、外に出て行き、首を吊り、自殺したからである（マタイ 27:3-5）。もし、そうであるなら、ユダの悲劇は歴史上の最大の悲劇である。

＊ マタイ 27:1- 1 夜が明けると、祭司長たち、民の長老たち一同は、イエスを殺そうとして協議をこらした上、2 イエスを縛って引き出し、総督ピラトに渡した。3 そのとき、イエスを裏切ったユダは、イエスが罪に定められたのを見て後悔し、銀貨三十枚を祭司長、長老たちに返して 4 言った、「わたしは罪のない人の血を売するようなことをして、罪を犯しました」。しかし彼らは言った、「それは、われわれの知ったことか。自分で始末するがよい」。5 そこで、彼は銀貨を聖所に投げ込んで出て行き、首をつって死んだ。6 祭司長たちは、その銀貨を拾いあげて言った、「これは血の代価だから、宮の金庫に入れるのはよくない」。7 そこで彼らは協議の上、外国人の墓地にするために、その金で陶器師の畑を買った。8 そのために、この畑は今日まで血の畑と呼ばれている。

・ 使徒 1:15-22 15 そのころ、百二十名ばかりの人々が、一団となって集まっていたが、ペテロはこれらの兄弟たちの中に立って言った、16 「兄弟たちよ、イエスを捕えた者たちの手びきになったユダについては、聖霊がダビデの口をとおして預言したその言葉は、成就しなればならなかった。17 彼はわたしたちの仲間に加えられ、この務を授かっていた者であった。18 （彼は不義の報酬で、ある地所を手に入れたが、そこへまっさかさまに落ちて、腹がまん中から引き裂け、はらわたがみな流れ出てしまった。19 そして、この事はエルサレムの全住民に知れわたり、そこで、この地所が彼らの国語でアケルダマと呼ばれるようになった。「血の地所」との意である。）20 詩篇に、／『その屋敷は荒れ果てよ、／そこにはひとりも住む者がいなくなれ』／と書いてあり、また／『その職は、ほかの者に取らせよ』／とあるとおりである。21 そういうわけで、主イエスがわたしたちの間にゆききされた期間中、22 すなわち、ヨハネのバプテスマの時から始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日に至るまで、始終わたしたちと行動を共にした人たちのうち、だれかひとりが、わたしたちに加わって主の復活の証人にならねばならない」。

－ コリント前書 15:1-8 1 兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受けいれ、それによって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。2 もしあなたがたが、いたずらに信じて、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。3 わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであった。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、4 そして葬られた

こと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと、5 ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。6 そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多数はいまなお生存している。7 そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、8 そして最後に、いわば、月足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。

- マルコ 14:17-21 17 夕方になって、イエスは十二弟子と一緒にそこに行かれた。18 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。19 弟子たちは心配して、ひとりびとり「まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。20 イエスは言われた、「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、それである。21 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであらう」。
- 野心：シェークスピア『ヘンリー八世』の中でもウルジーのことは「クロムウェル。わたしはあなたに、野心を捨てよと勧める。その罪によって天使たちも墮落した。それなら、創造主の似姿である人は、野心によって勝てるだろうか。決しておのれを愛してはならない。」
- 銀貨：明確には書かれていないので不明だが、おそらく、デナリオン銀貨か、ドラクメ銀貨。それぞれについて、聖書協会共同訳から引用する。

- デナリオン銀貨：ローマの銀貨で、1 デナリオンは、1 ドラクメと等価（1 日の賃金にあたる）
- ドラクメ銀貨：ギリシャの銀貨で、重さ約 4.3g、デナリオンと等価

4.84.5 記録

- 日時：2024 年 1 月 16 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）0 名

4.84.6 問いについて

1. 1-11 節のできごとを復習しましょう。

- [DQ] いつのことですか。
 - 過越と除酵との祭の二日前（共観福音書ではこの時期としている。）
- [DQ] どのような人たちが登場しますか。
 - 民の指導者たち（祭司長たちや律法学者たち）
 - ベタニヤの女のひと：油を注ぐ（イエスの葬りの準備）
 - ユダ：祭司長たちに、引き渡す、他の弟子たち。
 - 周囲の人々：ヨハネによるとラザロのことのあと人気が高まっていた

－ イエス：神に委ねて抵抗していない（ヨハネ 11:45-57）

2. いつ、どのような人たちが、どのようなことを計画しますか。（1）

- 1 さて、逾越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。
- [DQ] いつ頃から、イエスを捕らえ、殺す計画が始まっていたのでしょうか。
 - － このマルコの箇所からだけでは不明。しかし、イエスを殺そうと言う計画は、かなり以前からあった。
 - － マルコ 3:1-6 イエスがまた会堂にはいられると、そこに片手のなえた人がいた。2 人々はイエスを訴えようと思って、安息日にその人をいやされるかどうかをうかがっていた。3 すると、イエスは片手のなえたその人に、「立って、中へ出てきなさい」と言い、4 人々にむかって、「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」と言われた。彼らは黙っていた。5 イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくなのを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった。6 パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。（存在を抹殺、居てほしくない存在というレベルだったかもしれない）
 - － マルコ 11:18 祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。彼らは、群衆がみなその教に感動していたので、イエスを恐れていたからである。（宮清めのあと。ただ、マルコで、これだけで判断するのは、難しい。おそらく、ラザロの復活など、関係者が生きていて、マルコには収録しにくいことが存在したのだろう。）
 - － 参照: イエスの予告
 - * マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、（一回目の予告）
 - * マルコ 9:31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。（二回目の予告）
 - * マルコ 10:34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。（三回目の予告）
 - * 「ぶどう園と農夫」のたとえ：マルコ 12:1-12 7 すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、8 彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。
- [DQ] なぜ、民の指導者たちは、捕らえ、殺そうとまで考えたのでしょうか。
 - － マルコだけでは明確ではない。群衆の人気には、注意していたかもしれない。
 - － ヨハネ 11:45-48 45 マリヤのところにきて、イエスのなさったことを見た多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。46 しかし、そのうちの数人がパリサイ人たちのところに行き、イエスのされたことを告げた。47 そこで、祭司長たちとパリサイ人たちとは、議會を召集して言った、「この人が多くのしるしを行っているのに、お互は何をしているのだ。48 もしこのままにしておけば、みんなが彼を信じるようになるだろう。そのうえ、ローマ人がやってきて、わたしたちの土

地も人民も奪ってしまうであろう」。

* ヨハネによると、ローマ人が脅威だと感じ、指導者たちに任せておかなくなることを恐れていたと言っているようだ。

3. なぜ、祭りの間に計画を実行することを避けたのでしょうか。(2)

- 2 彼らは、「祭の間はいけない。民衆が騒ぎを起すかも知れない」と言っていた。
- [DQ] 恐れていたのは、どんなことだったのでしょうか。
 - －「祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスを捕えようとして、そのいどころを知っている者があれば申し出よ、という指令を出していた。」(ヨハネ 11:57)
 - － ルカ 11:6 群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、機会をねらっていた。

4. ユダは、どのような人で、どのようなことをしますか。(10)

- 10 ときに、十二弟子のひとりイスカリオテのユダは、イエスを祭司長たちに引きわたそうとして、彼らの所へ行った。
- [DQ] ユダは「引き渡す」ことを計画しますが、これは、どのようなことを意図したのでしょうか。

5. ユダは、なぜこのような決断をしたのだと思いますか。(11 その他)

- 11 彼らはこれを聞いて喜び、金を与えることを約束した。そこでユダは、どうかしてイエスを引きわたそうと、機会をねらっていた。
- [DQ] ユダが、イエスを祭司長たちに引き渡そうとしたのは、なぜなのでしょう。
 - － サタンが入った：
 - * ルカ 22:3 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれていたユダに、サタンがはいった。
 - * ヨハネ 13:27 27 この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しよとしてゐることを、今すぐするがよい」。
 - － ヨハネ 12:3 その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。4 弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、5 「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。6 彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。
- [DQ] ユダは弟子たちの中で特別だったのでしょうか。他の弟子たちと比較して違いがあるとすると、それは、何なのでしょう。
 - － マルコ 14:18-21 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。19 弟子たちは心配して、ひとりびひとり「まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。20 イエスは言われた、「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、それである。21 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。

6. それぞれのひとたちは、イエスについてどのように考えていたのでしょうか。

- 支配者たち（ピラト、ヘロデ）
- 民の指導者（祭司長たち、長老たち、律法学者）
- 一般のひとたち（エルサレムのひとたち、ガリラヤのひとたち）
- 弟子たち（ユダを含む十二弟子、同行している女性たち、他の弟子たち）

4.84.7 メモ

- 福音書の差異（1-2 など）：油注ぎについては、ヨハネは過越祭の 6 日前としているが、共観福音書では、過越祭の前の日曜日ごろに、エルサレム入城で、すべて、それ以降のこととしているので、エルサレムの民の指導者たちが、イエスと捕らえた上、殺そうと計画したのも、最後の一週間に入れている。背景を考えると、ヨハネの記述の方が実際に近いと思われる。マタイによる福音書によると、イエスは、26:2 「あなたがたが知っているとおりに、ふつかの後には過越の祭になるが、人の子は十字架につけられるために引き渡される」。と告げ（預言し）、一方、26:3-5 「そのとき、祭司長たちや民の長老たちが、カヤパという大祭司の中庭に集まり、4 策略をもってイエスを捕えて殺そうと相談した。5 しかし彼らは言った、「祭の間はいけない。民衆の中に騒ぎが起るかも知れない」。としている。実際には、祭りの間に処刑されたと記録されている。マルコとマタイでは、捕らえて、殺すことが書かれているが、ルカでは、殺すことの計画のみが書かれている。マルコとマタイには、民衆の中の騒ぎをおそれて、祭りの間を回避することが、図られたことが、書かれているが、ルカには、殺そうと計った理由に、民衆を恐れていたとあるが、祭りの間を避ける記述はない。
- 福音書の差異（10-11）：マルコでは、イスカリオテのユダからは、金のことは要求していないが、マタイでは、ユダからの提案になっている。マルコには、金額は書かれていないが、マタイには書かれている。マルコ、マタイでは「引き渡す」と書かれているがルカでは「渡す」となっている。ただし、動詞はいずれも (to give into the hands (of another), to give over into (one's) power or use)、ヨハネには、ユダの行為についての記述がない。しかし、ユダの行為の裏側を暗示させることばはある。「祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスを捕えようとして、そのいどころを知っている者があれば申し出よ、という指令を出していた。」(11:57)
- ヨハネ 11:45-53 には、なぜ、民の指導者が、イエスを殺すことを計ったかが書かれている。
 - －（ラザロの復活によってイエスを信じるものが増えたことを背景に）民衆がイエスを信じるようになることを恐れた。
 - －（カリスマ性がある指導者に民衆が率いられると）ローマ人がやってきて、民の指導者たちが指導力を発揮している、イスラエルの土地も人民も奪ってしまうだろう。
 - －（これらのことを元に大祭司カヤパは）「あなたがたは、何もわかっていないし、50 ひとりの人が人民に代って死んで、全国民が滅びないようになるのがわたしたちにとって得だということを、考えてもいない」。という。
 - *（しかしこの言葉は）イエスが国民のためにや、散在している神の子らをつづつ集めるために、死ぬことになっているという、神の言葉の預言だとも言える。
- ユダがイエスを引き渡した背景

- － マルコ 14:1 さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。
- － ヨハネ 11:53 53 彼らはこの日からイエスを殺そうと相談した。
- － ヨハネ 11:57 「祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスを捕えようとして、そのいどころを知っている者があれば申し出よ、という指令を出していた。」
- － ルカ 11:6 群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、機会をねらっていた。
- － ルカ 22:3、ヨハネ 13:27 27：サタンがユダに入った
- 榊原康夫『ルカによる福音書』
 - － 貪欲説：地所ほしさか、会計横領の穴埋めの金欲しさ。疑問点：なぜ後悔して自殺したか説明不能（マタイ 27:3-5）
 - * ヨハネ 12:6 彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった。
 - * 使徒 1:18 （彼は不義の報酬で、ある地所を手に入れたが、そこへまっさかさまに落ちて、腹がまん中から引き裂け、はらわたがみな流れ出てしまった。）
 - － 単純な信仰喪失説または師の末路を見越しての寝返り説。疑問点：なぜ裁判証人にたたなかったか（マルコ 14:55-59）なぜ、師の死刑判決に後悔したか説明不能。
 - － 熱心党起爆剤説（政治的メシヤを）期待して入門したのに、イエスの優柔不断に業を煮やし、危地においてやって奇跡力を発揮させようとして仕組んだ芝居。ヨハネ 12:4 などの古代語写本に「スカリオテのユダ」とあるので、「シカリ（刺客）」出身だと想像。
 - － ルカの説明は明快だが神秘です、「サタンがユダに入った」（ルカ 22:3）サタンの再攻撃
 - * ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。
 - * ルカ 22:53 毎日あなたがたと一緒に宮にいた時には、わたしに手をかけなかった。だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」。
 - － アリマタヤのヨセフ物語：そこで彼らは、イスカリオテのユダのもとの言い送った。彼はカヤパの兄弟の子で、ユダヤ人たちから、イエスの弟子になって彼の教えには従わずに裏切るようにと、説得されていた人物であった。人々は、ユダに 1 日あたり、2 ドラクマの金を支給したので、イエスの弟子ヨハネの言うとおりに 2 年の間イエスと共にいた。

4.85 14:12-21 過越の食事をする

12 除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊をほふる日に、弟子たちがイエスに尋ねた、「わたしたちは、過越の食事をなさる用意を、どこへ行ってしたらよいでしょうか」。13 そこで、イエスはふたりの弟子を使いに出して言われた、「市内に行くと、水がめを持っている男に出会うであろう。その人について行きなさい。14 そして、その人がはいつて行く家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます』。15 するとその主人は、席を整えて用意された二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために用意をしなさい」。16 弟子たちは出かけて市内に行き見て

と、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。17 夕方になって、イエスは十二弟子と一緒にそこに行かれた。18 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。19 弟子たちは心配して、ひとりひとり「まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。20 イエスは言われた、「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、それである。21 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。

4.85.1 マタイ 26:17-25

17 さて、除酵祭の第一日に、弟子たちはイエスのもとにきて言った、「過越の食事をなさるために、わたしたちはどこに用意をしたらよいでしょうか」。18 イエスは言われた、「市内にはいり、かねて話してある人の所に行き行って言いなさい、『先生が、わたしの時が近づいた、あなたの家で弟子たちと一緒に過越を守ろうと、言っておられます』」。19 弟子たちはイエスが命じられたとおりにして、過越の用意をした。20 夕方になって、イエスは十二弟子と一緒に食事の席につかれた。21 そして、一同が食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしている」。22 弟子たちは非常に心配して、つぎつぎに「主よ、まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。23 イエスは答えて言われた、「わたしと一緒に同じ鉢に手を入れている者が、わたしを裏切ろうとしている。24 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。25 イエスを裏切ったユダが答えて言った、「先生、まさか、わたしではないでしょう」。イエスは言われた、「いや、あなただ」。

4.85.2 ルカ 22:7-14; 21-23

7 さて、過越の小羊をほふるべき除酵祭の日がきたので、8 イエスはペテロとヨハネとを差遣いに出して言われた、「行って、過越の食事ができるように準備をなさい」。9 彼らは言った、「どこに準備をしたらよいのですか」。10 イエスは言われた、「市内にはいったら、水がめを持っている男に出会うであろう。その人がはいる家までついて行って、11 その家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます』」。12 すると、その主人は席の整えられた二階の広間を見せてくれるから、そこに用意をなさい」。13 弟子たちは出て行ってみると、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。14 時間になったので、イエスは食卓につかれ、使徒たちも共に席についた。

21 しかし、そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。22 人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわざである」。23 弟子たちは、自分たちのうちだれが、そんな事をしようとしているのだらうと、互に論じはじめた。

4.85.3 ヨハネ 13:21-30

21 イエスがこれらのことを言われた後、その心が騒ぎ、おごそかに言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしている」。22 弟子たちはだれのことを言われたのか察しかねて、互に顔を見合わせた。23 弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。24 そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った、「だれのことをおっしゃったのか、知らせてくれ」。25 その弟子はそのままイエスの胸によりかかって、「主よ、だれのことですか」と尋ねると、26 イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。27 この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。28 席を共にしていた者のうち、なぜユダにこう言われたのか、わかっていた者はひとりもなかった。29 ある人々は、ユダが金入れをあずかっていたので、イエスが彼に、「祭のために必要なものを買え」と言われたか、あるいは、貧しい者に何か施させようと思われたのだと思っていた。30 ユダは一きれの食物を受けると、すぐに出て行った。時は夜であった。

4.85.4 (参照：主の晩餐) ルカ 22:15-20

15 イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた。16 あなたがたに言うて置くが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、この過越の食事をするのではない」。17 そして杯を取り、感謝して言われた、「これを取って、互に分けて飲め。18 あなたがたに言うておくが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造ったものを、いっさい飲まない」。19 またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。20 食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。

[マルコによる福音書 14 章 12-21 節福音書対照表](#)

4.85.5 問い

1. 1-11 節を復習しましょう。どんなことがありましたか。(1-11)
2. イエスが弟子たちと過ぎ越しの食事をする場所の準備はどのように描かれていますか。(12-16)
3. イエスは食事をしているときに、弟子たちに何を伝えますか、また、弟子たちはどんな反応をしますか。(18,19)
4. イエスはなぜこのことを告げ、弟子たちは、なぜこのような反応をしたのでしょうか。

5. イエスはさらに、どのように伝えますか。(20,21)
6. イエスの思いはどのようなものだったのでしょうか。(特に 21)

4.85.6 参照

- ルカでは、途中に、聖餐の記事がはさまり、このあと「いちばん偉いもの」の記事挿入（ルカ 22:24-30）
- ヨハネではこの前に、イエスが弟子たちの足を洗う記事があり、このあとに「新しい戒め」（ヨハネ 13:31-35）について書かれている。
- [荒井献（直）訳] 人の子を裏切るその人は = 彼を介して人の子が引き渡されるその人は
- ペテロとヨハネ（ルカのみ）
 - ルカ 22:8 イエスはペテロとヨハネとを使いに出して言われた、「行って、過越の食事ができるように準備をなさい」。
 - 使徒 3:1-4 1 さて、ペテロとヨハネとが、午後三時の祈のときに宮に上ろうとしていると、2 生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、「美しの門」と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。3 彼は、ペテロとヨハネとが、宮にはいって行こうとしているのを見て、施しをこうた。4 ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。5 彼は何かもらえるのだろうと期待して、ふたりに注目していると、6 ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。7 こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、8 踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った。
 - 使徒 3:11 彼がなおもペテロとヨハネとにつきまとっているとき、人々は皆ひどく驚いて、「ソロモンの廊」と呼ばれる柱廊にいた彼らのところに駆け集まってきた。
 - 使徒 4:13 人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め、
 - 使徒 4:19 ペテロとヨハネとは、これに対して言った、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。
 - 使徒 8:14 エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が、神の言を受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネとを、そこにつかわした。
- 過越の儀式（バークレイ「マルコによる福音書」からを中心に）
 - 最初は、パンだねの儀式的な搜索。過越の前には、パンだねのいかなる細片も家から放逐しなければ

ならなかった。それは、エジプトでの最初の過越（出エジプト記 12 章）で、種入れぬパンが食されたからである。種入れぬパンは全然パンのようではない。それは薄くて硬いビスケットのようである。それがエジプトで用いられたのは、パンだねをいれたパンよりもよほど早く焼くことができたからであった。そして、最初の過越は、エジプトからの脱出の過越で、大急ぎで食べなければならなかった。また、みんなは、旅路の準備をしなければならなかった。それに加えて、パンだねは腐敗のシンボルであって。パンだねは発酵した生パンであり、ユダヤ人は発酵と腐敗とを同一視していた。それゆえ、パンだねは、腐敗と破壊を意味していた。過越の祭りの前日に、家の主人は、火を灯した蝋燭をもって、家の中のパンだねを儀式的に探した。その搜索の前に彼は祈った。

* 汝エホバ、わが神、宇宙の王をたたえまつる。汝は、その戒めによって、われらを聖別なしたまい、パンだねを除くように命じられた。

－ また搜索の終わりに家の主人は言った。

* わたしの所有にかかる、わたしが見たことのあるもの、またみたことのない全てのパンだねは、無効になれ。また、それは大地の塵として数えられよ。

－ つぎに、過越の夕に先んずる午後に、過越の子羊の犠牲があった。すべての人々は神殿にやってきた。それによって、あたかも彼自身を犠牲にささげているように、参拝者は自分の子羊を殺さなければならなかった。

－ 血は注ぎ出され、内臓と脂肪は捧げ物、ざくろの木で作った焼き串で、裸火の上で焼かなければならなかった。その焼き串は、子羊の口から尻へ刺し貫かれ、子羊は、頭、四肢、尾をからだにつけたままで丸焼きにしなければならなかった。

－ 食事内容

* 子羊：過越

* たね入れぬパン：いそいで食したパン

* 一鉢の塩水（カソーレト、煉瓦色のスープ）：エジプトでかれらが流した涙と、奇跡的にわたって危機を脱した紅海の水

* 苦菜：わさび、キクニガナ、キクヂシャ、レタス、ニガハッカ、奴隷の苦味

* ハロシユス：りんご、なつめ、ざくろ、ナッツをまぜたものにシナモンの小片がつきさしてある。煉瓦の泥と、藁

* 四杯の葡萄酒：約 0.6L で、五分の三が葡萄酒、五分の二が水。四つの盃は、食事の他の段階で飲まれたが、それは人々に出エジプト記 5:6-7 の四つの約束を想起させるため。

・ 6 それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい、『わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトびとの労役の下から導き出し、奴隷の務から救い、また伸べた腕と大いなるさばき

をもって、あなたがたをあがなうであろう。7 わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。わたしがエジプトびとの労役の下からあなたがたを導き出すあなたがたの神、主であることを、あなたがたは知るであろう。

- 聖餐式における自己吟味：コリント前書 11:27-29 27 だから、ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだを犯すのである。28 だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。29 主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばきを招くからである。
- たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。(21a, マタイ 26:24a)
 - － 詩篇 41:9 わたしの信頼した親しい友、／わたしのパンを食べた親しい友さえも／わたしにそむいてくびすをあげた。(1 貧しい者をかえりみる人はさいわいである。主はそのような人を悩みの日に救い出される。から始まる詩篇)
 - － マタイ 26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、書いてあるからである。
* ゼカリヤ 13:7 万軍の主は言われる、「つるぎよ、立ち上がってわが牧者を攻めよ。わたしの次に立つ人を攻めよ。牧者を撃て、その羊は散る。わたしは手をかえして、小さい者どもを攻める。」
 - － マタイ 26:54 しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就されようか」。
 - － マタイ 26:56 しかし、すべてこうなったのは、預言者たちの書いたことが、成就するためである」。そのとき、弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。
 - － マルコ 9:12 イエスは言われた、「確かに、エリヤが先にきて、万事を元どおりに改める。しかし、人の子について、彼が多くの苦しみを受け、かつ恥ずかしめられると、書いてあるのはなぜか。
 - － ルカ 24:25-27 そこでイエスが言われた、「ああ、愚かで心のにぶいたため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。26 キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」。27 こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた。
 - － ルカ 14:46,47 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。
 - － 1 コリント 15:3 わたしが最も大事な事としてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであつた。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおりに、わたしたちの罪のために死んだこと、
 - － 1 ペテロ 1:10,11 この救については、あなたがたに対する恵みのことを預言した預言者たちも、たずね求め、かつ、つぶさに調べた。11 彼らは、自分たちのうちにいますキリストの霊が、キリストの苦

難とそれに続く栄光とを、あらかじめあかしした時、それは、いつの時、どんな場合をさしたのかを、調べたのである。

- イエスの愛しておられた弟子

- ヨハネ 13:23 23 弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。
- ヨハネ 19:26,27 26 イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。27 それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。
- ヨハネ 20:2 そこで走って、シモン・ペテロとイエスが愛しておられた、もうひとりの弟子のところへ行って、彼らに言った、「だれかが、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません」。
- ヨハネ 21:7 イエスの愛しておられた弟子が、ペテロに「あれは主だ」と言った。シモン・ペテロは主であると聞いて、裸になっていたため、上着をまとして海にとびこんだ。
- ヨハネ 21:20 ペテロはふり返ると、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのを見た。この弟子は、あの夕食のときイエスの胸近くに寄りかかって、「主よ、あなたを裏切る者は、だれなのですか」と尋ねた人である。21 ペテロはこの弟子を見て、イエスに言った、「主よ、この人はどうなのですか」。22 イエスは彼に言われた、「たとい、わたしの来る時まで彼が生き残っていることを、わたしが望んだとしても、あなたにはなんの係わりがあるか。あなたは、わたしに従ってきなさい」。23 こういうわけで、この弟子は死ぬことがないといううわさが、兄弟たちの間にひろまった。しかし、イエスは彼が死ぬことはないと言われたのではなく、ただ「たとい、わたしの来る時まで彼が生き残っていることを、わたしが望んだとしても、あなたにはなんの係わりがあるか」と言われただけである。24 これらの事についてあかしをし、またこれらの事を書いたのは、この弟子である。そして彼のあかしが真実であることを、わたしたちは知っている。25 イエスのなさったことは、このほかにまだ数多くある。もしいちいち書きつけるならば、世界もその書かれた文書を収めきれないであろうと思う。

- 「いや、あなただ」 () ‘You have said so.’ (NIV) 「いや、そうかもしれない」 (塚本虎二訳)

- マタイ 26:25 イエスを裏切ったユダが答えて言った、「先生、まさか、わたしではないでしょう」。イエスは言われた、「いや、あなただ」。
- マタイ 26:63,64 63 しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言った、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」。64 イエスは彼に言われた、「あなたの言うとおりで。しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。(64) . [NIV] ‘You have said so,’ Jesus replied. ‘But I say to all of you: from now on you will see the Son of Man sitting at the right hand of the Mighty One and coming on the clouds of heaven.’)
- マタイ 27:11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると総督はイエスに尋ねて言った、「あなた

がユダヤ人の王であるか」。イエスは「そのとおりである」と言われた。(11
・
・
・ ;
・
・ [NIV] 11 Meanwhile Jesus
stood before the governor, and the governor asked him, ‘Are you the king of the Jews?’ ‘You
have said so,’ Jesus replied.)

– マルコ 15:2 ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりで
ある」とお答えになった。(2K
Π
・
・
・ [NIV] ‘Are you the king of the Jews?’ asked Pilate. ‘You have said so,’ Jesus replied.)

– ルカ 22:70 彼らは言った、「では、あなたは神の子なのか」。イエスは言われた、「あなたがたの言う
とおりである」。(70
・
・
・ [NIV] 70 They all
asked, ‘Are you then the Son of God?’ He replied, ‘You say that I am.’)

4.85.7 記録

- 日時：2025 年 1 月 23 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）0 名

4.85.8 問いについて

1. 1-11 節を復習しましょう。どんなことがありましたか。(1-11)

- 祭司長、律法学者たちが、策略をもってイエスを捕らえ、どうにかして殺そうとしていた。
- ベタニヤで、女が葬りの準備として油をイエスに注ぐ。
- イスカリオテのユダが祭司長たちのもとへ行き、イエスを引き渡すことを約束する。

2. イエスが弟子たちと過ぎ越しの食事をする場所の準備はどのように描かれていますか。(12-16)

- 12 除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊をほふる日に、弟子たちがイエスに尋ねた、「わたしたちは、
過越の食事をなさる用意を、どこへ行ったらよいでしょうか」。13 そこで、イエスはふたりの弟
子を使いに出して言われた、「市内に行くと、水がめを持っている男に出会うであろう。その人につい
て行きなさい。14 そして、その人がはいて行く家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の
食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます』。15 するとその主人は、席を整えて用意され
た二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために用意をしなさい」。16 弟子たちは出か
けて市内に行くと、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。17 夕
方になって、イエスは十二弟子と一緒にそこに行かれた。
- [DQ] なぜこのような記事が記録されているのでしょうか。

- [Q] 他にもイエスが用意周到だった箇所がありますか。(11:1-11) [A] ろばの子。
 - 夕方から新しい日。(木曜日夜6時以降)
 - [DQ] 「16 弟子たちは出かけて市内に行くと、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。」とありますが、これは、イエスの予言的能力を表現しているのでしょうか。
 - おそらく、前もって、手配してあったのではないか。
 - [参照] マタイ 26:18 イエスは言われた、「市内にはいり、かねて話してある人の所に行って言いなさい、『先生が、わたしの時が近づいた、あなたの家で弟子たちと一緒に過越を守ろうと、言っておられます』」。(18 , . (NIV) 18He replied, ‘Go into the city to a certain man and tell him, “The Teacher says: my appointed time is near. I am going to celebrate the Passover with my disciples at your house.”’)
 - * 「かねて話してある人のところに行って」と書かれている。また「わたしの時が近づいた」ということは、言っていたとある。
 - [DQ] このときの背景を考え、イエスがなぜこのようにしたか考えてみましょう。
 - 水瓶を運ぶのは女の仕事。ここでは、男となっている。
 - おそらく外側からの梯子でのぼる、静思と瞑想の場所、客室、集会所
3. イエスは食事をしているときに、弟子たちに何を伝えますか、また、弟子たちはどんな反応をしますか。(18,19)
- 18 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。19 弟子たちは心配して(悲しみはじめて)、ひとりひとり「まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。
 - [DQ] どのような人たちと食事を共にしていますか。
 - [A] 弟子たちとあるが、イエスと一緒に行動していた女性たちも一緒だったろうし、十二弟子以外にも、とくにエルサレムまたはその周辺に居た弟子たちもいたかもしれない。同時に、危険もあるので、ある程度人数を制限していたとも思われる。
 - [DQ] 「まさか、わたしではないでしょう」はどのような弟子たちの心を伝えているのでしょうか。
 - [A] 自分ではないと、はっきりとは言い切れない。心を見透かされているような気持ちになっている。
4. イエスはなぜこのことを告げ、弟子たちは、なぜこのような反応をしたのでしょうか。
- [DQ] イエスは、なぜ「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」(マルコ 14:18b) と弟子たちに告げたのだら

うか。

- [DQ] 弟子たちは、イエスのことばを、どのように受け取ったろうか。

5. イエスはさらに、どのように伝えますか。(20,21)

- 20 イエスは言われた、「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、それである。21 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわいである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。

- [DQ] 「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者」とは何を意味しているのでしょうか。

ー [A] 他にも、その場、または階下にひとはいたかもしれないが、十二人と限定することは、十二弟子にとっては、とても、大きなチャレンジだったろう。共に食事することは、とくに、この時は、親しさ、信頼関係のもとでもあったろう。

ー 他にもひとはいたかもしれないが、十二弟子に限定されている。おそらく、もう逃れられない状況があったろう。ユダはなおさらである。ユダには、最後の悔い改めの機会だったかもしれない。

- [DQ] 21 節では、自分についての「予定」と「裏切るその人」について、それぞれどのようなことを言っていますか。

ー たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。

* 詩篇 41:9 わたしの信頼した親しい友、／わたしのパンを食べた親しい友さえも／わたしにそむいてくびすをあげた。

ー しかし、人の子を裏切るその人（彼を介して人の子が引き渡されるその人は）は、わざわいである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう

* 自分について書いてあるとおりに去ることになることと、そのことをもたらすことの評価は別だと言っているように見える。

* 主の定めどおりに起こることを手伝っている忠実な僕とは描いていない。

- [参照] マタイではどのように描かれていますか。ユダとイエスの間のどのような会話が記録されていますか。

ー マタイ 26:25 イエスを裏切ったユダが答えて言った、「先生、まさか、わたしではないでしょう」。イエスは言われた、「いや、あなただ」。(25

. [NIV] Then Judas, the one who would betray him, said, 'Surely you don't mean me, Rabbi?' Jesus answered, 'You have said so.')

* 「それはあなたの言ったこと」はあまりにも、日本語としておかしいので「いや、あなただ」と訳されているが、うちに秘めた言い方であることは確かだろう。「いや、そうかもしれない

い」(塚本虎二訳)

* いくつかの用例がある。マルコ 15:2、マタイ 26:25、64、27:11、ルカ 22:70

• [参照] ヨハネはどう描いていますか。

ー ヨハネ 13:23-27 23 弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。24 そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った、「だれのことをおっしゃったのか、知らせてくれ」。25 その弟子はそのままイエスの胸によりかかって、「主よ、だれのことですか」と尋ねると、26 イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。27 この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。

* その場にいたひとたちも、やはり理解できなかったとするのが適切だろう。

ー [Q] イエスの愛しておられた者と、イエスと、ユダの位置は、どのような関係だったと思いますか。

* [A] おそらく、イエスの右に、イエスの愛しておられたもの、左に、ユダ。

* イエスの愛しておられたもの：ヨハネ 13:23、19:26、20:2、21:7、20

6. イエスの思いはどのようなものだったのでしょうか。(特に 21)

• 21 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。

• [DQ] 「生まれなかった方がよかった」と言うような人生があるのでしょうか。

ー 単純に辛い人生だというように取ることもできるように思える。

• [DQ] ここでイエスは、なぜ、ユダが裏切ろうとしていると明確に告げなかったのでしょうか。ユダが裏切ろうとしていると告げたらどうなったのでしょうか。

4.85.9 メモ

- 福音書の差異：ルカは、配餐の記事が挟まっており、ユダもそのときにいたことになっている。また、逾越の食事の準備のために遣わされたのは、マルコでは二人、マタイでは弟子たち、ペテロとヨハネであったことが、ルカにのみ書かれている。ペテロとヨハネは、ルカが書いたとされる、使徒行伝で、ほとんど最初からリーダー的に描かれている。ほどなく、ヨハネの兄弟ヤコブが殺されたことも関係しており、その後、イエスの兄弟ヤコブが力を持ってくる中で、ここでは、その二人にしたということもあるかもしれない。いずれにしても、ペテロやヨハネのような弟子の中でも主要なメンバーにも、秘密にして、場所が

設定されたことは事実だろう。裏切りも予想でき、それだけ、危険が差し迫っていたということか。この準備自体も秘密で、マタイのように、弟子たちみなに関わるような状況にはなかったのかもしれない。「その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」は、ルカにはない。「わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者」の表現は、ルカにはない。ヨハネには「弟子たちのひとりで、イエスの愛しておられた者」の存在がクローズアップされているが、結局、その質問に、イエスが答えたように書かれているものの、ユダが裏切ろうとしているという確信に至っていないということは、やはり明確な行為ではなかったと考えるほうが適切であろう。

4.86 14:22-25 主の晩餐

22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。

4.86.1 マタイ 26:26-30

26 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取って食べよ、これはわたしのからだである」。27 また杯を取り、感謝して彼らに与えて言われた、「みな、この杯から飲め。28 これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。29 あなたがたに言うておく。わたしの父の国であなたがたと共に、新しく飲むその日までは、わたしは今後決して、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。30 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。

4.86.2 ルカ 22:15-20

15 イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた。16 あなたがたに言うて置くが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、この過越の食事をすることはない」。17 そして杯を取り、感謝して言われた、「これを取って、互に分けて飲め。18 あなたがたに言うておくが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造ったものを、いっさい飲まない」。19 またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。20 食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。

4.86.3 (参照) ヨハネ 13:31-35

31 さて、彼が出て行くと、イエスは言われた、「今や人の子は栄光を受けた。神もまた彼によって栄光をお受けになった。32 彼によって栄光をお受けになったのなら、神ご自身も彼に栄光をお授けになるであろう。すぐにもお授けになるであろう。33 子たちよ、わたしはまだしばらく、あなたがたと一緒にいる。あなたがたはわたしを捜すだろうが、すでにユダヤ人たちに言ったとおり、今あなたがたにも言う、『あなたがたはわたしの行く所に来ることはできない』。34 わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。35 互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。

4.86.4 (参照) コリント人への第一の手紙 11:23-28

23 わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えたのである。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンをとり、24 感謝してこれをさき、そして言われた、「これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。25 食事ののち、杯をも同じようにして言われた、「この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい」。26 だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。27 だから、ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだと血とを犯すのである。28 だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。29 主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばきを招くからである。

[マルコによる福音書 14 章 22-25 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 22-25 節福音書対照表 \(参照付き\)](#)

[マルコによる福音書 14 章 22-25 節福音書対照表 \(参照付き \(2\)\)](#)

4.86.5 問い

1. 12-21 節を復習しましょう。イエスは、どのようなことを弟子たちに語っていましたか。
2. 22-25 節で、イエスは、何をしていますか。
3. パンがイエスのからだだというのは、どのような意味があるのでしょうか。(22)
4. 杯が多くの人のために流すわたしの契約の血であるとは、どのような意味でしょうか。(23,24)
5. 最後に、イエスはどんな宣言をしていますか。(25)

6. イエスは、弟子たちに何を伝えているのでしょうか。(参照：1 コリント 11:23-29、ヨハネ 13:31-35)

4.86.6 参照

- 過越祭の食事（パークレイ「マルコによる福音書」からを中心に。イエスとその弟子たちが席についていた食事が、過越の食事であったなら、イエスが取ってご自分のものとされたのは、13 と 14 の二つの事項であったに違いない。そして、16 はオリブ山に出ていくときに歌った賛美歌に違いない。）
 1. キドゥシュな杯。キドゥシュは、神聖なあるいは聖別されたという意味である。これは、いわばこの食事を他のすべての食事から区別するためのものであった。家長が盃をとって祈り、次にすべてのものがそれを飲んだ。
 2. 第一の手の洗い。これは、食事を祝おうとする人だけによって行われた。定められた方法に従って、両手を三度洗わなければならなかった。(7 章)
 3. パセリ、またはレタスの一片が取り上げられ、塩水の鉢にひたして食された。これは、食事の一種の前菜であった。しかし、パセリは柱を血で塗るのに用いたヒソプをあらわしていた。また、塩はエジプトの涙と、それを越えてイスラエルが安全にされた紅海の海水をあらわしていた。
 4. パンをさく。パンを割くときに二つの賛美がなされた。「ほむべきかな、汝、おお主よ。わが神、宇宙の王、大地から物を作り出される方」。あるいは、「ほむべきかな、汝、天にいますわれらの父、今日、われわれに必要なパンを与えられる方」。テーブルの上には種入れぬパンが三箇所に置かれた。中央のものが取ってさかれた。ここでは、ほんの少しだけが食べられた。それは、ユダヤ人たちに、彼らがエジプトで食べた苦難のパンを思い起こさせるためであった。そして、奴隷は決して丸のままパンが得られず、ただくずのみを食べることができたことを想起させるために、パンを割いた。パンを割きながら家長はいった。「これは、われわれの先祖たちが、エジプトの地において食べた苦難のパンである。飢えた者があれば、来たりて食さしめよ。困窮するものがあれば、来たりてわれわれと共に過越を守らしめよ」と。(異国における現代の祝いにおいては、これに有名な祈りが加らる。「この年は、この地で過越を祝いますが、来るべき年には、イスラエルの地において。この年は奴隷として祝いますが、来るべき年には自由人として」)。
 5. つぎに、解放の物語が語られる。そこにいた一番若いものが、何がこの日を他の日々とことならしめているのか、どうしてこのようなことを行っているのかを、問わなければならない。そして、家長は、それから、過越が記念としている偉大な解放に至るまでのイスラエルの全歴史を語らなければならない。ユダヤ人にとって、過越を単なる儀式にってしまうことは決してできない。それは常に神の力と、あわれみの記念祭なのである。
 6. 詩篇 113 篇、134 篇が歌われる。詩篇 113 篇-114 篇は、神の賛美という意味のハレルとして知られていた。これら諸詩篇はすべて賛美の詩篇である。これらは、ユダヤ人の少年が非常に早い時期に暗記しなければならないものの一つであった。
 7. 第二の杯が飲まれる。それはハガダーの杯とよばれ、説明の杯、あるいは宣言の杯との意味である。
 8. 列席しているものは皆、食事の準備のために手を洗う。
 9. 感謝がとなえられる。「汝をほめたたう。おお主よ、わが神よ、あなたは大地から果実を生み出され

た。汝をほめたたう。おお神よ、あなたはその戒めをもってわれらを聖別し、種入れぬパンを食することを命じたもうた」と。その後、種入れぬパンの小片が配られる。

10. 苦菜が二個の種入れぬパンの間にはさまれ、つぎハロシスに浸されて、食べられる。これがソップと呼ばれているものである。それは、奴隷状態と、かつて彼らが強制的に造らせられた煉瓦を想起させるものであった。
11. それに本来の食事が続く。子羊は全部食べなければならず、残ったものは、すべて始末し、普通の食事に用いてはならない。
12. 再び手が清められる。
13. 残りの種入れぬパンを食べる。[ここでパンを割いたのか?]
14. 感謝の祈り。その中にメシヤの使者としてのエリヤの到来の祈りが含まれている。それから第三の杯が飲まれる。これは感謝の杯と呼ばれる。杯に対する賛美は、「ほめたたえよ、汝、おお主よ、わが神、宇宙の王、ぶどうの実を作られた方」である。[ここで杯か?]
15. ハレルの第二部—詩篇 115 篇-118 篇。
16. 第四の杯が飲まれ、そして詩篇 136 篇、すなわち偉大なハレルとして知られるものが歌われる。
17. 二つの祈りが唱えられる。
 - 汝のすべての働きは汝、おお主よ、わが神をたたえる。また汝の聖徒、義しき者、汝の善き喜びを果たすもの、また汝の民、イスラエルの家に、喜びの歌をもって、おお神、われらの主、み名を崇め、ほめたたえ、賛美し、栄光をたたえ、ほめ、尊び、聖別し、み国を書かしめたまえ。なぜならば、汝をほめたたえるはよきことであり、汝のみ名を歌い、たたえるは、喜びである。汝は永遠から永遠にわたり神にいます。
 - 生きるすべてのものの息吹が汝のみ名をたたえる、おお主よ、わが神よ。また、すべての生きものの魂は、汝んば記念、おお神、わが王を常にたたえ、ほめまつる。永遠から永遠にわたって汝は神に在し、汝を他に、われらは王、あがない主、救い主を持たない。
- 過越祭の食事（榊原康夫「マタイ福音書講解（下巻）」）
 1. 初めに、第一の杯が、祝福の言葉を伴って回された。
 2. 次に、エジプトの苦役の思い出として、苦菜が配られました。
 3. 種入れぬパン（マツォート）と、れんが色のスープ（カソーレト）と、焼いた過越の子羊と、他のいけにえの肉（カギーガー）が出されます。
 4. 家長が祝福して苦菜をスープに浸して食べ、一同も食べます。
 5. 第二の杯が注がれ、子供または最年少者が、この儀式の由来を質問し、家長が過越祭の意義を教えます。（出エジプト記 12:26-27, 13:8, 14-15）
 6. 「小ハレル」と呼ばれる詩篇 113-114 が詠唱され、賛美と祈祷の後、第二の杯が飲み干されます。
 7. 家長が手を洗い、パンをとって裂き、祝福して食べます。
 8. 一同が食事を始め、[一同が食事をしているとき]
 9. 家長が最後の子羊の肉切れを食べ終わると第三の杯が回されます。
 10. 最後に、「大ハレル」すなわち、詩篇 115-118 篇が詠唱され、第四の杯が回されてから「ハレルの結び」である、詩篇 120-137 篇が詠唱されます。
- 古い契約（律法を守る）：出エジプト 24:3-8

－ 3 モーセはきて、主のすべての言葉と、すべてのおきてとを民に告げた。民はみな同音に答えて言った、「わたしたちは主の仰せられた言葉を皆、行います」。4 そしてモーセは主の言葉を、ことごとく書きしるし、朝はやく起きて山のふもとに祭壇を築き、イスラエルの十二部族に従って十二の柱を建て、5 イスラエルの人々のうちの若者たちをつかわして、主に燔祭をささげさせ、また酬恩祭として雄牛をささげさせた。6 その時モーセはその血の半ばを取って、鉢に入れ、また、その血の半ばを祭壇に注ぎかけた。7 そして契約の書を取って、これを民に読み聞かせた。すると、彼らは答えて言った、「わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います」。8 そこでモーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った、「見よ、これは主がこれらのすべての言葉に基いて、あなたがたと結ばれる契約の血である」。

- 新しい契約

－ エレミヤ 31:31-34 31 主は言われる、見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家とに新しい契約を立てる日が来る。32 この契約はわたしが彼らの先祖をその手をもってエジプトの地から導き出した日に立てたようなものではない。わたしは彼らの夫であったのだが、彼らはそのわたしの契約を破ったと主は言われる。33 しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。34 人はもはや、おのおのその隣とその兄弟に教えて、『あなたは主を知りなさい』とは言わない。それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない」。

- ハレル

－ 詩篇 113:1 主をほめたたえよ。主のしもべたちよ、ほめたたえよ。主のみ名をほめたたえよ。2 今より、とこしえに至るまで主のみ名はほむべきかな。3 日のいずるところから日の入るところまで、／主のみ名はほめたたえられる。4 主はもろもろの国民の上に高くいらせられ、／その栄光は天よりも高い。5 われらの神、主にくらぶべき者はだれか。主は高き所に座し、6 遠く天と地とを見おろされる。7 主は貧しい者をちりからあげ、／乏しい者をあくたからあげて、8 もろもろの君たちと共にすわらせ、／その民の君たちと共にすわらせられる。9 また子を産まぬ女に家庭を与え、／多くの子供たちの喜ばしい母とされる。主をほめたたえよ。

－ 詩篇 114:1 イスラエルがエジプトをいで、／ヤコブの家が異言の民を離れたとき、2 ユダは主の聖所となり、／イスラエルは主の所領となった。3 海はこれを見て逃げ、／ヨルダンはいしるに退き、4 山は雄羊のように踊り、／小山は小羊のように踊った。5 海よ、おまえはどうして逃げるのか、／ヨルダンよ、おまえはどうしてうしろに退くのか。6 山よ、おまえたちはどうして雄羊のように踊るのか、／小山よ、おまえたちはどうして小羊のように踊るのか。7 地よ、主のみ前におののけ、／ヤコブの神のみ前におののけ。8 主は岩を池に変らせ、／石を泉に変らせられた。

- あがない

－ マルコ 10:45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

＊ マタイ 20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである。

＊ (参照) ルカ 1:68 「主なるイスラエルの神は、ほむべきかな。神はその民を顧みてこれをあがない、

- 使徒 20:28 どうか、あなたがた自身に気をつけ、また、すべての群れに気をくばっていただきたい。聖霊は、神が御子の血であがない取られた神の教会を牧させるために、あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである。
- ローマ 3:24, 25 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、
- ガラテヤ 3:13 キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。
- ガラテヤ 4:5 それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。
- コリント前書 10:16 わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血にあずかることではないか。わたしたちがさくパン、それはキリストのからだにあずかることではないか。
- レビ 17:11 肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。
- ヘブル 9:22 こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。
- 神の国での食事
 - マタイ 8:11,12 なお、あなたがたに言うが、多くの人が東から西からきて、天国で、アブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席につくが、12 この国の子らは外のやみに追い出され、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」。
 - ルカ 14:15 列席者のひとりがこれを聞いてイエスに「神の国で食事をする人は、さいわいです」と言った。
 - ルカ 22:29,30 それで、わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、30 わたしの国で食卓について飲み食いさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。

4.86.7 記録

- 日時：2025 年 1 月 30 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）4 名、参加（遠隔）4 名

4.86.8 問いについて

1. 12–21 節を復習しましょう。イエスは、どのようなことを弟子たちに語っていましたか。
 - 祭司長、律法学者たちに、イエスを捕らえ殺す計画があり、十二人の一人であるイスカリオテのユ

ダがイエスを引き渡すことを、祭司長に約束しているなか、注意して、過越祭の食事の準備をする。
(12-16)

- 一緒に食事をしている、十二人のひとりがイエスを裏切ろうとしていることを一同に告げる。(18)
- 弟子たちは、ひとりひとり「まさか、私ではないでしょう」と言い出す。(19)
- イエスは、「人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」(21)と告げる。
- [DQ] イエスは、弟子たちとのこの食事をたいせつにしていた（と思われませんが）、このことは、どのようなことから伺われますか。
- [DQ] イエスは、どのような意味で、このときがたいせつだと考えたのでしょうか。

－ [A] 受難と死と復活については、すでに伝えているが、その意味については、伝えていない。

－ 参照: イエスの予告

- * マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、(一回目の予告)
- * マルコ 9:31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。(二回目の予告)
- * マルコ 10:34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。(三回目の予告)
- * 「ぶどう園と農夫」のたとえ：マルコ 12:1-12 7 すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、8 彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。
- [Q] このまま、ただ、殺されるだけなら、悲劇の預言者というだけではないのか。メシヤ（油注がれた、特別な任務を負った助け主ではありえない。）

－ このことを告げるのであれば、あまりに簡素。もっと、イエスは伝えていたのではないか。

2. 22-25 節で、イエスは、何をしていますか。

- 22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。
- 23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である」。

- 25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。
 - [DQ] これは、どのような食事のときですか。[参照：[過越の祭り・食事](#)]
- － [A] 過越祭の夕食。(ニサンの月の十四日の夜、ユダヤ暦としては十五日、除酵祭の第一日目が始まってから) (以下は W. パークレイと榊原康夫から編集)
1. 第一の杯：家長が祈り、杯が、祝福の言葉を伴って回される。
 2. エジプトの苦役の思い出として、苦菜（塩水の浸けられたパセリかレタスの一片（血をかもいに塗るヒソブの代わり））、種入れぬパン（マッツォート）、れんが色のスープ（カソーレト）、焼いた過越の子羊と、他のいけにえの肉（カギーガー）。
 3. 家長が祝福して苦菜をスープに浸して食べ、一同も食べます。（「一同が席について食事をしているとき」(18)）
 4. 第二の杯：子供または最年少者が、この儀式の由来を質問し、家長が過越祭の意義を教える。（出エジプト記 12:26-27, 13:8, 14-15）
 - * 出エジプト記 12:26-27 もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、27 あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである』。民はこのとき、伏して礼拝した。
 - * 出エジプト記 13:8 その日、あなたの子に告げて言いなさい、『これはわたしがエジプトから出るときに、主がわたしになされたことのためである』。
 - * 出エジプト記 13:14-15 後になって、あなたの子が『これはどんな意味ですか』と問うならば、これに言わなければならない、『主が強い手をもって、われわれをエジプトから、奴隷の家から導き出された。15 そのときパロが、かたくなで、われわれを去らせなかったため、主はエジプトの国のういごを、人のういごも家畜のういごも、ことごとく殺された。それゆえ、初めて胎を開く男性のものはみな、主に犠牲としてささげるが、わたしの子供のうちのういごは、すべてあがなうのである』。
 5. 「小ハレル」詩篇 113-114 が詠唱、賛美と祈祷の後、第二の杯が飲み干されます。
 - * 詩篇 114:1-8 （イスラエルがエジプトを出た時の詩）
 6. 家長がパンをとって裂き、祝福して食べ、一同が食事。家長が最後の子羊の肉切れを食べ終わると第三の杯（「一同が食事をしているとき」(22)）
 7. 「大ハレル」詩篇 115-118 篇の詠唱され、第四の杯が回され「ハレルの結び」詩篇 120-137 篇が詠唱

* マルコ 14:26-28 26 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。

* マタイ 26:30 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。

3. パンがイエスのからだだというのは、どのような意味があるのでしょうか。(22)

- 22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。
- イエスのからだ、イエスの裂かれたからだを食すことにより、イエスの犠牲を受け入れ、イエスとの霊的な交わりに入ること。

— 「種なしパン」 罪のない純粹さ

— イエスは「いのちのパン」 霊的な命を与える存在。

* ヨハネ 6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

4. 杯が多くの人のために流すわたしの契約の血であるとは、どのような意味でしょうか。(23,24)

- 23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である」。
- ヨハネ 6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。
- イスラエルの救いの歴史、神との契約の確認。

— 古い契約（律法を守る）：出エジプト 24:3-8 3 モーセはきて、主のすべての言葉と、すべてのおきてとを民に告げた。民はみな同音に答えて言った、「わたしたちは主の仰せられた言葉を皆、行います」。4 そしてモーセは主の言葉を、ことごとく書きしるし、朝はやく起きて山のふもとに祭壇を築き、イスラエルの十二部族に従って十二の柱を建て、5 イスラエルの人々のうちの若者たちをつかわして、主に燔祭をささげさせ、また酬恩祭として雄牛をささげさせた。6 その時モーセはその血の半ばを取って、鉢に入れ、また、その血の半ばを祭壇に注ぎかけた。7 そして契約の書を取って、これを民に読み聞かせた。すると、彼らは答えて言った、「わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います」。8 そこでモーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った、「見よ、これは主がこれらのすべての言葉に基いて、あなたがたと結ばれる契約の血である」。

5. 最後に、イエスはどんな宣言をしていますか。(25)

- 25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。
- [DQ] これは、どのような意味でしょうか。
 - [A] この世で飲むぶどう酒は最後（食事は最後？ぶどう酒は一般的だが、高価だったのでいつもあったわけではない。希釈して飲んでいた。）

- [A] いずれ、神の国で、ぶどう酒を新たに飲む時が想定されている。(どのようなものかは不明確)
 - (参照) マルコ 15:23 そしてイエスに、没薬をまぜたぶどう酒をさし出したが、お受けにならなかった。
6. イエスは、弟子たちに何を伝えているのでしょうか。(参照：1 コリント 11:23-29、ヨハネ 13:31-35)
- 1 コリント 11:23-29 も読んでみましょう。
 - 23 わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えたのである。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンをとり、24 感謝してこれをさき、そして言われた、「これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。25 食事ののち、杯をも同じようにして言われた、「この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい」。26 だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。
 - ヨハネ 13:31-35 も読んでみましょう。
 - 34 わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。35 互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。
 - [Q] なぜ、ヨハネは、パンと盃のことを書かなかったのでしょうか。
 - * すでに述べている。カニバリズム (cannibalism) の批判を避けるため
 - * ヨハネ 6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。
 - * ヨハネ 6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。
 - [Q] 新しい戒めはなにを意味しているのでしょうか。
 - * 戒めを守ることが古い契約でもあった、それを新しい契約に取り替えているとも考えられる。

4.86.9 メモ

- 福音書の差異：共観福音書は、ほぼ、コリント人への第一の手紙 11:23-28 の記述と似ている。ただし、ルカでは、まず「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた。」と、あり、さらに、マルコ、マタイでは最後にきている言葉が最初に、「あなたがたに言うて置くが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、この過越の食事をするのではない」と述べられている。パンと、ぶどう酒の部分も、詳細にみていくと、マルコでは、パンについて、「取れ」とあり、マタイでは「取って食べよ。」ルカでは、弟子たちに与えてとなっている。杯に関しては、マルコでは、単純に「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。」としているが、マタイでは「罪のゆるしを得させるように」という目的が加わっている。マルコとマタイは「契約の血」としているが、ルカでは「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。」としている。パンと、杯については、最初に述べたように、コリント人への第一の手紙 11:23-28 の記述と似ているものが中心となっているが、ヨハネではこれが省かれている。おそらく、とてもキリスト教会ではたいせつにされていた

と思われるが、それが省かれたことには、特別な意図があったと思われる。ひとつは、「契約の血」では不十分で、背後にあるイエスの死の目的が明確ではない。また、おそらく、聖餐式での、パン割きなどから、人肉食（カニバリズム（英語: cannibalism））をしているとの批判があったことも関係しているかもしれない。その上で、新しい契約について明確にしようとした時に、旧約では、十戒などを中心とした戒め、掟、律法を守ることが中心であったろうから、それを、新しい戒めとして、ヨハネの伝えている中心とも言える「互いに愛し合いなさい」で置き換えているように見える。人肉食の説明によって、否定的なことをかわすのではなく、互いに愛し合うというより積極的な世界を提示しているように見える。さらに、十二弟子たちは、この晩餐のときには、イエスの死の意味について十分理解することはできなかったのではないかとも思う。それゆえに伝承も、非常に単純化されている。しかし、この最後の晩餐がとても重要だというなかで、パウロが伝えたことを踏まえて、新しい契約について考えていく中で、パウロのつたえたものと、福音書が伝えてきたものを、融合する形で、「互いに愛し合いなさい」が中心に置かれたのではないかと思われる。あまり、そのようなことは、一般的には言われていないので、今後とも、探究を続けるべきなのだろう。

- 「なぜ、パンとぶどう酒を配餐し、イエスの死について語る前に、弟子の裏切りのことを語ったのだろうか。」イエスの死の意味をどう考えるかが、イエスに従っていくことの鍵となっているからだろうか。同時に、イエスに従うことなしには、理解できないのかもしれない。イエスがどこまで伝えたかは、正確には、わからない。しかし、パウロが、「わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えたのである。すなわち、主イエスは、渡される夜」と、珍しく、イエスの言葉、行動を明示して、新しい契約について語っていることを考えると、これには、明確な根拠があったろう。もしかすると、このことは、共通に記憶されていていて、そこから、パウロは、贖罪を理解したのかもしれない。そして、その背後にある主の愛を。経緯の理解は、これだけからは、十分ではないように思われるが。
- 「パンはイエスのからだ、ぶどう酒は契約の血は、何を意味しているのだろうか。」多くのひとのために流すとは書かれているが、すべての人とは書かれていない。マタイには、「罪のゆるしを得させる」とあるが、マルコや、ルカにはないだけでなく、コリントにもない。贖罪だけではないのかもしれない。これをどう受け取るかは、信仰者に任せられているのだろうか。難しい。

4.87 14:26-31 ペトロの離反を予告する

26 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう。29 するとペテロはイエスに言った、「たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません」。30 イエスは言われた、「あなたによく言うておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう。31 ペテロは力をこめて言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。みんなの者もまた、同じようなことを言った。

4.87.1 マタイ 26:31-35

31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、書いてあるからである。32 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。33 するとペテロはイエスに答えて言った、「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」。34 イエスは言われた、「よくあなたに言うておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。35 ペテロは言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。弟子たちもみな同じように言った。

4.87.2 ルカ 22:31-34

31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

4.87.3 ヨハネ 13:36-38

36 シモン・ペテロがイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのですか」。イエスは答えられた、「あなたはわたしの行くところに、今はついて来ることはできない。しかし、あとになってから、ついて来ることになるだろう」。37 ペテロはイエスに言った、「主よ、なぜ、今あなたについて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」。38 イエスは答えられた、「わたしのために命を捨てると言うのか。よくよくあなたに言うておく。鶏が鳴く前に、あなたはわたしを三度知らないと言うであろう」。

[マルコによる福音書 14 章 26-31 節福音書対照表](#)

4.87.4 問い

1. 12-25 節を復習しましょう。イエスは、どのようなことを弟子たちに語っていましたか。
2. 晩餐のあとのようすは、どのように描かれていますか。(26)
3. イエスはどのように語りますか。(27,28)
4. このあと、ペテロはどのように主張し、イエスはどうか応答しますか。(29-31)
5. ペテロは、なぜこれほど強く言い切るのでしょうか。

6. イエスには、どのような思いがあるのでしょうか。

4.87.5 参照

- 地図 (Map) : 受難週のエルサレム (The Passion Week in Jerusalem) [[参照](#)]
- ペトロ、イエスを知らないと言うマルコ 14:66-72 (マタイ 26:69-75、ルカ 22:56-62、ヨハネ 18:15-18; 25-27)
 - マルコ 14:66 ペテロは下で中庭にいたが、大祭司の女中のひとりがきて、67 ペテロが火にあたっているのを見ると、彼を見つめて、「あなたもあのナザレ人イエスと一緒にだった」と言った。68 するとペテロはそれを打ち消して、「わたしは知らない。あなたの言うことがなんの事か、わからない」と言って、庭口の方に出て行った。69 ところが、先の女中が彼を見て、そばに立っていた人々に、またもや「この人はあの仲間のひとりです」と言いだした。70 ペテロは再びそれを打ち消した。しばらくして、そばに立っていた人たちがまたペテロに言った、「確かにあなたは彼らの仲間だ。あなたもガリラヤ人だから」。71 しかし、彼は、「あなたがたの話しているその人のことは何も知らない」と言い張って、激しく誓いはじめた。72 するとすぐ、にわとりが二度目に鳴いた。ペテロは、「にわとりが二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、そして思いかえして泣きつづけた。
- ルカではこのあと「財布と袋と剣」の記事の挿入 (ルカ 22:35-38)
 - 35 そして彼らに言われた、「わたしが財布も袋もくつも持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか」。彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。36 そこで言われた、「しかし今は、財布のあるものは、それを持って行け。袋も同様に持って行け。また、つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。37 あなたがたに言うが、『彼は罪人のひとりに数えられた』とするしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」。38 弟子たちが言った、「主よ、ごらんなさい、ここにつるぎが二振りございます」。イエスは言われた、「それでよい」。
- 賛美：「大ハレル」詩篇 115-118 篇の詠唱され、第四の杯が回され「ハレルの結び」詩篇 120-137 篇が詠唱が通常の過越祭の晩餐とすると、この最後の部分が、歌われた可能性がある。
 - 詩篇 115-118 篇は、一般的な賛美だが、詩篇 120-137 篇はそれぞれに特別な意味がある賛美であるように思われる。
 - 詩篇 120 都もうでの歌 1 わたしが悩みのうちに、主に呼ばわると、／主はわたしに答えられる。2 「主よ、偽りのくちびるから、／欺きの舌から、わたしを助け出してください」。3 欺きの舌よ、おまえに何が与えられ、／何が加えられるであろうか。4 ますらおの鋭い矢と、／えにしだの熱い炭とである。5 わざわいなるかな、わたしはメセクにやどり、／ケダルの天幕のなかに住んでいる。6 わたしは久しく平安を憎む者のなかに住んでいた。7 わたしは平安を願う、／しかし、わたしが物言うと

き、彼らは戦いを好む。

- － 詩篇 121 都もうでの歌 1 わたしは山にむかって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。2 わが助けは、天と地を造られた主から来る。3 主はあなたの足の動かされるのをゆるされない。あなたを守る者はまどろむことがない。4 見よ、イスラエルを守る者は／まどろむこともなく、眠ることもない。5 主はあなたを守る者、／主はあなたの右の手をおおう陰である。6 昼は太陽があなたを撃つことなく、／夜は月があなたを撃つことはない。7 主はあなたを守って、すべての災を免れさせ、／またあなたの命を守られる。8 主は今からとこしえに至るまで、あなたの出ると入るとを守られるであろう。

- エルサレムからゲッセマネまで（榊原康夫「マタイ福音書講解（下巻）」より）

- － エルサレムの家々ではあかりがついており、ある家では、真夜中に扉の開かれる神殿に参詣しようと、支度をととのえています。にぎやかな町中を過ぎ、北の門をでると、都の東を、ケデロンの谷川が流れています。過越のいけにえの血が混じって、ひときわどす黒い水は、満月の光のきらめきを浮かべています。そこを渡って、ダラダラ坂を四、五十メートルも上ると、道の右手に、今も「ゲッセマネの園」として観光客に指さされる一画があり、イエスが祈られたときの、オリーブの木と言われる老木さえ、指摘されます。

- ゼカリヤ 13:1-9

- － 1 その日には、罪と汚れとを清める一つの泉が、ダビデの家とエルサレムの住民とのために開かれる。2 万軍の主は言われる、その日には、わたしは地から偶像の名を取り除き、重ねて人に覚えられないことのないようにする。わたしはまた預言者および汚れの霊を、地から去らせる。3 もし、人が今後預言するならば、その産みの父母はこれにむかって、『あなたは主の名をもって偽りを語るゆえ、生きていることができない』と言い、その産みの父母は彼が預言している時、彼を刺すであろう。4 その日には、預言者たちは皆預言する時、その幻を恥じる。また人を欺くための毛の上着を着ない。5 そして『わたしは預言者ではない、わたしは土地を耕す者だ。若い時から土地を持っている』と言う。6 もし、人が彼に『あなたの背中の傷は何か』と尋ねるならば、『これはわたしの友だちの家で受けた傷だ』と、彼は言うであろう。7 万軍の主は言われる、「つるぎよ、立ち上がってわが牧者を攻めよ。わたしの次に立つ人を攻めよ。牧者を撃て、その羊は散る。わたしは手をかえして、小さい者どもを攻める。8 主は言われる、全地の人の三分の二は断たれて死に、三分の一は生き残る。9 わたしはこの三分の一を火の中に入れ、銀をふき分けるように、これをふき分け、金を精錬するように、これを精錬する。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『彼らはわが民である』と言い、彼らは『主はわが神である』と言う」。

- つまずかせる（ : to put a stumbling block or impediment in the way, upon which another may trip and fall, metaph. to offend)

- － マルコ 6:3 この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。

- マルコ 9:42-47 42 また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海に投げ込まれた方が、はるかによい。43 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になって命に入る方がよい。44 (地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。) 45 もし、あなたの片足が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。46 (地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。) 47 もし、あなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出さない。両眼がそろったままで地獄に投げ入れられるよりは、片目になって神の国に入る方がよい。
 - マルコ 14:27-29 27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。29 するとペテロはイエスに言った、「たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません」。
 - ヨハネ 6:60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。61 しかしイエスは、弟子たちがそのことでつぶやいているのを見破って、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまずきになるのか。62 それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役に立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。65 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとりとは悪魔である」。71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。
 - テルトリアヌス『ディダスカリア 2:8』弟子たちは、眠りに陥ったので試みられ、そこで彼らは、主が捕えられる時に主を捨てた。主と共に踏みとどまって剣を振るった者さえも。そこで、彼は、三度も主をしないと言いさえた。なぜなら『聖書は「試みられない人はだれも受け入れられない」と言っている』
 - The Didascalia apostolorum in English [\[Link1\]](#) [\[Link2\]](#)
 - ルイス：我知れりと思っている人を教えるのは、なんと難しいことだろう。(中略) もっとも信頼できないものは自分に対する信頼であり、あらゆる賜物のうちでもっとも欲しいものは教えを受けるのに素直な心である。
 - コリント人への第二の手紙 13:5
- あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・

キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。

- 詩篇 94:17,18 もしも主がわたしを助けられなかったならば、／わが魂はとくに音なき所に住んだであろう。18 しかし「わたしの足がすべる」と思ったとき、／主よ、あなたのいつくしみは／わたしをささえられました。

4.87.6 記録

- 日時：2025 年 2 月 6 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）7 名、参加（遠隔）3 名

4.87.7 問いについて

1. 12-25 節を復習しましょう。イエスは、どのようなことを弟子たちに語っていましたか。

- 13 そこで、イエスはふたりの弟子を使いに出して言われた、「市内に行くと、水がめを持っている男に出会うであろう。その人について行きなさい。14 そして、その人がはいて行く家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます』。15 するとその主人は、席を整えて用意された二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために用意をしなさい」。
- 18 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。
- 20 イエスは言われた、「十二人の中のひとりで、わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者が、それである。21 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。
- 22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。
- 24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日まで、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。
- 主として三つのことが伝えられている。
 1. 十二人の一人が裏切ろうとしている。（誰かは明かされていない）
 2. イエスは去っていく。

3. パンと杯を、イエスの体、血、(新しい) 契約として共に、食す。(イエスの死の意味)

2. 晩餐のあとのようすは、どのように描かれていますか。(26)

- 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。
- 通常の過越祭の晩餐と似た雰囲気でもある。
- 「ハレル (の結び)」詩篇 120-137 篇または、詩篇 113-118 編などの詠唱。詩篇 150 篇までは、賛美が続く。
- [DQ] 弟子たち、どのような気持ちだったのだろうか。
 - － 不吉さを感じつつも、過越祭の晩餐を感謝していたのではないだろうか。それ以上のことは、受け取る余裕がなかったかもしれない。

3. イエスはどのように語りますか。(27,28)

- 27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。
- [A] あなた方は皆といっている。羊飼いは、イエス、羊は、弟子たちだろう。さらに、イエスはよみがえりまで、通して語っており、「あなたがたより先にガリラヤへ行く」とも言っている。
- ゼカリヤ 13:7 万軍の主は言われる、「つるぎよ、立ち上がってわが牧者を攻めよ。わたしの次に立つ人を攻めよ。牧者を撃て、その羊は散る。わたしは手をかえして、小さい者どもを攻める。
 - － 引照箇所とされるが、本当にそうだろうか。ゼカリヤの文脈に必ずしもあっているとは限らない。イエスはほんとうに、この旧約聖書のことばから、自分が撃たれることをのべたのだろうか。
- [参照] 14:21 たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」。
- [参照] 14:50 弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。
- [参照] 16:7 今から弟子たちとペテロとの所へ行って、こう伝えなさい。イエスはあなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて、あなたがたに言われたとおりに、そこでお会いできるであろう、と」。
- [DQ] 裏切る (18) ことと、つまずくことと、見捨てることは、本質的に異なるのでしょうか。
- [DQ] 前半は、なにを伝えているのでしょうか。
 - － つまずかせる (: to put a stumbling block or impediment in the way, upon which another may trip and fall, metaph. to offend)

- [DQ] 後半の部分は、どのように理解したら良いでしょうか。昔と同じ状態に戻るということでしょうか。

－ [A] イエスも、正確には理解できていなかったのかもしれない。

－ [A] よみがえってからでないと、イエスの死と復活について伝わらないと考えたのだろうか。

－ (参照) マルコ 16:7 今から弟子たちとペテロとの所へ行つて、こう伝えなさい。イエスはあなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて、あなたがたに言われたとおり、そこでお会いできるであろう、と」。(マタイ 28:10)

－ (参照) マルコ 1:14,15 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、15 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。

－ (備考) ルカやヨハネには、ガリラヤに行くことは書かれていない。また、復活も、ルカでは、エルサレム周辺でのことのみ描かれ、昇天も、ベタニヤ (ルカ 24:50-53) または、エルサレム周辺となっている。

* (参照) 使徒 1:3,4 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

* ヨハネでは、エルサレム (20 章) とガリラヤ (21 章) で復活後弟子たちに現れている。しかし、昇天については、描かれていない。

4. このあと、ペテロはどのように主張し、イエスはどうか応答しますか。(29-31)

- 29 するとペテロはイエスに言った、「たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません」。30 イエスは言われた、「あなたによく言うておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう」。31 ペテロは力をこめて言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。みんなの者もまた、同じようなことを言った。
- [A] みなと自分を比較している。
- [A] 最後に、「みんなのもの」のこともついている。

5. ペテロは、なぜこれほど強く言い切るのでしょうか。

- [DQ] ペテロは、14:19 で、「まさか、わたしではないでしょう」と言った中にはいなかったのでしょうか。どのような気持ちで、イエスの言葉を聞いていたのでしょうか。

－ 14:18,19 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとし

ている」。19 弟子たちは心配して、ひとりひとり「まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。

- [DQ] ルカやヨハネはこのときのことをどのように伝えていますか。

ー ルカ：ペテロの焦点をあてている。そして、立ち直ったあとのことについても伝えている。

* 31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。

* 1 ペテロ 5:8,9 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのよう、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。9 この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、抵抗しなさい。あなたがたのよく知っているとおり、全世界にいるあなたがたの兄弟たちも、同じような苦しみの数々に会っているのである。

* ペテロたちの高慢の印象は弱められ、彼らの挫折には悪魔の暗躍が、立ち直りには、主の祈りがあることが強調される。超自然的なもの。

ー ヨハネ：どこにいくかがわからないことに焦点があたっている。

* 36 シモン・ペテロがイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのですか」。イエスは答えられた、「あなたはわたしの行くところに、今はついて来ることはできない。しかし、あとになってから、ついて来ることになるだろう」。37 ペテロはイエスに言った、「主よ、なぜ、今あなたについて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」。

* ヨハネ 14:28 『わたしは去って行くが、またあなたがたのところに帰って来る』と、わたしが言ったのを、あなたがたは聞いている。もしわたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるであろう。父がわたしより大きいからだであるからである。

6. イエスには、どのような思いがあるのでしょうか。

- [DQ] 弟子たちが、裏切る、見捨てる、知らないということを、イエスはどのように考えておられたのでしょうか。

ー [Q] そのあと戻ってくることを知っていたから、べつに大したことではなかったのでしょうか。

- [DQ] ヨハネ 6 章の記事とはどのような関係にあるのでしょうか。

ー ヨハネ 6:66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。

- [DQ] イエスにとって、イスカリオテのユダと、ペテロなど他の弟子たちとは、決定的な違いがあったのでしょうか。

ー [A] 一般的にはあると考えられていると思う。

* ユダは計画的、ペテロなど、弟子たちは、とっさのこと。無計画。

－ [A] 差はないのではないか。

* マルコでは、不明としか言えない。ただ、情報は仕入れていたかも知れない。

• [DQ] イエスは、誰が、裏切るか、だれは、戻ってくるか知っていたのでしょうか。

－ ヨハネ 6:64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。

－ ヨハネ 6:70,71 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとは悪魔である」。71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

－ ヨハネ 13:24 そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った、「だれのことをおっしゃったのか、知らせてくれ」。25 その弟子はそのままイエスの胸によりかかって、「主よ、だれのことですか」と尋ねると、26 イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。27 この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。

4.87.8 メモ

- 福音書の差異：マタイは、マルコと非常に似ている。かろうじてことなるのは、マルコでは「にわとりが二度鳴く前に」とある「二度」を削除、ペテロが「力をこめて」言った部分の「力をこめて」が削除されていることのみである。ルカでは、全員に語られたと思われる、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。」から始まる部分はなく、また、「しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」も書かれていない。また、ルカには「31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。が付け加えられている。また、ペテロのことばに「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」(33)と、修正が加えられている。ヨハネでは「たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。」(マルコ 14:21)に呼応するように、または、ヨハネの新しい戒めの項「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」(ヨハネ 13:34,35)のひとつ前にある、「子たちよ、わたしはまだしばらく、あなたがたと一緒にいる。あなたがたはわたしを捜すだろうが、すでにユダヤ人たちに言ったとおり、今あなたがたにも言う、『あなたがたはわたしの行く所に来ることはできな

い』。」(ヨハネ 13:33)に関連づけるように、「主よ、なぜ、今あなたについて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」。(ヨハネ 13:37)と言っている。イエスが去っていくことと、裏切ろうとしているものがある、そして、新しい契約という、重大なことが語られているなかで、最初の部分に反応していることになる。死の意味や、新しい契約には、まだ心が行っていないということなのだろう。

4.88 14:32-42 ゲツセマネで祈る

32 さて、一同はゲツセマネという所に来た。そしてイエスは弟子たちに言われた、「わたしが祈っている間、ここにすわっていなさい」。33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。39 また離れて行って同じ言葉で祈られた。40 またきてごらんになると、彼らはまだ眠っていた。その目が重くなっていたのである。そして、彼らはどうお答えしてよいか、わからなかった。41 三度目にきて言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。もうそれでよかろう。時がきた。見よ、人の子は罪人らの手に渡されるのだ。42 立て、さあ行こう。見よ。わたしを裏切る者が近づいてきた」。

4.88.1 マタイ 26:36-46

36 それから、イエスは彼らと一緒に、ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、「わたしが向こうへ行って祈っている間、ここにすわっていなさい」。37 そしてペテロとゼベダイの子ふたりとを連れて行かれたが、悲しみを催しまた悩みはじめられた。38 そのとき、彼らに言われた、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさましていなさい」。39 そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」。40 それから、弟子たちの所にきてごらんになると、彼らが眠っていたので、ペテロに言われた、「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていことが、できなかったのか。41 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。42 また二度目に行って、祈って言われた、「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように」。43 またきてごらんになると、彼らはまた眠っていた。その目が重くなっていたのである。44 それで彼らをそのままにして、また行って、三度目に同じ言葉で祈られた。45 それから弟子たちの所に帰ってきて、言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。見よ、時が迫った。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。46 立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいてきた」。

4.88.2 ルカ 22:39-46

39 イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。40 いつもの場所に
着いてから、彼らに言われた、「誘惑に陥らないように祈りなさい」。41 そしてご自分は、石を投げてとど
くほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、42 「父よ、みこころならば、どうぞ、この
杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてくださ
い」。43 そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。44 イエスは苦しみもだえて、ますます切
に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。45 祈を終えて立ちあがり、弟子たちの
ところへ行かれると、彼らが悲しみのはて寝入っているのをごらんになって 46 言われた、「なぜ眠ってい
るのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」。

[マルコによる福音書 14 章 32-42 節福音書対照表](#)

4.88.3 問い

1. 12-31 節をよみ、イエスと弟子たちについて復習しましょう。
2. イエスは、弟子たちにどのようなことを期待していますか。(32-34)
3. イエスはどのように祈りますか。(35-36)
4. イエスは弟子たちにどのように言っていますか。(37-41)
5. イエスは、最後になんと言っていますか。(42)
6. イエスの恐れ(33)、悲しみ(34)、そして願い(35,36)は、どのようなものだと思いますか。(33-36を中
心に)

4.88.4 参照

- 地図 (Map) : 受難週のエルサレム (The Passion Week in Jerusalem) [[参照](#)]
- ゲッセマネ (Γεσημανη : from press, and oil) : 油搾り
 - ヨハネ 18:2 イエスを裏切ったユダは、その所をよく知っていた。イエスと弟子たちとがたびたびそ
こで集まったことがあるからである。
- ペテロ、ヤコブ、ヨハネ
 - マルコ 5:37 そしてペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許
しにならなかった。(ルカ 8:51)
 - マルコ 9:2 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。と
ころが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、(マタイ 17:1 「ペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネ」、

ルカ 9:28)

- マルコ 14:33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、(マタイは、ゼベタイの子ら)
- [参照] マルコ 13:3 またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。
- 目をさましていなさい。(「目をさま」で検索) : i. watch, ii. metaph. give strict attention to, be cautious, active. Strong Definition: be vigilant, wake, (be) watch(-ful).
 - マルコ 14:34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。(マタイ 26:38)
 - マルコ 14:37,38 37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。(マタイ 26:40,41)
 - * 肉体が弱い？夜通し漁をする：ルカ 5:5, ヨハネ 21:3、夜通し漕ぐマタイ 14:24-35
 - マルコ 13:33-37 33 気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。34 それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。35 だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。36 あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。37 目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである」。(マタイ 24:42,43)
 - * ルカ 21:36 これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい。
 - マタイ 25:13 だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。
 - ルカ 9:32 ペテロとその仲間の者たちとは熟睡していたが、目をさますと、イエスの栄光の姿と、共に立っているふたりの人々を見た。
 - 1 コリント 16:13 目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。
 - エペソ 5:13 絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。
 - コロサイ 4:2 目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい。
 - 1 テサロニケ 5:6 だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう。
 - 1 ペテロ 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。
 - 使徒 20:31 だから、目をさましていなさい。そして、わたしが三年の間、夜も昼も涙をもって、あなたがたひとりびとりを絶えずさとしてきたことを、忘れないでほしい。
 - 黙示録 3:2,3 2 目をさましていて、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたのわざが、わたしの神のみまえに完全であるとは見ていない。3 だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。もし目をさまして

いないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。

－ 黙示録 16:15 (見よ、わたしは盗人のように来る。裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。)

－ (参考) 箴言 6:9 なまけ者よ、いつまで寝ているのか、／いつ目をさまして起きるのか。

● 恐れおののき、また悩みはじめて「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。」

－ 詩篇 42:5 わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、／わが神なる主をほめたたえるであろう。

－ 詩篇 42:11 わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、／わが神なる主をほめたたえるであろう。

－ 詩篇 43:5 わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、／わが神なる主をほめたたえるであろう。

－ ヨナ 4:9 しかし神はヨナに言われた、「とうごまのためにあなたの怒るのはよくない」。ヨナは言った、「わたしは怒りのあまり狂い死にそうです」。

－ (参考) 詩篇 22:15 わたしの力は陶器の破片のようにかわき、／わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを死のちに伏させられる。

－ (参考) 詩篇 116:3 死の綱がわたしを取り巻き、／陰府の苦しみがわたしを捕えた。わたしは悩みと悲しみにあった。

－ ヘブル 5:7-10 7 キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいれられたのである。8 彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、9 そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり、10 神によって、メルキゼデクに等しい大祭司と、となえられたのである。

－ 2 コリント 5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

● [Q] マルコ 14:33,34 には「33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。とありますが、この恐れ慄き、死ぬほどの悲しみの内容については、どのように考えられていますか。いくつかの説や引用なども教えてください。

－ ChatGPT: マルコ 14:33-34 で描かれるイエスの「恐れおののき」「死ぬほどの悲しみ」の内容について、いくつかの解釈があります。以下に代表的な説を紹介します。

1. 迫りくる十字架の苦しみ (伝統的解釈)

＊ (1) 肉体的苦痛の恐れ: この場面はゲツセマネの園での祈りのシーンであり、イエスは十字架にかかる直前の心境を表しています。伝統的なキリスト教の解釈では、イエスはこれから受けるむち打ち、嘲笑、十字架刑という極度の肉体的苦痛を思い、恐れおののいたとされます。

・ ルカ 22:44 では「汗が血のしずくのように地に落ちた」と記されており、極度のストレスが原因で毛細血管が破れる「血汗症 (ヘマトヒドロシス)」の可能性も示唆されています。

- ・ イザヤ 53:5「彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれた」とあるように、受難の預言と関連づけられます。
- * (2) 霊的苦痛（罪の担い手としての苦しみ）：単なる肉体的な苦痛だけでなく、イエスは全人類の罪を背負い、神の裁きを受けることへの恐れを抱いていたとも解釈されます。
 - ・ コリント 5:21「神は、罪を知らない方を、私たちのために罪とされました。」
 - ・ マタイ 27:46「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになったのですか。」
 イエスは罪そのものとなり、父なる神との交わりが断たれる苦しみを感じていたと考えられます。
- 2. サタンの攻撃（霊的戦い）：一部の神学者や解釈では、このゲツセマネの場面はサタンとの最終的な霊的戦いとされています。
 - * ルカ 4:13 では「悪魔はすべての試みを終え、時が来るまでイエスを離れた」とあり、ゲツセマネで再びサタンがイエスを誘惑した可能性があります。
 - * イエスが「父よ、できることなら、この杯をわたしから取り除いてください」（マルコ 14:36）と祈ることからも、葛藤が見られます。
 しかし、イエスは最終的に「御心のままに」と神の意志に従う決断をされました。
- 3. 弟子たちの裏切りと孤独：イエスは人間的な感情としても、最も親しい弟子たちに裏切られ、孤独になることを悲しんでいたと考えられます。
 - * マルコ 14:50「弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ去った。」
 - * マルコ 14:72「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう（ペテロの裏切り）」
 イエスは人間的な愛をもって弟子たちを愛していましたが、彼らの弱さによって見捨てられることも悲しみの一因であったとされます。
- 4. 人類の救いへの愛：もう一つの解釈は、イエスが「死ぬほどの悲しみ」を感じたのは、人類の罪とその滅びを思う悲しみだったというものです。
 - * ルカ 19:41「エルサレムのために涙を流された」
 - * ヨハネ 3:16「神は、そのひとり子を賜ったほどに、世を愛された」
 イエスは単に自身の苦しみを恐れていたのではなく、人類の救いのために深い悲しみを覚えていたという見方もあります。
- 5. 神の御心への従順の葛藤：イエスは完全な神でありながら完全な人間でもありました。そのため、「この杯を取り除いてください」（マルコ 14:36）と祈ることは、神の御心に完全に従うことへの葛藤を表していると考えられます。
 - * ヘブル 5:7-8「キリストは、その苦しみの中で涙をもって祈り、神に従うことを学ばれた。」
 - * イエスは最終的に「しかし、わたしの願いではなく、御心のままに」と祈り、神の意志に従われました。
 これは、信仰者が苦しみの中で神に従う姿勢の模範ともされています。
- * 結論：マルコ 14:33-34 の「恐れおののき、死ぬほどの悲しみ」には、複数の要素が絡んでいると考えられます。
 1. 十字架の肉体的苦しみ（伝統的解釈）

2. 全人類の罪を負う霊的苦しみ（神の裁きを受ける）
 3. サタンの誘惑と霊的戦い
 4. 弟子たちの裏切りと孤独
 5. 人類の救いへの愛と悲しみ
 6. 神の御心への従順の葛藤
- パークレイ『マルコによる福音書』(p.413-414)
 1. イエスは死を望んでいなかった。
 2. どうしてこうならなければならないかをイエスは完全には理解しておられなかった。
 3. イエスは神の意志に服従した。
 - ヨハネにはないが、イエスの祈りは、17 章に記録されている。
 - － 1b 父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。
 - － 2,3 あなたは、子に賜ったすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。3 永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。
 - － 11 わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜った御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。
 - － 21-23 父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。22 わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。23 わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。
 - － 26 そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれからも知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります
 - 誘惑に陥らないようには、福音書では、ここのみ。
 - － マルコ 14:38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。
 - － ガラテヤ 6:1 兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。
 - － ヤコブ 1:13,14 だれでも誘惑に会う場合、「この誘惑は、神からきたものだ」と言ってはならない。神は悪の誘惑に陥るようなかたではなく、また自ら進んで人を誘惑することもなさない。14 人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである。
 - マタイ最後のたとえ（25 章）
 - － 11-13 そのあとで、ほかのおとめたちもきて、『ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください』と言った。12 しかし彼は答えて、『はっきり言うが、わたしはあなたがたを知らない』と言った。13 だが

ら、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。

- 30 この役に立たない僕を外の暗い所に追い出すがよい。彼は、そこで泣き叫んだり、歯がみをした
りするであろう』。
- 40 すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの
最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。
- 45 そのとき、彼は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。これらの最も小さい者のひ
とりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである』。

• 杯

- マルコ 10:38,39 38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。
あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。39 彼
らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わた
しが受けるバプテスマを受けるであろう。(マタイ 20:22,23)
- マルコ 14:23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。(マタイ 26:27、
ルカ 22:17,20)
- ヨハネ 18:11 すると、イエスはペテロに言われた、「剣をさやに納めなさい。父がわたしに下さった
杯は、飲むべきではないか」。
- イザヤ 51:17 エルサレムよ、起きよ、起きよ、立て。あなたはさきに主の手から憤りの杯をうけて飲
み、／よろめかす大杯を、滓までも飲みほした。
- イザヤ 51:22 あなたの主、おのが民の訴えを弁護される／あなたの神、主はこう言われる、／「見よ、
わたしはよろめかす杯を／あなたの手から取り除き、／わが憤りの大杯を取り除いた。あなたは再び
これを飲むことはない。
- エレミヤ 25:15 イスラエルの神、主はわたしにこう仰せられた、「わたしの手から、この怒りの杯を
受けて、わたしがあなたをつかわす国々の民に飲ませなさい。
- エレミヤ 25:17 こうしてわたしは主の手から杯を受け、主がわたしをつかわされた国々の民に飲ませ
た。
- エゼキエル 23:31 あなたはその姉の道を歩んだので、わたしも彼女の杯をあなたにわたす。
- ハバクク 2:16 あなたは誉の代りに恥に飽き、／あなたもまた飲んでよろめけ。主の右の手の杯は、あ
なたに巡り来る。恥はあなたの誉に代る。
- ゼカリヤ 12:2 「見よ、わたしはエルサレムを、その周囲にあるすべての民をよろめかす杯にしよう
としている。これはエルサレムの攻め囲まれる時、ユダにも及ぶ。

• マルコ 10:24-31

- 24 弟子たちはこの言葉に驚き怪しんだ。イエスは更に言われた、「子たちよ、神の国にはいるのは、
なんとむずかしいことであろう。25 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る
方が、もっとやさしい」。26 すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われる
ことができるのだろう」。27 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。
神はなんでもできるからである」。28 ペテロがイエスに言い出した、「ごらんなさい、わたしたちはい
っさいを捨てて、あなたに従って参りました」。29 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれ
でもわたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、もしくは畑を捨てた者は、30

必ずその百倍を受ける。すなわち、今この時代では家、兄弟、姉妹、母、子および畑を迫害と共に受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受ける。31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。

4.88.5 記録

- 日時：2025 年 2 月 13 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.88.6 問いについて

1. 12-31 節をよみ、イエスと弟子たちについて復習しましょう。

- 木：準備の日、夜（ユダヤのカレンダーでは金）過越祭の食事
 - － 十二弟子以外にも、女性たちや、家の人たちもいたかもしれない。
 - * 皆にとって過越祭の食事は重要（どこかでは必ず食べる）
 - * 「あなたがたの中のひとり」→「十二人の中のひとり」裏切ろうとしている。
 - * ヨハネのイエスの愛しておられた弟子（ヨハネ 13:23）もいたことは確か（ヨハネ 21:2 「ゼベダイの子ら」とは異なる人と思われる）
- 主として以下のことが伝えられている。
 1. 十二人の一人が裏切ろうとしている。（誰かは明かされていない）
 2. イエスは去っていく。
 3. パンと杯を、イエスの体、血、（新しい）契約として共に、食す。（イエスの死の意味）
 4. 皆が、つまづくこと、そして、イエスは、よみがえってから、先にガリラヤに行く。
 5. ペテロが他のひとがつまずいても、自分はつまづかないと強く主張。他の弟子も、同調する。
- [DQ] イエスにとっては、この食事は、どのような意味があったのでしょうか。
 - － 最後の特別の晩餐。弟子たちに、たいせつなことをすべて伝えたいと思っていたと思われる。しかし、十分は伝わらないこともおそらくある程度知っていた。
- [DQ] 弟子たちにとっては、この晩のことは、どのようなものとして記憶されていたのだろうか。

- － イエスとの最後の晩餐、夜であるにもかかわらず、結局、確信をもって従えず、躓かないといいつつ、イエスを否み、イエスが捕まる時には見捨てて逃げてしまった失敗体験の日。

2. イエスは、弟子たちにどのようなことを期待していますか。(32-34)

- 32 さて、一同はゲツセマネという所に来た。そしてイエスは弟子たちに言われた、「わたしが祈っている間、ここにすわっていなさい」。33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。
- [DQ] 「ここにすわっていなさい」とは何を意味しているのでしょうか。
 - － [Q] 目をさましているのとは、違う？
- [DQ] 「目をさましていなさい」とは何を意味しているのでしょうか。
 - － 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである(14:38)
- [DQ] ペテロ、ヤコブ、ヨハネには、どうしますか。
 - － 34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。
- [DQ] 「ここに座っていなさい」、「ここに待っていて、目を覚ましていなさい」はなにを求めているのでしょうか。
 - － 共にいることを願っているように見える。
 - － [Q] マタイ 26:38b では「ここに待っていて、わたしと一緒に目をさましていなさい」
 - － マルコ 13:33-37 気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。(33)
 - － マタイ 25:13 だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。
 - － 1 ペテロ 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけのしのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。
 - － [A] おそらく、箴言 6:9 のような一般的なことや、マルコ 13 章、マタイ 25:13 などの、最後の時・再臨の時のような特別なときではなくても、目を覚ましているべき時があり、このときも、おそらく、そのような時だったのだろう。イエスとの特別な時を共に、恐れ慄き、悩み、悲しみを共にする時。
- [DQ] 「恐れおののき、また悩みはじめて」とはどのようなことを伝えているのでしょうか。
 - － 最後に残った弟子たちの中にも裏切ろうとしているものがおり、皆も、つまづこうとする中で、ひとり、未知の困難に向き合うこと。(だれにでもありそうなこと。)
 - － 神から離れて、呪われた存在となることの恐怖からおそれ慄き、悩み始めたのか。(人には、理解できない、イエスならではの、苦しみ。)
- (参考) マタイ 26:38b わたしと一緒に目をさましていなさい。
- (参考) マタイ 26:40b あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることが、できなかったのか。
- (参考) ルカ 22:28-30 28 (シモンに語りかける直前) あなたがたは、わたしの試練のあいだ、わたし

と一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。29 それで、わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、30 わたしの国で食卓について飲み食いをさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。

3. イエスはどのように祈りますか。(35-36)

- 35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時（ ）を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、36 「アバ（ ）、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。
- [DQ] イエスは、何を願っているのでしょうか。
 - － この時を過ぎ去らせてくださるように
 - * 復活への期待。その前に何を恐れていたのか。
 - － この杯をわたしから取りのけてください。
 - － [Q] 杯とは何ですか。
 - * マルコ 10:38,39 38 イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。39 彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。(マタイ 20:22,23)
 - * マルコ 14:23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。(マタイ 26:27、ルカ 22:17,20)
 - * ヨハネ 18:11 すると、イエスはペテロに言われた、「剣をさやに納めなさい。父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか」。
 - * 旧約では杯=裁き
 - ・ イザヤ 51:17,22、エレミヤ 25:15,17
 - － [DQ] 「わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」すなわち、御心に委ねるということは何を意味しているのだろうか。御心に委ねたにということは、なにを意味しているのだろうか。
 - * [A] 単に、最善を祈るということではなく、さまざまなひとの動き、その背後にある、神様に委ねると言う面もあり、非常に複雑なものを引き受けることになる。
 - － [DQ] 神（祈る対象）は、どのような方だと認識していたのでしょうか。
 - － アバ、父よ、あなたには、できないことはありません
 - * おそらく、神が選択しないことと、言う意味でできないことがあることは知っていたと思われる
 - － みこころは完全

4. イエスは弟子たちにどのように言っていますか。(37-41)

- 37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。38 誘惑（
：an experiment, attempt, trial, proving）に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。39 また離れて行って同じ言葉で祈られた。40 またきてごらんになると、彼らはまだ眠っていた。その目が重くなっていたのである。そして、彼らはどうお答えしてよいか、わからなかった。41 三度目にきて言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。もうそれでよかろう。時がきた。見よ、人の子は罪人らの手に渡されるのだ。
- [DQ] これは、どのような言葉なのでしょう。
 - － 叱責
 - － 訓練
 - － 憐れみ
 - － その他
- [DQ] 弟子たちは、なぜ、目を覚ましていることができなかったのでしょうか。
 - － 心は熱しているが、肉体が弱い
 - － （参考）ルカ 22:43 そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。
- [DQ] 弟子たちは、あとから、このときのことをどのように振り返ったのでしょうか。
 - － 失敗。弱さの自覚
 - － マタイ 25:13 のように、目を覚ましていることができなかった。これらのもっとも小さいもの。
- [DQ] ここで「誘惑」とはどのようなものなのでしょう。
 - － たいせつなものから、目をそらせるもの。
- [DQ] 「心は熱しているが、肉体が弱いのである」とは、どのような意味でしょうか。
 - － 夜を徹して、船を漕いだり、魚をとったりは、できていた。

5. イエスは、最後になんと言っていますか。（42）

- 42 立て、さあ行こう。見よ。わたしを裏切る者が近づいてきた」。
 - － [参照] マルコ 10:49 イエスは立ちどまって、「彼を呼べ」と命じられた。そこで、人々はその盲人を呼んで言った、「喜べ、立て、おまえを呼んでおられる」。
- [DQ] イエスの、どのような気持ちを表しているのでしょうか。
- [DQ] 弟子たちには、どのような印象を与えたのでしょうか。
- マルコ 10:32-34 32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあつたが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。
 - － このときの様子と似ている。
 - － この前には、「富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるの

だろう」。イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。ペテロがイエスに言い出した、「ごらんなさい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました」。(10:25-28)

－ [Q] このすべてを捨てて従ったペテロと、このときのイエスとは何が違うのか。

* [HS] 自分の責任を果たすことで十分か、神の御心に従うことを目指すかだろうか。

6. イエスの恐れ (33)、悲しみ (34)、そして願い (35,36) は、どのようなものだと思いますか。(33-36 を中心に)

- 33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。
- ChatGPT 概要
 1. 十字架の肉体的苦しみ (伝統的解釈)
 2. 全人類の罪を背負う霊的苦しみ (神の裁きを受ける)
 3. サタンの誘惑と霊的戦い
 4. 弟子たちの裏切りと孤独
 5. 人類の救いへの愛と悲しみ
 6. 神の御心への従順の葛藤
- [DQ] 弟子たちが、マタイ 25 章の三つのたとえを読んだとしたら、自分は、どの娘、どの僕だと思うだろうか。もっとも小さいものは、誰なのだろうか。
- [DQ] イエスにとって気にかかること・たいせつなことはどのようなことだったのだろうか。
 - － 弟子たちのこと
 - － 群衆や、さまざまな苦しむひとたちのこと
 - － 祭司長や指導者たちのこと
 - － 自分が直接関係していないひとたちのこと

4.88.7 メモ

- 福音書の差異：マタイは、マルコに似ているが、説明が加えられている。ルカは短いが、マルコ、マタイにはない、特別な表現が加えられている。まず、マルコでは「わたしが祈っている間」だが、マタイでは「わたしが向こうに行って祈っている間」である。マルコでは、三人の名前を上げているが、マタイでは、ヤコブとヨハネは、「ゼベダイの子ふたり」としている。「恐れおののき、また悩みはじめて」は、マタイでは「悲しみを催した悩みはじめられた」。また、「地にひれ伏し」は、「うつぶしになり」、「そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、

そして言われた、『アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください』。(35,36)は、マタイでは、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい」となっている。37節で、マルコでは、ペテロに「シモンよ」と語っているが、マタイでは、ペテロにと書きながら、「あなたがたは」と複数に語っている。「また離れて行って同じ言葉で祈られた。」(39)とあるところは、マタイでは「また二度目に行って、祈って言われた、『わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように』。」(26:42)とより詳しく説明している。ルカでは、ゲッセマネに行くところも、「いつものようにオリブ山に行かれる」としている。おそらく、狭い場所名を出すことに意味が感じられなかったであろう。弟子たちに最初から、「誘惑に陥らないように祈りなさい」と伝えている。どのぐらい離れたかについては「ご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた」としている。祈りの場面も、単純に「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と書いた後に、「そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」(43,44)が追加されている。最後も「祈を終えて立ちあがり、弟子たちのところへ行かれると、彼らが悲しみのほて寝入っているのをごらんになって言われた、『なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい』。」(22:45,46)と閉じている。ヨハネは、ゲッセマネでの祈りは書かれていないが、17章全体が、イエスの祈りとして書かれている。

- マタイでは、25章の三つのたとえが、最後の晩餐、そのまえの、イスカリオテのユダの裏切り、そして油注ぎの直前に置かれている。エルサレムでの論争や、律法学者や、パリサイ人非難、終末についてのことよりあとである。最後の譬えとして語られたかどうかは不明だが、弟子たちが、印象に残って覚えていたことであるとも思われる。Q資料については、詳細にはわかっていないが、マタイが記録したとも言われている、イエスの説教、譬えなどを集めた文書の最後にあったのかもしれない。イエスを裏切るかもしれないころのうちのをのぞから、まさか私ではないでしょうとイエスに聞くでしち、そして、みなわたしにつまづくといわれて、実際、起きていることもできず、イエスを残して逃げ去り、イエスを否むでしちが、最初に思い出したのは、この三つの譬えだったのかもしれない。そこでは、弟子たちは、だれと、自分を同一視しただろうか。おそらく、もっとも小さいもの、すなわち、油の準備もできていない、いただいたタラントも十分活用できない、外に放り出されるものだったのではないだろうか。そして、それが、もっとも小さいもの、そのもっともちいさいものに、することは、イエスにすること、これは、とても印象に残ったのではないだろうか。そして、たちあがり、そのようなイエスに従うものになっていった可能性もある。それが、復活の、内実だったかもしれない。聖餐の内実が互いに愛し合うことであったように。

- 全体的な問いについて

－ 弟子たちに期待したことはどのようなことなのだろうか。

* 少しでも、御心を求める、イエスの苦しみ、悲しみと共にいてほしい。

* すなわち、御心を共に求めるものであってほしい。

－ 恐れ慄（おのの）きとあるが、イエスの悲しみのないようななになのだろうか。

＊ 神のみこころを知る恐れ、理解できない怖さ

－ イエスのいのりはどのようなものだったのだろうか。何を求めているのだろうか。

＊ 上の二つが入り混じったものだったのではないだろうか。

4.89 14:43-50 裏切られ、逮捕される

43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユダが進みよってきた。また祭司長、律法学者、長老たちから送られた群衆も、剣と棒とを持って彼についてきた。44 イエスを裏切る者は、あらかじめ彼らに合図をしておいた、「わたしの接吻する者が、その人だ。その人をつかまえて、まちがいなく引っぱって行け」。45 彼は来るとすぐ、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。46 人々はイエスに手をかけてつかまえた。47 すると、イエスのそばに立っていた者のひとりが、剣を抜いて大祭司の僕に切りかかり、その片耳を切り落した。48 イエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたは強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。49 わたしは毎日あなたがたと一緒に宮にいて教えていたのに、わたしをつかまえはしなかった。しかし聖書の言葉は成就されねばならない」。50 弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。

4.89.1 マタイ 26:47-56

47 そして、イエスがまだ話しておられるうちに、そこに、十二弟子のひとりのユダがきた。また祭司長、民の長老たちから送られた大ぜいの群衆も、剣と棒とを持って彼についてきた。48 イエスを裏切った者が、あらかじめ彼らに、「わたしの接吻する者が、その人だ。その人をつかまえろ」と合図をしておいた。49 彼はすぐイエスに近寄り、「先生、いかがですか」と言って、イエスに接吻した。50 しかし、イエスは彼に言われた、「友よ、なんのためにきたのか」。このとき、人々は進み寄って、イエスに手をかけてつかまえた。51 すると、イエスと一緒にいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、そして大祭司の僕に切りかかって、その片耳を切り落した。52 そこで、イエスは彼に言われた、「あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる。53 それとも、わたしが父に願って、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか。54 しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就されようか」。55 そのとき、イエスは群衆に言われた、「あなたがたは強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。わたしは毎日、宮ですわって教えていたのに、わたしをつかまえはしなかった。56 しかし、すべてこうなったのは、預言者たちの書いたことが、成就するためである」。そのとき、弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。

4.89.2 ルカ 22:47-53

47 イエスがまだそう言っておられるうちに、そこに群衆が現れ、十二弟子のひとりでユダという者が先頭に立って、イエスに接吻しようとして近づいてきた。48 そこでイエスは言われた、「ユダ、あなたは接吻をもって人の子を裏切るのか」。49 イエスのそばにいた人たちは、事のなりゆきを見て、「主よ、つるぎで切りつけてやりましょうか」と言って、50 そのうちのひとりが、祭司長の僕に切りつけ、その右の耳を切り落した。51 イエスはこれに対して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった。52 それから、自分にむかって来る祭司長、宮守がしら、長老たちに対して言われた、「あなたがたは、強盗にむかうように剣や棒を持って出てきたのか。53 毎日あなたがたと一緒に宮にいた時には、わたしに手をかけなかった。だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」。

4.89.3 ヨハネ 18:3-12

3 さてユダは、一隊の兵卒と祭司長やパリサイ人たちの送った下役どもを引き連れ、たいまつやあかりや武器を持って、そこへやってきた。4 しかしイエスは、自分の身に起ろうとすることをことごとく承知しておられ、進み出て彼らに言われた、「だれを捜しているのか」。5 彼らは「ナザレのイエスを」と答えた。イエスは彼らに言われた、「わたしが、それである」。イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。6 イエスが彼らに「わたしが、それである」と言われたとき、彼らはうしろに引きさがって地に倒れた。7 そこでまた彼らに、「だれを捜しているのか」とお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスを」と言った。8 イエスは答えられた、「わたしがそれであると、言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせてもらいたい」。9 それは、「あなたが与えて下さった人たちの中のひとりも、わたしは失わなかった」とイエスの言われた言葉が、成就するためである。10 シモン・ペテロは剣を持っていたが、それを抜いて、大祭司の僕に切りかかり、その右の耳を切り落した。その僕の名はマルコスであった。11 すると、イエスはペテロに言われた、「剣をさやに納めなさい。父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか」。12 それから一隊の兵卒やその千卒長やユダヤ人の下役どもが、イエスを捕え、縛りあげて、

[マルコによる福音書 14 章 43-50 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 43-50,51-52 節福音書対照表 \(2 頁\)](#)

[マルコによる福音書 14 章 43-50,51-52 節福音書対照表 \(1 頁\)](#)

4.90 14:51-52 一人の若者、逃げる

51 ときに、ある若者が身に亜麻布をまとして、イエスのあとについて行ったが、人々が彼をつかまえようとしたので、52 その亜麻布を捨てて、裸で逃げて行った。

[マルコによる福音書 14 章 51-52 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 43-50,51-52 節福音書対照表 \(2 頁\)](#)

[マルコによる福音書 14 章 43-50,51-52 節福音書対照表 \(1 頁\)](#)

4.90.1 問い

1. 26 節から 42 節を復習しましょう。イエスと弟子たちはどこでどのようなことをしていますか。
2. イエスはどのようにして捕まえられますか。(43-46)
3. イエスのそばにいたものはどのような行動をしますか。(47)
4. イエスはどのように応じますか。(48,49)
5. 弟子たちはどうしましたか。(50)
6. 51 節から 52 節にはどのようなことが書かれていますか。(51-52)

4.90.2 参照

- 地図 (Map) : 受難週のエルサレム (The Passion Week in Jerusalem) [[参照](#)]
- この日の天候
 - ChatGPT: 過越祭 (ペサハ) は、ユダヤ暦のニサンの月の 14 日から始まり、これは太陰暦に基づいているため、毎年満月の時期と一致します。そのため、過越祭の期間中、エルサレムでは夜空に満月が輝いています。
エルサレムの 4 月中旬の天候は、平均的に晴天の日が多く、降水量も少ない傾向があります。しかし、具体的な晴天や曇天の割合に関する詳細なデータは見つかりませんでした。一般的には、過越祭の時期は乾燥した気候で、夜間は満月が見られることが多いとされています。
 - Perplexity: エルサレムでの過越祭 (ペサハ) の時期は、ユダヤ暦ニサン月 14 日から始まり、通常グレゴリオ暦では 3 月末から 4 月初旬にあたります。この時期は春にあたり、エルサレムの天候は比較的穏やかで、晴れの日が多い傾向にあります。天候の特徴
 - * 晴れと曇りの割合: エルサレムでは春の時期に快晴または晴れの日が多く、曇天の日は少ないです。具体的な割合として、快晴や晴れの日が 70~80% 程度を占めることが一般的です。
 - * 気温: 平均気温は日中で 15~20°C、夜間で 7~10°C 程度と過ごしやすい気候です。
 - * 降水量: 春は雨季の終わりにあたり、降水量は少なくなりますが、まれに短時間の雨が降ることもあります。満月について過越祭はユダヤ暦に基づいており、満月の夜から始まるため、この時期の夜空には満月が見えることが特徴です。ただし、天候によって雲に覆われる可能性もありますが、春のエルサレムでは晴れる確率が高いです。このように、過越祭の時期には比較的穏やかで晴れた天候が期待できるため、屋外での活動や宗教行事にも適した気候となっています。
- 接吻

- : i. to love, ii. to show signs of love, iii. to be fond of doing (マルコ 14:44)
- : to kiss much, kiss again and again, kiss tenderly (マルコ 14:45、マタイ 26:49)
 - * マルコ 14:45 彼は来るとすぐ、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。
 - ・ マタイ 26:49 49 彼はすぐイエスに近寄り、「先生、いかがですか」と言って、イエスに接吻した。
 - * ルカ 7:38 泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。
 - ・ ルカ 7:45 あなたはわたしに接吻をしてくれなかったが、彼女はわたしが家にはいった時から、わたしの足に接吻をしてやまなかった。
 - * ルカ 15:20 そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。
 - * 使徒 20:37 みんなの者は、はげしく泣き悲しみ、パウロの首を抱いて、幾度も接吻し、
- 45
 - * ChatGPT: ユダがイエスに対して「 」を使ったことは、単なる儀礼的な挨拶を超えた行為として描写されています。これはイエスを裏切る合図であると同時に、見た目には弟子としての敬愛を示す偽善的な行為でもありました。ギリシャ語の強調形は、この裏切り行為の皮肉さと、見せかけの熱情を強調しています。[2025.02.20]
- しかし聖書の言葉は成就されねばならない」。(49b)
 - 詩篇 22:7-19 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、／くちびるを突き出し、かしらを振り動かして言う、8 「彼は主に身をゆだねた、主に彼を助けさせよ。主は彼を喜ばれるゆえ、主に彼を救わせよ」と。9 しかし、あなたはわたしを生れさせ、／母のふところにわたしを安らかに守られた方です。10 わたしは生れた時から、あなたにゆだねられました。母の胎を出てからこのかた、／あなたはわたしの神でいらせられました。11 わたしを遠く離れないでください。悩みが近づき、助ける者がいないのです。12 多くの雄牛はわたしを取り巻き、／バシヤンの強い雄牛はわたしを囲み、13 かき裂き、ほえたけるししのよう、／わたしにむかって口を開く。14 わたしは水のように注ぎ出され、／わたしの骨はことごとくはずれ、／わたしの心臓は、ろうのように、胸のうちに溶けた。15 わたしの力は陶器の破片のようにかわき、／わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを死のちに伏させられる。16 まことに、犬はわたしをめぐり、／悪を行う者の群れがわたしを囲んで、／わたしの手と足を刺し貫いた。17 わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。18 彼らは互にわたしの衣服を分け、／わたしの着物をくじ引にする。19 しかし主よ、遠く離れないでください。わが力よ、速く来てわたしをお助けください。
 - イザヤ 53:3-12 彼は侮られて人に捨てられ、／悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、／彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。4 まことに彼はわれわれの病を負い、／われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、／彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、／われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、／われわれに平安を与え、／その打たれた傷によって、／われわれはいやされたのだ。6 われわれはみな羊のように迷って、／おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、／彼の上におかれた。7 彼はしえたげられ、

苦しめられたけれども、／口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、／また毛を切る者の前に黙っている羊のように、／口を開かなかった。8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、／彼はわが民のとがのために打たれて、／生けるものの地から断たれたのだと。9 彼は暴虐を行わず、／その口には偽りがなかったけれども、／その墓は悪しき者と共に設けられ、／その塚は悪をなす者と共にあった。10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、／主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、／その子孫を見ることができ、／その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、／多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、／とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、／とがある者のためにとりなしをした。

－ ルカ 22:37 あなたがたに言うが、『彼は罪人のひとりに数えられた』とするしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」。

－ ルカ 24:44 それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。

- Q. マルコ 14:51 の亜麻布はどのようなものですか。一般的な人が着るものですか、それとも、ある程度裕福な人が着るものでしょうか。

－ ChatGPT

マルコ 14:51 には、「ある若者が裸になって、亜麻布を身にまといイエスについて行ったが、群衆に捕まえられた。彼は亜麻布を捨てて裸で逃げた。」という記述があります。この「亜麻布」についてですが、当時の背景を考えるといくつかのことがわかります。

* 亜麻布の特徴

- ・ 高価な素材：亜麻布（ギリシャ語で「シンドン」）は、上質なりネン布を指しています。これは、エジプトなどで生産され、高価であり、主に裕福な人々が使用していました。
- ・ 用途：この布は、寝巻きや下着、または埋葬用の布として用いられることが多かったです。特に、埋葬用の布としての使用は、イエスの埋葬の際にも記述されています（マルコ 15:46）。

* 裕福な人の象徴？

- ・ 亜麻布は高価だったため、ある程度裕福な人が使用していたと考えられます。一般庶民は、より粗い羊毛や綿の衣服を着ていました。そのため、この若者は、経済的に余裕があった可能性があります。

* 特別な状況？

- ・ マルコ 14:51 の状況を考えると、この若者は寝巻きのまま急いで飛び出してきたとも解釈できます。これは、イエスの逮捕が夜中に急に行われたため、急いで家を出たことを示唆しているのかもしれませんが。

* まとめ

- ・ 亜麻布は高価で、裕福な人が身につけることが多かった。
- ・ この若者は、ある程度の経済的な余裕があった可能性がある。

- ・ イエスの逮捕の状況から、寝巻きのまま急いで出てきた可能性もある。
- － この解釈により、当時の社会状況や文化背景が少し見えてきます。他にも疑問点があれば、遠慮なく聞いてください。

4.90.3 記録

- ・ 日時：2025 年 2 月 20 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）4 名、参加（遠隔）3 名

4.90.4 問いについて

- 26 節から 42 節を復習しましょう。イエスと弟子たちはどこでどのようなことをしていますか。
 - ・ 41 三度目にきて言われた、「まだ眠っているのか、休んでいるのか。もうそれでよかろう。時がきた。見よ、人の子は罪人らの手に渡されるのだ。42 立て、さあ行こう。見よ。わたしを裏切る者が近づいてきた」。
 - ・ [DQ] いつのことですか。
 - － ニサンの月の 14 日が暮れて、15 日、おそらく AD30 年 4 月 7 日（太陽暦）の夜、満月で、晴れの日が多い（快晴や晴れの日が 70～80% 程度）。平均気温は日中で 15～20℃、夜間で 7～10℃ 程度と過ごしやすい気候。
 - ・ [DQ] どこにいますか。それは、どのような場所ですか。
 - － ルカ 22:39 イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。40 いつもの場所に到着してから、彼らに言われた、「誘惑に陥らないように祈りなさい」。
 - － ヨハネ 18:1,2 イエスはこれらのことを語り終えて、弟子たちと一緒にケデロン谷の向こうへ行かれた。そこには園があって、イエスは弟子たちと一緒にその中にはいられた。2 イエスを裏切ったユダは、その所をよく知っていた。イエスと弟子たちとがたびたびそこで集まったことがあるからである。
 - － オリーブの木が茂っていた。油搾り（ゲッセマネ）おそらく、富裕なユダヤ人所有の園
 - ・ [DQ] 最後はどのような場面で終わっていますか。
 - － 42 立て、さあ行こう。見よ。わたしを裏切る者が近づいてきた」。
- イエスはどのようにして捕まえますか。（43-46）
 - ・ 43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユダが進みよってきた。ま

た祭司長、律法学者、長老たちから送られた群衆も、剣と棒とを持って彼についてきた。44 イエスを裏切る者は、あらかじめ彼らに合図をしておいた、「わたしの接吻する者が、その人だ。その人をつかまえて、まちがいなく引っぱって行け」。45 彼は来るとすぐ、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。46 人々はイエスに手をかけてつかまえた。

• [DQ] どのような人たちがどのようにして現れますか。

ー 43b 十二弟子のひとりのユダが進みよってきた。また祭司長、律法学者、長老たちから送られた群衆も、剣と棒とを持って彼についてきた。

* マタイでは「イエスを裏切った者が」

* 過越祭の晩餐のあとなので、一般の人は、家族や近い人との時を過ごした後である。おそらく、特別なことがなければ、市中を歩き回ってはいない。

ー ヨハネ 18:3 さてユダは、一隊の兵卒と祭司長やパリサイ人たちの送った下役どもを引き連れ、たいまつやあかりや武器を持って、そこへやってきた。

* ヨハネでは、18:12 それから一隊の兵卒やその千卒長やユダヤ人の下役どもが、イエスを捕え、縛りあげて、

ー (参考) マルコ 14:10,11 10 ときに、十二弟子のひとりイスカリオテのユダは、イエスを祭司長たちに引きわたそうとして、彼らの所へ行った。11 彼らはこれを聞いて喜び、金を与えることを約束した。そこでユダは、どうかしてイエスを引きわたそうと、機会をねらっていた。

• [DQ] ユダはどのようにイエスに近づきますか。

ー「わたしの接吻する者が、その人だ。その人をつかまえて、まちがいなく引っぱって行け」。彼は来るとすぐ、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。

* (参考) マタイ 26:50 しかし、イエスは彼に言われた、「友よ、なんのためにきたのか」。このとき、人々は進み寄って、イエスに手をかけてつかまえた。

ー [DQ] なぜ、接吻で裏切るようにしたのだろうか。

* 満月の日だが、晴れていたかは不明。やはり夜なので、弟子たちも似たような格好をしているとすると、スムーズにことを運ぶには、このようなことは必要だったかもしれない。

* 最初「接吻する者」では、
が用いられ、「接吻した（何度も何度も激しく接吻した）」は、
(マルコ 14:45、マタイ 26:49、ルカ 7:38,45、ルカ 15:20、使徒 20:37 のみ)

* イエスの口を封じた？

ー [DQ] なぜ、イスカリオテのユダは（このようにして）裏切ったのでしょうか。

* 貪欲：ヨハネ 12:3-6、マタイ 26:15

* サタンが入った：ルカ 22:3、ヨハネ 13:2, 13:27 [参考：サタンと悪魔]

3. イエスのそばにいたものはどのような行動をしますか。(47)

- 47 すると、イエスのそばに立っていた者のひとりが、剣を抜いて大祭司の僕に切りかかり、その片耳を切り落した。
- [DQ] 「イエスのそばに立っていた者のひとりが、剣を抜いて大祭司の僕に切りかかり、その片耳を切り落した」にもかかわらず、逮捕されたようには書かれていないのはなぜなのでしょう。
- [DQ] 他の福音書には、どのようなことが記されていますか。
 - マタイ 26:52 そこで、イエスは彼に言われた、「あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる。53 それとも、わたしが父に願って、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか。54 しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就されようか」。
 - ルカ 22:49 イエスのそばにいた人たちは、事のなりゆきを見て、「主よ、つるぎで切りつけてやりましょうか」と言って、50 そのうちのひとりが、祭司長の僕に切りつけ、その右の耳を切り落した。51 イエスはこれに対して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった。
 - ヨハネ 18:10 シモン・ペテロは剣を持っていたが、それを抜いて、大祭司の僕に切りかかり、その右の耳を切り落した。その僕の名はマルコスであった。11 すると、イエスはペテロに言われた、「剣をさやに納めなさい。父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか」。
- [DQ] なぜ、マルコでは、ペテロだと書かないのでしょうか。
 - 危険が伴った可能性がある。

4. イエスはどのように応じますか。(48,49)

- 48 イエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたは強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。49 わたしは毎日あなたがたと一緒に宮にいて教えていたのに、わたしをつかまはしなかった。しかし聖書の言葉は成就されねばならない」。
- [A] 1. 強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。2. わたしは毎日あなたがたと一緒に宮にいて教えていたのに、わたしをつかまはしなかった。3 しかし聖書の言葉は成就されねばならない
- [DQ] なぜ、宮にいるときに、捕まえなかったのでしょうか。
- [DQ] イエスはなぜ、自分の身を任せたのでしょうか。イエスがたいせつにしたことはなんですか。

- [参照] ヨハネ 18:3-9 6 イエスが彼らに「わたしが、それである」と言われたとき、彼らはうしろに引きさがって地に倒れた。7 そこでまた彼らに、「だれを捜しているのか」とお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスを」と言った。8 イエスは答えられた、「わたしがそれであると、言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせてもらいたい」。9 それは、「あなたが与えて下さった人たちの中のひとりも、わたしは失わなかった」とイエスの言われた言葉が、成就するためである。

5. 弟子たちはどうしましたか。(50)

- 50 弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。
- [DQ] 弟子たちはなぜイエスを見捨てて逃げたのでしょうか。
- [DQ] 戦う意思も持っていたようですが、弟子たちは、なぜ、逃げたのだろうか。

6. 51 節から 52 節にはどのようなことが書かれていますか。(51-52)

- 51 ときに、ある若者が身に亜麻布をまとい、イエスのあとについて行ったが、人々が彼をつかまえようとしたので、52 その亜麻布を捨てて、裸で逃げて行った。
- [DQ] なぜこのようなことが書かれているのでしょうか。
- マルコに書かれていて、他の福音書、特に、マタイ、ルカに書かれていない箇所は、少ない。
 - 3:7-12 湖の岸辺の群衆
 - 4:26-29 「成長する種」のたとえ
 - 7:31-37 耳が聞こえず舌の回らない人を癒やす
 - 8:22-26 ベトサイダで盲人を癒やす
 - 14:51-52 一人の若者、逃げる
- ヨハネ・マルコか？
 - 使徒 12:12 ペテロはこうとわかってから、マルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家に行った。その家には大ぜいの人が集まって祈っていた。
 - (パークレイ「マルコ福音書」) ユダが、最後の晩餐の場所に戻ってきて(ヨハネ 13:30 ユダは一きれの食物を受けると、すぐに出て行った。時は夜であった。)、そのあと、ゲッセマネに向かった、そのときに、家の若者がついて行った可能性がある。
- 亜麻布：上質の麻、裕福な人が着ていたと言われている。
 - 高価な素材：亜麻布（ギリシャ語で「シンドン」）は、上質なリネン布を指しています。これは、エジプトなどで生産され、高価であり、主に裕福な人々が使用していました。

- － 用途：この布は、寝巻きや下着、または埋葬用の布として用いられることが多かったです。特に、埋葬用の布としての使用は、イエスの埋葬の際にも記述されています（マルコ 15:46）。

4.90.5 メモ

- 福音書の差異：マタイは、マルコに近いが、大祭司の僕に切りかかった場面でのイエスの言葉を記している。「52b あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる。53 それとも、わたしが父に願って、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか。」（マタイ 26:52b,53）ルカには、ユダが接吻をしようとして近づいてきた時、「ユダ、あなたは接吻をもって人の子を裏切るのか」（22:48）とあり、さらに、耳を切り落とした時「51 イエスはこれに対して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった。」（22:51）と癒した記事が書かれている。また最後に、「だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」（22:53b）が付け加わっている。ヨハネは、イエスの積極的な姿勢が描かれており、「4 しかしイエスは、自分の身に起ろうとすることをことごとく承知しておられ、進み出て彼らに言われた、「だれを捜しているのか」。5 彼らは「ナザレのイエスを」と答えた。イエスは彼らに言われた、「わたしが、それである」。イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。」（ヨハネ 18:4,5）とあり、ユダの近づき方も変化している。このあとにも、6 イエスが彼らに「わたしが、それである」と言われたとき、彼らはうしろに引きさがって地に倒れた。7 そこでまた彼らに、「だれを捜しているのか」とお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスを」と言った。8 イエスは答えられた、「わたしがそれであると、言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせてもらいたい」。9 それは、「あなたが与えて下さった人たちの中のひとりも、わたしは失わなかった」とイエスの言われた言葉が、成就するためである。とあり、弟子たちを逃すことがまず書かれ、このあとに、切りつけたのは、ペテロであると証言し、切りつけられたのは、マルコスだとしている。（ヨハネ 18:10）
- マルコでは「イエスを裏切る者」（PAP-NSM）、マタイは「イエスを裏切った者」（PAP-NSM）で同じ形のようなのである。
- なぜ、繰り返し、接吻したのだろうか。偽善の表現なのだろうか。先ほどまで会っていたことを考えると、別れの挨拶、本当は愛していることの表現、何かを期待する動作かもしれない。
 - － 参考：マタイ 26:14-16, 25, 47-56, 27:3-10（ユダの自殺）使徒 1:18,19（ユダの自殺）
 - － ヨハネにはこのことは書かれていない。
 - － 1 コリント 15:5 ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。
 - － 裏切ったことは、四つの福音書で証言しており、間違いないだろう。しかし、死など、その後については、不明なのではないだろうか。一定の期間のあとには、いくつかの伝承が共有されていただろうが。
 - － ユダの人生は「たしかに人の子は、自分について書いてあるとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわざである。その人は生れなかった方が、彼のためによかったであろう」（14:21）

と表現される人生だったのではないだろうか。

4.91 14:53-65 最高法院で裁判を受ける

53 それから、イエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長、長老、律法学者たちがみな集まってきた。54 ペテロは遠くからイエスについて行って、大祭司の中庭まではいり込み、その下役どもにまじってすわり、火にあたっていた。55 さて、祭司長たちと全議会とは、イエスを死刑にするために、イエスに不利な証拠を見つけようとしたが、得られなかった。56 多くの者がイエスに対して偽証を立てたが、その証言が合わなかったからである。57 ついに、ある人々が立ちあがり、イエスに対して偽証を立てて言った、58 「わたしたちはこの人が『わたしは手で造ったこの神殿を打ちこわし、三日の後に手で造られない別の神殿を建てるのだ』と言うのを聞きました」。59 しかし、このような証言も互に合わなかった。60 そこで大祭司が立ちあがって、まん中に進み、イエスに聞きただして言った、「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか」。61 しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。大祭司は再び聞きただして言った、「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。62 イエスは言われた、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。63 すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、「どうして、これ以上、証人の必要があろう。64 あなたがたはこのけがし言を聞いた。あなたがたの意見はどうか」。すると、彼らは皆、イエスを死に当るものと断定した。65 そして、ある者はイエスにつばきをかけ、目隠しをし、こぶしでたたいて、「言いあててみよ」と言いはじめた。また下役どもはイエスを引きとって、手のひらでたたいた。

4.91.1 マタイ 26:57-68

57 さて、イエスをつかまえた人たちは、大祭司カヤパのところにイエスを連れて行った。そこには律法学者、長老たちが集まっていた。58 ペテロは遠くからイエスについて、大祭司の中庭まで行き、そのなりゆきを見とどけるために、中にはいって下役どもと一緒にすわっていた。59 さて、祭司長たちと全議会とは、イエスを死刑にするため、イエスに不利な偽証を求めようとしていた。60 そこで多くの偽証者が出てきたが、証拠があがらなかった。しかし、最後にふたりの者が出てきて、61 言った、「この人は、わたしは神の宮を打ちこわし、三日の後に建てることできる、と言いました」。62 すると、大祭司が立ち上がってイエスに言った、「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか」。63 しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言った、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」。64 イエスは彼に言われた、「あなたの言うとおりである。しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。65 すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、「彼は神を汚した。どうしてこれ以上、証人の必要があろう。あなたがたは今このけがし言を聞いた。66 あなたがたの意見はどうか」。すると、彼らは答えて言った、「彼は死に当るものだ」。67 それから、彼らはイエスの顔につばきをかけて、こぶしで打ち、またある人は手のひらでたたいて言った、68 「キリストよ、言いあてて

みよ、打ったのはだれか」。

4.91.2 ルカ 22:54-55; 63-71

54 それから人々はイエスを捕え、ひっぱって大祭司の邸宅へつれて行った。ペテロは遠くからついて行った。55 人々は中庭のまん中に火をたいて、一緒にすわっていたので、ペテロもその中にすわった。

63 イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、64 目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。65 そのほか、いろいろな事を言って、イエスを愚弄した。66 夜が明けたとき、人民の長老、祭司長たち、律法学者たちが集まり、イエスを議会に引き出して言った、67 「あなたがキリストなら、そう言ってもらいたい」。イエスは言われた、「わたしが言っても、あなたがたは信じないだろう。68 また、わたしがたずねても、答えないだろう。69 しかし、人の子は今からのち、全能の神の右に座するであろう」。70 彼らは言った、「では、あなたは神の子なのか」。イエスは言われた、「あなたがたの言うとおりである」。71 すると彼らは言った、「これ以上、なんの証拠がいるか。われわれは直接彼の口から聞いたのだから」。

4.91.3 ヨハネ 18:13-14; 19-24

13 まずアンナスのところに引き連れて行った。彼はその年の大祭司カヤパのしゅうとであった。14 カヤパは前に、ひとりの人が民のために死ぬのはよいことだと、ユダヤ人に助言した者であった。

19 大祭司はイエスに、弟子たちのことやイエスの教のことを尋ねた。20 イエスは答えられた、「わたしはこの世に対して公然と語ってきた。すべてのユダヤ人が集まる会堂や宮で、いつも教えていた。何事も隠れて語ったことはない。21 なぜ、わたしに尋ねるのか。わたしが彼らに語ったことは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。わたしの言ったことは、彼らが知っているのだから」。22 イエスがこう言われると、そこに立っていた下役のひとりが、「大祭司にむかって、そのような答をするのか」と言って、平手でイエスを打った。23 イエスは答えられた、「もしわたしが何か悪いことを言ったのなら、その悪い理由を言いなさい。しかし、正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか」。24 それからアンナスは、イエスを縛ったまま大祭司カヤパのところへ送った。

[マルコによる福音書 14 章 53-65 節福音書対照表](#)

4.91.4 問い

1. 捕縛後の様子はどのように描かれていますか。(53,54)
2. 祭司長と全議会の目的は何で、そのためにどうしますか。(55,56)
3. どのような証言が書かれていますか。(57-59)

4. 大祭司はどのような尋問をし、イエスはどのように答えますか。(60-62)
5. どのような理由から、どのような判断が下されますか。(63-64)
6. 人々はイエスをどのように扱いますか。それは、なぜでしょうか。(65)

4.91.5 参照

- 裁判について：Grok3 beta [応答](#) [2025.2.21]

1. 前大祭司アンナス（AD6-15）の家（ヨハネ 18:12-14,19-24）

- ー ヨハネ 18:12-15 12 それから一隊の兵卒やその千卒長やユダヤ人の下役どもが、イエスを捕え、縛りあげて、13 まずアンナスのところに引き連れて行った。彼はその年の大祭司カヤパのしゅうとであった。14 カヤパは前に、ひとりの人が民のために死ぬのはよいことだと、ユダヤ人に助言した者であった。シモン・ペテロともうひとりの弟子とが、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いであったので、イエスと一緒に大祭司の中庭にはいった。

2. カヤパ（AD18-36）とサンヘドリン議員の前での裁き（マタイ 26:57-68, マルコ 14:53-65, ルカ 22:54,63-65）

- ー マルコ 14:53-65 最高法院で裁判を受ける（今回の箇所）

3. サンヘドリンの公式法廷（マタイ 27:1, マルコ 15:1, ルカ 22:66-71）

- ー マルコ 15:1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者たち、および全議会と協議をこらした末、イエスを縛って引き出し、ピラトに渡した。

4. 総督ピラトのもとでの裁判（マタイ 27:2,11-14, マルコ 15:1-5, ルカ 23:1-5, ヨハネ 18:28-38）

- ー マルコ 15:1-5 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者たち、および全議会と協議をこらした末、イエスを縛って引き出し、ピラトに渡した。2 ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりである」とお答えになった。3 そこで祭司長たちは、イエスのことをいろいろと訴えた。4 ピラトはもう一度イエスに尋ねた、「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」。5 しかし、イエスはピラトが不思議に思うほどに、もう何もお答えにならなかった。

5. ガリラヤ領主ヘロデ・アンティパス（ルカ 23:6-12）

- ー ルカ 23:5 ところが彼らは、ますます言いつのってやまなかった、「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたって教え、民衆を煽動しているのです」。6 ピラトはこれを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ね、7 そしてヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ちょうどこのころ、ヘロデがエルサレムにいたのをさいわい、そちらへイエスを送りとどけた。8

ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。9 それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかった。10 祭司長たちと律法学者たちとは立って、激しい語調でイエスを訴えた。11 またヘロデはその兵卒どもと一緒に、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はなやかな着物を着せてピラトへ送りかえた。12 ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。

6. 総督ピラトでの裁き（マタイ 27:15-26, マルコ 15:6-15, ルカ 23:13-25, ヨハネ 18:39-19:16）

- － マルコ 15:6-15 さて、祭のたびごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人ひとりを、ゆるしてやることにしていた。7 ここに、暴動を起し人殺しをしてつながれていた暴徒の中に、バラバという者がいた。8 群衆が押しかけてきて、いつものとおりにしてほしいと要求しはじめたので、9 ピラトは彼らにむかって、「おまえたちはユダヤ人の王をゆるしてもらいたいのか」と言った。10 それは、祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにわかっていただけである。11 しかし祭司長たちは、バラバの方をゆるしてもらうように、群衆を煽動した。12 そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。13 彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。14 ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは一そう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。
- － ルカ 23:13-16 ピラトは、祭司長たちと役人たちと民衆とを、呼び集めて言った、14 「おまえたちは、この人を民衆を惑わすものとしてわたしのところに連れてきたので、おまえたちの前でしらべたが、訴え出ているような罪は、この人に少しもみとめられなかった。15 ヘロデもまたみとめなかった。現に彼はイエスをわれわれに送りかえてきた。この人はなんら死に当るようなことはしていないのである。16 だから、彼をむち打ってから、ゆるしてやることにしよう」。

● 最高議会（サンヘドリン）[\[参照\]](#)

- － アリマタヤのヨセフは不賛成：ルカ 23:51 この人はユダヤの町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会の議決や行動には賛成していなかった。
- － ニコデモ：ヨハネ 3:1 パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。ヨハネ 7:50 彼らの中のひとりで、以前にイエスに会いにきたことのあるニコデモが、彼らに言った、ヨハネ 19:39 また、前に、夜、イエスのみもとに行ったニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた。

● 最高議会での裁判

- － ミシュナー（Mishnah）サンヘドリン 4:1 死刑以外の事件は1日で終わることもありますが、死刑の場合、裁判官は判決を下す前に一晩待つ必要があります。そのため、死刑事件は安息日や祭日の前日に判決を下すことはありません。安息日や祭日に刑を執行しなければならなくなり、その日に刑を執

行することは安息日や祭日の法律違反とみなされるからです。さらに、金曜日に裁判を行い、安息日に有罪を宣告し、日曜日まで処刑を待たなければならないようなことは避けたかったのです。そのような待ち時間は、死刑に処される人の精神的苦痛を長引かせることになります。[参照]

－ パークレイ：ミシュナーに規定がある。

* サンヘドリンの公式の集会の場所は切石の間であり、それは神殿の庭の中にあった。またサンヘドリンの決定は、その集会が、その場所で開かれたものでない限り有効ではなかった。法廷は夜間開廷できなかったし、大きな祭りの期間には開けなかった。証拠を集めるときに証人たちは個別に調べられた。そして、証拠が有効になるためには、細部に至るまで一致しなければならなかった。サンヘドリンの個々の成員は、意見を個別的に述べなければならなかった。これは、最若年の人からはじまって、最年長の人にお読んだ。もし、評決が死刑の決定であれば、それを実行する前に一夜を経過させなければならなかった。それは、法廷がその決心と決定を、慈悲深いほうへ帰る機会を持つことができるためであった。つぎからつぎへと、サンヘドリンが自分の規定を破っているのが見られるであろう。

* それは、夜間に開かれた。そこには個々の人の意見が述べられたという記述がない。死刑を科す前に一夜経過させなかった。ユダヤの当局者はイエスを無きものにしたいと熱心に願ったので、躊躇なく、自分たちの律法を破るという屈辱に堪えた。

－ 民数記 35:30 人を殺した者、すなわち故殺人はすべて証人の証言にしたがって殺されなければならない。しかし、だれもただひとりの証言によって殺されることはない。

－ 申命記 17:6 ふたりの証人または三人の証人の証言によって殺すべき者を殺さなければならない。ただひとりの証人の証言によって殺してはならない。

－ 申命記 19:15 どんな不正であれ、どんなとがであれ、すべて人の犯す罪は、ただひとりの証人によって定めてはならない。ふたりの証人の証言により、または三人の証人の証言によって、その事を定めなければならない。

- 神殿を打ち壊す

－ マルコ 13:2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないまま、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。

* マタイ 24:2 そこでイエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたは、これらすべてのものを見ないか。よく言うておく。その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう」。

* ルカ 21:6 6 「あなたがたはこれらのものをながめているが、その石一つでもくずされずに、他の石の上に残ることもなくなる日が、来るであろう」。

－ ヨハネ 2:13-22 13 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。14

そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、15 なわでむちを造り、羊も牛もみな宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、16 はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。18 そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。20 そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。21 イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。22 それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。

- － 使徒 6:13 それから、偽りの証人たちを立てて言わせた、「この人は、この聖所と律法とに逆らう言葉を吐いて、どうしても、やめようとはしません。14 『あのナザレ人イエスは、この聖所を打ちこわし、モーセがわたしたちに伝えた慣例を変えてしまうだろう』などと、彼が言うのを、わたしたちは聞きました」。

- イエスの受難と死と復活の予告

- － マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、(一回目の予告)
- － マルコ 9:31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。(二回目の予告)
- － マルコ 10:34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。(三回目の予告)

- イエスの答え

- － マルコ 14:62 イエスは言われた、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。62

* 詩篇 110:1 主はわが主に言われる、／「わたしがあなたのもろもろの敵を／あなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ」と。

* ダニエル 7:13 わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、／見よ、人の子のような者が、／天の雲に乗ってきて、／日の老いたる者のもとに来ると、／その前に導かれた。

- － マタイ 26:64 イエスは彼に言われた、「あなたの言うとおりである。しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。64

- ルカ 22:70 彼らは言った、「では、あなたは神の子なのか」。イエスは言われた、「あなたがたの言うとおりである」。
- イザヤ 53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、／口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、／また毛を切る者の前に黙っている羊のように、／口を開かなかった。
- 神の子：61 「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか（
（ : blessed, praised）」はこのみ。）
 - マルコ 1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。
 - マルコ 3:11 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。
 - マルコ 5:17 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。
 - マルコ 15:39 イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。
 - マタイ 4:3 すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」。
 - マタイ 4:6 言った、「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんなさい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。
 - マタイ 5:9 平和をつくり出す人たちは、さいわいである、／彼らは神の子と呼ばれるであろう。
 - マタイ 8:29 すると突然、彼らは叫んで言った、「神の子よ、あなたはわたしどもとなんの係わりがあるのです。まだその時ではないのに、ここにきて、わたしどもを苦しめるのですか」。
 - マタイ 14:33 舟の中にいた者たちはイエスを拝して、「ほんとうに、あなたは神の子です」と言った。
 - マタイ 16:16 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。
 - マタイ 26:63 しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言った、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」。
 - マタイ 27:40 言った、「神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ。もし神の子なら、自分を救え。そして十字架からおりてこい」。

- － マタイ 27:43 彼は神にたよっているが、神のおぼしめしがあれば、今、救ってもらうがよい。自分は神の子だと言っていたのだから」。
- － マタイ 27:54 百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、「まことに、この人は神の子であった」と言った。
- － ルカ 1:35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。
- － ルカ 4:3 そこで悪魔が言った、「もしあなたが神の子であるなら、この石に、パンになれと命じてごらんなさい」。
- － ルカ 4:9 それから悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、宮の頂上に立たせて言った、「もしあなたが神の子であるなら、ここから下へ飛びおりてごらんなさい。
- － ルカ 4:41 悪霊も「あなたこそ神の子です」と叫びながら多くの人々から出ていった。しかし、イエスは彼らを戒めて、物を言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスはキリストだと知っていたからである。
- － ルカ 8:28 この人がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いです、わたしを苦しめないでください」。
- － ルカ 20:36 彼らは天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ないからである。
- － ルカ 22:70 彼らは言った、「では、あなたは神の子なのか」。イエスは言われた、「あなたがたの言うとおりである」。
- － ヨハネ 1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。
- － ヨハネ 1:34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。
- － ヨハネ 1:49 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。
- － ヨハネ 5:25 よくよくあなたがたに言うておく。死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。
- － ヨハネ 5:28 このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、
- － ヨハネ 10:36 父が聖別して、世につかわされた者が、『わたしは神の子である』と言ったからとて、どうして『あなたは神を汚す者だ』と言うのか。
- － ヨハネ 11:4 イエスはそれを聞いて言われた、「この病気は死ぬほどのものではない。それは神の栄光のため、また、神の子がそれによって栄光を受けるためのものである」。

- － ヨハネ 11:52 ただ国民のためだけではなく、また散在している神の子らを一つに集めるために、死ぬことになっていると、言ったのである。
- － ヨハネ 19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。
- － ヨハネ 20:31 しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

● キリスト

- － マルコ 1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。
- － マルコ 8:29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。
- － マルコ 9:41 だれでも、キリストについている者だということで、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれるものは、よく言うておくが、決してその報いからもらえることはないであろう。
- － マルコ 12:35-37 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。36 ダビデ自身が聖霊に感じて言った、／『主はわが主に仰せになった、／あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、／わたしの右に座していなさい』。37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。
- － マルコ 13:21,22 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、『見よ、あそこにいる』と言っても、それを信じるな。22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。
- － マルコ 14:61 しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。大祭司は再び聞いただして言った、「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。
- － マルコ 15:32 イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

● 侮辱

- － マルコ 14:65 そして、ある者はイエスにつばきをかけ、目隠しをし、こぶしてたたいて、「言いあててみよ」と言いはじめた。また下役どもはイエスを引きとって、手のひらでたたいた。
 - * マタイ 26:67 それから、彼らはイエスの顔につばきをかけて、こぶして打ち、またある人は手のひらでたたいて言った、68 「キリストよ、言いあててみよ、打ったのはだれか」。
 - * ルカ 22:63 イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、64 目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。65 そのほか、いろいろな事を言って、

イエスを愚弄した。

- ヨハネ 18:22 イエスがこう言われると、そこに立っていた下役のひとりが、「大祭司にむかって、そのような答をするのか」と言って、平手でイエスを打った。23 イエスは答えられた、「もしわたしが何か悪いことを言ったのなら、その悪い理由を言いなさい。しかし、正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか」。
 - イザヤ 50:5,6 主なる神はわたしの耳を開かれた。わたしは、そむくことをせず、／退くことをしなかった。6 わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ、／わたしのひげを抜く者に、わたしのほおをまかせ、／恥とつばきとを避けるために、／顔をかくさなかった。
 - 1 ペテロ 2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。
- ルカ 22:54-62 およびヨハネ 18:15-18 ペテロ、イエスを知らないという。

4.91.6 記録

- 日時：2025 年 2 月 27 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）2 名

4.91.7 問いについて

1. 捕縛後の様子はどのように描かれていますか。（53,54）

- 53 それから、イエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長、長老、律法学者たちがみな集まってきた。54 ペテロは遠くからイエスについて行って、大祭司の中庭までは入り込み、その下役どもにまじってすわり、火にあたっていた。
- [DQ] イエスはどこに連れて行かれますか。そこには誰がいますか。
 - 大祭司、祭司長、長老、律法学者がいる、大祭司の中庭
 - メンバーは最高議会のだが、公式の最高議会の場ではない。

- [DQ] だれが付いていきますか。
 - － ペテロが遠くからイエスについて行った。
 - － (参照) ヨハネ 18:15 シモン・ペテロともうひとりの弟子とが、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いであったので、イエスと一緒に大祭司の中庭にはいった。
 - － (参照) マタイ 26:58 ペテロは遠くからイエスについて、大祭司の中庭まで行き、そのなりゆきを見とどけるために、中にはいって下役どもと一緒にすわっていた。⁵⁸ II

2. 祭司長と全議会の目的は何で、そのためにどうしますか。(55,56)

- 55 さて、祭司長たちと全議会とは、イエスを死刑にするために、イエスに不利な証拠を見つけようとしたが、得られなかった。56 多くの者がイエスに対して偽証を立てたが、その証言が合わなかったからである。
- [A] イエスを死刑にするために、イエスに不利な証拠を見つけようとした
 - － (参考) マルコ 14:1,2 さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。2 彼らは、「祭の間はいけない。民衆が騒ぎを起すかも知れない」と言っていた。
- [DQ] 「その証言が合わなかった」とあるが、正当な裁判だったのだろうか。
 - － [A] 通常の最高議会（サンヘドリン）は、昼間、神殿で行われ、証人なども丁寧に一人ずつ、誘導尋問などは禁止されていたという。

3. どのような証言が書かれていますか。(57-59)

- 57 ついに、ある人々が立ちあがり、イエスに対して偽証を立てて言った、58 「わたしたちはこの人が『わたしは手で造ったこの神殿を打ちこわし、三日の後に手で造られない別の神殿を建てるのだ』と言うのを聞きました」。59 しかし、このような証言も互に合わなかった。
- [DQ] 「わたしは手で造ったこの神殿を打ちこわし、三日の後に手で造られない別の神殿を建てるのだ」はどのようなことを証言しているのでしょうか。
 - － (参考) マルコ 13:2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないまま、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。
- [DQ] 他の福音書には、どのようなことが書かれていますか。
 - － マタイ 26:61 言った、「この人は、わたしは神の宮を打ちこわし、三日の後に建てることができる、と言いました」。
 - － (参照) ヨハネ 2:13-22 19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。

4. 大祭司はどのような尋問をし、イエスはどのように答えますか。(60-62)

- 60 そこで大祭司が立ちあがって、まん中に進み、イエスに聞きただして言った、「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか」。61 しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。大祭司は再び聞きただして言った、「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。62 イエスは言われた、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。

- [DQ] 大祭司はどのように質問しますか。

－「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」

* マルコ 1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。

* マルコ 3:11 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。

* マルコ 5:17 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。

* マルコ 8:29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。

* マルコ 15:39 イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。

－ [Q] 神の子、キリストは当時どのように考えられていたのか。

- [DQ] イエスはどのように答えますか。

－「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。

－ [Q] これは、イエスが、弟子たちや、群衆に教えていたことなのだろうか。

5. どのような理由から、どのような判断が下されますか。(63-64)

- 63 すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、「どうして、これ以上、証人の必要があろう。64 あなたがたはこのけがし言を聞いた。あなたがたの意見はどうか」。すると、彼らは皆、イエスを死に当るものと断定した。

- [DQ] なぜイエスのことばが死に値することなのでしょう。

－ [A] 神の冒瀆、人を神とした。

－ (参照) レビ 24:16 主の名を汚す者は必ず殺されるであろう。全会衆は必ず彼を石で撃たなければならない。他国の者でも、この国に生れた者でも、主の名を汚すときは殺されなければならない。

－ (参照) ヨハネ 18:31 そこでピラトは彼らに言った、「あなたがたは彼を引き取って、自分たちの律法でさばくがよい」。ユダヤ人らは彼に言った、「わたしたちには、人を死刑にする権限があり

ません」。

－「人が神にならないために 説教集」 荒井献著 新教出版社 (ISBN978-4-400-52150-1, 2016.4.1 発行)

6. 人々はイエスをどのように扱いますか。それは、なぜでしょうか。(65)

- 65 そして、ある者はイエスにつばきをかけ、目隠しをし、こぶしでたたいて、「言いあててみよ」と言いはじめた。また下役どもはイエスを引きとって、手のひらでたたいた。
- イエスの受難と死と復活の予告
 - － マルコ 10:34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。(三回目の予告)

4.91.8 メモ

- イエスは自分が神の子キリストだとは、明確には伝えていなかったように見えるが、ここでは、どのような気持ちで、大祭司の「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」との問いに、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」と肯定的に答えたのだろうか。
 - － (ほむべき者) 神の子も、キリストも、明確には、定義できないこともあり、ひとによってイメージが異なる。それを独り歩きさせたくなかったのだろう。それが伝えなかった理由なのだろう。
 - － ここでは、そのような揺れがあっても、明確に肯定することをよしとしたのだろう。理由は、正確には、わからないが。
- 福音書の差異：「ペテロ、イエスを知らないという」をどこに入れるかで、福音書ごとに差異がある。また、ヨハネでは、まずは、この時の大祭司カヤパのしゅうとのアンナスのところに、まず行ったことが書かれている。「わたしたちはこの人が『わたしは手で造ったこの神殿を打ちこわし、三日の後に手で造られない別の神殿を建てるのだ』と言うのを聞きました」(58)の部分が、マタイでは、「この人は、わたしは神の宮を打ちこわし、三日の後に建てることができる、と言いました」(61)とあり、ルカと、ヨハネでは省略されている。マタイには、大祭司が「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか」(62)と言った記述が挿入されている。「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」(61)と聞く部分は、マタイでは、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」(63) ルカは「あなたがキリストなら、そう言ってもらいたい」(67)これに対するイエスの応答「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」(62)は、マタイでは、「あなたの言うとおりでである。しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」(64) ルカは「わたしが言っても、あなたがたは信じないだろう。68 また、わたしがたずねても、答えないだろう。しかし、人の子は今からのち、全能の神の右に座するであろう」。(68,69) だがそのあとに、彼らは言った、「では、あなたは神の子なのか」。イエスは言われた、「あなたがたの言うとおりでである」が続いている。これに対してヨハネは、大祭司はイエスに、弟子たちのことやイエスの教のことを尋ねた。イエスは

答えられた、「わたしはこの世に対して公然と語ってきた。すべてのユダヤ人が集まる会堂や宮で、いつも教えていた。何事も隠れて語ったことはない。なぜ、わたしに尋ねるのか。わたしが彼らに語ったことは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。わたしの言ったことは、彼らが知っているのだから」(18:19-21)とだけ書いており、かなり印象がことなる。

4.92 14:66-72 ペトロ、イエスを知らないと言う

66 ペテロは下で中庭にいたが、大祭司の女中のひとりがきて、67 ペテロが火にあたっているのを見ると、彼を見つめて、「あなたもあのナザレ人イエスと一緒にだった」と言った。68 するとペテロはそれを打ち消して、「わたしは知らない。あなたの言うことがなんの事か、わからない」と言って、庭口の方に出て行った。69 ところが、先の女中が彼を見て、そばに立っていた人々に、またもや「この人はあの仲間のひとりです」と言いだした。70 ペテロは再びそれを打ち消した。しばらくして、そばに立っていた人たちがまたペテロに言った、「確かにあなたは彼らの仲間だ。あなたもガリラヤ人だから」。71 しかし、彼は、「あなたがたの話しているその人のことは何も知らない」と言い張って、激しく誓いはじめた。72 するとすぐ、にわとりが二度目に鳴いた。ペテロは、「にわとりが二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、そして思いかえして泣きつづけた。

4.92.1 マタイ 26:69-75

69 ペテロは外で中庭にすわっていた。するとひとりの女中が彼のところにきて、「あなたもあのガリラヤ人イエスと一緒にだった」と言った。70 するとペテロは、みんなの前でそれを打ち消して言った、「あなたが何を言っているのか、わからない」。71 そう言って入口の方に出て行くと、ほかの女中が彼を見て、そこにいる人々にむかって、「この人はナザレ人イエスと一緒にだった」と言った。72 そこで彼は再びそれを打ち消して、「そんな人は知らない」と誓って言った。73 しばらくして、そこに立っていた人々が近寄ってきて、ペテロに言った、「確かにあなたも彼らの仲間だ。言葉づかいであなたのことがわかる」。74 彼は「その人のことは何も知らない」と言って、激しく誓いはじめた。するとすぐ鶏が鳴いた。75 ペテロは「鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、外に出て激しく泣いた。

4.92.2 ルカ 22:56-62

56 すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、「この人もイエスと一緒にいました」と言った。57 ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言った。58 しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ」。するとペテロは言った、「いや、それはちがう」。59 約一時間たってから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒にだった。この人もガリラヤ人なのだから」。60 ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。61 主は振りむいてペテロを

見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。62 そして外へ出て、激しく泣いた。

4.92.3 ヨハネ 18:15-18; 25-27

15 シモン・ペテロともうひとりの弟子とが、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いであったので、イエスと一緒に大祭司の中庭にはいった。16 しかし、ペテロは外で戸口に立っていた。すると大祭司の知り合いであるその弟子が、外に出て行って門番の女に話し、ペテロを内に入れてやった。17 すると、この門番の女がペテロに言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではありませんか」。ペテロは「いや、そうではない」と答えた。18 僕や下役どもは、寒い時であったので、炭火をおこし、そこに立ってあたっていた。ペテロもまた彼らに交じり、立ってあたっていた。

25 シモン・ペテロは、立って火にあたっていた。すると人々が彼に言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではないか」。彼はそれをうち消して、「いや、そうではない」と言った。26 大祭司の僕のひとりで、ペテロに耳を切りおとされた人の親族の者が言った、「あなたが園であの人と一緒にいるのを、わたしは見たではないか」。27 ペテロはまたそれを打ち消した。するとすぐに、鶏が鳴いた。

[マルコによる福音書 14 章 66-72 節福音書対照表](#)

[マルコによる福音書 14 章 26-31, 66-72 節福音書対照表](#)

4.92.4 問い

1. 14 章 12 節から 54 節を、十二弟子の一人であるペテロに焦点をあてて復習しましょう。
2. いつ、どのような場所で、このことは起こりますか。
3. ペテロがイエスを否認する箇所は、どのように記されていますか。
4. ペテロは、なぜこのように、答えたのでしょうか。
5. 他の福音書では、どのように記されていますか。
6. イエスの言葉を思い出したペテロの心のうちを想像してみましょう。(72)

4.92.5 参照

- ペテロ離反の予告：マルコ 14:26 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。29 するとペテロはイエスに言った、「たとい、みんなの者がつ

まずいても、わたしはつまずきません」。30 イエスは言われた、「あなたによく言うておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう」。31 ペテロは力をこめて言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。みんなの者もまた、同じようなことを言った。[ペトロの離反を予告する：引用]

- ー マタイ 26:31-35 31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、書いてあるからである。32 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。33 するとペテロはイエスに答えて言った、「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」。34 イエスは言われた、「よくあなたに言うておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。35 ペテロは言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。弟子たちもみな同じように言った。
- ー ルカ 22:31-34 31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。
- ー ヨハネ 13:36-38 36 シモン・ペテロがイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのですか」。イエスは答えられた、「あなたはわたしの行くところに、今はついて来ることはできない。しかし、あとになってから、ついて来ることになるだろう」。37 ペテロはイエスに言った、「主よ、なぜ、今あなたについて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」。38 イエスは答えられた、「わたしのために命を捨てると言うのか。よくよくあなたに言うておく。鶏が鳴く前に、あなたはわたしを三度知らないと言うであろう」。

- 12 弟子について：参照
- ChatGPT [カヤパ・アンナスの館について]・[広間と中庭の位置関係・鶏・ガリラヤ訛]
- バークレイ『マルコ福音書』(p.423) ローマの夜は午後 6 時から午前 6 時までを四つの更にわけている。第三更の終わり、午前 3 時に番兵が交代した。番兵が交代した時に、ラテン語で、鶏鳴をあらわすガリキニウムと呼ばれるラッパが吹かれた。おそらく、ペテロが第三番目の否認をしたとき、ラッパの澄んだ調べが静かな都になりわたり、ペテロの耳を打った。そしてペテロは想い起こし、悲しみに沈んだのだろう。
- バークレイ『ヨハネ福音書』(p.306-7) ユダヤ教の祭儀律法によれば、聖都内に鶏を飼うことは正当なことではなかった。もっとも、その律法が実際に守られていたかどうかについては定かではない。さらに、鶏が鳴くということは、決して決まっていることではない。他方、ローマにはある軍隊の精度があった。夜は四つの当直時間に区分され、その区分は午後 6 時から真夜中の 12 時まで、真夜中の 12 時から午前 3 時まで、午前 3 時から午前 6 時までであった。第三の当直時間が終わると、番兵が交替し、番兵の交替を知らせるために、午前 3 時にらっぱが吹かれた。らっぱの音はラテン語でガリキニウム、ギリシャ語でアレクトロフォニアと呼ばれ、どちらも鶏の鳴き声を意味する。イエスは、ペテロにこう言ったのかもしれない。「鶏の鳴き声であるらっぱの音がする前に、おまえはわたしを三度いなむであろう。」と。エルサレムの住民は、みな、午前 3 時のらっぱの音を知っていたに違いない。その夜も、それは町中にひびきわた

り、それが鳴ったとき、ペテロは思い出したのである。

● ナザレ人イエス

- － マルコ 1:9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから出てきて、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。
- － マルコ 1:24 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。
 - * ルカ 4:34 「ああ、ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。
- － マルコ 10:47 ところが、ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。
 - * ルカ 18:37 ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと聞かされたので、
- － マルコ 14:67 ペテロが火にあたっているのを見ると、彼を見つめて、「あなたもあのナザレ人イエスと一緒にだった」と言った。
 - * マタイ 26:71 そう言って入口の方に出て行くと、ほかの女中が彼を見て、そこにいる人々にむかって、「この人はナザレ人イエスと一緒にだった」と言った。
- － マルコ 16:6 するとこの若者は言った、「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのであろうが、イエスはよみがえって、ここにはおられない。ごらんなさい、ここがお納めした場所である。
- － マタイ 2:23 ナザレという町に行き住んだ。これは預言者たちによって、「彼はナザレ人と呼ばれるであろう」と言われたことが、成就するためである。
- － マタイ 4:13 そしてナザレを去り、ゼブルンとナフタリとの地方にある海べの町カペナウムに行き住まわれた。
- － マタイ 21:11 そこで群衆は、「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスである」と言った。
- － ルカ 1:26 六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。
- － ルカ 2:4 ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
- － ルカ 2:39 両親は主の律法どおりすべての事をすませたので、ガリラヤへむかい、自分の町ナザレに帰った。
- － ルカ 2:51 それからイエスは両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった。母はこれらの事をみな心に留めていた。
- － ルカ 4:16 それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。
- － ルカ 24:19 「それは、どんなことか」と言われると、彼らは言った、「ナザレのイエスのことです。あのかたは、神とすべての民衆との前で、わざにも言葉にも力ある預言者でしたが、
- － ヨハネ 1:45,46 このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。46 ナタナエルは彼に言った、「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。ピリポは彼に言った、「きて見なさい」。

- － ヨハネ 18:5 彼らは「ナザレのイエスを」と答えた。イエスは彼らに言われた、「わたしが、それである」。イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。
- － ヨハネ 18:7 そこでまた彼らに、「だれを捜しているのか」とお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスを」と言った。
- － ヨハネ 19:19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上につけさせた。それには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いてあった。
- － 使徒 2:22, 3:6, 4:10, 6:14, 10:38, 22:8, 24:9.

4.92.6 記録

- ・ 日時：2025 年 3 月 6 日午後 7 時半～9 時半
- ・ 出席（対面）4 名、参加（遠隔）1 名

4.92.7 問いについて

1. 14 章 12 節から 54 節を、十二弟子の一人であるペテロに焦点をあてて復習しましょう。
 1. 裏切ろうとしている：14:18,19 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。19 弟子たちは心配して、ひとりひとり「まさか、わたしではないでしょう」と言い出した。
 2. パンと杯：14:22-24 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。
 3. 否認予告：14:27,29-31 27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。29 するとペテロはイエスに言った、「たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません」。30 イエスは言われた、「あなたによく言うておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう」。31 ペテロは力をこめて言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。みんなの者もまた、同じようなことを言った。
 4. ゲツセマネ：14:32-34,37-38,40 32 さて、一同はゲツセマネという所に来た。そしてイエスは弟子たちに言われた、「わたしが祈っている間、ここにすわっていなさい」。33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。37 それから、きてごら

んになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。40 またきてごらんになると、彼らはまだ眠っていた。その目が重くなっていたのである。そして、彼らはどうお答えしてよいか、わからなかった。

5. イエスの逮捕時：14:47 すると、イエスのそばに立っていた者のひとりが、剣を抜いて大祭司の僕に切りかかり、その片耳を切り落した。50 弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。

6. 大祭司の庭：14:54 ペテロは遠くからイエスについて行って、大祭司の中庭までは入り込み、その下役どもにまじってすわり、火にあたっていた。

2. いつ、どのような場所で、このことは起こりますか。

• [DQ] このことはいつ起こりますか。

– 53 それから、イエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司长、長老、律法学者たちがみな集まってきた。

– 大祭司宅での裁判時

– [Q] ペテロはどのようにして門の中に入りますか。

• [DQ] ペテロはどこにいますか。

– 54 ペテロは遠くからイエスについて行って、大祭司の中庭までは入り込み、その下役どもにまじってすわり、火にあたっていた。

– 66 ペテロは下で中庭にいたが、大祭司の女中のひとりがきて、

• [DQ] このとき、イエスは、何をしていますか。

– 偽証をたてられ、大祭司に、問い詰められていた。

– 62 すると、大祭司が立ち上がってイエスに言った、「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか」。63 しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言った、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」。64 イエスは彼に言われた、「あなたの言うとおりで。しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。65 すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、「彼は神を汚した。どうしてこれ以上、証人の必要があらう。あなたがたは今このけがし言を聞いた。66 あなたがたの意見はどうか」。すると、彼らは答えて言った、「彼は死に当るものだ」。67 それから、彼らはイエスの顔につばきをかけて、こぶしで打ち、またある人は手のひらでたたいて言った、68 「キリストよ、言いあててみよ、打ったのはだれか」。

- －すべて見えてはいなかったかもしれないが、イエスが侮辱されている、まさにそのときに、「あなたがたの話しているその人のことは何も知らない」と言い張って、激しく誓いはじめた。のかもしれない。

3. ペテロがイエスを否認する箇所は、どのように記されていますか。

- 1回目 66 ペテロは下で中庭にいたが、大祭司の女中のひとりがきて、67 ペテロが火にあたっているのを見ると、彼を見つめて、「あなたもあのナザレ人イエスと一緒にいた」と言った。68 するとペテロはそれを打ち消して、「わたしは知らない。あなたの言うことがなんの事か、わからない」と言って、庭口の方に出て行った。

－「あのナザレ人イエス」

- 2回目 69 ところが、先の女中が彼を見て、そばに立っていた人々に、またもや「この人はあの仲間のひとりです」と言いだした。70a ペテロは再びそれを打ち消した。
- 3回目 70b しばらくして、そばに立っていた人たちがまたペテロに言った、「確かにあなたは彼らの仲間だ。あなたもガリラヤ人だから」。71 しかし、彼は、「あなたがたの話しているその人のことは何も知らない」と言い張って、激しく誓いはじめた。

4. ペテロは、なぜこのように、答えたのでしょうか。

- [DQ] ペテロの否認をみなさんは、どう考えますか。
 - －ある程度、勇気のいる行動をしている。
 - －「しかし、彼は、『あなたがたの話しているその人のことは何も知らない』と言い張って、激しく誓いはじめた。」(71) の否認は尋常ではない。

5. 他の福音書では、どのように記されていますか。

- マタイ：2回目は他の女中 26:71 そう言って入口の方に出て行くと、ほかの女中が彼を見て、そこにいる人々にむかって、「この人はナザレ人イエスと一緒にいた」と言った。
 - －予告時は弟子たち皆に語られている。 31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、書いてあるからである。32 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。
- ルカ：[1回目] 56 すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、「この人もイエスと一緒にいました」と言った。57 ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない (woman).」と行った。[2回目] 22:58 しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ」。するとペテロは言った、「いや、それはちがう」。[3回目] 22:59 約一時間たってから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒にだっ

た。この人もガリラヤ人なのだから」。60 ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない、」。

－「主は振りむいてペテロを見つめられた。」(22:61) が印象的。[56 節、彼を見つめてと対応]

－ 予告時のことば参照 31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

－ ペテロに復活のイエスが現れる：ルカ 24:33,34 そして、すぐに立ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子とその仲間が集まっていて、34 「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現れなさった」と言っていた。

- ヨハネ：18:16,17 1 回目：しかし、ペテロは外で戸口に立っていた。すると大祭司の知り合いであるその弟子が、外に出て行って門番の女に話し、ペテロを内に入れてやった。17 すると、この門番の女がペテロに言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではありませんか」。ペテロは「いや、そうではない」と答えた。2 回目：25 シモン・ペテロは、立って火にあたっていた。すると人々が彼に言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではないか」。彼はそれをうち消して、「いや、そうではない」と言った。3 回目：26 大祭司の僕のひとりで、ペテロに耳を切りおとされた人の親族の者が言った、「あなたが園であの人と一緒にいるのを、わたしは見たではないか」。27 ペテロはまたそれを打ち消した。するとすぐに、鶏が鳴いた。

－ 予告時には、36 シモン・ペテロがイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのですか」。イエスは答えられた、「あなたはわたしの行くところに、今はついて来ることはできない。しかし、あとになってから、ついて来ることになる」。37 ペテロはイエスに言った、「主よ、なぜ、今あなたについて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」。

6. イエスの言葉を思い出したペテロの心のうちを想像してみましょう。(72)

- 72 するとすぐ、にわとりが二度目に鳴いた。ペテロは、「にわとりが二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、そして思いかえして泣きつづけた。
- [DQ] ペテロは何を学んだでしょうか。
- [DQ] あなたは、ここから何を学びますか。
- 直近のことから、逃げてしまったこと、つるぎで切りつけた時のこと、ゲッセマネでのイエスの祈りと、寝てしまった自分、イエスのことば、イエスの否認予告、その他さまざまな教え

4.92.8 メモ

- 福音書の差異：マルコとマタイは似ているが、マタイでは、強化されている点がいくつかある。マルコでは、二回目も同じ女中（先の女中）とあるが、マタイでは、「ほかの女中」としている。これは、二人または三人の証言がたいせつであることと関係しているのかもしれない。一方、マルコでは「にわとりが二度目に鳴いた」と書かれているが、マタイでは「するとすぐ鶏が鳴いた。」としている。最後は、マルコでは「イエスの言葉を思い出し、そして思いかえして泣きつづけた。」となっているが、その最後の部分は、「外に出て激しく泣いた。」としている。ルカは、多少、マタイに近いように思われる。ただし、マルコでが単に「そう言って入口の方に出て行くと」とあるところが「約一時間たってから」が挿入され、さらに、「主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、『きょう、鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう』と言われた主のお言葉を思い出した。」が挿入されている。ヨハネは情報が多い。まず、なぜ、ペテロが中庭に入れたかについての説明があり、さらに、女中は、門番であったことも書かれている。火についても、炭火とあり、そこにいる人の説明もかかれている。また、二回目と三回目の間には、大祭司アンナスの尋問が挿入されている。
- 問い：
 - － 四つの福音書がみな、このことを伝えているが、すべて微妙に異なっている。これは、何を意味しているのだろうか。
 - － 十分、勇気のいる行動をしているようにも見えるが、なぜ、ペテロは、イエスを知らないと言ってしまうのだろうか。
 - － ペテロは、このあとどのように、立ち直ったのだろうか。

4.93 15:1-5 ピラトから尋問される

1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者たち、および全議会と協議をこらした末、イエスを縛って引き出し、ピラトに渡した。2 ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりである」とお答えになった。3 そこで祭司長たちは、イエスのことをいろいろと訴えた。4 ピラトはもう一度イエスに尋ねた、「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」。5 しかし、イエスはピラトが不思議に思うほどに、もう何もお答えにならなかった。

4.93.1 マタイ 27:1-2; 11-14

1 夜が明けると、祭司長たち、民の長老たち一同は、イエスを殺そうとして協議をこらした上、2 イエスを縛って引き出し、総督ピラトに渡した。

11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると総督はイエスに尋ねて言った、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは「そのとおりである」と言われた。12 しかし、祭司長、長老たちが訴えている間、イエスはひと言もお答えにならなかった。13 するとピラトは言った、「あんなにまで次々に、あなたに不利

な証言を立てているのが、あなたには聞えないのか」。14 しかし、総督が非常に不思議に思ったほどに、イエスは何を言われても、ひと言もお答えにならなかった。

4.93.2 ルカ 23:1-5

1 群衆はみな立ちあがって、イエスをピラトのところへ連れて行った。2 そして訴え出て言った、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」。3 ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは「そのとおりである」とお答えになった。4 そこでピラトは祭司長たちと群衆とにむかって言った、「わたしはこの人になんの罪もみとめない」。5 ところが彼らは、ますます言いつのってやまなかった、「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたって教え、民衆を煽動しているのです」。

4.93.3 ヨハネ 18:28-38

28 それから人々は、イエスをカヤパのところから官邸につれて行った。時は夜明けであった。彼らは、けがれを受けないで過越の食事ができるように、官邸にはいらなかった。29 そこで、ピラトは彼らのところに出てきて言った、「あなたがたは、この人に対してどんな訴えを起すのか」。30 彼らはピラトに答えて言った、「もしこの人が悪事をはたらかなかったなら、あなたに引き渡すようなことはしなかったでしょう」。31 そこでピラトは彼らに言った、「あなたがたは彼を引き取って、自分たちの律法でさばくがよい」。ユダヤ人らは彼に言った、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」。32 これは、ご自身がどんな死にかたをしようとしているかを示すために言われたイエスの言葉が、成就するためである。33 さて、ピラトはまた官邸にはいり、イエスと呼び出して言った、「あなたは、ユダヤ人の王であるか」。34 イエスは答えられた、「あなたがそう言うのは、自分の考えからか。それともほかの人々が、わたしのことをあなたにそう言ったのか」。35 ピラトは答えた、「わたしはユダヤ人なのか。あなたの同族や祭司長たちが、あなたをわたしに引き渡したのだ。あなたは、いったい、何をしたのか」。36 イエスは答えられた、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。37 そこでピラトはイエスに言った、「それでは、あなたは王なのだな」。イエスは答えられた、「あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」38 ピラトはイエスに言った、「真理とは何か」。こう言って、彼はまたユダヤ人の所に出て行き、彼らに言った、「わたしには、この人になんの罪も見いだせない」。

[マルコによる福音書 15 章 1-5 節福音書対照表](#)

4.93.4 問い

1. 祭司長たちと全議会のもとでの審問について復習しましょう。(14:53-65)

2. 夜が明けると、どのようなことが起こりますか。(1)
3. ピラトはイエスにどんな尋問をし、イエスはそれにどのように答えますか。(2)
4. 祭司長たちは、どのようなことを訴えたでしょう。(3)
5. ピラトは、そして、イエスはどうしますか。(4,5)
6. 他の福音書からは、どのようなことがわかりますか。

4.93.5 参照

- 裁判について：Grok3 beta [応答](#) [2025.2.21]
- マタイでは、ユダ、自殺するが挿入されている（マタイ 27:3-10、自殺については他に使徒 1:18,19）
- ピラト：ChatGPT [[参照リンク](#)] (2025.3.13)
 - －（榊原康夫『マタイ福音書講解（下）』p.290）ローマの属国ユダヤは、ヘロデ大王の死後、その子らに分割されていましたが、南にある狭義のユダヤ地方は、領主ヘロデ・アケラオが暴政をしいたため退けられると、ローマ帝国スリヤ領総督配下のユダヤ地方総督直轄地となりました。それが、ここに出てくる「総督」でピラトは 26 年から 36 年まで勤めた第 5 代目総督です。後の総督では、使徒行伝に、第 11 代目のペリクス (23:24) や、その次のポルキオ・フェスト (24:27) などが出てきます。これらのユダヤ地方総督は、平素はカイザリヤに駐在しましたが (23:23) 祭りの時などには、エルサレムに来て、治安を守りました。ピラトがエルサレムにいたのも、過越祭の治安のためです。
 - － かなりの乱暴者：ちょうどその時、ある人々がきて、ピラトがガリラヤ人たちの血を流し、それを彼らの犠牲の血に混ぜたことを、イエスに知らせた。(ルカ 13:1) 記録に残っていない。
 - － カイザリヤからローマ軍をエルサレムに差し向け、カイザルの肖像のついて軍旗を強引に、エルサレムに立て、ユダヤの律法を廃止しようとして激しく国民と対立。(ユダヤ人古代史 18:3:1、ユダヤ戦記 2:9:2-3)
 - － 宮の献金で、エルサレムに水路を引こうとして市民と対立し、大勢のユダヤ人を虐殺。(ユダヤ人古代史 18:3: 2、ユダヤ戦記 2:9:4)
 - － 謀反を企ててもいないサマリヤ市民を騎兵や歩兵をもって虐殺。(ユダヤ人古代史 18:4:2)
 - － 妻：プロクラまたはクラウディア・プログラといい、神を敬う女、ユダヤ教改宗者であったと言われている。
- 生と死に関する裁判権
 - － 剣の権限：ユース・グラデイイ、ローマに

- － タルムード：生と死に関わることの裁判権は、神殿崩壊の 40 年前に、イスラエルから剥奪された。
 - － 初代執政官：コポニウス、カエサルから生死の権限をその手に委ねられた（ユダヤ戦記）
- ルカでは、ヘロデから尋問される（23:6-12）
 - － 6 ピラトはこれを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ね、7 そしてヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ちょうどこのころ、ヘロデがエルサレムにいたのをさいわい、そちらへイエスを送りとどけた。8 ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。9 それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかった。10 祭司長たちと律法学者たちとは立って、激しい語調でイエスを訴えた。11 またヘロデはその兵卒どもと一緒に、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はなやかな着物を着せてピラトへ送りかえした。12 ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。
- 1 テモテ 6:12-14 信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。13 わたしはすべてのものを生かして下さる神のみまえと、またポンテオ・ピラトの面前でりっぱなあかしをなさったキリスト・イエスのみまえで、あなたに命じる。14 わたしたちの主イエス・キリストの出現まで、その戒めを汚すことがなく、また、それを非難のないように守りなさい。
- さまざまな沈黙について（ウィリアム・バークレイ）
 - － 驚きと、賛美の沈黙－拍手は場違い
 - － 軽蔑の沈黙－答えるに値しない
 - － 恐怖の沈黙－話すことを恐れて
 - － 傷ついた心の沈黙－深い悲しみ
 - － 悲劇の沈黙－語るべきことがない。

* イエスは、ご自身とユダヤの指導者との間に橋渡しするものがないのをご存知であった。イエスはピラトのなかには、ご自分が究極的に訴え得るものがないのを知っておられた。イエスは医師を伝える方法が破られているのを知っておられた。ユダヤ人たちの憎しみは、鉄のカーテンであり、いかなる言葉も通すことがなかった。群衆に向かったピラトの臆病は、言葉を通さない壁であった。イエスでさえ、語ることができないというような状態に人間の心になるとは、恐ろしいことである。神がわれわれをそのようなことから救ってくださるように。
- エルサレム入城の記述
 - － 11:9「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」は、ユダヤ人の王を想起させる。

- (参照) この箇所、マタイは、「シオンの娘に告げよ、／見よ、あなたの王がおいでになる、／柔和なおかたで、ろばに乗って、／くびきを負うろばの子に乗って」。(マタイ 21:5) とゼカリヤ 9:9 を引用している。
- (参照) ルカ 19:38-40 「主の御名によってきたる王に、／祝福あれ。天には平和、／いと高きところには栄光あれ」。39 ところが、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った、「先生、あなたの弟子たちをおしかり下さい」。40 答えて言われた、「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」。
- (参照) ヨハネ 12:12 その翌日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエスがエルサレムにこられると聞いて、13 しゅろの枝を手にとり、迎えに出て行った。そして叫んだ、／「ホサナ、／主の御名によってきたる者に祝福あれ、／イスラエルの王に」。14 イエスは、ろばの子を見つけて、その上に乗られた。それは 15 「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王が／ろばの子に乗っておいでになる」／と書いてあるとおりであった。16 弟子たちは初めにはこのことを悟らなかったが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのとおりに、人々がイエスに対してしたのだということを、思い起した。
- イエスを「王」とする
 - マルコ 15:9-13 ピラトは彼らにむかって、「おまえたちはユダヤ人の王をゆるしてもらいたいのか」と言った。10 それは、祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにわかっていたからである。11 しかし祭司長たちは、バラバの方をゆるしてもらうように、群衆を煽動した。12 そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。13 彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。
 - マルコ 15:18 「ユダヤ人の王、ばんざい」と言って敬礼をしはじめた。
 - マルコ 15:26 イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。
 - ヨハネ 19:19-22 19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上につけさせた。それには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いてあった。20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル、ローマ、ギリシヤの国語で書いてあった。21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、「『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人はユダヤ人の王と自称していた』と書いてほしい」。22 ピラトは答えた、「わたしが書いたことは、書いたままにしておけ」。
 - 使徒 17:7 その人たちをヤソンが自分の家に迎え入れました。この連中は、みなカイザルの詔勅にそむいて行動し、イエスという別の王がいるなどと言っています」。(テサロニケで)
- 国民を惑わす罪・扇動 (ルカ 23:2,5)
 - そして訴え出て言った、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」(ルカ 23:2)

- (ユダヤ人の王であるかについて肯定したあと) 4 そこでピラトは祭司長たちと群衆とにむかって言った、「わたしはこの人になんの罪もみとめない」。5 ところが彼らは、ますます言いつのってやまなかった、「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたって教え、民衆を煽動しているのです」。(ルカ 23:4,5) とある。
 - 使徒 16:20 それから、ふたりを長官たちの前に引き出して訴えた、「この人たちはユダヤ人でありまして、わたしたちの町をかき乱し、
 - 使徒 17:6 しかし、ふたりが見つからないので、ヤソンと兄弟たち数人を、市の当局者のところに引きずって行き、叫んで言った、「天下をかき回してきたこの人たちが、ここにもはいり込んでいます。
 - 使徒 21:38 では、もしかおまえは、先ごろ反乱を起した後、四千人の刺客を引き連れて荒野へ逃げに行ったあのエジプト人ではないのか」。
 - 使徒 24:5 さて、この男は、疫病のような人間で、世界中のすべてのユダヤ人の中に騒ぎを起している者であり、また、ナザレ人らの異端のかしらであります。
- イエスについての証言
 - 1 テモテ 6:13 わたしはすべてのものを生かして下さる神のみまえと、またポンテオ・ピラトの面前でりっぱなあかしをなさったキリスト・イエスのみまえで、あなたに命じる。
 - アリマタヤのヨセフ
 - 43 アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。44 ピラトは、イエスがもはや死んでしまったのかと不審に思い、百卒長を呼んで、もう死んだのかと尋ねた。45 そして、百卒長から確かめた上、死体をヨセフに渡した。46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い求め、イエスをとりおろして、その亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納め、墓の入口に石をころがしておいた。(マルコ 15:43)
 - * 57 夕方になってから、アリマタヤの金持で、ヨセフという名の人 came。彼もまたイエスの弟子であった。58 この人がピラトの所へ行って、イエスのからだの引取りかたを願った。そこで、ピラトはそれを渡すように命じた。59 ヨセフは死体を受け取って、きれいな亜麻布に包み、60 岩を掘って造った彼の新しい墓に納め、そして墓の入口に大きい石をころがしておいて、帰った。(マタイ 27:57)
 - * 50 ここに、ヨセフという議員がいたが、善良で正しい人であった。51 この人はユダヤの町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会の議決や行動には賛成していなかった。52 この人がピラトのところへ行って、イエスのからだの引取り方を願い出て、53 それを取りおろして亜麻布に包み、まだだれも葬ったことのない、岩を掘って造った墓に納めた。54 この日は準備の日であって、安息日が始まりかけていた。(ルカ 23:50-54)

* 38 そののち、ユダヤ人をはばかり、ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。39 また、前に、夜、イエスのみもとに行ったニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた。40 彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料を入れて亜麻布で巻いた。(ヨハネ 19:38-40)

4.93.6 記録

- 日時：2025 年 3 月 13 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）2 名、参加（遠隔）4 名

4.93.7 問いについて

1. 祭司長たちと全議会のもとでの審問について復習しましょう。(14:53-65)

- (イエスに不利な証拠をみつけ死刑にしようとする) 55 祭司長たちと全議会とは、イエスを死刑にするために、イエスに不利な証拠を見つけようとしたが、得られなかった。
- (イエスは沈黙を守る) 60 そこで大祭司が立ちあがって、まん中に進み、イエスに聞きただして言った、「何も答えないのか。これらの人々があなたに対して不利な証言を申し立てているが、どうなのか」。61 しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。
- (神の子・キリストか。わたしがそれである。) 61 大祭司は再び聞きただして言った、「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。62 イエスは言われた、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。
- (この汚しごとは、死に値する) 63 すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、「どうして、これ以上、証人の必要があろう。64 あなたがたはこのけがし言を聞いた。あなたがたの意見はどうか」。すると、彼らは皆、イエスを死に当るものと断定した。
 - － 議決のようなことは書かれていない。「彼らは皆」ともあり、雰囲気としては、同意していただろう。
- (嘲笑をあびる) 65 そして、ある者はイエスにつばきをかけ、目隠しをし、こぶしでたたいて、「言いあててみよ」と言いはじめた。また下役どもはイエスを引きとって、手のひらでたたいた。

－ ヨハネ (18:3,12) によると、ローマ兵もいたように書かれている。

2. 夜が明けると、どのようなことが起こりますか。(1)

- 1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者たち、および全議会と協議をこらした末、イエス

を縛って引き出し、ピラトに渡した。

- [DQ] 14:55 にも「祭司長と全議会」と書かれているが、今回とは異なるのだろうか。
 - － おそらく、正式な会議となったのだろう。または、議決のような決定はされていなかったのかもしれない。祭りの間だから、通常は、開催されなかったと思われる。
- [DQ] なぜ、全議会は、イエスをピラトに引き渡したのでしょうか。
 - － 「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」。(ヨハネ 18:32)
 - － 正式な決定ではなく、ピラトに決定させる方が、一般群衆のたまえ安全だと考えたかもしれない。
 - － (参考) ルカ 23:50 ここに、ヨセフという議員がいたが、善良で正しい人であった。51 この人はユダヤの町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会の議決や行動には賛成していなかった。

3. ピラトはイエスにどんな尋問をし、イエスはそれにどのように答えますか。(2)

- 2 ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりである」とお答えになった。
- [DQ] イエスは、なぜ、「あなたがユダヤ人の王であるか」にたいして、「そのとおりである」と答えたのだろうか。
 - － イエスは、自分を、ユダヤ人の王だと認識していたのだろうか。
 - － (参照) エルサレム入場の記述、11:9「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10 今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」は、ユダヤ人の王を想起させる。他の、福音書も参照。マタイ 21:5、ルカ 19:38-40、ヨハネ 12:12-16。
- [DQ] イエスが十字架にかかる罪状は何なのですか。
 - － 不明。ただし、15:10 ピラトはねたみと見ている。(これは罪状ではない)
 - － マルコ 15:26 イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。(ヨハネ 19:19-22 参照)

4. 祭司長たちは、どのようなことを訴えたでしょう。(3)

- 3 そこで祭司長たちは、イエスのことをいろいろと訴えた。
- [DQ] 全議会と、ピラトのものと審議はなにが違いますか。(確認)
 - － 総督ピラトのローマ法廷では、神の子、キリストだとしたような、冒涇罪で死刑にすることは難しい。

- [DQ] 王であることを認めただけでは不十分なのでしょうか。なにか、不満があったのでしょうか。

－ 困惑もあったかもしれない。

－ (参照) ヨハネ 19:21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、『『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人はユダヤ人の王と自称していた』と書いてほしい』。

5. ピラトは、そして、イエスはどうしますか。(4,5)

- 4 ピラトはもう一度イエスに尋ねた、「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」。5 しかし、イエスはピラトが不思議に思うほどに、もう何もお答えにならなかった。

- [DQ] イエスの沈黙の理由はなんだろうか。

－ 説明して理解されることを目指していなかった。

- [DQ] イエスは、どう考えていたのでしょうか。

－ 罪を負うこと以外は、考えられなかったのか。そこに御心があると考えていたのか。

－ [Q] イエスは、ピラトを、そして、イエスを訴えている人たちを愛していなかったのか。

* おそらくそうではない。ただ、説得すること、理解を得ることが愛することではないのだろう。

6. 他の福音書からは、どのようなことがわかりますか。

- [DQ] マタイは、マルコに似ていますが、加えてどのようなことが書かれていますか。

－ 「イエスを殺そうとして」(マタイ 27:1) が挿入されている。

- [DQ] ルカは何を伝えていますか。

－ そして訴え出て言った、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」(ルカ 23:2)

－ (ユダヤ人の王であるかについて肯定したあと) 4 そこでピラトは祭司長たちと群衆とにむかって言った、「わたしはこの人になんの罪もみとめない」。5 ところが彼らは、ますます言いつのってやまなかった、「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたって教え、民衆を煽動しているのです」。(ルカ 23:4,5) とある。

- [DQ] ヨハネは何を伝えていますか。

－ 彼らは、けがれを受けないで過越の食事ができるように、官邸にはいらなかった。(ヨハネ 18:28) とある。

－（死刑が目的であることについて）29 そこで、ピラトは彼らのところに出てきて言った、「あなたがたは、この人に対してどんな訴えを起すのか」。30 彼らはピラトに答えて言った、「もしこの人が悪事をはたらかなかつたなら、あなたに引き渡すようなことはしなかったでしょう」。31 そこでピラトは彼らに言った、「あなたがたは彼を引き取って、自分たちの律法でさばくがよい」。ユダヤ人らは彼に言った、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」。32 これは、ご自身がどんな死にかたをしようとしているかを示すために言われたイエスの言葉が、成就するためである。（ヨハネ 18:29-32）

－（ピラトとイエスのやりとり）35 ピラトは答えた、「わたしはユダヤ人なのか。あなたの同族や祭司長たちが、あなたをわたしに引き渡したのだ。あなたは、いったい、何をしたのか」。36 イエスは答えられた、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。37 そこでピラトはイエスに言った、「それでは、あなたは王なのだな」。イエスは答えられた、「あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」38 ピラトはイエスに言った、「真理とは何か」。こう言って、彼はまたユダヤ人の所に出て行き、彼らに言った、「わたしには、この人になんの罪も見いだせない。（ヨハネ 18:35-38）

4.93.8 メモ

- 福音書の差異：マタイは、マルコに非常に近い。1 節に「イエスを殺そうとして」と目的を追加。マルコでは、4 節で、ピラトに「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」と言わせているが、3 節の「そこで祭司長たちは、イエスのことをいろいろと訴えた。」は、マタイでは、削除し、「あんなにまで次々に、あなたに不利な証言を立てているのが、あなたには聞えないのか」としている。細かなことだが、マルコではピラトとだけ書かれているが、マタイでは、総督ピラトとし、そのあとの総督としている。マルコは、ピラトが総督であることは、だれでも知っている想定しているのだろう。それだけ証言としては古いと思われる。ルカでは、訴えた内容として、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」（2）としている。また、ピラトに、「わたしはこの人になんの罪もみとめない」と言わせ、これに対して、「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたって教え、民衆を煽動しているのです」とピラトの厳しい判決を誘導しているように見える。ヨハネには、もっと情報が多。まず、ピラトのところを、官邸とよび、「けがれを受けないで過越の食事ができるように、官邸にはいなかった。」としている。過越の食事は、この晩に食べると想定している。さらに、死刑を要求していることを、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と主張し、律法で裁く内容とは区別しているように見える。さらに、「あなたは、ユダヤ人の王であるか」の問いについても、最後には、「それでは、あなたは王なのだな」。イエスは答えられた、「あなたの言うとおり、わたしは王である。」としているが、その前に、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従

っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。を付け加え、さらに、ユダヤ人の王であることを肯定した後も、わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」と付け加え、ピラトに「真理とは何か」と問わせ、さらに「わたしには、この人になんの罪も見いだせない。」と言わせている。いずれにしても、かなり詳細になっている。

• 問い：

- なぜ、全議会は、ピラトにイエスを引き渡したのだろうか。
- ピラトの問い「あなたはユダヤ人の王であるか」に対して、なぜイエスは肯定したのだろうか。（共観福音書とヨハネを比較）

4.94 15:6-15 死刑の判決を受ける

6 さて、祭のたびごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人ひとりを、ゆるしてやることにしていた。7 ここに、暴動を起し人殺しをしてつながれていた暴徒の中に、バラバという者がいた。8 群衆が押しかけてきて、いつものとおりにしてほしいと要求しはじめたので、9 ピラトは彼らにむかって、「おまえたちはユダヤ人の王をゆるしてもらいたいのか」と言った。10 それは、祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにわかっていたからである。11 しかし祭司長たちは、バラバの方をゆるしてもらうように、群衆を煽動した。12 そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。13 彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。14 ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは一そう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。

4.94.1 マタイ 27:15-26

15 さて、祭のたびごとに、総督は群衆が願ひ出る囚人ひとりを、ゆるしてやる慣例になっていた。16 ときに、バラバという評判の囚人がいた。17 それで、彼らが集まったとき、ピラトは言った、「おまえたちは、だれをゆるしてほしいのか。バラバか、それとも、キリストといわれるイエスカ」。18 彼らがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにはよくわかっていたからである。19 また、ピラトが裁判の席についていたとき、その妻が人を彼のもとにつかわして、「あの義人には関係しないでください。わたしはきょう夢で、あの人のためにさんざん苦しみましたから」と言わせた。20 しかし、祭司長、長老たちは、バラバをゆるして、イエスを殺してもらうようにと、群衆を説き伏せた。21 総督は彼らにむかって言った、「ふたりのうち、どちらをゆるしてほしいのか」。彼らは「バラバの方を」と言った。22 ピラトは言った、「それではキリストといわれるイエスは、どうしたらよいか」。彼らはいっせいに「十字架につけよ」と言った。23 しかし、ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると彼らはいっそう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。24 ピラトは手のつけようがなく、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った、「この人の血について、わた

しには責任がない。おまえたちが自分で始末をするがよい」。25 すると、民衆全体が答えて言った、「その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」。26 そこで、ピラトはバラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。

4.94.2 ルカ 23:13-25

13 ピラトは、祭司長たちと役人たちと民衆とを、呼び集めて言った、14 「おまえたちは、この人を民衆を惑わすものとしてわたしのところに連れてきたので、おまえたちの前でしらべたが、訴え出ているような罪は、この人に少しもみとめられなかった。15 ヘロデもまたみとめなかった。現に彼はイエスをわれわれに送りかえしてきた。この人はなんら死に当るようなことはしていないのである。16 だから、彼をむち打ってから、ゆるしてやることにしよう」。17 「祭ごとにピラトがひとりの囚人をゆるしてやることになっていた。」18 ところが、彼らはいっせいに叫んで言った、「その人を殺せ。バラバをゆるしてくれ」。19 このバラバは、都で起った暴動と殺人とのかどで、獄に投ぜられていた者である。20 ピラトはイエスをゆるしてやりたいと思って、もう一度かれらに呼びかけた。21 しかし彼らは、わめきたてて「十字架につけよ、彼を十字架につけよ」と言いつづけた。22 ピラトは三度目に彼らにむかって言った、「では、この人は、いったい、どんな悪事をしたのか。彼には死に当る罪は全くみとめられなかった。だから、むち打ってから彼をゆるしてやることにしよう」。23 ところが、彼らは大声をあげて詰め寄り、イエスを十字架につけるように要求した。そして、その声が勝った。24 ピラトはついに彼らの願いどおりにすることに決定した。25 そして、暴動と殺人とのかどで獄に投ぜられた者の方を、彼らの要求に応じてゆるしてやり、イエスの方は彼らに引き渡して、その意のままにまかせた。

4.94.3 ヨハネ 18:39-19:16

39 過越の時には、わたしがあなたがたのために、ひとりの人を許してやるのが、あなたがたのしきたりになっている。ついては、あなたがたは、このユダヤ人の王を許してもらいたいのか」。40 すると彼らは、また叫んで「その人ではなく、バラバを」と言った。このバラバは強盗であった。

1 そこでピラトは、イエスを捕え、むちで打たせた。2 兵卒たちは、いばらで冠をあんで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、3 それから、その前に進み出て、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。そして平手でイエスを打ちつづけた。4 するとピラトは、また出て行ってユダヤ人たちに言った、「見よ、わたしはこの人をあなたがたの前に引き出すが、それはこの人になんの罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうためである」。5 イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで外へ出られると、ピラトは彼らに言った、「見よ、この人だ」。6 祭司長たちや下役どもはイエスを見ると、叫んで「十字架につけよ、十字架につけよ」と言った。ピラトは彼らに言った、「あなたがたが、この人を引き取って十字架につけるがよい。わたしは、彼にはなんの罪も見いだせない」。7 ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。8 ピラトがこの言葉を聞いたとき、ますますおそれ、9 もう一度官邸にはいってイエスに言った、「あなたは、もともと、どこからきたのか」。しかし、イエスはなんの答もなさらなかった。10 そこでピラトは言った、

「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのか」。11 イエスは答えられた、「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きい」。12 これを聞いて、ピラトはイエスを許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫んで言った、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。13 ピラトはこれらの言葉を聞いて、イエスを外へ引き出して行き、敷石（ヘブル語ではガバタ）という場所で裁判の席についた。14 その日は過越の準備の日であって、時は昼の十二時ころであった。ピラトはユダヤ人らに言った、「見よ、これがあなたがたの王だ」。15 すると彼らは叫んだ、「殺せ、殺せ、彼を十字架につけよ」。ピラトは彼らに言った、「あなたがたの王を、わたしが十字架につけるのか」。祭司長たちは答えた、「わたしたちには、カイザル以外に王はありません」。16 そこでピラトは、十字架につけさせるために、イエスを彼らに引き渡した。彼らはイエスを引き取った。

マルコによる福音書 15 章 6-15 節福音書対照表

4.94.4 問い

1. イエスの裁判について復習しましょう。(14:53-65, 15:1-5)
2. 群衆は、ピラトに何を求め、ピラトはどう応じますか。(6-10)
3. 祭司長たちはどうしますか。(11-13)
4. 群衆はどうしますか。(12-14)
5. ピラトはどうしますか。それはなぜですか。(14-15)
6. あなたは、この箇所から何を学びますか。他の、福音書も参考にしましょう。

4.94.5 参照

- イエスの裁判の概要
 - － アンナス [ヨハネのみ 18:13,14]・ カヤパ 14:53-65・(ペテロイエスを否む 14:66-72)・ 公式サンヘドリン 15:1・(ユダの自殺マタイのみ 26:3-10)・ ピラト 15:2-5・ ヘロデ [ルカのみ 23:6-12]・ピラトによる死刑宣告 15:6-14
- アントニオ・チセリ (1821–1891) 「この人を見よ」 Ecce homo by Antonio Ciseri [\[画像\]](#)
- ピラトについて [\[参照\]](#)
- バラバ

－ 使徒 3:14,15 あなたがたは、この聖なる正しいかたを拒んで、人殺しの男をゆるすように要求し、15
いのちの君を殺してしまった。しかし、神はこのイエスを死人の中から、よみがえらせた。わたした
ちは、その事の証人である。

● 小説「バラバ」ラーゲルクヴィスト作尾崎 義訳、岩波文庫赤 757-1

－ ゴルゴタの丘で十字架にかけられたイエスをじっと見守る一人の男があった。その名はバラバ。死刑
の宣告を受けながらイエス処刑の身代わりに釈放された極悪人。現代スウェーデン文学の巨匠ラーゲ
ルクヴィスト（一八九一 - 一九七四）は、人も神をも信じない魂の遍歴を通して、キリストによる救
い、信仰と迷いの意味をつきとめようとする。 [[リンク](#)]

● 群衆（ ）について

- － エルサレム入城（マルコ 11:1-11, マタイ 21:1-11, ルカ 19:28-40, ヨハネ 12:12-19 [[リンク](#)]) 以前
- * マルコ 2:4 ところが、群衆のために近寄ることができないので、イエスのおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたまま、床をつりおろした。
 - * マルコ 2:13 イエスはまた海べに出て行かれると、多くの人々がみもとに集まってきたので、彼らを教えられた。
 - * マルコ 3:7-9 それから、イエスは弟子たちと共に海べに退かれたが、ガリラヤからきたおびただしい群衆がついて行った。またユダヤから、8 エルサレムから、イドマヤから、更にヨルダンの向こうから、ツロ、シドンのあたりからも、おびただしい群衆が、そのなさっていることを聞いて、みもとにきた。9 イエスは群衆が自分に押し迫るのを避けるために、小舟を用意しておくと、弟子たちに命じられた。
 - * マルコ 3:20 群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。
 - * マルコ 3:32 ときに、群衆はイエスを囲んですわっていたが、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟、姉妹たちが、外であなたを尋ねておられます」と言った。
 - * マルコ 4:1 イエスはまたも、海べで教えはじめられた。おびただしい群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわったまま、海上におられ、群衆はみな海に沿って陸地にいた。
 - * マルコ 4:36 そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。
 - * マルコ 5:21 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。
 - * マルコ 5:24 そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。
 - * マルコ 5:27 この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわった。
 - * マルコ 5:30,31 イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれて、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。31 そこで弟子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかと、おっしゃるのですか」。
 - * マルコ 6:33,34 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町

々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。

- * マルコ 6:45,46 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになった。46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。
- * マルコ 7:14 それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。
- * マルコ 7:17 イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。
- * マルコ 7:33 そこで、イエスは彼ひとりを群衆の中から連れ出し、その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し、
- * マルコ 8:1,2 そのころ、また大ぜいの群衆が集まっていたが、何も食べるものがなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、2 「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。
- * マルコ 8:6 そこでイエスは群衆に地にすわるように命じられた。そして七つのパンを取り、感謝してこれをさき、人々に配るように弟子たちに渡されると、弟子たちはそれを群衆に配った。
- * マルコ 8:34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。
- * マルコ 9:14,15 さて、彼らがほかの弟子たちの所にきて見ると、大ぜいの群衆が弟子たちを取り囲み、そして律法学者たちが彼らと論じ合っていた。15 群衆はみな、すぐイエスを見つけて、非常に驚き、駆け寄ってきて、あいさつをした。
- * マルコ 9:17 群衆のひとりが答えた、「先生、口をきけなくする霊につかれているわたしのむすこを、こちらに連れて参りました。
- * マルコ 9:25 イエスは群衆が駆け寄って来るのをごらんになって、けがれた霊をしかって言われた、「言うことも聞くこともさせない霊よ、わたしがおまえに命じる。この子から出て行け。二度と、はいって来るな」。
- * マルコ 10:1 それから、イエスはそこを去って、ユダヤの地方とヨルダンの向こう側へ行かれたが、群衆がまた寄り集まったので、いつものように、また教えておられた。
- * マルコ 10:46 それから、彼らはエリコにきた。そしてイエスが弟子たちや大ぜいの群衆と共にエリコから出かけられたとき、テマイの子、バルテマイという盲人のこじきが、道ばたにすわっていた。

－ エルサレム入城（マルコ 11:1-11, マタイ 21:1-11, ルカ 19:28-40, ヨハネ 12:12-19 [[リンク](#)]) 後

- * マルコ 11:18 祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った。彼らは、群衆がみなその教に感動していたので、イエスを恐れていたからである。
- * (マルコ 11:32 しかし、人からだと言えは.....)。彼らは [群衆 (people)] を恐れていた。人々が皆、ヨハネを預言者だとほんとうに思っていたからである。)
- * マルコ 12:12 彼らはいまの譬が、自分たちに当てて語られたことを悟ったので、イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。そしてイエスをそこに残して立ち去った。

- * マルコ 12:37 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか」。大ぜいの群衆は、喜んでイエスに耳を傾けていた。
- * マルコ 12:41 イエスは、さいせん箱にむかってすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持は、たくさんの金を投げ入れていた。
- * マルコ 14:43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユダが進みよってきた。また祭司長、律法学者、長老たちから送られた群衆も、剣と棒を持って彼についてきた。
- * マルコ 15:8 群衆が押しかけてきて、いつものとおりにしてほしいと要求しはじめたので、
- * マルコ 15:11 しかし祭司長たちは、バラバの方をゆるしてもらうように、群衆を煽動した。
- * マルコ 15:15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。

● ユダの死（マタイ 27:1-10）マタイのみ（使徒 1:16-20 参照）

- － 1 夜が明けると、祭司長たち、民の長老たち一同は、イエスを殺そうとして協議をこらした上、2 イエスを縛って引き出し、総督ピラトに渡した。3 そのとき、イエスを裏切ったユダは、イエスが罪に定められたのを見て後悔し、銀貨三十枚を祭司長、長老たちに返して 4 言った、「わたしは罪のない人の血を売するようなことをして、罪を犯しました」。しかし彼らは言った、「それは、われわれの知ったことか。自分で始末するがよい」。5 そこで、彼は銀貨を聖所に投げ込んで出て行き、首をつって死んだ。6 祭司長たちは、その銀貨を拾いあげて言った、「これは血の代価だから、宮の金庫に入れるのはよくない」。7 そこで彼らは協議の上、外国人の墓地にするために、その金で陶器師の畑を買った。8 そのために、この畑は今日まで血の畑と呼ばれている 9 こうして預言者エレミヤによって言われた言葉が、成就したのである。すなわち、「彼らは、値をつけられたもの、すなわち、イスラエルの子らが値をつけたものの代価、銀貨三十を取って、10 主がお命じになったように、陶器師の畑の代価として、その金を与えた」。
- * 祭司長たちが、イエスを殺そうと協議をし、総督ピラトに引き渡すと、ユダは後悔
- * 銀貨を返して「わたしは罪のない人の血を売するようなことをして、罪を犯しました」。と告白
- * 祭司長たちが受け取らないので、首をつって死んだ。

● ヘロデ（ピラトがヘロデにイエスを送ったことを書いているのはルカ 23:6-12 のみ）

- － 6 ピラトはこれを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ね、7 そしてヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ちょうどこのころ、ヘロデがエルサレムにいたのをさいわい、そちらへイエスを送りとどけた。8 ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。9 それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかった。10 祭司長たちと律法学者たちとは立って、激しい語調でイエスを訴えた。11 またヘロデはその兵卒どもと一緒に、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はなやかな着物を着せてピラトへ送りかえした。12 ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。
- * ピラトはイエスがヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ヘロデのもとに送る。

- * ヘロデは、会ってみたい、奇跡を行うのを見たいと望んでいた。イエスは、何も答えず。
- * 兵卒と一緒にイエスを侮辱・嘲弄し、はなやかな着物を着せてピラトに送り返す。
- * ヘロデとピラトは互いに敵視していたが、この日に親しい仲になる。

－ 榊原「ルカの福音書」

- * ルカがヘロデ法廷もしるすのは、前後関係から必然であるばかりか（ルカ 9:9, 使徒 4:27）、イエスの無罪の証人をふたりたてるためでもある。（23:15）
- * ヘロデは、ピラトより罪深い者として描かれています。ヘロデの責任強調の傾向は二世紀には、もっと露骨になります。「時にヘロデ王が主を彼らの手に渡すように命じて言った、私が彼にせよとお前たちに命じたことをみな行なえと」（ペテロ福音書 1:2）

• 手を洗う

- － 申命記 21:6,7 そしてその殺された者のある所に最も近い町の長老たちは皆、彼らが谷でくびを折った雌牛の上で手を洗い、7 証言して言わなければならない、『われわれの手はこの血を流さず、われわれの目もそれを見なかった。

• 使徒行伝の証言

- － 使徒 4:25-28 あなたは、わたしたちの先祖、あなたの僕ダビデの口をとおして、聖霊によって、こう仰せになりました、／『なぜ、異邦人らは、騒ぎ立ち、／もろもろの民は、むなしいことを図り、26 地上の王たちは、立ちかまえ、／支配者たちは、党を組んで、／主とそのキリストとに逆らったのか』。27 まことに、ヘロデとポンテオ・ピラトとは、異邦人らやイスラエルの民と一緒にあって、この都に集まり、あなたから油を注がれた聖なる僕イエスに逆らい、28 み手とみ旨とによって、あらかじめ定められていたことを、なし遂げたのです。

• ローマ時代の主な刑罰の種類（ChatGPT 2025.4.17）[[リンク](#)]

刑罰	内容	適用例
十字架刑（Crucifixio）	十字架に磔にして長時間かけて処刑。極めて苦痛を伴う。	奴隷、反乱者、重罪人など。特にローマ市民には適用されない。
剣による処刑（Decapitatio）	首切りなど迅速な死刑方法。	ローマ市民の重罪に適用。比較的「名誉ある」処刑法。
火刑（Combustio）	火で焼かれる処刑。	重罪、異端、魔術などに関係する犯罪。
投獣刑（Damnatio ad bestias）	闘技場で猛獣に襲わせて処刑。	奴隷、キリスト教徒、敵対者。見せ物としての側面も強い。
追放刑（Exilium）	都市または帝国からの追放。	軽罪や政治的処分として用いられる。
鉱山労働刑（Damnatio ad metalla）	強制的に鉱山で働かせる。実質的には死刑に近い過酷な労働。	奴隷、重罪人、キリスト教徒など。

刑罰	内容	適用例
鞭打ち（Flagellatio）	むち打ち。公開処刑の一部でも使われた。	あらゆる階級に課せられたが、市民には制限あり。

4.94.6 記録

- 日時：2025 年 4 月 17 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）6 名、参加（遠隔）3 名

4.94.7 問いについて

1. イエスの裁判について復習しましょう。（14:53-65, 15:1-5）

- マルコでは、三つの部分に分かれている。
 - 14:53-65 最高法院で裁判を受ける [\[参照\]](#)
 - 大祭司のもとに集まってきた、祭司長、長老、律法学者のもとで、証言をあつめる
 - 61b 「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。62 イエスは言われた、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。
 - 15:1-5 ピラトから尋問を受ける [\[参照\]](#)
 - 2 ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりである」とお答えになった。
 - 15:6-15 死刑の判決を受ける [\[参照\]](#)
 - 14 ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは一そう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。

2. 群衆は、ピラトに何を求め、ピラトはどう応じますか。（6-10）

- 6 さて、祭のたびごとに、ピラトは人々が願い出る囚人ひとりを、ゆるしてやることにしていた。7 ここに、暴動を起し人殺しをしてつながれていた暴徒の中に、バラバという者がいた。8 群衆が押しかけてきて、いつものとおりにしてほしいと要求しはじめたので、9 ピラトは彼らにむかって、「おま

えたちはユダヤ人の王をゆるしてもらいたいのか」と言った。10 それは、祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにわかっていたからである。

- [DQ] バラバについて何がわかりますか。
 - － 7b 暴動を起し人殺しをしてつながれていた暴徒
 - － 人殺しの暴徒
- [DQ] ピラトはどのように考えていますか。
 - － [Q] なぜ、ピラトは「祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためである」と考えたのでしょうか。
 - － [A] 内輪もめに見えた。排除のためのうったえ。群衆がイエスやイエスの教えに惹かれていたことを知っていた。

3. 祭司長たちはどうしますか。(11-13)

- 11 しかし祭司長たちは、バラバの方をゆるしてもらうように、群衆を扇動した。12 そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。13 彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。
- [DQ] 祭司長たちは、なぜ、群衆を扇動したのでしょうか。
- [A] 中には、イエスに同調するものもいたのかもしれない。そうでなければ、扇動する必要はない。さらに、それによって、バラバに課せられると考えられていた、十字架刑をイエスに課せられる。

4. 群衆はどうしますか。(12-14)

- 12 そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。13 彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。14 ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは一そう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。
- [DQ] 群衆は、どうして、祭司長たちに従うのでしょうか。
- [DQ] この群衆は、どのような人たちですか。
 - － エルサレム入場のときの群衆（11:1-11(7-10)、マタイ 21:1-11、ルカ 19:28-40、ヨハネ 12:12-19）、教えを喜んで聴く群衆（12:37, Cf. 11:18, 32, 12:12, 41）、イエスをとらえに来た群衆（14:43）、恩赦を願う群衆（15:8）、祭司長たちに扇動される群衆（15:11, 15）は同じなのか、これらの人々の、その心にあったものは、一つなのか。

5. ピラトはどうしますか。それはなぜですか。(14-15)

- 14 ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは一そう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。
- [DQ] ピラトは、なにをたいせつにしていますか。恐れていたことは何なのでしょう。
 - [A] ユダヤ人の暴動（赴任時に皇帝像つき軍旗をもちこもうとしたが、陳情で不可能に、神殿の金で水道工事をしようとして失敗。）地元民に上訴権があり、実際、サマリヤの村人の上訴で失職。（ユダヤ人古代史）
 - [A] 悪事をしたとは、考えていない。
 - [A] ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。
- （共観福音書は）ピラトを好意的に描いているようにみえる。
- 使徒 3:13 アブラハム、イサク、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光を賜わったのであるが、あなたがたは、このイエスを引き渡し、ピラトがゆるすことに決めていたのに、それを彼の面前で拒んだ。（使徒 13:28 参照）

6. あなたは、この箇所から何を学びますか。他の、福音書も参考にしましょう。

- マタイ 27:15-26
 - マタイ 27:1-10 に、ユダの自殺のことが挿入されている。
 - ピラトの妻の言葉が挿入され、さらに、手を洗い、責任回避を宣言する、ピラトの言葉が入っている。
 - * マタイ 27:19 また、ピラトが裁判の席についていたとき、その妻が人を彼のもとにつかわして、「あの義人には関係しないでください。わたしはきょう夢で、あの人のためにさんざん苦しみましたから」と言わせた。
 - * 「あの義人」使徒 3:14, 7:52, 22:14, 1 ヨハネ 3:7
 - * マタイ 27:24 ピラトは手のつけようがなく、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った、「この人の血について、わたしには責任がない。おまえたちが自分で始末をするがよい」。
- ルカ 23:13-25
 - 23:6-12 に、ヘロデからの尋問が挿入されている。イエスは何も答えない。
 - 「死に当たる罪」がないことが何回（23:15,22, Cf 4,14）も繰り返されているように見える。

* (二人の証人・証言として、訴え出ているような罪は、認められないとしている) 14 「おまえたちは、この人を民衆を惑わすものとしてわたしのところに連れてきたので、おまえたちの面前でしらべたが、訴え出ているような罪は、この人に少しもみとめられなかった。15 ヘロデもまたみとめなかった。現に彼はイエスをわれわれに送りかえてきた。この人はなんら死に当るようなことはしていないのである。

ー 釈放提案も繰り返している。(23:16,20,22)

ー むちうちを釈放条件として提案している。(23:16,22)

ー 「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」。(23:2) 「国民を惑わし」は、ローマ帝国内のキリスト者への批判(使徒 16:20, 17:6, 21:38,24:5)

● ヨハネ 18:39-19:16

ー ピラトは、イエスを捕え、むちで打たせた。(1)

ー 兵卒たちは、いばらで冠をあんて、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、それから、その前に進み出て、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。そして平手でイエスを打ちつづけた。(2,3)

ー ピラトは、また出て行ってユダヤ人たちに言った、「見よ、わたしはこの人をあなたがたの前に引き出すが、それはこの人になんの罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうためである」。(4b)

ー 5 イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで外へ出られると、ピラトは彼らに言った、「見よ、この人だ」。(5)

ー ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。(7)

ー もう一度官邸にはいってイエスに言った、「あなたは、もともと、どこからきたのか」。しかし、イエスはなんの答もなさらなかった。(9)

ー イエスは答えられた、「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きい」。(11)

ー これを聞いて、ピラトはイエスを許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫んで言った、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。(12)

ー 祭司長たちは答えた、「わたしたちには、カイザル以外に王はありません」。(15b)

ー [Q] ヨハネは、十字架刑の判決を通して、何を伝えているのでしょうか。

- [DQ] イエスはなぜ、十字架にかかることになったのでしょうか。

4.94.8 メモ

- 福音書の差異：基本的にマルコでは、前段（15:1-5）において、ピラトの「あなたがユダヤ人の王であるか」（2）との問いに対して、イエスは「そのとおりである」（2）と答え、そのあとは、なにも答えていない。それを受けて、「いつものとおり」のおそらく祭りのときの、恩赦（6）を求めた群衆に対して「おまえたちはユダヤ人の王をゆるしてもらいたいのか」（9）と問い、さらに、「それは、祭司長たちがイエスを引きわたしたのは、ねたみのためであることが、ピラトにわかっていたからである。」（10）と理由も付加されている。このため、最初に、恩赦を願った群衆と、このあと、祭司長たちの意向をうけて、「十字架につけよ」と叫ぶ群衆が同じなのか、違うのかも、区別がつかない。しかし、全体として、ピラトは「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」（14）とまで、言ったと記録されているが、結局、ピラトも「群衆を満足させようと思って」（15a）「バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。」（15b）と書かれている。マタイと、ルカは、基本史料は、マルコ、または、マルコとおなじようであるが、多少異なる点がある。
- 福音書の差異（マタイ）：恩赦についての背景説明の後「おまえたちは、だれをゆるしてほしいのか。バラバか、それとも、キリストといわれるイエスカ」（マタイ 27:17b）と、バラバかイエスのどちらかが恩赦を受けるという単純化が行われている。特徴的なこととしては、ピラトの妻のことは「あの義人には関係しないでください。わたしはきょう夢で、あの人のためにさんざん苦しみましたから」（マタイ 27:19）が挿入されている。また、「24 ピラトは手のつけようがなく、かえって暴動になりそうなのを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った、『この人の血について、わたしには責任がない。おまえたちが自分で始末をするがよい』。25 すると、民衆全体が答えて言った、『その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい』。」（マタイ 27:24,25）と、責任の所在に関するやりとりが記録されている。
- 福音書の差異（ルカ）：ルカでは、すこし枠組みに変化があり「14 『おまえたちは、この人を民衆を惑わすものとしてわたしのところに連れてきたので、おまえたちの前でしらべたが、訴え出ているような罪は、この人に少しもみとめられなかった。15 ヘロデもまたみとめなかった。現に彼はイエスをわれわれに送りかえてきた。この人はなんら死に当るようなことはしていないのである。16 だから、彼をむち打ってから、ゆるしてやることにしよう』。」（ルカ 23:14-16）と、祭司長たちと役人と民衆を呼び出して告げるところから始めている。さらに、「ピラトはイエスをゆるしてやりたいと思って、もう一度かれらに呼びかけた。」（ルカ 23:20）「ピラトは三度目に彼らにむかって言った、『では、この人は、いったい、どんな悪事をしたのか。彼には死に当る罪は全くみとめられなかった。だから、むち打ってから彼をゆるしてやることにしよう』。」（ルカ 23:22）とまで描いている。しかしピラト詰め寄る（ルカ 23:23b）強行な彼らに押し切られて、彼らの願い通りにしたと書かれている。
- 福音書の差異（ヨハネ）：まず、恩赦の枠組みが説明され、次に、「1 そこでピラトは、イエスを捕え、むちで打たせた。2 兵卒たちは、いばらで冠をあんで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、3 それから、その前に進み出て、『ユダヤ人の王、ばんざい』と言った。そして平手でイエスを打ちつづけた。」（ヨハネ 19:1-3）と始めている。共観福音書では、鞭打ったり侮辱を与えるのは、判決後である。このあとに

「見よ、わたしはこの人をあなたがたの前に引き出すが、それはこの人になんの罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうためである」。(ヨハネ 19:4b) と言った後「見よ、この人だ」(ヨハネ 19:5b) というあたりは印象的である。さらに「あなたがたが、この人を引き取って十字架につけるがよい。わたしは、彼にはなんの罪も見いだせない」(ヨハネ 19:6) とピラトが言った後に、ユダヤ人たちが、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」といい、これに対して、ピラトはさらに「あなたは、もともと、どこからきたのか」(ヨハネ 19:9) と問い、「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのか」に対して、イエスが「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きい」(11b) といい、さらに、赦そうとするピラトにたいして、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。(ヨハネ 19:12b) 「わたしたちには、カイザル以外に王はありません」(15b) の声を聞き、ユダヤ人に引き渡すことを決めたことが記録されている。ユダヤ人たちも貶められ、なんとも残念な結末である。

- マルコでは、明確とは言えないが、基本的には、暴動を起こし殺人をしたバラバが赦され、ピラとはなんら罪を認めることができなかったイエスが十字架刑にされることが書かれている。特に、ルカや、ヨハネでは、罪がないことが強調されているが、マタイと、ヨハネでは、責任についても述べられている。形式的には、ユダヤ人の責任としているが、枠組みは、死刑の権限を持っている、ピラトが総督である、ローマ帝国政府であることも揺るがない事実であるが、ヨハネには、そのような権威も、神のもとにあることが述べられ、人々が、神の権威か、人の権威のどちらに従うかが問われている関係になっている。

4.95 15:16-20 兵士から侮辱される

16 兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の内に連れて行き、全部隊を呼び集めた。17 そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、18 「ユダヤ人の王、ばんざい」と言って敬礼をはじめた。19 また、葦の棒でその頭をたたき、つばきをかけ、ひざまずいて拝んだりした。20 こうして、イエスを嘲弄したあげく、紫の衣をはぎとり、元の上着を着せた。それから、彼らはイエスを十字架につけるために引き出した。

4.95.1 マタイ 27:27-31

27 それから総督の兵士たちは、イエスを官邸に連れて行って、全部隊をイエスのまわりに集めた。28 そしてその上着をぬがせて、赤い外套を着せ、29 また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、右の手には葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、嘲弄して、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。30 また、イエスにつばきをかけ、葦の棒を取りあげてその頭をたたいた。31 こうしてイエスを嘲弄したあげく、外套をはぎ取って元の上着を着せ、それから十字架につけるために引き出した。

4.95.2 ルカ 22:63-65

63 イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、64 目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。65 そのほか、いろいろな事を言って、イエスを愚弄した。

4.95.3 ヨハネ 19:2-3

2 兵卒たちは、いばらで冠をあんで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、3 それから、その前に進み出て、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。そして平手でイエスを打ちつづけた。

[マルコによる福音書 15 章 16-20 節福音書対照表](#) (ルカを加えたもの)

[マルコによる福音書 15 章 16-20 節福音書対照表](#) (オリジナル)

4.95.4 問い

1. イエスの裁判について復習しましょう。(14:53-65, 15:1-15)
2. 裁判のあとどうなりますか。(16)
3. イエスは、誰に、どのようにされますか。(17-19)
4. このひとたちは、なぜ、イエスに対して、このようにするのでしょうか。(17-19)
5. イエスが、以前、弟子たちに伝えていたことと比較してみましょう。(10:33,34 など)
6. イエスは、最終的にはどうされますか。(20)

4.95.5 参照

- 地図 (Map) : 受難週のエルサレム (The Passion Week in Jerusalem) [[参照](#)]
- ルカでは、イエスが捕えられ、朝に裁判が始まるまえに記述があり、ヨハネでは、ピラトによる裁判の途中に、嘲弄の記述がある。
- 「聖母マリアとともに歩む 十字架の道行」 [[リンク](#)]
- 受難告知 (?)
 - 8:31-37 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、32 しかもあからさまに、この事を話された。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼ら

に言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

－ 9:30-32 30 それから彼らはそこを立ち去り、ガリラヤをとおって行ったが、イエスは人に気づかれるのを好まれなかった。31 それは、イエスが弟子たちに教えて、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう」と言っておられたからである。32 しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。

－ 10:32-34 32 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。

● マルコによる福音書におけるイエスの使命と（十字架上的の）死の意味

1. 1:11 すると天から声があった、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。(主の心にかなう神の子であるとの召命)
2. 1:13 イエスは四十日のあいだ荒野にいて、サタンの試みにあわれた。そして獣もそこにいたが、御使たちはイエスに仕えていた。(御使に仕えられていると意識)
3. 1:14,15 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。(終末への備えと神の国の宣教開始)
4. 1:17 イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。(弟子の育成の開始)
5. 1:22 人々は、その教に驚いた。律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。(権威ある者のように教える)
6. 1:23-25 ちょうどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると、けがれた霊は彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。
7. 1:38,39 イエスは彼らに言われた、「ほかの、附近の町々にみんなで行って、そこでも教を宣べ伝えよう。わたしはこのために出てきたのだから」。そして、ガリラヤ全地を巡りあるいて、諸会堂で教を宣べ伝え、また悪霊を追い出された。(ガリラヤ各地での宣教)
8. 1:40-42 ひとりの重い皮膚病にかかった人が、イエスのところに願いにきて、ひざまずいて言った、「みこころでしたら、きよめていただけるのですが」。イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。すると、重い皮膚病が直ちに去って、その人はきよくなった。(汚れていると思われ・思っているものを清める)
9. 2:9-11 中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うの

と、どちらがたやすいか。しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに言い、中風の者にむかって、「あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。(罪を赦すことができるのは神のみと考えられていたときに、罪をゆるし、中風の者をいやす)

10. 2:16,16 パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと食事を共にしておられるのを見て、弟子たちに言った、「なぜ、彼は取税人や罪人などと食事を共にするのか」。イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。(罪人を招くため)
11. 2:19,20 するとイエスは言われた、「婚礼の客は、花婿と一緒にいるのに、断食ができるであろうか。花婿と一緒にいる間は、断食はできない。しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであろう。(花婿が取り去られる時を予定)
12. 2:21,22 だれも、真新しい布ぎれを、古い着物に縫いつけはしない。もしそうすれば、新しいつぎは古い着物を引き破り、そして、破れがもっとひどくなる。まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れない。もしそうすれば、ぶどう酒は皮袋をはり裂き、そして、ぶどう酒も皮袋もむだになってしまう。[だから、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである]」。(新しい葡萄酒は新しい皮袋に)
13. 2:27,28 また彼らに言われた、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである」。(安息日は人のため、イエスは、安息日の主)
14. 3:4-6 人々にむかって、「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」と言われた。彼らは黙っていた。イエスは怒りを含んで彼らを見まわし、その心のかたくななのを嘆いて、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった。パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちと、なんとかしてイエスを殺そうと相談しはじめた。(安息日にひとをいやし、パリサイ人・ヘロデ党の者、イエスを殺す計画を相談)
15. 3:11,12 また、けがれた霊どもはイエスを見るごとに、みまえにひれ伏し、叫んで、「あなたこそ神の子です」と言った。イエスは御自身のことを人にあらわさないようにと、彼らをきびしく戒められた。(けがれた霊の神の子告白と証言の禁止)
16. 3:13-15 さてイエスは山に登り、みこころにかなった者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。そこで十二人をお立てになった。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし、また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。(十二人を立て、使命を与える)
17. 3:28,29 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。(イエスの使命の正しい認知と聖霊を汚す罪)
18. 3:35 神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。(神のみこころを行う者)
19. 4:11 そこでイエスは言われた、「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。(たとえで語られる)
20. 4:39-41 イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。彼らは恐れおののいて、互に言った、「いったい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。(風も波も従わせるイエス)

21. 5:7 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓ってお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。(対話をしていやす)
22. 5:17 そこで、人々はイエスに、この地方から出て行っていただきたいと、頼みはじめた。(イエス追い出される)
23. 5:34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。(長血の女をいやす)
24. 5:39-41 内にはいって、彼らに言われた、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、子供のいる所にはいって行かれた。そして子供の手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。それは、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。(死んだ少女を生き返らす)
25. 6:2,3 そして、安息日になったので、会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。(故郷で受け入れられない)
26. 6:7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、(けがれた霊を制する権威をさづけ弟子を派遣)
27. 6:34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。(憐れみ・奉仕・教育)
28. 6:42-44 みんなの者は食べて満腹した。そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。パンを食べた者は男五千人であった。(五千人をやしなう)
29. 7:5-8 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、／『この民は、口さきではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。人間のいましめを教として教え、／無意味にわたしを拝んでいる』。あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言伝えを固執している」。(パリサイ人と律法学者たちを批判)
30. 7:15 すべて外から人の中にはいって、人をけがしうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがすのである。(ユダヤ教の実践を批判)
31. 7:24 さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかった。(異邦人の地、ツロで、異邦人スロ・フェニキヤの女の女を癒す)
32. 7:37 彼らは、ひとかたならず驚いて言った、「このかたのなさった事は、何もかも、すばらしい。耳の聞えない者を聞えるようにしてやり、口のきけない者をきけるようにしておやりになった」。(ガラヤにもどり耳が聞えず口のきけない人を癒す)
33. 8:5,6 イエスが弟子たちに、「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七つあります」と答えた。そこ

- でイエスは群衆に地にすわるように命じられた。そして七つのパンを取り、感謝してこれをさき、人々に配るように弟子たちに渡されると、弟子たちはそれを群衆に配った。(四千人を養う)
34. 8:12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。(ガリラヤ湖西岸でも受け入れられず撤退)
35. 8:15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。(パリサイとヘロデのパン種を警戒するように注意)
36. 8:22 そのうちに、彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、ひとりの盲人を連れてきて、さわってやっていたきたいとお願いした。(盲人をいやす)
37. 8:29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。(ピリポ・カイザリアでの告白)
38. 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、(受難告知・イエスに従う者)
39. 9:2,3 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、(山上の変貌)
40. 9:7 すると、雲がわき起って彼らをおおった。そして、その雲の中から声があった、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。(弟子たちも聞く)
41. 9:9-13 一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。彼らはこの言葉を心にとめ、死人の中からよみがえるとはどういうことかと、互に論じ合った。そしてイエスに尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。イエスは言われた、「確かに、エリヤが先にきて、万事を元どおりに改める。しかし、人の子について、彼が多くの苦しみを受け、かつ恥ずかしめられると、書いてあるのはなぜか。しかしあなたがたに言う、エリヤはすでにきたのだ。そして彼について書いてあるように、人々は自分かつてに彼をあしらった」。(時は満ちたか)
42. 9:25 イエスは群衆が駆け寄って来るのをごらんになって、けがれた霊をしかって言われた、「言うことも聞くこともさせない霊よ、わたしがたまに命じる。この子から出て行け。二度と、はいつて来るな」。(おしの霊に憑かれたこどもをいやす)
43. 9:35 そこで、イエスはすわって十二弟子を呼び、そして言われた、「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない」。(仕えるものに)
44. 10:21,22 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。(金持ちの青年)
45. 10:31 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。(イエスに従う者)
46. 10:32-34 さて、一同はエルサレムへ上る途上にあったが、イエスが先頭に立って行かれたので、彼らは驚き怪しみ、従う者たちは恐れた。するとイエスはまた十二弟子を呼び寄せて、自分の身に起ろうとすることについて語りはじめられた、「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわ

たすであろう。また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。(イエスの姿勢)

47. 10:42-45 そこで、イエスは彼らと呼ばひ寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者と見られている人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。(あがないの死)
48. 10:48 多くの人は彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。(テマイの子、バルテマイという盲人のこじきをいやす)
49. 11:2,3 「むこうの村へ行きなさい。そこにはいるとすぐ、まだだれも乗ったことのないろばの子が、つないであるのを見るであろう。それを解いて引いてきなさい。もし、だれかがあなたがたに、なぜそんな事をするのかと言ったなら、主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返してくださいと、言いなさい」。(主がお入り用なのです)
50. 11:8-10 すると多くの人は自分たちの上着を道に敷き、また他の人々は葉のついた枝を野原から切ってきて敷いた。そして、前に行く者も、あとに従う者も共に叫びつづけた、／「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。(主の御名によって、エルサレム入場)
51. 11:14 そこで、イエスはその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がいないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。(いちじくへの予言)
52. 11:17 そして、彼らに教えて言われた、『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった」。(宮潔め)
53. 11:25 また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。(基本)
54. 12:6-9 ここに、もうひとりの者がいた。それは彼の愛子であった。自分の子は敬ってくれるだろうと思って、最後に彼をつかわした。すると、農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。このぶどう園の主人は、どうするだろうか。彼は出てきて、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。(イスラエルはどうなるか)
55. 12:17 するとイエスは言われた、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。彼らはイエスに驚嘆した。('カイザルに税金を納めてよいでしょうか'との問いに答えて)
56. 12:27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。あなたがたは非常な思い違いをしている」。(復活、神は生きている者の神)
57. 12:34 イエスは、彼が適切な答をしたのを見て言われた、「あなたは神の国から遠くない」。それから後は、イエスにあえて問う者はなかった。(聖書の核心)
58. 12:35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた、「律法学者たちは、どうしてキリストをダビデの子だと言うのか。(キリストはダビデの子か)
59. 12:42,43 そこで、イエスは弟子たちと呼ばひ寄せて言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、

さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。みんなの者はありあまる中から投げ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである」。(主の見方)

60. 13:2 イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。(残るもの)
61. 13:30-33 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。(終わりはいつか)
62. 14:1 さて、過越と除酵との祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、策略をもってイエスを捕えたうえ、なんとかして殺そうと計っていた。(いつ殺すか)
63. 14:3 イエスがベタニヤで、重い皮膚病の人シモンの家において、食卓についておられたとき、ひとりの女が、非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、それをこわし、香油をイエスの頭に注ぎかけた。(葬りの用意)
64. 14:10 ときに、十二弟子のひとりイスカリオテのユダは、イエスを祭司長たちに引きわたそうとして、彼らの所へ行った。(イエスを引き渡す計画)
65. 14:18 そして、一同が席について食事をしているとき言われた、「特にあなたがたに言うておくが、あなたがたの中のひとりで、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている」。(裏切るものの存在)
66. 14:22-25 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。(死の意味)
67. 14:27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。(散らされる羊)
68. 14:33-36 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。(ゲッセマネでのイエス)
69. 14:48,49 イエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたは強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。わたしは毎日あなたがたと一緒に宮において教えていたのに、わたしをつかまえるはしなかった。しかし聖書の言葉は成就されねばならない」。(イエスの捕縛)
70. 14:61,62 しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。大祭司は再び聞きただして言った、「あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか」。イエスは言われた、「わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。(大祭司の前で)

71. 15:2 ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。イエスは、「そのとおりである」とお答えになった。(ピラトの前で)
72. 15:15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。(判決)
73. 15:26 イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。(ユダヤ人の王として処刑)
74. 15:34 そして三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。(イエスの死)
75. 15:39 イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。(百卒長の証言)
76. 16:6 するとこの若者は言った、「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのであろうが、イエスはよみがえって、ここにはおられない。ごらんなさい、ここがお納めした場所である。(空の墓・復活)
77. (16:15,16 そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。(追記))

4.95.6 記録

- 日時：2025 年 4 月 24 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）3 名

4.95.7 問いについて

1. イエスの裁判について復習しましょう。(14:53-65, 15:1-15)
 - [DQ] 最終的に、誰のもとで、どのような判決が出ましたか。
 - －「それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。」(15:15)
 - [DQ] 罪状は何ですか。
 - － [A] 反乱罪？ユダヤ人の王であることをみとめ、ユダヤ人社会を、混乱させる要因となるもの。
 - － ユダヤ人の王（マルコ 15:2,9,12）
 - － ルカ 23:14b 民衆を惑わすもの
 - － ヨハネ 18:7 ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。
2. 裁判のあとどうなりますか。(16)

- 16 兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の内に連れて行き、全部隊を呼び集めた。
- [A] 総督官邸は邸宅とよばれ、大きな公務用の家があったということであろう。全部隊（ ）は、どのくらいの数か不明。

－ [参考] スペイラ（ : a military cohort; the tenth part of legion, i. the tenth part of legion, ii. if auxiliaries either 500 or 1000, iii. a maniple, or the thirtieth part of a legion）レギオンの 10 分の 1 とされる。レギオンは、4000 人ないし、6000 人の軍団。

3. イエスは、誰に、どのようにされますか。(17-19)

- 17 そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、18 「ユダヤ人の王、ばんざい」と言って敬礼をしはじめた。19 また、葦の棒でその頭をたたき、つばきをかけ、ひざまずいて拝んだりした。

- [DQ] だれが、どのようにイエスをあざけていますか。

- [A] ローマ兵だと思われる。

－「紫の衣」（王の着る衣）「いばらの冠」は王の嘲笑なのかもしれない。それゆえ、

－「ユダヤ人の王、ばんざい」（アヴェ・カエサル（Ave Caesar）「カエサルばんざい」をもじったもの）と言って敬礼をしはじめた。（18）となるのだろう。（“ave” is a salutation meaning “hail” or “be well”）

－ その形式が、「葦の棒でその頭をたたき、つばきをかけ、ひざまずいて拝んだりした。」

- [DQ] 兵は、単に、仕事の一部として、行ったのだろうか。

－ 鞭打ち（15）は、決められていたのかもしれない。しかし、ここには、遊び的な要素を感じる。

- [DQ] ルカ 22:63 では、どうしていますか。

－ イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、64 目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。

－ 預言者性をためしているのだろう。

* ルカ 13:33 しかし、きょうもあすも、またその次の日も、わたしは進んで行かねばならない。預言者がエルサレム以外の地で死ぬことは、あり得ないからである』。

4. このひとたちは、なぜ、イエスに対して、このようにするのでしょうか。(17-19)

- [DQ] 兵士たちは、どのような思いから、このような行為をしているのでしょうか。
- [A] うさばらし？

5. イエスが、以前、弟子たちに伝えていたことと比較してみましょう。(10:33,34 など)

- 33 「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。34 また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」。
- [DQ] イエスは、なぜ、このことを受け入れ、十字架の道・悲しみの道 (via dolorosa) へと向かって言ったのでしょうか。
- [参考：最後の晩餐] 14:22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。
- [参考：ゲッセマネ] 14:34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

－「神の国」で食卓を共に囲む期待と、「多くのひとのために流すわたしの契約の血」ということは、マルコでも明確

－ イエスは、自分が向かっていく道を喜んではいなかったが、苦しみつつ、主に委ねている。

6. イエスは、最終的にはどうされますか。(20)

- 20 こうして、イエスを嘲弄したあげく、紫の衣をはぎとり、元の上着を着せた。それから、彼らはイエスを十字架につけるために引き出した。
- [DQ] 他の福音書の記述からは何がわかりますか。
- [DQ] イエスにとって、兵士たちにとって、どのような意味があるのでしょうか。

4.95.8 メモ

- 福音書の差異：十字架刑判決後のイエスの嘲弄・侮蔑の記事は、マルコとマタイにはあるが、ルカと、ヨハネにはない。ルカに記されているのは、イエスの捕縛後、ペテロの否認が挟まれ、次の、ユダヤ人議会での朝の審問の直前の記事である。さらに、嘲弄、侮蔑をした主体は、おそらく、兵士たちであつたろう

が、内容も、異なる。ヨハネは、前回学んだ、ピラトの裁判の最中の出来事として書かれ、十字架刑の一部としての、刑罰としてではない。

- 裁判は終結し、最後には、「それで、ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。」(15:15) が書かれている。厳密に考えるなら、鞭打ち後となる。総督官邸は邸宅とよばれ、大きな公務用の家があったということであろう。紫の衣と、荊棘の冠は、おそらく、王の表彰であろう。ゆえに、『ユダヤ人の王、ばんざい』と言って敬礼をはじめた。」と書いている。つぎは、「葦の棒でその頭をたたき、つばきをかけ、ひざまずいて拜んだりした。」(19b) であるが、まさに、「嘲弄」(20) (馬鹿にしてなぶること。あざけりもてあそぶこと。) なのだろう。最後は「こうして、イエスを嘲弄したあげく、紫の衣をはぎとり、元の上着を着せた。それから、彼らはイエスを十字架につけるために引き出した。」(20) である。

4.96 15:21-32 十字架につけられる

21 そこへ、アレキサンデルとルポスとの父シモンというクレネ人が、郊外からきて通りかかったので、人々はイエスの十字架を無理に負わせた。22 そしてイエスをゴルゴタ、その意味は、されこうべ、という所に連れて行った。23 そしてイエスに、没薬をまぜたぶどう酒をさし出したが、お受けにならなかった。24 それから、イエスを十字架につけた。そしてくじを引いて、だれが何を取るかを定めよう、イエスの着物を分けた。25 イエスを十字架につけたのは、朝の九時ごろであった。26 イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。27 また、イエスと共にふたりの強盗を、ひとりを右に、ひとりを左に、十字架につけた。28 [こうして「彼は罪人たちのひとりに数えられた」と書いてある言葉が成就したのである。] 29 そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって言った、「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、30 十字架からおりてきて自分を救え」。31 祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒に、かわるがわる嘲弄して言った、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。32 イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

4.96.1 マタイ 27:32-44

32 彼らが出て行くと、シモンという名のクレネ人に会ったので、イエスの十字架を無理に負わせた。33 そして、ゴルゴタ、すなわち、されこうべの場、という所にきたとき、34 彼らにはがみをまぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはそれをなめただけで、飲もうとされなかった。35 彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いて、その着物を分け、36 そこにすわってイエスの番をしていた。37 そしてその頭の上の方に、「これはユダヤ人の王イエス」と書いた罪状書きをかかげた。38 同時に、ふたりの強盗がイエスと一緒に、ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につけられた。39 そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって 40 言った、「神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ。もし神の子なら、自分を救え。そして十字架からおりてこい」。41 祭司長たちも同じように、律法学者、長老たちと一緒に、嘲弄して言った、42 「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。あれが

イスラエルの王なのだ。いま十字架からおりてみよ。そうしたら信じよう。43 彼は神にたよっているが、神のおぼしめしがあれば、今、救ってもらうがよい。自分は神の子だと言っていたのだから」。44 一緒に十字架につけられた強盗どもまでも、同じようにイエスをののしった。

4.96.2 ルカ 23:26-43

26 彼らがイエスをひいてゆく途中、シモンというクレネ人が郊外から出てきたのを捕えて十字架を負わせ、それをになってイエスのあとから行かせた。27 大ぜいの民衆と、悲しみ嘆いてやまない女たちの群れとが、イエスに従って行った。28 イエスは女たちの方に振りむいて言われた、「エルサレムの娘たちよ、わたしのために泣くな。むしろ、あなたがた自身のため、また自分の子供たちのために泣くがよい。29 『不妊の女と子を産まなかった胎と、ふくませなかった乳房とは、さいわいだ』と言う日が、いまに来る。30 そのとき、人々は山にむかって、われわれの上に倒れかかれと言い、また丘にむかって、われわれにおおいかぶされと言い出すであろう。31 もし、生木でさえもそうされるなら、枯木はどうされることであろう」。32 さて、イエスと共に刑を受けるために、ほかにふたりの犯罪人も引かれていった。33 されこうべと呼ばれている所に着くと、人々はそこでイエスを十字架につけ、犯罪人たちも、ひとり右に、ひとり左に、十字架につけた。34 そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。人々はイエスの着物をくじ引きで分け合った。35 民衆は立って見ていた。役人たちもあざ笑って言った、「彼は他人を救った。もし彼が神のキリスト、選ばれた者であるなら、自分自身を救うがよい」。36 兵卒どももイエスをののしり、近寄ってきて酔いぶどう酒をさし出して言った、37 「あなたがユダヤ人の王なら、自分を救いなさい」。38 イエスの上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札がかけてあった。39 十字架にかけられた犯罪人のひとりが、「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」と、イエスに悪口を言いつづけた。40 もうひとりは、それをたしなめて言った、「おまえは同じ刑を受けていながら、神を恐れないのか。41 お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」。42 そして言った、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」。43 イエスは言われた、「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。

4.96.3 ヨハネ 19:17-27

17 イエスはみずから十字架を背負って、されこうべ（ヘブル語ではゴルゴタ）という場所に出て行かれた。18 彼らはそこで、イエスを十字架につけた。イエスをまん中にして、ほかのふたりの者を両側に、イエスと一緒に十字架につけた。19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上につけさせた。それには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いてあった。20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル、ローマ、ギリシヤの国語で書いてあった。21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、「『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人はユダヤ人の王と自称していた』と書いてほしい」。22 ピラトは答えた、「わたしが書いたことは、書いたままにしておけ」。23 さ

て、兵卒たちはイエスを十字架につけてから、その上着をとって四つに分け、おのおの、その一つを取った。また下着を手にとってみたが、それには縫い目がなく、上の方から全部一つに織ったものであった。24 そこで彼らは互に言った、「それを裂かないで、だれのものになるか、くじを引こう」。これは、「彼らは互にわたしの上着を分け合い、わたしの衣をくじ引にした」という聖書が成就するため、兵卒たちはそのようにしたのである。25 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロバの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。26 イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。27 それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。

マルコによる福音書 15 章 21-32 節福音書対照表

4.96.4 問い

1. シモンというキレネ人はどのようなことをすることになりますか。(21)
2. 十字架につけられるまでについてについてどのようなことが書かれていますか。(22-24)
3. 十字架刑についてほかにどのようなことが書かれていますか。(25-28)
4. 周囲のひとたちの様子はどのように描かれていますか。(29-32)
5. ルカには、さらにどのようなことが書かれていますか。
6. ヨハネには、さらにどのようなことが書かれていますか。

4.96.5 参照

• 十字架刑

– ウイリアム・パークレイ (ヨハネ福音書 p.333) :

* キケロ：最も残酷で身の毛のよだつ死刑

・ ローマ市民の場合、犯罪者は縛られるだけである。もっと悪質な犯罪の場合には、むちうち刑にされる。殺されるのは、反逆罪に当たる場合のみ。ローマ市民が十字架上で殺されるなどもってのほかだ。そのような極悪行為は、言語道断である。いかなる言葉もそれを言い表すことはできない。

* タキトゥス：卑劣極まる刑

* もともとペルシャの死刑方法だった。ペルシャ人にとって地面は神聖なものであったので、罪人や悪人の死体で冒瀆されるのを避けようとする考えからだった。

* カルタゴをへて、ローマでも用いられたが、それは、イタリア本国以外、奴隷に限られていた。

– ウイリアム・パークレイ (マルコ福音書 p.431) : 十字架刑の所定の手続きは変更されなかった。十

十字架の準備ができた時、囚人は刑場まで、それを自分でかついでいかなければならなかった。彼は四人の兵士たちの中空方陣の真ん中に入れられた。その前にひとりの兵士が、囚人が有罪であるという罪状を書いたいたを持って進んだ。その板はあとで十字架に取り付けられた。かれらは、形状に至るのに最短距離でなく、最長距離をとった。できるだけ多くの人々が見て警告を受けるように、可能な限り多くの大道や小径を通った。かれらが十字架刑の場所についたとき、十字架は地面に平らに置かれた。囚人はその上に体を伸ばさせられ、その手は、釘で十字架に打ち付けられた。足は釘付けにされず、ただゆるく縛られた。囚人の両足の間に座と呼ばれる、木の出っ張りがあった。それは十字架がまっすぐにたてられたとき、彼の重量を受けるためであった。さもないと、釘が手の肉を裂いて、しまうだろう。次に、十字架がまっすぐに起こされ、そして穴の中に入れられたーそして、囚人は死ぬまで放置された。十字架は高いものではなかった。それは、T 字の形であった。そして上の部分が全然なかった。ときには囚人は一週間もの間かけられていた。空腹、かわきで気が狂うまで苦しんで死んだ。

- 悲しみの道 (via dolorosa: The Via Dolorosa, meaning “Sorrowful Way” in Latin, is a route in the Old City of Jerusalem that Christians believe Jesus walked on his way to the crucifixion. It’s a path of great religious significance, and pilgrims walk it, especially on Good Friday, marking the Stations of the Cross.) [[リンク](#)]
- アレキサンデルとルポストの父シモンというクレネ人 (21)
 - シモン：イスラエルの男性で多い名前。シメオンのギリシャ語化したもの。苦しみを聞かれた (shame on となったとの節あり) ヤコブの子 12 兄弟の 2 番目
 - * 創世記 29:33 彼女はまた、みごもって子を産み、「主はわたしが嫌われるのをお聞きになって、わたしにこの子をも賜わった」と言って、名をシメオンと名づけた。
 - クレネ (現在のチュニジアやリビア) 人：
 - * 「クレネ人」とは、北アフリカの地中海に面したところにあるクレネに住んでいる者という意味です。「クレネ」をマルコもルカも「いなか」と称しています。シモンはそこに離散したユダヤ人でした。クレネ島に住むユダヤ人シモンが、過越の祭りに、二人の息子を連れてエルサレムに巡礼に来ていたと思われます。(空知太栄光キリスト教会：銘形秀則牧師)
 - 使徒 13:1 さて、アンテオケにある教会には、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、およびサウロなどの預言者や教師がいた。
 - ローマ 16:13 主にあって選ばれたルポスト、彼の母とに、よろしく。彼の母は、わたしの母でもある。
 - 同一人物なのだろうか
 - 「郊外からきて通りかかったので ()」 : land (i. the field, the country, ii. a piece of land, bit of tillage, iii. the farms, country seats, neighbouring hamlets)
- ゴルゴタ (されこうべ)
 - 榊原康夫「マタイ福音書講解」：アラム語「グルガルター」。「されこうべ」のブルガタ・ラテン語訳「カルヴァリウム」から、英語の「カルヴァリ」が由来した。ここが山または丘であった証拠はなく、町の外、しかも近くにあった以外、何もわかっていない。
 - * イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので (ヨハネ 19:20a)
- 没薬をまぜたぶどう酒

－ 榊原康夫「マタイ福音書講解」：『タルムード』によれば、箴言 31:6「濃い酒を滅びようとしている者に与え、／酒を心の苦しむ人に与えよ。」に基づいて始まった、エルサレム市婦人団体の慈善的慣行。

- 着物

- － 内側の衣、外衣、サンダル、帯、ターバン

- 詩篇 22 編

- － 聖歌隊の指揮者によってあけぼののめじかのしらべにあわせてうたわせたダビデの歌

- － 1 わが神、わが神、／なにゆえわたしを捨てられるのですか。なにゆえ遠く離れてわたしを助けず、／わたしの嘆きの言葉を聞かれないのですか。2 わが神よ、わたしが昼よばわっても、／あなたは答えられず、／夜よばわっても平安を得ません。3 しかしイスラエルのさんびの上に座しておられる／あなたは聖なるおかたです。4 われらの先祖たちはあなたに信頼しました。彼らが信頼したので、あなたは彼らを助けられました。5 彼らはあなたに呼ばわって救われ、／あなたに信頼して恥をうけなかったのです。6 しかし、わたしは虫であって、人ではない。人にそしられ、民に侮られる。7 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、／くちびるを突き出し、かしらを振り動かして言う、8 「彼は主に身をゆだねた、主に彼を助けさせよ。主は彼を喜ばれるゆえ、主に彼を救わせよ」と。9 しかし、あなたはわたしを生れさせ、／母のふところにわたしを安らかに守られた方です。10 わたしは生れた時から、あなたにゆだねられました。母の胎を出てからこのかた、／あなたはわたしの神でいらせられました。11 わたしを遠く離れないでください。悩みが近づき、助ける者がいないのです。12 多くの雄牛はわたしを取り巻き、／パシヤンの強い雄牛はわたしを囲み、13 かき裂き、ほえたけるししのように、／わたしにむかって口を開く。14 わたしは水のように注ぎ出され、／わたしの骨はことごとくはずれ、／わたしの心臓は、ろうのように、胸のうちに溶けた。15 わたしの力は陶器の破片のようにかわき、／わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを死のちに伏させられる。16 まことに、犬はわたしをめぐり、／悪を行う者の群れがわたしを囲んで、／わたしの手と足を刺し貫いた。17 わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。18 彼らは互にわたしの衣服を分け、／わたしの着物をくじ引にする。19 しかし主よ、遠く離れないでください。わが力よ、速く来てわたしをお助けください。20 わたしの魂をつるぎから、／わたしのいのちを犬の力から助け出してください。21 わたしをししの口から、／苦しむわが魂を野牛の角から救い出してください。22 わたしはあなたのみ名を兄弟たちに告げ、／会衆の中であなたをほめたたえるでしょう。23 主を恐れる者よ、主をほめたたえよ。ヤコブのよろもろのすえよ、主をあがめよ。イスラエルのよろもろのすえよ、主をおじおそれよ。24 主が苦しむ者の苦しみをかるんじ、いとわれず、／またこれにみ顔を隠すことなく、／その叫ぶときに聞かれたからである。25 大いなる会衆の中で、／わたしのさんびはあなたから出るのです。わたしは主を恐れる者の前で、／わたしの誓いを果します。26 貧しい者は食べて飽くことができ、／主を尋ね求める者は主をほめたたえるでしょう。どうか、あなたがたの心がとこしえに生きるように。27 地のはての者はみな思い出して、主に帰り、／もろもろの国のやかからはみな、／み前に伏し拝むでしょう。28 国は主のものであって、／主はもろもろの国民を統べ治められます。29 地の誇り高ぶる者はみな主を拝み、／ちりに下る者も、／おのれを生きながらえさせない者も、／みなそのみ前にひざまずくでしょう。30 子々孫々、主に仕え、／人々は主のことをきたるべき代まで語り伝え、31 主がなされたその救を／後に生れる民にのべ伝えるでしょう。

- イエスが十字架にかかった時刻の不一致について (ChatGPT 2025.05.01 [[リンク](#)])
 - － 【時間体系の違い】 — 「ユダヤ式」と「ローマ式」時間の使用説 (有力説)
 - * ユダヤ式時間：日の出 (午前 6 時) を一日の始まりとし、1 時間ごとに進める。
 - * ローマ式時間：午前 0 時を一日の始まりとする現代に近い時間計算法。
 - － この説の内容：
 - * マルコはユダヤ式時間を使用 (第 3 時＝午前 9 時)
 - * ヨハネはローマ式時間を使用 (第 6 時＝午前 6 時ごろ)
 - * → ピラトの裁判は早朝に終わり、十字架刑はその後すぐ。
- イエスの奇跡 (マルコ)
 - － 8:11-13 人々はしるしを欲しがる
 - * 11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろう。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない」。13 そして、イエスは彼らをあとに残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。
 - － 1:21-28 汚れた霊に取りつかれた男を癒やす
 - － 1:29-34 多くの病人を癒やす
 - － 1:40-45 規定の病を患っている人を清める
 - － 2:1-12 体の麻痺した人を癒やす
 - － 3:1-6 手の萎えた人を癒やす
 - － 4:35-41 突風を静める
 - － 5:1-20 悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やす
 - － 5:21-43 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女
 - － 6:30-44 五千人に食べ物を与える
 - － 6:45-52 湖の上を歩く
 - － 6:53-56 ゲネサレトで病人を癒やす
 - － 7:24-30 シリア・フェニキアの女の信仰
 - － 7:31-37 耳が聞こえず舌の回らない人を癒やす
 - － 8:1-10 四千人に食べ物を与える
 - － 8:22-26 ベトサイダで盲人を癒やす
 - － 9:2-13 イエスの姿が変わる
 - － 9:14-29 汚れた霊に取りつかれた子を癒やす
 - － 11:12-14, 20-26 いちじくの木を呪う/枯れたいちじくの木 of 教訓
 - － 15:33-41 イエスの死
 - － 16:1-8 復活する
- 十字架のそばにいた女性たち
 - － ヨハネ 19:25 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。
 - * イエスの母、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ

- * 母の姉妹、サロメ、ゼベダイの子たちの母
- * クロパの妻マリヤ
- * マグダラのマリヤ
- マルコ 15:40,41 40 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。
- マタイ 27:55,56 55 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。
- ルカ 23:49 49 すべてイエスを知っていた者や、ガリラヤから従ってきた女たちも、遠い所に立って、これらのことを見ていた。
- [参考] マルコ 6:3 この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。
- [参考] ルカ 8:1-3 そののちイエスは、神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられたが、十二弟子もお供をした。2 また悪霊を追い出され病気をいやされた数名の婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、3 ヘロデの家令クーザの妻ヨハナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。
- [参考] ルカ 24:8 そのひとりのクレオパという者が、答えて言った、「あなたはエルサレムに泊まっていながら、あなただけが、この都でこのごろ起ったことをご存じないのですか」。

4.96.6 記録

- 日時：2025 年 5 月 1 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）5 名、参加（遠隔）2 名

4.96.7 問いについて

1. シモンというキレネ人はどのようなことをすることになりますか。(21)

- 21 そこへ、アレキサンデルとルボスとの父シモンというクレネ人が、郊外からきて通りかかったの
で、人々はイエスの十字架を無理に負わせた。
- [DQ] シモンについては、どのようなことがわかりますか。
- * シモン：イスラエルの男性で多い名前。シメオンのギリシャ語化したもの。苦しみを聞かれた
た (shame on となったとの節あり) ヤコブの子 12 兄弟の 2 番目

- ・ 創世記 29:33 彼女はまた、みごもって子を産み、「主はわたしが嫌われるのをお聞きになって、わたしにこの子をも賜わった」と言って、名をシメオンと名づけた。
 - * アレキサンデルとルボスとの父：
 - ・ 使徒 13:1 さて、アンテオケにある教会には、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、およびサウロなどの預言者や教師がいた。
 - ・ ローマ 16:13 主にあって選ばれたルボスと、彼の母とに、よろしく。彼の母は、わたしの母でもある。
 - * クレネ人：現在のチュニジアやリビア
 - * 郊外からきて通りかかった：いなか？
 - * 人々はイエスの十字架を無理に負わせた：徴用（：to employ a courier）
 - [DQ] なぜ、シモンに、「イエスの十字架を無理に負わせた」のでしょうか。
 - － 人々とあるが、無理に（：to employ a courier, dispatch a mounted messenger, press into public service, compel to go 強制的に労働させること）は、強制をいみするので、その権限を持っているのは兵隊。槍の先の平らな部分で頭をさわると、従わないといけなかった。（W.B.）
 - － [参照] マタイ 5:41 もし、だれかが、あなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行きなさい。
 - [DQ] シモンにとっては、これはどのような経験だったと思いますか。
 - － ルカでは「彼らがイエスをひいてゆく途中、シモンというクレネ人が郊外から出てきたのを捕えて十字架を負わせ、それをになってイエスのあとから行かせた。」（ルカ 23:26）十字架を負ってついていく姿が印象的に描かれている。
 - * マルコ 8:34 それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「私の後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従いなさい。
 - ・ マタイ 16:24 それから、弟子たちに言われた。「私に付いて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従いなさい。
 - * ルカ 9:23 それから、イエスは皆に言われた。「私に付いて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を負って、私に従いなさい。
 - * ルカ 14:27 自分の十字架を負って、私に付いて来る者でなければ、私の弟子ではありえない。
2. 十字架につけられるまでについてについてどのようなことが書かれていますか。（22-24）

- 22 そしてイエスをゴルゴタ、その意味は、されこうべ、という所に連れて行った。23 そしてイエスに、没薬をまぜたぶどう酒をさし出したが、お受けにならなかった。24 それから、イエスを十字架につけた。そしてくじを引いて、だれが何を取るかを定めたうえ、イエスの着物を分けた。
- [DQ] どこで、どのように十字架にかけられますか。
 - － ゴルゴタ、その意味は、されこうべ、という所に連れて行った。
 - － 髑髏の形の丘か？髑髏が散らかっているとは考えられていない。
- [DQ] なぜ、イエスは、没薬をまぜたぶどう酒を飲まなかったのでしょうか。
 - － [参照] 14:25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。
- [DQ] 着物はどのようなものを分けたのでしょうか。
 - － サンドル、ターバン、帯、衣、上衣（ヨハネではより詳しく）
 - － ヨハネ 19:23,24 23 さて、兵卒たちはイエスを十字架につけてから、その上着をとって四つに分け、おのおの、その一つを取った。また下着を手にとってみたが、それには縫い目がなく、上の方から全部一つに織ったものであった。24 そこで彼らは互に言った、「それを裂かないで、だれのものになるか、くじを引こう」。これは、「彼らは互にわたしの上着を分け合い、わたしの衣をくじ引にした」という聖書が成就するため、兵卒たちはそのようにしたのである。
 - * 詩篇 22:18 彼らは互にわたしの衣服を分け、／わたしの着物をくじ引にする。

3. 十字架刑についてほかにどのようなことが書かれていますか。(25-28)

- 25 イエスを十字架につけたのは、朝の九時ごろであった。26 イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。27 また、イエスと共にふたりの強盗を、ひとりを右に、ひとりを左に、十字架につけた。28 「こうして「彼は罪人たちのひとりに数えられた」と書いてある言葉が成就したのである。」
- [DQ] 何時ごろとされていますか。
 - － (第3時)
 - － ヨハネ 19:14 その日は過越の準備の日であって、時は昼の十二時ころであった。ピラトはユダヤ人らに言った、「見よ、これがあなたがたの王だ」。
 - － 有力な説：マルコはユダヤ式時間を使用（第3時＝午前9時）、ヨハネはローマ式時間を使用（第6時＝午前6時ごろ）
- [DQ] 28 節は？

－ イザヤ 53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、／とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、／とがある者のためにとりなしをした。

－ とがある者と共に数えられたからである。

4. 周囲のひとたちの様子はどのように描かれていますか。(29-32)

- 29 そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって言った、「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、30 十字架からおりてきて自分を救え」。31 祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒にあって、かわるがわる嘲弄して言った、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。32 イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

- [DQ] どのようなひとたちが、どのように、イエスを嘲弄（馬鹿にしてなぶること。あざけりもてあそぶこと。ridicule ; mockery ; derision ; a scoff ; scorn.）しますか。

－ そこを通りかかった者たち：29b イエスをののしって言った、「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、30 十字架からおりてきて自分を救え」。

－ 祭司長たち、律法学者たち：31b かわるがわる嘲弄して言った、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。32 イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。

－ 一緒に十字架につけられた者たち：イエスをののしった

- [DQ] 「いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」とありますが、ひとは、何によって、何を信じるのでしょうか。

－ [Q] 降りてきたら、信じるのでしょうか。

* 「イエスが十字架からおりてこなかったのが、我々は彼を信じるのである。」（ウィリアム・ブース 1829-1912）

－ [Q] イエスも奇跡といわれることをいくつかしていることが、マルコにも書かれています。これらの目的は何だったのでしょうか。

－ 悪霊：1:21-28 汚れた霊に取りつかれた男を癒やす

－ 病気・けが・障害：

* らい病：1:40-45 規定の病を患っている人を清める

* 中風：2:1-12 体の麻痺した人を癒やす

* 手の萎えたひと：3:1-6 手の萎えた人を癒やす

- － 重い病・死：5:21-43 ヤイロの娘とイエスの服に触れる女
 - － 病人：6:53-56 ゲネサレトで病人を癒やす
 - － 障害者：
 - * 耳が聞こえずしたが回らない：7:31-37 耳が聞こえず舌の回らない人を癒やす
 - * 盲人：8:22-26 ベトサイダで盲人を癒やす
 - － 汚れた霊に憑かれた子：9:14-29 汚れた霊に取りつかれた子を癒やす、7:24-30 シリア・フェニキアの女の信仰
 - － その他：
 - * 給食：6:30-44 五千人に食べ物を与える、8:1-10 四千人に食べ物を与える
 - * 変貌：6:45-52 湖の上を歩く、9:2-13 イエスの姿が変わる
 - マタイ 4:5-7 それから悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて 6 言った、「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんさい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。7 イエスは彼に言われた、『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」。 (ルカ 4:9-12)
 - [参照] 1 ペテロ 2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。
 - 詩篇 22 篇を読んでみましょう。
 - － 7,8 7 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、／くちびるを突き出し、かしらを振り動かして言う、8 「彼は主に身をゆだねた、主に彼を助けさせよ。主は彼を喜ばれるゆえ、主に彼を救わせよ」と。(30-32)
 - － 18 彼らは互にわたしの衣服を分け、／わたしの着物をくじ引にする。(24)
5. ルカには、さらにどのようなことが書かれていますか。
- [DQ] どのような人たちがイエスたちについてきますか。(27)
 - － 27 大ぜいの民衆と、悲しみ嘆いてやまない女たちの群れとが、イエスに従って行った。
 - － [参照] ルカ 8:52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。
 - * マルコ 5:38 彼らが会堂司の家に着くと、イエスは人々が大声で泣いたり、叫んだりして、騒いでいるのをごらんになり、

* マタイ 9:23 それからイエスは司の家に着き、笛吹きどもや騒いでいる群衆を見て言われた。

－ [Q] イエスは婦人たちに何を伝えていますか。(28-31)

* 28 イエスは女たちの方に振りむいて言われた、「エルサレムの娘たちよ、わたしのために泣くな。むしろ、あなたがた自身のため、また自分の子供たちのために泣くがよい。29 『不妊の女と子を産まなかった胎と、ふくませなかった乳房とは、さいわいだ』と言う日が、いまに来る。30 そのとき、人々は山にむかって、われわれの上に倒れかかれと言い、また丘にむかって、われわれにおおいかぶされと言い出すであろう。31 もし、生木でさえもそうされるなら、枯木はどうされることであろう」。

• [DQ] イエスはどのように祈っていますか。(34)

－ 「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」

* ステパノの祈り：使徒 7:59,60 こうして、彼らがステパノに石を投げつけている間、ステパノは祈りつづけて言った、「主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい」。そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい」。こう言って、彼は眠りについた。

• [DQ] イエスと一緒に十字架にかけられた犯罪人に対し、イエスはどのように答えていますか。(39-43)

－ 39 十字架にかけられた犯罪人のひとりが、「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」と、イエスに悪口を言いつづけた。40 もうひとりは、それをたしなめて言った、「おまえは同じ刑を受けていながら、神を恐れないのか。41 お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」。42 そして言った、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」。43 イエスは言われた、「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。

6. ヨハネには、さらにどのようなことが書かれていますか。

• [DQ] 罪状書には何語でどのように書かれていますか。(ヨハネ 19:19-22)

－ 19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上につけさせた。それには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いてあった。20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル、ローマ、ギリシヤの国語で書いてあった。21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、「『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人はユダヤ人の王と自称していた』と書いてほしい」。22 ピラトは答えた、「わたしが書いたことは、書いたままにしておけ」。

• イエスの衣服はどのようにされますか。

• 衣服のことはどのような聖書の言葉の実現だとしていますか。

- － そこで彼らは互に言った、「それを裂かないで、だれのものになるか、くじを引こう」。これは、「彼らは互にわたしの上着を分け合い、わたしの衣をくじ引にした」という聖書が成就するため、兵卒たちはそのようにしたのである。
 - － 詩篇 22:8 彼らは互にわたしの衣服を分け、／わたしの着物をくじ引にする。
- [DQ] だれが一緒にいますか。
 - － ヨハネ 19:25 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。
 - － マルコ 15:40,41 40 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。
 - － マタイ 27:55,56 55 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。
 - － ルカ 23:49 49 すべてイエスを知っていた者や、ガリラヤから従ってきた女たちも、遠い所に立って、これらのことを見ていた。
- ヨハネは、この箇所を通して何を伝えているのでしょうか。What does John tell us?

4.96.8 メモ

- 問い
 - － アレキサンデルとルポスとの父シモンはなぜイエスの十字架を負わされることになったのだろうか。
 - － イエスの十字架は、どのようなもので、人々の目には、どのように映ったのだろうか。
- 「こうして、イエスを嘲弄したあげく、紫の衣をはぎとり、元の上着を着せた。それから、彼らはイエスを十字架につけるために引き出した。」(15:20) に続けて、「そこへ、アレキサンデルとルポスとの父シモンというクレネ人が、郊外からきて通りかかったので、人々はイエスの十字架を無理に負わせた。」(21) と始まる。たまたま通りかかったという表現である。「アレキサンデルとルポスとの父」とあるが、ローマ 16:13 の「主であって選ばれたルポス」とは同一人物だろうか。何らかの関係がないと、名前を出して書かれることは拒否していたかもしれない。連れて行った先は「ゴルゴタ、その意味は、されこうべ」。エルサレムの城壁外、北西の地のようである。に「そしてイエスに、没薬をまぜたぶどう酒をさし出したが、お受けにならなかった。」(23) 一般的に、痛み止めと言われるが、それを受けられたなったことが記録されている。くじをひいて、イエスの着物を分けたことが書かれている。これが、イエスの着物なのか、ヘロデが与えたものかは不明。「イエスを十字架につけたのは、朝の九時ごろであった。イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。また、イエスと共にふたりの強盗を、ひとりを右に、

ひとりを左に、十字架につけた。」とある。罪状は、この程度で十分だったのかもしれない。「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、十字架からおりてきて自分を救え」(15:29,30)とあり、裁判では、明確にならなかったようだが(14:58)この件が重要視されたということだろう。つづけて、祭司長たちや、律法学者たちが、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。(31,32)であったことが記録されている。さらに、「一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。」(32)とある。興味深いのは、「ユダヤ人の王」「イスラエルの王」と両方が用いられ、かつ、他人を救ったとも、証言されていることである。それが、自分の関係しなければ、嘲笑の対象でしかないということだろうか。

- 福音書の差異：マタイは、微細な違いはあるが、基本的に、マルコを踏襲している。ルカでは、「エルサレムの娘たちよ、わたしのために泣くな」(23:26)から始まる、終末または、エルサレム陥落の預言と思われることばが、挿入され、さらに、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。(23:34)が付加されている。これは、使徒行伝 7:60 のステパノの祈りに通じる。さらに、イエスとともに十字架にかかった、たの二人の受刑者との会話が付加され、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」。イエスは言われた、「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。(42,43)の美しい言葉でおわっている。ヨハネは、罪状書についてより詳しく、「ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上になげさせた。それには『ユダヤ人の王、ナザレのイエス』と書いてあった。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル、ローマ、ギリシヤの国語で書いてあった。ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人はユダヤ人の王と自称していた』と書いてほしい」。ピラトは答えた、『わたしが書いたことは、書いたままにしておけ』。(ヨハネ 19:19-22)と詳細に書かれ、さらに、最後に、イエスの母についての言葉などが付け加えられている。「さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、『婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です』。それからこの弟子に言われた、『ごらんなさい。これはあなたの母です』。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。」(ヨハネ 19:25-27)

4.97 15:33-41 イエスの死

33 昼の十二時になると、全地は暗くなって、三時に及んだ。34 そして三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。35 すると、そばに立っていたある人々が、これを聞いて言った、「そら、エリヤを呼んでいる」。36 ひとりの人が走って行き、海綿に酢いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとして言った、「待て、エリヤが彼をおろしに来るかどうかわか、見ていよう」。37 イエスは声高く叫んで、ついに息をひきとられた。38 そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。39 イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。40 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコ

ブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。

4.97.1 マタイ 27:45-56

45 さて、昼の十二時から地上の全面が暗くなって、三時に及んだ。46 そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。47 すると、そこに立っていたある人々が、これを聞いて言った、「あれはエリヤを呼んでいるのだ」。48 するとすぐ、彼らのうちのひとりが走り寄って、海綿を取り、それに酢いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。49 ほかに人々は言った、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうかわか、見ていよう」。50 イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられた。51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け、52 また墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。53 そしてイエスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。54 百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、「まことに、この人は神の子であった」と言った。55 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。

4.97.2 ルカ 23:44-49

44 時はもう昼の十二時ごろであったが、太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及んだ。45 そして聖所の幕がまん中から裂けた。46 そのとき、イエスは声高く叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。こう言ってついに息を引きとられた。47 百卒長はこの有様を見て、神をあがめ、「ほんとうに、この人は正しい人であった」と言った。48 この光景を見に集まってきた群衆も、これらの出来事を見て、みな胸を打ちながら帰って行った。49 すべてイエスを知っていた者や、ガリラヤから従ってきた女たちも、遠い所に立って、これらのことを見ていた。

4.97.3 ヨハネ 19:28-30

28 そののち、イエスは今や万事が終ったことを知って、「わたしは、かわく」と言われた。それは、聖書が全うされるためであった。29 そこに、酢いぶどう酒がいっぱい入れてある器がおいてあったので、人々は、このぶどう酒を含ませた海綿をヒソブの茎に結びつけて、イエスの口もとにさし出した。30 すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

[マルコによる福音書 15 章 33-41 節福音書対照表](#)

4.97.4 問い

1. イエスの十字架について、復習しましょう。(21-32)
2. イエスが大声で叫んだ時の様子はどのように描かれていますか。(33,34)
3. 周囲の人たちについては、どのように描かれていますか。(35,36)
4. イエスの死については、どのように描かれていますか。(37,38)
5. その場にどのような人がいますか。百卒長は、なぜこのように告白したのでしょうか。(39-41)
6. 他の福音書からは、さらに、どのようなことがわかりますか。

4.97.5 参照

- 受難週のエルサレムの地図 [[The Passion Week in Jerusalem](#)]
- 暗闇
 - － 出エジプト記 10:21-23 主はまたモーセに言われた、「天にむかってあなたの手をさし伸べ、エジプトの国に、くらやみをこさせなさい。そのくらやみは、さわれるほどである」。22 モーセが天にむかって手をさし伸べたので、濃いくらやみは、エジプト全国に臨み三日に及んだ。23 三日の間、人々は互に見ることもできず、まただれもその所から立つ者もなかった。しかし、イスラエルの人々には、みな、その住む所に光があった。
 - － 過越祭は、満月の時なので、新月におこる、日食はあり得ない。
 - － アモス 8:9,10 主なる神は言われる、／「その日には、／わたしは真昼に太陽を沈ませ、／白昼に地を暗くし、10 あなたがたの祭を嘆きに変らせ、／あなたがたの歌をことごとく悲しみの歌に変らせ、／すべての人に荒布を腰にまといせ、／すべての人に髪をそり落させ、／その日を、ひとり子を失った喪中のようにし、／その終りを、苦い日のようにする」。
- イエスの死について
 - － 最後の晩餐：マルコ 14:22-25 [[リンク](#)] 22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。

－ 仕えるものとなる：マルコ 10:45 [[リンク](#)] 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

- 「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」 E (「わが神」のアラム語の音をギリシャ語で表記したもの) (アラム語) (ヘブル語) (「なぜ」のアラム語の音をギリシャ語で表記したもの) (ヘブル語) or (カルデアの発音) (「わたしをお見捨てになった」 thou hast forsaken me の) (カルデアの発音)

－ 詩篇 22:1a)わが神、わが神、／なにゆえわたしを捨てられるのですか。) ヘブル語では、エーリー、エーリー、ラーマー、アザブターニー、聖書朗読のアラム語訳は、エリ、エリ、メトゥル、マ、サバクタニ

－ 詩篇 22:1-11 わが神、わが神、／なにゆえわたしを捨てられるのですか。なにゆえ遠く離れてわたしを助けず、／わたしの嘆きの言葉を聞かれないのですか。2 わが神よ、わたしが昼よばわっても、／あなたは答えられず、／夜よばわっても平安を得ません。3 しかしイスラエルのさんびの上に座しておられる／あなたは聖なるおかたです。4 われらの先祖たちはあなたに信頼しました。彼らが信頼したので、あなたは彼らを助けられました。5 彼らはあなたに呼ばわって救われ、／あなたに信頼して恥をうけなかったのです。6 しかし、わたしは虫であって、人ではない。人にそしられ、民に侮られる。7 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、／くちびるを突き出し、かしらを振り動かして言う、8 「彼は主に身をゆだねた、主に彼を助けさせよ。主は彼を喜ばれるゆえ、主に彼を救わせよ」と。9 しかし、あなたはわたしを生れさせ、／母のふところにわたしを安らかに守られた方です。10 わたしは生れた時から、あなたにゆだねられました。母の胎を出てからこのかた、／あなたはわたしの神でいらせられました。11 わたしを遠く離れないでください。悩みが近づき、助ける者がいないのです。

－ 「神に見捨てられる」ことは、罪の結果。

* 14:24b これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。

* 10:45 多くの人のあがないとして、自分の命を与えるため

* わたしたちの罪を担われた。

* イザヤ 53:12b 彼が自分の命を死に至るまで注ぎ出し／背く者の一人に数えられたからだ。／多くの人の罪を担い／背く者のために執り成しをしたのは／この人であった。

－ イエスの生理的激痛を描かない。

* [10] 彼らは二人の悪事を働く者を連れて来て、彼らの真ん中で主を十字架につけた。しかし主は痛みも感じていないかのように黙っていた。(ペテロの福音書 [[リンク](#)])

－ 榊原康夫『マタイ福音書講解（下巻）』この「神に見捨てられた」体験は、弟子の裏切りとか、サンヘドリンの判決とか、異邦の兵士による十字架処刑とかいうような、外面的な不運のことではありません。なぜなら、のちのキリスト教殉教者たちは、イエスの肉体的苦痛にまさるとも劣らぬ極刑にあい

ながらも、神の守りと助けを疑わずに死んでいったからです。また、イエスはすでに、ゲッセマネの祈りにおいて、十字架上で死ぬことこそ神の見定めであることを確認しておられたからです。ですから、「見捨てられた」というのは、むしろ、死というできごとにおいて、父なる神が、イエスの父また味方という立場から、イエスの敵の立場に移りたもうたということ、イエスの慈父ではなくて、罪人に怒りとのろいを注ぐ審判者の立場をとっておられることなのです。そうしてそこに、人間が戦々兢兢として怯える死の正体があります。人間の死とは、人が神をのけものにして生きてきた自分の後ろめたい人生に対して、死後、神の報復と審判がありはしまいか、いや、あるにちがいないと、恐る恐る覗き込む、不気味な真っ暗な穴なのです。（中略）だからこそ、人には死が怖いのです。イエスが死によって罪人の罪を償ってくださるということは、罪人たちが立たされるこの神との対決の場に、わたしたちに代わって立ってくださる、ということに他なりません。神のひとり子である彼が、このとき、愛と信頼に満ちた父子関係から離れて、義なる審判者と罰せられる罪人という関係に入っておられるのです。それが、「わたしを見捨てられた」という体験であります。（中略）「19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。20 神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。」（コリント後書 5:19-21）

• 「38 そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。」

- － 神への道が広く開かれた。それまでは、至聖所には、大祭司のみが、一年一度贖いの日にのみ入ることができた。
- － 神と顔と顔をあわせて見ることができるようになった。
- － 垂れ幕：出エジプト記 26:31-35 また青糸、紫糸、緋糸、亜麻の撚糸で垂幕を作り、巧みなわざをもって、それにケルビムを織り出さなければならない。32 そして金でおおった四つのアカシヤ材の柱の金の鉤にこれを掛け、その柱は四つの銀の座の上にすえなければならない。33 その垂幕の輪を鉤に掛け、その垂幕の内にあかしの箱を納めなさい。その垂幕はあなたがたのために聖所と至聖所とを隔て分けるであろう。34 また至聖所にあるあかしの箱の上に贖罪所を置かなければならない。35 そしてその垂幕の外に机を置き、幕屋の南側に、机に向かい合わせて燭台を置かなければならない。ただし机は北側に置かなければならない。出エジプト記 25:21-22 あなたは贖罪所を箱の上に置き、箱の中にはわたしが授けるあかしの板を納めなければならない。22 その所でわたしはあなたに会い、贖罪所の上から、あかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの人々のために、わたしが命じようとするもろもろの事を、あなたに語るであろう。
- － ヘブル 10:19,20 兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかりことなく聖所にはいることができ、20 彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができるのであり、

• 十字架上の七言（どの順番かは不明）

1. ルカ 23:34b 「父よ、彼らをおゆるしくください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。
2. ルカ 23:43 「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。
3. ヨハネ 19:26,27 「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。「ごらんなさい。これはあなたの母です」。
4. マルコ 15:34b 「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ 27:46b）
5. ヨハネ 19:28b 「わたしは、かわく」
6. ヨハネ 19:30b 「すべてが終った」
7. ルカ 23:46 「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。

• 百卒長

- ー 15:43-45 43 アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。44 ピラトは、イエスがもはや死んでしまったのかと不審に思い、百卒長を呼んで、もう死んだのかと尋ねた。45 そして、百卒長から確かめた上、死体をヨセフに渡した。
- ー マタイ 8:5-13 さて、イエスがカペナウムに帰ってこられたとき、ある百卒長がみもとにきて訴えて言った、6 「主よ、わたしの僕が中風でひどく苦しんで、家に寝ています」。7 イエスは彼に、「わたしが行ってなおしてあげよう」と言われた。8 そこで百卒長は答えて言った、「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります。9 わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下にも兵卒がいまして、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです」。10 イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた人々に言われた、「よく聞きなさい。イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない。11 なお、あなたがたに言うが、多くの人が東から西からきて、天国で、アブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席につくが、12 この国の子らは外のやみに追い出され、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」。13 それからイエスは百卒長に「行け、あなたの信じたとおりになるように」と言われた。すると、ちょうどその時に、僕はいやされた。

* 百卒長のはなしを聞いていたかもしれない。（ルカ 7:1-10、参照ヨハネ 4:43-54 役人）

• 目撃者比較

- ー マルコ 15:40 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。

- * マルコ 16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。
- マタイ 27:55 また、そこには遠くの方から見ている女たちも多くいた。彼らはイエスに仕えて、ガリラヤから従ってきた人たちであった。56 その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、またゼベダイの子たちの母がいた。
- * マタイ 28:1 さて、安息日が終って、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。
- ヨハネ 19:25 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。
- * マグダラのマリヤ
- * 小ヤコブとヨセとの母マリヤ = ヤコブとヨセフとの母マリヤ = イエスの母
- * サロメ = またゼベダイの子たちの母 = イエスの母の姉妹
- * クロパの妻マリヤ (ほかのマリヤ?)
- ヨハネは、イエスの死のあとに、19:32-37
 - 32 そこで兵卒らがきて、イエスと一緒に十字架につけられた初めの者と、もうひとりの者との足を折った。33 しかし、彼らがイエスのところにきた時、イエスはもう死んでおられたのを見て、その足を折ることはしなかった。34 しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出た。35 それを見た者があかしをした。そして、そのあかしは真実である。その人は、自分が真実を語っていることを知っている。それは、あなたがたも信ずるようになるためである。36 これらのことが起ったのは、「その骨はくだかれないであろう」との聖書の言葉が、成就するためである。37 また聖書のほかのところに、「彼らは自分が刺し通した者を見るであろう」とある。

4.97.6 記録

- 日時：2025 年 5 月 8 日午後 7 時半～9 時半
- 出席（対面）3 名、参加（遠隔）4 名

4.97.7 問いについて

1. イエスの十字架について、復習しましょう。(21-32)
 - 21 そこへ、アレキサンデルとルボスとの父シモンというクレネ人が、郊外からきて通りかかったの、人々はイエスの十字架を無理に負わせた。22 そしてイエスをゴルゴタ、その意味は、されこう

べ、という所に連れて行った。23 そしてイエスに、没薬をまぜたぶどう酒をさし出したが、お受けにならなかった。24 それから、イエスを十字架につけた。そしてくじを引いて、だれが何を取るかを定めたうえ、イエスの着物を分けた。

- 25 イエスを十字架につけたのは、朝の九時ごろであった。26 イエスの罪状書きには「ユダヤ人の王」と、しるしてあった。27 また、イエスと共にふたりの強盗を、ひとりを右に、ひとりを左に、十字架につけた。
- 29 そこを通りかかった者たちは、頭を振りながら、イエスをののしって言った、「ああ、神殿を打ちこわして三日のうちに建てる者よ、30 十字架からおりてきて自分を救え」。31 祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒に、かわるがわる嘲弄して言った、「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。32 イスラエルの王キリスト、いま十字架からおりてみるがよい。それを見たら信じよう」。また、一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

1. クレネ人シモンに十字架を無理に負わせ、ゴルゴタへ (21,22)

2. 没薬をまぜた葡萄酒を差し出すが、イエスは受け取らず (23)

3. イエスを十字架につけ、その着物をくじで分ける (24)

4. 朝9時ごろ二人の強盗とともに、十字架につけられ、罪状書きには、「ユダヤ人の王」と記してあった (25-27)

5. 「そこを通りかかった者たち」、「祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒に」、「一緒に十字架につけられた者たちも」そこにいたすべてのものたち (イエスについてきた女性たちは別だろうが) は、イエスをののしり、嘲笑した (29-32)

2. イエスが大声で叫んだ時の様子はどのように描かれていますか。 (33,34)

- 33 昼の十二時になると、全地は暗くなって、三時に及んだ。34 そして三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

- [榊原康夫『マタイ講解』詩篇 22:1a ()わが神、わが神、／なにゆえわたしを捨てられるのですか。) ヘブル語では、エーリー、エーリー、ラーマー、アザブターニー、聖書朗読のアラム語訳は、エリ、エリ、メトゥル、マ、サバクタニ

ー ヘブル語を英語、アラム語を日本語とすると「わが神、わが神! Why? わたしをお見捨てになられたのですか。」アラム語の発音としても問題はない。

ー : アラム語の動詞「 」(šəvaq, 「捨てる」「見捨てる」)の完了形(2人称)

- [DQ] 昼の12時から3時まで、全地が暗くなったことは、なにを伝えているのか。

ー 自然現象か、心象的なものの表現か。

- － 満月なので、日食ではありえない。日食は新月のときにおこる。
- [DQ] イエスは神に見捨てられたのだろうか。
 - － 肉体的苦痛は描かれていない。殉教者はこのイエス以上の肉体的・精神的苦しみを味わうものもいた。
 - － ゲッセマネで、神からの召命（このことが主（イエスの父なる神）からきていること）については解決済み：14:36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」
 - － 罪を担った結果、（父なる神の御心に生きてきた、神の子イエスが）神から引き離された。
 - * マルコ 14:24b これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。
 - * マルコ 10:45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである
- [DQ] 神はなぜイエスに答えないのでしょうか。
 - － 神がよしとされることだった。
 - － 愛する子をとおして、罪人であるすべての人々と和解した。
 - * コリント後書 5:19-21 19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。20 神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

3. 周囲の人たちについては、どのように描かれていますか。(35,36)

- 35 すると、そばに立っていたある人々が、これを聞いて言った、「そら、エリヤを呼んでいる」。36 ひとりの人が走って行き、海綿に酔いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとして言った、「待て、エリヤが彼をおろしに来るかどうか、見ていよう」。
- [DQ] これは、どのようなことを伝えているのだろうか。
 - － そばに立っていたある人々は、ユダヤ人で、アラム語の発音を聞き間違い、エリヤと言っているとすることはあり得ない。
 - － 神の使いとして、エリヤが助けに来るかもしれないと考えていた。
 - － 興味本位。酔い葡萄酒も、気付のためで、(信仰的に) 神に心が向いているわけではない。
- エリヤ：マルコ 9:11-13 そしてイエスに尋ねた、「なぜ、律法学者たちは、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。12 イエスは言われた、「確かに、エリヤが先きて、万事を元どおりに改め

る。しかし、人の子について、彼が多くの苦しみを受け、かつ恥ずかしめられると、書いてあるのはなぜか。13 しかしあなたがたに言うておく、エリヤはすでにきたのだ。そして彼について書いてあるように、人々は自分かつてに彼をあしらった」。

- 酔いぶどう酒：詩篇 69:22 彼らはわたしの食物に毒を入れ、／わたしのかわいた時に酔を飲ませました。

4. イエスの死については、どのように描かれていますか。(37,38)

- 37 イエスは声高く叫んで、ついに息をひきとられた。38 そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。
- [DQ] イエスは、どのように叫んだのでしょうか。
 - －「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」
 - － ヨハネ 19:28b 「わたしは、かわく」 19:30b 「すべてが終った」
 - － ルカ 23:46 「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。
- [DQ] 神殿の幕のことはなにを意味していると思いますか。
 - － ヘブル 10:19,20 兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかりことなく聖所にはいることができ、20 彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができるのであり、
 - － 基本的には、神との関係に関して特別のことが起こったことを意味しているのだろう。物質的な障壁、または、特別な人（大祭司）を介してでないと、神との交わりが許されない状況が変化したことを伝えているのだろう。物理的に、神殿の幕が裂けたかどうかは、確認が困難。

5. その場にどのような人がいますか。百卒長は、なぜこのように告白したのでしょうか。(39-41)

- 39 イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。40 また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。41 彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。
- [DQ] 「まことに、この人は神の子であった」。は、どう考えたら良いのだろうか。
 - － [Q] なぜ、このような告白に至ったのか。
 - * 百卒長は、たくさんの人の死をみていた可能性がある。
 - * マタイ 27:51-54 51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け、52 また墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。53 そしてイ

エスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。54 百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、「まことに、この人は神の子であった」と言った。

－ [Q] なぜ、百人隊長？

＊ 中間管理職。ある程度世の中を知っている。異邦人。

＊ マタイ 8:5-13 百卒長のはなしを聞いていたかもしれない。（ルカ 7:1-10、参照ヨハネ 4:43-54 役人）

• [DQ] なぜ、ここで、名前まで出して、女性たちのことが書かれているのだろうか。

－ 空の墓につながる？複数の証人が必要だったのだろうか。

－ 男性の弟子はここにはいない。ヨハネによる福音書記者のみか？

6. 他の福音書からは、さらに、どのようなことがわかりますか。

• マタイ：イエスの死に際して、他にどのようなことがあったと書かれていますか。

－ 51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け、52 また墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。53 そしてイエスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。54 百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、「まことに、この人は神の子であった」と言った。

－ 百卒長および彼と一緒にイエスの番をしていた人々が「まことに、この人は神の子であった」根拠として、特別な事象について描いている。

• ルカ：イエスや百卒長のことは、どのように記録されていますか。

－ 46 そのとき、イエスは声高く叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。こう言ってついに息を引いとられた。47 百卒長はこの有様を見て、神をあがめ、「ほんとうに、この人は正しい人であった」と言った。48 この光景を見に集まってきた群衆も、これらの出来事を見て、みな胸を打ちながら帰って行った。

－ ギリシャ語以外の言語も入り混じって理解も難しい「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」を記録していない。

－ イエスの最後の叫びを、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」であると解釈している。そして、百卒長の「ほんとうに、この人は正しい人であった」の告白によって、自分をも、正しい側に置いている。

－ イエスの死は、他の人にとっても、特別なものであったことを伝えている。

• ヨハネ：

- 28 そののち、イエスは今や万事が終ったことを知って、「わたしは、かわく」と言われた。それは、聖書が全うされるためであった。29 そこに、酔いぶどう酒がいっぱい入れている器がおいであつたので、人々は、このぶどう酒を含ませた海綿をヒソプの茎に結びつけて、イエスの口もとにさし出した。30 すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。
- ルカと同様に、ギリシャ語以外の言語も入り混じって理解も難しい「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」を記録していない。
- [DQ] 「わたしは、かわく (Δ : to suffer thirst, suffer from thirst)」とは、どのような意味でしょうか。
 - * 欠乏を訴えているが、たんに、喉が乾いたということではないだろう。
 - * 詩篇 22:15 わたしの力は陶器の破片のようにかわき、／わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを死のちに伏させられる。
- [DQ] 「すべてが終った (: to bring to a close, to finish, to end)」とは、どのような意味でしょうか。
 - * 地上における、使命が終わったことを意味しているのだろう。
 - * 葡萄酒を受け、このように叫んで死んでいく人生を、わたしも許されれば幸せ。
 - * ヨハネ 17:4 わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなただけの栄光をあらわしました。

4.97.8 メモ

- 問い
 - 「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と言われたイエスの心の中はどのようなものだったのだろうか。
 - 「神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた」は何を伝えているのだろうか。
 - 百卒長は、なぜ、「まことに、この人は神の子であつた」と言ったのだろうか。
 - 「遠くの方から見ている女たちもいた。」なぜここで女性たちのことを書いているのだろうか。
- 概要
 - 前段では、イエスが十字架に架かり、さまざまな人々が、イエスを罵ったり、嘲弄したりする様子が最後に書かれていたが、まず、「昼の十二時になると、全地は暗くなって、三時に及んだ。」(33)とあり、昼の正午に暗くなり、それは、三時までとある。日食のときとは、あっていないようなので、単に、暗雲が立ち込めたことが言われているのだろう。「そして三時に、イエスは大声で、『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』と叫ばれた。それは『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのか』と叫ぶ声である。」(34)とある。

たのですか』という意味である。」(34)とある。マタイには、書かれているが、ルカと、ヨハネにはない。衝撃的すぎると考えられたのかもしれない。この段落の中心は、これをどう受け取るかだろう。そのあとには、「すると、そばに立っていたある人々が、これを聞いて言った、『そら、エリヤを呼んでいる』。ひとりの人が走って行き、海綿に酢いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとして言った、『待て、エリヤが彼をおろしに来るかどうか、見ていよう』。」(35,36)とあり、エリヤを呼んでいると受け取ったようだ。そして、「イエスは声高く叫んで、ついに息をひきとられた。」(37) 消耗刑なので、非常に早い死だと言わざるを得ない。イエスの死因も考えるべき課題だろう。さらに「そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。」(38)とあるが、これがどのようにどこから見えたかなど、疑問点も残り、象徴的な意味として、宣言されているのだろう。このときに、「イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、『まことに、この人は神の子であった』。」(39) これは、どう受け取ったらよいのだろうか。そして最後に「また、遠くの方から見ている女たちもいた。その中には、マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、またサロメがいた。彼らはイエスがガリラヤにおられたとき、そのあとに従って仕えた女たちであった。なおそのほか、イエスと共にエルサレムに上ってきた多くの女たちもいた。」(40,41)と女性たちのことが書かれているが、これは何のためだろうか。

● 福音書の差異：

- － マタイ：『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』は、マタイにしかない。マタイは、加えて、「また地震があり、岩が裂け、52 また墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。そしてイエスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。」(27:51b-53)とあり、このことを根拠にして、百人隊長が「まことに、この人は神の子であった」(54b)としている。基本的には、マルコを踏襲しているので、最後の女性たちについての記述は、同じ人について言っていると考えて良いだろう。すなわち、「小ヤコブとヨセとの母マリヤ」は「ヤコブとヨセフとの母マリヤ」、「サロメ」は「ゼベダイの子たちの母」。
- － ルカ：イエスの最後の言葉を「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」(46b)としている。マルコでは、「イエスは声高く叫んで」だけ書かれている。その補完であろう。百人隊長のことは、「ほんとうに、この人は正しい人であった」(47b)に変更され、最後に、「この光景を見に集まってきた群衆も、これらの出来事を見て、みな胸を打ちながら帰って行った。」(48)としている。女性たちの名前を書かないのは、危険を避けるためよりも、読者にとって価値がないと判断したのだろうか。
- － ヨハネ：言葉が変更されている。「わたしは、かわく」「すべてが終った」である。
- － それぞれが、酸い葡萄酒についての記述がちょっと違っている。

4.98 15:42-47 墓に葬られる

42 さて、すでに夕がたになったが、その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、43 アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。44 ピラトは、イエスがもはや死んでしまったのかと不審に思い、百卒長を呼んで、もう死んだのかと尋ねた。45 そして、百卒長から確かめた上、死体を

ヨセフに渡した。46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い求め、イエスをとりおろして、その亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納め、墓の入口に石をころがしておいた。47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスが納められた場所を見とどけた。

4.98.1 マタイ 27:57-61

57 夕方になってから、アリマタヤの金持で、ヨセフという名の人 came。彼もまたイエスの弟子であった。58 この人がピラトの所へ行って、イエスのからだの引取りかたを願った。そこで、ピラトはそれを渡すように命じた。59 ヨセフは死体を受け取って、きれいな亜麻布に包み、60 岩を掘って造った彼の新しい墓に納め、そして墓の入口に大きい石をころがしておいて、帰った。61 マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓にむかってそこにすわっていた。

4.98.2 ルカ 23:50-56

50 ここに、ヨセフという議員がいたが、善良で正しい人であった。51 この人はユダヤの町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会の議決や行動には賛成していなかった。52 この人がピラトのところへ行って、イエスのからだの引取り方を願い出て、53 それを取りおろして亜麻布に包み、まだだれも葬ったことのない、岩を掘って造った墓に納めた。54 この日は準備の日であって、安息日が始まりかけていた。55 イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだを納められる様子を見とどけた。56 そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ。

4.98.3 ヨハネ 19:38-42

38 そののち、ユダヤ人をはばかって、ひそかにイエスの弟子となったアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。39 また、前に、夜、イエスのみもとに行ったニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百斤ほど持ってきた。40 彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料を入れて亜麻布で巻いた。41 イエスが十字架にかけられた所には、一つの園があり、そこにはまだだれも葬られたことのない新しい墓があった。42 その日はユダヤ人の準備の日であったので、その墓が近くにあったため、イエスをそこに納めた。

[マルコによる福音書 15 章 42-47 節福音書対照表](#)

4.98.4 問い

1. イエスの十字架上での死について復習しましょう。(33-41)

2. アリマタヤのヨセフは、どのような人で、いつどのようなことをしますか。(42,43)
3. ピラトは、どのように対応しますか。(44,45)
4. ヨセフはどうしますか。(46)
5. 女性たちについてはどのようなことが書かれていますか。(47)
6. 他の福音書からは、さらに、どのようなことがわかりますか。

4.98.5 参照

- アリマタヤ (Arimathea) [\[地図\]](#) ヨッパの東、エルサレムの北西
- マタイにはこのあと、番兵、墓を見張る記事 (27:62-66, 28:11-15)
 - 27:62 あくる日は準備の日の翌日であったが、その日に、祭司長、パリサイ人たちは、ピラトのもとに集まって言った、63 「長官、あの偽り者がまだ生きていたとき、『三日の後に自分はよみがえる』と言ったのを、思い出しました。64 ですから、三日目まで墓の番をするように、さしずをして下さい。そうしないと、弟子たちがきて彼を盗み出し、『イエスは死人の中から、よみがえった』と、民衆に言いふらすかも知れません。そうすると、みんなが前よりも、もっとひどくだまされることになりましょう」。65 ピラトは彼らに言った、「番人がいるから、行ってできる限り、番をさせるがよい」。
 - 66 そこで、彼らは行って石に封印をし、番人を置いて墓の番をさせた。
 - 28:11 女たちが行っている間に、番人のうちのある人々が都に帰って、いっさいの出来事を祭司長たちに話した。12 祭司長たちは長老たちと集まって協議をこらし、兵卒たちにたくさんの金を与えて言った、13 「『弟子たちが夜中にきて、われわれの寝ている間に彼を盗んだ』」と言え。14 万一このことが総督の耳にはいっても、われわれが総督に説いて、あなたがたに迷惑が掛からないようにしよう」。
 - 15 そこで、彼らは金を受け取って、教えられたとおりにした。そしてこの話は、今日に至るまでユダヤ人の間にひろまっている。
 - 番人がどのような人たちだったのか木になる。ユダヤ人で、ローマに雇われていた人たちだろうか。イエスが復活したと装うために、死体を盗み出したのではないかとの疑惑を否定するために、ユダヤ人社会と近いマタイ記者がこの記述を加えた可能性がある。ここまで、祭司長、パリサイ人たちが、予見して行動することも疑わしいこともあり、真偽の程は不明。
- ヨハネは、イエスの死のあとに、19:32-37
 - 32 そこで兵卒らがきて、イエスと一緒に十字架につけられた初めの者と、もうひとりの者との足を折った。33 しかし、彼らがイエスのところにきた時、イエスはもう死んでおられたのを見て、その足を折ることはしなかった。34 しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出た。35 それを見た者があかしをした。そして、そのあかしは真実である。その人は、自分が真実を語っていることを知っている。それは、あなたがたも信ずるようになるためである。36 これらのことが起ったのは、「その骨はくだかれないうであろう」との聖書の言葉が、成就するためである。37 また聖書のほかのところに、「彼らは自分が刺し通した者を見るであろう」とある。